

JIN-AI UNIVERSITY 2026 SYLLABUS

令和 8 年度

シラバス



目 次

I. 1年生

<教養科目>

仏教の人間観	田代 俊孝	1
人間と宗教	寺田 憲弘	3
哲学の世界観	橋本 武志	5
生命の倫理	橋本 武志	7
人間の教育	高野 秀晴	9
芸術の世界	中野 研也	11
日本国憲法	根田 恵多	14
現代社会と環境	禿 寿	16
スポーツと健康	野田 政弘	18
スポーツA [心理/ビジネスコミュニケーション/健康栄養]	青木 宏樹	20
スポーツA [子ども教育]	野田 政弘	22
スポーツB [心理/ビジネスコミュニケーション]	青木 宏樹	24
スポーツB [健康栄養/子ども教育]	乾 典子	26
英語Ia	加藤 優子・矢橋 知枝・Mクズィフ	28
英語Ib	加藤 優子・矢橋 知枝・Mクズィフ	31
フランス語a	大竹口麻里	34
フランス語b	大竹口麻里	36
ドイツ語a	橋本 武志	38
ドイツ語b	橋本 武志	40
中国語a	章 璐	42
中国語b	章 璐	44
国際文化交流	M ハウカ	46
情報基礎	籠谷 隆弘・大須賀 元彦・禿 寿	48
データサイエンス基礎	籠谷 隆弘・大須賀 元彦・禿 寿	50
日本語文章表現	國久 繁雄	52
社会活動実践	水田敏郎・大西新吾・鳴瀬碧・出村友寛	54

<心理学科専門科目>

心理学基礎演習	森本・山本・渡辺・今井田・山岸	56
心理学概論I	大森 慈子	59
心理学概論II	大森 慈子	62
心理学研究法I	杉島 一郎	65
心理学研究法II	杉島 一郎	68

心理学統計法	森本 文人・山岸 厚仁	71
感情・人格心理学	森 俊之	74
学習・言語心理学	杉島 一郎	77

<ビジネスコミュニケーション学科専門科目>

福井地域学	南保 勝	80
現代社会と企業	中山 健	83
社会学入門	織田 暁子	86
観光社会論入門	井上 寛	89
情報社会基礎演習	大須賀元彦	91
異文化理解入門	加藤 優子	93
言語コミュニケーション論	矢橋 知枝	96
オーラル・コミュニケーションⅠ	M ハウカ	98
簿記入門	大西 新吾	100
会計学入門	大西 新吾	103
プレゼンテーション技法	禿 寿	106
コミュニケーション学基礎演習	井上・橋本・升田・寺田・禿	109
コミュニケーション学特講Ⅰ	複数で担当	112
共生社会論	織田 暁子	114
社会調査法	織田 暁子	116
マーケティング入門	中山 健	118
異文化理解	加藤 優子	121
オーラル・コミュニケーションⅡ	M ハウカ	124
海外語学研修	M ハウカ	126

<健康栄養学科専門科目>

基礎化学	尼子 克己	128
基礎生物学	嶋田 敬介	131
分析化学	尼子 克己	134
生命科学	高木 康之	137
解剖生理学	米田 誠	139
解剖生理学実験	鳴瀬 碧	142
病理学	米田 誠	144
微生物学	野村 卓正	147
微生物学実験	野村 卓正	151
食品学総論	浦本 裕美	154
食品学各論	浦本 裕美	157

食品分析実験	浦本 裕美	160
調理学	佐藤 真実	162
調理学実習	佐藤 真実	164
応用調理学実習	佐藤 真実	166
基礎栄養学	池田 涼子	168
応用栄養学Ⅰ（成長・発達・加齢、食事摂取基準）	新井田裕樹	171
給食経営管理論Ⅰ（給食計画）	長岡 純子	174
フィールドワーク演習	佐藤裕保・池田涼子・山本浩範・新井田裕樹	177
健康・栄養基礎演習Ⅰ	長岡・浦本・佐藤・高木・新井田	179

<健康栄養学科教職に関する特設科目>

教育原理	高野 秀晴	181

<子ども教育学科専門科目>

教職論	鈴木 智子・草桶 勇人	183
教育原理	高野 秀晴	186
保育・教育課程論	鈴木 智子	188
子ども家庭福祉	青井 夕貴	191
保育者論	渡辺 直人	193
保育原理Ⅰ	渡辺 直人	196
発達心理学Ⅰ	乙部 貴幸	198
保育基礎演習	伊東 知之・辻 由記子・森尾 恵里	200
子ども教育基礎演習	青井 夕貴・出村 友寛	203
国語	平岡 正実	205
子どもと健康	出村 友寛	208
子どもと音楽表現	中野 研也	210
子どもと造形表現	伊東 知之	212
基礎ピアノⅠ	中野・飯田・太田・野村・岡	214
基礎ピアノⅡ	中野・飯田・太田・野村・岡	217
保育内容指導法（健康）	出村 友寛	220
保育内容指導法（表現A）	坂本 流美	222
保育内容指導法（表現B）	伊東 知之	224
保育内容指導法（表現C）	乾 典子	226
保育内容指導法（子どもの文化）	児玉 茜	229
教育実習Ⅰ（幼稚園）	伊東 知之・中野 研也	231
学校体験活動	草桶 勇人・竈谷 隆弘	233

Ⅱ. 2年生

<人間学部学部共通科目>

人間と宗教	寺田 憲弘	235
仏教の思想	市野 智行	237
哲学の世界観	橋本 武志	239
文学の世界	平岡 正実	241
歴史と地域文化	倉田 尚明	244
日本国憲法	根田 恵多	247
文化とまちづくり	南保 勝	249
ふくい総合学	尼子克己・杉島一郎・禿寿・出村友寛	251
英語Ⅱ a	加藤 優子・矢橋 知枝・Mクズィフ	253
英語Ⅱ b	加藤 優子・矢橋 知枝・Mクズィフ	256
海外語学研修	M ハウカ	259
情報活用 a	竹村 順吾	261
情報活用 b	竹村 順吾	263
情報処理演習 a	竹村 順吾	265
情報処理演習 b	竹村 順吾	267
キャリア・デザインⅡ	升田 法継	269
フィールドワーク演習（ボランティア）	水田敏郎・大西新吾・鳴瀬碧・出村友寛	272
フィールドワーク演習（国際交流）	M ハウカ	274

<心理学科専門科目>

心理学統計法Ⅰ	森本 文人	276
心理学実験	山本・森本・山岸・林田・青井	279
心理測定実習	大森 慈子・森本 文人・山岸 厚仁	282
心理的アセスメント	森 俊之	284
心理調査法	山本 雅代	286
臨床心理学概論Ⅰ	稲木康一郎	289
臨床心理学概論Ⅱ	稲木康一郎	291
健康・医療心理学	渡辺 克徳	293
発達心理学Ⅰ	今井田貴裕	296
発達心理学Ⅱ	今井田貴裕	299
知覚・認知心理学	杉島 一郎	302
神経・生理心理学	水田 敏郎	305
社会・集団・家族心理学Ⅰ	山本 雅代	307
社会・集団・家族心理学Ⅱ	山本 雅代	309
産業・組織心理学Ⅰ	重森 雅嘉	312

産業・組織心理学Ⅱ	山本 雅代	314
心理学特別講義	複数で担当	316
心理学キャリア演習Ⅰ	大森慈子・水田敏郎・森本文人・山岸厚仁	318

<コミュニケーション学科専門科目>

人間関係論	橋本 武志	320
情報社会論	大須賀元彦	322
言語コミュニケーション論	矢橋 知枝	324
簿記演習a	大西 新吾	326
コミュニケーション学特別講義	複数で担当	329
観光経済論	山崎 茂雄	331
公共政策	竹内 直人	334
簿記演習b	大西 新吾	337
社会調査法	織田 暁子	340
情報システム論	大須賀元彦	342
観光社会論	寺田 憲弘	344
多文化共生論	加藤 優子	346
検定英語入門	矢橋 知枝	349
プロジェクト・デザインⅠ	野尻 昌明	351
メディア・コミュニケーション論	升田 法継	354
ライティング技法	野尻 昌明	357
メディア・デザインⅠa	吉村 正照	359
メディア・デザインⅠb	吉村 正照	361
統計学a	織田 暁子	363
統計学b	禿 寿	365
フィールドワーク技法	井上 寛	367
社会と文化	織田 暁子	370
社会と思想	橋本 武志	372
英語音声学	矢橋 知枝	374
オーラル・コミュニケーションⅡa	M ハウカ	376
オーラル・コミュニケーションⅡb	M ハウカ	378
英文講読a	紺渡 弘幸	380
英文講読b	紺渡 弘幸	382
英語文章表現法Ⅰ	M ハウカ	384

<コミュニケーション学科教職に関する特設科目>

英語科教育法Ⅰ	フッド晴美	386

英語科教育法Ⅱ	フット晴美	389
教職論	高野 秀晴	392
教育心理学	乙部 貴幸	394
特別支援教育論	水田 敏郎	397
教育課程論	高野 秀晴	400
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	山崎 智幸	403
教育の方法と技術（ICT活用を含む）	竈谷 隆弘	406

<人間生活学部学部共通科目>

仏教の思想	市野 智行	409
哲学の世界観	橋本 武志	411
文学の世界	平岡 正実	413
美術の世界	伊東 知之	416
生活と環境B	高木 康之	418
生活と環境D	藤原 英一	420
ふくい総合学	杉島一郎・禿寿・尼子克己・西出和彦	422
英語Ⅱ a	加藤 優子・矢橋 知枝・Mクズィフ	424
英語Ⅱ b	加藤 優子・矢橋 知枝・Mクズィフ	427
キャリア・デザインⅡ	升田 法継	430

<健康栄養学科専門科目>

有機化学	高木 康之	433
公衆衛生学	鳴瀬 碧	435
健康管理概論	鳴瀬 碧	437
基礎生化学	尼子 克己	440
栄養生化学	池田 涼子	443
基礎生化学実験	尼子 克己	445
臨床医学概論	米田 誠	447
運動生理学	鳴瀬 碧	450
食品加工学	小林 恭一	452
食品衛生学	野村 卓正	454
食品衛生学実験	野村 卓正	457
基礎栄養学実験	池田 涼子	461
応用栄養学Ⅱ（栄養・体力アセスメント）	新井田裕樹	463
応用栄養学Ⅲ（ライフステージ栄養学）	新井田裕樹	465
応用栄養学実習	三浦 努	467
栄養教育論Ⅰ（栄養教育論）	牧野みゆき	469

臨床栄養学Ⅰ（栄養療法）	佐藤 裕保	472
臨床栄養学実習Ⅰ（食事療法）	佐藤 裕保	474
公衆栄養学Ⅰ（地域栄養活動）	三浦 努	476
給食経営管理論Ⅱ（マネジメント）	長岡 純子	479
給食経営管理論実習	長岡 純子	482
栄養総合演習Ⅰ	佐藤裕保・三浦努・山本浩範・長岡純子	484
栄養総合演習Ⅱ	佐藤裕保・三浦努・山本浩範・長岡純子	487
給食運営実習	長岡 純子	489
分子栄養学	尼子 克己	491
国際食糧・栄養情報論	三浦 努	495

<健康栄養学科教職に関する特設科目>

教職論	高野 秀晴	497
教育心理学	乙部 貴幸	499
教育課程論	高野 秀晴	501
教育の方法と技術（ICT活用を含む）	籠谷 隆弘	504

<子ども教育学科専門科目>

教育心理学	乙部 貴幸	507
教育の方法と技術（ICT活用を含む）	籠谷 隆弘	509
教育課程論	草桶 勇人	512
社会福祉	青井 夕貴	515
社会的養護Ⅰ	青井 夕貴・藤下 樹	517
社会	西村美貴穂	520
算数	草桶 勇人	523
理科	嶋田 敬介	526
生活	嶋田 敬介	529
音楽Ⅰ	中野 研也	532
図画工作Ⅰ	伊東 知之	535
体育Ⅰ	出村 友寛	537
子どもと人間関係	鈴木 智子	539
子どもと環境	嶋田 敬介	541
子どもと言葉	平岡 正実	543
国語科教育法	平岡 正実	545
算数科教育法	草桶 勇人	548
理科教育法	嶋田 敬介	551
音楽表現Ⅰ	飯田由美・太田佳代・福田安希子・野村加奈子	553

音楽表現Ⅱ	飯田由美・太田佳代・福田安希子・野村加奈子	555
発達心理学Ⅱ	乙部 貴幸	557
子どもの保健	米田 誠	559
子どもの健康と安全	河野 遥	562
保育内容指導法（人間関係）	鈴木 智子	565
保育内容指導法（環境）	嶋田 敬介	567
保育内容指導法（言葉）	平岡 正実	569
乳児保育Ⅰ	森尾 恵里	571
乳児保育Ⅱ	森尾 恵里	574
障がい児保育	馬田 知武	577
保育実習指導Ⅰ	青井 夕貴・渡辺 直人	580
保育実習Ⅰ a	渡辺 直人	583
保育実習Ⅰ b	青井 夕貴	585
フィールドワークⅠ	伊東 知之・中野 研也	587
フィールドワークⅡ	中野 研也	589

Ⅲ. 3年生

<人間学部学部共通科目>

英語Ⅲ a	Mクズィフ	591
英語Ⅲ b	Mクズィフ	593
海外語学研修	M ハウカ	595
フィールドワーク演習（インターンシップ）	升田 法継・森本 文人	597

<人間学部心理学科専門科目>

心理検査演習	吉水ちひろ・青井 利哉・中尾 繁史	599
心理面接演習	稲木康一郎・目黒 達哉	602
司法・犯罪心理学	廣井 亮一	605
教育・学校心理学	杉島 一郎	607
交通心理学	森本 文人	610
スポーツ心理学	野田 政弘	612
臨床心理学演習	渡辺 克徳・目黒 達哉	614
心理学的支援法	西村 則昭	617
精神疾患とその治療Ⅰ	今井田貴裕	620
精神疾患とその治療Ⅱ	今井田貴裕	623
深層心理学	西村 則昭	626
生理心理学実習	水田 敏郎・大森 慈子	629
行動解析実習	森本 文人・山岸 厚仁	632

人体の構造と機能及び疾病	米田 誠	634
比較心理学	山岸 厚仁	636
障害者・障害児心理学	水田 敏郎	638
福祉心理学	目黒 達哉	640
社会心理学演習	山本 雅代	643
多変量解析演習	杉島 一郎	646
消費者心理学	山本 雅代	649
産業カウンセリング	黒田 優希	652
関係行政論	川崎 幸宏	654
心理学特別演習 I	複数で担当	656

＜コミュニケーション学科専門科目＞

企業と制度	南保 勝	658
プロジェクト・デザイン II	禿 寿	660
会計学 a	大西 新吾	662
会計学 b	大西 新吾	664
ビジネス能力論	野尻 昌明	666
ビジネス・コミュニケーション研究	升田 法継	669
組織と情報	升田 法継	672
消費者と行動	禿 寿	675
メディア・デザイン II	坂田 守史	678
プログラミング	大須賀 元彦	680
データ解析法	織田 暁子	682
社会調査演習 a	井上 寛・織田 暁子	684
社会調査演習 b	井上 寛・織田 暁子	686
観光社会研究	寺田 憲弘	688
アプリケーション演習	大須賀 元彦	690
英語学研究	矢橋 知枝	692
英語文学研究	原口 治	694
英語コミュニケーション a	M ハウカ	697
英語コミュニケーション b	M ハウカ	699
英語文章表現法 II	紺渡 弘幸	701
TOEIC英語 a	矢橋 知枝	703
観光ビジネス英語	加藤 優子	705
コミュニケーション特別演習 I a	複数で担当	707
コミュニケーション特別演習 I b	複数で担当	710

<コミュニケーション学科教職に関する特設科目>

英語科教育法Ⅲ	紺渡 弘幸	712
英語科教育法Ⅳ	紺渡 弘幸	715
教育経営論	小林 利幸	718
道德教育の理論と方法	高野 秀晴	721
生徒・進路指導論	黒田 祐二	723
教育実習Ⅰ（高校）	紺渡 弘幸	726
事前・事後指導（中・高）	紺渡 弘幸	728

<人間生活学部学部共通科目>

音楽の世界	中野 研也	731
生活と環境C	尼子 克己	734
英語Ⅲ a	Mクズィフ	737
英語Ⅲ b	Mクズィフ	739

<健康栄養学科専門科目>

公衆衛生学実習	鳴瀬 碧	741
社会福祉論	坂口 昌宏	743
栄養生化学実験	池田 涼子	745
食品機能学	浦本 裕美	747
食品加工実習	浦本 裕美	750
調理科学実験	佐藤 真実	752
栄養教育論Ⅱ（子ども・高齢期栄養教育論）	牧野みゆき	754
栄養教育論Ⅳ（健康栄養情報処理演習）	牧野みゆき	757
栄養教育論実習	牧野みゆき	759
臨床栄養学Ⅱ（栄養アセスメント）	山本 浩範	761
臨床栄養学Ⅲ（チーム医療）	佐藤 裕保	763
臨床栄養学Ⅳ（臨床栄養管理）	山本 浩範	765
臨床栄養学実習Ⅱ（栄養アセスメント）	山本 浩範	768
臨床栄養学実習Ⅲ（臨床栄養管理）	山本 浩範・新井田裕樹	770
公衆栄養学Ⅱ（栄養疫学）	三浦 努	772
公衆栄養学実習	三浦 努	775
給食経営管理論Ⅲ（食料商品学）	長岡 純子	777
給食経営管理臨地実習	長岡 純子	779
臨床栄養臨地実習	佐藤 裕保・山本 浩範	781
公衆栄養臨地実習	三浦 努	783
健康・栄養特別演習Ⅰ	尼子 克己	785

健康・栄養特別演習Ⅰ	池田 涼子	787
健康・栄養特別演習Ⅰ	佐藤 真実	789
健康・栄養特別演習Ⅰ	新井田裕樹	791
健康・栄養特別演習Ⅰ	鳴瀬 碧	793
健康・栄養特別演習Ⅰ	山本 浩範	795
健康・栄養特別演習Ⅰ	三浦 努	797
健康・栄養特別演習Ⅰ	野村 卓正	799
健康・栄養特別演習Ⅰ	高木 康之	801
健康・栄養特別演習Ⅰ	長岡 純子	803
生涯発達心理学	乙部 貴幸	805
食品品質評価演習	浦本 裕美・佐藤 真実	807
食文化論	佐藤 真実	809
学校栄養教育の理論と方法	牧野みゆき・清川ひろみ	811
食育指導の理論と方法	牧野みゆき・清川ひろみ	814
フードスペシャリスト論	小林 恭一	817
フードコーディネーター論	佐藤 真実	819

<健康栄養学科教職に関する特設科目>

教育経営論	小林 利幸	821
特別支援教育論	水田 敏郎	824
道德教育の理論と方法	高野 秀晴	827
生徒・進路指導論	黒田 祐二	829

<子ども教育学科専門科目>

特別支援教育論	水田 敏郎	832
教育経営論	小林 利幸	835
道德教育の理論と方法	高野 秀晴	838
生徒・進路指導論	黒田 祐二	840
教育相談	佐々木雅代	843
家庭	横山美弥子	846
英語	紺渡 弘幸・加藤 優子・原口 治	848
国語科教育法	平岡 正実	850
社会科教育法	西村美貴穂	853
生活科教育法	嶋田 敬介	855
音楽科教育法	佐々木啓子	857
図画工作科教育法	伊東 知之	860
家庭科教育法	横山美弥子	862

体育科教育法	近藤雄一郎	864
英語科教育法	紺渡 弘幸	866
子ども家庭支援の心理学	青井 夕貴・乙部 貴幸	869
子どもの食と栄養	阿部喜代子	872
保育内容総論	渡辺 直人	874
社会的養護Ⅱ	竹澤 賢樹	876
子育て支援	青井 夕貴	879
保育実践演習	鈴木 智子・渡辺 直人	882
保育実習指導Ⅱ	出村 友寛	885
保育実習Ⅱ	出村 友寛	887
保育実習指導Ⅲ	乙部 貴幸	889
保育実習Ⅲ	乙部 貴幸	891
事前・事後指導（幼稚園）	鈴木 智子・中野 研也	893
教育実習Ⅱ（幼稚園）	鈴木 智子・中野 研也	895
事前・事後指導（小学校）	草桶 勇人・平岡 正実	897
子ども教育特別演習Ⅰ	伊東 知之	899
子ども教育特別演習Ⅰ	渡辺 直人	901
子ども教育特別演習Ⅰ	中野 研也	903
子ども教育特別演習Ⅰ	嶋田 敬介	905
子ども教育特別演習Ⅰ	青井 夕貴	907
子ども教育特別演習Ⅰ	乙部 貴幸	909
子ども教育特別演習Ⅰ	草桶 勇人	911
子ども教育特別演習Ⅰ	鈴木 智子	914
子ども教育特別演習Ⅰ	高野 秀晴	916
子ども教育特別演習Ⅰ	出村 友寛	918
子ども教育特別演習Ⅰ	籠谷 隆弘	920
子どもの発達臨床	乙部 貴幸	922
子どもと英語教育	野本 尚美	924
絵本・児童文学論	生駒 幸子	926

<子ども教育学科児童厚生一級指導員に関する特設科目>

児童館論	中村かおり	928
児童館活動内容 a	三浦 啓子	930

Ⅳ. 4年生

<人間学部心理学科専門科目>

学校臨床心理学	廣澤 愛子	933

社会福祉概論	下山 久之	935
心理学特別演習Ⅱ	複数で担当	937
卒業研究	複数で担当	939

＜心理学科公認心理師に関する特設科目＞

公認心理師の職責	稲木・目黒・森・吉水・渡辺	941

＜人間学部心理学科専門科目公認心理師に関する科目＞

心理演習	渡辺 克徳・稲木康一郎	944
心理実習	森 俊之・吉水ちひろ	947

＜コミュニケーション学科専門科目＞

情報メディア	大須賀元彦	950
プロジェクト・デザインⅢ	井上 寛	952
現代文化研究	井上 寛	954
国際ビジネス英語Ⅱ	M ハウカ	957
コミュニケーション特別演習Ⅱa	複数で担当	959
コミュニケーション特別演習Ⅱb	複数で担当	961
卒業研究	複数で担当	963

＜コミュニケーション学科教職に関する専門科目＞

教育相談	佐々木雅代	965

＜コミュニケーション学科教職に関する特設科目＞

教育実習Ⅱ（中学校）	紺渡 弘幸	968
教職実践演習（中・高）	紺渡 弘幸・フッド晴美・小林 利幸	970

＜健康栄養学科専門科目＞

応用栄養学Ⅳ（ライフスタイル・スポーツ栄養学）	鳴瀬 碧・新井田裕樹	973
栄養教育論Ⅲ（行動療法・カウンセリング）	森 俊之	975
臨床栄養病理学	米田 誠	977
健康・栄養特別演習Ⅱ	尼子 克己	979
健康・栄養特別演習Ⅱ	池田 涼子	981
健康・栄養特別演習Ⅱ	浦本 裕美	983
健康・栄養特別演習Ⅱ	佐藤 真実	985
健康・栄養特別演習Ⅱ	新井田裕樹	987
健康・栄養特別演習Ⅱ	鳴瀬 碧	989

健康・栄養特別演習Ⅱ	山本 浩範	991
健康・栄養特別演習Ⅱ	三浦 努	993
健康・栄養特別演習Ⅱ	野村 卓正	995
健康・栄養特別演習Ⅱ	高木 康之	997
健康・栄養特別演習Ⅱ	長岡 純子	999
健康・栄養特別演習Ⅲ	複数で担当	1001
卒業研究	尼子 克己	1004
卒業研究	池田 涼子	1006
卒業研究	浦本 裕美	1008
卒業研究	佐藤 真実	1010
卒業研究	新井田裕樹	1012
卒業研究	鳴瀬 碧	1014
卒業研究	山本 浩範	1016
卒業研究	三浦 努	1018
卒業研究	野村 卓正	1020
卒業研究	高木 康之	1022
卒業研究	長岡 純子	1024
食品品質評価演習	浦本 裕美・佐藤 真実	1026
心と健康	山本 雅代	1028

<健康栄養学科教職に関する特設科目>

特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	山崎 智幸	1030
教育相談	佐々木雅代	1033
事前・事後指導（栄養教諭）	牧野みゆき・清川ひろみ	1036
教育実習（栄養教諭）	牧野みゆき・清川ひろみ	1038
教職実践演習（栄養教諭）	牧野みゆき・小林 利幸・清川ひろみ	1040

<子ども教育学科専門科目>

特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	山崎 智幸	1043
理科総合	嶋田 敬介	1046
音楽Ⅱ	坂本 流美	1048
図画工作Ⅱ	伊東 知之	1051
体育Ⅱ	出村 友寛・乾 典子	1053
音楽演習	辻 由記子	1055
保育原理Ⅱ	渡辺 直人	1057
子ども家庭支援論	青井 夕貴	1059
教職実践演習（幼・小）	高野 秀晴・鈴木 智子・草桶 勇人	1061

教育実習（小学校）	草桶 勇人・平岡 正実	1064
子ども教育特別演習Ⅱ	渡辺 直人	1066
子ども教育特別演習Ⅱ	伊東 知之	1068
子ども教育特別演習Ⅱ	中野 研也	1070
子ども教育特別演習Ⅱ	青井 夕貴	1072
子ども教育特別演習Ⅱ	乙部 貴幸	1074
子ども教育特別演習Ⅱ	草桶 勇人	1076
子ども教育特別演習Ⅱ	鈴木 智子	1079
子ども教育特別演習Ⅱ	高野 秀晴	1081
子ども教育特別演習Ⅱ	出村 友寛	1083
子ども教育特別演習Ⅲ	渡辺 直人	1085
子ども教育特別演習Ⅲ	伊東 知之	1087
子ども教育特別演習Ⅲ	中野 研也	1089
子ども教育特別演習Ⅲ	青井 夕貴	1091
子ども教育特別演習Ⅲ	乙部 貴幸	1093
子ども教育特別演習Ⅲ	草桶 勇人	1095
子ども教育特別演習Ⅲ	鈴木 智子	1098
子ども教育特別演習Ⅲ	高野 秀晴	1100
子ども教育特別演習Ⅲ	出村 友寛	1102
卒業研究	渡辺 直人	1104
卒業研究	伊東 知之	1106
卒業研究	中野 研也	1108
卒業研究	青井 夕貴	1110
卒業研究	乙部 貴幸	1112
卒業研究	草桶 勇人	1114
卒業研究	鈴木 智子	1116
卒業研究	高野 秀晴	1118
卒業研究	出村 友寛	1120
子どもと食育	牧野みゆき	1122

<子ども教育学科児童厚生一級指導員に関する特設科目>

児童館活動内容 b	村田 弘孝	1125
児童館実習	乙部 貴幸	1127

V. 大学院 心理学研究科／人間学研究科

<臨床心理学専攻科目>

臨床倫理特論	杉島 一郎・渡辺 克徳・田代 俊孝	1129

セルフ・ディベロップメント特論	西村 則昭	1132
心理支援に関する理論と実践	西村 則昭	1134
心理的アセスメントに関する理論と実践	稲木康一郎・渡辺 克徳	1137
教育分野に関する理論と支援の展開	後藤 智子	1139
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	上宮 愛	1141
家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	森 俊之	1144
保健医療分野に関する理論と支援の展開	渡辺 克徳	1146
福祉分野に関する理論と支援の展開	水田 敏郎	1149
産業・労働分野に関する理論と支援の展開	山本 雅代	1151
心の健康教育に関する理論と実践	杉島 一郎	1153
心理実践実習	渡辺・森・吉水・稲木・目黒・今井田	1155
認知神経心理学特論	森本 文人	1157
生体反応・行動測定法特論	大森 慈子・水田 敏郎	1159
パーソン・センタード・セラピー特論	吉水ちひろ・目黒 達哉	1161
認知行動療法特論	渡辺 克徳	1163
投映法特論	吉水ちひろ	1165
地域支援臨床心理学特論	稲木康一郎・吉水ちひろ・渡辺克徳・目黒達哉	1167
臨床心理研究演習	大森慈子・杉島一郎・水田敏郎・森俊之	1169

仏教の人間観 (Views on the Humanity of Buddhism)			担当教員	田代 俊孝	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
GE-A-1101	2 単位	1 年前期	講義		必修
<科目区分> 教養科目 【A群】建学の精神科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。					

(1) 授 業 の 内 容
本授業の目的は、建学の精神「仁愛兼済」のこころを育て、自分の人生をいきいきと生きていく力を身に付けることである。そのため、釈尊・親鸞の生涯やその教えにおける人間観、さらに『歎異抄』を学ぶことを通して「本当の自分とは何か」を尋ねていく。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ 釈尊・親鸞の生涯とその教えについて述べるができる。 ・ 『歎異抄』によって、仏教における人間観を学び、「本当の自分とは何か」を考察し、表現することができる。 ・ 「仁愛兼済」を生きる人間像について、具体的に自分の考えを述べるができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(コメントペーパーの記載・ノートの提出)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：建学の精神を学ぶ① 仁愛兼済とは 事前学習：建学の精神についてテキストや大学ガイドブックなどで調べておく。(2時間) 事後学習：テキスト「和」の当該箇所を読んでノートに整理する。(2時間) 第2回：建学の精神を学ぶ② 学業とキャンパスモニュメント 理解を深めるために討議を入れる 事前学習：キャンパスの中にあるモニュメントを、実際に現場へ行って見てくる。(2時間) 事後学習：テキスト「和」の当該箇所を読んでノートに整理する。(2時間) 第3回：仏陀について① 仏陀という人 ただ独り尊しー人間の尊厳ー 事前学習：釈尊の伝記を調べる。(2時間) 事後学習：配布資料を読んでノートに整理する。(2時間) 第4回：仏陀について② いのちを問う 四門出遊・無常・無我 事前学習：仏教に関する本で「仏教ではどのようにして苦悩を超えるか」を調べてくる。(2時間) 事後学習：配布の資料を読んでノートに整理する。(2時間) 第5回：現代社会と仏教 ビハラー活動について ビデオ利用 理解を深めるために討議を入れる 事前学習：身近にある仏教の本やインターネットでビハラー活動について調べる。(2時間) 事後学習：配布の資料を読んでノートに整理する。(2時間) 第6回：親鸞について 生涯とその教え ビデオ利用 理解を深めるために討議を入れる 事前学習：親鸞の伝記と思想の概要について調べる。(2時間) 事後学習：テキストと配布の資料を読んでノートに整理する。(2時間) 第7回：『歎異抄』に学ぶ① 歎異抄とは 事前学習：『歎異抄』について調べてくる。(2時間) 事後学習：テキスト『歎異抄ー心に刺さるメッセージ』の当該部分を読んでノートに整理する。(2時間) 第8回：『歎異抄』に学ぶ② 歎異精神ー真理に異なる自己ー 事前学習：有名な「歎異精神」とはどんな考え方か、参考書で調べてくる。(2時間) 事後学習：テキスト『歎異抄ー心に刺さるメッセージ』の当該部分を読んでノートに整理する。(2時間) 第9回：『歎異抄』に学ぶ③ 弥陀の誓願不思議ー大いなる願いの中にー 事前学習：有名な「本願に救われる」とはどんな考え方か、参考書で調べてくる。(2時間) 事後学習：テキスト『歎異抄ー心に刺さるメッセージ』の当該部分を読んでノートに整理する。(2時間) 第10回：『歎異抄』に学ぶ④ おのおの十余か国の境を越えてー道を求める心ー 事前学習：「道を求める」とはどういうことか、仏教書やインターネットを参考に考える。(2時間) 事後学習：テキスト『歎異抄ー心に刺さるメッセージ』の当該部分を読んでノートにまとめる。(2時間)

第11回：『歎異抄』に学ぶ⑤ いわんや悪人をやー自己との出遇いー理解を深めるために討議を入れる 事前学習：『歎異抄』の中の「悪人正機」についてインターネット等で調べる。（2時間） 事後学習：テキスト『歎異抄ー心に刺さるメッセージ』の当該部分を読んでノートにまとめる。（2時間） 第12回：『歎異抄』に学ぶ⑥ 有縁を渡すべきなりー道徳を超えるー 事前学習：道徳と宗教の違いを考える。（2時間） 事後学習：テキスト『歎異抄ー心に刺さるメッセージ』の当該部分を読んでノートにまとめる。（2時間） 第13回：『歎異抄』に学ぶ⑦ 親鸞は弟子一人も持たずー諸仏と仏弟子 事前学習：諸仏・仏弟子とは何かをテキスト等の資料を見て考える。（2時間） 事後学習：テキスト『歎異抄ー心に刺さるメッセージ』の当該部分を読んでノートにまとめる。（2時間） 第14回：『歎異抄』に学ぶ⑧ 唯円房同じ心にてありけりー共感・共鳴・共学ー 事前学習：共感・共鳴・共学するとはどういうことか、自身の経験をもとに考える。（2時間） 事後学習：テキスト『歎異抄ー心に刺さるメッセージ』の当該部分を読んでノートにまとめる。（2時間） 第15回：『歎異抄』に学ぶ⑨ そらごとたわごとー火宅の危機ー理解を深めるために討議を入れる 事前学習：宗教とは何かをインターネット等の資料を見て考える。（2時間） 事後学習：テキスト『歎異抄ー心に刺さるメッセージ』の当該部分を読んでノートにまとめる。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 途中のコメントペーパー及び提出されたノートによる評価（80%）、平常点（20%） （平常点は、授業への参加状況、eラーニングによる質問などの状況を総合的に判断して決める。）
(7) 成績評価基準 釈尊と親鸞の生涯、『歎異抄』の基礎について、理解しているか。 仏教における人間観を学び、「本当の自分とは何か」を考察し、表現することができるか。 「仁愛兼濟」を生きる人間像について、具体的に自分の考えを述べることができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) コメントペーパーに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 提出されたノートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（ノートに記入して返却質問はメールでも随時可。）
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 テキスト：田代俊孝著『歎異抄ー心に刺さるメッセージー』（京都・法蔵館 2023） 福井仁愛学園編『和』（福井仁愛学園発行 2022） 参考書：田代俊孝著『ビハラー往生のすすめー悲しみからのメッセージ』（京都・法蔵館 2005）
(11) その他(受講上の注意) 毎回、事前、事後の課題をすること。随時、授業の内容理解のコメントペーパーを提出してもらいます。また、第14回：目の授業時にノートを提出してもらいます。出席確認は、出席カード、コメントペーパーでします。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

人間と宗教 (Human Beings and Religion)			担当教員	寺田 憲弘	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
GE-A-1102	2 単位	1 年後期	講義		選択
<科目区分> 教養科目 【A群】建学の精神科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。					

(1) 授 業 の 内 容
キリスト教、イスラム教、仏教など現代の世界において大きな影響力をもつ様々な宗教についてその概要を紹介し、基礎的な知識を身につける。また、それらの理解に必要な宗教学、宗教社会学、宗教人類学などの基礎的な概念、理論を学び、宗教について考え、現代社会の様々な問題に宗教が関連していることを理解する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ 様々な宗教について、宗教学などの理論・概念を使い、簡単に説明できるようになる。 ・ 宗教の歴史、世界観、教義をふまえた上で、宗教について考えられるようになる。 ・ 背後にある宗教の影響を理解した上で、現代のさまざまな社会問題を考えられるようになる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：イントロダクション ― 宗教とはなんだろうか 事前学習：授業前にシラバスを読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出(2時間) 第2回：文化としての宗教(1) ― 八大宗教とその特徴 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出(2時間) 第3回：文化としての宗教(2) ― 一神教と多神教 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出(2時間) 第4回：信仰としての宗教(1) ― 回心と宗教的経験 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出(2時間) 第5回：信仰としての宗教(2) ― 奇跡と呪術 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出(2時間) 第6回：宗教の仕掛け(1) ― 戒律 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出(2時間) 第7回：宗教の仕掛け(2) ― 戒律 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出(2時間) 第8回：宗教と現代社会 ― 近代化と世俗化 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出(2時間) 第9回：世界の宗教(1) ― ユダヤ教 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出(2時間) 第10回：世界の宗教(2) ― キリスト教(1) 成立と歴史 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、調査項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出(2時間) 第11回：世界の宗教(2) ― キリスト教(1) 成立と歴史 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出(2時間)

第12回：世界の宗教（３）—— イスラム教 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間） 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（２時間） 第13回：世界の宗教（４）—— 仏教（１）原始仏教と上座部仏教 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間） 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（２時間） 第14回：世界の宗教（５）—— 仏教（２）大乘仏教と日本での受容 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間） 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（２時間） 第15回：世界の宗教（６）—— 神道・儒教・道教 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間） 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（２時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
e-learningを使用し、課題を出します。 レポート試験（50%） 小レポート（40%） 平常点（10%） （平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問等を総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
・代表的な宗教の歴史、世界観、教義などを理解できたか。 ・宗教研究の理論、概念を理解できたか。 ・さまざまなデータをもとに宗教現象を論じることができたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 5) その他（ディスカッションなどに対するフィードバックについて） ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（担当教員の研究室（E104B）を訪れるか、オンラインコミュニケーションツール（Teams）を用いて）
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
教科書：『教養としての宗教入門』 中村圭志 中公新書
(11) その他(受講上の注意)
・受講者の理解度により講義内容を変更することがあります。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

哲学の世界観 (Philosophical Thinking)			担当教員	橋本 武志	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
GE-B-1104	2 単位	1 年後期	講義	選択	
<科目区分> 教養科目 【B群】文化・歴史・社会科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。					

(1) 授 業 の 内 容
古代ギリシアに発祥した西洋哲学・思想が生み出してきた多様なものの見方や概念を紹介するとともに、それらが、現代日本人に及ぼしている影響について解説する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
過去および現在の哲学独自の思考方法や批判的思考に慣れ親しむことを通じて、現代日本に生きる自分が歴史に制約された存在であることを認識すると同時に、大学生なら知っておくべき程度の、哲学・倫理学の基本的な概念を理解し、その用語を習得する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他 (ペアワーク)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーションと「世界観」概念の説明 事前学習：参考図書などをもとに「哲学」「世界観」について調べノートしておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間） 第2回：神話的世界観ではなぜ不十分なのか？（ペアワーク10分） 事前学習：参考図書などをもとに日本や中国、ギリシャの「宇宙創成神話」について調べノートしておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間） 第3回：哲学的思考の発祥（プレソクラテス1） 事前学習：参考文献などをもとに「ピタゴラス」について調べてノートしておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間） 第4回：哲学的思考の展開（プレソクラテス2） 事前学習：参考文献などをもとに「ヘラクレイトス」「パルメニデス」について調べノートしておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間） 第5回：ソクラテス1 事前学習：参考文献などをもとに「ソクラテスの生涯」について調べノートしておくこと（2時間） 事後学習：資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間） 第6回：ソクラテス2 事前学習：参考文献などをもとに「無知の知」「魂の配慮」について調べノートしておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間） 第7回：プラトン1 事前学習：参考文献などをもとに「プラトンの生涯」について調べノートしておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間） 第8回：プラトン2 事前学習：参考文献などをもとに「洞窟の比喩」について調べノートしておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間） 第9回：アリストテレス1（可能態・現実態などの対概念） 事前学習：参考文献などをもとに「可能態・現実態」の語義について調べ、ノートしておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間） 第10回：アリストテレス2（目的論と実体概念） 事前学習：参考文献などをもとに「実体」について調べノートしておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間）

第11回：映像によって古代の思想を知る 事前学習：エジプトのアレクサンドリアについて調べノートしておくこと（2時間） 事後学習：地動説の歴史について調べ、自分なりに纏めておくこと（2時間） 第12回：古代から中世の思想の流れ 事前学習：参考文献などをもとにパスカルの「人間は考える葦である」という言葉について調べ、ノートしておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間） 第13回：デカルト1（デカルトの知識論） 事前学習：参考文献などをもとにデカルトの生涯について調べノートしておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間） 第14回：デカルト2（デカルトの自我論・方法的懐疑） 事前学習：参考文献などをもとにデカルトの「我思う。ゆえに私はある」という言葉について調べノートしておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間） 第15回：これまでのまとめ 事前学習：これまでの授業について質問を考えてくること（2時間） 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（80%）、平常点（20%） （平常点は、授業への参加状況、受講態度、毎回の授業内小レポートの提出状況を総合して判断する）
(7) 成績評価基準
・哲学の基本的な用語や人名について、これを理解し、説明することができるか。 ・授業で扱う西洋思想の流れを理解しているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキストはとくに使用せず、適宜プリントを配布する。 参考図書については2回目の授業で一覧を配布するが、安価かつ容易に入手できるものを以下に記載しておく。 ・岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』（岩波ジュニア新書） 岩波書店 2003 ・伊藤邦武『物語 哲学の歴史』（岩波新書） 岩波書店 2012 ・熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』（岩波新書） 岩波書店 2006 ・熊野純彦『西洋哲学史 近世から現代へ』（岩波新書） 岩波書店 2006
(11) その他(受講上の注意)
・毎回の講義を受けた後でその部分の配布資料とノートを見直して復習をし、次の授業に臨んでください。また、第2回の授業で配布する参考文献一覧から該当書物を読むなどして、より理解を深めてください。 ・毎回授業内で小レポートを書いてもらいます。私語は他の受講者の迷惑となるので厳禁。私語の目立つ者はその場で注意するが、注意によっても改まらない場合当日欠席扱いとするので注意されたい。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

生命の倫理 (Bioethics)			担当教員	橋本 武志	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
GE-B-1101	2 単位	1 年前期	講義	選択	
<科目区分> 教養科目 【B群】文化・歴史・社会科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。					

(1) 授 業 の 内 容
技術の進歩によって、従来不可能であった治療ができるようになってきている。だが、それにともなって、われわれの従来の死生観・人間観を揺さぶるようなさまざまな倫理問題が発生している。本講義では、先端医療の現状を知ったうえで、こうした倫理問題に対する、日本を含む諸外国の考え方の違い、ガイドラインや政策の相違について知り、こうした問題についての現在までのさまざまな議論を紹介する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・生命をめぐるさまざまな倫理問題について認識する。 ・QOLやインフォームド・コンセント、滑りやすい坂など、生命倫理学の基礎的な用語を習得する。 ・生命倫理問題について、国内外のさまざまな議論を知る。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(ペアワーク)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション～生命倫理学という学問について 事前学習：「倫理」「規範」の語義について調べノートしておくこと(2時間) 事後学習：当日の講義内容について、自分なりに纏めておくこと(2時間) 第2回：生命倫理学(バイオエシックス)の成立 事前学習：「バイオエシックス」の語義について調べノートしておくこと(2時間) 事後学習：当日の講義内容について、自分なりに纏めておくこと(2時間) 第3回：患者の自己決定権とインフォームド・コンセント 事前学習：「優生思想」について調べノートしておくこと(2時間) 事後学習：当日の講義内容について、自分なりに纏めておくこと(2時間) 第4回：現在の各種倫理問題～映像資料で生命倫理問題について知る 事前学習：「ES細胞」について調べノートしておくこと(2時間) 事後学習：当日の講義内容について、自分なりに纏めておくこと(2時間) 第5回：生命の始まりに関する倫理問題(パーソン論)(ペアワーク10分) 事前学習：「パーソン論」について調べノートしておくこと(2時間) 事後学習：当日の講義内容について、自分なりに纏めておくこと(2時間) 第6回：生命の始まりに関する倫理問題2(パーソン論以外) 事前学習：「アメリカの中絶論争」について調べノートしておくこと(2時間) 事後学習：当日の講義内容について、自分なりに纏めておくこと(2時間) 第7回：移植医療の問題1～映像資料で世界の現状を知る 事前学習：日本の現行の「臓器移植法案」について調べノートしておくこと(2時間) 事後学習：当日の講義内容について、自分なりに纏めておくこと(2時間) 第8回：移植医療の問題2～移植医療の歴史 事前学習：「脳死」と「心臓死」の違いについて調べノートしておくこと(2時間) 事後学習：当日の講義内容について、自分なりに纏めておくこと(2時間) 第9回：移植医療の問題3～日本の移植停滞のさまざまな要因 事前学習：「生体肝移植」について調べノートしておくこと(2時間) 事後学習：当日の講義内容について、自分なりに纏めておくこと(2時間) 第10回：移植医療の問題4～映像資料でUNOSについて知る 事前学習：UNOSについて調べノートしておくこと(2時間) 事後学習：当日の講義内容について、自分なりに纏めておくこと(2時間)

第11回：生命の終わりに関する倫理問題1～治療停止・安楽死の世界事情 事前学習：オランダの安楽死事情について調べノートしておくこと（2時間） 事後学習：当日の講義内容について、自分なりに纏めておくこと（2時間） 第12回：生命の終わりに関する倫理問題2（治療停止）～日本での治療停止の法制化 事前学習：「安楽死の四要件」について調べノートしておくこと（2時間） 事後学習：当日の講義内容について、自分なりに纏めておくこと（2時間） 第13回：生命の終わりに関する倫理問題3～安楽死についての諸議論～ 事前学習：「安楽死」と「尊厳死」の違いについて調べノートしておくこと（2時間） 事後学習：当日の講義内容について、自分なりに纏めておくこと（2時間） 第14回：生命倫理と社会 事前学習：デュルケム（人名）について調べておくこと（2時間） 事後学習：当日の講義内容について、自分なりに纏めておくこと（2時間） 第15回：種差別と動物解放論 事前学習：「種差別」について調べ、またこれまでのプリント・ノートを見直して、わからない箇所の質問を考えておくこと（2時間） 事後学習：当日の講義の内容について、プリント・ノートをもとに自分なりに纏めておくこと（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（80%）、平常点（20%） （平常点は、授業への参加状況を総合して判断する）
(7) 成績評価基準
・生命をめぐるさまざまな倫理問題、およびその歴史的経緯について認識しているか。 ・QOLやインフォームド・コンセント、滑りやすい坂など、生命倫理学の基礎的な用語を習得しているか。 ・生命倫理問題について、国内外のさまざまな議論を習得しているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキストはとくに使用しない。毎回資料を配布する。 参考図書・参考映像については2回目の授業で参考文献を示すほか、授業内でも適宜紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
・毎回の講義を受けた後で講義資料やノートを見直して復習をし、次の授業に臨んでください。そのうえで第2回の授業で配布する参考文献一覧から該当部分を読むなどして、より理解を深めてください。 ・毎回復習テストを行い、その回答をもって出欠を取ります。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

人間の教育 (Human Education)			担当教員	高野 秀晴	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
GE-B-1102	2 単位	1 年前期	講義		選択
<科目区分> 教養科目 【B群】文化・歴史・社会科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。					

(1) 授 業 の 内 容
ヒトが人になるためには教育が必要だと言われる。こうして私たちも教育を受けてきたわけだが、私たちがこれまで学んできたことは、そもそも一体何だったのだろうか？ そして、今、大学で学んでいることには一体何の意味があるのか？ これからの人生にいかに関与するのか？ しないのか？ この授業では、有史以来の人間の教育の様々なあり方を通観することを通じて、上記の問いを考察していく。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
「教育によって形成されてきた／されつつある自己」の成り立ちとゆくえについて理解を深め、自ら考察する力を身につけること。これがこの授業の到達目標である。したがって、この授業では下記の成果が求められる。 ・自らがこれまで受けてきた教育の意味について説明することができる。 ・現代における教育の社会的役割を分析することができる。 ・自らの今後のあり方を、教育の観点から展望することができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 事前学習：シラバスをよく読み、授業内容に関連する図書を検索したうえで、学修計画を立てる。(2時間) 事後学習：検索した図書の概要を吟味したうえで、読書計画を立てる。(2時間) 第2回：子どもとは誰のことか——子ども観の歴史的変遷—— 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間) 第3回：子どもの面倒は誰が見るのか——子育て環境の現在—— 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間) 第4回：学校とはどのような空間なのか 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間) 第5回：「学校知」の解剖学 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間) 第6回：学校化社会について 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間) 第7回：大学とは何か——その歴史的変遷—— 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間) 第8回：激動のなかの大学 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間) 第9回：職能はどこで形成するか(1)——その歴史的変遷—— 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間) 第10回：職能はどこで形成するか(2)——日本型企業中心社会の場合—— 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)

第11回：日本型企業中心社会の変容とキャリア教育の導入 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（2時間） 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（2時間） 第12回：意欲の競争社会化？——教育の平等と格差と—— 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（2時間） 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（2時間） 第13回：能力主義とは何か——これまでのまとめ—— 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（2時間） 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（2時間） 第14回：老い衰えることと教育 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（2時間） 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（2時間） 第15回：看取ることと教育 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（2時間） 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（70%） 授業時の課題（30%）
(7) 成績評価基準
現代における教育の社会的役割を分析的に記述することができるか。 教育に関する諸問題を自己と関連付けながら記述することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト：必要に応じて、プリントを配布する。 参考図書：授業時に紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

芸術の世界 (The World of Art)			担当教員	中野 研也	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
GE-B-1103	2 単位	1 年前期	講義	選択	
<科目区分> 教養科目 【B群】文化・歴史・社会科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。					

(1) 授 業 の 内 容	
さまざまな音楽および美術作品の魅力や特徴を探り、生み出された背景を知る。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
音楽と美術について、通論的な知識と通史的な知識を身に付け、作品に対する自分の考えを持つことができる。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：音楽とは何か ～なぜ学校で音楽を学ぶのか 事前学習：音楽とは何か、自分なりに調べて考えをまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を読み、音の性質についてまとめておくこと。(2時間) 第2回：音楽の誕生 ～いつ・なぜ・どのようにして生まれたのか(ディスカッション) 事前学習：音楽が①いつ、②なぜ、③どのようにして生まれたのか、①～③の項目を全て含んだ上で自分なりの考えをまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料をもとに、音楽と人間との関係について自分の考えも交えてまとめておくこと。(2時間) 第3回：音楽の3要素——1 ～旋律を中心として 事前学習：自身にとって旋律(メロディー)が印象的であった曲を複数書き出しておくこと(ジャンルは問わない)。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料をもとに、旋律とゲシュタルトの原理との関係についてまとめておくこと。(2時間) 第4回：音楽の3要素——2 ～拍子やリズムを中心として 事前学習：自身にとってリズムや拍子が印象的であった曲を複数書き出しておくこと(ジャンルは問わない)。(2時間) 事後学習：授業で話した内容と配布された資料をもとに、①リズムの形成についてまとめるとともに、②2拍子、3拍子、4拍子、6拍子で書かれた曲を少なくとも1曲ずつ挙げること。(2時間) 第5回：音楽の3要素——3 ～和声を中心として 事前学習：和声とは何か、辞書やWeb等で調べ、書き出しておくこと。(2時間) 事後学習：授業で話した内容と配布された資料をもとに、和声がもつ役割についてまとめておくこと。(2時間) 第6回：西洋の音楽史——1 クラシック音楽の誕生と発展 事前学習：西洋クラシック音楽で、知っている作曲家を複数名書き出しておくこと。(2時間) 事後学習：授業で話した内容や視聴した音楽と配布された資料をもとに、①西洋音楽を発展させた要素、②それが果たした役割について、①と②の項目を共に含んだ上でまとめておくこと。(2時間) 第7回：西洋の音楽史——2 クラシック音楽の落日とその後(ディスカッション) 事前学習：小学校、中学校、および高校の音楽の授業で聴いたことのある曲を書き出しておくこと。(2時間) 事後学習：授業で話した内容や視聴した音楽と配布された資料をもとに、西洋クラシック音楽が他の音楽に与えた影響あるいは役割についてまとめておくこと。(2時間) 第8回：音楽鑑賞・視聴 1 ～器楽作品(予定) 鑑賞レポート提出 事前学習：音楽鑑賞・視聴の題材として予告された作品について、Web等の情報を参考に下調べを行い、それがどのような作品であるのか簡単にまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で鑑賞・視聴した作品のレポートを作成し、次回授業時に提出すること。(2時間)	

第9回：世界の民族音楽 事前学習：民族音楽とは何か、Web等で調べておくこと。（2時間） 事後学習：授業で話した内容や視聴した音楽と配布された資料をもとに、①民族音楽とは何か、②民族音楽と西洋音楽との違いについて、それぞれまとめておくこと。（2時間） 第10回：音楽と美術——1～美術作品の見どころ 事前学習：音楽と美術との違いは何か、自分の考えを書き出しておくこと。（2時間） 事後学習：時代とともに変化する美的感覚は何に基づいているか、自分の考えをまとめておくこと（2時間） 第11回：音楽と美術——2～音楽と美術の関係 事前学習：音楽と美術との関係についてWeb等の情報を参考に下調べを行い、書き出しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で話した内容や紹介した作品と配布された資料をもとに、①ロマン主義と印象派との違い、②ポスト印象派以降の20世紀美術について、それぞれ自分の考えをまとめておくこと。（2時間） 第12回：ジャズ——1～誕生の背景と音楽的特徴（グループワーク） 事前学習：ジャズとはどのような音楽であるか、Web等の情報を参考に下調べを行い、書き出しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で話した内容と配布された資料をもとに、ジャズが生まれた背景と音楽的特徴についてまとめておくこと。（2時間） 第13回：ジャズ——2～モダン・ジャズの世界 事前学習：モダン・ジャズとは何か、Web等の情報を参考に下調べを行い、書き出しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で話した内容や視聴した音楽と配布された資料をもとに、ジャズが他のジャンルの音楽に与えた影響についてまとめておくこと。（2時間） 第14回：音楽を記録するということ 事前学習：録音・再生を行う道具（機材）にはどのようなものがあるのか、Web等の情報を参考に下調べを行い、複数書き出しておくこと。（2時間） 事後学習：音楽を記録できるようになったことが音楽の世界にもたらした影響あるいは変化について、まとめておくこと。（2時間） 第15回：音楽鑑賞・視聴2～ミュージカル作品（予定） 鑑賞レポート提出 事前学習：音楽鑑賞・視聴の題材として予告された作品について、Web等の情報を参考に下調べを行い、簡単にまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で鑑賞・視聴した作品のレポートを作成し、指定の日時までに提出すること。（2時間） 第16回：定期試験 授業で配布された資料と宿題プリント、授業で話した内容のメモを見返して下さい。	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
2度のレポート（20%）、定期試験（50%）、授業への参加状況※（30%）で評価する。 ※授業への参加状況は、出席だけでなくFormsによるコール＆レスポンスへの応答の有無を含みます。	
(7) 成績評価基準	
音楽に関する通論および通史的な知識が身につく、音楽あるいは芸術に対する自分なりの考えを持つことができたか。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	

(10) テキスト、参考図書
特定のテキストは使用しない。授業ごとに資料（プリント）を配布する。
(11) その他(受講上の注意)
試験問題は、配布資料（プリント）と授業で話した内容とを合わせて出題する。配布物と自分でメモをとったものは試験までは紛失しないように所持しておくこと。 下記の理由から、授業には必ずスマートフォンを持参してください。 ・ 出欠は授業時間にe-ラーニング出欠調査のページで行う。 ・ 授業中、Formsを使ったコール&レスポンスを行う。フォームにはスクリーンに映し出すQRコードからアクセスする。ここでの応答の有無は、成績に反映される。 質問は授業中も適宜受け付けるので、私語は厳禁です。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

日本国憲法 (The Japanese Constitution)			担当教員	根田 恵多	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
GE-B-1105	2 単位	1 年後期	講義	選択	
<科目区分> 教養科目 【B群】文化・歴史・社会科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。					

(1) 授 業 の 内 容
憲法の歴史や判例・学説について、レジュメ・スライドを使って解説します。 受講生の人数によってはディスカッションを取り入れるなどしながら、みなさんが自分の言葉で意見を述べることを重視した授業を行います。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
立憲主義の意味を理解し、憲法に関する基本的知識を修得する。 実生活において、権利意識を持って問題解決を図ることができる能力を身につける。 現実の憲法問題について、自分の意見を自分の言葉で表現できるようになる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート) ☐ グループワーク ☐ 発表(プレゼンテーション) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：憲法って何だろう 事前学習：授業前に法と自身との関わりについて考えておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を振り返り、分からないことがあれば確認しておくこと。(2時間) 第2回：憲法の歴史と現在 事前学習：テキストの14章を読み、疑問点を整理しておこう。(2時間) 事後学習：授業内容を振り返り、立憲主義について理解を深める。(2時間) 第3回：「憲法の番人」としての裁判所 事前学習：テキストの1章・12章で全体像を確認しておこう。(2時間) 事後学習：授業内容を振り返り、テキストの該当箇所を見直しておくこと。(2時間) 第4回：こころの自由 事前学習：テキストの4章1節を読み、疑問点を整理しておこう。(2時間) 事後学習：授業内容を振り返り、テキストの該当箇所を見直しておくこと。(2時間) 第5回：信教の自由vs政教分離 事前学習：テキストの4章2節を読み、疑問点を整理しておこう。(2時間) 事後学習：身近な政教分離問題について調べてみよう。(2時間) 第6回：悪口も表現の自由？ 事前学習：テキストの5章を読み、疑問点を整理しておこう。(2時間) 事後学習：名誉毀損や侮辱をめぐる最近の事件・議論について調べてみよう(2時間) 第7回：教える自由？学ぶ自由？ 事前学習：教師の人権と生徒の人権にどのような違いがあるのか、考えてみよう(2時間) 事後学習：学校でどのような人権問題が起こっているのか、調べてみよう。(2時間) 第8回：働く権利、生きる権利 事前学習：テキストの8章を読み、疑問点を整理しておこう。(2時間) 事後学習：健康で文化的な最低限度の生活とは何か、考えてみよう(2時間) 第9回：平等・差別・排除 事前学習：テキストの3章を読み、疑問点を整理しておこう。(2時間) 事後学習：社会的排除の事例としてどのようなものが挙げられるか、調べてみよう。(2時間) 第10回：「新しい人権」・・・？ 事前学習：憲法に明文化されていない人権にはどのようなものがあるか、考えてみよう(2時間) 事後学習：授業時に取り上げたもの以外でどのような人権があり得るか、調べてみよう(2時間) 第11回：人権の主体——子どもの権利、外国人の権利 事前学習：外国人の権利と日本人の権利にどのような違いがあるのか、考えてみよう。(2時間) 事後学習：入管行政をめぐる問題について、調べてみよう。(2時間)

第12回：捕まったらどうなる？ 事前学習：テキストの9章を読み、疑問点を整理しておこう。（2時間） 事後学習：授業内容を踏まえて、TVや新聞の事件報道についてチェックしてみよう。（2時間） 第13回：統治の仕組みと民主主義 事前学習：民主主義とは何か、高校までの学習内容を復習しておこう。（2時間） 事後学習：自分の居住地・出身地の政治家について調べてみよう。（2時間） 第14回：全世界の国民が平和に生きる 事前学習：テキストの11章を読み、疑問点を整理しておこう。（2時間） 事後学習：授業内容を踏まえて、憲法9条の意義や改正の是非について考えてみよう。（2時間） 第15回：憲法の「改正」って何？ 事前学習：政党などが作成している憲法改正案を調べてみよう。（2時間） 事後学習：これまでの授業内容を踏まえて、現行の日本国憲法の条文を見直してみよう。（2時間） 第16回：期末試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
毎回の授業時に課す小課題40% 学期末に行う筆記試験60%
(7) 成績評価基準
憲法問題の論点を正確に把握し、自分の意見を論理的・説得的に把握できているかを基準に採点します。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
西原博史・斎藤一久編著『教職課程のための憲法入門〔第3版〕』(弘文堂、2024年)
(11) その他(受講上の注意)
積極的に参加する意識をもって受講して下さい。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

現代社会と環境 (Contemporary Environment)			担当教員	禿 寿
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
GE-C-1101	2 単位	1 年前期	講義	選択
<科目区分> 教養科目 【C群】健康・環境科目				
求める学習成果(教育目標)				
豊かな教養と実的な知識・技術を修得し、探究的な意欲と協働的な態度を身につけます。				

(1) 授 業 の 内 容
本講義では、現代社会で日々起きている出来事やニュースを題材にしながら、人々の意思決定や行動の特徴について行動経済学の視点から考察する。人は必ずしも合理的に判断・行動するわけではなく、損失回避、先延ばし、同調行動、価格に対する錯覚など、さまざまな心理的要因の影響を受けている。講義では、こうした行動のメカニズムを具体例とともに学び、消費、不正、働き方といった身近な社会問題とのつながりを明らかにすることで、現代社会をより冷静かつ多角的に捉える力を養うことを目的とする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・行動経済学の基本的な考え方や主要な概念を理解し、人間の意思決定や行動の特徴を説明できるようになる。 ・現代社会で起きている身近な出来事やニュースを、行動経済学の視点から読み解き、その背景にある行動原理を考察できるようになる。 ・消費行動、不正行為、働き方などの社会的課題について、直感や思い込みに頼らず、根拠をもとに自分なりの考えを整理し、表現できるようになる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：オリエンテーション 事前学習：授業計画を確認し、本講義で扱うテーマや関心のある社会問題について調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容および配布資料を見直し、分からない点について図書館等で調べる、または担当教員に質問すること。(2時間) 第2回：行動経済学とは何か 事前学習：行動経済学の概要やキーワードについて調べておくこと。(2時間) 事後学習：講義内容を振り返り、伝統的経済学との違いを整理すること。(2時間) 第3回：人はなぜ合理的に行動できないのか 事前学習：人間の判断や意思決定に関する身近な例を考えておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容と日常生活の行動を結び付けて整理すること。(2時間) 第4回：直感と熟慮の意思決定 事前学習：直感的判断と熟慮的判断の違いについて調べておくこと。(2時間) 事後学習：講義内容を踏まえ、自身の判断行動を振り返ること。(2時間) 第5回：損をしたくない私たち 事前学習：損失回避や現状維持に関する身近な事例を調べておくこと。(2時間) 事後学習：講義内容を整理し、社会や環境問題との関係を考えること。(2時間) 第6回：先延ばし行動の仕組み 事前学習：やるべきことを後回しにした経験を振り返っておくこと。(2時間) 事後学習：先延ばしが個人や社会に与える影響について整理すること。(2時間) 第7回：周りがやっているから行動してしまう① 事前学習：流行や周囲の行動に影響された経験を調べておくこと。(2時間) 事後学習：同調行動の仕組みを講義内容と結び付けて整理すること。(2時間) 第8回：周りがやっているから行動してしまう② 事前学習：ニュースや社会現象の中で同調が見られる事例を探すこと。(2時間) 事後学習：同調行動が社会や環境に与える影響を考えること。(2時間) 第9回：価格と価値の錯覚① 事前学習：価格表示や割引に関する身近な例を調べておくこと。(2時間) 事後学習：講義内容をもとに、価格判断の特徴を整理すること。(2時間)

第10回：価格と価値の錯覚② 事前学習：消費行動における判断ミスの事例を調べておくこと。（2時間） 事後学習：価格と価値のブレが社会に与える影響を考察すること。（2時間） 第11回：消費行動と社会問題 事前学習：大量消費や無駄に関する社会的課題を調べておくこと。（2時間） 事後学習：行動経済学の視点から消費行動を整理すること。（2時間） 第12回：不正と行動経済学 事前学習：不正行為が起こる背景について調べておくこと。（2時間） 事後学習：制度や環境が人の行動に与える影響を整理すること。（2時間） 第13回：働き方と人の行動 事前学習：働き方やモチベーションに関するニュースを調べておくこと。（2時間） 事後学習：講義内容を踏まえ、働き方と行動の関係を考えること。（2時間） 第14回：行動経済学から考える現代社会 事前学習：これまで扱ったテーマを振り返っておくこと。（2時間） 事後学習：行動経済学の視点で社会問題を整理すること。（2時間） 第15回：講義のまとめ 事前学習：講義全体のテーマやキーワードを整理しておくこと。（2時間） 事後学習：授業全体を振り返り、自身の考えをまとめること。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
平常点（40%）、課題・レポート（60%） （平常点は、授業への参加状況、受講態度、質問用紙等の状況を総合的に判断します。）
(7) 成績評価基準
1. 行動経済学の基本的な概念や考え方を理解し、人間の意思決定や行動の特徴について説明できているか。 2. 現代社会で起きている出来事やニュースを、行動経済学の視点から多角的に読み取り、その背景にある行動原理を考察できているか。 3. 消費行動、不正、働き方などの社会的課題について、授業で扱った知識や資料を踏まえ、自身の問題意識を深め、論理的に記述できているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
特に指定しません。
(11) その他(受講上の注意)
日常生活の中で新聞を読み、テレビやラジオ、ネットなどメディアに接し、ニュースに敏感になるよう努力する。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

スポーツと健康 (Sports and Health)			担当教員	野田 政弘	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
GE-C-1103	2 単位	1 年後期	講義		選択
<科目区分> 教養科目 【C群】健康・環境科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな教養と実際のな知識・技術を修得し、探究的な意欲と協働的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
現代社会においてスポーツや運動など日常生活におけるさまざまな身体活動は、人々が健康な生活を送るうえで重要な役割を果たしている。スポーツや運動にみられる身体現象を運動生理学やスポーツ心理学、スポーツ社会学などの観点から科学的に探求し理解を深める。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
健康、生活習慣病、体力、運動のしくみなどに関する理論について理解できる。スポーツや運動などの身体活動が人の心身に及ぼす影響について理解できる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他 (授業の最後に今回の内容について意見を交換する)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：健康の捉え方と獲得するためのポイント (意見交換) 事前学習：テキストの第1章を読み、それに関連することを調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキストの見直しや、わからないところは図書館等で調べておくこと。(2時間) 第2回：生活習慣病と関連する要因 (意見交換) 事前学習：テキストの第2章を読み、それに関連することを調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキストの見直しや、わからないところは図書館等で調べておくこと。(2時間) 第3回：体力とは何か (意見交換) 事前学習：テキストの第3章を読み、それに関連することを調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキストの見直しや、わからないところは図書館等で調べておくこと。(2時間) 第4回：体力とは何か (意見交換) 事前学習：テキストの第3章を読み、それに関連することを調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキストの見直しや、わからないところは図書館等で調べておくこと。(2時間) 第5回：運動のしくみ (意見交換) 事前学習：テキストの第4章を読み、それに関連することを調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキストの見直しや、わからないところは図書館等で調べておくこと。(2時間) 第6回：運動のしくみ (意見交換) 事前学習：テキストの第4章を読み、それに関連することを調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキストの見直しや、わからないところは図書館等で調べておくこと。(2時間) 第7回：トレーニング理論、トレーニング方法 (意見交換) 事前学習：テキストの第5,6章を読み、それに関連することを調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキストの見直しや、わからないところは図書館等で調べておくこと。(2時間) 第8回：健康を維持・増進するための運動、ダイエット計画 (意見交換) 事前学習：テキストの第7,8章を読み、それに関連することを調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキストの見直しや、わからないところは図書館等で調べておくこと。(2時間) 第9回：運動と水分補給、熱中症 (意見交換) 事前学習：テキストの第9章を読み、それに関連することを調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキストの見直しや、わからないところは図書館等で調べておくこと。(2時間) 第10回：ウォーミングアップとクーリングダウン、応急手当 (意見交換) 事前学習：テキストの第10,11章を読み、それに関連することを調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキストの見直しや、わからないところは図書館等で調べておくこと。(2時間) 第11回：スポーツと心理のかかわり (意見交換) 事前学習：テキストの第12章を読み、それに関連することを調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキストの見直しや、わからないところは図書館等で調べておくこと。(2時間)

第12回：今日の学校保健の問題（意見交換） 事前学習：テキストの第13章を読み、それに関連することを調べておくこと。（2時間） 事後学習：テキストの見直しや、わからないところは図書館等で調べておくこと。（2時間） 第13回：欲求、ストレスと疲労への対処法（意見交換） 事前学習：テキストの第14章を読み、それに関連することを調べておくこと。（2時間） 事後学習：テキストの見直しや、わからないところは図書館等で調べておくこと。（2時間） 第14回：地域とスポーツのかかわり、社会におけるスポーツの役割（意見交換） 事前学習：テキストの第15,16章を読み、それに関連することを調べておくこと。（2時間） 事後学習：テキストの見直しや、わからないところは図書館等で調べておくこと。（2時間） 第15回：まとめ 事後学習：定期試験に向けテキスト等の見直しや関連項目について図書館等で調べておくこと。（4時間） 第16回：定期試験 各回の講義の前にテキストを読んで概要を把握し、疑問点を整理しておく。 講義の後は、ノートや配布資料を見直して復習しておく。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（70%）、レポート（30%）。
(7) 成績評価基準
健康、生活習慣病、体力、運動のしくみなどに関する理論について理解できている。スポーツや運動などの身体活動が人の心身に及ぼす影響について理解できている。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
出村慎一編著、「健康・スポーツ科学講義 第2版」、杏林書院 2025
(11) その他(受講上の注意)
講義で学んだ知識を日常の生活や身体運動に活用できるようにする。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

スポーツA[心理/ビジネスコミュニケーション/健康栄養] (Sports A)			担当教員	青木 宏樹	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
GE-C-1102	1 単位	1 年前期	実技		選択
<科目区分> 教養科目 【C群】健康・環境科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな教養と実際のな知識・技術を修得し、探究的な意欲と協働的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容	
生涯スポーツ、テニスを楽しむことを目指し、健康維持増進、体力の向上をねらいとする。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
硬式テニスと軟式テニスとの違いを知り、ラケットの扱いやボールコントロール・サーブが出来るようになり、シングルス・ダブルスのゲームが出来ることを目標とする。 自他理解能力、コミュニケーション能力、計画をたて実行できる能力を養成する。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：硬式テニスの歴史・変遷のまとめ 事前学習：硬式テニスの歴史・変遷をまとめておくこと。(0.5時間) 事後学習：授業内容を整理し、質問事項をノートにまとめておくこと。(0.5時間) 第2回：コート、ラケット、ボールの大きさを知る 事前学習：コート、ボールの大きさをノートにまとめておくこと。(0.5時間) 事後学習：授業内容を整理し、質問事項をノートにまとめておくこと。(0.5時間) 第3回：個人技の習得(ラケットの握り方、ラケットになれる) 事前学習：個人技能を整理し理解を深めておくこと。(0.5時間) 事後学習：授業の内容を整理し個人技を習得しておくこと。(0.5時間) 第4回：個人技の習得(ラケット、ボールになれる、ボールコントロールの練習) 事前学習：個人技能を整理し理解を深めておくこと。(0.5時間) 事後学習：授業の内容を整理し個人技を習得しておくこと。(0.5時間) 第5回：グランドストロークの実技 事前学習：実技のための個人技の習得(0.5時間) 事後学習：グランドストロークの向上、個人技を習得しておくこと。(0.5時間) 第6回：フォアハンドストロークの実技 事前学習：実技のための個人技の習得(0.5時間) 事後学習：フォアハンドストロークの向上、個人技を習得しておくこと。(0.5時間) 第7回：サービス実技 事前学習：サービスについて調べておくこと。(0.5時間) 事後学習：授業内容を整理し、質問事項をノートにまとめておくこと。(0.5時間) 第8回：サービス実技 事前学習：実技のための個人技の習得(0.5時間) 事後学習：サービスの向上、個人技を習得しておくこと。(0.5時間) 第9回：ネットプレー、スマッシュ、ボレー実技 事前学習：実技のための個人技の習得(0.5時間) 事後学習：ネットプレー、スマッシュ、ボレーの向上、個人技を習得しておくこと。(0.5時間) 第10回：ラリーが何回出来るか(実技) 事前学習：実技のための個人技の習得(0.5時間) 事後学習：ラリーの向上、個人技を習得しておくこと。(0.5時間) 第11回：基本的な攻防の戦略、審判法について学習する 事前学習：基本的な攻防の戦略、審判について調べておくこと。(0.5時間) 事後学習：ゲームの内容を振り返り課題を整理しておくこと。(0.5時間)	

第12回：ゲームの進め方を調べ、学習する 事前学習：ゲームの進め方を調べておくこと。(0.5時間) 事後学習：ゲームの内容を振り返り課題を整理しておくこと。(0.5時間) 第13回：ポイントの呼び方を学習する 事前学習：ポイントのコールを調べておくこと。(0.5時間) 事後学習：ゲーム内でコールが出来たか確認すること。(0.5時間) 第14回：基本技ダブルスゲーム、作戦、戦略、審判法について学習する 事前学習：基本的な攻防、戦略、審判法について調べておくこと。(0.5時間) 事後学習：ゲームの内容を振り返り課題を整理しておくこと。(0.5時間) 第15回：ゲームまとめ 事前学習：基本的な攻防、戦略、審判法について調べておくこと。(0.5時間) 事後学習：授業の内容を振り返り課題を整理してまとめておくこと。(0.5時間)
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
技術の習得(70%)、平常点(30%)。平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。
(7) 成績評価基準
軟式テニスと硬式テニスの違いを理解できているか。 ラケットの扱いやボールコントロール・サーブができるか。 シングルス・ダブルスのゲームができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて授業内で配付する。
(11) その他(受講上の注意)
原則として全出席を求め、遅刻、早退は認めない。 トレーニングウェア着用のこと。原則として見学の場合もトレーニングウェア着用のこと。 春先、外気温が上がるため、水分補給に注意する。 新聞、テレビのメディアでよく取り上げられている、世界大会(日本の選手)、県内高校、一般(インターハイ、国体)の大会に関心を持って情報を得るようにする。 テニスコートの数の関係で受講者数を制限する。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

スポーツA[子ども教育] (Sports A)			担当教員	野田 政弘	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
GE-C-1102	1 単位	1 年前期	実技	選択	
<科目区分> 教養科目 【C群】健康・環境科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな教養と実際のな知識・技術を修得し、探究的な意欲と協働的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
青年期におけるスポーツ体験は、体力づくりや健康の維持増進に関する知識と実践方法の理解を促進し、生涯にわたってスポーツやレクリエーションを楽しむことのできる基礎を培う。健康の維持、体力の向上を図るとともに仲間づくりをととした生涯スポーツへの展開を、バスケットボールとバドミントンをとおして行なう。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
バスケットボールの技術、ルールを理解する。ボールの扱い、ボディコントロール、シュート、ドリブル、パスなどの個人技能を習得し、フォーメーションプレイがスムーズにできる。チームメイトとコミュニケーションがとれる。コート整備を行い適切に用具管理ができる。バドミントンの技術、ルールを理解する。ラケット、シャトルの扱い、サーブ、スマッシュ、ドライブ、ヘアピンなどの個人技能を習得し、ダブルスのゲームができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：バスケットボール 基礎体力づくり、身体の使い方の理解 事前学習：大学までに受講したバスケットボールの授業を振り返っておくこと。(0.5時間) 事後学習：授業の内容を整理して体の動きをイメージして確認しておくこと。(0.5時間) 第2回：バスケットボール 個人技術①(ボールコントロール、ドリブル) 事前学習：個人技術について調べておくこと。(0.5時間) 事後学習：授業の内容を整理して体の動きをイメージして確認しておくこと。(0.5時間) 第3回：バスケットボール 個人技術②(シュート、パス)、ミニゲーム 事前学習：個人技術について調べておくこと。(0.5時間) 事後学習：授業の内容を整理して体の動きをイメージして確認しておくこと。(0.5時間) 第4回：バスケットボール グループ技術①(コンビネーションプレイ)、ミニゲーム 事前学習：コンビネーションプレイについて調べておくこと。(0.5時間) 事後学習：授業の内容を整理して体の動きをイメージして確認しておくこと。(0.5時間) 第5回：バスケットボール グループ技術②(コンビネーションプレイ)、ミニゲーム 事前学習：コンビネーションプレイについて調べておくこと。(0.5時間) 事後学習：授業の内容を整理して体の動きをイメージして確認しておくこと。(0.5時間) 第6回：バスケットボール ゲーム①、個人技能評価(フリースロー)① 事前学習：ルールについて調べておくこと。(0.5時間) 事後学習：ゲームの内容を整理して振り返っておくこと。(0.5時間) 第7回：バスケットボール ゲーム②、個人技能評価(フリースロー)② 事前学習：ゲームの戦術について調べておくこと。(0.5時間) 事後学習：ゲームの内容を整理して振り返っておくこと。(0.5時間) 第8回：バスケットボール ゲーム③、個人技能評価(フリースロー)③ 事前学習：ゲームの戦術について調べておくこと。(0.5時間) 事後学習：授業全体を振り返り課題を整理してレポートにまとめておくこと。(0.5時間) 第9回：バドミントン 基本技術の習得(ラケットワーク、スウィング、サーブ) 事前学習：バドミントンの歴史について調べておくこと。(0.5時間) 事後学習：授業の内容を整理して体の動きをイメージして確認しておくこと。(0.5時間) 第10回：バドミントン 基本技術の習得(ドライブ、クリア) 事前学習：基本技術について調べておくこと。(0.5時間) 事後学習：授業の内容を整理して体の動きをイメージして確認しておくこと。(0.5時間) 第11回：バドミントン 基本技術の習得(ドロップ、スマッシュ) 事前学習：基本技術について調べておくこと。(0.5時間) 事後学習：授業の内容を整理して体の動きをイメージして確認しておくこと。(0.5時間)

第12回：バドミントン 基本技術の習得（コンビネーション） 事前学習：基本技術について調べておくこと。（0.5時間） 事後学習：授業の内容を整理して体の動きをイメージして確認しておくこと。（0.5時間） 第13回：バドミントン ルールとゲームの理解（ダブルス） 事前学習：ダブルスのルール、ゲームの進め方、審判法について調べておくこと。（0.5時間） 事後学習：授業の内容を振り返り課題を整理しておくこと。（0.5時間） 第14回：バドミントン ダブルスゲーム① 事前学習：基本的な攻防の戦略について調べておくこと。（0.5時間） 事後学習：ゲームの内容を振り返り課題を整理しておくこと。（0.5時間） 第15回：バドミントン ダブルスゲーム②、個人技能評価 事前学習：基本的な攻防の戦略について調べておくこと。（0.5時間） 事後学習：授業全体を振り返り課題を整理してレポートにまとめておくこと。（0.5時間） 新聞やテレビ等のメディアでバスケットボールやバドミントンが取り上げられることも多いので、常に関心をもって積極的に情報を得るようにする。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
技術の習得（70％）、平常点（30％）。平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。
(7) 成績評価基準
基本的な技術を習得できている。ルールを正しく理解できている。授業に欠席・遅刻・早退することがなく、積極的な態度で取り組んでいる。他者とコミュニケーションがとれている。用具、コート等の管理が適切にできている。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて資料を配布、参考図書を紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
保育士資格（必修） 原則として全出席を求め、早退・遅刻は認めない。スポーツウエア、屋内用の運動シューズを着用すること。 熱中症予防のため水分補給に注意すること。原則として見学の場合もスポーツウエアを着用のこと。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

スポーツB〔心理/ビジネスコミュニケーション〕 (Sports B)			担当教員	青木 宏樹	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
GE-C-1104	1 単位	1 年後期	実技		選択
<科目区分> 教養科目 【C群】健康・環境科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな教養と実際のな知識・技術を修得し、探究的な意欲と協働的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容	
バスケットボールを楽しむことができるボール操作技術、コンビネーションプレー等を学ぶ。フットサルを楽しむことができるボール操作技術、コンビネーションプレー等を学ぶ。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
バスケットボールの正確なシュート、パス、ドリブルに加え、コンビネーションプレー等ができるようになる。フットサルの正確なシュート、パス、ドリブルに加え、コンビネーションプレー等ができるようになる。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：バスケットボールのルール 事前学習：バスケットボールの主なルールを調べること。(0.5時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめて復習すること。(0.5時間) 第2回：パス 事前学習：バスケットボールのパスの種類を調べること。(0.5時間) 事後学習：バスケットボールのパスの技術課題に取り組むこと。(0.5時間) 第3回：ドリブル 事前学習：バスケットボールのドリブルの種類を調べること。(0.5時間) 事後学習：バスケットボールのドリブルの技術課題に取り組むこと。(0.5時間) 第4回：シュート①(セットシュート、ジャンプシュート) 事前学習：バスケットボールのシュートの種類を調べること。(0.5時間) 事後学習：バスケットボールのシュートの技術課題に取り組むこと。(0.5時間) 第5回：シュート②(レイアップシュート、レイバックシュート) 事前学習：バスケットボールのシュートの種類を調べること。(0.5時間) 事後学習：バスケットボールのシュートの技術課題に取り組むこと。(0.5時間) 第6回：コンビネーション 事前学習：バスケットボールのコンビネーションを調べること。(0.5時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめて復習すること。(0.5時間) 第7回：ゲーム① 事前学習：バスケットボールのゲームの戦術について調べること。(0.5時間) 事後学習：ゲームの課題を整理し、ノートにまとめること。(0.5時間) 第8回：ゲーム② 事前学習：バスケットボールのゲームの戦術について調べること。(0.5時間) 事後学習：ゲームの課題を整理し、ノートにまとめること。(0.5時間) 第9回：フットサルのルール 事前学習：フットサルの主なルールを調べること。(0.5時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめて復習すること。(0.5時間) 第10回：パス 事前学習：フットサルのパスの種類を調べること。(0.5時間) 事後学習：フットサルのパスの技術課題に取り組むこと。(0.5時間) 第11回：ドリブル 事前学習：フットサルのドリブルの種類を調べること。(0.5時間) 事後学習：フットサルのドリブルの技術課題に取り組むこと。(0.5時間)	

第12回：シュート①（インステップキック） 事前学習：フットサルのシュートの種類を調べること。（0.5時間） 事後学習：フットサルのシュートの技術課題に取り組むこと。（0.5時間） 第13回：シュート②（アウトサイドキック、トゥーキック） 事前学習：フットサルのシュートの種類を調べること。（0.5時間） 事後学習：フットサルのシュートの技術課題に取り組むこと。（0.5時間） 第14回：コンビネーション 事前学習：フットサルのコンビネーションを調べること。（0.5時間） 事後学習：授業内容をノートにまとめて復習すること。（0.5時間） 第15回：ゲーム 事前学習：フットサルのゲームの戦術について調べること。（0.5時間） 事後学習：ゲームの課題を整理し、ノートにまとめること。（0.5時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
技能評価点（70%）、取り組み点（30%）により評価する。取り組み点は、授業参加の積極性、態度等を総合的に評価する。
(7) 成績評価基準
バスケットボールのパス、ドリブル、シュートの基本技術を習得できているか。フットサルのパス、ドリブル、シュートの基本技術を習得できているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
教員が必要に応じて資料を配布する。
(11) その他(受講上の注意)
実技授業のため、全出席を求める。遅刻、早退は取り組み点に反映する。 スポーツウェア（ジャージ）着用必須。見学者もスポーツウェア（ジャージ）着用必須。 授業中は、積極的に水分補給をすること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

スポーツB〔健康栄養／子ども教育〕 (Sports B)			担当教員	乾典子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
GE-C-1104	1 単位	1 年後期	実技		選択
<科目区分> 教養科目 【C群】健康・環境科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな教養と実際のな知識・技術を修得し、探究的な意欲と協働的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
体力の向上と仲間づくりを通した生涯スポーツへの展開。ダンスの実技を主体とし、正しいストレッチ方法やリズム感の育成を体験する。 ダンスを覚え、それを曲に合わせて踊る活動が進む事で得られる、柔軟な頭と体の必要性を理解する。 ダンスの内容(選曲・振付)は受講者の状況に合わせて決定する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
青年期におけるスポーツ体験は、彼らの体力づくりや健康の維持増進に関する知識と実践方法の理解を促進し、生涯にわたってスポーツやレクリエーションを楽しむことのできる基礎を養う。 将来、健康維持のため・またはスポーツ力向上のための食を担当する立場となる学生と、子どもの育成を担う保育者・指導者をめざす学生はスポーツを体験する必要がある。 スポーツBではダンスという分野で個人スポーツ及び集団スポーツの実践を通して、初歩的な技術から段階的に習得するとともに、身体健康維持とダンスの関係の知識を深めながら、踊る楽しみを感じられる体験を学習する。
(3) アクティブラーニング
□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク ■実験、実技 ■その他(ダンスを教えあう)
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：頭と体ほぐしのための準備運動(アップ)体験(実技) 事前学習：授業前日に柔軟体操などをして体を動かしておく(0.5時間) 事後学習：動かした体のクールダウンのため、習った柔軟体操をしておく(0.5時間) 第2回：【1】ダンスのためのストレッチ方の体験・習得 リラックスタイム(実技) 事前学習：授業前日に柔軟体操などをして体を動かしておく(0.5時間) 事後学習：学習したストレッチを復習しておく(0.5時間) 第3回：【1】を実施後ステップレッスン 簡単なダンスを体験【1】(実技) 事前学習：学習したストレッチを実施しておく(0.5時間) 事後学習：習ったダンスを復習しておく(0.5時間) 第4回：【1】とステップレッスン 簡単なダンスを体験【2】(実技 その他) 事前学習：習ったダンスを復習しておく(0.5時間) 事後学習：学習したストレッチを実施しておく(0.5時間) 習ったダンスを復習しておく(0.5時間) 第5回：【1】とダンスの振り覚え 1 その練習(実技 その他) 事前学習：習ったダンスを復習しておく(0.5時間) 事後学習：学習したストレッチを実施し、習ったダンスを復習しておく(0.5時間) 第6回：【1】とダンスの振り覚え 2 その練習(実技 その他) 事前学習：習ったダンスを復習しておく(0.5時間) 事後学習：学習したストレッチを実施し、習ったダンスを復習しておく(0.5時間) 第7回：【1】とダンスの振り覚え 3 その練習(実技 その他) 事前学習：習ったダンスを復習しておく(0.5時間) 事後学習：ストレッチを実施し、習ったダンスを復習しておく(0.5時間) 第8回：【1】とダンスの振り覚え 4 その練習(実技 その他) 事前学習：習ったダンスを復習しておく(0.5時間) 事後学習：ストレッチを実施し、ダンスを復習しておく(0.5時間) 第9回：【1】とダンスの振り覚え 5 その練習(実技 その他) 事前学習：習ったダンスを復習しておく(0.5時間) 事後学習：ストレッチを実施し、ダンスを復習しておく(0.5時間)

第10回：【1】とダンスの振り覚え 6 その他 事前学習：習ったダンスを復習しておく(0.5時間) 事後学習：ストレッチを実施し、ダンスを復習しておく(0.5時間) 第11回：【1】とダンスの振り覚え (実技 その他) 事前学習：習ったダンスを復習しておく(0.5時間) 事後学習：ストレッチを実施し、ダンスを復習しておく(0.5時間) 第12回：【1】とダンス個人発表 自分のダンス動画の撮影 事前学習：発表を前にダンスの練習をしておく(0.5時間) 事後学習：自分の発表動画を見て自己評価をする(0.5時間) 第13回：【1】とグループ発表のためのフォーメーション創作方法の説明 フォーメーションのグループ別活動(実技 グループワーク) 事前学習：自分のダンスの動画を見て復習する(0.5時間) 事後学習：グループでのフォーメーションを復習する(0.5時間) 第14回：【1】とグループ発表のためのフォーメーション創作方法の説明 フォーメーションのグループ別練習(実技 グループワーク) 事前学習：フォーメーションの例題を調べておく(0.5時間) 事後学習：創作作品を動画に撮影し、手直し部分など確認する(0.5時間) 第15回：グループ別練習 発表・鑑賞・振り返り(発表) 事前学習：グループの創作動画を見てダンスの復習をしておく(0.5時間) 事後学習：ダンスのグループ発表動画を見て自己評価する(0.5時間)
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 実技試験(40%) 平常点(60%) 平常点は授業への参加状況、取り組み、態度等を総合して判断する。
(7) 成績評価基準 青年期におけるスポーツや健康の維持増進に関する知識と実践方法を理解し、生涯にわたってスポーツやレクリエーションを楽しむことのできる基礎を養うことの重要性を理解できたか。 ダンスという分野で個人スポーツ及び集団スポーツの実践を通して、初歩的な技術から段階的に習得し楽しく踊ることができたか。 ダンスを覚えること、それを曲に合わせて踊ることの身体的・精神的な発達を習得できたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。
(11) その他(受講上の注意) 必ず体操服で受講すること。シューズも準備すること。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英語 I a (English I a)			担当教員	加藤 優子、矢橋 知枝、Mクズィフ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
GE-D-1101	1 単位	1 年前期	演習		必修
<科目区分> 教養科目 【D群】外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな教養と実際のな知識・技術を修得し、探究的な意欲と協働的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容	
Following a warm-up activity to introduce the theme of the unit, students will be introduced to the relevant grammar and vocabulary through a series of listening and speaking exercises. Reading, writing, and presentation exercises will follow to reinforce their knowledge of the material.	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
Upon finishing the course, students will be able to express themselves freely in general conversation by exchanging personal information and talking about their daily lives. Additionally, students will be able to listen for keywords and specific information in a variety of situations. The ability to scan for general information and read for specific information will be enhanced as well as the ability to write short messages, descriptions, and articles on a variety of subjects. Students are expected to participate in discussions, group work, and give presentations. The scheduling of discussions, group work, and presentations is at the discretion of each course instructor.	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☒ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法	
第1回：Class Introduction (ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第2回：Unit 1 - Daily Activities ① (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第3回：Unit 1 - Daily Activities ② (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第4回：Unit 2 - Work and study ① (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第5回：Unit 2 - Work and study ② (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第6回：Unit 3 - At the moment ① (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第7回：Unit 3 - At the moment ② (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第8回：Review (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第9回：Unit 4 - Feelings ① (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)	

第10回：Unit 4 - Feelings ② (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第11回：Unit 5 - On the weekend ① (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第12回：Unit 5 - On the weekend ② (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第13回：Unit 6 - Places around town ① (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第14回：Unit 6 - Places around town ② (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第15回：Cumulative Review (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第16回：Examination Before starting each unit, students are to familiarize themselves with the class material by reviewing the 'Grammar Reference' pages for each unit and completing the exercises on those pages. Students must also complete homework assignments as instructed by their teacher, such as the writing assignments suggested in the textbook and other relevant assignments.
(5) 授業形態 [面接授業・遠隔授業] 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 Outside-class Activities (e.g., 'Grammar Reference' pages & other homework assignments, online study, etc.) - 20% 【授業外課題 20% ([例] 文法参照ページ & 宿題・オンライン学習・他)】 Proactive In-class Participation - 20% 【積極的な授業参加度 20%】 Examinations - 60% 【試験 60%】
(7) 成績評価基準 Students' ability to understand and participate in general conversation on everyday topics will be evaluated, as well as the ability to read and comprehend short, written passages.
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 Stempleski, Susan. Stretch 1 (Second Edition). 2024. Oxford University Press. ISBN 978-0-19-413593-1 TEX加藤 『TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ』 朝日新聞出版 2017年

(11) その他(受講上の注意)

Prior to the beginning of the semester, a mandatory general English pre-evaluation test will be administered. 【入学時にプレースメントテストを実施する】 Also, during the semester, a number of classes will be held in the Computer Assisted Language Learning laboratory (E-303) to familiarize students with the use of online study activities.

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英語 I b (English I b)			担当教員	加藤 優子、矢橋 知枝、Mクズィフ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
GE-D-1106	1 単位	1 年後期	演習		必修
<科目区分> 教養科目 【D群】外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな教養と実際のな知識・技術を修得し、探究的な意欲と協働的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容	
Following a warm-up activity to introduce the theme of the unit, students will be introduced to the relevant grammar and vocabulary through a series of listening and speaking exercises. Reading, writing, and presentation exercises will follow to reinforce their knowledge of the material.	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
Upon finishing the course, students will be able to express themselves freely in general conversation by exchanging personal information and talking about their daily lives. Additionally, students will be able to listen for keywords and specific information in a variety of situations. The ability to scan for general information and read for specific information will be enhanced as well as the ability to write short messages, descriptions, and articles on a variety of subjects. Students are expected to participate in discussions, group work, and give presentations. The scheduling of discussions, group work, and presentations is at the discretion of each course instructor.	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法	
第1回：Class Introduction (ディスカッション) 事前学習：前期の学習を振り返っておくこと(30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べる(30分) 第2回：Unit 7 - People we admire ① (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べる(30分) 第3回：Unit 7 - People we admire ② (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べる(30分) 第4回：Unit 8 - At the supermarket ① (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べる(30分) 第5回：Unit 8 - At the supermarket ② (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べる(30分) 第6回：Unit 9 - Health problems ① (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べる(30分) 第7回：Unit 9 - Health problems ② (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べる(30分) 第8回：Review (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べる(30分) 第9回：Unit 10 - Clothes and colors ① (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べる(30分)	

第10回：Unit 10 - Clothes and colors ② (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第11回：Unit 11 - Music ① (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第12回：Unit 11 - Music ② (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第13回：Unit 12 - Travel plans ① (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第14回：Unit 12 - Travel plans ② (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第15回：Cumulative Review (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第16回：Examination Before each unit, students are to familiarize themselves with the class material by reviewing the 'Grammar Reference' pages for each unit and completing the exercises on those pages. Students must also complete homework assignments as instructed by their teacher, such as the writing assignments suggested in the textbook as well as other relevant assignments.
(5) 授業形態 [面接授業・遠隔授業] 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 Outside-class Activities (e.g., 'Grammar Reference' pages & other homework assignments, online study, etc.) - 20% 【授業外課題 20% ([例] 文法参照ページ & 宿題・オンライン学習・他)】 Proactive In-class Participation - 20% 【積極的な授業参加度 20%】 Examinations - 60% 【試験 60%】
(7) 成績評価基準 Students' ability to understand and participate in general conversation on everyday topics will be evaluated, as well as the ability to read and comprehend short, written passages.
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 Stempleski, Susan. Stretch 1 (Second Edition). 2024. Oxford University Press. ISBN 978-0-19-413593-1 TEX加藤 『TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ』 朝日新聞出版 2017年

(11) その他(受講上の注意)

During the semester, a number of classes will be held in the Computer Assisted Language Learning laboratory (E-303) to familiarize students with the use of online study activities.
An additional mandatory general English post-evaluation test to monitor achievement will be given at the end of the semester. 【TOEIC IPテスト（アチーブメントテスト）受験が単位取得条件である】

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

フランス語 a (French a)			担当教員	大竹口 麻里	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
GE-D-1102	1 単位	1 年前期	演習	選択	
<科目区分> 教養科目 【D群】外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな教養と実際のな知識・技術を修得し、探究的な意欲と協働的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容	
テキストはパリにやってきた女子学生美香が、やがてボルドーを訪れ、料理やワインに関心を持っていくというストーリーが中心である。文法のみならず、読み・書き・話す・聞くという言語の4技能をバランスよく学ぶ。「フランス語技能検定試験(仏検)」の4級程度の、フランス語の発音と単語及び文の構造を学ぶ	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
1) 綴り字と発音の関係を学び、早い段階で臆することなくフランス語を発音できる。 2) 初級文法を学び簡単な会話文が読み書くことができる。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：フランス語について、ABCの発音、あいさつ 事前学習：CDでアルファベを聞いておくこと。(0.5時間) 事後学習：自分の名前をノートに書いて発音しすらすら言えるようにしておく。(0.5時間) 第2回：第1課 綴り字の読み方・自己紹介する 事前学習：テキスト1課の単語調べをする。(0.5時間) 事後学習：綴字の短母音字についてまとめる。(0.5時間) 第3回：第1課 自己紹介する 事前学習：Dialogueとlectureを訳す。(0.5時間) 事後学習：テキストp12の練習問題を解く。(0.5時間) 第4回：第2課 物を指し示す① 事前学習：テキスト2課の単語調べをする。(0.5時間) 事後学習：テキストp16の練習問題を解く。(0.5時間) 第5回：第2課 物を指し示す② 事前学習：DialogueとLectureを訳す。(0.5時間) 事後学習：授業で配布したプリントの練習問題を解く。(0.5時間) 第6回：第3課 尋ねる① 事前学習：テキスト第3課の単語を調べておく。(0.5時間) 事後学習：-er動詞parler aimer活用させ、まとめておき覚える。(0.5時間) 第7回：第3課 尋ねる② 事前学習：DialogueとLectureを訳す。(0.5時間) 事後学習：授業で配布したプリントの練習問題を解く。テキストp22仏検5級をめざして1を解いておく。(0.5時間) 第8回：第4課 買い物をする① 事前学習：テキスト第4課の単語調べをする。(0.5時間) 事後学習：テキストp26の練習問題を解いておく。(0.5時間) 第9回：第4課 買い物をする② 事前学習：DialogueとLectureを訳す。(0.5時間) 事後学習：授業で配布したプリントの練習問題を解く。(0.5時間) 第10回：第5課 物事や人について尋ねる 事前学習：テキスト第5課の単語調べをする。(0.5時間) 事後学習：テキストp30の練習問題を解く。(0.5時間) 第11回：第5課 物事や人について尋ねる 事前学習：DialogueとLectureを訳す。(0.5時間) 事後学習：授業で配布したプリントの練習問題を解く。(0.5時間)	

第12回：第6課 場所を尋ねる 事前学習：テキスト6課の単語調べをしておく。(0.5時間) 事後学習：テキストp34の練習問題を解く。(0.5時間) 第13回：第6課 場所を尋ねる 事前学習：Dialogueとlectureを訳す。(0.5時間) 事後学習：授業で配布したプリントの練習問題を解く。(0.5時間) 第14回：第7課 ～したいと言う 事前学習：テキスト第7課の単語を調べておく。(0.5時間) 事後学習：テキストp38の練習問題を解いておく。(0.5時間) 第15回：第7課 ～したいと言う 事前学習：DialogueとLectureを訳す。(0.5時間) 事後学習：授業で配布したプリントの練習問題を解く。(0.5時間) 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験70%、平常点30%（平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙等の提出状況等を総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
1) 綴り字と発音の関係を理解し、早い段階で臆することなくフランス語を発音できるか。 2) 初級文法及び簡単な会話文が読み書きができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（後期第1回目の授業時） 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
藤田裕二著『パリーボルドー』 朝日出版社
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

フランス語 b (French b)			担当教員	大竹口 麻里	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
GE-D-1107	1 単位	1 年後期	演習	選択	
<科目区分> 教養科目 【D群】外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな教養と実際のな知識・技術を修得し、探究的な意欲と協働的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
「フランス語技能検定試験(仏検)」の4級程度の、フランス語の発音と単語及び文の構造を学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
1) テキストの内容について滑らかにフランス語を発音できるようになること。 2) テキストの内容や自分自身について質問されたことについてフランス語で書くことができるようになること。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(毎回授業の最初にペアワークでDialogueを役に分かれて発音する。)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：第8課 興味を述べる 事前学習：テキスト第8課の単語調べをする。(0.5時間) 事後学習：テキスト p 44の練習問題を解く。(0.5時間) 第2回：第8課 興味を述べる 事前学習：DialogueとLectureを訳す。(0.5時間) 事後学習：授業で配布したプリントの練習問題を解く。(0.5時間) 第3回：第9課 誘う 事前学習：テキスト第9課の単語調べをする。(0.5時間) 事後学習：テキスト p 48の練習問題を解く。(0.5時間) 第4回：第9課 誘う 事前学習：DialogueとLectureを訳す。(0.5時間) 事後学習：授業で配布したプリントの練習問題を解く。(0.5時間) 第5回：第10課 天候と時刻を言う 事前学習：テキスト第10課の単語調べをする。(0.5時間) 事後学習：テキスト p 52の練習問題を解く。(0.5時間) 第6回：第10課 天候と時刻を言う 事前学習：DialogueとLectureを訳す。(0.5時間) 事後学習：授業で配布したプリントの練習問題を解く。(0.5時間) 第7回：第11課 数量を表す 事前学習：テキスト第11課の単語調べをする。(0.5時間) 事後学習：テキスト p 58の練習問題を解いておくこと。(0.5時間) 第8回：第11課 数量を表す 事前学習：DialogueとLectureを訳す。(0.5時間) 事後学習：授業で配布したプリントの練習問題を解く。(0.5時間) 第9回：第12課 比較する 事前学習：テキスト第12課の単語調べをする。(0.5時間) 事後学習：テキスト p 62の練習問題を解く。(0.5時間) 第10回：第12課 比較する 事前学習：DialogueとLectureを訳す。(0.5時間) 事後学習：授業で配布したプリントの練習問題を解く。(0.5時間) 第11回：第13課 過去のことを話す① 事前学習：テキスト第13課の単語調べをする。(0.5時間) 事後学習：テキスト p 66の練習問題を解く。仏検4級を目指して2を解く。(0.5時間)

第12回：第13課 過去のことを話す② 事前学習：DialogueとLectureを訳す。(0.5時間) 事後学習：授業で配布したプリントの練習問題を解く。(0.5時間) 第13回：第14課 仮定する① 事前学習：テキスト14課の単語調べをする。(0.5時間) 事後学習：p 72の練習問題を解く。(0.5時間) 第14回：第14課 仮定する② 事前学習：DialogueとLectureを訳す。(0.5時間) 事後学習：授業で配布したプリントの練習問題を解く。(0.5時間) 第15回：総復習 事前学習：テキスト第8課～第14課の内容を整理し、質問事項をまとめる。(0.5時間) 事後学習：授業の中で取り上げた最重要項目についてよく復習する。(0.5時間) 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験70% 平常点30%（平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙等の提出状況等を総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
1) フランス語の滑らかな発音ができるか。 2) 簡単な質問に対してフランス語で回答できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■授業時 □仁大eラーニング □メール □その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■授業時 □仁大eラーニング □メール □その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■授業時 □仁大eラーニング □メール □その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ■定期試験時 □仁大eラーニング □メール □その他 5) その他 ■授業時 □仁大eラーニング □メール □その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
藤田裕二著『パリーボルドー』 朝日出版社
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

ドイツ語 a (German a)			担当教員	橋本 武志	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
GE-D-1103	1 単位	1 年前期	演習		選択
<科目区分> 教養科目 【D群】外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな教養と実際のな知識・技術を修得し、探究的な意欲と協働的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
ドイツ語の発音と単語、文の構造を学ぶ。ドイツ語のアルファベットの発音、単語発音のルール、現在形の動詞変化、定冠詞・不定冠詞の格変化を習得することを通じて、簡単なドイツ語のあいさつや、ドイツ語の単文をある程度読み、書き、発音することができるようになることを目的とする。テキストだけではなく自作の練習問題も用いる。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
ドイツ語のアルファベットの発音、単語の読み方、規則的な動詞変化（現在形）、定冠詞・不定冠詞の格変化を習得し、簡単なドイツ語のあいさつや、ドイツ語の単文をある程度読み、書き、発音することができるようになることを目的とする。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☐ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他（ペアワーク）
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：Lektion 1 ドイツ語という言葉の説明・アルファベット 事前学習：テキストのアルファベットのページを読み、CDを聞いて音読しておくこと（0.5時間） 事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間） 第2回：Lektion 1 いろいろな単語を発音してみよう1 事前学習：テキストの単語の発音のページを読み、CDを聞いて音読しておくこと（0.5時間） 事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間） 第3回：Lektion 1 いろいろな単語を発音してみよう2（ペアワーク10分） 事前学習：テキストのあいさつのページを読み、CDを聞いて音読しておくこと（0.5時間） 事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間） 第4回：Lektion 2 動詞の人称変化1 事前学習：テキストの人称変化のページを読み、CDを聞いて音読しておくこと（0.5時間） 事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間） 第5回：Lektion 2 動詞の人称変化2・文の作り方 事前学習：動詞の不規則な人称変化のページを読み、CDを聞いて音読しておくこと（0.5時間） 事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間） 第6回：復習テスト1 事前学習：テキスト・プリントのこれまでのページを読み、復習しておくこと（0.5時間） 事後学習：復習テストの間違った箇所を復習し、宿題を完成させておくこと（0.5時間） 第7回：Lektion 3 名詞の性 事前学習：名詞の性のページを読み、CDを聞いて音読しておくこと（0.5時間） 事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間） 第8回：Lektion 3 定冠詞の格変化1 事前学習：定冠詞のページを読み、CDを聞いて音読しておくこと（0.5時間） 事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間） 第9回：Lektion 3 定冠詞の格変化2 事前学習：定冠詞のページを読み、CDを聞いて音読しておくこと（0.5時間） 事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間） 第10回：Lektion 3 不定冠詞の格変化1 事前学習：不定冠詞のページを読み、CDを聞いて音読しておくこと（0.5時間） 事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間）

第11回：Lektion 3 不定冠詞の格変化2 事前学習：不定冠詞のページを読み、CDを聞いて音読しておくこと（0.5時間） 事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間） 第12回：復習テスト2 事前学習：テキスト・プリントのこれまでのページを読み、復習しておくこと（0.5時間） 事後学習：復習テストの間違った箇所を復習し、宿題を完成させておくこと（0.5時間） 第13回：定冠詞・不定冠詞の復習（混合問題） 事前学習：テキスト・プリントの定冠詞・不定冠詞の箇所を復習しておくこと（0.5時間） 事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間） 第14回：Lektion 8 形容詞の用法 事前学習：形容詞のページを読み、CDを聞いて音読しておくこと（0.5時間）（0.5時間） 事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間） 第15回：これまでのまとめ 事前学習：前期授業の復習を行い、わからないところは質問を考えておくこと（0.5時間） 事後学習：質問への回答を用いて、定期試験に備え前期の総復習をしておくこと（0.5時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（70%）、平常点（30%） （平常点は、授業への参加状況、小テストへの取り組みなどを総合して判断します）
(7) 成績評価基準
・ドイツ語の発音の規則を理解し、知らない単語にも応用することができるか。 ・動詞変化の基本的規則を理解し、自分で動詞を変化させることができるか。 ・英語にはない動詞の「性および格」について理解し、冠詞変化規則を応用することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
(1) 西村祐子 ルドルフ・ペトリック 『新・行ってみたいドイツ』 郁文堂 2013年 (2) 在間進 『新キャンパス独和辞典』 郁文堂 2011年 初学者には電子辞書は不向きなので、書籍版を購入すること。すでに書籍版の辞書を持っている人は、自分の持っている辞書でもよい。辞書の種類や使い方については初回の授業で説明します。
(11) その他(受講上の注意)
・語学の授業は、出席しないことには身につかない。できるかぎり出席すること。 ・毎回練習問題を宿題として出すので、必ずやってきてから授業に臨むこと。毎回の授業は宿題の答え合わせから始める。間違った問題は必ず復習しておくこと。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

ドイツ語 b (German b)			担当教員	橋本 武志	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
GE-D-1108	1 単位	1 年後期	演習		選択
<科目区分> 教養科目 【D群】外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな教養と実際のな知識・技術を修得し、探究的な意欲と協働的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容	
ドイツ語aにつづいて、ドイツ語のやや高次の初級文法について学ぶ。定冠詞・不定冠詞の変化からスムーズに修得可能な、定冠詞類・不定冠詞類の格変化からはじめて、名詞の複数形、人称代名詞、不規則動詞、前置詞、助動詞、過去時制という具合に、徐々に難度を上げつつ授業を進め、最終的にはドイツ語独自の「ワク構造」について理解することを目的とする。ドイツ語a同様、英語との類似を念頭に置いた自作プリント練習問題を用いて演習を行なう。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
ドイツ語の定冠詞・不定冠詞類の格変化、前置詞、助動詞を習得し、英語とは異なるドイツ語独自の「ワク構造」について理解する。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(ペアワーク)	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：ドイツ語aの復習 事前学習：ドイツ語aで学んだ総復習をしておくこと(0.5時間) 事後学習：授業で用いた資料の間違い直しをしておくこと(0.5時間) 第2回：Lektion 5 定冠詞類・不定冠詞類 1 (ペアワーク) 事前学習：テキストの定冠詞類のページを読み、CDを聞いておくこと(0.5時間) 事後学習：宿題を完成させておくこと(0.5時間) 第3回：Lektion 5 定冠詞類・不定冠詞類 2 (ペアワーク) 事前学習：テキストの不定冠詞類のページを読み、CDを聞いておくこと(0.5時間) 事後学習：宿題を完成させておくこと(0.5時間) 第4回：Lektion 4 名詞の複数形 事前学習：テキストの複数名詞のページを読み、CDを聞いておくこと(0.5時間) 事後学習：宿題を完成させておくこと(0.5時間) 第5回：Lektion 3 人称代名詞 事前学習：テキストの人称代名詞のページを読み、CDを聞いておくこと(0.5時間) 事後学習：宿題を完成させておくこと(0.5時間) 第6回：小テスト 1 事前学習：小テストにむけてこれまでの復習をしておくこと(0.5時間) 事後学習：小テスト 1 の間違い直しをし、宿題を完成させておくこと(0.5時間) 第7回：Lektion 4 不規則動詞 事前学習：テキストの不規則動詞のページを読み、CDを聞いておくこと(0.5時間) 事後学習：宿題を完成させておくこと(0.5時間) 第8回：Lektion 6 前置詞 1 事前学習：テキストの 3 格、4 格支配の前置詞のページを読み、CDを聞いておくこと(0.5時間) 事後学習：宿題を完成させておくこと(0.5時間) 第9回：Lektion 6 前置詞 2 事前学習：テキストの 3・4 格支配の前置詞のページを読み、CDを聞いておくこと(0.5時間) 事後学習：宿題を完成させておくこと(0.5時間) 第10回：Lektion 6 前置詞 3 事前学習：テキストの前置詞の縮約形のページを読み、CDを聞いておくこと(0.5時間) 事後学習：宿題を完成させておくこと(0.5時間)	

第11回：Lektion 7 話法の助動詞とワク構造 事前学習：テキストの話法の助動詞のページを読み、CDを聞いておくこと（0.5時間） 事後学習：宿題プリントを完成させておくこと（0.5時間） 第12回：小テスト 2 事前学習：小テストにむけてこれまでの復習をしておくこと（0.5時間） 事後学習：小テスト 2 の間違い直しをし、宿題を完成させておくこと（0.5時間） 第13回：Lektion10 動詞の 3 基本形と過去形 事前学習：テキストの動詞の過去形のページを読み、CDを聞いておくこと（0.5時間） 事後学習：返却された小テスト 2 の間違い直しをし、宿題を完成させておくこと（0.5時間） 第14回：Lektion11 現在完了形とワク構造 1 事前学習：テキストの現在完了形のページを読み、CDを聞いておくこと（0.5時間） 事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間） 第15回：Lektion11 現在完了形とワク構造 2 事前学習：テキストの現在完了形のページを読み、CDを聞いておくこと（0.5時間） 事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（70%）、平常点（30%） （平常点は、授業への参加状況、受講態度、小テストへの取り組みを総合して判断します）
(7) 成績評価基準
・冠詞類、動詞の不規則変化、前置詞、話法の助動詞について理解し、ある程度応用できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
(1) 西村祐子 ルドルフ・ペトリック 『新・行ってみたいドイツ』 郁文堂 2013年 (2) 在間進 『新キャンパス独和辞典』 郁文堂 2011年 初学者には電子辞書は不向きなので、書籍版を購入すること。すでに書籍版の辞書を持っている人は、自分の持っている辞書でもよい。辞書の種類や使い方については初回の授業で説明します。
(11) その他(受講上の注意)
・語学の授業は、出席しないことには身につかない。できるかぎり出席すること。また、私語が多い場合には、その回は欠席扱いにすることがある。 ・毎回テキストやプリントの練習問題を宿題として出すので、必ずやってきてから授業に臨むこと。毎回の授業は宿題の答え合わせから始める。間違った問題は必ず復習しておくこと。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

中国語 a (Chinese a)			担当教員	章 略	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
GE-D-1104	1 単位	1 年前期	演習		選択
<科目区分> 教養科目 【D群】外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな教養と実際のな知識・技術を修得し、探究的な意欲と協働的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
中国語の学習を進めていく上で基礎知識を学習し、中国語の検定試験準 4 級のレベルをめざす。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
1、中国語の発音に関して、表音ローマ字の読み方と綴り方を取得する。 2、中国語の簡略字を正しく読み取れる。 3、基礎単語300語程度を覚える。 4、簡単な日常あいさつ用語30語程度を聞き取れる、応答ができる。 5、簡単な基本文型20語程度を取得し、基本的な事項の確認や、自分の意思を伝えられる。 6、演習会話を通してコミュニケーション能力を高めることを目標とする。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☒ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：発音とピンイン 1。一字一音、ピンイン、声調、母音。 事後学習：録音を聞きながら、発音を練習すること。課題 1 (1 時間) 第2回：発音とピンイン 2。子音、中国語の数字を言う、よく使う日常挨拶用語 I。 事後学習：録音を聞きながら、発音を練習すること。課題 2 (1 時間) 第3回：発音とピンイン 3。声調の変化、軽声、声調の組合せ。スマートフォン、パソコンに簡体中文の入力を設定する。簡体中文で入力する。 事後学習：録音を聞きながら、発音を練習すること。練習問題を簡体中文で打って友達に送ってみましょう。課題 3 (1 時間) 第4回：人称代名詞。判断動詞“是”。 事後学習：録音を聞きながら、繰り返し発音を練習すること。課題 4 (1 時間) 第5回：疑問を表わす“吗”。中国語の基本的な語順。 事前学習：録音を聞きながら、繰り返し発音を練習すること。課題 5。(1 時間) 第6回：疑問詞疑問文。名前の尋ね方と答え方。 事前学習：録音を聞きながら、繰り返し発音を練習すること。課題 6。(1 時間) 第7回：動詞“有”。語気助詞“了”。 事前学習：練習問題を簡体中文で打つ練習。課題 7。(1 時間) 第8回：名詞述語文。数量詞の位置。 事後学習：練習問題を簡体中文で打つ練習。課題 8。(1 時間) 第9回：介詞“在～”。場所を表わす代名詞。 事後学習：練習問題を簡体中文で打つ練習。課題 9。(1 時間) 第10回：連動文。助動詞“想”。 事後学習：練習問題を簡体中文で打つ練習。課題10。(1 時間) 第11回：語気助詞“吧”。時刻の言い方。時を表わす言葉。 事前学習：練習問題を簡体中文で打つ練習。課題11。(1 時間) 第12回：助詞“的”。形容詞述語文。 事前学習：練習問題を簡体中文で打つ練習。課題12。(1 時間) 第13回：動態助詞“过”。動詞の重ね型。 事後学習：練習問題を簡体中文で打つ練習。課題13。(1 時間) 第14回：二重目的語。禁止を表わす“別”と“不要”。 事前学習：練習問題を簡体中文で打つ練習。課題14。(1 時間) 第15回：“的”構文。助動詞“能”。曜日の言い方。 事後学習：練習問題を簡体中文で打つ練習。課題15。(1 時間)

第16回：定期試験 各授業：10分・発音練習、60分・演習と解説、20分・まとめと質疑応答。（ペアワーク、発表）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（50％）課題練習の成績（30％）平常点（20％） （平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します）
(7) 成績評価基準
1、表音のローマ字の読みと綴りを行うことができるか。 2、常用簡略字が読み取れるか。 3、基礎単語300語程度が話せるか。 4、簡単日常あいさつ語を聞き、応答できるか。 5、簡単な言葉で事項の確認や自分の意思を伝えられるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（遠隔授業実施の場合は仁大eラーニング） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
徐 送迎 著 『活躍しよう！ 中国語（初級）』 朝日出版社
(11) その他(受講上の注意)
積極的に授業に参加すること。授業中に大声で発声すること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

中国語 b (Chinese b)			担当教員	章 略
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
GE-D-1109	1 単位	1 年後期	演習	選択
<科目区分> 教養科目 【D群】外国語科目				
求める学習成果(教育目標)				
豊かな教養と実地的な知識・技術を修得し、探究的な意欲と協働的な態度を身につけます。				

(1) 授 業 の 内 容
中国語を読むこと、話すことを重点において学習し、中国語の検定試験準4級合格をめざす。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
1、中国語表音ローマ字による発音ができる。 2、基礎単語500語程度を使って、簡単な中国語の日本語訳と日本語の中国語訳ができる。 3、日常あいさつ用語50語程度を聞き取れる、応答ができる。 4、簡単な基本文型50語程度を利用し、基本的な事項の確認や、自分の意思を自然に伝えられる。 5、演習会話を通してコミュニケーション能力を高めることを目標とする。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(ペアワーク)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：中国語 a の復習Ⅰ。年月日の言い方、中国の祭日の映像を見る。 事後学習：中国語 a の復習プリントを配る、次週に提出すること。(1時間) 第2回：中国語 a の復習Ⅱ。基本文型の復習。 事前学習：日本の四季の紹介文の翻訳。(1時間) 第3回：動量補語。指示代名詞。会話作り及び発表《日本の四季》。(ペアワーク) 事後学習：友達を紹介する文の作り、次週に提出すること。(1時間) 第4回：挿入語“听说～”。動態助詞“了”。会話作り及び発表《介绍朋友》。(ペアワーク) 事前学習：中国の有名な都市を調べること。(1時間) 第5回：動詞“喜欢”。助動詞“会”。会話作り及び発表《介绍中国的城市》。(ペアワーク) 事後学習：自分の趣味に関する文作り、次週に提出すること。(1時間) 第6回：反復疑問文。助動詞“可以”。年月日の言い方。会話作り及び発表《谈爱好》。(ペアワーク) 事前学習：挨拶用語のプリントを配る、次週に提出すること。(1時間) 第7回：道の尋ね方。時量補語。会話作り及び発表《寒暄交谈》。(ペアワーク) 事後学習：道を尋ねる文作り、次週に提出すること。(1時間) 第8回：動態助詞“着”。動詞“在”。方位詞。会話作り及び発表《向行人问路》。(ペアワーク) 事前学習：中国料理の単語を調べること。(1時間) 第9回：結果補語。介詞“离～”。会話作り及び発表《喜欢的菜》。(ペアワーク) 事前学習：料理を注文する文作り、次週に提出すること。(1時間) 第10回：選択疑問文“(是)A, 还是B”。料理を注文する動詞“要”と“来”。会話作り及び発表《在餐厅》。(ペアワーク) 事後学習：乗り物の乗り方を宿題し、次週に提出すること。(1時間) 第11回：単純方向補語。主述述語文。会話作り及び発表《公共交通》。(ペアワーク) 事前学習：病院での会話文作り、次週に提出すること。(1時間) 第12回：“是～的”構文。介詞“给～”。よく用いる単純方向補語。会話作り及び発表《去医院》。(ペアワーク) 事後学習：日本の生活習慣を調べること。(1時間) 第13回：人民元と日本円。副詞“在”。会話作り及び発表《生活习惯》。(ペアワーク) 事前学習：お土産を買う文作り、次週に提出すること。(1時間) 第14回：比較文“A比B～”。様態補語。会話作り及び発表《买土特产》。(ペアワーク) 事後学習：作文《私がしたい仕事》を題し50字をまとめ、次週に提出すること。(1時間) 第15回：総まとめ。①単語のリレー。②テーマ別の中国語表現のリレー。③中国語を聞いて、動作で答える。(発表) 事後学習：定期試験の準備。(1時間)

第16回：定期試験 各授業：10分・発音練習、60分・演習と解説、20分・まとめと質疑応答。（ペアワーク、発表）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（50％）課題練習の成績（30％）平常点（20％） （平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します）
(7) 成績評価基準
1、表音のローマ字による発音ができるか。 2、簡単な中国語と日本語の訳ができるか。 3、簡単日常あいさつ語を聞き、応答できるか。 4、簡単な言葉で事項の確認や自分の意思を伝えられるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ■定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ■授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
徐 送迎 著 『活躍しよう！ 中国語（初級）』 朝日出版社
(11) その他(受講上の注意)
積極的に授業に参加すること。授業中に大声で発声すること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

国際文化交流 (International Culural Exchange)			担当教員	M ハウカ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
GE-D-1111	2 単位	1 年～ 4 年	演習		選択
<科目区分> 教養科目 【D群】外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな教養と実際のな知識・技術を修得し、探究的な意欲と協働的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
原則としてアメリカ・カリフォルニア州立大学フラトン校(本学姉妹校)での集中講義(2週間)の形式で実施するが、英語教育センターで承認を受けた場合は個人留学による語学研修でも履修可能である。フラトン校での集中講義では、授業あるいはワークショップの参加・見学、キャンパス内外での視察、クラブ活動参加、観光等を通じて国際交流を体験し、以後の学修・研究のための動機付けを得ることを目指す。前期に事前授業10回・後期に事後授業5回を実施する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・学外における自主的な活動や体験を通して、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得する。 ・「仁愛大学海外短期研修プログラム(2週間)」への参画体験演習を通して、以後の学修・研究のための動機付けを得る。 ・異文化理解を深める。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
事前授業(40時間) ・全体説明会(目的、日程、研修内容、宿泊、準備物[パスポート、航空券、クレジットカードなど]) ・ビザの申請 ・ホストファミリーへの紹介文 ・研修地に関する事前学習 ・場面別英会話の学習 ・プレゼンテーションの準備・練習 ・ブレースメントテスト ・経験者の話・質疑応答 ・最終確認 <集中講義(夏期休暇中)> 留学(30時間) ・英語の授業(リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング、文法、語彙など) ・日本語の指導 ・文化施設見学 ・ホストファミリーとの交流(ホームステイ) ・体験ツアー ・歴史、文化授業参加、ディスカッション ・他の大学生との交流 事後授業(20時間) ・研修のふりかえり・レポート ・プレゼンテーション準備 ・体験報告会
(5) 授業形態[面接授業・遠隔授業]
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

(6) 成績評価方法
事前授業の取り組み (30%)、現地評価 (50%)、事後授業の取り組み、およびレポート課題 (20%) を総合評価する。
(7) 成績評価基準
学外における自主的な活動や体験をととして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得できたか。 学修・研究のための動機付けを得て、優れた社会人となるための自己認識を深めることができたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
特になし
(11) その他(受講上の注意)
受講生が少ない場合、非開講とすることがある。本科目の履修登録については、担当教員等が行うガイダンスおよび本プログラム参加をもって履修登録とするため、通常の履修登録手続きを要しない。 【フラトン校での集中講義以外の履修について】 履修要件：英語教育センターで(1)～(4)を行うこと (1) 留学相談(留学先・方法など決定) (2) 審査(本科目としての適切性) (3) 事前指導(提出書類準備・渡航準備) (4) 事後指導(必要な課題提出・発表・単位認定審査) 研修期間：夏期休暇期間または春期休暇期間 単位認定時期：夏期休暇期間の場合は当該年度後期、春期休暇期間の場合は翌年度前期 ※卒業年次生は、夏期休暇中の実施のみ ※授業に参加するには、5月1日までにパスポートを取得する必要があります。 ※すべての予定されている授業に出席することが求められます。無断欠席をした場合、留学の参加ができなくなる可能性があります。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

情報基礎 (Basic Information Systems)			担当教員	竈谷 隆弘、大須賀 元彦、禿 寿	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
GE-E-1101	2 単位	1 年前期	演習		必修
<科目区分> 教養科目 【E群】情報・キャリア形成科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな教養と実際のな知識・技術を修得し、探究的な意欲と協働的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
大学における学習や研究、一般社会における業務を進めるうえで必要となるパーソナルコンピュータの基本的知識及び操作法を身につける。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
パーソナルコンピュータに関する基礎的な知識と学内情報環境の利用、インターネットやWWW・電子メールの利用について理解できる。 ワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの基本操作およびそれらを用いた文書作成ができる。 タッチタイピングにより別途定める速度での文字入力ができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：授業の目的・進め方についての説明、学内情報環境の説明、パソコンの基本操作、タッチタイピング、情報倫理・情報セキュリティ(実技) 事前学習：情報ガイダンスで配布された資料等を確認しておく。(1時間) 事後学習：授業で行なった内容を再確認し、質問等があれば担当教員もしくは情報サポート室スタッフに問い合わせる。タイピング練習(1時間) 第2回：WWWの利用、e-Learningシステム、電子メールの利用、情報倫理(実技) 事前学習：テキストおよび資料を参考に例題の確認を行う。(1時間) 事後学習：様々な検索を試す。メールの送受信を試す。タイピング練習(2時間) 第3回：ワープロ(1)文書の作成、編集、印刷(実技) 事前学習：テキストおよび資料を参考に例題の確認を行う。(1時間) 事後学習：学習管理システム(LMS)上の課題を行う。タイピング練習(3時間) 第4回：ワープロ(2)表の利用、段落の設定(実技) 事前学習：テキストおよび資料を参考に例題の確認を行う。(1時間) 事後学習：学習管理システム(LMS)上の課題を行う。タイピング練習(3時間) 第5回：ワープロ(3)画像や図形の利用(実技) 事前学習：テキストおよび資料を参考に例題の確認を行う。(1時間) 事後学習：指定する練習用文書を作成しLMSに提出する。タイピング練習(3時間) 第6回：ワープロ(4)見出しスタイル、ヘッダー・フッター、目次、Excel表の貼り付け(実技) 事前学習：テキストおよび資料を参考に例題の確認を行う。(1時間) 事後学習：指定する練習用文書を作成しLMSに提出する。タイピング練習(3時間) 第7回：表計算 (1)データ入力と基本的な計算(実技) 事前学習：テキストおよび資料を参考に例題の確認を行う。(1時間) 事後学習：指定する練習用文書を作成しLMSに提出する。タイピング練習(3時間) 第8回：表計算 (2)関数を使った計算、書式設定(実技) 事前学習：テキストおよび資料を参考に例題の確認を行う。(1時間) 事後学習：指定する練習用文書を作成しLMSに提出する。タイピング練習(3時間) 第9回：表計算 (3)グラフの作成、データの可視化(実技) 事前学習：テキストおよび資料を参考に例題の確認を行う。(1時間) 事後学習：指定する練習用文書を作成しLMSに提出する。タイピング練習(3時間) 第10回：表計算(4)データベース機能の利用(実技) 事前学習：テキストおよび資料を参考に例題の確認を行う。(1時間) 事後学習：指定する練習用文書を作成しLMSに提出する。タイピング練習(3時間)

第11回：プレゼンテーション（1）スライド資料の作成と編集（実技） 事前学習：テキストおよび資料を参考に例題の確認を行う。（1時間） 事後学習：指定する練習用文書を作成しLMSに提出する。タイピング練習（3時間） 第12回：プレゼンテーション（2）効果的な表現（実技） 事前学習：テキストおよび資料を参考に例題の確認を行う。（1時間） 事後学習：指定する練習用文書を作成しLMSに提出する。タイピング練習（3時間） 第13回：プレゼンテーション（3）スライドショーと配布資料の作成（実技） 事前学習：テキストおよび資料を参考に例題の確認を行う。（1時間） 事後学習：指定する練習用文書を作成しLMSに提出する。タイピング練習（3時間） 第14回：プレゼンテーション（4）専門分野に関するプレゼンテーション資料の作成（実技） 事前学習：発表テーマおよび関連する資料を用意する。（2時間） 事後学習：プレゼン資料を作成しLMSに提出する。タイピング練習（5時間） 第15回：模擬試験とまとめ（実技） 事前学習：期末試験に向け、これまでの学習内容を振り返る。（2時間） 事後学習：模擬試験の自己採点と理解が不十分な部分の再復習（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 定期試験（約50%） 提出課題（約50%） なお、タイピング練習においては、別途指定する練習時間以上行い、指定する速度を達成する必要がある。未達成の場合はその程度に応じて減点する。
(7) 成績評価基準 ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトによる、各種練習課題を提出しているか。 タイピング練習を指定する時間以上行い、指定する速度以上を達成したか。 定期試験にて、指定された様式に従って文書作成が行えるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他（タッチタイピングに対するフィードバックについて） ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 『30時間アカデミック Office2021 Windows 11対応』 実教出版 2022年 教材として、オンラインタイピング練習ソフトを使用する。（詳細は授業時に説明する） 市販のWord、Excel、PowerPoint、Windowsに関連する書籍も参考にとすること。
(11) その他(受講上の注意) この授業ではパソコンの操作が中心となるため、極力授業を欠席しないこと。もし欠席した場合には、授業の進捗を確認し次週に備えること。また、課題提出を重視するので、課された課題は必ず提出すること。 また、学習内容に関連する検定・資格の取得をめざすことで、より一層の知識・技術を習得することが望ましい。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

データサイエンス基礎 (Basic Data Science)			担当教員	竈谷 隆弘、大須賀 元彦、禿 寿	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
GE-E-1103	2 単位	1 年後期	演習		選択
<科目区分> 教養科目 【E群】情報・キャリア形成科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな教養と実際のな知識・技術を修得し、探究的な意欲と協働的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
ICT (情報通信技術) の急速な進化により多種多様で膨大なデータが得られるようになってきている。これらを適切に処理・分析することで新たな知見を導き出すことが可能である。社会のAI (人工知能) やビッグデータの活用に関して理解するとともにデータサイエンスの基礎的な手法を身に付ける。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
情報通信技術の進歩により社会で起きている変化について理解できる。 データサイエンスの必要性や社会での活用について理解できる。 基本的な統計手法を用いてデータを分析・活用できる。 データを適切に表現できる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：授業の目的・進め方についての説明 事後学習：授業内容にもとづいて、語句やその意味、自身の考えについてまとめる (2 時間) 第2回：社会の移り変わり、情報通信技術の進歩、人工知能 (AI) ・ビッグデータ 事前学習：テキストや資料を参考に学習内容を予習する (1 時間) 事後学習：授業内容にもとづいて、語句やその意味、自身の考えについてまとめる (2 時間) 第3回：データ活用 (データサイエンスの必要性、データ収集、オープンデータ) 事前学習：テキストや資料を参考に学習内容を予習する (1 時間) 事後学習：授業内容にもとづいて、語句やその意味、自身の考えについてまとめる (2 時間) 第4回：データ・AIの利活用 事前学習：テキストや資料を参考に学習内容を予習する (1 時間) 事後学習：授業内容にもとづいて、語句やその意味、自身の考えについてまとめる (2 時間) 第5回：表計算ソフト (実技) 事前学習：テキストや資料を参考に学習内容を予習する (1 時間) 事後学習：演習課題を行い学習管理システム (LMS) に提出する (2 時間) 第6回：時系列データ (実技) 事前学習：テキストや資料を参考に学習内容を予習する (1 時間) 事後学習：演習課題を行い学習管理システム (LMS) に提出する (4 時間) 第7回：データのばらつき・標準偏差の算出と可視化 (実技) 事前学習：テキストや資料を参考に学習内容を予習する (1 時間) 事後学習：演習課題を行い学習管理システム (LMS) に提出する (4 時間) 第8回：大量のデータ (実技) 事前学習：テキストや資料を参考に学習内容を予習する (1 時間) 事後学習：演習課題を行い学習管理システム (LMS) に提出する (4 時間) 第9回：基本統計量・箱ひげ図 (実技) 事前学習：テキストや資料を参考に学習内容を予習する (1 時間) 事後学習：演習課題を行い学習管理システム (LMS) に提出する (4 時間) 第10回：度数分布・ヒストグラム (実技) 事前学習：テキストや資料を参考に学習内容を予習する (1 時間) 事後学習：演習課題を行い学習管理システム (LMS) に提出する (4 時間) 第11回：散布図・相関係数 (実技) 事前学習：テキストや資料を参考に学習内容を予習する (1 時間) 事後学習：演習課題を行い学習管理システム (LMS) に提出する (4 時間)

第12回：回帰分析（実技） 事前学習：テキストや資料を参考に学習内容を予習する（1時間） 事後学習：演習課題を行い学習管理システム（LMS）に提出する（4時間） 第13回：クロス集計（実技） 事前学習：テキストや資料を参考に学習内容を予習する（1時間） 事後学習：演習課題を行い学習管理システム（LMS）に提出する（4時間） 第14回：データ・AI利活用における留意事項（実技） 事前学習：テキストや資料を参考に学習内容を予習する（1時間） 事後学習：授業内容にもとづいて、語句やその意味、自身の考えについてまとめる（2時間） 第15回：まとめ、復習課題（実技） 事前学習：これまでの学習内容について振り返り自身の理解度を確認する（1時間） 事後学習：演習課題を行い学習管理システム（LMS）に提出する（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（約50%） 提出課題（約50%）
(7) 成績評価基準
データサイエンス・AI・ビッグデータについて理解しているか。 表計算ソフトを用いてデータ分析の演習課題を行い、正しい内容となっているか。 定期試験にて、与えられたデータにもとづいて適切に分析・評価・表現ができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
『AIデータサイエンスリテラシー入門』 吉岡剛志, 森倉悠介, 小林領, 照屋健作 著 技術評論社 2024年 その他教材として、学習管理システム上で資料提示を行う。市販のExcel、統計学に関連する書籍も参考にする こと。
(11) その他(受講上の注意)
この授業ではパソコンの操作が中心となるため、極力授業を欠席しないこと。もし欠席した場合には、授業の進捗を確認し次週に備えること。また、課題提出を重視するので、課された課題は必ず提出すること。また学習した内容に関連する幅広い知識を獲得したり、理解が不十分な点は質問して解決するよう心掛けるなど、授業に対して主体的に取り組むこと。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

日本語文章表現 (Japanese Sentence Expression)			担当教員	國久 繁雄	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
GE-E-1102	1 単位	1 年前期	演習		選択
<科目区分> 教養科目 【E群】情報・キャリア形成科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな教養と実際のな知識・技術を修得し、探究的な意欲と協働的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容	
大学で求められるレポートや論文、プレゼンテーション原稿など学術的な文章を作成するための基礎を身につける。自分の伝えたいことを的確に伝えるために、文章構成や推敲の方法、参考文献からの引用のルールなどを確実に習得し、実際に文章(作文・小論文など)を書いたり、声に出して伝えたりする実践を積む。また、福井仁愛学園が共催している「風花随筆文学賞」への応募を想定した随筆作品を執筆する。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
・与えられた課題に対して、効果的に組み立てられた文章が書け、自分の考えを書き言葉や話し言葉によって相手に伝えることができる。 ・社会生活一般やビジネス分野で使われているさまざまな文章表現に触れ、その特徴を理解したうえで身近なものに感じられるようになる。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(作文・小論文等の文章作成)	
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法	
第1回：オリエンテーション、「さまざまな文章」「原稿用紙の用法」(グループワーク) 事前学習：テキスト1章と2章を読み、大切な箇所を明確にしておく。(0.5時間) 事後学習：授業で出された課題を行う。(0.5時間)	
第2回：「文章の構成」(発表) 事前学習：テキスト3章を読み、『10年後の自分への手紙』が書けるようにしておく。(0.5時間) 事後学習：授業で出された課題を行う。(0.5時間)	
第3回：「誤用文・推敲の方法」(グループワーク) 事前学習：テキスト4章を読み、品詞と文の成分を復習しておく。(0.5時間) 事後学習：授業で出された課題を行う。(0.5時間)	
第4回：「修辞法と慣用句」 事前学習：テキスト5章を読み、慣用句・ことわざ・故事成語の違いを理解しておく。(0.5時間) 事後学習：授業で出された課題を行う。(0.5時間)	
第5回：「さまざまな熟語」(グループワーク) 事前学習：テキスト6章を読み、記載された熟語全てを読めるようにしておく。(1時間) 事後学習：授業で出された課題を行う。(0.5時間)	
第6回：「就職活動と書類」 事前学習：テキスト8章を読み、履歴書が書けるようにしておく。(0.5時間) 事後学習：授業で出された課題を行う。(0.5時間)	
第7回：「レポート・論文作成の手順」 事前学習：テキスト9章を読み、手順を予習しておく。(0.5時間) 事後学習：授業で出された課題を行う。(0.5時間)	
第8回：「引用と要約のルール」(グループワーク) 事前学習：テキスト10章を読み、ルールを予習しておく。(0.5時間) 事後学習：授業で出された課題を行う。(0.5時間)	
第9回：「レポート・論文の作成」 事前学習：テキスト12章を読み、論文作成に大切な箇所を見つけておく。(0.5時間) 事後学習：授業で出された課題を行う。(0.5時間)	
第10回：「レポート・論文の作成」(その他 小論文作成) 事前学習：前時の学習内容をもとに、与えられたテーマで論文が書けるよう準備をしておく。(1時間) 事後学習：授業で出された課題を行う。(0.5時間)	

第11回：「敬語の種類」(討議) 事前学習：テキスト7章を読み、わからない部分を見つけておく。(1時間) 事後学習：授業で出された課題を行う。(0.5時間) 第12回：「日常生活と言葉づかい」(グループワーク) 事前学習：テキスト13章を読み、大切な箇所を見つけておく。(1時間) 事後学習：授業で出された課題を行う。(0.5時間) 第13回：「ビジネス社会における敬語(1)(2)」(討議) 事前学習：テキスト14章と15章を読み、わからない部分を見つけておく。(1時間) 事後学習：授業で出された課題を行う。(0.5時間) 第14回：随筆の書き方(グループワーク) 事前学習：配付された随筆作品を読み、随筆の特徴を探しておく。(0.5時間) 事後学習：期末レポートの題材・構成を考える。(0.5時間) 第15回：随筆を書く(その他 随筆作成) 事前学習：構成をおさえながら随筆(原稿用紙5枚)の下書きを作成しておく。(1.5時間) 事後学習：テキストやノートを読み返し講義の振り返りをする。(0.5時間)
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
課題提出(20%)、小論文(30%)、随筆(30%)、平常点(20%) 課題提出は、各章ごとの練習問題への取り組み状況で判断する。(原則毎時間提出) 平常点は、討議やグループワークへの参加状況、発表への意欲、受講態度などを総合して判断する。
(7) 成績評価基準
・与えられた課題に対し、自分の意見を論理的にわかりやすく文章で表現し、相手に伝えることができるか。 ・身の回りのさまざまな形式の表現を再確認して、そこに使われている構成法や修辞法を活用しているか。 ・ビジネス社会で必要とされる言葉づかいや敬語を正しく使うことができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
西尾宣明編著『新版 日本語表現法－「書く」「話す」「伝える」ための技法－』・樹村房・2013年
(11) その他(受講上の注意)
文章表現は、実際に書くことによるのみ上達する。授業中の課題に集中し、日常生活の中でもよりよい表現ができるように心がけること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

社会活動実践 (Social activity practice)			担当教員	水田 敏郎、大西 新吾、鳴瀬 碧、 出村 友寛
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
GE-E-1104	2単位	1年～4年	演習	選択
<科目区分> 教養科目 【E群】情報・キャリア形成科目				
求める学習成果(教育目標)				
豊かな教養と実的な知識・技術を修得し、探究的な意欲と協働的な態度を身につけます。				

(1) 授 業 の 内 容
本プログラムには、学内外でのボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験が含まれる。教室や研究室で学習や研究をするのではなく、実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。担当教員や活動支援団体による説明会への参加をもとに受講の意思を明らかにし、プログラムへ参加する。 なお、本科目は国連が定める「持続可能な開発目標 (SDGs)」に向けて地域の社会的課題に取り組むSDGs関連科目である。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・それぞれが今後学ぶ、または学んでいることの社会的意義を見いだすことができる。 ・学生間とはもとより、地域社会で仕事や生活をしている社会人とのコミュニケーションが、円滑に行える。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習 (PBL) □討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ■実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
地域社会からのニーズを元にプログラムを立てるため、その解決すべき課題を元に授業計画を設定する。 1. 事前ガイダンスの実施と計画の提示 (2時間) 2. 現地にて研修 (26時間以上) 3. 事後報告として、レポート・プレゼンテーション等の実施、課題に関連する情報の収集 (2時間) ・事前学習 (30時間) …受け入れ担当者から指示された課題やタスクへの取り組み。レポート・プレゼンテーションの準備など。 ・事後学習 (30時間) …研修記録の執筆、受け入れ担当者から指示された課題やタスクへの取り組みなど。
(5) 授 業 形 態 [面 接 授 業 ・ 遠 隔 授 業]
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
活動や取り組みの状況 (50%) 、レポートまたはプレゼンテーション (50%)
(7) 成 績 評 価 基 準
課題について、的確な視点を持ち、その解決に向けて自身の考察による提案ができるか。
(8) 課 題 (試 験 や レ ポ ー ト 等) に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて □授業時 □仁大eラーニング ■メール □その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて □授業時 □仁大eラーニング ■メール □その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて □授業時 □仁大eラーニング ■メール □その他 4) 定期試験 (レポート試験を含む) に対するフィードバックについて □定期試験時 □仁大eラーニング ■メール □その他 5) その他 (上記以外の内容に対するフィードバックについて) □授業時 □仁大eラーニング ■メール □その他

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
使用しない。
(11) その他(受講上の注意)
本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の受講登録手続きを要しない。 ※個人参加のボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験等も対象とする場合があるので、受講希望者は、事前に科目担当者へ問い合わせること。 ※単位認定については、参加するボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションのプログラム終了後、担当教員より課される課題等を全て提出し、単位認定するにあたり適当であると認めた場合のみとする。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

心理学基礎演習 (First-Year Seminar (Psychology))			担当教員	森本 文人、山本 雅代、渡辺 克徳、 今井田貴裕、山岸 厚仁	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-F-2101	2 単位	1 年通年	演習		必修
<科目区分> 心理学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の研究方法と基礎的な知識・技能・技術					

(1) 授 業 の 内 容	
大学生としての最初の1年は、4年間にわたる学修をスムーズに開始できるための重要な期間として位置づけられる。このため、まず学科の教育目標および教育課程を理解するとともに、主体的な学びを軸とする大学での修学や将来のための基盤づくりに重点を置き、授業を展開する。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
■本授業の内容や達成すべき目標について理解する。 ■学科の教育課程や教育制度、授業形態について説明を受け理解する。 ■履修に関する担当教員の助言・指導を受け、自己の学習計画・履修計画を作成できるようにする。 ■大学での学び方を知るための講座、専門分野の基礎的な事柄についての演習を通して、自主学習を中心とした学習スタイルを確立し、学習に対する積極的な態度を身につける。 ■附属図書館において図書館利用に関するセミナーを受講し、文献の検索方法等を理解し、学習や研究に必要な図書館利用法を身につける。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：履修に関する担当教員の助言・指導を受け、自己の学習計画・履修計画を作成（グループワーク） 事前学習：学生便覧などを参考に、仁愛大学での授業や学生生活に関する疑問点などをまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に配布された資料を見直す、または授業で取り上げられた事項を再考する等、理解したうえで次の授業に臨むこと（2時間） 第2回：専門分野の基礎学習（グループワーク） 事前学習：次回に学ぶべき内容について関連する書籍等を読み予備知識を得ておくこと（2時間） 事後学習：授業時に配布された資料を見直す、または授業で取り上げられた事項を再考する等、理解したうえで次の授業に臨むこと（2時間） 第3回：学生生活についての担当教員による個人面談を行い、学習状況などを確認 事前学習：大学の授業や学生生活に関して個人的に質問・相談したいことをまとめておくこと（2時間） 事後学習：担当教員から個別に指導された内容について振り返り今後の大学生活にどのように役立てるか考えること（2時間） 第4回：学習や研究に必要な文献検索方法（附属図書館利用法） 事前学習：学生便覧などを参考に附属図書館に関する予備知識を得て、疑問点などをまとめておくこと（2時間） 事後学習：図書館見学时に配布された資料を見直し、学んだ内容についてまとめておくこと（2時間） 第5回：専門分野の基礎学習（グループワーク） 事前学習：次回に学ぶべき内容について関連する書籍等を読み予備知識を得ておくこと（2時間） 事後学習：授業時に配布された資料を見直す、または授業で取り上げられた事項を再考する等、理解したうえで次の授業に臨むこと（2時間） 第6回：専門分野の基礎学習（グループワーク） 事前学習：次回に学ぶべき内容について関連する書籍等を読み予備知識を得ておくこと（2時間） 事後学習：授業時に配布された資料を見直す、または授業で取り上げられた事項を再考する等、理解したうえで次の授業に臨むこと（2時間） 第7回：専門分野の基礎学習（グループワーク） 事前学習：次回に学ぶべき内容について関連する書籍等を読み予備知識を得ておくこと（2時間） 事後学習：授業時に配布された資料を見直す、または授業で取り上げられた事項を再考する等、理解したうえで次の授業に臨むこと（2時間）	

第8回：専門分野の基礎学習（グループワーク） 事前学習：次回に学ぶべき内容について関連する書籍等を読み予備知識を得ておくこと（2時間） 事後学習：授業時に配布された資料を見直す、または授業で取り上げられた事項を再考する等、理解したうえで次回の授業に臨むこと（2時間） 第9回：専門分野の基礎学習（グループワーク） 事前学習：次回に学ぶべき内容について関連する書籍等を読み予備知識を得ておくこと（2時間） 事後学習：授業時に配布された資料を見直す、または授業で取り上げられた事項を再考する等、理解したうえで次回の授業に臨むこと（2時間） 第10回：専門分野の基礎学習（グループワーク） 事前学習：次回に学ぶべき内容について関連する書籍等を読み予備知識を得ておくこと（2時間） 事後学習：授業時に配布された資料を見直す、または授業で取り上げられた事項を再考する等、理解したうえで次回の授業に臨むこと（2時間） 第11回：学生生活についての担当教員による個人面談を行い、学習状況などを確認 事前学習：大学の授業や学生生活に関して個人的に質問・相談したいことをまとめておくこと（2時間） 事後学習：担当教員から個別に指導された内容について振り返り今後の大学生活にどのように役立てるか考えること（2時間） 第12回：地域学習 事前学習：地域に関連する書籍や新聞等を読み予備知識を得ておくこと（2時間） 事後学習：地域学習で配布された資料を見直し、学んだ内容についてまとめておくこと（2時間） 第13回：専門分野の基礎学習（グループワーク） 事前学習：次回に学ぶべき内容について関連する書籍等を読み予備知識を得ておくこと（2時間） 事後学習：授業時に配布された資料を見直す、または授業で取り上げられた事項を再考する等、理解したうえで次回の授業に臨むこと（2時間） 第14回：専門分野の基礎学習（グループワーク） 事前学習：次回に学ぶべき内容について関連する書籍等を読み予備知識を得ておくこと（2時間） 事後学習：授業時に配布された資料を見直す、または授業で取り上げられた事項を再考する等、理解したうえで次回の授業に臨むこと（2時間） 第15回：専門分野の基礎学習（グループワーク） 事前学習：次回に学ぶべき内容について関連する書籍等を読み予備知識を得ておくこと（2時間） 事後学習：授業時に配布された資料を見直す、または授業で取り上げられた事項を再考する等、理解したうえで次回の授業に臨むこと（2時間） 第16回：専門分野の基礎学習（グループワーク）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 提出課題の内容（50%）および平常点（50%） （平常点は、授業への参加状況と態度、課題への取り組み姿勢などを総合して判断します。）
(7) 成績評価基準 基礎的なアカデミック・スキル（学習に対する積極的な態度・技術、レジュメの作成・報告、討論方法）が修得できているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他（各グループ内で課される課題に対するフィードバックについて） ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

(10) テキスト、参考図書
テキストは使用しない
(11) その他(受講上の注意)
■学生18名程度を1グループとして1名の担当教員を置く (この担当教員は、2年間の指導教員として、本授業終了後も引き続き指導や助言を行う) ■授業の実施は、原則としてグループ単位で行い、前期8回と後期8回の計16回実施を予定している
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

心理学概論 I (Introduction to Psychology I)			担当教員	大森 慈子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
PS-F-2102	2 単位	1 年前期	講義	必修	
<科目区分> 心理学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の研究方法と基礎的な知識・技能・技術					

(1) 授 業 の 内 容
心とは何か、心はどこにあるのか、という疑問からはじめ、人がどのように感じ、何を考え、どのように行動するのかを捉えることで、心の働きやシステムについて学ぶ。心理学の歴史を紹介し、心理学における主要なテーマといえる知覚や学習といった基礎的分野を理解する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
■心の働きやシステムについて理解する ■心理学の歴史や主要な人物および研究成果に関する知識を得る ■心理学の基礎的分野における基本的な用語や内容の説明ができる
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：心理学とは 事前学習：授業前にテキストの1-1-1を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら調べたり、担当教員に質問すること。(2時間) 第2回：心理学の領域 事前学習：授業前にテキストの1-1-2, 1-3を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら調べたり、担当教員に質問すること。(2時間) 第3回：心理学の歴史 事前学習：授業前にテキストの1-2を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら調べたり、担当教員に質問すること。(2時間) 第4回：感覚と知覚(1) 事前学習：授業前にテキストの8-1から8-4までを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら調べたり、担当教員に質問すること。(2時間) 第5回：感覚と知覚(2) 事前学習：授業前にテキストの8-5から8-9までを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら調べたり、担当教員に質問すること。(2時間) 第6回：生得的行動 事前学習：授業前にテキストの3-1を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら調べたり、担当教員に質問すること。(2時間) 第7回：初期経験 事前学習：授業前にテキストの3-2から3-3までを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら調べたり、担当教員に質問すること。(2時間) 第8回：学習(1) 事前学習：授業前にテキストの4-1から4-2までを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら調べたり、担当教員に質問すること。(2時間)

第9回：学習（2） 事前学習：授業前にテキストの4-3から4-4までを読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら調べたり、担当教員に質問すること。（2時間） 第10回：学習（3） 事前学習：授業前にテキストの5-1と5-3を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら調べたり、担当教員に質問すること。（2時間） 第11回：学習理論と行動療法 事前学習：授業前にテキストの5-2を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら調べたり、担当教員に質問すること。（2時間） 第12回：パーソナリティ（1） 事前学習：授業前にテキストの11-1を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら調べたり、担当教員に質問すること。（2時間） 第13回：パーソナリティ（2） 事前学習：授業前にテキストの11-2を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら調べたり、担当教員に質問すること。（2時間） 第14回：パーソナリティ（3） 事前学習：授業前にテキストの11-3から11-5までを読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら調べたり、担当教員に質問すること。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：授業で学んだテキストの箇所とノートなどを見直し、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら調べたり、担当教員に質問すること。（2時間） 第16回：定期試験	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
定期試験（90%） 平常点（10%） （平常点は、授業への9回以上の出席と定期試験の受験に対し、参加状況などから加点します）	
(7) 成績評価基準	
■心の働きやシステムについて理解しているか ■心理学の歴史や主要な人物および研究成果を知っているか ■心理学の基礎的分野における基本的な用語や内容の説明ができるか	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	
(10) テキスト、参考図書	
テキスト：『心理学の基礎』 今田寛・宮田洋・賀集寛共編 培風館 参考図書については適宜紹介する	

(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

心理学概論Ⅱ (Introduction to PsychologyⅡ)			担当教員	大森 慈子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
PS-F-2103	2 単位	1 年後期	講義	必修	
＜科目区分＞ 心理学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の研究方法と基礎的な知識・技能・技術					

(1) 授 業 の 内 容
心とは何か、心はどこにあるのか、という疑問に対し、人がどのように感じ、何を考え、どのように行動するのかを捉えることで、心の働きやシステムについて学ぶ。記憶や動機づけなど、心理学における主要なテーマに加え、ストレスや感情、さらに脳の働きを理解する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
■心の働きやシステムについて理解を深める ■心理学の研究における主要な人物および成果に関する知識を高める ■心理学の基礎的または応用的分野における基本的な用語や内容の説明ができる
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：記憶と忘却(1) 事前学習：授業前にテキストの9-1と9-2を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら調べたり、担当教員に質問すること。(2時間) 第2回：記憶と忘却(2) 事前学習：授業前にテキストの9-3から9-5までを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら調べたり、担当教員に質問すること。(2時間) 第3回：記憶と忘却(3) 事前学習：授業前にテキストの9-6から9-8までを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら調べたり、担当教員に質問すること。(2時間) 第4回：動機づけ 事前学習：授業前にテキストの6を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら調べたり、担当教員に質問すること。(2時間) 第5回：欲求不満とストレス(1) 事前学習：授業前にテキストの7-1-1を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら調べたり、担当教員に質問すること。(2時間) 第6回：欲求不満とストレス(2) 事前学習：授業前にテキストの7-1-2と7-1-3を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら調べたり、担当教員に質問すること。(2時間) 第7回：欲求不満とストレス(3) 事前学習：授業前にテキストの7-2を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら調べたり、担当教員に質問すること。(2時間) 第8回：感情と情動(1) 事前学習：授業前にテキストの7-3-1を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら調べたり、担当教員に質問すること。(2時間)

第9回：感情と情動（2） 事前学習：授業前にテキストの7-3-2と7-3-3を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら調べたり、担当教員に質問すること。（2時間） 第10回：脳と心（1） 事前学習：授業前にテキストの2-1から2-4までを読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら調べたり、担当教員に質問すること。（2時間） 第11回：脳と心（2） 事前学習：授業前にテキストの2-5-4と2-5-5までを読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら調べたり、担当教員に質問すること。（2時間） 第12回：睡眠と覚醒（1） 事前学習：授業前にテキストの2-5-1を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら調べたり、担当教員に質問すること。（2時間） 第13回：睡眠と覚醒（2） 事前学習：授業前にテキストの2-5-2を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら調べたり、担当教員に質問すること。（2時間） 第14回：睡眠と覚醒（3） 事前学習：授業前にテキストの2-5-3を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら調べたり、担当教員に質問すること。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：授業で学んだテキストの箇所とノートなどを見直し、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら調べたり、担当教員に質問すること。（2時間） 第16回：定期試験	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
定期試験（90%） 平常点（10%） （平常点は、授業への9回以上の出席と定期試験の受験に対し、参加状況などから加点します）	
(7) 成績評価基準	
■心の働きやシステムについて深く理解しているか ■心理学の研究における主要な人物および成果を詳しく知っているか ■心理学の基礎的または応用的分野における基本的な用語や内容の説明ができるか	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	
(10) テキスト、参考図書	
テキスト：『心理学の基礎』 今田寛・宮田洋・賀集寛共編 培風館 参考図書については適宜紹介する	

(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

心理学研究法 I (Psychological Research Methods I)			担当教員	杉島 一郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
PS-F-2104	2 単位	1 年前期	講義	必修	
<科目区分> 心理学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の研究方法と基礎的な知識・技能・技術					

(1) 授 業 の 内 容
様々な主観的で直観的な心理現象を、量的データとして客観的に分析する量的研究法の基礎的側面を概説する。主に実験的方法と観察法を主として講義を進める。また研究倫理についても解説する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・心理学における実証的研究法が理解できる。 ・行動 (behavior) を数量化する方法を身につける。 ・研究における倫理を身につける。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☒ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：科学的心理学とはー科学と実証ー 事前学習：授業前に「科学的であるための条件」について調べておくこと。(2時間) 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。(2時間) 第2回：心理学研究の歴史 事前学習：科学的心理学の歴史の流れを調べておくこと。(2時間) 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。(2時間) 第3回：実験的方法と観察的方法 事前学習：実験とはなにかについて考えておくこと。(2時間) 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。(2時間) 第4回：定性的研究から定量的研究へ 事前学習：定性的研究から定量的研究について調べておくこと。(2時間) 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。(2時間) 第5回：データの統計的記述 事前学習：心理学統計法Iで学んでいる記述統計について見直しておくこと。(2時間) 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。(2時間) 第6回：行動観察法 事前学習：行動観察法について調べておくこと。(2時間) 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。(2時間) 第7回：面接法 事前学習：面接法について調べておくこと。(2時間) 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。(2時間) 第8回：実験的手法と実験計画 事前学習：実験計画について調べておくこと。(2時間) 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。(2時間)

第9回：動物実験の手法（動物実験の必要性についてディスカッション） 事前学習：授業中にディスカッションをするので、動物実験の必要性について調べておくこと。（2時間） 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（2時間） 第10回：認知心理学における研究法 事前学習：反応時間について調べておくこと。（2時間） 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（2時間） 第11回：生理心理学における研究法 事前学習：脳波について調べておくこと。（2時間） 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（2時間） 第12回：発達心理学における研究法 事前学習：ピアジェの行った実験について調べておくこと。（2時間） 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（2時間） 第13回：社会心理学における研究法 事前学習：集団力学について調べておくこと。（2時間） 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（2時間） 第14回：研究倫理－人権尊重とインフォームドコンセント－ 事前学習：事前に配布する資料をよく読んでおくこと。（2時間） 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（2時間） 第15回：研究倫理－研究の不正の禁止－（研究不正の例についてディスカッション） 事前学習：事前に配布する資料をよく読んでおくこと。（2時間） 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 毎回行う課題（50％）と期末試験（50％）。
(7) 成績評価基準 ・心理学における実証的研究法を説明することができるか。 ・行動（behavior）を数量化する方法を身につけたか。 ・研究における倫理を身につけたか。
(8) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書 テキストは使用しない。eラーニングに授業で用いるスライドや参考資料のPDFを掲載する。

(11) その他(受講上の注意)
出席は毎回行う課題（小レポート）をもとにとるので、必ず書いて提出すること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

心理学研究法Ⅱ (Psychological Research MethodsⅡ)			担当教員	杉島 一郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-F-2105	2 単位	1 年後期	講義		必修
<科目区分> 心理学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の研究方法と基礎的な知識・技能・技術					

(1) 授 業 の 内 容
心理検査や質問紙などの調査的手法を中心とした心理学研究法を概観し、尺度構成や測定法、データの信頼性などの基本的知識を習得する。またデータを用いた実証的な思考方法についても講義をおこなう。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・心理学調査における、主観的な心理現象を客観的に測定する方法を身につける。 ・質問紙法などの心理検査の成り立ちを理解する。 ・尺度構成について理解し活用できるようにする。 ・データの信頼性・妥当性について理解する。 ・心理検査や知能テストを測定の観点から理解する。 ・データを用いた実証的な思考方法を身につける。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：心理学における調査的手法 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(4時間) 第2回：心理検査と測定法 事前学習：Y-G性格検査について調べておくこと。(2時間) 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第3回：尺度構成 事前学習：「尺度」について調べておくこと。(2時間) 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第4回：性格検査の成り立ち 事前学習：ビッグ・ファイブ理論について調べておくこと。(2時間) 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第5回：知能検査の成り立ち 事前学習：ビネーの行った知能検査作成について調べておくこと。(2時間) 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第6回：投影法検査の成り立ち(バウムテストの実技) 事前学習：バウムテストについて調べておくこと。(2時間) 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第7回：質問紙の作成法 事前学習：事前に配布する論文を熟読しておくこと。(2時間) 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第8回：データの信頼性と妥当性 事前学習：事前に配布する論文を熟読しておくこと。(2時間) 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)

第9回：質問紙の分析法 事前学習：事前に配布する論文を熟読しておくこと。（2時間） 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第10回：心理検査を用いた研究法 事前学習：事前に配布する論文を熟読しておくこと。（2時間） 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第11回：心理検査を用いた分析法 事前学習：事前に配布する論文を熟読しておくこと。（2時間） 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第12回：相関関係から因果関係へ 事前学習：事前に配布する論文を熟読しておくこと。（2時間） 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第13回：複雑な心理現象のモデリングー多変量解析ー 事前学習：SD法およびクラスター分析について調べておくこと。（2時間） 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第14回：調査法の実際と問題点 事前学習：事前に配布する論文を熟読しておくこと。（2時間） 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第15回：まとめと研究倫理（ディスカッションを含む） 事前学習：授業中にディスカッションを行うので、調査実施上の倫理的問題を考えておくこと。（2時間） 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 毎回授業時に提出するブリーフレポートや課題（50％）および期末テスト（50％）。
(7) 成績評価基準 ・心理学調査における、主観的な心理現象を客観的に測定する方法を身につけたか。 ・質問紙法などの心理検査の成り立ちを説明することができるか。 ・尺度構成について理解し活用できるような知識を得たか。 ・データの信頼性・妥当性について理解したか。 ・心理検査や知能テストを測定の観点から説明することができるか。 ・データを用いた実証的な思考方法を身につけたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

(10) テキスト、参考図書
テキストは使用しない。eラーニングに授業で用いるスライドや参考資料のPDFを掲載する。
(11) その他(受講上の注意)
出席は毎回行うブリーフレポートをもとにとるので、授業中に課された内容を必ず書いて提出すること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

心理学統計法 (Psychological Statistics)			担当教員	森本 文人、山岸 厚仁	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
PS-F-2106	2 単位	1 年後期	演習	選択	
<科目区分> 心理学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の研究方法与基礎的な知識・技能・技術					

(1) 授 業 の 内 容
記述統計学・推測統計学の方法を解説し、演習します。具体的には、測定尺度に関する知識や、グラフや代表値などを用いてのデータの整理など、そのデータがどのようなデータであるかを明らかにするための記述統計の方法、また推測統計に関しては、統計的仮説検定のうち、t 検定、分散分析の考え方について詳しく説明し、実際に自分でもデータの分析や検定ができるようにPCを使用した演習も行います。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
☒ 統計的なデータの整理・記述ができる。 ☒ 記述統計の概念を理解し計算を行える。 ☒ 統計的仮説検定の基本的な考え方を理解する。 ☒ 実際の仮説検定を行い、結果を理解する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：概説（心理学における統計の意味） 事前学習：なし 事後学習：授業で扱った範囲について確認し，質問事項をまとめておく。（2時間） 第2回：統計学の基礎（変数の概念、色々な測定尺度） 事前学習：テキストを読み，理解し，分りにくいところを事前に調べる。（2時間） 事後学習：授業で扱った範囲について確認し，質問事項をまとめておく。（2時間） 第3回：データ整理の方法（度数分布とその図示法） 事前学習：テキストを読み，理解し，分りにくいところを事前に調べる。（2時間） 事後学習：授業で扱った範囲について，質問事項をまとめておく。また，ヘルプデスクを利用するなどして理解に努める。（2時間） 第4回：代表値と散布度 事前学習：テキストを読み，理解し，分りにくいところを事前に調べる。（2時間） 事後学習：授業で扱った範囲について，質問事項をまとめておく。また，ヘルプデスクを利用するなどして理解に努める。（2時間） 第5回：正規分布 事前学習：テキストを読み，理解し，分りにくいところを事前に調べる。（2時間） 事後学習：授業で扱った範囲について，質問事項をまとめておく。また，ヘルプデスクを利用するなどして理解に努める。（2時間） 第6回：測定値の変換（得点の標準化） 事前学習：テキストを読み，理解し，分りにくいところを事前に調べる。（2時間） 事後学習：授業で扱った範囲について，質問事項をまとめておく。また，ヘルプデスクを利用するなどして理解に努める。（2時間） 第7回：相関関係・回帰 事前学習：テキストを読み，理解し，分りにくいところを事前に調べる。（2時間） 事後学習：授業で扱った範囲について，質問事項をまとめておく。また，ヘルプデスクを利用するなどして理解に努める。（2時間） 第8回：母集団と標本（標本抽出、標準誤差） 事前学習：テキストを読み，理解し，分りにくいところを事前に調べる。（2時間） 事後学習：授業で扱った範囲について，ヘルプデスクを利用するなどし，練習問題（配布プリント・テキスト）に取り組む。（2時間）

第9回：統計的仮説検定の考え方 事前学習：テキストを読み、理解し、分かりにくいところを事前に調べる。（2時間） 事後学習：授業で扱った範囲について、ヘルプデスクを利用するなどし、練習問題（配布プリント・テキスト）に取り組む。（2時間） 第10回：2つの平均値の差の検定①（t検定） 事前学習：テキストを読み、理解し、分かりにくいところを事前に調べる。（2時間） 事後学習：授業で扱った範囲について、ヘルプデスクを利用するなどし、練習問題（配布プリント・テキスト）に取り組む。（2時間） 第11回：2つの平均値の差の検定②（t検定） 事前学習：テキストを読み、理解し、分かりにくいところを事前に調べる。（2時間） 事後学習：授業で扱った範囲について、ヘルプデスクを利用するなどし、練習問題（配布プリント・テキスト）に取り組む。（2時間） 第12回：分散分析①（1要因、2要因） 事前学習：テキストを読み、理解し、分かりにくいところを事前に調べる。（2時間） 事後学習：授業で扱った範囲について、ヘルプデスクを利用するなどし、練習問題（配布プリント・テキスト）に取り組む。（2時間） 第13回：分散分析②（1要因、2要因） 事前学習：テキストを読み、理解し、分かりにくいところを事前に調べる。（2時間） 事後学習：授業で扱った範囲について、ヘルプデスクを利用するなどし、練習問題（配布プリント・テキスト）に取り組む。（2時間） 第14回：分散分析③（1要因、2要因） 事前学習：テキストを読み、理解し、分かりにくいところを事前に調べる。（2時間） 事後学習：授業で扱った範囲について、ヘルプデスクを利用するなどし、練習問題（配布プリント・テキスト）に取り組む。（2時間） 第15回：SPSSを用いたデータ分析（実技） 事前学習：これまでの授業で紹介された仮説検定の理論・方法（特にt検定）について、配布プリント・テキストを利用してまとめる。（2時間） 事後学習：授業で実習したSPSSを用いた検定の操作について復習し、ヘルプデスクを利用するなどし、練習問題（配布プリント・テキスト）に取り組む。（2時間） 第16回：定期試験 毎回の授業の復習が必要です。週2回開設される学科のヘルプデスクを利用すれば、授業に関する疑問点などは先輩のSAに相談できます。予習・復習のために、積極的に活用してください。	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
定期試験（80％） 平常点（20％） （平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）	
(7) 成績評価基準	
☒ 統計的なデータの整理・記述ができるか。 ☒ 記述統計の概念を理解し計算を行えるか。 ☒ 統計的仮説検定の基本的な考え方を説明することができるか。 ☒ 実際の仮説検定を行い、結果を解釈することができるか。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他	
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	

(10) テキスト、参考図書
テキスト：『よくわかる心理統計』 山田剛史・村井潤一郎著 ミネルヴァ書房 参考図書：『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』 森敏昭・吉田寿夫編著 北大路出版 『統計学のはなし』 蓑谷千鳳彦著 東京図書 『SPSSにおける分散分析の手順』 遠藤健治著 北樹出版 『心理・教育のための統計法〈第3版〉』 山内光哉著 サイエンス社
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

感情・人格心理学 (Psychology of Emotion and Personality)			担当教員	森 俊之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
PS-G-2123	2 単位	1 年後期	講義	選択	
<科目区分> 心理学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の各領域における基礎的かつ一般的な知識					

(1) 授 業 の 内 容
感情および性格に関する諸理論や研究を概観し、感情や性格を理解するための枠組みについて学ぶ。その上で、自己や他者の感情や性格をどのように理解し、対人関係の問題にどのように対処したらよいかを考える。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
- 感情心理学や性格心理学に関する基本的用語を説明できる。 - 感情や性格に関する心理学研究について説明できる。 - 自分の感情や性格について心理学的に考察し評価できる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：性格とは 事後学習：E-learningコース上で指定された課題に取り組む。そのほか授業で出てきたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えてみる。(4時間) 第2回：性格の類型論 事前学習：前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく(2時間) 事後学習：E-learningコース上で指定された課題に取り組む。そのほか授業で出てきたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えてみる。(2時間) 第3回：性格の特性論 事前学習：前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく(2時間) 事後学習：E-learningコース上で指定された課題に取り組む。そのほか授業で出てきたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えてみる。(2時間) 第4回：脳と性格 事前学習：前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく(2時間) 事後学習：E-learningコース上で指定された課題に取り組む。そのほか授業で出てきたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えてみる。(2時間) 第5回：性格の遺伝 事前学習：前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく(2時間) 事後学習：E-learningコース上で指定された課題に取り組む。そのほか授業で出てきたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えてみる。(2時間) 第6回：ライフサイクルと性格 事前学習：前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく(2時間) 事後学習：E-learningコース上で指定された課題に取り組む。そのほか授業で出てきたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えてみる。(2時間) 第7回：家族関係・対人関係・文化と性格 事前学習：前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく(2時間) 事後学習：E-learningコース上で指定された課題に取り組む。そのほか授業で出てきたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えてみる。(2時間)

第8回：健康と性格	事前学習：前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく（2時間） 事後学習：E-learningコース上で指定された課題に取り組む。そのほか授業で出てきたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えてみる。（2時間）
第9回：性格の病気：人格障害	事前学習：前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく（2時間） 事後学習：E-learningコース上で指定された課題に取り組む。そのほか授業で出てきたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えてみる。（2時間）
第10回：性格の測定	事前学習：前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく（2時間） 事後学習：E-learningコース上で指定された課題に取り組む。そのほか授業で出てきたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えてみる。（2時間）
第11回：感情とは	事前学習：前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく（2時間） 事後学習：E-learningコース上で指定された課題に取り組む。そのほか授業で出てきたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えてみる。（2時間）
第12回：感情の生理過程	事前学習：前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく（2時間） 事後学習：E-learningコース上で指定された課題に取り組む。そのほか授業で出てきたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えてみる。（2時間）
第13回：感情の起源と発達	事前学習：前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく（2時間） 事後学習：E-learningコース上で指定された課題に取り組む。そのほか授業で出てきたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えてみる。（2時間）
第14回：感情が認知や行動にもたらす影響	事前学習：前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく（2時間） 事後学習：E-learningコース上で指定された課題に取り組む。そのほか授業で出てきたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えてみる。（2時間）
第15回：感情の障害	事前学習：前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく（2時間） 事後学習：E-learningコース上で指定された課題に取り組む。そのほか授業で出てきたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えてみる。（2時間）
第16回：期末試験	※E-learningコース上の課題には、他者と意見交換する課題も含まれる。（グループワーク）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
学期末に実施する筆記試験（80%）と授業中に指示する課題・授業時の態度等（20%）をもとに評価する。	
(7) 成績評価基準	
- 感情心理学や性格心理学に関する基本的用語を説明できるか。 - 感情や性格に関する心理学研究について説明できるか。 - 自分の感情や性格について心理学的に評価できるか。	

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☒ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性) ・ 経歴 (公認心理師, 臨床心理士) ・ 実務経験と授業内容との関連性 (公認心理師の教員が、感情および性格に関する諸理論や研究について講義し、自己や他者の理解と対人関係の問題への対処に関して解説する。)
(10) テキスト、参考図書 教科書は指定しない。適宜、補助資料を配付する。 参考書は授業中、随時、紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

学習・言語心理学 (Psychology of Learning and Language)			担当教員	杉島 一郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-G-2128	2 単位	1 年後期	講義		選択
<科目区分> 心理学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の各領域における基礎的かつ一般的な知識					

(1) 授 業 の 内 容
学習による行動変容の法則を学び、臨床や教育、産業、日常生活に応用することを目指す。 学習とは経験により行動が変容する過程のことである。学校における勉強だけでなく、生活のあらゆる場面で私たちは学習し、自分の行動を変容させている。こうした行動変容は、環境に存在する刺激との関係で法則化することができる。これまで明らかにされているさまざまな学習の方法について学び、日常生活に見られる色々な行動や、臨床的に問題のある行動、社会問題について理解を深め、社会において心理学が果たすべき意味を考えていく。また、言語の習得における機序についても概説し、ヒトがコミュニケーションを取るために何を学習するべきかを考える。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・種々の学習理論をその時代背景や社会的・臨床的問題とともに理解することができる。 ・さまざまな行動について、学習理論による説明を試みることができる。 ・言語の習得における機序を理解する。 ・心理学が社会に対していかに貢献できるかを考えることができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：学習とは 事後学習：講義内容でわからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(4時間) 第2回：こころの概念と学習 事前学習：授業前に前期に受講した授業のノートを見返し、心理学におけるこころの概念を確認しておくこと。(2時間) 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第3回：生得的行動と学習された行動 事前学習：刷り込みや反射など、生得的行動について調べておくこと。(2時間) 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第4回：ワトソンの行動主義と学習理論 事前学習：行動主義と学習理論について調べておくこと。(2時間) 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第5回：古典的条件づけの基本 事前学習：講義で冒頭に質問するので、パブロフの条件反射の例を考えておくこと。(2時間) 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第6回：オペラント条件づけの基本 事後学習：オペラント条件づけの日常的な例を探しておくこと。(4時間) 第7回：強化スケジュール 事前学習：講義で冒頭に質問するので、オペラント条件づけ強化スケジュールの例を考えておくこと。(2時間) 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)

第8回：行動変容と行動療法 事前学習：行動療法について調べておくこと。（2時間） 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第9回：回避（逃避）学習（回避学習が適応される例についてのディスカッション） 事前学習：回避学習について調べておくこと。（2時間） 事後学習：不登校や適応障害について調べ、回避学習との関係を考えておくこと（2時間） 第10回：Learned Helplessness（あきらめの学習） 事前学習：回避学習において回避不能な場合どのようなことが起こるか、考えておくこと。（2時間） 事後学習：うつについて調べ、Learned Helplessnessとの関係を考えておくこと（2時間） 第11回：現代社会の諸問題と学習理論（ディスカッション） 事前学習：現代社会における心理的問題を調べておくこと。（2時間） 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第12回：学習・行動研究と心理学における言語研究 事前学習：オペラント条件付けについて再度確認しておくこと。（2時間） 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第13回：言語領域の心理学と言語発達の研究 事前学習：心理言語学がどういうものかを調べておくこと。（2時間） 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第14回：語彙能力の獲得と文法能力の獲得 事前学習：チョムスキーの生成変形文法理論について調べておくこと。（2時間） 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第15回：語用論的能力の発達 事前学習：語用論について調べておくこと。（2時間） 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 毎回行うブリーフレポート（20%）、定期試験（80%）
(7) 成績評価基準 ・種々の学習理論をその時代背景や社会的・臨床的問題とともに説明することができるか。 ・さまざまな行動について、学習理論による説明することができるか。 ・言語の習得における機序を説明することができるか。 ・心理学が社会に対していかに貢献できるかを考えることができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

(10) テキスト、参考図書
テキストは使用しない。eラーニングに授業で用いるスライドや参考資料のPDFを掲載する。
(11) その他(受講上の注意)
授業には積極的に参加し、指示された内容や自分の意見をブリーフレポートに書きこむようにしてください。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

福井地域学 (Regional Studies on Fukui)			担当教員	南保 勝	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
BC-A-2101	2 単位	1 年前期	講義	必修	
<科目区分> ビジネスコミュニケーション学部ビジネスコミュニケーション学科専門科目 入門・基礎科目 入門科目					
求める学習成果(教育目標)					
特にビジネス分野を中心にコミュニケーション力を高めるために必要な、入門的知識やスキルを身に付けます。					

(1) 授 業 の 内 容
地域経済を歴史的・文化的視点から考察し、社会人としての教養を磨くとともに、地域のあるべき姿を考える。 1. 福井県はどのように成立し、近世、明治期の福井県にはどのような産業が栄えたか(過去)。 2. そして現在、福井県の経済、それを支える産業・企業・地域人のすごさとは(現在)。 3. その上で、今後求められる地域のあるべき姿、地方創生を考える(未来)。 テキスト及び事業中に配布する資料を基に、授業計画に沿って進める。各講義の終わりに当日の講義の復習も兼ねた「演習」に取り組む。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
目標①地域経済を歴史的・文化視点で考察できる。 目標②地域の産業・企業・県民生活等、地域経済の特徴が説明できる。 目標③地域経済・産業・企業等の未来について述べることができる。 目標④地域活性化の方向性を示すことができる。 目標⑤地域の課題に対し自己の主張が述べられる。
(3) アクティブラーニング
☐課題解決型学習(PBL) ☐討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐実習、フィールドワーク ☐実験、実技 ☐その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス。福井県はどのように成立したか ～「継体天皇」と「越国」)、近世・幕末へ、福井県の誕生について～ 事前学習：「継体天皇」と「越国)」について調べておくこと(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと(2時間) 第2回：近世、明治期における福井県の産業について ～福井県は屈指の工業地域、和釘の生産では日本最大～ 事前学習：近世・明治期の福井県の産業について調べておくこと(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと(2時間) 第3回：塩づくりと伝統工芸品産業。～古代の塩づくりと伝統的工芸品の関係について～ 事前学習：福井県の伝統的工芸品産業について調べておくこと(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと(2時間) 第4回：福井県経済の今(その1) ～地域の経済規模、人口、産業～ 事前学習：福井県の経済規模について考えておくこと(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと(2時間) 第5回：福井県経済の今(その2) ～労働、県民性、歴史から生まれたライフスタイル～ 事前学習：福井県の地域特性について考えておくこと(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと(2時間) 第6回：歴史で辿る市まちの姿(その1) ～あわら市、坂井市、福井市、大野市、勝山市について～ 事前学習：わかる範囲で、あわら市、坂井市、福井市、大野市、勝山市について調べておくこと(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと(2時間) 第7回：歴史で辿る市まちの姿(その2) ～鯖江市、越前市、敦賀市、小浜市について～ 事前学習：わかる範囲で、鯖江市、越前市、敦賀市、小浜市について調べておくこと(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと(2時間) 第8回：製造業(その1) ～繊維産業～ 事前学習：わかる範囲で、福井県の繊維産業について調べておくこと(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと(2時間) 第9回：製造業(その2) ～めがね産業～ 事前学習：わかる範囲で、福井県のめがね産業について調べておくこと(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと(2時間)

第10回：製造業（その3） 化学、機械・金属、伝統的工芸品産業 事前学習：わかる範囲で、福井県の繊維・めがね産業以外の産業についてについて調べておくこと（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと（2時間） 第11回：非製造業 ～商業・サービス業、建設業、転換期の原子力産業～ 事前学習：わかる範囲で、福井県の非製造業についてについて調べておくこと（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと（2時間） 第12回：地域企業の特徴（その1） ～意外と多い長寿企業～ 事前学習：わかる範囲で、福井県企業の特徴についてについて調べておくこと（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと（2時間） 第13回：地域企業の特徴（その2） ～外発型企業群、小規模企業の技術水準の高さについて～ 事前学習：福井県企業の技術のレベルを調べておくこと（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと（2時間） 第14回：自慢したい地域の企業 ～アイジーエー、小浜海産物、清川メッキ工業サカセ化学工業など～ 事前学習：わかる範囲で、地域の企業について学習しておくこと（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと（2時間） 第15回：地方創生に向けて ～地方創生に向けて、福井県が成すべきこととは～ 事前学習：地方創生に向けて、今、福井県がやらなければならないことは何か、考えておくこと（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと（2時間） 第16回：定期試験	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
試験中に筆記試験を行います。 定期試験（40％）、各回の課題と小テストおよび平常点（60％） （平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。）	
(7) 成績評価基準	
・地域経済を歴史的・文化視点で考察できるか。 ・地域の産業・企業・県民生活等、地域経済の特徴が説明できるか。 ・地域経済・産業・企業等の未来について述べることができるか ・地域活性化の方向性を示すことができるか。 ・地域の課題に対し自己の主張が述べられるか。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	
・経歴 （地方銀行及びそのシンクタンクに勤務） ・実務経験と授業内容との関連性 （地方銀行及びそのシンクタンクで学んだ実践的な経済学および専門とする地域経済学をベースに、地域の歴史、経済や産業・企業の現状、地域づくり・地域活性化の手法などについて、新たに確立した「福井地域学」という領域学により解説する。）	
(10) テキスト、参考図書	
テキスト ・南保勝著『地域再生の未来像』、晃洋書房、2023年 参考文献 ・南保勝著『地場産業と地域経済』、晃洋書房、2008年 ・南保勝著『地域経営分析』、晃洋書房、2019年	

(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

現代社会と企業 (Corporations and Contemporary Society)			担当教員	中山 健	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
BC-A-2102	2 単位	1 年前期	講義		必修
<科目区分> ビジネスコミュニケーション学部ビジネスコミュニケーション学科専門科目 入門・基礎科目 入門科目					
求める学習成果(教育目標)					
特にビジネス分野を中心にコミュニケーション力を高めるために必要な、入門的知識やスキルを身に付けます。					

(1) 授 業 の 内 容
現代社会を生きる私たちは、毎日の生活の中で様々なかたちで「企業」と関わりを有している。朝起きて歯を磨く際、企業が作った歯ブラシと歯磨き粉を使用し、スーパーやコンビニで購入した食品を食べ、企業が運営するバスや電車を使って学校や職場に行く。そして、大多数の人が企業の中で、起きている時間の半分以上を費やして働く。こうしてみると、企業とは私たちにとって大変身近な存在であり重要な存在であることに気付かされる。本講義では、そうした企業を理解するために、現代社会の中での企業の意義は何か、企業の中はどのような機能で成り立っているのか、企業で働く人々（製造、販売、研究開発など）はどのように協力して目標を達成しているのか、新しい商品開発がどのように行われるのか、といった多面的な視点から学習することで、社会における企業の意義、役割、構造を理解してもらいたい。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
この講義の学習成果は、「企業における組織的、社会的な活動において必要となる理論、分析方法、意思決定手法に関する基礎的知識と技術の修得」である。具体的には、経営組織論や経営管理論、マーケティング論のエッセンスを学び、専門科目の学習の土台となる基礎力養成をめざす。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習（PBL）この講義の学習成果（身につけるべき力）は、「企業における組織的、社会的な活動において必要となる理論、分析方法、意思決定手法に関する基礎的知識と技術の修得」である。具体的には、経営組織論、経営管理論、マーケティング論をベースとして、専門科目の学習の土台となる基礎力養成をめざす。 ■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） □グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） □実習、フィールドワーク □実験、実技 ■その他（演習）
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：オリエンテーション、社会科学と経済活動 事前学習：講義前にシラバスを読み、講義概要を把握しておくこと。（2時間） 事後学習：社会科学、経済活動の各々の意味について要点をまとめておく。（2時間） 第2回：経営学の特徴（産業・業種と企業経営） 事前学習：前回学習した社会科学と経済活動について、不明確な点を整理しておくこと。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。（2時間） 第3回：企業と会社 事前学習：企業と会社の概念について、教科書で確認しておくこと。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。（2時間） 第4回：企業と資本、従業員の関係性 事前学習：企業と金融および従業員について、教科書で確認しておくこと。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。（2時間） 第5回：組織の構造 事前学習：マクロ組織について、教科書で確認しておくこと。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。（2時間） 第6回：働く人のマネジメント 事前学習：働く人のマネジメントに関し教科書で確認しておくこと。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。（2時間） 第7回：働く人のモチベーション 事前学習：モチベーションに関して教科書等で確認しておくこと。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。（2時間） 第8回：企業事例研究（組織と従業員に関するケース・スタディー） 事前学習：組織と従業員管理に関して教科書等で整理しておくこと。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。（2時間）

第9回：競争戦略のマネジメント 事前学習：競争戦略について教科書を整理しておくこと。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。（2時間） 第10回：国際化のマネジメント 事前学習：企業の国際化とは何か、教科書を用いて整理しておくこと。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。（2時間） 第11回：サービス業のマネジメント 事前学習：サービス業のマネジメントに関し、教科書等で整理しておくこと。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。（2時間） 第12回：NPO（病院）のマネジメント 事前学習：病院経営について、教科書を用い予習しておくこと。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。（2時間） 第13回：企業の社会的責任 事前学習：企業の社会的責任について教科書等により、まとめておくこと（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。（2時間） 第14回：全体まとめ 事前学習：これまでの講義で取り扱った内容について、要点と疑問点を整理しておくこと。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。（2時間） 第15回：AIと企業、確認（振り返り）テスト 事前学習：AIと企業の将来についてまとめ、これまでの講義内容について教科書を用いて整理しておくこと。（2時間） 事後学習：講義全体について、整理・把握に努めること。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 ・レポートの成績（25%×2回） ・学習態度（講義への取り組み姿勢や受講態度等）（20%） ・確認（振り返り）テスト（30%）
(7) 成績評価基準 ・講義に関連した事例や文献を調べるなど、問題意識を持って取り組んでいるかどうか。 ・講義で取り扱った理論や分析方法を理解し、修得できているかどうか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（定期試験前の振り返り・確認テストで練習問題を実践し、全体のフィードバックとする） 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性) ・経歴 （独立行政法人及び金融機関に勤務） ・実務経験と授業内容との関連性 （本科目は、独立行政法人ならびに金融機関において、企業の調査・分析に関連する実務経験をもつ教員が担当する科目である。）
(10) テキスト、参考図書 ・中山 健他著『新時代の経営マネジメント』創成社。 ・加護野・吉村編『1からの経営学』碩学社/中央経済社。 ・片岡他著『はじめて学ぶ人のための経営学』文眞堂。

(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

社会学入門 (Introduction to Sociology)			担当教員	織田 暁子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
BC-A-2103	2 単位	1 年前期	講義	選択	
<科目区分> ビジネスコミュニケーション学部ビジネスコミュニケーション学科専門科目 入門・基礎科目 入門科目					
求める学習成果（教育目標）					
特にビジネス分野を中心にコミュニケーション力を高めるために必要な、入門的知識やスキルを身に付けます。					

(1) 授 業 の 内 容
この講義では、社会学及び社会調査とはどのようなものか、何のために行うのかを概説する。まず、社会学の考え方とその学説史を確認したうえで社会調査について学ぶ。社会調査の目的、社会調査の歴史、社会調査の倫理について学び、さまざまな社会調査の種類とそれぞれの方法が持つ長所と問題点を理解する。なお、各回の講義は、社会調査の実践の背景にある社会科学の理論・知見に関するアカデミック・ガイダンスの要素を含む。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・社会学の研究対象と社会調査の目的について理解する。 ・研究対象に応じて、適切な調査手法を選択できるようになること。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：講義概要 事前学習：シラバスを読み、また社会調査協会のHPで「社会調査士」資格について確認しておくこと。(2時間) 事後学習：授業に関連するテキストのページを読み、質問事項をまとめておくこと。(2時間) 第2回：社会学の考え方 事前学習：前回のノートを見直し、指定のテキストや参考図書の該当部分を読んでおくこと。(2時間) 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、テキストの該当箇所を精読すること。(2時間) 第3回：社会学の学説史 事前学習：前回のノートを見直し、指定のテキストや参考図書の該当部分を読んでおくこと。(2時間) 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、テキストの該当箇所を精読すること。(2時間) 第4回：社会調査の目的と歴史 事前学習：前回のノートを見直し、指定のテキストや参考図書の該当部分を読んでおくこと。(2時間) 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、テキストの該当箇所を精読すること。(2時間) 第5回：社会調査の倫理 事前学習：前回のノートを見直し、指定のテキストや参考図書の該当部分を読んでおくこと。(2時間) 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、テキストの該当箇所を精読すること。(2時間) 第6回：社会調査の種類と特性(1) 質的調査 事前学習：前回のノートを見直し、指定のテキストや参考図書の該当部分を読んでおくこと。(2時間) 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、テキストの該当箇所を精読すること。(2時間) 第7回：社会調査の種類と特性(2) 量的調査 事前学習：前回のノートを見直し、指定のテキストや参考図書の該当部分を読んでおくこと。(2時間) 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、テキストの該当箇所を精読すること。(2時間) 第8回：質的調査の実践例——インタビュー、参与観察、アクション・リサーチ 事前学習：前回のノートを見直し、指定のテキストや参考図書の該当部分を読んでおくこと。(2時間) 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、テキストの該当箇所を精読すること。(2時間)

第9回：質的調査の意義と限界 事前学習：前回のノートを見直し、指定のテキストや参考図書の該当部分を読んでおくこと。（2時間） 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、テキストの該当箇所を精読すること。（2時間） 第10回：量的調査の実践例——アンケート、国勢調査、官庁統計、市場調査 事前学習：前回のノートを見直し、指定のテキストや参考図書の該当部分を読んでおくこと。（2時間） 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、テキストの該当箇所を精読すること。（2時間） 第11回：量的調査の基礎——問題意識、仮説構成、調査票作成 事前学習：前回のノートを見直し、指定のテキストや参考図書の該当部分を読んでおくこと。（2時間） 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、テキストの該当箇所を精読すること。（2時間） 第12回：量的調査の基礎——実査と分析、質問紙調査の意義と限界（課題解決型学習（PBL）） 事前学習：前回のノートを見直し、指定のテキストや参考図書の該当部分を読んでおくこと。（2時間） 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、テキストの該当箇所を精読すること。（2時間） 第13回：社会調査の変容（1）——情報化と多文化社会化の進展に伴う調査対象の多様化 事前学習：前回のノートを見直し、指定のテキストや参考図書の該当部分を読んでおくこと。（2時間） 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、テキストの該当箇所を精読すること。（2時間） 第14回：社会調査の変容（2）——情報化と多文化社会化の進展に伴う調査対象の多様化 事前学習：前回のノートを見直し、指定のテキストや参考図書の該当部分を読んでおくこと。（2時間） 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、テキストの該当箇所を精読すること。（2時間） 第15回：探求への活用——卒業研究と卒業後を見据えて 事前学習：授業のノートを見直し、全講義の要点をまとめておくこと（2時間） 事後学習：本講義の全てのノートを見直して復習し整理すること。また、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、テキストの該当箇所を精読すること。（2時間） 第16回：定期試験	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
定期試験（50％） 平常点（50％） （平常点は提出物・小レポート・授業への参加状況・取り組み姿勢等を総合して判断します。）	
(7) 成績評価基準	
・社会学の研究対象と社会調査の目的について理解できているか。 ・様々な統計資料を利用するなど、研究対象に応じて適切な調査手法を選択できるようになっているか。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他（議論や討論に対するフィードバックについて） ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	

(10) テキスト、参考図書
<テキスト> 轟亮・杉野勇・平沢和司編著（2021）『入門・社会調査法』（第四版）法律文化社 <参考図書> 大谷信介・後藤範章・小松洋・木下栄二編著（2023）『最新・社会調査へのアプローチ ― 論理と方法』 ミネルヴァ書房
(11) その他(受講上の注意)
この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する、「社会調査士」資格に必要とされる、社会調査の基本的事項に関して学ぶ標準カリキュラムのA科目に対応するものである。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

観光社会論入門 (Introduction to Tourism and Society)			担当教員	井上 寛	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
BC-A-2104	2 単位	1 年前期	講義		選択
<科目区分> ビジネスコミュニケーション学部ビジネスコミュニケーション学科専門科目 入門・基礎科目 入門科目					
求める学習成果(教育目標)					
特にビジネス分野を中心にコミュニケーション力を高めるために必要な、入門的知識やスキルを身に付けます。					

(1) 授 業 の 内 容
本講義では、観光社会学およびその周辺領域に関する諸理論を概説し、それらを国内外の観光事例に基づいて学修する。観光学の初学者を対象とし、現代における多様な観光現象の全体像を理解するための一助とする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
本講義では、観光社会学に関する理論の概要と体系を基礎的に理解することを目標とする。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：オリエンテーション 事後学習：講義後にノートを見直して復習し、講義内で示された専門用語を図書館等で調べ、紹介された文献を読む。(2時間) 第2回：社会学と観光——近代化と大衆消費社会 事前学習：前回のノートを見直し、授業で指定された参考文献を読んでおく。(2時間) 事後学習：講義後にノートを見直して復習し、講義内で示された専門用語等を図書館等で調べ、紹介された文献を読む。(2時間) 第3回：観光社会学の対象 事前学習：前回のノートを見直し、授業で指定された参考文献を読んでおく。(2時間) 事後学習：講義後にノートを見直して復習し、講義内で示された専門用語や県史・市史等を図書館等で調べ、紹介された文献を読む。(2時間) 第4回：マスツーリズムの出現とその弊害 事前学習：前回のノートを見直し、授業で指定された参考文献を読んでおく。(2時間) 事後学習：講義後にノートを見直して復習し、講義内で示された専門用語等を図書館等で調べ、紹介された文献を読む。(2時間) 第5回：持続可能な観光とスペシャルインタレストツーリズム 事前学習：前回のノートを見直し、授業で指定された参考文献を読んでおく。(2時間) 事後学習：講義後にノートを見直して復習し、地域課題に関する書籍を図書館等で調べ、紹介された文献を読む。(2時間) 第6回：観光のまなざし論 事前学習：前回のノートを見直し、授業で指定された参考文献を読んでおく。(2時間) 事後学習：講義後にノートを見直して復習し、講義内で示された専門用語を図書館等で調べ、紹介された文献を読む。(2時間) 第7回：観光経験と観光客 事前学習：前回のノートを見直し、授業で指定された参考文献を読んでおく。(2時間) 事後学習：講義後にノートを見直して復習し、講義内で示された専門用語を図書館等で調べ、紹介された文献を読む。(2時間) 第8回：文化資本——観光の民主化 事前学習：前回のノートを見直し、景観論に関する書籍や記事を収集し、読んでおく。(2時間) 事後学習：講義後にノートを見直して復習し、講義内で示された専門用語を図書館等で調べ、紹介された文献を読む。(2時間) 第9回：オーセンティシティとシミュラクル 事前学習：前回のノートを見直し、授業で指定された参考文献を読んでおく。(2時間) 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内で示された専門用語を図書館等で調べ、紹介された文献を読む。(2時間)

第10回：まちづくりと着地型観光 事前学習：前回のノートを見直し、授業で指定された参考文献を読んでおく。（2時間） 事後学習：講義後にノートを見直して復習し、講義内で示された専門用語を図書館等で調べ、紹介された文献を読む。（2時間） 第11回：インバウンド観光と地域 事前学習：前回のノートを見直し、授業で指定された参考文献を読んでおく。（2時間） 事後学習：講義後にノートを見直して復習し、講義内で示された専門用語を図書館等で調べ、紹介された文献を読む。（2時間） 第12回：観光フィールドワーク（課題解決型学習（BL）） 事前学習：前回のノートを見直し、フィールドワークの手順や手法の改善点を洗い出す。（2時間） 事後学習：講義後にノートを見直して復習し、フィールドワークで得られたデータを整理する。（2時間） 第13回：地域の伝統文化 事前学習：前回のノートを見直し、授業で指定された参考文献を読んでおく。（2時間） 事後学習：講義後にノートを見直して復習し、講義内で示された専門用語を図書館等で調べ、紹介された文献を読む。（2時間） 第14回：ユニバーサルツーリズム（討議・ディスカッション、ディベート） 事前学習：前回のノートを見直し、授業で指定された参考文献を読んでおく。（2時間） 事後学習：講義後にノートを見直して復習し、講義内で示された専門用語を図書館等で調べ、紹介された文献を読む。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：これまでの全てのノートを見直し、講義全体の内容を網羅的に理解しておく。（2時間） 事後学習：講義後にノートを見直して復習し、理解した点・不明点・疑問点を洗い出し、記憶に留める。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 レポート (50 %) 平常点 (50 %) ・レポートは別途提示した条件（期限・様式・研究倫理）を守らない場合には評価の対象としません。 ・平常点は授業への参加状況、受講態度、提出物などの内容等を総合して判断します。
(7) 成績評価基準 ・社会科学分野における基礎的スキルを十分に習得しているか ・本講義を通じて観光社会学に関する基礎的知識を修得し、事実に基づいた意見の表明と批判的な考察が可能になっているか
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☐その他 5) その他（「ディスカッション・ディベート」に対するフィードバックについて） ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☒その他（担当教員のC311研究室にて対応）
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書 特定のテキストは使用しません。必要に応じて授業時またはeラーニングで資料を配布します。 また、参考図書については適宜授業内で紹介します。
(11) その他(受講上の注意) 他の受講生に迷惑がかかる行為（私語・遅刻・無断退席等）は禁止します。 受講生の理解度や興味・関心にあわせて授業計画には変更を加える可能性があります。 授業の性格上、学外で活動することもありますので、交通費等がかかることがあります。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

情報社会基礎演習 (Basic Practice in Information and Society)			担当教員	大須賀 元彦	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
BC-A-2105	2 単位	1 年後期	演習	選択	
<科目区分> ビジネスコミュニケーション学部ビジネスコミュニケーション学科専門科目 入門・基礎科目 入門科目					
求める学習成果（教育目標）					
特にビジネス分野を中心にコミュニケーション力を高めるために必要な、入門的知識やスキルを身に付けます。					

(1) 授 業 の 内 容
この授業では私たちの身近な情報社会に関する基礎的な知識を体系的に学びます。AIやビッグデータ、情報セキュリティなどの情報分野に加え、企業の経営活動に関する基礎的な知識についても学修します。なお、本授業の内容はITパスポート試験に準じており、各回の内容（大別してストラテジ系、マネジメント系、テクノロジー系の内容）に対応したテキストを用いて事前学習を行う反転学習の形式で理解を深めていきます。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ストラテジ系を適切に説明することができる。 ・マネジメント系を適切に説明することができる。 ・テクノロジー系を適切に説明することができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☐ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☒ その他（ITパスポート試験に関連するウェブサイトの活用）
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス、ITパスポート試験とは 事前学習：シラバスを読むことと、ITパスポート試験の公式サイトを見て、その試験の理解を深める。（2時間） 事後学習：ITパスポート試験に関連するウェブサイトを見てその情報を収集し、理解を深める。（2時間） 第2回：第1章（ストラテジ系）（実技） 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。（2時間） 事後学習：今回の講義内容に関する過去問題にウェブサイトを活用して取り組む。（2時間） 第3回：第2章（ストラテジ系）（実技） 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。（2時間） 事後学習：今回の講義内容に関する過去問題にウェブサイトを活用して取り組む。（2時間） 第4回：第3章・第4章（ストラテジ系）（実技） 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。（2時間） 事後学習：今回の講義内容に関する過去問題にウェブサイトを活用して取り組む。（2時間） 第5回：第5章（ストラテジ系）（実技） 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。（2時間） 事後学習：今回の講義内容に関する過去問題にウェブサイトを活用して取り組む。（2時間） 第6回：第6章（マネジメント系）（実技） 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。（2時間） 事後学習：今回の講義内容に関する過去問題にウェブサイトを活用して取り組む。（2時間） 第7回：第7章・第8章（マネジメント系）（実技） 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。（2時間） 事後学習：今回の講義内容に関する過去問題にウェブサイトを活用して取り組む。（2時間） 第8回：第9章（テクノロジー系）（実技） 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。（2時間） 事後学習：今回の講義内容に関する過去問題にウェブサイトを活用して取り組む。（2時間） 第9回：第10章（テクノロジー系）（実技） 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。（2時間） 事後学習：今回の講義内容に関する過去問題にウェブサイトを活用して取り組む。（2時間）

第10回：第11章（テクノロジ系）（実技） 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。（2時間） 事後学習：今回の講義内容に関する過去問題にウェブサイトを活用して取り組む。（2時間） 第11回：第12章（テクノロジ系）（実技） 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。（2時間） 事後学習：今回の講義内容に関する過去問題にウェブサイトを活用して取り組む。（2時間） 第12回：第13章（テクノロジ系）（実技） 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。（2時間） 事後学習：今回の講義内容に関する過去問題にウェブサイトを活用して取り組む。（2時間） 第13回：第14章（テクノロジ系）（実技） 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。（2時間） 事後学習：今回の講義内容に関する過去問題にウェブサイトを活用して取り組む。（2時間） 第14回：第15章（テクノロジ系）（実技） 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。（2時間） 事後学習：今回の講義内容に関する過去問題にウェブサイトを活用して取り組む。（2時間） 第15回：全体のまとめ 事前学習：テキストを用いてすべての講義内容について復習する。（2時間） 事後学習：ここまで学修した講義内容に関する過去問題にウェブサイトを活用して取り組む。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（60%） 小テスト（40%）
(7) 成績評価基準
・ストラテジ系を適切に説明することができるか。 ・マネジメント系を適切に説明することができるか。 ・テクノロジ系を適切に説明することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他（小テスト） ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書
テキスト：高橋京介『【令和8年度】いちばんやさしい ITパスポート 絶対合格の教科書＋出る順問題集』SBクリエイティブ、2025年 ITパスポート試験に関連するウェブサイトは適時紹介します。
(11) その他(受講上の注意)
講義内容は毎回関連していることが多いため欠席には十分に注意してください。また指定されたテキストを毎回持参してください。小テストを実施する際は事前に連絡します。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

異文化理解入門 (Introduction to Cross-Cultural Understanding)			担当教員	加藤 優子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
BC-A-2106	2 単位	1 年前期	講義	必修	
<科目区分> ビジネスコミュニケーション学部ビジネスコミュニケーション学科専門科目 入門・基礎科目 入門科目					
求める学習成果（教育目標）					
特にビジネス分野を中心にコミュニケーション力を高めるために必要な、入門的知識やスキルを身に付けます。					

(1) 授 業 の 内 容
異文化コミュニケーション学の入門として、異文化理解に関する基礎的な事柄を学ぶ。様々な国の歴史・社会と文化の関係性についての基本的な内容を理解する。グループワークを通して、多様な文化的背景を持った人々との交流を疑似体験し、文化の多様性と異文化交流の意義を理解する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
ホフステードの文化次元、文化を基軸とする多様な価値観・コンテクスト・コミュニケーションスタイル・非言語コミュニケーション、カルチャーショック・異文化適応など、異文化コミュニケーション学の基礎的な事柄を説明することができる。異文化交流場面を想定したロールプレイなどのグループワークを通して、多様な文化的背景を持った人との交流を疑似体験し、文化の多様性や異文化交流の重要性を理解することができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(eラーニング上に設置した学習支援システムによる学習)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 事前学習：参考図書に目を通すこと。(2時間) 事後学習：復習をするうえで、わからないことがあったら、Teamsを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第2回：異文化コミュニケーションの世界(異文化を理解する意義) 事前学習：参考図書に目を通すこと。(2時間) 事後学習：復習をするうえで、わからないことがあったら、Teamsを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第3回：異文化コミュニケーションの世界・続き(異文化コミュニケーションへのイントロダクション) 事前学習：参考図書に目を通すこと。(2時間) 事後学習：復習をするうえで、わからないことがあったら、Teamsを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第4回：異文化コミュニケーションの世界・続き(異文化間能力とは) 事前学習：参考図書に目を通すこと。(2時間) 事後学習：復習をするうえで、わからないことがあったら、Teamsを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第5回：コミュニケーションについて(異文化コミュニケーション学におけるコミュニケーション・モデル) 事前学習：参考図書に目を通すこと。(2時間) 事後学習：復習をするうえで、わからないことがあったら、Teamsを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第6回：コミュニケーション・モデル(非言語的コミュニケーション行動の種類) 事前学習：参考図書に目を通すこと。(2時間) 事後学習：復習をするうえで、わからないことがあったら、Teamsを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第7回：非言語的コミュニケーション(非言語的コミュニケーション行動の理解) 事前学習：参考図書に目を通すこと。(2時間) 事後学習：復習をするうえで、わからないことがあったら、Teamsを利用して担当教員に質問すること。(2時間)

第8回：コミュニケーション・スタイル（言語や文化によって異なるコミュニケーションスタイルの基礎的理解） 事前学習：参考図書に目を通すこと。（2時間） 事後学習：復習をするうえで、わからないことがあったら、Teamsを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第9回：異文化コミュニケーション学における文化の定義 事前学習：参考図書に目を通すこと。（2時間） 事後学習：復習をするうえで、わからないことがあったら、Teamsを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第10回：ホフステードの文化次元について（五つの文化次元の理解） 事前学習：参考図書に目を通すこと。（2時間） 事後学習：復習をするうえで、わからないことがあったら、Teamsを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第11回：（1）ホフステードの文化次元について・続き（五つの文化次元の理解） （2）「常識」に関する異文化トレーニング 事前学習：参考図書に目を通すこと。（2時間） 事後学習：復習をするうえで、わからないことがあったら、Teamsを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第12回：異文化コミュニケーションにおける文化衝突の心理的背景 事前学習：参考図書に目を通すこと。（2時間） 事後学習：復習をするうえで、わからないことがあったら、Teamsを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第13回：「価値観」「自文化中心主義」に関する異文化トレーニング 事前学習：参考図書に目を通すこと。（2時間） 事後学習：復習をするうえで、わからないことがあったら、Teamsを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第14回：異文化コミュニケーション能力と改善について（異文化適応の過程） 事前学習：参考図書に目を通すこと。（2時間） 事後学習：復習をするうえで、わからないことがあったら、Teamsを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：参考図書に目を通すこと。（2時間） 事後学習：復習をするうえで、わからないことがあったら、Teamsを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 授業内小テスト（80%）、授業の積極的参加（20%）
(7) 成績評価基準 ・異文化コミュニケーション学の基礎的な用語について説明することができるか。 ・グループワークに積極的に参加できたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

(10) テキスト、参考図書
【テキスト】 加藤優子（2021）『やさしい異文化理解』三恵社
(11) その他(受講上の注意)
5 分以上20分未満の遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

言語コミュニケーション論 (Verbal Communication)			担当教員	矢橋 知枝	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
BC-A-2107 CO-F-2208	2 単位	1 年後期	講義		選択
<科目区分> ビジネスコミュニケーション学部ビジネスコミュニケーション学科専門科目 入門・基礎科目 入門科目					
求める学習成果(教育目標)					
特にビジネス分野を中心にコミュニケーション力を高めるために必要な、入門的知識やスキルを身に付けます。					

(1) 授 業 の 内 容
コミュニケーションにおける言語の役割について学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
円滑な人間関係を維持する上で、必要となる言語的要素について知識を得る。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 事前学習：事前に言語を用いたコミュニケーションについて、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること（2時間） 第2回：ことばと文化（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること（2時間） 第3回：方言（1）（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること（2時間） 第4回：方言（2）（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること（2時間） 第5回：方言（3）（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること（2時間） 第6回：呼称（1）（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること（2時間） 第7回：呼称（2）（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること（2時間） 第8回：呼称（3）（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて、図書館で調べること（2時間） 第9回：対人関係の親密化（1）（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること（2時間） 第10回：対人関係の親密化（2）（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること（2時間） 第11回：対人関係の親密化（3）（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること（2時間） 第12回：自己開示（1）（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること（2時間）

第13回：自己開示（2）（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること（2時間） 第14回：自己開示（3）（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること（2時間） 第15回：まとめ（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること（2時間） 第16回：定期試験 予習として、各回に関連する資料を読み、あらかじめ疑問点を考えておくこと。また復習としては授業時の板書やハンドアウトに基づいて、各自のノートに授業内容をまとめておくこと。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（50％） 授業内レポート（30％） 平常点（20％） （平常点は、課題・質問用紙の提出状況等を総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
コミュニケーションにおいて、言語が果たす役割を説明することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
慶應義塾大学日吉キャンパス学習相談員 『学生による学生のための ダメレポート脱出法』 慶應義塾大学出版会 2014 その他、適宜プリントを配布する。
(11) その他(受講上の注意)
・遅刻3回で欠席1回とみなす。 ・遅刻した時間・授業を抜けた時間も成績評価で考慮する。 ・必ず国語辞書（電子辞書可）を持参すること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

オーラル・コミュニケーションⅠ (Oral CommunicationⅠ)			担当教員	M ハウカ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
BC-A-2108	2単位	1年前期	演習		選択
<科目区分> ビジネスコミュニケーション学部ビジネスコミュニケーション学科専門科目 入門・基礎科目 入門科目					
求める学習成果(教育目標)					
特にビジネス分野を中心にコミュニケーション力を高めるために必要な、入門的知識やスキルを身に付けます。					

(1) 授 業 の 内 容
最初に、ペアや少人数グループに分かれ、各授業のQ&Aトピックを話し、それらの内容を書き出して相手に話し伝える。そして語彙、リスニング、発音練習、等の活動を行う。最後に、各ユニットの内容をまとめる。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
基本的な英語で自分の考えを表現できるようにする。質問に答えるだけでなく、自分の答えの理由を説明できるようにする。他人の話を聞いて理解できるようにする。これにより、中学校・高校で英語を教える際の、特にリスニング・スピーキング能力の向上を目指す。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：コース概要(グループワーク 討議) 事前学習：教科書の内容をよく理解し、次の単元についての質問リストを作成する。(2時間) 事後学習：授業で課されたコース概要について、教科書のオーディオに慣れる。(2時間) 第2回：ユニット1 - 自己紹介(連結音、読書、聴取、書く、話す)(グループワーク 討議) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第1ユニットを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたトピック(自己紹介)について、オーディオを聴き、教科書の朗読を読む。(2時間) 第3回：ユニット1 - 自己紹介(文型 SVO, SVC, SVOO, SVOC、書く、話す)(討議 発表) 事前学習：授業前にテキストの第1ユニットを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたトピック(自己紹介)について、オーディオを聴き、教科書の朗読を読む。(2時間) 第4回：ユニット2 - 自宅(文のストレス(発音)、読書、聴取、書く、話す)(グループワーク 討議) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第2ユニットを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたトピック(自宅)について、オーディオを聴き、教科書の朗読を読む。(2時間) 第5回：ユニット2 - 自宅(ねがいごと、書く、話す)(討議 発表) 事前学習：授業前にテキストの第2ユニットを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたトピック(自宅)について、オーディオを聴き、教科書の朗読を読む。(2時間) 第6回：ユニット3 - 日常生活(弱母音、読書、聴取、書く、話す)(グループワーク 討議) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第3ユニットを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたトピック(日常生活)について、オーディオを聴き、教科書の朗読を読む。(2時間) 第7回：ユニット3 - 日常生活(許可を求める、書く、話す)(討議 発表) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第3ユニットを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたトピック(日常生活)について、オーディオを聴き、教科書の朗読を読む。(2時間) 第8回：復習 (第2回～7回の内容についての復習)(グループワーク 討議) 事前学習：授業前にテキストの第1～3ユニットを復習する。(2時間) 事後学習：テキストの第1～3ユニットを復習して、わからないところをノートに書くこと。(2時間) 第9回：ユニット4 - 近隣(消える音の変化、読書、聴取、書く、話す)(グループワーク 討議) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第4ユニットを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたトピック(近隣)について、オーディオを聴き、教科書の朗読を読む。(2時間) 第10回：ユニット4 - 近隣(質問の埋め込み、書く、話す)(討議 発表) 事前学習：授業前にテキストの第4ユニットを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたトピック(近隣)について、オーディオを聴き、教科書の朗読を読む。(2時間)

第11回：ユニット5 - 働くこと（連結音と消える音の変化、読書、聴取、書く、話す）（グループワーク 討議） 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第5ユニットを読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で課されたトピック（働くこと）について、オーディオを聴き、教科書の朗読を読む。（2時間） 第12回：ユニット5 - 働くこと（丁寧な反対意見、書く、話す）（討議 発表） 事前学習：授業前にテキストの第5ユニットを読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で課されたトピック（働くこと）について、オーディオを聴き、教科書の朗読を読む。（2時間） 第13回：ユニット6 - 自由な時間（混声、読書、聴取、書く、話す）（グループワーク 討議） 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第6ユニットを読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で課されたトピック（自由な時間）について、オーディオを聴き、教科書の朗読を読む。（2時間） 第14回：ユニット6 - 自由な時間（人を招く、書く、話す）（討議 発表） 事前学習：授業前にテキストの第6ユニットを読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で課されたトピック（自由な時間）について、オーディオを聴き、教科書の朗読を読む。（2時間） 第15回：復習（第9回～14回の内容についての復習） 事前学習：授業前にテキストの第4～6ユニットを復習する。（2時間） 事後学習：テキストの第4～6ユニットを復習して、わからないところをノートに書くこと。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 積極的な授業態度及び課題（45％）、定期試験（55％）
(7) 成績評価基準 基本的な英語で自分の考えを表現できるか。質問に答えるだけでなく、自分の答えの理由を説明できるか。他人の話を聞いて理解できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 テキスト Graham-Marr, Alastair. World Voices 3 - English as a Lingua Franca. (Third Printing). 2023. ABAX ELT Publishers. ISBN: 978-1-78547-069-1 参考図書 中学校学習指導要領(平成29年3月公示 文部科学省) 高等学校学習指導要領(平成30年3月公示 文部科学省)
(11) その他(受講上の注意) このコースでは、ペアワークやグループ演習に積極的に参加することが求められる。 6分から20分遅刻した場合は、遅刻として記録されます。3回遅刻した場合は、無断欠席として記録されます。 無断欠席の場合は、その授業で受けられなかった課題、小テスト、テストはすべて0点となります。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

簿記入門 (Introduction to Book Keeping)			担当教員	大西 新吾	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
BC-A-2109	2 単位	1 年前期	演習	選択	
<科目区分> ビジネスコミュニケーション学部ビジネスコミュニケーション学科専門科目 入門・基礎科目 入門科目					
求める学習成果（教育目標）					
特にビジネス分野を中心にコミュニケーション力を高めるために必要な、入門的知識やスキルを身に付けます。					

(1) 授 業 の 内 容
本講義では、企業の経済活動を記録・整理するうえで必要な簿記原理の基礎知識を修得することを目的とする。 また、本講義では、演習を行う（電卓を持参する）ものとする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
講義で扱った内容を理解し、財務情報（会計報告書）を作成するうえで必要不可欠な簿記の技法をしっかりと身につけ、具体的には、企業の日々の経済活動の基本的な記録ができるようになることを到達目標とする。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☐ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他（演習）
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：簿記とは ガイダンス（講義の目的や今後の流れ、評価方法等についての説明） 事前学習：講義前にシラバスを読み、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第2回：貸借対照表（テキスト第1章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第3回：損益計算書（テキスト第2章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第4回：仕訳（テキスト第3章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第5回：転記と試算表（テキスト第3章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第6回：精算表と簿記一巡 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第7回：現金（テキスト第4章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第8回：預金（テキスト第5章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第9回：商品売買（1）分記法と3分法（テキスト第6章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間）

第10回：商品売買（2）掛取引の記帳（テキスト第6章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第11回：商品売買（3）売上帳と仕入帳と商品有高帳（テキスト第7章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第12回：商品売買（4）商品有高帳—先入先出法と移動平均法（テキスト第7章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第13回：手形（テキスト第8章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第14回：問題演習 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第15回：総括 事前学習：これまでの講義で取り扱った単元を、事前に復習しておく。（2時間） 事後学習：講義全体を振り返り、質問した箇所や苦手箇所を抽出し、復習しておく。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
各回の授業時に提出する演習課題の成績（30％）と定期試験の成績（70％）を総合して成績評価を行う。
(7) 成績評価基準
・講義に積極的に取り組んでいるかどうか（各回の授業内容の理解・修得を課題の提出で評価）。 ・講義で取り扱った内容を理解し、修得できているかどうか（授業全体の理解・修得を定期試験で評価）。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
片山 覚監修『新 入門商業簿記』創成社. 2019.
(11) その他(受講上の注意)
本科目の履修は、後期開講科目である「会計学入門」(・「簿記演習b」)の受講要件である(「会計学入門」(・「簿記演習b」)でも引き続き同じテキストを使う)。また、本科目は、2年次(・3年次)開講科目の「財務会計論(・会計学a)」及び「会計学(・会計学b)」の基礎となる前提科目である。簿記・会計や広く経営学に関心のある学生は履修することが望ましい。 なお、テキストは必ず購入し、毎回の授業時に持参すること。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

会計学入門 (Introduction to Accounting)			担当教員	大西 新吾	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
BC-A-2110	2 単位	1 年後期	演習	選択	
<科目区分> ビジネスコミュニケーション学部ビジネスコミュニケーション学科専門科目 入門・基礎科目 入門科目					
求める学習成果（教育目標）					
特にビジネス分野を中心にコミュニケーション力を高めるために必要な、入門的知識やスキルを身に付けます。					

(1) 授 業 の 内 容
本講義では、「簿記入門」(・「簿記演習a」)の授業内容を踏まえた上で、企業の経済活動を記録・整理するうえで必要不可欠な簿記原理の基礎知識を修得することを目的とする。また、本講義では、演習を行う(電卓を持参する)ものとする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
講義で扱った内容を理解し、日々の経済活動の記録をもとに財務情報(会計報告書)の作成ができるようになることを到達目標とする。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(演習)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：前期科目「簿記入門」(・「簿記演習a」)の内容の振り返りーガイダンス(講義の目的や今後の流れ、評価方法等についての説明) 事前学習：講義前にシラバスを読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。(2時間) 第2回：債権と債務(1)(テキスト第9章) 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。(2時間) 第3回：債権と債務(2)(テキスト第9章) 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。(2時間) 第4回：債権と債務(3)(テキスト第9章) 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。(2時間) 第5回：貸倒損失と貸倒引当金(テキスト第10章) 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。(2時間) 第6回：有形固定資産と減価償却(1)(テキスト第11章) 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。(2時間) 第7回：有形固定資産と減価償却(2)(テキスト第11章) 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。(2時間) 第8回：資本・税金(テキスト第12章・第13章) 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。(2時間)

第9回：決算（１）試算表（テキスト第15章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（２時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（２時間） 第10回：決算（２）決算整理①売上原価の計算と貯蔵品（テキスト第16章、第7章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（２時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（２時間） 第11回：決算（２）決算整理②現金過不足・当座借越（テキスト第4章、第5章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（２時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（２時間） 第12回：決算（２）決算整理③費用・収益の繰延べと見越し（テキスト第16章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（２時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（２時間） 第13回：日常仕訳から決算仕訳（問題演習） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（２時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（２時間） 第14回：決算（３）財務諸表の作成（テキスト第18章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（２時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（２時間） 第15回：総括 事前学習：これまでの講義で取り扱った単元を、事前に復習しておく。（２時間） 事後学習：講義全体を振り返り、質問した箇所や苦手箇所を抽出し、復習しておく。（２時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 各回の授業時に提出する演習課題の成績（30％）と定期試験の成績（70％）を総合して成績評価を行う。
(7) 成績評価基準 ・講義に積極的に取り組んでいるかどうか（各回の授業内容の理解・修得を課題の提出で評価）。 ・講義で取り扱った内容を理解し、修得できているかどうか（授業全体の理解・修得を定期試験で評価）。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 片山 覚 監修『新 入門商業簿記』創成社. 2019.

(11) その他(受講上の注意)

本科目は、前期開講科目「簿記入門」(・「簿記演習a」)からの継続した学習であるため、「簿記入門」(・「簿記演習a」)の内容を修得していることを前提に講義を進める。

また、本科目は、2年次(・3年次)開講科目の「財務会計論(・会計学a)」及び「会計学(・会計学b)」の基礎となる前提科目である。

簿記・会計や広く経営学に関心のある学生は履修することが望ましい。

必ずテキストを毎回の授業時に持参すること。(テキストは、前期開講科目「簿記入門」(・「簿記演習a」)で利用したものである。)

なお、前提科目の「簿記入門」(・「簿記演習a」)を未受講で本科目を履修する場合には、テキストを事前に購入し、自分で学習内容をフォローしておくこと。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

プレゼンテーション技法 (Presentation Skills)			担当教員	禿 寿	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
BC-A-2111	2 単位	1 年後期	演習	選択	
<科目区分> ビジネスコミュニケーション学部ビジネスコミュニケーション学科専門科目 入門・基礎科目 入門科目					
求める学習成果（教育目標）					
特にビジネス分野を中心にコミュニケーション力を高めるために必要な、入門的知識やスキルを身に付けます。					

(1) 授 業 の 内 容
本授業の目的は、プレゼンテーションに必要な不可欠な道具となっているMicrosoft PowerPointを利用したスライド作成および管理の方法を身につけることである。 そのため、PowerPointの基本的かつ効率の良い使用法を学び、課題を通してスライドの作成方法やさまざまな観点から活用する方法を学ぶ。また、Microsoft Office Specialist試験の対策を行い、試験に合格できる知識を学ぶ。なお、本授業では、すべての授業回において実技を行う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
目標①プレゼンテーションの基本的な知識が身についている。 目標②プレゼンテーションソフトPowerPointの基本的な知識が身についている。 目標③目的に応じて、適切なデータ処理を選択できる。 目標④ビジネスの場で用いるPowerPointの機能を理解している。 目標⑤ビジネスの場で用いる実用的なスライドを順序立てて作成できる。 目標⑥PowerPointの知識を実生活に活かすことができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート) ☐ グループワーク ☐ 発表(プレゼンテーション) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 事前学習：授業のシラバスを理解できるまで読んでおく。(2時間) 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。(2時間) 第2回：プレゼンテーションの表示やオプションの変更 事前学習：テキスト(p16 - 47)を読み、疑問点を確認しておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。(2時間) 第3回：スライド、配布資料、ノートのマスターの変更 事前学習：テキスト(p47 - 74)を読み、疑問点を確認しておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。(2時間) 第4回：共同作業用プレゼンテーションの準備 事前学習：テキスト(p74 - 94)を読み、疑問点を確認しておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。(2時間) 第5回：スライドの管理 事前学習：テキスト(p96 - 122)を読み、疑問点を確認しておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。(2時間) 第6回：テキスト、図の書式設定 事前学習：テキスト(p124 - 148)を読み、疑問点を確認しておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。(2時間) 第7回：グラフィック要素、図形の書式設定 事前学習：テキスト(p148 - 168)を読み、疑問点を確認しておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。(2時間)

第8回：表、グラフの書式設定 事前学習：テキスト（p170 - 201）を読み、疑問点を確認しておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。（2時間） 第9回：3Dモデル、メディアの設定 事前学習：テキスト（p202 - 218）を読み、疑問点を確認しておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。（2時間） 第10回：画面切り替えやアニメーションの適用 事前学習：テキスト（p220 - 242）を読み、疑問点を確認しておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。（2時間） 第11回：第一回模擬試験 事前学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。（2時間） 事後学習：再度模擬試験を行い、正答率を90%以上にする。（2時間） 第12回：第二回模擬試験 事前学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。（2時間） 事後学習：再度模擬試験を行い、正答率を90%以上にする。（2時間） 第13回：第三回模擬試験 事前学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。（2時間） 事後学習：再度模擬試験を行い、正答率を90%以上にする。（2時間） 第14回：第四回模擬試験 事前学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。（2時間） 事後学習：再度模擬試験を行い、正答率を90%以上にする。（2時間） 第15回：第五回模擬試験 事前学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。（2時間） 事後学習：再度模擬試験を行い、正答率を90%以上にする。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 課題等の提出物（70%）、平常点（30%）
(7) 成績評価基準 Power Point を操作することによって、プレゼンテーションのスライド（資料）を作成することができること。また、Power Pointに備わっている機能を理解できるようになること。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書 テキスト：富士通エフ・オー・エム『よくわかるマスター MOS PowerPoint 365 対策テキスト&問題集』FOM 出版 2023年

(11) その他(受講上の注意)

私語等、講義を妨害する学生には退出を指示した上、単位を与えない場合もあります。
受講生の理解度にあわせて授業計画には変更を加える可能性があります。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

コミュニケーション学基礎演習 (First-Year Seminar (Communication))			担当教員	井上 寛、橋本 武志、升田 法継、 寺田 憲弘、禿 寿
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
BC-A-2112	2単位	1年通年	演習	必修
<科目区分> ビジネスコミュニケーション学部ビジネスコミュニケーション学科専門科目 入門・基礎科目 入門科目				
求める学習成果(教育目標)				
特にビジネス分野を中心にコミュニケーション力を高めるために必要な、入門的知識やスキルを身に付けます。				

(1) 授 業 の 内 容
大学生としての最初の1年は、4年間にわたる学修をスムーズに開始できるための重要な期間として位置づけられる。このため、まず学科の教育目標および教育課程を理解するとともに、主体的な学びを軸とする大学での修学や将来のための基盤づくりに重点を置き、授業を展開する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
☒ 本授業の内容や達成すべき目標について理解する。 ☒ 学科の教育課程や教育制度、授業形態について説明を受け理解する。 ☒ 履修に関する担当教員の助言・指導を受け、自己の学習計画・履修計画を作成できるようにする。 ☒ 大学での学び方を知るための講座、専門分野の基礎的な事柄についての演習を通して、自主学習を中心とした学習スタイルを確立し、学習に対する積極的な態度を身につける。 ☒ 附属図書館において図書館利用に関するセミナーを受講し、文献の検索方法等を理解し、学習や研究に必要な図書館利用法を身につける。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：履修に関する担当教員の助言・指導を受け、自己の学習計画・履修計画を作成 事前学習：大学の履修システムについて理解し、自分の履修計画を立てること（2時間） 事後学習：教科書の「資料の探し方」について読み、理解を深めること（2時間） 第2回：専門分野の基礎学習（ノートの取り方、テキストの読み方） 事前学習：教科書「ノートの取り方、テキストの読み方」について読み、理解を深めること（2時間） 事後学習：学習した範囲の教科書をよく読み復習すること（2時間） 第3回：学生生活についての担当教員による個人面談を行い、学修状況などを確認 事前学習：入学時アンケートに記載したこと自己目標や現在の自身の状況について整理して考えること（2時間） 事後学習：面談結果を踏まえ、自身の今後の大学生活について計画を立てること（2時間） 第4回：学修や研究に必要な文献検索方法（附属図書館利用法） 事前学習：大学附属図書館に赴き、図書館の基本的な学び方について理解すること（2時間） 事後学習：学習した内容について整理し、図書館の使い方についての理解を深めること（2時間） 第5回：専門分野の基礎学習（レポートの書き方、資料の探し方） 事前学習：教科書「レポートの書き方、資料の探し方」について読み、理解を深めること（2時間） 事後学習：学習した範囲の教科書をよく読み復習すること（2時間） 第6回：専門分野の基礎学習（学科コースの学びと理解） 事前学習：学生便覧について読み、学科の特性や専門コースについて理解を深めること（2時間） 事後学習：自己目標や現在の自身の状況を踏まえ、自分の履修計画について見直しを行うこと（2時間） 第7回：専門分野の基礎学習（「大学の試験」およびディプロマサプリメント） 事前学習：教科書「大学の試験」について読み、理解を深めること 仁愛大学HPの学科ページをよく読み、学科のポリシーや活動について理解を深めること（2時間） 事後学習：教科書の該当箇所、および学科ポリシーについて復習すること（2時間） 第8回：専門分野の基礎学習（プレゼンテーション発表の仕方） 事前学習：プレゼンテーション発表の仕方について事前に教科書を読み理解を深めること（2時間） 事後学習：講義内容について自身で調べ、自分の発表スタイルを身に付けること（2時間） 第9回：専門分野の基礎学習（専門科目の学び方） 事前学習：前期に学んだことを振り返り、各専門科目と興味があるコースについて学ぶこと（2時間） 事後学習：各専門分野の講義に触れ、2年次以降の履修計画の素案を作成すること（2時間）

第10回：越前市で学ぶ（講演） 事前学習：地域への貢献活動やボランティア、伝統文化について学び、理解を深めること（2時間） 事後学習：実地での学びと座学での学びを通して、地域社会の活性化に向けて自身に取り組めることは何か考えること（2時間） 第11回：越前市で学ぶ（フィールドワーク） 事前学習：越前市の伝統文化について調査し、理解を深めること（2時間） 事後学習：伝統文化に触れ、その成り立ちや現在の利活用方法について理解を深めること（2時間） 第12回：学生生活についての担当教員による個人面談を行い、学修状況などを確認 事前学習：前後期の履修を踏まえ、来年度以降の履修計画を検討すること（2時間） 事後学習：面談を踏まえ、来年度以降の専門コースを検討すること（2時間） 第13回：発表会 プレゼンテーション 事前学習：プレゼンテーション発表の準備を行うこと（2時間） 事後学習：発表時に指摘された箇所を修正し、再提出を行うこと（2時間） 第14回：発表会 プレゼンテーション 事前学習：プレゼンテーション発表の準備を行うこと（2時間） 事後学習：発表時に指摘された箇所を修正し、再提出を行うこと（2時間） 第15回：総括 事前学習：後期課題を提出し、1年を通した自己省察を行うこと（2時間） 事後学習：2年次における専門コースを選択し、来年度の目標を立てること（2時間） 予習として、次週に学ぶべき内容について関連する書籍等を読み予備知識を得ておくこと。 復習として、授業時に配布された資料を見直す、または授業で取り上げられた事項を再考する等、理解したうえで次週の授業に臨むこと。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポートおよびプレゼンテーション（50％） 平常点（50％） （平常点は、授業への参加状況、課題への取り組み姿勢などを総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
基礎的なアカデミック・スキル（学習に対する積極的な態度・技術、レジュメの作成・報告、討論方法）が修得できているか。
(8) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他（提出された課題についてのアドバイスをを行い、最終提出物を確認・採点する） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書
世界思想社編集部編『大学生学びのハンドブック』6訂版 世界思想社 1320円

(11) その他(受講上の注意)

「授業計画」は、学生の反応・理解度や事業の進捗に応じて、前後したり変更する場合があります。

① スケジュールに変更がある場合は、学科ガイダンス（オリエンテーション）にて説明し、eラーニングに掲示するので必ず事前に確認して臨んでください。学期途中で変更がある場合も、同様にeラーニングに掲示します。必ず確認してください。

■学生10名程度を1グループとして1名の担当教員を置く。

（この担当教員は、2年間の指導教員として、本授業終了後も引き続き指導や助言を行う）

■授業は、原則としてグループ単位で行う。

■授業の実施は、前期7回、後期8回を予定している。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

コミュニケーション学特講 I (Special lecture on Communication)			担当教員	橋本 武志、加藤 優子、矢橋 知枝、 大西 新吾、中山 健、井上 寛、 織田 暁子、大須賀元彦、寺田 憲弘、 升田 法継、M ハウカ、禿 寿、 Mクズィフ
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
BC-B-2113	2 単位	1 年後期	講義	必修
<科目区分> ビジネスコミュニケーション学部ビジネスコミュニケーション学科専門科目 入門・基礎科目 基礎科目				
求める学習成果(教育目標)				
経済学・経営学・社会学・言語学・情報学等に関する基礎的知識や、言語スキルやその他のコミュニケーション・ツールの活用スキルを身に付けます。				

(1) 授 業 の 内 容
学科の教員が持ち回りで講義を行うオムニバス形式の授業である。学生のコース・プログラム理解に資するように各専任教員が専門とする諸分野を解説し、コミュニケーション学の諸分野について理解を深めることを目的とする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
本学科の諸分野について理解を深める。様々なトピックスに触れる中で、コミュニケーション学に対する関心を高める。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他 (各回の担当教員による方法)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：各教員が専門とする内容 (担当教員：中山 健) 事前学習：関心のあるコミュニケーション学分野について調べておく (2 時間) 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる (2 時間) 第2回：各教員が専門とする内容 (担当教員：橋本 武志) 事前学習：関心のあるコミュニケーション学分野について調べておく (2 時間) 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる (2 時間) 第3回：各教員が専門とする内容 (担当教員：加藤 優子) 事前学習：関心のあるコミュニケーション学分野について調べておく (2 時間) 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる (2 時間) 第4回：各教員が専門とする内容 (担当教員：矢橋 知枝) 事前学習：関心のあるコミュニケーション学分野について調べておく (2 時間) 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる (2 時間) 第5回：各教員が専門とする内容 (担当教員：紺渡 弘幸) 事前学習：関心のあるコミュニケーション学分野について調べておく (2 時間) 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる (2 時間) 第6回：各教員が専門とする内容 (担当教員：井上 寛) 事前学習：関心のあるコミュニケーション学分野について調べておく (2 時間) 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる (2 時間) 第7回：各教員が専門とする内容 (担当教員：大須賀元彦) 事前学習：関心のあるコミュニケーション学分野について調べておく (2 時間) 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる (2 時間) 第8回：各教員が専門とする内容 (担当教員：織田 暁子) 事前学習：関心のあるコミュニケーション学分野について調べておく (2 時間) 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる (2 時間) 第9回：各教員が専門とする内容 (担当教員：Matthew Elliott Hauca) 事前学習：関心のあるコミュニケーション学分野について調べておく (2 時間) 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる (2 時間) 第10回：各教員が専門とする内容 (担当教員：升田 法継) 事前学習：関心のあるコミュニケーション学分野について調べておく (2 時間) 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる (2 時間)

第11回：各教員が専門とする内容（担当教員：寺田 憲弘） 事前学習：関心のあるコミュニケーション学分野について調べておく（2時間） 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる（2時間） 第12回：各教員が専門とする内容（担当教員：大西 新吾） 事前学習：関心のあるコミュニケーション学分野について調べておく（2時間） 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる（2時間） 第13回：各教員が専門とする内容（担当教員：禿 寿） 事前学習：関心のあるコミュニケーション学分野について調べておく（2時間） 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる（2時間） 第14回：各教員が専門とする内容（Michael KUZIW） 事前学習：関心のあるコミュニケーション学分野について調べておく（2時間） 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる（2時間） 第15回：各教員が専門とする内容（まとめ） 事前学習：関心のあるコミュニケーション学分野について調べておく（2時間） 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 小レポート・課題（60％） 平常点（40％） （毎回、授業後に小レポートまたは課題を課す。平常点は授業への参加状況・受講態度などを総合して判断する。）
(7) 成績評価基準 各授業において担当教員の説明するコミュニケーション学的トピックについて理解を深めることができたか。また、あわせて関心や疑問をもつことができたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他（リアクションペーパーに対するフィードバックについて） ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（各回の担当教員による方法）
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性) ・経歴 （元情報通信会社管理職（社員数：26万人、主な担当業務：人事、社長・取締役秘書、マーケティング、新規ビジネス開発、システム コンサルタント等）） ・実務経験と授業内容との関連性 （情報通信会社において、人事や社長・取締役スタッフ経験もある教員が、コミュニケーションに関する基本的な考え方と類型や実社会と繋がるコミュニケーションのあり方について解説する。）
(10) テキスト、参考図書 テキスト：なし。 参考図書：必要に応じて、授業中に提示。
(11) その他(受講上の注意) 「授業計画」は、学生の反応・理解度や事業の進捗に応じて、前後したり変更する場合があります。 ①スケジュールに変更がある場合は、学科ガイダンス（オリエンテーション）にて説明し、eラーニングに掲示するので必ず事前に確認して臨んでください。学期途中で変更がある場合も、同様にeラーニングに掲示します。必ず確認してください。 ②週ごとに担当教員が変わるので、毎回出席してください。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

共生社会論 (Studies of Inclusive Societies)			担当教員	織田 暁子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
BC-B-2116	2 単位	1 年後期	講義	選択	
<科目区分> ビジネスコミュニケーション学部ビジネスコミュニケーション学科専門科目 入門・基礎科目 基礎科目					
求める学習成果（教育目標）					
経済学・経営学・社会学・言語学・情報学等に関する基礎的知識や、言語スキルやその他のコミュニケーション・ツールの活用スキルを身に付けます。					

(1) 授 業 の 内 容
本講義では、現代社会でいかにして「共生社会」を築き上げるかを考える。マジョリティとして生きることは一種の「特権」であるという立場に立って、マイノリティや社会的劣位に置かれている人々をめぐる問題について学ぶ。とくに、ジェンダー論と社会階層論を中心に扱う。平等や差別、ダイバーシティ（多様性）に関する理論や、LGBT、ケア、教育格差、貧困といった具体的なテーマを通して、公正な社会とはどのような社会か、考えを深めていく。 なお、本科目は国連が定める「持続可能な開発目標（SDGs）」に向けて地域の社会的課題に取り組むSDGs関連科目です。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
社会的強者であるマジョリティにとって、マイノリティの問題は「他人事」になりがちである。マイノリティが置かれている状況を知り、問題を正しく理解することをめざす。一方で、マイノリティの不利益だけではなく、マジョリティが有している特権にも目を向ける必要がある。これらを通じて、共生社会の理念や、その実現のためには何が必要か、考えを深めていく。
(3) アクティブラーニング
□課題解決型学習（PBL） □討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） □発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：オリエンテーション——共生社会とは何か 事前学習：「共生社会」について、自分なりの考えや意見をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業のレジュメを見直し、テーマに関連するニュースや映像作品を確認する（2時間） 第2回：共生社会を考える基礎知識 事前学習：「共生社会」について、自分なりの考えや意見をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業のレジュメを見直し、テーマに関連するニュースや映像作品を確認する（2時間） 第3回：マジョリティと特権①「ふつう」とは何か・「みんな」とは誰か 事前学習：「ふつう」という言葉について、自分なりの考えや意見をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業のレジュメを見直し、テーマに関連するニュースや映像作品を確認する（2時間） 第4回：マジョリティと特権②「特権集団」のもつ力 事前学習：「特権」について、自分なりの考えや意見をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業のレジュメを見直し、テーマに関連するニュースや映像作品を確認する（2時間） 第5回：合理的な選択とは何か——囚人のジレンマ 事前学習：「合理的」ということについて、自分なりの考えや意見をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業のレジュメを見直し、テーマに関連するニュースや映像作品を確認する（2時間） 第6回：社会階層論 事前学習：「格差」について、自分なりの考えや意見をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業のレジュメを見直し、テーマに関連するニュースや映像作品を確認する（2時間） 第7回：ジェンダー論①メディアとジェンダー 事前学習：「ジェンダー」について、自分なりの考えや意見をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業のレジュメを見直し、テーマに関連するニュースや映像作品を確認する（2時間） 第8回：ジェンダー論②教育とジェンダー 事前学習：「ジェンダーと社会階層」について、自分なりの考えや意見をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業のレジュメを見直し、テーマに関連するニュースや映像作品を確認する（2時間） 第9回：社会階層とジェンダー①有償労働と無償労働 事前学習：「労働の権利」について、自分なりの考えや意見をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業のレジュメを見直し、テーマに関連するニュースや映像作品を確認する（2時間）

第10回：社会階層とジェンダー②現代の労働問題 / 中間レポートについて（予定） 事前学習：「非正規雇用」について、自分なりの考えや意見をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業のレジュメを見直し、テーマに関連するニュースや映像作品を確認する，中間レポートを執筆する（2時間） 第11回：家族をつくる権利①婚姻の権利 事前学習：「婚姻」について、自分なりの考えや意見をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業のレジュメを見直し、テーマに関連するニュースや映像作品を確認する，中間レポートを執筆する（2時間） 第12回：家族をつくる権利②SOGIEの基礎知識 事前学習：「性の多様性」について、自分なりの考えや意見をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業のレジュメを見直し、テーマに関連するニュースや映像作品を確認する，中間レポートを執筆する（2時間） 第13回：家族をつくる権利③子どもをつくる 事前学習：「子ども」について、自分なりの考えや意見をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業のレジュメを見直し、テーマに関連するニュースや映像作品を確認する（2時間） 第14回：家族をつくる権利④子どもを育てる 事前学習：「ケア労働と賃労働の両立」について、自分なりの考えや意見をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業のレジュメを見直し、テーマに関連するニュースや映像作品を確認する（2時間） 第15回：共生社会の実現に向けて——社会的公正活動の実践へ 事前学習：「社会的公正活動」について、自分なりの考えや意見をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業のレジュメを見直し、期末レポートを執筆する（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
期末レポート（40％） 中間レポート（20％） 平常点（40％） （平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合的に判断します。）
(7) 成績評価基準
現代社会のマジョリティとマイノリティをめぐる状況について、正しく理解できたか。 共生社会の理念とその実践について理解を深めることができたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキストは指定しない。講義中に、参考文献および論文を明示する。
(11) その他(受講上の注意)
真摯に学ぶ学生に対して、悪影響を与える学生には、単位を与えない。目に余る場合は、退室を命じる。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

社会調査法 (Social Research Methods)			担当教員	織田 暁子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
BC-B-2117	2 単位	1 年後期	講義		選択
<科目区分> ビジネスコミュニケーション学部ビジネスコミュニケーション学科専門科目 入門・基礎科目 基礎科目					
求める学習成果(教育目標)					
経済学・経営学・社会学・言語学・情報学等に関する基礎的知識や、言語スキルやその他のコミュニケーション・ツールの活用スキルを身に付けます。					

(1) 授 業 の 内 容
社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を解説する。調査目的と調査方法、調査方法の決め方、調査企画と設計、仮説構成、全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数と誤差、サンプリングの諸方法、質問文・調査票の作り方、調査の実施方法（調査票の配布・回収法、調査データの整理など）を学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ 調査票調査の手順を理解する。 ・ 調査票調査におけるデータ収集法の違いについて理解する。 ・ 適切な質問と回答選択肢を作成するための方法を習得する。 ・ 無作為抽出の意義を理解する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☐ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他（模擬調査およびパソコンを用いた演習）
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：オリエンテーション 事前学習：テキストの第1章を読み、疑問点をまとめておく（2時間） 事後学習：授業内容およびテキストを復習する（2時間） 第2回：調査方法の選択 事前学習：テキストの第2章を読み、疑問点をまとめておく（2時間） 事後学習：授業内容およびテキストを復習する（2時間） 第3回：アンケート調査の進め方（1） リサーチクエスション、仮説を構成する 事前学習：テキストの第3章を読み、疑問点をまとめておく（2時間） 事後学習：授業内容およびテキストを復習する（2時間） 第4回：アンケート調査の進め方（2） 調査の企画 事前学習：テキストの第4章（前半）を読み、疑問点をまとめておく（2時間） 事後学習：授業内容およびテキストを復習する（2時間） 第5回：調査票作成の基礎（1） 仮説と質問項目 事前学習：テキストの第4章（後半）を読み、疑問点をまとめておく（2時間） 事後学習：授業内容およびテキストを復習する（2時間） 第6回：調査票作成の基礎（2） ワーディング 事前学習：テキストの第6章（前半）を読み、疑問点をまとめておく（2時間） 事後学習：授業内容およびテキストを復習する（2時間） 第7回：調査票作成の基礎（3） 質問文の形式と選択肢の構成 事前学習：テキストの第6章（後半）を読み、疑問点をまとめておく（2時間） 事後学習：授業内容およびテキストを復習する（2時間） 第8回：サンプリング（1） ランダム・サンプリングがなぜ必要か 事前学習：テキストの第7章（前半）を読み、疑問点をまとめておく（2時間） 事後学習：授業内容およびテキストを復習する（2時間） 第9回：サンプリング（2） サンプリングと調査票の配布から回収まで 事前学習：テキストの第7章（後半）を読み、疑問点をまとめておく（2時間） 事後学習：授業内容およびテキストを復習する（2時間） 第10回：模擬調査 事前学習：テキストの第8章を読み、疑問点をまとめておく（2時間） 事後学習：授業内容およびテキストを復習する（2時間）

第11回：調査データの作成（1） エディティング，コーディング 事前学習：テキストの第9章（前半）を読み、疑問点をまとめておく（2時間） 事後学習：授業内容およびテキストを復習する（2時間） 第12回：調査データの作成（2） データ入力，データクリーニング 事前学習：テキストの9章（後半）を読み、疑問点をまとめておく（2時間） 事後学習：授業内容およびテキストを復習する（2時間） 第13回：データ分析（1） 記述統計 事前学習：テキストの第10章を読み、疑問点をまとめておく（2時間） 事後学習：授業内容およびテキストを復習する（2時間） 第14回：データ分析（2） クロス表分析 事前学習：テキストの第12章を読み、疑問点をまとめておく（2時間） 事後学習：授業内容およびテキストを復習する（2時間） 第15回：報告書の作成 事前学習：テキストの13章を読み、疑問点をまとめておく（2時間） 事後学習：授業内容およびテキストを復習する（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
・ 定期試験（40%） ・ 課題提出・受講態度（40%） ・ グループワーク（20%）
(7) 成績評価基準
・ 調査票調査の手順を理解できているか。 ・ 調査票調査におけるデータ収集法の違いについて理解できているか。 ・ 適切な質問と回答選択肢を作成するための方法を習得しているか。 ・ 無作為抽出の意義を理解できているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
『入門・社会調査法』（第四版）轟・杉野編 法律文化社 2021年
(11) その他(受講上の注意)
この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する、社会調査士資格認定科目【B】〔調査設計と実施方法に関する科目〕に相当する。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

マーケティング入門 (Introduction to Marketing)			担当教員	中山 健	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
BC-B-2119	2 単位	1 年後期	講義	選択	
<科目区分> ビジネスコミュニケーション学部ビジネスコミュニケーション学科専門科目 入門・基礎科目 基礎科目					
求める学習成果(教育目標)					
経済学・経営学・社会学・言語学・情報学等に関する基礎的知識や、言語スキルやその他のコミュニケーション・ツールの活用スキルを身に付けます。					

(1) 授 業 の 内 容
マーケティングとは、現代企業（組織）が顧客（生活者）のニーズを把握し、価値あるモノ、サービスを創出し、正しくその内容を伝えることで両者の間を架橋することである。顧客の課題を解決しつつ価値を提供するプロセスを作り上げるために研究・蓄積されてきた知識、理論、分析手法を学ぶことで、企業経営において重要な機能であるマーケティング活動に関して基礎的理解を深めることができる。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
ビジネス・コミュニケーションに大きく関連するマーケティングに関する基礎的知識と理論（STP、4Pなど）を習得し、実際の企業事例等を個人、グループにおいて分析する過程を通して探求心と学習意欲の向上を図る。さらにこうしたプロセスを通して、翌年以降の専門科目がスムーズに理解できるようになることを目標とする。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習（PBL） ☒ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他（プロジェクトチームによるクリエイティブワーク）
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：オリエンテーション、マーケティングの定義と概念 事前学習：マーケティングの定義や全体像を調べてまとめる（2時間） 事後学習：講義内容を再度確認するとともにキーワードを整理しておく（2時間） 第2回：マーケティングの成り立ち 事前学習：マーケティングの誕生と対象について、各種の文献で調べた上でテキストの該当部分をまとめる（2時間） 事後学習：講義内容を再度確認するとともにキーワードと理論を整理しておく（2時間） 第3回：マーケティングの基本概念 事前学習：マーケティングの基本概念について教科書の該当箇所を読んで整理しておく（2時間） 事後学習：講義内容を再確認し、セグメンテーション、4P分析を理解し整理しておく（2時間） 第4回：戦略的マーケティング 事前学習：教科書の該当箇所を読んで整理しておく（2時間） 事後学習：講義内容を再確認し、マネジリアル・マーケティングと戦略的マーケティングの違いを理解し整理しておく（2時間） 第5回：製品のマネジメント 事前学習：教科書の該当箇所を読んで整理しておく（2時間） 事後学習：講義内容を再確認し、製品開発のマネジメントについて関連文献を読むなどして整理しておく（2時間） 第6回：価格のマネジメント 事前学習：教科書の該当箇所を読んで整理しておく（2時間） 事後学習：講義内容を再確認し、価格の決定方法について関連文献を読むなどして理解を深める（2時間） 第7回：広告のマネジメント 事前学習：教科書の該当箇所を読んで整理しておく（2時間） 事後学習：講義内容を再確認し、関連文献を読むなどして理解を深める（2時間） 第8回：チャネルのマネジメント 事前学習：教科書の該当箇所を読んで整理しておく（2時間） 事後学習：講義内容を再確認し、流通と流通経路について関連文献を読むなどして理解を深める（2時間） 第9回：サプライチェーンのマネジメント 事前学習：教科書の該当箇所を読んで整理しておく（2時間） 事後学習：講義内容を再確認し、SCMについて関連文献を読むなどして理解を深める（2時間）

第10回：企業事例分析 事前学習：前回までの講義内容を見直し、キーワード、理論、分析方法を確認しておく（2時間） 事後学習：講義内容を再確認し、関連文献を読むなどして理解を深める（2時間） 第11回：顧客理解のマネジメント 事前学習：教科書の該当箇所を読んで整理しておく（2時間） 事後学習：講義内容を再確認し、消費者行動について関連文献を読むなどして理解を深める（2時間） 第12回：ブランド構築のマネジメント 事前学習：教科書の該当箇所を読んで整理しておく（2時間） 事後学習：講義内容を再確認し、ブランドに関して関連文献を読むなどして理解を深める（2時間） 第13回：グローバル・マーケティング 事前学習：グローバル市場の捉え方について文献を読んで整理しておく（2時間） 事後学習：講義内容を再確認し、グローバル化や海外市場の把握方法について関連文献を読み理解を深める（2時間） 第14回：全体まとめ 事前学習：これまでの講義で取り扱った内容について、要点と疑問点を整理しておくこと。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。（2時間） 第15回：振り返りテスト、マーケティングの将来像 事前学習：これまでの講義内容について教科書を用いてキーワード、理論、分析手法を整理しておくこと。（2時間） 事後学習：講義内容全体について整理し、興味・関心を持ったテーマについての文献を読み理解を深める。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 ・課題レポート（25%×2回） ・授業への参加状況・受講態度等の平常点（20%） ・振り返りテスト（30%）
(7) 成績評価基準 ・講義に関連した事例や文献を調べるなど、問題意識を持って取り組んでいるかどうか。 ・講義で取り扱った理論や分析方法を理解し、修得できているかどうか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（定期試験前の振り返り・確認テストで練習問題を実践し、全体のフィードバックとする） 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性) ・経歴 （独立行政法人及び金融機関に勤務） ・実務経験と授業内容との関連性 （本科目は、独立行政法人ならびに金融機関において、企業の調査・分析に関連する実務経験をもつ教員が担当する科目である。）
(10) テキスト、参考図書 ・青木幸弘編『ケースに学ぶマーケティング』有斐閣 ・石井・廣田・清水編『1からのマーケティング』碩学社/中央経済社。 ・原尻淳一『マーケティング・フレームワーク』日本経済新聞出版社。 ・小川・上笹・中山他『現代のマーケティング戦略』創風社。

(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

異文化理解 (Cross-Cultural Understanding)			担当教員	加藤 優子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
BC-B-2126	2 単位	1 年後期	講義	選択	
<科目区分> ビジネスコミュニケーション学部ビジネスコミュニケーション学科専門科目 入門・基礎科目 基礎科目					
求める学習成果(教育目標)					
経済学・経営学・社会学・言語学・情報学等に関する基礎的知識や、言語スキルやその他のコミュニケーション・ツールの活用スキルを身に付けます。					

(1) 授 業 の 内 容
異文化コミュニケーション学の基礎的知識を踏まえ、異文化コミュニケーションと多文化共生に関連する重要な事柄について学ぶ。これにより、異なる文化的背景を持つ人々とのコミュニケーションについての多角的な理解を深める。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・異文化コミュニケーションと多文化共生に関する用語について説明することができる。 ・異なる文化的背景を持つ人々とのコミュニケーション現象について、学んだ知識に基づき、論理的に分析し説明することができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(事前の調べ学習)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：イントロダクション 事前学習：テーマについて、図書館などで調べること。(2時間) 事後学習：復習をするうえで、わからないことがあったら図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第2回：多文化共生社会における異文化コミュニケーション研究の目的 事前学習：テーマについて、図書館などで調べること。(2時間) 事後学習：復習をするうえで、わからないことがあったら図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第3回：多文化共生社会の定義① 事前学習：テーマについて、図書館などで調べること。(2時間) 事後学習：復習をするうえで、わからないことがあったら図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第4回：多文化共生社会の定義② 事前学習：テーマについて、図書館などで調べること。(2時間) 事後学習：復習をするうえで、わからないことがあったら図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第5回：移民と非移民の歴史① 事前学習：テーマについて、図書館などで調べること。(2時間) 事後学習：復習をするうえで、わからないことがあったら図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第6回：移民と非移民の歴史② 事前学習：テーマについて、図書館などで調べること。(2時間) 事後学習：復習をするうえで、わからないことがあったら図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第7回：国籍法について① 事前学習：テーマについて、図書館などで調べること。(2時間) 事後学習：復習をするうえで、わからないことがあったら図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第8回：国籍法について② 事前学習：テーマについて、図書館などで調べること。(2時間) 事後学習：復習をするうえで、わからないことがあったら図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)

第9回：文化相対主義について① 事前学習：テーマについて、図書館などで調べること。（2時間） 事後学習：復習をするうえで、わからないことがあったら図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第10回：文化相対主義について② 事前学習：テーマについて、図書館などで調べること。（2時間） 事後学習：復習をするうえで、わからないことがあったら図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第11回：多文化共生社会と価値観① 事前学習：テーマについて、図書館などで調べること。（2時間） 事後学習：復習をするうえで、わからないことがあったら図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第12回：多文化共生社会と価値観② 事前学習：テーマについて、図書館などで調べること。（2時間） 事後学習：復習をするうえで、わからないことがあったら図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第13回：国内の現状①日本語教育 事前学習：テーマについて、図書館などで調べること。（2時間） 事後学習：復習をするうえで、わからないことがあったら図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第14回：国内の現状②医療 事前学習：テーマについて、図書館などで調べること。（2時間） 事後学習：復習をするうえで、わからないことがあったら図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：最終まとめとしてこれまでの授業内容を振り返っておくこと。（2時間） 事後学習：復習をするうえで、わからないことがあったら図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 授業内小テスト（80%）、平常点（20%） 平常点は、授業の受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断する。
(7) 成績評価基準 ・異文化コミュニケーションと多文化共生に関する用語について説明することができるか。 ・異なる文化的背景を持つ人々とのコミュニケーション現象について、学んだ知識に基づき、論理的に分析し説明することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 テキスト：特になし。 参考図書：参考文献は適宜授業内で告知する。

(11) その他(受講上の注意)

本講義を受ける前に「異文化理解a」の単位を取得すること。
5分以上20分未満の遅刻3回で欠席1回とみなす。
20分以上の遅刻は欠席とみなす。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

オーラル・コミュニケーションⅡ (Oral CommunicationⅡ)			担当教員	M ハウカ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
BC-B-2128	2 単位	1 年後期	演習		選択
<科目区分> ビジネスコミュニケーション学部ビジネスコミュニケーション学科専門科目 入門・基礎科目 基礎科目					
求める学習成果(教育目標)					
経済学・経営学・社会学・言語学・情報学等に関する基礎的知識や、言語スキルやその他のコミュニケーション・ツールの活用スキルを身に付けます。					

(1) 授 業 の 内 容
最初に、ペアや少人数グループに分かれ、各授業のQ&Aトピックを話し、それらの内容を書き出して相手に話し伝える。そして語彙、リスニング、発音練習、等の活動を行う。最後に、各ユニットの内容をまとめる。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
基本的な英語で自分を表現できるようにする。質問に答えるだけでなく、自分の答えの理由を説明できるようにする。他人の話を聞いて理解できるようにする。これにより、中学校・高校で英語を教える際の、特にリスニング・スピーキング能力の向上を目指す。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：コース概要(グループワーク 討議) 事前学習：事前学習：教科書の内容をよく理解し、次の単元についての質問リストを作成する。(2時間) 事後学習：授業で課されたコース概要について、教科書のオーディオに慣れる。(2時間) 第2回：ユニット7 - 飲食(有声音't、読書、聴取、書く、話す)(グループワーク 討議) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第7ユニットを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたトピック(飲食)について、オーディオを聴き、教科書の朗読を読む。(2時間) 第3回：ユニット7 - 飲食(受動態、書く、話す)(討議 発表) 事前学習：授業前にテキストの第7ユニットを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたトピック(飲食)について、オーディオを聴き、教科書の朗読を読む。(2時間) 第4回：ユニット8 - 旅行(短縮形：wanna、gonna、gotta、読書、聴取書く、話す)(グループワーク 討議) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第8ユニットを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたトピック(旅行)について、オーディオを聴き、教科書の朗読を読む。(2時間) 第5回：ユニット8 - 旅行(過去形、過去連続、書く、話す)(討議 発表) 事前学習：授業前にテキストの第8ユニットを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたトピック(旅行)について、オーディオを聴き、教科書の朗読を読む。(2時間) 第6回：ユニット9 - 教育(消える音の変化、読書、聴取、書く、話す)(グループワーク 討議) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第9ユニットを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたトピック(教育)について、オーディオを聴き、教科書の朗読を読む。(2時間) 第7回：ユニット9 - 教育(関係代名詞 which、that、書く、話す)(討議 発表) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第9ユニットを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたトピック(教育)について、オーディオを聴き、教科書の朗読を読む。(2時間) 第8回：復習 (第2回～7回の内容についての復習) 事前学習：授業前にテキストの第7～9ユニットを復習する。(2時間) 事後学習：テキストの第7～9ユニットを復習して、わからないところをノートに書くこと。(2時間) 第9回：ユニット10 - 健康(弱形と文強調、読書、聴取、書く、話す)(グループワーク 討議) 事前学習：授業前にテキストの第10ユニットを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたトピック(健康)について、オーディオを聴き、教科書の朗読を読む。(2時間) 第10回：ユニット10 - 健康(法動詞、書く、話す)(討議 発表) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第10ユニットを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたトピック(健康)について、オーディオを聴き、教科書の朗読を読む。(2時間) 第11回：ユニット11 - 数字と値段(弱形、読書、聴取、書く、話す)(グループワーク 討議) 事前学習：授業前にテキストの第11ユニットを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたトピック(数字と値段)について、オーディオを聴き、教科書の朗読を読む。(2時間)

第12回：ユニット11 - 数字と値段（条件法、書く、話す）（討議 発表） 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第11ユニットを読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で課されたトピック（数字と値段）について、オーディオを聴き、教科書の朗読を読む。（2時間） 第13回：ユニット12 - 人々（リンキング、カジュアル・リダクション、読書、聴取、書く、話す）（グループワーク 討議） 事前学習：授業前にテキストの第12ユニットを読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で課されたトピック（人々）について、オーディオを聴き、教科書の朗読を読む。（2時間） 第14回：ユニット12 - 人々（未来形、書く、話す）（討議 発表） 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第12ユニットを読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で課されたトピック（人々）について、オーディオを聴き、教科書の朗読を読む。（2時間） 第15回：復習（第9回～14回の内容についての復習） 事前学習：授業前にテキストの第10～12ユニットを復習する。（2時間） 事後学習：テキストの第10～12ユニットを復習して、わからないところをノートに書くこと。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
積極的な授業態度及び課題（45％）、定期試験（55％）
(7) 成績評価基準
基本的な英語で自分を表現できるか。質問に答えるだけでなく、自分の答えの理由を説明できるか。他人の話を聞いて理解できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト Graham-Marr, Alastair. World Voices 3 - English as a Lingua Franca. (Third Printing) . 2023. ABAX ELT Publishers. ISBN: 978-1-78547-069-1 参考図書 中学校学習指導要領（平成29年3月公示 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月公示 文部科学省）
(11) その他(受講上の注意)
このコースでは、ペアワークやグループ演習に積極的に参加することが求められる。 6分から20分遅刻した場合は、遅刻として記録されます。3回遅刻した場合は、無断欠席として記録されます。 無断欠席の場合は、その授業で受けられなかった課題、小テスト、テストはすべて0点となります。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

海外語学研修 (Language Study Abroad)			担当教員	M ハウカ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
GE-D-1111 BC-F-2269	4 単位	1 年～ 4 年	演習		選択
<科目区分> ビジネスコミュニケーション学科専門科目 応用科目 文学系					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな教養と実際のな知識・技術を修得し、探究的な意欲と協働的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
現地ではホームステイ・クラブ活動も行う。事前授業10回(後期)および事後授業5回(次年度前期)も合わせて受講し、以後の学修・研究のための動機付けを得ることを目指す。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
集中的な英語研修と生活体験を通し、総合的な英語力(読む力・聞く力・話す力・書く力)を向上させることを目的とする。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
事前学習(60時間) ・全体説明会(目的、日程、研修内容、宿泊、準備物[パスポート、航空券、クレジットカードなど]) ・ビザの申請 ・ホストファミリーへの紹介文 ・研修地に関する事前学習 ・場面別英会話の学習 ・プレゼンテーションの準備・練習 ・プレースメントテスト ・経験者の話・質疑応答 ・最終確認 <集中講義(春期休暇中)> 留学(90時間) ・英語の授業(リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング、文法、語彙など) ・学外体験 ・文化施設見学 ・ホストファミリーとの交流(ホームステイ) ・体験ツアー ・歴史、文化授業参加、ディスカッション ・他の大学生との交流 事後学習(30時間) ・研修のふりかえり・レポート ・プレゼンテーション準備 ・体験報告会
(5) 授業形態[面接授業・遠隔授業]
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
事前授業への取り組み(30%)、現地評価(50%)、事後授業の取り組み(20%)を総合評価する。

(7) 成績評価基準
学外における自主的な活動や体験をととして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得できたか。 学修・研究のための動機付けを得て、優れた社会人となるための自己認識を深めることができたか。 ※現地校から発行される成績表も評価に含まれる。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
現地校より指示がある。
(11) その他(受講上の注意)
本科目の履修登録については、担当教員が行うガイダンスおよび本プログラム参加をもって履修登録とするため、通常の受講登録手続きを要しない。 ※授業に参加するには、10月1日までにパスポートを取得する必要があります。 ※すべての予定されている授業に出席することが求められます。無断欠席をした場合、留学の参加ができなくなる可能性があります。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

基礎化学 (Basic Chemistry)			担当教員	尼子 克己	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-D-2101	2 単位	1 年前期	講義		選択
<科目区分> 栄養・子ども学部健康栄養学科専門科目 基礎分野					
求める学習成果(教育目標)					
基礎研究および食品開発ができる能力					

(1) 授 業 の 内 容
管理栄養士養成課程で学ぶ内容には、ヒトのからだの中で起こっている現象や、調理における食品の変化など、化学的思考を理解の前提としたものが少なくない。本講義では高校で化学(化学基礎)を学ばなかった、あるいは十分に理解できなかった者に配慮し、栄養学・生理学・生化学にかかわる化学の根本事項について取り扱う。また、化学が人間生活でどのように役立ち、化学の考え方がどこで使われているかについて適宜触れ、専門基礎科目への導入として、以降の学修とのつながりをイメージさせる。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
① 原子・分子の構造を理解し、それに基づいて元素の持つおおよその性質、化学結合を説明できる。 ② モルの概念を理解し、モル濃度を基礎とした計算ができる。 ③ 化学反応式をベースとした化学反応の量的関係について、自身で取り扱うことができる。 ④ 酸塩基反応、酸化還元反応の成り立ちを理解し、そこにある基本的な数量関係を取り扱うことができる。
(3) アクティブラーニング
☐課題解決型学習(PBL) ☐討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐実習、フィールドワーク ☐実験、実技 ☐その他
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：イントロダクション、物質の状態と分離 事前学習：事前に実施したプレイスメントテストの内容を復習しておくこと。テキストの1章1～4節を読み、指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。(2時間) 事後学習：課題提出に必要なMicrosoft365等、学習に必要な動画受信、電子的な課題提出に必要な操作について、指定されたテスト用送受信を行い、トラブルが生じた場合は情報サポート室や担当教員に問い合わせ、解決する。講義時に配布する演習問題に取り組むこと。(2時間) 第2回：元素と元素記号 事前学習：テキストの1章5～7節を読み、指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。(2時間) 事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。(2時間) 第3回：原子の構造 事前学習：テキストの2章1～3節を読み、指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。(2時間) 事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。(2時間) 第4回：周期表と電子配置 事前学習：テキストの2章4節を読み、指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。(2時間) 事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。(2時間) 第5回：原子と原子のつながり(1) 事前学習：テキストの2章5～6節を読み、指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。(2時間) 事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。(2時間) 第6回：原子と原子のつながり(2) 事前学習：テキストの3章1～2節を読み、指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。(2時間) 事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。(2時間) 第7回：分子の形と原子のまわりの電子の状態 事前学習：テキストの3章3～4節を読み、指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。(2時間) 事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。(2時間)

第8回：化学式と化学物質の読み方 事前学習：テキストの3章5節を読み、指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。 (2時間) 事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。(2時間) 第9回：モルと化学反応式 事前学習：テキストの3章6～7節を読み、指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。(2時間) 事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。(2時間) 第10回：濃度の表しかた 事前学習：事前に配布する例題とその解説を読み、指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。(2時間) 事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。(2時間) 第11回：酸と塩基 事前学習：テキストの4章1～3節を読み、指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。(2時間) 事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。(2時間) 第12回：中和とpH 事前学習：テキストの4章4～5節を読み、指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。(2時間) 事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。(2時間) 第13回：中和の量的関係、中和滴定 事前学習：テキストの4章6～7節を読み、指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。(2時間) 事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。(2時間) 第14回：参加と還元の定義、酸化数 事前学習：テキストの5章1～2節を読み、指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。(2時間) 事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。(2時間) 第15回：酸化剤・還元剤、酸化還元滴定 事前学習：テキストの5章3～4節を読み、指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。(2時間) 事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。(2時間)
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 授業後に課した課題20%、および小テストの成績(期間中5回程度実施する)80%で評価する。定期試験は実施しない。
(7) 成績評価基準 ① 原子・分子の構造を理解し、それに基づいて元素の持つおおよその性質、化学結合を説明できるか。 ② モルの概念を理解し、モル濃度を基礎とした計算ができるか。 ③ 化学反応式をベースとした化学反応の量的関係について、自身で取り扱うことができるか。 ④ 酸化還元反応の成り立ちを理解し、そこにある基本的な数量関係を取り扱うことができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他(講義や補足事項を記録したビデオをMicrosoft Streamで閲覧可能とする) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他(課題のヒントになる練習問題の解説動画を作成配信する。) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト：『高校 とってもやさしい化学基礎 改訂版』 柿澤壽著、旺文社 2022年 参考書： 高校教科傍用の図説。例えば『ダイナミックワイド図説化学』東京書籍 等。 野島高彦著 『はじめて学ぶ化学』 化学同人 2012年 中川徹夫著 『化学の基礎～元素記号からおさらいする化学の基本』 化学同人 2010年 辻・中村編著 栄養科学シリーズNEXT『基礎化学』 講談社サイエンティフィック 2010年 田島編著 『基礎からのやさしい化学～ヒトの健康と栄養を学ぶために』 建帛社 2011年
(11) その他(受講上の注意)
・管理栄養士養成課程で必要と考えられる基本的な計算能力は、本科目における演習と多くの部分で重複する。このため、それが身についていない場合は授業外に時間を設定し、別途指導することがあるので留意すること。 ・別途開講する「分析化学」とのセットで、「有機化学」分野を除く化学の全体像を網羅することになるので、できる限り両方を受講することを強く勧める。 ・遅刻・欠席は、理解の妨げになるので慎むこと。 ・質問や相談はオフィスアワーに限らず随時受け付ける。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

基礎生物学 (Basic Biology)			担当教員	嶋田 敬介	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-D-2102	2 単位	1 年前期	講義		選択
<科目区分> 栄養・子ども学部健康栄養学科専門科目 基礎分野					
求める学習成果(教育目標)					
基礎研究および食品開発ができる能力					

(1) 授 業 の 内 容
本講義では、細胞、遺伝、進化・多様性など、他の科目を学ぶ上で役立つとともに、普段の生活と深い関わりを持っている生物学の基礎を学ぶ。内容については、生物学を専攻しない学生が理解できるよう、習熟状況に応じて調整しながら進める。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
生物学における基本的な用語の意味を理解し、細胞、遺伝、進化といった基本概念を相互に関連づけ、背景にある実験・観察結果を根拠として生物学的現象を説明できる。また、生物学の基礎知識が、普段の生活と深い関わりを持っていることを理解する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(Google Formsを用いて、理解度のチェック)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス・生物学の考え方 到達目標・評価方法の確認。 事前学習：生物学の共通テーマ(階層性、進化等)と科学的なものの見方についてテキストや参考図書等で調べ、疑問点や質問事項をまとめておく(2時間)。 事後学習：学習内容を復習し、当該内容に関する課題・レポートに取り組む(2時間)。 第2回：生命の化学的基盤と細胞の構造 事前学習：生命現象を支える化学的性質や生体分子、細胞の基本構造等についてテキストや参考図書等で調べ、疑問点や質問事項をまとめておく(2時間)。 事後学習：学習内容を復習し、当該内容に関する課題・レポートに取り組む(2時間)。 第3回：代謝とエネルギー 事前学習：代謝の全体像、ATPの役割や酵素の働き等についてテキストや参考図書等で調べ、疑問点や質問事項をまとめておく(2時間)。 事後学習：学習内容を復習し、当該内容に関する課題・レポートに取り組む(2時間)。 第4回：細胞呼吸(食物からのエネルギー獲得) 事前学習：解糖系～電子伝達系までの流れについてテキストや参考図書等で調べ、疑問点や質問事項をまとめておく(2時間)。 事後学習：学習内容を復習し、当該内容に関する課題・レポートに取り組む(2時間)。 第5回：光合成(光エネルギーからの有機物合成) 事前学習：光反応とカルビン回路、細胞呼吸との関係についてテキストや参考図書等で調べ、疑問点や質問事項をまとめておく(2時間)。 事後学習：学習内容を復習し、当該内容に関する課題・レポートに取り組む(2時間)。 第6回：細胞分裂 事前学習：細胞周期、有糸分裂・減数分裂等についてテキストや参考図書等で調べ、疑問点や質問事項をまとめておく(2時間)。 事後学習：学習内容を復習し、当該内容に関する課題・レポートに取り組む(2時間)。 第7回：遺伝様式 事前学習：メンデル遺伝、不完全優性、連鎖等についてテキストや参考図書等で調べ、疑問点や質問事項をまとめておく(2時間)。 事後学習：学習内容を復習し、当該内容に関する課題・レポートに取り組む(2時間)。 第8回：DNAの構造と機能 事前学習：DNAの構造と複製、突然変異等についてテキストや参考図書等で調べ、疑問点や質問事項をまとめておく(2時間)。 事後学習：学習内容を復習し、当該内容に関する課題・レポートに取り組む(2時間)。

第9回：遺伝子の発現と制御 事前学習：セントラルドグマ（転写・翻訳）についてテキストや参考図書等で調べ、疑問点や質問事項をまとめておく（2時間）。 事後学習：学習内容を復習し、当該内容に関する課題・レポートに取り組む（2時間）。 第10回：DNAテクノロジー 事前学習：PCRなどの基礎的なDNA技術や、医療や科学捜査への応用例についてテキストや参考図書等で調べ、疑問点や質問事項をまとめておく（2時間）。 事後学習：学習内容を復習し、当該内容に関する課題・レポートに取り組む（2時間）。 第11回：集団の進化 事前学習：自然選択や遺伝的浮動等についてテキストや参考図書等で調べ、疑問点や質問事項をまとめておく（2時間）。 事後学習：学習内容を復習し、当該内容に関する課題・レポートに取り組む（2時間）。 第12回：種分化と生命の多様化 事前学習：種分化、系統樹等についてテキストや参考図書等で調べ、疑問点や質問事項をまとめておく（2時間）。 事後学習：学習内容を復習し、当該内容に関する課題・レポートに取り組む（2時間）。 第13回：微生物、菌類・植物の進化と多様性 事前学習：微生物や菌類、植物の主要な系統・分類についてテキストや参考図書等で調べ、疑問点や質問事項をまとめておく（2時間）。 事後学習：学習内容を復習し、当該内容に関する課題・レポートに取り組む（2時間）。 第14回：動物の進化と多様性 事前学習：無脊椎動物と脊椎動物の主要な系統・分類についてテキストや参考図書等で調べ、疑問点や質問事項をまとめておく（2時間）。 事後学習：学習内容を復習し、当該内容に関する課題・レポートに取り組む（2時間）。 第15回：生態系と生物多様性 事前学習：生物多様性の階層構造や種間関係についてテキストや参考図書等で調べ、疑問点や質問事項をまとめておく（2時間）。 事後学習：学習内容を復習し、当該内容に関する課題・レポートに取り組む（2時間）。 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
課題・レポート（40％）、定期試験（60％）
(7) 成績評価基準
・レポートでは、事前学習で整理した疑問点を踏まえ、講義内容や配布資料・参考図書に基づき、生物学用語を適切に用いながら現象を説明できるか。また、学習内容を関連づけて体系的に理解し、論理的に記述できるかを評価する。 ・定期試験では、第1～15回の学習内容について、用語・概念の理解度と論理的な説明力を総合的に評価する。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■授業時 □仁大eラーニング □メール □その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■授業時 □仁大eラーニング □メール □その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■授業時 □仁大eラーニング □メール □その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて □定期試験時 □仁大eラーニング □メール ■その他（Teamsを利用してフィードバックする） 5) その他（個々の質問）に対するフィードバックについて □授業時 □仁大eラーニング □メール ■その他（Teamsを利用して個々にフィードバックする）
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

(10) テキスト、参考図書
参考図書 ・エッセンシャル・キャンベル生物学 ・『生物学 第2版』OpenStax (https://openstax.org/details/books/biology-2e) ・『マンガ 生物学に強くなる (ブルーバックス)』講談社
(11) その他(受講上の注意)
・授業時またはeラーニングシステムによって資料を配布する。 ・高校で生物(生物基礎・生物)を学ばなかった、あるいは十分に理解できなかった者は、可能な限り受講することが望ましい。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

分析化学 (Analytical Chemistry)			担当教員	尼子 克己	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-D-2103	2 単位	1 年後期	講義	選択	
<科目区分> 栄養・子ども学部健康栄養学科専門科目 基礎分野					
求める学習成果(教育目標)					
基礎研究および食品開発ができる能力					

(1) 授 業 の 内 容
高校化学（未修者、理解が十分でない者を含む）と大学との橋渡しを意識しながら、「基礎化学」に引き続いて化学変化の数量的解釈について講義する。さらに、生体に関わる成分を科学的に「計測する」方法について講義する。生化学・食品化学・栄養化学などで用いられる実験手法について、それらの原理、得られる情報、正確な測定を行うために注意すべき点などを重点的に採り上げる。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
基礎研究や食品開発における機器分析を、適切に行い解釈できるようになるための素養を身につける。具体的には、①化学反応における定量関係を理解している。②化学反応速度、および化学平衡の基礎理論について理解している。③各種滴定の原理を理解し、その利用に必要な計算ができる。④光の性質と、その分析化学における利用について理解している。⑤栄養科学・バイオサイエンス分野で頻用される分析化学の手法について、その概要と意義について説明できる。がその目標となる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☐ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：有効数字とその取扱い 事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（2時間） 事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間） 第2回：熱化学方程式と反応熱 事前学習：事前に配布した講義資料、および指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（2時間） 事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間） 第3回：ヘスの法則、結合エネルギー 事前学習：事前に配布した講義資料、および指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（2時間） 事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間） 第4回：反応速度 事前学習：事前に配布した講義資料、および指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（2時間） 事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間） 第5回：アレニウスの式 事前学習：事前に配布した講義資料、および指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（2時間） 事後学習：サブテキスト、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間） 第6回：化学平衡と平衡定数 事前学習：事前に配布した講義資料、および指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（2時間） 事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間） 第7回：平衡の計算、ル・シャトリエの原理 事前学習：事前に配布した講義資料、および指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（2時間） 事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間） 第8回：電離平衡とpH 事前学習：事前に配布した講義資料、および指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（2時間） 事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間）

第9回：緩衝液、ヘンダーソン・ハッセルバルヒの式 事前学習：事前に配布した講義資料、および指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（2時間） 事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間） 第10回：ギブスの自由エネルギー変化と反応が進む方向 事前学習：事前に配布した講義資料、および指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（2時間） 事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間） 第11回：酵素 事前学習：事前に配布した講義資料、および指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（2時間） 事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間） 第12回：コロイド溶液の性質、分離と濃縮・精製、クロマトグラフィー 事前学習：事前に配布した講義資料、および指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（2時間） 事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間） 第13回：種々の滴定：酸塩基・酸化還元・キレート・沈殿 事前学習：事前に配布した講義資料、および指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（2時間） 事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間） 第14回：光を使う分析法：光の性質・吸光度・ランベルト・ベールの法則 事前学習：事前に配布した講義資料、および指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（2時間） 事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間） 第15回：最新の生命科学分析法：質量分析・DNAシーケンサー 事前学習：事前に配布した講義資料、および指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（2時間） 事後学習：サブテキスト、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 授業後に課す課題および小テスト（5回程度実施する）50%と、定期試験50%により評価する。
(7) 成績評価基準 ①化学反応における定量関係を理解しているか。②化学反応速度、および化学平衡の基礎理論について理解しているか。③各種滴定の原理を理解し、その利用に必要な計算ができるか。④光の性質と、その分析化学における利用について理解しているか。⑤栄養科学・バイオサイエンス分野で頻用される分析化学の手法について、その概要と意義について説明できるか。⑥関数電卓やそれと同等の機能を持つソフトウェアを用いた、栄養科学・バイオサイエンス分野で用いられる計算を実行できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☒その他（講義や補足事項を記録したビデオをOffice365内で閲覧可能とする） 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☒その他（課題のヒントとなる練習問題の解説動画を作成し配信する。） 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

(10) テキスト、参考図書
授業資料となるプリントを配布する。 参考図書：『バイオ分析化学実験法』Kent他著、伊藤監訳、丸善株式会社、2006年 『絶対わかる分析化学』（絶対わかる化学シリーズ） 斎藤・坂本著、講談社サイエンティフィック、2007年 『分析化学』（化学ははじめの一步シリーズ5） 角田・渡辺著、化学同人、2014年 『コンパクト分析化学』 脇田久伸・横山拓史 三共出版 2013年 『すべて分析科学者がお見通しです！』 津村ゆかり他 技術評論社 2011年。 高校「化学」の教科書・参考書・問題集も理解の助けとなる。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

生命科学 (Life Science)			担当教員	高木 康之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-D-2105	2 単位	1 年後期	講義		選択
<科目区分> 栄養・子ども学部健康栄養学科専門科目 基礎分野					
求める学習成果(教育目標)					
基礎研究および食品開発ができる能力					

(1) 授 業 の 内 容
生命現象の基本的な仕組みや知識を習得し、科学的な事実や考察からその現象を理解し探求できる能力を養う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・細胞の基本的な構造と機能を説明することができる。 ・生体分子について説明することができる。 ・生命現象の基本的なしくみを分子レベルで理解することができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：生命のはじまり 事前学習：教科書 (p.1-p.9) を読み、質問事項をまとめておくこと (2 時間) 事後学習：講義内容をノートにまとめておくこと (2 時間) 第2回：細胞の基本的な構造と機能 事前学習：教科書 (p.10-p.18) を読み、質問事項をまとめておくこと (2 時間) 事後学習：講義内容をノートにまとめておくこと (2 時間) 第3回：生体分子 I ① (アミノ酸とタンパク質) 事前学習：教科書 (p.19-p.32) を読み、質問事項をまとめておくこと (2 時間) 事後学習：講義内容をノートにまとめておくこと (2 時間) 第4回：生体分子 I ② (核酸) 事前学習：教科書 (p.33-p.38) を読み、質問事項をまとめておくこと (2 時間) 事後学習：講義内容をノートにまとめておくこと (2 時間) 第5回：生体分子 II ① (糖質) 事前学習：教科書 (p.39-p.55) を読み、質問事項をまとめておくこと (2 時間) 事後学習：講義内容をノートにまとめておくこと (2 時間) 第6回：生体分子 II ② (脂質) 事前学習：教科書 (p.56-p.66) を読み、質問事項をまとめておくこと (2 時間) 事後学習：講義内容をノートにまとめておくこと (2 時間) 第7回：タンパク質の構造と機能／小試験① 事前学習：教科書 (p.67-p.81) を読み、質問事項をまとめておくこと (2 時間) 事後学習：講義内容をノートにまとめておくこと (2 時間) 第8回：細胞内のエネルギー代謝① (ATPと酸化還元補酵素) 事前学習：教科書 (p.89-p.94) を読み、質問事項をまとめておくこと (2 時間) 事後学習：講義内容をノートにまとめておくこと (2 時間) 第9回：細胞内のエネルギー代謝② (糖の酸化的分解とATP生産) 事前学習：教科書 (p.95-p.100) を読み、質問事項をまとめておくこと (2 時間) 事後学習：講義内容をノートにまとめておくこと (2 時間) 第10回：細胞内のエネルギー代謝③ (β酸化) 事前学習：教科書 (p.104-p.106) を読み、質問事項をまとめておくこと (2 時間) 事後学習：講義内容をノートにまとめておくこと (2 時間) 第11回：細胞の増殖① (細胞死、がん)／小試験② 事前学習：教科書 (p.145-p.153) を読み、質問事項をまとめておくこと (2 時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと (2 時間) 第12回：細胞の増殖② (クローン動物) 事前学習：教科書 (p.154-p.156) を読み、質問事項をまとめておくこと (2 時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと (2 時間)

第13回：細胞のさまざまな機能①（生体防御と免疫①：免疫） 事前学習：教科書（p.167-p.172）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（2時間） 第14回：細胞のさまざまな機能②（生体防御と免疫②：免疫反応が引き起こす病気） 事前学習：教科書（p.173-p.178）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（2時間） 第15回：生物の進化と多様性 事前学習：教科書（p.179-p.187）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 定期試験（70%）、課題レポート（20%）、平常点（10%） （平常点は、授業への参加状況、受講態度を総合して判断する）
(7) 成績評価基準 ・細胞の基本的な構造と機能を説明することができるか。 ・生体分子について説明することができるか。 ・生命現象の基本的なしくみを分子レベルで理解できているか。
(8) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書 畠山智光、小田達也・『はじめて学ぶ生命科学の基礎』・化学同人・2024年
(11) その他（受講上の注意） ・課題レポートは、提出期限を守ること。期限後の提出は減点の対象となる（提出期限後は受領しない場合がある）。 ・理解度に応じて授業計画が変更されることがある。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

解剖生理学 (Anatomical Physiology)			担当教員	米田 誠	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-A-2110	2 単位	1 年前期	講義	必修	
<科目区分> 栄養・子ども学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野					
求める学習成果(教育目標)					
栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力					

(1) 授 業 の 内 容
正常な人体のしくみを、その構成単位である細胞レベルから組織、器官、器官系レベルまで、構造と機能との密接な関連のもとに、体系的に理解できるよう教授する。個体として人体が行う食事、運動、休養などの基本的な生活活動の機構、並びに環境変化に対する対応機構も講義する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
ヒトが食物を摂り、それを体内に取り込み、身体形成、生命の維持に利用してゆく過程を中心にして、関連する人体の構造と機能を理解し、説明することができる。
(3) アクティブラーニング
☐課題解決型学習(PBL) ☐討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐実習、フィールドワーク ☐実験、実技 ☐その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：細胞 事前学習：授業前にテキスト(解剖生理学 第1章1-5)を読み質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事(2時間) 第2回：組織と器官 事前学習：授業前にテキスト(解剖生理学第1章6.7)を読み質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。(2時間) 第3回：内部環境の恒常性(ディスカッション) 事前学習：授業前に配布された資料の空所を確認し、質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。テキストも参照する事。(2時間) 第4回：消化器系の構造と機能 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。(2時間) 第5回：循環器系の構造と機能 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。(2時間) 第6回：腎・尿路系の構造と機能 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。(2時間) 第7回：内分泌器官と分泌ホルモン 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。(2時間) 第8回：神経系の構造と機能 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。(2時間)

第9回：感覚器系（聴覚、味覚、嗅覚、触覚） 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第10回：呼吸器系の構造と機能 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。（2時間） 第11回：運動器系の構造と機能 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。（2時間） 第12回：生殖器系の構造と機能 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。（2時間） 第13回：血液・造血器・リンパ系の構造と機能 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。（2時間） 第14回：免疫と生体防御 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：授業前に第1回から第14回までに配布された資料、問題を見直し、不明な点をまとめておく事（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第16回：定期試験	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
定期試験（70%）、平常点（30%） 割合は授業形態、試験形態により変わる事があります。 （平常点は、授業への参加状況・受講態度・小テストの成績等を総合して判断します）	
(7) 成績評価基準	
ヒトが食物を摂り、それを体内に取り込み、身体の形成、生命の維持に利用してゆく過程を中心にして、関連する人体の構造と機能を理解し、説明することができる。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	
経歴：(医師) 実務経験と授業内容との関連性：(病院での実務経験を活かし、人体の構造と機能がどのように密接に関連しているのかを理解できるように教授する。また正常な個体として人体が行う食事、運動、休養などの基本的な生活活動の機構、並びに環境変化に対する対応機構も実際の傷病者での回復経験等もふまえて解説する。)	

(10) テキスト、参考図書
サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 解剖生理学・病理学 第一出版 栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能 改訂第3版 羊土社 必要に応じて、講義時に資料を配布する。
(11) その他(受講上の注意)
○栄養士免許(必修) ○管理栄養士国家試験受験資格(必修) 講義中の私語は厳重に禁止し、減点対象とする。疑問点や不明点があればすぐに質問すること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

解剖生理学実験 (Experiments in Anatomical Physiology)			担当教員	鳴瀬 碧	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-E-2111	1 単位	1 年後期	実験		必修
<科目区分> 栄養・子ども学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力					

(1) 授 業 の 内 容
生体組織の形態と生体機能についての学習と理解 人体の構造と機能について組織観察、血液、呼吸および循環に関する実験、消化実験、腎機能に関する実験を通して理解する。 動物の生命維持および代謝産物の生産活動に対する制御機構や栄養素の生体における生理作用について理解する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ 人体の構造について細胞単位から系統的に説明ができる。 ・ 各器官系の構造と機能について説明ができる。 ・ 消化吸収のしくみについて説明ができる。 ・ 成長と栄養素の関わりについて説明ができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンスおよび人体構造の系統的理解・人体構造に関する(講義とDVD視聴による系統的理解) 第2回：組織の観察①(胃・十二指腸)(グループワーク、実験、実技) 第3回：組織の観察②(顎下腺・脾臓)(グループワーク、実験、実技) 第4回：消化に関する実験①(唾液腺の種類によるアミラーゼ活性の差)(グループワーク、実験、実技) 第5回：消化に関する実験②(胃液と脾液によるたんぱく質と脂質の消化)(グループワーク、実験、実技) 第6回：呼吸と循環に関する実験(体力テスト・運動負荷試験) 第7回：ラットの成長試験①(ガイダンス・飼料作成・解剖・臓器の観察)(グループワーク、実験、実技) 第8回：ラットの成長試験②(まとめ)、前半の総理解とディスカッション(グループワーク、討議) 第9回：組織の観察③(横紋筋・血球)(グループワーク、実験、実技) 第10回：血液に関する実験①(血球数・ヘモグロビン濃度・ヘマトクリット値)(グループワーク、実験、実技) 第11回：血液に関する実験②(血液凝固と線溶現象)(グループワーク、実験、実技) 第12回：組織の観察④(肝臓・腎臓)(グループワーク、実験、実技) 第13回：尿に関する実験(グループワーク、実験、実技) 第14回：組織の観察⑤(生殖器)(グループワーク、実験、実技) 第15回：福井大学医学部との連携授業(人体の機能と構造の総理解)(見学実習、グループワーク、討議) 第16回：定期試験 予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、あらかじめ実験手順を確認し、疑問点を考えておくこと。復習については、授業中に指示する。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
定期試験および授業中の復習テスト(30%)、レポート(50%)、平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況、授業中の態度、動物飼育時の当番活動も含めて総合評価する。)

(7) 成績評価基準
・人体の構造と機能について細胞単位から系統的に理解できているか。 ・筋・骨格系、神経系、消化器系、血液・血管系、循環器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系について、各々の器官系を形成する器官の構造と機能について理解できているか。 ・運動時の身体機能の変化、恒常性の維持について理解できているか。 ・栄養素の消化吸収のしくみについて理解できているか。 ・成長と栄養素の関わりについて理解できているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
青峰正裕他編『イラスト解剖生理学実験 第3版』 東京数学社 2018年 志村二三夫他編『栄養科学イラストレイテッド演習版：解剖生理学ノート－人体の構造と機能－(改訂第2版)』 羊土社 2014年(ワークブック) その他、必要に応じて資料等をプリントして配布する。
(11) その他(受講上の注意)
・実験室内では白衣および上履き着用など注意事項を必ず守ること。 ・実験は2～3名のグループで行なう。 ・組織の観察では、指定のスケッチブック(500円程度)を使用すること。(事前に購入の指示有り) ・色鉛筆、関数電卓を用意すること。 ・毎回、1年生前期開講の「解剖生理学」のテキストを持参すること。 ・4月または5月に体力測定を実施し、第3回の運動生理に関する実験の基礎データとする。実施日は新入生ガイダンス時または基礎演習の時間に連絡する。 ・その他、各回の実験で準備が必要な事項に関しては、第1回のガイダンスで指示する。 ・課題レポートなどは、提出期限を守ること。提出遅延は減点の対象となる。また、提出期限後は受領しない場合があるので注意すること。 ・栄養士免許(必修) ・管理栄養士国家試験受験資格(必修)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

病理学 (Pathology)			担当教員	米田 誠	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-A-2116	2 単位	1 年後期	講義	選択	
<科目区分> 栄養・子ども学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野					
求める学習成果(教育目標)					
栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力					

(1) 授 業 の 内 容
総論的事項として炎症、腫瘍などの発病機構および疾患診断・治療の概要を理解し、各論的事項では、各臓器、各器官別の疾病の成因、病態、診断、治療、予防等を体系的に理解できるように教授する。あわせて、各種疾病に対する食事療法の意義および応用についての知識を深めるよう講義する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
各臓器、各器官別の疾病の発症機構、病態、診断を理解し、臨床栄養学を学ぶための基礎を身に付け、管理栄養士国家試験に対応できる知識と考え方を習得する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：加齢・疾患に伴う変化(加齢、疾患に伴う変化、個体の死) 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第2回：疾患診断の概要(問診・診察、主な症候、臨床検査) 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第3回：疾患治療の概要(治療計画、治療の方法、末期患者の治療) 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第4回：糖尿病 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第5回：脂質異常症、高尿酸血症・痛風 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第6回：消化器系疾患 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第7回：循環器系疾患 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間) 第8回：腎・尿路系疾患 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)

第9回：内分泌系疾患 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第10回：神経系疾患 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第11回：呼吸器系疾患 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第12回：運動器系疾患 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第13回：生殖器系・血液系疾患 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第14回：免疫・アレルギー系疾患 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第15回：感染症 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 定期試験（70%）、平常点（30%） （平常点は、授業への参加状況・受講態度・小テストの成績等を総合して判断します）
(7) 成績評価基準 疾患に伴う変化、各臓器、各器官別の疾病の発症機構、病態、診断、および各種疾病を理解し、説明できる。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 解剖生理学・病理学 必要に応じて、講義時に資料を配布する。

(11) その他(受講上の注意)
○管理栄養士国家試験受験資格(必修) 講義中の私語は厳重に禁止し、減点対象とする。疑問点や不明点があればすぐに質問すること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

微生物学 (Microbiology and Immunology)			担当教員	野村 卓正	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-D-2119	2 単位	1 年前期	講義		選択
<科目区分> 栄養・子ども学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野					
求める学習成果(教育目標)					
基礎研究および食品開発ができる能力					

(1) 授 業 の 内 容
環境中に無数に存在する微生物(細菌・ウイルス・真菌・原虫など)という生命の形態や性状を理解する。 微生物がヒトの健康や生活に及ぼす有害性と有益性について理解する。 微生物感染宿主における生体防御(免疫)応答について理解する。 食品の変質における微生物の作用を理解する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
管理栄養士養成課程において「微生物」について学ぶ【意義】を理解する。 【総論Ⅰ】 ①-1 生物の進化と多様性を理解し、比較生物学的な見地から生物の体のつくりとはたらきを概説できる。 ①-2 原核細胞と真核細胞の特徴を説明できる。 ②細菌の微生物学的特徴(構造と増殖条件)を説明できる。 ③真菌(カビ類・酵母類・キノコ類)の微生物学的特徴(構造と増殖条件)を概説できる。 ④ウイルスの微生物学的性状(構造と増殖条件)を説明できる。 ⑤寄生虫の微生物学的性状(分類と生活環)を説明できる。 【総論Ⅱ】 ⑥微生物の増殖条件を説明できる。 ⑦微生物の代謝(解糖系)を説明できる。 ⑧微生物の代謝(TCA回路)を説明できる。 ⑨微生物の代謝(発酵系)を説明できる。 【食品微生物学】 ⑩主な食品群について主要な一次汚染微生物を列挙し、取扱い上留意すべき点を説明できる。 ⑪食品の変質(腐敗)における微生物の作用を説明できる。 ⑫食品の変質(発酵)における微生物の作用を説明できる。 ⑬主な発酵食品について、原料と発酵微生物の組合せを説明できる。 【臨床微生物学】 主な感染症の要因となる病原体およびその感染経路を分類できる。 感染経路ごとの感染予防法を説明できる。 各種微生物(真菌・細菌・ウイルス・寄生虫)の病原性とそれによって生じる病態を概説できる。 細菌の外毒素と内毒素について説明できる。 原虫類・蠕虫類の分類および生活史(ライフサイクル)、感染経路と感染疫学的意義を概説できる。 生体防御機構における免疫系の特徴(特異性、多様性、寛容、記憶)を概説できる。 免疫反応に関わる組織と細胞および分子群を説明できる。 自然免疫と獲得免疫の違いを説明できる。 微生物感染症における免疫応答の特徴を概説できる。 免疫寛容の維持機構とその破綻によるアレルギー発症の機序を概説できる。 アナフィラキシーの症候と診断・治療法を概説できる。 炎症の分類、組織形態学的変化と経時的変化を概説できる。 エンドトキシンショックと全身性炎症性反応症候群(SIRS)について概説できる。 下痢症、食中毒を起こす病原体を列挙し、診断と治療の基本を説明できる。 院内感染の病因となる病原体、薬剤耐性菌を列挙し、対策を説明できる。 日和見感染症を概説できる。 新興感染症・再興感染症および輸入感染症を列挙できる。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他

(4) 授業の計画及び授業外の学習方法

- 第1回：微生物学序論：微生物と食品・感染症との関わり
事前学習：第1章A (p1～p4) を読み、「微生物学の歴史」の概要を把握する。(1時間)
事後学習：微生物と人間生活との関わりについてまとめる。(2時間)
学習セルフマネジメント・シートに基づき、当該科目を履修する「目的」と「目標」を明確に把握する。(1時間)
- 第2回：微生物学総論①：／【小試験①】
事前学習：第1章A (p1～p4) を読み、「微生物の種類と分類」の概要を把握する。(1時間)
事後学習：【小試験①】で不正解だった問題を中心にノートを加筆し、満点になるまで繰り返し受験する。(1時間)
「生物の進化と微生物の分類」について整理し、ノートにまとめる。(2時間)
- 第3回：微生物学総論②：真正細菌(分類と構造)／【小試験②】
事前学習：第2章B (p12～p13)／C (p21～22) を読み、「真正細菌の構造」の概要を把握する。(1時間)
事後学習：【小試験②】で不正解だった問題を中心にノートを加筆し、満点になるまで繰り返し受験する。(1時間)
「真正細菌の分類と構造」について整理し、ノートにまとめる。(2時間)
- 第4回：微生物学総論③：真菌(カビ・酵母)／【小試験③】
事前学習：第2章B (p13～p15)／C (p22) を読み、「真菌の構造」の概要を把握する。(1時間)
事後学習：【小試験③】で不正解だった問題を中心にノートを加筆し、満点になるまで繰り返し受験する。(1時間)
「真菌(カビ・酵母)の構造と生活環」を類型化し、ノートにまとめる。(2時間)
- 第5回：微生物学総論④：ウイルス／【小試験④】
事前学習：第2章B (p16～p17)／C (p23) を読み、「ウイルスの増殖」の概要を把握する。(1時間)
事後学習：【小試験④】で不正解だった問題を中心にノートを加筆し、満点になるまで繰り返し受験する。(1時間)
「ウイルスの増殖方式」を類型化し、ノートにまとめる。(2時間)
- 第6回：微生物学総論⑤：微生物の代謝①(基礎知識)／【小試験⑤】
事前学習：第2章D (p27～p28) を読み、「代謝系」の概要を把握する。(1時間)
事後学習：【小試験⑤】で不正解だった問題を中心にノートを加筆し、満点になるまで繰り返し受験する。(1時間)
「代謝系」について整理し、ノートにまとめる。(2時間)
- 第7回：微生物学総論⑥：微生物の代謝②(解糖系)／【小試験⑥】
事前学習：第2章D (p27～p28) を読み、「解糖系」の概要を把握する。(1時間)
事後学習：【小試験⑥】で不正解だった問題を中心にノートを加筆し、満点になるまで繰り返し受験する。(1時間)
「解糖系」について整理し、ノートにまとめる。(2時間)
- 第8回：微生物学総論⑦：微生物の代謝③(TCA回路・電子伝達系)／【小試験⑦】
事前学習：第2章D (p28～p30) を読み、「TCA回路・電子伝達系」の概要を把握する。(1時間)
事後学習：【小試験⑦】で不正解だった問題を中心にノートを加筆し、満点になるまで繰り返し受験する。(1時間)
「TCA回路・電子伝達系」について整理し、ノートにまとめる。(2時間)
- 第9回：微生物学総論⑧：微生物の代謝④(発酵系)／【小試験⑧】
事前学習：第2章D (p27～p28) を読み、「発酵系」の概要を把握する。(1時間)
事後学習：【小試験⑧】で不正解だった問題を中心にノートを加筆し、満点になるまで繰り返し受験する。(1時間)
「発酵系」について整理し、ノートにまとめる。(2時間)
- 第10回：食品微生物学①：食品の変質(腐敗)／【小試験⑨】
事前学習：第6章A (p125～p130) を読み、「食品の腐敗・変敗」の概要を把握する。(1時間)
事後学習：【小試験⑨】で不正解だった問題を中心にノートを加筆し、満点になるまで繰り返し受験する。(1時間)
「腐敗における食品成分の変化」を類型化し、ノートにまとめる。(2時間)
- 第11回：食品微生物学②：食品の変質(発酵)／【小試験⑩】
事前学習：第6章C (p133～p145) を読み、「微生物利用食品」の概要を把握する。(1時間)
事後学習：【小試験⑩】で不正解だった問題を中心にノートを加筆し、満点になるまで繰り返し受験する。(1時間)
「発酵における食品成分の変化」を類型化し、ノートにまとめる。(2時間)

第12回：食品微生物学③：発酵食品／【小試験⑪】

事前学習：第6章C (p133～p145) を読み、「微生物利用食品」の概要を把握する。(1時間)

事後学習：【小試験⑪】で不正解だった問題を中心にノートを加筆し、満点になるまで繰り返し受験する。(1時間)

「発酵の種類と分類」を類型化し、ノートにまとめる。(2時間)

第13回：食品微生物学④：食品中の微生物の生育因子／【小試験⑫】

事前学習：第2章C (p18～p20) を読み、「微生物の生育因子」の概要を把握する。(1時間)

事後学習：【小試験⑫】で不正解だった問題を中心にノートを加筆し、満点になるまで繰り返し受験する。(1時間)

「微生物の生育因子」を整理し、ノートにまとめる。(2時間)

第14回：グループ課題①：発酵食品

事前学習：【グループ課題】で調査対象とする発酵食品についてテーマ検討する。(1時間)

事後学習：【グループ課題】をグループで検討する。(3時間)

第15回：グループ課題②：相互評価(グループ間)【討議】

事前学習：【グループ課題】をグループでまとめる。(1時間)

事後学習：【グループ課題】の改善点を検討し、再提出する。(3時間)

第16回：【定期試験】

※授業計画は、学年暦(休日)、進捗状況等により変更する可能性があります。

①小試験は、「自筆ノート」の持込みを認めますので、毎週、授業およびテキストの内容をまとめるよう努めてください。

②グループ課題：「発酵食品」

グループ課題は【課題解決型学習 (PBL)】とし、最終的にグループ単位で【成果物】を作成します。

課題：「発酵食品(製品紹介)」

授業と並行して、主に授業外の自主学習として【グループワーク】形式で取り組んでください。

(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕

原則として「面接授業」を行います。

ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。

遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

(6) 成績評価方法

① 平常点 : 60% (【小試験】(各4%) x15回の合算で評価)

② グループ課題 : 15% (【課題成果物】「ルーブリック評価表」で相互評価)

③ 定期試験 : 25% (【筆記試験】 自筆ノートのみ【持込可】)

※授業の進捗状況により配分比率が修正される場合があります。

※各評価区分で50%以上の得点率が必要です。

(7) 成績評価基準

管理栄養士養成課程において「微生物」について学ぶ【意義】を理解しているか。

【総論Ⅰ】

①-1 生物の進化と多様性を理解し、比較生物学的な見地から生物の体のつくりとはたらきを概説できるか。

①-2 原核細胞と真核細胞の特徴を説明できるか。

②細菌の微生物学的特徴(構造と増殖条件)を説明できるか。

③真菌(カビ類・酵母類・キノコ類)の微生物学的特徴(構造と増殖条件)を概説できるか。

④ウイルスの微生物学的性状(構造と増殖条件)を説明できるか。

⑤寄生虫の微生物学的性状(分類と生活環)を説明できるか。

【総論Ⅱ】

⑥微生物の増殖条件を説明できるか。

⑦微生物の代謝(解糖系)を説明できるか。

⑧微生物の代謝(TCA回路)を説明できるか。

⑨微生物の代謝(発酵系)を説明できるか。

【食品微生物学】

⑩主な食品群について主要な一次汚染微生物を列挙し、取扱い上留意すべき点を説明できるか。

⑪食品の変質(腐敗)における微生物の作用を説明できるか。

⑫食品の変質(発酵)における微生物の作用を説明できるか。

⑬主な発酵食品について、原料と発酵微生物の組合せを説明できるか。

【臨床微生物学】

主な感染症の要因となる病原体およびその感染経路を分類できるか。

感染経路ごとの感染予防法を説明できるか。

各種微生物（真菌・細菌・ウイルス・寄生虫）の病原性とそれによって生じる病態を概説できるか。

細菌の外毒素と内毒素について説明できるか。

原虫類・蠕虫類の分類および生活史（ライフサイクル）、感染経路と感染疫学的意義を概説できるか。

生体防御機構における免疫系の特徴（特異性、多様性、寛容、記憶）を概説できるか。

免疫反応に関わる組織と細胞および分子群を説明できるか。

自然免疫と獲得免疫の違いを説明できるか。

微生物感染症における免疫応答の特徴を概説できるか。

免疫寛容の維持機構とその破綻によるアレルギー発症の機序を概説できるか。

アナフィラキシーの症候と診断・治療法を概説できるか。

炎症の分類、組織形態学的変化と経時的変化を概説できるか。

エンドトキシンショックと全身性炎症性反応症候群（SIRS）について概説できるか。

下痢症、食中毒を起こす病原体を列挙し、診断と治療の基本を説明できるか。

院内感染の病因となる病原体、薬剤耐性菌を列挙し、対策を説明できるか。

日和見感染症を概説できるか。

新興感染症・再興感染症および輸入感染症を列挙できるか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1) 授業時の課題に対するフィードバックについて

☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☒ その他（次回授業時の小試験返却時に解答・解説を実施）

2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて

☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（事前学習で作成したノート持込可能な小試験を実施）

3) 小レポートに対するフィードバックについて

☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☒ その他（提出したグループ課題レポートを授業時に相互評価）

4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて

☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他

5) その他

☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

(10) テキスト、参考図書

テキスト：

①『食品微生物学の基礎（第2版）』 講談社 2024年 定価¥3,080ー（税込）

参考図書：

①『病気が見える⑥：免疫・膠原病・感染症（第2版）』 メディックメディア社 2018年 定価¥3,850ー（税込）

②『ゼロからわかる栄養系微生物学』 南江堂 2021年 定価¥3,080ー（税込）

③『イラストでわかる微生物学超入門（改訂3版）』 南山堂 2023年 定価¥2,970ー（税込）

④『生命科学（改訂第3版）』 羊土社 2009年

⑤『医科プロバイオティクス学』 シナジー 2009年

⑥『イラスト感染症・微生物学』 羊土社 2011年

⑦『ブラック微生物学（第6版）』 丸善

(11) その他(受講上の注意)

管理栄養士国家試験受験資格（必修）

授業開始時に出欠状況を確認する。

遅刻は、授業の1/3（30分）以内に申し出れば認め、それ以上の大幅な遅刻は欠席として扱う。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

微生物学実験 (Experiments in Microbiology)			担当教員	野村 卓正
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
HN-E-2120	1 単位	1 年後期	実験	選択
<科目区分> 栄養・子ども学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野				
求める学習成果(教育目標)				
コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力				

(1) 授 業 の 内 容
微生物の生態や微生物によって引き起こされる種々の現象を観察するための基本的な技法の原理を理解する。 食品衛生検査および食品微生物操作に必要な微生物学的技術を習得する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
管理栄養士養成課程において、微生物について学ぶ【意義】を理解する。 様々な環境（土壌・水中等）あるいは生物（食物）の体表面に微生物群が常在していることを理解する。 微生物を殺滅する各種の滅菌法および消毒法の原理と効果を理解する。 微生物による汚染防止法の原理と効果を理解し、検体の無菌的操作法を修得する。 食品に付着あるいは内在している微生物を分離・培養し、検出する方法の原理を理解する。 各種微生物（真菌・細菌・ウイルス・寄生虫等）の生育要件を把握し、培養できる。 各種微生物（真菌・細菌・寄生虫卵等）を適切な染色法を用いて顕微鏡下で観察できる。 主な衛生指標微生物の公衆衛生上の意義とその検査法（公定法および迅速簡易法）を理解する。 本邦における「飲用的水」の法律上の定義と各検査項目の意味を理解する。 発酵における微生物の働きを理解する。 腸内微生物が摂取した食品の影響により変化することを理解する。 抗菌活性のある薬剤や化合物の微生物への作用機序および薬剤耐性の機序を理解する。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習（PBL） ☒ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：実験1：環境・体表面からの菌の分離①（培地の作成） 第2回：実験1：環境・体表面からの菌の分離②（検体採取と分離培養） 第3回：実験1：環境・体表面からの菌の分離③（分離した細菌のグラム染色） 第4回：実験1：環境・体表面からの菌の分離④（顕微鏡観察） 第5回：実験1：【小試験①】／【実験1レポート試験】の説明 事後学習：実験1の内容についてノートにまとめる。細菌および真菌の分類や特徴についてまとめる。 【小試験①】の誤答問題について確認し、ノートを修正する。 【実験1レポート試験】をまとめて提出する。
第6回：実験2：河川水・飲用水の微生物検査①（検水処理・培養） 第7回：実験2：河川水・飲用水の微生物検査②（集落計測・結果判定） 【小試験②】／【実験2レポート試験】の説明 事後学習：実験2の内容についてノートにまとめる。水質基準（安全基準）について調査する。 【小試験②】の誤答問題について確認し、ノートを修正する。 【実験2レポート試験】をまとめて提出する。
第8回：実験3：食材／加工食品の微生物検査①（検体処理・培養） 第9回：実験3：食材／加工食品の微生物検査②（集落計測・結果判定） 【小試験③】／【実験3レポート試験】の説明 事後学習：実験3の内容についてノートにまとめる。食品の成分規格（安全基準）について調査する。 【小試験③】の誤答問題について確認し、ノートを修正する。 【実験3レポート試験】をまとめて提出する。
第10回：実験4：食物アレルギー検査①（講義）

第11回：実験4：食物アレルギー検査②（食物アレルゲン検査）

【小試験④】／【実験4レポート試験】の説明

事後学習：実験4の内容についてノートにまとめる。

【小試験④】の誤答問題について確認し、ノートを修正する。

【実験4レポート試験】をまとめて提出する。

第12回：グループ課題：

事後学習：グループ学習で【課題成果物】を作成する。【討議】

第13回：実験5：食餌による腸内微生物叢の変化①（説明・データ提示）

第14回：実験5：食餌による腸内微生物叢の変化②（レポート作成）

第15回：実験5：【小試験⑤】／【実験5レポート試験】の説明

事後学習：実験5の内容についてノートにまとめる。代表的な腸内細菌や代謝物について調査する。

【小試験⑤】の誤答問題について確認し、ノートを修正する。

【実験5レポート試験】をまとめて提出する。

実験1～5はすべて、【課題解決型学習】を【実験・実技】形式で実施します。

【課題成果物】は、事後学習として【グループワーク】形式でグループ毎に作成してください。

第16回：定期試験

※授業計画は、学年暦（休日等）、気候や進捗状況等により変更する可能性があります。

実験報告書（レポート）の作成にあたっては、第一に「精確な観察」、第二に「論理的な考察」に留意して記述してください。

① なぜそのような観察結果が得られたのか？

② 観察された事実・現象から何が示唆されるか？

③ どのような仮説を構築すれば、それらの観察結果を矛盾なく説明できるのか？

④ そして、どのような検証実験を行えば、その仮説の真偽を検証できるのか？

について固定観念を排してすなおに「考察」しながら「結論」を導いてください。

参考図書は、授業の際にも紹介します。

(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕

原則として「面接授業」を行います。

ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。

遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

(6) 成績評価方法

①平常点：30%（【基礎試験】（各6%）x5回）

②実験レポート：30%（【レポート試験】（各6%）x5回）

③グループ課題：15%（【課題成果物】の相互評価15%）

④定期試験：25%（【期末試験】（25%））

※受験・提出は授業への出席が前提

※各評価区分で50%以上の得点率が必要です。

欠席回数が5回を上回った場合（6回以上欠席）、単位認定の資格を失う。

欠席した場合、個別の【実験レポート】提出をもって補講とし、【小試験】の受験を認める。

【課題成果物】の教員／相互評価には、「ルーブリック評価表」を用いる。

(7) 成績評価基準

管理栄養士養成課程において、微生物について学ぶ意義を説明できるか。

様々な環境（土壌・水中等）あるいは生物（食物）の体表面に微生物群が常在していることを説明できるか。

微生物を殺滅する各種の滅菌法および消毒法の原理と効果を説明できるか。

微生物による汚染防止法の原理と効果を理解し、検体の無菌的操作法を修得しているか。

食品に付着あるいは内在している微生物を分離・培養し、検出する方法の原理を説明できるか。

各種微生物（真菌・細菌・ウイルス・寄生虫等）の生育要件を把握し、培養できるか。

各種微生物（真菌・細菌・寄生虫卵等）を適切な染色法を用いて顕微鏡下で観察できるか。

主な衛生指標微生物の公衆衛生上の意義とその検査法（公定法および迅速簡易法）を説明できるか。

本邦における「飲用的水」の法律上の定義と各検査項目の意味を説明できるか。

発酵における微生物の働きを説明できるか。

腸内微生物が摂取した食品の影響により変化することを説明できるか。

抗菌活性のある薬剤や化合物の微生物への作用機序および薬剤耐性の機序を説明できるか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☒ その他(理解度確認小試験実施後に解答・解説を実施) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☒ その他(提出したグループ課題レポートを授業時に相互評価) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト： ① 配布資料(Teamsで配信) 参考図書： ① 『病気が見える⑥：免疫・膠原病・感染症(第2版)』 メディックメディア社 2018年 定価¥3,850- (税込) ② 『食品微生物学の基礎(第2版)』 講談社 2024年 定価¥3,080- (税込) ③ 熊谷進・山本茂貴編『食の安全とリスクアセスメント』 中央法規 2004年 ④ 『大量調理施設 衛生管理のポイント(7訂)』 中央法規 2021年 定価¥2,750- (税込) ⑤ 『ゼロからわかる栄養系微生物学』 南江堂 2021年 定価¥3,080- (税込) ⑥ 『イラストでわかる微生物学超入門(改訂3版)』 南山堂 2023年 定価¥2,970- (税込)
(11) その他(受講上の注意)
管理栄養士国家試験受験資格(必修) 毎回の実験への出席(実験作業への参加)を重視し、授業開始時に出席状況を確認します。 遅刻は、授業の1/3(45分)以内に申し出れば認め、それ以上の大幅な遅刻は欠席として扱います。 実験用白衣および靴を持参しなかった場合、各1点減点します。 授業中の私語・携帯電話(スマートフォン)の使用等で説明を聞かず実験に失敗した場合、1点減点します。 実験終了後、火元点検に不備があれば、グループ全員から1点減点します。 安全を期するために白衣を着用し、正確な実験操作を妨げるおそれのある華美な服装は慎むこと。実験は、ガス・火・薬品を使用し危険が伴うため、安全確保の決まりごとをよく理解するよう努め、これを遵守してください。 故意に安全衛生上の危険行為をとる者には、実験停止・室外退去の措置を取り、さらに単位を認定しないこともあります。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

食品学総論 (Food Science and Food Chemistry)			担当教員	浦本 裕美	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-A-2121	2 単位	1 年前期	講義	必修	
<科目区分> 栄養・子ども学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野					
求める学習成果(教育目標)					
栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力					

(1) 授 業 の 内 容
食品の基本的知識や特性を食品の一次機能成分である栄養成分を中心に網羅的に解説する。食品中の主要栄養成分の化学構造と成分の化学的特性とそれに基づく化学変化がさまざまな食品の特徴になっていることを理解してもらうこと、また、今後履修する専門科目にその知識がつけられるようにすることがねらいである。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
管理栄養士国家試験の「食べものと健康」領域の主要科目の一つであるとともに栄養管理を行える能力を身につける上でもっとも基本となる科目の一つである。食品の分類、各食品群の栄養的特徴など食品の基本的知識を理解するとともに、食品中の主要な栄養成分(食品の一次機能成分)の化学構造と化学的特性を体系的に理解し、食品の加工・貯蔵・調理過程などで生じるそれら成分の化学変化を理解して、栄養管理を行える基本能力を養成する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：食品とは、食品の分類 事前学習：テキストp13～15を読み、質問項目についてまとめておくこと。(2時間) 事後学習：食品の分類についての課題プリントを完成させておくこと。(2時間) 第2回：食品成分表：構成と内容 事前学習：テキストp16～36を読み、質問項目についてまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。(2時間) 第3回：水の構造と性質 事前学習：テキストp37～43を読み、質問項目についてまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。(2時間) 第4回：タンパク質(1) アミノ酸の構造と分類 事前学習：テキストp63～70を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。(2時間) 第5回：タンパク質(2) アミノ酸の性質、ペプチド 事前学習：テキストp70～72を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。(2時間) 第6回：タンパク質(3) タンパク質の構造・種類・栄養価 事前学習：テキストp72～80を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。(2時間) 第7回：炭水化物(1) 単糖類の構造と性質 事前学習：テキストp44～53を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。(2時間) 第8回：炭水化物(2) 少糖類、甘味料 事前学習：テキストp53～55を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。(2時間)

第9回：炭水化物（3） 多糖類 事前学習：テキストp55～63を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（2時間） 第10回：脂質（1） 脂質の分類（中間テストを含む） 事前学習：テキストp80、85～88を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（2時間） 第11回：脂質（2） 脂肪酸の構造と性質 事前学習：テキストp80～85を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（2時間） 第12回：脂質（3） 油脂の性質、油脂の加工技術、脂質の栄養 事前学習：テキストp88～94を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（2時間） 第13回：ビタミン（1）脂溶性ビタミン 事前学習：テキストp101～106を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（2時間） 第14回：ビタミン（2）水溶性ビタミン 事前学習：テキストp106～115を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（2時間） 第15回：無機質 事前学習：テキストp94～99を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（2時間） 第16回：定期試験	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
定期試験50%、中間テスト40%、課題10%	
(7) 成績評価基準	
・食品を分類できる。 ・食品中の主な栄養成分の化学構造を理解し、化学的特性を説明できる。 ・食品中の主な栄養成分の化学的特性を加工・貯蔵・調理過程で生じる化学変化と関連づけて説明できる。 ・成分名などの基礎専門用語が身についている。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（返却） 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（返却） 5) その他（授業内容等への質問）に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☒その他（上記の他にTeamsのチャットで対応）	

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト 小関正道編 食べものと健康 三訂 マスター食品学Ⅰ 建帛社 2023年 日本食品成分表2025 八訂 栄養計算ソフト・電子版付 医歯薬出版 (食品成分表説明の際に使用、他の授業でも使用する。) 参考図書 荒井綜一・倉田忠男・田島眞編 新 櫻井 総合食品事典 同文書院 2012年 久保田紀久枝・森光康二郎編 新スタンダード栄養・食物シリーズ5 食品学－食品成分と機能性－ 東京化学同人 2022年
(11) その他(受講上の注意)
○栄養士免許(必修) ○管理栄養士国家試験受験資格(必修) 講義内容は連続性があるため、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心掛けること。欠席した場合は、欠席した授業内容により、補講あるいは課題に対するレポート提出を課す。授業計画の予定は、変更されることがある。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業1回目に説明する。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

食品学各論 (Food Materials)			担当教員	浦本 裕美	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-D-2122	2 単位	1 年後期	講義		選択
<科目区分> 栄養・子ども学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野					
求める学習成果(教育目標)					
基礎研究および食品開発ができる能力					

(1) 授 業 の 内 容
植物性食品、動物性食品、食用油脂などを素材別にその特徴、成分、機能性などについて理解を深める。また、今後履修する専門科目にその知識がつけられるようにすることがねらいである。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
管理栄養士国家試験の「食べものと健康」領域の主要科目の一つであるとともに栄養管理を行える能力を身につける上でもっとも基本となる科目の一つである。様々な食品素材の特徴、成分、機能性等を理解して、各食品素材の基本知識を身に付け、また、健康増進をはかるのに必要な能力の1つとしてその活用につなげられるようにする。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：植物性食品の分類、穀類 事前学習：テキストp32～41を読み、質問項目についてまとめておくこと。(2時間) 事後学習：食品の分類についての課題プリントを完成させておくこと。(2時間) 第2回：いもおよびでんぷん類 事前学習：テキストp41～48を読み、質問項目についてまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。(2時間) 第3回：甘味料 事前学習：テキストp48～56を読み、質問項目についてまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。(2時間) 第4回：豆類、種実類 事前学習：テキストp56～68を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。(2時間) 第5回：野菜類 事前学習：テキストp68～76を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。(2時間) 第6回：果実類、きのこ類、藻類 事前学習：テキストp76～89を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。(2時間) 第7回：動物性食品の分類、肉類 事前学習：テキストp96～105を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。(2時間) 第8回：魚介類 事前学習：テキストp106～118を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。(2時間) 第9回：乳類 事前学習：テキストp118～125を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。(2時間)

第10回：卵類（中間テストを含む） 事前学習：テキストp125～130を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（2時間） 第11回：油脂類 事前学習：テキストp134～149を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（2時間） 第12回：調味料、香辛料、嗜好飲料 事前学習：テキストp152～168を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（2時間） 第13回：微生物利用食品 事前学習：テキストp191～201を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（2時間） 第14回：成分表①構成と内容 事前学習：テキストp12～28を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（2時間） 第15回：成分表②利用上の注意点 事前学習：テキストp29を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 定期試験50%、中間テスト40%、平常点（課題の提出など）10%
(7) 成績評価基準 ・身近な食品、素材に関する化学的な根拠に基づく知識が身についている。 ・各食品素材の知識を健康増進をはかるために活用できる。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（返却） 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（返却） 5) その他（授業内容等への質問）に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☒その他（上記の他にTeamsのチャットで対応）
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書 テキスト 栢野新市・水品善之・小西洋太郎編 栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅱ 改定第2版 羊土社 2023年 日本食品成分表2025 八訂 医歯薬出版 （食品成分表説明の際に使用、他の授業でも使用する。） 参考図書 平宏和、田島眞、安井明美、安井健編 新版日本食品大事典第二版 医歯薬出版 2022年

(11) その他(受講上の注意)

講義内容は連続性があるため、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心掛けること。欠席した場合は、欠席した授業内容により、補講あるいは課題に対するレポート提出を課す。授業計画の予定は、変更されることがある。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業1回目に説明する。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

食品分析実験 (Experiments in Food Analysis)			担当教員	浦本 裕美	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-E-2126	1 単位	1 年前期	実験		必修
<科目区分> 栄養・子ども学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力					

(1) 授 業 の 内 容
食品成分分析に必要な分析技術の理論と原理を理解するため、基礎的な滴定法をはじめ、比色法、原子吸光法などを用いた分析を行う。また、これら分析技術をととして、食品成分表に掲載されている成分についてや食品成分の化学的特性など座学で学んだ知識をより深く理解することをねらいとする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ 化学実験の基礎技術である中和滴定、沈殿滴定をととして、基本的実験器具の取扱い、試薬溶液の濃度の概念（モル濃度と規定濃度）を理解できる。 ・ 食品成分の化学的特性を利用してさまざまな分析法で食品成分が分析できることをその原理・理論をととして理解できる。 ・ 食品成分表に掲載されている一般成分について、その分析法と食品毎の各成分含有量の違いや特徴について理解できる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☐ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション、実験の進め方、実験にあたっての基礎知識 第2回：レポートの書き方、試薬溶液の濃度と調製について説明 第3回：実験：中和滴定 水酸化ナトリウムの力価の標定 第4回：実験：中和滴定 食酢中の酢酸濃度の定量 第5回：実験：沈殿滴定（1） 硝酸銀溶液の力価の標定 第6回：実験：沈殿滴定（2） 食品中の食塩の定量（モル法と原子吸光光度法による食塩の定量） 第7回：比色法について説明、実験：比色分析（1） 酒石酸鉄吸光光度法による検量線の作成 第8回：実験：比色分析（2） 酒石酸鉄吸光光度法による緑茶及び茶葉中のタンニンの定量 第9回：一般成分分析実験計画の説明、実験：一般成分の分析（1） 試料調製 第10回：実験：一般成分の分析（2） 水分の定量・脂質の定量－1 秤量・抽出 第11回：実験：一般成分の分析（3） 脂質の定量－2 秤量、たんぱく質の定量－1 試料の分解 第12回：実験：一般成分の分析（4） タンパク質の定量－2 蒸留・滴定 第13回：実験：一般成分の分析（5） タンパク質の定量－3 蒸留・滴定 第14回：実験：一般成分の分析（6） タンパク質の定量－4 蒸留・滴定及び一般成分全体のまとめ 第15回：実験：天然色素 アントシアニン色素の性質 実験ノートは毎回整理する。食品学総論で学んだ知識と関連づけて学び、専門用語をよく理解するように努力する。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
授業レポート（90％）、平常点（10％）、平常点は授業への参加状況・受講態度等を総合して採点する。
(7) 成 績 評 価 基 準
・ 食品分析技術が身につく、また、分析原理・理論を理解した操作ができる。 ・ 化学実験で用いる濃度の概念が理解でき、測定値から正確な計算結果（食品中の成分含有量）を導き出せる。 ・ 自ら行った実験で求めた結果から、食品中のある成分含有量を食品学総論で学んだ知識を生かし客観的に評価・考察できる。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他(レポートの返却) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他(授業内容等への質問 に対するフィードバックについて) ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☒その他(上記の他にTeamsのチャットで回答)
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 テキスト 『基礎から学ぶ 食品化学実験テキスト』 谷口 亜樹子 他編者 建帛社
(11) その他(受講上の注意) ○栄養士免許(必修) ○管理栄養士国家試験受験資格必修(必修) 実験に臨む態度として、安全を期するために白衣、室内用靴、タオルを持参すること。実験は、ガス、火、薬品を使用するので、危険が伴うため、決まりごとについては守ってもらう。指示に従わない者、危険行為や危険を予測できる態度をとる者に対しては、実験停止措置をとり、さらには単位を認定しないこともある。なお授業には連続性があるため、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすことがある。欠席者は補講あるいは課題を課す。授業の計画の予定は変更されることがある。授業内容や注意事項の詳細については、授業1回目に説明する。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

調理学 (Cookery Science)			担当教員	佐藤 真実	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-A-2129	2 単位	1 年前期	講義	必修	
<科目区分> 栄養・子ども学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野					
求める学習成果(教育目標)					
栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力					

(1) 授 業 の 内 容
調理中の変化を科学的に解明し、健康を維持・増進できる「おいしい食事」を作るための調理の理論を学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
歴史や文化によって培われた食文化、食生活、健康、食料、環境問題といった人間と食べ物に関わりについて理解できる。 調理操作における食品の変化や諸現象を科学的に理解し、食事設計、食品の選択、調理操作、食卓構成、供食の計画について実践できる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：人間と食品（食文化） 事前学習：授業前にテキストの第1章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（2時間） 第2回：人間と食品（環境）、食事設計の基礎 事前学習：授業前にテキストの第1章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（2時間） 第3回：食事設計の基礎 事前学習：授業前にテキストの第2章を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（2時間） 第4回：調理操作（加熱調理操作、非加熱調理操作、調味操作）、設備・器具・エネルギー源 事前学習：授業前にテキストの第3章を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（2時間） 第5回：食品の特徴に応じた調理の特性（食品成分） 事前学習：授業前にテキストの第3章6.1を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（2時間） 第6回：食品の特徴に応じた調理の特性（植物性食品1） 事前学習：授業前にテキストの第3章6.2を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（2時間） 第7回：食品の特徴に応じた調理の特性（植物性食品2） 事前学習：授業前にテキストの第3章6.2を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（2時間） 第8回：食品の特徴に応じた調理の特性（植物性食品3） 事前学習：授業前にテキストの第3章6.2を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（2時間） 第9回：食品の特徴に応じた調理の特性（動物性食品1） 事前学習：授業前にテキストの第3章6.3を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（2時間） 第10回：食品の特徴に応じた調理の特性（動物性食品2） 事前学習：授業前にテキストの第3章6.3を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（2時間） 第11回：食品の特徴に応じた調理の特性（動物性食品3） 事前学習：授業前にテキストの第3章6.3を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（2時間）

第12回：食品の特徴に応じた調理の特性（抽出食品素材・その他） 事前学習：授業前にテキストの第3章6.4を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（2時間） 第13回：調理操作による食品組織・物性と栄養成分の変化 事前学習：授業前にテキストの第4章を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（2時間） 第14回：献立作成1（献立作成条件と手順） 事前学習：授業前にテキストの第5章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題について、図書館等で調べておくこと（2時間） 第15回：献立作成2（供食、食卓構成、食事環境） 事前学習：前回の授業で課された課題について、資料を収集しておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題について、完成させて提出をする（2時間） 第16回：定期試験 予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、予習ノートを作成すること。 復習として、講義の当該部分の配布資料などを見直して、ノート整理を行うこと。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 定期試験（80%） 小テスト・課題（10%） 平常点（10%） （小テスト・課題は提出の有無と内容について、平常点は授業への参加状況（出欠）で判断します）
(7) 成績評価基準 調理操作における食品の変化や諸現象を科学的に理解し、食事設計、食品の選択、調理操作、食卓構成、供食の計画について説明することができる。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他（小テストを実施し、その場で解答説明、返却します） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☒その他（レポート類は採点し、返却します） 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性) 経歴：（管理栄養士） 実務経験と授業内容との関連性：（病院、福祉施設等での勤務経験を活かし、食事設計に必要な条件や具体的な調理科学理論について講義する。）
(10) テキスト、参考図書 テキスト：西堀すき江編著 「マスター調理学」(第4版) 建帛社 参考図書：藤沢和恵 他 「現代調理学」 医歯薬出版 渕上倫子編著 「調理学」 朝倉書店 山崎清子 他 「調理と理論」 同文書院
(11) その他(受講上の注意) 管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修） 出席状況、授業への取り組み態度（小テスト含む）を重視する。必ず予習・復習を含む配布プリントの整理を行う。授業の計画予定は変更されることがある。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

調理学実習 (Cookery Science Practicum)			担当教員	佐藤 真実	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-E-2130	1 単位	1 年前期	実習	必修	
<科目区分> 栄養・子ども学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力					

(1) 授 業 の 内 容
健康を維持・増進できる「おいしい食事」を作る基礎技術を習得する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
調理学の理論に基づいて、食品の性質と調理操作との関係を理解する。 安全、栄養かつ嗜好を満たしたおいしい食事を作る基礎的な調理技術を身につける。 適切な食品の選択と組み合わせによる献立作成ができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：調理の意義と目的 および 計量方法や器具の使い方 第2回：日本料理 (炊飯、だし、間接焼き、和える、卵の調理) (実習) 第3回：日本料理 (変り飯、煮る、寒天の調理) (実習) 第4回：日本料理 (もち米、蒸す、でんぶんの調理) (実習) 第5回：日本料理 (すし、小麦粉の調理) (実習) 第6回：日本料理 (麺の扱い方、揚げ物) (実習) 第7回：中国料理 (湯菜・拌菜・蒸菜) (実習) 第8回：中国料理 (点心・揚げ物) (実習) 第9回：中国料理 (点心・炸菜) (実習) 第10回：中国料理 (点心・炒菜) (実習) 第11回：中国料理 (点心) (実習) 第12回：西洋料理 (肉の調理、いもの調理、ゼラチンの調理) (実習) 第13回：西洋料理 (ルー、揚げる、砂糖の調理) (実習) 第14回：西洋料理 (魚の調理、オーブン加熱) (実習) 第15回：西洋料理 (パンの調理、果物の調理、嗜好飲料) (実習) 第16回：定期試験 予習として、各回に関連する教科書、プリントの頁をよく読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。 復習として、資料などを見直して、各料理の栄養計算、作り方などを詳細にノートにまとめておくこと。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
定期試験(50%) 実習ノート(40%) 平常点(10%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、基礎的な調理技術の習得、質問用紙の提出状況等を総合して判断します)
(7) 成 績 評 価 基 準
安全、栄養かつ嗜好を満たしたおいしい食事を作るための基礎的な調理技術を習得できている。 調理学の理論に基づいて、適切な食品の選択、組み合わせによる献立作成および調理、演出(盛り付け)ができる。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☒その他(ノート等は採点し、返却する) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性) 経歴：(管理栄養士) 実務経験と授業内容との関連性：(病院、福祉施設等での勤務経験を活かし、実際の食事設計に必要な条件を設定しながら、調理技術の基本について実習する。)
(10) テキスト、参考図書 テキスト：西堀すき江編著『食育に役立つ調理学実習』 医歯薬出版 『日本食品成分表 八訂』 その他、プリントを配布する。 参考図書：谷洋子他 『わかりやすい調理』 みらい
(11) その他(受講上の注意) 管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修) 衛生・安全・嗜好性に配慮する。実習する際には、必ず白衣と帽子を着用し、アクセサリーやマニキュアは厳禁とする。実習に使用する食材費用は別途集金する。欠席した場合は必ず補講(実習)を受講する。実習ノートの提出がない場合、単位を修得できない。実習は手技等を身につけることも目的とするため、4回を超えて欠席をしない。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

応用調理学実習 (Applied Cookery Science Practicum)			担当教員	佐藤 真実
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
HN-E-2131	1 単位	1 年後期	実習	必修
<科目区分> 栄養・子ども学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野				
求める学習成果(教育目標)				
コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力				

(1) 授 業 の 内 容
健康を維持・増進できる「おいしい食事」を作る応用技術を習得する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
より高度かつ最新の調理器具の使い方や調理技術を身につける。 郷土料理、行事食、対象者別の供応食について自ら計画し、適応調理を実施できる。 フルコースのテーブルセッティングからサービスの方法について学ぶ。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：Ⅱ 日本料理(季節の献立・秋) (実習) 森 恵見 第2回：Ⅴ 諸外国の料理(インド・ロシア・ベトナム他) (実習) 佐藤真実 第3回：Ⅴ 諸外国の料理(スペイン・イタリア・韓国他) (実習) 佐藤真実 第4回：年中行事と食卓の演出 (実習、グループワーク、発表) 森 恵見 第5回：郷土料理(福井県) (実習) 佐藤真実 第6回：郷土料理(全国各地) (実習、グループワーク、発表) 佐藤真実 第7回：Ⅳ 西洋料理(フルコース・食事作法) (講義・演習) 森 恵見 第8回：Ⅳ 西洋料理(フルコース・食事作法) (実習) 佐藤真実・森 恵見 第9回：特別食(対象者別の調理) (実習、グループワーク、発表) 佐藤真実 第10回：新しい調理法(エコ・クッキング) (実習) 佐藤真実 第11回：新しい調理法(スピード調理・真空調理) (実習) 佐藤真実 第12回：年中行事(クリスマス料理) (実習) 森 恵見 第13回：年中行事(正月料理) (実習) 森 恵見 第14回：Ⅱ 日本料理(季節の献立・冬) (実習) 森 恵見 第15回：包丁の使い方(実習)／実技試験 森 恵見 第16回：定期試験 予習として、各回に関連する教科書、プリントの頁をよく読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。 復習として、資料などを見直して、各料理の栄養計算、作り方などを詳細にノートにまとめておくこと。 自主献立のときは、グループのメンバーとともに料理の由来や調理法などを調べ、献立を作成すること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
定期試験(40%) 実技試験(20%) 平常点(10%) 実習ノート(30%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、自主献立レポートの内容、提出状況等を総合して判断します。)
(7) 成 績 評 価 基 準
高度かつ最新の調理器具や調理技術、テーブルセッティングやマナーなどの知識が修得できている。 郷土料理を味わい、由来や調理法などについて説明することができる。 行事食、供応食などについて自ら献立を作成し、適応調理を実施することができる。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☒その他(ノートは採点し、返却します) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性) 経歴：(管理栄養士) 実務経験と授業内容との関連性：(病院、福祉施設等での勤務経験を活かし、実際の食事設計に必要な条件を設定しながら、献立作成や環境設定を学ぶとともに高度な調理技術について実習する。)
(10) テキスト、参考図書 テキスト：西堀すき江編著 『食育に役立つ調理学実習』 建帛社 『日本食品標準成分表 八訂』 その他、プリントを配布する。 参考図書：谷洋子他 『わかりやすい調理』 みらい
(11) その他(受講上の注意) 管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修) 衛生・安全・嗜好性に配慮する。実習室では、必ず白衣と帽子を着用し、アクセサリやマニキュアは厳禁とする。 実習費は別途に集金する。 授業への出席状況、実習態度、ノートの提出を重視する(ノートが未提出の場合、単位を修得できない)。 欠席した場合は必ず補講(実習)を受講する。実習は手技等の習得も目標とすることから4回を超えて欠席しない。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

基礎栄養学 (Nutrition)			担当教員	池田 涼子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-A-2133	2 単位	1 年前期	講義		必修
<科目区分> 栄養・子ども学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力					

(1) 授 業 の 内 容
人体が必要とする糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラルや食物繊維など各栄養素・一部の食品成分の消化・吸収、体内での分布や輸送、利用・排泄について学び、「栄養」という生命現象の機序について基本的な事項に、栄養の実践における視点や最新の知見も交えて解説する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ 栄養の基本的概念及びその意義について学び、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割について理解する。 ・ 栄養素の消化・吸収の過程について理解する。 ・ 糖質、脂質、たんぱく質の種類と栄養的意義について理解する。 ・ ビタミン、ミネラルの種類と生理作用について理解する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：栄養学の概念・摂食行動 事前学習：教科書第1章を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で指定されたキーワードについて、ノートにまとめる。(2時間) 第2回：栄養素の消化と吸収 (口腔・胃) 事前学習：ノートに消化器系の構造を図示し、各部の名称を、記入する。(2時間) 事後学習：ノート・プリント類の整理、教員が指定した練習問題を解く。(2時間) 第3回：栄養素の消化と吸収 (栄養素の吸収) 事前学習：受動輸送・能動輸送について語句・分類を調べておく。(2時間) 事後学習：ノート・プリント類の整理、教員が指定した練習問題を解く。(2時間) 第4回：栄養素の機能と代謝 糖質の栄養 事前学習：教科書・糖質の機能の項を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：ノート・プリント類の整理、教員が指定した練習問題を解く。(2時間) 第5回：栄養素の機能と代謝 糖質の代謝 事前学習：授業前に教科書・糖質の体内代謝の項を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で指定されたキーワードについて、ノートにまとめる。(2時間) 第6回：栄養素の機能と代謝 脂質の栄養 事前学習：授業前に教科書・脂質代謝の項を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：ノート・プリント類の整理、教員が指定した練習問題を解く。(2時間) 第7回：栄養素の機能と代謝 脂質の代謝 事前学習：授業前に教科書・脂質の栄養機能の項を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で指定されたキーワードについて、ノートにまとめる。(2時間) 第8回：中間試験およびその解説 事前学習：糖質・脂質の栄養について再度、ノートを整理し理解を深める。(2時間) 事後学習：誤答箇所について再度確認し、知識の定着を図る。(2時間) 第9回：栄養素の機能と代謝 たんぱく質の代謝 事前学習：授業前に教科書・たんぱく質の代謝の項を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で指定されたキーワードについて、ノートにまとめる。(2時間) 第10回：栄養素の機能と代謝 たんぱく質の栄養 事前学習：授業前に教科書・たんぱく質の栄養価の項を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：ノート・プリント類の整理、教員が指定した練習問題を解く。(2時間)

第11回：栄養素の機能と代謝 ビタミンの栄養 事前学習：授業前に教科書・脂溶性ビタミンの項を読み、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：ノート・プリント類の整理、教員が指定した練習問題を解く。（2時間） 第12回：栄養素の機能と代謝 ビタミンの栄養 事前学習：授業前に教科書・水溶性ビタミンの項を読み、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：ノート・プリント類の整理、教員が指定した練習問題を解く。（2時間） 第13回：栄養素の機能と代謝 ミネラルの栄養 事前学習：授業前に教科書・多量元素の項を読み、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：授業で指定されたキーワードについて、ノートにまとめる。（2時間） 第14回：栄養素の機能と代謝 ミネラルの栄養 事前学習：授業前に教科書・微量元素の項を読み、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：ノート・プリント類の整理、教員が指定した練習問題を解く。（2時間） 第15回：水・電解質の栄養的意義 事前学習：授業前に教科書・水分代謝の項を読み、自分なりの質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：ノート・プリント類の整理、教員が指定した練習問題を解く。（2時間） 第16回：定期試験 小テストは全4回を予定している。小テストや課題の詳細については、授業内で指示する。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 定期試験60%、小テスト40%に、授業への取り組み（授業態度、課題の提出状況など）を加味して総合的に評価する。
(7) 成績評価基準 ・栄養の基本的概念及びその意義、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割について説明できる。 ・栄養素の消化・吸収の過程について説明できる。 ・糖質、脂質、たんぱく質の種類と栄養的意義について説明できる。 ・ビタミン、ミネラルの種類と生理作用について説明できる。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 テキスト：「基礎栄養学」 小林謙一・福渡努 編 （化学同人） 参考図書：「ヒューマンニュートリション」（第一出版） 「基礎栄養学 - 栄養科学イラストレイテッド」 田地陽一 著 （羊土社） 「基礎栄養学ノート改訂2版 - 栄養科学イラストレイテッド」 田地陽一 著 （羊土社）
(11) その他(受講上の注意) ○栄養士免許（必修） ○管理栄養士国家試験受験資格必修（必修） ・栄養学を修める上での基盤となる重要な科目である。授業後はノートの整理・復習に努め、必ず課題を提出すること。 ・講義内容は連続性がある。内容の理解に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心がけること。 ・授業の計画の予定は、変更されることがある。 ・授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業1回目のガイダンスにて説明する。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

応用栄養学Ⅰ（成長・発達・加齢、食事摂取基準） (Applied NutritionⅠ (Development,Dietary Reference Intakes))			担当教員	新井田 裕樹	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-B-2135	2 単位	1 年後期	講義		必修
<科目区分> 栄養・子ども学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
求める学習成果（教育目標）					
栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力					

(1) 授 業 の 内 容	
エネルギー及び栄養素に関する食事摂取基準（推定エネルギー必要量及び各策定項目）がどのような科学的根拠、すなわち、栄養学研究の成果に基づいて策定されているかの基礎理論及び、栄養マネジメントにおける食事摂取基準の活用について解説する。 また、人体の成長・発達・加齢にともなう主要な生理現象と生化学的变化、ライフステージにおける食事摂取基準の策定と活用について解説する。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
栄養環境への身体適応及び、エネルギー・栄養素に関する食事摂取基準の科学的根拠について、理解する。人体の成長・発達・加齢にともなう生理現象と生化学的变化、各ライフステージにおける食事摂取基準の特徴について知識を取得する。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習（PBL） ☐ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法	
第1回：食事摂取基準策定の基本的事項と留意事項 事前学習：日本人の食事摂取基準2025年版の策定方針についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：策定方針で出てきた語句の意味をノートにまとめておくこと。（2時間） 第2回：食事摂取基準の活用1 事前学習：テキストを読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：指標の種類とその意味をノートにまとめておくこと。（2時間） 第3回：食事摂取基準の活用2 事前学習：テキストを読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：この項目で出てきた語句の意味をノートにまとめておくこと。（2時間） 第4回：エネルギーの摂取基準 事前学習：日本人の食事摂取基準2025年版のエネルギーの食事摂取基準についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。（2時間） 第5回：たんぱく質の摂取基準 事前学習：日本人の食事摂取基準2025年版の脂質の食事摂取基準についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。（2時間） 第6回：脂質の摂取基準 事前学習：日本人の食事摂取基準2025年版の脂質の食事摂取基準についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。（2時間） 第7回：炭水化物・食物繊維の摂取基準 事前学習：日本人の食事摂取基準2025年版の炭水化物の食事摂取基準についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。（2時間） 第8回：エネルギー産生栄養素バランス 事前学習：日本人の食事摂取基準2025年版のエネルギー産生栄養素バランス についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。（2時間）	

第9回：脂溶性ビタミンの摂取基準 事前学習：日本人の食事摂取基準2025年版の脂溶性ビタミンの摂取基準の部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。（2時間） 第10回：水溶性ビタミンの摂取基準 事前学習：日本人の食事摂取基準2025年版の水溶性ビタミンの摂取基準についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。（2時間） 第11回：ミネラルの摂取基準 事前学習：日本人の食事摂取基準2025年版の多量ミネラルの食摂取基準についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。（2時間） 第12回：対象者の特性 事前学習：日本人の食事摂取基準2025年版の対象特性についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。（2時間） 第13回：生活習慣病と摂取基準の関連1 事前学習：生活習慣病（高血圧、脂質異常症）について調べ、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。（2時間） 第14回：生活習慣病と摂取基準の関連2 事前学習：生活習慣病（糖尿病、慢性腎臓病）について調べ、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。（2時間） 第15回：成長・発達に伴う身体的・精神的変化と栄養について 事前学習：成長、発達、加齢の概念について自己学習し、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：言葉の定義をノートにまとめておくこと。（2時間） 第16回：定期試験 各回の講義を受けた後で当該部分のノートや配布資料を見直して復習をし、不明な点は、参考となる資料の収集を行い次の授業に挑んで下さい。	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
定期試験（80%）、平常点（20%）（平常点は、授業への参加状況・授業態度等を総合して判断します。）	
(7) 成績評価基準	
エネルギー及び栄養素に関する食事摂取基準の科学的根拠について、説明できるか。人体の成長・発達・加齢にともなってみられる主要な生理現象と生化学的変化について説明できるか。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	
経歴：（管理栄養士） 実務経験と授業内容との関連性：（管理栄養士として医療提供施設での実務経験を活かし、エネルギー及び栄養素に関する食事摂取基準がどのような科学的根拠に基づいて策定されているかの基礎理論i及び、人体の成長・発達・加齢にともなう主要な生理現象と生化学的変化、ライフステージにおける食事摂取基準の策定と活用ならびに栄養マネジメントにおける食事摂取基準の活用について解説する。）	

(10) テキスト、参考図書
応用栄養学 第3版(栄養科学イラストレイテッド)(羊土社) 日本人の食事摂取基準2025年版(第一出版) ※必要に応じてプリントを配布
(11) その他(受講上の注意)
授業計画は進捗状況により変更することがあります。 授業内容の理解促進のため、質問やディスカッション等を研究室にて受け付ける。授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業1回目に説明する。 ○栄養士免許(必修) ○管理栄養士国家試験受験資格(必修)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

給食経営管理論Ⅰ（給食計画） （Food Service ManagementⅠ（Planning））			担当教員	長岡 純子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-A-2156	2 単位	1 年後期	講義		必修
<科目区分> 栄養・子ども学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
求める学習成果(教育目標)					
栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力					

(1) 授 業 の 内 容	
給食施設において栄養士・管理栄養士が担う給食の運営および給食経営管理について、基本知識を修得することを目的とする。 給食の運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養う。マーケティングの原理や応用を理解するとともに、組織管理等のマネジメントの基本的な考え方や方法を修得する。給食の意義及び給食経営管理の概要について理解し、関係法規及び指導事項に精通し、栄養・食事、衛生・安全、食材・品質、生産（調理）の管理について修得する。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
・給食運営および給食経営管理に関する栄養面、安全面、経済面のマネジメントについて理解する。 ・マーケティングの原理や応用、組織管理等のマネジメントについて理解する。 ・関係法規について理解する。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習（PBL） ☐ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法	
第1回：給食の概念とシステム 事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論）第1章：給食の概念とシステムを読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（2時間） 第2回：給食のオペレーション（食材料管理・生産管理） 事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論）第2章：給食のオペレーション（食材料管理・生産管理）を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（2時間） 第3回：生産・提供管理 事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論）第3章：生産・提供管理を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（2時間） 第4回：品質管理 事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論）第4章：品質管理を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（2時間） 第5回：HACCPに準じた安全・衛生管理 事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論）第5章：HACCPに準じた安全・衛生管理を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（2時間） 第6回：大量調理施設衛生管理マニュアル 事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論）第6章：大量調理施設衛生管理マニュアルを読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（2時間） 第7回：事故・災害時対策 事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論）第7章：事故・災害時対策を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（2時間）	

第8回：給食経営の概要とマーケティング 事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論）第8章：給食経営の概要とマーケティングを読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（2時間） 第9回：栄養・食事管理 事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論）第9章：栄養・食事管理を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（2時間） 第10回：給食施設の特徴と役割・関連法規（医療施設、高齢者・介護福祉施設） 事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論）第10章：給食施設の特徴と役割・関連法規（医療施設、高齢者・介護福祉施設）を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（2時間） 第11回：給食施設の特徴と役割・関連法規（児童福祉施設、障害者福祉施設、学校、事業所） 事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論）第10章：給食施設の特徴と役割・関連法規（児童福祉施設、障害者福祉施設、学校、事業所）を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（2時間） 第12回：医療施設での栄養・食事管理の実践（一般食） 事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論）第11章：医療施設での栄養・食事管理の実践（一般食）を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（2時間） 第13回：特定給食施設の給食経営管理 事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論）第12章：特定給食施設の給食経営管理を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（2時間） 第14回：事故・災害時対策の実践 事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論）第13章：事故・災害時対策の実践を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（2時間） 第15回：今期授業の確認・質疑応答 事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論）の総まとめとして、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で実施した総まとめ小テストの内容について理解すること。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 定期試験（50%）、小テスト（30%）、授業への取り組み（20%） 授業への取り組みについては、授業への参加状況・受講態度及び課題の提出状況・内容を総合的に判断する。
(7) 成績評価基準 ・給食運営および給食経営管理に関する栄養面、安全面、経済面のマネジメントについて説明することができるか。 ・マーケティングの原理や応用、組織管理等のマネジメントについて理解しているか。 ・関係法規の内容について理解しているか。
(8) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

(10) テキスト、参考図書
『栄養科学イラストレイテッド 給食経営管理論』 羊土社 2025年 『調理のためのベーシックデータ 第6版』 女子栄養大学出版部 2022年
(11) その他(受講上の注意)
○栄養士免許(必修) ○管理栄養士国家試験受験資格必修(必修) 学籍番号順の座席配置になるので、視力等で前方を希望する者は予め申し出ること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習 (Fieldwork)			担当教員	佐藤 裕保、池田 涼子、山本 浩範、 新井田裕樹	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-E-2166	2 単位	1 ～ 3 年	演習		選択
<科目区分> 栄養・子ども学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力					

(1) 授 業 の 内 容	
本プログラムには、学内外でのボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験が含まれる。教室や研究室で学習や研究をするのではなく、実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
1・2・3年次を対象に自己の進路を見据えた体験学習を課題にして設ける。例えば、福祉施設、病院などでの奉仕活動、事業所などでのインターンシップ参加、施設・事業所見学などの事前、事後計画の企画運営発表などを実施したり、得られた成果について報告書を提出する。	
(3) アクティブラーニング	
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法	
1 年次～3 年次に活動の実施(30時間) 事前学習(30時間) 及び事後学習(30時間)を行う。 ①受講希望者は、各フィールドワーク演習の企画教員から内容を確認したうえで実施する。 参画する奉仕活動やインターンシップについて事前に十分な下調べ(概要等)を行なうこと。 ②実際に体験したボランティア活動について報告書(内容・到達目標・経過時間・得られた成果)を作成すること。 また作成した報告書は企画教員から押印後、フィールドワーク演習担当教員に提出し承認を得ること。承認後の報告書は各自で保管すること。 ③各種ボランティア活動について(フィールドワーク) 参加した全てのボランティア活動の詳細(参加時間数の合計等)についてまとめておくこと。 ④3 年次終了時に報告書一覧表(ボランティア活動毎報告書添付)を作成しフィールドワーク演習担当教員に提出すること。	
(5) 授 業 形 態 [面 接 授 業 ・ 遠 隔 授 業]	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成 績 評 価 方 法	
プログラムへの取り組み(50%)、報告書またはプレゼンテーション(50%)	
(7) 成 績 評 価 基 準	
参加した福祉施設、病院などでの奉仕活動で自身が得た成果について報告書を参考に評価する。事業所などでのインターンシップ参加、施設・事業所見学などの事前、事後計画の企画運営発表などを実施する。	
(8) 課 題 (試験やレポート等) に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他(活動遂行上の課題に対するフィードバックについて) ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☒ メール ☒ その他(活動中に直接指導)	

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
使用しない。
(11) その他(受講上の注意)
本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の実務登録手続きを要しない。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養基礎演習 I (First-year Seminar (Health and Nutrition) / First-year Seminar)			担当教員	長岡 純子、浦本 裕美、佐藤 真実、 高木 康之、新井田 裕樹
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
HN-F-2167	2単位/2単位	1年前期	演習	必修
<科目区分> 栄養・子ども学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究				
求める学習成果(教育目標)				
大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学ぶ				

(1) 授 業 の 内 容	
大学生としての最初の1年は、4年間にわたる学修をスムーズに開始できるための重要な期間として位置づけられる。このため、まず学科の教育目標および教育課程を理解するとともに、主体的な学びを軸とする大学での修学や将来のための基盤づくりに重点を置き、授業を展開する。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
・履修に関する担当教員の助言・指導を受け、自己の学習計画・履修計画を作成できるようにする。 ・附属図書館において図書館利用に関するセミナーを受講し、文献の検索方法等を理解し、学習や研究に必要な図書館利用法を身につける。 ・管理栄養士の教育目標や専門分野の基礎的な事柄について学び、学習に対する積極的な態度を身につける。さらに職業観・倫理観・人間力を培う。 ・本演習を通して学生と教員、学生相互間のコミュニケーションを活性化する。	
(3) アクティブラーニング	
■課題解決型学習 (PBL) ■討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：Teamsの活用、自己紹介等、地域学習に向けて 事前学習：(2時間) 事前配布資料をもとに、Teamsへの接続確認を行う。 事後学習：(2時間) 自己紹介用プロフィールや面談シートの作成、地域学習に向けて調査する。	
第2回：越前市 地域学習 事前学習：(2時間) 決められたグループで見学先を調査し検討する。 事後学習：(2時間) 立ち寄った見学先について紹介コメントを作成し提出する。	
第3回：越前市 地域学習 事前学習：(2時間) 今後半年間の目標を考える。 事後学習：(2時間) 授業内で作成した計画をもとに自らの生活を見直す。	
第4回：学内交流会 事前学習：(2時間) 決められたグループでの交流会に向けた準備を行う。 事後学習：(2時間) 交流会における先輩からの聞き取りやアドバイスについてまとめる。	
第5回：個別面談 事前学習：(2時間) 授業や学生生活について個人的に質問・相談したいことをまとめておく。 事後学習：(2時間) 受けたアドバイスを大学生活にどのように役立てるか考える。	
第6回：図書館ガイダンス 事前学習：(2時間) 任意の授業の参考図書の検索テーマを検討する。 事後学習：(2時間) 図書館ガイダンスで学習した内容を思い出し、理解度チェックで理解度を確認する。	
第7回：ポートフォリオの書き方、国試対策教育ツールESSの使い方 事後学習：(2時間) ポートフォリオを仕上げる事、ESSで問題を解くなどで使い方を修得する。	
第8回：レポートの書き方① 事前学習：(2時間) 与えられた課題について、自らレポートを書いてみる。 事後学習：(2時間) 授業で学修したポイントにそってレポートを修正してみる。	
第9回：レポートの書き方② 事前学習：(2時間) 第8回で学んだレポート作成について復習する。 事後学習：(4時間) 学修をとおして学んだことの振り返り、授業前後でのレポートの改善の確認を行う。	
第10回：管理栄養士の役割と福井県・越前市の健康政策 事前学習：(2時間) 日本栄養士会のHPなどを参考に、管理栄養士の役割について調べる。 事後学習：(2時間) 福井県の健康政策について、福井県のHPなどを参考に授業内容を振り返る。	

第11回：越前市の取り組みについて、PBL① 事前学習：（2時間） 越前市の健康課題について調べる。 事後学習：（4時間） 配布資料や講義内容から、越前市の取り組みについて把握し、まとめる。 第12回：PBL② まとめ 事前学習：（2時間） 授業10～11回目で学修した内容について調べる。 事後学習：（4時間） グループワークの内容の振り返り確認を行い、班員と共有しまとめる。 第13回：講演会 OB・OGによる管理栄養士の仕事・やりがいについての講演 事後学習：（2時間） 聞いた話の内容を整理し提出する。 第14回：講演会 近隣で働く管理栄養士による講演 事前学習：（2時間） 授業13回目の講演内容を振り返り学修する。 事後学習：（2時間） 聞いた話の内容を整理し提出する。 第15回：まとめ（担当教員による総括及び自己の学習計画の振り返り、ポートフォリオ記入） 事後学習：（2時間） 本科目から学んだことや前期の学生生活の振り返りも含めて、今後の目標に向けた改善点について考える。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 レポート（70%） 平常点（30%） 平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断する。
(7) 成績評価基準 基本的なアカデミックスキル（学習に対する積極的な態度・技術、レジュメの作成・報告、討論方法）が修得できているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（第15回に各担当教員による総括を実施） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（提出されたレポートなどを踏まえ、必要に応じて面談を行う） 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 必要に応じて資料を配布する。
(11) その他(受講上の注意) 少人数に分け、担当教員を置く。 この担当教員は、1年間の指導教員として、本授業終了後も引き続き指導や助言を行う。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育原理 (Principles of Education)			担当教員	高野 秀晴	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-C-2182	2 単位	1 年後期	講義	選択	
<科目区分> 栄養・子ども学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力					

(1) 授 業 の 内 容
私たちは、誰もが教育を受けた経験があるがゆえに、教育について考える際に、自らの経験のみに依拠してしまうことになりがちである。本授業では、教育に関する基本的概念を修得し、それをもとに、多様な教育の理念や教育の歴史、思想を概観することにより、自らの経験のみに依拠することなく教育について考察する力量の形成を目指す。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・教育の基本的概念を用いて、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を説明することができる。 ・教育の歴史に関する基礎的知識を踏まえて、過去から現代に至るまでの教育および学校の変遷を概説し、その変遷のなかで生まれた多様な教育の理念を説明することができる。 ・教育に関する様々な思想が、いかなる理念や歴史的背景のもとに生まれてきたかについて説明することができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 事前学習：シラバスをよく読み、学修計画を立てる。(2時間) 事後学習：授業内容に関連する図書を検索し、読書計画を立てる。(2時間) 第2回：教育の基本的概念(1) — 子どもの権利について 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間) 第3回：教育の基本的概念(2) — 教育における愛と暴力 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間) 第4回：教育の基本的概念(3) — 乳幼児期から老年期までの発達について 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間) 第5回：日本教育史(1) — 家族や社会のなかの教育 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間) 第6回：日本教育史(2) — 塾と学校の登場 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間) 第7回：日本教育史(3) — 義務教育制度成立史 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間) 第8回：西洋における教育の思想と歴史(1) — 古代ギリシア、ローマの教育 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間) 第9回：西洋における教育の思想と歴史(2) — コメニウスと一斉教授について 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間) 第10回：西洋における教育の思想と歴史(3) — ルソーにおける子どもの発見について 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)

第11回：西洋における教育の思想と歴史（４）——自律を目指した思想家たち 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間） 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間） 第12回：西洋における教育の思想と歴史（５）——教育制度の思想的基礎 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間） 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間） 第13回：教育と福祉の関係——家庭、地域、学校の役割について 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間） 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間） 第14回：現代における教育の課題——生涯学習の観点から 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間） 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間） 第15回：まとめ 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間） 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（70％） 平常点（30％） （平常点は、授業への参加状況、および授業時の課題の内容をもとに評価する。）
(7) 成績評価基準
・教育の基本的概念を用いて、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を説明することができるか。 ・教育の歴史に関する基礎的知識を踏まえて、過去から現代に至るまでの教育および学校の変遷を概説し、その変遷のなかで生まれた多様な教育の理念を説明することができるか。 ・教育に関する様々な思想が、いかなる理念や歴史的背景をもとに生まれてきたかについて説明することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト：プリントを配布する。 参考図書：高橋陽一『新しい教育通義』武蔵野美術大学出版局 2018年
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教職論 (Theory of Teacher Education)			担当教員	鈴木 智子、草桶 勇人	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-A-2100	2 単位	1 年前期	講義	必修	
<科目区分> 栄養・子ども学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の基礎理論の理解					

(1) 授 業 の 内 容
大学における学び方を含め、教師教育の観点から自己を位置づけ、専門職としての教師に向けての基礎を培うことを目的とする。教職の意義及び教員の役割や職務内容等について、制度的、実態的側面から解説する講義を中心とする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
(鈴木智子) 1. 幼稚園における教職の意義、役割、職務内容などについて説明できる。 2. 現場における様々な問題を考察し、求められている幼児教育像についての考えを明確化する。 3. 自己の幼児教育観や教師像について考察するとともに、今後の学習目標や計画を明確化する。 (草桶勇人) 1. 小学校における教職の意義、役割、職務内容などについて理解する。 2. 社会の変化の中で、教育公務員として求められる教師のあり方・生き方について考える。 3. 小学校の教師として実践的な指導力を身に付けるため、自ら課題を持ち、継続して追求することができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス 各自の幼児教育観と幼児教育者像を確認する(グループワーク)(鈴木智子) 事前学習：授業前に各自の幼児教育観、幼児教育者像についての意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業のグループワークでの他の学生の意見、授業内容を踏まえて、各自の幼児教育観、幼児教育者像についてレポートにまとめておくこと。(2時間) 第2回：幼児教育者の専門性(鈴木智子) 事前学習：幼稚園教諭と小学校教諭の違いについて自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を踏まえて、幼稚園教諭の専門性について、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第3回：幼稚園教員の役割と職務(鈴木智子) 事前学習：授業前に幼稚園教育要領解説序章第2節を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べ、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第4回：幼稚園教諭免許取得と専門性の向上(鈴木智子) 事前学習：幼稚園教諭免許状について事前に調べ、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を踏まえて、専門性の向上の方法について、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第5回：子育て支援と幼児教育センターとしての役割(鈴木智子) 事前学習：授業前に幼稚園教育要領解説第1章総説第7節2を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：子育て支援を行うために必要な資質・能力について、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第6回：幼稚園教諭の協働性(鈴木智子) 事前学習：授業前に幼稚園教育要領解説第1章総説第4節3を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：幼稚園教諭の協働性を高めるために必要な資質・能力について、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第7回：まとめ 幼児教育者としての自覚と成長(鈴木智子) 事前学習：これまでの授業内容を振り返り、幼稚園教諭の専門性、役割等についての質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：幼稚園教諭に求められる資質・能力について、レポートにまとめておくこと。(2時間)

第8回：教師とは何か（小学校の教師を中心に） ①教師の専門性、②教職という仕事の特質、③教師のリーダーシップ（グループワーク）（草桶勇人） 事前学習：教職についてのメタファー（隠喩）を考えて、それをもとに自分の教育観についてまとめておくこと。（2時間） 事後学習：教師の専門性やその仕事の特質について、班ごとのディスカッションや講義資料をもとに、リフレクションシートにまとめておくこと。（2時間） 第9回：小学校における教師の役割 ①授業をつくる、②授業から学ぶ、③子どもを育む（草桶勇人） 事前学習：アクティブ・ラーニングについて調べてまとめておくこと。（2時間） 事後学習：事前学習と算数科におけるアクティブ・ラーニングの事例体験をもとに、その意義等について、リフレクションシートにまとめておくこと。（2時間） 第10回：教職の制度と教師の身分 ①「全体の奉仕者」としての教師、②教師の職務と権限、③基本的な教育法規（草桶勇人） 事前学習：制度の上の教師について、まとめておくこと。（2時間） 事後学習：教師の制度上の位置づけ等について、講義資料をもとに、リフレクションシートにまとめておくこと。（2時間） 第11回：子どもを理解するとは（1）（草桶勇人） 事前学習：これまで出会った教師の中で思い出に残っている教師についてまとめておくこと。（2時間） 事後学習：講義をもとに教師の子ども理解について、リフレクションシートにまとめておくこと。（2時間） 第12回：子どもを理解するとは（2）（草桶勇人） 事前学習：子どもを理解するために何が必要であるかについてまとめておくこと。（2時間） 事後学習：講義で扱った事例をもとに教師の子ども理解について、リフレクションシートにまとめておくこと。（2時間） 第13回：学び合うコミュニティとしての学校・チーム学校と開かれた学校づくり（草桶勇人） 事前学習：社会に開かれた教育課程について、学習指導要領解説を読んでまとめておくこと。（2時間） 事後学習：講義資料等をもとに開かれた学校づくりの意義について、リフレクションシートにまとめておくこと。（2時間） 第14回：主体的・対話的で深い学びと教師の資質・能力（グループワーク）（草桶勇人） 事前学習：小学校教諭に求められる資質・能力について、自分の考えをまとめておくこと。（2時間） 事後学習：講義の資料等とグループでのディスカッションをもとに新しい時代に求められる小学校教師の資質・能力について、リフレクションシートにまとめておくこと。（2時間） 第15回：教師の未来と教育とはなにかを改めて問い直す——「学び続ける教師像」と教育実践理論の構築（草桶勇人） 事前学習：これまでの授業内容を振り返り、小学校教諭の専門性、役割等についてまとめておくこと。（2時間） 事後学習：小学校教諭に求められる資質・能力と関連付けて講義で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。（2時間）	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
レポート（70%）、平常点（30%） 平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。	
(7) 成績評価基準	
（鈴木智子） 1. 幼稚園における教職の意義、役割、職務内容などについて説明できるか。 2. 現場における様々な問題を考察し、求められている幼児教育像について考えを明確化できているか。 3. 自己の幼児教育観や教師像について考察するとともに、今後の学習目標や計画を明確化できているか。 （草桶勇人） 1. 小学校における教職の意義、役割、職務内容などについて理解できているか。 2. 社会の変化の中で、教育公務員として求められる教師のあり方・生き方について考えることができているか。 3. 小学校の教師として実践的な指導力を身に付けるため、自ら課題を持ち、継続して追求することができているか。	

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性) 経歴：(元中学校・義務教育学校教諭、高等学校講師) 実務経験と授業内容との関連性：(中学校・義務教育学校教諭、高等学校講師として、算数・数学を中心とする授業実践や特別活動等の実践を行ってきた経験を有する教員が、教職の意義や教員に求められる資質や能力について講義する。)
(10) テキスト、参考図書 テキスト (1)「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 2019年 (2)小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省) 2018年 参考書 (1)岡本夏木著「幼児期——子どもは世界をどうつかむか——」岩波書店 2005年 (2)「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>」チャイルド本社 2017年 (3)幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) (4)丹野清彦著「子どもの願い いじめVS12の哲学」高文研 2018年
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育原理 (Principles of Education)			担当教員	高野 秀晴	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-A-2101	2 単位	1 年前期	講義		必修
<科目区分> 栄養・子ども学部子ども教育学科専門科目 基幹科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の基礎理論の理解					

(1) 授 業 の 内 容	
私たちは、誰もが教育を受けた経験があるがゆえに、教育について考える際に、自らの経験のみに依拠してしまうことになりがちである。本授業では、教育に関する基本的概念を修得し、それをもとに、多様な教育の理念や教育の歴史、思想を概観することにより、自らの経験のみに依拠することなく教育について考察する力量の形成を目指す。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
・教育の基本的概念を用いて、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を説明することができる。 ・教育の歴史に関する基礎的知識を踏まえて、過去から現代に至るまでの教育および学校の変遷を概説し、その変遷のなかで生まれた多様な教育の理念を説明することができる。 ・教育に関する様々な思想が、いかなる理念や歴史的背景のもとに生まれてきたかについて説明することができる。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法	
第1回：オリエンテーション 事前学習：シラバスをよく読み、学修計画を立てる。(2時間) 事後学習：授業内容に関連する情報を検索し、学修計画をさらに固める。(2時間) 第2回：教育の基本的概念(1) — 子どもの権利について 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間) 第3回：教育の基本的概念(2) — 教育における愛と暴力 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間) 第4回：教育の基本的概念(3) — 乳幼児期から老年期までの発達について 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間) 第5回：日本教育史(1) — 家族や社会のなかの教育 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間) 第6回：日本教育史(2) — 塾と学校の登場 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間) 第7回：日本教育史(3) — 義務教育制度成立史 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間) 第8回：西洋における教育の思想と歴史(1) — 古代ギリシア、ローマの教育 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間) 第9回：西洋における教育の思想と歴史(2) — コメニウスと一斉教授について 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間) 第10回：西洋における教育の思想と歴史(3) — ルソーにおける子どもの発見について 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間)	

第11回：西洋における教育の思想と歴史（４）—— 自律を目指した思想家たち 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（２時間） 事後学習：授業内容をノートにまとめる。（２時間） 第12回：西洋における教育の思想と歴史（５）—— 教育制度の思想的基礎 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（２時間） 事後学習：授業内容をノートにまとめる。（２時間） 第13回：教育と福祉の関係—— 家庭、地域、学校の役割について 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（２時間） 事後学習：授業内容をノートにまとめる。（２時間） 第14回：現代における教育の課題—— 生涯学習の観点から 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（２時間） 事後学習：授業内容をノートにまとめる。（２時間） 第15回：まとめ 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（２時間） 事後学習：授業内容をノートにまとめる。（２時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（70％）平常点（30％） （平常点は、授業への参加状況、および授業時の課題の内容をもとに評価する。）
(7) 成績評価基準
・教育の基本的概念を用いて、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を説明することができるか。 ・教育の歴史に関する基礎的知識を踏まえて、過去から現代に至るまでの教育および学校の変遷を概説し、その変遷のなかで生まれた多様な教育の理念を説明することができるか。 ・教育に関する様々な思想が、いかなる理念や歴史的背景をもとに生まれてきたかについて説明することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト：プリントを配布する。 参考図書：高橋陽一『新しい教育通義』武蔵野美術大学出版局 2018年
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育・教育課程論 (Theory of Curriculum for Early Childhood Care and Education)			担当教員	鈴木 智子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-B-2151	2 単位	1 年後期	講義	必修	
<科目区分> 栄養・子ども学部子ども教育学科専門科目 基幹科目					
求める学習成果（教育目標）					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
本授業では、子どもの主体的な遊びを内容とする保育・幼児教育において、子どもの発達に必要な指導計画の意義・編成を理解し、実際に計画を立案する力を養うこと、また計画を実践に移した後も指導目標と照らし合わせた上で保育・教育に対する反省・評価を行い、再び指導の目標設定に移るまでの循環的な流れを身につけることを目的としている。 テキストや参考図書を基に講義を中心とするが、グループで討論し、指導計画を立てることで、他の受講生と意見交換をし、考えを深める機会を設ける。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
教育課程・全体的な計画・指導計画の意義について説明することができる。 子ども理解から指導計画の作成、評価までの流れを説明することができる。 短期の指導計画と長期の指導計画の関連について説明することができる。 短期、長期の指導計画案を立てることができる。 小学校、保護者、地域との連携を踏まえた指導計画案を立てることができる。
(3) アクティブラーニング
□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：幼児教育・保育における目標と計画の基本的考え方 事前学習：幼稚園教育要領・保育所保育指針の指導計画に関する部分を読み、質問項目をまとめておく(2時間) 事後学習：授業内容を踏まえて、幼稚園教育要領・保育所保育指針の指導計画に関する部分を再読し、要点をまとめる(2時間) 第2回：教育課程・全体的な計画と指導計画との関連性 事前学習：テキストの授業内容に該当する部分を読み、質問項目をまとめておく(2時間) 事後学習：授業内容を踏まえて、テキストに記載されている指導計画を見直し、ねらい・保育内容・援助と環境構成のつながりをまとめる(2時間) 第3回：認定こども園における指導計画と評価 事前学習：テキストの授業内容に該当する部分を読み、質問項目をまとめておく(2時間) 事後学習：授業内容を踏まえて、テキストに記載されている指導計画を見直し、ねらい・保育内容・援助と環境構成のつながりをまとめる(2時間) 第4回：乳児保育のカリキュラムの実例1(グループワーク) 事前学習：テキストの授業内容に該当する部分を読み、質問項目をまとめておく(2時間) 事後学習：授業内容を踏まえて、テキストに記載されている指導計画を見直し、ねらい・保育内容・援助と環境構成のつながりをまとめる(2時間) 第5回：乳児保育のカリキュラムの実例2(グループワーク) 事前学習：テキストの授業内容に該当する部分を読み、質問項目をまとめておく(2時間) 事後学習：授業内容を踏まえて、テキストに記載されている指導計画を見直し、ねらい・保育内容・援助と環境構成のつながりをまとめる(2時間) 第6回：1歳以上3歳未満児のカリキュラムの実例1(グループワーク) 事前学習：テキストの授業内容に該当する部分を読み、質問項目をまとめておく(2時間) 事後学習：授業内容を踏まえて、テキストに記載されている指導計画を見直し、ねらい・保育内容・援助と環境構成のつながりをまとめる(2時間)

第7回：1歳以上3歳未満児のカリキュラムの実際2（グループワーク） 事前学習：テキストの授業内容に該当する部分を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：授業内容を踏まえて、テキストに記載されている指導計画を見直し、ねらい・保育内容・援助と環境構成のつながりをまとめる（2時間） 第8回：3歳児のカリキュラムの実際1（グループワーク） 事前学習：テキストの授業内容に該当する部分を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：授業内容を踏まえて、テキストに記載されている指導計画を見直し、ねらい・保育内容・援助と環境構成のつながりをまとめる（2時間） 第9回：3歳児のカリキュラムの実際2（グループワーク） 事前学習：テキストの授業内容に該当する部分を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：授業内容を踏まえて、テキストに記載されている指導計画を見直し、ねらい・保育内容・援助と環境構成のつながりをまとめる（2時間） 第10回：4歳児のカリキュラムの実際1（グループワーク） 事前学習：テキストの授業内容に該当する部分を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：テキストの日案の反省を読み、次週の週案を作成する（2時間） 第11回：4歳児のカリキュラムの実際2（グループワーク） 事前学習：テキストの授業内容に該当する部分を読み、演習課題を実施しておく（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問する（2時間） 第12回：5歳児のカリキュラムの実際1（グループワーク） 事前学習：テキストの授業内容に該当する部分を読み、演習課題を実施しておく（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問する（2時間） 第13回：5歳児のカリキュラムの実際2（グループワーク） 事前学習：テキストの授業内容に該当する部分を読み、演習課題を実施しておく（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問する（2時間） 第14回：教育課程・全体的な計画における保・幼・小の連携（グループワーク） 事前学習：幼稚園教育要領・保育所保育指針の指導計画に関する部分を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：授業内容を踏まえて、幼稚園教育要領・保育所保育指針の該当する部分を再読し、授業内容と合わせて要点をまとめる（2時間） 第15回：障害児保育・保護者や地域との連携（グループワーク） 事前学習：幼稚園教育要領・保育所保育指針の指導計画に関する部分を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：授業内容を踏まえて、幼稚園教育要領・保育所保育指針の該当する部分を再読し、授業内容と合わせて要点をまとめる（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 定期試験（60％）、提出物（20％）、平常点（20％） （平常点は、授業・討論への参加状況、受講態度等を総合して判断する）
(7) 成績評価基準 教育・保育課程の意義について説明することができるか。 子ども理解から指導計画の作成、評価までの流れを説明することができるか。 短期の指導計画と長期の指導計画の関連について説明することができるか。 短期、長期の指導計画案を立てることができるか。 小学校、保護者、地域との連携を踏まえた指導計画案を立てることができるか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト (1) 河邊貴子編著「新3法令対応 幼児教育・保育カリキュラム論」東京書籍 2019年 (2) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 参考図書 (1) 「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>」 チャイルド本社 2017年 (1) 柴崎正行・増田まゆみ・戸田雅美編『保育課程・教育課程総論』 ミネルヴァ書房 2010年 (2) 保育所保育指針解説 厚生労働省 フレーベル館 (3) 幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども家庭福祉 (Welfare for Child and Family)			担当教員	青井 夕貴	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-F-2160	2 単位	1 年後期	講義		必修
<科目区分> 栄養・子ども学部子ども教育学科専門科目 基幹科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の基礎理論の理解					

(1) 授 業 の 内 容
保育所などの児童福祉施設に従事する保育士には、子どものwell-beingの実現を目指した保育活動の実践だけではなく、子どもの家庭を含めた支援が求められる。そのため、専門職として子ども家庭福祉に関する基礎的な知識が必要とされる。本授業では、児童福祉法を中心とした関連法をもとに、子ども家庭福祉における保育士の役割と職務について学んでほしい。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 子どもの人権擁護について理解する。 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。
(3) アクティブラーニング
☐課題解決型学習(PBL) ☐討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐実習、フィールドワーク ☐実験、実技 ☐その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション、子ども家庭福祉の理念と概念 事前学習：テキストのまえがきを読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間) 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間) 第2回：子ども・児童の定義 事前学習：テキストの第1章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間) 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間) 第3回：子どもの権利、人権擁護 事前学習：テキストの第2章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間) 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間) 第4回：子ども家庭福祉の歴史の変遷 事前学習：テキストの第3章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間) 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間) 第5回：子ども家庭福祉を支える法律①～児童福祉六法 事前学習：テキストの第4章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間) 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間) 第6回：子ども家庭福祉を支える法律②～その他 事前学習：テキストの第4章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間) 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間) 第7回：子ども家庭福祉の実施機関①～行政機関 事前学習：テキストの第5章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間) 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間) 第8回：子ども家庭福祉の実施機関②～児童福祉施設 事前学習：テキストの第5章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間) 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間) 第9回：子ども家庭福祉の専門職 事前学習：テキストの第6章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間) 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間) 第10回：少子化と地域子育て支援、母子保健 事前学習：テキストの第7章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間) 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)

第11回：多様な保育サービス 事前学習：テキストの第8章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（2時間） 第12回：子ども家庭福祉の現状と課題①～社会的養護、障害のある子どもの福祉 事前学習：テキストの第9・10章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（2時間） 第13回：子ども家庭福祉の現状と課題②～ひとり親家庭、子どもの貧困 事前学習：テキストの第11・12章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（2時間） 第14回：子ども家庭福祉の現状と課題③～非行、子ども虐待・DV、外国籍の子どもの福祉 事前学習：テキストの第13・14章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（2時間） 第15回：子ども家庭福祉の動向と展望、まとめ 事前学習：テキストの第15章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（70%）、提出課題（30%）
(7) 成績評価基準
現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について説明することができるか。 子どもの人権擁護について説明することができるか。 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について説明することができるか。 子ども家庭福祉の現状と課題について説明することができるか。 子ども家庭福祉の動向と展望について説明することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（個別あるいはTeams） 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書
田邊哲雄・中典子 編著「第5版 子ども家庭福祉論」晃洋書房・2025年 ミネルヴァ書房編集部「社会福祉小六法2026」ミネルヴァ書房・2026年
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育者論 (Role of Nursery Teachers in Society)			担当教員	渡辺 直人	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-A-2150	2 単位	1 年後期	講義		必修
<科目区分> 栄養・子ども学部子ども教育学科専門科目 基幹科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の基礎理論の理解					

(1) 授 業 の 内 容
今日の社会状況をふまえ、保育者（保育士・幼稚園教諭・保育教諭）の役割と倫理、保育士の制度的な位置づけと職務内容について学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
保育者（保育士・幼稚園教諭・保育教諭）の役割について説明することができる。 保育者の制度的な位置づけと職務内容について説明することができる。 保育者の職務上の倫理について説明することができる。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習（PBL） ☒ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション「授業の概要説明、留意事項の説明」 事前学習：1年前期で学んだ保育所保育指針第1章（総則）を読み、保育士の役割について復習しておく。（2時間） 事後学習：わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。（2時間） 第2回：保育者になるということ「保育者の存在意義・使命」 事前学習：法令集を読み、保育士の法的位置づけを確認しておく。（2時間） 事後学習：第1回課題レポートの作成。（2時間） 第3回：保育者の制度的位置づけ「児童福祉法」（討議） 事前学習：法令集を読み、保育士をとりまく法律を確認しておく。（2時間） 事後学習：授業内容をノートにまとめ、わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。（2時間） 第4回：保育者の制度的位置づけ2「学校教育法、教育基本法」（討議） 事前学習：法令集を読み、幼稚園教諭・保育教諭に関連する規定をまとめておく。（2時間） 事後学習：授業内容をノートにまとめ、わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。（2時間） 第5回：保育者の一日「具体的な仕事の流れに見る保育者のまなざし」（課題解決学習） 事前学習：動画を視聴し、一日の生活を確認しておく。（2時間） 事後学習：第2回課題レポートの作成。（2時間） 第6回：保育者の一日2「仕事の中に現れる危険性」（討議） 事前学習：子どもの遊びの種類をまとめ、その中で起こり得るアクシデントをまとめておく。（2時間） 事後学習：授業内容をノートにまとめ、わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。（2時間） 第7回：子どもの実際「年中行事」（討議） 事前学習：インターネットを用いて、季節ごとの行事を調べ、まとめておく。（2時間） 事後学習：授業内容をノートにまとめ、わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。（2時間） 第8回：保育士の役割と専門性1「教材研究Ⅰ」（課題解決学習） 事前学習：保育所保育指針を読み、遊び・教材・教具について質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：第3回課題レポートの作成。（2時間） 第9回：保育士の役割と専門性2「教材研究Ⅱ」（課題解決学習） 事前学習：保育所保育指針を読み、遊び・教材・教具について質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：授業内容をノートにまとめ、わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。（2時間）

第10回：保育士の役割と専門性 3「教材研究Ⅲ」（課題解決学習） 事前学習：保育所保育指針を読み、遊び・教材・教具について質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：授業内容をノートにまとめ、わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。（2時間） 第11回：保育者の連携・協働 1「保育における職員間・専門職間との連携・協働」（討議） 事前学習：保育士の仕事上での職員間・専門職間との連携について調べ、実態をまとめておく（2時間） 事後学習：第4回課題レポートの作成。（2時間） 第12回：保育者の連携・協働 2「地域における自治体や関係機関等との連携・協働」（討議） 事前学習：保育士の仕事上における地域・自治体等との関わりについて調べ、実態をまとめておく。（2時間） 事後学習：授業内容をノートにまとめ、わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。（2時間） 第13回：保育の計画と評価 1「計画」 事前学習：計画の必要性について考え、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：授業内容をノートにまとめ、わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。（2時間） 第14回：保育の計画と評価 2「評価」 事前学習：評価の必要性について考え、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：授業内容をノートにまとめ、わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。（2時間） 第15回：まとめ（近年の保育をめぐる政策と課題） 事前学習：保育者のキャリア形成の視座から、改めて「保育士とは何か」自身の考えをまとめておく。（2時間） 事後学習：これまでの授業内容を振り返り、定期試験の準備をする。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 筆記試験（40％） 中間の課題レポート（40％） 平常点（20％） （平常点は、授業への参加状況、受講態度を総合して判断します。）
(7) 成績評価基準 保育者（保育士・幼稚園教諭・保育教諭）の役割について現代社会の状況を踏まえて説明することができるか。 保育者の制度的な位置づけと職務内容について説明することができるか。 <レポートの評価の観点> ①ページ設定、枚数、テーマが指示に合っている ②論述の構成がよく、内容がわかりやすい ③自分の見解や主張が表明されている ④著書からの引用や具体例、または授業内容からの学修が論述に効果的に生かされている
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

(10) テキスト、参考図書
テキスト 編著 須藤麻紀「新しい時代の保育者論」教育情報出版 2024年 参考図書 「保育所保育指針解説」厚生労働省（編） フレーベル館 「幼稚園教育要領解説」文部科学省（編） フレーベル館
(11) その他(受講上の注意)
必要に応じてプリントを配布します。1 年前期で使用した『保育所保育指針解説』を引き続き使用します。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育原理Ⅰ (Principles of Early ChildhoodⅠ)			担当教員	渡辺 直人	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-A-2102	2 単位	1 年前期	講義	必修	
<科目区分> 栄養・子ども学部子ども教育学科専門科目 基幹科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の基礎理論の理解					

(1) 授 業 の 内 容
今日の子どもを取り巻く環境を概観しつつ、保育に係る制度(子ども・子育て支援新制度含む)、歴史、思想の概要と保育の意義を学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
特に幼稚園と保育所に係る制度(法律を含む)を理解し説明することができる。 西洋及び日本の保育の歴史(思想を含む)について、その概要を理解し、説明することができる。 幼稚園教育要領及び保育所保育指針の内容について、その概要を理解し、説明することができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション(授業の概要説明、留意事項の説明) 事前学習：新聞等で子どもに関わる記事を読み、ノートにまとめておく。(2時間) 事後学習：授業の内容をノートに整理する。(2時間) 第2回：保育の歴史(古代から中世の保育思想) 事前学習：古代や中世の教育思想について調べ、保育と関連する部分をノートにまとめる。(2時間) 事後学習：授業で学んだ古代・中世の保育思想を整理し、現代保育との関係性を考える。(2時間) 第3回：近代ヨーロッパの保育思想(ルソー、ペスタロッチなど) 事前学習：ルソーやペスタロッチの思想について事前に調べ、保育との関連を考える。(2時間) 事後学習：授業で得た知識を図や表にまとめ、現代保育における影響を明確化する。(2時間) 第4回：フレーベルと幼稚園教育の誕生 事前学習：フレーベルの生涯とその教育理論について調べ、簡単にまとめる。(2時間) 事後学習：授業内容を踏まえて、フレーベルの思想が現代保育にどう活かされているかを考察する。(2時間) 第5回：日本の近代保育思想(明治期の保育と幼稚園の発展) 事前学習：明治時代における幼稚園の創設について調べ、概要をノートにまとめる。(2時間) 事後学習：授業で学んだ内容を振り返り、明治期の保育発展の意義を文章にまとめる。(2時間) 第6回：大正期の保育思想(自由教育運動と保育) 事前学習：大正デモクラシー期における自由教育運動の概要を調べておく。(2時間) 事後学習：授業内容を基に、大正期の自由教育運動が保育に与えた影響をレポートにまとめる。(2時間) 第7回：戦時下の保育と戦後の復興期の保育政策 事前学習：戦時下における保育政策や保育所の変遷について調べておく。(2時間) 事後学習：授業で取り上げた内容を振り返り、戦後の保育政策の特徴を考え直す。(2時間) 第8回：戦後日本の保育思想と児童福祉法の制定 事前学習：児童福祉法の制定過程とその背景について調べておく。(2時間) 事後学習：授業内容を参考に、児童福祉法が保育思想に及ぼした影響を文章化する。(2時間) 第9回：保育所保育指針の歴史とその位置づけ 事前学習：過去の保育所保育指針の改定履歴について調べておく。(2時間) 事後学習：授業の内容を要点ごとに整理し、指針の変遷における重要ポイントをまとめる。(2時間) 第10回：保育内容の変遷とその背景 事前学習：戦後から現代までの保育内容の変遷について調べ、主な変化をノートにまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で学んだ保育内容の変化の背景やその影響を図式化して考える。(2時間) 第11回：現代の保育と子育て支援政策の展開 事前学習：戦後の日本社会の変化と、それに対応した保育政策について調べておく。(2時間) 事後学習：授業で取り上げた事例を基に、平成期の保育政策の特徴を箇条書きで整理する。(2時間)

第12回：現代の保育と保育思想の新たな潮流 事前学習：現在の保育を取り巻く課題や新たな取り組みについて調べておく。（2時間） 事後学習：授業内容を活用して、現代の保育思想の課題と可能性を文章でまとめる。（2時間） 第13回：諸外国の保育思想と制度（ヨーロッパ・アメリカ・アジア） 事前学習：諸外国の保育制度や思想について調べ、ノートにまとめておく。（2時間） 事後学習：授業を通じて得た知識を整理し、日本との相違点を比較する。（2時間） 第14回：保育の歴史を踏まえた現代保育の課題と展望 事前学習：これまでの授業内容を振り返り、自分なりに重要と思う点をノートにまとめる。（2時間） 事後学習：授業で学んだことをもとに、現代保育の課題と展望についてレポートを仕上げる。（2時間） 第15回：前期のまとめ 事前学習：配布資料を読み、関連する事項をノートにまとめておく。（2時間） 事後学習：授業の内容をノートに整理する。前期の授業内容について資料等を通して振り返り、定期試験の準備をする。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
平常点(20%) 課題レポート(30%) 筆記試験(50%) (平常点は、授業への参加状況、課題レポートの提出状況を総合して判断します。)
(7) 成績評価基準
保育の制度(各種法令・学習指導要領・保育内容)に係る基本的な理解ができているか。 保育の歴史と思想に係る基本的な知識が身についているか。 現代社会における保育の意義について、自分の見解を組み立てて論述できているか。 <レポートの評価の観点> ①ページ設定、枚数、テーマが指示に合っている ②論述の構成がよく、内容がわかりやすい ③自分の見解や主張が表明されている ④著書からの引用や具体例、または授業内容からの学修が論述に効果的に生かされている
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
【参考書】 厚生労働省編『保育所保育指針解説』(フレーベル館、2018年) 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

発達心理学 I (Developmental Psychology I)			担当教員	乙部 貴幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-D-2158	2 単位	1 年後期	講義		必修
<科目区分> 栄養・子ども学部子ども教育学科専門科目 基幹科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解					

(1) 授 業 の 内 容
・ 保育士資格関連科目「保育の心理学」の対応科目。 ・ 内容は非常に多岐に及ぶので、詳細は「授業の計画」を参照のこと。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
1. 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☒ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：心理学とは：心と行動の客観的・論理的な説明を試みる学問としての心理学 事後学習：講義内容と授業計画をもとに、自らがより深く学びたいことをリストアップする。(4時間)
第2回：発達を捉える視点①：子どもの発達を理解することの意義 事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。(4時間)
第3回：発達を捉える視点②：子どもの発達と環境 事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。(4時間)
第4回：発達を捉える視点③：発達理論と子ども観・保育観 事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。(4時間)
第5回：子どもの発達過程①：身体的機能と運動機能の発達 事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。(4時間)
第6回：子どもの発達過程②：感情の発達と自我 事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。(4時間)
第7回：子どもの発達過程③：感覚・知覚と認知の発達 事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。(4時間)
第8回：子どもの発達過程④：ことばの発達 事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。(4時間)
第9回：子どもの発達過程⑤：基本的信頼感と愛着の発達 事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。(4時間)
第10回：子どもの発達過程⑥：社会性の発達 事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。(4時間)
第11回：脳の仕組み・働きと発達 事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。(4時間)
第12回：子どもの学びと保育①：乳幼児期の学びに関わる理論 事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。(4時間)
第13回：子どもの学びと保育②：乳幼児期の学びの過程と特性 事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。(4時間)
第14回：子どもの学びと保育③：乳幼児期の学びを支える保育(グループワークと討議) 事前学習：グループワークのための資料準備。(4時間)
第15回：発達の諸相：発達の様々な側面を考える(グループワークと討議) 事前学習：グループワークのための資料準備。(4時間)
第16回：定期試験

(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
課題レポート：40% グループワークの報告（10% * 2 = 20%） 定期試験（40%）
(7) 成績評価基準
・子どもの発達と学習の過程について、基礎的なことを理解し、説明できること。 ・発達と保育に関する「発達心理学」「保育の心理学」的な見方・考え方について、一定の総合的な見識を持つこと。 ・自分なりの踏み込んだ疑問や理解を持とうとし、それについて他者と意見・考えを交換できること。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■授業時 ■仁大eラーニング □メール □その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■授業時 ■仁大eラーニング □メール □その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■授業時 ■仁大eラーニング □メール □その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて □定期試験時 ■仁大eラーニング □メール □その他 5) その他 □授業時 □仁大eラーニング □メール □その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書
<テキスト> 杉村伸一郎・山名裕子（編）『保育の心理学』（中央法規、2019年） <参考> 幼稚園教育要領（平成29年3月31日告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成29年3月31日告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月31日告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）
(11) その他(受講上の注意)
この授業では授業資料の配布、課題の提出、試験などを全て仁大eラーニングで行います。質問・連絡は、授業の前後、メール/teams、またはオフィスアワーに研究室に来て下さい。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育基礎演習 (Basic Seminar for Early Childhood Careand Education)			担当教員	伊東 知之、辻 由記子、森尾 恵里	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-C-2108	2 単位	1 年前期	演習		必修
<科目区分> 栄養・子ども学部子ども教育学科専門科目 基幹科目					
求める学習成果（教育目標）					
教育・保育の実践に求められる表現技術					

(1) 授 業 の 内 容
授業は、3人の教員がそれぞれの専門分野に応じた実技を中心にオムニバス方式で進めていく。 (伊東知之／5回) 主にクレヨンを用いた基本的な絵画活動や折り紙等の身近な素材を用いた工作、造形遊び等、実際の保育の現場で子どもたちと関わることができる活動を体験していく。また、実際の子どもたちとの関わりの中で、学んだ造形活動がどのように展開されていくのかや造形活動を通した子どもたちとの触れ合い方を学ぶ。 (辻由記子／5回) 実際の教育機関の現場で、子どもたちの音楽を通した活動を効果的に推進するために必要な「器楽」の基本的概念や奏法を学ぶ。楽器の歴史と併せ、子どもたちに身近な“リズム”や“ことば”が、器楽への興味へとつながっていくことを理解し、また、グループ等での小編成合奏や創作遊びを通して、楽器の基本的な扱い方、奏法を身につけさせる。 (森尾恵里／5回) 乳幼児との心の通う関わり方の一方法として、遊びを通したコミュニケーションづくりの基礎を身に付けさせる。“楽しい”を伝えられる支援者としての第一歩となるように、乳幼児との関わりに有効な手遊び・言葉遊びの基礎を体験し、遊びの展開方法を身に付けさせる。さらに、遊びの展開方法に重要な“ことばと表情”による表現の仕方の基礎的な方法を修得させる。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
造形、音楽、身体表現の基礎的な理論を理解し、実践できる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：遊びの体験／出会い (総合演習室)(森尾) 事前学習：子どもの遊びについて調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業の遊びの体験をまとめておくこと。(2時間) 第2回：手遊び、言葉遊びに素材の体験 (総合演習室)(森尾) 事前学習：乳幼児に適した手遊び、ことば遊びを調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業で体験した遊びの展開の仕方を復習しておくこと。(2時間) 第3回：手遊び、言葉遊びの素材の展開法 (総合演習室)(森尾) 事前学習：いろいろな遊びの展開の仕方を調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業で体験したいろいろな遊びの展開の仕方を復習し、身につけておくこと。(2時間) 第4回：ホスピタリティの示し方 表現・話し方トレーニング (総合演習室)(森尾) 事前学習：対象児に伝わりやすい表情、話し方を調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業で体験したホスピタリティ溢れる話し方を復習しておくこと。(2時間) 第5回：コミュニケーションづくりの基礎技術 (総合演習室)(森尾) 事前学習：対象児に合わせた遊びの説明の仕方を練習しておくこと。(2時間) 事後学習：対象児とより良い関わりを持つために、授業で体験したことを実践に努めること。(2時間) 第6回：子どもと造形遊び(図工室)(伊東) 事前学習：幼児教育・保育の5領域について調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業の内容についてまとめ、課題作品を完成させる。(2時間) 第7回：幼稚園・保育園見学 (学外)(伊東) 事前学習：見学する附属幼稚園、仁愛保育園の概要をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：見学の内容をレポートにまとめる。(2時間)

第8回：遊びの中の造形（伊東） 事前学習：子どもと造形活動についての考えをまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業の内容についてまとめ、課題作品を完成させる。（2時間） 第9回：造形遊びから造形表現（図工室）（伊東） 事前学習：子どもの造形に関する発達について調べておくこと。（2時間） 事後学習：授業の内容についてまとめ、課題作品を完成させる。（2時間） 第10回：造形表現の実践とまとめ（図工室）（伊東） 事前学習：造形表現の具体的な内容をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業の内容についてまとめ、課題作品を完成させる。（2時間） 第11回：言葉とリズムの表現（言葉をリズムで表現させ、またそのリズムを叩いてみる）（音楽室）（辻） 事前学習：日常使用される言葉を”リズム”の面から探り、分析しておく。（2時間） 事後学習：授業の内容についてまとめ、形成されたリズムを確認してみる。（2時間） 第12回：手拍子での表現（ボディパーカッションの応用）（言葉のリズムを手拍子や、体の部分でとらせる）（音楽室）（辻） 事前学習：日常使用される言葉のリズムを手拍子で叩けるように体験しておく。（2時間） 事後学習：授業の内容についてまとめ、リズムと手拍子との関連性を確認してみる。（2時間） 第13回：楽器を用いたリズム表現（単純な楽器を使ったリズム表現や楽器製作）（音楽室）（辻） 事前学習：自分の名前や相手の名前をリズムで表現出来るようにしておく。（2時間） 事後学習：授業の内容に応じたリズム体系を身近な楽器で叩いてみる。（2時間） 第14回：メロディに合わせたリズム表現（簡単なメロディに合わせ楽器や手拍子等でリズム表現）（音楽室）（辻） 事前学習：簡単な楽譜を読んだり、リズムを叩いたり出来るよう練習しておく。（2時間） 事後学習：2人以上でのリズム表現を楽譜に応じて演奏してみる。（2時間） 第15回：まとめ、アンサンブル（全体で言葉のリズムを歌等を交え表現させる）（音楽室）（辻） 事前学習：2人以上のアンサンブルで、それぞれのパートを演奏出来るようにしておく。（2時間） 事後学習：それぞれ演奏するリズムが各自聞き取れるよう、復習してみる。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 レポート（80%）、平常点（20%） （平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。）
(7) 成績評価基準 造形の基礎的な理論を理解し、実践できるか。 音楽の基礎的な理論を理解し、実践できるか。 身体表現の基礎的な理論を理解し、実践できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 必要に応じて資料を配布する。 伊東知之著『造形表現・図画工作・美術』福村出版 2023年
(11) その他(受講上の注意) 日程によって教室が異なるため注意すること。また、総合演習室での授業では、動きやすい服装、履物で受講し、図工室での授業では図工用具一式を持参すること。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育基礎演習 (First-year Seminar (Child Education))			担当教員	青井 夕貴、出村 友寛	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-A-2103	2 単位	1 年前期	演習		必修
<科目区分> 栄養・子ども学部子ども教育学科専門科目 基幹科目					
求める学習成果（教育目標）					
大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます。					

(1) 授 業 の 内 容
大学4年間の学生生活、さらにはその後の人生をどう生きるかについて、学生一人ひとりが責任をもって方向を確立していくための助言・指導を行う。担当教員による専門分野の基礎的なことがらについて演習形式で授業を行い、大学生生活の方向付けを模索する。また、本演習を通して学生と教員、学生相互間のコミュニケーションを活性化することをねらいとする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・レポート作成方法や授業ノートの取り方を知ることができる。 ・図書館の利用方法や文献検索方法を知り、学習や研究に必要な図書を利用できる。 ・大学、学科の教育課程、教育制度、授業形態について理解している。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
(各授業の詳細については、全体ガイダンスにおいて説明する。) 第1回：全体ガイダンス(オリエンテーション)を通して、本授業の内容や達成すべき目標について理解する。 事前学習：学生便覧を読み、学科の教育課程、教育制度、履修方法について理解し、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業内容、学生便覧を踏まえて、自己の学習計画・理由計画を見直す。(2時間) 第2回：大学での学び方(ノートのとり方を中心に) 事前学習：これまで受講した他の授業を踏まえて、受講の仕方、ノートの取り方、学習の仕方について質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業内容を踏まえて、自分の受講についての反省点、改善点をまとめる。(2時間) 第3回：個人面談①、または、図書館ガイダンス① 事前学習：自己認識シートの必要事項を記入し、今後の学習における抱負をまとめておく。(2時間) 事後学習：指導教員との面談で指摘されたことを踏まえて、今後の学修課題をまとめる。(2時間) 第4回：個人面談②、または、図書館ガイダンス② 事前学習：大学の図書館のHPを閲覧し、利用方法を理解した上で質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：ガイダンスを踏まえて、関心のある分野の書籍等を検索して借りる等、図書館を利用する方法を復習する。(2時間) 第5回：大学での学び方(ICTの活用を中心に) 事前学習：ICTについて調べておく。(2時間) 事後学習：授業内容を整理し、関連項目をインターネット等で調べる。(2時間) 第6回：大学での学び方(文章の書き方を中心に) 事前学習：大学で求められる文章表現のあり方について調べておく。(2時間) 事後学習：授業内容を整理し、関連項目をインターネット等で調べる。(2時間) 第7回：専門分野の基礎学習(グループワーク) 事前学習：インターネット等の情報を参照し、グループで検討するテーマを考えておく。(2時間) 事後学習：授業内容を整理し、関連項目をインターネット等で調べる。(2時間) 第8回：大学での学び方(理数系分野の学び方を中心に) 事前学習：事前に配布された演習問題を解き、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業内容を整理し、演習問題の見直しをする。(2時間) 第9回：大学での学び方(レポートの書き方を中心に) 事前学習：出典の書き方や著作権について調べておく。(2時間) 事後学習：授業内容を整理し、関連項目についてインターネット等で調べる。(2時間)

第10回：専門分野の基礎学習（グループワーク） 事前学習：グループテーマの関連項目について調べておく。（2時間） 事後学習：授業内容を整理し、関連項目についてインターネット等で調べる。（2時間） 第11回：先輩の話聞き、学びのイメージを持つ 事前学習：先輩に質問したいことを考えておく。（2時間） 事後学習：授業内容を整理し、関連項目についてインターネット等で調べる。（2時間） 第12回：大学での学び方（常識を疑う） 事前学習：これまで受講した他の授業を振り返り、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：授業内容を整理し、関連項目についてインターネット等で調べる。（2時間） 第13回：地域学習 事前学習：地域に関連する事項について調べておく。（2時間） 事後学習：授業内容を整理し、関連項目についてインターネット等で調べる。（2時間） 第14回：専門分野の基礎学習（発表・プレゼンテーション） 事前学習：それぞれのテーマについて調べておく。（2時間） 事後学習：授業内容を整理し、関連項目についてインターネット等で調べる。（2時間） 第15回：専門分野の基礎学習（発表・プレゼンテーション） 事前学習：それぞれのテーマについて調べておく。（2時間） 事後学習：授業内容を整理し、前期の自己の学習態度を振り返り、反省点や改善点をまとめる。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 レポート、課題等（80％）、平常点（20％） （平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。）
(7) 成績評価基準 ・レポート作成方法や授業ノートの取り方を知ることができたか。 ・図書館の利用方法や文献検索方法を知り、学習や研究に必要な図書利用方法を身につけることができたか。 ・大学、学科の教育課程、教育制度、授業形態について理解できたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 各回の授業で資料を配布するので、特定のテキストは設定しない。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

国語 (Japanese Language)			担当教員	平岡 正実	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-B-2152	2 単位	1 年後期	講義	選択	
<科目区分> 栄養・子ども学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
小学校学習指導要領「国語」の内容を踏まえながら、小学校教諭として必要な国語の力を身につける。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
自らの言語感覚を磨き、国語に対する関心を深めて、自信をもって小学校国語科の指導ができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：全体の授業概要の説明及び受講における心構え 事前学習：「小学校学習指導要領解説国語編」第1章を読んで質問事項をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業での学修を参考にして「小学校学習指導要領解説国語編 第1章」「幼稚園教育要領言葉」を読んで関連性をノートにまとめ第2回授業で提出すること。(2時間) 第2回：学習指導要領における「国語」について 事前学習：①「小学校学習指導要領解説国語編 第2章国語科の目標および内容」を読んで質問事項をまとめておくこと。②各自が持っている国語便覧の「文学史」を読み、日本文学についてまとめておくこと。(2時間) 事後学習：①「小学校学習指導要領解説国語編」を読んで各領域における学年ごとの目標②時代を代表する文学の作品名や作者名、及び内容の概略の2点について調べ、それぞれノートにまとめ第3回授業で提出すること。(2時間) 第3回：国語の基礎①声の表現 (ワークショップ) 事前学習：「小学校学習指導要領解説国語編国語科の内容 A話すこと・聞くこと P28～31」を読んで質問事項をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：「話すこと・聞くこと」の活動を形態によって分類し、実際に行う場合の留意点についてノートに整理し第4回授業で提出すること。(2時間) 第4回：国語の基礎②漢字(送り仮名・仮名遣い) (実技) 事前学習：「小学校学習指導要領解説国語編」の付録3(学年別漢字配当表)を参考に漢字の復習をしておくこと。(2時間) 事後学習：①現代仮名遣い及び送り仮名の付け方について例解辞典等で確認しておくこと。 ②都道府県名及び県庁所在地名をノートに漢字で正しく書き第5回授業で提出すること。(2時間) 第5回：国語の基礎③カタカナ・ローマ字 (実技) 事前学習：図書館や参考文献等でカタカナの由来やもとなつた漢字、ローマ字表記について調べ、質問事項をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：小学校3年生の国語の教科書からローマ字に関する教材文を参考にして、ローマ字で50単語程度の日記を書いて第6回授業で提出すること。(2時間) 第6回：国語の基礎④ひらがな (実技) 事前学習：図書館や参考文献等でひらがなの由来やもとなつた漢字、鉛筆の持ち方について調べ、質問事項をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：ひらがなの字源を調べたり、文字の概形や組み立て方を確認したりして、字形指導の効果的な指導計画を立て第7回授業で提出すること。(2時間) 第7回：国語の基礎⑤板書・原稿用紙の使い方 (実技) 事前学習：小テストに備えて既習事項の復習をしておくこと。(2時間) 事後学習：小テストの解答をもとに誤答を中心に復習すること。(2時間)

第8回：国語の基礎⑥文法・敬語（実技） 事前学習：各自が持っている国語便覧の「口語文法」の項目を読み、質問事項をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：口語文法と敬語に関する復習課題をやり第9回授業で提出すること。（2時間） 第9回：国語の基礎⑦古典（1）古文＜百人一首＞（グループワーク） 事前学習：各自が持っている国語便覧の「百人一首」の項目を読み、何首かは暗唱できるようにしておくこと。（2時間） 事後学習：百人一首に関する復習課題をやり第10回授業で提出すること。競技カルタのルールを習得しておくこと。（2時間） 第10回：国語の基礎⑧手紙文はがき文の書き方、N I E（実技） 事前学習：手紙文はがき文の書き方、時候の挨拶について調べておくこと。（2時間） 事後学習：新聞記事やコラムを活用したN I Eの学習指導計画を立て第11回授業で提出すること。（2時間） 第11回：国語の基礎⑨文章（小論文・随筆等）の書き方（ワークショップ） 事前学習：「ふくい風花文学賞 入賞作品集」を読んで感想をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：著名人の随筆やエッセイを読み、書きぶりの特徴やよさについてまとめ第12回授業で提出すること。（2時間） 第12回：国語の基礎⑩熟語・慣用句他（グループワーク） 事前学習：自分が知っている「四字熟語」について読み方や由来、今日的な使われ方等についてまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業中に紹介された「四字熟語」の中で、意味がわからないものについて調べ、ノートにまとめたり、短文づくりをして第13回授業で提出すること。（2時間） 第13回：書写（実技） 事前学習：「小学校学習指導要領解説国語編国語科の内容（3我が国の言語文化に関する事項○書写）」を読んで質問事項をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：小学校の書写教科書を読んで、書写教育の今日的意義についてノートにまとめ第14回授業で提出すること。（2時間） 第14回：指導者としての国語力（ディスカッション） 事前学習：「小学校学習指導要領解説国語編の付録3（小学校教育要領 第2章第1節国語）付録10（幼稚園教育要領）」を読んでまとめておくこと。（2時間） 事後学習：幼小の教育者として今日求められている国語力について自分なりの意見をまとめ第15回授業で提出すること。（2時間） 第15回：話す、聞くなどを含めた国語の力全体の総括及び小テストの解説 事前学習：小テストに備えて、既習事項の復習をしておくこと。（2時間） 事後学習：教育要領「言葉」や指導要領「国語」の記述を参照しながら、この講義を受講して具体的にどのようなことを学んだかノートにまとめ提出すること。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 学期末レポート（50%）、授業内の小テスト（30%）、平常点（20%） （平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する）
(7) 成績評価基準 国語を学ぶ意義を理解し、提出物や実技を通して自らの国語の力を高められたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性) 経歴：（元小学校教諭・中学校国語科教諭） 実務経験と授業内容との関連性：（小学校教諭・中学校国語科教諭として、授業実践、生徒指導実践を行ってきた経験を有する教員が、学習指導要領に示されている教科「国語」の学習指導内容について講義する。）

(10) テキスト、参考図書
テキスト 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』 文部科学省、東洋館出版社、平成29年 7 月 『国語（文部科学省検定済教科書）』 光村図書出版株式会社、小学校国語科用、令和 7 年 2 月（1 年～ 4 年 上・下巻、5・6 年 通年 1 冊）
(11) その他(受講上の注意)
書写や実技の回では、その都度持ち物を指示します。各自で持参してください。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子どもと健康 (Child and Health)			担当教員	出村 友寛
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-B-2103	1 単位	1 年前期	演習	選択
<科目区分> 栄養・子ども学部子ども教育学科専門科目 展開科目				
求める学習成果(教育目標)				
教育・保育の内容の理解及び指導方法				

(1) 授 業 の 内 容
乳幼児期における身体の発育・発達に関する基本的な情報および乳幼児のけがや疾病への対応策、安全を確保するために留意すべき保育環境のあり方などについて学習する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
領域「健康」のねらいや内容について理解する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：領域「健康」のとらえ方と目指すもの 事前指導：テキストの第1章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。(2時間) 第2回：乳幼児の発育・発達 事前指導：テキストの第2章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。(2時間) 第3回：乳幼児の生活習慣の現状と課題 事前学習：テキストの第3章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。(2時間) 第4回：乳幼児の身体活動の現状と課題 事前学習：テキストの第4章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。(2時間) 第5回：幼児期運動指針について 事前学習：幼児期運動指針(文部科学省、2012)を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：幼児期運動指針の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。(2時間) 第6回：健全な発育・発達の測定と評価方法 事前学習：テキストの第6章(p.113-137)を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。(2時間) 第7回：安全管理と安全教育の必要性 事前学習：テキストの第7章(p.138-146)を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。(2時間) 第8回：応急処置法(確認試験) 事前学習：テキストの第7章(p.146-161)を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。(2時間) 定期試験は実施しない
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
確認試験(60%)、レポート(40%)

(7) 成績評価基準
領域「健康」のねらいや内容を理解できているか。幼児期における身体の発育・発達に関して理解できているか。幼児のけがや疾病への対応策、安全を確保するために留意すべき保育環境のあり方について理解できているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト：春日晃章編集代表 松田繁樹・中野貴博編集 「保育内容 健康」 株式会社みらい 2015年 参考図書：幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 適宜配布
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子どもと音楽表現 (Child and Music Expression)			担当教員	中野 研也	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-B-2104	1 単位	1 年前期	演習	選択	
<科目区分> 栄養・子ども学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
音楽の3要素である「リズム」「旋律」「和声」を歌唱やキーボード演奏の実践を通して体感的に学習するとともに、記譜法等を含めた音楽の基礎的な知識を習得し活用する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
保育・教育における音楽活動の実践に必要な音楽理論の基礎的な知識と楽譜を理解し活用する力を身に付ける。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：リズムと拍子1 音の長さとの関係、拍子を感じる 事前指導：授業前に「おんがくのしくみ」第1章-1～2を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後指導：「ジュニアクラス楽典テキストワーク」p.17～p.19、p.22～p.23、p.25、p.27を実施すること。(2時間) 第2回：五線と鍵盤 事前指導：授業前に「おんがくのしくみ」プレリュード-1を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後指導：「ジュニアクラス楽典テキストワーク」p.13～p.16を実施すること。(2時間) 第3回：音階と調① わらべうたや民謡などの音階 事前指導：授業前に「おんがくのしくみ」第2章-1および第2章-2よりp.54～p.56を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後指導：「おんがくのしくみ」第2章-1より課題4～課題6、およびp.56～p.59を実施すること。(2時間) 第4回：音階と調② 長音階と短音階(ディスカッション) 事前指導：授業前に「おんがくのしくみ」第2章よりp.64～p.66を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後指導：「ジュニアクラス楽典テキストワーク」p.71を実施すること。(2時間) 第5回：音程1 音程の種類と名前 事前指導：授業前に「ジュニアクラス楽典テキストワーク」p.48～p.49を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後指導：「ジュニアクラス楽典テキストワーク」p.54～p.55を実施すること。(2時間) 第6回：音程2 変化記号の付いた音程と、音程の転回 事前指導：授業前に「楽典テキストワーク」p.56～p.58を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後指導：「ジュニアクラス楽典テキストワーク」p.60～p.61を実施すること。(2時間) 第7回：和音と伴奏1 主要三和音(グループワーク) 事前指導：授業前に「おんがくのしくみ」第3章よりp.62～p.65および「楽典テキストワーク」p.62を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後指導：「楽典テキストワーク」p.63とp.82の課題を実施すること。(2時間) 第8回：和音と伴奏② コードネームと7の和音(グループワーク) 事前指導：授業前に「楽典テキストワーク」第3章よりp.80～p.81、p.86～p.87を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後指導：「ジュニアクラス楽典テキストワーク」p.88および「おんがくのしくみ」第4章よりp.89を実施すること。(2時間) 定期試験：定期試験期間に実施する 各回での理解が、それ以降の授業内容の理解に大きく影響します。そのため、第一に授業時間内での理解に努めてください。

(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
音楽理論の基礎知識が身につく、教育・保育現場で使用する楽譜を理解できるようになったかどうかを評価基準とし、定期試験（70％）と平常点（30％）で評価する。
(7) 成績評価基準
音楽理論の基礎知識が身につく、教育・保育現場で使用する楽譜を理解できるようになったか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) 授業時間内に行う実技試験に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
【テキスト】 「おんがくのしくみ」 今川恭子（監修）教育芸術社 【参考図書】 『ジュニアクラスの楽典テキストワーク』 内藤雅子」は印刷資料を配付します。 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）
(11) その他(受講上の注意)
クラス全体の理解度によりシラバスの日程と実際の授業内容の日程とは、多少前後します。また、できる限り授業時間内での理解に努めてください。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子どもと造形表現 (Child and Figurative Expression)			担当教員	伊東 知之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-B-2153	1 単位	1 年後期	演習		選択
<科目区分> 栄養・子ども学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
幼児教育・保育の基本を踏まえ、造形表現領域のねらい及び内容を理解する。幼児の造形活動における発達や過程を理解するとともに実際の制作活動や鑑賞能力について実践的活動を通して身に付ける。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
幼児教育・保育において育てたい資質や能力を理解するとともに、領域「表現」の造形表現についてその内容とねらいをその背景となる専門領域と関連させて理解する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の特色とその背景 事前指導：幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領を読み、まとめる。(2時間) 事後指導：幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の領域(表現)部分をまとめる。(2時間) 第2回：子どもの遊びと造形表現活動 事前指導：造形表現活動についてこれまで学んだことをまとめる。(2時間) 事後指導：子どもの造形表現活動について学んだことをまとめる。(2時間) 第3回：子どもの造形活動における発達過程 事前指導：子どもの造形活動における発達過程について調べ、まとめる。(2時間) 事後指導：造形活動における発達過程について学んだことをまとめる。(2時間) 第4回：造形表現技術と技法 事前指導：様々な造形表現技法について調べ、まとめる。(2時間) 事後指導：学んだ表現技法を用いた作品を完成させる。(2時間) 第5回：教材研究の意義と方法 事前指導：教材研究の意義について考えをまとめる。(2時間) 事後指導：学んだ意義や方法を用いた作品を完成させる。(2時間) 第6回：教材研究平面造形 事前指導：平面造形の作品や技法について調べ、まとめる。(2時間) 事後指導：学んだ平面造形の作品を完成させる。(2時間) 第7回：教材研究立体造形 事前指導：立体造形の作品や技法について調べ、まとめる。(2時間) 事後指導：学んだ立体造形の作品を完成させる。(2時間) 第8回：造形表現の課題と展望 事前指導：造形表現の課題と展望について考えをまとめる。(2時間) 事後指導：造形表現の課題と展望についてレポートにまとめる。(2時間) 定期試験は実施しない。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
学期末レポート(50%)、課題(50%)

(7) 成績評価基準
・幼児教育における造形表現のねらい及び内容を理解しているか。 ・作品制作を通して、造形表現力や鑑賞能力が身についているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他(模擬授業、指導案に対するフィードバックについて) ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
【テキスト】 造形表現・図画工作・美術(伊東知之著 福村出版 2023年) 教育実習(幼稚園)の手引き(伊東知之編著 2010年) 【参考図書】 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)
(11) その他(受講上の注意)
・毎回、図工セットを持参すること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

基礎ピアノ I (Basic Piano I)			担当教員	中野 研也、飯田 由美、太田 佳代、 野村加奈子、岡 茜
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-C-2107	1 単位	1 年前期	演習	選択
<科目区分> 栄養・子ども学部子ども教育学科専門科目 展開科目				
求める学習成果(教育目標)				
教育・保育の実践に求められる表現技術				

(1) 授 業 の 内 容
教育・保育の現場で必要とされるピアノ演奏技術を身に付ける。 個人レッスンの形で行う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
ピアノ演奏技術を学び、2年次の弾き歌い科目「音楽表現 I・II」を履修するための基礎力を身に付けることができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
次の授業計画は、「グレード1」の教育内容についての進捗目標である。「グレード2～5」に関しては、レッスンノートを参照のこと。 第1回：グレード判定テスト(実技、グループワーク) 事前学習：第1回授業時にグレード判定に用いるため、任意の曲を練習しておくこと。(0.5時間) 事後学習：バイエルピアノ教則本p.4～p.5を読み、音の高さと長さを覚えること。習熟度を次の授業で評価する。(0.5時間) 第2回：譜表の読み方と鍵盤の位置の確認 (バイエルピアノ教則本 No.19～21)(実技、グループワーク) 事前学習：バイエルピアノ教則本 No.19～21より、前回の授業で指定された曲を練習しておくこと。(0.5時間) 事後学習：授業で学んだ曲を復習(練習)すること。習熟度を次の授業で評価する。(0.5時間) 第3回：二度・三度の練習 (バイエルピアノ教則本 No.22～25)(実技、グループワーク) 事前学習：バイエルピアノ教則本 No.22～25より前回の授業で指定された曲を練習しておくこと。(0.5時間) 事後学習：授業で学んだ曲を復習(練習)すること。習熟度を次の授業で評価する。(0.5時間) 第4回：スタッカート(練習) (バイエルピアノ教則本 26～31)(実技、グループワーク) 事前学習：バイエルピアノ教則本 No.26～31より前回の授業で指定された曲を練習しておくこと。(0.5時間) 事後学習：授業で学んだ曲を復習(練習)すること。習熟度を公開演奏で評価する。(0.5時間) 第5回：公開演奏(実技、発表) 事前学習：公開演奏で演奏する曲を練習しておくこと。(0.5時間) 事後学習：公開演奏における反省点を踏まえ、復習(練習)すること(0.5時間) 第6回：タイの練習 (バイエルピアノ教則本 No.32～37)(実技、グループワーク) 事前学習：バイエルピアノ教則本 No.32～37より、第4回授業で指定された曲を練習しておくこと。(0.5時間) 事後学習：授業で学んだ曲を復習(練習)すること。習熟度を次の授業で評価する。(0.5時間) 第7回：右手加線の読み方 (バイエルピアノ教則本 No.38～43)(実技、グループワーク) 事前学習：バイエルピアノ教則本 No.38～43より前回の授業で指定された曲を練習しておくこと。(0.5時間) 事後学習：授業で学んだ曲を復習(練習)すること。習熟度を次の授業で評価する。(0.5時間) 第8回：左手加線の読み方 (バイエルピアノ教則本 No.44～49)(実技、グループワーク) 事前学習：バイエルピアノ教則本 No.44～49より前回の授業で指定された曲を練習しておくこと。(0.5時間) 事後学習：授業で学んだ曲を復習(練習)すること。習熟度を次の授業で評価する。(0.5時間) 第9回：八分音符の練習 (バイエルピアノ教則本 No.32～54)(実技、グループワーク) 事前学習：バイエルピアノ教則本 No.32～54より前回の授業で指定された曲を練習しておくこと。(0.5時間) 事後学習：授業で学んだ曲を復習(練習)すること。習熟度を公開演奏で評価する。(0.5時間) 第10回：公開演奏(実技、発表) 事前学習：公開演奏で演奏する曲を練習しておくこと。(0.5時間) 事後学習：公開演奏における反省点を踏まえ、復習(練習)すること(0.5時間)

第11回：低音部記号（ヘ音記号）の習得（バイエルピアノ教則本 No.55～57）（実技、グループワーク） 事前学習：バイエルピアノ教則本 No.55～57より第9回授業で指定された曲を練習しておくこと。（0.5時間） 事後学習：授業で学んだ曲を復習（練習）すること。習熟度を次の授業で評価する。（0.5時間） 第12回：強弱記号の読み方（バイエルピアノ教則本 No.58～60、および仁愛女子短期大学附属幼稚園実習曲）（実技、グループワーク） 事前学習：バイエルピアノ教則本 No.58～60より前回の授業で指定された曲と、仁愛女子短期大学附属幼稚園の実習で使用する曲を練習しておくこと。（0.5時間） 事後学習：授業で学んだ曲を復習（練習）すること。習熟度を次の授業で評価する。（0.5時間） 第13回：八分の三拍子の練習（バイエルピアノ教則本 No.61～62、および仁愛女子短期大学附属幼稚園実習曲）（実技、グループワーク） 事前学習：バイエルピアノ教則本 No.61～62より前回の授業で指定された曲と、仁愛女子短期大学附属幼稚園の実習で使用する曲を練習しておくこと。（0.5時間） 事後学習：授業で学んだ曲を復習（練習）すること。習熟度を次の授業で評価する。（0.5時間） 第14回：連弾の練習（バイエルピアノ教則本 No.63～64）（実技、グループワーク） 事前学習：バイエルピアノ教則本 No.63～64より前回の授業で指定された曲を練習しておくこと。（0.5時間） 事後学習：授業で学んだ曲を復習（練習）すること。習熟度を公開演奏で評価する。（0.5時間） 第15回：公開演奏（実技、発表） 事前学習：公開演奏で演奏する曲を練習しておくこと。（0.5時間） 事後学習：公開演奏における反省点を踏まえ、復習（練習）すること（0.5時間） 教育実習曲も習得する。 毎回の実技到達度テストの結果はその都度担当教員より伝達され、次回への指針とする。練習室や自宅等で、必ず練習（準備・復習）を行うこと。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 公開演奏（実技試験）（70%） ※第5回、10回、15回目の授業で公開演奏（実技試験）を行い、これら3回分の点数を平均して評価する。 平常点（30%） ※平常点は、授業への参加状況と受講態度で判断する。
(7) 成績評価基準 各グレードにおける課題曲を、正確かつ円滑に演奏することができるか。
(8) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) 授業時間内に行う実技試験に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書 (1) バイエルピアノ教則本 (2) ツェルニー100番練習曲 (3) ブルグミュラー25の練習曲 (4) ツェルニー30番練習曲 (5) ソナチネアルバムⅠ、Ⅱ (6) ツェルニー40番練習曲等 (7) 教育実習曲譜 ※(1)～(6)については、出版社は特に指定しない

(11) その他(受講上の注意)

通常の受講について：週に1度の個人レッスンの時間内だけで身につく内容ではないので、普段からの継続的な練習を必ず必要とする。また、レッスンで受講する曲目は、必ず予習（譜読みと練習）をしてから受講に臨むこと。
実技試験について：実技試験を兼ねた公開演奏を行う第5回、10回、15回目の授業を欠席した場合、その回の点数は0点として計算される。従って、試験にはくれぐれも体調等を整えて臨むこと。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

基礎ピアノⅡ (Basic PianoⅡ)			担当教員	中野 研也、飯田 由美、太田 佳代、 野村加奈子、岡 茜
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-C-2157	1 単位	1 年後期	演習	選択
<科目区分> 栄養・子ども学部子ども教育学科専門科目 展開科目				
求める学習成果(教育目標)				
教育・保育の実践に求められる表現技術				

(1) 授 業 の 内 容
教育・保育の現場で必要とされるピアノ演奏技術を身に付ける。 個人レッスンの形で行う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
基礎ピアノⅠに続いてピアノ演奏技術を学び、2年次の弾き歌い科目「音楽表現Ⅰ・Ⅱ」を履修するための基礎力を身に付けることができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
次の授業計画は、「グレード1」の教育内容についての進捗目標である。「グレード2～5」に関しては、レッスンノートを参照のこと。 第1回：ハ長調 (バイエルピアノ教則本 No.65～67) (グループワーク) 事前学習：バイエルピアノ教則本 No.65～67の全て、あるいは任意の曲を練習しておくこと。(0.5時間) 事後学習：授業におけるアドバイスや指導をもとに、学んだ曲の復習(練習)をすること。(0.5時間) 第2回：ト長調 (バイエルピアノ教則本 No.68～73) (グループワーク) 事前学習：バイエルピアノ教則本 No.68～73より指定された曲を練習しておくこと。(0.5時間) 事後学習：授業におけるアドバイスや指導をもとに、学んだ曲の復習(練習)をすること。(0.5時間) 第3回：ニ長調 (バイエルピアノ教則本 No.74～76) (グループワーク) 事前学習：バイエルピアノ教則本 No.74～76より指定された曲を練習しておくこと。(0.5時間) 事後学習：授業におけるアドバイスや指導をもとに、学んだ曲の復習(練習)をすること。(0.5時間) 第4回：イ長調 (バイエルピアノ教則本 No.77～79) (グループワーク) 事前学習：バイエルピアノ教則本 No.77～79より指定された曲を練習しておくこと。(0.5時間) 事後学習：授業におけるアドバイスや指導をもとに、学んだ曲の復習(練習)をすること。(0.5時間) 第5回：公開演奏(実技、発表) 事前学習：第4回授業で指定された曲を公開演奏に備えて練習しておくこと。(0.5時間) 事後学習：公開演奏における反省点を踏まえ、復習(練習)をすること(0.5時間) 第6回：和音の練習 (バイエルピアノ教則本 No.80～81) (グループワーク) 事前学習：バイエルピアノ教則本 No.80～81より、第4回授業で指定された曲を練習しておくこと。(0.5時間) 事後学習：授業におけるアドバイスや指導をもとに、学んだ曲の復習(練習)をすること。(0.5時間) 第7回：ホ長調 (バイエルピアノ教則本 No.82～84) (グループワーク) 事前学習：バイエルピアノ教則本 No.82～84より指定された曲を練習しておくこと。(0.5時間) 事後学習：授業におけるアドバイスや指導をもとに、学んだ曲の復習(練習)をすること。(0.5時間) 第8回：連弾の練習 (バイエルピアノ教則本 No.85～87) (グループワーク) 事前学習：バイエルピアノ教則本 No.85～87より指定された曲を練習しておくこと。(0.5時間) 事後学習：授業におけるアドバイスや指導をもとに、学んだ曲の復習(練習)をすること。(0.5時間) 第9回：付点八分音符の練習 (バイエルピアノ教則本 No.88～90) (グループワーク) 事前学習：バイエルピアノ教則本 No.88～90より指定された曲を練習しておくこと。(0.5時間) 事後学習：授業におけるアドバイスや指導をもとに、学んだ曲の復習(練習)をすること。(0.5時間) 第10回：公開演奏(実技、発表) 事前学習：第9回授業で指定された曲を公開演奏に備えて練習しておくこと。(0.5時間) 事後学習：公開演奏における反省点を踏まえ、復習(練習)をすること(0.5時間)

第11回：イ短調・ヘ長調（バイエルピアノ教則本 No.91～96、および仁愛女子短期大学附属幼稚園実習曲）（グループワーク） 事前学習：バイエルピアノ教則本 No.91～96より第9回授業で指定された指定された曲と、仁愛女子短期大学附属幼稚園の実習で使用する曲を練習しておくこと。（0.5時間） 事後学習：授業におけるアドバイスや指導をもとに、学んだ曲の復習（練習）をすること。（0.5時間） 第12回：装飾音符（バイエルピアノ教則本 No.97～100、および仁愛女子短期大学附属幼稚園実習曲）（グループワーク） 事前学習：バイエルピアノ教則本 No.97～100より指定された曲と、仁愛女子短期大学附属幼稚園の実習で使用する曲を練習しておくこと。（0.5時間） 事後学習：授業におけるアドバイスや指導をもとに、学んだ曲の復習（練習）をすること。（0.5時間） 第13回：十六分音符（バイエルピアノ教則本 No.101～103、および仁愛女子短期大学附属幼稚園実習曲）（グループワーク） 事前学習：バイエルピアノ教則本 No.101～103より指定された曲と、仁愛女子短期大学附属幼稚園の実習で使用する曲を練習しておくこと。（0.5時間） 事後学習：授業におけるアドバイスや指導をもとに、学んだ曲の復習（練習）をすること。（0.5時間） 第14回：半音階（バイエルピアノ教則本 No.104～106、および仁愛女子短期大学附属幼稚園実習曲）（グループワーク） 事前学習：バイエルピアノ教則本 No.104～106より指定された曲と、仁愛女子短期大学附属幼稚園の実習で使用する曲を練習しておくこと。（0.5時間） 事後学習：授業におけるアドバイスや指導をもとに、学んだ曲の復習（練習）をすること。（0.5時間） 第15回：公開演奏（実技、発表） 事前学習：第14回授業で指定された曲を公開演奏に備えて練習しておくこと。（0.5時間） 事後学習：公開演奏における反省点を踏まえ、復習（練習）すること（0.5時間） 「教育実習Ⅰ」で使用する曲も併せて習得する。 毎回の実技到達度テストの結果はその都度担当教員より伝達され、次回への指針とする。練習室や自宅等で、必ず練習（準備・復習）を行うこと。	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
公開演奏（実技試験）（70%） ※第5回、10回、15回目の授業で公開演奏（実技試験）を行い、これら3回分の点数を平均して評価する。 平常点（30%） ※平常点は、授業への参加状況と受講態度で判断する。	
(7) 成績評価基準	
各グレードにおける課題曲を、正確かつ円滑に演奏することができるか。	
(8) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■授業時 □仁大eラーニング □メール □その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■授業時 □仁大eラーニング □メール □その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて □授業時 □仁大eラーニング □メール □その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ■定期試験時 □仁大eラーニング □メール □その他 5) 授業時間内に行う実技試験に対するフィードバックについて ■授業時 □仁大eラーニング □メール □その他	
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）	
(10) テキスト、参考図書	
(1) バイエルピアノ教則本 (2) ツェルニー100番練習曲 (3) ブルグミュラー25の練習曲 (4) ツェルニー30番練習曲 (5) ソナチネアルバムⅠ、Ⅱ (6) ツェルニー40番練習曲等 (7) 教育実習曲譜 ※(1)～(6)については、出版社は特に指定しない。	

(11) その他(受講上の注意)

通常の受講について：週に1度の個人レッスンの時間内だけで身につく内容ではないので、普段からの継続的な練習を必ず必要とする。また、レッスンで受講する曲目は、必ず予習（譜読みと練習）をしてから受講に臨むこと。
実技試験について：実技試験を兼ねた公開演奏を行う第5回、10回、15回目の授業を欠席した場合、その回の点数は0点として計算される。従って、試験にはくれぐれも体調等を整えて臨むこと。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育内容指導法(健康) (Teaching method of Early ChildhoodCare and Education(Health))			担当教員	出村 友寛	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-B-2105	1 単位	1 年前期	演習		選択
<科目区分> 栄養・子ども学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
乳幼児期における身体の発育・発達に関する基本的な情報および乳幼児のけがや疾病への対応策、安全を確保するために留意すべき保育環境のあり方や具体的な実践方法について学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
領域「健康」のねらいや内容について理解し、関連する専門領域とあわせ理解を深める。 乳幼児期の発育・発達、けがや疾病への対応策、安全を確保するために必要な保育環境に関する知識をもとにした具体的な保育指導法を身につける。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：領域「健康」とは 事前学習：テキストの第1章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。(2時間) 第2回：乳幼児の発育・発達について 事前学習：テキストの第2章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。(2時間) 第3回：基本的生活習慣の理解と形成(グループワーク) 事前学習：テキストの第3章(p.52-65)を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。(2時間) 第4回：乳幼児期に身につけたい基本的動作(情報機器の活用を含む) 事前学習：テキストの第5章(p.89-102)を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。(2時間) 第5回：運動遊びに関する指導案を作成する上での留意点 事前学習：テキストの第5章(p.102-112)を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。(2時間) 第6回：運動遊びの指導の実際 事前学習：テキストの第5章(p.102-112)を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。(2時間) 第7回：健全な発育・発達の測定とその評価 事前学習：テキストの第6章(p.113-137)を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。(2時間) 第8回：安全管理、安全教育と応急処置(確認試験) 事前学習：テキストの第7章(p.138-146)を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。(2時間) 定期試験は実施しない
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
確認試験(60%)、レポート(40%)

(7) 成績評価基準
領域「健康」のねらいや内容を理解できているか。幼児期における身体の発育・発達に関して理解できているか。幼児のけがや疾病への対応策、安全を確保するために留意すべき保育環境のあり方について理解できているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
【テキスト】 「保育内容 健康」春日晃章(編集) 株式会社 みらい, 2018 【参考図書】 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)
(11) その他(受講上の注意)
遅刻、欠席、および早退は減点の対象とします。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育内容指導法(表現 A) (Teaching method of Early ChildhoodCare and Education(Expression A))			担当教員	坂本 流美	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-B-2154	1 単位	1 年後期	演習	選択	
<科目区分> 栄養・子ども学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
「表現」の領域における音楽的視点から、幼児教育者として様々な保育の在り方に資するための一手段として「わらべうたあそび」を数多く実践し、幼児の発達段階に応じながら自立性・自発性を育てる実践法を演習する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
幼児が自ずと持っている繊細で鋭敏な感受性に働きかけ、表現する意欲と豊かな創造力を引き出すための手法を知ることを目的とする。幼児期の発達段階を踏まえた様々な「わらべうたあそび」の基本的演習を通して、保育の現場で子ども達に感動体験の機会を多彩に展開できる技法を修得させる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：8回の全体計画(情報機器及び教材の活用を含む)幼児期の音楽教育の役目・わらべうたあそびの大切さについて知る。通常のわらべうたあそび。親子あそび・集団あそびの実践(表現へのねらいを持って年齢別にあそびの工夫を考え理解する) 事前指導：授業前に知っているわらべうたは無いかを考える(2時間) 事後指導：授業の内容を復習し、わらべうたあそびを覚える。1人でも歌えるようにする(2時間) 第2回：季節のわらべうたあそび① 春・梅雨のうた中心の実践(表現へのねらいを持って年齢別にあそびの工夫を考え理解する) 事前指導：春・梅雨に関する自然のものを考える。習ったわらべうたの復習(2時間) 事後指導：授業の内容を復習し、わらべうたあそびを覚える。1人でも歌えるようにする(2時間) 第3回：季節のわらべうたあそび② 夏・秋のうた中心の実践(表現へのねらいを持って年齢別にあそびの工夫を考え理解する) 事前指導：夏・秋に関する自然のものを考える。習ったわらべうたの復習(2時間) 事後指導：授業の内容を復習し、わらべうたあそびを覚える。1人でも歌えるようにする(2時間) 第4回：季節のわらべうたあそび③ 冬のうた中心の実践(表現へのねらいを持って年齢別にあそびの工夫を考え理解する) 季節のわらべうたあそびの創作(あそび方) 事前指導：冬に関する自然のものを考える。習ったわらべうたの復習(2時間) 事後指導：授業の内容を復習し、わらべうたあそびを覚える。1人でも歌えるようにする(2時間) 第5回：通常のわらべうたあそび。親子あそび・集団あそびの実践(表現へのねらいを持って年齢別にあそびの工夫を考え理解する) 事前指導：習ったわらべうたの復習(2時間) 事後指導：授業の内容を復習し、わらべうたあそびを覚える。1人でも歌えるようにする(2時間) 第6回：文学とわらべうた①(小道具作成～クレヨン・色鉛筆・はさみ・定規が必要) 事前指導：かえうたをする元のうたを1人で歌えるようにする。かえうたを事前に考える(2時間) 事後指導：小物を使つての表現を考える(2時間) 第7回：文学とわらべうた②(発表～保育の現場など指導者としての自信に繋げる) 事前指導：発表の流れを考え1人で歌えるようにする(2時間) 事後指導：指導案を考える(2時間) 第8回：幼児期でのわらべうたあそびを取り入れるねらいの理解と確認。(指導案作成・小レポート) 事前指導：授業で配布した資料を見直し歌ってくる(2時間) 事後指導：わらべうたあそびを覚えておく。1人でも歌えるようにする(2時間) 定期試験は実施しない

(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 実技習熟学習が主体となるので、授業での積極性、貢献度を重視する。より多くわらべうたを覚え、わらべうたを1人で清潔（音程・リズム正しく）に歌える。 わらべうたあそびを保育にどのように取り入れるのか発表を通して総合して評価する。 平常点（20％）わらべうたの修得度（20％）小レポート（20％）・小道具作成と発表（40％） 平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する。
(7) 成績評価基準 実技習熟学習が主体となるので、授業での積極性、貢献度を重視する。より多くわらべうたを覚え、わらべうたを1人で清潔（音程・リズム正しく）に歌える。わらべうたあそびを保育にどのように取り入れるのか設定保育を自分で作成し発表を通して総合して評価する。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 必要に応じてプリントを配布。 <参考書・参考資料等> わらべうた・音楽の理論と実践 ― 就学前の音楽教育（フォライ・カタリン著・知念直美編・畑玲子訳 明治図書出版 平成3年） 幼稚園・保育園のわらべうた・あそび 春・夏（畑玲子、知念直美、大倉三代子著 明治図書出版 平成6年） 幼稚園・保育園のわらべうた・あそび 秋・冬（畑玲子、知念直美、大倉三代子著 明治図書出版 平成6年） 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）
(11) その他(受講上の注意) 実技習熟学習が主体となるので、授業での積極性、貢献度を重視する。 実践中心の為 動きやすい服装で受講する。ねらいを持って受講する。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育内容指導法(表現B) (Teaching method of Early ChildhoodCare and Education(Expression B))			担当教員	伊東 知之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-B-2155	1 単位	1 年後期	演習		選択
<科目区分> 栄養・子ども学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
幼児教育・保育の基本を踏まえ、造形表現領域のねらい及び内容を理解する。 乳幼児の造形活動における発達や過程を理解するとともに具体的な指導場面を想定して教育・保育計画を立てて実際に教育・保育を実践する方法を身に付ける。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
幼児教育・保育の基本を踏まえ、領域「表現」の造形表現についてのねらいと内容を理解する。 また、乳幼児の発達や環境に即して、具体的な指導場面を想定して教育・保育計画を立てるとともに実際に教育・保育する方法を身に付ける。
(3) アクティブラーニング
☐課題解決型学習(PBL) ☐討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐実習、フィールドワーク ☒実験、実技 ☒その他(模擬保育)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：領域「表現」と造形表現 事前指導：領域「表現」について調べ、まとめておく。(2時間) 事後指導：学んだ造形表現についてまとめておく。(2時間) 第2回：教材研究の意義と方法及びICTの活用(情報機器の活用を含む) 事前指導：教材研究の意義とICT活用について調べ、まとめておく。(2時間) 事後指導：学んだ方法とICT活用についてまとめる。(2時間) 第3回：造形表現領域の指導案の書き方と作品評価 事前指導：指導案の書き方について調べ、まとめておく。(2時間) 事後指導：学んだ書き方に基づいて指導案を完成させる。(2時間) 第4回：模擬保育 平面造形と省察(低年齢児) 事前指導：模擬保育の教材研究やリハーサル等の準備を行っておく。(2時間) 事後指導：模擬保育の反省と高評をまとめ、指導案を修正する。(2時間) 第5回：模擬保育 平面造形と省察(高年齢児) 事前指導：模擬保育の教材研究やリハーサル等の準備を行っておく。(2時間) 事後指導：模擬保育の反省と高評をまとめ、指導案を修正する。(2時間) 第6回：模擬保育 立体造形と省察(低年齢児) 事前指導：模擬保育の教材研究やリハーサル等の準備を行っておく。(2時間) 事後指導：模擬保育の反省と高評をまとめ、指導案を修正する。(2時間) 第7回：模擬保育 立体造形と省察(高年齢児) 事前指導：模擬保育の教材研究やリハーサル等の準備を行っておく。(2時間) 事後指導：模擬保育の反省と高評をまとめ、指導案を修正する。(2時間) 第8回：造形表現の鑑賞と課題及び小学校図画工作とのつながり 事前指導：造形表現と小学校図画工作とのつながりについて考えをまとめておく。(2時間) 事後指導：造形表現の課題についてレポートにまとめる。(2時間) 定期試験は実施しない。
(5) 授業形態[面接授業・遠隔授業]
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
学期末レポート(50%)、課題(50%)

(7) 成績評価基準
・学んだ造形技法について説明できる。 ・学んだ造形技法の特質を活かした表現ができる。 ・子どもと造形について発達過程を踏まえて説明できる。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他(模擬授業、指導案 に対するフィードバックについて) ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
【テキスト】 造形表現・図画工作・美術(伊東知之著 福村出版 2023年) 教育実習(幼稚園)の手引き(伊東知之編著 2010年) 【参考図書】 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)
(11) その他(受講上の注意)
図工用具一式を毎時間持参すること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育内容指導法(表現C) (Teaching method of Early ChildhoodCare and Education(Expression C))			担当教員	乾典子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-B-2156	2 単位	1 年後期	演習	選択	
<科目区分> 栄養・子ども学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
幼児の心身の発達過程において、保育者としての身体表現の気づき、「表現」としての発想と感性の理解とその動きの習得、身体表現遊びの方法の理解と創作の習得、他者との関わりや円滑なグループ活動を進める力などの重要性を理解する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
幼児の心身の発達過程において、豊かな感性と発想で感じたことや考えたことを身体で表現することにより、幼児の創造性が豊かになることの理解を深める。幼児の豊かな創造性を引き出すための保育者としての力を身に付けることができる。また乳児保育の3つの視点も捉えながら、自由な発想の大切さを理解し「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付けることができる。
(3) アクティブラーニング
□課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク ■実験、実技 □その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：身体表現についての理解・簡単な身体表現の体験・成績評価と学習の内容。 事前学習：受講前にテキストに目を通しておくこと。(2時間) 事後学習：体験した発想と動きを他者と照らし合わせ、現在の自分の「表現」を理解すること。(2時間) 第2回：こどもが好きな動きの体験と理解 フォークダンスの体験と習得。(実技) 事前学習：フォークダンスについて調べておくこと。(2時間) 事後学習：子供の好きな動きを調べて覚えておくこと。(2時間) 第3回：こどもが好きな動きの体験 プレイバルーンの動かし方と創作方法の理解(情報機器及び教材の活用含む)。(グループワーク)。 事前学習：プレイバルーンについて調べてまとめておくこと。(2時間) 事後学習：プレイバルーンの創作方法の理解と創作した内容を復習しておくこと。(2時間) 第4回：こどもが好きな動きの体験 プレイバルーンの創作と練習。(グループワーク) 事前学習：他のバルーンの動かし方を考え、実践すること。(2時間) 事後学習：グループで創作したバルーンの動きを復習しておく。(2時間) 題5回：こどもが好きな動きの体験 プレイバルーンの発表。(グループワーク・発表) 第7回：目の授業で使う造形物の制作。 事前学習：前回の授業で創作したグループでの動きを復習しておく。(2時間) 事後学習：発表動画を見て創作のグループ活動に参加できたか顧みること。活動の反省レポートをMoodle上の課題に提出する。(2時間) 第6回：童謡の歌詞を使って動きの創作とその発表(表現)発表に至る内容を記録。(発表) 事前学習：どんな童謡があるか調べてまとめておくこと。(2時間) 事後学習：発表に至る「表現」について、一般とクラス内の対応の違いなどを理解する。(2時間) 第7回：身体表現遊び(1) 課題のダンスの体験 具体的な指導場面の構想。(実技) 事前学習：課題のダンスについて調べておくこと。ダンスで使う造形物を完成させる。(2時間) 事後学習：習ったダンスを復習しておくこと。(2時間) 第8回：身体表現遊び(2) 課題のダンスの練習と指導・その発表。(グループワーク・実技) 事前学習：前回習ったダンスを練習しておくこと。(2時間) 事後学習：発表の作品の動画を見て、良かった点・悪かった点を理解しておくこと。(2時間) 第9回：身体表現遊び(3) 課題のダンスをグループで構成する。(グループワーク・実技) 事前学習：構成について調べてまとめておくこと。(2時間) 事後学習：創作過程をまとめておくこと。(2時間)

第10回：身体表現遊び（４）課題のダンスをグループで練習・指導・その発表。（グループワーク・発表） 事前学習：グループで創作したダンスを復習しておくこと。（２時間） 事後学習：発表した作品の動画を視聴し、創作過程と発表についてのレポートをMoodle上に提出する。（２時間） 第11回：ダンス創作（１）課題曲から選曲し、創作についてのテーマと手法の理解。時間内に創作物を提出する。 事前学習：子供たちが好きな歌や踊りについて調べておくこと。（２時間） 事後学習：提出した自分の創作物を理解しておくこと。（２時間） 第12回：ダンス創作（２）グループでの創作内容を決める。（ディスカッション・グループワーク） 事前学習：前回個人で創作した案を理解しておくこと。（２時間） 事後学習：ディスカッションした創作過程をまとめておくこと。衣装や造形物の材料を購入し、次の授業に持参する。（２時間） 第13回：ダンス創作（３）グループでの踊りの創作。ダンスに使用する造形物の制作。（グループワーク・実技） 事前学習：前回グループで決めた創作物を理解しておくこと。造形物の購入品を準備する。（２時間） 事後学習：創作したダンスを復習しておくこと。衣装など制作する。（２時間） 第14回：ダンス創作（４）グループでの踊りの創作。ダンスに使用する造形物の制作。（グループワーク・実技） 事前学習：前回創作したダンスを復習しておくこと。（２時間） 事後学習：ダンス動画を見て発表できるように復習すること。発表用の衣装・造形物を完成しておくこと。最終課題のためにテキストを読み直す。（２時間） 第15回：ダンス創作活動の発表とまとめ。「表現」についてのレポートを提出。（発表） 事前学習：ダンスの発表に向けて練習すること。（２時間） 事後学習：最終課題として、テキストの内容と絡め表現についての理解のレポートをMoodle上に提出する。発表の内容と反省も含めること。（２時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 実技演習発表（60%） 提出物・創作記録（40%）
(7) 成績評価基準 幼児の心身の発達過程において、豊かな感性と発想で感じたことや考えたことを身体で表現することにより、幼児の創造性が豊かになることの理解を深めているか。 幼児の豊かな創造性を引き出すための保育者としての力を身に付けているか。 乳児保育の３つの視点も捉えながら、自由な発想の大切さを理解し「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付けているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 テキスト 事例で学ぶ保育内容 領域 表現（無藤隆（監修）浜口順子（著者）萌文書林 平成29年） 参考文献 幼稚園教育要領（平成29年３月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成29年３月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年３月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）

(11) その他(受講上の注意)
必ず体操服で受講すること。シューズも準備すること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育内容指導法(子どもの文化) (Teaching method of Early ChildhoodCare and Education(Culture of Children))			担当教員	児玉 茜	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-B-2106	2 単位	1 年前期	演習	選択	
<科目区分> 栄養・子ども学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の実践に求められる表現技術					

(1) 授 業 の 内 容
子どもの発達と児童文化としての「絵本」を知り、絵本の表現から子どもと絵本がとりまく環境まで幅広く学ぶ。絵本を多角的に眺めることを通して、子ども理解を深める力を身に付ける。 保育、教育のみならず、食育や医療的ケア、美術教育等さまざまな現場で活用される絵本の可能性について知り、絵本に関連する施設や展覧会等にも触れ、児童文化財としての絵本についても理解を深める。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
当該科目では児童文化財としての「絵本」についての専門的な知識・技能を身に付ける。 またその専門性を活かして、将来的にそれぞれの現場において発展的に絵本を捉えられる社会人としての素養を培う。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション：子どもの文化としての絵本を学ぶ 事前学習：自身の絵本体験について振り返っておく(2時間) 事後学習：授業内容をもとに復習する(2時間) 第2回：絵本学入門①：絵本とは何か 事前学習：好きな絵本を読んでおく(2時間) 事後学習：授業内容をもとに復習する(2時間) 第3回：絵本という文化：名作絵本 事前学習：名作絵本を読んでおく(2時間) 事後学習：授業内容をもとに復習する(2時間) 第4回：はじめての絵本との出会い：赤ちゃん絵本 事前学習：赤ちゃん絵本を読んでおく(2時間) 事後学習：授業内容をもとに復習する(2時間) 第5回：食べ物の絵本：食育とは 事前学習：たべものの絵本を読んでおく(2時間) 事後学習：授業内容をもとに復習する(2時間) 第6回：子どもの遊びと学び：科学絵本 事前学習：科学絵本を読んでおく(2時間) 事後学習：授業内容をもとに復習する(2時間) 第7回：絵を読む力：文字無し絵本 事前学習：文字なし絵本を読んでおく(2時間) 事後学習：授業内容をもとに復習する(2時間) 第8回：アニメーションと絵本 事前学習：アニメーション(動画)との違いを考えておく(2時間) 事後学習：授業内容をもとに復習する(2時間) 第9回：社会と絵本：戦争の絵本 事前学習：戦争の絵本について考えておく(2時間) 事後学習：授業内容をもとに復習する(2時間) 第10回：絵本の構造：しかけ絵本 事前学習：絵本の構造、しかけ絵本について調べておく(2時間) 事後学習：授業内容をもとに復習する(2時間)

第11回：文字・ことばの表現：オノマトペ・方言 事前学習：ことばが主体の絵本を調べておく（2時間） 事後学習：授業内容をもとに復習する（2時間） 第12回：出版社とシリーズ絵本 事前学習：絵本の出版社について調べておく（2時間） 事後学習：授業内容をもとに復習する（2時間） 第13回：絵本のある環境について（グループワーク） 事前学習：絵本のある環境について調べておく（2時間） 事後学習：授業内容をもとに復習する（2時間） 第14回：絵本の探し方：レファレンスについて（グループワーク） 事前学習：絵本の探し方について調べておく（2時間） 事後学習：授業内容をもとに復習する（2時間） 第15回：絵本学まとめ 事前学習：最終レポートテーマについて考えておく（2時間） 事後学習：授業全体について振り返りを行い、自己課題を見つける（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 平常点（30％）、授業内課題（20％）、最終レポート（50％）
(7) 成績評価基準 児童文化財としての「絵本」についての専門的な知識・技能を身につけているか。 将来的にその専門性を活かしてそれぞれの現場において発展的に絵本を捉えられる力を身につけているか。 成果として最終レポート内で上記の専門性を活かした分析・説明ができていているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（事業後に対応） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 参考書（購入の必要はなし） 絵本とは何か——起源から表現の可能性まで（岩波書店、2025年3月）松本猛 絵本をよむこと——絵本学入門（翰林書房、2012年9月）香曾我部 秀幸、鈴木 穂波 その他、興味のある絵本をたくさん読んでおいてください。
(11) その他(受講上の注意) 授業内で簡単にミニ絵本等を作成してもらいます。 【持ち物】 ・筆記用具 ・色鉛筆／水彩ペン等、その場で簡易的に着色できるもの ・ハサミ
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育実習Ⅰ（幼稚園） （Teaching PracticeⅠ（Preschool））			担当教員	伊東 知之、中野 研也	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-E-2109	2 単位	1 年通年	実習		選択
<科目区分> 栄養・子ども学部子ども教育学科専門科目 実践演習・総合演習・実習科目					
求める学習成果（教育目標）					
教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度					

(1) 授 業 の 内 容
1年次2月に2グループに分かれて仁愛女子短期大学付属幼稚園で1週間（5日間）の教育実習を行う。 実習に向けての事前事後指導を行う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・見学・観察実習中の態度・姿勢がよい。 ・幼児と積極的に関わる。 ・幼児の個性や発達の違いを理解する。 ・実習記録のつけ方が適切である。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☐ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
教育実習は次に掲げる目的をもって「見学・観察」に即した実習を行う。 （1）幼稚園の1日の流れを知る。 （2）満3歳児から6歳児までの発達段階に対応した幼児の活動を見通す。 （3）部分実習（ex. 絵本の読み聞かせ・手遊びなど）の体験を通して、指導実習にかかる幼児の観察・理解の一助とする。 （4）教諭の仕事や役割を理解する。・実習ノート（日誌）を毎日作成し、実習園に提出する。 ・実習の心構えや研究テーマ等を実習開始までに作成する。 ・指導案を作成し、指導者の助言を受けて修正をする。 ・部分実習の準備を行う。 事前事後指導 第1回：教育実習オリエンテーション 教育実習の意義と目的を理解する。（中野、伊東） 第2回：4段階実習（見学・観察実習、参加実習、部分実習、指導実習）の意義と役割について理解する。（中野、伊東） 第3回：実習ノート（日誌）等の記録の取り方、記入の仕方を学習する。（中野、伊東） 第4回：指導案①（週案・日案・設定保育案）の作成法、模擬保育実践を仮定して、立案を試みる。（中野、伊東） 第5回：指導案②模擬保育を仮定して指導案を作成する。（中野、伊東） 第6回：模擬保育①グループワーク（中野、伊東） 第7回：模擬保育②グループワーク（中野、伊東） 第8回：模擬保育③グループワーク（中野、伊東） 第9回：模擬保育④グループワーク（中野、伊東） 第10回：研究テーマ、実習心構えの作成及び実習に臨む際、子どもの健康面、安全面などへの配慮、留意すべき点の確認をする。（中野、伊東） 第11回：実習報告会（2年生の実習体験報告を聞き、疑問点等の質問をする。（中野、伊東） 第12回：教育実習Ⅰオリエンテーション（短大附属幼稚園でのオリエンテーション）（幼稚園園長、中野、伊東） 第13回：スキルアップ講座①（学外講師による実習に対する講演）（外部講師、中野、伊東） 第14回：スキルアップ講座②（学外講師による実習に対する実践的指導）学外講師、中野、伊東） 第15回：まとめ：教育実習Ⅰに対するまとめと準備、実習ノート記入（中野、伊東）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

(6) 成績評価方法
実習園での評価（評価表）と大学の評価を総合して評価する。
(7) 成績評価基準
・見学・観察実習中の態度・姿勢がよかったか。 ・幼児と積極的に関わられたか。 ・幼児の個性や発達の違いを理解しようとしたか。 ・実習記録のつけ方は適切だったか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（添削、コメントを書いて返却） 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他（実習）に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☒ その他（実習における評価及び課題は「事前事後指導（幼稚園）」においてフィードバックする。）
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書
(1) 文部科学省 『幼稚園教育要領』 2017年 (2) 子ども教育学科実習指導委員会編 『教育実習（幼稚園）の手引き』 (3) 子ども教育学科実習指導委員会編 『教育実習Ⅰ（幼稚園）実習ノート』 (4) 林幸範、石橋裕子編著『保育園幼稚園の実習完全マニュアル』成美堂出版 2018年
(11) その他(受講上の注意)
教育実習は、卒業後、教員として就職することを強く希望する学生のために、実習園の教育的配慮・厚意によって受け入れていただくものである。また、「教育実習Ⅱ（幼稚園）」（3年次前期）の受講資格の要件に含まれる科目なので、幼稚園教諭を目指す学生は必ず受講すること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

学校体験活動 (Experiential Learning at Schools)			担当教員	草桶 勇人、籠谷 隆弘	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-E-2110	1 単位	1 年通年	実習		選択
<科目区分> 栄養・子ども学部子ども教育学科専門科目 実践演習・総合演習・実習科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度					

(1) 授 業 の 内 容
近隣の協力校で教育活動や校務、クラブ活動や放課後活動等の支援や補助を行う体験型の授業である。教員に求められる資質・能力を理解し、教員としての自らの適格性を把握する機会とし、大学で学ぶ理論と小学校現場での実践や体験とに基づく省察を繰り返すことを通して、教員としての実践的指導力とは何かを考える機会とする。また、教育現場に触れ、子ども達や現場教員と関わる中で体験したことを通じて、教職への意欲を高めたり、自らの課題を発見したりする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
小学校での1日を通した学校生活や教育活動を経験し、教師目線で学ぶことを通して下記の内容について学び、自分自身の課題を明確にする。 ①児童とはどのような存在であるか、どのように学習を進め、どのように心身の成長をしていくのか等、児童理解を深める。 ②教師は教師間の協働性を発揮して児童を育てていることを理解する。 教師の役割や学級事務の一部に触れ、教師という職業を教師の視点から理解する。
(3) アクティブラーニング
□課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ■実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
[事前指導] 第1回：学校体験活動の意義・目的・内容、小学校における教育活動、学校のしくみ(草桶) シラバスの読みと小学校学習指導要領の熟読(1時間) 第2回：児童理解と教師に求められる資質・能力、学校体験活動に向けての準備(草桶) 自己の活動計画の検討と協力校の特色の理解(1時間) [活動参加] 第3回：主として、教員の職務、校務の理解 自己の活動態度等についての省察－職務・校務の理解－(1時間) 第4回：主として、個別指導の補助についての理解(1) 自己の活動態度等についての省察－個別指導のあり方－(1時間) 第5回：主として、個別指導の補助についての理解(2) 自己の活動態度等についての省察－個別指導のあり方－(1時間) 第6回：主として、集団の中での指導補助についての理解(1) 自己の活動態度等についての省察－TTの指導について－(1時間) 第7回：主として、集団の中での指導補助についての理解(2) 自己の活動態度等についての省察－TTの指導について－(1時間) 第8回：主として、授業の中での補助についての理解(1) 自己の活動態度等についての省察－学習支援－(1時間) 第9回：主として、授業の中での補助についての理解(2) 自己の活動態度等についての省察－学習支援－(1時間) 第10回：主として、中間教室・放課後支援での指導補助についての理解 自己の活動態度等についての省察－放課後学習支援－(1時間) 第11回：主として、学年・学校行事の指導補助についての理解 自己の活動態度等についての省察－学年・学校行事－(1時間) 第12回：主として、児童会活動の指導補助についての理解 自己の活動態度等についての省察－児童会活動－(1時間)

第13回：主として、クラブ活動の指導補助についての理解 自己の活動態度等についての省察－クラブ活動－（1時間） 第14回：主として、地域行事の指導補助について理解 自己の活動態度等についての省察－地域社会との連携、記録の整理、報告レポート作成（1時間） 〔事後指導〕 第15回：学校体験活動の振り返り（活動のまとめをする。各自が活動の成果・課題を明確にする。）（草桶）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポート（60%）、各活動への取り組み状況（40%）で総合的に評価する。
(7) 成績評価基準
・実施報告レポートをもとに、教育実習（小学校）に向けて教師としての多様な視点をもつことができたか、自らの課題を見つけることができたかを総合的に評価する。 ・実習状況をもとに、主体的に行動することができたかを参加意欲・態度として評価する。 ・報告会の準備と発表が十分にできていたかを評価する。 ・本科目の目的をふまえ、実習の記録、報告書、報告会の参加状況を評価する。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
自作のワークシート
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

人間と宗教 (Human Beings and Religion)			担当教員	寺田 憲弘	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
GE-A-1102	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 全学共通科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。					

(1) 授 業 の 内 容
キリスト教、イスラム教、仏教など現代の世界において大きな影響力をもつ様々な宗教についてその概要を紹介し、基礎的な知識を身につける。また、それらの理解に必要な宗教学、宗教社会学、宗教人類学などの基礎的な概念、理論を学び、宗教について考え、現代社会の様々な問題に宗教が関連していることを理解する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ 様々な宗教について、宗教学などの理論・概念を使い、簡単に説明できるようになる。 ・ 宗教の歴史、世界観、教義をふまえた上で、宗教について考えられるようになる。 ・ 背後にある宗教の影響を理解した上で、現代のさまざまな社会問題を考えられるようになる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：イントロダクション ― 宗教とはなんだろうか 事前学習：授業前にシラバスを読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出(2時間) 第2回：文化としての宗教(1) ― 八大宗教とその特徴 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出(2時間) 第3回：文化としての宗教(2) ― 一神教と多神教 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出(2時間) 第4回：信仰としての宗教(1) ― 回心と宗教的経験 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出(2時間) 第5回：信仰としての宗教(2) ― 奇跡と呪術 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出(2時間) 第6回：宗教の仕掛け(1) ― 戒律 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出(2時間) 第7回：宗教の仕掛け(2) ― 戒律 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出(2時間) 第8回：宗教と現代社会 ― 近代化と世俗化 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出(2時間) 第9回：世界の宗教(1) ― ユダヤ教 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出(2時間) 第10回：世界の宗教(2) ― キリスト教(1) 成立と歴史 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、調査項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出(2時間) 第11回：世界の宗教(2) ― キリスト教(1) 成立と歴史 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出(2時間)

第12回：世界の宗教（3）—— イスラム教 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（2時間） 第13回：世界の宗教（4）—— 仏教（1）原始仏教と上座部仏教 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（2時間） 第14回：世界の宗教（5）—— 仏教（2）大乘仏教と日本での受容 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（2時間） 第15回：世界の宗教（6）—— 神道・儒教・道教 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
e-learningを使用し、課題を出します。 レポート試験（50%） 小レポート（40%） 平常点（10%） （平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問等を総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
・代表的な宗教の歴史、世界観、教義などを理解できたか。 ・宗教研究の理論、概念を理解できたか。 ・さまざまなデータをもとに宗教現象を論じることができたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 5) その他（ディスカッションなどに対するフィードバックについて） ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（担当教員の研究室（E104B）を訪れるか、オンラインコミュニケーションツール（Teams）を用いて）
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
教科書：『教養としての宗教入門』 中村圭志 中公新書
(11) その他(受講上の注意)
・受講者の理解度により講義内容を変更することがあります。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

仏教の思想 (Views of Buddhism)			担当教員	市野 智行	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HS-1210	2 単位	2 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部学部共通科目 全学共通科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。					

(1) 授 業 の 内 容	
ブッダと親鸞の思想を学ぶことを通して、人間の課題を学び、自らの生き方を問い尋ねていく。ブッダと親鸞の生涯と教えについて基本的な知識を修得する。そのことを通して、「人間とは何か」「人として生きる(人生)とはどういうことか」を学び、自己理解と他者理解を深め、豊かな人間関係を築く上での人間力を養う。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
ブッダと親鸞の生涯と思想について基本的な知識を修得し、説明することができる。 仏教思想における人間観を学び、「自分とは何か」を考察し、表現することができる。 仏教思想を通して、豊かな人間関係のあり方を学び、主体的に考える姿勢を身につける。	
(3) アクティブラーニング	
☒ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート) ☒ グループワーク ☐ 発表(プレゼンテーション) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法	
事前学習：参考文献等を読んでおくこと。(10時間) 第1回：ガイダンス 釈尊と親鸞の生涯を学ぶ意味を確かめる 第2回：インドから現代を学ぶ(グループワーク) 第3回：釈尊の生涯と教え① 誕生と修行・正覚 第4回：いのちをいただく(グループワーク) 第5回：釈尊の生涯と教え② 初転法輪と入滅 事後学習：学んだ箇所を復習すること(10時間) 事前学習：配付資料に目を通しておくこと。(10時間) 第6回：いのちとつながり(グループワーク) 第7回：釈尊の生涯から何を学ぶことができるのか(小テストを含む) 第8回：テスト返しと現代問題(グループワーク) 第9回：親鸞の生涯と教え① 誕生から出家 第10回：親鸞の生涯と教え② 法然との出遇いと法難 事後学習：学んだ箇所を復習すること。(10時間) 事前学習：配付資料に目を通しておくこと。(10時間) 第11回：親鸞の生涯と教え③ 関東教化 第12回：親鸞の生涯と教え④ 入滅 第13回：親鸞の生涯から何を学ぶことができるのか(小テストを含む) 第14回：現代問題について(グループワーク) 第15回：テスト返しと総括 事後学習：学んだ箇所を復習すること。(10時間)	
(5) 授 業 形 態 [面 接 授 業 ・ 遠 隔 授 業]	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成 績 評 価 方 法	
授業内小レポート・感想文、小テスト(50%) 平常点(50%) (平常点は、出席状況、受講態度等で総合的に判断します。)	
(7) 成 績 評 価 基 準	
講義の理解度と、理解した内容を自らの課題として考察・表現できているかどうかを基準にする。	

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト：授業内にて配布 参考資料：親鸞 生涯と教え(東本願寺) ブッダと親鸞(東本願寺)
(11) その他(受講上の注意)
私語、携帯電話等の使用は厳禁です。複数回注意を受けた場合は欠席扱いとします。 また遅刻や欠席をしないように。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

哲学の世界観 (Philosophical Thinking)			担当教員	橋本 武志	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HL-1220	2 単位	2 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部学部共通科目 人間学関連科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。					

(1) 授 業 の 内 容
古代ギリシアに発祥した西洋哲学・思想が生み出してきた多様なものの見方や概念を紹介するとともに、それらが、現代日本人に及ぼしている影響について解説する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
哲学独自の思考方法や批判的思考に慣れ親しむことを通じて、社会人なら知っておくべき程度の、哲学・倫理学の基本的な概念を理解し、その用語を習得する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(ペアワーク)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーションと「世界観」概念の説明 事前学習：参考図書などをもとに「哲学」「世界観」について調べノートしておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと(2時間) 第2回：神話的世界観ではなぜ不十分なのか？(ペアワーク10分) 事前学習：参考図書などをもとに日本や中国、ギリシャの「宇宙創成神話」について調べノートしておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと(2時間) 第3回：哲学的思考の発祥(プレソクラテス1) 事前学習：参考文献などをもとに「ピタゴラス」について調べてノートしておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと(2時間) 第4回：哲学的思考の展開(プレソクラテス2) 事前学習：参考文献などをもとに「ヘラクレイトス」「パルメニデス」について調べノートしておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと(2時間) 第5回：ソクラテス1 事前学習：参考文献などをもとに「ソクラテスの生涯」について調べノートしておくこと(2時間) 事後学習：資料をもとに自分なりに纏めておくこと(2時間) 第6回：ソクラテス2 事前学習：参考文献などをもとに「無知の知」「魂の配慮」について調べノートしておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと(2時間) 第7回：プラトン1 事前学習：参考文献などをもとに「プラトンの生涯」について調べノートしておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと(2時間) 第8回：プラトン2 事前学習：参考文献などをもとに「洞窟の比喩」について調べノートしておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと(2時間) 第9回：アリストテレス1(可能態・現実態などの対概念) 事前学習：参考文献などを基に「可能態・現実態」の語義について調べ、ノートしておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと(2時間) 第10回：アリストテレス2(目的論と実体概念) 事前学習：参考文献などをもとに「実体」について調べノートしておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと(2時間)

第11回：映像によって古代の思想を知る 事前学習：エジプトのアレクサンドリアについて調べノートしておくこと（2時間） 事後学習：地動説の歴史について調べ、自分なりに纏めておくこと（2時間） 第12回：古代から中世の思想の流れ 事前学習：参考文献などをもとにパスカルの「人間は考える葦である」という言葉について調べ、ノートしておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間） 第13回：デカルト1（デカルトの知識論） 事前学習：参考文献などをもとにデカルトの生涯について調べノートしておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間） 第14回：デカルト2（デカルトの自我論・方法的懐疑） 事前学習：参考文献などをもとにデカルトの「我思う。ゆえに私はある」という言葉について調べノートしておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間） 第15回：これまでのまとめ 事前学習：これまでの授業について質問を考えてくること（2時間） 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（80%）、平常点（20%） （平常点は、授業への参加状況、受講態度、毎回の授業内小レポートの提出状況を総合して判断する）
(7) 成績評価基準
・哲学の基本的な用語や人名について、これを理解し、説明することができるか。 ・授業で扱う西洋思想の流れを理解しているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキストはとくに使用しない。 参考図書については、安価かつ容易に入手できるものを以下に記載しておく。 ・岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』（岩波ジュニア新書）岩波書店 2003 ・伊藤邦武『物語 哲学の歴史』（岩波新書）岩波書店 2012 ・熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』（岩波新書）岩波書店 2006 ・熊野純彦『西洋哲学史 近世から現代へ』（岩波新書）岩波書店 2006
(11) その他(受講上の注意)
・毎回の講義を受けた後でその部分の配布資料とノートを見直して復習をし、次の授業に臨んでください。また、第2回の授業で配布する参考文献一覧から該当書物を読むなどして、より理解を深めてください。 ・毎回授業内で小レポートを書いてもらいます。私語は他の受講者の迷惑となるので厳禁。私語の目立つ者はその場で注意するが、注意によっても改まらない場合当日欠席扱いとするので注意されたい。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

文学の世界 (The World of Literature)			担当教員	平岡 正実	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HS-1223	2 単位	2 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部学部共通科目 人間学関連科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。					

(1) 授 業 の 内 容
古今の郷土に関する作家や文学作品、昔話おとぎ話等を取り上げ読解する。読むことで得た知識をもとに簡単な文学作品を創作する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
古今の郷土に関係のある文学作品や作家の生き方に触れることで、それぞれの時代にふるさとに生きた人々の思想や願いに思いをはせるとともに、創作活動に必要な文章構成や表現の工夫などの基礎的な知識を身につけることができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 ☒ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：授業概要の説明及び受講の心構え 事前学習：今までの自分の読書生活を振り返り、この講義で学びたいことややってみたいことなどについて、簡単なスピーチができるようにしておくこと。（2時間） 事後学習：「ポップ」のねらいや「ビブリオバトル」のルールについて、図書やインターネット等で調べておくこと。（2時間） 第2回：郷土（武生・今立）の文学概論（発表・ディスカッション） 事前学習：郷土に関連のある作家や文学作品の中で興味のあるものについて調べ、ノートにまとめておくこと（2時間） 事後学習：越前市東部（味真野地区・今立地区）の文化遺産について調べ、ノートにまとめ第3回授業で提出すること（2時間） 第3回：郷土の文学①いわさきちひろと絵本（発表・ディスカッション） 事前学習：「いわさきちひろ」について、図書館やインターネットで調べ、代表的な作品を読んでおくこと。（2時間） 事後学習：安曇野と東京のちひろ館やちひろの絵の技法について調べ、ノートにまとめ第4回授業で提出すること。（2時間） 第4回：郷土の文学②加古里子とかこさとし絵本館（発表・ディスカッション） 事前学習：「かこさとし」について図書館やインターネットで調べ、代表的な作品を読んでおくこと。（2時間） 事後学習：かこさとし公園やかこさとしの絵の技法について調べ、ノートにまとめ第5回授業で提出すること。（2時間） 第5回：郷土の文学③橘曙覧と独楽吟（発表・グループワーク） 事前学習：「橘曙覧」について、図書館やインターネットで調べておくこと。（2時間） 事後学習：「平成独楽吟集」を読み、曙覧の句と比べて社会的背景や先人の物の見方・感じ方について感想をノートにまとめ第6回授業で提出すること。（2時間） 第6回：郷土の文学④「山川登美子・水上勉・高見順」（発表・ディスカッション） 事前学習：「山川登美子・水上勉・高見順」のうち、興味のある文学者について調べ、ノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：「山川登美子・水上勉・高見順」のうち、興味のある文学者の作品を読み、特徴や文学史上の位置づけについてノートにまとめ第7回授業で提出すること。（2時間） 第7回：郷土の文学のまとめ「郷土の文学新聞」制作 事前学習：郷土の文学者のうち、興味のある文学者について資料を集め、「郷土の文学新聞」のレイアウトを作成しておくこと。（2時間） 事後学習：「郷土の文学新聞」を完成させ第8回授業で提出すること。（2時間）

第8回：神話・昔話の世界①小学校1年生の教科書教材（発表・ディスカッション） 事前学習：日本の神話や昔話（古事記・宇治拾遺物語・御伽草子等）について調べ、ノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業中に紹介された日本の説話集について、図書館で調べてまとめ第9回授業で提出すること。（2時間） 第9回：神話・昔話の世界②原典や絵本等を読む（発表・ディスカッション） 事前学習：西洋の昔話（グリム・アンデルセン・ペロー等）について調べ、ノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業中に紹介された西洋の昔話・おとぎ話について、図書館で調べてまとめ第10回授業で提出すること。（2時間） 第10回：韻文（詩・短歌・俳句）の世界（発表・ディスカッション） 事前学習：俳句（文学史、季語）について調べ、ノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：興味のある俳人、歌人、詩人の人物像や作品について調べ、ノートにまとめ第11回授業で提出すること。（2時間） 第11回：童話の創作法（発表・ディスカッション・グループワーク） 事前学習：芥川龍之介について調べ、ノートにまとめ第12回授業で提出すること。（2時間） 事後学習：芥川龍之介の作品（説話集）を一つ読み、400字程度にまとめて第12回授業で提出すること（2時間） 第12回：童話の創作①（発表・ディスカッション） 事前学習：日本の昔ばなしや西洋のおとぎ話をテーマにした絵本・児童向け作品集を読み、あらすじと感想をノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：幼児教育における昔話やおとぎ話の意義について、意見をノートにまとめ第13回授業で提出すること。（2時間） 第13回：童話の創作②（発表・ディスカッション） 事前学習：童話コンクール入賞作品を分析し、魅力をまとめておくこと。（2時間） 事後指導：図書館やインターネット等で日本の代表的な説話集にどのようなものがあるか調べ、ノートにまとめ第14回授業で提出すること（2時間） 第14回：童話の創作③（発表・ディスカッション） 事前学習：説話集をリストアップし、比較分析すること。（2時間） 事後学習：授業の課題（日本の説話集から作品を選び、現代の社会状況に合わせて書き直す）を完成させ第15回授業で提出すること。（2時間） 第15回：創作童話の合評会（プレゼンテーション） 事前学習：自分が取り上げた作品について、ワークシートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：本授業を受講して印象に残ったことや更に調べてみたいことなどをノートにまとめ提出すること。（2時間）	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
学期末レポート（50%）、授業内の課題（30%）、平常点（20%） （平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する）	
(7) 成績評価基準	
講義で学修した作家や作品について理解を深めたか。作品創作に必要な手順や方法など基礎的な知識を理解して、文章構成や表現に留意した作品が書けたか。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
・ 経歴 (元小・中学校教諭) ・ 実務経験と授業内容との関連性 (学校現場における教員経験を有する教員が、ふるさと教育の視点から福井県や越前市の文化や文学者について解説したり、青少年期における読書活動の意義・重要性について講義する。)
(10) テキスト、参考図書
テキストは、使用しません。参考図書は、その都度指示します。
(11) その他(受講上の注意)
毎回、テーマに関する本を1冊以上読んでおく
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

歴史と地域文化 (History and Local Culture)			担当教員	倉田 尚明	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1224	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 人間学関連科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。					

(1) 授 業 の 内 容
福井県の歴史を概観するとともに、時代ごとの特質に注目していく。また、歴史学が地域にどのような役割を果たすのかについて考える。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ 他者だけでなく自己も地域の歴史・文化をかたち作る主体であることを理解できる。 ・ そのために、地域の人々とのコミュニケーションが積極的に行える。 ・ 地域の歴史・文化に関する情報収集・探索能力を養成する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：歴史を学ぶということ～地域のかかわりから～ 事前学習：中学・高校で学んだ程度の日本歴史は復習しておくこと。その他、一般書など関心のあるものは適宜参照しておくこと。(2時間) 事後学習：各回に配布した資料の内容及び、配布資料に掲載した「参考文献」をできるだけ確認しておくこと。(2時間) 第2回：古代福井のなりたちと古墳 事前学習：中学・高校で学んだ程度の日本歴史は復習しておくこと。その他、一般書など関心のあるものは適宜参照しておくこと。(2時間) 事後学習：各回に配布した資料の内容及び、配布資料に掲載した「参考文献」をできるだけ確認しておくこと。(2時間) 第3回：律令体制の成立と課役賦課 事前学習：中学・高校で学んだ程度の日本歴史は復習しておくこと。その他、一般書など関心のあるものは適宜参照しておくこと。(2時間) 事後学習：各回に配布した資料の内容及び、配布資料に掲載した「参考文献」をできるだけ確認しておくこと。(2時間) 第4回：平氏政権と越前・若狭 事前学習：中学・高校で学んだ程度の日本歴史は復習しておくこと。その他、一般書など関心のあるものは適宜参照しておくこと。(2時間) 事後学習：各回に配布した資料の内容及び、配布資料に掲載した「参考文献」をできるだけ確認しておくこと。(2時間) 第5回：鎌倉幕府の成立と越前・若狭 事前学習：中学・高校で学んだ程度の日本歴史は復習しておくこと。その他、一般書など関心のあるものは適宜参照しておくこと。(2時間) 事後学習：各回に配布した資料の内容及び、配布資料に掲載した「参考文献」をできるだけ確認しておくこと。(2時間) 第6回：南北朝の動乱と室町幕府 事前学習：中学・高校で学んだ程度の日本歴史は復習しておくこと。その他、一般書など関心のあるものは適宜参照しておくこと。(2時間) 事後学習：各回に配布した資料の内容及び、配布資料に掲載した「参考文献」をできるだけ確認しておくこと。(2時間) 第7回：室町幕府権力の確立と足利義満 事前学習：中学・高校で学んだ程度の日本歴史は復習しておくこと。その他、一般書など関心のあるものは適宜参照しておくこと。(2時間) 事後学習：各回に配布した資料の内容及び、配布資料に掲載した「参考文献」をできるだけ確認しておくこと。(2時間)

第8回：足利義持・義教政権と若狭武田氏 事前学習：中学・高校で学んだ程度の日本歴史は復習しておくこと。その他、一般書など関心のあるものは適宜参照しておくこと。（2時間） 事後学習：各回に配布した資料の内容及び、配布資料に掲載した「参考文献」をできるだけ確認しておくこと。（2時間） 第9回：嘉吉の変と応仁・文明の乱 事前学習：中学・高校で学んだ程度の日本歴史は復習しておくこと。その他、一般書など関心のあるものは適宜参照しておくこと。（2時間） 事後学習：各回に配布した資料の内容及び、配布資料に掲載した「参考文献」をできるだけ確認しておくこと。（2時間） 第10回：戦国時代の若狭武田氏 事前学習：中学・高校で学んだ程度の日本歴史は復習しておくこと。その他、一般書など関心のあるものは適宜参照しておくこと。（2時間） 事後学習：各回に配布した資料の内容及び、配布資料に掲載した「参考文献」をできるだけ確認しておくこと。（2時間） 第11回：戦国時代の越前朝倉氏 事前学習：中学・高校で学んだ程度の日本歴史は復習しておくこと。その他、一般書など関心のあるものは適宜参照しておくこと。（2時間） 事後学習：各回に配布した資料の内容及び、配布資料に掲載した「参考文献」をできるだけ確認しておくこと。（2時間） 第12回：織田信長の越前・若狭支配 事前学習：中学・高校で学んだ程度の日本歴史は復習しておくこと。その他、一般書など関心のあるものは適宜参照しておくこと。（2時間） 事後学習：各回に配布した資料の内容及び、配布資料に掲載した「参考文献」をできるだけ確認しておくこと。（2時間） 第13回：結城秀康と福井藩の成立 事前学習：中学・高校で学んだ程度の日本歴史は復習しておくこと。その他、一般書など関心のあるものは適宜参照しておくこと。（2時間） 事後学習：各回に配布した資料の内容及び、配布資料に掲載した「参考文献」をできるだけ確認しておくこと。（2時間） 第14回：小浜藩と越前の諸藩 事前学習：中学・高校で学んだ程度の日本歴史は復習しておくこと。その他、一般書など関心のあるものは適宜参照しておくこと。（2時間） 事後学習：各回に配布した資料の内容及び、配布資料に掲載した「参考文献」をできるだけ確認しておくこと。（2時間） 第15回：近現代の福井 事前学習：中学・高校で学んだ程度の日本歴史は復習しておくこと。その他、一般書など関心のあるものは適宜参照しておくこと。（2時間） 事後学習：各回に配布した資料の内容及び、配布資料に掲載した「参考文献」をできるだけ確認しておくこと。（2時間） 第16回：定期試験	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
定期試験 (80%) 平常点 (20%) (平常点は授業への参加状況、質問用紙の提出状況を総合的に判断します。)	
(7) 成績評価基準	
講義内容を正確に理解したうえで、そこから得た知見をもとに自身の考えを的確に表現できているかを評価する。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性) ・ 経歴 (自治体史編さん・市町村学芸員) ・ 実務経験と授業内容との関連性 (学芸員としての経験を活かし、各自治体での歴史・文化の普及に関する取り組みなどの具体例などを示し、実践的な歴史学について意識してもらえるよう授業を進めていく。)
(10) テキスト、参考図書 参考図書：『越前・若狭武将たちの戦国』(岩田書院、2023年)
(11) その他(受講上の注意) 本講義は、与えられた内容を受動的に理解・記憶することを目的とするものではない。大学における学修とは、自ら考え、調べ、深める主体的な探究によって成り立つものである。本講義で得た視点や気づきを、自身の能力として積み重ねていくことを期待する。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

日本国憲法 (The Japanese Constitution)			担当教員	根田 恵多	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HS-1226	2 単位	2 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部学部共通科目 人間学関連科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。					

(1) 授 業 の 内 容
憲法の歴史や判例・学説について、レジュメ・スライドを使って解説します。 受講生の人数によってはディスカッションを取り入れるなどしながら、みなさんが自分の言葉で意見を述べることを重視した授業を行います。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
立憲主義の意味を理解し、憲法に関する基本的知識を修得する。 実生活において、権利意識を持って問題解決を図ることができる能力を身につける。 現実の憲法問題について、自分の意見を自分の言葉で表現できるようになる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート) ☐ グループワーク ☐ 発表(プレゼンテーション) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：憲法って何だろう 事前学習：授業前に法と自身との関わりについて考えておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を振り返り、分からないことがあれば確認しておくこと。(2時間) 第2回：憲法の歴史と現在 事前学習：テキストの14章を読み、疑問点を整理しておこう。(2時間) 事後学習：授業内容を振り返り、立憲主義について理解を深める。(2時間) 第3回：「憲法の番人」としての裁判所 事前学習：テキストの1章・12章で全体像を確認しておこう。(2時間) 事後学習：授業内容を振り返り、テキストの該当箇所を見直しておくこと。(2時間) 第4回：こころの自由 事前学習：テキストの4章1節を読み、疑問点を整理しておこう。(2時間) 事後学習：授業内容を振り返り、テキストの該当箇所を見直しておくこと。(2時間) 第5回：信教の自由vs政教分離 事前学習：テキストの4章2節を読み、疑問点を整理しておこう。(2時間) 事後学習：身近な政教分離問題について調べてみよう。(2時間) 第6回：悪口も表現の自由？ 事前学習：テキストの5章を読み、疑問点を整理しておこう。(2時間) 事後学習：名誉毀損や侮辱をめぐる最近の事件・議論について調べてみよう(2時間) 第7回：教える自由？学ぶ自由？ 事前学習：教師の人権と生徒の人権にどのような違いがあるのか、考えてみよう(2時間) 事後学習：学校でどのような人権問題が起こっているのか、調べてみよう。(2時間) 第8回：働く権利、生きる権利 事前学習：テキストの8章を読み、疑問点を整理しておこう。(2時間) 事後学習：健康で文化的な最低限度の生活とは何か、考えてみよう(2時間) 第9回：平等・差別・排除 事前学習：テキストの3章を読み、疑問点を整理しておこう。(2時間) 事後学習：社会的排除の事例としてどのようなものが挙げられるか、調べてみよう。(2時間) 第10回：「新しい人権」・・・？ 事前学習：憲法に明文化されていない人権にはどのようなものがあるか、考えてみよう(2時間) 事後学習：授業時に取り上げたもの以外でどのような人権があり得るか、調べてみよう(2時間) 第11回：人権の主体——子どもの権利、外国人の権利 事前学習：外国人の権利と日本人の権利にどのような違いがあるのか、考えてみよう。(2時間) 事後学習：入管行政をめぐる問題について、調べてみよう。(2時間)

第12回：捕まったらどうなる？ 事前学習：テキストの9章を読み、疑問点を整理しておこう。（2時間） 事後学習：授業内容を踏まえて、TVや新聞の事件報道についてチェックしてみよう。（2時間） 第13回：統治の仕組みと民主主義 事前学習：民主主義とは何か、高校までの学習内容を復習しておこう。（2時間） 事後学習：自分の居住地・出身地の政治家について調べてみよう。（2時間） 第14回：全世界の国民が平和に生きる 事前学習：テキストの11章を読み、疑問点を整理しておこう。（2時間） 事後学習：授業内容を踏まえて、憲法9条の意義や改正の是非について考えてみよう。（2時間） 第15回：憲法の「改正」って何？ 事前学習：政党などが作成している憲法改正案を調べてみよう。（2時間） 事後学習：これまでの授業内容を踏まえて、現行の日本国憲法の条文を見直してみよう。（2時間） 第16回：期末試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
毎回の授業時に課す小課題40% 学期末に行う筆記試験60%
(7) 成績評価基準
憲法問題の論点を正確に把握し、自分の意見を論理的・説得的に把握できているかを基準に採点します。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
西原博史・斎藤一久編著『教職課程のための憲法入門〔第3版〕』(弘文堂、2024年)
(11) その他(受講上の注意)
積極的に参加する意識をもって受講して下さい。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

文化とまちづくり (Town Development and Culture)			担当教員	南保 勝	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HS-2230	2 単位	2 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部学部共通科目 環境・健康科目					
求める学習成果(教育目標)					
大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
①国内における「まちづくり」の社会的背景や、全国的に注目を集めるまちづくりの成功事例を把握する。 ②成功事例から学んだ「まちづくり」の基本的考え方を整理しながら、今後の「まちづくり」の方向性、あるべき姿についても検討を加える。 ③私たちの住む地域社会にとって、持続可能な発展をはかるための「まちづくりとは、いったいどうあるべきか」についても考察し、結果として、まちづくりに関する専門知識の習得に繋げる。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
近年、各地で増加するまちづくりに着目し、まちづくりを成功させるための基本的考え方を整理、実際のまちづくり運営に役立つ人材育成を目指す。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：講義 ガイダンス(まちづくりの必要性和その背景) 事前学習：まちづくりの必要性について、各々の考え方を整理しておくこと(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。(2時間) 第2回：講義 まちづくりの定義と主体性の違いから見た5つのまちづくり 事前学習：まちづくりの定義について、各々の考え方を整理しておくこと(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。(2時間) 第3回：講義 地場産業観点でのまちづくり 先進事例：岡山県倉敷市、岐阜県多治見市 事前学習：地場産業観点のまちづくりについて、事例があれば整理しておくこと(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。(2時間) 第4回：講義 子育て観点でのまちづくり 先進事例：千葉県松戸市、兵庫県明石市 事前学習：子育て観点のまちづくりについて、事例があれば整理しておくこと(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。(2時間) 第5回：講義 土地活用観点でのまちづくり 先進事例：新潟県新潟市、 事前学習：土地活用観点のまちづくりについて、事例があれば整理しておくこと(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。(2時間) 第6回：講義 新規事業観点でのまちづくり 先進事例：鳥根県斐川町、岩手県北上市 事前学習：新規事業観点のまちづくりについて、事例があれば整理しておくこと(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。(2時間) 第7回：講義 観光観点でのまちづくり(その1) 先進事例：長野県小布施町、神奈川県小田原市 事前学習：小布施町について、まちづくり事例があれば整理しておくこと(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。(2時間) 第8回：講義 観光観点でのまちづくり(その2) 新幹線でのまちづくり 先進事例：福井県福井市 事前学習：新幹線でのまちづくりについて、重要点があれば整理しておくこと(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。(2時間) 第9回：講義 まちづくりのための仕事とは 事前学習：まちづくりに関連する仕事を整理しておくこと(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。(2時間) 第10回：講義 ゲストスピーカーによる講義 事前学習：ゲストスピーカーの事前資料をもとに、ゲストのまちづくりについてわかる範囲でまとめておくこと(2時間) 事後学習：ゲストスピーカーの講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。(2時間)

第11回：講義 まちづくりの基本的考え方と、まちづくりの方向性、グループディスカッション（その1） 事前学習：まちづくりに関連する基本的な考え方を整理しておくこと（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。（2時間） 第12回：講義 まちづくりの基本的考え方と、まちづくりの方向性、グループディスカッション報告（その2） 事前学習：グループごとにディスカッションした内容をまとめておくこと（2時間） 事後学習：各グループの考え方を整理しておくこと。（2時間） 第13回：講義 私たちの住む地域社会にとって、持続可能な発展をはかるためのまちづくりとは（グループディスカッション） 事前学習：グループごとにディスカッションした内容をまとめておくこと（2時間） 事後学習：各グループの考え方を整理しておくこと。（2時間） 第14回：講義 グループディスカッションの報告とこれからのまちづくりのポイント 事前学習：グループごとにディスカッションした内容をまとめておくこと（2時間） 事後学習：各グループの考え方を整理しておくこと。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：これまでの講義で気づいたまちづくりのポイントを整理しておくこと（2時間） 事後学習：まちづくりを成功させるためのポイントとは何か、整理しておくこと（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（40%）、各回の課題と小テストおよび平常点（60%） （平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
・成功事例から学んだ「まちづくり」の基本的考え方を理解しているか。 ・国内における「まちづくり」の社会的背景や、全国的に注目を集める「まちづくり」の成功事例を把握できているか。 ・私たちの住む地域社会にとって、持続可能な発展をはかるための「まちづくりとは、いったいどうあるべきか」について独自の考察力が身についているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
参考文献 ・南保勝著『地場産業と地域経済』、晃洋書房、2008年 ・南保勝著『地域経営分析』、晃洋書房、2019年
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

ふくい総合学 (General Studies of Fukui)			担当教員	尼子 克己、杉島 一郎、禿 寿、 出村 友寛
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
HS-2231	2単位	2年後期	講義	選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 環境・健康科目				
求める学習成果(教育目標)				
大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実地的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。				

(1) 授 業 の 内 容
本授業は、様々な分野・専門領域における「ふくい」についての現況の課題や行政施策等の理解促進を目的とする。特に「ふくい」の中の「越前市」に焦点をあて、市職員を招聘し、学生へ市計画等の事業の現状、将来構想、施策の特徴を講義し、「市を取り巻く状況」に始まり、「戦略的取組」「行政課題」や「今後の展望」などを取り上げる。後半は、本学各学科各領域からの視点で越前市や地域との関連性について取り上げ、大学の立地自治体の特徴、文化の理解を深めてもらえるような内容となっている。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
本学が立地する自治体である「越前市」の特徴や行政全般、さらには独自の文化等に対する理解を深める。
(3) アクティブラーニング
☐課題解決型学習(PBL) ☐討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐実習、フィールドワーク ☐実験、実技 ☐その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：「ふくい総合学」趣旨説明＜総論＞越前市を取り巻く状況 事前学習：授業前にシラバスを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業の内容を振り返り、e-learningを通じてリフレクションを実施すること。(2時間) 第2回：戦略的取組＜まちづくり編＞コウノトリと里山の人たちとの共生、かこさとしさんと読書のまち宣言 事前学習：授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。(2時間) 第3回：戦略的取組＜福祉編＞検診を受けよう 新しい健康づくり、子どもの笑顔が輝く環境づくり 事前学習：授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。(2時間) 第4回：戦略的取組＜文化編＞国府が置かれた歴史あるまちづくり、たけふ菊人形のあゆみ 事前学習：授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。(2時間) 第5回：戦略的取組＜産業編＞越前市の産業活性化(産業活性化プラン・工芸の里構想) 事前学習：授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。(2時間) 第6回：戦略的取組＜環境編＞下水道事業で人と環境のネットワークづくり、もったいない！捨てないで資源回収しよう 事前学習：授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。(2時間) 第7回：行政課題(1) 地域が支える災害に強いまちづくり、まちづくりと交通体系 事前学習：授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。(2時間) 第8回：行政課題(2) 越前市の財政、越前市で暮らそう！～新生活を始めるなら中心市街地がおすすめ～ 事前学習：授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。(2時間) 第9回：行政課題(今後) オープンデータを利用したまち情報の発信、きくりんがちょっといいこと教えちゃーリン！～越前市の嬉しい情報をお届けします～ 事前学習：授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。(2時間) 第10回：行政課題(展望) 市民協働プロセスの確立、市民交流・ネットワークづくり 事前学習：授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。(2時間)

第11回：心理学の視点から（心理学科教員） 事前学習：授業前に資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。（2時間） 第12回：コミュニケーション学の視点から（コミュニケーション学科教員） 事前学習：授業前に資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。（2時間） 第13回：健康栄養学の視点から（健康栄養学科教員） 事前学習：授業前に資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。（2時間） 第14回：子ども教育学の視点から（子ども教育学科教員） 事前学習：授業前に資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。（2時間） 第15回：まとめ（とりまとめ教員） 事前学習：授業前に14回までを振り返り、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：e-learningを通じて授業全体のリフレクションを実施すること。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポート（60％） 平常点（40％） （平常点は、授業時のリアクションペーパー、受講態度等を総合して判断する。）
(7) 成績評価基準
「越前市の人とまち、その文化」というテーマで、「越前市の取り組み」についての現況の課題や今後の施策内容等を理解できたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
毎回プリントを配布。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英語Ⅱ a (EnglishⅡ a)			担当教員	加藤 優子、矢橋 知枝、M クズィフ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-2240	1 単位	2 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実地的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
Following a warm-up activity to introduce the theme of the unit, students will be introduced to the relevant grammar and vocabulary through a series of listening and speaking exercises. Reading and writing exercises will follow to reinforce their knowledge of the material.
(2) 授 業 の 到 達 目 標
Expanding upon the material covered in English I a and I b, further attention will be given to developing the four core skills of language proficiency. Students will continue to develop the speaking skills necessary to express themselves in general areas of conversation, such as talking about their daily lives and exchanging personal information. Listening practice will focus on listening for keywords and specific information. Reading exercises will focus on the important skills of skimming for general understanding as well as scanning for specific information. Writing activities will center on developing the student's ability to express his or her own thoughts and opinions in an easy-to-understand manner. Students are expected to participate in discussions, group work, and give presentations. The scheduling of discussions, group work, and presentations is at the discretion of each course instructor.
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回: Class Introduction (ディスカッション) 事前学習: 事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること(30分) 第2回: Unit 1 - Hobbies ① (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること(30分) 第3回: Unit 1 - Hobbies ② (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること(30分) 第4回: Unit 2 - Cities ① (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること(30分) 第5回: Unit 2 - Cities ② (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること(30分) 第6回: Unit 3 - An Active Life ① (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること(30分) 第7回: Unit 3 - An Active Life ② (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること(30分) 第8回: Review (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること(30分)

第9回：Unit 4 - Technology ①（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分） 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること（30分） 第10回：Unit 4 - Technology ②（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分） 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること（30分） 第11回：Unit 5 - Personality ①（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分） 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること（30分） 第12回：Unit 5 - Personality ②（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分） 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること（30分） 第13回：Unit 6 - Cooking ①（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分） 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること（30分） 第14回：Unit 6 - Cooking ②（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分） 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること（30分） 第15回：Review（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分） 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること（30分） 第16回：Examination Before each unit, students are to familiarize themselves with the class material by reviewing the 'Grammar Reference' pages for each unit and completing the exercises on those pages. Students must also complete homework assignments as instructed by their teacher, such as the written assignments suggested in the textbook and other relevant assignments.
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 Outside-class Assignments - 20% *Talk to your instructor about what is required. Proactive In-class Participation - 20% Examinations - 60%
(7) 成績評価基準 Students' abilities to participate in conversations and express opinions on a variety of subjects will be evaluated as well as their abilities to express opinions in written form and to comprehend reading passages.
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 Stempleski, Susan. Stretch 2 (Second Edition). 2024. Oxford University Press. ISBN 978-0-19-413640-2 TEXT加藤 『TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ』 朝日新聞出版 2017年

(11) その他(受講上の注意)

Students are encouraged to take the TOEIC during their studies at the university. Also, at least one class will be held in the E-Lounge (E-301) or CALL (E-303) during the semester to familiarize the students with the latest available English self-study materials.

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英語Ⅱb (EnglishⅡb)			担当教員	加藤 優子、矢橋 知枝、M クズィフ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-2241	1 単位	2 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実地的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
Following a warm-up activity to introduce the theme of the unit, students will be introduced to the relevant grammar and vocabulary through a series of listening and speaking exercises. Reading and writing exercises will follow to reinforce their knowledge of the material.
(2) 授 業 の 到 達 目 標
Expanding upon the material covered in English I a and I b, further attention will be given to developing the four core skills of language proficiency. Students will continue to develop the speaking skills necessary to express themselves in general areas of conversation, such as talking about their daily lives and exchanging personal information. Listening practice will focus on listening for keywords and specific information. Reading exercises will focus on the important skills of skimming for general understanding as well as scanning for specific information. Writing activities will center on developing the student's ability to express his or her own thoughts and opinions in an easy-to-understand manner. Students are expected to participate in discussions, group work, and give presentations. The scheduling of discussions, group work, and presentations is at the discretion of each course instructor.
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回: Class Introduction (ディスカッション) 事前学習: 事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分) 第2回: Unit 7 - Weather ① (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分) 第3回: Unit 7 - Weather ② (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分) 第4回: Unit 8 - Everyday Activities ① (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分) 第5回: Unit 8 - Everyday Activities ② (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分) 第6回: Unit 9 - Math, history, and art ① (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分) 第7回: Unit 9 - Math, history, and art ② (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分) 第8回: Review (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分)

第9回：Unit 10 - A busy semester ① (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第10回：Unit 10 - A busy semester ② (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第11回：Unit 11 - Favors and requests ① (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第12回：Unit 11 - Favors and requests ② (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第13回：Unit 12 - Before you travel ① (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第14回：Unit 12 - Before you travel ② (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第15回：Review (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第16回：Examination Before each unit, students are to familiarize themselves with the class material by reviewing the 'Grammar Reference' pages for each unit and completing the exercises on those pages. Students must also complete homework assignments as instructed by their teacher, such as the written assignments suggested in the textbook and other relevant assignments.
(5) 授業形態 [面接授業・遠隔授業] 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 Outside-class Assignments - 20% *Talk to your instructor about what is required. Proactive In-class Participation - 20% Examinations - 60%
(7) 成績評価基準 Students' abilities to participate in conversations and express opinions on a variety of subjects will be evaluated as well as their abilities to express opinions in written form and to comprehend reading passages.
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 Stempleski, Susan. Stretch 2 (Second Edition). 2024. Oxford University Press. ISBN 978-0-19-413640-2 TEXT加藤 『TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ』 朝日新聞出版 2017年

(11) その他(受講上の注意)
Students are encouraged to take the TOEIC during their studies at the university.
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

海外語学研修 (Language Study Abroad)			担当教員	M ハウカ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
GE-D-1111 BC-F-2269	4 単位	2 年～4 年	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな教養と実的な知識・技術を修得し、探究的な意欲と協働的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
現地ではホームステイ・クラブ活動も行う。事前授業10回(後期)および事後授業5回(次年度前期)も合わせて受講し、以後の学修・研究のための動機付けを得ることを目指す。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
集中的な英語研修と生活体験を通し、総合的な英語力(読む力・聞く力・話す力・書く力)を向上させることを目的とする。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
事前学習(60時間) ・全体説明会(目的、日程、研修内容、宿泊、準備物[パスポート、航空券、クレジットカードなど]) ・ビザの申請 ・ホストファミリーへの紹介文 ・研修地に関する事前学習 ・場面別英会話の学習 ・プレゼンテーションの準備・練習 ・プレースメントテスト ・経験者の話・質疑応答 ・最終確認 <集中講義(春期休暇中)> 留学(90時間) ・英語の授業(リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング、文法、語彙など) ・学外体験 ・文化施設見学 ・ホストファミリーとの交流(ホームステイ) ・体験ツアー ・歴史、文化授業参加、ディスカッション ・他の大学生との交流 事後学習(30時間) ・研修のふりかえり・レポート ・プレゼンテーション準備 ・体験報告会
(5) 授業形態[面接授業・遠隔授業]
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
事前授業への取り組み(30%)、現地評価(50%)、事後授業の取り組み(20%)を総合評価する。

(7) 成績評価基準
学外における自主的な活動や体験をととして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得できたか。 学修・研究のための動機付けを得て、優れた社会人となるための自己認識を深めることができたか。 ※現地校から発行される成績表も評価に含まれる。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
現地校より指示がある。
(11) その他(受講上の注意)
本科目の履修登録については、担当教員が行うガイダンスおよび本プログラム参加をもって履修登録とするため、通常の受講登録手続きを要しない。 ※授業に参加するには、10月1日までにパスポートを取得する必要があります。 ※すべての予定されている授業に出席することが求められます。無断欠席をした場合、留学の参加ができなくなる可能性があります。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

情報活用 a (Information Utilization a)			担当教員	竹村 順吾	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HS-2152	2 単位	2 年前期	演習	選択	
<科目区分> 人間学部学部共通科目 情報科目					
求める学習成果(教育目標)					
大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
実習によってWordの機能と操作を理解し、大学生活やビジネス場面において有効に活用できる能力を獲得することを目指す。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
Wordの操作に習熟し、社会で求められる文書作成や情報活用の能力を獲得する。技能の取得基準としてはMicrosoft Office Specialist試験 (MOS) に合格できるレベルを目標とする。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
テキストに従って実習を進めるほか、eラーニングにて資料を配付する。 第1回：授業概説、MOS試験について、Wordの基礎知識 事前学習：Wordについて予習 (2 時間) 事後学習：パソコン環境を整える、課題提出 (2 時間) 第2回：第1章 文書の管理 事前学習：第1章を読んで予習 (2 時間) 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出 (2 時間) 第3回：第2章 文字、段落、セクションの挿入と書式設定 事前学習：第2章を読んで予習 (2 時間) 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出 (2 時間) 第4回：第3章 表やリストの管理 事前学習：第3章を読んで予習 (2 時間) 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出 (2 時間) 第5回：第4章 参考資料の作成と管理 事前学習：第4章を読んで予習 (2 時間) 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出 (2 時間) 第6回：第5章 グラフィック要素の挿入と書式設定 事前学習：第5章を読んで予習 (2 時間) 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出 (2 時間) 第7回：第6章 文書の共同作業の管理 事前学習：第6章を読んで予習 (2 時間) 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出 (2 時間) 第8回：レポートの書き方 (1) 事前学習：第1章～第6章の内容を復習 (2 時間) 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出 (2 時間) 第9回：模擬テスト1 事前学習：模擬テスト問題1を試行する (2 時間) 事後学習：模擬テスト問題1を実行して復習、課題提出 (2 時間) 第10回：模擬テスト2 事前学習：模擬テスト問題2を試行する (2 時間) 事後学習：模擬テスト問題2を実行して復習、課題提出 (2 時間) 第11回：模擬テスト3 事前学習：模擬テスト問題3を試行する (2 時間) 事後学習：模擬テスト問題3を実行して復習、課題提出 (2 時間)

第12回：模擬テスト 4 事前学習：模擬テスト問題 4 を試行する（2 時間） 事後学習：模擬テスト問題 4 を実行して復習、課題提出（2 時間） 第13回：模擬テスト 5 事前学習：模擬テスト問題 5 を試行する（2 時間） 事後学習：模擬テスト問題 5 を実行して復習、課題提出（2 時間） 第14回：実力判定テスト 事前学習：実力判定テスト問題を試行する（2 時間） 事後学習：実力判定テスト問題を実行して復習、課題提出（2 時間） 第15回：レポートの書き方 （2） 事前学習：第 8 回の内容を復習、提出済のレポート課題を見直す（2 時間） 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出（2 時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（60%） 課題（20%） 平常点（20%） （平常点は、授業への参加状況・受講態度等）
(7) 成績評価基準
実習と課題を充分に行い、MOSに合格できるレベルの技術を獲得できたかどうか。期末に学内で実施される MOS試験を受験した場合、その結果を定期試験の代替とできる。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
・経歴 （インターネット関連企業勤務） ・実務経験と授業内容との関連性 （IT関連企業でマーケティングや開発経験を有する教員が、社会における I T 技術の役割を実例豊富に紹介し、企業で求められる実践的リテラシーとスキルを解説する。）
(10) テキスト、参考図書
『MOS攻略問題集Word 365（2023年リリース版）』 日経BP 2024年
(11) その他(受講上の注意)
テキスト必携必須
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

情報活用 b (Information Utilization b)			担当教員	竹村 順吾	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HS-2153	2 単位	2 年後期	演習	選択	
<科目区分> 人間学部学部共通科目 情報科目					
求める学習成果(教育目標)					
大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
実習によってExcelの機能と操作を理解し、大学生活やビジネス場面において有効に活用できる能力を獲得することを目指す。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
Excelの操作に習熟し、社会で求められる文書作成や情報活用能力を獲得する。技能の取得基準としてはMicrosoft Office Specialist試験 (MOS) に合格できるレベルを目標とする。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
テキストに従って実習を進めるほか、eラーニングにて資料を配付する。 第1回：授業概説、MOS試験について、Excelの基礎知識 事前学習：Excelについて予習（2時間） 事後学習：パソコン環境を整える、課題提出（2時間） 第2回：第1章 ワークシートやブックの管理 （1） 事前学習：第1章の前半を読んで予習（2時間） 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出（2時間） 第3回：第1章 ワークシートやブックの管理 （2） 事前学習：第1章の後半を読んで予習（2時間） 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出（2時間） 第4回：第2章 セルやセル範囲のデータの管理 事前学習：第2章を読んで予習（2時間） 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出（2時間） 第5回：第3章 テーブルとテーブルのデータ管理 事前学習：第3章を読んで予習（2時間） 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出（2時間） 第6回：第4章 数式や関数を使用した演算の実行 事前学習：第4章を読んで予習（2時間） 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出（2時間） 第7回：第5章 グラフの管理 事前学習：第5章を読んで予習（2時間） 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出（2時間） 第8回：データサイエンス 事前学習：第1章～第5章を復習（2時間） 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出（2時間） 第9回：模擬テスト1 事前学習：模擬テスト問題1を試行する（2時間） 事後学習：模擬テスト問題1を実行して復習、課題提出（2時間） 第10回：模擬テスト2 事前学習：模擬テスト問題2を試行する（2時間） 事後学習：模擬テスト問題2を実行して復習、課題提出（2時間） 第11回：模擬テスト3 事前学習：模擬テスト問題3を試行する（2時間） 事後学習：模擬テスト問題3を実行して復習、課題提出（2時間）

第12回：模擬テスト 4 事前学習：模擬テスト問題 4 を試行する（2 時間） 事後学習：模擬テスト問題 4 を実行して復習、課題提出（2 時間） 第13回：模擬テスト 5 事前学習：模擬テスト問題 5 を試行する（2 時間） 事後学習：模擬テスト問題 5 を実行して復習、課題提出（2 時間） 第14回：実力判定テスト 事前学習：実力判定テスト問題を試行する（2 時間） 事後学習：実力判定テスト問題を実行して復習、課題提出（2 時間） 第15回：Excelを効率良く操作するテクニック 事前学習：前回までの配布資料の内容を復習（2 時間） 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出（2 時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（60%） 提出課題（20%）平常点（20%） （平常点は、授業への参加状況・受講態度等）
(7) 成績評価基準
実習と課題を充分に行い、MOSに合格できるレベルの技術を獲得できたかどうか。期末に学内で実施されるMOS試験に合格した場合、定期試験も合格と同等以上の扱いとする。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
・経歴 （インターネット関連企業勤務） ・実務経験と授業内容との関連性 （IT関連企業でマーケティングや開発経験を有する教員が、社会における I T 技術の役割を実例豊富に紹介し、企業で求められる実践的リテラシーとスキルを解説する。）
(10) テキスト、参考図書
『MOS攻略問題集Excel 365（2023年リリース版）』 日経BP 2023年
(11) その他(受講上の注意)
テキスト必携必須
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

情報処理演習 a (Information Processing Practicum a)			担当教員	竹村 順吾	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HS-2250	2 単位	2 年前期	演習	選択	
<科目区分> 人間学部学部共通科目 情報科目					
求める学習成果(教育目標)					
大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実地的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
情報技術の基礎とその社会における利用について学び、情報技術を有効に活用するための知識と態度を習得する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
一般企業などにおける情報システムの利用者側としての必要な知識技能を主に習得し、業務の情報化を推進できる幅広い活用能力の獲得を目指す。 本授業では、情報処理技術者試験の一つである「ITパスポート試験(iパス)」に合格できるレベルの知識と技能を獲得することを目標とする。 参考 IT パスポート試験シラバス https://www3.jitec.ipa.go.jp/JitesCbt/html/about/range.html
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：概説、第1章 企業と法務(1) 事前学習：「試験の概要」「1-1-1」「1-1-2」を読み予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出(2時間) 第2回：第1章 企業と法務(2) 事前学習：「1-1-3」を読み予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出(2時間) 第3回：第1章 企業と法務(3) 事前学習：「1-2」を読み予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出(2時間) 第4回：第2章 経営戦略 事前学習：「2-1」～「2-3」を読み予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出(2時間) 第5回：第3章 システム戦略 事前学習：「3-1」～「3-2」を読み予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出(2時間) 第6回：第4章 開発技術 事前学習：「4-1」～「4-2」を読み予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出(2時間) 第7回：第5章 プロジェクトマネジメント、第6章 サービスマネジメント 事前学習：「5-1」～「6-2」を読み予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出(2時間) 第8回：第7章 基礎理論(1) 事前学習：「7-1」を読み予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出(2時間) 第9回：第7章 基礎理論(2) 事前学習：「7-2」を読み予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出(2時間) 第10回：第8章 コンピュータシステム 事前学習：「8-1」～「8-4」を読み予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出(2時間)

第11回：第9章 技術要素（1） 事前学習：「9－1」～「9－3」を読み予習する（2時間） 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出（2時間） 第12回：第9章 技術要素（2） 事前学習：「9－4」を読み予習する（2時間） 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出（2時間） 第13回：第9章 技術要素（3） 事前学習：「9－5－1」～「9－5－3 ④」を読み予習する（2時間） 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出（2時間） 第14回：第9章 技術要素（4） 事前学習：「9－5－3 ⑤」～「9－5－3 ⑥」を読み予習する（2時間） 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出（2時間） 第15回：第10章 表計算、CBT試験対策 事前学習：「10－1」～「10－3」「CBT試験対策」を読み予習する（2時間） 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（80％） 演習課題（10％） 平常点（10％） （平常点は、授業への参加状況・受講態度等）
(7) 成績評価基準
ITパスポート試験に合格できるレベルの知識と技能を獲得できたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
・経歴 （インターネット関連企業勤務） ・実務経験と授業内容との関連性 （IT関連企業でマーケティングや開発経験を有する教員が、社会におけるIT技術の役割を実例豊富に紹介し、企業で求められる実践的リテラシーとスキルを解説する。）
(10) テキスト、参考図書
テキスト 『よくわかるマスター 令和8-9年度版 ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集』 FOM出版 2025年
(11) その他(受講上の注意)
テキスト必携必須
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

情報処理演習 b (Information Processing Practicum b)			担当教員	竹村 順吾	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HS-2251	2 単位	2 年後期	演習	選択	
<科目区分> 人間学部学部共通科目 情報科目					
求める学習成果(教育目標)					
大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
情報技術の基礎とその社会における利用について学び、情報技術を有効に活用するための知識と態度を習得します。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
一般企業などにおける情報システムの利用者側としての必要な知識技能を主に習得し、業務の情報化を推進できる幅広い活用能力の獲得を目指す。 本授業では、情報処理技術者試験の一つである「ITパスポート試験(iパス)」に合格できるレベルの知識と技能を獲得することを目標とする。 参考 IT パスポート試験シラバス https://www3.jitec.ipa.go.jp/JitesCbt/html/about/range.html
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
テキストを順次進めるほか、前回課題の解説を行う。 第1回：授業概説、第1章 ストラテジ系・企業と法務(1) 事前学習：Lesson01～08を読み、予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲を復習、課題提出(2時間) 第2回：第1章 ストラテジ系・企業と法務(2) 事前学習：Lesson09～17を読み、予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲を復習、課題提出(2時間) 第3回：第2章 ストラテジ系・経営戦略(1)、課題解説 事前学習：Lesson18～25を読み、予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲を復習、課題提出(2時間) 第4回：第2章 ストラテジ系・経営戦略(2)、課題解説 事前学習：Lesson26～32を読み、予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲を復習、課題提出(2時間) 第5回：第3章 ストラテジ系・システム戦略 事前学習：Lesson33～40を読み、予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲を復習、課題提出(2時間) 第6回：第4章 マネジメント系・開発技術 事前学習：Lesson41～49を読み、予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲を復習、課題提出(2時間) 第7回：第5章 マネジメント系・プロジェクトマネジメント 事前学習：Lesson50～56を読み、予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲を復習、課題提出(2時間) 第8回：第6章 マネジメント系・サービスマネジメント 事前学習：Lesson57～65を読み、予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲を復習、課題提出(2時間) 第9回：第7章 テクノロジ系・基礎理論 事前学習：Lesson66～71を読み、予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲を復習、課題提出(2時間) 第10回：第8章 テクノロジ系・コンピュータシステム(1) 事前学習：Lesson72～78を読み、予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲を復習、課題提出(2時間)

第11回：第8章 テクノロジ系・コンピュータシステム（2） 事前学習：Lesson79～85を読み、予習する（2時間） 事後学習：本日採り上げた範囲を復習、課題提出（2時間） 第12回：第9章 テクノロジ系・技術要素（1） 事前学習：Lesson86～93を読み、予習する（2時間） 事後学習：本日採り上げた範囲を復習、課題提出（2時間） 第13回：第9章 テクノロジ系・技術要素（2） 事前学習：Lesson94～102を読み、予習する（2時間） 事後学習：本日採り上げた範囲を復習、課題提出（2時間） 第14回：第9章 テクノロジ系・技術要素（3） 事前学習：Lesson103～111を読み、予習する（2時間） 事後学習：本日採り上げた範囲を復習、課題提出（2時間） 第15回：第9章 テクノロジ系・技術要素（4） 事前学習：Lesson112～120を読み、予習する（2時間） 事後学習：本日採り上げた範囲を復習、課題提出（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（70%） 演習課題（20%） 平常点（10%） （平常点は、授業への参加状況・受講態度等）
(7) 成績評価基準
ITパスポート試験に合格できるレベルの知識と技能を獲得できたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
・経歴 （インターネット関連企業勤務） ・実務経験と授業内容との関連性 （IT関連企業でマーケティングや開発経験を有する教員が、社会におけるIT技術の役割を実例豊富に紹介し、企業で求められる実践的リテラシーとスキルを解説する。）
(10) テキスト、参考図書
テキスト 『令和08-09年 ITパスポート 試験によく出る問題集』 技術評論社 2026年 参考図書 『よくわかるマスター 令和8-9年度版 ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集』 FOM出版 2025年
(11) その他(受講上の注意)
テキスト必携必須（第1回：目より必要） 前期の「情報処理演習a」を受講している者を前提としている。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

キャリア・デザインⅡ (Career Design Ⅱ)			担当教員	升田 法継	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-2260	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 修学基礎・キャリア形成科目					
求める学習成果(教育目標)					
大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容	
社会の中での役割を主体的に果たしながら、「自分らしい生き方」を実現するための力を育むことを目的とし、学生の自立および学生が自身の様々な可能性を発見・再確認できる機会の提供を通じて、今後の大学生活の目標を設定する。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
・「はたらく」ことの意味・意義について、十分に考えることができる。 ・「はたらく」とことと大学生活での「学び」を関連づけて考えることができる。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：キャリア・デザインとは 事前学習：初回の授業ではキャリア・デザインの意味・意義について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたライフストーリーについて、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第2回：ライフストーリーⅠ 事前学習：ゲストスピーカーのライフストーリーについて考えるため、自分なりに調べておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第3回：ライフストーリーⅡ 事前学習：ゲストスピーカーのライフストーリーについて考えるため、自分なりに調べておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第4回：ライフストーリーⅢ(グループワーク・発表) 事前学習：各自調査したライフストーリーについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第5回：「はたらく」とはⅠ 事前学習：「はたらく」ことの意味・意義について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第6回：「はたらく」とはⅡ 事前学習：「はたらく」ことの意味・意義について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第7回：業界研究 事前学習：業界全体の概要について考えるため、自分なりに調べておくこと(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)	

第8回：職業理解Ⅰ 事前学習：総務・人事の仕事について考えるため、自分なりに調べておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） ※総務・人事の仕事は予定です（変更する場合があります）。 第9回：ロールモデルⅠ 事前学習：社会人卒業生と意見交換するため、確認したいことなどについて自分なりに整理しておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第10回：ロールモデルⅡ 事前学習：社会人卒業生との意見交換を踏まえ、振り返りを行うため自分なりに整理しておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第11回：職業理解Ⅱ 事前学習：営業・企画の仕事について考えるため、自分なりに調べておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） ※営業・企画の仕事は予定です（変更する場合があります）。 第12回：職業理解Ⅲ 事前学習：地方公務の仕事について考えるため、自分なりに調べておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） ※地方公務の仕事は予定です（変更する場合があります）。 第13回：インターンシップ 事前学習：インターンシップの心がまえについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第14回：就職活動 事前学習：就職活動の心がまえについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第15回：自己理解 事前学習：自己理解について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
課題に対する活動内容・提出物・レポート（70%）、平常点（30%） ※平常点：授業への参加状況・受講態度等を総合して判断するもの	
(7) 成績評価基準	
・「はたらく」ことの意味・意義について、十分に考えることができるか。 ・「はたらく」と大学生活での「学び」を関連づけて考えることができるか。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他（リアクションペーパーに対するフィードバックについて） ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他	

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性) ・ 経歴 (元情報通信会社管理職(社員数:26万人、主な担当業務:人事、社長・取締役秘書、マーケティング、新規ビジネス開発、システム コンサルタント等)) ・ 実務経験と授業内容との関連性 (情報通信会社において、人事や社長・取締役スタッフ経験のある教員が、社会の中での役割を主体的に果たしながら「自分らしい生き方」を実現するための力を育むことを目的とし、学生の自立および学生が自身の様々な可能性を発見・再確認できるような機会を提供する。)
(10) テキスト、参考図書 必要に応じて、授業中に提示します。
(11) その他(受講上の注意) 「授業の計画」は、進捗や学生の反応・理解度に応じて、変更する場合があります。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習(ボランティア) (Social activity practice)			担当教員	水田 敏郎、大西 新吾、鳴瀬 碧、 出村 友寛
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
GE-E-1104	2単位	2年～4年	演習	選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 修学基礎・キャリア形成科目				
求める学習成果(教育目標)				
豊かな教養と実的な知識・技術を修得し、探究的な意欲と協働的な態度を身につけます。				

(1) 授 業 の 内 容
本プログラムには、学内外でのボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験が含まれる。教室や研究室で学習や研究をするのではなく、実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。担当教員や活動支援団体による説明会への参加をもとに受講の意思を明らかにし、プログラムへ参加する。 なお、本科目は国連が定める「持続可能な開発目標 (SDGs)」に向けて地域の社会的課題に取り組むSDGs関連科目である。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・それぞれが今後学ぶ、または学んでいることの社会的意義を見いだすことができる。 ・学生間とはもとより、地域社会で仕事や生活をしている社会人とのコミュニケーションが、円滑に行える。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習 (PBL) □討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ■実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
地域社会からのニーズを元にプログラムを立てるため、その解決すべき課題を元に授業計画を設定する。 1. 事前ガイダンスの実施と計画の提示 (2時間) 2. 現地にて研修 (26時間以上) 3. 事後報告として、レポート・プレゼンテーション等の実施、課題に関連する情報の収集 (2時間) ・事前学習 (30時間) …受け入れ担当者から指示された課題やタスクへの取り組み。 レポート・プレゼンテーションの準備など。 ・事後学習 (30時間) …研修記録の執筆、受け入れ担当者から指示された課題やタスクへの取り組みなど。
(5) 授 業 形 態 [面 接 授 業 ・ 遠 隔 授 業]
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
活動や取り組みの状況 (50%)、レポートまたはプレゼンテーション (50%)
(7) 成 績 評 価 基 準
課題について、的確な視点を持ち、その解決に向けて自身の考察による提案ができるか。
(8) 課 題 (試 験 や レ ポ ー ト 等) に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて □授業時 □仁大eラーニング ■メール □その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて □授業時 □仁大eラーニング ■メール □その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて □授業時 □仁大eラーニング ■メール □その他 4) 定期試験 (レポート試験を含む) に対するフィードバックについて □定期試験時 □仁大eラーニング ■メール □その他 5) その他 (上記以外の内容に対するフィードバックについて) □授業時 □仁大eラーニング ■メール □その他

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
使用しない。
(11) その他(受講上の注意)
本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の受講登録手続きを要しない。 ※個人参加のボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験等も対象とする場合があるので、受講希望者は、事前に科目担当者へ問い合わせること。 ※単位認定については、参加するボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションのプログラム終了後、担当教員より課される課題等を全て提出し、単位認定するにあたり適当であると認めた場合のみとする。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習(国際交流) (International Culural Exchange)			担当教員	M ハウカ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
GE-D-1111	2 単位	2 年～ 4 年	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 修学基礎・キャリア形成科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな教養と実際のな知識・技術を修得し、探究的な意欲と協働的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容	
原則としてアメリカ・カリフォルニア州立大学フラトン校(本学姉妹校)での集中講義(2週間)の形式で実施するが、英語教育センターで承認を受けた場合は個人留学による語学研修でも履修可能である。フラトン校での集中講義では、授業あるいはワークショップの参加・見学、キャンパス内外での視察、クラブ活動参加、観光等を通じて国際交流を体験し、以後の学修・研究のための動機付けを得ることを目指す。前期に事前授業10回・後期に事後授業5回を実施する。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
・学外における自主的な活動や体験を通して、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得する。 ・「仁愛大学海外短期研修プログラム(2週間)」への参画体験演習を通して、以後の学修・研究のための動機付けを得る。 ・異文化理解を深める。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
事前授業(40時間) ・全体説明会(目的、日程、研修内容、宿泊、準備物[パスポート、航空券、クレジットカードなど]) ・ビザの申請 ・ホストファミリーへの紹介文 ・研修地に関する事前学習 ・場面別英会話の学習 ・プレゼンテーションの準備・練習 ・ブレースメントテスト ・経験者の話・質疑応答 ・最終確認 <集中講義(夏期休暇中)> 留学(30時間) ・英語の授業(リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング、文法、語彙など) ・日本語の指導 ・文化施設見学 ・ホストファミリーとの交流(ホームステイ) ・体験ツアー ・歴史、文化授業参加、ディスカッション ・他の大学生との交流 事後授業(20時間) ・研修のふりかえり・レポート ・プレゼンテーション準備 ・体験報告会	
(5) 授業形態[面接授業・遠隔授業]	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	

(6) 成績評価方法
事前授業の取り組み (30%)、現地評価 (50%)、事後授業の取り組み、およびレポート課題 (20%) を総合評価する。
(7) 成績評価基準
学外における自主的な活動や体験をととして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得できたか。 学修・研究のための動機付けを得て、優れた社会人となるための自己認識を深めることができたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
特になし
(11) その他(受講上の注意)
受講生が少ない場合、非開講とすることがある。本科目の履修登録については、担当教員等が行うガイダンスおよび本プログラム参加をもって履修登録とするため、通常の履修登録手続きを要しない。 【フラトン校での集中講義以外の履修について】 履修要件：英語教育センターで(1)～(4)を行うこと (1) 留学相談(留学先・方法など決定) (2) 審査(本科目としての適切性) (3) 事前指導(提出書類準備・渡航準備) (4) 事後指導(必要な課題提出・発表・単位認定審査) 研修期間：夏期休暇期間または春期休暇期間 単位認定時期：夏期休暇期間の場合は当該年度後期、春期休暇期間の場合は翌年度前期 ※卒業年次生は、夏期休暇中の実施のみ ※授業に参加するには、5月1日までにパスポートを取得する必要があります。 ※すべての予定されている授業に出席することが求められます。無断欠席をした場合、留学の参加ができなくなる可能性があります。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

心理学統計法 I (Psychological Statistics I)			担当教員	森本 文人	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
PS-F-2107	2 単位	1 年前期	遠隔授業	選択	
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の研究方法与基礎的な知識・技能・技術					

(1) 授 業 の 内 容
心理学の実験や調査研究において必要となる統計的な基礎知識のうち、測定尺度に関する知識や、グラフや代表値などを用いてのデータの整理など、そのデータがどのようなデータであるかを明らかにするためのデータ解析の初歩である、記述統計の方法について学習します。実際のデータを用いた説明を行い、求めた値の意味を理解し、自分でもそれらが求められるように演習を行います。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
☒ 統計的なデータの整理・記述ができる。 ☒ 尺度の概念を理解できる。 ☒ 記述統計の概念を理解し計算を行える。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：概説（心理学における統計の意味）1 事前学習：なし 事後学習：授業で扱った範囲について確認し，質問事項をまとめておく。（2時間） 第2回：概説（心理学における統計の意味）2 加算記号について 事前学習：前回の授業で呈示された，心理学における統計法の利用に基づいて，現実場面での適用例を考える（2時間）． 事後学習：授業で扱った範囲について確認し，質問事項をまとめておく。（2時間） 第3回：統計学の基礎（変数の概念、色々な測定尺度）1 事前学習：テキスト第1章を読み，理解し，分かりにくいところを事前に調べる。（2時間） 事後学習：授業で扱った範囲について確認し，質問事項をまとめておく。（2時間） 第4回：統計学の基礎（変数の概念、色々な測定尺度）2 事前学習：テキスト第1章を読み，理解し，分かりにくいところを事前に調べる。（2時間） 事後学習：授業で扱った範囲について，質問事項をまとめておく．また，ヘルプデスクを利用するなどして理解に努める。（2時間） 第5回：データ整理の方法（度数分布とその図示法）1 事前学習：テキスト第2章を読み，理解し，分かりにくいところを事前に調べる。（2時間） 事後学習：授業で扱った範囲について，質問事項をまとめておく．また，ヘルプデスクを利用するなどして理解に努める。（2時間） 第6回：データ整理の方法（度数分布とその図示法）2 事前学習：テキスト第2章を読み，理解し，分かりにくいところを事前に調べる。（2時間） 事後学習：授業で扱った範囲について，質問事項をまとめておく．また，ヘルプデスクを利用するなどして理解に努める。（2時間） 第7回：代表値と散布度1 事前学習：テキスト第3章を読み，理解し，分かりにくいところを事前に調べる。（2時間） 事後学習：授業で扱った範囲について，質問事項をまとめておく．また，ヘルプデスクを利用するなどして理解に努める。（2時間） 第8回：代表値と散布度2 事前学習：テキスト第4章を読み，理解し，分かりにくいところを事前に調べる。（2時間） 事後学習：授業で扱った範囲について，質問事項をまとめておく．また，ヘルプデスクを利用するなどして理解に努める。（2時間）

第9回：正規分布 1 事前学習：テキスト第5章を読み、理解し、分かりにくいところを事前に調べる。（2時間） 事後学習：授業で扱った範囲について、質問事項をまとめておく。また、ヘルプデスクを利用するなどして理解に努める。（2時間） 第10回：正規分布 2 事前学習：テキスト第5章を読み、理解し、分かりにくいところを事前に調べる。（2時間） 事後学習：授業で扱った範囲について、質問事項をまとめておく。また、ヘルプデスクを利用するなどして理解に努める。（2時間） 第11回：測定値の変換（得点の標準化）1 事前学習：テキスト第5章を読み、理解し、分かりにくいところを事前に調べる。（2時間） 事後学習：授業で扱った範囲について、質問事項をまとめておく。また、ヘルプデスクを利用するなどして理解に努める。（2時間） 第12回：測定値の変換（得点の標準化）2 事前学習：テキスト第5章を読み、理解し、分かりにくいところを事前に調べる。（2時間） 事後学習：授業で扱った範囲について、質問事項をまとめておく。また、ヘルプデスクを利用するなどして理解に努める。（2時間） 第13回：相関関係 1 事前学習：テキスト第6章を読み、理解し、分かりにくいところを事前に調べる。（2時間） 事後学習：授業で扱った範囲について、質問事項をまとめておく。また、ヘルプデスクを利用するなどして理解に努める。（2時間） 第14回：相関関係 2 事前学習：テキスト第6章を読み、理解し、分かりにくいところを事前に調べる。（2時間） 事後学習：授業で扱った範囲について、質問事項をまとめておく。また、ヘルプデスクを利用するなどして理解に努める。（2時間） 第15回：回帰 事前学習：テキスト第6章を読み、理解し、分かりにくいところを事前に調べる。（4時間） 事後学習：授業で扱った範囲について、質問事項をまとめておく。また、ヘルプデスクを利用するなどして理解に努める。（2時間） 第16回：定期試験 週2回開設される学科のヘルプデスク（6月より実施）を利用すれば、授業に関する疑問点などは先輩のSAに相談できます。予習・復習のために、積極的に活用してください。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
本科目は、遠隔授業（オンデマンド型）にて実施します。
(6) 成績評価方法
定期試験（80％）平常点（20％） （平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します）
(7) 成績評価基準
■統計的なデータの整理・記述ができるか。 ■尺度の概念を理解できるか。 ■記述統計の概念を理解し計算を行えるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト：『心理・教育のための統計法〈第3版〉』 山内光哉著 サイエンス社 参考図書：『よくわかる心理統計』 山田剛史・村井潤一郎著 ミネルヴァ書房

(11) その他(受講上の注意)
1 年次後期に開講される「心理学統計法」は、本授業で得られる基礎的知識が前提となります。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

心理学実験 (Psychological Experiments)			担当教員	山本 雅代、森本 文人、山岸 厚仁、 林田 侃次、青井 利哉
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-F-2205	2 単位	2 年前期	演習	選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎				
求める学習成果(教育目標)				
心理学の研究方法と基礎的な知識・技能・技術				

(1) 授 業 の 内 容
心理学が科学であることを理解し、心理的問題をどのように研究していくのか、心理学研究の実験的実証的技法における基本的方法について学ぶ。 受講者はグループごとに、ミューラリヤー錯視、鏡映描写、認知的葛藤、反応時間、触2点閾の測定、系列位置効果などの様々な実験にあたる。(数名のグループに分かれ、順次全6課題の実験を体験する)。また、実験者と被験者の両方の役割を体験する。 上記テーマについて先行研究などの情報収集を行い、各自で研究目的に従いデータを取り、収集したデータや情報の整理、分析、考察する方法を学ぶ。また、実験ごとにレポートを提出する。これにより卒業論文を書く上で重要な科学論文の形式を習得することを目指す。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
1) 心理学における実験方法や実証方法を習得する。 2) 実験結果についての整理、分析や考察ができるようになる。 3) 科学論文の執筆ができるようになる。
(3) アクティブラーニング
☐課題解決型学習(PBL) ☐討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐実習、フィールドワーク ☒実験、実技 ☐その他
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：オリエンテーション 事前学習：授業前にテキストで実験についての知識を学んでおくこと。(1時間) 事後学習：授業で扱う実験内容についてテキストや関連する本を読んでおく。(1時間) 第2回：課題1 (ミューラリヤー；山本・森本・山岸・田中)① (実験) 事前学習：授業前にテキストで「ミューラリヤー」実験の手順について確認し、関連した実験について本を読んでおくこと。(1時間) 事後学習：データの確認、実験についてまとめる。(1時間) 第3回：課題1 (ミューラリヤー；山本・森本・山岸・田中)② (実験) 事前学習：授業前にテキストで「ミューラリヤー」実験の手順について確認し、関連した実験について本を読んでおくこと。(1時間) 事後学習：データの確認、実験についてまとめる。(1時間) 第4回：課題1 (ミューラリヤー；山本・森本・山岸・田中)③ (実験) 事前学習：授業前にテキストで「ミューラリヤー」実験の手順について確認し、関連した実験について本を読んでおくこと。(1時間) 事後学習：データの確認、実験についてまとめる。(1時間) 第5回：課題1 (ミューラリヤー；山本・森本・山岸・田中)④ (実験) 事前学習：授業前にテキストで「ミューラリヤー」実験の手順について確認し、関連した実験について本を読んでおくこと。(1時間) 事後学習：データの確認、実験についてまとめる。(1時間) 第6回：課題2 (認知的葛藤；山本・森本・山岸・田中)① (実験) 事前学習：テキストや関連する本を読み、実験の手順や概念について確認しておくこと。(1時間) 事後学習：データを確認、実験についてまとめる。(1時間) 第7回：課題2 (認知的葛藤；山本・森本・山岸・田中)② (実験) 事前学習：テキストや関連する本を読み、実験の手順や概念について確認しておくこと。(1時間) 事後学習：データを確認、実験についてまとめる。(1時間) 第8回：課題3 (全5課題：鏡映描写(山岸)・反応時間(森本)・触2点閾の測定(田中)・系列位置効果(山本))① (実験・グループワーク) 事前学習：テキストや関連する本を読み、実験の手順や概念について確認しておくこと。(1時間) 事後学習：データを確認、実験についてまとめる。(1時間)

第9回：課題3（全5課題：鏡映描写（山岸）・反応時間（森本）・触2点閾の測定（田中）・系列位置効果（山本））②（実験・グループワーク） 事前学習：テキストや関連する本を読み、実験の手順や概念について確認しておくこと。（1時間） 事後学習：データを確認、実験についてまとめる。（1時間） 第10回：課題4（全5課題：鏡映描写（山岸）・反応時間（森本）・触2点閾の測定（田中）・系列位置効果（山本））①（実験・グループワーク） 事前学習：テキストや関連する本を読み、実験の手順や概念について確認しておくこと。（1時間） 事後学習：データを確認、実験についてまとめる。（1時間） 第11回：課題4（全5課題：鏡映描写（山岸）・反応時間（森本）・触2点閾の測定（田中）・系列位置効果（山本））②（実験・グループワーク） 事前学習：テキストや関連する本を読み、実験の手順や概念について確認しておくこと。（1時間） 事後学習：データを確認、実験についてまとめる。（1時間） 第12回：課題5（全5課題：鏡映描写（山岸）・反応時間（森本）・触2点閾の測定（田中）・系列位置効果（山本））①（実験・グループワーク） 事前学習：テキストや関連する本を読み、実験の手順や概念について確認しておくこと。（1時間） 事後学習：データを確認、実験についてまとめる。（1時間） 第13回：課題5（全5課題：鏡映描写（山岸）・反応時間（森本）・触2点閾の測定（田中）・系列位置効果（山本））②（実験・グループワーク） 事前学習：テキストや関連する本を読み、実験の手順や概念について確認しておくこと。（1時間） 事後学習：データを確認、実験についてまとめる。（1時間） 第14回：課題6（全5課題：鏡映描写（山岸）・反応時間（森本）・触2点閾の測定（田中）・系列位置効果（山本））①（実験・グループワーク） 事前学習：テキストや関連する本を読み、実験の手順や概念について確認しておくこと。（1時間） 事後学習：データを確認、実験についてまとめる。（1時間） 第15回：課題6（全5課題：鏡映描写（山岸）・反応時間（森本）・触2点閾の測定（田中）・系列位置効果（山本））②（実験・グループワーク） 事前学習：テキストや関連する本を読み、実験の手順や概念について確認しておくこと。（1時間） 事後学習：データを確認、実験についてまとめる。（1時間） 実験レポートが訂正、返却された場合には必ず見直し、復習すること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 実験終了後に提出する実験レポート、実験、授業への参加態度等を総合的に判断し評価する。 【実験レポート 80% 各実験、授業への参加態度 20%】
(7) 成績評価基準 心理学における実験方法や実証方法を習得できているか。 実験結果についての整理、分析や考察ができているか。 科学論文の執筆ができているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 (1)『心理学研究のためのレポート・論文の書き方マニュアル』 瀬谷安弘・天野成昭 ナカニシヤ出版 2020年 (2)『実験とテスト＝心理学の基礎(実習編)』 心理学実験市道研究会 培風館 1985年 その他、授業時プリント配布

(11) その他(受講上の注意)

第1回：目の授業（オリエンテーション）は必ず出席すること。受講に際しての注意事項があります。
実験ごとに課題の提出、レポート提出があります。各教員の指示に従って提出して下さい。またレポートの提出期限は必ず守ること。再提出等の指示がありますので連絡事項には注意して下さい。連絡を直接メールで行うことがありますので、自分の携帯アドレスを変更した場合には必ず大学に登録したアドレスも変更して下さい。
実験や実験の分析について分からないことが有る場合、先生に質問することは勿論ですが、ヘルプデスクを利用して下さい。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

心理測定実習 (Practice of Psychological Measurement)			担当教員	大森 慈子、森本 文人、山岸 厚仁	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-F-2206	2 単位	2 年後期	演習		選択
＜科目区分＞ 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の研究方法与基礎的な知識・技能・技術					

(1) 授 業 の 内 容
心の測定における実験の意義を学習すると同時に、少人数グループで基本的な心理学実験をすることによって、心と行動を測定する際の様々な問題にふれる。また、レポートの作成を繰り返すことによって、測定結果を科学的事実として報告する方法を習得する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
☒ 心理学実験の基礎的技術を身につける ☒ 測定データに対する分析方法や考察のしかたを理解する ☒ 心理学における科学的論文の書き方を習得する
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 事前学習：「心理学実験」で学習したことを見直し、質問項目をまとめておくこと。(1時間) 事後学習：レポート作成マニュアルを熟読し、「心理学実験」で返却されたレポートを書き直す(1時間) 第2回：課題1(心的回転、または、両側性転移、または、短期記憶)① 事前学習：課題1に関する事項について予習をし、質問項目をまとめておくこと。(1時間) 事後学習：課題1レポートの「第1章 序論」を書く。(1時間) 第3回：課題1(心的回転、または、両側性転移、または、短期記憶)② 事前学習：課題1の方法を確認して実験の実施に備え、質問項目をまとめておくこと。(1時間) 事後学習：課題1レポートの「第2章 方法」を書く。(1時間) 第4回：課題1(心的回転、または、両側性転移、または、短期記憶)③ 事前学習：課題1の結果のデータを整理しておくこと。(1時間) 事後学習：課題1レポートの「第3章 結果」を書く。(1時間) 第5回：課題1(心的回転、または、両側性転移、または、短期記憶)④ 事前学習：課題1の結果から考察をし、まとめておくこと。(1時間) 事後学習：課題1レポートを仕上げる。(1時間) 第6回：課題2(両側性転移、または、短期記憶、または、心的回転)① 事前学習：課題2に関する事項について予習をし、質問項目をまとめておくこと。(1時間) 事後学習：課題2レポートの「第1章 序論」を書く。(1時間) 第7回：課題2(両側性転移、または、短期記憶、または、心的回転)② 事前学習：課題2の方法を確認して実験の実施に備え、質問項目をまとめておくこと。(1時間) 事後学習：課題2レポートの「第2章 方法」を書く。(1時間) 第8回：課題2(両側性転移、または、短期記憶、または、心的回転)③ 事前学習：課題2の結果のデータを整理しておくこと。(1時間) 事後学習：課題2レポートの「第3章 結果」を書く。(1時間) 第9回：課題2(両側性転移、または、短期記憶、または、心的回転)④ 事前学習：課題2の結果から考察をし、まとめておくこと。(1時間) 事後学習：課題2レポートを仕上げる。(1時間) 第10回：課題3(短期記憶、または、心的回転、または、両側性転移)① 事前学習：課題3に関する事項について予習をし、質問項目をまとめておくこと。(1時間) 事後学習：課題3レポートの「第1章 序論」を書く。(1時間) 第11回：課題3(短期記憶、または、心的回転、または、両側性転移)② 事前学習：課題3の方法を確認して実験の実施に備え、質問項目をまとめておくこと。(1時間) 事後学習：課題3レポートの「第2章 方法」を書く。(1時間)

第12回：課題3（短期記憶、または、心的回転、または、両側性転移）③ 事前学習：課題3の結果のデータを整理しておくこと。（1時間） 事後学習：課題3レポートの「第3章 結果」を書く。（1時間） 第13回：課題3（短期記憶、または、心的回転、または、両側性転移）④ 事前学習：課題3の結果から考察をし、まとめておくこと。（1時間） 事後学習：課題3レポートを仕上げる。（1時間） 第14回：課題4（虚偽検出、または、ラットの学習） 事前学習：課題4に関する事項について予習をし、質問項目をまとめておくこと。（1時間） 事後学習：課題4ショートレポートを書く。（1時間） 第15回：課題5（ラットの学習、または、虚偽検出） 事前学習：課題5に関する事項について予習をし、質問項目をまとめておくこと。（1時間） 事後学習：課題5ショートレポートを書く。（1時間） <第1回は全教員、第2～15回は3クラスに分かれて、それぞれを課題（クラス）ごとに大森・森本・山岸が担当> <課題1～3は3つの課題を各4週行い、課題4と5は2つの課題を1週ずつ実施する> <課題1～5は、すべて4～6人の班に分かれてグループワークとして行う実験>
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
課題に対するレポート（60%） 平常点（40%） （平常点は、必要回数以上の授業への出席に対し、参加状況と態度、課題への取り組み姿勢などを総合して判断します）
(7) 成績評価基準
☒心理学実験の基礎的技術が身についているか ☒測定データに対する分析方法や考察のしかたを理解しているか ☒心理学における科学的論文の書き方を習得しているか
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
<参考図書> 日本心理学会認定心理士資格認定委員会「実験・実習で学ぶ心理学の基礎」（金子書房） 心理学実験指導研究会編「実験とテスト－実習編－」（培風館）
(11) その他(受講上の注意)
☒心理学統計法Ⅰ・Ⅱ、心理学実験の単位を修得していること ☒原則として、遅刻、欠席およびレポート提出の遅延は認めない
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

心理的アセスメント (Psychological Assessment)			担当教員	森 俊之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
PS-F-2209	2 単位	2 年前期	演習	選択	
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の研究方法与基礎的な知識・技能・技術					

(1) 授 業 の 内 容
心理的アセスメント（観察法、面接法、検査法）の基礎について、講義と演習を交えながら学ぶ。心理的アセスメントの目的や意義、倫理等について学んだ後、具体的な実習も交えながら、観察法、面接法、検査法について学ぶ。実習した内容については、実習結果をまとめるレポート提出が課せられ、レポートの書き方についても、学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・心理的アセスメントの目的や意義、倫理等について説明できる。 ・心理的アセスメントの主要な方法について、それぞれの方法の意義や特徴、限界等について説明できるとともに、基礎的なアセスメント方法の一部を実施できる。 ・心理的アセスメントの結果の記録や報告ができる。 ・自分自身の性格や行動の特徴などを多角的に分析し、説明できる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☐ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：心理的アセスメントの目的、意義、倫理 事後学習：授業で学んだアセスメントの意義等のポイントをまとめる（4時間） 第2回：観察法・面接法の理解① 事後学習：授業で学んだ観察法・面接法のポイントをまとめる（4時間） 第3回：観察法・面接法の理解②（行動観察して記録する実習が含まれる） 事後学習：授業中の作業の続きを行う（4時間） 第4回：観察法・面接法の理解③（行動観察して記録する実習が含まれる） 事後学習：授業で体験した観察実習の結果をレポートにまとめる（4時間） 第5回：心理検査法の理解 事後学習：授業で学んだ心理検査法のポイントをまとめる（4時間） 第6回：知能検査・発達検査の理解① 事後学習：授業で学んだ知能検査・発達検査のポイントをまとめる（4時間） 第7回：知能検査・発達検査の理解②（心理検査を体験して分析する実習が含まれる） 事後学習：授業で体験した心理検査の分析作業の続きを行う（4時間） 第8回：知能検査・発達検査の理解③（心理検査を体験して分析する実習が含まれる） 事後学習：授業で体験した心理検査の結果をレポートにまとめる（4時間） 第9回：質問紙検査の理解① 事後学習：授業で学んだ質問紙検査のポイントをまとめる（4時間） 第10回：質問紙検査の理解②（心理検査を体験して分析する実習が含まれる） 事後学習：授業で体験した心理検査の分析作業の続きを行う（4時間） 第11回：質問紙検査の理解③（心理検査を体験して分析する実習が含まれる） 事後学習：授業で体験した心理検査の結果をレポートにまとめる（4時間） 第12回：投映法その他の心理検査の理解① 事後学習：授業で学んだ投映法その他の心理検査のポイントをまとめる（4時間） 第13回：投映法その他の心理検査の理解②（心理検査を体験して分析する実習が含まれる） 事後学習：授業で体験した心理検査の分析作業の続きを行う（4時間） 第14回：投映法その他の心理検査の理解③（心理検査を体験して分析する実習が含まれる） 事後学習：授業で体験した心理検査の結果をレポートにまとめる（4時間） 第15回：テストバッテリーと総合的理解 事後学習：授業で学んだテストバッテリーのポイントをまとめる（4時間）

第16回：期末試験 ※各回（最終回を除く）とも授業の最初に、前回の授業後の事後学習の内容についての振り返りを行う。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
授業後に課す課題をレポート（60％）として提出してもらうとともに、学期末に筆記試験（40％）を行い、両者により評価する。実習を伴うため、出席状況や受講態度が悪い場合は、厳しく減点する。
(7) 成績評価基準
・さまざまな心理検査の種類を理解し、それぞれの検査の効用と限界について説明できるか。 ・課題として取り上げた心理検査について、実施手順や分析手順を理解し、一通り実施できるか。 ・自分自身の性格等について多角的に分析し、他者に説明できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
・経歴 (公認心理師、臨床心理士) ・実務経験と授業内容との関連性 (公認心理師の教員が、心理的アセスメントの基礎について、その目的や意義、倫理などを解説する。)
(10) テキスト、参考図書
<テキスト>とくに指定しない。 <参考図書>津川律子・遠藤裕乃編「心理的アセスメント(公認心理師の基礎と実践14)」(遠見書房、2019年発行)。 そのほか、適宜、授業内で紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
・実習を含むので、出席と熱心な受講態度を期待する。 ・自分自身の性格等の自己開示が必要な場合がある。 ・心理検査の学習者・実施者の倫理(授業時に説明)を守り、検査の知識を安易に使用しないこと。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

心理調査法 (Psychological Questionnaire Methods)			担当教員	山本 雅代	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-F-2211	2 単位	2 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の研究手法と基礎的な知識・技能・技術					

(1) 授 業 の 内 容
心理学の研究手法である質問紙調査法について理解し、実際の質問紙調査を通じて、調査票の作成から統計解析ソフトでの分析方法、レポートの書き方までを修得する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
①質問紙調査法の基礎的知識を習得する ②コンピュータを利用して基本的な統計解析を行うことができる。 ③解析結果を基に、レポート(目的・方法・結果・考察)を作成できる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(実際に調査を実施する)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション序章(質問紙法とは) 事前学習：シラバスを読み、心理調査法の授業について理解し、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業の内容を見直し、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること(2時間)
第2回：質問紙作成の基礎1 事前学習：事前にe-ラーニング上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：仁愛大学e-ラーニングによる復習課題を課す(2時間)
第3回：質問紙作成の基礎2 事前学習：事前にe-ラーニング上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：仁愛大学e-ラーニングによる復習課題を課す(2時間)
第4回：質問紙法の実施方法 事前学習：事前にe-ラーニング上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：仁愛大学e-ラーニングによる復習課題を課す(2時間)
第5回：コーディングと入力 事前学習：事前にe-ラーニング上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：仁愛大学e-ラーニングによる復習課題を課す(2時間)
第6回：心理尺度の作成(信頼性・妥当性) 事前学習：事前学習：事前にe-ラーニング上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：仁愛大学e-ラーニングによる復習課題を課す(2時間)
第7回：量的資料収集のための質問紙の作成 事前学習：事前学習：事前にe-ラーニング上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：仁愛大学e-ラーニングによる復習課題を課す(2時間)
第8回：質的資料収集のための質問紙の作成 事前学習：事前学習：事前にe-ラーニング上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：仁愛大学e-ラーニングによる復習課題を課す(2時間)

第9回：心理尺度の作成（質問紙調査の実施） 事前学習：事前学習：事前にe-ラーニング上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：仁愛大学e-ラーニングによる復習課題を課す（2時間） 第10回：データの処理法：質的データの集計 事前学習：事前学習：事前にe-ラーニング上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：仁愛大学e-ラーニングによる復習課題を課す（2時間） 第11回：データの処理法：平均値の比較1 事前学習：事前学習：事前にe-ラーニング上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：仁愛大学e-ラーニングによる復習課題を課す（2時間） 第12回：データの処理法：平均値の比較2 事前学習：事前学習：事前にe-ラーニング上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：仁愛大学e-ラーニングによる復習課題を課す（2時間） 第13回：データの処理法：相関分析1 事前学習：事前学習：事前にe-ラーニング上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：仁愛大学e-ラーニングによる復習課題を課す（2時間） 第14回：データの処理法：相関分析2 事前学習：事前学習：事前にe-ラーニング上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：仁愛大学e-ラーニングによる復習課題を課す（2時間） 第15回：レポートの書き方 事前学習：事前学習：事前にe-ラーニング上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：仁愛大学e-ラーニングによる復習課題を課す（2時間） 本講義では実際に質問紙調査を行い、収集したデータを基に統計的分析やレポート（目的・方法・結果・考察）の書き方について学び、最終的にレポートの提出を求める。	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
成績は授業で課された課題の内容（50%）と、まとめの課題レポートの内容（50%）により、総合的に評価をします	
(7) 成績評価基準	
①質問紙調査法の基礎的知識を充分習得している。 ②コンピュータを利用して基本的な統計解析を行うことができ、その解析方法が適切である。 ③解析結果を基にレポート（目的・方法・結果・考察）を作成することができ、その内容が適切である。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他（授業内容に応じて提出を求める課題に対するフィードバックについて） ☐ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他	
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）	

(10) テキスト、参考図書
テキストは特に設けない 参考図書：米川和雄・山崎貞政（著）超初心者向けSPSS統計解析マニュアル 北大路書房 2010年 参考図書：鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤（編著）心理学マニュアル・質問紙法 北大路書房 2006年 参考図書：小塩真司・西口利文（編）「質問紙調査の手順」ナカニシヤ出版 2014年
(11) その他(受講上の注意)
授業時間以外にも、統計解析やレポート作成等の学習が必要になります。 各自、自律的・積極的に学習することが求められます。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

臨床心理学概論Ⅰ (Introduction to Clinical PsychologyⅠ)			担当教員	稲木 康一郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
PS-G-2221	2 単位	2 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の各領域における基礎的かつ一般的な知識					

(1) 授 業 の 内 容
臨床心理学の概説。 臨床心理学のなりたちと、臨床心理学の代表的な理論について学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
臨床心理学のなりたちと代表的な理論について理解し、その概要を説明することができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(eラーニング、リアクションペーパー)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション(リアクションペーパー) 事前学習：シラバスを熟読すること。(2時間) 事後学習：テキストを購入して、「巻頭言」「はじめに」を読むこと。(2時間) 第2回：臨床心理学の歴史(日本) 事前学習：テキスト第1章を読むこと。(2時間) 事後学習：eラーニングを閲覧すること。(2時間) 第3回：臨床心理学の歴史(世界) 事前学習：テキスト第2章を読むこと。(2時間) 事後学習：eラーニングを閲覧すること。(2時間) 第4回：臨床心理学の定義 事前学習：テキスト第3章を読むこと。(2時間) 事後学習：What is Clinical Psychology?(テキストP.33)を翻訳すること。また、復習テストの準備をすること。(2時間) 第5回：臨床心理学の理論①(精神分析1)(復習テスト①) 事前学習：テキスト第4章を読むこと。(2時間) 事後学習：eラーニングを閲覧すること。(2時間) 第6回：臨床心理学の理論②(精神分析2)(復習テスト①のフィードバック) 事前学習：テキスト第4章を読むこと。(2時間) 事後学習：eラーニングを閲覧すること。(2時間) 第7回：臨床心理学の理論③(分析心理学1) 事前学習：テキスト第5章を読むこと。(2時間) 事後学習：eラーニングを閲覧すること。(2時間) 第8回：臨床心理学の理論④(分析心理学2) 事前学習：テキスト第5章を読むこと。(2時間) 事後学習：eラーニングを閲覧すること。(2時間) 第9回：臨床心理学の理論⑤(行動論・認知論1) 事前学習：テキスト第6章を読むこと。(2時間) 事後学習：eラーニングを閲覧すること。(2時間) 第10回：臨床心理学の理論⑥(行動論・認知論2) 事前学習：テキスト第6章を読むこと。また、復習テストの準備をすること。(2時間) 事後学習：eラーニングを閲覧すること。(2時間) 第11回：臨床心理学の理論⑦(人間性心理学1)(復習テスト②) 事前学習：テキスト第7章を読むこと。(2時間) 事後学習：eラーニングを閲覧すること。(2時間)

第12回：臨床心理学の理論⑧（人間性心理学２）（復習テスト②のフィードバック） 事前学習：テキスト第7章を読むこと。（2時間） 事後学習：eラーニングを閲覧すること。（2時間） 第13回：臨床心理学の理論⑨（コミュニティ・アプローチ） 事前学習：テキスト第12章を読むこと。（2時間） 事後学習：eラーニングを閲覧すること。（2時間） 第14回：臨床心理学の理論⑩（統合的アプローチ） 事前学習：テキスト第10章を読むこと。（2時間） 事後学習：eラーニングを閲覧すること。（2時間） 第15回：「臨床心理学」の各領域に関するまとめと定期試験対策 事前学習：eラーニングを活用して、職能団体のHPを閲覧すること。（2時間） 事後学習：eラーニングを活用して、職能団体のHPを閲覧すること。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（60%）、復習テスト（20%）、平常点（20%） 定期試験は指定持込用紙の持込を可とします。 復習テスト（授業時の課題に相当します）の内容は授業中に指示します。 平常点は受講態度（eラーニングの閲覧状況を含む）やリアクション・ペーパーの提出状況などで総合的に判断します。
(7) 成績評価基準
臨床心理学のなりたちと代表的な理論に関して、重要な用語や概念を理解し説明することができる。
(8) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
・経歴 （公認心理師、臨床心理士） ・実務経験と授業内容との関連性 （公認心理師の教員が、心理臨床現場において基礎となる臨床心理学のなりたちと代表的な理論について講義する。）
(10) テキスト、参考図書
「臨床心理学概論 第2版」 野島一彦・岡村達也（編） 遠見書房 2,400円＋税 ISBN：978-4-86616-167-9
(11) その他（受講上の注意）
eラーニングを活用します。 eラーニングに投稿があったとき、携帯電話に情報が転送されるように設定してください。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

臨床心理学概論Ⅱ (Introduction to Clinical PsychologyⅡ)			担当教員	稲木 康一郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
PS-G-2222	2 単位	2 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の各領域における基礎的かつ一般的な知識					

(1) 授 業 の 内 容
各領域における心理療法(心理学的支援法)の心理学的臨床実践事例を学習する。 また、臨床実践における留意点を理解する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
代表的な心理療法の歴史、概念、意義、適応を概説できる。 地域支援の意義、良好な人間関係の築き方、プライバシーへの配慮、要支援者の関係者に対する支援、心の健康教育について概説できる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(eラーニング、リアクションペーパー)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション・復習テスト①(リアクションペーパー) 事前学習：「臨床心理学Ⅰ(「臨床心理学概論Ⅰ)」」の内容を復習すること。(2時間) 事後学習：同上。(2時間) 第2回：精神分析療法(代表的な心理療法の歴史、概念、意義、適応および限界)(eラーニング・復習テスト①のフィードバック) 事前学習：eラーニングを閲覧すること。(2時間) 事後学習：講義に取り上げたキーワードについて、要点をまとめること。(2時間) 第3回：行動療法(代表的な心理療法の歴史、概念、意義、適応および限界) 事前学習：eラーニングを閲覧すること。(2時間) 事後学習：講義に取り上げたキーワードについて、要点をまとめること。(2時間) 第4回：来談者中心療法(代表的な心理療法の歴史、概念、意義、適応および限界) 事前学習：eラーニングを閲覧すること。(2時間) 事後学習：講義に取り上げたキーワードについて、要点をまとめること。(2時間) 第5回：受理面接：ラポール・主訴・経過の聴き方(良好な人間関係を築くコミュニケーション) 援助構造・面接記録・守秘義務(プライバシーへの配慮) 事前学習：eラーニングを閲覧すること。(2時間) 事後学習：復習テスト②の準備をすること(2時間) 第6回：医療①：抑うつに対する認知行動療法・復習テスト② 事前学習：復習テスト②の準備をすること。(2時間) 事後学習：講義に取り上げたキーワードについて、要点をまとめること。(2時間) 第7回：医療②：抑うつに対する認知行動療法(プライバシーへの配慮と多職種連携)(復習テスト②のフィードバック) 事前学習：eラーニングを閲覧すること。(2時間) 事後学習：講義に取り上げたキーワードについて、要点をまとめること。(2時間) 第8回：産業①：バーンアウトに対する評価と介入 事前学習：eラーニングを閲覧すること。(2時間) 事後学習：講義に取り上げたキーワードについて、要点をまとめること。(2時間) 第9回：産業②：バーンアウトに対する評価と介入(論理情動行動療法にもとづく心の健康教育) 事前学習：日常生活において、バーンアウトの事例を探すこと。(2時間) 事後学習：日常生活において、不合理な信念の事例を探すこと。(2時間) 第10回：教育①：スクールカウンセリングの実際(良好な人間関係を築くコミュニケーション)・復習テスト③ 事前学習：復習テスト③の準備をすること。(2時間) 事後学習：講義に取り上げたキーワードについて、要点をまとめること。(2時間)

第11回：教育②：スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー（要支援者の関係者への支援） 事前学習：eラーニングを閲覧すること。（2時間） 事後学習：講義に取り上げたキーワードについて、要点をまとめること。（2時間） 第12回：教育③：学生相談における心理アセスメント（心理アセスメント適用と倫理） 事前学習：eラーニングを閲覧すること。（2時間） 事後学習：講義に取り上げたキーワードについて、要点をまとめること。（2時間） 第13回：福祉①：ぜんそく予防の応用行動分析（地域支援の意義） 事前学習：eラーニングを閲覧すること。（2時間） 事後学習：定期試験の準備を始めること。（2時間） 第14回：福祉②：災害支援のスクールカウンセリング（心の健康教育） 事前学習：定期試験の準備をすること。（2時間） 事後学習：定期試験の準備をすること。（2時間） 第15回：「臨床心理学」の各領域の心理学的臨床実践に関するまとめと定期試験対策 事前学習：定期試験の準備をすること。（2時間） 事後学習：定期試験の準備をすること。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 定期試験（60%）、復習テスト（30%）、平常点（10%） 定期試験は「指定持込用紙」の持込を可とします。 第1回：目の冒頭に、「臨床心理学概論Ⅰ」の内容について復習テストを行います。 復習テスト（授業時の課題に相当します）の内容は授業中に指示します。 平常点は受講態度（eラーニングの閲覧状況を含む）、リアクションペーパーの提出状況などで総合的に評価します。
(7) 成績評価基準 講義で取り上げた心理支援について説明できる。 地域支援の意義、良好な人間関係の築き方、要支援者の関係者に対する支援、心の健康教育について理解できる。 また、プライバシーへの配慮と関係者との情報共有のかねあいについて意見を持つ。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性) ・経歴 （公認心理師、臨床心理士） ・実務経験と授業内容との関連性 （公認心理師の教員が、心理臨床現場において基礎となる臨床心理学のなりたちと代表的な理論について講義する。）
(10) テキスト、参考図書 スライド資料や参考資料をeラーニングに掲載します。
(11) その他(受講上の注意) eラーニングを活用します。 eラーニングに投稿があったとき、携帯電話に情報が転送されるように設定してください。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・医療心理学 (Health and Medical Psychology)			担当教員	渡辺 克徳	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
PS-G-2223	2 単位	2 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の各領域における基礎的かつ一般的な知識					

(1) 授 業 の 内 容
公認心理師をはじめ心理職が保健医療領域で行う業務について理解し必要な知識を習得する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
健康・医療心理学の基本を説明することができる。 保健医療領域における心理職の専門性とその業務について説明することができる。 チーム医療の一員として心理職に期待されている事柄について説明することができる。 公認心理師が身につけておくべき事柄について説明することができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：健康心理学 事前学習：授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第2回：健康心理学におけるアセスメントと支援 事前学習：授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第3回：ストレスマネジメント 事前学習：授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第4回：各種の心理支援法 事前学習：授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 小レポート課題（健康心理学のまとめ） 第5回：医療心理学 事前学習：授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第6回：医療心理学におけるアセスメントと支援 事前学習：授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第7回：精神科、児童精神科 事前学習：授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第8回：院内型独立型心理室 事前学習：授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）

第9回：心療内科 事前学習：授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第10回：小児科 事前学習：授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第11回：緩和医療 事前学習：授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第12回：産業保健 事前学習：授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第13回：地域保健活動の実際 事前学習：授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第14回：災害心理学 事前学習：授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第15回：多職種協働と医療連携 事前学習：授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 小レポート+最終試験（85％）平常点（15％） （平常点は、授業への参加状況・理解度チェックQ and Aで評価します。）
(7) 成績評価基準 公認心理師が身につけておくべき健康心理学と医療心理学について説明することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（Moodleの機能を用いていつでも疑問・質問に対応） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性) ・経歴 （公認心理師，臨床心理士） ・実務経験と授業内容との関連性 （公認心理師の教員が、心理職が保健医療領域で行う業務と専門性について講義する。）

(10) テキスト、参考図書
宮脇稔・大野 太郎・藤本 豊・松野 俊夫『健康・医療心理学』医歯薬出版株式会社，2025 第2版 ISBN978-4-263-26686-1
(11) その他(受講上の注意)
講義は公認心理師養成カリキュラムに対応しています。日本心理学会が公開している大学カリキュラム・標準シラバス等も参考に学習してください。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

発達心理学 I (Developmental Psychology I)			担当教員	今井田 貴裕	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-G-2227	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の各領域における基礎的かつ一般的な知識					

(1) 授 業 の 内 容
1 本講義では、人生の身体的変化および心理的变化について学ぶ。 2 生涯発達に関する主要理論について学ぶ。 3 発達心理学を科学的に研究する方法について学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ 人間の生涯を通して展開される発達について理解する視点を獲得する。 ・ 各発達段階の特徴と心理的問題を説明することができる。 ・ 多様な生き方を理解し、互いに認め合う態度を養成する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☒ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：生涯発達心理の概要について 事前学習：シラバスを読み、発達心理学の授業について理解し、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間） 第2回：心の発達の捉え方 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間） 第3回：乳児期 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間） 第4回：幼児期 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間） 第5回：児童期 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間） 第6回：乳児期から児童期までに生じやすい臨床的問題 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間） 第7回：発達障害 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間）

第8回：青年期Ⅰ（第二性徴・対人関係） 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間） 第9回：青年期Ⅱ（アイデンティティ・臨床的問題） 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間） 第10回：成人期 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間） 第11回：中年期 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間） 第12回：老年期 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間） 第13回：生涯発達に関わる諸問題 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間） 第14回：幸福な人生 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間） 第16回：定期試験 授業の進み方は、内容により前後することがあります。必ず授業に出席し、授業内容と配布するプリントに基づき、復習として各自のノートに授業内容をまとめておくこと。	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
成績評価は、授業内の課題（30%）や、期末試験（70%）により総合的に評価をする。	
(7) 成績評価基準	
・人間の生涯を通して展開される発達について、生涯発達の視点から理解しているか。 ・誕生から高齢期における各発達の特徴を説明することができるか。 ・これまでの自分自身や他者の生き方をみつめ直し、生涯発達心理学の視点から考察できるか。	

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 授業ごとに資料を配付する。 テキストは特に設けない。参考文献については授業内で適宜紹介する。
(11) その他(受講上の注意) ・ 毎回の講義の資料はE-learning上に掲載しておくので、ダウンロードやプリントアウトをして、資料を見ながら授業に参加できるよう準備をすること。 ・ 毎回の講義でE-Learning上に掲載した小テストを課す。この小テストの受験と成績を出席の参考とする。必ずE-Learningにアクセスできるノートパソコン・タブレット・スマホを準備して講義に臨むこと。 ・ 講義では、自分の意見をまとめ表現できるよう心がけてほしい。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

発達心理学Ⅱ (Developmental PsychologyⅡ)			担当教員	今井田 貴裕	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
PS-G-2228	2 単位	2 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の各領域における基礎的かつ一般的な知識					

(1) 授 業 の 内 容
1 本講義では、人生の身体的変化および心理的变化について、発達臨床心理学的視点から学ぶ。 2 身体的な加齢と、心理的变化との関係について学ぶ。 3 社会的変化が個人の発達にどのように影響するのかについて学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
①生涯を通して展開される発達について理解し解説できる ②発達心理学に関連した心理的問題を説明することができる。 ③多様な生き方について知識を習得し、心理的支援の方法について考えることができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：オリエンテーション 事前学習：発達心理学に関わる諸問題について、あらかじめ疑問点などをまとめて授業に臨むこと(2時間) 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと(2時間) 第2回：乳幼児期の問題(発達・愛着) 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み理解し、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと(2時間) 第3回：児童期・青年期の問題 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み理解し、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと(2時間) 第4回：成人期・中高齢期の問題 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み理解し、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと(2時間) 第5回：愛着理論Ⅰ(内的作業モデル) 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み理解し、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと(2時間) 第6回：愛着理論Ⅱ(愛着タイプ) 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み理解し、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと(2時間) 第7回：前半のまとめ 事前学習：第1回：目から7回目までに提示された重要ポイントについて勉強をしておくこと(2時間) 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと(2時間)

第8回：愛着障害	事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み理解し、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：中間試験問題を持ち帰り、自己採点をして間違った解答について復習をすること（2時間）
第9回：発達性トラウマ障害	事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み理解し、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間）
第10回：発達障害に対する支援	事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み理解し、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間）
第11回：虐待	事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み理解し、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間）
第12回：親に対する心理支援	事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み理解し、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間）
第13回：発達トラウマに対する心理支援	事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み理解し、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間）
第14回：その他の発達心理学的問題やその支援	事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み理解し、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間）
第15回：まとめ	事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み理解し、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間）
第16回：定期試験	授業の進み方は、授業内容により前後することがあります。必ず授業に出席し、授業内容と配布するプリントに基づき、復習として各自のノートに授業内容をまとめておくこと。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
成績評価は、授業内の課題（30%）や、期末試験（70%）により総合的に評価をする。	
(7) 成績評価基準	
・人間の生涯を通して展開される発達の問題について、発達臨床視点から理解しているか。 ・発達心理学における心理的問題を説明することができるか。 ・これまでの自分自身や他者の生き方をみつめ直し、発達臨床心理学の視点から考察できるか。	

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
授業ごとに資料を配付する。 テキストは特に設けない。参考文献については授業内で適宜紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
・ 毎回の講義の資料はE-learning上に掲載しておくので、ダウンロードやプリントアウトをして、資料を見ながら授業に参加できるよう準備をすること。 ・ 毎回の講義でE-Learning上に掲載した小テストを課す。この小テストの受験と成績を出席の参考とする。必ずE-Learningにアクセスできるノートパソコン・タブレット・スマホを準備して講義に臨むこと。 ・ 講義では、自分の意見をまとめ表現できるよう心がけてほしい。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

知覚・認知心理学 (Psychology of Perception and Cognition)			担当教員	杉島 一郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-G-2230	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の各領域における基礎的かつ一般的な知識					

(1) 授 業 の 内 容	
知覚および記憶・言語・思考などの人間の認知に関するトピックについて学ぶ。認知心理学とは、環境との対応と環境に対する働きかけ、あるいは他者とのコミュニケーションといった、我々が生活していく上でその根幹となる機能について考えていく領域である。現象としてではなく、認知に関する理論や研究法について考察し、日常生活や社会における問題解決能力を身につけることを目指す。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
・ 知覚・認知に関する理論について理解できる。 ・ 知覚・認知に関する研究法について考察することができる。 ・ 他者とのコミュニケーションを円滑にする方法を考えることができる。 ・ 知覚・認知に関する知識をもとに、日常生活や社会における問題を考えることができる。 ・ 発達障害における知覚・認知の問題について理解できる。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法	
第1回：認知心理学とは 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。(4時間) 第2回：知覚〔1〕 事前学習：錯視の例を調べておくこと。(2時間) 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。(2時間) 第3回：知覚〔2〕 事前学習：奥行知覚について調べておくこと。(2時間) 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。(2時間) 第4回：知覚〔3〕 事前学習：聴覚について調べておくこと。(2時間) 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。(2時間) 第5回：注意 事前学習：カクテルパーティー効果について調べておくこと。(2時間) 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。(2時間) 第6回：注意と発達障害 事前学習：発達障害について調べておくこと。(2時間) 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。(2時間) 第7回：記憶〔1〕 記憶の基本過程 事前学習：記憶の2過程説について調べておくこと。(2時間) 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。(2時間) 第8回：記憶〔2〕 短期記憶とワーキングメモリー 事前学習：「不思議な数字7±2」について調べておくこと。(2時間) 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。(2時間)	

第9回：記憶〔3〕長期記憶（意味記憶、エピソード記憶、手続記憶） 事前学習：タルビングの記憶区分について調べておくこと。（2時間） 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（2時間） 第10回：知識と記憶 事前学習：処理水準説について調べておくこと。（2時間） 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（2時間） 第11回：スキーマとメタ記憶 事前学習：スキーマとメタ記憶について調べておくこと。（2時間） 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（2時間） 第12回：言語の理解 事前学習：言語理解について調べておくこと。（2時間） 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（2時間） 第13回：記憶・言語と発達障害 事前学習：言語発達の遅れを示す障害について調べておくこと。（2時間） 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（2時間） 第14回：概念と推理 事前学習：概念獲得の研究を調べておくこと。（2時間） 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（2時間） 第15回：思考と問題解決 事前学習：問題解決について調べておくこと。（2時間） 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（2時間） 第16回：期末試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 毎回提出する課題・小レポート（30%）、期末試験（70%）
(7) 成績評価基準 ・知覚・認知に関する理論について説明することができるか。 ・知覚・認知に関する研究法について考察することができるか。 ・他者とのコミュニケーションを円滑にする方法を考えることができるか。 ・知覚・認知に関する知識をもとに、日常生活や社会における問題を考えることができるか。 ・発達障害における知覚・認知の問題について理解することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 テキストは使用しない。eラーニングに授業で用いるスライドや参考資料のPDFを掲載する。

(11) その他(受講上の注意)

授業には積極的に参加し、指示された課題・小レポートを提出ください。課題・小レポートの提出をもって出席とします。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

神経・生理心理学 (Neuro and Physiological Psychology)			担当教員	水田 敏郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
PS-G-2231	2 単位	2 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の各領域における基礎的かつ一般的な知識					

(1) 授 業 の 内 容
人を含めた動物全般の心的活動には脳が大きくかかわっています。この授業では、様々な心理機能の基盤となる脳を中心とした生理学的メカニズムを理解するために、前半では脳や身体の基本構造と働きについて、後半では心的活動と関連の深い生理的活動について、そのアプローチ法とともに解説します。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
脳の基本構造と働きについて理解する。生理心理学的アプローチの基本について理解する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション（授業の進め方と概要） 事前学習：「心理学概論」で学んだ生理学的心理学の内容について復習する。（2時間） 事後学習：次回分のプリントについて熟読し、質問をまとめておく。（2時間） 第2回：脳の構造① 事前学習：第2回分のプリント（神経の分類）について穴あき部分を埋めておく。（2時間） 事後学習：第2回で解説したの重点内容について、内容と質問をそれぞれまとめておく（2時間） 第3回：脳の構造② 事前学習：第3回分のプリント（中枢神経系の構造）について穴あき部分を埋めておく。（2時間） 事後学習：第3回で解説したの重点内容について、内容と質問をそれぞれまとめておく（2時間） 第4回：脳の信号①：神経細胞のはたらき 事前学習：第4回分のプリント（神経細胞の機能）について穴あき部分を埋めておく。（2時間） 事後学習：第4回で解説したの重点内容について、内容と質問をそれぞれまとめておく（2時間） 第5回：脳の信号②：神経系のはたらき 事前学習：第5回分のプリント（神経細胞の機能と発達）について穴あき部分を埋めておく。（2時間） 事後学習：第4回で解説したの重点内容について、内容と質問をそれぞれまとめておく（2時間） 第6回：知覚のメカニズム（グループワーク） 事前学習：第6回分のプリント（知覚の生理学的基盤と障害）について穴あき部分を埋めておく。（2時間） 事後学習：第6回で解説したの重点内容について、内容と質問をそれぞれまとめておく（2時間） 第7回：記憶の脳内メカニズム（グループワーク） 事前学習：第7回分のプリント（記憶の生理学的基盤と障害）について穴あき部分を埋めておく。（2時間） 事後学習：第7回で解説したの重点内容について、内容と質問をそれぞれまとめておく（2時間） 第8回：学習の脳内メカニズム① 事前学習：第8回分のプリント（学習の種類とその生理学的基盤）について穴あき部分を埋めておく。（2時間） 事後学習：第8回で解説したの重点内容について、内容と質問をそれぞれまとめておく（2時間） 第9回：学習の脳内メカニズム② 事前学習：第9回分のプリント（学習の生理学的基盤とその障害）について穴あき部分を埋めておく。（2時間） 事後学習：第9回で解説したの重点内容について、内容と質問をそれぞれまとめておく（2時間） 第10回：情動がおこる仕組み① 事前学習：第10回分のプリント（情動の生理学的基盤）について穴あき部分を埋めておく。（2時間） 事後学習：第10回で解説したの重点内容について、内容と質問をそれぞれまとめておく（2時間）

第11回：情動がおこる仕組み② 事前学習：第11回分のプリント（情動の生理学的基盤とその障害）について穴あき部分を埋めておく。（2時間） 事後学習：第11回で解説したの重点内容について、内容と質問をそれぞれまとめておく（2時間） 第12回：睡眠・覚醒の神経メカニズム 事前学習：第12回分のプリント（睡眠・覚醒の神経メカニズムとその障害）について穴あき部分を埋めておく。（2時間） 事後学習：第12回で解説したの重点内容について、内容と質問をそれぞれまとめておく（2時間） 第13回：生理心理学の応用①（グループワーク） 事前学習：第13回分のプリント（意識・注意の生理心理学的メカニズムとその障害）について穴あき部分を埋めておく。（2時間） 事後学習：第13回で解説したの重点内容について、内容と質問をそれぞれまとめておく（2時間） 第14回：生理心理学の応用② 事前学習：第14回分のプリント（臨床心理学との接点）について穴あき部分を埋めておく。（2時間） 事後学習：第14回で解説したの重点内容について、内容と質問をそれぞれまとめておく（2時間） 第15回：生理心理学に関するまとめ 事前学習：各回分のプリント全体の整理と質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：第15回で解説したの内容について、整理しておく（2時間） 第16回：定期試験 各回の講義を受講した後、当該部分の配布資料をよく読んで復習してください。また、予習にあたっても次の授業の内容部分をよく見て、疑問点などをもって授業に臨んでください。事後学習で整理された質問については、次の授業回でグループワークをして整理し、授業の初めに議論したいと思います。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 定期試験（70％） 平常点（30％） （平常点は、授業への参加状況、質問用紙の提出状況などを総合して判断します。）
(7) 成績評価基準 脳の基本構造と働きについて説明することができるか。生理心理学的アプローチの基本について説明することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 テキストは使用しない。資料の取得方法については、その都度指示します。 参考図書：「生理心理学と精神生理学」Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ巻 堀忠雄・尾崎久記監修 北大路書房（2017） 「生理心理学」 岡田隆 廣中直行・宮本孝史 サイエンス社（2005）
(11) その他(受講上の注意) 身体と心の関係に対する基礎的な理解ができます。実験的な心理学研究に関心のある方には受講をすすめます。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

社会・集団・家族心理学Ⅰ (Social, Group and Family PsychologyⅠ)			担当教員	山本 雅代	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
PS-G-2235	2 単位	2 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の各領域における基礎的かつ一般的な知識					

(1) 授 業 の 内 容
人間の社会的行動について心理学の立場から解説する。 社会・集団・家族心理学Ⅰでは、社会の中の個人に注目し、自己意識、自己概念がどのように形成され、また個人が他者をどのように認知、理解し、自己の行動を表出させるのか、といった問題について解説する。 授業ではできるだけ実社会で起こっている現象をとりあげ社会心理的視点から理解していくことをめざす。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
(1) 社会心理学における基本的な概念について理解する。 (2) 集団の中の個人の行動を理解する。 (3) 現実社会での個人の行動を理解し、研究と結び付けて考えることができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(ICT(Google フォーム・Moodle等で課題、資料提示、インタラクティブに意見を収集))
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：社会心理学について(ICT・課題提出) 事前学習：授業前に社会心理学についての本を読んでおくこと(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと(2時間) 第2回：自己について(1)(ICT・レポート) 事前学習：授業前に「自己・自己概念」についての本を読んでおくこと(2時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと(2時間) 第3回：自己について(2)(ICT・課題提出) 事前学習：授業前に「自己・客体的自覚・没個性化」についての本を読んでおくこと(2時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと(2時間) 第4回：社会的比較(ICT・課題提出) 事前学習：授業前に「社会的比較」についての本を読んでおくこと(2時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと(2時間) 第5回：自己呈示について(ICT・課題提出) 確認テストの実施(確認テスト1) 事前学習：授業前に「自己呈示」についての本を読んでおくこと(2時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと(2時間) 第6回：動機づけについて(ICT・課題提出) 事前学習：授業前に「動機づけ」についての本を読んでおくこと(2時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと(2時間) 第7回：社会的動機(1)(ICT・課題提出) 事前学習：授業前に「社会的動機」の種類についてまとめること(2時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと(2時間) 第8回：社会的動機(2)(ICT・課題提出) 事前学習：授業前に「社会的動機」についての本を読んでおくこと(2時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと(2時間) 第9回：欲求不満・情動(ICT・課題提出) 事前学習：授業前に「欲求不満・情動」についての本を読んでおくこと(2時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと(2時間) 第10回：対人認知(ICT・課題提出) 事前学習：授業前に「対人認知」についての本を読んでおくこと(2時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと(2時間)

第11回：対人魅力（1）（ICT・討議・課題提出） 確認テストの実施（確認テスト2） 事前学習：授業前に「対人魅力」についての本を読んでおくこと（2時間） 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと（2時間） 第12回：対人魅力（2）（ICT・課題提出） 事前学習：授業前に「対人魅力」についての本を読んでおくこと（2時間） 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと（2時間） 第13回：対人魅力（3）（ICT・課題提出） 事前学習：授業前に「対人魅力」関連についての本を読んでおくこと（2時間） 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと（2時間） 第14回：対人魅力（4）（ICT・課題提出） 事前学習：授業前に「対人魅力」関連についての本を読んでおくこと（2時間） 事後学習：各講義における手書きノートを作るなどすることが望ましい（2時間） 第15回：まとめと確認テスト（ICT） 確認テストの実施（確認テスト3） 事前学習：各講義における手書きノートを作るなどすること（2時間） 事後学習：分からなかったポイントについてまとめておく（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
課題・確認テスト、課題レポート、授業への参加態度等を総合的に判断し評価する。 【確認テスト50%（確認テスト1から3） 課題・レポート・授業への参加態度50%】
(7) 成績評価基準
社会心理学の基本的概念について説明できるか。 集団の中の個人の行動を理解できているか。 現実社会での個人の行動を理解し、研究と結び付けて考えることができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
適宜掲示・配布する。また、参考文献、関連文献を講義内で紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
最初にTeamsに登録すること。 毎回課題の提出を求める。提出には、ムードルやGoogleフォームなどを使用する（各講義において指定）かならず提出すること。 回収後の結果について講義内にて提示し、内容について考察することがある。講義内容と自らの行動について結び付け理解を深めること。 提出課題に遅延した場合、提出物は受け取るが、減点の対象となる。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

社会・集団・家族心理学Ⅱ (Social, Group and Family Psychology Ⅱ)			担当教員	山本 雅代	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-G-2236	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の各領域における基礎的かつ一般的な知識					

(1) 授 業 の 内 容
人間の社会的行動について心理学の立場から解説する。 社会・集団・家族心理学Ⅱでは、社会の中の個人、集団の中の個人に注目して授業を行う。 現実社会で起こる様々な人間行動について過去の実験や研究を紹介しながら解説していく。 主なテーマは、社会的動機、集団や群衆行動、リーダーシップ、援助行動、攻撃行動、同調と服従などである。 また特別講義として、模擬社会ゲームに参加してもらうこととする。模擬社会ゲームは社会でおこる様々な現象や構造を理解するゲームであり、これに参加することにより大学生活ではあまり遭遇しない社会、集団の概念を理解し、心理的葛藤、集団間葛藤等を体験し、問題解決能力を向上させることができる。このような社会生活に近い体験学習を通じ人間の行動に対する理解をより深め、社会や社会の中の一部である自己を探求し、自己成長することを目指す。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
1) 社会心理学における基本的な概念について理解する。 2) 集団葛藤やコミュニケーションスキルについて理解する。 3) 日常生活における対人間、集団間の心理学的法則について理解する。
(3) アクティブラーニング
☐課題解決型学習(PBL) ☒討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐実習、フィールドワーク ☐実験、実技 ☒その他(シミュレーションゲーム、ICT(Googleフォーム・Moodleを使用し、課題を呈示、インタラクティブに意見を収集))
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：状況の力とは(ICT・課題提出) 事前学習：授業前に「環境や状況と心理学」について関連する本を読んでおくこと(2時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと(2時間) 第2回：個人と集団(ICT・レポート) 事前学習：授業前に「集団とは何か」関連する本を読んでおくこと(2時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと(2時間) 第3回：集団の凝集性(ICT・課題提出) 事前学習：授業前に「凝集性」についての本を読んでおくこと(2時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと(2時間) 第4回：集団討議・集団意思決定(ICT・討議) 事前学習：授業前に「意思決定」についての本を読んでおくこと(2時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと(2時間) 第5回：リーダーシップ(ICT・討議・レポート) 確認テストの実施(確認テスト1) 事前学習：授業前に「リーダーシップ」についての本を読んでおくこと(2時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと(2時間) 第6回：同調と服従(1)(ICT・課題提出) 事前学習：授業前に「同調」についての本を読んでおくこと(2時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと(2時間) 第7回：同調と服従(2)(ICT・課題提出) 事前学習：授業前に「服従」についての本を読んでおくこと(2時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと(2時間) 第8回：囚人と看守実験(ICT・課題提出) 事前学習：授業前に「役割取得」について関連する本を読んでおくこと(2時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと(2時間)

第9回：情報伝搬（ICT・討議） 事前学習：授業前に「うわさ」が原因で社会問題に発展した事例について調べておく（2時間） 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと（2時間） 第10回：衆人監視（ICT・討議） 事前学習：授業前に「他者がそばに居る」ことにより生じる心理的作用を調べておく（2時間） 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと（2時間） 第11回：パニック（ICT・課題提出） 確認テストの実施（確認テスト2） 事前学習：授業前に「パニックとは何か」関連した本を読んでおくこと（2時間） 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと（2時間） 第12回：援助行動（ICT・課題提出） 事前学習：授業前に「援助行動、災害、防災意識」関連ついでの本を読んでおくこと（2時間） 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと（2時間） 第13回：攻撃行動（ICT・課題提出） 事前学習：授業前に「攻撃行動」についての本を読んでおくこと（2時間） 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと（2時間） 第14回：模擬社会ゲームについて（ゲーム・ICT・討議・レポート） 事前学習：講義中にゲームのルールブックを配布する。よく読み自主的に復習すること（2時間） 事後学習：模擬社会ゲームについてまとめておく（2時間） 第15回：まとめと確認テスト（ICT） 確認テストの実施（確認テスト3） 事前学習：各講義における手書きノートを作るなどすること（2時間） 事後学習：分からなかった部分についてまとめる（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 授業中に実施する課題・確認テスト、課題レポート、授業への参加態度等を総合的に判断し評価する。 【確認テスト50%（確認テスト1から3） 課題レポート40% 授業への参加態度10%】
(7) 成績評価基準 社会心理学における基本的概念について説明できるか。 集団葛藤やコミュニケーションスキルについて説明できるか。 日常生活における対人間、集団間の心理学的法則について理解できているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 適宜掲示・配布する。また、参考文献、関連文献を講義内で紹介する。

(11) その他(受講上の注意)

最初にTeamsに登録すること。

基本的に講義形式で行う。より理解を深めるために必要に応じてVTR視聴、自己分析、グループディスカッション、ゲームを実施する。その際、レポート課題の提出を求めることがある。

講義中にeラーニングシステムやgoogleフォーム等で回答を求め、受講者の実際の行動について即座に共有することがある。

回収後、結果についてスクリーンに呈示し、ディスカッションすることにより、講義内容と実際の行動についてリンクを試みる。その際、スマートフォン又はPCが必要となる（ipadの使用も可）。

よって、携帯持参、又はPCにより課題を閲覧、送信できるようにしておくことが必要。

回答時以外でのスマートフォンの利用は認められない。

使用を発見した場合、退出を願う場合がある。

トイレは授業前に済ませ、意味のない入退出が無いようにする事。

授業に15分以上遅れた場合欠席になることがある。

SIMSOC（模擬社会ゲーム）を特別授業として行う（予定）。このゲームへの参加により、集団における心理的葛藤や協調、意思決定などを学ぶことができる。ゲームへの参加は任意ですが、参加表明された方は必ず出席すること。人数が多い場合は抽選となることがある。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

産業・組織心理学Ⅰ (Industrial and Organizational PsychologyⅠ)			担当教員	重森 雅嘉	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-G-2233	2 単位	2 年前期	講義		選択
＜科目区分＞ 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果（教育目標）					
心理学の各領域における基礎的かつ一般的な知識					

(1) 授 業 の 内 容
社会や組織で必要とされる心理的スキルや知識を講義する。またコメントシートにより各自が当該事項について考え、グループディスカッション等により、それらを共有することにより深い理解をめざす。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
社会や組織で必要とされる心理的なスキルや知識を理解し、簡潔に説明できる。またそれらについて自分の考えや疑問を示せる。積極的に社会や組織活動に取り組める。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション、産業組織心理学の歴史 事前学習：産業組織心理学というものがどういうものか調べておく。(2時間) 事後学習：産業組織心理学の歴史に興味を持ったものについて調べる。(2時間) 第2回：グループディスカッション(社会で求められる人物像)、社会で求められる力 事前学習：社会で求められる能力について調べておく。(2時間) 事後学習：仁愛で学べる社会人基礎力について考察する。(2時間) 第3回：グループディスカッション(仁愛の理念)、組織が目指すもの(経営理念) 事前学習：企業がどういう目的で企業活動を行っているか調べておく。(2時間) 事後学習：自分が就職を希望する、または地元の気になる企業の経営理念を調べる。(2時間) 第4回：評価と公正感、グループワーク(ゼミのルーブリック作成) 事前学習：評価方法について調べておく。(2時間) 事後学習：人事評価について調べる。(2時間) 第5回：グループディスカッション(チームワークの利点欠点)、チームワークのダークサイド 事前学習：チームワークのマイナス面について調べておく。(2時間) 事後学習：チームワークのマイナス面に関して考察する。(2時間) 第6回：グループディスカッション(いいチームワークの要件)、いいチームワークの要件 事前学習：チームワークをうまくいかせる要因について調べておく。(2時間) 事後学習：チームワークをうまくいかせる要因について考察する。(2時間) 第7回：リーダーシップ、グループワーク(リーダー選び) 事前学習：リーダーシップについて調べておく。(2時間) 事後学習：自分ならどのようなリーダーを目指すかを考察する。(2時間) 第8回：グループワーク(なぜ働くか)、ワーク・モチベーション 事前学習：動機づけ理論を復習しておく。(2時間) 事後学習：好きなことを仕事にする利点と欠点を考察する。(2時間) 第9回：グループディスカッション(なぜ失敗するか)、ヒューマンエラー 事前学習：労働災害の実態について調べておく。(2時間) 事後学習：労働災害とヒューマンエラーの関係について考察する。(2時間) 第10回：グループディスカッション(ヒューマンエラー防止法)、ヒューマンエラー防止 事前学習：労働災害防止対策について調べておく。(2時間) 事後学習：労働災害防止対策の有効性を考察する。(2時間) 第11回：大事故の原因、グループディスカッション(大事故を防ぐためには) 事前学習：最近の大事故について調べておく。(2時間) 事後学習：大事故に共通する原因を考察する。(2時間)

第12回：ルール違反、レポート課題説明 事前学習：自分がやったことのあるルール違反について考察しておく。（2時間） 事後学習：ルール違反と労働災害の関係を考察する。（2時間） 第13回：グループディスカッション（大学生のストレス）、産業ストレスの現状 事前学習：産業場面について調べておく。（2時間） 事後学習：メンタルヘルスについて考察する。（2時間） 第14回：グループディスカッション（産業ストレス防止）、産業ストレス防止 事前学習：職場の産業ストレス防止法について調べておく。（2時間） 事後学習：ストレスと労働災害の関係について考察する。（2時間） 第15回：グループワーク（ピアレビューチェック） 事前学習：レポートの草稿を準備しておく。（2時間） 事後学習：グループワークの結果について考察する。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポート50% 小テスト毎回計30% 授業態度20%
(7) 成績評価基準
学習項目を簡潔に説明できるか、学習項目について自分の経験に結びつけて考えや疑問を示せるか、積極的に授業に取り組めるか
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
参考図書 外島裕（監修）・田中堅一郎（編）「産業・組織心理学エッセンシャルズ第4版」ナカニシヤ出版、ISBN：4779513855 重森雅嘉「ヒューマンエラー防止の心理学」日科技連、ISBN：4817197285 大阪商業会議所（編）「メンタルヘルス・マネジメント検定試験公式テキストⅢ種セルフケアコース第5版」中央経済社、ISBN：4502388319
(11) その他(受講上の注意)
レポートは手書きは不可です。状況により座席指定の可能性あります。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

産業・組織心理学Ⅱ (Industrial and Organizational PsychologyⅡ PsychologyⅡ)			担当教員	山本 雅代	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
PS-G-2234	2 単位	2 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の各領域における基礎的かつ一般的な知識					

(1) 授 業 の 内 容
産業組織の中で働く人々の心理および行動について解説する。具体的には、ストレス、ワークモチベーション、勤労観等について解説する予定である。また、それぞれの課題においてディスカッションを行う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
産業組織の中で働く人々の心理、行動について理解できる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(ICT (Google フォーム・Moodleを使用し、課題を呈示、インタラクティブに意見を収集))
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション (ICT・レポート) 事前学習：産業・組織心理学についての本を読んでおくこと(2時間) 事後学習：授業で分かったことをレポートにまとめておくこと(2時間) 第2回：産業組織心理学のはじまり (1) (ICT・課題提出) 事前学習：授業前に「産業組織心理学の歴史」について関連する本を読んでおくこと(2時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと(2時間) 第3回：産業組織心理学のはじまり (2) (ICT・課題提出) 事前学習：授業前に「産業組織心理学の歴史」について関連する本を読んでおくこと(2時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと(2時間) 第4回：モチベーション (1) (ICT・課題提出) 事前学習：授業前に「モチベーションの基本」について関連する本を読んでおくこと(2時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと(2時間) 第5回：モチベーション (2) (ICT・課題提出) 確認テストの実施(確認テスト1) 事前学習：授業前に「モチベーションの基本」について関連する本を読んでおくこと(2時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと(2時間) 第6回：ワークモチベーション (1) (ICT・課題提出) 事前学習：授業前に「ワークモチベーション」について調べておくこと(2時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと(2時間) 第7回：ワークモチベーション (2) (ICT・課題提出) 事前学習：授業前に「ワークモチベーション」について関連する本を読んでおくこと(2時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと(2時間) 第8回：職場のダイナミックス (ICT・課題提出) 事前学習：授業前に「職場集団」について調べておくこと(2時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと(2時間) 第9回：職場集団の発達と葛藤 (ICT・課題提出) 事前学習：授業前に「職場集団の発達と葛藤」について自分なりの意見をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと(2時間) 第10回：職場のコミュニケーション (ICT・課題提出) 事前学習：授業前に「職場のコミュニケーション」について関連する本を読み、自分なりの意見をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと(2時間) 第11回：リーダーシップ (ICT・課題提出) 確認テストの実施(確認テスト2) 事前学習：授業前に「リーダーシップ」について実際の事例をさがしておくこと(2時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと(2時間)

第12回：組織とストレス（ICT・課題提出） 事前学習：授業前に「組織とストレス」について自分なりの意見をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと（2時間） 第13回：職場のメンタルヘルス（ICT・課題提出） 事前学習：授業前に「職場のメンタルヘルス」について関連する本を読んでおくこと（2時間） 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと（2時間） 第14回：ストレスとコーピング（ICT・課題提出） 事前学習：授業前に「コーピング」について関連する本を読んでおくこと（2時間） 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと（2時間） 第15回：作業管理・安全管理・確認テスト（ICT） 確認テストの実施（確認テスト3） 事前学習：授業前に「作業管理・安全管理」についての本を読んでおくこと（2時間） 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと（2時間） 各回に関連する心理学的事象について講義前・講義後において理解を深めるよう努力すること。 その際、関連論文・参考文献等講義内にて指示する
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
授業中に実施する確認テスト、課題レポート、授業への参加態度等を総合的に判断し評価する。 【確認テスト50%（確認テスト1から3） 課題・レポート40% 授業への参加態度10%】
(7) 成績評価基準
産業組織の中で働く人々の心理および行動について、説明および考察することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
適宜掲示・配布する。また、参考文献、関連文献を講義内で紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
最初にTeamsに登録すること。 基本的に講義形式で行う。より理解を深めるために必要に応じてVTR視聴、自己分析、グループディスカッション、ゲームを実施する。その際、レポート課題の提出を求めることがある。 講義中にeラーニングシステムやgoogleフォーム等で回答を求め、受講者の実際の行動について即座に共有することがある。 回収後、結果についてスクリーンに呈示し、ディスカッションすることにより、講義内容と実際の行動についてリンクを試みる。その際、スマートフォン又はPCが必要となる（ipadの使用も可）。 よって、携帯持参、又はPCにより課題を閲覧、送信できるようにしておくことが必要。 回答時以外でのスマートフォンの利用は認められない。 使用を発見した場合、退出を願う場合がある。 トイレは授業前に済ませ、意味のない入退出が無いようにする事。 授業に15分以上遅れた場合欠席になることがある。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

心理学特別講義 (Special Lecture on Psychology)			担当教員	森本 文人、西村 則昭、大森 慈子、 水田 敏郎、山本 雅代、森 俊之、 吉水ちひろ、渡辺 克徳、稲木康一郎、 山岸 厚仁、目黒 達哉、杉島 一郎、 今井田貴裕
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-G-2239	2 単位	2 年前期	講義	必修
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門				
求める学習成果(教育目標)				
心理学の各領域における基礎的かつ一般的な知識				

(1) 授 業 の 内 容
心理学科の全教員が1回の持ち回りで講義を行うオムニバス形式の授業である。各専任教員が専門とする心理学の諸分野を解説する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
心理学の諸分野について理解を深める。様々なトピックスに触れる中で、心理学に対する関心を高める。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
オリエンテーション①(学科ガイダンス時に実施する) 第1回：オリエンテーション② 授業の進め方 評価方法などについて説明 事前学習：関心のある心理学分野について調べておく(2時間) 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる(2時間) 第2回：各教員が専門とする内容①稲木 康一郎 事前学習：関心のある心理学分野について調べておく(2時間) 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる(2時間) 第3回：各教員が専門とする内容②今井田 貴裕 事前学習：関心のある心理学分野について調べておく(2時間) 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる(2時間) 第4回：各教員が専門とする内容③大森 慈子 事前学習：関心のある心理学分野について調べておく(2時間) 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる(2時間) 第5回：各教員が専門とする内容④杉島 一郎 事前学習：関心のある心理学分野について調べておく(2時間) 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる(2時間) 第6回：各教員が専門とする内容⑤西村 則昭 事前学習：関心のある心理学分野について調べておく(2時間) 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる(2時間) 第7回：各教員が専門とする内容⑥水田 敏郎 事前学習：関心のある心理学分野について調べておく(2時間) 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる(2時間) 第8回：各教員が専門とする内容⑦目黒 達哉 事前学習：関心のある心理学分野について調べておく(2時間) 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる(2時間) 第9回：各教員が専門とする内容⑧森 俊之 事前学習：関心のある心理学分野について調べておく(2時間) 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる(2時間) 第10回：各教員が専門とする内容⑨森本 文人 事前学習：関心のある心理学分野について調べておく(2時間) 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる(2時間)

第11回：各教員が専門とする内容⑩山岸 厚仁 事前学習：関心のある心理学分野について調べておく（2時間） 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる（2時間） 第12回：各教員が専門とする内容⑪山本 雅代 事前学習：関心のある心理学分野について調べておく（2時間） 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる（2時間） 第13回：各教員が専門とする内容⑫吉水 ちひろ 事前学習：関心のある心理学分野について調べておく（2時間） 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる（2時間） 第14回：各教員が専門とする内容⑬渡辺 克徳 事前学習：関心のある心理学分野について調べておく（2時間） 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる（2時間） 第15回：振り返りとこれからの学びについて 事前学習：関心のある心理学分野について調べておく（2時間） 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる（2時間） *担当教員全員が一回ずつ担当する授業になる。担当者の順はオリエンテーション時に伝える。 毎回担当教員が変わるため、疑問や予め知っておきたい事項があるときには、時間外（オフィスアワーなど）を活用して、担当教員に質問などをするようにして、予習・復習をする。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
小レポート（50％） 平常点（50％） （毎回、授業後に小レポートを課す。平常点は授業への参加状況・受講態度などを総合して判断する。）
(7) 成績評価基準
各授業において担当教員の説明する心理学的トピックについて理解を深めることができたか。また、あわせて関心や疑問をもつことができたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（各回の担当教員による方法） 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
使用しない
(11) その他(受講上の注意)
①3年生から始まるゼミ（心理学特別演習Ⅰ・Ⅱ）の担当教員や4年生の卒業研究のテーマを決めるうえで、重要な授業となります。週ごとに担当教員が変わるので、毎回出席してください。 ②スケジュールに変更がある場合は、学科ガイダンス（オリエンテーション）にて説明し、心理学科掲示板に掲示するので必ず事前に確認して臨んでください。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

心理学キャリア演習Ⅰ (Psychology Career SeminarⅠ)			担当教員	大森 慈子、水田 敏郎、森本 文人、 山岸 厚仁
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-OPI-2284	4 単位	2 年通年	演習	選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門				
求める学習成果(教育目標)				
心や人間関係に基づく諸問題に対する、客観的で論理的な思考力・判断力・表現力 人間の心理と問題に対する高い関心、解決して社会に貢献する意欲、協働して対処する主体的な態度				

(1) 授 業 の 内 容
心理学の学びに関連するパネルや動画などの制作活動、および、地域との協働による取り組みを通じて、キャリア形成に必要な情報収集力、分析力、表現力、コミュニケーション力を中心に強化する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
キャリア形成に必要な情報収集力、分析力、表現力、コミュニケーション力を身につける。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1-2回：オリエンテーションーキャリア形成とは(大森・水田・森本もしくは山岸)・ポートフォリオ作成 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと(各2時間) 事後学習：授業内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(各2時間) 【*第3回：以降は3クラスで実施(各クラスを大森・水田・森本もしくは山岸がそれぞれ担当)】 第3-4回：心理学パネル制作 or 心理学領域映像制作①ー企画：テーマ設定とディスカッション 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと(各2時間) 事後学習：授業内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(各2時間) 第5-6回：心理学パネル制作 or 心理学領域映像制作②ーテーマに関連する情報収集 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと(各2時間) 事後学習：授業内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(各2時間) 第7-8回：心理学パネル制作 or 心理学領域映像制作③ープレゼンテーションと評価 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと(各2時間) 事後学習：授業内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(各2時間) 第9-10回：心理学パネル制作 or 心理学領域映像制作④ー製作 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと(各2時間) 事後学習：授業内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(各2時間) 第11-12回：心理学パネル制作 or 心理学領域映像制作⑤ー製作 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと(各2時間) 事後学習：授業内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(各2時間) 第13-14回：心理学パネル制作 or 心理学領域映像制作⑥ーパネル製作 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと(各2時間) 事後学習：授業内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(各2時間) 第15-16回：地域と協働した取り組み①ー企画：テーマ設定とディスカッション 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと(各2時間) 事後学習：授業内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(各2時間) 第17-18回：地域と協働した取り組み②ーテーマに関連する情報収集 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと(各2時間) 事後学習：授業内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(各2時間)

第19-20回：地域と協働した取り組み③ープレゼンテーションと評価 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（各2時間） 事後学習：授業内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（各2時間） 第21-22回：地域と協働した取り組み④ー取材準備とリハーサル 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（各2時間） 事後学習：授業内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（各2時間） 第23-24回：地域と協働した取り組み⑤ー制作 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（各2時間） 事後学習：授業内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（各2時間） 第25-26回：地域と協働した取り組み⑥ー制作 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（各2時間） 事後学習：授業内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（各2時間） 第27-28回：地域と協働した取り組み⑦ー制作 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（各2時間） 事後学習：授業内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（各2時間） 第29-30回：地域と協働した取り組み⑧ー制作 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（各2時間） 事後学習：授業内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（各2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 制作物（50％）、平常点（50％） 平常点は、授業への参加状況や受講態度などを総合して判断します。
(7) 成績評価基準 キャリア形成に必要な情報収集力、分析力、表現力、コミュニケーション力を身につけることができたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 テキストは使用しない。 参考図書は、適宜紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

人間関係論 (Human Relations)			担当教員	橋本 武志	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CO-F-2103	2 単位	1 年後期	遠隔授業	必修	
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 コミュニケーション学基礎A群（理論）					
求める学習成果（教育目標）					
コミュニケーションに関する知識を修得し、異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる力を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
「自分と他人と関わるとはどういうことか」について熟考することにより、具体的な企画や表現を実践する基礎となっていながらも、見過ごされがちなタイプの「自己理解・他者理解」について考察する。 身近な自他関係について、人間関係についての社会学、哲学関係のテキストを読みながら、人間関係の横軸（友人・家族・世間）と縦軸（倫理や規範）について講義する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
自分や他人との関わりをもつときに、特に意識していない要素（儀礼的無関心、距離の取り方、世間の圧力）などについて理解し、またそうした関わり全体を支配している、エートスや規範についても理解することを通じて、「自分」「他人」「関わり」という要素を掘り下げて考える。この講義を通して、具体的な「企画や自己表現」の実践の土台となる自己や他者のより深い理解を目指す。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション～人間関係の横軸と縦軸 事前学習：辞書などを基に「人間関係」という言葉の由来を調べノートしておくこと（2時間） 事後学習：本日の講義内容を自分なりにまとめておくこと（2時間） 第2回：人間の本性についての諸説～自己の多面性 事前学習：「人間」についてのさまざまな定義（例：理性的動物）調べノートしておくこと（2時間） 事後学習：本日の講義内容を自分なりにまとめておくこと（2時間） 第3回：他人との距離感①～世間、世間体、人目 事前学習：「アーヴィング・ゴフマン」（人名）について調べノートしておくこと（2時間） 事後学習：本日の講義内容を自分なりにまとめておくこと（2時間） 第4回：他人との距離感②～アクセサリや髪型が気になる理由 事前学習：「ゲオルグ・ジンメル」（人名）について調べノートしておくこと（2時間） 事後学習：本日の講義内容を自分なりにまとめておくこと（2時間） 第5回：面目による行動方針 事前学習：ゴフマンの「面目行為」の語義について調べノートしておくこと（2時間） 事後学習：本日の講義内容を自分なりにまとめておくこと（2時間） 第6回：他人への気遣いの制度化 事前学習：「シャドウ・ワーク」「感情労働」の語義について調べておくこと（2時間） 事後学習：本日の講義内容を自分なりにまとめておくこと（2時間） 第7回：なぜ人のものが欲しくなるのか？ 事前学習：ジラールの「欲望の三角形」について調べておくこと（2時間） 事後学習：本日の講義内容を自分なりにまとめておくこと（2時間） 第8回：他人にどこまで口出しできるのか。 事前学習：「相対主義」の語義について調べておくこと（2時間） 事後学習：本日の講義内容を自分なりにまとめておくこと（2時間） 第9回：多数に基づくルール1 事前学習：物事の決定の際に、多数決が採用される理由について考えておくこと（2時間） 事後学習：本日の講義内容を自分なりにまとめておくこと（2時間） 第10回：多数に基づくルール2 事前学習：功利主義の弱点について考えておくこと（2時間） 事後学習：本日の講義内容を自分なりにまとめておくこと（2時間）

第11回：利己主義に基づくルール 事前学習：トマス・ホップズについて調べておくこと（2時間） 事後学習：本日の講義内容を自分なりにまとめておくこと（2時間） 第12回：利己主義に基づくルール2 事前学習：社会契約論について調べておくこと（2時間） 事後学習：本日の講義内容を自分なりにまとめておくこと（2時間） 第13回：他者の立場に立つことはなぜできるのか。 事前学習：「黄金律」「役割取得」について調べておくこと（2時間） 事後学習：本日の講義内容を自分なりにまとめておくこと（2時間） 第14回：義務感はどこから生まれるか。 事前学習：「義務論」という語句について調べておくこと（2時間） 事後学習：本日の講義内容を自分なりにまとめておくこと（2時間） 第15回：「居場所」について 事前学習：「自分の居場所」はどこかについて考え、列挙しておくこと（2時間） 事後学習：本日の講義内容を自分なりにまとめておくこと（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
本科目は、遠隔授業（オンデマンド型）にて実施します。
(6) 成績評価方法
平常点（50パーセント）、レポート（50パーセント） （平常点は、授業への参加状況、毎回の課題や小テスト提出状況を総合して判断する）
(7) 成績評価基準
・「自己」「他人」「関わり」といった言葉を表層的にではなく、深く理解しているか。 ・日常特に意識していないが、人間関係を構成する基礎的な要素（儀礼的無関心、距離の取り方、世間の同調圧力、嫉妬、公平など）について理解しているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書
テキストは使用せず、資料を配布する。参考書については授業中に適宜示す。
(11) その他(受講上の注意)
本授業は遠隔講義である。期限内にe-ラーニング上の講義資料を読み、毎回小レポートを書いてもらう。小レポート提出が平常点・出席となるので期限までに出し忘れないよう注意されたい。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

情報社会論 (Information and Society)			担当教員	大須賀 元彦	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CO-F-2207	2 単位	2 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 コミュニケーション学基礎A群（理論）					
求める学習成果（教育目標）					
コミュニケーションに関する知識、言語やその他のコミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる基礎力を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
この授業では、現代社会における多様な情報技術及び情報サービス等をテーマにそれらの最新の情報を理解し、それらが主にビジネスでどのように活用されているかを把握します。またビジネス分野を含む社会課題に対し、どのような技術やサービスが適応できるのかを検討していきます。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
- 最新の情報技術及び情報サービス等を適切に理解することができる。 - 主にビジネス分野において情報技術及び情報サービス等がどのように活用されているかを説明することができる。 - 社会課題に対して情報社会の観点から解決策を提案することができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☒ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス、情報社会とは何か 事前学習：シラバスを熟読し、情報社会について関連するウェブサイトを用いてノートにまとめる。(2時間) 事後学習：講義資料を用いてテーマの内容を復習すると共に課題に取り組む。(2時間) 第2回：Society 5.0と情報社会の基礎 事前学習：今回の授業テーマについて関連するウェブサイト等を用いてノートにまとめる。(2時間) 事後学習：講義資料を用いて今回の授業内容を復習すると共に課題に取り組む。(2時間) 第3回：インターネットの歴史とその進化 事前学習：今回の授業テーマについて関連するウェブサイト等を用いてノートにまとめる。(2時間) 事後学習：講義資料を用いて今回の授業内容を復習すると共に課題に取り組む。(2時間) 第4回：ビックデータとビジネスの現場 事前学習：今回の授業テーマについて関連するウェブサイト等を用いてノートにまとめる。(2時間) 事後学習：講義資料を用いて今回の授業内容を復習すると共に課題に取り組む。(2時間) 第5回：AIを活用した社会課題の解決 事前学習：今回の授業テーマについて関連するウェブサイト等を用いてノートにまとめる。(2時間) 事後学習：講義資料を用いて今回の授業内容を復習すると共に課題に取り組む。(2時間) 第6回：DXとビジネスモデル 事前学習：今回の授業テーマについて関連するウェブサイト等を用いてノートにまとめる。(2時間) 事後学習：講義資料を用いて今回の授業内容を復習すると共に課題に取り組む。(2時間) 第7回：中間まとめと演習 (ディスカッション) 事前学習：今回の授業テーマについて関連するウェブサイト等を用いてノートにまとめる。(2時間) 事後学習：講義資料を用いて今回の授業内容を復習すると共に課題に取り組む。(2時間) 第8回：ICTと生活・消費行動の変化 事前学習：今回の授業テーマについて関連するウェブサイト等を用いてノートにまとめる。(2時間) 事後学習：講義資料を用いて今回の授業内容を復習すると共に課題に取り組む。(2時間) 第9回：SNSとコミュニケーション 事前学習：今回の授業テーマについて関連するウェブサイト等を用いてノートにまとめる。(2時間) 事後学習：講義資料を用いて今回の授業内容を復習すると共に課題に取り組む。(2時間) 第10回：情報セキュリティとリスクマネジメント 事前学習：今回の授業テーマについて関連するウェブサイト等を用いてノートにまとめる。(2時間) 事後学習：講義資料を用いて今回の授業内容を復習すると共に課題に取り組む。(2時間)

第11回：ドローン技術と情報社会 事前学習：今回の授業テーマについて関連するウェブサイト等を用いてノートにまとめる。（2時間） 事後学習：講義資料を用いて今回の授業内容を復習すると共に課題に取り組む。（2時間） 第12回：サステナビリティと情報 事前学習：今回の授業テーマについて関連するウェブサイト等を用いてノートにまとめる。（2時間） 事後学習：講義資料を用いて今回の授業内容を復習すると共に課題に取り組む。（2時間） 第13回：社会課題解決に向けた事例 事前学習：今回の授業テーマについて関連するウェブサイト等を用いてノートにまとめる。（2時間） 事後学習：講義資料を用いて今回の授業内容を復習すると共に課題に取り組む。（2時間） 第14回：情報社会における課題解決（ディスカッション） 事前学習：今回の授業テーマについて関連するウェブサイト等を用いてノートにまとめる。（2時間） 事後学習：講義資料を用いて今回の授業内容を復習すると共に課題に取り組む。（2時間） 第15回：全体のまとめ 事前学習：ここまでの内容について講義資料を用いてノートにまとめる（2時間） 事後学習：講義資料を用いてテーマの内容を復習すると共に課題に取り組む。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
課題（45%）まとめのレポート（55%）
(7) 成績評価基準
・最新の情報技術及び情報サービス等を適切に理解することができるか。 ・主にビジネス分野において情報技術及び情報サービス等がどのように活用されているかを説明することができるか。 ・社会課題に対して情報社会の観点から解決策を提案することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他(Teams) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他(まとめのレポートに対するフィードバックについて) ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて適時授業で紹介します。
(11) その他(受講上の注意)
まとめのレポートの作成に向けて毎回の授業内容の適切な理解と計画的な作業が求められます。主体的な学修姿勢が必要です。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

言語コミュニケーション論 (Verbal Communication)			担当教員	矢橋 知枝	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
BC-A-2107 CO-F-2208	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 コミュニケーション学基礎A群 (理論)					
求める学習成果 (教育目標)					
特にビジネス分野を中心にコミュニケーション力を高めるために必要な、入門的知識やスキルを身に付けます。					

(1) 授 業 の 内 容
コミュニケーションにおける言語の役割について学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
円滑な人間関係を維持する上で、必要となる言語的要素について知識を得る。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 事前学習：事前に言語を用いたコミュニケーションについて、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること（2時間） 第2回：ことばと文化（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること（2時間） 第3回：方言（1）（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること（2時間） 第4回：方言（2）（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること（2時間） 第5回：方言（3）（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること（2時間） 第6回：呼称（1）（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること（2時間） 第7回：呼称（2）（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること（2時間） 第8回：呼称（3）（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて、図書館で調べること（2時間） 第9回：対人関係の親密化（1）（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること（2時間） 第10回：対人関係の親密化（2）（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること（2時間） 第11回：対人関係の親密化（3）（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること（2時間） 第12回：自己開示（1）（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること（2時間）

第13回：自己開示（2）（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること（2時間） 第14回：自己開示（3）（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること（2時間） 第15回：まとめ（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること（2時間） 第16回：定期試験 予習として、各回に関連する資料を読み、あらかじめ疑問点を考えておくこと。また復習としては授業時の板書やハンドアウトに基づいて、各自のノートに授業内容をまとめておくこと。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（50％） 授業内レポート（30％） 平常点（20％） （平常点は、課題・質問用紙の提出状況等を総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
コミュニケーションにおいて、言語が果たす役割を説明することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
慶應義塾大学日吉キャンパス学習相談員 『学生による学生のための ダメレポート脱出法』慶應義塾大学出版会 2014 その他、適宜プリントを配布する。
(11) その他(受講上の注意)
・遅刻3回で欠席1回とみなす。 ・遅刻した時間・授業を抜けた時間も成績評価で考慮する。 ・必ず国語辞書（電子辞書可）を持参すること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

簿記演習a (Introduction to Book Keeping)			担当教員	大西 新吾	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
BC-A-2109	2 単位	2 年前期	演習	選択	
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 コミュニケーション学基礎B群（スキル）					
求める学習成果（教育目標）					
特にビジネス分野を中心にコミュニケーション力を高めるために必要な、入門的知識やスキルを身に付けます。					

(1) 授 業 の 内 容
本講義では、企業の経済活動を記録・整理するうえで必要な簿記原理の基礎知識を修得することを目的とする。 また、本講義では、演習を行う（電卓を持参する）ものとする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
講義で扱った内容を理解し、財務情報（会計報告書）を作成するうえで必要不可欠な簿記の技法をしっかりと身につけ、具体的には、企業の日々の経済活動の基本的な記録ができるようになることを到達目標とする。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☐ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他（演習）
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：簿記とはーガイダンス（講義の目的や今後の流れ、評価方法等についての説明） 事前学習：講義前にシラバスを読み、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第2回：貸借対照表（テキスト第1章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第3回：損益計算書（テキスト第2章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第4回：仕訳（テキスト第3章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第5回：転記と試算表（テキスト第3章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第6回：精算表と簿記一巡 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第7回：現金（テキスト第4章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第8回：預金（テキスト第5章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第9回：商品売買（1）分記法と3分法（テキスト第6章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間）

第10回：商品売買（2）掛取引の記帳（テキスト第6章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第11回：商品売買（3）売上帳と仕入帳と商品有高帳（テキスト第7章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第12回：商品売買（4）商品有高帳—先入先出法と移動平均法（テキスト第7章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第13回：手形（テキスト第8章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第14回：問題演習 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第15回：総括 事前学習：これまでの講義で取り扱った単元を、事前に復習しておく。（2時間） 事後学習：講義全体を振り返り、質問した箇所や苦手箇所を抽出し、復習しておく。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
各回の授業時に提出する演習課題の成績（30％）と定期試験の成績（70％）を総合して成績評価を行う。
(7) 成績評価基準
・講義に積極的に取り組んでいるかどうか（各回の授業内容の理解・修得を課題の提出で評価）。 ・講義で取り扱った内容を理解し、修得できているかどうか（授業全体の理解・修得を定期試験で評価）。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
片山 覚監修『新 入門商業簿記』創成社. 2019.
(11) その他(受講上の注意)
本科目の履修は、後期開講科目である「会計学入門」(・「簿記演習b」)の受講要件である(「会計学入門」(・「簿記演習b」)でも引き続き同じテキストを使う)。また、本科目は、2年次(・3年次)開講科目の「財務会計論(・会計学a)」及び「会計学(・会計学b)」の基礎となる前提科目である。簿記・会計や広く経営学に関心のある学生は履修することが望ましい。 なお、テキストは必ず購入し、毎回の授業時に持参すること。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

コミュニケーション学特別講義 (Special Lecture on Communication)			担当教員	織田 暁子、矢橋 知枝、加藤 優子、 橋本 武志、Mクズィフ、禿 寿、 寺田 憲弘、井上 寛、升田 法継、 M ハウカ、大須賀元彦	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-A-2216	2 単位	2 年通年	講義		必修
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 コミュニケーション学専門					
求める学習成果(教育目標)					
国際化・情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成し、課題解決のための構想力と判断力を身につけるための専門性を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
コミュニケーション学科の教員が持ち回りで講義を行うオムニバス形式の授業である。各専任教員が専門とするコミュニケーション学の諸分野を解説する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
コミュニケーション学の諸分野について理解を深める。様々なトピックスに触れる中で、コミュニケーション学に対する関心を高める。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
オリエンテーション(学科ガイダンス時に実施する) 第1回: 各教員が専門とする内容①(担当教員: 矢橋) 事前学習: 関心のあるコミュニケーション学分野について調べておく(2時間) 事後学習: 授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる(2時間) 第2回: 各教員が専門とする内容②(担当教員: 橋本) 事前学習: 関心のあるコミュニケーション学分野について調べておく(2時間) 事後学習: 授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる(2時間) 第3回: 各教員が専門とする内容③(担当教員: 禿) 事前学習: 関心のあるコミュニケーション学分野について調べておく(2時間) 事後学習: 授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる(2時間) 第4回: 各教員が専門とする内容④(担当教員: 織田) 事前学習: 関心のあるコミュニケーション学分野について調べておく(2時間) 事後学習: 授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる(2時間) 第5回: 各教員が専門とする内容⑤(担当教員: 加藤) 事前学習: 関心のあるコミュニケーション学分野について調べておく(2時間) 事後学習: 授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる(2時間) 第6回: 各教員が専門とする内容⑥(担当教員: 大須賀) 事前学習: 関心のあるコミュニケーション学分野について調べておく(2時間) 事後学習: 授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる(2時間) 第7回: 各教員が専門とする内容⑦(担当教員: 2年生マネージャー)(外部講師予定) 事前学習: 関心のあるコミュニケーション学分野について調べておく(2時間) 事後学習: 授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる(2時間) 第8回: 各教員が専門とする内容⑧(担当教員: ハウカ) 事前学習: 関心のあるコミュニケーション学分野について調べておく(2時間) 事後学習: 授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる(2時間) 第9回: 各教員が専門とする内容⑨(担当教員: クズィフ) 事前学習: 関心のあるコミュニケーション学分野について調べておく(2時間) 事後学習: 授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる(2時間) 第10回: ゼミに関する内容⑩ 教員プレゼンテーション(担当教員: 2年生マネージャー) 事前学習: 関心のあるコミュニケーション学分野について調べておく(2時間) 事後学習: 授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる(2時間)

第11回：ゼミに関する内容② ゼミに関する内容（担当教員：2年生マネージャー） 事前学習：関心のあるコミュニケーション学分野について調べておく（2時間） 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる（2時間） 第12回：各教員が専門とする内容⑪（担当教員：井上） 事前学習：関心のあるコミュニケーション学分野について調べておく（2時間） 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる（2時間） 第13回：各教員が専門とする内容⑫（担当教員：寺田） 事前学習：関心のあるコミュニケーション学分野について調べておく（2時間） 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる（2時間） 第14回：各教員が専門とする内容⑬（担当教員：升田） 事前学習：関心のあるコミュニケーション学分野について調べておく（2時間） 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる（2時間） 第15回：各教員が専門とする内容⑭（担当教員：2年生マネージャー）（外部講師予定） 事前学習：関心のあるコミュニケーション学分野について調べておく（2時間） 事後学習：授業の内容を復習し、自分の興味・関心をまとめる（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
小レポート・課題（60％） 平常点（40％） （毎回、授業後に小レポートまたは課題を課す。平常点は授業への参加状況・受講態度などを総合して判断する。）
(7) 成績評価基準
各授業において担当教員の説明するコミュニケーション学的トピックについて理解を深めることができたか。また、あわせて関心や疑問をもつことができたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（各回の担当教員による方法） 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
なし
(11) その他(受講上の注意)
① スケジュールに変更がある場合は、学科ガイダンス（オリエンテーション）にて説明し、eラーニングに掲示するので必ず事前に確認して臨んでください。学期途中で変更がある場合も、同様にeラーニングに掲示します。必ず確認してください。 ② 3年生から始まるゼミ（コミュニケーション学特別演習Ⅰ・Ⅱ）の担当教員や4年生の卒業研究のテーマを決めるうえでも、重要な授業となります。週ごとに担当教員が変わるので、毎回出席してください。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

観光経済論 (Tourism Economics)			担当教員	山崎 茂雄	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-A-2218	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 コミュニケーション学専門					
求める学習成果(教育目標)					
私たちに最も身近な福井地域の現在、過去、そして未来像を学習することで、社会人として必要なコミュニケーション力の向上を目指します。					

(1) 授 業 の 内 容
地域経済を考えると、今や観光が重要な位置を占めるに至っていることはいままでのない。2010年代の観光を振り返ると、インバウンドを中心に観光は活況を呈し、地域経済にも大きな影響を及ぼした。やがて、2019年末に発生した新型コロナウイルス感染症の流行が事態を大きく急変させ、感染症の影響で世界的に景気は大きく後退した。知られるように、感染症の影響は甚大で、移動が厳しく制限され、観光業は極めて大きな打撃を受けるに至る。 このように、2010年代の観光は激しい浮き沈みを経験した。一方で、LCC、OTA、民泊、プラットフォーム、シェアリングエコノミー、ライドシェア、自動運転車両、ダイナミック・プライシング等のビジネス形態が次々に出現し、普及した。また、ビジットジャパンキャンペーン、宿泊税、GO TOキャンペーンなどの観光に関連する政策が導入・推進されたのも、2010年代からパンデミックに至る期間である。こうした新たなビジネス形態、新規政策の登場は地域経済をどのように変化させ、今後の地域経済の発展に何をもたらすのか。 本講義においては、かかる観光に関連する現象をつかみ取り、主に経済学の観点から理論を考察すると同時に、実証に向けた統計作成やデータ分析の方法を説明し、科学的なエビデンスに基づいた地域政策の形成や地域経済の発展と未来を受講生とともに考えていく。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・地域経済論としての観光経済に関わる基礎概念、理論、データの分析手法などを理解を深める。 ・具体的に特定の都市や地域にかかる観光データを本講義で学んだ理論にあてはめ、分析する能力を養う。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
授業は、以下の通り行う。進捗状況によって変更もありうる。 第1回：地域経済論が取り出す観光経済の意義と本講義の概要 事前学習：地域経済論としての観光経済には具体的にいかなる事象が存在するのか、調べておくこと(2時間) 事後学習：本講義で触れた内容について、まとめておくこと(2時間) 第2回：留意すべき観光の特異性 事前学習：テキスト序章「観光経済学を学ぶにあたって」を予め読んでおくこと(2時間) 事後学習：観光の定義など、講義で学んだ定義や基礎的概念を整理しておくこと(2時間) 第3回：基礎理論 事前学習：テキスト第I部第1章「需要分析」を予め読んでおくこと(2時間) 事後学習：観光の需要曲線や予算制約などの意味を正確に理解することに努めること(2時間) 第4回：観光の産業・経済構造(ディスカッション) 事前学習：テキスト第2章「供給分析」を予め読んでおくこと(2時間) 事後学習：供給曲線や生産性・費用などの意味を理解し、分析できるように努めること(2時間) 第5回：価格決定の背景と効果(ディスカッション) 事前学習：テキスト第3章「価格理論」を予め読んでおくこと(2時間) 事後学習：利潤最大化による価格決定、市場の形態、市場の確定、余剰分析、価格差別などの理解に努めること(2時間) 第6回：空間を越える取引ルール(ディスカッション) 事前学習：テキスト第4章「仲介業」を予め読んでおくこと(2時間) 事後学習：観光における仲介機能やマルチサイド・プラットフォームの価格設定等に関する把握に努めること(2時間)

第7回：変わりゆく「ステイ」の姿（ディスカッション） 事前学習：テキスト第5章「宿泊施設・観光施設」を予め読んでおくこと（2時間） 事後学習：宿泊産業や観光産業の現状、宿泊産業や観光産業の課題などに対する理解を確かなものとする ること（2時間） 第8回：経済学的視点からみる基本的性質（ディスカッション） 事前学習：テキスト第6章「観光と交通」を予め読んでおくこと（2時間） 事後学習：観光の重要なインフラとしての交通の意義やこれからの交通のあるべき姿について洞察を深 めること（2時間） 第9回：地域へのインパクト分析（ディスカッション） 事前学習：テキスト第7章「観光と地域振興」を予め読んでおくこと（2時間） 事後学習：持続可能な観光に向けた展開や費用便益分析などのインパクト分析手法について理解を深め ること（2時間） 第10回：負担と受益の制度設計（ディスカッション） 事前学習：テキスト第8章「観光振興における財源」を予め読んでおくこと（2時間） 事後学習：課税の方法、課税の公平性や効率性における論点とその評価について理解を確かなものにす ること（2時間） 第11回：数字で把握する旅行者の人数と消費 事前学習：テキスト第9章「観光統計」を予め読んでおくこと（2時間） 事後学習：旅行市場の主要指標、統計の作成の方法などの知見を深めること（2時間） 第12回：旅行消費と観光供給の全体像の記録 事前学習：テキスト第10章「旅行・観光サテライト勘定」を予め読んでおくこと（2時間） 事後学習：TSA指標の国際比較・産業間比較などについて理解を得ること（2時間） 第13回：都道府県ごとの観光実態の捉え方（ディスカッション） 事前学習：テキスト第11章「地域の観光統計」を予め読んでおくこと（2時間） 事後学習：地域の観光統計の現状と課題について認識を深めること（2時間） 第14回：経済波及効果の分析（ディスカッション） 事前学習：テキスト第12章「産業連関分析」を予め読んでおくこと（2時間） 事後学習：産業連関表の計算方法や必要なデータの捉え方、分析手法について具体的な地域経済との関 係性のなかで考察できるようになること（2時間） 第15回：新型コロナウイルス感染症流行からの分析（ディスカッション） 事前学習：テキスト終章「パンデミックと観光」を予め読んでおくこと（2時間） 事後学習：需要供給の変化とパンデミック流行後の政策、需要喚起策の影響などについて、その分析手 法を学ぶとともに、展望について考えること（2時間）	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感 染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変 更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
平常点40%および期末レポート60% ・出席点に加え、10分程度の小テストを予定している。 ・期末レポートについては、指定課題に対して字数制限を課したレポート提出を求める。	
(7) 成績評価基準	
・地域経済論としての観光経済に関わる基礎概念、理論、データの分析手法などを理解を深めることができてい るか。 ・具体的に特定の都市や地域にかかる観光データを本講義で学んだ理論にあてはめ、分析する能力を養うことが できているか。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他(担当教員の研究室にて) 5) その他(ディスカッション・ディベートに対するフィードバックについて) ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他	

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト 『観光経済学－理論とデータで学ぶ』 山崎茂雄ほか編 有斐閣 2022年
(11) その他(受講上の注意)
・ミクロ経済学の基礎知識が必要となるが、その前提として高等学校数学Ⅰ・ⅡBの事前学習または履修済であることが望ましい。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

公共政策 (Public Policy)			担当教員	竹内 直人	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-A-2219	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 コミュニケーション学専門					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーションに関する知識を修得し、異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる力を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
今年度はビジネスと政策の関係に着目して、新たな視点から公共政策を学びます。ビジネスも公共政策も社会的課題を解決する点では共通点があります。今年度は越前市の課題とその解決に取り組む市役所の方のお話し(講演)を出発点とし、講義で公共政策の基礎理論を分かりやすく解説します。併せてビジネスの観点からは同じ地域課題はどう解決できるかを考えていきます。そのうえで、講演と講義を基にグループ単位で、自ら地域の課題解決策をつくることにチャレンジします。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
人口減少と厳しい自治体財政のなか、地域課題の解決は自治体だけで行うことは困難であり、また効果的でもありません。この講義では公共政策と民間活力の協働を目指し、以下の目標を設定します。 1 ビジネスと公共政策の共通点を理解する(地域の課題を解決する)。 2 ビジネスと公共政策の相違点を理解する(政府の存在理由とは何か)。 3 グループで協力して解決策をつくる。 4 解決策をプレゼンテーションする。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 ■その他(政策提案レポート(企画書)作成)
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：オリエンテーション 地域課題を解決する2つの方法(ビジネスと政策) 事前学習：配布資料を読む(2時間) 事後学習：復習(2時間) 第2回：地域の課題を学ぶ(総論：人口減少とそれに伴う地域の課題) 参考資料の解説 事前学習：配布資料を読む(2時間) 事後学習：復習(2時間) 第3回：地域の課題を学ぶ(人口減少と子育て、高齢化、空き家問題) 越前市の課題 事前学習：配布資料を読む(2時間) 事後学習：復習(2時間) 第4回：地域の課題を学ぶ(外国人との共生、産業・観光振興) ビジネスによる課題解決 事前学習：配布資料を読む(2時間) 事後学習：復習(2時間) 第5回：市役所職員の講義(第6回になるかもしれません) 事前学習：事前資料を読む(2時間) 事後学習：課題解決の企画案を考える(2時間) 第6回：企画書づくり(1) 一人ひとりが企画案を考える。 事前学習：企画案の準備(2時間) 事後学習：企画案の修正(2時間) 第7回：ミニ・プレゼンテーション(1) 一人ひとりが企画案を発表 事前学習：プレゼンテーションの準備(2時間) 事後学習：プレゼンテーション修正(2時間)

第8回：ミニ・プレゼンテーション（2） 一人ひとりが企画案を発表 事前学習：プレゼンテーションの準備（2時間） 事後学習：プレゼンテーション修正（2時間） 第9回：（講義）プレゼンテーションの技法 事前学習：配布資料を読む（2時間） 事後学習：復習（2時間） 第10回：課題研究（グループ学習） 政策提案をつくる（1） 事前学習：課題研究（2時間） 事後学習：復習（2時間） 第11回：課題研究（グループ学習） 個別政策をつくる（2） 事前学習：課題研究（2時間） 事後学習：復習（2時間） 第12回：課題研究（グループ学習） 個別政策をつくる（2） 事前学習：課題研究（2時間） 事後学習：復習（2時間） 第13回：グループ発表 政策をプレゼンテーションする。 事前学習：プレゼンテーション準備（2時間） 事後学習：プレゼンテーション反省（2時間） 第14回：グループ発表 政策をプレゼンテーションする。 事前学習：プレゼンテーション準備（2時間） 事後学習：プレゼンテーション反省（2時間） 第15回：政策提案（プレゼンテーション） 市役所職員に政策を提案する 事前学習：政策案を考える（2時間） 事後学習：政策案を考える（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 プレゼンテーション（50％）、レポート（25％）、出席・授業内活動（25％）
(7) 成績評価基準 ・課題の分析及び政策の必要性と狙いについて800字程度の企画書（概要）にまとめること（25％）。 ・地域の課題について具体的なテーマのもとにグループで議論し、課題と解決策（政策）をPPT15枚程度にまとめること（25％）。 ・解決策について、20分程度のプレゼンテーションを行い、聞き手に内容を分かりやすく伝えること（50％）。 ・プレゼンテーションの優秀チームには加点します。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☒その他（次回の授業においてポイントの説明を行う。） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他（添削と評価を行い返却する。） 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（プレゼンテーションに対する講評と振り返りを行う。） 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
・ 経歴 (県庁勤務、その後民間企業の社外役員) ・ 実務経験と授業内容との関連性 (福井県庁で30年間勤務し、その間企画部門や財政部門で政策づくりに従事し、また、民間企業の社外役員としての経験をもつ教員が、官と民(政府と企業)、両方の観点から地域の課題を解決する方法について考え、解説する。)
(10) テキスト、参考図書
事前に資料を配布します。
(11) その他(受講上の注意)
グループ活動が多いので欠席しないこと。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

簿記演習 b (Introduction to Accounting)			担当教員	大西 新吾	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
BC-A-2110	2 単位	2 年後期	演習	選択	
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 コミュニケーション学専門					
求める学習成果(教育目標)					
特にビジネス分野を中心にコミュニケーション力を高めるために必要な、入門的知識やスキルを身に付けます。					

(1) 授 業 の 内 容
本講義では、「簿記入門」(・「簿記演習a」)の授業内容を踏まえた上で、企業の経済活動を記録・整理するうえで必要不可欠な簿記原理の基礎知識を修得することを目的とする。また、本講義では、演習を行う(電卓を持参する)ものとする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
講義で扱った内容を理解し、日々の経済活動の記録をもとに財務情報(会計報告書)の作成ができるようになることを到達目標とする。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(演習)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：前期科目「簿記入門」(・「簿記演習a」)の内容の振り返りーガイダンス(講義の目的や今後の流れ、評価方法等についての説明) 事前学習：講義前にシラバスを読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。(2時間) 第2回：債権と債務(1)(テキスト第9章) 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。(2時間) 第3回：債権と債務(2)(テキスト第9章) 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。(2時間) 第4回：債権と債務(3)(テキスト第9章) 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。(2時間) 第5回：貸倒損失と貸倒引当金(テキスト第10章) 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。(2時間) 第6回：有形固定資産と減価償却(1)(テキスト第11章) 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。(2時間) 第7回：有形固定資産と減価償却(2)(テキスト第11章) 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。(2時間) 第8回：資本・税金(テキスト第12章・第13章) 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。(2時間)

第9回：決算（１）試算表（テキスト第15章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（２時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（２時間） 第10回：決算（２）決算整理①売上原価の計算と貯蔵品（テキスト第16章、第7章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（２時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（２時間） 第11回：決算（２）決算整理②現金過不足・当座借越（テキスト第4章、第5章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（２時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（２時間） 第12回：決算（２）決算整理③費用・収益の繰延べと見越し（テキスト第16章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（２時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（２時間） 第13回：日常仕訳から決算仕訳（問題演習） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（２時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（２時間） 第14回：決算（３）財務諸表の作成（テキスト第18章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（２時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（２時間） 第15回：総括 事前学習：これまでの講義で取り扱った単元を、事前に復習しておく。（２時間） 事後学習：講義全体を振り返り、質問した箇所や苦手箇所を抽出し、復習しておく。（２時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 各回の授業時に提出する演習課題の成績（30％）と定期試験の成績（70％）を総合して成績評価を行う。
(7) 成績評価基準 ・講義に積極的に取り組んでいるかどうか（各回の授業内容の理解・修得を課題の提出で評価）。 ・講義で取り扱った内容を理解し、修得できているかどうか（授業全体の理解・修得を定期試験で評価）。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 片山 覚 監修『新 入門商業簿記』創成社. 2019.

(11) その他(受講上の注意)

本科目は、前期開講科目「簿記入門」(・「簿記演習a」)からの継続した学習であるため、「簿記入門」(・「簿記演習a」)の内容を修得していることを前提に講義を進める。

また、本科目は、2年次(・3年次)開講科目の「財務会計論(・会計学a)」及び「会計学(・会計学b)」の基礎となる前提科目である。

簿記・会計や広く経営学に関心のある学生は履修することが望ましい。

必ずテキストを毎回の授業時に持参すること。(テキストは、前期開講科目「簿記入門」(・「簿記演習a」)で使用したものである。)

なお、前提科目の「簿記入門」(・「簿記演習a」)を未受講で本科目を履修する場合には、テキストを事前に購入し、自分で学習内容をフォローしておくこと。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

社会調査法 (Social Research Methods)			担当教員	織田 暁子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-A-2224	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 コミュニケーション学専門					
求める学習成果(教育目標)					
国際化・情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成し、課題解決のための構想力と判断力を身につけるための専門性を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を解説する。調査目的と調査方法、調査方法の決め方、調査企画と設計、仮説構成、全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数と誤差、サンプリングの諸方法、質問文・調査票の作り方、調査の実施方法(調査票の配布・回収法、調査データの整理など)を学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ 調査票調査の手順を理解する。 ・ 調査票調査におけるデータ収集法の違いについて理解する。 ・ 適切な質問と回答選択肢を作成するための方法を習得する。 ・ 無作為抽出の意義を理解する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(模擬調査およびパソコンを用いた演習)
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：オリエンテーション 事前学習：テキストの第1章を読み、疑問点をまとめておく(2時間) 事後学習：授業内容およびテキストを復習する(2時間) 第2回：調査方法の選択 事前学習：テキストの第2章を読み、疑問点をまとめておく(2時間) 事後学習：授業内容およびテキストを復習する(2時間) 第3回：アンケート調査の進め方(1) リサーチクエスション、仮説を構成する 事前学習：テキストの第3章を読み、疑問点をまとめておく(2時間) 事後学習：授業内容およびテキストを復習する(2時間) 第4回：アンケート調査の進め方(2) 調査の企画 事前学習：テキストの第4章(前半)を読み、疑問点をまとめておく(2時間) 事後学習：授業内容およびテキストを復習する(2時間) 第5回：調査票作成の基礎(1) 仮説と質問項目 事前学習：テキストの第4章(後半)を読み、疑問点をまとめておく(2時間) 事後学習：授業内容およびテキストを復習する(2時間) 第6回：調査票作成の基礎(2) ワーディング 事前学習：テキストの第6章(前半)を読み、疑問点をまとめておく(2時間) 事後学習：授業内容およびテキストを復習する(2時間) 第7回：調査票作成の基礎(3) 質問文の形式と選択肢の構成 事前学習：テキストの第6章(後半)を読み、疑問点をまとめておく(2時間) 事後学習：授業内容およびテキストを復習する(2時間) 第8回：サンプリング(1) ランダム・サンプリングがなぜ必要か 事前学習：テキストの第7章(前半)を読み、疑問点をまとめておく(2時間) 事後学習：授業内容およびテキストを復習する(2時間) 第9回：サンプリング(2) サンプリングと調査票の配布から回収まで 事前学習：テキストの第7章(後半)を読み、疑問点をまとめておく(2時間) 事後学習：授業内容およびテキストを復習する(2時間)

第10回：模擬調査 事前学習：テキストの第8章を読み、疑問点をまとめておく（2時間） 事後学習：授業内容およびテキストを復習する（2時間） 第11回：調査データの作成（1） エディティング，コーディング 事前学習：テキストの第9章（前半）を読み、疑問点をまとめておく（2時間） 事後学習：授業内容およびテキストを復習する（2時間） 第12回：調査データの作成（2） データ入力，データクリーニング 事前学習：テキストの9章（後半）を読み、疑問点をまとめておく（2時間） 事後学習：授業内容およびテキストを復習する（2時間） 第13回：データ分析（1） 記述統計 事前学習：テキストの第10章を読み、疑問点をまとめておく（2時間） 事後学習：授業内容およびテキストを復習する（2時間） 第14回：データ分析（2） クロス表分析 事前学習：テキストの第12章を読み、疑問点をまとめておく（2時間） 事後学習：授業内容およびテキストを復習する（2時間） 第15回：報告書の作成 事前学習：テキストの13章を読み、疑問点をまとめておく（2時間） 事後学習：授業内容およびテキストを復習する（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
・定期試験（40%） ・課題提出・受講態度（40%） ・グループワーク（20%）
(7) 成績評価基準
・調査票調査の手順を理解できているか。 ・調査票調査におけるデータ収集法の違いについて理解できているか。 ・適切な質問と回答選択肢を作成するための方法を習得しているか。 ・無作為抽出の意義を理解できているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
『入門・社会調査法』（第四版）轟・杉野編 法律文化社 2021年
(11) その他(受講上の注意)
この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する、社会調査士資格認定科目【B】〔調査設計と実施方法に関する科目〕に相当する。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

情報システム論 (Information Systems)			担当教員	大須賀 元彦	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-A-2225	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 コミュニケーション学専門					
求める学習成果(教育目標)					
国際化・情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成し、課題解決のための構想力と判断力を身につけるための専門性を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
この授業では情報システムを支える知識と技術（データベース、ネットワーク、セキュリティ、認証など）について、その基礎的な概念と原理を学びます。またフローチャートによる処理の可視化やAIの利活用などの学修を通して情報システムに関する知識と技術を習得します。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
情報システムに関する基礎的な知識と技術を適切に理解し、活用することができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☒ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス、情報システムとは 事前学習：シラバスを熟読し、情報システムについて関連するウェブサイトを用いてノートにまとめる。（2時間） 事後学習：講義資料を用いてテーマの内容を復習すると共に課題に取り組む。（2時間） 第2回：情報社会の歴史とSociety 5.0 事前学習：今回の授業テーマについて関連するウェブサイト等を用いてノートにまとめる。（2時間） 事後学習：講義資料を用いて今回の授業内容を復習すると共に課題に取り組む。（2時間） 第3回：情報システムの基本構成（ハードウェア、ソフトウェアなど） 事前学習：今回の授業テーマについて関連するウェブサイト等を用いてノートにまとめる。（2時間） 事後学習：講義資料を用いて今回の授業内容を復習すると共に課題に取り組む。（2時間） 第4回：データベースの基礎 事前学習：今回の授業テーマについて関連するウェブサイト等を用いてノートにまとめる。（2時間） 事後学習：講義資料を用いて今回の授業内容を復習すると共に課題に取り組む。（2時間） 第5回：情報システムにおけるデータ活用 事前学習：今回の授業テーマについて関連するウェブサイト等を用いてノートにまとめる。（2時間） 事後学習：講義資料を用いて今回の授業内容を復習すると共に課題に取り組む。（2時間） 第6回：ネットワークの基礎 事前学習：今回の授業テーマについて関連するウェブサイト等を用いてノートにまとめる。（2時間） 事後学習：講義資料を用いて今回の授業内容を復習すると共に課題に取り組む。（2時間） 第7回：情報システムにおけるクラウド 事前学習：今回の授業テーマについて関連するウェブサイト等を用いてノートにまとめる。（2時間） 事後学習：講義資料を用いて今回の授業内容を復習すると共に課題に取り組む。（2時間） 第8回：中間まとめと演習（ディスカッション） 事前学習：ここまでの内容について講義資料を用いてノートにまとめる（2時間） 事後学習：講義資料を用いて今回の授業内容を復習すると共に課題に取り組む。（2時間） 第9回：情報セキュリティの基礎 事前学習：今回の授業テーマについて関連するウェブサイト等を用いてノートにまとめる。（2時間） 事後学習：講義資料を用いて今回の授業内容を復習すると共に課題に取り組む。（2時間） 第10回：認証とアクセス制御の基礎 事前学習：今回の授業テーマについて関連するウェブサイト等を用いてノートにまとめる。（2時間） 事後学習：講義資料を用いて今回の授業内容を復習すると共に課題に取り組む。（2時間） 第11回：情報システムにおけるELSI 事前学習：今回の授業テーマについて関連するウェブサイト等を用いてノートにまとめる。（2時間） 事後学習：講義資料を用いて今回の授業内容を復習すると共に課題に取り組む。（2時間）

第12回：フローチャートとその可視化 事前学習：今回の授業テーマについて関連するウェブサイト等を用いてノートにまとめる。（2時間） 事後学習：講義資料を用いて今回の授業内容を復習すると共に課題に取り組む。（2時間） 第13回：プログラミングの基礎 事前学習：今回の授業テーマについて関連するウェブサイト等を用いてノートにまとめる。（2時間） 事後学習：講義資料を用いて今回の授業内容を復習すると共に課題に取り組む。（2時間） 第14回：情報システムにおけるAIの利活用 事前学習：今回の授業テーマについて関連するウェブサイト等を用いてノートにまとめる。（2時間） 事後学習：講義資料を用いて今回の授業内容を復習すると共に課題に取り組む。（2時間） 第15回：全体のまとめ 事前学習：ここまでの内容について講義資料を用いてノートにまとめる（2時間） 事後学習：講義資料を用いて今回の授業内容を復習すると共に課題に取り組む。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
課題（45％）まとめのレポート（55％）
(7) 成績評価基準
情報システムに関する基礎的な知識と技術を適切に理解し、活用することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他 (Teams) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他（まとめのレポートに対するフィードバックについて） ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書
授業中に適時紹介します。
(11) その他(受講上の注意)
まとめのレポートの作成に向けて毎回の授業内容の適切な理解と計画的な作業が求められます。主体的な学修姿勢が必要です。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

観光社会論 (Tourism and Society)			担当教員	寺田 憲弘	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CO-A-2226	2 単位	2 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 コミュニケーション学専門					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
本講義では、「観光」という現象を理解するために必要な知識の枠組みを主に社会学・文化人類学の観点から学びます。また地域と観光の関係について、事例を通じて考えを深めます。 なお、本科目は国連が定める「持続可能な開発目標 (SDGs)」に向けて地域の社会的課題に取り組むSDGs関連科目です
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・観光に関する理論、概念を踏まえ、観光現象を論じることができる ・自ら必要なデータを収集し、事実に基づいた議論ができるようになる
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 観光の定義 事前学習：授業前にシラバスを読み、質問項目をまとめておくこと (2 時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出 (2 時間) 第2回：観光の要素と構造 ― ホストとゲスト 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと (2 時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出 (2 時間) 第3回：通過儀礼と巡礼 ― コミュニタス 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと (2 時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出 (2 時間) 第4回：近代観光の誕生 ― 労働と余暇 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと (2 時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出 (2 時間) 第5回：文化財制度と観光 ― ナショナリズムと科学 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出 (2 時間) 第6回：産業化と観光 ― 鉄道と創られた伝統 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出 (2 時間) 第7回：帝国主義と観光 ― オリエンタリズム 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出 (2 時間) 第8回：文化と観光 ― 文化の商品化 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出 (2 時間) 第9回：町おこしとしての観光 (1) ― 観光政策の変遷 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出 (2 時間) 第10回：町おこしとしての観光 (2) ― 町並み観光と消費社会 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、調査項目をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出 (2 時間) 第11回：新たな観光 (1) ― グリーンツーリズム 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出 (2 時間)

第12回：新たな観光（２）—— エコツーリズム 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間） 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（２時間） 第13回：自然観の変化と観光（１）—— 見るべき価値のある自然 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間） 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（２時間） 第14回：自然観の変化と観光（２）—— 国立公園と世界遺産 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間） 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（２時間） 第15回：地域社会と観光 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間） 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（２時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
平常点（授業毎に e-learningを通して小レポートを課します）（50%） 期末テスト（50%） 平常点は「出席点」ではないことに注意すること。
(7) 成績評価基準
・観光に関する理論・概念などを正確に理解できたか ・観光現象における複数の立場を理解できたか ・各種統計や観察データをもとに観光現象を論じることができたか
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 5) その他（ディスカッションなどに対するフィードバックについて） ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（担当教員の研究室（E104B）を訪れるか、オンラインコミュニケーションツール（Teams）を用いて）
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
参考図書：田中滋・寺田憲弘編 『聖地・熊野と世界遺産—— 宗教・観光・国土開発の社会学——』（晃陽書房） 参考図書：田中滋 編 『都市の憧れ、農村の戸惑い』（晃洋書房）
(11) その他(受講上の注意)
・受講者の理解度により講義内容を変更することがあります
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

多文化共生論 (Studies of Multicultural Societies)			担当教員	加藤 優子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-A-2227	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 コミュニケーション学専門					
求める学習成果(教育目標)					
国際化・情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成し、課題解決のための構想力と判断力を身につけるための専門性を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
多文化共生という視点における各国の現状や政策に触れ、多文化化する社会のありようについて考える。講義では主に英国・米国・日本の事例を紹介する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・主に英国・米国・日本の現状について、多文化共生という視点から理解を深める。 ・日本の多文化共生社会のありようについて考える力を身につける。 ・上記の事柄に関し、調べ学習を通して理解を深める。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(事前の調べ学習)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 事前学習：参考文献に目を通すこと。(2時間) 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第2回：英国の移民の歴史 事前学習：授業で扱うテーマについて、図書館で調べておくこと。(2時間) 事後学習：復習をすること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第3回：英国の移民の特徴 事前学習：授業で扱うテーマについて、図書館で調べておくこと。(2時間) 事後学習：復習をすること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第4回：英国の移民政策 事前学習：授業で扱うテーマについて、図書館で調べておくこと。(2時間) 事後学習：復習をすること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第5回：英国の教育政策 事前学習：授業で扱うテーマについて、図書館で調べておくこと。(2時間) 事後学習：復習をすること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第6回：価値観の教育 事前学習：授業で扱うテーマについて、図書館で調べておくこと。(2時間) 事後学習：復習をすること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第7回：英国の多文化の現状 事前学習：授業で扱うテーマについて、図書館で調べておくこと。(2時間) 事後学習：復習をすること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第8回：移民との摩擦問題 事前学習：授業で扱うテーマについて、図書館で調べておくこと。(2時間) 事後学習：復習をすること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)

第9回：米国の移民の歴史 事前学習：授業で扱うテーマについて、図書館で調べておくこと。（2時間） 事後学習：復習をすること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第10回：米国の移民の特徴 事前学習：授業で扱うテーマについて、図書館で調べておくこと。（2時間） 事後学習：復習をすること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第11回：米国の“人種”問題 事前学習：授業で扱うテーマについて、図書館で調べておくこと。（2時間） 事後学習：復習をすること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第12回：差別の構造 事前学習：授業で扱うテーマについて、図書館で調べておくこと。（2時間） 事後学習：復習をすること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第13回：日本の移民の歴史と教育政策 事前学習：授業で扱うテーマについて、図書館で調べておくこと。（2時間） 事後学習：復習をすること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第14回：日本の多文化共生について考える 事前学習：授業で扱うテーマについて、図書館で調べておくこと。（2時間） 事後学習：復習をすること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：授業で課された課題について、考えをまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 授業内小テスト（80%）、平常点（20%） 平常点は、授業の受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断する。
(7) 成績評価基準 ・主に英国・米国・日本の現状を、多文化共生という視点から理解を深めることができたか。 ・日本の多文化共生社会のありようについて考える力が身についたか。 ・上記の事柄に関し、調べ学習を通して理解を深めることができたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

(10) テキスト、参考図書
テキストは使用しない。 【参考図書】 佐久間孝正（2011）『移民大国イギリスの実験』勁草書房 貴堂嘉之（2018）『移民国家アメリカの歴史』岩波新書 永吉希久子（2020）『移民と日本社会』中公新書
(11) その他(受講上の注意)
本講義を受ける前に、「異文化理解a」「異文化理解b」の単位を取得すること。 5分以上20分未満の遅刻3回で欠席1回とみなす。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

検定英語入門 (Basic Skills in English Proficiency Tests)			担当教員	矢橋 知枝	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-A-2229	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 コミュニケーション学専門					
求める学習成果(教育目標)					
国際化・情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成し、課題解決のための構想力と判断力を身につけるための専門性を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
英語検定試験(観光英語検定・TOEIC等)の出題形式・解答技術への理解を深めると同時に、リスニングおよびリーディングを中心とした英語学習の基礎固めを行う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
観光英検3級レベルの「リスニング力」「リーディング力」「文化・観光・旅行事情の知識」を獲得する。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 事前学習：事前にテキストを読み、自習用音声を用いて予習すること(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しを行い、自習用音声を用いて復習すること(2時間) 第2回：筆記試験 観光用語(1)/リスニング試験 写真説明(1)(ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、自習用音声を用いて予習すること(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しを行い、自習用音声を用いて復習すること(2時間) 第3回：筆記試験 観光用語(2)/リスニング試験 写真説明(2)(ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、自習用音声を用いて予習すること(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しを行い、自習用音声を用いて復習すること(2時間) 第4回：筆記試験 英語コミュニケーション(1)/リスニング試験 イラスト説明(1)(ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、自習用音声を用いて予習すること(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しを行い、自習用音声を用いて復習すること(2時間) 第5回：筆記試験 英語コミュニケーション(2)/リスニング試験 イラスト説明(2)(ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、自習用音声を用いて予習すること(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しを行い、自習用音声を用いて復習すること(2時間) 第6回：筆記試験 英語コミュニケーション(3)/リスニング試験 イラスト説明(3)(ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、自習用音声を用いて予習すること(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しを行い、自習用音声を用いて復習すること(2時間) 第7回：筆記試験 英文構成(1)/リスニング試験 英語コミュニケーション(1)(ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、自習用音声を用いて予習すること(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しを行い、自習用音声を用いて復習すること(2時間) 第8回：筆記試験 英文構成(2)/リスニング試験 英語コミュニケーション(2)(ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、自習用音声を用いて予習すること(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しを行い、自習用音声を用いて復習すること(2時間) 第9回：筆記試験 英文構成(3)/リスニング試験 英語コミュニケーション(3)(ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、自習用音声を用いて予習すること(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しを行い、自習用音声を用いて復習すること(2時間) 第10回：筆記試験 英文読解(1)/リスニング試験 状況把握(1)(ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、自習用音声を用いて予習すること(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しを行い、自習用音声を用いて復習すること(2時間) 第11回：筆記試験 英文読解(2)/リスニング試験 状況把握(2)(ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、自習用音声を用いて予習すること(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しを行い、自習用音声を用いて復習すること(2時間) 第12回：筆記試験 英文読解(3)/リスニング試験 状況把握(3)(ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、自習用音声を用いて予習すること(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しを行い、自習用音声を用いて復習すること(2時間)

第13回：筆記試験 国内の観光と文化（1）／リスニング試験 観光・旅行事情（1）（ディスカッション） 事事前学習：事前にテキストを読み、自習用音声を用いて予習すること（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しを行い、自習用音声を用いて復習すること（2時間） 第14回：筆記試験 国内の観光と文化（2）／リスニング試験 観光・旅行事情（2）（ディスカッション） 事前学習：事前にテキストを読み、自習用音声を用いて予習すること（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しを行い、自習用音声を用いて復習すること（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：事前にテキストを読み、自習用音声を用いて予習すること（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しを行い、自習用音声を用いて復習すること（2時間） ・予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、あらかじめ辞書で未知語を調べておく。また復習としては授業時の板書やハンドアウトに基づいて、各自のノートに授業内容をまとめておく。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
授業課題（50％） 授業レポート（30％） 平常点（20％） （平常点は、授業への参加状況・受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
観光英検3級レベルに関わる「語彙」「文法」「観光・文化・旅行事情」「解答技術」を習得したか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
全国語学ビジネス観光教育協会 観光英検センター 『観光英語検定試験 問題と解説 3級〈四訂版〉』 2021年 研究社 また、必要に応じて適宜ハンドアウトを配布する。
(11) その他(受講上の注意)
・実用英語検定2級以上合格者は受講せず、学務課で単位認定を受ける。 ・英語教育センター主催のTOEIC IPを受験する。 ・実用英語検定もしくは観光英語検定を受験する。 ・遅刻3回で欠席1回とみなす。 ・遅刻した時間・授業を抜けた時間も成績評価で考慮する。 ・必ず英和辞書（電子辞書可）を持参する。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

プロジェクト・デザイン I (Introduction to Marketing)			担当教員	野尻 昌明	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CO-B-2241	2 単位	2 年通年	演習	選択	
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 ビジネスコース					
求める学習成果(教育目標)					
企画力・マネジメント力の向上を通して、組織・地域・社会の課題の解決に向けて主体的に取り組む力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
2 年生～4 年生の 3 年間という長期的展望に立って、年度を重ねながら最終的に学年を超えたコラボレーションでプロジェクトを生み出し、実社会に貢献する授業に育てていく。プロジェクトはチーム単位で学内外の諸課題の解決に取り組み、学生自らが主体的にアイデアを出し、目標・計画を立て、実行し、評価し、改善・革新していく。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
学生自ら授業・プロジェクトを生み出し、展開していけること。学生相互に学び合うだけでなく、異なるプロジェクトの間で学び合い、多様な学生・プロジェクトが触発しあいながら、次年度の授業・プロジェクトに向けた基盤・展望・意欲が形成できること。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他 (プロジェクトチームによるクリエイティブワーク)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第 1 回：オリエンテーション、前年度実績のプレゼンテーション、プロジェクトデザインについての理解 事前学習：提案したい企画内容をまとめておく（2 時間） 事後学習：チームメンバーと交流し、互いの得意な領域を確認しておく（2 時間） 第 2 回：企画内容、実施計画の検討、企画プロデュースの理解 事前学習：企画内容、実施計画についてのグループ討議ができるようにアイデアをまとめておく（2 時間） 事後学習：企画の立案、修正を行う（2 時間） 第 3 回：既存の行政・組織・企業プロジェクトの課題を考察し実社会の実務を理解 企画書作成についてのブレインストーミング 事前学習：プレゼンテーションの事前準備をする（2 時間） 事後学習：フィードバックの結果に沿って、実施計画書を加筆修正する（2 時間） 第 4 回：プロジェクトの実施準備 (学内・企業) /スケジュール・品質管理、制作サポートについて理解 クリエイティブチーム編成 (プロデューサー、ディレクター、プランナー、ライター、デザイナー、マーケッターなど) 事前学習：企画に必要な知識・技術を習得しておく（2 時間） 事後学習：進捗を確認し、遅延がないように準備をすすめる（2 時間） 第 5 回：プロジェクトの選択 (学内・企業) ～制作①/スケジュール・品質管理、制作サポート (グループワーク) 事前学習：企画に必要な知識・技術を習得しておく（2 時間） 事後学習：進捗を確認し、遅延がないように準備をすすめる（2 時間） 第 6 回：プロジェクトの制作②/記録 (グループワーク) 事前学習：実施当日の計画を確認しておく（2 時間） 事後学習：実施結果について、反省をまとめておく（2 時間） 第 7 回：プロジェクトの制作③評価、改善 事前学習：実施結果の評価および改善策について、グループ討議ができるようにアイデアをまとめておく（2 時間） 事後学習：企画を改善する（2 時間） 第 8 回：プロジェクトの制作④ プロジェクトの改善・修正 2 年基礎①内部レビュー (グループワーク) 事前学習：レビューのための事前準備をする（2 時間） 事後学習：レビューの結果に沿って、実施計画書を加筆修正し、承認されるレベルに仕上げる（2 時間）

第9回：プロジェクトの制作⑤ 実施計画書のプロデュース、改善・修正 2 年基礎②内部レビュー（グループワーク） 事前学習：レビューのための事前準備をする（2 時間） 事後学習：レビューの結果に沿って、実施計画書を加筆修正し、承認されるレベルに仕上げる（2 時間） 第10回：プロジェクトの実施準備①（グループワーク） 報告会準備・改善 事前学習：企画に必要な知識・技術を習得しておく（2 時間） 事後学習：最終チェックをして完成度を高める（2 時間） 第11回：プロジェクトの実施準備②（グループワーク） 報告会準備・改善 事前学習：実施当日の計画を確認しておく（2 時間） 事後学習：実施結果について、反省をまとめておく（2 時間） 第12回：全体報告会 基礎班（発表） 2 年生より報告および質疑応答を行います。 事前学習：報告会の事前準備をする（2 時間） 事後学習：報告会をふりかえり、次年度への継続準備をすすめる（2 時間） 第13回：全体報告会 演習班 2 年・3 年・4 年 合同授業（発表） 3 年生からの報告および質疑応答を行います。 事前学習：報告会をまとめる（2 時間） 事後学習：要点をチェックして次年度の参照資料として準備を行う（2 時間） 第14回：全体報告会 研究班 2 年・3 年・4 年 合同授業（発表） 4 年生からの報告および質疑応答を行います。 事前学習：報告会をまとめる（2 時間） 事後学習：要点をチェックして次年度の参照資料として準備を行う（2 時間） 第15回：プロジェクトの報告授業 全体を通しての振り返りを行い、授業と学びを総括します。（発表） 事前学習：年間の学びをまとめる（2 時間） 事後学習：フィードバックの結果に沿って、報告書やポスターを最終修正し、次年度の基礎班参照資料として掲示・保存をする（2 時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 課題に対する取り組み内容・提出物 (50%)、平常点 (50%) 平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する。
(7) 成績評価基準 ・プロジェクトを生み出し、展開できているか。 ・プロジェクトチームに貢献できているか、また、プロジェクトチームとして成果がでているか。 ・プロジェクトの進め方（基本）について説明することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☒その他 (Teams) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他（
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 特に使用しない。参考となる資料は必要に応じて配布する。

(11) その他(受講上の注意)

一貫してチーム編成にて作業を進行する。価値観の違いを面白がり、触発しあい、生み出しかう姿勢を持つこと。授業の進捗に応じて柔軟に内容を変更していく。詳細説明は第1回に行うので、必ず出席すること。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

メディア・コミュニケーション論 (Study of Media Communication)			担当教員	升田 法継	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-BS-2250	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 ビジネスコース／社会・文化コース					
求める学習成果(教育目標)					
企画力・マネジメント力の向上を通して、組織・地域・社会の課題の解決に向けて主体的に取り組む力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
情報社会と呼ばれる今日では、様々なメディアが私たちの生活に深く入り込み、日常のコミュニケーションを通じて社会のあり様を大きく変えている。授業では、情報が溢れかえる時代において、物事の本質を問う力、考える力、および表現する力の向上を狙いとする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・メディア理論に関して、その要諦と社会的意味の位置づけを説明することができる。 ・メディアと社会の変容について分析することができる。また、自身の意見をもち考えを述べることができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：メディア・コミュニケーションとは 事前学習：メディアの意味・役割について意見交換をするため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第2回：メディア・リテラシーⅠ 事前学習：メディア・リテラシーについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第3回：メディア・リテラシーⅡ 事前学習：前回に続きメディア・リテラシーについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第4回：メディア・リテラシーⅢ 事前学習：前回に続きメディア・リテラシーについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第5回：新聞と社会の変容 事前学習：新聞と社会の変容について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたマトリクスについて、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第6回：新聞Ⅰ(グループワーク) 事前学習：「新聞」について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたマトリクスについて、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第7回：新聞Ⅱ(グループワーク・発表) 事前学習：前回に続き「新聞」について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたマトリクスについて、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第8回：紙のメディアⅠ(グループワーク) 事前学習：紙のメディアについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたマトリクスについて、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第9回：紙のメディアⅡ(グループワーク) 事前学習：前回に続き紙のメディアについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)

第10回：紙のメディアⅢ（発表） 事前学習：前回に続き紙のメディアについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第11回：聴覚メディア 事前学習：聴覚メディアと社会の変容について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第12回：視覚メディア 事前学習：視覚メディアと社会の変容について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第13回：ニューメディア 事前学習：ニューメディアと社会の変容について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第14回：地域メディア（フィールドワーク） 事前学習：地域メディアによる情報発信について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：授業全体の振り返りおよび確認問題に取り組むので、これまでの授業内容を確認しておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
課題に対する活動内容・提出物・レポート（70%）、平常点（30%） ※平常点：授業への参加状況・受講態度等を総合して判断	
(7) 成績評価基準	
・メディア理論に関して、その要諦と社会的意味の位置づけを説明することができるか。 ・メディアと社会の変容について分析することができるか。また、自身の意見をもち考えを述べるすることができるか。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他（リアクションペーパーに対するフィードバックについて） ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	
・経歴 （元情報通信会社管理職（社員数：26万人、主な担当業務：人事、社長・取締役秘書、マーケティング、新規ビジネス開発、システム コンサルタント等）） ・実務経験と授業内容との関連性 （情報通信会社において、システム コンサルタント経験もある教員が、メディア理論の要諦と社会的意味の位置づけ及びメディアと社会の変容について解説する。）	

(10) テキスト、参考図書
必用に応じて、授業中に提示します。
(11) その他(受講上の注意)
「授業の計画」は、進捗や学生の反応・理解度に応じて、変更する場合があります。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

ライティング技法 (Writing Strategies)			担当教員	野尻 昌明	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-B-2251	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 ビジネスコース					
求める学習成果(教育目標)					
企画力・マネジメント力の向上を通して、組織・地域・社会の課題の解決に向けて主体的に取り組む力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
メディアにおけるコピーライティングの違いを検証。各メディア特性を確認しながらメディア(ライティング)を制作し効果を学ぶ。 コピーライティングを通じて、最終的に就職・仕事に直結する企画提案書(プレゼンテーション)を制作できる執筆能力を身につける。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
プロポーザル方式に勝ち残る企画提案書のライティング能力を身につける。 地域社会、企業、組織に貢献する文章構成能力を身につける。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：コミュニケーションとコピーライティング 事前学習：コミュニケーションツールとしてのコピー(広告用の言葉・フレーズ・惹句)について理解しておくこと。(2時間) 事後学習：授業中に示された各種コピーについてのメモをレポート化しておくこと。(2時間) 第2回：コピーライティング概論(新聞・TV・ポスター・web・各種) 事前学習：授業前に各媒体から興味のあるクリエイティブ作品を選択、記録しておく。(2時間) 事後学習：授業後、媒体特性を理解し選択したクリエイティブ作品についての分析を行う。(2時間) 第3回：コピーライティングの制作実践 事前学習：前回与えられた課題について、複数のキャッチコピーと説明を用意しておく。(2時間) 事後学習：授業中制作したコピーについて、再度ブラッシュアップする。(2時間) 第4回：作品の評価・ミーティング 事前学習：選択したコピーについての十分な説明を準備しておく。(2時間) 事後学習：評価されたコピーについてさらにブラッシュアップを行う。(2時間) 第5回：コンセプトの必要性(クライアント設定～制作～効果) 事前学習：予告されたクライアントについてのコンセプト(企業・地域・広報等)を準備しておく。(2時間) 事後学習：学習したブラッシュアップ法によって、コンセプトを再度確認する。(2時間) 第6回：設定クライアント(製品)①におけるミーティング(グループワーク) 事前学習：設定クライアントについての予備知識を用意しておく。(2時間) 事後学習：設定クライアントに類似した表現方法を書籍、資料などで調査する。(2時間) 第7回：制作実践(課題1/コンセプトライティング) 事前学習：設定クライアントがコピーを必要とする理由・目的を分析しておく。(2時間) 事後学習：設定したコンセプトが正しいかどうかを、クライアント確認とともに精査する。(2時間) 第8回：制作実践(課題1/キャッチコピーライティング) 事前学習：前回与えられた課題について、複数のキャッチコピーと説明を用意しておく。(2時間) 事後学習：授業中制作したコピーについて、再度ブラッシュアップする。(2時間) 第9回：制作実践(課題1/ボディコピーライティング) 事前学習：前回与えられた課題について、複数のボディコピーと説明を用意しておく。(2時間) 事後学習：授業中制作したコピーについて、再度ブラッシュアップする。(2時間) 第10回：制作実践(課題1/ライティング発表) 事前学習：選択したコピーについての十分な説明を準備しておく。(2時間) 事後学習：評価されたコピーについてさらにブラッシュアップを行う。(2時間)

第11回：設定クライアント（製品）②におけるミーティング（グループワーク） 事前学習：設定クライアントについての予備知識を用意しておく。（2時間） 事後学習：設定クライアントに類似した表現方法を書籍、資料などで調査する。（2時間） 第12回：制作実践（課題2/コンセプトライティング） 事前学習：設定クライアントがコピーを必要とする理由・目的を分析しておく。（2時間） 事後学習：設定クライアントに類似した表現方法を書籍、資料などで調査する。（2時間） 第13回：制作実践（課題2/キャッチコピー&ボディライティング） 事前学習：与えられた課題について、複数のキャッチ&ボディコピーと説明を用意しておく。（2時間） 事後学習：授業中制作したコピーについて、再度ブラッシュアップする。（2時間） 第14回：制作実践（課題1～2についての総合企画書） 事前学習：課題1～2についてのプロセスを考慮しながら、企画骨子をまとめておく。（2時間） 事後学習：指定された企画シートに沿って内容をまとめる。（2時間） 第15回：課題1～2における企画プレゼンテーション制作準備（プレゼンテーション・発表） 事前学習：総括した企画を1枚のシートにまとめる。（2時間） 事後学習：担当教員とのディスカッション後、プレゼンテーションツールを作成しておく。（2時間） 第16回：最終試験 （※受講者数・状況により変更の場合あり）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
課題に対する活動評価・提出物・定期試験（60%）平常点（40%） 平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する。
(7) 成績評価基準
メディアを利用した実践的制作プロセス（ライティング・コンセプトメイキング・企画）のスケジュール把握とデジタルツールへの効果的・効率的な情報運用。 コミュニケーションメディアに関する企画力・制作能力を高めることができているか。 コミュニケーションの目的とする各種ベクトルを把握しながら、正しい表現能力を会得することができているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
・経歴 (広告ディレクター) ・実務経験と授業内容との関連性 (広告ディレクターとしての業務経験を有する教員が、各メディアにおけるコピーライティングの技法について演習を行う。)
(10) テキスト、参考図書
使用しない
(11) その他(受講上の注意)
他者の学ぶ時間を奪ったり、学ぶ姿勢を阻害するような行動に対しては厳しく対処します。各自、講義を通じて問題意識を醸成してください。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

メディア・デザイン I a (Media Design I a)			担当教員	吉村 正照	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CO-B-2252	2 単位	2 年前期	演習	選択	
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 ビジネスコース					
求める学習成果(教育目標)					
企画力・マネジメント力の向上を通して、組織・地域・社会の課題の解決に向けて主体的に取り組む力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
映像表現を用いたコミュニケーション方法について、知識・技術の基礎を身に付ける。メディア（テレビ、ウェブ等）や目的（PV、CM等）に応じた映像表現の基本ルールの理解と平行して、コンピュータのアプリケーションを用いた映像表現の技法を習得していく。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
現在において動画コンテンツが有効とされている理由を理解する。映像表現の基本ルール・手法について理解する。コンピュータを用いた映像表現の技法を習得する。映像表現を駆使してコミュニケーションを生み出す能力を身に付ける。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習（PBL） ☐ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：授業概要、制作ツールの紹介（実習） 事前学習（2時間）教科書を読む 事後学習（2時間）制作者の視点で映像をみるようにする 第2回：映像の原理、時間操作、カットつなぎ、ストップモーションアニメーション（実習、グループワーク） 事前学習（2時間）教科書を読む 事後学習（2時間）学んだ技法を試す 第3回：撮影の基本：カメラの設定、構図、カメラワーク、撮影実習（実習、グループワーク）※雨天時は他の回と入れ替える 事前学習（2時間）教科書を読む 事後学習（2時間）学んだ技法を試す 第4回：制作ツール Adobe Premiere Pro の基本操作：画面の操作、素材の読み込み。カットをつなぐ（実習） 事前学習（2時間）教科書を読む 事後学習（2時間）学んだ技法を試す 第5回：カットつなぎにおける様々な技法（実習） 事前学習（2時間）教科書を読む 事後学習（2時間）学んだ技法を試す 第6回：テロップのデザイン（実習） 事前学習（2時間）教科書を読む 事後学習（2時間）学んだ技法を試す 第7回：音の効果と補正（実習） 事前学習（2時間）教科書を読む 事後学習（2時間）学んだ手法を試す 第8回：ナレーションの追加（実習） 事前学習（2時間）教科書を読む 事後学習（2時間）学んだ手法を試す 第9回：企画、絵コンテ（実習） 事前学習（2時間）教科書を読む 事後学習（2時間）学んだ技法を試す 第10回：練習課題① 企画、撮影（実習、グループワーク） 事前学習（2時間）企画を練り、絵コンテにまとめる 事後学習（2時間）撮影作業を完了する

第11回：練習課題② 編集（実習） 事前学習（2時間）編集技法を復習する 事後学習（2時間）編集作業を完了する 第12回：練習課題③ プレゼンテーション（グループワーク、発表） 事前学習（2時間）プレゼンテーションを準備をする 事後学習（2時間）グループでレビューを行い、作品の完成度を高める 第13回：最終課題① 企画・撮影（課題解決型学習、フィールドワーク） 事前学習（2時間）企画を練り、絵コンテにまとめる 事後学習（2時間）撮影作業を完了する 第14回：最終課題② 編集（課題解決型学習、実習） 事前学習（2時間）編集技法を復習する 事後学習（2時間）編集作業を完了し、eラーニングに提出する 第15回：最終課題③ プレゼンテーション（課題解決型学習、発表） 事前学習（2時間）プレゼンテーションを準備をする 事後学習（2時間）作品の完成度を高め、eラーニングに提出する
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
期末課題作品（40%） 授業毎の作品（30%） 授業毎の小テスト・レポート（30%）
(7) 成績評価基準
・制作ツールの扱い方を理解し、速く正確に作業ができたか。 ・映像表現の基本を理解し活用できたか、 ・目的や対象を想定し、観る人の側に立った映像表現ができたか。 ・映像表現の意図を言語化して説明できたか。
(8) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
・経歴 (WEBデザイナー) ・実務経験と授業内容との関連性 (WEBデザイナーとしての業務経験を有する教員が、映像表現の技法について演習を行う。)
(10) テキスト、参考図書
テキスト：Rec Plus「センスがUPする 動画編集の教科書」ビー・エヌ・エヌ、2023年 参考図書：授業内で紹介する
(11) その他（受講上の注意）
授業を欠席した場合は、eラーニングにて授業内容を確認し次回の授業までに課題を提出してください。 技術を習得するためには反復練習が欠かせません。短時間でも構わないので、1～2日に一度は制作ツールにふれるようにしましょう。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

メディア・デザイン I b (Media Design I b)			担当教員	吉村 正照	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CO-B-2253	2 単位	2 年前期	演習	選択	
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 ビジネスコース					
求める学習成果(教育目標)					
企画力・マネジメント力の向上を通して、組織・地域・社会の課題の解決に向けて主体的に取り組む力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
ウェブメディアにおけるコミュニケーション方法について、知識・技術の基礎を身に付ける。ウェブメディアの理解と共に、UIデザインの技法(情報設計、プロトタイプング)やHTML/CSSによるWebページ制作の技法を習得していく。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
現在におけるウェブメディアの役割を理解する。ウェブサイトの構築手法および技法を習得する。ウェブを介してコミュニケーションを生み出す能力を身に付ける。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：授業概要、制作ツールの紹介(実習) 事前学習(2時間) 普段の生活でよく利用するウェブサイトを10個ピックアップする 事後学習(2時間) 練習用の制作環境を整える 第2回：情報設計、ワイヤーフレーム(実習) 事前学習(2時間) 配布資料を読む 事後学習(2時間) 学んだ技法を試す 第3回：UIパーツの作成(実習) 事前学習(2時間) 配布資料を読む 事後学習(2時間) 学んだ技法を試す 第4回：UIパーツのレイアウト(実習) 事前学習(2時間) 配布資料を読む 事後学習(2時間) 学んだ技法を試す 第5回：色スタイル・文字スタイルの管理、UIパーツの管理(実習) 事前学習(2時間) 配布資料を読む 事後学習(2時間) 学んだ技法を試す 第6回：レスポンシブデザイン(実習) 事前学習(2時間) 配布資料を読む 事後学習(2時間) 学んだ技法を試す 第7回：コードエディタやWebブラウザの基本操作、Webページで扱う画像の形式(実習) 事前学習(2時間) 配布資料を読む 事後学習(2時間) コードエディタの使い方を復習する 第8回：HTMLの書き方① 見出し、本文、リンク、メディアの埋め込み(実習) 事前学習(2時間) 配布資料を読む 事後学習(2時間) コードの書き方を復習する 第9回：HTMLの書き方② ヘッダー、フッター、ナビゲーション、セクション、リスト、表、フォーム(実習) 事前学習(2時間) 配布資料を読む 事後学習(2時間) コードの書き方を復習する 第10回：CSSの書き方① 文字、色(実習) 事前学習(2時間) 配布資料を読む 事後学習(2時間) コードの書き方を復習する 第11回：CSSの書き方② ボックスモデル(実習) 事前学習(2時間) 配布資料を読む 事後学習(2時間) コードの書き方を復習する

第12回：CSSの書き方③ レイアウト（実習） 事前学習（2時間）配布資料を読む 事後学習（2時間）コードの書き方を復習する 第13回：CSSの書き方④ メディアクエリ（実習） 事前学習（2時間）配布資料を読む 事後学習（2時間）コードの書き方を復習する 第14回：最終課題① Webページ制作（課題解決型学習、実習） 事前学習（2時間）最終課題について先行事例を調査する 事後学習（2時間）期日までに課題作品を完成し、eラーニングに提出する 第15回：最終課題② プレゼンテーション（課題解決型学習、発表） 事前学習（2時間）プレゼンテーションを準備をする 事後学習（2時間）作品の完成度を高め、eラーニングに提出する
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
期末課題作品（40%） 授業毎の作品（30%） 授業毎の小テスト・レポート（30%）
(7) 成績評価基準
・制作ツールの扱い方を理解し、速く正確に作業ができたか。 ・UIデザインの基本を理解し活用できたか、 ・目的や対象を想定し、観る人の側に立ったUIデザインができたか。 ・UIデザインの意図を言語化して説明できたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
・経歴 (WEBデザイナー) ・実務経験と授業内容との関連性 (WEBデザイナーとしての業務経験を有する教員が、WEBサイト制作の技法について演習を行う。)
(10) テキスト、参考図書
テキスト：使用しない 参考図書：授業内で紹介する
(11) その他(受講上の注意)
授業を欠席した場合は、eラーニングにて授業内容を確認し次回の授業までに課題を提出してください。 技術を習得するためには反復練習が欠かせません。短時間でも構わないので、1～2日に一度は制作ツールにふれるようにしましょう。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

統計学 a (Statistics a)			担当教員	織田 暁子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-S-2256	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 社会・文化コース					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
この講義では、量的なデータを読み、正しく理解するために必要な統計学の知識について、基礎から説明していく。単純集計、度数分布、代表値、クロス集計などの記述統計データの読み方や、グラフの読み方、また、それらの計算や作成のしかた、さまざまな質的データの読み方と基本的なまとめ方を学ぶことで、官庁統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文を読めるようにする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・必要に応じて、官庁統計を探し、それを読みこなせるようになる。 ・基礎的な統計量について理解できるようになる。 ・データをグラフなどを用いて要約できるようになる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(パソコンを用いた演習)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 事前学習：テキストの第1章を読み、疑問点などをまとめておく(2時間) 事後学習：授業内容を復習する(2時間) 第2回：統計データとはなにか 事前学習：テキストの第2章を読み、疑問点などをまとめておく(2時間) 事後学習：授業内容を復習する(2時間) 第3回：統計データの入手方法 官庁統計を利用する 事前学習：テキストの第3章を読み、疑問点などをまとめておく(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、テキストの第3章の「課題」に取り組む(2時間) 第4回：統計データの読み方(1) 単純集計・度数分布 事前学習：テキストの第4章を読み、疑問点などをまとめておく(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、テキストの第4章の「課題」に取り組む(2時間) 第5回：統計データの読み方(2) 基本統計量：代表値・分散・標準偏差 事前学習：テキストの第5章を読み、疑問点などをまとめておく(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、テキストの第5章の「課題」に取り組む(2時間) 第6回：小テスト 事前学習：これまでの授業で学んだ内容について復習する(2時間) 事後学習：これまでの授業で学んだ内容について復習する(2時間) 第7回：統計データをグラフにする(1) 円グラフ、棒グラフ、折れ線グラフ 事前学習：テキストの第7章(前半)を読み、疑問点などをまとめておく(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、テキストの第7章の「課題」に取り組む(2時間) 第8回：統計データをグラフにする(2) ヒストグラム、散布図 事前学習：テキストの第7章(後半)を読み、疑問点などをまとめておく(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、テキストの第7章の「課題」に取り組む(2時間) 第9回：関連性を探る(1) 相関係数 事前学習：テキストの第8章を読み、疑問点などをまとめておく(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、テキストの第8章の「課題」に取り組む(2時間) 第10回：関連性を探る(2) クロス集計表 事前学習：テキストの第11章を読み、疑問点などをまとめておく(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、テキストの第11章の「課題」に取り組む(2時間)

第11回：関連性を探る（3） クロス集計表 事前学習：テキストの第12章を読み、疑問点などをまとめておく（2時間） 事後学習：授業内容を復習し、テキストの第12章の「課題」に取り組む（2時間） 第12回：小テスト 事前学習：これまでの授業で学んだパソコンの操作法について復習する（2時間） 事後学習：これまでの授業で学んだ内容について復習する（2時間） 第13回：相関係数と因果関係 みかけの相関に騙されないために 事前学習：テキストの第10章を読み、疑問点などをまとめておく（2時間） 事後学習：授業内容を復習し、テキストの第10章の「課題」に取り組む（2時間） 第14回：質的データのまとめ方 事前学習：テキストの第13章を読み、疑問点などをまとめておく（2時間） 事後学習：授業内容を復習し、テキストの第13章の「課題」に取り組む（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：テキストの第14章を読み、疑問点などをまとめておく（2時間） 事後学習：授業内容を復習し、テキストの第14章の「課題」に取り組む（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（50%） 平常点・小テスト・課題提出（50%） （平常点は授業への参加状況・受講態度を総合的に判断します）
(7) 成績評価基準
・必要に応じて、適切な官庁統計を探しているか。また、それを読みこなせているか。 ・基礎的な統計量について理解できているか。 ・データをグラフなどを用いて要約できるようになっているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
『社会調査のための統計データ分析』 廣瀬毅士・寺島拓幸 オーム社 2010年
(11) その他(受講上の注意)
この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する、社会調査士資格認定科目【C】〔基本的な資料とデータの分析に関する科目〕に相当する。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

統計学 b (Statistics b)			担当教員	禿 寿	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-S-2257	2 単位	2 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 社会・文化コース					
求める学習成果(教育目標)					
現代社会・文化における諸問題に主体的に取り組み、社会調査や情報処理の技術を活用して共生社会・地方文化の構築に資する力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
社会調査の統計的データをまとめたり分析したりするために必要な基礎的統計学を学ぶ。まず推測統計の論理として確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用、抽出法の理論を学び、その後変数間の関連を表す統計量として、クロス表の統計量、相関係数、回帰分析についての基礎を学ぶ。なお、本授業では、すべての授業会において実技を行う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ 統計的データをまとめることができる。 ・ 推測統計に必要な知識と方法を理解している。 ・ 変数間の関係性を表す統計量の知識と方法を持っている。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(パソコンを用いた演習)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 事前学習：テキスト第1章・第2章を読み、疑問点を確認しておくこと(2時間) 事後学習：社会調査のデータと変数に関するそれぞれの名称を確認しておくこと(2時間) 第2回：記述統計と推測統計との違い 事前学習：テキスト第3章・第4章を読み、疑問点を確認しておくこと(2時間) 事後学習：記述統計と推測統計の違いについて確認する(2時間) 第3回：部分から全体を推測する 社会を知るための諸条件 事前学習：テキスト第9章を読み、疑問点を確認しておくこと(2時間) 事後学習：推測統計が可能な条件について確認する(2時間) 第4回：確率分布について(1) 二項分布・ポアソン分布 事前学習：二項分布・ポアソン分布とは何か、調べておくこと(2時間) 事後学習：授業で学んだ分布の具体例について確認しておくこと(2時間) 第5回：確率分布について(2) 正規分布・t分布 事前学習：正規分布・t分布とは何か、調べておくこと(2時間) 事後学習：授業で学んだ分布の具体例について確認しておくこと(2時間) 第6回：確率分布について(3) カイ2乗分布・F分布 事前学習：カイ2乗分布・F分布とは何か、調べておくこと(2時間) 事後学習：授業で学んだ分布の具体例について確認しておくこと(2時間) 第7回：推定の論理(1) 中心極限定理 事前学習：テキスト第10章を読み、疑問点を確認しておくこと(2時間) 事後学習：授業の内容に関連する練習問題や統計ソフトを用いた分析に取り組む(2時間) 第8回：推定の論理(2) 信頼区間 事前学習：テキスト第11章を読み、疑問点を確認しておくこと(2時間) 事後学習：授業の内容に関連する練習問題や統計ソフトを用いた分析に取り組む(2時間) 第9回：推定の論理(3) 帰無仮説の考え方 事前学習：テキスト第11章を読み、疑問点を確認しておくこと(2時間) 事後学習：授業の内容に関連する練習問題や統計ソフトを用いた分析に取り組む(2時間) 第10回：検定の論理(1) t検定 事前学習：テキスト第13章を読み、疑問点を確認しておくこと(2時間) 事後学習：授業の内容に関連する練習問題や統計ソフトを用いた分析に取り組む(2時間)

第11回：検定の論理（2） カイ二乗検定 事前学習：テキスト第12章を読み、疑問点を確認しておくこと（2時間） 事後学習：授業の内容に関連する練習問題や統計ソフトを用いた分析に取り組む（2時間） 第12回：相関係数 事前学習：テキスト第5章を読み、疑問点を確認しておくこと（2時間） 事後学習：授業の内容に関連する練習問題や統計ソフトを用いた分析に取り組む（2時間） 第13回：回帰分析 事前学習：テキスト第6章を読み、疑問点を確認しておくこと（2時間） 事後学習：授業の内容に関連する練習問題や統計ソフトを用いた分析に取り組む（2時間） 第14回：回帰係数の検定 事前学習：テキスト第8章を読み、疑問点を確認しておくこと（2時間） 事後学習：授業の内容に関連する練習問題や統計ソフトを用いた分析に取り組む（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：これまでの授業内容を復習し、疑問点や不明点を確認しておくこと（2時間） 事後学習：授業の内容に関連する練習問題や統計ソフトを用いた分析に取り組む（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（50%）、授業中の小レポートと受講態度（50%）
(7) 成績評価基準
・統計的データをまとめることができるか。 ・推測統計に必要な知識と方法を理解しているか。 ・変数間の関係性を表す統計量の知識と方法を持っているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
担当教員から適宜指示する。 参考図書 神林博史「社会調査のための統計学 ―生きた実例で理解する―（現場の統計学）」2011年、技術評論社
(11) その他(受講上の注意)
この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する、社会調査士資格認定科目【D】〔社会調査に必要な統計学に関する科目〕に相当する。 数学的知識を必要とするが、全員あまり数学的知識を持っていないものとして授業をすすめる。 なお、「統計学a（旧カリ：社会調査方法論）」で学ぶ記述統計学の知識を前提とする。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

フィールドワーク技法 (Fieldwork Methods)			担当教員	井上 寛	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CO-S-2258	2 単位	2 年後期	演習	選択	
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 社会・文化コース					
求める学習成果(教育目標)					
現代社会・文化における諸問題に主体的に取り組み、社会調査や情報処理の技術を活用して共生社会・地方文化の構築に資する力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
この講義では、聞き取り調査や参与観察法、非参与観察法に加え、活字や映像といったメディア・テキスト（コンテンツ）に関する質的データの収集・分析方法を実例を交えて学び、さまざまな調査の演習をおこなう。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
質的データの収集や分析方法を理解したうえで、実際にインタビュー調査を企画し、実施、報告をおこなうことができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☒ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を購読すること（2時間） 第2回：量的調査の限界 事前学習：前回のノートを見直し、参考文献を読んでおくこと（2時間） 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を購読すること（2時間） 第3回：質的データとはなにか？ 事前学習：前回のノートを見直し、参考文献を読んでおくこと（2時間） 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を購読すること（2時間） 第4回：質的調査の手法（1）インタビュー調査 事前学習：前回のノートを見直し、参考文献のを読んでおくこと（2時間） 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を購読すること。また、インタビューの手法についても理解しておくこと（2時間） 第5回：質的調査の手法（2）参与観察法 事前学習：前回のノートを見直し、参考文献を読んでおくこと（2時間） 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を購読すること。（2時間） 第6回：質的調査の手法（3）非参与観察法 事前学習：前回のノートを見直し、参考文献を読んでおくこと（2時間） 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を購読すること（2時間） 第7回：質的調査の手法（4）内容分析（活字メディア） 事前学習：前回のノートを見直し、参考文献を読んでおくこと（2時間） 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を購読すること（2時間） 第8回：質的調査の手法（5）内容分析（映像メディア） 事前学習：前回のノートを見直し、参考文献を読んでおくこと（2時間） 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を購読すること（2時間） 第9回：インタビューをおこなう（1）インタビューを企画する 事前学習：前回のノートを見直し、参考文献を読んでおくこと（2時間） 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、フィールドワークに関する書物を図書館等で調べ、精読すること。また、フィールドワークの方向性について議論し、検討すること（2時間）

第10回：インタビューをおこなう（2）対象者を決める 事前学習：前回のノートを見直し、参考文献を読んでおくこと（2時間） 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、調査の最終準備を行うこと（2時間） 第11回：インタビューをおこなう（3）インタビューをおこなう 事前学習：前回のノートを見直し、インタビュー法の手順などを覚えてくること（2時間） 事後学習：インタビューで得られたデータを記録し、グループ内で共有できるようにすること（2時間） 第12回：調査結果をまとめる（1） 事前学習：前回のノートを見直し、参考文献①②を読んでおくこと。（2時間） 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、グループ内でデータ内容やレポートテーマ等を批判的に検討すること（2時間） 第13回：調査結果をまとめる（2） 事前学習：前回のデータ分析をもとに、講義内で必要な資料収集やデータの精査をすすめること（2時間） 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、グループ内で具体的な分析をおこなった上で、考察を行うこと（2時間） 第14回：質的調査の問題点と質的調査の限界 事前学習：これまでのノートや調査データを見直し、参考文献①②の該当箇所を読んでおくこと（2時間） 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を購読すること（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：前回のノートを見直し、これまで学んだ内容、調査で得られたデータなどを整理すること（2時間） 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、全ての講義内で講じられた内容を整理し、理解するように努めること（4時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポート（50％） 平常点（50％） ・レポートは別途提示した条件（期限・様式・研究倫理）を守らない場合には評価の対象としません。 ・平常点は授業への参加状況、受講態度、提出物などの内容等を総合して判断します。
(7) 成績評価基準
①質的データの収集および分析方法を理解しているか ②質的調査、とりわけインタビュー調査を企画・実施し、その結果を報告することができるか
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☐その他 5) その他（講義内での討論・議論などに対するフィードバックについて） ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☒その他（担当教員のC311研究室にて対応）
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
<テキスト> 特定のテキストは使用しません。必要に応じて授業時に資料を配布します。 <参考図書> 大谷信介・後藤範章・小松洋・木下栄二編著（2023）『最新・社会調査へのアプローチ——論理と方法』ミネルヴァ書房 ※旧版の『新・社会調査へのアプローチ——論理と方法』を所持している場合はそちらでも可

(11) その他(受講上の注意)

他の受講生に迷惑がかかる行為（私語・遅刻・無断退席等）は禁止します。
受講生の理解度や興味・関心にあわせて授業計画には変更を加える可能性があります。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

社会と文化 (Society and Culture)			担当教員	織田 暁子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CO-S-2262	2 単位	2 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 社会・文化コース					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
この講義は、主に現代日本における社会と文化に関する論文を読み、社会と文化について論じるために必要な社会学に関する基礎的な理解を目指す。毎回の講義をとおして、論文を読み、社会学の基礎知識や、社会調査データを用いた論文の構造を理解し、社会学・社会調査の基礎体力を習得することを目的とする。なお、読む論文の順序は入れ替わることがある。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
社会調査のスキルや知識を身に付け、社会学の概念を理解したうえで、現代社会を分析する視角として用いることができるようになる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 事前学習：授業前にシラバスを読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：課題文献を読む。(2時間) 第2回：論文講読方法の指導、担当者決定 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で配布されたレジュメを振り返り、授業内容を復習する(2時間) 第3回：【講義】社会・文化を学ぶための基礎知識：社会学と社会調査について 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で配布されたレジュメを振り返り、授業内容を復習する(2時間) 第4回：【講義】社会・文化を学ぶための基礎知識：論文を批判的に読むことについて 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で配布されたレジュメを振り返り、授業内容を復習する(2時間) 第5回：論文報告(1)(2) 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめる。発表担当者は準備をする(2時間) 事後学習：授業で配布されたレジュメを振り返り、授業内容を復習する(2時間) 第6回：論文報告(3)(4) 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめる。発表担当者は準備をする(2時間) 事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施する。また授業内容を復習する(2時間) 第7回：論文報告(5)(6) 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめる。発表担当者は準備をする(2時間) 事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施する。また授業内容を復習する(2時間) 第8回：論文報告(7)(8) 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめる。発表担当者は準備をする(2時間) 事後学習：授業で配布されたレジュメを振り返り、授業内容を復習する(2時間) 第9回：論文報告(9)(10) 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめる。発表担当者は準備をする(2時間) 事後学習：授業で配布されたレジュメを振り返り、授業内容を復習する(2時間) 第10回：論文報告(11)(12) 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で配布されたレジュメを振り返り、授業内容を復習する(2時間) 第11回：論文報告(13)(14) 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめる。発表担当者は準備をする(2時間) 事後学習：授業で配布されたレジュメを振り返り、授業内容を復習する(2時間)

第12回：論文報告 (15) (16) 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめる。発表担当者は準備をする (2時間) 事後学習：授業で配布されたレジュメを振り返り、授業内容を復習する (2時間) 第13回：論文報告 (17) (18) 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめる。発表担当者は準備をする (2時間) 事後学習：授業で配布されたレジュメを振り返り、授業内容を復習する (2時間) 第14回：【講義】 社会・文化を学ぶための知識とスキル 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめる。発表担当者は準備をする (2時間) 事後学習：授業で配布されたレジュメを振り返り、授業内容を復習する (2時間) 第15回：まとめ 事前学習：授業前に14回までを振り返り、質問項目をまとめておく。 (2時間) 事後学習：授業で配布されたレジュメを振り返り、授業内容を復習する (2時間)
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レジュメの作成 (30%)、プレゼンテーション (50%)、ディスカッションへの参加 (20%)
(7) 成績評価基準
社会調査のスキルや知識を身に付けているか。 知識や社会学の概念を理解し、現代社会の分析ができるようになったか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要な場合は講義内で指示します。
(11) その他(受講上の注意)
講義で使用する論文は、保管場所を別途指示します。 必ず各自印刷の上で論文を読み、講義時に持参してください。 初回の授業でオリエンテーションを実施します。履修希望者は、必ず第1回：目の授業に出席してください。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

社会と思想 (Society and Thought)			担当教員	橋本 武志	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-S-2263	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 社会・文化コース					
求める学習成果(教育目標)					
現代社会・文化における諸問題に主体的に取り組み、社会調査や情報処理の技術を活用して共生社会・地方文化の構築に資する力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
社会思想史のうち、社会や国家の成立・機能などについて、哲学や社会学の領域で提唱されてきた基本的な学説について講義する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ 社会思想のおおよその流れについて理解している。 ・ 権利、自由、平等など社会思想のキーワードを、通り一遍ではなく自分の言葉で説明できる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(ペアワーク)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 事前学習：「社会思想」という語について、参考図書などをもとに調べておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容について、授業資料をもとに自分なりに纏めておくこと(2時間) 第2回：何が等しければ「平等」なのか？ 事前学習：「配分の正義」という語について、参考図書などをもとに調べておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容について、授業資料をもとに自分なりに纏めておくこと(2時間) 第3回：生まれながらの権利はあるか？～自然権と自然法1 事前学習：「自然法」という語について、参考図書などをもとに調べておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容について、授業資料をもとに自分なりに纏めておくこと(2時間) 第4回：生まれながらの権利はあるか？～自然権と自然法2 事前学習：「自然権」という語について、参考図書などをもとに調べておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容について、授業資料をもとに自分なりに纏めておくこと(2時間) 第5回：私たちは自由なのか？1～哲学的「自由」 事前学習：「決定論」という語について、参考図書などをもとに調べておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容について、授業資料をもとに自分なりに纏めておくこと(2時間) 第6回：私たちは自由なのか？2～社会的「自由」 事前学習：「自由」という語について、参考図書などをもとに調べておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容について、授業資料をもとに自分なりに纏めておくこと(2時間) 第7回：社会はどのように成立したか1～社会契約論1 事前学習：「自然状態」という語について、参考図書などをもとに調べておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容について、授業資料をもとに自分なりに纏めておくこと(2時間) 第8回：社会はどのように成立したか2～社会契約論2 事前学習：「一般意志」という語について、参考図書などをもとに調べておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容について、授業資料をもとに自分なりに纏めておくこと(2時間) 第9回：社会はどのように成立したか3～社会実在論 事前学習：「集合意識」という語について、参考図書などをもとに調べておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容について、授業資料をもとに自分なりに纏めておくこと(2時間) 第10回：近現代社会の問題1～宗教と労働 事前学習：「エートス」という語について、参考図書などをもとに調べておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容について、授業資料をもとに自分なりに纏めておくこと(2時間) 第11回：近現代社会の問題2～一次元化とフラット化 事前学習：「フランクフルト学派」という語について、参考図書などをもとに調べておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容について、授業資料をもとに自分なりに纏めておくこと(2時間)

第12回：近現代社会の問題 3～理性の道具化 事前学習：「啓蒙」という語について、参考図書などをもとに調べておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容について、授業資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間） 第13回：近現代社会の問題 4～管理と排除（ペアワーク） 事前学習：「生政治」という語について、参考図書などをもとに調べておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容について、授業資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間） 第14回：近現代社会の問題 5～民主主義の危機 事前学習：「公共圏」という語について、参考図書などをもとに調べておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容について、授業資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：これまでの授業について、分からない部分の質問を考えておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容について、授業資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験70% 平常点30%（平常点は出席状況や受講態度などを総合して評価する）
(7) 成績評価基準
・社会思想のおおよその流れについて理解しているか。 ・権利、自由、平等など社会思想のキーワードを、通り一遍ではなく自分の言葉で説明できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキストは特に使用しない。参考文献一覧は、eラーニングコースの2回目の授業回に掲載する。 ここでは以下の参考書のみ挙げておく。 坂本達哉『社会思想の歴史』名古屋大学出版会 2014年 今村・川崎・三島編『岩波 社会思想事典』岩波書店 2008年 國分功一郎『近代政治哲学—自然・主権・行政』ちくま新書 2015年
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英語音声学 (English Phonetics)			担当教員	矢橋 知枝	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-I-2267	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 国際英語コース					
求める学習成果（教育目標）					
異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
英語の発音のメカニズムを理解し、英語音声の基礎的な知識を得る。テキスト附属の音声を繰り返し聴いて練習することで、音声器官の仕組みと個々の音の発音の仕方をリンクさせる。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
英語の発音のメカニズムを理解し、英語音声の基礎的な知識を得るとともに、正しい発音でコミュニケーションをとることができ、また、聞き取りができることを目指す。中学校および高等学校での英語教育において必要な音声学的知見を身につける。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション(CALL演習室の機器操作および英語教育ソフトガイダンス)(実技) 事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しを行い、CALL演習室で付属CDを用いて復習をすること(2時間) 第2回：現代英語と音声学(英語の方言・綴り字と発音・音素)(ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しを行い、CALL演習室で付属CDを用いて復習をすること(2時間) 第3回：子音(1)子音の特徴(子音の分類基準・英語の子音)(実技) 事前学習：事前にテキストを読み、CALL演習室で付属CDを用いて予習をすること(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しを行い、CALL演習室で付属CDを用いて復習をすること(2時間) 第4回：子音(2)閉鎖音・摩擦音①(気音・開放の省略・無声化)(実技) 事前学習：事前にテキストを読み、CALL演習室で付属CDを用いて予習をすること(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しを行い、CALL演習室で付属CDを用いて復習をすること(2時間) 第5回：子音(3)摩擦音②・破擦音(調音位置・無声化・母音との組み合わせ)(実技) 事前学習：事前にテキストを読み、CALL演習室で付属CDを用いて予習をすること(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しを行い、CALL演習室で付属CDを用いて復習をすること(2時間) 第6回：子音(4)鼻音・側音・半母音(日本語の「ン」・明るいLと暗いL・無声化)(実技) 事前学習：事前にテキストを読み、CALL演習室で付属CDを用いて予習をすること(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しを行い、CALL演習室で付属CDを用いて復習をすること(2時間) 第7回：母音(1)母音の特徴(母音の分類基準・基本母音)(実技) 事前学習：事前にテキストを読み、CALL演習室で付属CDを用いて予習をすること(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しを行い、CALL演習室で付属CDを用いて復習をすること(2時間) 第8回：母音(2)短母音(母音記号・抑止母音)(実技) 事前学習：事前にテキストを読み、CALL演習室で付属CDを用いて予習をすること(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しを行い、CALL演習室で付属CDを用いて復習をすること(2時間) 第9回：母音(3)二重母音(母音記号・開放母音)(実技) 事前学習：事前にテキストを読み、CALL演習室で付属CDを用いて予習をすること(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しを行い、CALL演習室で付属CDを用いて復習をすること(2時間) 第10回：母音(4)弱母音(日本語の弱母音・音色)(実技) 事前学習：事前にテキストを読み、CALL演習室で付属CDを用いて予習をすること(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しを行い、CALL演習室で付属CDを用いて復習をすること(2時間) 第11回：音の連続(音節・きこえ度・子音結合・単語間の連続・脱落・同化)(実技) 事前学習：事前にテキストを読み、CALL演習室で付属CDを用いて予習をすること(2時間) 事後学習：テキスト等の見直しを行い、CALL演習室で付属CDを用いて復習をすること(2時間)

第12回：アクセント（語・接辞・複合語・句・文）（実技） 事前学習：事前にテキストを読み、CALL演習室で付属CDを用いて予習すること（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しを行い、CALL演習室で付属CDを用いて復習すること（2時間） 第13回：リズム（音節・アクセント・アクセントの移動）（実技） 事前学習：事前にテキストを読み、CALL演習室で付属CDを用いて予習すること（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しを行い、CALL演習室で付属CDを用いて復習すること（2時間） 第14回：イントネーション（音調の構成・種類・用法・特殊なイントネーション）（実技） 事前学習：事前にテキストを読み、CALL演習室で付属CDを用いて予習すること（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しを行い、CALL演習室で付属CDを用いて復習すること（2時間） 第15回：まとめ（実技） 事前学習：事前にテキストを読み、CALL演習室で付属CDを用いて予習すること（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しを行い、CALL演習室で付属CDを用いて復習すること（2時間） 第16回：定期試験 予習・復習として、教科書付属のCDをよく聞き、何度も読む練習をし、モデルと同じような発音ができるよう、心がける。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（50％） 授業内レポート（30％） 平常点（20％） （平常点は、授業への参加状況・受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
英語発音の仕組みを理解し、音声学の基礎的な知識を得られたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
【指定教科書】 竹林滋・清水あつ子・斎藤弘子 『改訂新版 初級英語音声学』 大修館 2013年 【参考図書】 深沢俊昭 『改訂版 英語の発音パーフェクト学習事典』 アルク 2015年
(11) その他(受講上の注意)
・この授業の履修希望者は、必ず第1回から出席する。なお、第1回を欠席した者で「公認欠席届」を提出できる場合のみ、第2回からの出席を認める。 ・遅刻3回で欠席1回とみなす。 ・必ず英和辞書（電子辞書可）を持参する。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

オーラル・コミュニケーションⅡa (Oral CommunicationⅡa)			担当教員	M ハウカ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-I-2270	2 単位	2 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 国際英語コース					
求める学習成果(教育目標)					
異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる能力と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
最初に、テキストのトピック内の記事を読み、英文を読む訓練を行う。続いて語彙の確認や記事の背景を理解し、自分の意見やアイデアを整理する。各ユニットの最後に討論を行う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
自分の意見やアイデアを英語で話すだけでなく、他人の意見やアイデアを英語で聞いて理解し、さらに、その意見やアイデアに対して建設的な考えを英語で発言できることを目指す。また、物事を批評する力を身につけることを目指す。これにより、中学校・高校で英語を教える際の、特に読解・スピーキング能力の向上を目指す。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ナウル島の問題(食べ物の選択はどんな影響を与えますか。聞く、読む)(グループワーク 討議) 事前学習：授業前にテキストの第2章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたナウル島の問題について、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第2回：ナウル島の問題(食べ物の選択はどんな影響を与えますか。書く、話す)(討議 発表) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第2章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたナウル島の問題について、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第3回：情熱(情熱とは何ですか。聞く、読む)(グループワーク 討議) 事前学習：授業前にテキストの第3章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された情熱について、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第4回：情熱(情熱とは何ですか。書く、話す)(討議 発表) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第3章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された情熱について、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第5回：良い教師の影響(良い教師はどんな影響を与えますか。聞く、読む)(グループワーク 討議) 事前学習：授業前にテキストの第4章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された良い教師の影響について、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第6回：良い教師の影響(良い教師はどんな影響を与えますか。書く、話す)(討議 発表) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第4章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された良い教師の影響について、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第7回：復習(第1回～6回の内容についての復習)(グループワーク 討議 発表) 事前学習：授業前にテキストの第2,3,4ユニットを復習する。(2時間) 事後学習：テキストの第2,3,4ユニットを復習して、わからないところをノートに書くこと。(2時間) 第8回：ユーモアと笑い(何が面白いですか。聞く、読む)(グループワーク 討議) 事前学習：授業前にテキストの第5章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたユーモアと笑いについて、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第9回：ユーモアと笑い(何が面白いですか。書く、話す)(討議 発表) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第5章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたユーモアと笑いについて、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第10回：デートの心得(デートのルールは何ですか。聞く、読む)(グループワーク 討議) 事前学習：授業前にテキストの第6章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたデートの心得について、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第11回：デートの心得(デートのルールは何ですか。書く、話す)(討議 発表) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第6章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたデートの心得について、ノートにまとめておくこと。(2時間)

第12回：栄養と運動（栄養と運動について。聞く、読む）（グループワーク 討議） 事前学習：授業前にテキストの第7章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で課された栄養と運動について、ノートにまとめておくこと。（2時間） 第13回：栄養と運動（栄養と運動について。書く、話す）（討議 発表） 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第7章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で課された栄養と運動について、ノートにまとめておくこと。（2時間） 第14回：脳の異なる層（脳の異なる層について。聞く、読む）（グループワーク 討議） 事前学習：授業前にテキストの第8章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で課された脳の異なる層について、ノートにまとめておくこと。（2時間） 第15回：脳の異なる層（脳の異なる層について。書く、話す）（討議 発表） 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第8章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業前にテキストの第5,6,7,8ユニットを復習する。（2時間） 定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
積極的な授業態度及び課題（45%）、定期試験（55%）
(7) 成績評価基準
自分の意見やアイデアを英語で話すだけでなく、他人の意見やアイデアを英語で聞いて理解し、さらにその意見やアイデアに対して建設的な考えを英語で発言できるか。 物事を批評する力を身につけているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト Shimaoka, Takashi and Berman, Jonathan. Life Topics: Deeper Connections (総合英語ライフトピックス3). 2016. NAN' UN-DO. ISBN 978-4-523-17823-1 （島岡丘, ジョナサン・バーマン著 出版社：南雲堂 2016） 参考図書 中学校学習指導要領（平成29年3月公示 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月公示 文部科学省）
(11) その他(受講上の注意)
Self-motivation and effort are essential for the successful completion of this course. You will be recorded as late if you are over 6 to 20 minutes late for class. If you are late three times, it will be recorded as an unexcused absence. Any unexcused absences will result in a zero for any assignments, quizzes, or tests missed during that class.
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

オーラル・コミュニケーションⅡb (Oral CommunicationⅡb)			担当教員	M ハウカ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-I-2271	2 単位	2 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 国際英語コース					
求める学習成果(教育目標)					
異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる能力と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容	
最初にテキストのトピック内の記事を読み、英文を読む訓練を行う。続いて語彙の確認や記事の背景を理解し、自分の意見やアイデアを整理する。各ユニットの最後に討論を行う。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
自分の意見やアイデアを英語で話すだけでなく、他人の意見やアイデアを英語で聞いて理解し、さらにその意見やアイデアに対して建設的な考えを英語で発言できることを目指す。また物事を批評する力を身につけることを目指す。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：テクノロジー中毒(テクノロジーの弱点。聞く、読む)(グループワーク 討議) 事前学習：授業前にテキストの第9章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたテクノロジー中毒について、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第2回：テクノロジー中毒(テクノロジーの弱点。書く、話す)(討議 発表) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第9章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたテクノロジー中毒について、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第3回：ミラーニューロン(ミラーニューロンとは何ですか。聞く、読む)(グループワーク 討議) 事前学習：授業前にテキストの第10章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたミラーニューロンについて、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第4回：ミラーニューロン(ミラーニューロンとは何ですか。書く、話す)(討議 発表) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第10章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたミラーニューロンについて、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第5回：幸福追求の科学(人間はどうやって幸せになるのか。聞く、読む)(グループワーク 討議) 事前学習：授業前にテキストの第11章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された幸福追求の科学について、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第6回：幸福追求の科学(人間はどうやって幸せになるのか。書く、話す)(討議 発表) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第11章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された幸福追求の科学について、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第7回：復習(第1回～6回の内容についての復習)(グループワーク 討議 発表) 事前学習：授業前にテキストの第9,10,11ユニットを復習する。(2時間) 事後学習：テキストの第9,10,11ユニットを復習して、わからないところをノートに書くこと。(2時間) 第8回：糖分依存症(糖分が多くなるとどのような影響が現れるのか。聞く、読む)(グループワーク 討議) 事前学習：授業前にテキストの第12章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された糖分依存症について、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第9回：糖分依存症(糖分が多くなるとどのような影響が現れるのか。書く、話す)(討議 発表) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第12章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された糖分依存症について、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第10回：結婚の進化(結婚の進化について。聞く、読む)(グループワーク 討議) 事前学習：授業前にテキストの第13章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された結婚の進化について、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第11回：結婚の進化(結婚の進化について。書く、話す)(討議 発表) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第13章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された結婚の進化について、ノートにまとめておくこと。(2時間)	

第12回：アクティブリスニング（アクティブリスニングについて。聞く、読む）（グループワーク 討議） 事前学習：授業前にテキストの第14章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で課されたアクティブリスニングについて、ノートにまとめておくこと。（2時間） 第13回：アクティブリスニング（アクティブリスニングについて。書く、話す）（討議 発表） 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第14章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で課されたアクティブリスニングについて、ノートにまとめておくこと。（2時間） 第14回：男性の脳、女性の脳（男性の脳、女性の脳について。聞く、読む）（グループワーク 討議） 事前学習：授業前にテキストの第15章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で課された男性の脳、女性の脳について、ノートにまとめておくこと。（2時間） 第15回：男性の脳、女性の脳（男性の脳、女性の脳について。書く、話す）（討議 発表） 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第15章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業前にテキストの第12,13,14,15ユニットを復習する。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
積極的な授業態度及び課題（45%）、定期試験（55%）
(7) 成績評価基準
自分の意見やアイデアを英語で話すだけでなく、他人の意見やアイデアを英語で聞いて理解し、さらにその意見やアイデアに対して建設的な考えを英語で発言できるか。 物事を批評する力を身につけているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト Shimaoka, Takashi and Berman, Jonathan. Life Topics: Deeper Connections (総合英語ライフトピックス3). 2016. NAN' UN-DO. ISBN 978-4-523-17823-1 （島岡丘, ジョナサン・バーマン著 出版社：南雲堂 2016） 参考図書 中学校学習指導要領（平成29年3月公示 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月公示 文部科学省）
(11) その他(受講上の注意)
Self-motivation and effort are essential for the successful completion of this course. You will be recorded as late if you are over 6 to 20 minutes late for class. If you are late three times, it will be recorded as an unexcused absence. Any unexcused absences will result in a zero for any assignments, quizzes, or tests missed during that class.
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英文講読 a (English Reading a)			担当教員	紺渡 弘幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-I-2274	2 単位	2 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 国際英語コース					
求める学習成果(教育目標)					
異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容	
小説、エッセイ、評論文、英字新聞や雑誌の記事、マニュアルなど多様な素材を用いて、英米文学や日常生活に必要な情報から文化論、環境問題、社会問題、教育問題など幅広いトピックをとりあげながら、読解力を養成する。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
多読に親しみ、望ましい読書習慣を身につける。多様なリーディング・ストラテジーを理解し読みの目的に応じて使用できる。詩やスピーチを読んで暗唱できる。効果的な語彙学習の方法を知り語彙力を高めることができる。テキストに明示的に書かれていない内容を推測しながら読むことができる。英文パラグラフの構成を理解し、トピック、メインアイデアを把握できる。必要な情報を読み取り、その内容について自分の意見を述べるができる。物事を国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成する。中学校および高校で効果的なリーディングの指導ができる力を身につける。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法	
第1回：多読：目的と読み方、望ましい読書習慣 事前学習：事前にシラバスやテキストに目を通し、質問事項をまとめておく。(2時間) 事後学習：多読の目的と読み方、望ましい読書習慣を復習する。(2時間) 第2回：多読：読書レポート、読書記録、本の選択 事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。(2時間) 事後学習：多読用の本を選択し、規則的に読む。(2時間) 第3回：プレビューイング 事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。(2時間) 事後学習：多読用の本を規則的に読む。(2時間) 第4回：スキミング 事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。(2時間) 事後学習：スキミングの練習をする。(2時間) 第5回：レシテーション：英詩、発表(ストーリーテリング) 事前学習：事前に詩人のプロフィールを読んでおく。(2時間) 事後学習：暗唱課題の英詩を読んで理解する。(2時間) 第6回：スキミング 事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。(2時間) 事後学習：スキミングの練習をする。(2時間) 第7回：読みのストラテジー 事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。(2時間) 事後学習：読みのストラテジーを整理する。(2時間) 第8回：語彙学習：辞書の活用 事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。(2時間) 事後学習：語彙学習：辞書の活用について復習し、課題をする。(2時間) 第9回：語彙学習：品詞、語形成、文脈による語義の推測 事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。(2時間) 事後学習：品詞、語形成、文脈による語義推測の練習問題をする。(2時間) 第10回：情報収集のための読みとディスカッション(グループワーク)：環境問題 事前学習：事前に環境問題に関する資料を読む。(2時間) 事後学習：環境問題に関して、自分の意見を英語でまとめる。(2時間)	

第11回：推論、レシテーション：スピーチ 事前学習：事前に人物のプロフィールを読む。（2時間） 事後学習：スピーチのスクリプトを読んで、理解する。（2時間） 第12回：パラグラフの理解：トピック、メインアイデア 事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。（2時間） 事後学習：パラグラフのトピック・メインアイデアについて復習課題をする。（2時間） 第13回：パラグラフの理解：パラグラフの構成 事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。（2時間） 事後学習：パラグラフの構成について復習課題をする。（2時間） 第14回：情報収集のための読みとディスカッション：社会問題 事前学習：事前に社会問題について調べておく。（2時間） 事後学習：社会問題の解決策を英語でまとめる。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：暗唱課題を復習する。（2時間） 事後学習：読みのストラテジー及びパラグラフの構成について復習課題をする。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（50%）、課題（25%）、授業への取り組み（25%） ※授業への取り組みは、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する。
(7) 成績評価基準
1. 多読（reading for pleasure）に親しむことができたか。 2. 多様なリーディング・ストラテジーを理解し、読みの目的に応じて使用できるか。 3. 詩やスピーチを読んで暗唱できるか。 4. 効果的な語彙学習の方法を知り、語彙力を高めることができるか。 5. 明示的に書かれていない内容を推測しながら読むことができるか。 6. 英文パラグラフの構成を理解し、トピック、メインアイデアを把握できるか。 7. 必要な情報を読み取り、その内容について自分の意見を述べることができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト：CLIL 英語で学ぶSDGsの基礎 笹嶋茂他 三修社 2022 参考図書：英字新聞、インターネット・雑誌等の記事
(11) その他(受講上の注意)
なるべく多く英語を読むように心がけ、望ましい読書習慣を身につけてもらいたい。主体的な学習を期待する。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英文講読 b (English Reading b)			担当教員	紺渡 弘幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-I-2275	2 単位	2 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 国際英語コース					
求める学習成果(教育目標)					
異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
小説、エッセイ、評論文、英字新聞や雑誌の記事、マニュアルなど多様な素材を用いて、英米文学や日常生活に必要な情報から文化論、環境問題、社会問題、教育問題など幅広いトピックをとりあげながら、読解力を養成する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
多様なリーディング・ストラテジーを理解し、読みの目的に応じて使用できる。読んだ物語を英語で話すことができる。英文パラグラフの構成パターンを理解し、読む際に認識できる。新聞記事の見出しの規則や構成を理解し、必要な情報を読み取ることができる。読んだニュースを英語でレポートし、その内容に関して自分の意見を述べるができる。速読の方法を理解し、英文を速読できる。正確に深く精読して、読んだ内容について感想を述べるができる。物事を国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成する。中学校および高校で効果的なリーディングの指導ができる力を身につける。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：リーディング・ストラテジー 事前学習：事前にシラバスやテキストに目を通し、質問事項をまとめておく。(2時間) 事後学習：リーディング・ストラテジーを整理し、復習する。(2時間) 第2回：ストーリーテリング(発表) 事前学習：ストーリーテリング用のメモを作成し、リハーサルしておく。(2時間) 事後学習：多読用の本を選択し、規則的に読む。(2時間) 第3回：英文構成パターン：列挙・連続(時系列)・比較のパターン 事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。(2時間) 事後学習：列挙・連続(時系列)・比較のパターンの復習課題をする。多読用の本を規則的に読む。(2時間) 第4回：英文構成パターン：因果関係・問題解決のパターン 事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。(2時間) 事後学習：因果関係・問題解決のパターンの復習課題をする。多読用の本を規則的に読む。(2時間) 第5回：英字新聞の読み方：記事の構成、見出しのルール、リード 事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。(2時間) 事後学習：英字新聞の記事の構成、見出しのルール、リードについて復習する。多読用の本を規則的に読む。(2時間) 第6回：英字新聞の読み方：スキミング、レポート 事前学習：英字新聞の記事を読み、レポートの準備をする。(2時間) 事後学習：多読用の本を規則的に読む。(2時間) 第7回：ニュース・レポートとディスカッション(グループワーク)：社会問題 事前学習：事前に社会問題に関する記事を読み、理解しておく。(2時間) 事後学習：社会問題についての意見をまとめる。多読用の本を規則的に読む。(2時間) 第8回：レシテーション：スピーチ 事前学習：事前に人物のプロフィールを読む。(2時間) 事後学習：スピーチのスクリプトを読んで、理解する。多読用の本を規則的に読む。(2時間) 第9回：速読：目的と読み方 事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。(2時間) 事後学習：速読の目的と読み方を復習する。多読用の本を規則的に読む。(2時間)

第10回：速読：読むスピードの測定方法・記録 事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。（2時間） 事後学習：速読の練習課題をし、読むスピードを記録する。多読用の本を規則的に読む。（2時間） 第11回：ニュース・レポーティングとディスカッション：教育問題（発表） 事前学習：事前に教育問題に関する記事を読み、理解しておく。（2時間） 事後学習：教育問題についての意見をまとめる。多読用の本を規則的に読む。（2時間） 第12回：精読の方法 事前学習：事前に精読用資料を読み、課題をしておく。（2時間） 事後学習：多読用の本を規則的に読む。（2時間） 第13回：精読：説明文 事前学習：事前に説明文を読み、課題をしておく。（2時間） 事後学習：多読用の本を規則的に読む。（2時間） 第14回：精読：小説 事前学習：事前に小説を読み、課題をしておく。（2時間） 事後学習：多読用の本を規則的に読む。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。（2時間） 事後学習：読みの目的に応じた読み方を再確認する。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（50%）、課題（25%）、授業への取り組み（25%） ※授業への取り組みは、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する。
(7) 成績評価基準
1. 多様なリーディング・ストラテジーを理解し、読みの目的に応じて使用できるか。 2. 読んだ物語を英語で話すことができるか。 3. 英文パラグラフの構成パターンを理解し、読む際に認識できるか。 4. 新聞記事の見出しの規則や構成を理解し、必要な情報を読み取ることができるか。 5. 読んだニュースを英語でレポートし、その内容に関して自分の意見を述べることができるか。 6. 速読の方法を理解し、英文を速読できるか。 7. 正確に深く精読して、読んだ内容について感想を述べることができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト：CLIL 英語で学ぶSDGsの基礎 笹嶋茂他 三修社 2022 参考図書：英字新聞、インターネット・雑誌等の記事
(11) その他(受講上の注意)
なるべく多く英語を読むように心がけ、望ましい読書習慣を身につけてもらいたい。主体的な学習を期待する。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英語文章表現法 I (Essay Writing I)			担当教員	M ハウカ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-I-2276	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 国際英語コース					
求める学習成果（教育目標）					
異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
書くプロセスを重視したコミュニケーション・ライティングにより、メッセージを効果的にわかりやすく読み手に伝えるライティングの力を養成する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
英語でのライティング能力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。プロセス・ライティングの方法を理解し、英文を書く際に用いることができる。パラグラフの構成・展開の方法、多様なパラグラフの書き方、エッセイの構成、アウトラインの書き方や効果的なイントロダクション・コンクルージョンの書き方を理解し、文章の統一性やまとまりに留意して、英文を書くことができる。中学校および高校で効果的なライティングの指導ができる力を身につける。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☒ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：プロセス・ライティングの理解 事前学習：事前にシラバスやテキストに目を通し、質問事項をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で学習したプロセス・ライティングについての復習課題をする。(2時間) 第2回：書く前の活動 事前学習：事前にテキストの第1章を読み、課題をしておく。(2時間) 事後学習：書く前の活動の内容、ブレインストーミングの方法について復習課題をする。(2時間) 第3回：パラグラフの構成について① 事前学習：事前にテキストの第2章を読み、課題をしておく。(2時間) 事後学習：パラグラフの構成について復習課題をする。(2時間) 第4回：パラグラフの構成について② 事前学習：事前にテキストの第2章を読み、課題をしておく。(2時間) 事後学習：パラグラフの構成について復習課題をする。(2時間) 第5回：パラグラフの展開のしかた① 事前学習：事前にテキストの第3章を読み、課題をしておく。(2時間) 事後学習：パラグラフの展開のしかたについて復習課題をする。(2時間) 第6回：パラグラフの展開のしかた② 事前学習：事前にテキストの第3章を読み、課題をしておく。(2時間) 事後学習：パラグラフの展開のしかたについて復習課題をする。(2時間) 第7回：まとめ(第1回～6回の内容についての復習)、グループワーク(ピアエディティング) 事前学習：事前にテキストの第1章～第3章を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：他者からのコメントを元に作文を書き直す。(2時間) 第8回：記述・プロセスパラグラフの書き方① 事前学習：事前にテキストの第4章を読み、課題をしておくこと。(2時間) 事後学習：記述・プロセスパラグラフの書き方について復習課題をする。(2時間) 第9回：記述・プロセスパラグラフの書き方② 事前学習：事前にテキストの第4章を読み、課題をしておくこと。(2時間) 事後学習：記述・プロセスパラグラフの書き方について復習課題をする。(2時間) 第10回：意見パラグラフの書き方① 事前学習：事前にテキストの第5章を読み、課題をしておくこと。(2時間) 事後学習：意見パラグラフの書き方について復習課題をする。(2時間) 第11回：意見パラグラフの書き方② 事前学習：事前にテキストの第5章を読み、課題をしておくこと。(2時間) 事後学習：意見パラグラフの書き方について復習課題をする。(2時間)

第12回：比較・対比パラグラフの書き方① 事前学習：事前にテキストの第6章を読み、課題をしておくこと。（2時間） 事後学習：比較・対比パラグラフの書き方について復習課題をする。（2時間） 第13回：比較・対比パラグラフの書き方② 事前学習：事前にテキストの第6章を読み、課題をしておくこと。（2時間） 事後学習：比較・対比パラグラフの書き方について復習課題をする。（2時間） 第14回：問題・解決パラグラフの書き方① 事前学習：事前にテキストの第7章を読み、課題をしておくこと。（2時間） 事後学習：問題・解決パラグラフの書き方について復習課題をする。（2時間） 第15回：問題・解決パラグラフの書き方② 事前学習：事前にテキストの第7章を読み、課題をしておくこと。（2時間） 事後学習：問題・解決パラグラフの書き方について復習課題をする。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 定期試験（50%）、課題（25%）、授業への取り組み（25%） ※授業への取り組みは、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する。
(7) 成績評価基準 1. Process writing の方法を理解し、英文を書く際に用いることができるか。 2. パラグラフの構成を理解し、それを踏まえて英文を書くことができるか。 3. パラグラフの展開の方法を理解し、それを活用して英文を書くことができるか。 4. 記述パラグラフの書き方を理解し、それをを用いて英文を書くことができるか。 5. 意見パラグラフの書き方を理解し、それをを用いて英文を書くことができるか。 6. 比較・対比パラグラフの書き方を理解し、それをを用いて英文を書くことができるか。 7. 問題・解決パラグラフの書き方を理解し、それをを用いて英文を書くことができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 Zemach, D.E. Writing Essays: From Paragraph to Essay. 2013. MACMILLAN LANGUAGE HOUSE. ISBN 978-1-380-05924-6 他に随時プリントを使う。
(11) その他(受講上の注意) なるべく多く英文を書いて、書くことに対する抵抗が少なくなるよう努力してもらいたい。 主体的な学習を期待する。 6分から20分遅刻した場合は、遅刻として記録されます。3回遅刻した場合は、無断欠席として記録されます。 無断欠席の場合は、その授業で受けられなかった課題、等はすべて0点となります。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英語科教育法 I (English Language Teaching Methodology I)			担当教員	フッド 晴美	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CO-T-2204	2 単位	2 年前期	講義	選択	
＜科目区分＞ 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果（教育目標）					
次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。					

(1) 授 業 の 内 容
英語教育の目的について考え、英語でディスカッションする。先行研究をもとに、第2言語習得理論および外国語教授法についての基本的な知識および理解を深める。学習者、特に第2言語学習者について先行研究などに基づいた理解を図る。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
英語教育の目的について理解し、言語習得および外国語教授法について基本的な知識を得ることができる。学習者、特に第2言語学習者について、先行研究などに基づく基本的な理解ができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Team等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：15回の全体計画と学修のポイント、成績評価と学習の仕方 事前学習：この講座を受講する目的・理由を発表できるようにしてくる。(2時間) 事後学習：英語教員になるために今後どのように自己研鑽をすすめるかレポートにする。(2時間) 第2回：英語教育の目的①—英語学習の意義、教育の目的と英語教育(ディスカッション) 事前学習：自分が小学校、中学校、高校で英語を学習してきた意義と、個人的目的について発表できるようにしてくる。(2時間) 事後学習：英語学習の教育的意義、社会的意義をレポートにまとめる。(2時間) 第3回：英語教育の目的②—学習指導要領(ディスカッション) 事前学習：自分が受けて来た小学校、中学校、高校の英語教育はどのような目的で行われてきたと思うか、そのように思う理由を含めて発表できるようにして来る。(2時間) 事後学習：自分が受けて来た英語教育が、学習指導要領に明記された目標を達成するためにどのようにされていたと考えるかレポートにまとめる。(2時間) 第4回：第2言語習得理論①—コミュニケーション能力の構成要素(ディスカッション) 事前学習：自分が英語でコミュニケーションをとる時に必要と思われる能力を分析してくる。(2時間) 事後学習：コミュニケーション能力の構成要素の中で、自分の能力で更に努力を要する能力は何か、そしてそれはどのように習得できるかレポートにまとめる。(2時間) 第5回：第2言語習得理論②—インプット・アウトプット・インタラクション(ディスカッション) 事前学習：自分はどのように英語コミュニケーション能力を伸ばしてきたか考えてくる。(2時間) 事後学習：自分の言語習得過程に、インプット・アウトプット・インタラクションがどのような重要性を持ってきたかレポートにまとめる。(2時間) 第6回：第2言語習得理論③—UG, Behaviourism, Socio-cultural theoryなど(ディスカッション) 事前学習：自分はどのように日本語を使えるようになったか考えてくる。(2時間) 事後学習：授業で扱われた第2言語習得理論が、自分の英語習得過程にどのように当てはまるか或は当てはまらないかレポートにまとめる。(2時間) 第7回：外国語教授法①(ディスカッション) 事前学習：中学校・高校で受けて来た英語の授業がどのように行われてきたか振り返り、先生がどのような方法で英語を教えようとしていたか考えてくる。(2時間) 事後学習：今回の授業で学習した外国語教授法の strong points, weak points についてレポートにまとめる。(2時間) 第8回：外国語教授法②(ディスカッション) 事前学習：英語の授業を基本的に全て英語で教えると言うことに対する自分の意見をまとめてくる。(2時間) 事後学習：今回の授業で学習した外国語教授法の strong points, weak points についてレポートにまとめる。(2時間)

第9回：外国語教授法③（ディスカッション） 事前学習：中学校・高校の英語の授業で経験したコミュニケーション活動について振り返り、良かったこと・良くなかったことなどをまとめる。（2時間） 事後学習：自分が英語の授業をするとき、使いたい教授法をいくつか取り上げ、なぜそのような方法を使いたいかレポートにまとめる。（2時間） 第10回：学習者①— motivation & learning strategies（ディスカッション） 事前学習：自分が英語を学習する際、どのようなことでモチベーションを上げることができるか、また、英語によるコミュニケーション力を伸ばすために自分はどのような方略をとっているか、まとめる。（2時間） 事後学習：生徒のmotivation を高めるためにどのような方法があるか、また、なぜそのような方法が有効かレポートにまとめる。（2時間） 第11回：学習者②— learner differences（ディスカッション） 事前学習：英語学習に年齢が関係するか、しないか、理由を含めて自分の考えをまとめる。（2時間） 事後学習：学習者にはどのような違いがあり得るか、また、そのような違いに、英語教師としてどのように対応して行けば良いか、自分の考えをレポートにまとめる。（2時間） 第12回：言語要素の指導①— 音声の指導（ディスカッション、プレゼンテーション） 事前学習：自分の発音の学習方法をまとめる。（2時間） 事後学習：音声の指導において大切な点をレポートにまとめる。（2時間） 第13回：言語要素の指導②— 文字、語彙の指導（ディスカッション、プレゼンテーション） 事前学習：自分の語彙（スペリングを含む）の学習方法をまとめる。（2時間） 事後学習：文字、語彙の指導において大切な点をレポートにまとめる。（2時間） 第14回：言語要素の指導③— 文法の指導（ディスカッション、プレゼンテーション） 事前学習：文法事項をひとつ選び、指導を想定した案を用意してくる。（2時間） 事後学習：文法の指導において大切なことをレポートにまとめる。（2時間） 第15回：まとめ（ディスカッション） 事前学習：これまでの授業を振り返り、理解が不足していると思われる項目をまとめる。（2時間） 事後学習：事前学習で理解が不足していたとした項目について理解を深めたことをまとめる。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 授業での活動および課題50%、定期試験50%
(7) 成績評価基準 ・英語教育の目的について理解しているか。 ・言語習得および外国語教授法について基本的な知識を得たか。 ・積極的に議論に参加できたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒ 仁大eラーニング ☒メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

(10) テキスト、参考図書
テキスト 『新・グローバル時代の英語教育』岡秀夫 編著 成美堂 2020年 『小学校学習指導要領』（平成29年 3 月公示 文部科学省） 『中学校学習指導要領』（平成29年 3 月公示 文部科学省） 『高等学校学習指導要領』（平成30年 3 月公示 文部科学省） 参考図書 『英語教育用語辞典 第3版』白畑知彦 他 大修館書店 2019年
(11) その他(受講上の注意)
この授業はほとんど全て英語で行われる。ディスカッションへの積極的な参加を重視する。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英語科教育法Ⅱ (English Language Teaching Methodology Ⅱ)			担当教員	フッド 晴美	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-T-2206	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。					

(1) 授 業 の 内 容
実際の授業展開を想定し指導計画を立て、模擬授業および評価テスト作成をし、その内容について改善点などを英語で議論する。小学校の外国語活動・英語ならびに中学校、高校の英語の授業ビデオ視聴などを通し、小・中・高・大の英語教育の連携はどうあるべきかを英語で議論する。また、それぞれの校種の教科書の中で異文化理解がどのように扱われているかを調べ、英語教育の中で生徒の異文化理解をどう深めていくべきかを英語で議論する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
学習指導過程および評価について理解を深め、小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領や教材、並びに小・中・高・大の英語教育の連携、異文化理解教育について基本的な知識及び理解を得る。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：15回の全体計画と学修のポイント、成績評価と学習の仕方(ディスカッション) 事前学習：前期に学習したことを復習してくる。(2時間) 事後学習：後期の自分の目標をレポートにする。(2時間) 第2回：4技能の活動①ー聞くこと、話すこと(ディスカッション) 事前学習：listeningとspeakingの能力を自分がどのように身に付けて来たか発表できるようにまとめてくる。(2時間) 事後学習：listeningとspeakingの指導において大切なことをレポートにまとめる。(2時間) 第3回：4技能の活動②ー読むこと、書くこと(ディスカッション) 事前学習：readingとwritingの能力を自分がどのように身に付けて来たか発表できるようにまとめてくる。(2時間) 事後学習：readingとwritingの指導において大切なことをレポートにまとめる。(2時間) 第4回：4技能の活動③ー4技能の統合(ディスカッション、プレゼンテーション) 事前学習：現実の生活において、4技能をどのようにコミュニケーションに使っているか発表できるようにまとめてくる。(2時間) 事後学習：高校で使用されている教科書の中から1レッスンを選び、4技能を統合した指導過程を考える。(2時間) 第5回：学習指導案の立て方①ー目標設定、生徒理解、教材研究(ディスカッション) 事前学習：授業計画を立てる時に大切なことを考えてくる。(2時間) 事後学習：学習指導案を立てる時の目標設定、教材研究、生徒の理解度の把握において、大切なことをレポートにまとめる。(2時間) 第6回：学習指導案の立て方②ー授業の組み立て方(ディスカッション) 事前学習：中学校で使われている教科書の中から1レッスンを選び、学習指導案を書いて来る。(2時間) 事後学習：今回の授業を基に、学習指導案を書き直す。(2時間) 第7回：学習指導案の立て方③ーマイクロティーチング(課題解決型学習、ディスカッション、プレゼンテーション) 事前学習：前回の授業の事後学習で書き直した学習指導案を使ってマイクロティーチングをする準備をしてくる。(2時間) 事後学習：今回のマイクロティーチングの反省をレポートにまとめる。(2時間) 第8回：教材①ー教科書・辞書・教具(ディスカッション) 事前学習：中・高で使用した教材にはどんなものがあつたか、どのような使い方をされていたかまとめてくる。(2時間) 事後学習：どのような辞書指導が望ましいか考えをレポートにまとめる。(2時間)

第9回：教材②－ICTの活用、評価①－学習到達目標と評価（課題解決型学習、ディスカッション、プレゼンテーション） 事前学習：インターネット利用してどんな語学学習ができるかリサーチしてくる。（2時間） 事後学習：言語教育教材にどのようなものがあり、どのように利用できるかレポートにまとめる。（2時間） 第10回：評価②－言語テストの作成と実施（課題解決型学習、ディスカッション、プレゼンテーション） 事前学習：前回の授業を基に、評価テストを作成してくる。（2時間） 事後学習：学習到達目標と評価の関係、大切なことをレポートにまとめる。（2時間） 第11回：小学校英語①－歴史、発達段階、到達目標および評価、教材、授業（ディスカッション） 事前学習：小学校英語の実態について調べてくる。（2時間） 事後学習：小学校英語教材についてリサーチし、発表する準備をしてくる。（2時間） 第12回：小学校英語②、異文化理解教育－英語教育の中での異文化理解教育の意義と目的（ディスカッション） 事前学習：自分が受けて来た英語の授業の中で、どのように異文化理解教育がなされていたかまとめる。（2時間） 事後学習：英語教育の中での異文化理解教育の意義と目的をレポートにまとめる。（2時間） 第13回：小・中・高・大の連携、中学校授業参観（実習） 事前学習：中学校で使用されている教科書を読み、生徒の英語学習が小・中・高・大とどのように発展するか考えてくる。（2時間） 事後学習：中学校授業参観で学んだことをまとめる。（2時間） 第14回：教員養成と教員研修、中学校現場教員との対談（実習、ディスカッション） 事前学習：日本社会が英語教員に求める資質・能力についてリサーチしてくる。（2時間） 事後学習：自分が理想とする英語教員になるためにはどのような研鑽をしていかなければならないかレポートにまとめる。（2時間） 第15回：まとめ（ディスカッション） 事前学習：これまでに学習したことを振り返り、理解が不足していることをまとめる。（2時間） 事後学習：事前学習でまとめたことについて、わかったことをまとめる。（2時間） 第16回：定期試験	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
授業での活動および課題50%、定期試験50%	
(7) 成績評価基準	
・学習指導過程および評価について理解が深まったか。 ・小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領や教材、並びに小・中・高・大の英語教育の連携、異文化理解教育について基本的な知識及び理解を得たか。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	
(10) テキスト、参考図書	
テキスト 『新・グローバル時代の英語教育』岡秀夫 編著 成美堂 2020年 『小学校学習指導要領』（平成29年3月公示 文部科学省） 『中学校学習指導要領』（平成29年3月公示 文部科学省） 『高等学校学習指導要領』（平成30年3月公示 文部科学省） 参考図書 『英語教育用語辞典 第3版』白畑知彦 他 大修館書店 2019年	

(11) その他(受講上の注意)
この授業はほとんど全て英語で行われる。ディスカッションへの積極的な参加を重視する。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教職論 (Theory of Teacher Education)			担当教員	高野 秀晴	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CO-T-2202	2 単位	2 年前期	講義	選択	
＜科目区分＞ 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果（教育目標）					
新たな英語教育を担う中学校・高等学校の英語教員に求められるすぐれた知識と技能を身につけ、豊かな人間性を育みます。					

(1) 授 業 の 内 容
教員とは、どのような役割を期待され、どのような環境で、どのような仕事をしているのか。本授業は、これらの問いに対して主に法的、歴史的見地から考察する。また、事例研究を通して様々な教師像を検討することにより、受講生各自が適性を判断し、よりよい教職像を展望する機会としたい。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・現代の学校教育や教職の社会的意義を説明できる。 ・今日の教員に求められる役割や資質能力について説明したうえで、自己の教職像を展望することができる。 ・教員の職務内容の全体像や服務上・身分上の義務を説明できる。 ・学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について説明できる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 事前学習：シラバスをよく読み、学修計画を立てる。(2時間) 事後学習：授業内容に関連する情報を検索し、学修計画をさらに固める。(2時間) 第2回：教師はどのような仕事をしているのか 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間) 第3回：学校に関わる様々な職業について 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間) 第4回：チームとしての学校 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間) 第5回：よい教師とはどのような教師なのか(討議) 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間) 第6回：教師像の諸相——聖職者、労働者、専門家 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間) 第7回：どうすればよい教師になれるのか(討議) 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間) 第8回：教員養成制度について 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間) 第9回：教員養成の歴史 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間) 第10回：教員に求められる専門性とは何か 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間)

第11回：教員の身分について 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（2時間） 事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間） 第12回：教員の任用について 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（2時間） 事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間） 第13回：教員の服務について 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（2時間） 事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間） 第14回：教員にとって研修のもつ意味 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（2時間） 事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（2時間） 事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（70%） 平常点（30%） （平常点は、授業への参加状況と、授業時の課題の内容をもとに評価する。）
(7) 成績評価基準
・現代の学校教育や教職の社会的意義を説明できるか。 ・今日の教員に求められる役割や資質能力について説明できるか。 ・教員の職務内容の全体像や服務上・身分上の義務を説明できるか。 ・学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について説明できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト：授業時に適宜資料を配布する。 参考図書：磯田一雄編『日本の教育課題 9 教師と子どもとのかかわり』東京法令出版 1999年
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育心理学 (Educational Psychology)			担当教員	乙部 貴幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CO-T-2203	2 単位	2 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
新たな英語教育を担う中学校・高等学校の英語教員に求められる優れた知識と技能を身につけ、豊かな人間性を涵養する。					

(1) 授 業 の 内 容
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、運動発達、言語発達、認知発達、社会性等の発達について各年齢段階の特徴を理解し、代表的な理論を学び、それらを踏まえた学習を支える具体的な指導に関する基礎的な考え方を理解する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達と学習の過程及び特徴を理解する ・ 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☒ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：教育心理学の目的と課題および学修のポイント 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。(4時間) 第2回：新生児・乳児期の発達～生物学的発達を中心に 事前学習：テキストの該当する箇所を読み、わからないところをまとめておく。(2時間) 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。(2時間) 第3回：幼児期の発達～自我の発達、ことばの発達 事前学習：テキストの該当する箇所を読み、わからないところをまとめておく。(2時間) 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。(2時間) 第4回：社会性の発達～エリクソン、コールバーグ等の発達理論 事前学習：テキストの該当する箇所を読み、わからないところをまとめておく。(2時間) 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。(2時間) 第5回：認知・思考の発達～ピアジェの発達理論(1) 事前学習：テキストの該当する箇所を読み、わからないところをまとめておく。(2時間) 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。(2時間) 第6回：認知・思考の発達～ピアジェの発達理論(2) 事前学習：テキストの該当する箇所を読み、わからないところをまとめておく。(2時間) 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を整理する。わからないところがあったら、フォーラムやメールを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第7回：児童期・青年期の発達～身体発達、運動発達、人格形成、集団づくり 事前学習：テキストの該当する箇所を読み、わからないところをまとめておく。(2時間) 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。(2時間) 第8回：発達の諸相～知能と創造性 事前学習：テキストの該当する箇所を読み、わからないところをまとめておく。(2時間) 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。(2時間)

第9回：学習の原理～ワトソン、スキナー、ソーランドイク等の学習理論 事前学習：テキストの該当する箇所を読み、わからないところをまとめておく。（2時間） 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（2時間） 第10回：学習理論の応用～行動療法、CAI、発見学習、アクティブラーニング 事前学習：テキストの該当する箇所を読み、わからないところをまとめておく。（2時間） 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（2時間） 第11回：記憶～記憶理論と学習法 事前学習：テキストの該当する箇所を読み、わからないところをまとめておく。（2時間） 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（2時間） 第12回：動機づけと原因帰属～内発的動機づけと外発的動機づけ、自己効力、原因帰属、動機づけの諸理論 事前学習：テキストの該当する箇所を読み、わからないところをまとめておく。（2時間） 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（2時間） 第13回：教授・学習過程～主体的な学習活動を支える指導法と協働学習（ディスカッションを含む） 事前学習：テキストの該当する箇所を読み、わからないところをまとめておく。（2時間） 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（2時間） 第14回：教育評価と測定、教育統計 事前学習：テキストの該当する箇所を読み、わからないところをまとめておく。（2時間） 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（2時間） 第15回：生徒理解と学級集団（ディスカッションを含む） 事前学習：テキストの該当する箇所を読み、わからないところをまとめておく。（2時間） 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 レポート課題（20% X 2回） 定期試験（60%）
(7) 成績評価基準 ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達と学習の過程及び特徴を理解しているか。 ・ 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付けているか。 ・ 発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解しているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

(10) テキスト、参考図書
テキスト：ガイドライン学校教育心理学（大野木裕明ほか（編著），ナカニシヤ出版，2016年） 参考図書：中学校教育課程実践講座 総則 ― 平成29年改訂（天笠 茂（編著），ぎょうせい，2017） 教育心理学ハンドブック（日本教育心理学会編，有斐閣，2003年） 中学校学習指導要領解説（平成29年 3 月公示） 文部科学省 高等学校学習指導要領解説（平成30年 3 月公示） 文部科学省
(11) その他(受講上の注意)
教職科目であるため、受け身的に受講するのではなく、常に自らが教壇に立った場合を想像して授業に臨むこと。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

特別支援教育論 (Theory of Special Educational Needs)			担当教員	水田 敏郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CO-K-2219	2 単位	2 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果（教育目標）					
次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。					

(1) 授 業 の 内 容
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解し、教育課程や支援の方法を学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習 (PBL) ☒ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodieでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodieでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：授業オリエンテーション(全15回の授業計画と全体概要。学習の仕方と成績評価) 障害の概念とその変遷 事後学習：資料のキーワード(空欄)の穴埋め。* ICFの評価方法について調べる(4時間) 第2回：ICFによる事例の捉え方と障害者の処遇の歴史① 事前学習：ICFの活用事例について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる(2時間) 事後学習：資料のキーワード(空欄)の穴埋めと用語の意味調べ。障害者の処遇史中盤について調べる(2時間) 第3回：障害者の処遇の歴史② 事前学習：障害者の処遇史(中盤)について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる(2時間) 事後学習：資料のキーワード(空欄)の穴埋めと用語の意味調べ。障害者の処遇史(後半)について調べる(2時間) 第4回：障害者の処遇の歴史③ 事前学習：障害者の処遇史(後半)について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる(2時間) 事後学習：資料のキーワード(空欄)の穴埋めと用語の意味調べ。障害者の支援の理念について調べる(2時間) 第5回：特別支援教育の現状①「障害者支援の理念」 事前学習：障害者支援の理念(後半)について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる(2時間) 事後学習：資料のキーワード(空欄)の穴埋めと用語の意味調べ。特別支援教育の法的枠組みについて調べる(2時間) 第6回：特別支援教育の現状②「特別支援教育の法的枠組み①」 事前学習：特別支援教育の法的枠組みについて予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる(2時間) 事後学習：資料のキーワード(空欄)の穴埋めと用語の意味調べ。特別支援教育の法的枠組みについて調べる。(2時間) 第7回：特別支援教育の現状③「特別支援教育の法的枠組み②」(ディスカッション) 事前学習：特別支援教育の法的枠組みについて予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる(2時間) 事後学習：資料のキーワード(空欄)の穴埋めと用語の意味調べ。特別支援教育の法的枠組みについて調べる(2時間)

第8回：特別支援教育の現状④「特別支援教育の法的枠組み③」 事前学習：特別支援教育の法的枠組みについて予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（2時間） 事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。特別支援教育の法的枠組みについて調べる（2時間） 第9回：特別支援教育の現状⑤「個別的教育支援計画・指導計画」 事前学習：個別的教育支援計画・指導計画について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（2時間） 事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。視覚障害について調べる（2時間） 第10回：特別支援教育の対象①「視覚障害の理解と支援」 事前学習：視覚障害について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（2時間） 事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。聴覚障害について調べる（2時間） 第11回：特別支援教育の対象②「聴覚障害の理解と支援」（ディスカッション） 事前学習：聴覚障害について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（2時間） 事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。知的障害について調べる（2時間） 第12回：特別支援教育の対象③「知的障害の理解と支援」 事前学習：知的障害について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（2時間） 事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。肢体不自由について調べる（2時間） 第13回：特別支援教育の対象④「肢体不自由の理解と支援」 事前学習：肢体不自由について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（2時間） 事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。重複障害について調べる（2時間） 第14回：特別支援教育の対象⑤「重複障害の理解と支援」 事前学習：重複障害について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（2時間） 事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。肢体不自由について調べる（2時間） 第15回：特別支援教育の対象⑥と支援体制の構築「病弱児の理解と支援、連携の必要性」 事前学習：病弱児について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（2時間） 事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。＊特別支援教育を行う上で、教師や保育士に必要な資質は何か考えをまとめる（2時間） 上記のうち、＊は小レポート。 各回の講義を受講した後、当該部分の配布資料をよく読んで復習してください。また、予習にあたっても次の授業の内容部分をよく見て、疑問点などをもって授業に臨んでください。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 ①平常点と②課題評価（全2回の予定）の2つで行います。配分は以下の通りです。 ①平常点→40%（40点）、②課題評価→60%（60点＝30点×2回）
(7) 成績評価基準 ■通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害について理解できたか。 ■特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解できたか。 ■個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解できたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■授業時 □仁大eラーニング ■メール □その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■授業時 □仁大eラーニング □メール □その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■授業時 □仁大eラーニング □メール □その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて □定期試験時 □仁大eラーニング □メール □その他 5) その他 □授業時 □イニ大eラーニング □メール □その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

(10) テキスト、参考図書
参考図書：『知的障害の心理学—発達支援からの理解』小池敏英・北島善夫著 北大路書房（2001） 『特別支援教育の基礎・基本新訂版』独立行政法人国立特別支援教育総合研究所著 ジアース教育新社出版（2015） 『キーワードブック特別支援教育』（玉村公二彦・清水貞夫・黒田学・向井啓二編、クリエイツかもがわ出版、平成27年） プリントを授業中に配布
(11) その他(受講上の注意)
障害に対する理解を得たり、疑問点を解決しようとするなど、目的意識をもって受講することを期待します。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育課程論 (Theory of Education Curriculum)			担当教員	高野 秀晴	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CO-T-2205	2 単位	2 年後期	講義	選択	
＜科目区分＞ 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果（教育目標）					
新たな英語教育を担う中学校・高等学校の英語教員に求められるすぐれた知識と技能を身につけ、豊かな人間性を育みます。					

(1) 授 業 の 内 容
学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解し、教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。また、教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことに意義を理解する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：教育課程(カリキュラム)とは何か 事前学習：『学習指導要領解説 総則編』第1章を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに『総則編』第2章を読み教育課程の基準について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第2回：教育課程の編成と学習指導要領 事前学習：『解説 総則編』第3章第1節1・2を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに教育課程の編成について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第3回：アクティブ・ラーニングと資質・能力・コンテンツからコンピテンシー・ベースのカリキュラムへ 事前学習：『解説 総則編』第3章第1節3を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに育成を目指す資質・能力について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第4回：主体的・対話的で深い学びと見方・考え方―事例を通して(1)(グループワークと討議) 事前学習：『解説 総則編』第3章第3節1を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：事例をもとにしたグループワークと討議を通して考察した「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第5回：主体的・対話的で深い学びと見方・考え方―事例を通して(2)(グループワークと討議) 事前学習：これまで自分が受けてきた授業で印象的であった内容をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：事例をもとにしたグループワークと討議を通して考察した「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第6回：社会に開かれた教育課程と学びの地図―カリキュラム・マネジメントの意義 事前学習：『解説 総則編』第3章第1節4を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに社会に開かれた教育課程とカリキュラム・マネジメントについて、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第7回：教育課程の実施と学習評価及び学校間段階の接続について 事前学習：『解説 総則編』第3章第2節・第3節2を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに教育課程の実施と学習評価及び幼小接続について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第8回：特色ある学校の教育課程(1)―事例①(グループワークと討議) 事前学習：『解説 総則編』第3章第4節を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：連携協力校の事例等をもとにしたグループワークと討議から特色ある教育課程について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第9回：特色ある学校の教育課程(2)―事例②(グループワークと討議) 事前学習：『解説 総則編』第3章第5節を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：連携協力校の事例等をもとにしたグループワークと討議から特色ある教育課程について、リフレクションシートにまとめる。(2時間)

第10回：総合的な学習の時間と教育課程 事前学習：『新しい時代の教育課程 第5版』第5章第4節を読み、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：講義をもとに総合的な学習の時間と教育課程について、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第11回：総合的な学習の時間とその実際——事例（グループワークと発表） 事前学習：これまでに受けてきた総合的な学習の時間で印象的であった内容をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに総合的な学習の時間の目標と内容について、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第12回：教育課程と特別活動 事前学習：『解説 特別活動編』第1章を読み、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：講義をもとに教育課程と特別活動について、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第13回：特別活動の内容とその実際——事例（グループワークと発表） 事前学習：『解説 特別活動編』第3章を読み、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに特別活動の目標と内容について、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第14回：生徒指導と教育課程 事前学習：『生徒指導提要』第2章を読み、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：講義をもとに生徒指導と教育課程について、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第15回：教育課程のまとめと今後の課題 事前学習：これまでの講義の概要を概観し、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：教育課程について、この講義で学んだことについて、リフレクションシートにまとめる。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 毎回のリフレクション・レポート（4%×15回）、講義内容に関連するレポート（10%×4回）で総合的に評価する。
(7) 成績評価基準 教育課程の意義や編成と実施の仕方、評価と改善について理解できたか。 教育課程の基準としての学習指導要領について理解できたか。 学校の教育計画の全体構造について理解し、各学校の実情に合わせたカリキュラム・マネジメントの意義を理解できたか。 特別活動の目標とその内容を理解できたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 テキスト：文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』東洋館出版社、2018年 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』東山書房、2020年 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編』東洋館出版社、2019年 田中耕治 他『新しい時代の教育課程 第5版』有斐閣アルマ、2019年 参考書・参考資料等：文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』東洋館出版社、2018年 文部科学省『生徒指導提要』東洋館出版、2023年

(11) その他(受講上の注意)
学習指導要領の改訂やその実施に関するニュース等に関心を持ち、国や福井県の動向を把握すること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 (Teaching method of an extraordinaryand overall learning time)			担当教員	山崎 智幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-T-2218	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果（教育目標）					
新たな英語教育を担う中学校・高等学校の英語教員に求められるすぐれた知識と技能を身につけ、豊かな人間性を育みます。					

(1) 授 業 の 内 容
学習指導要領解説を中心に、特別活動の目標、基本的な性格と教育活動全体における意義、各活動・学校行事の目標及び内容、指導計画の作成と内容の取扱いを理解し、実施上の課題と配慮事項等を考える。また、総合的な学習の時間の目標及び内容、特質に応じた学習の在り方、指導計画の作成と内容の取扱い、指導計画及び単元計画の基本的な考えを理解し、探究的な学習の指導のポイントを探る。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
特別活動は、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点や、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせながら、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮し、課題を解決することを通して、資質・能力を育むことを目指す教育活動であることを理解し、「なすことによって学ぶ」という特性を踏まえ、地域の実態や児童の発達の段階等を考慮しながら、創意工夫を生かし、多様な他者と協働することができるような指導に必要な知識や素養を身に付ける。 総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。また、各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。
(3) アクティブラーニング
☐課題解決型学習(PBL) ☐討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐実習、フィールドワーク ☐実験、実技 ☐その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：学習指導要領における特別活動と総合的な学習の時間の改訂の趣旨及び要点 事前学習：学習指導要領における特別活動と総合的な学習の時間の改訂の趣旨及び要点を読んで、要点をおさえる。(2時間) 事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに特別活動と総合的な学習の時間の位置づけについて、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第2回：特別活動の目標及び内容、指導のあり方(ワークショップ) 事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の特別活動の目標と各活動等の目標との関連する部分を読み、要点をおさえる。(2時間) 事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに、特別活動の目標と各活動等の目標との関連についてリフレクションシートにまとめる。(2時間) 第3回：学級活動の目標及び内容、指導計画、内容の取扱い グループワークによる人間関係づくり(グループワークと発表) 事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の学級活動の部分を読み、要点をおさえる。(2時間) 事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに学級活動の目標や内容等について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第4回：児童会活動、クラブ活動の目標及び内容、指導計画、内容の取扱い ― 実践事例を通して考える(ワークショップとグループワーク、発表) 事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の児童会活動、クラブ活動の部分を読み、要点をおさえる。(2時間) 事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに児童会活動・クラブ活動の目標と内容等について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第5回：学校行事の目標及び内容、指導計画、内容の取扱い 教育課程全体を考えた学校行事のあり方について考える(ワークショップとグループワーク、発表) 事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の学校行事の部分を読み、要点をおさえる。また、各自の学校行事に関する体験を簡単に書いて準備する。(2時間) 事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに学校行事の目標と内容等について、リフレクションシートにまとめる。(2時間)

第6回：特別活動の指導計画の作成と内容の取り扱い

事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の指導計画の作成と内容の取扱いの部分を読み、要点をおさえる。（2時間）

事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに、特別活動の全体計画と各活動・学校行事の年間指導計画と内容の取り扱いについてリフレクションシートにまとめる。（2時間）

第7回：学びを豊かにする特別活動の充実に向けて（グループワークと発表）

事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の学校行事の部分を読み、要点をおさえる。また、各自の学校行事に関する体験を簡単に書いて準備する。（2時間）

事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに学校行事の目標と内容等について、リフレクションシートにまとめる。（2時間）

第8回：特別活動で育む力（資質・能力の3つの視点）と指導方法（発表）

事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の全体を読み、特別活動で育む力について所見を考えておく。（2時間）

事後学習：特別活動で育む力（資質・能力の3つの視点）を意識した指導のあり方について、自分なりの考えをリフレクションシートにまとめ、発表する。（2時間）

第9回：総合的な学習の時間の目標と学習の在り方

事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の目標の部分を読み、要点をおさえておくこと。（2時間）

事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに、総合的な学習の時間の目標と在り方、資質・能力についてリフレクションシートにまとめる。（2時間）

第10回：各学校において定める目標及び内容、指導計画の作成と内容の取扱い

事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の目標及び内容、指導計画、内容の取扱いの部分を読み、要点をおさえておくこと。（2時間）

事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに、目標、内容、指導計画、内容の取扱いについてリフレクションシートにまとめる。（2時間）

第11回：総合的な学習の時間の指導計画の作成、考えるための技法の活用（グループワークと発表）

事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の指導計画、考えるための技法の部分を読み、要点をおさえておくこと。（2時間）

事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに、探求課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力についてリフレクションシートにまとめる。（2時間）

第12回：総合的な学習の時間の年間指導計画及び単元計画の作成、学習指導、評価（グループワークと発表）

事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の年間指導計画及び単元計画の作成、学習指導、評価の部分を読み、要点をおさえておくこと。（2時間）

事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに、探求的な学習の指導のポイントについてリフレクションシートにまとめる。（2時間）

第13回：現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題（ワークショップとグループワーク、発表）

事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の各学校が定める内容の当該部分を読み、要点をおさえておくこと。また、各自の当該テーマに関する課題を簡単に書いて準備すること。（2時間）

事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに、当該テーマについて考えたことをリフレクションシートにまとめる。（2時間）

第14回：地域や学校の特色に応じた課題（ワークショップとグループワーク、発表）

事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の各学校が定める内容の当該部分を読み、要点をおさえておくこと。また、各自の当該テーマに関する体験を簡単に書いて準備すること。（2時間）

事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに、当該テーマについて考えたことをリフレクションシートにまとめる。（2時間）

第15回：児童・生徒の興味・関心に基づく課題（ワークショップとグループワーク、発表）

事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の各学校が定める内容の当該部分を読み、要点をおさえておくこと。また、各自の当該テーマに関する体験を簡単に書いて準備すること。（2時間）

事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに、当該テーマについて考えたことをリフレクションシートにまとめる。（2時間）

定期試験は実施しない。

(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕

原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

(6) 成績評価方法
毎回のリフレクション・レポート(30%)、特別活動及び総合的な学習の時間に関する発表(15%×2回)、講義終了後の最終レポート(40%)で総合的に評価する。
(7) 成績評価基準
特別活動の意義や目標及び内容を理解しているか。 特別活動の指導の在り方を理解しているか。 総合的な学習の時間の意義や各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解しているか。 総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付けているか。 総合的な学習の時間の指導と評価の考え方及び実践上の留意点を理解しているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
小学校学習指導要領解説 特別活動編(平成29年6月 文部科学省) 小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編(平成29年6月 文部科学省)
(11) その他(受講上の注意)
特別活動は各学校の教育課程に応じた特色が多く見られるため、自分の母校等の特別活動を思い起こしたり、学校ホームページを閲覧したりしておくとい。 総合的な学習の時間は、幅広い探究課題を扱うため、現代的な課題や身近な地域の特色、各学校の実践例等のメディアの情報に積極的に関心を持っておくとい。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育の方法と技術（ICT活用を含む） （Educational methods and techniques (including using ICT)）			担当教員	麓谷 隆弘	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-T-2207	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果（教育目標）					
新たな英語教育を担う中学校・高等学校の英語教員に求められるすぐれた知識と技能を身につけ、豊かな人間性を育みます。					

(1) 授 業 の 内 容
プリント資料やウェブ上の資料を参考に教育方法の理論について解説する。関連する事項について各自の考えをもとに、他の受講者と授業内やオンライン上での対話・議論を行う。オンラインフォーラムにおいては、授業テーマに関する自身の考えを述べながら、他者との議論を深める必要がある。また実際に情報機器を活用して教材を作成し、それが適切なものであるかを相互評価する。学習指導案を作成し、それにもとづく模擬授業を行った後、評価を行う。教材制作・模擬授業準備においては、市販のソフトウェア関連の書籍やウェブ上の資料を参考に、授業時間外にも作業を行う必要がある。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
教育方法に関する基礎的な理論や授業を構成する要件(カリキュラム・児童・教員・教材等)を理解し、設計・実施・評価といった実践に向けての指導技術を身につける。 また、授業に際して情報機器をどのように活用すると効果的か、子どもの情報活用能力の育成にどのような教材を作成し活用すると良いかを考え、それらに関する基礎的な能力を身につける。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☒ その他(オンラインでのディスカッション・相互評価)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：授業の目的・計画・評価方法の説明。学校・教育の現状と課題 事後学習：学習管理システム(LMS)のフォーラム上に自身の意見を記述する。(2時間)
第2回：学習指導要領、指導計画、カリキュラム、指導法、主体的・対話的で深い学び 事前学習：配布資料等の内容を確認する。(1時間) 事後学習：LMSのフォーラムにて他者の意見を読み、コメントする。(オンラインディスカッション) LMSのフォーラム上に自身のアイデアを記述する。(2時間)
第3回：授業を構成する要件(学級、児童及び生徒・教員、教材・教具・視聴覚メディア) 事前学習：配布資料等の内容を確認する。(1時間) 事後学習：動画教材を作成しLMSのワークショップに提出する。(5時間)
第4回：教育の情報化(情報教育、教科指導、校務)、情報モラル、教育情報セキュリティ 事前学習：配布資料等の内容を確認する。(1時間) 事後学習：LMSのワークショップに提出された動画教材を評価する。(オンラインでの相互評価) LMSのフォーラム上に自身の意見を記述する。(3時間)
第5回：デジタル教科書・デジタル教材の活用、特別支援におけるICTの活用と留意 事前学習：配布資料等の内容を確認する。(1時間) 事後学習：LMSのフォーラム上に自身の意見を記述する。(3時間)
第6回：Web サービスを利用したアンケートや小テスト問題の作成と教育データの分析・評価 事前学習：配布資料等の内容を確認する。(1時間) 事後学習：Webアンケートを作成しLMSのフォーラムに投稿する。(3時間)
第7回：ストーリー型インタラクティブ教材の設計(テーマ設定、展開) 事前学習：配布資料等の内容を確認する。(1時間) 事後学習：Webアンケートを回答する。ストーリー型教材のテーマを決め素材データを準備する。(3時間)
第8回：ストーリー型インタラクティブ教材の制作(画像・写真・音・アニメーションの活用)(実技) 事前学習：配布資料等の内容を確認する。(1時間) 事後学習：Webアンケートを分析する。ストーリー型教材を完成させワークショップに提出する。(4時間)
第9回：社会的変化に対応する学びと資質・能力、プログラミング教育による論理的思考力の育成 事前学習：配布資料等の内容を確認する。(1時間) 事後学習：ストーリー型教材を評価する。ミニプログラムを作成する。(1時間)

第10回：プログラミングによる教材の設計と各教科等での活用 事前学習：配布資料等の内容を確認する。（1時間） 事後学習：教材プログラムを作成する。（3時間） 第11回：プログラミングによる教材の制作と相互評価（実技） 事前学習：配布資料等の内容を確認する。（1時間） 事後学習：教材プログラムを完成させる。（5時間） 第12回：教育メディア・ICTを活用した模擬授業の計画（グループワーク） 事前学習：配布資料等の内容を確認する。（1時間） 事後学習：グループで模擬授業の役割分担と指導案を決める。（1時間） 第13回：教育メディア・ICTを活用した模擬授業の実施（発表・グループワーク） 事前学習：模擬授業の準備を行なう。（2時間） 事後学習：模擬授業の評価を記録する。（2時間） 第14回：教育メディア・ICTを活用した模擬授業の評価と改善提案（発表・グループワーク） 事前学習：模擬授業の準備を行なう。（2時間） 事後学習：模擬授業の評価を記録する。（2時間） 第15回：模擬授業を踏まえた教育の方法と技術のまとめ、教育に関わるテクノロジーの展望・環境整備 事後学習：模擬授業の評価集計・分析を行なう。授業全体の振り返りを行いレポートとしてまとめる。 （6時間） 定期試験は実施しない
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
課せられた課題・成果物を提出していることを重視して評価する。 受講態度（10%）、前半内容に関連する課題と制作物（30%）、後半内容に関する制作物（40%）、模擬授業内容と相互評価（20%）
(7) 成績評価基準
授業の設計・実施・評価等に関する知識を修得しているか。 教材や教育メディアの選択・構成・活用等に関する力量が身についているか。 模擬授業について周到に準備を行い、的確に実施できているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

(10) テキスト、参考図書
テキスト プリント資料および学習支援システムでのリソースにて提示する。 参考図書 参考図書： (1) 教育の方法・技術と I C T (やさしく学ぶ教職課程 シリーズ) (古賀毅・高橋優 編著 学文社 2022年) (2) 教育方法論【改訂版】(教職課程シリーズ) (谷田貝公昭・成田国英・林邦雄著、一藝社出版 2015年) (3) 教育の方法と技術－第3版(教育学のポイント・シリーズ) (単行本) (柴田義松・山崎準二著 学文社 2019年) 参考資料： 中学校学習指導要領(平成29年3月公示 文部科学省) 高等学校学習指導要領(平成30年3月公示 文部科学省) プリント資料および学習支援システムでのリソースを利用する。 オンラインフォーラムにおいて、授業テーマに関する自身の考えを述べ、他者との議論も深める必要がある。 教材制作・模擬授業準備においては、市販のソフトウェア関連の書籍やWWWの資料を参考に、授業時間外にも作業を行う必要がある。
(11) その他(受講上の注意)
欠席した場合には、授業の進捗を確認し次週に備えること。模擬授業に関連して準備・練習を十分行うこと。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

仏教の思想 (Views of Buddhism)			担当教員	市野 智行	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HL-1210	2 単位	2 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間生活学部学部共通科目 全学共通科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。					

(1) 授 業 の 内 容
ブッダと親鸞の思想を学ぶことを通して、人間の課題を学び、自らの生き方を問い尋ねていく。ブッダと親鸞の生涯と教えについて基本的な知識を修得する。そのことを通して、「人間とは何か」「人として生きる(人生)とはどういうことか」を学び、自己理解と他者理解を深め、豊かな人間関係を築く上での人間力を養う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
ブッダと親鸞の生涯と思想について基本的な知識を修得し、説明することができる。 仏教思想における人間観を学び、「自分とは何か」を考察し、表現することができる。 仏教思想を通して、豊かな人間関係のあり方を学び、主体的に考える姿勢を身につける。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート) ☒ グループワーク ☐ 発表(プレゼンテーション) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
事前学習：参考文献等を読んでおくこと。(10時間) 第1回：ガイダンス 釈尊と親鸞の生涯を学ぶ意味を確かめる 第2回：インドから現代を学ぶ(グループワーク) 第3回：釈尊の生涯と教え① 誕生と修行・正覚 第4回：いのちをいただく(グループワーク) 第5回：釈尊の生涯と教え② 初転法輪と入滅 事後学習：学んだ箇所を復習すること。(10時間) 事前学習：配付資料に目を通しておくこと。(10時間) 第6回：いのちとつながり(グループワーク) 第7回：釈尊の生涯から何を学ぶことができるのか(小テストを含む) 第8回：テスト返しと現代問題(グループワーク) 第9回：親鸞の生涯と教え① 誕生から出家 第10回：親鸞の生涯と教え② 法然との出遇いと法難 事後学習：学んだ箇所を復習すること。(10時間) 事前学習：配付資料に目を通しておくこと。(10時間) 第11回：親鸞の生涯と教え③ 関東教化 第12回：親鸞の生涯と教え④ 入滅 第13回：親鸞の生涯から何を学ぶことができるのか(小テストを含む) 第14回：現代問題について(グループワーク) 第15回：テスト返しと総括 事後学習：学んだ箇所を復習すること。(10時間)
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
授業内小レポート・感想文、小テスト(50%) 平常点(50%) (平常点は、出席状況、受講態度等で総合的に判断します。)
(7) 成 績 評 価 基 準
講義の理解度と、理解した内容を自らの課題として考察・表現できているかどうかを基準にする。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト：授業内にて配布 参考資料：親鸞 生涯と教え(東本願寺) ブッダと親鸞(東本願寺)
(11) その他(受講上の注意)
私語、携帯電話等の使用は厳禁です。複数回注意を受けた場合は欠席扱いとします。 また遅刻や欠席をしないように。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

哲学の世界観 (Philosophical Thinking)			担当教員	橋本 武志	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HL-1220	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部学部共通科目 人間学関連科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。					

(1) 授 業 の 内 容
古代ギリシアに発祥した西洋哲学・思想が生み出してきた多様なものの見方や概念を紹介するとともに、それらが、現代日本人に及ぼしている影響について解説する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
哲学独自の思考方法や批判的思考に慣れ親しむことを通じて、社会人なら知っておくべき程度の、哲学・倫理学の基本的な概念を理解し、その用語を習得する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(ペアワーク)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーションと「世界観」概念の説明 事前学習：参考図書などをもとに「哲学」「世界観」について調べノートしておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと(2時間) 第2回：神話的世界観ではなぜ不十分なのか？(ペアワーク10分) 事前学習：参考図書などをもとに日本や中国、ギリシャの「宇宙創成神話」について調べノートしておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと(2時間) 第3回：哲学的思考の発祥(プレソクラテス1) 事前学習：参考文献などをもとに「ピタゴラス」について調べてノートしておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと(2時間) 第4回：哲学的思考の展開(プレソクラテス2) 事前学習：参考文献などをもとに「ヘラクレイトス」「パルメニデス」について調べノートしておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと(2時間) 第5回：ソクラテス1 事前学習：参考文献などをもとに「ソクラテスの生涯」について調べノートしておくこと(2時間) 事後学習：資料をもとに自分なりに纏めておくこと(2時間) 第6回：ソクラテス2 事前学習：参考文献などをもとに「無知の知」「魂の配慮」について調べノートしておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと(2時間) 第7回：プラトン1 事前学習：参考文献などをもとに「プラトンの生涯」について調べノートしておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと(2時間) 第8回：プラトン2 事前学習：参考文献などをもとに「洞窟の比喩」について調べノートしておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと(2時間) 第9回：アリストテレス1(可能態・現実態などの対概念) 事前学習：参考文献などを基に「可能態・現実態」の語義について調べ、ノートしておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと(2時間) 第10回：アリストテレス2(目的論と実体概念) 事前学習：参考文献などをもとに「実体」について調べノートしておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと(2時間) 第11回：映像によって古代の思想を知る 事前学習：エジプトのアレクサンドリアについて調べノートしておくこと(2時間) 事後学習：地動説の歴史について調べ、自分なりに纏めておくこと(2時間)

第12回：古代から中世の思想の流れ 事前学習：参考文献などをもとにパスカルの「人間は考える葦である」という言葉について調べ、ノートしておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間） 第13回：デカルト1（デカルトの知識論） 事前学習：参考文献などをもとにデカルトの生涯について調べノートしておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間） 第14回：デカルト2（デカルトの自我論・方法的懐疑） 事前学習：参考文献などをもとにデカルトの「我思う。ゆえに私はある」という言葉について調べノートしておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間） 第15回：これまでのまとめ 事前学習：これまでの授業について質問を考えてくること（2時間） 事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（80%）、平常点（20%） （平常点は、授業への参加状況、受講態度、毎回の授業内小レポートの提出状況を総合して判断する）
(7) 成績評価基準
・哲学の基本的な用語や人名について、これを理解し、説明することができるか。 ・授業で扱う西洋思想の流れを理解しているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキストはとくに使用しない。 参考図書については、安価かつ容易に入手できるものを以下に記載しておく。 ・岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』（岩波ジュニア新書） 岩波書店 2003 ・伊藤邦武『物語 哲学の歴史』（岩波新書） 岩波書店 2012 ・熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』（岩波新書） 岩波書店 2006 ・熊野純彦『西洋哲学史 近世から現代へ』（岩波新書） 岩波書店 2006
(11) その他(受講上の注意)
・毎回の講義を受けた後でその部分の配布資料とノートを見直して復習をし、次の授業に臨んでください。また、第2回の授業で配布する参考文献一覧から該当書物を読むなどして、より理解を深めてください。 ・毎回授業内で小レポートを書いてもらいます。私語は他の受講者の迷惑となるので厳禁。私語の目立つ者はその場で注意するが、注意によっても改まらない場合当日欠席扱いとするので注意されたい。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

文学の世界 (The World of Literature)			担当教員	平岡 正実	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HL-1221	2 単位	2 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間生活学部学部共通科目 人間学関連科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います					

(1) 授 業 の 内 容	
古今の郷土に関する作家や文学作品、昔話おとぎ話等を取り上げ読解する。読むことで得た知識をもとに簡単な文学作品を創作する。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
古今の郷土に関係のある文学作品や作家の生き方に触れることで、それぞれの時代にふるさとに生きた人々の思想や願いに思いをはせるとともに、創作活動に必要な文章構成や表現の工夫などの基礎的な知識を身につけることができる。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：授業概要の説明及び受講の心構え 事前学習：今までの自分の読書生活を振り返り、この講義で学びたいことややってみたいことなどについて、簡単なスピーチができるようにしておくこと。(2時間) 事後学習：「ポップ」のねらいや「ビブリオバトル」のルールについて、図書やインターネット等で調べておくこと。(2時間)	
第2回：郷土(武生・今立)の文学概論 (発表・ディスカッション) 事前学習：郷土に関連のある作家や文学作品の中で興味のあるものについて調べ、ノートにまとめておくこと(2時間) 事後学習：越前市東部(味真野地区・今立地区)の文化遺産について調べ、ノートにまとめ第3回：授業で提出すること(2時間)	
第3回：郷土の文学①いわさきちひろと絵本 (発表・ディスカッション) 事前学習：「いわさきちひろ」について、図書館やインターネットで調べ、代表的な作品を読んでおくこと。(2時間) 事後学習：安曇野と東京のちひろ館やちひろの絵の技法について調べ、ノートにまとめ第4回：授業で提出すること。(2時間)	
第4回：郷土の文学②加古里子とかこさとし絵本館 (発表・ディスカッション) 事前学習：「かこさとし」について図書館やインターネットで調べ、代表的な作品を読んでおくこと。(2時間) 事後学習：かこさとし公園やかこさとしの絵の技法について調べ、ノートにまとめ第5回：授業で提出すること。(2時間)	
第5回：郷土の文学③橘曙覧と独楽吟 (発表・グループワーク) 事前学習：「橘曙覧」について、図書館やインターネットで調べておくこと。(2時間) 事後学習：「平成独楽吟集」を読み、曙覧の句と比べて社会的背景や先人の物の見方・感じ方について感想をノートにまとめ第6回：授業で提出すること。(2時間)	
第6回：郷土の文学④「山川登美子・水上勉・高見順」 (発表・ディスカッション) 事前学習：「山川登美子・水上勉・高見順」のうち、興味のある文学者について調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 事後学習：「山川登美子・水上勉・高見順」のうち、興味のある文学者の作品を読み、特徴や文学史上の位置づけについてノートにまとめ第7回：授業で提出すること。(2時間)	
第7回：郷土の文学のまとめ「郷土の文学新聞」制作 事前学習：郷土の文学者のうち、興味のある文学者について資料を集め、「郷土の文学新聞」のレイアウトを作成しておくこと。(2時間) 事後学習：「郷土の文学新聞」を完成させ第8回：授業で提出すること。(2時間)	

第8回：神話・昔話の世界①小学校の教科書教材（発表・ディスカッション） 事前学習：日本の神話や昔話（古事記・宇治拾遺物語・御伽草子等）について調べ、ノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業中に紹介された日本の説話集について、図書館で調べてまとめ第9回：授業で提出すること。（2時間） 第9回：神話・昔話の世界②原典や絵本等を読む（発表・ディスカッション） 事前学習：西洋の昔話（グリム・アンデルセン・ペロー等）について調べ、ノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業中に紹介された西洋の昔話・おとぎ話について、図書館で調べてまとめ第10回：授業で提出すること。（2時間） 第10回：韻文（詩・短歌・俳句）の世界（発表・ディスカッション） 事前学習：俳句（文学史、季語）について調べ、ノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：興味のある俳人、歌人、詩人の人物像や作品について調べ、ノートにまとめ第11回：授業で提出すること。（2時間） 第11回：童話の創作法（発表・ディスカッション・グループワーク） 事前学習：芥川龍之介について調べ、ノートにまとめ第12回：授業で提出すること。（2時間） 事後学習：芥川龍之介の作品（説話集）を一つ読み、400字程度にまとめて第12回：授業で提出すること（2時間） 第12回：童話の創作①（発表・ディスカッション） 事前学習：日本の昔ばなしや西洋のおとぎ話をテーマにした絵本・児童向け作品集を読み、あらすじと感想をノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：幼児教育における昔話やおとぎ話の意義について、意見をノートにまとめ第13回：授業で提出すること。（2時間） 第13回：童話の創作②（発表・ディスカッション） 事前学習：童話コンクール入賞作品を分析し、魅力をまとめておくこと。（2時間） 事後指導：図書館やインターネット等で日本の代表的な説話集にどのようなものがあるか調べ、ノートにまとめ第14回：授業で提出すること（2時間） 第14回：童話の創作③（発表・ディスカッション） 事前学習：説話集をリストアップし、比較分析すること。（2時間） 事後学習：授業の課題（日本の説話集から作品を選び、現代の社会状況に合わせて書き直す）を完成させ第15回：授業で提出すること。（2時間） 第15回：創作童話の合評会（プレゼンテーション） 事前学習：自分が取り上げた作品について、ワークシートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：本授業を受講して印象に残ったことや更に調べてみたいことなどをノートにまとめ提出すること。（2時間）	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
学期末レポート（50%）、授業内の課題（30%）、平常点（20%） （平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する）	
(7) 成績評価基準	
講義で学修した作家や作品について理解を深めたか。作品創作に必要な手順や方法など基礎的な知識を理解して、文章構成や表現に留意した作品が書けたか。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
経歴：(元小学校教諭・中学校国語科教諭) 実務経験と授業内容との関連性：(学校現場における教員経験を有する教員が、ふるさと教育の視点から福井県や越前市の文化や文学者について解説したり、青少年期における読書活動の意義・重要性について講義する。)
(10) テキスト、参考図書
テキストは、使用しません。参考図書は、その都度指示します。
(11) その他(受講上の注意)
毎回、テーマに関する本を1冊以上読んでおく
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

美術の世界 (The World of Art)			担当教員	伊東 知之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HL-1222	2 単位	2 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間生活学部学部共通科目 人間学関連科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います					

(1) 授 業 の 内 容
先史時代から現代までの美術の歴史を概観することによって美術史の特徴や普遍性について考察する。また、美術の中の絵画、彫刻、デザインといった各分野についてさらに詳しい具体的な内容を検証し、私たちの身の周りに存在する美術についても考察していく。そして、美術と人間の関わり、美術と社会との関わりを探究することによって美術の起源、存在理由等、美術の本質に迫りながら人間の営みとしての美術を総合的に見ていく。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ 美術の歴史や分野について説明できる。 ・ ある程度、美術作品として自分なりに工夫して表現できる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：美術の起源・なぜ人は絵を描くのか 事前学習：美術の起源について調べてまとめる。(2時間) 事後学習：授業内容をまとめる。(2時間) 第2回：美術の歴史①(古代) 事前学習：古代美術について調べてまとめる。(2時間) 事後学習：授業内容をまとめる。(2時間) 第3回：美術の歴史②(ルネッサンス) 事前学習：ルネッサンスについて調べてまとめる。(2時間) 事後学習：授業内容についてまとめる。(2時間) 第4回：美術の歴史③(ルネッサンス) 事前学習：ルネッサンスについてさらに調べてまとめる。(2時間) 事後学習：授業内容をまとめる。(2時間) 第5回：美術の分野①(絵画) 事前学習：興味のある絵画について調べておく。(2時間) 事後学習：授業内容をまとめる。(2時間) 第6回：美術の分野②(彫刻) 事前学習：興味のある彫刻について調べておく。(2時間) 事後学習：授業内容をまとめる。(2時間) 第7回：美術の分野③(工芸) 事前学習：興味のある工芸について調べておく。(2時間) 事後学習：授業内容をまとめる。(2時間) 第8回：美術の分野④(デザイン) 事前学習：興味のあるデザインについて調べておく。(2時間) 事後学習：授業内容をまとめる。(2時間) 第9回：美術展見学(フィールドワーク) 事前学習：見学する美術展について調べておく。(2時間) 事後学習：見学した内容をレポートにまとめる。(2時間) 第10回：美術作品について① 事前学習：興味のある美術作品について調べておく。(2時間) 事後学習：授業内容をまとめる。(2時間) 第11回：美術作品について② 事前学習：さらに興味のある美術作品について調べておく。(2時間) 事後学習：授業内容をまとめる。(2時間)

第12回：美術作品について③ 事前学習：さらに興味のある美術作品について調べておく。（2時間） 事後学習：授業内容をまとめておく。（2時間） 第13回：作品発表（制作・発表・プレゼンテーション） 事前学習：作品発表できるように作品制作をする。（2時間） 事後学習：指摘があった箇所についてさらに制作する。（2時間） 第14回：美術の歴史④（近代、現代） 事前学習：美術の歴史の概要について調べておく。（2時間） 事後学習：授業内容をまとめておく。（2時間） 第15回：まとめ・美術について 事前学習：授業全体の内容をまとめておく。（2時間） 事後学習：美術についてのレポートを提出する。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポート（60%）、作品（20%）、平常点（20%） （平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断する。）
(7) 成績評価基準
・美術の歴史や意味について説明できるか。 ・テーマに基づいて自分なりに工夫して作品ができたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他（課題発表に対するフィードバックについて） ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて資料を配布する。
(11) その他(受講上の注意)
美術展の見学を土曜日に行う。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

生活と環境 B (Life Science and the Environment B)			担当教員	高木 康之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HL-2230	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部学部共通科目 環境・健康生活科目					
求める学習成果（教育目標）					
大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます					

(1) 授 業 の 内 容
最近の高度な科学と技術の飛躍的發展により産業構造や家族形態に大きな変化をもたらされたことは、食生活の営みに大きく影響する。健康に食生活を営むための基礎的知識を理解し、食生活の現実とその深層を見極めるため食のもつ機能や各ライフステージにおける食の特徴と役割について学習する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・食生活における食のもつ機能について説明できる。 ・各ライフステージにおける食の特徴と役割について説明できる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：健康な食生活 事前学習：教科書(p.1-p.3)を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと(2時間) 第2回：食生活の変遷 事前学習：教科書(p.4-p.10)を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと(2時間) 第3回：食生活の現状と課題 事前学習：教科書(p.10-p.18)を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと(2時間) 第4回：食料・食材の安全性の現状と課題 事前学習：教科書(p.18-p.26)を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと(2時間) 第5回：栄養素摂取状況と健康状態の変遷と課題／課題レポート① 事前学習：教科書(p.27-p.33)を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと(2時間) 第6回：食品の生理的機能①(栄養的機能) 事前学習：教科書(p.34-p.39)を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと(2時間) 第7回：食品の生理的機能②(感覚的機能) 事前学習：教科書(p.40-p.48)を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと(2時間) 第8回：食品の生理的機能③(生体調節機能) 事前学習：教科書(p.48-p.51)を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと(2時間) 第9回：食生活の精神的機能 事前学習：教科書(p.51-p.60)を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと(2時間) 第10回：食生活の社会的機能①(分配行動、食事の種類、食が及ぼす心の病)／課題レポート② 事前学習：教科書(p.60-p.75)を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと(2時間) 第11回：食生活の社会的機能②(社会教育の役割、食情報の役割) 事前学習：教科書(p.98-p.101、p.105-p.112)を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと(2時間)

第12回：妊娠期の食生活 事前学習：教科書（p.113-p.114）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間） 第13回：授乳期の食生活 事前学習：教科書（p.115）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間） 第14回：乳児期の食生活 事前学習：教科書（p.115-p.120）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間） 第15回：壮・中年期、老年期の食生活 事前学習：教科書（p.129-p.138）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（70%）、課題レポート（20%）、平常点（10%） （平常点は、授業への参加状況、受講態度を総合して判断する）
(7) 成績評価基準
・食生活における食のもつ機能について説明できるか。 ・各ライフステージにおける食の特徴と役割について説明できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
福田靖子・小川宣子 編 『食生活論第3版』 朝倉書店 2015年 必要に応じて、講義用資料を出席者に配布する。
(11) その他(受講上の注意)
・課題レポートは、提出期限を守ること。期限後の提出は減点の対象となる（提出期限後は受領しない場合がある）。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

生活と環境D (Life Science and the Environment D)			担当教員	藤原 英一	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HL-2231	2 単位	2 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間生活学部学部共通科目 環境・健康生活科目					
求める学習成果(教育目標)					
大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます					

(1) 授 業 の 内 容
これからの時代にふさわしい生活環境のあり方、人や環境にやさしい生活者、まちづくりの担い手となるための知識やノウハウを学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
持続可能な地域社会を実現するうえで必要となる人と自然にやさしい生活環境づくりに向けて、以下のとおり、我々が行動すべきこと、地域社会に働きかけるべきことを体得することを目標とする。 ○人と環境にやさしいまちづくりに関する知識・考え方を体得する ○人と環境にやさしいライフスタイル・暮らし方に関する知識・考え方を体得する ○ワークショップ手法を通じて、他者との意見交換や共同による新たな創造に繋げる能力を高める
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
授業は講義形式を中心とし、節目節目において課題のプレゼンテーションを交える。 第1回：まちづくりとは 事前学習：まちづくりに関する事前調査(2時間) 事後学習：授業の復習(2時間) 第2回：景観と景観まちづくり～暮らしを豊かにする風景・景観～ 事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査(2時間) 事後学習：授業の復習(2時間) 第3回：デザイン～社会問題を解決するデザイン～ 事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査(2時間) 事後学習：授業の復習(2時間) 第4回：幸せな地域にあるもの①～社会の課題・地域の課題とその解決策～ 事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査(2時間) 事後学習：授業の復習(2時間) 第5回：幸せな地域にあるもの②【グループワーク】 事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査(2時間) 事後学習：グループワークでの調査(2時間) 第6回：幸せな地域にあるもの③【グループワーク】 事前学習：グループワークに関する事前調査(2時間) 事後学習：グループワークの復習(2時間) 第7回：コンパクトシティ①～今後必要となるライフスタイル・暮らし方～ 事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査(2時間) 事後学習：授業の復習(2時間) 第8回：コンパクトシティ② 事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査(2時間) 事後学習：授業の復習(2時間) 第9回：シビックプライド①～まちと自分の関係～ 事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査(2時間) 事後学習：授業の復習。(2時間) 第10回：シビックプライド②【グループワーク】 事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査。(2時間) 事後学習：グループワークの復習(2時間) 第11回：リノベーションまちづくり～豊かな暮らし、自分がしたい暮らし方 事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査(2時間) 事後学習：授業の復習(2時間)

第12回：公共空間の再構築①～これからの時代に必要な公共空間～ 事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査（2時間） 事後学習：授業の復習（2時間） 第13回：公共空間の再構築② 事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査（2時間） 事後学習：授業の復習（2時間） 第14回：公共空間の再構築③+ワークショップⅣ【グループワーク】 事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査（2時間） 事後学習：グループワークでの調査（2時間） 第15回：私たちが考えるこれからのまちづくりの提案【発表（プレゼンテーション）】 事前学習：プレゼンテーションの作成（2時間） 事後学習：授業の復習（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
出席状況・出欠アンケートの内容70%、ワークショップの内容10%、受講姿勢・意欲20%で評価を行うことを基本としつつ、受講姿勢・意欲等を踏まえて定期試験を実施する。
(7) 成績評価基準
成績評価の基準は、授業の到達目標に対する学修成果の達成度を以下の基準に基づいて評価する。 ○人と環境にやさしいまちづくり・ライフスタイルに関して必要となる視点やその理由に関する理解度 ○ワークショップ手法の理解度、他者との意見交換や共同による新たな創造に繋げる技術等の体得状況 ○自ら学びをデザインする意識・行動
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
経歴：(総合建設コンサルタント(都市計画・まちづくり等)勤務) 実務経験と授業内容との関連性：(都市計画やまちづくりの専門家としての経験を有する教員が、まちづくり、景観、シビックプライド等の視点から、持続可能な地域社会を実現するうえで必要となる知識や考え方の体得、地域社会に対して主体的に行動する意識の醸成を目的として講義を行う。)
(10) テキスト、参考図書
参考文献 『みんなの都市 初心者のための都市計画マニュアル』 オサム・オカムラ／著(鹿島出版会) 『公民連携まちづくり事例&解説 エリア再生のためのPPP』 日経アーキテクチュア(2022) 『まちづくりプロジェクトの教科書』 小地沢 将之(森北出版)2020年 『都市から学んだ10のこと まちづくりの若き仲間たちへ』 西村幸夫著(学芸出版社)2019年 『都市計画学:変化に対応するプランニング』 中島直人他著(学芸出版社)2018年 『地域を変えるデザイン』 寛裕介著(英治出版)2011年 他
(11) その他(受講上の注意)
授業の妨げとなる行為(私語、携帯、受講姿勢不良等)が著しい者には退席を命ずることがある。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

ふくい総合学 (General Studies of Fukui)			担当教員	杉島 一郎、禿 寿、尼子 克己、 西出 和彦
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
HL-2232	2単位	2年後期	講義	選択
<科目区分> 人間生活学部学部共通科目 環境・健康生活科目				
求める学習成果(教育目標)				
大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実地的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。				

(1) 授 業 の 内 容
本授業は、様々な分野・専門領域における「ふくい」についての現況の課題や行政施策等の理解促進を目的とする。 特に「ふくい」の中の「越前市」に焦点をあて、市職員を招聘し、学生へ市計画等の事業の現状、将来構想、施策の特徴を講義し、「市を取り巻く状況」に始まり、「戦略的取組」「行政課題」や「今後の展望」などを取り上げる。後半は、本学各学科各領域からの視点で越前市や地域との関連性について取り上げ、大学の立地自治体の特徴、文化の理解を深めてもらえるような内容となっている。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
本学が立地する自治体である「越前市」の特徴や行政全般、さらには独自の文化等に対する理解を深める。
(3) アクティブラーニング
☐課題解決型学習(PBL) ☐討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐実習、フィールドワーク ☐実験、実技 ☐その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回:「ふくい総合学」趣旨説明<総論>越前市を取り巻く状況 事前学習:授業前にシラバスを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習:授業の内容を振り返り、e-learningを通じてリフレクションを実施すること。(2時間) 第2回:戦略的取組み<まちづくり編>コウノトリと里山の人たちとの共生、かこさとしさんと読書のまち宣言 事前学習:授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習:e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。(2時間) 第3回:戦略的取組み<福祉編>検診を受けよう 新しい健康づくり、子どもの笑顔が輝く環境づくり 事前学習:授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習:e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。(2時間) 第4回:戦略的取組み<文化編>国府が置かれた歴史あるまちづくり、たけふ菊人形のあゆみ 事前学習:授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習:e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。(2時間) 第5回:戦略的取組み<産業編>越前市の産業活性化(産業活性化プラン・工芸の里構想) 事前学習:授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習:e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。(2時間) 第6回:戦略的取組み<環境編>下水道事業で人と環境のネットワークづくり、もったいない!捨てないで資源回収しよう 事前学習:授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習:e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。(2時間) 第7回:行政課題(1)地域が支える災害に強いまちづくり、まちづくりと交通体系 事前学習:授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習:e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。(2時間) 第8回:行政課題(2)越前市の財政、越前市で暮らそう!~新生活を始めるなら中心市街地がおすすめ~ 事前学習:授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習:e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。(2時間) 第9回:行政課題(今後)オープンデータを利用したまち情報の発信、きくりんがちょっといいこと教えちゃうリン!~越前市の嬉しい情報をお届けします~ 事前学習:授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習:e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。(2時間)

第10回：行政課題（展望）市民協働プロセスの確立、市民交流・ネットワークづくり 事前学習：授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。（2時間） 第11回：心理学の視点から（心理学科教員） 事前学習：授業前に資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。（2時間） 第12回：コミュニケーション学の視点から（コミュニケーション学科教員） 事前学習：授業前に資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。（2時間） 第13回：健康栄養学の視点から（健康栄養学科教員） 事前学習：授業前に資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。（2時間） 第14回：子ども教育学の視点から（子ども教育学科教員） 事前学習：授業前に資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。（2時間） 第15回：まとめ（とりまとめ教員） 事前学習：授業前に14回までを振り返り、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：e-learningを通じて授業全体のリフレクションを実施すること。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポート（60％） 平常点（40％） （平常点は、授業時のリアクションペーパー、受講態度等を総合して判断する。）
(7) 成績評価基準
「越前市の人とまち、その文化」というテーマで、「越前市の取り組み」についての現況の課題や今後の施策内容等を理解できたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
毎回プリントを配布。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英語Ⅱa (EnglishⅡa)			担当教員	加藤 優子、矢橋 知枝、M クズィフ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HL-2240	1 単位	2 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間生活学部学部共通科目 外国語科目					
求める学習成果（教育目標）					
大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます。					

(1) 授 業 の 内 容
Following a warm-up activity to introduce the theme of the unit, students will be introduced to the relevant grammar and vocabulary through a series of listening and speaking exercises. Reading and writing exercises will follow to reinforce their knowledge of the material.
(2) 授 業 の 到 達 目 標
Expanding upon the material covered in English I a and I b, further attention will be given to developing the four core skills of language proficiency. Students will continue to develop the speaking skills necessary to express themselves in general areas of conversation, such as talking about their daily lives and exchanging personal information. Listening practice will focus on listening for keywords and specific information. Reading exercises will focus on the important skills of skimming for general understanding as well as scanning for specific information. Writing activities will center on developing the student's ability to express his or her own thoughts and opinions in an easy-to-understand manner. Students are expected to participate in discussions, group work, and give presentations. The scheduling of discussions, group work, and presentations is at the discretion of each course instructor.
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回: Class Introduction (ディスカッション) 事前学習: 事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること(30分) 第2回: Unit 1 - Hobbies ① (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること(30分) 第3回: Unit 1 - Hobbies ② (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること(30分) 第4回: Unit 2 - Cities ① (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること(30分) 第5回: Unit 2 - Cities ② (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること(30分) 第6回: Unit 3 - An Active Life ① (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること(30分) 第7回: Unit 3 - An Active Life ② (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること(30分) 第8回: Review (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること(30分)

第9回：Unit 4 - Technology ①（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分） 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること（30分） 第10回：Unit 4 - Technology ②（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分） 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること（30分） 第11回：Unit 5 - Personality ①（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分） 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること（30分） 第12回：Unit 5 - Personality ②（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分） 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること（30分） 第13回：Unit 6 - Cooking ①（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分） 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること（30分） 第14回：Unit 6 - Cooking ②（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分） 授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること（30分） 第15回：Review（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分） 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること（30分） 第16回：Examination（インタビューテスト、スピーチ） Before each unit, students are to familiarize themselves with the class material by reviewing the 'Grammar Reference' pages for each unit and completing the exercises on those pages. Students must also complete homework assignments as instructed by their teacher, such as the written assignments suggested in the textbook and other relevant assignments.
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 Outside-class Assignments - 20% *Talk to your instructor about what is required. Proactive In-class Participation - 20% Examinations - 60%
(7) 成績評価基準 Students' abilities to participate in conversations and express opinions on a variety of subjects will be evaluated as well as their abilities to express opinions in written form and to comprehend reading passages.
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 Stempleski, Susan. Stretch 2 (Second Edition). 2024. Oxford University Press. ISBN 978-0-19-413640-2 TEXT加藤『TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ』朝日新聞出版 2017年

(11) その他(受講上の注意)

Students are encouraged to take the TOEIC during their studies at the university. Also, at least one class will be held in the E-Lounge (E-301) or CALL (E-303) during the semester to familiarize the students with the latest available English self-study materials.

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英語Ⅱb (EnglishⅡb)			担当教員	加藤 優子、矢橋 知枝、M クズィフ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HL-2241	1 単位	2 年後期	演習	選択	
＜科目区分＞ 人間生活学部学部共通科目 外国語科目					
求める学習成果（教育目標）					
大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます。					

(1) 授 業 の 内 容
Following a warm-up activity to introduce the theme of the unit, students will be introduced to the relevant grammar and vocabulary through a series of listening and speaking exercises. Reading and writing exercises will follow to reinforce their knowledge of the material.
(2) 授 業 の 到 達 目 標
Expanding upon the material covered in English I a and I b, further attention will be given to developing the four core skills of language proficiency. Students will continue to develop the speaking skills necessary to express themselves in general areas of conversation, such as talking about their daily lives and exchanging personal information. Listening practice will focus on listening for keywords and specific information. Reading exercises will focus on the important skills of skimming for general understanding as well as scanning for specific information. Writing activities will center on developing the student's ability to express his or her own thoughts and opinions in an easy-to-understand manner. Students are expected to participate in discussions, group work, and give presentations. The scheduling of discussions, group work, and presentations is at the discretion of each course instructor.
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回: Class Introduction (ディスカッション) 事前学習: 事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第2回: Unit 7 - Weather ① (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第3回: Unit 7 - Weather ② (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第4回: Unit 8 - Everyday Activities ① (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第5回: Unit 8 - Everyday Activities ② (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第6回: Unit 9 - Math, history, and art ① (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第7回: Unit 9 - Math, history, and art ② (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第8回: Review (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)

第9回：Unit 10 - A busy semester ① (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第10回：Unit 10 - A busy semester ② (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第11回：Unit 11 - Favors and requests ① (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第12回：Unit 11 - Favors and requests ② (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第13回：Unit 12 - Before you travel ① (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第14回：Unit 12 - Before you travel ② (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第15回：Review (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第16回：Examination Before each unit, students are to familiarize themselves with the class material by reviewing the 'Grammar Reference' pages for each unit and completing the exercises on those pages. Students must also complete homework assignments as instructed by their teacher, such as the written assignments suggested in the textbook and other relevant assignments.
(5) 授業形態 [面接授業・遠隔授業] 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 Outside-class Assignments - 20% *Talk to your instructor about what is required. Proactive In-class Participation - 20% Examinations - 60%
(7) 成績評価基準 Students' abilities to participate in conversations and express opinions on a variety of subjects will be evaluated as well as their abilities to express opinions in written form and to comprehend reading passages.
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 Stempleski, Susan. Stretch 2 (Second Edition). 2024. Oxford University Press. ISBN 978-0-19-413640-2 TEXT加藤 『TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ』 朝日新聞出版 2017年

(11) その他(受講上の注意)
Students are encouraged to take the TOEIC during their studies at the university.
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

キャリア・デザインⅡ (Career Design Ⅱ)			担当教員	升田 法継	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HL-2260	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部学部共通科目 修学基礎・キャリア形成科目					
求める学習成果(教育目標)					
大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます。					

(1) 授 業 の 内 容	
社会の中での役割を主体的に果たしながら、「自分らしい生き方」を実現するための力を育むことを目的とし、学生の自立および学生が自身の様々な可能性を発見・再確認できる機会の提供を通じて、今後の大学生活の目標を設定する。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
・「はたらく」ことの意味・意義について、十分に考えることができる。 ・「はたらく」とことと大学生活での「学び」を関連づけて考えることができる。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：キャリア・デザインとは 事前学習：初回の授業ではキャリア・デザインの意味・意義について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたライフストーリーについて、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第2回：ライフストーリーⅠ 事前学習：ゲストスピーカーのライフストーリーについて考えるため、自分なりに調べておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第3回：ライフストーリーⅡ 事前学習：ゲストスピーカーのライフストーリーについて考えるため、自分なりに調べておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第4回：ライフストーリーⅢ(グループワーク・発表) 事前学習：各自調査したライフストーリーについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第5回：「はたらく」とはⅠ 事前学習：「はたらく」ことの意味・意義について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第6回：「はたらく」とはⅡ 事前学習：「はたらく」ことの意味・意義について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第7回：業界研究 事前学習：業界全体の概要について考えるため、自分なりに調べておくこと(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)	

第8回：職業理解Ⅰ 事前学習：総務・人事の仕事について考えるため、自分なりに調べておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） ※総務・人事の仕事は予定です（変更する場合があります）。 第9回：ロールモデルⅠ 事前学習：社会人卒業生と意見交換するため、確認したいことなどについて自分なりに整理しておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第10回：ロールモデルⅡ 事前学習：社会人卒業生との意見交換を踏まえ、振り返りを行うため自分なりに整理しておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第11回：職業理解Ⅱ 事前学習：営業・企画の仕事について考えるため、自分なりに調べておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） ※営業・企画の仕事は予定です（変更する場合があります）。 第12回：職業理解Ⅲ 事前学習：地方公務の仕事について考えるため、自分なりに調べておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） ※地方公務の仕事は予定です（変更する場合があります）。 第13回：インターンシップ 事前学習：インターンシップの心がまえについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第14回：就職活動 事前学習：就職活動の心がまえについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第15回：自己理解 事前学習：自己理解について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
課題に対する活動内容・提出物・レポート（70%）、平常点（30%） ※平常点：授業への参加状況・受講態度等を総合して判断するもの	
(7) 成績評価基準	
・「はたらく」ことの意味・意義について、十分に考えることができるか。 ・「はたらく」とことと大学生活での「学び」を関連づけて考えることができるか。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他（リアクションペーパーに対するフィードバックについて） ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

経歴：(元情報通信会社管理職(人事、社長・取締役秘書、マーケティング、新規ビジネス開発、システムコンサルタント等の業務を担当))

実務経験と授業内容との関連性：(企業(業種：情報通信、社員数：約26万人)の管理職(主な担当業務：人事、社長・取締役秘書、マーケティング、新規ビジネス開発、システム コンサルタント等)経験のある教員が、社会の中での役割を主体的に果たしながら「自分らしい生き方」を実現するための力を育むことを目的とし、学生の自立および学生が自身の様々な可能性を発見・再確認できるような機会を提供する。)

(10) テキスト、参考図書

テキストは使用しません。参考図書は必要に応じて紹介します。

(11) その他(受講上の注意)

民間企業を前提としたプログラム構成となっており、幅広い視野を養うことを狙いとしています。なお、「授業の計画」は、進捗や学生の反応・理解度に応じて、変更する場合があります。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

有機化学 (Organic Chemistry)			担当教員	高木 康之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-D-2204	2 単位	2 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 基礎分野					
求める学習成果(教育目標)					
基礎研究および食品開発ができる能力					

(1) 授 業 の 内 容
有機化合物の分類から構造と化学結合、命名法、官能基の種類と性質について基礎的な事項について学び、有機化合物を系統的に理解する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ 有機化合物の構造や官能基について理解し、説明することができる。 ・ 有機化合物のIUPAC名から構造式を書くことができる。 ・ 有機化合物の特徴について理解し、説明することができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：有機化合物の世界 事前学習：教科書の「まえがき」を読む。高校時代に学習した化学もしくは理科を見直す（2時間） 事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間） 第2回：有機化合物の特徴 事前学習：教科書（p.87-p.89）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間） 第3回：炭化水素①（アルカン） 事前学習：教科書（p.90-p.92）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間） 第4回：炭化水素②（アルケン・アルキン） 事前学習：教科書（p.92-p.95）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間） 第5回：代表的な有機化合物とその性質、官能基に基づく分類① 事前学習：教科書（p.107-p.113）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間） 第6回：代表的な有機化合物とその性質、官能基に基づく分類② 事前学習：教科書（p.114-p.120）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間） 第7回：代表的な有機化合物とその性質、官能基に基づく分類③ 事前学習：教科書（p.121-p.124）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間） 第8回：構造異性体 事前学習：教科書（p.125-p.127）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間） 第9回：立体異性体 事前学習：教科書（p.127-p.130）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間） 第10回：炭水化物①（構造と分類）／小テスト 事前学習：教科書（p.135-p.140）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間） 第11回：炭水化物②（化学的性質） 事前学習：教科書（p.135-p.141）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間）

第12回：アミノ酸とタンパク質①（α アミノ酸の種類、構造） 事前学習：教科書（p.148-p.152）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間） 第13回：アミノ酸とタンパク質②（化学的性質） 事前学習：教科書（p.153-p.158）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間） 第14回：脂質の種類と構造 事前学習：教科書（p.142-p.147）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間） 第15回：核酸、ビタミン 事前学習：教科書（p.159-p.165）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 定期試験（70%）、小テスト（20%）、平常点（10%） （平常点は、授業への参加状況・受講態度等から総合的に判断する）
(7) 成績評価基準 ・有機化合物の構造や官能基について理解し、説明することができるか。 ・有機化合物のIUPAC名から構造式を書くことができるか。 ・有機化合物の特徴について理解し、説明することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 北原重登、他・『食を中心とした化学 第5版』・東京教学社・2024年 必要に応じてプリントを配布する。
(11) その他(受講上の注意) ・課題レポートは、提出期限を守ること。期限後の提出は減点の対象となる（提出期限後は受領しない場合がある）。 ・理解度に応じて授業計画が変更されることがある。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

公衆衛生学 (Public Health)			担当教員	鳴瀬 碧	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-B-2206	2 単位	2 年後期	講義	必修	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野					
求める学習成果(教育目標)					
栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力					

(1) 授 業 の 内 容
集団的に人を捉えた予防医学が公衆衛生学であり、人々の健康状態の現状について学び、健康保持・増進を目的とした法律および施策について理解を深める。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・公衆衛生の概念とその重要性について理解し、説明することができる。 ・人間を集団として捉え、人々の健康と環境および生活習慣との関わり、健康評価の方法等を理解し、説明することができる。 ・集団としての健康の保持・増進に関する法律および施策について理解し、説明することができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：社会と健康(前編) 事前学習：授業前にテキストの第1章p1～12を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で学習した内容を復習し、テキスト第1章末の練習問題をする(2時間) 第2回：社会と健康(後編) 事前学習：授業前にテキストの第1章p12～25を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で学習した内容を復習し、テキスト第1章末の練習問題をする(2時間) 第3回：環境と健康①(生態系と人々の生活) 事前学習：授業前にテキストの第2章p15～21、p31～33を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で学習した内容を復習すること(2時間) 第4回：環境と健康②(環境汚染と健康) 事前学習：授業前にテキストの第2章p22～31、p33～37を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で学習した内容を復習すること(2時間) 第5回：環境と健康③(上水道と下水道) 事前学習：授業前にテキストの第2章p37～40を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で学習した内容を復習すること(2時間) 第6回：環境と健康④(廃棄物処理、放射線、建築物衛生) 事前学習：授業前にテキストの第2章p24、p40～42を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で学習した内容を復習すること(2時間) 第7回：保健・医療・福祉の制度① 事前学習：授業前にテキストの第7章p183～194を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で学習した内容を復習すること(2時間) 第8回：保健・医療・福祉の制度② 事前学習：授業前にテキストの第7章p194～200を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で学習した内容を復習すること(2時間) 第9回：地域保健 事前学習：授業前にテキストの第8章p201～209を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で学習した内容を復習すること(2時間) 第10回：母子保健 事前学習：授業前にテキストの第9章p211～222を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で学習した内容を復習すること(2時間) 第11回：成人保健 事前学習：授業前にテキストの第10章p223～p235を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で学習した内容を授業で学習した内容を復習すること(2時間)

第12回：高齢者保健・介護 事前学習：授業前にテキストの第11章p237～250を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で学習した内容を復習すること（2時間） 第13回：産業保健 事前学習：授業前にテキストの第12章p251～264を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で学習した内容を復習すること（2時間） 第14回：学校保健 事前学習：授業前にテキストの第13章p265～283を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で学習した内容を復習すること（2時間） 第15回：国際保健 事前学習：授業前にテキストの第14章p285～292を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で学習した内容を復習すること（2時間） 第16回：定期試験 新聞・ニュース等で報じられる健康の保持・増進に関する取組について日頃から興味を持つようにしてください。各回の講義内容についてよく復習し、疾病の予防や健康増進について公衆衛生学の重要性の理解に努めてください。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 定期試験（80%）、平常点（20%） （平常点は、授業への参加状況・授業態度等を総合して判断する）
(7) 成績評価基準 ・公衆衛生の概念について理解できているか。 ・環境と健康について理解できているか。 ・保健統計について理解できているか。 ・健康増進のための取組みや疾病の予防対策について理解できているか。 ・保険・医療・福祉の制度や取組みについて理解できているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他 (Teams) 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他（小テストに対するフィードバックについて） ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他 (Teams)
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性) 経歴：（薬剤師） 実務経験と授業内容との関連性：（薬剤師として医療提供施設での実務経験を活かし、国が展開する国民の健康づくりに関する施策、医療保険をはじめとする社会保障の仕組み、老人保健、母子保健、地域保健、産業保健、国際保健等、保健・医療・福祉の制度について解説する。）
(10) テキスト、参考図書 鳴瀬 碧 編著 ステップアップ栄養・健康科学『社会・環境と健康』 化学同人 2024年
(11) その他(受講上の注意) ・授業中の私語や携帯電話など、他の学習の妨げとなる場合には退室させるので留意すること。 ・疑問点や不明点があれば直ちに質問すること。 ・栄養士免許（必修） ・管理栄養士国家試験受験資格（必修）
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康管理概論 (Preventive Medicine and Health Promotion)			担当教員	鳴瀬 碧	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-B-2208	2 単位	2 年前期	講義		必修
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野					
求める学習成果（教育目標）					
栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力					

(1) 授 業 の 内 容
健康の概念とその歴史的概念を理解する。個人、集団（地域、学校、職場など）を対象として、健康の維持・増進、疾病の予防、回復を目的として行う健康管理について、健康の概念と歴史、疫学、世界、我が国の人口統計、国民の健康づくり、生活習慣病の現状と予防、地域保健、ライフステージ別の保健、健康管理、学校・職場での健康管理などについて教授する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
健康の概念とその歴史的概念および個人、集団（市町村、学校、職場など）の健康状態を把握するための健康指標、健康教育と健康管理など実践の技術、背景となる法律などについて説明できる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☒ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：健康概念、公衆衛生とその歴史（グループワーク、ディスカッション） 事前学習：授業前にテキストの第1章A.B.Dを読み「健康」の定義、例、質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第2回：疫学1（疫学の概念、疫学指標） 事前学習：授業前にテキストの第4章A.B.C.Dを読み質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第3回：疫学2（疫学的研究法） 事前学習：授業前にテキストの第4章A.B.C.Dを読み質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第4回：スクリーニング、EBM、疫学研究と倫理 事前学習：授業前にテキストの第4章E.F.Hを読み質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第5回：保険統計1（人口統計、人口指標、人口特性） 事前学習：授業前にテキストの第3章A.B.Cを読み質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第6回：保健統計2（生命表、平均寿命、健康寿命、疾病統計） 事前学習：授業前にテキストの第3章D.E.Fを読み質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第7回：健康づくり（健康の生物社会心理学モデル、生活習慣病・NCDの概念、健康日本21 グループワーク） 事前学習：授業前にテキストの第5章Aを読み、それぞれについて説明できる様にまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）

第8回：生活習慣と健康1（身体活動・運動、喫煙） 事前学習：授業前にテキストの第5章C.Dを読み質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第9回：生活習慣と健康2（飲酒、睡眠・休養・ストレス、歯科保健） 事前学習：授業前にテキストの第5章E.F.Gを読み質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、配布された問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第10回：主要疾患の疫学と予防1（生活習慣病） 事前学習：授業前にテキストの第6章A.B.Cを読み質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第11回：主要疾患の疫学と予防2（感染症、精神疾患、自殺、不慮の事故、虐待暴力） 事前学習：授業前にテキストの第6章E.F.G.Hを読み質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第12回：社会保障（医療制度、福祉制度、地域の保健予防システム） 事前学習：授業前にテキストの第7章、第8章を読み質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第13回：高齢者・成人の健康管理、母子の健康管理、産業保健 事前学習：授業前にテキストの第10章、第11章、第12章を読み質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第14回：学校の健康管理、国際保健 事前学習：授業前にテキストの第13章、第14章を読み質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：授業前にこれまで学修した事を復習し、質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 定期試験（80%）、平常点（20%）割合は授業形態、試験形態により変わる事があります。 （平常点は、授業への参加状況・受講態度・小試験の成績等を総合して判断します）
(7) 成績評価基準 健康の概念とその歴史的な概念および個人、集団（市町村、学校、職場など）の健康状態を把握するための健康指標、健康教育と健康管理など実践の技術、背景となる法律などについて説明できる。
(8) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

(10) テキスト、参考図書
健康・栄養科学シリーズ 社会・環境と健康 2024-25 南江堂 講義時にプリントを配布する。
(11) その他(受講上の注意)
・講義中の私語は厳重に禁止し、減点対象とする。疑問点や不明点があればすぐに質問すること。 ・管理栄養士国家試験受験資格(必修)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

基礎生化学 (Fundamental Biochemistry)			担当教員	尼子 克己	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-A-2212	2 単位	2 年前期	講義		必修
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野					
求める学習成果(教育目標)					
栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力					

(1) 授 業 の 内 容
管理栄養士が行う栄養指導等の業務内容は、これまでに明らかにされてきた生体内分子反応、すなわち生化学的な人体の理解が前提となっている。そうした観点から、本講義では生体構成成分の構造と機能および生体物質の代謝・動態を中心にして、人体の構造と機能を体系的に理解する。まず、細胞・細胞小器官の構造と機能、生体成分の構造と機能を学ぶ。次いで、エネルギー代謝、糖質代謝、脂質代謝、タンパク質・アミノ酸代謝、核酸の構造・機能と代謝についてその詳細を学ぶ。無機質代謝、ホルモンやビタミンの機能と作用メカニズム、血液、免疫のしくみについても学習する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
① 生体構成の階層性、細胞・細胞小器官の構造と機能および各生体成分の構造と機能を説明することができる。 ② エネルギー代謝の統合性を理解した上で、糖質代謝、糖尿病、脂質代謝、高脂血症と動脈硬化、メタボリックシンドロームおよびタンパク質・アミノ酸代謝について、相互の関連性を含めて説明することができる。 ③ 核酸の構造・機能と代謝、無機質代謝、代謝へのホルモン機能と作用メカニズム、ビタミンの化学的性質と役割、血液、免疫のしくみなどについて、体系的に説明することができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：はじめに：学習目標の理解、人体の構成：細胞・細胞小器官・生体膜の構造と機能 事前学習：指定したビデオ教材を事前に関連すること。テキスト第1章を読み、疑問点を整理しておくこと。(2時間) 事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。(2時間) 第2回：糖質の構造と機能 事前学習：指定したビデオ教材を事前に関連すること。テキスト第2章を読み、疑問点を整理しておくこと。(2時間) 事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。(2時間) 第3回：脂質の構造と機能 事前学習：指定したビデオ教材を事前に関連すること。テキスト第3章を読み、疑問点を整理しておくこと。(2時間) 事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。(2時間) 第4回：たんぱく質の構造と機能 事前学習：指定したビデオ教材を事前に関連すること。テキスト第4章を読み、疑問点を整理しておくこと。(2時間) 事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。(2時間) 第5回：酵素の機能 事前学習：指定したビデオ教材を事前に関連すること。テキスト第5章を読み、疑問点を整理しておくこと。(2時間) 事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。(2時間)

第6回：エネルギー代謝：ATPの役割、電子伝達系、リン酸化	事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧すること。テキスト第6章2節および5節を読み、疑問点を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（2時間）
第7回：糖質代謝：解糖系、クエン酸回路、ペントースリン酸回路	事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧すること。テキスト第6章1，3，および4説を読み、疑問点を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（2時間）
第8回：糖新生と糖質の合成	事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧すること。テキスト第6章6節を読み、疑問点を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（2時間）
第9回：脂質代謝：脂肪酸の生合成と分解	事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧すること。テキスト第7章1～6節を読み、疑問点を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（2時間）
第10回：脂質代謝：コレステロール代謝	事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧すること。テキスト第7章7および8節を読み、疑問点を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（2時間）
第11回：たんぱく質・アミノ酸代謝	事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧すること。テキスト第8章を読み、疑問点を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（2時間）
第12回：核酸とたんぱく質の合成	事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧すること。テキスト第9章を読み、疑問点を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（2時間）
第13回：免疫と生体防御	事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧すること。テキスト第10章を読み、疑問点を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（2時間）
第14回：ビタミンの栄養	事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧すること。テキスト第11章を読み、疑問点を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（2時間）
第15回：内分泌系	事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧すること。テキスト第5章B節を読み、疑問点を整理しておくこと。（2時間）
	事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（2時間）
第16回：定期試験	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
定期試験50%、小テスト（5回程度実施する）50%を基準に総合的に評価する。	

(7) 成績評価基準
① 細胞・細胞小器官の構造と機能および各生体成分の構造と機能を説明することができるかどうか。 ② エネルギー代謝の統合性を理解した上で、糖質代謝、糖尿病、脂質代謝、高脂血症と動脈硬化、メタボリックシンドロームおよびタンパク質・アミノ酸代謝について、相互の関連性を含めて説明することができるか。 ③ 核酸の構造・機能と代謝、無機質代謝、代謝へのホルモン機能と作用メカニズム、ビタミンの化学的性質と役割、血液、免疫のしくみなどについて、体系的に説明することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他(小テストの答案を採点し返却する) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☒その他(講義や補足事項を記録したビデオをOffice365内で閲覧可能とする。小テストの解答解説をe-ラーニングに掲示する) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他(解答例を配布し、質問および結果照会を受け付ける。) 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト：岡ら編・「Nブックス生化学の基礎」(建帛社・2020) および 講義用配布資料 授業で直接は取り扱わないが、藺田編・「栄養科学イラストレイテッド演習版 生化学ノート」(第3版・羊土社・2017) やこれに類似する書き込み式の生化学ノートは、基礎生化学およびその周辺で扱う用語を覚えるためのドリルとして活用できるので推奨する。 参考図書： (1) 山口編、成田著・「基礎からしっかり学ぶ生化学」・羊土社・2014年。管理栄養士課程用に編集されたものではないが、より論理的に理解したい学生に適した記述となっている。 (2) 入村ら監訳・「ストライヤー生化学第7版」東京化学同人・2013年。体系的かつ詳細な内容。管理栄養士課程としての学修で通読は求めないが、リファレンスの用途に適する。
(11) その他(受講上の注意)
☐栄養士免許(必修) ☐管理栄養士国家試験受験資格必修(必修) ① 1年次に履修した基礎化学、生物学、有機化学、基礎栄養学などの授業内容を、復習しておくこと。 ② 遅刻、欠席、私語等は、授業の理解の妨げになるので、厳に慎むこと。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

栄養生化学 (Nutritional Biochemistry)			担当教員	池田 涼子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-A-2213	2 単位	2 年後期	講義	必修	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野					
求める学習成果(教育目標)					
栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力					

(1) 授 業 の 内 容
生体を構成する物質や栄養素が生体内で受ける代謝と生理的意義について学ぶ。 微量栄養素間の生体内相互作用については特に重要視し、理解を深める。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・食物成分の生体での異化作用、同化作用について理解する。 ・エネルギーの変換と利用のしくみについて理解する。 ・各栄養素の代謝における相互作用について理解する。 ・生命維持において物質代謝が恒常性のもとに滞りなく行われることを総合的に理解する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：エネルギー代謝 ～エネルギーの変換と利用～ 事前学習：生体内のエネルギー物質について整理し、質問項目をまとめる。(2時間) 事後学習：TCA回路と電子伝達系の共役について、学習内容を整理する。(2時間) 第2回：タンパク質の代謝 ～糖原性アミノ酸とケト原性アミノ酸～ 事前学習：アミノ酸を糖原性とケト原性に分類し、質問項目をまとめる。(2時間) 事後学習：アミノ酸由来の糖新生経路について、学習内容を整理する。(2時間) 第3回：糖質の代謝 (1)～フルクトース代謝とグリセロール合成～ 事前学習：フルクトース、グリセロール、ジヒドロキシアセトンリン酸の構造式を調べ、ノートにまとめる。(2時間) 事後学習：フルクトース代謝とグリセロール代謝の接点となる物質について、学習内容を整理する。(2時間) 第4回：糖質の代謝 (2)～ガラクトース代謝、ペントースリン酸経路～ 事前学習：解糖系のマップをノートにまとめる。(2時間) 事後学習：上記のマップにガラクトース代謝、ペントースリン酸系の合流を記入する。(2時間) 第5回：糖質の代謝 (3)～糖新生経路～ 事前学習：解糖系の各段階を詳細に確認し、糖新生経路との相違点を整理する。(2時間) 事後学習：解糖系と糖新生経路の相違点についてその意義を考察する。(2時間) 第6回：脂質の代謝 ～コレステロールの代謝と機能～ 事前学習：食品・生体に含まれるステロイド類について確認し、ノートにまとめる。(2時間) 事後学習：コレステロールの合成経路について、学習内容を整理する。(2時間) 第7回：物質の輸送 事前学習：受動輸送、能動輸送について教科書の該当ページに目を通し内容を把握しておく。(2時間) 事後学習：物質の輸送系、能動輸送と受動輸送についてノートに整理する。表にするとよい。(2時間) 第8回：微量栄養素の吸収と体内動態 事前学習：微量栄養素を水溶性と脂溶性に分類し、ノートにまとめる。(2時間) 事後学習：各微量栄養素の輸送系、能動輸送と受動輸送についてノートにまとめる。(2時間) 第9回：物質代謝を調節するもの①～補因子としてのミネラル～ 事前学習：酵素のはたらきと性質を確認し、質問項目をまとめる。(2時間) 事後学習：主要な酵素およびその補因子となるミネラルについて一覧表を作成する。(2時間) 第10回：物質代謝を調節するもの②～エネルギー代謝～ 事前学習：ビタミンB群の生理作用を確認し、質問項目をまとめる。(2時間) 事後学習：補酵素と補欠分子族についてそれぞれの役割を総括する。(2時間) 第11回：核酸の代謝 事前学習：核酸の構造を確認し、質問項目をまとめる。(2時間) 事後学習：核酸の代謝経路について、学習内容を整理する。(2時間)

第12回：微量栄養素の生体内相互作用①～ビタミンAとビタミンD～ 事前学習：ビタミンAおよびDの生理作用について確認し、質問項目をまとめる。（2時間） 事後学習：「核内受容体」などタンパク質の合成に関わる因子について確認する。（2時間） 第13回：微量栄養素の生体内相互作用②～骨代謝と微量栄養素～ 事前学習：骨代謝に関連するホルモンの名称と作用を確認する。（2時間） 事後学習：骨代謝に関連する栄養素、ホルモンをノートに整理する。（2時間） 第14回：微量栄養素の生体内相互作用③～造血作用と微量栄養素～ 事前学習：造血幹細胞から赤血球までに分化の過程を確認する。（2時間） 事後学習：造血作用に関連する栄養素、ホルモンをノートに整理する。（2時間） 第15回：微量栄養素の生体内相互作用④～生体内脂質過酸化と微量栄養素～ 事前学習：脂質過酸化について確認し、質問項目をまとめる。（2時間） 事後学習：生体内および食品における抗酸化作用の意義についてまとめる。（2時間） 第16回：定期試験 ・レポート・課題などについては適宜授業内で支持する。 ・学習する各单元ごとの重要なキーワードを各自でノートにファイルすることをすすめる。 ・栄養・食品・からだに関する興味ある雑誌・単行本を読む習慣をつけると良い。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 定期試験（70%）、レポート・課題など（20%）、平常点（10%） 平常点は、授業への参加状況、授業態度などを総合して判断する。
(7) 成績評価基準 ・微量栄養素の消化・吸収過程および生体内での動態・代謝について説明できる。 ・エネルギー代謝・アミノ酸代謝の各ポイントに関与する微量栄養素について説明できる。 ・骨代謝に関連する栄養素の相互作用について説明できる。 ・造血作用に関連する栄養素の相互作用について説明できる。 ・生体内抗酸化作用に関連する栄養素の相互作用について説明できる。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 教科書：池田涼子 共著 「基礎から学ぶ生化学」 南江堂 参考図書：西村直道 著 「いちばんやさしい代謝ドリル」 講談社 中屋豊・宮本賢一 編著 「エッセンシャル 基礎栄養学」 医歯薬出版 木村修一・古野純典 翻訳監修「最新栄養学 ― 専門領域の最新情報 ―」 建帛社 ※その他必要に応じ適宜紹介する。
(11) その他(受講上の注意) ○栄養士免許（必修） ○管理栄養士国家試験受験資格必修（必修） 不明な点や疑問があれば随時、Teams、moodle（e-ラーニング）を用いて質問にすること。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

基礎生化学実験 (Experiments in Biochemistry)			担当教員	尼子 克己	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-E-2214	1 単位	2 年後期	実験	必修	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力					

(1) 授 業 の 内 容
生化学の基本である生体成分の性質、酵素の特性ならびに遺伝子の性質を、それらに関する実験実技の閲覧と解説を通して理解する。更に提示した実験結果を基に実験報告書(レポート)を作成し提出する。授業内容・学生の理解度に応じて課題を与えることがある。生化学実験は、一般の科学実験と同様に実験を遂行するにあたり基礎的な知識が必要であるとともに、慎重かつ細やかな観察力が不可欠である。実験の再現性を高めるために必要な事項、ならびに実験結果から推察される事象を論理的に導くことに意識する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
正常な人体の仕組みについて、個体とその機能を構成する遺伝子レベル細胞レベルから組織・器官レベルまでの構造や機能を 実験を通して理解する。実験の基礎的な手法を習得するとともに、生化学の教科書の記載に体験を伴った理解を加えることを到達目標とする。具体的には、①生化学実験の基礎的な手法、実験からレポート提出に至る一連の作業の記録・整理方法を習得する。②各種測定の実験を理解する。③酵素の基本的性質と栄養素・生体成分の性質と代謝について、教科書の記載と実験結果の関係を合理的に説明できる。④DNAの構造と性質、遺伝子検査技術の原理とそれに基づいた遺伝子型判定について、正しい実験操作を理解し、原理に基づいて結果を正しく説明できる。ことが目標となる。
(3) アクティブラーニング
☐課題解決型学習(PBL) ☐討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐実習、フィールドワーク ☐実験、実技 ☐その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス、および測定の基本原則－1：ピペッター操作の説明、基本統計量の計算 第2回：測定の基本原則－2 分光光度計の原理・色と波長(実験) 第3回：測定の基本原則－3 緩衝液の調製とその役割(実験) 第3回：生体の成分の分析－1 糖類の定量(1)(実験) 第4回：生体の成分の分析－2 糖類の定量(2)(実験) 第5回：生体の成分の分析－3 ビタミンの定量(実験) 第6回：酵素の基本的性質－1 酵素活性の測定 第7回：酵素の基本的性質－2 最適pH(実験) 第8回：酵素の基本的性質－3 ミカエリス定数Kmと最大反応速度Vmax(実験) 第9回：酵素の基本的性質－4 最適温度、活性化エネルギーEa(実験) 第10回：酵素の基本的性質－5 データ分析(シミュレーション、非線形最小二乗法、対数変換) 第11回：遺伝子の解析－1 遺伝子検査(1)：ゲノムDNAの分離(実験)とPCR 第12回：遺伝子の解析－2 遺伝子検査(2)：アガロースゲル電気泳動と制限酵素処理(実験) 第13回：遺伝子の解析－3 遺伝子検査(3)：RFLPによるSNPs解析(実験) 第14回：たんぱく質の分離分析－1 カラムクロマトグラフィーとたんぱく質の定量(実験) 第15回：たんぱく質の分離分析－2 SDS-ポリアクリルアミドゲル電気泳動(実験) 第16回：定期試験 授業内で出題される課題について調べ、まとめる。実験レポートについては原理・考察を記述する際に必ず参考文献を引用し、出典を明記すること。各回のキーワードは生化学を修得するための基本となるため、よく理解するよう努めること。実験の原理や操作、考察課題に関する授業時間中の説明はビデオ撮影し、講義期間全体を通じてMicrosoft Streamにて閲覧可能とするので、そこで触れた内容についての疑問点はまずビデオを閲覧して、どこがどうわからないのか疑問点を整理した上で担当教員に尋ねること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

(6) 成績評価方法
レポートの採点70%、定期試験20%および授業への取り組み姿勢10%を基準に総合的に評価する。
(7) 成績評価基準
生化学実験の基礎的な手法、実験からレポート提出に至る一連の作業の記録・整理方法が習得できているか。各種測定の方法を理解しているか。酵素の基本的性質と栄養素・生体成分の性質と代謝について、教科書の記載と実験結果の関係を合理的に説明できるか。DNAの構造と性質、遺伝子検査技術の原理とそれに基づいた遺伝型判定について、正しく実験操作を行い、原理に基づいて結果を正しく説明できるか。を基準とする。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☒ その他(Teamsのチャット) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☒ その他(Teamsのチャット) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト：独自に作成した実験書を分冊して配布する。授業内容に応じて適宜、参考図書の紹介、資料の配布をおこなう。 参考図書：はじめてみよう生化学実験 山本克博編 三共出版 2008年 生命科学のための化学実験 高橋知義他編 東京教学社 2007年 Nブックス実験シリーズ 生化学実験 後藤潔編 建帛社 2009年 栄養生化学実験 廣田才之編 共立出版 1997年 栄養科学イラストレイテッド 生化学実験 羊土社 2023年
(11) その他(受講上の注意)
○栄養士免許(必修) ○管理栄養士国家試験受験資格必修(必修) レポートは提出期限を厳守すること。期限外の提出は原則として認めない。また、期限内に提出された場合でも内容不十分な場合は再提出となることがある。また、盗用・剽窃に対しては厳格に対処する。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

臨床医学概論 (Medical Science Compendium)			担当教員	米田 誠	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-A-2217	2 単位	2 年後期	講義		必修
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野					
求める学習成果(教育目標)					
栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力					

(1) 授 業 の 内 容
栄養アセスメント、栄養療法を適切に行うためには、患者の病態を正確に把握することが重要である。その前提として、各種疾患の病因、機序、症状、診断、食事療法も含めた治療、予防について講義する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
患者の病態を正確に把握し栄養指導、栄養療法を行ううえで必要な、各種疾患の病因、機序、症状、診断、食事療法も含めた治療、予防について説明できる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：臨床医学における診療、代謝性疾患 事前学習：授業前に基礎医学と臨床医学との相違、必要性、臨床医学における診療科と取り扱う疾患、代謝性疾患について、学習しまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)
第2回：糖尿病(分類、診断、合併症、治療) 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、さらにインスリンの作用、糖尿病の分類、診断基準、合併症、治療についてまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)
第3回：栄養障害 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、糖尿病の合併症と治療、栄養障害について質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)
第4回：肥満とメタボリックシンドローム、脂質異常症 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)
第5回：ビタミン・微量元素欠乏症、過剰症(グループワーク、ディスカッション) 事前学習：授業前にテキストの該当箇所にある表の疾患についてしらべておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料、発表のまとめを再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)
第6回：先天代謝異常 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)
第7回：呼吸器疾患 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)
第8回：運動器疾患 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)

第9回：妊娠合併症 血液疾患 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第10回：感染症 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第11回：動脈硬化症、高血圧、心疾患 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第12回：電解質異常、酸塩基平衡異常 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、電解質異常、酸塩基平衡異常をきたす機序および疾患についてしらべておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料、発表のまとめを再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第13回：腎疾患 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第14回：消化管の疾患 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第15回：肝疾患、脾疾患 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第16回：定期試験	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
定期試験（70%）、平常点（30%） 割合は授業形態、試験形態により変わる事があります。 （平常点は、授業への参加状況・受講態度・小テストの成績等を総合して判断します）	
(7) 成績評価基準	
患者の病態を正確に把握し栄養指導、栄養療法を行ううえで必要な、各種疾患の病因、機序、診断、症状、治療、予防について説明できる。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	
経歴：(医師) 実務経験と授業内容との関連性：(病院での実務経験を活かし、患者の病態を正確に把握し栄養指導、栄養療法を行ううえで必要な、各種疾患の病因、機序、症状、診断、食事療法も含めた治療、予防法などに関する講義を展開する。)	

(10) テキスト、参考図書
サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 解剖生理学・病理学 第一出版（一年次、解剖生理学、病理学で使 用したテキストを使用） 必要に応じて、講義時に資料を追加する。
(11) その他(受講上の注意)
○栄養士免許（必修） ○管理栄養士国家試験受験資格（必修） 講義中の私語は厳重に禁止し、減点対象とする。疑問点や不明点があればすぐに質問すること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

運動生理学 (Exercise Physiology)			担当教員	鳴瀬 碧	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-B-2218	2 単位	2 年前期	講義	必修	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野					
求める学習成果(教育目標)					
栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力					

(1) 授 業 の 内 容
運動はスポーツ選手のみならず一般の人々の体力づくりや健康の維持・増進に欠くことができない。しかし、運動の効果は運動の種類、強度、時間、頻度などによって異なるため運動についての正しい知識が求められる。筋収縮の機序、運動時の代謝、生理機能の変化、健康増進のための運動、疾患の運動療法などについて学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
筋収縮の機序、運動時の代謝、生理機能の変化、健康増進のための運動、疾患の運動療法などについて説明できる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：健康と運動 事前学習：「健康の保持・増進」と運動の関係について、テキスト巻頭「はじめに」p.iii-iv、p.135-137、p.149-150を読み、また新聞・ニュース・書籍等で情報を収集するなどして、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、「健康の保持・増進」と運動の関係についてノートにまとめること(2時間) 第2回：安静時と運動時のエネルギー代謝 事前学習：テキスト第1章を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間) 第3回：運動と身体組成 事前学習：テキスト第2章を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間) 第4回：運動と呼吸・循環器系の機能① 事前学習：テキスト第3章p.29-33、p.34-35を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間) 第5回：運動と呼吸・循環器系の機能② 事前学習：テキスト第3章p.33-34、p.35-37を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間) 第6回：運動と骨格筋の機能 事前学習：テキスト第4章を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間) 第7回：運動と神経系の機能 事前学習：テキスト第4章p.51-52を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間) 第8回：運動と中間代謝・内分泌系の機能① 事前学習：テキスト第5章p.57-60を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間) 第9回：運動と中間代謝・内分泌系の機能② 事前学習：テキスト第5章p.60-63を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間) 第10回：運動と中間代謝・内分泌系の機能③ 事前学習：テキスト第5章p.63-69を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間)

第11回：環境と運動・栄養① 事前学習：テキスト第6章p71-78を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（2時間） 第12回：環境と運動・栄養② 事前学習：テキスト第6章p78-83を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（2時間） 第13回：体力・運動能力に及ぼす栄養摂取の影響Ⅰ（糖質・たんぱく質・脂質） 事前学習：テキスト第7章を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（2時間） 第14回：体力・運動能力に及ぼす栄養摂取の影響Ⅱ①（ビタミン・ミネラル・その他） 事前学習：テキスト第8章p.95-104読み、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（2時間） 第15回：体力・運動能力に及ぼす栄養摂取の影響Ⅱ②（運動時の食事内容と摂取のタイミング） 事前学習：テキスト第8章p.104-109読み、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（2時間） 第16回：定期試験 予習では、各回の講義の前にテキストを読んで概要を把握し、疑問点を整理しておく。講義を受けた後は、講義ノートや配布資料を見直して復習し、日常生活におけるスポーツや運動の効果について理解や関心を深める。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（80%）、平常点（20%）。平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。
(7) 成績評価基準
筋収縮の機序、運動時の代謝、生理機能の変化、健康増進のための運動、疾患の運動療法などについて説明できている。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他 (Teams) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他（質問に対するフィードバックについて） ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☒その他 (Teams)
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
経歴：（健康運動指導士・ピラティストトレーナー・薬剤師） 実務経験と授業内容との関連性：（スポーツ・健康増進関連施設での実務経験、健康運動指導士・ピラティストトレーナー（個人事業主）としての実務経験を活かし、身体の構造と機能および運動時の生理機能の変化、健康増進のための運動、生活習慣病予防・改善のための運動と栄養、薬物療法中の運動のリスク等について解説する。 また、スポーツと栄養についての講義では、スポーツファーマシストとして、アスリートのサポートを行ってきた経験も交えて授業を展開する。）
(10) テキスト、参考図書
樋口満監修・湊久美子／寺田新編集、「－栄養・スポーツ系の－運動生理学」、南江堂
(11) その他(受講上の注意)
・講義で学んだ知識を日常の生活や身体活動に活用できるようにすること。 ・栄養士免許（必修） ・管理栄養士国家試験受験資格（必修）
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

食品加工学 (Food Processing)			担当教員	小林 恭一	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-D-2224	2 単位	2 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野					
求める学習成果(教育目標)					
基礎研究および食品開発ができる能力					

(1) 授 業 の 内 容
現代の食生活において、加工食品は欠かせないものとなっている。 食品加工の目的は、原料農林水産物の保存・品質保持、栄養性・嗜好性の向上、利便性・輸送性・経済性の向上などだが、これら食品加工の意義・目的に触れながら、食品保存及び食品加工の原理を解説する。 また、個々の加工食品ごとの加工操作の特徴・方法及び技術についても紹介し、さらに新しい食品加工技術、食品の規格や表示についても解説する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
食品加工の原理・方法・技術について理解することを目標とする。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：はじめに、食品加工の意義および目的 事後学習：食品加工の意義、目的についてノートにまとめること(2時間) 第2回：食品の加工時における変化 事前学習：配られたプリントの第2回分について事前に目を通し理解しておくこと(2時間) 事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートにまとめること(2時間) 第3回：食品保存の原理(1)、食品の劣化要因(生物的要因、化学的要因、物理的要因) 事前学習：配られたプリントの第3回分について事前に目を通し理解しておくこと(2時間) 事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートにまとめること(2時間) 第4回：食品保存の原理(2)、温度操作・水分制御・pHの調節による保存 事前学習：配られたプリントの第4回分について事前に目を通し理解しておくこと(2時間) 事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートにまとめること(2時間) 第5回：食品の保存原理(3)、殺菌・食品添加物による保存(討議) 事前学習：配られたプリントの第5回分について事前に目を通し理解しておくこと(2時間) 事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートにまとめること(2時間) 第6回：穀類の加工 事前学習：配られたプリントの第6回分について事前に目を通し理解しておくこと(2時間) 事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートにまとめること(2時間) 第7回：豆類・いも類の加工 事前学習：配られたプリントの第7回分について事前に目を通し理解しておくこと(2時間) 事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートにまとめること(2時間) 第8回：野菜類・果実類の加工 事前学習：配られたプリントの第8回分について事前に目を通し理解しておくこと(2時間) 事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートにまとめること(2時間) 第9回：畜肉類・乳類・卵の加工 事前学習：配られたプリントの第9回分について事前に目を通し理解しておくこと(2時間) 事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートにまとめること(2時間) 第10回：水産物の加工、魚介類の成分特性、魚介類の加工 事前学習：配られたプリントの第10回：分について事前に目を通し理解しておくこと(2時間) 事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートにまとめること(2時間) 第11回：発酵食品 事前学習：配られたプリントの第11回：分について事前に目を通し理解しておくこと(2時間) 事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートにまとめること(2時間)

第12回：食用油脂、調味料 事前学習：配られたプリントの第12回：分について事前に目を通し理解しておくこと（2時間） 事後学習：1. 補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間） 2. 授業で課されたテーマについて、レポートにまとめておくこと。（2時間） 第13回：香辛料・嗜好飲料類 事前学習：配られたプリントの第13回：分について事前に目を通し理解しておくこと（2時間） 事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間） 第14回：食品包装（役割・材料・方法）、食品の表示 事前学習：配られたプリントの第14回：分について事前に目を通し理解しておくこと（2時間） 事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間） 第15回：新しい食品加工技術（討議） 事前学習：配られたプリントの第15回：分について事前に目を通し理解しておくこと（2時間） 事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（80%） 小レポート（10%） 平常点（10%） （平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する）
(7) 成績評価基準
食品加工の原理・方法・技術について理解できたかを判断の基準とします。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキストは使用しません。適時プリントを配布します。 参考図書 1) 宮尾茂雄/北尾悟編 Nブックス「四訂 食品加工学」 建帛社 (2019) 2) 吉田勉編著 「新食品加工学」 医師薬出版 (1999) 3) 西村公雄編 「食品加工学」 化学同人 (2012) 4) 小倉長雄ほか 「食品加工学」 建帛社 (1998)
(11) その他(受講上の注意)
○栄養士免許（必修） ○管理栄養士国家試験受験資格（必修） ○食品衛生監視員・管理者（選択）
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

食品衛生学 (Food Hygiene)			担当教員	野村 卓正	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-A-2226	2 単位	2 年前期	講義		必修
＜科目区分＞ 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野					
求める学習成果（教育目標）					
栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力					

(1) 授 業 の 内 容
食品衛生の概念を理解し、食糧の生産・加工・流通・消費の過程に潜むリスク要因を把握すると同時に、リスクを排除し「食の安全」を担保するための法整備・行政施策・食品関連技術に関する知識を習得する。 —— 食品衛生に関する法規・行政制度について理解し、食品が安全であるための原理・原則、食品の安全性の確保の方策などについて理解する ——
(2) 授 業 の 到 達 目 標
人の命と健康を守る栄養士/管理栄養士としての【職責】を自覚する。 管理栄養士養成課程において「食品衛生」について学ぶ【意義】を理解する。 過去の重大な食中毒事故事例について把握する。 食品衛生と関連法規について理解する。 食品の生産・流通体制について理解する。 食品の変質による安全性低下とその衛生管理法の原理について理解する。 食中毒の分類と発生状況について理解する。 食中毒の原因物質(微生物・天然自然毒・化学物質等)について理解する。 食品による感染症・寄生虫症について理解する。 食品中の汚染物質について理解する。 食品添加物の種類と管理制度について理解する。 食品衛生管理の制度や手段について理解する。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：食品衛生の定義と目的 事前学習：第1章(p1～p3)を読み、食品衛生を学ぶ目的を把握する。(1時間) 事後学習：「食品が安全である」とはどういうことか考察し、食品衛生学を学ぶ目的と到達目標をノートにまとめる。(2時間) 小テストおよび進捗管理表のオンライン提出の練習。(1時間)
第2回：日本における食品衛生上の課題／【小試験①】 事前学習：第5章第1節(p33～p39)を読み、食中毒の発生状況の概要を把握する。(1時間) 事後学習：【小試験①】の誤答問題についてノートを修正する。(1時間) 「食中毒の分類と発生状況」についてノートにまとめる。(2時間)
第3回：食品衛生管理におけるリスク分析／【小試験②】 事前学習：第14章(p169～p174)を読み、リスク分析の概要を把握する。(1時間) 事後学習：【小試験②】の誤答問題についてノートを修正する。(1時間) 「リスク分析」についてノートにまとめる。(2時間)
第4回：食品中の有害汚染物質①(重金属・放射能・環境汚染物質等)／【小試験③】 事前学習：第8章第3～5節(p97～p103)を読み、食品汚染物質の概要を把握する。(1時間) 事後学習：【小試験③】の誤答問題についてノートを修正する。(1時間) 「食品を汚染する有害物質」についてノートにまとめる。(2時間)
第5回：食品中の有害汚染物質②(食品添加物および残留農薬等)／【小試験④】 事前学習：第8章第2節(p94～p107)／第9章(p106～118)を読み、食品汚染物質の概要を把握する。(1時間) 事後学習：【小試験④】の誤答問題についてノートを修正する。(1時間) 「食品添加物／残留農薬」についてノートにまとめる。(2時間)

- 第6回：食中毒①（自然毒性食中毒／カビ毒）／【小試験⑤】
 事前学習：第8章第1節（p91～p94）／第5章第6節（p69～p76）を読み、自然毒／カビ毒の概要を把握する。（1時間）
 事後学習：【小試験⑤】の誤答問題についてノートを修正する。（1時間）
 「自然毒／カビ毒」についてノートにまとめる。（2時間）
-
- 第7回：食中毒②（毒素型細菌性食中毒）／【小試験⑥】
 事前学習：第3章第3節（p52～p59）を読み、毒素型細菌性食中毒の概要を把握する。（1時間）
 事後学習：【小試験⑥】の誤答問題についてノートを修正する。（1時間）
 「毒素型細菌性食中毒」についてノートにまとめる。（2時間）
- 第8回：食中毒③（感染型細菌性食中毒）／【小試験⑦】
 事前学習：第3章第3節（p40～p42／p48～p52）を読み、感染型細菌性食中毒の概要を把握する。（1時間）
 事後学習：【小試験⑦】の誤答問題についてノートを修正する。（1時間）
 「感染型細菌性食中毒」についてノートにまとめる。（2時間）
- 第9回：食中毒④（感染症型細菌性食中毒）／【小試験⑧】
 事前学習：第3章第3節（p42～p47）／第7章（p86～p90）を読み、感染症型細菌性食中毒の概要を把握する。（1時間）
 事後学習：【小試験⑧】の誤答問題についてノートを修正する。（1時間）
 「感染症型細菌性食中毒」についてノートにまとめる。（2時間）
- 第10回：食中毒⑤（ウイルス性食中毒）／【小試験⑨】
 事前学習：第3章第4節（p62～p67）を読み、感染症型細菌性食中毒の概要を把握する。（1時間）
 事後学習：【小試験⑨】の誤答問題についてノートを修正する。（1時間）
 「ウイルス性食中毒」についてノートにまとめる。（2時間）
- 第11回：食中毒⑥（寄生虫性食中毒）／【小試験⑩】
 事前学習：第6章（p80～p85）を読み、寄生虫性食中毒の概要を把握する。（1時間）
 事後学習：【小試験⑩】の誤答問題についてノートを修正する。（1時間）
 「寄生虫性食中毒」についてノートにまとめる。（2時間）
-
- 第12回：食品の変質①（食品成分の化学変化）／【小試験⑪】
 事前学習：第3章（16～p24）を読み、食品成分の化学変化の概要を把握する。（1時間）
 事後学習：【小試験⑪】の誤答問題についてノートを修正する。（1時間）
 「食品成分の化学変化」についてノートにまとめる。（2時間）
- 第13回：食品の変質②（食品の加工・保存・調理技術）／【小試験⑫】
 事前学習：第4章（p25～p32）を読み、変質の防止の概要を把握する。（1時間）
 事後学習：【小試験⑫】の誤答問題についてノートを修正する。（1時間）
 「食品の加工・保存・調理技術」についてノートにまとめる。（2時間）
-
- 第14回：食品安全関連法規／【小試験⑬】
 事前学習：第15章（p176～p181）を読み、食品安全関連法規の概要を把握する。（1時間）
 事後学習：【小試験⑬】の誤答問題についてノートを修正する。（1時間）
 「食品安全関連法規」についてノートにまとめる。（2時間）
- 第15回：グループ課題：成果物の相互評価 【発表】【討議】／【小試験⑭】
 事前学習：食品衛生講習の「配布資料原稿」をグループで作成しアップロードする。（2時間）
 事後学習：【小試験⑭】の誤答問題についてノートを修正する。（1時間）
 相互評価で指摘された点を修正して、グループ課題【成果物】を完成させる。（1時間）
- 第16回：【定期試験】およびグループ課題【最終成果物】の提出

※授業計画は、進捗状況等により変更する可能性があります。

①小試験は、「教科書」および「自筆ノート」持込みを認めますので、毎週、授業の内容をまとめるよう努めてください。

②開講期間中に、関連書籍（専門書）を少なくとも1冊読み、内容をレポートにまとめてください。

③新聞・ニュース等で報じられる食品衛生に関する事件について日頃から関心を持ち、それらの事件がどのような原因で発生し、どのような脅威を公衆衛生に及ぼしたのか洞察し、再発防止の取組みの妥当性について評価するために必要な食品衛生学上の知識を修得できているか否かを常に自己点検してください。

グループ課題は【課題解決型学習（PBL）】として、最終的にグループ単位で成果物を作成します。

課題：「過去の重大な食中毒事例分析」の作成

授業と並行して、主に授業外の自主学習として【グループワーク】形式で取り組んでください。

(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕

原則として「面接授業」を行います。

ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。

遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

(6) 成績評価方法 ① 平常点 : 60% (【小試験】(各3%) x 20回の合算で評価) ② グループ課題: 15% (【課題成果物】「ルーブリック評価表」による相互評価) ③ 定期試験 : 25% (【筆記試験】 自筆ノートのみ持込【可】) ※各評価区分で50%以上の得点率が必要です。 ※各評価区分の配転比率は授業の進捗状況等により変更される可能性があります。
(7) 成績評価基準 人の命と健康を守る栄養士/管理栄養士としての【職責】を説明できるか。 管理栄養士養成課程において「食品衛生」について学ぶ【意義】を説明できるか。 過去の重大な食中毒事故の主要な事例について説明できるか。 食品衛生と関連法規について理解しているか。 食品の生産・流通体制について理解しているか。 食品の変質による安全性低下とその衛生管理法の原理について理解しているか。 食中毒の分類と発生状況について理解できているか。 食中毒の原因物質(微生物・天然自然毒・化学物質等)について理解できているか。 食品による感染症・寄生虫症について理解できているか。 食品中の汚染物質について理解できているか。 食品添加物の種類と管理制度について理解できているか。 食品衛生管理の制度や手段について理解できているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他(Teamsのチーム機能およびチャット機能で解答・解説を実施) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他(Teamsのチーム機能およびチャット機能で解答・解説を実施) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他(Teamsのチーム機能およびチャット機能で解答・解説を実施) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他(Teamsのチーム機能およびチャット機能で解答・解説を実施) 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 ☐テキスト: ①『栄養科学シリーズNEXT 食品衛生学(第5版)』 講談社 2025年 定価¥3,300- (税込) ②配布資料(Teamsで配信) ☐参考図書: ①『解いて学ぶ! 食品衛生・食品安全 テキスト&問題集(第2版)』 講談社 2018年 定価¥2,860- (税込) ②『食品微生物の基礎(第2版)』 講談社 2024年 定価¥3,080- (税込) ③『ゼロからわかる栄養系微生物学』 南江堂 2021年 定価¥3,080- (税込) ④『病気がみえる⑥ 免疫・膠原病・感染症(第2版)』 メディックメディア 2018年 定価¥3,850- (税込) ⑤熊谷進・山本茂貴編『食の安全とリスクアセスメント』 中央法規 2004年 ⑥『Visual 栄養学テキスト 食品衛生学』 中山書店 2019年 定価¥2,970- (税込) ⑦『栄養科学イラストレイテッド: 食品衛生学』 羊土社 2017年 定価¥2,800- (税別) ⑧『基礎・応用・臨床 微生物学と実験』 光生館 2014年 ⑨『サクセス管理栄養士養成講座シリーズ: 食べ物と健康② 食品衛生学』 第一出版 2010年 ⑩『大量調理施設 衛生管理のポイント(7訂)』 中央法規 2021年 定価¥2,750- (税込)
(11) その他(受講上の注意) 栄養士免許(必修) 管理栄養士国家試験受験資格(必修) 授業開始時に出欠状況を確認する。 遅刻は、授業の1/3(30分)以内に申し出れば認め、欠席1/3回としてカウントする。 それ以上の大幅な遅刻は欠席として扱う。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

食品衛生学実験 (Experiments in Food Hygiene)			担当教員	野村 卓正
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
HN-E-2228	1 単位	2 年前期	実験	必修
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野				
求める学習成果(教育目標)				
コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力				

(1) 授 業 の 内 容
食の安全確保の実現に必要な食品衛生検査の原理を理解し、理化学的および微生物学的食品検査技術を習得する。食品を介して人の健康を害する諸要因の特質・作用、危害の特質とその防止方法、食品をとりまく環境因子(水・光・温度等)と健康、環境因子の異常原因、予防、改善技術や方策などを理解する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
管理栄養士養成課程において「食品衛生」を学ぶ【意義】を理解する。 主な食物群について生産・流通・調理行程を把握し、各行程における微生物汚染のリスクを把握する。 主な食品群について主要な一次汚染微生物を列挙し、取扱い上留意すべき点を理解する。 食品・添加物に設定されている成分規格および製造・加工・保存基準等を把握する。 主な衛生指標微生物の公衆衛生上の意義とその検査法(公定法および迅速簡易法)を把握する。 微生物による汚染防止法の原理と効果を理解し、検体の無菌的操作法を修得する。 微生物を殺滅する各種の滅菌法および消毒法の原理と効果を理解する。 微生物の増殖を抑制する各種の保存法および加工・調理法の原理と効果を理解する。 食品の変質による品質および安全性の低下とその評価法の方法論を理解する。 食用油脂類の品質と安全性の指標とその検査法の原理を理解する。 食品の安全性を確保するための原理と方法論(加工・調理等)を理解する。 各種抗原(特定原材料等)を検出する免疫学的検査法の原理を理解する。 「食中毒予防の三原則」について、その【意義】と【効果】を説明できる。 「大量調理施設衛生管理マニュアル」の各重要管理事項を把握し、その【意義】と【効果】を理解する。 重要管理事項①の要点を把握し、その【意義】について理解する。 下処理工程における塩素消毒の条件を把握し、その【効果】を説明できる。 重要管理事項②の要点を把握し、その【意義】について理解する。 調理工程における加熱殺菌の条件を把握し、その【効果】を説明できる。 重要管理事項③の要点を把握し、その【意義】について理解する。 盛付工程における二次汚染防止の手法を把握し、その【効果】を説明できる。 重要管理事項④の要点を把握し、その【意義】について理解する。 保管／保存工程における品温管理条件を把握し、その【効果】を説明できる。 重要管理事項⑤の要点を把握し、その【意義】について理解する。 本邦における「飲用的水」の法律上の定義と各検査項目の【意義】を理解する。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オンライン型教材の説明 事前学習：履修登録する。(1時間) 事後学習：小テストおよび進捗管理表のオンライン提出の練習。(1時間) 第2回：理化学的検査③：実験5 f：食品添加物の検査(発色剤の検出) 事前学習：教科書第9章(p106～p118)を読み、食品添加物の概要を把握する。(1時間) 事後学習：グループで実験レポートをまとめ、提出する。(1時間) 第3回：理化学的検査②：実験5 b：油脂の品質評価(酸価・過酸化値・カルボニル価) 事前学習：教科書第3章(p20～p23)を読み、食品添加物の概要を把握する。(1時間) 事後学習：グループで実験レポートをまとめ、提出する。(1時間)

第4回：HACCPと大量調理施設衛生管理マニュアル／【小試験⑤】

事前学習：「大量調理施設衛生管理マニュアル」を読み、概要を把握する。（1時間）

事後学習：【小試験⑤】の誤答問題についてまとめなおし、ノートを修正する。（1時間）

第5回：微生物学的検査①：実験1：生鮮野菜類の塩素消毒効果の確認①（検体処理・培養）

第6回：微生物学的検査②：実験1：生鮮野菜類の塩素消毒効果の確認②（結果判定）

事前学習：重要管理事項1について、概要を把握する。（1時間）

事後学習：グループで実験レポート①をまとめ、提出する。（1時間）

第7回：微生物学的検査②：実験2：畜肉類の加熱調理効果の確認①（検体処理・培養）

第8回：微生物学的検査②：実験2：畜肉類の加熱調理効果の確認②（結果判定）／【小試験①】

事前学習：重要管理事項2について、概要を把握する。（1時間）

事後学習：グループで実験レポート②をまとめ、提出する。（1時間）

【小試験①】の誤答問題についてまとめなおし、ノートを修正する。（1時間）

第9回：微生物学的検査③：実験3：手指・調理器具類の消毒効果の確認①（検体処理・培養）

第10回：微生物学的検査③：実験3：手指・調理器具類の消毒効果の確認②（結果判定）／【小試験②】

事前学習：重要管理事項2について、概要を把握する。（1時間）

事後学習：グループで実験レポート③をまとめ、提出する。（1時間）

【小試験②】の誤答問題についてまとめなおし、ノートを修正する。（1時間）

第11回：微生物学的検査④：実験4：鮮魚介類の冷凍・冷蔵効果の確認①（検体処理・培養）

第12回：微生物学的検査④：実験4：鮮魚介類の冷凍・冷蔵効果の確認②（結果判定）／【小試験③】

事前学習：重要管理事項4について、概要を把握する。（1時間）

事後学習：グループで実験レポート④をまとめ、提出する。（1時間）

【小試験③】の誤答問題についてまとめなおし、ノートを修正する。（1時間）

第13回：グループ課題レポートの作成①

第14回：グループ課題レポートの作成②／【小試験④】

事前学習：レポート作成のための資料を収集し、原稿案を作成する。（1時間）

事後学習：グループで課題レポートをまとめ、提出する。（1時間）

【小試験④】の誤答問題についてまとめなおし、ノートを修正する。（1時間）

第15回：グループ課題レポートの発表および相互評価

事前学習：各グループの課題発表を視聴しておく。（1時間）

事後学習：グループで課題レポートの相互評価を行い、提出する。（1時間）

実験1～5はすべて、グループで行います。

【実験レポート】は、事後学習として【グループワーク】形式でグループ毎に作成してください。

【グループ課題】は、【問題解決型授業】として取り組んでください。

グループ課題テーマ：「給食施設における衛生教育媒体（新人研修用）の作成」

新入調理員を対象とした30分程度の食品衛生教育を実施するためのスライド資料を

パワーポイントを用いて作成してください。

※授業計画は、気候や進捗状況等により変更する可能性があります。実験報告書（レポート）の作成にあたっては、第一に「精確な観察」、第二に「論理的な考察」に留意して記述してください。

① なぜそのような観察結果が得られたのか？

② 観察された事実・現象から何が示唆されるか？

③ どのような仮説を構築すれば、それらの観察結果を矛盾なく説明できるのか？

④ そして、どのような検証実験を行えば、その仮説の真偽を検証できるのか？

について固定観念を排してすなおに「考察」しながら「結論」を導いてください。

参考図書は、授業の際にも紹介します。

(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕

原則として「面接授業」を行います。

ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。

遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

(6) 成績評価方法 ①平常点 : 35% (【小試験】(各7%) x 5回) ②実験レポート : 50% (【レポート試験】(各10%) x 5回) ③グループ課題 : 15% (【課題成果物】の相互評価15%) ※受験・提出は授業への出席が前提 ※各評価区分で50%以上の得点率が必要です。 ※各評価区分の配転比率は授業の進捗状況等により変更される可能性があります。 欠席回数が5回を上回った場合(6回以上欠席)、単位認定の資格を失う。 欠席した場合、個別の【実験レポート】提出をもって補講とし、【小試験】の受験を認める。 【課題成果物】の評価には、「ループリック評価表」を用いる。
(7) 成績評価基準 管理栄養士養成課程において「食品衛生」を学ぶ【意義】を説明できるか。 主な食物群について生産・流通・調理行程を把握し、各行程における微生物汚染のリスクを説明できるか。 主な食品群について主要な一次汚染微生物を列挙し、取扱い上留意すべき点を説明できるか。 食品・添加物に設定されている成分規格および製造・加工・保存基準等を説明できるか。 主な衛生指標微生物の公衆衛生上の意義とその検査法(公定法および迅速簡易法)を説明できるか。 微生物による汚染防止法の原理と効果を理解し、検体の無菌的操作法を修得できているか。 微生物を殺滅する各種の滅菌法および消毒法の原理と効果を説明できるか。 微生物の増殖を抑制する各種の保存法および加工・調理法の原理と効果を説明できるか。 食品の変質による品質および安全性の低下とその評価法の方法論を説明できるか。 食用油脂類の品質と安全性の指標とその検査法の原理を説明できるか。 食品の安全性を確保するための原理と方法論(加工・調理等)を説明できるか。 各種抗原(特定原材料等)を検出する免疫学的検査法の原理を説明できるか。 「食中毒予防の三原則」について、その【意義】と【効果】を説明できるか。 「大量調理施設衛生管理マニュアル」の各重要管理事項を把握し、その【意義】と【効果】を説明できるか。 重要管理事項①の要点を把握し、その【意義】について説明できるか。 下処理工程における塩素消毒の条件を把握し、その【効果】を説明できるか。 重要管理事項②の要点を把握し、その【意義】について説明できるか。 調理工程における加熱殺菌の条件を把握し、その【効果】を説明できるか。 重要管理事項③の要点を把握し、その【意義】について説明できるか。 盛付工程における二次汚染防止の手法を把握し、その【効果】を説明できるか。 重要管理事項④の要点を把握し、その【意義】について説明できるか。 保管／保存工程における品温管理条件を把握し、その【効果】を説明できるか。 重要管理事項⑤の要点を把握し、その【意義】について説明できるか。 本邦における「飲用的水」の法律上の定義と各検査項目の【意義】を説明できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☒ その他(Teamsのチーム機能およびチャット機能で解答・解説を実施) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☒ その他(Teamsのチーム機能およびチャット機能で解答・解説を実施) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☒ その他(Teamsのチーム機能およびチャット機能で解答・解説を実施) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☒ その他(Teamsのチーム機能およびチャット機能で解答・解説を実施) 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

(10) テキスト、参考図書

□テキスト：

- ①『栄養科学シリーズNEXT 食品衛生学（第5版）』 講談社 2025年 定価¥3,300-（税込）
- ②配布資料（Teamsで配信）

□参考図書：

- ①『解いて学ぶ! 食品衛生・食品安全 テキスト&問題集（第2版）』 講談社 2018年 定価¥2,860-（税込）
- ②『食品微生物の基礎（第2版）』 講談社 2024年 定価¥3,080-（税込）
- ③『ゼロからわかる栄養系微生物学』 南江堂 2021年 定価¥3,080-（税込）
- ④『病気がみえる⑥ 免疫・膠原病・感染症（第2版）』 メディックメディア 2018年 定価¥3,850-（税込）
- ⑤熊谷進・山本茂貴編『食の安全とリスクアセスメント』 中央法規 2004年
- ⑥『大量調理施設 衛生管理のポイント（7訂）』 中央法規 2021年 定価¥2,750-（税込）

(11) その他(受講上の注意)

管理栄養士国家試験受験資格（必修）

毎回の実験への出席（実験作業への参加）を重視し、授業開始時に出席状況を確認します。

遅刻は、授業の1/3（45分）以内に申し出れば認め、それ以上の大幅な遅刻は欠席として扱います。

実験用白衣および靴を持参しなかった場合、各1点減点します。

授業中の私語・携帯電話（スマートフォン）の使用等で説明を聞かず実験に失敗した場合、1点減点します。

実験終了後、火元点検に不備があれば、グループ全員から1点減点します。

安全を期するために白衣を着用し、正確な実験操作を妨げるおそれのある華美な服装は慎むこと。実験は、ガス・火・薬品を使用し危険が伴うため、安全確保の決まりごとをよく理解するよう努め、これを遵守してください。

故意に安全衛生上の危険行為をとる者には、実験停止・室外退去の措置を取り、さらに単位を認定しないこともあります。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

基礎栄養学実験 (Experiments in Nutrition)			担当教員	池田 涼子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-E-2234	1 単位	2 年前期	実験	必修	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力					

(1) 授 業 の 内 容
食物を摂取することにより生体に必要な物質を取り入れ、生命維持や成長・発育、健康維持に利用する営みを「栄養」といい、栄養素を利用するためのしくみやそれぞれの栄養素のはたらきについて学ぶのが基礎栄養学である。 本科目では、基礎栄養学の講義で学習する知識をより深く、確かなものとするよう実践的な授業を展開する。授業は数人のグループに分かれて実験を行う。実験の目的・原理を把握し、実験器具の操作、実験方法を習得するとともに、グループワークや個人で作成・提出する実験報告書(レポート)を通して科学的根拠に基づいた思考を展開する能力を養う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
栄養とは何か、その意義について主に栄養素の定性実験を通して理解する。 また、各学生が栄養素の化学的な性質、生理学的な役割についての知識を深めるとともに、科学的根拠に基づく栄養学を実践するための実験手法の基礎を習得する。
(3) アクティブラーニング
□課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク ■実験、実技 □その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：たんぱく質の変性、凝固 (実験, グループワーク) 第2回：文献検索の方法・たんぱく質の高次構造と変性因子に関する考察 (グループワーク、ディスカッション) 第3回：たんぱく質とは 電気泳動法 (実験, グループワーク) 第4回：食品に含まれるたんぱく質の同定 (グループワーク、ディスカッション) 第5回：たんぱく質アミノ酸の定性(1) 基本構造による定性 (実験, グループワーク) 第6回：アミノ酸とビウレット結合 (グループワーク、ディスカッション) 第7回：たんぱく質アミノ酸の定性(2) 側鎖による定性 (実験, グループワーク) 第8回：アミノ酸の側鎖とその性質 (グループワーク、ディスカッション) 第9回：糖質の定性(1) 糖・でんぶんの定性 (実験, グループワーク) 第10回：糖の基本構造とは、文献検索 (グループワーク、ディスカッション) 第11回：糖質の定性(2) 還元糖の定性 (実験, グループワーク) 第12回：アルドースと還元性 (グループワーク、ディスカッション) 第13回：食品中の天然色素の分離 (実験, グループワーク) 第14回：クロマトグラフの原理と考察 (ディスカッション) 第15回：物質の同定 (実技試験) 第16回：定期試験 ※実験報告書(レポート)は原理・考察を記述する際に参考文献を引用し、出典を明記すること。 ※レポートは評価後なるべく速やかに返却する。チェックの入った箇所は、事後学習の参考にするといよい。 ※その他、授業内容・学生の理解度に応じてその他の課題を与えることがある。 ※各回のテーマとキーワードをよく理解するよう努めること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
レポート20%、実技試験20%、定期試験50%、平常点10%とし、合計で評価する。 (平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断する。)

(7) 成績評価基準
・定性試験の結果にもとづき、栄養素を分類・同定できるか。 ・実験原理を理解し、栄養素を正確に定量できるか。 ・定量方法や栄養素の物理的、化学的ならびに栄養学的性質について説明できるか。 以上を鑑み、総合点60点以上を合格として単位を認定する。 (詳細については履修規定第7条を参照すること)
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☒ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
Nブックス 実験シリーズ・基礎栄養学実験(木元幸一・鈴木和春 編著 / 建帛社) その他、必要に応じて参考図書の紹介、プリントの配布をおこなう。
(11) その他(受講上の注意)
○栄養士免許(必修) ○管理栄養士国家試験受験資格必修(必修) ・実験室に実験室に入室する際は必ず白衣・上履きを着用し、タオル・ハンカチを持参すること。 ・本講義は性質上、ガスバーナーなどの火気や酸性試薬、塩基性試薬を扱う機会が多い。 事故防止の観点から、長い髪はまとめ、前髪や顔の横に垂れる髪はピンで留める。実験操作に支障をきたす化粧などはしない。 安全管理上、授業中の指示や実験室使用のルールについては必ず従うこと。 ・指示に従わない者、危険な行為に及ぶ者については実験を中止し、退去を命じることがある。 ・レポートは提出期限を厳守すること。期限外の提出は原則として認めない。 ・欠席した場合は、必要に応じて補講を実施する。日程は担当教員に相談すること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

応用栄養学Ⅱ（栄養・体力アセスメント） (Applied NutritionⅡ (Nutrition andPhysical Activity Assessment))			担当教員	新井田 裕樹	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-B-2236	1 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
求める学習成果（教育目標）					
栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力					

(1) 授 業 の 内 容	
各ライフステージにおける身体機能、生理的特徴、代謝等を踏まえ、栄養アセスメント（栄養状態の評価と判定）や栄養評価に応じた栄養管理の基本的な考え方について学ぶ。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
各ライフステージでの機能、生理、代謝等を理解した上で栄養アセスメントから栄養管理の計画、実施、評価にいたるプロセスを理解する。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習（PBL） ☒ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：栄養ケア・マネジメントの定義 事前学習：栄養ケア・マネジメントについてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義中に出される課題への取り組み（2時間） 第2回：栄養スクリーニング・アセスメントの方法1（身体測定、食事調査） 事前学習：栄養アセスメントについてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義中に出される課題への取り組み（2時間） 第3回：栄養スクリーニング・アセスメントの方法2（臨床診査、臨床検査） 事前学習：栄養アセスメントについてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義中に出される課題への取り組み（2時間） 第4回：栄養ケア・栄養プログラム（計画、目標設定、実施） 事前学習：栄養ケア・栄養プログラムについてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義中に出される課題への取り組み（2時間） 第5回：栄養評価・判定→症例内容についてグループで検討しディスカッションを行う 事前学習：栄養評価・判定についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容をまとめること（2時間） 第6回：メタボリックシンドロームの栄養ケア・マネジメント 事前学習：メタボリックシンドロームについてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義中に出される課題への取り組み（2時間） 第7回：要支援・要介護者の栄養ケア・マネジメント1 事前学習：要支援・要介護者について調べ、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義中に出される課題への取り組み（2時間） 第8回：要支援・要介護者の栄養ケア・マネジメント2 事前学習：要支援・要介護者について調べ、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：配布資料を参考に講義の内容をまとめること（2時間） 第9回：定期試験	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成 績 評 価 方 法	
定期試験（80%）、平常点（20%）（平常点は授業への参加状況、課題提出状況等を総合的に判断する）	

(7) 成績評価基準
栄養アセスメント、栄養管理の計画、実施、評価の手法を適切に説明できるか。 アセスメント方法について意義を理解し、適切な方法を選択できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
応用栄養学 第3版(栄養科学イラストレイテッド)(羊土社) 日本人の食事摂取基準2025年版(第一出版) ※必要に応じてプリントを配布
(11) その他(受講上の注意)
授業計画は進捗状況により変更することがあります。 ○管理栄養士国家試験受験資格(必修)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

応用栄養学Ⅲ（ライフステージ栄養学） （Applied Nutrition Ⅲ (Life Stage)）			担当教員	新井田 裕樹	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-B-2237	2 単位	2 年前期	講義		必修
＜科目区分＞ 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
求める学習成果（教育目標）					
栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力					

(1) 授 業 の 内 容	
妊娠・授乳期から授乳期、幼児期、学童期、青年期、成人期を経て高齢期に至るプロセスにおいて各ステージの生理的特徴や栄養状態等の変化を理解し、それに基づいた基本的な栄養アセスメントのあり方を学ぶ。また、各ステージで留意すべき栄養関連の病態・疾患に関しても学修する。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
各ライフステージの生理的特徴、栄養状態の特徴、栄養アセスメント、食事摂取基準、栄養関連疾患について理解し、栄養管理を行える能力を養う。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：妊娠期、胎児期、授乳期の特徴と栄養ケア・マネジメント 事前学習：ホルモン分泌および機能について理解しておくこと(2時間) 事後学習：講義中に出される課題に取り組む(2時間) 第2回：新生児期・乳児期の特徴1 事前学習：新生児期・乳児期の特徴についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：講義中に出される課題に取り組む(2時間) 第3回：新生児期・乳児期の特徴2 事前学習：「新生児期・乳児期の特徴1」の内容を理解し、テキストを読んでおくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを利用し、内容をまとめておくこと(2時間) 第4回：新生児期・乳児期の栄養・マネジメント 事前学習：乳児期の特徴を理解し、乳児期の栄養についてテキストを読んでおくこと(2時間) 事後学習：講義中に出される課題に取り組む(2時間) 第5回：幼児期の特徴1 事前学習：幼児期の特徴についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：講義中に出される課題に取り組む(2時間) 第6回：幼児期の特徴2 事前学習：「幼児期の特徴1」の内容を理解し、テキストを読んでおくこと(2時間) 事後学習：講義の内容をまとめておくこと(2時間) 第7回：幼児期の栄養・マネジメント 事前学習：幼児期の特徴について理解し、幼児期の栄養についてテキストを読んでおくこと(2時間) 事後学習：講義の内容をまとめておくこと(2時間) 第8回：学童期の特徴と栄養・マネジメント 事前学習：学童期についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容をまとめておくこと(2時間) 第9回：思春期の特徴と栄養・マネジメント 事前学習：性ホルモンの分泌と機能について理解しておくこと(2時間) 事後学習：講義中に出される課題に取り組む(2時間) 第10回：成人期の生理的特徴 事前学習：生活習慣病についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：講義中に出される課題に取り組む(2時間) 第11回：成人期の栄養・マネジメント 事前学習：成人期の特徴についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：講義中に出される課題に取り組む(2時間)	

第12回：更年期の特徴 事前学習：思春期におけるホルモン分泌について理解しておくこと（2時間） 事後学習：講義中に出される課題に取り組む（2時間） 第13回：更年期の栄養・マネジメント 事前学習：更年期の特徴についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容をまとめておくこと（2時間） 第14回：高齢期の特徴 事前学習：高齢期の特徴についてテキストを読み、理解しておくこと（2時間） 事後学習：講義中に出される課題に取り組む（2時間） 第15回：高齢期の栄養・マネジメント 事前学習：高齢期の栄養についてテキストを読み、理解しておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容をまとめておくこと（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（80％）、平常点（20％）（平常点は授業への参加状況、課題提出状況等を総合的に判断する）
(7) 成績評価基準
各ライフステージでの生理的特徴、栄養状態の特徴、栄養アセスメント、食事摂取基準、栄養関連疾患について理解しているか。さらに、栄養管理の進め方を適切に説明できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
経歴：（管理栄養士） 実務経験と授業内容との関連性：（管理栄養士として医療提供施設での実務経験を活かし、妊娠・授乳期から授乳期、幼児期、学童期、青年期、成人期を経て高齢期に至るプロセスにおいて各ステージの生理的特徴や栄養状態等の変化を理解し、それに基づいた基本的な栄養アセスメントのあり方を解説する。また、各ステージで留意すべき栄養関連の病態・疾患に関しても解説する。）
(10) テキスト、参考図書
応用栄養学 第3版（栄養科学イラストレイテッド）（羊土社） 日本人の食事摂取基準2025年版（第一出版） ※必要に応じてプリントを配布
(11) その他(受講上の注意)
授業計画は進捗状況により変更することがあります。 授業内容の理解促進のため、質問やディスカッション等を研究室にて受け付ける。授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業1回目に説明する。 ○管理栄養士国家試験受験資格（必修）
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

応用栄養学実習 (Applied Nutrition Practicum)			担当教員	三浦 努	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-E-2239	1 単位	2 年通年	実習	選択	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力					

(1) 授 業 の 内 容
妊娠や発育、加齢などによる心身・栄養状態等の変化の特徴を捉え、現代社会の多様な食環境等を踏まえて、各時期の栄養量の基準に応じた食事計画とその実際について学ぶ。 また、特に幼児期、学童期における栄養管理ならびに高齢者の咀嚼や嚥下障害などの介護食への対応も実習する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
各ライフステージによる心身・栄養状態等の変化に対応した栄養状態の評価・判定(栄養アセスメント)や栄養管理、食事方針を学び、各時期に起きる栄養上の問題点への栄養管理の対応を修得する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス ～授業計画の詳細と応用栄養学実習についての説明、各ライフステージの概要について 第2回：栄養マネジメントの概要 第3回：食事計画・献立作成について 第4回：妊娠期における栄養管理と食事方針 第5回：妊娠期・授乳期食の対応 <実習> 第6回：乳児期における栄養管理と食事方針 第7回：乳児期・調乳について <実習> 第8回：乳児期・離乳期食の対応(その1) <実習> 第9回：乳児期・離乳期食の対応(その2) <実習> 第10回：幼児期における栄養管理と食事方針 第11回：幼児期食の対応 <実習> 第12回：学童期・思春期の栄養管理と食事方針 第13回：高齢期における身体状況とアセスメント <実習> 第14回：高齢期における栄養管理と食事方針 第15回：嚥下調整食の対応 <実習> 第16回：定期試験 応用栄養学実習に関連する科目(基礎栄養学、応用栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)で学修したことを復習して理解を深めておくこと。また、予習としては、各回の関連するところを教科書等にて目を通していき、疑問点などをまとめておくこと。復習は授業時に配布されたプリントや板書の内容を各自でまとめて、授業内容の理解を深めるとともに、レポート課題の取り組みでは、さらに深い知識の修得と応用力を養うようにすること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
レポート40%、定期試験40%、実習への取り組み態度等20%の総合評価(100%)
(7) 成 績 評 価 基 準
各ライフステージによる心身・栄養状態の評価・判定(栄養アセスメント)が的確にできること。 各ライフステージにおける栄養管理と食事方針が的確に立案でき対応できること。 各時期に起きる栄養上の問題点への栄養管理と食事方針が的確に立案でき対応できること。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 「新編 応用栄養学実習書 第4版」 長浜幸子編 学建書院 2025年 「日本食品成分表2024 八訂」 医歯薬出版編 2024年
(11) その他(受講上の注意) ◎管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修) 栄養士免許資格、管理栄養士国家試験受験資格を修得するためには、この科目は必修になるので積極的に実習に臨むこと。実習に臨む態度として、安全と衛生を期するために白衣(調理用)、室内用靴、タオルを持参すること。また、料理の味や香りに影響を与えるので、実習時には化粧等はしないこと。実習は、刃物、ガス、火を使用するので危険が伴うため、決まりごとについては遵守してもらう。指示に従わない者、危険行為や態度をとる者に対しては、実習停止の措置をとり、さらには単位を認定しないこともある。なお実習には連続性があるため、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすことがある。遅刻は、安全衛生管理上、実習に参加させないこともある。授業の計画については、変更されることもある。授業の計画、授業内容や注意事項の詳細については、授業1回目のガイダンスの際に説明する。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

栄養教育論Ⅰ(栄養教育論) (Nutrition EducationⅠ)			担当教員	牧野 みゆき	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-B-2240	2 単位	2 年後期	講義	必修	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
求める学習成果(教育目標)					
栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力					

(1) 授 業 の 内 容	
栄養教育プログラムをマネジメントするために必要な事項、行動変容の支援に必要となる行動科学の理論、モデルについて学ぶ。理解を促すため練習問題を交えて講義を進める。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
栄養教育プログラムを総合的にマネジメントするために必要となる、栄養状態、食行動、食環境等についてのアセスメント、栄養教育の実践、それらを評価する方法を理解している。 健康および生活の質 (Quality of Life) の向上をめざした行動変容の支援に必要となる、行動科学の理論、モデルについても説明することができる。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法	
第1回：栄養教育の概念 事前学習：授業前にテキストを読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第2回：生活習慣、食生活の変遷 事前学習：これまで他の講義等で学習した日本人の生活習慣や食生活の特徴について復習しておくこと(2時間) 事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第3回：健康教育を基礎とする栄養教育、行動変容技法と概念 事前学習：授業前に事前配布資料とテキストを読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第4回：行動科学の理論とモデル1 ヘルズベリーフモデル(健康信念モデル) 事前学習：授業前にテキストを読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第5回：行動科学の理論とモデル2 合理的行動理論、計画的行動理論、社会的認知理論、 事前学習：授業前にテキストを読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第6回：行動科学の理論とモデル3 トランスセオレティカルモデル(行動変容段階モデル) 事前学習：授業前にテキストを読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第7回：栄養教育に関わる理論・モデル 事前学習：第6回までに紹介した理論・モデルについて思い出し、各モデルのキーワードを復習しておくこと。(2時間) 事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間)	

第8回：栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル1 プリシード・プロシードモデル 事前学習：授業前にテキストを読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間） 事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間） 第9回：栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル2 ソーシャルマーケティング 他 事前学習：授業前にテキストを読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間） 事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間） 第10回：栄養教育マネジメント1 アセスメント 事前学習：授業前にテキストを読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間） 事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間） 第11回：栄養教育マネジメント2 目標設定 事前学習：授業前にテキストを読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間） 事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間） 第12回：栄養教育マネジメント3 教材・学習形態の選択 事前学習：授業前にテキストを読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間） 事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間） 第13回：栄養教育マネジメント4 評価 事前学習：授業前にテキストを読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間） 事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間） 第14回：栄養教育マネジメント5 評価の詳細 事前学習：授業前にテキストを読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間） 事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間） 第15回：食環境づくり 事前学習：授業前にテキストを読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間） 事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 定期試験（70%）、平常点（30%） 平常点は、授業への参加状況、受講態度、小テストの結果等から評価する。
(7) 成績評価基準 栄養教育プログラムを総合的にマネジメントするために必要となる、栄養状態、食行動、食環境等についてのアセスメント、栄養教育の実践、それらを評価する方法を理解しているか。行動変容の支援に必要な、行動科学の理論、モデルについても説明することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

(10) テキスト、参考図書
栄養教育論 第3版、編集：永井成美、赤松利恵 監修：津田謹輔、伏木亨、本田佳子、中山書店、2026年
(11) その他(受講上の注意)
栄養士免許（必修） 管理栄養士国家試験受験資格（必修） 授業計画は進捗状況により変更することがある。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

臨床栄養学Ⅰ（栄養療法） （Clinical NutritionⅠ（Dietetic Therapy））			担当教員	佐藤 裕保	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-A-2246	2 単位	2 年後期	講義		必修
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
求める学習成果（教育目標）					
栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力					

(1) 授 業 の 内 容
消化器疾患、代謝疾患、循環器疾患、腎疾患、先天性代謝異常などを、各疾患別にその発症機序、臨床症状に応じて、疾患の改善に必要な条件を栄養学の面から明らかにし、栄養食事療法の意義や方法・効果について学習する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
疾病と栄養・食事療法の関連を理解する。
(3) アクティブラーニング
☐課題解決型学習（PBL） ☐討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐実習、フィールドワーク ☐実験、実技 ☒その他（学生は毎回100文字程度の質問もしくは感想を提出、教員は次回それに対してリアクションする）
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス、傷病者に対する栄養（その他） 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する（2時間） 第2回：消化器疾患：逆流性食道炎・胃十二指腸潰瘍（その他） 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する（2時間） 第3回：消化器疾患：クローン病・潰瘍性大腸炎（その他） 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する（2時間） 第4回：消化器疾患：急性肝炎・慢性肝炎（その他） 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する（2時間） 第5回：消化器疾患：肝硬変・膵炎（その他） 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する（2時間） 第6回：代謝疾患：糖尿病（その他） 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する（2時間） 第7回：代謝疾患：肥満・メタボリックシンドローム（その他） 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する（2時間） 第8回：代謝疾患：脂質異常症（その他） 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する（2時間） 第9回：代謝疾患：高尿酸血症（その他） 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する（2時間） 第10回：循環器疾患：狭心症・心筋梗塞（その他） 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する（2時間） 第11回：循環器疾患：高血圧（その他） 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する（2時間）

第12回：腎疾患：慢性腎臓病（その他） 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する（2時間） 第13回：腎疾患：透析（その他） 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する（2時間） 第14回：先天性代謝異常：フェニルケトン尿症（その他） 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する（2時間） 第15回：小児疾患：食物アレルギー・質疑応答（その他） 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する（2時間） 第16回：定期試験 事前に資料を配布およびeラーニングにUPするので、事前学習に用いること。その際、基礎科目との知識の連携を心がけること。併せて、各疾病と関連する解剖生理学・生化学などの復習を含めること。 事後学習においては、関連する基礎科目の知識と統合できるように復習すること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 定期試験（80%）平常点（20%） （平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します）
(7) 成績評価基準 疾病と食事・栄養療法の関連を説明することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性) 経歴：（管理栄養士） 実務経験と授業内容との関連性：（病院勤務経験を活かし、疾患別にその発症機序、臨床症状に応じて、疾患の改善に必要な条件を栄養学の面から明らかにし、栄養食事療法の意義や方法・効果について解説する。）
(10) テキスト、参考図書 必要に応じて資料配布
(11) その他(受講上の注意) 毎回、授業内容に対する質問もしくは感想の提出を求める。内容の軽薄なものは、出席と認めない。 管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

臨床栄養学実習Ⅰ（食事療法） (Clinical Nutrition Practicum I (Dietetic Therapy))			担当教員	佐藤 裕保	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-E-2250	1 単位	2 年後期	実習		必修
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
求める学習成果（教育目標）					
コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力					

(1) 授 業 の 内 容	
消化器疾患、代謝疾患、循環器疾患、腎疾患、先天性代謝異常などを、各疾患別に疾病の改善や回復を、より適切に効果的に促進するための栄養食事療法を実習する。 対象者を的確に把握し、疾患の特徴と栄養食事療法の特徴を結び付けて考えることができるように、治療食作成の技術を学習する。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
治療食作成を通して、栄養・食事療法を理解する。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習（PBL） ☐ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：ガイダンス、治療食献立作成について 第2回：消化器疾患：易消化食（献立作成）（実習） 第3回：消化器疾患：易消化食（調理・試食）（実習） 第4回：消化器疾患：急性肝炎・肝硬変（献立作成）（実習） 第5回：消化器疾患：肝硬変非代償期（調理・試食）（実習） 第6回：代謝疾患：糖尿病（献立作成）（実習） 第7回：代謝疾患：糖尿病（調理・試食）（実習） 第8回：代謝疾患：高コレステロール血症・高トリグリセライド血症（献立作成）（実習） 第9回：代謝疾患：高コレステロール血症（調理・試食）（実習） 第10回：循環器疾患：高血圧症（献立作成）（実習） 第11回：循環器疾患：高血圧症（調理・試食）（実習） 第12回：腎疾患：慢性腎臓病（献立作成）（実習） 第13回：腎疾患：慢性腎臓病（調理・試食）（実習） 第14回：先天性代謝異常：フェニルケトン尿症（献立作成）（実習） 第15回：小児疾患：食物アレルギー（献立作成）（実習） 臨床栄養学Ⅰとの知識の連携を心がけること。	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成 績 評 価 方 法	
提出物（60%）平常点（40%） （平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します）	
(7) 成 績 評 価 基 準	
各疾患において、適切な治療食を説明することができるか。	

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☒その他(提出物返却時にコメント記載) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 「臨床栄養学実習書」医歯薬出版 「糖尿病食事療法のための食品交換表」日本糖尿病協会 「腎臓病食品交換表」医歯薬出版
(11) その他(受講上の注意) 毎回、提出物を求める。 管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

公衆栄養学Ⅰ（地域栄養活動） (Public Health Nutrition I (Community Involvement))			担当教員	三浦 努	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-B-2253	2 単位	2 年後期	講義		必修
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
求める学習成果（教育目標）					
栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力					

(1) 授 業 の 内 容
国や地域社会における疾病予防と健康・QOLの現状と変化を学び、健康の保持増進に必要な理論と方策及び疾病の発症と重症化予防のための食行動の変容を図る方法を学修し、新たな健康・栄養課題に対応する能力を身につける。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
日頃から健康・栄養問題を的確に捉え、地域栄養活動に関する生活上に存在する課題を分析して把握することができること、関連する法規や計画と指針等の体系的な理解、対象者に適した栄養関連サービスとしての公衆栄養マネジメント・プログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントの知識と技術を修得する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☐ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンスー授業計画の詳細と公衆栄養学Ⅰ（地域栄養活動）について公衆栄養学の概念、日本の健康・栄養の現状 事前学習：授業前に日本における生活習慣における健康や栄養に関する問題点についてまとめておくこと。（3時間） 事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（1時間） 第2回：公衆栄養学の歴史 事前学習：教科書の第1章の公衆栄養学の概念をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（2時間） 第3回：日本の健康・栄養の現状、食生活習慣上での主な問題点（生活習慣病、疾病発症要因等）、公衆栄養のマネジメントサイクル 事前学習：教科書の第2章の健康・栄養問題の現状と課題の要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（2時間） 第4回：わが国の健康をめぐる現状（少子高齢化社会の現状と問題点） 事前学習：教科書の第2章の健康問題等の要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（2時間） 第5回：栄養関係法令と公衆栄養活動①（管理栄養士の役割、健康増進法など） 事前学習：教科書の第3章の公衆栄養活動の要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（2時間） 第6回：栄養関係法令と公衆栄養活動②（地域保健法、高齢者の医療の確保に関する法律など） 事前学習：教科書の3章のわが国の公衆栄養活動と関連法規の要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（2時間） 第7回：栄養関係法令と公衆栄養活動③（地域保健法、医療計画） 事前学習：教科書の第3章と巻末の栄養関連法規の要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（2時間） 第8回：わが国の健康・栄養政策①（国や地域における健康増進施策、国民健康・栄養調査） 事前学習：教科書の3章の栄養施策の要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（2時間） 第9回：わが国の健康・栄養政策②（国や地域における健康増進施策、特定健診・特定保健指導） 事前学習：教科書の3章の関連するところの要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（2時間） 第10回：わが国の健康・栄養政策③（国民健康・栄養調査（目的・概要・結果と食文化）） 事前学習：教科書の国民健康・栄養調査について要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（2時間）

第11回：わが国の健康・栄養問題の現状と課題（食環境の変化、家計調査、食料需給表） 事前学習：教科書の2章の食環境の変化や消費者物価について要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（2時間） 第12回：わが国の健康・栄養政策④（国や地域における健康増進施策） 統計調査、食育基本法 事前学習：教科書の3章の特定健康診査・特定保健指導の要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（2時間） 第13回：わが国の健康・栄養政策⑤（国や地域における健康増進施策） 健康日本21 事前学習：教科書の3章の健康日本21の該当するところを調べまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（2時間） 第14回：わが国の健康・栄養政策⑥（国や地域における健康増進施策） 健康日本21 事前学習：教科書の3章の健康日本21の該当するところを調べまとめておくこと。（1時間） 事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（3時間） 第15回：わが国の健康・栄養政策⑦（国や地域における健康増進施策実施に関する指針・ツール、ガイドライン等） 事前学習：教科書の3章の健康日本21の該当するところの要点をまとめておくこと。（1時間） 事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（3時間） 第16回：定期試験 予習としては、各回の関連するところを教科書等にて目を通しておき、疑問点などをまとめておくこと。復習は授業時に配布された資料を各自でまとめて授業後の理解を深める。さらに深い知識の修得と応用力を養えられるよう、課題への取り組みを行うこと。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 定期試験60%、課題・レポート20%、出席状況と授業への取り組みや授業態度等20%の総合評価（100%）
(7) 成績評価基準 地域集団における食習慣や生活習慣に存在する課題を分析して捉えることができる。 健康の保持増進に必要な理論と法令の体系的な理解と、公衆栄養マネジメント及びプログラムの知識と技術で対応できる能力を修得できている。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 テキスト： 健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学（改訂第9版） 南江堂 2025年 「日本人の食事摂取基準（2025年版）」 第一出版 2025年 参考図書： カレント改定公衆栄養学第3版 建帛社2024年 管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠題10巻 公衆栄養学2025年版 医歯薬出版 2025年 2025年版 栄養士・管理栄養士必携 第一出版 2025年

(11) その他(受講上の注意)

◎管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)

管理栄養士国家試験受験資格を取得するためには、この科目は必修となるので講義中は集中して聴講すること。また、他の学生の聴講の妨げとなるので、私語はしないこと。課題は必ず提出すること。なお講義内容は連続性があり、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心がけること。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業 1 回目のガイダンスにて説明する。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

給食経営管理論Ⅱ（マネジメント） （Food Service ManagementⅡ（Management））			担当教員	長岡 純子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-A-2257	2 単位	2 年通年	演習		必修
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
求める学習成果（教育目標）					
栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力					

(1) 授 業 の 内 容	
給食運営や食品流通の理解を基に、経営管理（組織・人事、会計・原価、情報処理、事故・災害時対策等）について関連の資源（食品の流通や食品開発の状況、給食に関わる組織やそれにかかる経費）との関係を総合的に述べ、栄養面、安全面に加え、経済面全般のマネジメントが行えるようにする。また、マーケティングの原理やその応用法、組織管理などマネジメントの基本的考え方や方法について述べる。また、さらに各種給食施設の特徴についても講義する。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
・ 経営管理の意義と機能について説明出来る。 ・ 給食とマーケティングについて説明出来る。 ・ 給食の衛生管理について説明出来る。 ・ 給食の人事管理について説明出来る。 ・ 給食の原価構成について説明出来る。	
(3) アクティブラーニング	
☒ 課題解決型学習（PBL） ☐ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法	
第1回：給与栄養目標量の設定（PBL）（長岡・森） 事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第3版）の計画（給与栄養目標量の設定）を読み、質問項目を整理しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（2時間） 第2回：食品構成表の作成（PBL）（長岡・森） 事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第3版）の計画（食品構成表の作成）を読み、質問項目を整理しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（2時間） 第3回：献立計画の立案（PBL）（長岡・森） 事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第3版）の計画（献立計画の立案）を読み、質問項目を整理しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（2時間） 第4回：試作及び生産計画（調理工程計画、作業工程計画）の立案（PBL）（長岡・森） 事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第3版）の計画（試作及び生産計画（調理工程計画、作業工程計画）の立案）を読み、質問項目を整理しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（2時間） 第5回：発注計画・在庫計画の立案（PBL）（長岡・森） 事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第3版）の計画（発注計画・在庫計画の立案）を読み、質問項目を整理しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（2時間） 第6回：栄養教育媒体の作成及び嗜好調査表・喫食調査表の設計（PBL）（長岡・森） 事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第3版）の計画（栄養教育媒体の作成及び嗜好調査表・喫食調査表の設計）を読み、質問項目を整理しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（2時間） 第7回：生産（調理）前の準備、点検等及び検収と保管（PBL）（長岡・森） 事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第3版）の実施（生産（調理）前の準備、点検等及び検収と保管）を読み、質問項目を整理しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（2時間）	

第8回：生産管理（調理工程）及び提供管理（盛りつけ作業）（PBL）（長岡・森） 事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第3版）の実施（生産管理（調理工程）及び提供管理（盛りつけ作業））を読み、質問項目を整理しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（2時間） 第9回：検食と保存食及び食堂の準備と提供管理（配膳作業）（PBL）（長岡・森） 事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第3版）の実施（検食と保存食及び食堂の準備と提供管理（配膳作業））を読み、質問項目を整理しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（2時間） 第10回：下膳と食器洗浄及び清掃と点検（PBL）（長岡・森） 事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第3版）の実施（下膳と食器洗浄及び清掃と点検）を読み、質問項目を整理しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（2時間） 第11回：実習の全体評価（PBL）（長岡・森） 事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第3版）の評価・改善（実習の全体評価）を読み、質問項目を整理しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（2時間） 第12回：改善点の検討（PBL）（長岡・森） 事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第3版）の評価・改善（改善点の検討）を読み、質問項目を整理しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（2時間） 第13回：評価・改善のための各種調査法（PBL）（長岡・森） 事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第3版）の評価・改善（評価・改善のための各種調査法）を読み、質問項目を整理しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（2時間） 第14回：原価計算の演習及びABC分析の演習（PBL）（長岡・森） 事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第3版）の原価管理（原価計算の演習及びABC分析の演習）を読み、質問項目を整理しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（2時間） 第15回：損益分岐点分析の演習（PBL）（長岡・森） 事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第3版）の原価管理（損益分岐点分析の演習）を読み、質問項目を整理しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（2時間） 第16回：定期試験	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
定期試験（50%）、演習（30%）、授業への取り組み（20%） 授業への取り組みについては、授業への参加状況、受講態度、感想文の提出状況を総合的に判断する。	
(7) 成績評価基準	
・経営管理の意義と機能について説明出来るか。 ・給食とマーケティングについて理解しているか。 ・給食の衛生管理について理解しているか。 ・給食の人事管理について理解しているか。 ・給食の原価構成について理解しているか。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
給食経営管理実習ワークブック 第4版 (株)みらい 2025年
(11) その他(受講上の注意)
○管理栄養士国家試験受験資格必修(必修) 板書などが見えにくい場合は、必ず申し出ること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

給食経営管理論実習 (Food Service Management Practicum)			担当教員	長岡 純子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-E-2259	1 単位	2 年通年	実習	必修	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力					

(1) 授 業 の 内 容
給食経営管理論において習得した内容を基礎として、大量調理を始め、マネジメント能力が身につくよう課題ディスカッションなどにより体験的に学習する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ 栄養士係として業務全体のマネジメントが理解出来る。 ・ 各種手順表（給食作業手順表、作業工程表等）及び栄養媒体等の資料が作成出来る。 ・ 帳票類を適切に作成し整理できる。 ・ 実施献立の評価を行い、改善点を検討して発表できる。 ・ 大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った衛生管理を理解し、実施できる。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習（PBL） ☐ 討議（ディスカッション、ディベート） ☒ グループワーク ☒ 発表（プレゼンテーション） ☒ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション（授業の進め方、グループ構成、献立の立て方、課題説明など）（グループワーク）（長岡・森） 第2回：実習計画①（試作計画、実習室及び機器類の説明など）（グループワーク及び実習、実技）（長岡・森） 第3回：実習計画②（試作、改善点の検討など）（グループワーク及び実習、実技）（長岡・森） 第4回：プレ大量調理（調理作業開始時の準備と点検、検収と保管、調理作業工程管理、配食管理、検食と保存食、食堂の準備と配膳管理、下膳と食器洗浄、清掃と点検など）（グループワーク及び実習、実技）（長岡・森） 第5回：実習準備①（生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案など）（グループワーク及び実習、実技）（長岡・森） 第6回：実習準備②（栄養教育媒体の作成、アンケートの作成など）（グループワーク）（長岡・森） 第7回：実習準備③（食数管理、発注など）（グループワーク及び実習、実技）（長岡・森） 第8回：衛生管理（グループワーク及び実習、実技）（長岡・森） 第9回：大量調理①（調理作業開始時の準備と点検、検収と保管、調理作業工程管理、配食管理、検食と保存食、食堂の準備と配膳管理、下膳と食器洗浄、清掃と点検など）（グループワーク及び実習、実技）（長岡・森） 第10回：大量調理②（調理作業開始時の準備と点検、検収と保管、調理作業工程管理、配食管理、検食と保存食、食堂の準備と配膳管理、下膳と食器洗浄、清掃と点検など）（グループワーク及び実習、実技）（長岡・森） 第11回：大量調理③（調理作業開始時の準備と点検、検収と保管、調理作業工程管理、配食管理、検食と保存食、食堂の準備と配膳管理、下膳と食器洗浄、清掃と点検など）（グループワーク及び実習、実技）（長岡・森） 第12回：大量調理④（調理作業開始時の準備と点検、検収と保管、調理作業工程管理、配食管理、検食と保存食、食堂の準備と配膳管理、下膳と食器洗浄、清掃と点検など）（グループワーク及び実習、実技）（長岡・森） 第13回：事務処理①（帳票類の整理など）（グループワーク）（長岡・森） 第14回：事務処理②（アンケートの集計、改善点の検討など）（グループワーク及び発表）（長岡・森） 第15回：実技試験、まとめ（グループワーク及び実習、実技）（長岡・森） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
実習記録ノート及び課題（40%）、実習への取り組み（30%）、定期試験（30%） 実習への取り組みについては、実習への参加状況、受講態度、発表内容、感想文の提出状況を総合的に判断する。

(7) 成績評価基準
・ 栄養士係として業務全体をマネジメント出来るか。 ・ 各種手順表（給食作業手順表、作業工程表等）及び栄養媒体等が作成出来るか。 ・ 帳票類を適切に作成し整理できるか。 ・ 実施献立の評価を行い、改善点を検討して発表できるか。 ・ 大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った衛生管理を理解し、実施できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書
給食経営管理実習ワークブック 第4版 (株)みらい 2025年
(11) その他(受講上の注意)
○栄養士免許（必修） ○管理栄養士国家試験受験資格必修（必修） 大量調理実習なので特に体調管理と衛生管理に気をつけること。 ※下痢・発熱の有無や化膿創の有無及び身支度（毛髪、爪等）、手洗い等
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

栄養総合演習 I (Integrated Seminar I)			担当教員	佐藤 裕保、三浦 努、山本 浩範、 長岡 純子
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
HN-F-2259	2 単位	2 年後期・ 3 年・4 年	演習	選択
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野				
求める学習成果(教育目標)				
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観				

(1) 授 業 の 内 容
専門分野を横断して、栄養評価や管理が行える総合的な能力を養う。 オムニバスにて臨地実習の事前事後指導を行う。 事前指導として、臨地実習の意義についての指導および、実習に際しての具体的準備を行う。 実習先施設の特徴の把握、実習テーマ設定等を実習グループにて行う。 事後指導として、実習の成果および実習テーマについてまとめ、プレゼンテーションを行う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
実習の成果および実習テーマについて確認し、栄養士・管理栄養士業務について理解する。
(3) アクティブラーニング
☐課題解決型学習(PBL) ☒討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐実習、フィールドワーク ☐実験、実技 ☐その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：(給食運営実習)：給食施設の特徴・給食の運営について(長岡・森) 事前学習：給食施設について、関連する教科書を復習する(2時間) 事後学習：給食施設について、ホームページ等を利用して、特徴を把握する(2時間) 第2回：(給食運営実習)：実習テーマ・実習ノートについて(長岡・森) 事前学習：実習テーマについて、準備しておく(2時間) 事後学習：実習ノートを熟読する(2時間) 第3回：(給食運営実習)：実習報告(発表)(長岡・森) 事前学習：発表媒体・原稿の準備(2時間) 事後学習：他施設の発表についてまとめる(2時間) <公衆栄養臨地実習> 第4回a：(公衆栄養臨地実習)：保健所・保健センターの特徴について(三浦) 事前学習：保健所・保健センターについて、関連する教科書を復習する(2時間) 事後学習：保健所・保健センターについて、ホームページ等を利用して、特徴を把握する(2時間) 第5回a：(公衆栄養臨地実習)：公衆栄養マネジメントについてⅠ(三浦) 事前学習：公衆栄養マネジメントについて、関連する教科書を復習する(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間) 第6回a：(公衆栄養臨地実習)：公衆栄養マネジメントについてⅡ(三浦) 事前学習：公衆栄養マネジメントについて、関連する教科書を復習する(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間) 第7回a：(公衆栄養臨地実習)：実習テーマ設定(グループワーク・ディスカッション)・実習ノートについて(三浦) 事前学習：実習テーマについて、グループで議論できるように準備しておく(2時間) 事後学習：実習ノートを熟読する(2時間) 第8回a：(公衆栄養臨地実習)：実習報告(発表)(三浦) 事前学習：発表媒体・原稿の準備(2時間) 事後学習：他施設の発表についてまとめる(2時間) <給食経営管理臨地実習> 第4回b：(給食経営管理臨地実習)：給食施設の特徴について(長岡・森) 事前学習：給食施設について、関連する教科書を復習する(2時間) 事後学習：給食施設について、ホームページ等を利用して、特徴を把握する(2時間)

- 第5回b：（給食経営管理臨地実習）：給食経営管理についてⅠ（長岡・森）
事前学習：給食経営管理について、関連する教科書を復習する（2時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
- 第6回b：（給食経営管理臨地実習）：給食経営管理についてⅡ（長岡・森）
事前学習：給食経営管理について、関連する教科書を復習する（2時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
- 第7回b：（給食経営管理臨地実習）：実習テーマ設定（グループワーク・ディスカッション）・実習ノートについて（長岡・森）
事前学習：実習テーマについて、グループで議論できるように準備しておく（2時間）
事後学習：実習ノートを熟読する（2時間）
- 第8回b：（給食経営管理臨地実習）：実習報告（発表）（長岡・森）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（2時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（2時間）
- 第9回：（臨床栄養臨地実習）：病院・介護老人保健施設の特徴について（佐藤裕・山本）
事前学習：病院・介護老人保健施設について、関連する教科書を復習する（2時間）
事後学習：病院・介護老人保健施設について、ホームページ等を利用して、特徴を把握する（2時間）
- 第10回：（臨床栄養臨地実習）：栄養ケアマネジメントについてⅠ（佐藤裕・山本）
事前学習：栄養ケアマネジメントについて、関連する教科書を復習する（2時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
- 第11回：（臨床栄養臨地実習）：栄養ケアマネジメントについてⅡ（佐藤裕・山本）
事前学習：栄養ケアマネジメントについて、関連する教科書を復習する（2時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
- 第12回：（臨床栄養臨地実習）：実習テーマ設定（グループワーク・ディスカッション）・実習ノートについて（佐藤裕・山本）
事前学習：実習テーマについて、グループで議論できるように準備しておく（2時間）
事後学習：実習ノートを熟読する（2時間）
- 第13回：（臨床栄養臨地実習）：実習報告Ⅰ（発表）（佐藤裕・山本）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（2時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（2時間）
- 第14回：（臨床栄養臨地実習）：実習報告Ⅱ（発表）（佐藤裕・山本）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（2時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（2時間）
- 第15回：実習報告会：全体会（給食運営実習・公衆栄養臨地実習・給食経営管理臨地実習の聴講、臨床栄養臨地実習の発表）（発表）（佐藤裕・三浦・山本・長岡・森）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（2時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（2時間）
- それぞれの臨地実習の関連科目の復習を充分にすること。

(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

(6) 成績評価方法

提出物（60％）平常点（40％）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します）

(7) 成績評価基準

実習の成果および実習テーマについて確認し、栄養士・管理栄養士業務について説明することができるか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- 授業時の課題に対するフィードバックについて
☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
☒授業時 ☐仁大eラーニング
☒メール ☐その他
- 小レポートに対するフィードバックについて
☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- その他
☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
それぞれの臨地実習の関連科目にて使用した教科書および参考図書。 必要に応じてプリント配布。
(11) その他(受講上の注意)
正当な理由なく事前指導を欠席した場合、臨地実習に出られない場合がある。 4-8回については、選択した臨地実習に出席する。 管理栄養士国家試験受験資格(必修)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

栄養総合演習Ⅱ (Integrated SeminarⅡ)			担当教員	佐藤 裕保、三浦 努、山本 浩範、 長岡 純子
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
HN-F-2260	2単位	2年後期・3年	演習	選択
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野				
求める学習成果(教育目標)				
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観				

(1) 授 業 の 内 容
専門的な分野で学んだ理論と方法論を総合的に応用し、今後の臨地実習で栄養評価や管理が行える能力を養う。 校外実習で経験した内容の理解を深める。 オムニバス方式にて行う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
校外実習で確認できた知識や技術の不足部分の気づきや問題点について再認識し、理解を深める。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：治療食献立作成に必要な知識「食品構成・荷重平均栄養成分値」(佐藤裕保)(グループワーク) 事前学習：荷重平均栄養成分値について、関連する教科書を復習する(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2時間) 第2回：治療食献立作成に必要な知識「コーディング・使用量・調味料」(佐藤裕保)(グループワーク) 事前学習：献立集やネット検索により、食材料の常用量を把握しておく(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2時間) 第3回：治療食献立作成に必要な食品学「食品選択について」(佐藤裕保)(グループワーク) 事前学習：食品成分表に記載されている食品を把握しておく(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2時間) 第4回：衛生管理について(長岡・森) 事前学習：衛生管理について、関連する教科書を復習する(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間) 第5回：実習テーマ設定(グループワーク・ディスカッション)(長岡・森) 事前学習：実習テーマについて、グループで議論できるように準備しておく(2時間) 事後学習：議論内容をまとめる(2時間) 第6回：社会人としてのマナー(佐藤・三浦・山本・長岡・森) 事前学習：社会人としてのマナーについて、ネット検索などによりまとめる(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間) 第7回：倫理・守秘義務について(長岡・森) 事前学習：倫理・守秘義務について、関連する教科書を復習する(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間) 第8回：実習振り返りⅠ(長岡・森) 事前学習：実習内容についてまとめる(2時間) 事後学習：振り返りをまとめる(2時間) 第9回：実習振り返り(グループディスカッション)Ⅰ(長岡・森) 事前学習：グループディスカッションの準備(2時間) 事後学習：グループディスカッションについてまとめる(2時間) 第10回：実習振り返りⅡ(課題抽出)(長岡・森) 事前学習：実習内容についてまとめる(2時間) 事後学習：課題についてまとめる(2時間) 第11回：実習振り返り(課題抽出)(グループディスカッション)Ⅱ(長岡・森) 事前学習：グループディスカッションの準備(2時間) 事後学習：グループディスカッションについてまとめる(2時間)

第12回：実習振り返りⅢ（課題解決）（長岡・森） 事前学習：実習内容についてまとめる（2時間） 事後学習：課題についてまとめる（2時間） 第13回：実習振り返り（課題解決）（グループディスカッション）Ⅲ （長岡・森） 事前学習：グループディスカッションの準備（2時間） 事後学習：グループディスカッションについてまとめる（2時間） 第14回：実習報告書作成（グループワーク）（長岡・森） 事前学習：実習内容についてまとめる（2時間） 事後学習：指示された報告書にまとめる（2時間） 第15回：実習報告会：全体会（給食運営実習・公衆栄養臨地実習・給食経営管理臨地実習・臨床栄養臨地実習）（発表）（佐藤裕・三浦・山本・長岡・森） 事前学習：発表媒体・原稿の準備（2時間） 事後学習：他施設の発表についてまとめる（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
提出物 (60%) 平常点 (40%) （平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します）
(7) 成績評価基準
校外実習で確認できた知識や技術の不足部分の気づきや問題点について理解し、説明することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じてプリント配布。 校外実習の関連科目にて使用した教科書および参考図書。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

給食運営実習 (Field Practice in Food Service)			担当教員	長岡 純子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-F-2265	1 単位	2 年後期	実習	選択	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
求める学習成果(教育目標)					
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観					

(1) 授 業 の 内 容
各種給食施設（学校給食・福祉施設給食・事業所給食等）での給食業務全般に必要な校外実習を行う。食事の計画や調理を含めた給食運営に関する技術を習得する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ 各種給食施設での栄養士の役割を理解出来る。 ・ 各種給食施設での栄養士業務全般を理解出来ている。 ・ 各種給食施設の喫食者の特徴を理解出来ている。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☐ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
2 年次 2 ～ 3 月に 1 週間（45 時間以上）の給食施設（学校・病院・福祉施設・事業所等）実習を行う。 ①実習施設事前訪問・実習挨拶および指導者との打ち合わせ（実習） ②実習施設ごとの実習計画による実習（実習） ③実習施設についての理解（組織・運営）（実習） ④食材料管理の把握・考察（実習） ⑤作業管理・業務分担の把握・考察（実習） ⑥安全・衛生管理の把握・考察（実習） ⑦給食業務にかかる帳票類の内容及び管理について学ぶ など・実習施設について事前に十分な下調べ（施設概要等）を行なうこと。（実習） ⑧実習成果に関する報告書及び発表（グループワーク及び発表）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
実習前の準備作業の取り組み状況（20%）、実習中の取り組み状況（20%）、実習ノート等の提出物の評価（20%）、実習施設の指導担当者による評価（40%）
(7) 成 績 評 価 基 準
・ 各種給食施設での栄養士の役割を理解出来ているか。 ・ 各種給食施設での栄養士業務全般を理解出来ているか。 ・ 各種給食施設の喫食者の特徴を理解出来ているか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
給食経営管理論Ⅰ・Ⅱ・実習や、実習先の施設種別に関連する科目で使用した教科書等。 詳細については事前指導時に指示を行う。
(11) その他(受講上の注意)
○栄養士免許(必修) ○管理栄養士国家試験受験資格必修(必修) ・実習施設について事前に十分な下調べ(施設概要等)を行なうこと。 ・事前に出された課題は、必ず準備して実習に臨むこと。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

分子栄養学 (Molecular Nutrition)			担当教員	尼子 克己	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-D-2272	2 単位	2 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 関連科目					
求める学習成果(教育目標)					
基礎研究および食品開発ができる能力					

(1) 授 業 の 内 容
基礎生化学をはじめとする幾つかの科目において、生体内で起こる様々な現象が、酵素を触媒とする化学反応の組合せによって起こることを学んだ。本講義ではそれを踏まえ、変動する環境に対して生体がどのように情報を受け取り、対応して秩序を保っているか、およびその破綻がいかに疾病につながっていくかを、分子生物学の観点から説明する。生命活動の中心原理(セントラルドグマ)の基本的な仕組み、一般的な遺伝子発現、その他の制御機構について理解したあと、生体における糖・脂質・たんぱく質などの栄養素の代謝と調節および栄養素自身が代謝調節に重要な役割を担っていることを分子生物学的観点から理解できるようにする。また遺伝的背景のわずかな差異が、個人の体質に与える影響を、実際の事例を引きながら解説する。講義は基礎生化学で学んだ内容を振り返りつつ、臨床栄養学等以降の講義で取り扱われる種々の栄養マネジメントに対して、基礎医学的な観点から根拠を与えられるよう配慮して進める。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
生体における糖・脂質・たんぱく質などの栄養素の代謝と調節および栄養素自身が代謝調節に重要な役割を担っていることを分子生物学的観点から理解できる。具体的には、 ① 遺伝子の構造・発現・調節機構ならびに遺伝子産物としてのたんぱく質の構造と機能を説明できる。 ② 糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラルの代謝と、これら栄養素自身が転写因子を介して、生体機能を制御していることを理解し、解説できる。 ③ 生活習慣病：循環器系疾患、肥満、糖尿病、骨粗鬆症、がん、アレルギーなどの発症機構を、代謝と病態との関連において、分子生物学的視点から説明できる。 ④ ゲノム解読に伴って進化を遂げた分子生物学およびその周辺分野の技術革新を理解し、それらの栄養学や医療への応用を概説することができる。
(3) アクティブラーニング
☐課題解決型学習(PBL) ☐討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐実習、フィールドワーク ☐実験、実技 ☐その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：遺伝子の本体：セントラルドグマ、DNAの複製 事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。(2時間) 事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。(2時間) 第2回：転写の仕組み 事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。(2時間) 事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。(2時間) 第3回：翻訳の仕組み、タンパク質の運命 事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。(2時間) 事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。(2時間)

第4回：ジェネティック、およびエピジェネティックな遺伝子発現制御の概要

事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（2時間）

事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（2時間）

第5回：糖代謝と調節の分子機構

事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（2時間）

事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（2時間）

第6回：脂質代謝調節の分子機構

事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（2時間）

事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（2時間）

第7回：タンパク質代謝の分子機構

事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（2時間）

事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（2時間）

第8回：ビタミン・ミネラル代謝の分子機構

事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（2時間）

事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（2時間）

第9回：遺伝子解析の手法と原理、遺伝子操作技術とその問題

事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（2時間）

事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（2時間）

第10回：ヒトゲノム、遺伝子多型と体質

事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（2時間）

事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（2時間）

第11回：生活習慣病の分子栄養学①：基礎代謝にかかわる遺伝子多型

事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（2時間）

事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（2時間）

第12回：生活習慣病の分子栄養学②：メタボリックシンドロームの発症機序

事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（2時間）

事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（2時間）

第13回：がん、アレルギー、老化と分子栄養学

事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（2時間）

事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（2時間）

第14回：ゲノムインプリンティング、時間栄養学 事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（2時間） 事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（2時間） 第15回：遺伝子組換え作物・食品 事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（2時間） 事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 定期試験50%、小テスト（5回程度実施する）50%を基準として、総合的に評価する。
(7) 成績評価基準 ① 遺伝子の構造・発現・調節機構ならびに遺伝子産物としてのたんぱく質の構造と機能を説明できるか。 ② 糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラルの代謝と、これら栄養素自身が転写因子を介して、生体機能を制御していることを理解し、説明できるか。 ③ 生活習慣病：循環器系疾患、肥満、糖尿病、骨粗鬆症、がん、アレルギーなどの発症機構を、代謝と病態との関連において分子生物学的に説明できるか。 ④ ゲノム解読に伴って進化を遂げた分子生物学およびその周辺分野の技術を理解し、それらの栄養学や医療などへの応用を概説することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（小テストの答案を採点し返却する） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☒その他（講義や補足事項を記録したビデオをOffice365内で閲覧可能とする） 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（解答例を配布し、質問および結果照会を受け付ける。） 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 テキスト：講義用資料を配布する。 統一したテキストは指定しないが、体系的理解のためには関連する書籍を通読されることを推奨する。講義資料作成に際しては、以下の(1)～(3)を中心に準備するので、これらの何れかを手許に置かれることを勧める。 (1) 佐久間著・『栄養と遺伝子のはなし 分子栄養学入門第3版』・技報堂出版・2014年 (2) 加藤・藤原著・『栄養科学イラストレイテッド 分子栄養学』・羊土社・2014年 (3) 宮本・井上・桑波田・金子編・『分子栄養学』・講談社栄養科学シリーズNEXT・2018年 また、リファレンス用途としては以下を勧める。 (4) アルバーツら著、中村・松原監訳・『細胞の分子生物学』第6版・(株)ニュートンプレス・2017年 (5) アルバーツら著、中村ら訳『Essential細胞生物学』(原著第5版)・南江堂・2021年

(11) その他(受講上の注意)

- ・ 2 年前期開講の「基礎生化学」、及び本科目と同時期に開講の「栄養生化学」は特に関連性が高いので、併せて十分に理解するよう心がけてください。
- ・ 遅刻、欠席、私語は自身だけでなく周囲の者の理解の妨げになるので厳に慎むこと。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

国際食糧・栄養情報論 (International Food Situation)			担当教員	三浦 努	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-C-2273	1 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 関連科目					
求める学習成果(教育目標)					
学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力					

(1) 授 業 の 内 容
世界情勢は、かつてないほどのスピードで変化を遂げている。開発途上国では、食料不足による低栄養で生じる健康障害が問題となっていると思われるがちである。しかし、栄養の二重苦という過剰栄養と低栄養が混在している状態が共存している国もある。国内外の社会・経済情勢、環境問題等を知り、現状の健康、食糧、栄養に関わる諸課題について学び、どのように対応し解決していくべきかを模索する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
国内外の食糧事情、社会・経済構造、健康や栄養状態に関わる現状と課題について理解する。 世界での日本の位置づけを考えながら複雑に絡み合う諸外国との食糧、経済、健康や栄養に関わる問題について理解する。栄養関連の情報についての収集の仕方や内容についての的確に解釈できる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(文献検索サイト等を活用した情報収集)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：日本における健康問題、社会・経済構造について 事前学習：日本における健康問題と人口問題について調べておく。(1時間) 事後学習：授業で提示した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(3時間) 第2回：日本の食生活習慣と栄養状態の変遷と現在の問題点 事前学習：事前に配布された資料に目を通しておき、要点や疑問点をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で提示した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間) 第3回：日本と諸外国の食糧流通と食糧事情と課題について(日本と諸外国との関わり) 事前学習：事前に配布された資料に目を通しておき、要点や疑問点をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で提示した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間) 第4回：食糧・栄養関連の情報収集の仕方と解釈について 事前学習：事前に配布された資料に目を通しておき、要点や疑問点をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で提示した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間) 第5回：食糧・栄養関連の情報収集と整理 事前学習：健康や栄養に関する興味のある事項について予め配付する教材を予習し、情報収集を可能な範囲で試みる。(1時間) 事後学習：授業で収集した栄養関連情報についてを整理しておくこと。(3時間) 第6回：諸外国の健康状態、社会・経済構造の現状と課題について 事前学習：事前に配布された資料に目を通しておき、要点や疑問点をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で提示した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間) 第7回：諸外国の栄養状態の現状と課題について 事前学習：事前に配布された資料に目を通しておき、要点や疑問点をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で提示した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間) 第8回：諸外国の健康・栄養施策について 事前学習：事前に配布された資料に目を通しておき、要点や疑問点をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で提示した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間)
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

(6) 成績評価方法
レポート課題70%、授業への取り組み態度等30%の総合評価(100%)
(7) 成績評価基準
国内外の食糧事情、社会・経済状況、健康や栄養状態に関わる現状について説明できる。 食糧・栄養関連の情報についての取集ができ、内容の解釈できる。 国内外の食糧事情、社会・経済状況、健康や栄養上の課題について説明できるとともに、問題解決のための考えを述べることができる。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて資料を配布する。
(11) その他(受講上の注意)
授業回は、全8回になるので3回以上の欠席で単位取得ができなくなる。 また出席数を満たしていても課題レポートが未提出であれば単位取得はできない。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教職論 (Theory of Teacher Education)			担当教員	高野 秀晴	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-C-2281	2 単位	2 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間生活学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力					

(1) 授 業 の 内 容
教員とは、どのような役割を期待され、どのような環境で、どのような仕事をしているのか。本授業は、これらの問いに対して主に法的、歴史的見地から考察する。また、事例研究を通して様々な教師像を検討することにより、受講生各自が適性を判断し、よりよい教職像を展望する機会としたい。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・現代の学校教育や教職の社会的意義を説明できる。 ・今日の教員に求められる役割や資質能力について説明したうえで、自己の教職像を展望することができる。 ・教員の職務内容の全体像や服務上・身分上の義務を説明できる。 ・学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について説明できる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 事前学習：シラバスをよく読み、学修計画を立てる。(2時間) 事後学習：授業内容に関連する情報を検索し、学修計画をさらに固める。(2時間) 第2回：教師はどのような仕事をしているのか 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間) 第3回：学校に関わる様々な職業について 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間) 第4回：チームとしての学校 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間) 第5回：よい教師とはどのような教師なのか(討議) 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間) 第6回：教師像の諸相 ― 聖職者、労働者、専門家 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間) 第7回：どうすればよい教師になれるのか(討議) 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間) 第8回：教員養成制度について 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間) 第9回：教員養成の歴史 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間) 第10回：教員に求められる専門性とは何か 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間)

第11回：教員の身分について 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（2時間） 事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間） 第12回：教員の任用について 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（2時間） 事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間） 第13回：教員の服務について 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（2時間） 事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間） 第14回：教員にとって研修のもつ意味 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（2時間） 事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（2時間） 事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（70%） 平常点（30%） （平常点は、授業への参加状況と、授業時の課題の内容をもとに評価する。）
(7) 成績評価基準
・現代の学校教育や教職の社会的意義を説明できるか。 ・今日の教員に求められる役割や資質能力について説明できるか。 ・教員の職務内容の全体像や服務上・身分上の義務を説明できるか。 ・学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について説明できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト：授業時に適宜資料を配布する。 参考図書：磯田一雄編『日本の教育課題 9 教師と子どもとのかかわり』東京法令出版 1999年
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育心理学 (Educational Psychology)			担当教員	乙部 貴幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-C-2283	2 単位	2 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間生活学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力					

(1) 授 業 の 内 容
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、運動発達、言語発達、認知発達、社会性等の発達について各年齢段階の特徴を理解し、代表的な理論を学び、それらを踏まえた学習を支える具体的な指導に関する基礎的な考え方を理解する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達と学習の過程及び特徴を理解する ・ 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：教育心理学とは：教育心理学とはどのような学問なのかを近接領域も含めて理解することで、この科目を学ぶ意義を理解する。 事後学習：授業内容のまとめ(4時間) 第2回：発達の量的・質的理解：発達における一般的原理、遺伝と環境の作用について理解する。 事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(3時間) 事後学習：授業内容のまとめ(1時間) 第3回：新生児期・乳児期の発達新生児・乳幼児期の発達：発達の意味と、新生児期・乳児期の運動と認知の発達を理解する。 事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(3時間) 事後学習：授業内容のまとめ(1時間) 第4回：幼児期の発達：幼児期の発達のうち、言葉の理解、自分と他者の理解、基本的生活習慣について理解する。 事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(3時間) 事後学習：授業内容のまとめ(1時間) 第5回：児童期の発達：環境の変化と身体の発達、仲間関係の発達、論理的思考の発達について理解する。 事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(3時間) 事後学習：授業内容のまとめ(1時間) 第6回：青年期以降の発達：思春期・青年期の発達の变化、青年期と発達課題を中心に理解する。 事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(3時間) 事後学習：授業内容のまとめ(1時間) 第7回：発達の諸相・知能と創造性：知的障害、知能及び創造性の捉え方、知能テストの内容と種類を理解する。 事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(3時間) 事後学習：授業内容のまとめ(1時間) 第8回：学習の機能と原理：基本的な学習理論と条件づけの原理を理解する。 事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(3時間) 事後学習：授業内容のまとめ(1時間) 第9回：学習・記憶と学習方略：観察学習とモデリング、注意と記憶のメカニズムについて理解する。 事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(3時間) 事後学習：授業内容のまとめ(1時間) 第10回：動機づけと原因帰属：内発的動機づけと外発的動機づけ、自己効力、原因帰属、動機づけの諸理論について理解する。 事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(3時間) 事後学習：授業内容のまとめ(1時間)

第11回：授業の過程：一斉授業形式、発見学習、有意味受容学習、協働学習、個に応じた教育、諸メディアの教育利用について理解する。 事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（1時間） 事後学習：課題（3時間） 第12回：学級集団：学級集団の機能、学級集団の査定、教師のリーダーシップ、教師の適性、教師/生徒関係、評価の歪みについて理解する。 事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（3時間） 事後学習：授業内容のまとめ（1時間） 第13回：学習－教育評価：教育評価の機能と目的、学習指導要領における教育評価、教育評価の分類と技法について理解する。 事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（1時間） 事後学習：課題（3時間） 第14回：教育統計①測定と記述統計：教育・保育における測定・方法、得られたデータの表現手法について理解する。 事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（3時間） 事後学習：授業内容のまとめ（1時間） 第15回：教育統計②推測統計：基本的な統計的仮説検定について理解する。 事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（3時間） 事後学習：授業内容のまとめ（1時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
課題レポート（20% X 2回） 定期試験（60%）
(7) 成績評価基準
・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達と学習の過程及び特徴を理解しているか。 ・ 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付けているか。 ・ 発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解しているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☒ 仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト：ガイドライン学校教育心理学（大野木裕明ほか（編著），ナカニシヤ出版，2016年） 参考図書：中学校教育課程実践講座 総則——平成29年改訂（天笠 茂（編著），ぎょうせい，2017） 教育心理学ハンドブック（日本教育心理学会編，有斐閣，2003年） 小学校学習指導要領解説（平成29年3月公示） 文部科学省 中学校学習指導要領解説（平成29年3月公示） 文部科学省
(11) その他(受講上の注意)
この授業では授業資料の配布、課題の提出、試験などを全て仁大eラーニングで行います。質問・連絡は、授業の前後、メール/teams、またはオフィスアワーに研究室に来て下さい。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育課程論 (Theory of Education Curriculum)			担当教員	高野 秀晴	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-C-2286	2 単位	2 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間生活学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力					

(1) 授 業 の 内 容
学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解し、教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。また、教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことに意義を理解する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：教育課程(カリキュラム)とは何か 事前学習：『学習指導要領解説 総則編』第1章を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに『総則編』第2章を読み教育課程の基準について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第2回：教育課程の編成と学習指導要領 事前学習：『解説 総則編』第3章第1節1・2を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに教育課程の編成について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第3回：アクティブ・ラーニングと資質・能力—コンテンツからコンピテンシー・ベースのカリキュラムへ 事前学習：『解説 総則編』第3章第1節3を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに育成を目指す資質・能力について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第4回：主体的・対話的で深い学びと見方・考え—事例を通して(1)(グループワークと討議) 事前学習：『解説 総則編』第3章第3節1を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：事例をもとにしたグループワークと討議を通して考察した「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第5回：主体的・対話的で深い学びと見方・考え—事例を通して(2)(グループワークと討議) 事前学習：これまで自分が受けてきた授業で印象的であった内容をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：事例をもとにしたグループワークと討議を通して考察した「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第6回：社会に開かれた教育課程と学びの地図—カリキュラム・マネジメントの意義 事前学習：『解説 総則編』第3章第1節4を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに社会に開かれた教育課程とカリキュラム・マネジメントについて、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第7回：教育課程の実施と学習評価及び学校間段階の接続について 事前学習：『解説 総則編』第3章第2節・第3節2を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに教育課程の実施と学習評価及び幼小接続について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第8回：特色ある学校の教育課程(1)—事例①(グループワークと討議) 事前学習：『解説 総則編』第3章第4節を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：連携協力校の事例等をもとにしたグループワークと討議から特色ある教育課程について、リフレクションシートにまとめる。(2時間)

第9回：特色ある学校の教育課程（2）——事例②（グループワークと討議） 事前学習：『解説 総則編』第3章第5節を読み、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：連携協力校の事例等をもとにしたグループワークと討議から特色ある教育課程について、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第10回：総合的な学習の時間と教育課程 事前学習：『新しい時代の教育課程 第5版』第5章第4節を読み、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：講義をもとに総合的な学習の時間と教育課程について、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第11回：総合的な学習の時間とその実際——事例（グループワークと発表） 事前学習：これまでに受けてきた総合的な学習の時間で印象的であった内容をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに総合的な学習の時間の目標と内容について、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第12回：教育課程と特別活動 事前学習：『解説 特別活動編』第1章を読み、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：講義をもとに教育課程と特別活動について、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第13回：特別活動の内容とその実際——事例（グループワークと発表） 事前学習：『解説 特別活動編』第3章を読み、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに特別活動の目標と内容について、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第14回：生徒指導と教育課程 事前学習：『生徒指導提要』第2章を読み、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：講義をもとに生徒指導と教育課程について、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第15回：教育課程のまとめと今後の課題 事前学習：これまでの講義の概要を概観し、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：教育課程について、この講義で学んだことについて、リフレクションシートにまとめる。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 毎回のリフレクション・レポート（4%×15回）、講義内容に関連するレポート（10%×4回）で総合的に評価する。
(7) 成績評価基準 教育課程の意義や編成と実施の仕方、評価と改善について理解できたか。 教育課程の基準としての学習指導要領について理解できたか。 学校の教育計画の全体構造について理解し、各学校の実情に合わせたカリキュラム・マネジメントの意義を理解できたか。 特別活動の目標とその内容を理解できたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

(10) テキスト、参考図書
テキスト： 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』東洋館出版社、2018年 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』東山書房、2020年 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編』東洋館出版社、2019年 田中耕治 他『新しい時代の教育課程 第5版』有斐閣アルマ、2019年 参考書・参考資料等： 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』東洋館出版社、2018年 文部科学省『生徒指導提要』東洋館出版、2023年
(11) その他(受講上の注意)
学習指導要領の改訂やその実施に関するニュース等に関心を持ち、国や福井県の動向を把握すること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育の方法と技術 (ICT活用を含む) (Educational methods and techniques (including using ICT))			担当教員	麓谷 隆弘	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-C-2289	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果 (教育目標)					
学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力					

(1) 授 業 の 内 容
プリント資料やウェブ上の資料を参考に教育方法の理論について解説する。関連する事項について各自の考えをもとに、他の受講者と授業内やオンライン上での対話・議論を行う。オンラインフォーラムにおいては、授業テーマに関する自身の考えを述べながら、他者との議論を深める必要がある。また実際に情報機器を活用して教材を作成し、それが適切なものであるかを相互評価する。学習指導案を作成し、それにもとづく模擬授業を行った後、評価を行う。教材制作・模擬授業準備においては、市販のソフトウェア関連の書籍やウェブ上の資料を参考に、授業時間外にも作業を行う必要がある。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
教育方法に関する基礎的な理論や授業を構成する要件 (カリキュラム・児童・教員・教材等) を理解し、設計・実施・評価といった実践に向けての指導技術を身につける。 また、授業に際して情報機器をどのように活用すると効果的か、子どもの情報活用能力の育成にどのような教材を作成し活用すると良いかを考え、それらに関する基礎的な能力を身につける。
(3) アクティブラーニング
□課題解決型学習 (PBL) □討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク ■実験、実技 ■その他 (オンラインでのディスカッション・相互評価)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：授業の目的・計画・評価方法の説明。学校・教育の現状と課題 事後学習：学習管理システム (LMS) のフォーラム上に自身の意見を記述する。(2時間) 第2回：学習指導要領、指導計画、カリキュラム、指導法、主体的・対話的で深い学び 事前学習：配布資料等の内容を確認する。(1時間) 事後学習：LMSのフォーラムにて他者の意見を読み、コメントする。(オンラインディスカッション) LMSのフォーラム上に自身のアイデアを記述する。(2時間) 第3回：授業を構成する要件 (学級、児童及び生徒・教員、教材・教具・視聴覚メディア) 事前学習：配布資料等の内容を確認する。(1時間) 事後学習：動画教材を作成しLMSのワークショップに提出する。(5時間) 第4回：教育の情報化 (情報教育、教科指導、校務)、情報モラル、教育情報セキュリティ 事前学習：配布資料等の内容を確認する。(1時間) 事後学習：LMSのワークショップに提出された動画教材を評価する。(オンラインでの相互評価) LMSのフォーラム上に自身の意見を記述する。(3時間) 第5回：デジタル教科書・デジタル教材の活用、特別支援におけるICTの活用と留意 事前学習：配布資料等の内容を確認する。(1時間) 事後学習：LMSのフォーラム上に自身の意見を記述する。(3時間) 第6回：Web サービスを利用したアンケートや小テスト問題の作成と教育データの分析・評価 事前学習：配布資料等の内容を確認する。(1時間) 事後学習：Webアンケートを作成しLMSのフォーラムに投稿する。(3時間) 第7回：ストーリー型インタラクティブ教材の設計 (テーマ設定、展開) 事前学習：配布資料等の内容を確認する。(1時間) 事後学習：Webアンケートを回答する。ストーリー型教材のテーマを決め素材データを準備する。(3時間) 第8回：ストーリー型インタラクティブ教材の制作 (画像・写真・音・アニメーションの活用) (実技) 事前学習：配布資料等の内容を確認する。(1時間) 事後学習：Webアンケートを分析する。ストーリー型教材を完成させワークショップに提出する。(4時間) 第9回：社会的変化に対応する学びと資質・能力、プログラミング教育による論理的思考力の育成 事前学習：配布資料等の内容を確認する。(1時間) 事後学習：ストーリー型教材を評価する。ミニプログラムを作成する。(1時間)

第10回：プログラミングによる教材の設計と各教科等での活用 事前学習：配布資料等の内容を確認する。（1時間） 事後学習：教材プログラムを作成する。（3時間） 第11回：プログラミングによる教材の制作と相互評価（実技） 事前学習：配布資料等の内容を確認する。（1時間） 事後学習：教材プログラムを完成させる。（5時間） 第12回：教育メディア・ICTを活用した模擬授業の計画（グループワーク） 事前学習：配布資料等の内容を確認する。（1時間） 事後学習：グループで模擬授業の役割分担と指導案を決める。（1時間） 第13回：教育メディア・ICTを活用した模擬授業の実施（発表・グループワーク） 事前学習：模擬授業の準備を行なう。（2時間） 事後学習：模擬授業の評価を記録する。（2時間） 第14回：教育メディア・ICTを活用した模擬授業の評価と改善提案（発表・グループワーク） 事前学習：模擬授業の準備を行なう。（2時間） 事後学習：模擬授業の評価を記録する。（2時間） 第15回：模擬授業を踏まえた教育の方法と技術のまとめ、教育に関わるテクノロジーの展望・環境整備 事後学習：模擬授業の評価集計・分析を行なう。授業全体の振り返りを行いレポートとしてまとめる。 （6時間） 定期試験は実施しない
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 課せられた課題・成果物を提出していることを重視して評価する。 受講態度（10%）、前半内容に関連する課題と制作物（30%）、後半内容に関する制作物（40%）、模擬授業内容 と相互評価（20%）
(7) 成績評価基準 授業の設計・実施・評価等に関する知識を修得しているか。 教材や教育メディアの選択・構成・活用等に関する力量が身についているか。 模擬授業について周到に準備を行い、的確に実施できているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

(10) テキスト、参考図書
テキスト プリント資料および学習支援システムでのリソースにて提示する。 参考図書 参考図書： (1) 教育の方法・技術と I C T (やさしく学ぶ教職課程 シリーズ) (古賀毅・高橋優 編著 学文社 2022年) (2) 教育方法論【改訂版】(教職課程シリーズ) (谷田貝公昭・成田国英・林邦雄著、一藝社出版 2015年) (3) 教育の方法と技術－第3版(教育学のポイント・シリーズ) (単行本) (柴田義松・山崎準二著 学文社 2019年) 参考資料： 小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省) 中学校学習指導要領(平成29年3月公示 文部科学省) プリント資料および学習支援システムでのリソースを利用する。 オンラインフォーラムにおいて、授業テーマに関する自身の考えを述べ、他者との議論も深める必要がある。 教材制作・模擬授業準備においては、市販のソフトウェア関連の書籍やWWWの資料を参考に、授業時間外にも作業を行う必要がある。
(11) その他(受講上の注意)
欠席した場合には、授業の進捗を確認し次週に備えること。模擬授業に関連して準備・練習を十分行うこと。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育心理学 (Educational Psychology)			担当教員	乙部 貴幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-D-2260	2 単位	2 年後期	講義	必修	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 基幹科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の基礎理論の理解					

(1) 授 業 の 内 容
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、運動発達、言語発達、認知発達、社会性等の発達について各年齢段階の特徴を理解し、代表的な理論を学び、それらを踏まえた学習を支える具体的な指導に関する基礎的な考え方を理解する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達と学習の過程及び特徴を理解する ・ 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：教育心理学とは：教育心理学とはどのような学問なのかを近接領域も含めて理解することで、この科目を学ぶ意義を理解する。 事後学習：授業内容のまとめ(4時間) 第2回：発達の量的・質的理解：発達における一般的原理、遺伝と環境の作用について理解する。 事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(3時間) 事後学習：授業内容のまとめ(1時間) 第3回：新生児期・乳児期の発達新生児・乳幼児期の発達：発達の意味と、新生児期・乳児期の運動と認知の発達を理解する。 事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(3時間) 事後学習：授業内容のまとめ(1時間) 第4回：幼児期の発達：幼児期の発達のうち、言葉の理解、自分と他者の理解、基本的生活習慣について理解する。 事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(3時間) 事後学習：授業内容のまとめ(1時間) 第5回：児童期の発達：環境の変化と身体の発達、仲間関係の発達、論理的思考の発達について理解する。 事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(3時間) 事後学習：授業内容のまとめ(1時間) 第6回：青年期以降の発達：思春期・青年期の発達の变化、青年期と発達課題を中心に理解する。 事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(3時間) 事後学習：授業内容のまとめ(1時間) 第7回：発達の諸相・知能と創造性：知的障害、知能及び創造性の捉え方、知能テストの内容と種類を理解する。 事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(3時間) 事後学習：授業内容のまとめ(1時間) 第8回：学習の機能と原理：基本的な学習理論と条件づけの原理を理解する。 事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(3時間) 事後学習：授業内容のまとめ(1時間) 第9回：学習・記憶と学習方略：観察学習とモデリング、注意と記憶のメカニズムについて理解する。 事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(3時間) 事後学習：授業内容のまとめ(1時間) 第10回：動機づけと原因帰属：内発的動機づけと外発的動機づけ、自己効力、原因帰属、動機づけの諸理論について理解する。 事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(3時間) 事後学習：授業内容のまとめ(1時間)

第11回：授業の過程：一斉授業形式、発見学習、有意味受容学習、協働学習、個に応じた教育、諸メディアの教育利用について理解する。 事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（1時間） 事後学習：課題（3時間） 第12回：学級集団：学級集団の機能、学級集団の査定、教師のリーダーシップ、教師の適性、教師/生徒関係、評価の歪みについて理解する。 事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（3時間） 事後学習：授業内容のまとめ（1時間） 第13回：学習－教育評価：教育評価の機能と目的、学習指導要領における教育評価、教育評価の分類と技法について理解する。 事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（1時間） 事後学習：課題（3時間） 第14回：教育統計①測定と記述統計：教育・保育における測定・方法、得られたデータの表現手法について理解する。 事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（3時間） 事後学習：授業内容のまとめ（1時間） 第15回：教育統計②推測統計：基本的な統計的仮説検定について理解する。 事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（3時間） 事後学習：授業内容のまとめ（1時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
課題レポート（20% X 2回） 定期試験（60%）
(7) 成績評価基準
・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達と学習の過程及び特徴を理解しているか。 ・ 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付けているか。 ・ 発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解しているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☒ 仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト：ガイドライン学校教育心理学（大野木裕明ほか（編著），ナカニシヤ出版，2016年） 参考図書：中学校教育課程実践講座 総則——平成29年改訂（天笠 茂（編著），ぎょうせい，2017） 教育心理学ハンドブック（日本教育心理学会編，有斐閣，2003年） 小学校学習指導要領解説（平成29年3月公示） 文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成29年3月公示） 文部科学省
(11) その他(受講上の注意)
この授業では授業資料の配布、課題の提出、試験などを全て仁大eラーニングで行います。質問・連絡は、授業の前後、メール/teams、またはオフィスアワーに研究室に来て下さい。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育の方法と技術（ICT活用を含む） (Educational methods and techniques (including using ICT))			担当教員	籠谷 隆弘	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-B-2250	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 基幹科目					
求める学習成果（教育目標）					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
プリント資料やWeb上の資料を参考に教育方法の理論について解説する。関連する事項について各自の考えをもとに、他の受講者と授業内やオンライン上での対話・議論を行う。また実際に情報機器を活用して教材を作成し、それが適切なものであるかを相互評価する。学習指導案を作成し、それにもとづく模擬授業を行った後、評価を行う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
教育方法に関する基礎的な理論や授業を構成する要件(カリキュラム・児童・教員・教材等)を理解し、設計・実施・評価といった実践に向けての指導技術を身につける。 また、授業に際して情報機器をどのように活用すると効果的か、子どもの情報活用能力の育成にどのような教材を作成し活用すると良いかを考え、それらに関する基礎的な能力を身につける。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☒ その他(オンラインでのディスカッション・相互評価)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：授業の目的・計画・評価方法の説明。学校・教育の現状と課題 事後学習：学習管理システム(LMS)のフォーラム上に自身の意見を記述する。(2時間) 第2回：学習指導要領、指導計画、カリキュラム、指導法、主体的・対話的で深い学び 事前学習：配布資料等の内容を確認する。(1時間) 事後学習：LMSのフォーラムにて他者の意見を読み、コメントする。(オンラインディスカッション) LMSのフォーラム上に自身のアイデアを記述する。(2時間) 第3回：授業を構成する要件(学級、児童及び生徒・教員、教材・教具・視聴覚メディア) 事前学習：配布資料等の内容を確認する。(1時間) 事後学習：動画教材を作成しLMSのワークショップに提出する。(5時間) 第4回：教育の情報化(情報教育、教科指導、校務)、情報モラル、教育情報セキュリティ 事前学習：配布資料等の内容を確認する。(1時間) 事後学習：LMSのワークショップに提出された動画教材を評価する。(オンラインでの相互評価) LMSのフォーラム上に自身の意見を記述する。(3時間) 第5回：デジタル教科書・デジタル教材の活用、特別支援におけるICTの活用と留意 事前学習：配布資料等の内容を確認する。(1時間) 事後学習：LMSのフォーラム上に自身の意見を記述する。(3時間) 第6回：Web サービスを利用したアンケートや小テスト問題の作成と教育データの分析・評価 事前学習：配布資料等の内容を確認する。(1時間) 事後学習：Webアンケートを作成しLMSのフォーラムに投稿する。(3時間) 第7回：ストーリー型インタラクティブ教材の設計(テーマ設定、展開) 事前学習：配布資料等の内容を確認する。(1時間) 事後学習：Webアンケートを回答する。ストーリー型教材のテーマを決め素材データを準備する。(3時間) 第8回：ストーリー型インタラクティブ教材の制作(画像・写真・音・アニメーションの活用)(実技) 事前学習：配布資料等の内容を確認する。(1時間) 事後学習：Webアンケートを分析する。ストーリー型教材を完成させワークショップに提出する。(4時間) 第9回：社会的変化に対応する学びと資質・能力、プログラミング教育による論理的思考力の育成 事前学習：配布資料等の内容を確認する。(1時間) 事後学習：ストーリー型教材を評価する。ミニプログラムを作成する。(1時間)

第10回：プログラミングによる教材の設計と各教科等での活用 事前学習：配布資料等の内容を確認する。（1時間） 事後学習：教材プログラムを作成する。（3時間） 第11回：プログラミングによる教材の制作と相互評価（実技） 事前学習：配布資料等の内容を確認する。（1時間） 事後学習：教材プログラムを完成させる。（5時間） 第12回：教育メディア・ICTを活用した模擬授業の計画（グループワーク） 事前学習：配布資料等の内容を確認する。（1時間） 事後学習：グループで模擬授業の役割分担と指導案を決める。（1時間） 第13回：教育メディア・ICTを活用した模擬授業の実施（発表・グループワーク） 事前学習：模擬授業の準備を行なう。（2時間） 事後学習：模擬授業の評価を記録する。（2時間） 第14回：教育メディア・ICTを活用した模擬授業の評価と改善提案（発表・グループワーク） 事前学習：模擬授業の準備を行なう。（2時間） 事後学習：模擬授業の評価を記録する。（2時間） 第15回：模擬授業を踏まえた教育の方法と技術のまとめ、教育に関わるテクノロジーの展望・環境整備 事後学習：模擬授業の評価集計・分析を行なう。授業全体の振り返りを行いレポートとしてまとめる。（6時間） 定期試験は実施しない
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 課せられた課題・成果物を提出していることを重視して評価する。 受講態度（10%）、前半内容に関連する課題と制作物（30%）、後半内容に関する制作物（40%）、模擬授業内容と相互評価（20%）
(7) 成績評価基準 授業の設計・実施・評価等に関する知識を修得しているか。 教材や教育メディアの選択・構成・活用等に関する力量が身についているか。 模擬授業について周到に準備を行い、的確に実施できているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 テキスト： プリント資料および学習支援システムでのリソースにて提示する。 参考図書： (1) 教育の方法・技術とICT（やさしく学ぶ教職課程 シリーズ）（古賀毅・高橋優 編著 学文社 2022年） (2) 教育方法論【改訂版】（教職課程シリーズ）（谷田貝公昭・成田国英・林邦雄著、一藝社出版 2015年） (3) 教育の方法と技術－第3版（教育学のポイント・シリーズ）（単行本）（柴田義松・山崎準二著 学文社 2019年） 参考資料： 小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）

(11) その他(受講上の注意)

オンラインフォーラムにおいて、授業テーマに関する自身の考えを述べ、他者との議論も深める必要がある。
教材制作・模擬授業準備においては、市販のソフトウェア関連の書籍やWWWの資料を参考に、授業時間外にも作業を行う必要がある。
欠席した場合には、授業の進捗を確認し次週に備えること。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育課程論 (Theory of Education Curriculum Ⅱ)			担当教員	草桶 勇人	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-B-2251	2 単位	2 年後期	講義	必修	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 基幹科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解し、教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。また、教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことに意義を理解する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：教育課程(カリキュラム)とは何か 事前学習：『学習指導要領解説 総則編』第1章を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに『総則編』第2章を読み教育課程の基準について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第2回：教育課程の編成と学習指導要領 事前学習：『解説 総則編』第3章第1節1・2を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに教育課程の編成について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第3回：アクティブ・ラーニングと資質・能力—コンテンツからコンピテンシー・ベースのカリキュラムへ 事前学習：『解説 総則編』第3章第1節3を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに育成を目指す資質・能力について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第4回：主体的・対話的で深い学びと見方・考え方—事例を通して(1)(グループワークと討議) 事前学習：『解説 総則編』第3章第3節1を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：事例をもとにしたグループワークと討議を通して考察した「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第5回：主体的・対話的で深い学びと見方・考え方—事例を通して(2)(グループワークと討議) 事前学習：これまで自分が受けてきた授業で印象的であった内容をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：事例をもとにしたグループワークと討議を通して考察した「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第6回：社会に開かれた教育課程と学びの地図—カリキュラム・マネジメントの意義 事前学習：『解説 総則編』第3章第1節4を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに社会に開かれた教育課程とカリキュラム・マネジメントについて、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第7回：教育課程の実施と学習評価及び学校間段階の接続について 事前学習：『解説 総則編』第3章第2節・第3節2を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに教育課程の実施と学習評価及び幼小接続について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第8回：特色ある学校の教育課程(1)—事例①(グループワークと討議) 事前学習：『解説 総則編』第3章第4節を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：連携協力校の事例等をもとにしたグループワークと討議から特色ある教育課程について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第9回：特色ある学校の教育課程(2)—事例②(グループワークと討議) 事前学習：『解説 総則編』第3章第5節を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：連携協力校の事例等をもとにしたグループワークと討議から特色ある教育課程について、リフレクションシートにまとめる。(2時間)

第10回：総合的な学習の時間と教育課程 事前学習：『新しい時代の教育課程 第5版』第5章第4節を読み、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：講義をもとに総合的な学習の時間と教育課程について、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第11回：総合的な学習の時間とその実際——事例（グループワークと発表） 事前学習：これまでに受けてきた総合的な学習の時間で印象的であった内容をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに総合的な学習の時間の目標と内容について、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第12回：教育課程と特別活動 事前学習：『解説 特別活動編』第1章を読み、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：講義をもとに教育課程と特別活動について、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第13回：特別活動の内容とその実際——事例（グループワークと発表） 事前学習：『解説 特別活動編』第3章を読み、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに特別活動の目標と内容について、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第14回：生徒指導と教育課程 事前学習：『生徒指導提要』第2章を読み、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：講義をもとに生徒指導と教育課程について、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第15回：教育課程のまとめと今後の課題 事前学習：これまでの講義の概要を概観し、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：教育課程について、この講義で学んだことについて、リフレクションシートにまとめる。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 毎回のリフレクション・レポート（4%×15回）、講義内容に関連するレポート（10%×4回）で総合的に評価する。
(7) 成績評価基準 教育課程の意義や編成と実施の仕方、評価と改善について理解できたか。 教育課程の基準としての学習指導要領について理解できたか。 学校の教育計画の全体構造について理解し、各学校の実情に合わせたカリキュラム・マネジメントの意義を理解できたか。 特別活動の目標とその内容を理解できたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性) 経歴：（元中学校・義務教育学校教諭、高等学校講師） 実務経験と授業内容との関連性：（中学校・義務教育学校教諭、高等学校講師として、授業実践、生活指導実践を行ってきた経験と算数・数学のカリキュラム開発の経験を有する教員が、カリキュラム編成や学習指導要領の理解等、教育課程に関わり、教員が必要とする専門性・技能等について講義する。）

(10) テキスト、参考図書
テキスト： 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』東洋館出版社、2018年 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』東山書房、2020年 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編』東洋館出版社、2019年 田中耕治 他『新しい時代の教育課程 第5版』有斐閣アルマ、2019年 参考書・参考資料等： 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』東洋館出版社、2018年 文部科学省『生徒指導提要』東洋館出版、2023年
(11) その他(受講上の注意)
学習指導要領の改訂やその実施に関するニュース等に関心を持ち、国や福井県の動向を把握すること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

社会福祉 (Social Welfare)			担当教員	青井 夕貴	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-A-2200	2 単位	2 年前期	講義	必修	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 基幹科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の基礎理論の理解					

(1) 授 業 の 内 容
保育士は、国家資格化や保育所保育指針の改定などを経て、子どもを取りまく社会、地域、家庭などを踏まえた子育てニーズを捉え、社会福祉の専門職として応えることが求められている。本授業では、保育士に必要な社会福祉の知識を習得し、保育実践を福祉的な視点で考える作業を重視する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 社会福祉における相談援助について理解する。 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 社会福祉の動向と課題について理解する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション～社会福祉の構造と理念 事前学習：テキストの第1章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間) 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間) 第2回：社会福祉と子ども家庭福祉 事前学習：テキストの第15章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間) 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間) 第3回：社会福祉の歴史的変遷 事前学習：テキストの第2章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間) 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間) 第4回：社会福祉の制度と法体系 事前学習：テキストの第5章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間) 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間) 第5回：社会福祉行財政 事前学習：テキストの第8章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間) 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間) 第6回：社会福祉の実施機関 事前学習：テキストの第9章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間) 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間) 第7回：社会福祉施設 事前学習：テキストの第10章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間) 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間) 第8回：社会福祉の専門職 事前学習：テキストの第11章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間) 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間) 第9回：社会福祉における相談援助 事前学習：テキストの第12章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間) 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間) 第10回：社会保障 事前学習：テキストの第8章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間) 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)

第11回：情報提供、第三者評価 事前学習：テキストの第13章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（2時間） 第12回：利用者の権利擁護と苦情解決 事前学習：テキストの第13章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（2時間） 第13回：社会福祉の現状と課題～貧困、差別、孤立 事前学習：テキストの第14章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（2時間） 第14回：社会福祉の現状と課題～地域共生社会、インクルーシブ社会 事前学習：テキストの第16・17章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（2時間） 第15回：まとめ～社会福祉の動向と展望 事前学習：テキストの第18・19章及びエピローグを読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（60%）、提出課題（40%）
(7) 成績評価基準
現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について説明することができるか。 社会福祉の制度や実施体系等について説明することができるか。 社会福祉における相談援助について説明することができるか。 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて説明することができるか。 社会福祉の動向と課題について説明することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（個別あるいはTeams） 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書
立花直樹・波田埜英治・家高将明・中典子編「社会福祉 第2版」ミネルヴァ書房 2025
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

社会的養護Ⅰ (Social NursingⅠ)			担当教員	青井 夕貴、藤下 樹	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-A-2201	2 単位	2 年前期	講義	選択	
＜科目区分＞ 人間生活学部子ども教育学科専門科目 基幹科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の基礎理論の理解					

(1) 授 業 の 内 容
社会的養護に関する制度や仕組み、社会資源ごとの支援のあり方、ファミリーソーシャルワークの手法等を子どもの人権を擁護する観点から具体的かつ実践的に学ぶ。さらにはこれまでの歴史的変遷を踏まえつつ、今日、一層の変革が求められている児童虐待防止施策や子どもの貧困対策についても理解を深める。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・社会的養護領域における諸制度や社会資源について、その目的や機能を理解できる。 ・子どもの人権擁護の視座から、社会的養護にかかわる専門職(支援者)の役割や責務を説明できる。 ・すべての子どもを社会全体で育む児童福祉施策の大切さを自分の言葉で述べることができる。 ・子どもの貧困問題を解消し児童虐待を防止するために、地域の社会資源を活用する力を養える。 ・社会的養護システムの今日的課題を理解したうえで、近未来をも展望することができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：社会的養護とは何か ―オリエンテーションを含む― (青井) 事前学習：テキスト「本書の使い方」と「イメージをつかむインプットノート」を読み、不明な点を調べておくこと(2時間) 事後学習：本授業に関連する「学びを振り返るアウトプットノート」を読み、「トライしてみよう」の問題も解くこと(2時間) 第2回：基本理念や現状 (青井) 事前学習：本授業に関連するテキスト「イメージをつかむインプットノート」を読み、不明な点を調べておくこと(2時間) 事後学習：本授業に関連する「学びを振り返るアウトプットノート」を読み、「トライしてみよう」の問題も解くこと(2時間) 第3回：社会的養護の歴史 (青井) 事前学習：本授業に関連するテキスト「イメージをつかむインプットノート」を読み、不明な点を調べておくこと(2時間) 事後学習：本授業に関連する「学びを振り返るアウトプットノート」を読み、「トライしてみよう」の問題も解くこと。(2時間) 第4回：子どもの権利擁護 (青井) 事前学習：本授業に関連するテキスト「イメージをつかむインプットノート」を読み、不明な点を調べておくこと(2時間) 事後学習：本授業に関連する「学びを振り返るアウトプットノート」を読み、「トライしてみよう」の問題も解くこと(2時間) 第5回：社会的養護の体系と実践 (青井) 事前学習：本授業に関連するテキスト「イメージをつかむインプットノート」を読み、不明な点を調べておくこと(2時間) 事後学習：本授業に関連する「学びを振り返るアウトプットノート」を読み、「トライしてみよう」の問題も解くこと(2時間) 第6回：乳児院・母子生活支援施設 (青井) 事前学習：本授業に関連するテキスト「イメージをつかむインプットノート」を読み、不明な点を調べておくこと(2時間) 事後学習：本授業に関連する「学びを振り返るアウトプットノート」を読み、「トライしてみよう」の問題も解くこと(2時間)

第7回：児童養護施設（青井） 事前学習：本授業に関連するテキスト「イメージをつかむインプットノート」を読み、不明な点を調べておくこと（2時間） 事後学習：本授業に関連する「学びを振り返るアウトプットノート」を読み、「トライしてみよう」の問題も解くこと（2時間） 第8回：児童心理治療施設・児童自立支援施設（青井） 事前学習：本授業に関連するテキスト「イメージをつかむインプットノート」を読み、不明な点を調べておくこと（2時間） 事後学習：本授業に関連する「学びを振り返るアウトプットノート」を読み、「トライしてみよう」の問題も解くこと（2時間） 第9回：自立援助ホーム・児童家庭支援センター（藤下） 事前学習：本授業に関連するテキスト「イメージをつかむインプットノート」を読み、不明な点を調べておくこと（2時間） 事後学習：本授業に関連する「学びを振り返るアウトプットノート」を読み、「トライしてみよう」の問題も解くこと（2時間） 第10回：家庭養護（藤下） 事前学習：本授業に関連するテキスト「イメージをつかむインプットノート」を読み、不明な点を調べておくこと（2時間） 事後学習：本授業に関連する「学びを振り返るアウトプットノート」を読み、「トライしてみよう」の問題も解くこと（2時間） 第11回：障害系施設（青井） 事前学習：本授業に関連するテキスト「イメージをつかむインプットノート」を読み、不明な点を調べておくこと（2時間） 事後学習：本授業に関連する「学びを振り返るアウトプットノート」を読み、「トライしてみよう」の問題も解くこと（2時間） 第12回：専門職・専門機関と倫理（青井） 事前学習：本授業に関連するテキスト「イメージをつかむインプットノート」を読み、不明な点を調べておくこと。（2時間） 事後学習：本授業に関連する「学びを振り返るアウトプットノート」を読み、「トライしてみよう」の問題も解くこと（2時間） 第13回：社会的養護とソーシャルワーク（青井） 事前学習：本授業に関連するテキスト「イメージをつかむインプットノート」を読み、不明な点を調べておくこと（2時間） 事後学習：本授業に関連する「学びを振り返るアウトプットノート」を読み、「トライしてみよう」の問題も解くこと（2時間） 第14回：施設の運営管理（青井） 事前学習：本授業に関連するテキスト「イメージをつかむインプットノート」を読み、不明な点を調べておくこと（2時間） 事後学習：本授業に関連する「学びを振り返るアウトプットノート」を読み、「トライしてみよう」の問題も解くこと（2時間） 第15回：社会的養護のおもいと人財（青井） 事前学習：本授業に関連するテキスト「イメージをつかむインプットノート」を読み、不明な点を調べておくこと（2時間） 事後学習：本授業に関連する「学びを振り返るアウトプットノート」を読み、「トライしてみよう」の問題も解くこと（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 毎回の提出課題（75%）、レポート（25%）
(7) 成績評価基準 ・社会的養護の歴史や諸制度、社会資源等について正確に理解できているか。 ・子どもの権利擁護を意識しつつ、社会的養護にかかわる支援者の役割等を説明できるか。 ・すべての子どもを社会全体で育むという社会的養護の基本理念を実体験や身近な例を用いつつ解説できるか。 ・児童虐待や子どもの貧困問題等に対し、地域の社会資源を適切に活用する知識を備えているか。 ・社会的養護の現状を踏まえ、地域子ども家庭支援の新たなかたちとしての社会的養育について論考できるか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
「みらい×子どもの福祉ボックス 社会的養護Ⅰ」(喜多一憲・監修 堀場純矢・編集) みらい 2024年
(11) その他(受講上の注意)
本講義によって、児童虐待問題や子どもの貧困問題への関心が喚起されることを期待する。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

社会 (Social Science)			担当教員	西村 美貴穂	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-B-2252	2 単位	2 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
平成29年に告示された新しい学習指導要領の趣旨を読み解きながら、目指す授業づくりについて理解を深める。また、社会科の授業で求められる「問題解決的な学習」や「主体的・対話的で深い学び」について、参加する学生自らが授業の中で体験しながら、社会科の授業づくりについて課題意識の深化を図る。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
社会科の目標・内容を学年ごとに把握しながら、教材の開発、問題解決的な学習展開、問いの工夫など、社会科の授業づくりについての理解を深めることができる。また、他者とのコミュニケーションを活かして、学習指導案を作成したり、自分の学びを振り返ったりすることができる。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：社会科の役割(グループワーク) 事前学習：小学校で学んだ社会科の授業で特に印象に残っていることについてまとめる。(2時間) 事後学習：社会科の特質・役割についてまとめる。(2時間) 第2回：社会科の目標(グループワーク) 事前学習：小学校社会科で目指す目標とは何かについて、これまでの経験を振り返りながら、自分なりの考えをまとめる。(2時間) 事後学習：学習した社会科の目標をもとに、これまでに自分が学んだ社会科授業を振り返って考えたことをまとめる。(2時間) 第3回：社会科の基礎・基本(課題解決型学習・グループワーク) 事前学習：社会科で身に付けさせる基礎・基本について、自分の考えをまとめる。(2時間) 事後学習：社会科の基礎・基本を身に付けさせるための方法について、具体的な授業場面を一つ例に挙げて自分の考えをまとめる。(2時間) 第4回：学習指導要領解説の活用(グループワーク) 事前学習：『小学校学習指導要領解説社会編』P1～P30を熟読し、特に印象に残ったことや疑問点をまとめる。(2時間) 事後学習：授業づくりの際に学習指導要領解説をどのように活用するかについてのポイントをまとめる。(2時間) 第5回：学習指導要領の内容把握と教材化の視点(グループワーク) 事前学習：『小学校学習指導要領解説社会編』第3学年の内容(2)P37～P41と、小学校社会科教科書3年の同じ内容の箇所を関連付けながら熟読しておく。(2時間) 事後学習：学習したことをもとに、第5学年の内容の教材化の視点についてまとめる。(2時間) 第6回：資料づくりの方法(課題解決型学習・グループワーク) 事前学習：小学校社会科教科書4年の中から、自分が良い資料だと考えるものを一つ選び、授業での活用方法をまとめる。(2時間) 事後学習：身近にあるものや様子を撮影した写真を資料として使って、授業でどのように活用するかについてまとめる。(2時間) 第7回：問題解決的な学習展開(グループワーク) 事前学習：『小学校学習指導要領解説社会編』P17～P28を熟読し、授業で問題解決的な学習展開を充実させる必要性についてまとめる。(2時間) 事後学習：問題解決的な学習展開を構想する上でのポイントと注意点についてまとめる。(2時間)

第8回：「問い」を工夫する（グループワーク） 事前学習：小学校社会科教科書5年上に記述されている「問い」（学習問題）を読み、いくつかの問いを自分なりの視点で分類してまとめる。（2時間） 事後学習：目的に応じた問いの工夫の仕方についてまとめる。（2時間）	
第9回：目標に迫るための学習活動（グループワーク） 事前学習：子ども同士の対話的な活動をつくるために大切なことについて、自分の考えをまとめる。（2時間） 事後学習：「調べる」、「話し合う」、「まとめる」学習活動で、目標に迫るためのポイントについてまとめる。（2時間）	
第10回：評価と授業改善（グループワーク） 事前学習：子どもの学習状況を評価する方法について、自分の考えをまとめる。（2時間） 事後学習：学習状況を評価する際のポイントについてまとめる。（2時間）	
第11回：第3学年の内容と授業づくり（課題解決型学習・グループワーク） 事前学習：『小学校学習指導要領解説社会編』P31～P47、小学校社会科教科書3年を活用して、選んだ単元の導入部分の学習指導案（略案）を作成する。（2時間） 事後学習：選んだ単元の導入部分の学習指導案（略案）を作成する。（2時間）	
第12回：第4学年の内容と授業づくり（課題解決型学習・グループワーク） 事前学習：『小学校学習指導要領解説社会編』P48～P69、小学校社会科教科書4年、および副読本を活用して、選んだ単元の導入部分の学習指導案（略案）を作成する。（2時間） 事後学習：選んだ単元の導入部分の学習指導案（略案）を作成する。（2時間）	
第13回：第5学年の内容と授業づくり（課題解決型学習・グループワーク） 事前学習：『小学校学習指導要領解説社会編』P70～P96、小学校社会科教科書5年を活用して、選んだ単元の導入部分の学習指導案（略案）を作成する。（2時間） 事後学習：選んだ単元の導入部分の学習指導案（略案）を作成する。（2時間）	
第14回：第6学年の内容と授業づくり（課題解決型学習・グループワーク） 事前学習：『小学校学習指導要領解説社会編』P97～P134、小学校社会科教科書6年を活用して、選んだ単元の導入部分の学習指導案（略案）を作成する。（2時間） 事後学習：選んだ単元の導入部分の学習指導案（略案）を作成する。（2時間）	
第15回：授業準備のマネジメント（グループワーク） 事前学習：授業でインターネットを活用させる時、見学を取り入れる時に、その準備において注意することについて自分の考えをまとめる。（2時間） 事後学習：授業の準備をする際の留意点についてまとめる。（2時間）	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
学期末レポート（50%）、平常点（50%） （平常点は、授業への参加態度、提出物の内容等を総合して判断します。）	
(7) 成績評価基準	
・社会科の授業づくりの上で必要な事柄をまとめることができるか。 ・グループ協議に積極的に参加しているか。 ・授業で学んだことや考えたことを、事後の振り返りにまとめることができるか。	
(8) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■授業時 □仁大eラーニング □メール □その他（ワークシートの学生の記入を事後まとめ、次回に配布し、共通理解に努める。）	
2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■授業時 □仁大eラーニング □メール □その他（ワークシート等を集めて内容を把握し、コメントを記述する。）	
3) 小レポートに対するフィードバックについて □授業時 □仁大eラーニング □メール □その他	
4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて □定期試験時 □仁大eラーニング □メール □その他	
5) その他 □授業時 □仁大eラーニング □メール □その他	

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』日本文教出版 平成30年2月 令和8年度小学校社会科教科書(東京書籍)3年、4年、5年上・下、6年政治・国際編、歴史編
(11) その他(受講上の注意)
受講者同士の積極的なコミュニケーションによって学びを深めていきましょう。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

算数 (Arithmetic)			担当教員	草桶 勇人	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-B-2202	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
小学校段階では、数学的活動を通して、知識及び技能として習得する具体的な内容は、日常生活に深く関わり、日常生活の場面を数理化して捉える内容が多い。そのため、算数・数学の学習過程のイメージを意識し、その問題解決の過程において、あらかじめ自己の考えをもって主体的に取り組めるようにし、よりよい解法に洗練させていくための意見の交流や議論など対話的な学びを適宜取り入れて、深い学びを実現する方向で講義を展開し、学生自身の数学的に考える資質・能力の育成と、数学的活動の楽しさを実感し、生涯にわたって学び続ける力の育成を目指す。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
子どもたちの数学的に考える資質・能力を育むためには、教師自身が数学的に考える資質・能力を有している必要がある。そのため、初等数学を高い立場（背景となる学問領域）から見直し、小学校算数科の授業を行うために必要な知識や考え方を修得することを目的とする。 1. 日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察し、数量や図形の性質などを見いだし、統合的・発展的に考察する力や数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。 2. 数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度や講義で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☒ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス 算数・数学教育の目的 算数科の目標 算数科の領域 事前学習：テキスト『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編』第2章第1節「算数科の目標」を読み、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：講義をもとに算数科の3つの目標、数学的な見方・考え方、数学的活動について、レポートにまとめる。（2時間） 第2回：数とその表現 事前学習：テキスト『解説 算数編』の整数の表し方に関する部分を読み、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：講義をもとに子どもたちに数を指導するうえで重要なことについて、レポートにまとめる。（2時間） 第3回：整数の加法・減法 事前学習：テキスト『入門算数学』の第2章第2・3節を読み、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：講義をもとに加法と減法のそれぞれの意味について、レポートにまとめる。（2時間） 第4回：整数の乗法・除法 事前学習：テキスト『入門算数学』の第2章第4・5節、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：講義をもとに乗法と除法のそれぞれの意味について、レポートにまとめる。（2時間） 第5回：小数・分数の加法・減法 事前学習：テキスト『解説 算数編』の小数・分数の加法・減法に関する部分を読み、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：講義をもとに小数・分数の加法・減法の計算の仕方について、レポートにまとめる。（2時間） 第6回：小数の乗法・除法 事前学習：テキスト『解説 算数編』の小数の乗法・除法に関する部分を読み、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：講義をもとに小数の乗法・除法の計算の仕方について、レポートにまとめる。（2時間）

第7回：分数の乗法・除法 事前学習：テキスト『解説 算数編』の分数の乗法・除法に関する部分を読み、要点をまとめておくこと。 （2時間） 事後学習：講義をもとに分数の乗法・除法の計算の仕方について、レポートにまとめる。（2時間）
第8回：式の表現と読み、計算の活用、概数 事前学習：テキスト『解説 算数編』の概数と四捨五入、数量の関係を表す式、四則に関して成り立つ性質に関する部分を読み、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：講義をもとに概数や四則計算について、レポートにまとめる。（2時間）
第9回：図形の計量 事前学習：テキスト『入門算数学』の第5章を読み、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：講義をもとに円や多角形の面積の求め方について、レポートにまとめる。（2時間）
第10回：図形概念と操作 図形の性質と数学的推論 事前学習：小学校で学習する基本図形の定義と性質についてまとめておくこと。（2時間） 事後学習：講義をもとに三角形の内角の和や多角形の外角の和について、レポートにまとめる。（2時間）
第11回：測定 変化と関係 事前学習：テキスト『解説 算数編』の第3学年C測定、第4学年C変化と関係を読み、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：講義をもとに小中学校における関数の違いについて、レポートにまとめる。（2時間）
第12回：関数 比例 反比例 事前学習：テキスト『入門算数学』の第6章第3・4節を読み、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：講義をもとに小中学校における比例と反比例のそれぞれの違いについて、レポートにまとめる。（2時間）
第13回：データの活用の基本 事前学習：テキスト『入門算数学』の第6章第6・7節を読み、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：講義をもとに身近にあるデータの活用や分析について、レポートにまとめる。（2時間）
第14回：数学的な考え方 数学的リテラシー 事前学習：テキスト『入門算数学』の第7章第3・4節を読み、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：講義をもとに数学的な考え方について、レポートにまとめる。（2時間）
第15回：授業づくりと評価 まとめ 事前学習：これまで授業を受けてきた算数・数学の授業の中で、印象に残っている内容とその理由をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：講義をもとに問題解決の過程と学習の評価について、レポートにまとめる。（2時間）
第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
毎回のレポート（2％×15回）、講義内容を活用した課題（10％×2回）、講義終了後の最終試験（50％）で総合的に評価する。
(7) 成績評価基準
・日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察し、数量や図形の性質などを見だし、統合的・発展的に考察することができたか。また、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりすることができたか。 ・数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとしたか。また、講義で学んだことを生活や学習に活用しようとしたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■授業時 □仁大eラーニング □メール □その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■授業時 □仁大eラーニング □メール □その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■授業時 □仁大eラーニング □メール □その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて □定期試験時 □仁大eラーニング □メール □その他 5) その他 □授業時 □仁大eラーニング □メール □その他

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性) 経歴：(元中学校・義務教育学校教諭、高等学校講師) 実務経験と授業内容との関連性：(中学校・義務教育学校教諭、高等学校講師として、算数・数学を中心とする授業及び生活指導実践を行ってきた経験を有する教員が、学習指導要領に示されている教科「算数」の学習指導内容について講義する。)
(10) テキスト、参考図書 テキスト： (1) 自作のワークシート (2) 文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編』日本文教出版、2018年 (3) 黒木哲徳『入門算数学〔第3版〕』日本評論社、2022年 参考書・参考資料等： (1) 青山庸『初任者のための算数の深読み 授業で確かな学力を培うために』東京書籍、2015年 (2) 算数科授業研究の会『算数科教育の基礎・基本』明治図書、2023年
(11) その他(受講上の注意) ワークシートの保存用のファイルを準備すること。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

理 科 (Science)			担当教員	嶋田 敬介	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-B-2253	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
小学校理科の主な内容(エネルギー、粒子、生命、地球)を理解し、児童の問題解決能力を育てる授業づくりを学ぶ。特に、学年に応じた「比較→関係づけ→条件制御→推論」の育成を軸に、教材研究、授業準備、安全指導、ICTの活用、学習評価の方法を身につける。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
小学校理科の理念・目標と教育内容を理解し、単元のねらいを設定できる。観察・実験の安全配慮とICT活用を含む授業を設計・実施するための基礎的な知識・技能を身につける。また、自然に親しむ心情や科学的なものの見方・考え方を身につける。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス・理科教育の目的および内容 事前学習：学習指導要領(理科)の概要を読み、理科教育の目的や内容(エネルギー、粒子、生命、地球)を把握し、疑問点・質問事項を整理しておく(2時間)。 事後学習：授業で扱った理科教育の目的・内容を、自分の言葉で要約し、学びの到達目標(個人)を作成する(2時間)。 第2回：理科の見方・考え方 事前学習：理科の見方・考え方と問題解決の過程(見通し→観察・実験→結果→考察→結論)について調べ、要点をまとめておく(2時間)。 事後学習：各内容または学年ごとに、問題解決の過程を促す発問例を作成する(2時間)。 第3回：理科授業におけるICT活用・教材教具の使い方 事前学習：理科授業で有効なICT活用の例(記録、共有、整理、可視化等)を調べ、整理しておく(2時間)。 事後学習：学年・学習場面ごとに、ICT・教材教具の活用方法(目的、手順、留意点)を整理する(2時間)。 第4回：3年生理科のポイント(比較しながら調べる能力)(グループワーク) 事前学習：3年生理科の学習内容(教科書)を読み、要点やねらい、実験内容や取り扱う器具についてまとめておく(2時間)。 事後学習：授業で扱った観察・実験の結果を整理し、ねらいとの関係、安全配慮等の観点からまとめる(2時間)。 第5回：3年生理科・実践例(実験・実技、発表・プレゼンテーション) 事前学習：3年の単元から1つ選び、「比較」を促す観察・実験のポイント(教材、条件、記録)を整理する(2時間)。 事後学習：実験・観察計画と評価の観点を整理してレポートにまとめる(2時間)。 第6回：4年生理科のポイント(働きや時間など関係付けながら調べる能力)(グループワーク) 事前学習：4年生理科の学習内容(教科書)を読み、要点やねらい、実験・観察内容や取り扱う器具についてまとめておく(2時間)。 事後学習：授業で扱った観察・実験の結果を整理し、ねらいとの関係、安全配慮等の観点からまとめる(2時間)。 第7回：4年生理科・実践例①(実験・実技、発表・プレゼンテーション) 事前学習：4年の単元から1つ選び、「関係づけ」を促す観察・実験のポイント(教材、条件、記録)を整理する(2時間)。 事後学習：実験・観察計画と評価の観点を整理してレポートにまとめる(2時間)。

第8回：4年生理科・実践例②（実験・実技、発表・プレゼンテーション） 事前学習：前回とは異なる単元から1つ選び、「関係づけ」を促す観察・実験のポイント（教材、条件、記録）を整理する（2時間）。 事後学習：実験・観察計画と評価の観点を整理してレポートにまとめる（2時間）。 第9回：5年生理科のポイント（条件に目を向けながら調べる能力）（グループワーク） 事前学習：5年生理科の学習内容（教科書）を読み、要点やねらい、実験・観察内容や取り扱い器具についてまとめておく（2時間）。 事後学習：授業で扱った観察・実験の結果を整理し、ねらいとの関係、安全配慮等の観点からまとめる（2時間）。 第10回：5年生理科・実践例①（実験・実技、発表・プレゼンテーション） 事前学習：5年の単元から1つ選び、「条件制御」を促す観察・実験のポイント（教材、条件、記録）を整理する（2時間）。 事後学習：実験・観察計画と評価の観点を整理してレポートにまとめる（2時間）。 第11回：5年生理科・実践例②（実験・実技、発表・プレゼンテーション） 事前学習：前回とは異なる単元から1つ選び、「条件制御」を促す観察・実験のポイント（教材、条件、記録）を整理する（2時間）。 事後学習：実験・観察計画と評価の観点を整理してレポートにまとめる（2時間）。 第12回：6年生理科のポイント（要因や規則性・関係を推論しながら調べる能力）（グループワーク） 事前学習：6年生理科の学習内容（教科書）を読み、要点やねらい、実験・観察内容や取り扱い器具についてまとめておく（2時間）。 事後学習：授業で扱った観察・実験の結果を整理し、ねらいとの関係、安全配慮等の観点からまとめる（2時間）。 第13回：6年生理科・実践例①（実験・実技、発表・プレゼンテーション） 事前学習：6年の単元から1つ選び、「推論」を促す観察・実験のポイント（教材、条件、記録）を整理する（2時間）。 事後学習：実験・観察計画と評価の観点を整理してレポートにまとめる（2時間）。 第14回：6年生理科・実践例②（実験・実技、発表・プレゼンテーション） 事前学習：前回とは異なる単元から1つ選び、「推論」を促す観察・実験のポイント（教材、条件、記録）を整理する（2時間）。 事後学習：実験・観察計画と評価の観点を整理してレポートにまとめる（2時間）。 第15回：指導案の作成と評価（グループワーク、討議） 事前学習：これまでの授業内容を参考に、担当する授業の学年・単元を決め、指導案および評価基準作成の準備をする（2時間）。 事後学習：作成した指導案・評価基準について、改善点をまとめて修正し、今後の課題をまとめる（2時間）。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 課題・レポート（70%）、授業の取り組み（30%）
(7) 成績評価基準 課題・レポートでは、理科の用語や概念を適切に用いて、各学年・単元に応じた指導のねらいを明確化するとともに、授業計画や指導案を順序立てて記述できるかを評価する。授業への取り組みについては、グループワーク、発表等における主体的な参加と協働、ならびに他者の意見を踏まえて内容を改善しようとする姿勢を総合的に評価する。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性) ・ 経歴 (元学芸員) ・ 実務経験と授業内容との関連性 (自然史資料館学芸員として子どもを対象とする講座・自然体験活動等の講師経験を有する教員が、学習指導要領に示されている教科「理科」の学習指導内容について講義する。)
(10) テキスト、参考図書 テキスト ・ 文部科学省著「小学校学習指導要領解説 理科編」東洋館出版社 平成29年 7 月 参考図書 ・ 小学校理科教科書 ・ 教師用指導書
(11) その他(受講上の注意) ・ 授業時またはeラーニングシステムによって資料を配布する。 ・ 教科書および学習指導要領はすぐに参照できる状態で受講することが望ましい。
(12) オ フ ィ ス ア ワ ー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

生活 (Life Studies)			担当教員	嶋田 敬介	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-B-2256	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容	
小学校生活科の位置付けと目標、理科等への接続を踏まえ、その内容と指導計画作成上の配慮事項・学習指導の基本的な考え方を学ぶ。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
生活科の教科目標・学年目標を説明できる。生活科の9つの内容を、活動事例を挙げて説明できる。また、学習指導要領の目標・内容を踏まえ、生活科のねらいを理解した上で、具体的な指導計画を作成できる。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：生活科の内容、位置付け、理科等への接続 事前学習：学習指導要領「総説」「生活科の目標」を精読し、重要語句と疑問点を整理しておく(2時間)。 事後学習：生活科で育てたい力を「比較・継続・問い」の観点で整理し、要点をレポートにまとめる(2時間)。 第2回：生活科の目標、各学年の目標 事前学習：学習指導要領解説(生活編)の「目標(教科目標、学年目標)」を読み、要点を整理しておく(2時間)。 事後学習：学年の目標と各内容とのつながりを確認し、まとめておく(2時間)。 第3回：季節の変化と生活①：昆虫の季節に伴う変化(実習、フィールドワーク) 事前学習：教科書を読み、当該単元を確認し、昆虫の季節に伴う変化(成長、種類、鳴き声など)について調べ、整理しておく(2時間)。 事後学習：生活科としてのねらいを、活動例とともにレポートにまとめる(2時間)。 第4回：季節の変化と生活②：植物のフェノロジー(実習、フィールドワーク) 事前学習：教科書を読み、当該単元を確認し、植物の季節に伴う変化(開花・結実など)について調べ、整理しておく(2時間)。 事後学習：生活科としてのねらいを、活動例とともにレポートにまとめる(2時間)。 第5回：季節の変化と生活③：すみか(環境)の違いと生き物(グループワーク、発表・プレゼンテーション) 事前学習：当該単元の目的や意義(自然への気づきと興味・関心の育成、主体性の確立・自立)について調べ、具体的な学習のポイントを整理しておく(2時間)。 事後学習：単元の骨子(ねらい・活動・評価)を作成し、指導計画作成に必要な要点をまとめておく(2時間)。 第6回：自然や物を使った遊び：教材化・安全設計(実習、フィールドワーク) 事前学習：木の実や葉、土や石等の自然物を使った遊びの事例を調べ、教材化の視点で整理しておく(2時間)。 事後学習：生活科としてのねらいを、活動例とともにレポートにまとめる(2時間)。 第7回：動植物の飼育・栽培①：植物(アサガオ、野菜)(実習、フィールドワーク) 事前学習：教科書を読み、当該単元を確認し、植物の栽培方法や条件(光・水・土など)について調べ、整理しておく(2時間)。 事後学習：生活科としてのねらいを、活動例とともにレポートにまとめる(2時間)。 第8回：動植物の飼育・栽培②：昆虫飼育・観察(実習、フィールドワーク) 事前学習：教科書を読み、当該単元を確認し、昆虫の飼育・観察方法や留意点(安全・倫理・季節性等)について調べ、整理しておく(2時間)。 事後学習：生活科としてのねらいを、活動例とともにレポートにまとめる(2時間)。 第9回：動植物の飼育・栽培③：生き物の成長と命を尊重する心(グループワーク、発表・プレゼンテーション) 事前学習：当該単元の目的や意義(生命への気づきと尊重、生活習慣・技能の習得等)について調べ、学習のポイントを整理しておく(2時間)。 事後学習：単元の骨子(ねらい・活動・評価)を作成し、指導計画作成に必要な要点を整理する(2時間)。	

第10回：学校と生活：校庭探検、安全・ルール（グループワーク） 事前学習：「学校と生活」の内容が教科書のどの単元に示されているかを確認しておく（2時間）。 事後学習：生活科としてのねらいを、自然観察（校庭・花壇・樹木・水場）を含む活動例とともにレポートにまとめる（2時間）。 第11回：家庭と生活：くらしの中の自然（グループワーク） 事前学習：教科書を読み、当該単元を確認し、家庭での自分の役割と「季節・食・飼育栽培」の接続例を整理しておく（2時間）。 事後学習：生活科としてのねらいを、活動例とともにレポートにまとめる（2時間）。 第12回：地域と生活、公共物・公共施設の利用（グループワーク） 事前学習：教科書を読み、当該単元を確認し、地域の学習場所（例：公園・図書館・博物館）について、利用のルールやマナー、関わる人（働く人）も含めて調べ、整理しておく（2時間）。 事後学習：公共施設を活用した活動案（ねらい・活動・安全・マナー等）をレポートにまとめる（2時間）。 第13回：生活や出来事の伝え合い、自分の成長（グループワーク） 事前学習：共有・発表したい内容（例：自然観察、飼育栽培）を整理し、伝えたいポイントと成長が伝わる構成案をまとめておく（2時間）。 事後学習：生活科としてのねらいを、活動例とともにレポートにまとめる（2時間）。 第14回：生活科の現状と課題（グループワーク） 事前学習：生活科に関する現状課題（接続、安全・倫理、地域差、体験活動の確保、評価等）について調べ、整理しておく（2時間）。 事後学習：自分の指導計画・学習指導において想定されるリスクと対応策を整理し、レポートにまとめる（2時間）。 第15回：指導計画と学習指導（まとめ）（討議、発表・プレゼンテーション） 事前学習：テキストの「指導計画と学習指導の基本的な考え方」を読み、要点を箇条書きで整理しておく（2時間）。 事後学習：取り扱う内容（例：季節の変化と生活、動植物の飼育・栽培）を決め、指導計画作成上の配慮事項を踏まえて指導計画案を作成し、レポートとして提出する（2時間）。	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
課題・レポート（50%）、平常点（20%）、指導計案作成（30%）、平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。	
(7) 成績評価基準	
生活科の内容・位置付け、ならびに教科目標・各学年の目標を説明できたか。 生活科の9つの内容について、活動事例を挙げて説明できたか。 生活科の現状と課題を踏まえ、指導計画作成上の配慮事項等を理解し、単元の骨子（ねらい・活動・評価）を適切に作成できたか。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	
(10) テキスト、参考図書	
テキスト： (1) 文部科学省 「小学校学習指導要領解説（生活編）」 東洋館出版社 平成30年2月 (2) 中野真志・田中博之ほか 「わくわく せいかつ上」 啓林館 (3) 中野真志・田中博之ほか 「いきいき せいかつ下」 啓林館	

(11) その他(受講上の注意)
・授業時またはeラーニングシステムによって資料を配布する。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

音楽Ⅰ (MusicⅠ)			担当教員	中野 研也	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-C-2258	2 単位	2 年後期	演習	選択	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の実践に求められる表現技術					

(1) 授 業 の 内 容
音楽理論の基礎と、楽譜を理解する力を身に付ける。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
音楽理論の基礎知識を身に付け、小学校で使用される音楽を理解できるようにする。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：リズムと拍子1 音の長さとの関係 事前学習：学習指導要領(平成29年告示)第6節「音楽」に目を通し、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：学習指導要領(平成29年告示)第6節「音楽」の、第1学年及び第2学年、第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年の、それぞれの違いを復習する。(2時間) 第2回：リズムと拍子2 言葉のもつリズム(ディスカッション) 事前学習：教員採用試験 学習指導要領「A表現」の「音楽づくり」、鑑賞教材に関する「内容の取り扱い」に目を通し、質問項目をまとめておく(第1回授業で資料を配布)。(2時間) 事後学習：小学生の音楽1よりp.24「『たん』と『たた』のちがいにきづいてリズムをうちましよう／ぶん ぶん ぶん」、小学生の音楽4よりp.24「くり返しや変化を使ってリズムアンサンブルをつくりましよう」を復習として実践する。(2時間) 第3回：リズムと拍子3 拍子を感じる(ディスカッション) 事前学習：教員採用試験「音楽記号・用語」に目を通し、質問項目をまとめておく(第2回授業で資料を配布)。(2時間) 事後学習：小学生の音楽2よりp.34「3びょうしをかんじながらリズムをうちましよう／いるかはざんぶらこ」、小学校の音楽4よりp.18「6拍子を感じながら歌いましよう／風のメロディー」を復習として実践する。(2時間) 第4回：五線と鍵盤 事前学習：教員採用試験 1, 2学年の音楽に目を通し、質問項目をまとめておく(第3回授業で資料を配布)。(2時間) 事後学習：小学校の音楽3よりp.68「いろいろな楽器の音の重なりを楽しみながら合奏しましよう／エーデルワイス、小学校の音楽4よりp.50「ゆたかなひびきを味わいながらえんそうしましよう／茶色の小びん」の実践における留意点をまとめておく。(2時間) 第5回：音階と調1 わらべうたや民謡などの音階 事前学習：日本の伝統音楽について各自の方法で調べ、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：「日本の音楽で使われる音階」についてまとめるとともに、「越天楽今様」の歌唱または弾き歌いを復習する。(2時間) 第6回：音階と調2 長音階と変化記号(グループワーク、ディスカッション) 事前学習：小学校の音楽3よりp.68「いろいろな楽器の音の重なりを楽しみながら合奏しましよう／エーデルワイス、小学校の音楽4よりp.50「ゆたかなひびきを味わいながらえんそうしましよう／茶色の小びん」に目を通し、旋律をピアノ等で確かめておく(資料は第5回授業で配布)。(2時間) 事後学習：「エーデルワイス」および「茶色の小びん」の、ピアノ伴奏の譜読みを行う。(2時間) 第7回：音階と調3 長音階と短音階 事前学習：教員採用試験 第3, 4学年の音楽に目を通し、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：長音階と短音階の違いを理論で説明できるよう、まとめておく。(2時間)

第8回：音程1 音程の種類と名前 事前学習：小学校の音楽よりp.8「心をつなぐ歌声／Believe」、p.34「和音の移り変わりを感じ取りながら演奏しましょう／静かにねむれ」に目を通し、ピアノ等で旋律を確かめておく。（2時間） 事後学習：「静かにねむれ」「キリマンジャロ」の実践における留意点をまとめておく。（2時間） 第9回：音程2 変化記号の付いた音程と、音程の転回 事前学習：教員採用試験 第5, 6 学年の音楽に目を通し、質問項目をまとめておく（資料は第8回授業で配布）。（2時間） 事後学習：「パフ」「ファランドール」の実践における留意点をまとめておく。（2時間） 第10回：和音と伴奏1 主要三和音（グループワーク） 事前学習：小学校の音楽3よりp.74「伴奏の変化を感じ取って／にじ」、小学校の音楽4よりp.26「ちいきにつたわる民謡をきいたり歌ったりしましょう／こきりこ」に目を通し、ピアノ等で旋律を確かめておく。（2時間） 事後学習：「にじ」「こきりこ」の歌唱または弾き歌いを復習する。（2時間） 第11回：調性、音程、和音についてのまとめ1 事前学習：教員採用試験 音楽の基礎（1）～（3）に目を通し、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：「赤いやねの家」の歌唱または弾き歌いを復習する。（2時間） 第12回：和音と伴奏② コードネーム（ディスカッション） 事前学習：教員採用試験 音楽の基礎（4）～（6）に目を通し、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：主要三和音と属七の和音に役割について説明できるようまとめておく。（2時間） 第13回：和音と伴奏③ 7の和音 事前学習：教員採用試験「音楽史」に目を通し、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：ロマン主義について説明できるようまとめておく。（2時間） 第14回：応用とまとめ①～拍子・調性・音程 事前学習：小学校の音楽6よりp.16「オーケストラのひびきを味わいながらききましょう／木星」に提示されたメロディーをピアノ等で確かめておく。（2時間） 事後学習：バロック、古典主義、ロマン主義、近現代の時代順と、各時代区分における代表的な作曲家を最低1名ずつ挙げられるよう、資料を見直して復習する。（2時間） 第15回：応用とまとめ②～和声、その他 事前学習：2025小学校前科らくらくマスター（音楽）に目を通し、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：模擬試験課題を復習し、試験対策を行っておく（2時間） 第16回：定期試験	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
定期試験（60％） 平常点（40％）※平常点には、受講態度と宿題の提出状況が含まれる。	
(7) 成績評価基準	
音楽理論の基礎知識が身につく、教育・保育現場で使用される楽譜を理解できるようになったか。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☒その他(Teams) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	
(10) テキスト、参考図書	
各回の授業で配布する。	

(11) その他(受講上の注意)

クラスの全体的な理解度に応じて、シラバスの日程と実際の授業内容の日程とは、多少前後します。
また、できる限り授業時間内での理解に努めること。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

図画工作Ⅰ (Arts and CraftsⅠ)			担当教員	伊東 知之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-C-2210	2 単位	2 年前期	演習	選択	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の実践に求められる表現技術					

(1) 授 業 の 内 容
図画工作、美術の基本的な知識や技術を身につけることを目的とし、実際の制作を通して様々な基本的な造形技法や道具の技術等を主に絵画的な制作から修得する。 また、幼児教育の造形に関わる知識や発達理論等についても学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・学んだ造形技法について説明することができる。 ・学んだ造形技法を用いて工夫して表現することができる。 ・子どもの造形に関する発達について説明することができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：子どもと造形活動について 事前学習：造形活動についてテキスト等を読んでまとめておく。(2時間) 事後学習：授業内容をまとめておく。(2時間) 第2回：絵画演習(1)デッサン(素描)① 鉛筆を使って 事前学習：テキストの内容をまとめておく。(2時間) 事後学習：作品を完成させる。(2時間) 第3回：絵画演習(2)デッサン(素描)② 鉛筆を使って 事前学習：テキストの内容をまとめておく。(2時間) 事後活動：作品を完成させる。(2時間) 第4回：絵画演習(3)ブルーノ・ムナーリの造形遊び 事前学習：テキストの内容をまとめておく。(2時間) 事後学習：作品を完成させる。(2時間) 第5回：デザイン演習(1)構成① 鉛筆の単色 事前学習：テキストの内容をまとめておく。(2時間) 事後学習：作品を完成させる。(2時間) 第6回：デザイン演習(2)構成② 絵の具を使って 事前学習：テキストの内容をまとめておく。(2時間) 事後学習：作品を完成させる。(2時間) 第7回：版画演習(1)フロタージュ 事前学習：テキストの内容をまとめておく。(2時間) 事後学習：作品を完成させる。(2時間) 第8回：版画演習(2)スチレン版画 事前学習：テキストの内容をまとめておく。(2時間) 事後学習：作品を完成させる。(2時間) 第9回：版画演習(3)スタンプで遊ぼう(グループワーク) 事前学習：テキストの内容をまとめておく。(2時間) 事後学習：作品を完成させる。(2時間) 第10回：工作演習(1)飛ばして遊ぼう① 事前学習：テキストの内容をまとめておく。(2時間) 事後学習：作品を完成させる。(2時間) 第11回：工作演習(2)飛ばして遊ぼう② 事前学習：テキストの内容をまとめておく。(2時間) 事後学習：作品を完成させる。(2時間)

第12回：工作演習（3）ポップアップカード（飛び出すカード） 事前学習：テキストの内容をまとめておく。（2時間） 事後学習：作品を完成させる。（2時間） 第13回：工作演習（4）走るおもちゃ 事前学習：テキストの内容をまとめておく。（2時間） 事後学習：作品を完成させる。（2時間） 第14回：工作演習（5）風車 事前学習：テキストの内容をまとめておく。（2時間） 事後学習：作品を完成させる。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：これまでの内容をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：これまでの作品の質を高めて提出できるようにする。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
課題作品（80％）、平常点（20％） （平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
学んだ造形技法の特質を理解し、工夫して表現されているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
伊東知之著『造形表現・図画工作・美術』福村出版 2023年
(11) その他(受講上の注意)
指定された図工用具一式を購入し、毎時間持参すること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

体育Ⅰ (Physical EducationⅠ)			担当教員	出村 友寛	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-C-2211	2 単位	2 年前期	演習	選択	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の実践に求められる表現技術					

(1) 授 業 の 内 容
実技指導を通して児童期の運動遊びの内容と指導方法を学習する。 児童の運動に関する理論的裏付けとなる専門的知識を学習する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
運動遊びを中心とした体育の基礎技能を習得する。 児童が興味を示し、自ら運動遊びに取り組めるような環境構成についての知識を習得する。 教材・教具についての理解を深め、その扱い方について習熟して児童の活動に即した援助力を習得する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：児童の運動遊びの意義・分類 事前学習：児童の運動遊びの意義や分類について調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。(2時間) 第2回：児童の運動能力の発達 事前学習：児童の運動能力の発達について調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。(2時間) 第3回：集団遊び、鬼遊びの指導案作成(グループワーク) 事前学習：集団遊び、鬼遊びの指導案作成の準備をしておくこと。(2時間) 事後学習：発表に向け、指導案を作成する。(2時間) 第4回：ボール遊び(理論) 事前学習：ボール遊びについて調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。(2時間) 第5回：集団遊び、鬼遊び(実技) 事前学習：集団遊び、鬼遊びについて調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。(2時間) 第6回：マット遊び(実技) 事前学習：マット遊び、鉄棒遊びについて調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。(2時間) 第7回：跳び箱、平均台遊び(実技) 事前学習：平均台、跳び箱遊びについて調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。(2時間) 第8回：フープ遊び、縄遊び(実技) 事前学習：フープ遊び、縄遊びについて調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。(2時間) 第9回：運動能力の測定 事前学習：運動能力の測定について調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。(2時間) 第10回：鉄棒、短縄遊び(実技) 事前学習：発表に向けた準備をする。(2時間) 事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。(2時間) 第11回：伝承遊び(お手玉)(実技) 事前学習：伝承遊びについて調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。(2時間)

第12回：指導案修正 事前学習：集団遊び、鬼遊びの指導案作成の準備をしておくこと。（2時間） 事後学習：発表に向け、以前作成した指導案を修正する。（2時間） 第13回：運動能力の評価 事前学習：運動能力の評価について調べておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。（2時間） 第14回：集団遊び、鬼遊び指導の実際：第1グループの発表（発表） 事前学習：発表に向けた準備をする。（2時間） 事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。（2時間） 第15回：集団遊び、鬼遊び指導の実際：第2グループの発表（発表） 事前学習：発表に向けた準備をする。（2時間） 事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。（2時間） 普段から遊びや運動について関心を持ち調べておく。 授業で実践した運動あそびや講義の内容について復習する。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
実技に関わるレポート（60%）、小レポート（40%）
(7) 成績評価基準
運動遊びを中心とした体育の基礎技能を習得できているか。 児童が興味を示し、自ら運動遊びに取り組めるような環境構成について理解できているか。 教材・教具について理解を深め、その扱い方について習熟し児童の活動に即した援助力が習得できているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
参考図書：文部科学省「小学校学習指導要領 平成 29年告示」
(11) その他(受講上の注意)
体調を整え、運動に適した服装、靴で出席して下さい。遅刻、欠席、および早退は減点の対象とします。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子どもと人間関係 (Child and Personal Relations)			担当教員	鈴木 智子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-B-2203	1 単位	2 年前期	演習	選択	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解					

(1) 授 業 の 内 容
「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」等を基に、「人間関係」を視点とした乳幼児期の発達の特徴、乳児保育の3つの視点、領域「人間関係」のねらい・内容について学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・乳幼児期の「人とかわる力」の発達について説明することができる。 ・乳児保育の3つの視点、保育内容「人間関係」の領域のねらい・内容について理解する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：領域「人間関係」における現代的課題 事前学習：これまでの子どもと関わる経験から人間関係に関する関わりについて学びたいことをまとめておく(2時間) 事後学習：授業内容を踏まえて、幼稚園教育要領・保育所保育指針のねらい・内容の授業内容に該当する部分の要点をまとめておく(2時間) 第2回：乳児保育の3つの視点と領域「人間関係」の基本となる考え方 事前学習：授業テーマと関連する教科書の該当部分を読み、質問項目をまとめておく(2時間) 事後学習：授業内容を踏まえて、幼稚園教育要領・保育所保育指針のねらい・内容の授業内容に該当する部分の要点をまとめておく(2時間) 第3回：「人間関係」の視点から見た乳幼児期の発達と指導①愛着と信頼関係の形成 事前学習：授業テーマと関連する教科書の該当部分を読み、質問項目をまとめておく(2時間) 事後学習：授業を踏まえて、自己のこれまでの子どもとの関わりの反省点・改善点をまとめる(2時間) 第4回：「人間関係」の視点から見た乳幼児期の発達と指導②情緒の安定 事前学習：授業テーマと関連する教科書の該当部分を読み、質問項目をまとめておく(2時間) 事後学習：授業を踏まえて、自己のこれまでの子どもとの関わりの反省点・改善点をまとめる(2時間) 第5回：「人間関係」の視点から見た乳幼児期の発達と指導③自我の発達 事前学習：授業テーマと関連する教科書の該当部分を読み、質問項目をまとめておく(2時間) 事後学習：授業を踏まえて、自己のこれまでの子どもとの関わりの反省点・改善点をまとめる(2時間) 第6回：「人間関係」の視点から見た乳幼児期の発達と指導④仲間関係といざこざ 事前学習：授業テーマと関連する教科書の該当部分を読み、質問項目をまとめておく(2時間) 事後学習：授業を踏まえて、自己のこれまでの子どもとの関わりの反省点・改善点をまとめる(2時間) 第7回：「人間関係」の視点から見た乳幼児期の発達と指導⑤道徳性と規範意識の芽生え？ 事前学習：授業テーマと関連する教科書の該当部分を読み、質問項目をまとめておく(2時間) 事後学習：授業を踏まえて、自己のこれまでの子どもとの関わりの反省点・改善点をまとめる(2時間) 第8回：「人間関係」の視点から見た乳幼児期の発達と指導⑥協同する経験 事前学習：授業テーマと関連する教科書の該当部分を読み、質問項目をまとめておく(2時間) 事後学習：授業を踏まえて、自己のこれまでの子どもとの関わりの反省点・改善点をまとめる(2時間)
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
レポート(30%)、小テスト(50%)、授業への参加態度(20%)

(7) 成績評価基準
・乳幼児期の「人とかわる力」の発達について説明することができるか。 ・保育内容「人間関係」の領域のねらい・内容について理解しているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
<テキスト> 岩立京子 編「事例で学ぶ保育内容 領域人間関係」 萌文書林 平成30年 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレール館 平成30年 <参考図書> 「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>」チャイルド本社 平成29年 「保育所保育指針解説」フレール館 平成30年
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子どもと環境 (Child and Enviroment)			担当教員	嶋田 敬介	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-B-2204	1 単位	2 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
領域「環境」の意義を捉え、演習を通し、その指導法を習得することを目的とする。幼児の心身の成長において、自然環境・社会環境・物的環境・人的環境が果たす役割を理解した上で、自然環境を活かした保育の方法や実践方法・安全対策等について学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
幼稚園教育の基本を踏まえた上で、領域「環境」のねらい・内容と、幼児の発達および学びの過程を理解できる。「環境」に着目した指導計画を立案し、保育室・園内外の環境構成を具体的に構想できる。また、身近な自然を活用した保育活動を、具体的な指導場面を想定して実践できる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス・「環境」領域と自然体験の意義 事前学習：幼稚園教育要領・保育所保育指針等に示された領域「環境」のねらいを読んでおく(2時間)。 事後学習：ねらいの要点と、自然体験を取り入れた保育場面の具体例を対応づけてレポートとしてまとめる(2時間)。 第2回：観察の基礎(実習) 事前学習：観察記録(写真・スケッチ等)を用いた保育活動例を調べ、対象年齢とねらいの観点で整理しておく(2時間)。 事後学習：授業で扱った観察方法を用いて身近な生き物を記録し、気づき・問い・保育者の援助の例を含めてレポートとしてまとめる(2時間)。 第3回：昆虫観察(実習、フィールドワーク) 事前学習：昆虫観察を取り入れた幼児向け活動例を調べ、観察場所と安全配慮の観点で要点を整理しておく(2時間)。 事後学習：フィールドでの観察記録を整理し、想定される幼児の行動や反応、具体的な安全対策等をレポートとしてまとめる(2時間)。 第4回：生き物(昆虫以外の動物・植物)観察(実習、フィールドワーク) 事前学習：生き物観察を取り入れた幼児向け活動例を調べ、観察場所と安全配慮の観点で要点を整理しておく(2時間)。 事後学習：フィールドでの観察記録を整理し、想定される幼児の行動や反応、具体的な安全対策等をレポートとしてまとめる(2時間)。 第5回：昆虫飼育(実習、フィールドワーク) 事前学習：昆虫・小動物の飼育を通した保育活動例を調べ、倫理・安全・衛生と外来種リスク等に関する留意点を整理しておく(2時間)。 事後学習：対象生物を想定した飼育計画(目的、環境、餌、観察項目等)を作成し、保育者の援助例を含めてまとめる(2時間)。 第6回：自然環境の安全対策(リスクアセスメント)(グループワーク) 事前学習：園外活動(散歩・自然体験)の安全管理に関する資料や事例を調べ、想定される危険と予防策を箇条書きで整理しておく(2時間)。 事後学習：想定フィールドを設定し、リスク想定→予防→当日対応→緊急時対応→保護者説明の流れで安全計画を作成し、改善点をまとめる(2時間)。

第7回：生き物マップ・図鑑づくり（実習、フィールドワーク） 事前学習：校庭・公園で行う生き物マップ・図鑑作成の事例を調べ、観察ポイントや導線、危険箇所等の情報を整理しておく（2時間）。 事後学習：作成したマップ・図鑑案を見直し、対象年齢に応じた提示方法と、安全配慮の追記・改善点をレポートとしてまとめる（2時間）。 第8回：指導案作成（昆虫観察・飼育、生き物マップづくりを題材）（討議、発表・プレゼンテーション） 事前学習：これまでの観察記録を基に、対象年齢・ねらい・環境構成・援助・評価・安全配慮を整理し、指導案ドラフトを準備する（2時間）。 事後学習：相互評価で得た指摘を踏まえ、指導案（援助・評価・安全計画・保護者文書を含む）を修正し、改善点をレポートとしてまとめる（2時間）。 書籍やインターネット等、様々な手段を用いて、授業に関する情報を積極的に収集した上で、授業に臨む。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 課題・レポート（70%）、授業の取り組み（30%）
(7) 成績評価基準 ・課題・レポートでは、幼稚園教育要領・保育所保育指針等および授業内容に基づき、保育内容としての領域「環境」を理解した上で、活動のねらい、環境構成、安全への配慮を踏まえた実践的な指導計画を立案できるかを評価する。 ・授業への取り組みについては、演習等における主体的な参加と協働、ならびに他者の意見を踏まえて内容を改善しようとする姿勢を総合的に評価する。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性) ・経歴 (元学芸員) ・実務経験と授業内容との関連性 (自然史資料館学芸員として子どもを対象とする講座・自然体験活動等の講師経験を有する教員が、幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領に示されている領域「環境」の内容について、保育者の援助方法、保育計画および実践、評価について実践的に講義する。)
(10) テキスト、参考図書 テキスト 田尻 由美子・無藤 隆 編者「保育内容 子どもと環境 -基本と実践事例- 第三版」同文書院、2023年 参考図書 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）
(11) その他(受講上の注意) ・授業時またはeラーニングシステムによって資料を配布する。 ・野外活動では、長袖・長ズボン、帽子、歩きやすい靴を基本とし、必要に応じて飲料・雨具・虫よけ等を各自準備する。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子どもと言葉 (Child and Language)			担当教員	平岡 正実	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-B-2205	1 単位	2 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
幼稚園教育要領、保育所保育指針等に示された領域言葉、言葉の機能と発達過程の理解をふまえ、絵本、ペープサート、紙芝居などの児童文化財についての理解を深めるとともに、それらを保育で活用するための教材研究について理解する。言葉に関する保育から学童期への接続についても理解する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
言葉の機能と発達過程、領域言葉のねらいや内容について理解する。保育の現場で活用される絵本、ペープサート、紙芝居などの児童文化財と子どもの言葉の習得、児童文化財の効果的な活用方法について理解する。言葉における保幼小連携についても理解する。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：新教育要領の特色とその背景 幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」 事前学習：授業前にテキストの第1章を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：テキストの第2章4(言葉の獲得に関する領域「言葉」)についてまとめ第2回：授業で提出すること。(2時間) 第2回：言葉の発達過程①0～2歳児(言葉の前のことば・乳幼児期の言葉)と保育者のかかわり (討議) 事前学習：テキスト第1章2(これからの0～2歳児の保育)を読み、質問事項をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業中のスライド資料を参考にして、乳幼児期の言葉の発達についてノートにまとめ第3回：授業で提出すること。(2時間) 第3回：言葉の発達過程②3～5歳児(話し言葉・伝え合う喜び)と保育者のかかわり (討議) 事前学習：テキスト第5章(自分の考えや思いを伝えることば)と、保育所保育指針解説書の「おおむね4歳」の発達に関する箇所を読み、質問事項をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業中のスライドを参考にして、幼児期における身近な人との関わりを通しての言葉の発達をとらえ、保育者の援助についてノートにまとめ第4回：授業で提出すること。(2時間) 第4回：児童文化財を活用した保育1(絵本、紙芝居) (討議) 事前学習：テキストを読み、自分なりの感想や質問をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業中のスライドを参考にして、幼児期における絵本、紙芝居を通しての言葉の発達を捉え、保育者の援助についてノートにまとめ第5回：授業で提出すること。(2時間) 第5回：児童文化財を活用した保育2(ペープサート)(討議) 事前学習：テキストを読み、自分なりの感想や質問事項をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業のスライド資料を参考にして、幼児期におけるペープサートを通しての言葉の発達を捉え、保育者の援助についてノートにまとめ第6回：授業で提出すること。(2時間) 第6回：児童文化財を活用した保育3(言葉遊び、わらべ歌)(討議) 事前学習：テキストを読み、自分なりの感想や質問事項をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業のスライド資料を参考にして、幼児期における言葉遊び、わらべ歌を通しての言葉の発達を捉え、保育者の援助についてノートにまとめ第6回：授業で提出すること。(2時間) 第7回：言葉を育む保育のための教材研究 (グループワーク) 事前学習：自分に課された児童文化財活用のテーマでの指導案や資料を作成・準備する。事前に配布された他グループの模擬保育指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておく。(2時間) 事後学習：自分に課された児童文化財活用のテーマでの指導案や教具を作成・準備する。他グループの模擬保育指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめて第8回：授業で提出すること。(2時間)

第8回：言葉における保育から学童期への接続（討議） 事前学習：テキスト第8章4（領域「言葉」における評価と小学校との連携）を読み、質問事項をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：小学校1年生の言葉、文字に関する資料を読んで、保幼小連携について自分なりの感想や意見をノートにまとめて提出すること。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
学期末レポート（50％） 授業内の課題レポート・テスト（30％） 授業への取り組み（20％）
(7) 成績評価基準
乳幼児期からの言葉の発達過程や保育者の援助（児童文化財の活用等）について理解し、保育の指導計画案を作成するなど教材研究をすることができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 2018年 高濱裕子編著 『事例で学ぶ保育内容＜領域＞言葉』 萌文書林 20018年 厚生労働省 『保育所保育指針』2017年 内閣府 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』2017年 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 参考図書 コンパス 保育内容言葉（内藤知美・新井美保子編著 建帛社 平成29年） 保育内容領域言葉（秋田喜代美他編（株）みらい 平成22年）
(11) その他(受講上の注意)
事例研究、指導案作成については、討議、グループワークで行います。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

国語科教育法 (Teaching Method s of Japanese Language)			担当教員	平岡 正実	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-B-2351	2 単位	2 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
学習指導要領に示された小学校国語科の目標や内容を理解する。また、基礎的な学習理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
小学校国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された国語科の内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を身につける。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：新学習指導要領における国語科の目標・内容・構造の特色とその背景 事前学習：テキスト「小学校学習指導要領解説 国語編」の第1章を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。(2時間) 事後学習：「初等国語教育の基本的視点」について、テキスト「初等国語科教育」等を見直しノートにまとめ第2回授業で提出すること。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。(2時間) 第2回：発問 話し合い活動 (課題解決型学習・発表) 事前学習：よい発問とはどのような発問か、よい話し合い活動とはどのような話し合いかについて調べておくこと。(2時間) 事後学習：図書館や書店、インターネット等で、国語教育に関してどのような書籍や雑誌があるかを探り、見つけた本の内容や読んでみたい本についてノートにまとめること。(2時間) 第3回：今日的課題「言葉による見方・考え方」、指導技術「ICTの活用」、板書の仕方 (討議・実技) 事前学習：テキストの第2章を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。(2時間) 事後学習：「メディアリテラシー・ICTの活用」について、テキスト等を見直しノートにまとめ第4回授業で提出すること。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。(2時間) 第4回：国語科学習指導案の書き方、評価の仕方 (実技・グループワーク) 事前学習：テキストの第4章(1・2)を読み、質問事項をノートにまとめておくこと(2時間) 事後学習：「学習指導案が持つ意義と指導案作成の実践」について、テキスト等を見直しノートにまとめ第5回授業で提出すること。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。(2時間) 第5回：教材研究の方法と学習指導案作成①「読むこと」の教育(物語文教材) (グループワーク・発表) 事前学習：テキストの第3章第1節(2 思考力・判断力・表現力等)を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。(2時間) 事後学習：「文学的文章を読むこと」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめ第6回授業で提出すること。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。(2時間) 第6回：教材研究の方法と学習指導案作成②「読むこと」の教育(説明文教材) (グループワーク・発表) 事前学習：テキストの第3章第2節(2 思考力・判断力・表現力等)を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。(2時間) 事後学習：「説明的文章を読むこと」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめ第7回授業で提出すること。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。(2時間)

- 第7回：教材研究の方法と学習指導案作成③「書くこと（書写を含む）」の教育（グループワーク・発表）
 事前学習：テキストの第3章第3節（2 思考力・判断力・表現力等）を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。（2時間）
 事後学習：「書くこと」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめ第8回授業で提出すること。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。（2時間）
- 第8回：教材研究の方法と学習指導案作成④「話すこと・聞くこと」の教育（グループワーク・発表）
 事前学習：テキストの第4章（3）を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。「話すこと・聞くこと」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめておくこと。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。（2時間）
 事後学習：「話すこと・聞くこと」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめ第9回授業で提出すること。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。（2時間）
- 第9回：教材研究の方法と学習指導案作成⑤「知識及び技能（言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化）」の教育（グループワーク・発表）
 事前学習：テキストの第3章第1・2・3節（1 知識及び技能）を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。（2時間）
 事後学習：「国語の特質に関する事項・伝統的な言語文化」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめ第10回授業で提出すること。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。（2時間）
- 第10回：模擬授業と省察①「読むこと」の教育（物語教材）（実技・グループワーク・討議）
 事前学習：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された単元の指導案や教具を作成・準備する。事前に配布された他者の模擬授業指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間）
 事後学習：模擬授業について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの感想（良かった点・改善点）をまとめ第11回授業で提出すること。自分が模擬授業を実施した場合は、指導案と授業について各グループの評価表を参考にし見直し、「協議から」と「感想」の2項目を付け加えて指導案を書き直すこと。（2時間）
- 第11回：模擬授業と省察②「読むこと」の教育（説明文教材）（実技・グループワーク・討議）
 事前学習：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された単元の指導案や教具を作成・準備すること。事前に配布された他者の模擬授業指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間）
 事後学習：模擬授業について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの感想（良かった点・改善点）をまとめ第12回授業で提出すること。（2時間）
- 第12回：模擬授業と省察③「書くこと（書写を含む）」の教育（実技・グループワーク・討議）
 事前学習：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された単元の指導案や教具を作成・準備すること。事前に配布された他者の模擬授業指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間）
 事後学習：模擬授業について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの感想（良かった点・改善点）をまとめ第13回授業で提出すること。（2時間）
- 第13回：模擬授業と省察④「話すこと・聞くこと」の教育（実技・グループワーク・討議）
 事前学習：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された単元の指導案や教具を作成・準備すること。事前に配布された他者の模擬授業指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間）
 事後学習：模擬授業について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの感想（良かった点・改善点）をまとめ第14回授業で提出すること。（2時間）
- 第14回：模擬授業と省察⑤「知識及び技能」の教育（実技・グループワーク・討議）
 事前学習：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された単元の指導案や教具を作成・準備すること。事前に配布された他者の模擬授業指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間）
 事後学習：模擬授業について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの評価（良かった点・改善点）をまとめ第15回授業で提出すること。（2時間）
- 第15回：指導と評価の一体化（評価を指導に生かすための具体的な手立てと工夫）（課題解決型学習・発表）
 事前学習：「初等国語教育の課題と展望」についてテキスト「初等国語科教育」の第15章を参考にしながら、ノートにまとめること。（2時間）
 事後学習：テキスト②の第15章や図書館で調べたことを参考にしながら、「①この講義を受講して、具体的に学んだこと②学び続ける国語教師になるための努力事項」についてノートにまとめ提出すること。（2時間）

(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
学期末レポート（50%）、授業内の課題レポート（30%）、模擬授業の発表内容（20%）
(7) 成績評価基準
「学習指導要領」等の基本を踏まえながら、児童の国語の力の育成に資する国語科学習指導案を作成し、実践することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
経歴：（元小・中学校教諭） 実務経験と授業内容との関連性：（小学校教諭・中学校国語科教諭として、授業実践、生徒指導実践を行ってきた経験を有する教員が、学習指導要領に示されている教科「国語」の学習指導内容およびその指導法について講義する。）
(10) テキスト、参考図書
テキスト 1. 『小学校学習指導要領（平成29年告示）』 文部科学省、東洋館出版社、平成29年 3 月 2. 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』 文部科学省、東洋館出版社、平成29年 7 月 3. 『文部科学省検定済教科書 小学校国語科用 1～6 年』 光村図書 令和 6 年 2 月 参考書・参考資料等 小学校国語科教育法（牛頭哲宏・森篤嗣著 ココ出版 平成24年） 小学校教育課程実践講座「国語」（樺山敏郎編 ぎょうせい 平成29年） 文学教材を深く読むための国語授業デザイン（三好修一郎編 明治図書 平成29年）
(11) その他(受講上の注意)
準備物については、その都度指示します。 指導案作成と模擬授業は個人でします。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

算数科教育法 (Teaching Method s of Arithmetic)			担当教員	草桶 勇人	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-B-2254	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
学習指導要領に示された算数科の目標や内容を理解する。また、基礎的な学習理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
算数科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された算数科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：算数・数学教育の現状と課題(討議) 事前学習：テキスト『入門算数学』の第7章第1・3・4節を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義と討議を通して確認したわが国の算数・数学教育の現状と課題について、レポートにまとめる。(2時間) 第2回：算数科の目標について——資質・能力の育成と主体的・対話的で深い学び 事前学習：テキスト『入門算数学』の第7章第2節を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義をもとに資質・能力とアクティブ・ラーニングについて、レポートにまとめる。(2時間) 第3回：入門期の算数と子供の認知発達(討議と実技) 事前学習：テキスト『入門算数学』の第1章を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：討議と実技を通して確認した入門期の算数について、レポートにまとめる。(2時間) 第4回：子供たちのつまずき(1)(討議と実技) 事前学習：テキスト『入門算数学』の第3章第1・2節及び第8節を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：討議と実技を通して確認した小数・分数の意味とつまずきについて、レポートにまとめる。(2時間) 第5回：子供たちのつまずき(2)(討議と実技) 事前学習：テキスト『入門算数学』の第3章第8節を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：討議と実技を通して確認した小数・分数の意味とつまずきについて、レポートにまとめる。(2時間) 第6回：図形 ICTの利用と平面図形の性質(面積や角の大きさ含む)(実技) 事前学習：デジタル教科書の活用実践事例を調べ、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：デジタル教科書等の利用を通して考えたその利点と課題について、レポートにまとめる。(2時間) 第7回：変化と関係(1)速さなどの内包量と比例(実験) 事前学習：テキスト『入門算数学』の第6章第3節第4節を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：単位当たり量の実験を通して考えた内包量(混み具合等)について、レポートにまとめる。(2時間) 第8回：変化と関係(2)及びデータの活用 割合とデータの分類整理・棒グラフの活用(実技) 事前学習：テキスト『入門算数学』の第6章第5節第6節を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：グラフ作成等の実技をもとにデータの活用の意義等について、レポートにまとめる。(2時間) 第9回：模擬授業の実施(1)と学習評価(討議と実技) 事前学習：数と計算領域における指導案を各自で作成する。(2時間) 事後学習：模擬授業に関する留意点(学習評価を含む)を整理し、レポートにまとめる。(2時間)

第10回：模擬授業の実施（2）と学習指導の創意・工夫（板書やノート指導など）（実技と発表） 事前学習：数と計算領域における指導案を各自で作成する。（2時間） 事後学習：模擬授業に関してその創意・工夫を中心とした省察の発表を整理し、レポートにまとめる。（2時間） 第11回：模擬授業の実施（3）と学習評価（討議と実技） 事前学習：図形に関する指導案を各自で作成する。（2時間） 事後学習：模擬授業に関する留意点（学習評価を含む）を整理し、レポートにまとめる。（2時間） 第12回：模擬授業の実施（4）と学習指導の創意・工夫（板書やノート指導など）（実技と発表） 事前学習：図形に関する指導案を各自で作成する。（2時間） 事後学習：模擬授業に関してその創意・工夫を中心とした省察の発表を整理し、レポートにまとめる。（2時間） 第13回：模擬授業の実施（5）と学習指導の創意・工夫（板書やノート指導など）（実技と発表） 事前学習：変化と関係または割合等に関するオープンな課題を含んだ指導案を各自で作成する。（2時間） 事後学習：模擬授業に関する省察（主にオープンな課題）の発表を、レポートにまとめる。（2時間） 第14回：模擬授業の実施（6）とオープンな課題（実技） 事前学習：変化と関係または割合等に関するオープンな課題を含んだ指導案を各自で作成する。（2時間） 事後学習：模擬授業に関する省察（主にオープンな課題）の発表を、レポートにまとめる。（2時間） 第15回：模擬授業の実施（7）とオープンな課題（実技） 事前学習：データの活用等に関するオープンな課題を含んだ指導案を各自で作成する。（2時間） 事後学習：模擬授業に関する省察（主にオープンな課題）の発表を、レポートにまとめる。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 毎回のレポート（3%×15回）、模擬授業の指導案（15%）、模擬授業の実施状況（10%）、模擬授業のリフレクションレポート（15%）、講義終了後の最終レポート（15%）で総合的に評価する。
(7) 成績評価基準 ・算数科における教育目標、育成すべき資質・能力を理解できたか。 ・学習指導要領に示された各領域の内容を背景となる学問領域と関連させて理解できたか。 ・様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性) 経歴：（元中学校・義務教育学校教諭、高等学校講師） 実務経験と授業内容との関連性：（中学校・義務教育学校教諭、高等学校講師として、算数・数学を中心とする授業実践と生活指導実践を行ってきた経験を有する教員が、学習指導要領に示されている教科「算数科」の学習指導内容およびその指導法について講義する。）
(10) テキスト、参考図書 テキスト： (1) 黒木哲徳『入門算数学〔第3版〕』日本評論社、2022年 (2) 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編』日本文教出版、2018年 参考書・参考資料等： (1) 小寺隆幸編著『主体的・対話的に深く学ぶ算数・数学教育 コンテンツとコンピテンシーを見すえて』ミネルヴァ書房、2018年

(11) その他(受講上の注意)

小学校学習指導要領（平成29年 3 月）の総則と第 2 章第 3 節「算数」及び同解説の「算数」は、講義に関連する項目の事前・事後に必ず読むこと。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

理科教育法 (Teaching Method s of Science)			担当教員	嶋田 敬介	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-B-2255	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容	
小学校理科における教育目標、内容、指導法、評価について、学習指導要領を基盤として体系的に理解するとともに、学年段階に応じた授業づくりの実践力を養うことを目的とする。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
小学校学習指導要領理科編に基づいて、理科授業の目標、内容、指導の基本を理解し、学年・単元に応じた学習指導案の作成と教材研究ができる。また、模擬授業を通して、自らの授業を振り返り、改善点を見いだすことができる。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：ガイダンス・学習指導要領の特色 事前学習：学習指導要領(理科)の概要を読み、理科教育の目標と単元内容、指導のあり方を整理しておく(2時間)。 事後学習：授業内容を振り返り、疑問点を整理する(2時間)	
第2回：学習指導案の作成と授業設計・評価 事前学習：学習指導案の構成要素について調べ、理科教育における目標設定、学習活動、評価方法をまとめる(2時間)。 事後学習：授業で扱った学習指導案の作成や評価方法を復習する(2時間)。	
第3回：指導技術と安全管理 事前学習：理科授業におけるICTの活用例、理科室や実験における安全管理について調べ、整理しておく(2時間)。 事後学習：ICT活用の利点と留意点、安全指導上のポイントを整理してレポートにまとめる(2時間)。	
第4回：3年生理科の内容理解と授業づくり(グループワーク、実習) 事前学習：教科書や学習指導要領を読み、3年生理科の単元内容を確認する(2時間)。 事後学習：授業構成のポイントやねらい、実験内容を整理する(2時間)。	
第5回：模擬授業・3年生理科(実習、実験、発表・プレゼンテーション) 事前学習：3年の単元(生命・地球・物質・エネルギー)から1つ選び、模擬授業の指導案を作成する(2時間)。 事後学習：模擬授業を振り返り、課題を整理する(2時間)。	
第6回：4年生理科の内容理解と授業づくり(グループワーク、実習) 事前学習：教科書や学習指導要領を読み、4年生理科の単元内容を確認する(2時間)。 事後学習：授業構成のポイントやねらい、実験内容を整理する(2時間)。	
第7回：模擬授業・4年生理科①(実習、実験、発表・プレゼンテーション) 事前学習：4年の単元(生命・地球)から1つ選び、模擬授業の指導案を作成する(2時間)。 事後学習：模擬授業を振り返り、課題を整理する(2時間)。	
第8回：模擬授業・4年生理科②(実習、実験、発表・プレゼンテーション) 事前学習：4年の単元(物質・エネルギー)から1つ選び、模擬授業の指導案を作成する(2時間)。 事後学習：模擬授業を振り返り、課題を整理する(2時間)。	
第9回：5年生理科の内容理解と授業づくり(グループワーク、実習) 事前学習：教科書や学習指導要領を読み、5年生理科の単元内容を確認する(2時間)。 事後学習：授業構成のポイントやねらい、実験内容を整理する(2時間)。	
第10回：模擬授業・5年生理科①(実習、実験、発表・プレゼンテーション) 事前学習：5年の単元(生命・地球)から1つ選び、模擬授業の指導案を作成する(2時間)。 事後学習：模擬授業を振り返り、課題を整理する(2時間)。	

第11回：模擬授業・5年生理科②(実習、実験、発表・プレゼンテーション) 事前学習：5年の単元(物質・エネルギー)から1つ選び、模擬授業の指導案を作成する(2時間)。 事後学習：模擬授業を振り返り、課題を整理する(2時間)。 第12回：6年生理科の内容理解と授業づくり(グループワーク、実習) 事前学習：教科書や学習指導要領を読み、6年生理科の単元内容を確認する(2時間)。 事後学習：授業構成のポイントやねらい、実験内容を整理する(2時間)。 第13回：模擬授業・6年生理科①(実習、実験、発表・プレゼンテーション) 事前学習：6年の単元(生命・地球)から1つ選び、模擬授業の指導案を作成する(2時間)。 事後学習：模擬授業を振り返り、課題を整理する(2時間)。 第14回：模擬授業・5年生理科②(実習、実験、発表・プレゼンテーション) 事前学習：6年の単元(物質・エネルギー)から1つ選び、模擬授業の指導案を作成する(2時間)。 事後学習：模擬授業を振り返り、課題を整理する(2時間)。 第15回：まとめと現代における理科教育と課題(討議、発表・プレゼンテーション) 事前学習：環境教育や自然災害など現代的課題について調べ、理科との関わりについて調べる(2時間)。 事後学習：全授業を振り返り、学習成果をまとめる(2時間)。 小学校理科の教科書、小学校理科学習指導要領をよく読み、理解する。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 課題・レポート(70%)、授業の取り組み(30%)
(7) 成績評価基準 課題・レポートでは、学習指導要領、教科書および授業内容に基づき、理科の用語や概念を適切に用いながら、学年や単元に応じた指導のねらいや学習活動について論理的に記述できているかを評価する。授業への取り組みについては、教材研究や学習指導案の内容、模擬授業の実践および振り返りを通して、授業の構成や指導方法について主体的に考え、改善しようとしているかを評価する。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性) ・経歴 (元学芸員) ・実務経験と授業内容との関連性 (自然史資料館学芸員として子どもを対象とする講座・自然体験活動等の講師経験を有する教員が、学習指導要領に示されている教科「理科」の学習指導内容およびその指導法について講義する。)
(10) テキスト、参考図書 テキスト ・文部科学省著「小学校学習指導要領解説 理科編」東洋館出版社 平成29年7月 参考図書 ・小学校理科教科書 ・教師用指導書
(11) その他(受講上の注意) ・授業時またはeラーニングシステムによって資料を配布する。 ・教科書および学習指導要領はすぐに参照できる状態で受講することが望ましい。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

音楽表現Ⅰ (Music ExpressionⅠ)			担当教員	飯田 由美、太田 佳代、福田安希子、 野村加奈子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-C-2212	1 単位	2 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の実践に求められる表現技術					

(1) 授 業 の 内 容	
保育園・幼稚園・小学校の現場で用いられる歌唱教材を使って、「歌唱表現の在り方」と「ピアノ伴奏法」の両方を総合的に融合した弾き語りの演習を通して、音楽表現の研究を進める。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
歌唱教材の中の言葉や歌の内容の適切な分析と把握をして表現することができる。また、ピアノ伴奏において効果的な音色と和声感を身に付けて表現することができる。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：保育園・幼稚園/生活・季節のうた (実技) 事前学習：指定された歌の中から2～3曲を選択して、ピアノ伴奏の譜読みをし、弾けるようにしておくこと。(0.5時間) 事後学習：ピアノ伴奏の音やリズムを正確なものにすること。(0.5時間)	
第2回：保育園・幼稚園/生活・季節のうた (実技) 事前学習：指定された歌の中から、更に数曲を選択して弾けるようにしておくこと。(0.5時間) 事後学習：ピアノ伴奏の強弱等の曲想も考慮して弾けるようにすること。(0.5時間)	
第3回：保育園・幼稚園/生活・季節のうた (実技) 事前学習：第1回、第2回の授業で習得した曲に歌詞を付けて、ピアノ伴奏をしながら歌えるようにしておくこと。(0.5時間) 事後学習：歌詞の意味を理解して、音程とリズムを正しくとり、歌えるようにすること。(0.5時間)	
第4回：保育園・幼稚園/生活・季節のうた (実技) 事前学習：歌唱とピアノ伴奏の曲想を考慮して練習しておくこと。(0.5時間) 事後学習：次回授業時の発表演奏に向けて曲を仕上げること。(0.5時間)	
第5回：公開演奏 [第1回～第4回までの曲を対象とした“弾き語り”] (発表) 事前学習：これまでの授業内容を復習して、豊かな歌唱表現・伴奏表現ができるようにしておくこと。(0.5時間) 事後学習：公開発表時の歌唱・ピアノのミスを修正し、再確認すること。(0.5時間)	
第6回：保育園・幼稚園/動物のうた (実技) 事前学習：指定された歌の中から2～3曲を選択して、ピアノ伴奏の譜読みをし、弾けるようにしておくこと。(0.5時間) 事後学習：ピアノ伴奏の音やリズムを正確なものにすること。(0.5時間)	
第7回：保育園・幼稚園/動物のうた (実技) 事前学習：指定された歌の中から、更に数曲を選択して弾けるようにしておくこと。(0.5時間) 事後学習：ピアノ伴奏の強弱等の曲想も考慮して弾けるようにすること。(0.5時間)	
第8回：保育園・幼稚園/動物のうた (実技) 事前学習：第6回、第7回の授業で習得した曲に歌詞を付けて、ピアノ伴奏をしながら歌えるようにしておくこと。(0.5時間) 事後学習：歌詞の意味を理解して、音程とリズムを正しくとり、歌えるようにすること。(0.5時間)	
第9回：保育園・幼稚園/動物のうた (実技) 事前学習：歌唱とピアノ伴奏の曲想を考慮して練習しておくこと。(0.5時間) 事後学習：次回授業時の発表演奏に向けて曲を仕上げること。(0.5時間)	

第10回：公開演奏〔第6回～第9回までの曲を対象とした“弾き語り”〕（発表） 事前学習：これまでの授業内容を復習して、豊かな歌唱表現・伴奏表現ができるようにしておくこと。（0.5時間） 事後学習：公開発表時の歌唱・ピアノのミスを修正し、再確認すること。（0.5時間） 第11回：小学校の歌（実技） 事前学習：指定された歌の中から2～3曲を選択して、ピアノ伴奏の譜読みをし、弾けるようにしておくこと。（0.5時間） 事後学習：ピアノ伴奏の音やリズムを正確なものにすること。（0.5時間） 第12回：小学校の歌（実技） 事前学習：指定された歌の中から、更に数曲を選択して弾けるようにしておくこと。（0.5時間） 事後学習：ピアノ伴奏の強弱等の曲想も考慮して弾けるようにすること。（0.5時間） 第13回：小学校の歌（実技） 事前学習：第11回、第12回の授業で習得した曲に歌詞を付けて、ピアノ伴奏をしながら歌えるようにしておくこと。（0.5時間） 事後学習：歌詞の意味を理解して、音程とリズムを正しくとり、歌えるようにすること。（0.5時間） 第14回：小学校の歌（実技） 事前学習：歌唱とピアノ伴奏の曲想を考慮して練習しておくこと。（0.5時間） 事後学習：次回授業時の発表演奏に向けて曲を仕上げること。（0.5時間） 第15回：公開演奏〔第11回～第14回までの曲を対象とした“弾き語り”〕（発表） 事前学習：これまでの授業内容を復習して、豊かな歌唱表現・伴奏表現ができるようにしておくこと。（0.5時間） 事後学習：公開発表時の歌唱・ピアノのミスを修正し、再確認すること。（0.5時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 実技試験（80%）：3回行う公開演奏を試験とする。平常点（20%）平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。
(7) 成績評価基準 正しい音程とリズムに基づき、豊かな歌唱表現、伴奏表現ができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 鈴木恵津子（著）「ポケットいっぱいのおうた」実践子どものうた 簡単に弾ける144選（教育芸術社） 2011年 ※上記テキストは、一部の曲を除いて簡易伴奏譜なので、能力によっては、その都度、本格伴奏譜も使用する。
(11) その他(受講上の注意) テキスト等、譜面なしでは受講できない。音楽力は日々の修練の成果として身に付くことから、事前・事後学習の他に継続的な学習が望ましい。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

音楽表現Ⅱ (Music ExpressionⅡ)			担当教員	飯田 由美、太田 佳代、福田安希子、 野村加奈子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-C-2259	1 単位	2 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の実践に求められる表現技術					

(1) 授 業 の 内 容
「音楽表現Ⅰ」に引き続き、題材としての楽曲を更に多彩に拡げ、より豊かな音楽表現を深める。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
歌唱教材の中の言葉や歌の内容の適切な分析と把握をして表現することができる。 また、ピアノ伴奏において効果的な音色と和声感を身に付けて表現することができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：保育園・幼稚園/生活・季節のうた(実技) 事前学習：指定された歌の中から2～3曲を選択して、ピアノ伴奏の譜読みをし、弾けるようにしておくこと。(0.5時間) 事後学習：ピアノ伴奏の音やリズムを正確なものにすること。(0.5時間) 第2回：保育園・幼稚園/生活・季節のうた(実技) 事前学習：指定された歌の中から、更に数曲を選択して弾けるようにしておくこと。(0.5時間) 事後学習：ピアノ伴奏の強弱等の曲想も考慮して弾けるようにすること。(0.5時間) 第3回：保育園・幼稚園/生活・季節のうた(実技) 事前学習：第1回、第2回の授業で習得した曲に歌詞を付けて、ピアノ伴奏をしながら歌えるようにしておくこと。(0.5時間) 事後学習：歌詞の意味を理解して、音程とリズムを正しくとり、歌えるようにすること。(0.5時間) 第4回：保育園・幼稚園/生活・季節のうた(実技) 事前学習：歌唱とピアノ伴奏の曲想を考慮して練習しておくこと。(0.5時間) 事後学習：次回授業時の発表演奏に向けて曲を仕上げること。(0.5時間) 第5回：公開演奏[第1回～第4回までの曲を対象とした“弾き語り”](発表) 事前学習：これまでの授業内容を復習して、豊かな歌唱表現・伴奏表現ができるようにしておくこと。(0.5時間) 事後学習：公開発表時の歌唱・ピアノのミスを修正し、再確認すること。(0.5時間) 第6回：保育園・幼稚園/楽しいうた(実技) 事前学習：指定された歌の中から2～3曲を選択して、ピアノ伴奏の譜読みをし、弾けるようにしておくこと。(0.5時間) 事後学習：ピアノ伴奏の音やリズムを正確なものにすること。(0.5時間) 第7回：保育園・幼稚園/楽しいうた(実技) 事前学習：指定された歌の中から、更に数曲を選択して弾けるようにしておくこと。(0.5時間) 事後学習：ピアノ伴奏の強弱等の曲想も考慮して弾けるようにすること。(0.5時間) 第8回：保育園・幼稚園/楽しいうた(実技) 事前学習：第6回、第7回の授業で習得した曲に歌詞を付けて、ピアノ伴奏をしながら歌えるようにしておくこと。(0.5時間) 事後学習：歌詞の意味を理解して、音程とリズムを正しくとり、歌えるようにすること。(0.5時間) 第9回：保育園・幼稚園/楽しいうた(実技) 事前学習：歌唱とピアノ伴奏の曲想を考慮して練習しておくこと。(0.5時間) 事後学習：次回授業時の発表演奏に向けて曲を仕上げること。(0.5時間) 第10回：公開演奏[第6回～第9回までの曲を対象とした“弾き語り”](発表) 事前学習：これまでの授業内容を復習して、豊かな歌唱表現・伴奏表現ができるようにしておくこと。(0.5時間) 事後学習：公開発表時の歌唱・ピアノのミスを修正し、再確認すること。(0.5時間)

第11回：文科省唱歌（実技） 事前学習：指定された歌の中から2～3曲を選択して、ピアノ伴奏の譜読みをし、弾けるようにしておくこと。（0.5時間） 事後学習：ピアノ伴奏の音やリズムを正確なものにすること。（0.5時間） 第12回：文科省唱歌（実技） 事前学習：指定された歌の中から、更に数曲を選択して弾けるようにしておくこと。（0.5時間） 事後学習：ピアノ伴奏の強弱等の曲想も考慮して弾けるようにすること。（0.5時間） 第13回：文科省唱歌（実技） 事前学習：第11回、第12回の授業で習得した曲に歌詞を付けて、ピアノ伴奏をしながら歌えるようにしておくこと。（0.5時間） 事後学習：歌詞の意味を理解して、音程とリズムを正しくとり、歌えるようにすること。（0.5時間） 第14回：文科省唱歌（実技） 事前学習：歌唱とピアノ伴奏の曲想を考慮して練習しておくこと。（0.5時間） 事後学習：次回授業時の発表演奏に向けて曲を仕上げること。（0.5時間） 第15回：公開演奏〔第11回～第14回までの曲を対象とした“弾き語り”〕（発表） 事前学習：これまでの授業内容を復習して、豊かな歌唱表現・伴奏表現ができるようにしておくこと。（0.5時間） 事後学習：公開発表時の歌唱・ピアノのミスを修正し、再確認すること。（0.5時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
実技試験（80%）：3回行う公開演奏を試験とする。 平常点（20%）平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。
(7) 成績評価基準
正しい音程とリズムに基づき、豊かな歌唱表現、伴奏表現ができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
鈴木恵津子（著）「ポケットいっぱいのおうた」実践子どものうた 簡単に弾ける144選（教育芸術社）2011年 ※上記テキストは、一部の曲を除いて簡易伴奏譜なので、能力によっては、その都度、本格伴奏譜も使用する。
(11) その他(受講上の注意)
テキスト等、譜面なしでは受講できない。 音楽力は日々の修練の成果として身に付くことから、事前・事後学習の他に継続的な学習が望ましい。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

発達心理学Ⅱ (Developmental PsychologyⅡ)			担当教員	乙部 貴幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-D-2213	2 単位	2 年前期	演習	選択	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解					

(1) 授 業 の 内 容
「発達心理学Ⅰ」の内容をベースに、子どもを理解するための理論・方法を学び、実際の援助につなげていくための考え方を身につける。「発達心理学Ⅰ」では、各機能ごと(発達の「縦糸」)に発達の道筋を辿ったが、この科目では乳幼児期の年齢段階ごと(発達の「横糸」)に、より詳細に発達を理解していく。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：子どもの実態に応じた発達や学びの把握と養護及び教育の一体的展開 事後学習：「発達心理学Ⅰ」の内容の復習(4時間) 第2回：子どもを理解する方法 事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。(4時間) 第3回：統計と検査 事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。(4時間) 第4回：横断的発達理解①：乳児の運動発達 事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。(4時間) 第5回：横断的発達理解②：乳児の認知発達 事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。(4時間) 第6回：横断的発達理解③：3歳未満児の運動発達 事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。(4時間) 第7回：横断的発達理解④：3歳未満児の認知発達 事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。(4時間) 第8回：横断的発達理解⑤：3歳以上児の運動発達 事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。(4時間) 第9回：横断的発達理解⑥：3歳以上児の認知(1)：数量概念 事後学習：ワークシートその1。(4時間) 第10回：横断的発達理解⑦：3歳以上児の認知(2)：「物語る」能力と読み書きの発達 事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。(4時間) 第11回：横断的発達理解⑧：3歳以上児の社会性(1)：遊びの発達と心の理論 事後学習：ワークシートその2。(4時間) 第12回：横断的発達理解⑨：3歳以上児の社会性(2)：自己制御と道徳性 事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。(4時間) 第13回：発達の課題に応じた援助と関わり(グループワーク・討議) 事後学習：グループワーク・討議のまとめ。(4時間) 第14回：特別な配慮を要する子どもとその保護者の理解と援助(グループワーク・討議) 事後学習：グループワーク・討議のまとめ。(4時間) 第15回：発達の連続性と就学への支援(グループワーク・討議) 事後学習：グループワーク・討議のまとめ。(4時間) 第16回：定期試験

(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
ワークシート提出 2 回 (20% * 2 = 40%) グループワークの報告 3 回 (5% * 3 = 15%) 期末試験 (45%)
(7) 成績評価基準
個人差などを含めたより詳細な子どもの発達について、具体的な様相とそれを理解するための方法について説明できる。 子どもの体験や学びの過程を子どもとその保護者の支援に活かすための基本的な考え方が身についている。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■授業時 ■仁大eラーニング ■メール □その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■授業時 ■仁大eラーニング ■メール □その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■授業時 ■仁大eラーニング ■メール □その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □定期試験時 ■仁大eラーニング ■メール □その他 5) その他 □授業時 □仁大eラーニング □メール □その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
<テキスト> 杉村伸一郎・山名裕子(編)『保育の心理学』(中央法規、2019年) <参考> 幼稚園教育要領(平成29年3月31日告示 文部科学省) 保育所保育指針(平成29年3月31日告示 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月31日告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)
(11) その他(受講上の注意)
課題提出、連絡、質問への回答など、様々なことについて仁大eラーニングを活用する。コース上の掲示板や課題提出場所などを確認する癖をつけて欲しい。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子どもの保健 (Children's Health)			担当教員	米田 誠	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-D-2214	2 単位	2 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解					

(1) 授 業 の 内 容
子どもの正常な心身の発育・発達、健康状態とその把握法、虐待を含めた現代社会における子どもの健康に関する現状と課題、子どもの疾病の特徴および予防に関する必要な知識と適切な対応方法について教授する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について説明できる。 子どもの身体的な発育・発達と保健について説明できる。 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について説明できる。 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協議の下での適切な対応について説明できる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☒ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：生命の保持と情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的 事前学習：授業前にテキスト第1講を読み、質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第2回：健康の概念と健康指標 事前学習：授業前にテキスト第2講を読み、質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第3回：現代社会における子どもの健康に関する現状と母子保健施策 事前学習：授業前にテキスト3講を読み、質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第4回：地域における保健活動と子ども虐待防止 事前学習：授業前にテキスト第4講を読み、質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第5回：身体発育および運動機能の発達と保健 事前学習：授業前にテキスト第5講を読み、質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第6回：生理機能の発達と保健 事前学習：授業前にテキスト第6講を読み、質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第7回：健康状態の観察および心身の不調等の早期発見 事前学習：授業前にテキスト第7講を読み、質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第8回：発育・発達の把握と健康診断 事前学習：授業前にテキスト第8講を読み、質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）

第9回：保護者との情報共有（保護者への情報の伝え方 グループワーク ディスカッション） 事前学習：授業前にテキスト第9講を読み、保護者への情報の伝え方についてまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第10回：主な疾患の特徴①（新生児、先天性の病気） 事前学習：授業前にテキスト第10講を読み、質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第11回：主な疾患の特徴②（循環器、呼吸器、血液、消化器の病気） 事前学習：授業前にテキスト第11講を読み、質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第12回：主な疾患の特徴③（アレルギー、免疫、腎、内分泌疾患） 事前学習：授業前にテキスト第12講を読み、質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第13回：主な疾患の特徴④（脳神経疾患、その他） 事前学習：授業前にテキスト第13講を読み、質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第14回：主な疾患の特徴⑤（感染症） 事前学習：授業前にテキスト第14講を読み、質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第15回：子どもの疾病の予防と適切な対応 事前学習：授業前にテキスト第15講を読み、質問事項をまとめておく事。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 定期試験（70%） 平常点（30%） 割合は授業形態、試験形態により変わる事があります。 （平常点は、授業への参加状況・受講態度・小テストの成績等を総合して判断します）
(7) 成績評価基準 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義、子どもの身体的な発育・発達と保健、子どもの心身の健康状態とその把握の方法、子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について説明できる。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

(10) テキスト、参考図書
【テキスト】 公益財団法人児童育成協会 監修／松田博雄、金森三枝 編集 新・基本保育シリーズ 11 子どもの保健 中央法規出版 2019 厚生労働省 保育所保育指針解説 平成30年 3 月 フレーベル館 必要に応じて、講義時に資料を配布する。
(11) その他(受講上の注意)
講義中の私語は厳重に禁止し、減点対象とする。疑問点や不明点があればすぐに質問すること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子どもの健康と安全 (Children's Health and safety)			担当教員	河野 遥	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-D-2262	2 単位	2 年後期	演習	選択	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解					

(1) 授 業 の 内 容
普段から保健的観点を踏まえた保育環境の整備や援助ができるように具体的な演習を行う。体調不良や感染症について理解を深め、個別的な対応を必要とする子どもや場面、集団にも対応できるようにする。保育における安全対策や事故を防止できるように健康教育の演習や保護者、自治体、その他関係機関との連携についても学習する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
保育の場において、子どもの健康と安全について関連するガイドラインを踏まえて理解し、個や集団に対して具体的な対応ができるようにする。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☒ その他 (事例検討)
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：オリエンテーション 事前学習：テキストの第1章①第2章①を熟読し、望ましい保育環境、衛生管理、援助についてノートにまとめる。(2時間) 事後学習：授業やクラスメートの発表を聞いて学んだ内容をノートに補充する。(2時間) 第2回：子どもの健康と観察(グループワーク・実技) 事前学習：テキストの第1章②(p6～8)を熟読し、子どもの発育測定について理解を深めておく(2時間) 事後学習：実技やグループワークを通して学んだ発育の評価のポイントをノートにまとめる。(2時間) 第3回：子どもの保健に関する個と集団の対応(グループワーク・実技) 事前学習：テキストの第1章②(p8～15)を熟読し子どもの健康の観察について理解を深めておく。(2時間) 事後学習：子どもの健康を観察し不適切な養育の兆候が見られた場合の対応について、ノートにまとめる。(2時間) 第4回：事故防止と安全対策(グループワーク)(発表) 事前学習：テキストの第2章(p28～33)を熟読し、子どもの事故の現状や特徴、対応、防止についてノートにまとめる。また、新聞等から子どもの事故についての資料を収集しておく。(2時間) 事後学習：グループワークや発表を通して、事故防止と安全対策について学んだことをノートにまとめる。(2時間) 第5回：災害への備えと危機管理 (グループワーク) 事前学習：テキストの第2章③を熟読し災害への備えと危機管理について理解を深めておく。(2時間) 事後学習：事例を用いてグループワークを行った学習内容をノートにまとめる。(2時間) 第6回：感染症の理解と集団発生時の予防と対応 事前学習：テキストの第4章を熟読し子どもの感染症についてノートにまとめる。(2時間) 事後学習：感染症の種類、原因の分類等、ノートにまとめ理解を深める。(2時間) 第7回：体調不良や障害が発生した時の適切な対応 (グループワーク) 事前学習：テキストの第3章(p50～59)を熟読し、平常時の子どもの健康状態とよくみられる子どもの症状についてまとめる。(2時間) 事後学習：グループワークを通して、体調不良時や症状がみられた時の対応について理解を深め、落ち着いて対応ができるように、ノートにまとめる。(2時間) 第8回：応急処置、救急処置及び救急蘇生法(実技) 事前学習：テキストの第3章(p60～72)を熟読し、救急処置および子どもの心肺蘇生法についてまとめる。また、小児・乳児の一次救命処置(BLS)ができるように要点を整理しシミュレーションをしておく。(2時間) 事後学習：テキストや授業で学んだ内容を整理して、緊急時の対応ができるように学習を深めておく。(2時間)

第9回：保育における保健的対応の基本的な考え方について 事前学習：テキストの第5章①を熟読し、保育における保健的対応について考えをまとめる。（2時間） 事後学習：授業の復習を行い保健的対応の重要性について理解すること。（2時間） 第10回：3歳未満児への対応（実技） 事前学習：3歳未満児の健康、発育、発達を理解できるようにノートにまとめる。（2時間） 事後学習：3歳未満児の保健的対応について振り返り、補充する内容をノートに記載する。（2時間） 第11回：心の健康とスキンシップ、虐待・不適切保育（講義） 事前学習：0歳から就学前に読む 愛着と発達がわかる子育ての教科書2章を読む。2－8の感想を記載する（2時間） 事後学習：授業を通して深まった学習内容を事前学習に追加する。（2時間） 第12回：個別的な配慮を要する子どもへの対応（障がいのある子どもの基本的生活習慣獲得の援助） 事前学習：障がいの種類や障がいのある子どもの特徴についてまとめる。（2時間） 事後学習：授業を通して深まった学習内容を事前学習に追加する。（2時間） 第13回：保育における保健計画及び評価（グループワーク） 事前学習：テキストの第6章①を熟読し、保育における保健計画について理解する。（2時間） 事後学習：授業を通して学んだことをノートにまとめる。（2時間） 第14回：子どもの健康増進と安全確保に必要な保健活動の工夫（グループワーク・発表） 事前学習：子どもたちへの保健指導案を考える。（2時間） 事後学習：クラスメートの発表を聞いて学んだ内容をノートにまとめる。（2時間） 第15回：保健活動における職員間の連携・協働と関係機関との連携 事前学習：テキストの第6章②を熟読し、保健活動における連携について理解を深める。（2時間） 事後学習：各機関についての特徴や役割についてまとめ、理解する。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（50%）、平常点（50%） 平常点は、授業への参加状況・受講態度、ノートの記載内容等を総合して判断します。
(7) 成績評価基準
保育士として身につけておくべき社会的、職業的能力が習得できること。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト：授業で現場で役に立つ！子どもの健康と安全 演習ノート 改訂第3版（小林 美由紀編著 診断と治療社）2024年 0歳から就学前に読む 愛着と発達がわかる子育ての教科書（2023年 祝吉 美紀 一般社団法人日本チャイルドエデュケア協会） 参考図書等：保育所における感染症対策ガイドライン（2018年改訂版 厚生労働省）、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」（平成28年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省）

(11) その他(受講上の注意)

事前・事後学習を必ず行うこと。専用のノートを用意し、まとめた内容について適宜、確認を行うので授業の際には必ず持参すること。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育内容指導法（人間関係） (Teaching method of Early ChildhoodCare and Education(Personal Relations))			担当教員	鈴木 智子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-B-2206	1 単位	2 年前期	演習	選択	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果（教育目標）					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」等を基に、「人間関係」を視点とした乳幼児期の発達の特徴の理解とともに、乳児保育の3つの視点、領域「人間関係」のねらい・内容について学ぶとともに、事例検討、指導案作成、模擬保育を通して、幼児理解や保育者としての関わり方など指導法について学びを深める。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・乳児保育の3つの視点、保育内容「人間関係」の領域のねらい・内容について理解する。 ・乳幼児の「人とのかかわる力」を育むための環境構成、教材や遊具等の活用と工夫、教育・保育の過程の実践について理解し、考察を深めることができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：乳児保育の3つの視点と満1歳児から満3歳未満児のねらいと内容 事前学習：授業テーマと関連する幼稚園教育要領・保育所保育指針の該当部分を読み、質問項目をまとめておく(2時間) 事後学習：授業を踏まえて、自己のこれまでの子どもとの関わり方の反省点・改善点をまとめる(2時間) 第2回：事例検討(1)グループワーク 事前学習：教科書の事例を読み、グループワークのテーマのどれに該当するかをまとめておく(2時間) 事後学習：グループワークで作成したレジュメを見直し、発表原稿を作成しておく(2時間) 第3回：事例検討(2)発表と討論①(満3歳以上児内容(1)～(4)について) 事前学習：発表で使用する事例を読んで理解し、質問項目をまとめておく(2時間) 事後学習：グループの発表を参考に事例の解釈をまとめておく(2時間) 第4回：事例検討(3)発表と討論②(満3歳以上児内容(5)～(8)について) 事前学習：発表で使用する事例を読んで理解し、質問項目をまとめておく(2時間) 事後学習：グループの発表を参考に事例の解釈をまとめておく(2時間) 第5回：事例検討(4)発表と討論③(満3歳以上児内容(9)～(11)について) 事前学習：発表で使用する事例を読んで理解し、質問項目をまとめておく(2時間) 事後学習：グループの発表を参考に事例の解釈をまとめておく(2時間) 第6回：「人間関係」の発達と指導(1)指導案の作成について(情報機器及び教材の活用含む) 事前学習：これまで作成した指導案を見直し、指導案作成の要点をまとめておく(2時間) 事後学習：作成した指導案を元にグループで役割分担や手順・準備物の確認をしておく(2時間) 第7回：「人間関係」の発達と指導(2)模擬保育①(計画・実践・記録を中心に) 事前学習：模擬保育の細案を作成し、準備物を用意する(2時間) 事後学習：模擬保育を参考に配布された指導案を修正する(2時間) 第8回：「人間関係」の発達と指導(3)模擬保育②(省察・評価・改善を中心に) 事前学習：模擬保育の細案を作成し、準備物を用意する(2時間) 事後学習：模擬保育を参考に配布された指導案を修正する(2時間) 第9回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

(6) 成績評価方法
定期試験(70%) 授業中の発表・討論の参加態度(30%)
(7) 成績評価基準
・保育内容「人間関係」の領域のねらい・内容について理解しているか。 ・乳幼児の「人とのかかわる力」を育くむ保育者の援助・環境構成について考察することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
<テキスト> 岩立京子 編「事例で学ぶ保育内容 領域人間関係」 萌文書林 平成30年 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 平成30年 <参考図書> 「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>」チャイルド本社 平成29年 「保育所保育指針解説」フレーベル館 平成30年
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育内容指導法(環境) (Teaching method of Early ChildhoodCare and Education(Enviroment))			担当教員	嶋田 敬介	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-B-2207	1 単位	2 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
幼児を取り巻くさまざまな環境が、その成長に対して果たす役割を理解し、自然環境を活かした保育の方法や実践方法・安全対策等について学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
領域「環境」のねらいと内容を理解し、それを基に指導計画や立案することができる。また、身近な自然を活用した保育活動を、具体的な指導場面を想定して実践できる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス・「環境」領域と自然体験の意義 事前学習：幼稚園教育要領・保育所保育指針等に示された領域「環境」のねらいを読んでおく(2時間)。 事後学習：「ねらい」と自然体験を取り入れた保育活動の具体例をレポートとしてまとめる(2時間)。 第2回：観察の基礎(グループワーク、実習) 事前学習：観察記録(写真・スケッチ等)を用いた保育活動例を調べておく(2時間)。 事後学習：学習した方法で観察した身近な生き物を記録し、保育者の援助の例をレポートとしてまとめる(2時間)。 第3回：生き物(昆虫、昆虫以外の動物、植物)観察(実習・フィールドワーク) 事前学習：生き物観察を取り入れた保育活動例を調べておく(2時間)。 事後学習：各生き物の観察記録、幼児の行動や反応、安全対策をレポートとしてまとめる(2時間)。 第4回：生き物の名前調べ(実習・フィールドワーク) 事前学習：昆虫やその他の動物、植物の名前の調べ方(種の同定)を調べておく(2時間)。 事後学習：各生き物の名前の調べ方と公園や校庭で見られる一般的な種類をレポートとしてまとめる(2時間)。 第5回：昆虫飼育(実習・フィールドワーク) 事前学習：昆虫の飼育を通した保育活動例を調べておく(2時間)。 事後学習：昆虫の飼育方法や計画、保育者の援助例をまとめる(2時間)。 第6回：自然環境の安全対策(リスクアセスメント)(グループワーク) 事前学習：自然体験活動の安全管理に関する資料や事例を調べておく(2時間)。 事後学習：体験活動の種類に応じた安全計画(リスク、予防、緊急時対応等)を作成する(2時間)。 第7回：生き物マップ・図鑑づくり(グループワーク、実習・フィールドワーク) 事前学習：校庭・公園で行う生き物マップ・図鑑作成の事例を調べておく(2時間)。 事後学習：生き物マップ・図鑑案を作成し、改善点をレポートとしてまとめる(2時間)。 第8回：指導案作成(実習、発表・プレゼンテーション) 事前学習：昆虫観察・飼育、生き物マップづくりを題材に、指導案ドラフトを準備する(2時間)。 事後学習：指導案(援助・評価・安全計画・保護者文書を含む)を確認・修正し、改善点をレポートとしてまとめる(2時間)。 書籍やインターネット等、様々な手段を用いて、授業に関する情報を積極的に収集した上で、授業に臨む。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

(6) 成績評価方法
課題・レポート(70%)、授業の取り組み(30%)
(7) 成績評価基準
・課題・レポートでは、保育内容としての領域「環境」を理解した上で、活動のねらい、環境構成、安全への配慮等を踏まえた実践的な指導計画を立案できるかを評価する。 ・授業への取り組みについては、主体的な参加と協働、他者の意見を踏まえて内容を改善しようとする姿勢を総合的に評価する。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
・経歴 (元学芸員) ・実務経験と授業内容との関連性 (自然史資料館学芸員として子どもを対象とする講座・自然体験活動等の講師経験を有する教員が、幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領に示されている領域「環境」の内容について、保育者の援助方法、保育計画および実践、評価について実践的に講義する。)
(10) テキスト、参考図書
テキスト 田尻 由美子・無藤 隆 編者「保育内容 子どもと環境 -基本と実践事例- 第三版」同文書院, 2023年 参考図書 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)
(11) その他(受講上の注意)
・授業時またはeラーニングシステムによって資料を配布する。 ・野外活動では、長袖・長ズボン、帽子、歩きやすい靴を基本とし、必要に応じて飲料・雨具・虫よけ等を各自準備する。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育内容指導法(言葉) (Teaching method of Early Childhood Care and Education(Language))			担当教員	平岡 正実
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-B-2208	1 単位	2 年前期	演習	選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目				
求める学習成果(教育目標)				
教育・保育の内容の理解及び指導方法				

(1) 授 業 の 内 容
幼稚園教育要領や保育所保育指針等示された幼児教育・保育の基本をふまえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。また、乳幼児の言葉の発達や音声言語から文字言語への遊びを通しての学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
幼児教育、保育において育みたい「言葉」の資質・能力を理解し、幼稚園教育要領や保育所保育指針等示された領域「言葉」のねらい及び内容について、背景となる専門領域と関連させて理解を深める。さらに、乳幼児の発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現する過程をふまえて、指導案を作成したり模擬保育を体験したりすることを通して、具体的な指導場面を構想する方法を身に付ける。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：幼稚園教育要領・保育所保育指針等の特色と改訂の背景、領域「言葉」 事前学習：授業前にテキストの第1章を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：テキストの第2章4(言葉の獲得に関する領域「言葉」)についてまとめ第2回：授業で提出すること。(2時間) 第2回：言葉の発達過程と保育者の援助(討議) 事前学習：テキスト第1章、第5章、事例等を読み、質問事項をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業中のスライド資料を参考にして、乳幼児期の言葉の発達過程と保育者の援助についてノートにまとめ第3回：授業で提出すること。(2時間) 第3回：児童文化財の意義と活用(情報機器の活用を含む)(討議) 事前学習：児童文化財の意義、特色について調べ、ノートにまとめておくこと。(2時間) 事後学習：児童文化財の活用についてテキスト等をもとにまとめ第4回：授業で提出すること。分からないところがあったら参考図書で調べたり担当教員に質問したりすること。(2時間) 第4回：言葉を育む遊びと環境0～3歳児(保育指導案作成)(グループワーク) 事前学習：自分に課された児童文化財、言葉遊びのテーマでの指導案や資料を作成・準備する。事前に配布された他グループの模擬保育指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておく。(2時間) 事後学習：自分に課された児童文化財、言葉遊びのテーマでの指導案や教具を作成・準備する。他グループの模擬保育指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめて第5回：授業で提出すること。(2時間) 第5回：言葉を育む遊びと環境0～3歳児(模擬保育、省察)(発表、討議) 事前学習：自分に課された児童文化財、言葉遊びのテーマでの模擬保育の準備する。事前に配布された他グループの模擬保育指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：自分に課された児童文化財、言葉遊びのテーマでの模擬保育について振り返り、改善策を考える。他グループの模擬保育指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめて第6回：授業で提出すること。(2時間)

第6回：言葉を育む遊びと環境 4～5歳児（保育指導案作成）（グループワーク） 事前学習：自分に課された児童文化財、言葉遊びのテーマでの指導案や資料を作成・準備する。事前に配布された他グループの模擬保育指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておく。（2時間） 事後学習：自分に課された児童文化財、言葉遊びのテーマでの指導案や教具を作成・準備する。他グループの模擬保育指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめ第7回：授業で提出すること。（2時間） 第7回：言葉を育む遊びと環境 4～5歳児（模擬保育、省察）（発表、討議） 事前学習：自分に課された児童文化財、言葉遊びのテーマでの模擬保育の準備する。事前に配布された他グループの模擬保育指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：自分に課された児童文化財、言葉遊びのテーマでの模擬保育について振り返り、改善策を考える。他グループの模擬保育指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめ第8回：授業で提出すること。（2時間） 第8回：言葉の発達に関わる諸問題への対応、保幼小の連携（課題解決型学習） 事前学習：テキスト第8章を読み、質問事項をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト、模擬保育での反省等を参考にしながら、言葉の発達に関わる諸問題に適切に支援し、状況に応じた適切な表現を使えるような子どもを育てる保育者になるための努力事項をノートにまとめて提出すること。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 学期末レポート（40%） 授業内の課題レポート・テスト（40%） 授業への取り組み（20%）
(7) 成績評価基準 乳幼児期からの言葉の発達過程や保育者の援助について理解し、指導計画案を作成し実践することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書 テキスト 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 2018年 高濱裕子編著 『事例で学ぶ保育内容＜領域＞言葉』 萌文書林 20018年 厚生労働省 『保育所保育指針』2017年 内閣府 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』2017年 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 参考図書 コンパス 保育内容言葉（内藤知美・新井美保子編著 建帛社 平成29年） 保育内容領域言葉（秋田喜代美他編（株）みらい 平成22年）
(11) その他(受講上の注意) 事例研究、指導案作成・模擬保育はグループでの活動が中心となります。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

乳児保育Ⅰ (Infant Care and EducationⅠ)			担当教員	森尾 恵里	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-B-2209	2 単位	2 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解					

(1) 授 業 の 内 容	
我が国における乳児保育の変遷をたどりながら、今日の保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育や子育て支援事業などの現状と課題及び3歳未満児の発育・発達を踏まえた3歳未満児の保育内容と運営体制について理解する。さらに、乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について学ぶ。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所・乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法	
第1回：乳児保育の意義・目的、歴史の変遷(授業概要の説明) 事前学習：テキスト「第1講」を通して、乳児保育の定義やその意義、歴史的経緯について学習しておくこと。(2時間) 事後学習：乳児保育の意義と目的を通して、歴史、政策について復習しておくこと。(2時間) 第2回：乳児保育の役割と機能 事前学習：保育所保育指針第1章・第4章を読み子育て支援について学習しておくこと。(2時間) 事後学習：乳児保育の役割と機能について、保育所保育指針第1章と照らし合わせて復習しておくこと。(2時間) 第3回：乳児保育における養護と教育 事前学習：保育所保育指針「総則 養護に関する基本的事項」「第2章 保育の内容」を通して、養護と教育について学習しておくこと。(2時間) 事後学習：養護と教育の意味と重要性について復習しておくこと。(2時間) 第4回：乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会状況と課題 事前学習：テキスト「第2講」を通して、母子を保障する法律、子育て支援のあり方や課題について学習しておく。(2時間) 事後学習：母子を保障する法律、家庭での生活や遊び、家庭との連携について復習しておくこと。(2時間) 第5回：保育所における乳児保育 事前学習：テキスト「第3講」を通して、保育所の役割や位置づけ、乳児保育の現状について学習しておくこと。(2時間) 事後学習：保育所の役割、保育所における乳児保育の現状と課題について学習しておくこと。(2時間) 第6回：保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育 事前学習：テキスト「第4講」を通して、児童福祉施設等について学習しておくこと。(2時間) 事後学習：乳児院の役割と支援方法、現状と課題について復習しておくこと。(2時間) 第7回：家庭的保育等における乳児保育 事前学習：テキスト「第5講」を通して、地域型保育の概要と乳児保育の実際について学習しておくこと。(2時間) 事後学習：家庭的保育・小規模保育の歴史的経緯、保育の特徴、現状と課題について復習しておくこと。(2時間) 第8回：3歳未満児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 事前学習：テキスト「第6講」を通して、子育て支援の目的や方法について学習しておくこと。(2時間) 事後学習：子育て支援の場、実践内容、求められる子育て支援について復習しておくこと。(2時間)	

第9回：3歳未満児の心身諸機能の発達 事前学習：テキスト「第11講」を通して、特に発達に応じた安全・安心の保育について学習しておくこと。（2時間） 事後学習：心身諸機能の発達を通して3歳未満児の発達の特性と乳児保育の基本的な援助や関わりの方 え方について復習しておくこと。（2時間） 第10回：3歳未満児の生活と環境 事前学習：テキスト「第7講」を通して、乳児保育における生活の場としての環境について学習しておく こと。（2時間） 事後学習：0，1，2歳児の育ちと環境を通した保育について復習しておくこと。（2時間） 第11回：3歳未満児の遊びと環境 事前学習：テキスト「第8講」を通して、0，1，2歳児の発達と環境構成の関連について学習しておく こと。（2時間） 事後学習：0，1，2歳児の遊びと遊びを充実させる環境構成について復習しておくこと。（2時間） 第12回：3歳児以上の保育に移行する時期の保育 事前学習：テキスト「第9講」を通して、子どもたちの発達の連続性について指針をふまえた移行につ いて学習しておくこと。保育所保育指針の「ねらい」「内容」及び「内容の取り扱い」につ いて熟読しておくこと。（2時間） 事後学習：2歳児の保育から3歳児以上の保育とのつながりについての重要ポイントを復習しておくこと。 （2時間） 第13回：3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等における援助の関わり 事前学習：テキスト「第10講」を通して、保育所保育指針の乳児保育に関する記載についても学習して おくこと。（2時間） 事後学習：3歳未満児の発達にあわせた援助と関わり方について復習しておくこと。（2時間） 第14回：乳児保育にける計画・記録・評価とその意義 事前学習：テキスト「第12講」を通して、保育計画の概要、指導計画から実践、記録、評価について学 習しておくこと。（2時間） 事後学習：指導計画から実施、記録とのつながりや必要性について復習しておくこと。（2時間） 第15回：乳児保育における連携・協働 事前学習：テキスト「第13・14・15講」を通して、職員間、保護者、関係機関との連携の意義や実際に ついて学習しておくこと。（2時間） 事後学習：求められる専門性、保護者との連携、地域関係機関との連携・協働の意義や実際について復 習しておくこと。（2時間） 第16回：定期試験	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
定期試験（60％） 復習レポート（30％） 平常点（10％） ・平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します。	
(7) 成績評価基準	
1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解することができるか。 2. 保育所・乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解することができるか。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解することができるか。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解することができるか。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

経歴：(元保育士)

実務経験と授業内容との関連性：(保育士として、保育実践を行ってきた経験を有する教員が、3歳未満児の保育内容と運営体制について、実践的に分析、考察、検討する。)

(10) テキスト、参考図書

テキスト・・・寺田清美・大方美香・塩谷香編 「新基本保育シリーズ⑮ 乳児保育Ⅰ・Ⅱ」 中央法規出版 2019年
参考図書・・・厚生労働省編 「保育所保育指針解説 平成30年3月」 フレーベル館 2018年 内閣府編 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

(11) その他(受講上の注意)

- ・ 授業内容のスライドは、資料として配布する。各自ファイルに綴じて事後学習に活用すること。
- ・ 授業の最後に振り返り復習レポートを提出する。提出された復習レポートから、重要ポイントや質問等に対して授業中または一人ひとりにコメントし、フィードバックする。
- ・ 参考図書「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」は各自準備すること。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

乳児保育Ⅱ (Infant Care and Education Ⅱ)			担当教員	森尾 恵里	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-B-2257	2 単位	2 年後期	演習	選択	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
本授業では、3歳未満児の発育・発達過程や特性及び養護と教育の一体性を踏まえた保育計画・保育内容・方法・環境構成・援助・観察・記録・評価について具体的に理解し、乳児保育に必要な専門的技術を身につけることを目的とする。そのために、発育・発達を捉えその時期にふさわしい豊かな体験、主体性を尊重する生活や遊びを支える環境の構成等について学習する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
1. 3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの方針について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実践について具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について具体的に理解する。
(3) アクティブラーニング
□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク ■実験、実技 ■その他(手作りおもちゃ作製)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション(授業の概要説明) 子どもと保育士等との関係の重要性 事前学習：3歳未満児に読み聞かせたい絵本を1冊選んで、選んだ理由をレポートにまとめ持参すること。(2時間) 事後学習：子どもと保育者等との信頼関係について復習しておくこと。(2時間) 第2回：個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり 事前学習：テキストP203, 304, 305を読んで疑問点をレポートにまとめ持参すること。(2時間) 事後学習：個別の支援方法や関わり方、0歳児の生活の流れ、乳児にふさわしい生活について復習しておくこと。(2時間) 第3回：子どもの主体性の尊重と自己の育ち 事前学習：保育所保育指針「第2章乳児保育に関わるねらい及び内容」・テキスト「第2・3・4講」を通して、0歳児のデイリープログラム作成の仕方やポイントについて学習しておくこと。(2時間) 事後学習：子どもの主体性や自己の育ちについて復習しておくこと。(2時間) 第4回：子どもの体験と学びの芽生え 実技 (調乳・おむつ交換等実技) 事前学習：テキストP362～365を熟読し、体験学習に関することを学習しておくこと。(2時間) 事後学習：子どもの学び、実技のそれぞれのポイントを見直し生活の援助について復習しておくこと。(2時間) 第5回：子どもの1日の生活の流れと保育の環境 事前学習：保育所保育指針「第2章 1歳以上3歳未満児に関わるねらい及び内容」・テキスト「第5. 6. 7講」を通して、1歳児のデイリープログラムの作成の仕方やポイントについて学習しておくこと。(2時間) 事後学習：1歳児の生活の流れと必要な環境について復習しておくこと。(2時間) 第6回：子どもの生活や遊びを支える環境の構成 事前学習：3歳未満児の遊びの特性を踏まえ、発達や興味に即した遊具を製作する為に、テキストP366～370を熟読・保育図書などから作るおもちゃを決め、必要な材料・用具を全て自分で用意して授業に臨むこと。(例・小型玩具、手で持てる、一人で遊べる、繰り返し遊べる、安全性等を考慮する等)(2時間) 事後学習：授業時間内に仕上がらない場合は次週までに完成しプレゼンテーションに備えておくこと。(2時間)

第7回：3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際（手作りおもちゃプレゼンテーション） 事前学習：テキストP370を参考にし、レポートを作成しておくこと。（2時間） 事後学習：発達過程や季節に合わせて環境構成を変化させていく大切さについて復習しておくこと。（2時間） 第8回：3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際 事前学習：テキスト「第8・9・10講」を読み、2歳児の指導計画の作成の仕方ポイントについて学習しておくこと。（2時間） 事後学習：2歳児の生活の流れと必要な環境について復習しておくこと。（2時間） 第9回：子ども同士の関わりとその援助の実際（わらべうた・手遊び） 事前学習：1歳～2歳児が夢中になれる遊びと保育の配慮と工夫について、学習しておくこと。（2時間） 事後学習：わらべうた・手遊び等、発達や発育を意識した様々なあそびについて復習しておくこと。（2時間） 第10回：子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 事前学習：テキスト「第11項」・保育所保育指針「第2章 保育の内容」を通して、健康や安全、情緒の安定について学習しておくこと。（2時間） 事後学習：乳幼児の健康状態や発育、衛生管理、安全管理について復習しておくこと。（2時間） 第11回：集団での生活における配慮 グループワーク・発表 事前学習：テキストP292,293,294,295を読んで、安全について学習しておくこと。（2時間） 事後学習：集団生活での具体的な配慮について復習しておくこと。（2時間） 第12回：環境の変化や移行に対する配慮 事前学習：テキスト「第13講」を読み、保護者との連携の重要性について学習しておくこと。（2時間） 事後学習：3歳以上児の保育のつながりについて復習しておくこと。（2時間） 第13回：長期的な指導計画と短期的な指導計画 事前学習：テキスト第14講のstep1を読んで疑問点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：提示する動画で書いた記録の振り返りを書いて次週提出すること。（2時間） 第14回：個別的な指導計画と集団の指導計画 事前学習：3歳未満児保育の計画について学習しておくこと。（2時間） 事後学習：個別計画、月案、週案について、復習しておくこと。（2時間） 第15回：保育実践グループワーク（保育士等に求められる専門性） 事前学習：これまでの授業内容を復習し重要点、質問事項をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：保育者として求められる人間性や専門的知識・技術及び社会人としての心得等について復習しておくこと。（2時間） 第16回：定期試験	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
定期試験（40%） 課題（40%） 平常点（20%） ・課題は復習レポート、手作りおもちゃ製作等の全ての提出物を総合して判断します。 ・平常点は授業への参加状況、受講態度、保育実践態度・グループワークの参加態度等を総合して判断します。	
(7) 成績評価基準	
1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解することができるか。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解することができるか。 3. 乳児保育における配慮の実際について具体的に理解することができるか。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について具体的に理解することができるか。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

経歴：(元保育士)

実務経験と授業内容との関連性：(保育士として、保育実践を行ってきた経験を有する教員が、3歳未満児の保育内容と運営体制について、実践的に分析、考察、検討する。)

(10) テキスト、参考図書

テキスト・・・寺田清美・大方美香・塩谷香編 「新基本保育シリーズ⑮ 乳児保育Ⅰ・Ⅱ」 中央法規出版 2019年
参考図書・・・厚生労働省編 「保育所保育指針解説 平成30年3月」 フレーベル館 2018年 内閣府編 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

(11) その他(受講上の注意)

- ・教科書以外の教材は、必要に応じてプリントを配布する。各自ファイルに綴じること。
- ・数回、授業を振り返り復習レポートを記載提出する。提出された復習レポートは、重要ポイントをはじめ一人ひとりの質問等に対してコメントし、フィードバックする。確認してファイルに綴じること。
- ・参考図書「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」は各自準備すること。
- ・手作りおもちゃは、事前に案や作り方を考え、必要な材料・ハサミ、のり、糸や針等の用具を全て自分で準備して授業に臨み題材によっては授業までに大まかな準備をして、授業時間内に仕上げること。

プレゼンテーションには、指定用紙に学籍番号・氏名・作品名・対象年月齢・ねらい・材料・工夫した点等をまとめて準備しておくこと。(授業後提出する)

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

障がい児保育 (Child Care for Children with Disabilities)			担当教員	馬田 知武	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-D-2261	2 単位	2 年後期	演習	選択	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果（教育目標）					
教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解					

(1) 授 業 の 内 容
障がい児保育の理念や障害のある子の発達特性を理解し、心身の発達状況に応じた援助や特別な配慮について理解を深める。また、保育園等における障がい児保育・家庭支援・関係機関と連携や協働の知識を深め、具体的技能を獲得するとともに実践能力を高める。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
1) 障がい児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障がい児及びその保育について理解する。 2) 個々の特性や心身の発達に応じた援助や配慮について理解する。 3) 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。 4) 障がい児その他の特別な配慮を要する子ども家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 5) 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(事例検討、体験学習)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回:「障害」の概念と障がい児保育の歴史的変遷(発表) 事前学習:テキストの第1～2講を読み、「障害」の概念と障がい児保育の歴史的変遷についてノートにまとめること。(2時間) 事後学習:授業の内容をもとにノーマライゼーションやバリアフリー等の語句の理解を深め、それらをまとめノートに補充し整理すること。(2時間) 第2回:地域社会への参加・包容及び合理的配慮の理解 事前学習:テキストの第2講を読み、障がいのある子どもの地域社会への参加・包容・及び合理的配慮等についてノートにまとめること。(2時間) 事後学習:授業の内容をもとにインクルージョンやユニバーサルデザイン等の語句の理解を深め、それらの知見をノートに補充し整理すること。(2時間) 第3回:肢体不自由児の理解と援助(発表) 事前学習:テキストの第3講を読み、肢体不自由児の特徴等をノートにまとめること。(2時間) 事後学習:授業の内容をもとに肢体不自由児への理解を深め、知見をノートに補充し整理すること。(2時間) 第4回:知的障がい児の理解と援助(グループワーク・発表) 事前学習:テキストの第4講を読み、知的障がい児の特徴についてノートにまとめること。(2時間) 事後学習:授業の内容をもとに知的障害児の理解を深め、ノートに要旨を補充し整理すること。(2時間) 第5回:視覚・聴覚・言語障害児の理解と援助(体験学習・発表) 事前学習:テキスト第5講を読み、視覚障害・聴覚障害・言語障害児についてノートにまとめること。(2時間) 事後学習:授業の内容をもとに視覚障害・聴覚障害・言語障害児の理解を深め、ノートに要旨を補充すること。(2時間) 第6回:発達障害児の理解と援助(ADHD、LD、ASD等)(グループワーク・発表) 事前学習:テキスト第6講を読み、ADHD(注意・欠如多動症)児やLD(学習障害)児、ASD(自閉スペクトラム症)児の特徴をノートにまとめること。(2時間) 事後学習:授業の内容をもとにADHD(注意・欠如多動症)児やLD(学習障害)児、ASD(自閉スペクトラム症)児の理解を深め、ノートに要旨を補充すること。(2時間)

- 第7回：重症心身障害児、医療的ケア児、その他の特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助（発表）
 事前学習：インターネットあるいは大学の図書室で重症心身障害児、医療的ケア児、その他特別な配慮を必要とする子どもについて調べ、その特徴をノートにまとめること。（2時間）
 事後学習：授業の内容をもとに、重症心身障害児や医療的ケアが必要な児童の理解を深めるとともに、特別な配慮が必要な子へのアプローチ方法、援助方法等の知見をノートに補充すること。（2時間）
- 第8回：指導計画および個別の支援計画の作成（グループワーク・発表）
 事前学習：テキスト第8講を読み、障がい児、その他特別な配慮を必要とする児童の指導計画及び個別の支援計画についてまとめること。（2時間）
 事後学習：授業の内容をもとに、定型発達児および合理的配慮を必要とする障がい児等が互いに成長できる計画（案）のあり方等をノートに整理すること。（2時間）
- 第9回：発達をうながす生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合い（事例検討）
 事前学習：テキストの第9講を読み、基本的生活習慣を身につけることの大切さを理解するとともに、統合保育・分離保育・並行通園、交流保育等のメリット・デメリットについてノートにまとめること。（2時間）
 事後学習：授業の内容をもとに、衣類の着脱動作などの子どもの日常生活に必要な重要動作のいくつかを5～6の行程に分解・整理しノートに補充しておくこと。また、子ども同士の関わりあいの中で生まれる育ちについての知見をノートに補充すること。（2時間）
- 第10回：障がい児保育における子どもの健康と安全（グループワーク）
 事前学習：インターネットや大学の図書室にて、障害児の医療的ケア（呼吸・嚥下障害、胃食逆流症、吸引・経管栄養・導尿等、また、てんかん発作時の対応と緊急薬剤の使用等、また、アレルギー（食物、ぜんそく、アナフィラキシーショック等）についてノートにまとめること。（2時間）
 事後学習：授業の内容をもとに、障害児保育における健康と安全について留意すべきことを確認し、それらをノートに補充し整理すること。（2時間）
- 第11回：職員間の連携・協働（発表）
 事前学習：テキストの第9・11講を読むほか、インターネットにて、ノーマライゼーションの理念に基づいて、障がいのある子と他の子どもが相互のコミュニケーション能力を育み、子どもたちの成長・発達をねらう保育を行うための保育士の連携の大切さや、保育士と他の専門家が協働（コラボレーション）することで、統合保育・インクルージョン保育の質の向上につながる例などについて調べノートにまとめること。（2時間）
 事後学習：授業の内容をもとに、保育士と他の専門家との協働（コラボレーション）等で成果を上げたものについて知り、ノートに補充すること。（2時間）
- 第12回：保護者に対する理解および保護者間の交流や支え合いの意義と支援（事例検討）
 事前学習：教科書の第11・12講を読み、障害のある子どもの保護者や家庭支援の基本および保護者がどのような経過を辿って障害受容ができてくるかについてノートにまとめること。（2時間）
 事後学習：授業の内容をもとに、障害のある子どもの保護者への支援の大切さを確認するとともに、当事者同士の交流・支え合い、きょうだいへの支援などについてまとめる。また、保護者支援のための「ピアサポート（ピアカウンセリング）」「自助グループ」「ペアレント・プログラム」などもノートに整理しておくこと。（2時間）
- 第13回：地域の専門機関との連携（グループワーク）
 事前学習：第13講を読み、地域の専門機関との①連携がなぜ必要か ②どのような専門機関と連携するのか ③どのように連携していくと良いかについてノートにまとめること。（2時間）
 事後学習：授業の内容をもとに、地域の専門機関と連携や協働するには保護者の同意が欠かせないことを確認するとともに、保育カウンセラー事業、児童発達支援センター等の保育所訪問支援などの利用についてノートに補充すること。（2時間）
- 第14回：小学校等との連携（グループワーク）
 事前学習：テキストの第14講を読み、小学校との連携の中で重要な「移行支援」について、就学に関する基本的事柄、移行支援の実際と課題、新たな取り組み等に分類しノートにまとめること。（2時間）
 事後学習：授業の内容をもとに、「移行支援」のための保育所・学校・市町教育委員会等の取り組みや役割について整理し、ノートに補充する。（2時間）
- 第15回：福祉・教育における現状と課題
 事前学習：テキストの第15講を読み、障がい児支援の目標が地域で育ち・暮らすことにあることを学び、良質の保育を提供するための方法及び課題などをノートにまとめること。（2時間）
 事後学習：授業の内容をもとに、保育士も障がい児に関する法制度や支援制度を学び、地域の専門家と連携・協働することが不可欠であることを確認する。また、放課後等デイサービス・障害児相談支援事業等についてまとめノートに補充しておく。（2時間）
- 第16回：定期試験

(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験 (50%) 平常点 (50%) (平常点は、授業の参加状況、受講態度、提出物等を総合して判断します。)
(7) 成績評価基準
①ノーマライゼーションの理念が説明できるか ②統合保育について適切に説明できるか ③障害の種類（知的障害、自閉スペクトラム症、学習障害、注意欠如・多動症等）の特徴が理解できその支援方法を説明できるか ④障がい児とその家族に対する支援方法が理解できているか（連携・協働等） ⑤障がい児のアセスメント方法を説明できるか ⑥発達支援の方法でよく用いられているものを説明できるか ⑦発達に障害のある児童についての保育計画が立てられるか等
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書
テキスト：西村重稀、水田敏郎著『障害児保育』 中央法規 2019年 参考図書：尾崎康子、小林新、水内豊和、阿部美穂子編『よくわかる障害児保育〔第2版〕』 ミネルヴァ書房 2018年 参考図書：前田泰弘著『実践に生かす障害児保育・特別支援教育〔第2版〕』 萌文書林 2024年 参考図書：伊丹昌一著『インクルーシブ保育論〔第2版〕』 ミネルヴァ書房 2022年
(11) その他(受講上の注意)
特記すべき点はなし。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育実習指導Ⅰ (Guidance for Field PracticeⅠ)			担当教員	青井 夕貴、渡辺 直人	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-E-2215	2 単位	2 年通年	演習	選択	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 実践演習・総合演習・実習科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度					

(1) 授 業 の 内 容
保育所での学外実習（以下、保育所実習）と保育所以外の児童福祉施設等での学外実習（以下、施設実習）を行うための事前及び事後の指導を行う。事前指導では、実習の意義と目的、実習の際の留意事項、記録の書き方などを理解する。事後指導では、個別指導、グループ討議、報告会等を通して、実習の成果と課題を共有するとともに、今後の目標を明らかにする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
事前指導 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもや利用者等の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 事後指導 5. 自己評価と個別指導を通して、自己の長所と課題を整理する。 6. グループ討議や報告会等を通して、実習の総括を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。
(3) アクティブラーニング
☐課題解決型学習（PBL） ☒討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐実習、フィールドワーク ☐実験、実技 ☐その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
【前期 ― 事前指導】 第1回：実習の目的、概要説明（青井・渡辺） 事前学習：教育実習 I を振り返り、反省点や疑問点等をまとめる。（2 時間） 事後学習：出された課題や指定された図書等を通して授業内容をまとめる。（2 時間） 第2回：保育所実習での心構え（渡辺） 事前学習：不安や心配な点を整理し、実習前に心構えとして持つべき考え方や態度について自分なりにまとめる。（2 時間） 事後学習：授業を振り返り、学んだ心構えをどのように活かせられるかをまとめ、改善点を考える。（2 時間） 第3回：施設実習での心構え（青井） 事前学習：教科書の該当ページを読み、あらかじめ疑問点等をまとめる。（2 時間） 事後学習：出された課題や指定された図書等を通して授業内容をまとめる。（2 時間） 第4回：保育所・認定こども園の理解（渡辺） 事前学習：保育・幼児教育に関する自身の経験を振り返り、印象深かった点や疑問点を整理する。（2 時間） 事後学習：授業で学んだ内容をもとに、自分が勤務した場合の保育環境づくりについて具体的にまとめる。（2 時間） 第5回：保育所実習における実習の内容と計画（渡辺） 事前学習：実習前に準備すべき内容をリスト化し、起こり得るアクシデント・イレギュラーを考えてくる。（2 時間） 事後学習：授業で学んだポイントを基に、実習計画の改善案を具体的に記述し、実践に活かす方法を考える。（2 時間） 第6回：保育所実習の目標・課題設定と観察・記録の内容と方法（渡辺） 事前学習：配布プリントを概観し、観察・記録に関して難儀だと感じる点や不明点を整理する。（2 時間） 事後学習：授業で学んだ記録方法を活用して、記録表を作成し、自己評価する。（2 時間）

第7回：保育所実習における指導案の書き方（渡辺） 事前学習：配布資料・指導案を見直し、改善が必要な箇所をリストアップする。（2時間） 事後学習：授業で得た知識を反映させ、指導案の改善例を作成し、自身の成長点を振り返る。（2時間） 第8回：各施設の理解（青井） 事前学習：児童福祉施設等について復習し、あらかじめ疑問点等をまとめる。（2時間） 事後学習：出された課題や指定された図書等を通して授業内容をまとめる。（2時間） 第9回：施設実習における実習の内容と計画（青井） 事前学習：教科書の該当ページを読み、あらかじめ疑問点等をまとめる。（2時間） 事後学習：出された課題や指定された図書等を通して授業内容をまとめる。（2時間） 第10回：施設実習の目標・課題設定（青井） 事前学習：これまでの学びを踏まえて、実習で達成したい目標を整理する。（2時間） 事後学習：討議した結果等を踏まえて、目標を見直し、整理する。（2時間） 第11回：施設実習における観察・記録の内容と方法（青井） 事前学習：教科書の該当ページを読み、あらかじめ疑問点等をまとめる。（2時間） 事後学習：出された課題や指定された図書等を通して授業内容をまとめる。（2時間） 第12回：事前指導まとめ～留意事項（人権擁護、守秘義務など）の確認（青井・渡辺） 事前学習：これまでの資料等を見直し、疑問点等をまとめる。（2時間） 事後学習：留意事項等を含めて、実習に必要な書類等を確認するとともに、実習に向けた課題を明確にする。（2時間） 【後期 ― 事後指導】 第13回：実習の振り返り～自己評価及びグループ討議（青井・渡辺） 事前学習：実習ノートを中心に実習で学んだこと等を振り返る。（2時間） 事後学習：振り返った内容を再度自分なりに整理し、理解を深める。（2時間） 第14回：個別指導を通じた実習の成果、課題、今後の目標の共有（青井・渡辺） 事前学習：個人・グループでの振り返りを整理する。（2時間） 事後学習：実習での学びを総括し、次の実習への理解を深める。（2時間） 第15回：実習報告会を通じた総括（青井・渡辺） 事前学習：担当になった実習の内容をまとめ、報告会の資料等を作成する。（2時間） 事後学習：自他の発表を通して感じたことなどをまとめる。（2時間）	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
課題・レポート（50%）、発表内容（30%）、平常点（20%） （平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物等を総合して判断します。）	
(7) 成績評価基準	
事前指導 1. 保育実習の意義・目的を説明することができるか。 2. 実習の内容や自らの実習の課題を説明することができるか。 3. 実習施設における子どもや利用者等の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について説明することができるか。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について説明することができるか。 事後指導 5. 自己評価と個別指導を通して、自己の長所と課題を認識することができたか。 6. グループ討議や報告会を通して、実習の総括を行い、今後の学習に向けた課題や目標を説明することができるか。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☒その他 (Teams) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☒その他 (Teams) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☒その他 (Teams) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
保育所保育指針(平成29年告示 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示内閣府・文部科学省・厚生労働省) 保育所保育指針解説(平成30年3月 厚生労働省) 小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子『改訂版 幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』わかば社、2023 小櫃智子・田中君枝・小山朝子・遠藤純子『改訂版 実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社、2023 守 巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤 恵『改訂版 施設実習パーフェクトガイド』わかば社、2023
(11) その他(受講上の注意)
・やむをえず欠席するときは、担当教員に必ず連絡する。 ・上記テキストと共に、「実習要項」を毎回持参する。
(12) オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育実習Ⅰa (Field PracticeⅠa (Day Care Center))			担当教員	渡辺 直人	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-E-2216	2 単位	2 年前期	実習	選択	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 実践演習・総合演習・実習科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度					

(1) 授 業 の 内 容	
2年次8月に80時間(およそ2週間)以上の保育所実習を行う。保育所における実習を通して、保育所の機能や保育士の役割・業務内容を理解するとともに、子どもと関わりながら子どもへの理解を深める。また、既習の教科目の内容を踏まえ、保護者への支援や、保育の計画・観察・記録及び自己評価等についても具体的に理解する。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子ども及び保護者への支援について総合的に理解する。 4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法	
1. 保育所の役割と機能 (1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり (2) 保育所保育指針に基づく保育の展開 2. 子どもの理解 (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへの援助や関わり 3. 保育内容・保育環境 (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全 4. 保育の計画・観察・記録 (1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携・協働 (3) 保育士の役割と職業倫理 事前学習：事前指導や既習の教科の内容を振り返り、実習における課題を明確にする。(5時間) 事後学習：実習ノートをもとに実習全体を振り返り、学んだことを記録する。(5時間)	
(5) 授 業 形 態 [面 接 授 業 ・ 遠 隔 授 業]	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成 績 評 価 方 法	
実習園からの評価、教員の巡回指導の記録、実習日誌、出勤状況などにもとづき、総合的に評価する。	

(7) 成績評価基準
実習評価表の項目（5項目及び総合評価）による。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他（実習に対するフィードバックについて） ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☒ その他（保育実習指導Ⅰの事前・事後指導時）
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書
なし
(11) その他(受講上の注意)
大学及び実習園から指示された留意事項を守り、誠実に実習を行うこと。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育実習 I b (Field Practice I b (Childcare))			担当教員	青井 夕貴	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-E-2217	2 単位	2 年前期	実習	選択	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 実践演習・総合演習・実習科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度					

(1) 授 業 の 内 容
児童福祉施設等（保育所以外）において2年次9月に80時間（およそ10日間）以上の実習を行う。見学・観察及び参加実習を通して、児童福祉施設等（保育所以外）の機能等を理解するとともに、当該施設の子ども・利用者とその生活について理解を深める。また、児童福祉施設等（保育所以外）における保育士の職務と役割を理解し、職員間の連携・協働を把握するとともに、保育士に必要な技術・知識の水準を認識する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
1. 保育所以外の児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子ども・利用者との関わりを通して子ども・利用者への理解を深める。 3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子ども・利用者及び保護者への支援について総合的に理解する。 4. 支援の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☐ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
既習の教科目の内容を踏まえ、実習先での観察や子ども・利用者との関わりを通して、以下の内容について理解、考察する。 1. 施設の役割と機能 (1) 施設における子ども・利用者の生活（一日の流れ等）と保育士の援助や関わり (2) 施設の役割と機能 2. 子ども・利用者の理解 (1) 子ども・利用者の観察とその記録 (2) 個々の特性やニーズとそれに応じた援助や関わり (3) 子どもの最善の利益、利用者の権利擁護についての配慮 3. 施設における子ども・利用者の生活と環境 (1) 計画に基づく活動や援助 (2) 子ども・利用者の心身の状態に応じた生活と環境 (3) 子ども・利用者の活動と環境 (4) 健康管理、安全対策 4. 計画と記録 (1) 支援計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理 事前学習：事前指導の振り返りを行い、実習先に関する資料等をまとめ、実習生としての心構えや課題を整理し、実習施設の理解を深める。（5時間） 事後学習：実習ノートをもとに実習全体を振り返り、学んだことを記録する。（5時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

(6) 成績評価方法
実習施設からの評価、教員の巡回指導の記録、実習日誌、出勤状況などにもとづき、総合的に評価する。
(7) 成績評価基準
実習評価表の項目（5項目及び総合評価）による。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他（実習に対するフィードバックについて） ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☒ その他（保育実習指導Ⅰの事前・事後指導時）
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書
なし
(11) その他(受講上の注意)
・ 大学及び実習施設から指示された留意事項を守り、誠実に実習を行うこと。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

フィールドワークⅠ (FieldworkⅠ)			担当教員	伊東 知之、中野 研也	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-E-2219	2 単位	2 年通年	演習		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 実践演習・総合演習・実習科目					
求める学習成果（教育目標）					
教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度					

(1) 授 業 の 内 容
演習形態で子どもを対象にした発表や実践を伴うため、制作に費やす時間が別途企画されたり、時間外実践活動で学外(地域社会というフィールド)に出かけることもある。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
学生が授業等で身に付けた理論や実践学習を学内外で子どもたちと共に具体的展開を試みる講座である。内容は音楽・身体・造形・児童文化などの表現活動を中心にした社会的活動実践を主軸に置く。フィールドは地域自治体からの要求に応じた場や自ら発表の場や対象を開拓して対応もする。長期・短期の活動時期を勘案して、学生自らが企画立案・運営し、対外交渉から実践、事後処理まで含めて主体的に活動していくことができるようにする。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート) ☒ グループワーク ☒ 発表(プレゼンテーション) ☒ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション。授業概要の説明、実践における計画書の作成(伊東、中野)(PBL・グループワーク) 事前学習：どのような内容にするか考えをまとめておく。(2時間) 事後学習：さらに内容を深めて考えをまとめる。(2時間) 第2回：グループ編成と企画案作成(伊東、中野)(PBL・グループワーク) 事前学習：グループ編成及び企画案を作成しておくこと。(2時間) 事後学習：グループ編成の確認と企画案を具体的に考える。(2時間) 第3回：音楽・造形・子どもの文化の分野での班別制作実践1 (伊東、中野)(PBL・グループワーク・実技) 事前学習：制作に必要な物をまとめ、準備する。(2時間) 事後学習：さらに準備物をまとめ、調達する。(2時間) 第4回：音楽・造形・子どもの文化の分野での班別制作実践2 (伊東、中野)(PBL・グループワーク・実技) 事前学習：制作に必要なものをまとめ、準備する。(2時間) 事後学習：さらに準備物をまとめ、調達する。(2時間) 第5回：音楽・造形・子どもの文化の分野での班別制作実践3 (伊東、中野)(PBL・グループワーク・実技) 事前学習：制作に必要なものをまとめ、準備する。(2時間) 事後学習：さらに準備物をまとめ、調達する。(2時間) 第6回：企画内容を総合的に組み立てプログラム作成 (伊東、中野)(PBL・グループワーク) 事前学習：各班の実践内容をまとめておく。(2時間) 事後学習：プログラムを完成させる。(2時間) 第7回：総合的内容の実践発表参加者への案内 (伊東、中野)(PBL・グループワーク・実技) 事前学習：案内チラシの原案を考え、ラフスケッチを行う。(2時間) 事後学習：案内チラシ原案を完成させる。(2時間) 第8回：実践発表参加者への案内 (伊東、中野)(PBL・グループワーク・実技) 事前学習：配布先の一覧表を作成する。(2時間) 事後学習：配布先全てに配布する。(2時間) 第9回：実践発表の班別練習 (伊東、中野)(PBL・グループワーク・発表・実技) 事前学習：練習準備を行う。(2時間) 事後学習：さらに練習を行う。(2時間) 第10回：学外会場における実践発表準備 (伊東、中野)(PBL・グループワーク・発表・実技) 事前学習：発表準備を行う。(2時間) 事後学習：さらに制作、練習等準備を行う。(2時間) 第11・12回：学内会場における実践発表 (伊東、中野)(PBL・グループワーク・発表・フィールドワーク・実技) 事前学習：最終準備を行う。(4時間) 事後学習：不十分なところをまとめ、対応する。(4時間)

第13・14回：学外会場における実践発表（伊東、中野）（PBL・グループワーク・発表・フィールドワーク・実技） 事前学習：さらに準備を行う。（4時間） 事後学習：最終準備を行う。（4時間） 第15回：発表会実践後始末（伊東、中野）（PBL・グループワーク・実技） 事前学習：発表内容の反省点をまとめる。（2時間） 事後学習：会場の後始末、掃除を行う。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
子ども対象の実践発表と学外実践への参加（50%）および実践結果の振り返りレポート（40%）、受講態度（10%）で総合的に評価する。
(7) 成績評価基準
実践の企画・立案・展開方法・制作の吟味・発表ができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
その都度、各分野の授業時にプリントを配布したり、資料の紹介等を行う。ファイル作りをしていくこと。
(11) その他(受講上の注意)
定外の時間帯に制作練習、実践発表等が組み込まれることがあるので、自主的に活動することを望む。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

フィールドワークⅡ (FieldworkⅡ)			担当教員	中野 研也	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-E-2263	2 単位	2 年後期・ 3 ・ 4 年	演 習		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 実践演習・総合演習・実習科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度					

(1) 授 業 の 内 容
子どもに関わるボランティア活動、社会的イベントなどへの参画や参加を通し、子ども・地域社会との関わりを深めながら多様な課題解決を経験することで、優れた教育者・保育者となるための実践力を養う機会とする。当該活動や体験の意義と内容をよく理解し、取り組み後は自身の経験と反省点を具体的に報告する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
☒ 子ども・地域社会との関わりを深める。 ☒ 活動に積極的に取り組むことができる。 ☒ 活動内容の記録と考察によって、教育者・保育者としての役割と能力を広げ、実践力を高める。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
概ね下記に従う。 なお、活動は前期に行われる場合、後期に行われる場合、前後期通して行われる場合が想定される。 - ガイダンス(2時間) - 活動の実施(26時間以上) - 報告会(2時間) - 事前学習(30時間): 活動に関する情報収集、活動に求められる課題、活動報告の準備など。 - 事後学習(30時間): 活動記録の執筆、活動における課題の整理など。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
活動や取り組みの状況(50%)、報告書(またはプレゼンテーション)(50%)
(7) 成 績 評 価 基 準
☒ 子ども・地域社会との関わりを深めることができたか。 ☒ 活動に積極的に取り組むことができたか。 ☒ 活動内容の記録と考察によって、教育者・保育者としての役割と能力を広げ、実践力を高めることができたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
- 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 - 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 - 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 - 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 - その他(活動報告に対するフィードバックについて) ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☒ その他(報告時)

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
使用しない
(11) その他(受講上の注意)
■参加するイベントやボランティア等の社会活動は、かならず子どもが関わるものであること。 ■履修登録については、通常の受講登録手続きを要しない(ガイダンス時に説明)。 ■履修にあたっては、必ず担当教員へ問い合わせること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英語Ⅲ a (EnglishⅢ a)			担当教員	M クズイフ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-2340	1 単位	3 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実地的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
A pre-reading warm-up activity will be held before reading the essay for each unit. Comprehension exercises, including pair-work, will follow the introduction of new vocabulary. After discussing the topic in groups, a short writing exercise will be given. Students will also be responsible for facilitating one lesson from the textbook and completing an original discussion assignment.
(2) 授 業 の 到 達 目 標
The goal of this course is to develop reading and discussion skills. Students will deepen their understanding of the world around them. Students will learn to engage in thoughtful and effective communication that is representative of an increasingly global world.
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：Introductions (ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第2回：Who Is J.K. Rowling? ① (ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第3回：Who Is J.K. Rowling? ② (ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第4回：What Are Some New Year's Customs? ① (ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第5回：What Are Some New Year's Customs? ② (ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第6回：Where Is Buckingham Palace? ① (ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第7回：Where Is Buckingham Palace? ② (ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第8回：Why Are Cows Special In India? ① (ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第9回：Why Are Cows Special In India? ② (ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第10回：Why Do People Give Gifts For Weddings? ① (ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)

第11回：Why Do People Give Gifts For Weddings? ② (ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第12回：What's Special About The Blowfish? ① (ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第13回：What's Special About The Blowfish? ② (ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第14回：Who Are The Sami? ① (ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第15回：Who Are The Sami? ② (ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) Students are encouraged to consult the Internet for information on topics introduced in the textbook.
(5) 授業形態 [面接授業・遠隔授業]
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
Proactive In-class Participation - 20% Homework - 20% Lesson Facilitation - 20% Final Discussion - 40%
(7) 成績評価基準
Students are expected to and will be evaluated on their role during in-class discussions and on assigned material as well as their performance on the lesson facilitation and discussion assignments.
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
Broukal, Milada. What A World Reading 1: Amazing Stories from Around the Globe. Pearson Longman. ISBN 978-0-13-247267-8
(11) その他(受講上の注意)
Active participation in class is essential for success in this course. Communicating in English is essential.
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英語Ⅲ b (EnglishⅢ b)			担当教員	M クズイフ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HS-2341	1 単位	3 年後期	演習	選択	
<科目区分> 人間学部学部共通科目 外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
A pre-reading warm-up activity will be held before reading the essay for each unit. Comprehension exercises, including pair-work, will follow the introduction of new vocabulary. After discussing the topic in groups, a short writing exercise will be given. Students will also be responsible for facilitating one lesson from the textbook and completing an original discussion assignment.
(2) 授 業 の 到 達 目 標
The goal of this course is to develop reading and discussion skills. Students will deepen their understanding of the world around them. Students will learn to engage in thoughtful and effective communication that is representative of an increasingly global world.
(3) アクティブラーニング
☐課題解決型学習(PBL) ☒討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐実習、フィールドワーク ☐実験、実技 ☐その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回: Introduction (ディスカッション) 事前学習: 事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第2回: Why Are Rain Forests Important? ① (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第3回: Why Are Rain Forests Important? ② (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第4回: What Is Tornado Alley? ① (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第5回: What Is Tornado Alley? ② (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第6回: Who Was Andrew Carnegie? ① (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第7回: Who Was Andrew Carnegie? ② (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第8回: Why Do People Decorate Their Bodies? ① (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第9回: Why Do People Decorate Their Bodies? ② (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第10回: What Is Canada's Favorite Sport? ① (ディスカッション) 事前学習: 前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)

第11回：What Is Canada's Favorite Sport? ② (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第12回：What's Special About New Zealand? ① (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第13回：What's Special About New Zealand? ② (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第14回：Who Were The Men Sailing Dragon Ships? ① (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第15回：Who Were The Men Sailing Dragon Ships? ② (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) Students are encouraged to consult the Internet for information on topics introduced in the textbook.
(5) 授業形態 [面接授業・遠隔授業]
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
Proactive In-class Participation - 20% Homework - 20% Lesson Facilitation - 20% Final Discussion - 40%
(7) 成績評価基準
Students are expected to and will be evaluated on their role during in-class discussions and on assigned material as well as their performance on the lesson facilitation and discussion assignments.
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
Broukal, Milada. What A World Reading 1: Amazing Stories from Around the Globe. Pearson Longman. ISBN 978-0-13-247267-8
(11) その他(受講上の注意)
Active participation in class is essential for success in this course. Communicating in English is essential.
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

海外語学研修 (Language Study Abroad)			担当教員	M ハウカ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
GE-D-1111 BC-F-2269	4 単位	2 年～ 4 年	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな教養と実際のな知識・技術を修得し、探究的な意欲と協働的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
現地ではホームステイ・クラブ活動も行う。事前授業10回(後期)および事後授業5回(次年度前期)も合わせて受講し、以後の学修・研究のための動機付けを得ることを目指す。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
集中的な英語研修と生活体験を通し、総合的な英語力(読む力・聞く力・話す力・書く力)を向上させることを目的とする。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
事前学習(60時間) ・全体説明会(目的、日程、研修内容、宿泊、準備物[パスポート、航空券、クレジットカードなど]) ・ビザの申請 ・ホストファミリーへの紹介文 ・研修地に関する事前学習 ・場面別英会話の学習 ・プレゼンテーションの準備・練習 ・プレースメントテスト ・経験者の話・質疑応答 ・最終確認 <集中講義(春期休暇中)> 留学(90時間) ・英語の授業(リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング、文法、語彙など) ・学外体験 ・文化施設見学 ・ホストファミリーとの交流(ホームステイ) ・体験ツアー ・歴史、文化授業参加、ディスカッション ・他の大学生との交流 事後学習(30時間) ・研修のふりかえり・レポート ・プレゼンテーション準備 ・体験報告会
(5) 授業形態[面接授業・遠隔授業]
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
事前授業への取り組み(30%)、現地評価(50%)、事後授業の取り組み(20%)を総合評価する。

(7) 成績評価基準
学外における自主的な活動や体験をととして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得できたか。 学修・研究のための動機付けを得て、優れた社会人となるための自己認識を深めることができたか。 ※現地校から発行される成績表も評価に含まれる。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
現地校より指示がある。
(11) その他(受講上の注意)
本科目の履修登録については、担当教員が行うガイダンスおよび本プログラム参加をもって履修登録とするため、通常の受講登録手続きを要しない。 ※授業に参加するには、10月1日までにパスポートを取得する必要があります。 ※すべての予定されている授業に出席することが求められます。無断欠席をした場合、留学の参加ができなくなる可能性があります。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習（インターンシップ） （Fieldwork Practice - Internship）			担当教員	升田 法継、森本 文人	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HS-2360	2 単位	3 年通年	演習	選択	
<科目区分> 人間学部学部共通科目 修学基礎・フィールドワーク科目					
求める学習成果（教育目標）					
大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容	
本授業は、主として「ふくいインターンシップ」プログラム（3年生対象）に沿って、民間企業や各種団体、自治体等における就業体験（原則として5日間）を夏期休業中に行う。インターンシップ参加者（福井県外での参加者含む）は、事前の本学教員および主催者によるガイダンスや面接等を受講し、事後の報告会等に参加することを義務づけ、就業意識の高揚をねらう。※長期コース（原則10日間）や、複数の企業・団体等による就業体験に参加（例：2つの企業・団体等を選択し、10日間の就業体験に参加）することも可能です。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
民間企業や各種団体・自治体等で就業体験（実習）を行い、以後の学習・研究のための動機付けを得ること、また社会人・職業人となるための自己認識、自己啓発につなげること。	
(3) アクティブラーニング	
☐課題解決型学習（PBL） ☐討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐実習、フィールドワーク ☐実験、実技 ☐その他	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
■準備・事前研修期間 4月上旬：本学ガイダンスへの参加（学内実施） 4月上旬：インターンシップ志望動機書の提出（学内実施） 4月下旬：面接（学内実施） ※結果発表：5月上旬 4月下旬：合同ガイダンスへの参加（学外実施） 5月中旬：エントリーシートの提出（学内実施） 6月上旬：本学事前研修会への参加（学内実施） 6月下旬：就業体験先企業・団体の通知（学内実施） 7月中旬：合同事前研修会への参加（学外実施） ■就業体験期間 7月上旬～：就業体験先企業・団体と事前調整 8月上旬～9月下旬：就業体験 ■事後研修期間 10月下旬：合同事後研修会への参加（学外実施）（グループワークおよび発表） 事後学習：授業で課された「インターンシップで学んだこと」について、レポートにまとめておくこと。 11月下旬：レポートの提出（学内実施） ※テーマ：インターンシップで学んだこと ※授業外の基本的な学習（60時間）方法として、就業体験先企業・団体の組織概要や事業内容について調べたり、あらかじめ疑問点を考えておくなどし、問題意識をもって就業体験に参加してください（予習）。また、就業体験、研修の内容や気づいたことなどを整理・確認するなどし、次回プログラムに備えてください（復習）。	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成 績 評 価 方 法	
就業体験先企業・団体の評価（35%）、レポート（30%）、平常点（35%） 平常点は事前研修（ガイダンス・面接を含む）の参加状況、参加意欲（志望動機）等を総合して判断する。	

(7) 成績評価基準
インターンシップ先の研修において、期待される行動・態度がとれているか。 就業体験をととして、今後自己に必要な学習・研究について明確化することができているか。 民間企業や各種団体等での就業体験によって、自己の就業意識を向上することができたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
元情報通信会社管理職(社員数:26万人、主な担当業務:人事、社長・取締役秘書、マーケティング、新規ビジネス開発、システム コンサルタント等) 情報通信会社において、人事や社長・取締役スタッフ経験のある教員が、学生の就業体験にあたっての心構えや留意点についての解説や就業体験後の振り返り(反省・成果の確認)の場を提供するとともに、振り返りを踏まえた今後の課題について、学生生活を関連づけて考えることができるよう促す。
(10) テキスト、参考図書
使用しない。
(11) その他(受講上の注意)
本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の受講登録手続きを要しない。 ・ 受講希望者には、「志望動機書」の提出および面接を行い、就業意欲を認めたうえで実施する。 ・ 授業計画は、協力団体などの都合により、前後したり変更する場合がある。 ・ 第1回キャリアガイダンスにおいてスケジュールなどについて説明するので、必ず出席すること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

心理検査演習 (Training Course of Psychological Testing)			担当教員	吉水　ちひろ、青井　利哉、中尾　繁史	
講義コード	単　　位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-F-2310	2 単位	3 年前期	演習		選択
<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学基礎					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の研究方法与基礎的な知識・技能・技術					

(1) 授 業 の 内 容	
この授業では、心理検査の背景理論や実施方法について学習した後、実際に検査者と被検者の双方を体験する。これを通して、心理検査を正しく理解するだけでなく、その効用と限界の認識、さらに倫理性をわきまえた態度を身につけていく。また、一定の決められた実施法や解釈の仕方などを習得する中で、新たな自分への気づきや他者理解へと繋げることを目的とする。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
・心理検査の種類を理解し、各検査の効用と限界について説明できる。 ・心理検査の実施に際して、実施手順や分析手順を理解し施行できる。 ・心理検査を用いるときの倫理的配慮や注意事項について説明することができる。 ・自分自身の性格を多角的に分析し、他者に説明できる。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
この授業では、さまざまな心理検査について体験的学習を行うためにグループ別にて演習を行う。以下のように4週ごとに異なる検査について学ぶ。 第1回：オリエンテーション 事前学習：心理的アセスメントを振り返り、基礎的な知識の復習をしておく。(2時間) 事後学習：テキストを参照し、質問項目をまとめておく。(2時間) 第2回：アセスメントにおける心理検査法の役割・レポートの書き方についての説明 事前学習：授業のテーマについてテキストを見直し、自分なりの意見をまとめておく。(2時間) 事後学習：関連することを参考文献等で調べ、ポイントを整理しまとめておく。(2時間) 第3回：質問紙法検査(STAI、MAS、CMI)・投映法検査(風景構成法、SCT)・知能検査(WAIS-IV)①実習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておく。(2時間) 第4回：質問紙法検査(STAI、MAS、CMI)・投映法検査(風景構成法、SCT)・知能検査(WAIS-IV)②実習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておく。(2時間) 第5回：質問紙法検査(STAI、MAS、CMI)・投映法検査(風景構成法、SCT)・知能検査(WAIS-IV)③実習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておく。(2時間) 第6回：質問紙法検査(STAI、MAS、CMI)・投映法検査(風景構成法、SCT)・知能検査(WAIS-IV)④実習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておく。(2時間) 第7回：質問紙法検査(STAI、MAS、CMI)・投映法検査(風景構成法、SCT)・知能検査(WAIS-IV)①実習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておく。(2時間) 第8回：質問紙法検査(STAI、MAS、CMI)・投映法検査(風景構成法、SCT)・知能検査(WAIS-IV)②実習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておく。(2時間) 第9回：質問紙法検査(STAI、MAS、CMI)・投映法検査(風景構成法、SCT)・知能検査(WAIS-IV)③実習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておく。(2時間)	

第10回：質問紙法検査（STAI、MAS、CMI）・投映法検査（風景構成法、SCT）・知能検査（WAIS-IV）④実習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておく。（2時間） 第11回：質問紙法検査（STAI、MAS、CMI）・投映法検査（風景構成法、SCT）・知能検査（WAIS-IV）①実習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておく。（2時間） 第12回：質問紙法検査（STAI、MAS、CMI）・投映法検査（風景構成法、SCT）・知能検査（WAIS-IV）②実習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておく。（2時間） 第13回：質問紙法検査（STAI、MAS、CMI）・投映法検査（風景構成法、SCT）・知能検査（WAIS-IV）③実習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておく。（2時間） 第14回：質問紙法検査（STAI、MAS、CMI）・投映法検査（風景構成法、SCT）・知能検査（WAIS-IV）④実習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておく。（2時間） 第15回：演習の振り返りとまとめ 事前学習：これまでの演習を復習しておく。（2時間） 事後学習：授業の到達目標に達しているかを確認する。（2時間） ※各検査の担当者は〔 〕に示す通りである。質問紙法検査〔青井〕、投影法検査〔吉水〕、知能検査〔中尾〕 予習：テキストおよび参考文献を用いて各回で取り上げる心理検査について予習し、基本的な事柄について理解しておくこと。 復習：授業で体験した心理検査を通して、考えたことや感じたことをまとめておくこと。また、授業時間だけでは作業が終わらない場合は、残った作業を遂行して次の授業に臨むこと。	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
授業への参加状況や受講態度（30%）、検査ごとに作成する課題レポート（60%）、演習全体を通した小レポート（10%）などから総合的に評価する。心理検査を用いた演習を行うため、出席状況や受講態度が悪い場合は、厳しく減点する。	
(7) 成績評価基準	
・心理検査の種類を理解し、各検査の効用と限界について説明できるか。 ・心理検査の実施に際して、実施手順や分析手順を理解し施行できるか。 ・心理検査を用いるときの倫理的配慮や注意事項について説明することができるか。 ・自分自身の性格を多角的に分析し、他者に説明できるか。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	
・経歴 (公認心理師、臨床心理士【吉水】) ・実務経験と授業内容との関連性 (公認心理師の教員の指導の下、心理検査法の背景理論や実施方法、効用と限界の認識について理解するために演習を行う。)	
(10) テキスト、参考図書	
各検査毎に必要な資料を配布したり、参考図書を指示する。	

(11) その他(受講上の注意)

- ・実習を含むので、出席と熱心な受講態度を期待する。
- ・自分自身の性格等の自己開示が必要な場合がある。
- ・心理検査の学習者・実施者の倫理（授業時に説明）を守り、検査の知識を安易に使用しないこと。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

心理面接演習 (Training Course of Clinical Interviewing)			担当教員	稲木 康一郎、目黒 達哉	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-F-2312	2 単位	3 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の研究方法与基礎的な知識・技能・技術					

(1) 授 業 の 内 容
心理学分野で用いられる面接法（個人アプローチ・グループアプローチ）について学ぶ。 具体的には、心理面接法に関する基礎知識についての講義を行い、演習によって学生が体験的に学習する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
①心理面接法（個人アプローチ・グループアプローチ）の基本的な理論や技法を理解する。 ②心理面接法を行う際に必要な倫理的態度を理解し、身につける。 ③積極的な演習への参加を通して、人の意見を聞き自分の意見を言える能力を身につける。
(3) アクティブラーニング
□課題解決型学習（PBL） ■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） □発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） □実習、フィールドワーク □実験、実技 ■その他（ロールプレイ）
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
2つのグループ（A・B）が交替で2つの演習（個人アプローチ・グループアプローチ）を行う。 全体の授業計画は以下のとおり。 第1回：（全体授業）オリエンテーション・グループ分け【稲木・目黒】 第2回～第7回：（グループ別）A：個人アプローチ【目黒】、B：グループアプローチ【稲木】 第8回：（全体授業）中間まとめと課題【目黒・稲木】 第9回～第14回：（グループ別）A：グループアプローチ【稲木】、B：個人アプローチ【目黒】 第15回：（全体授業）演習全体のまとめと最終課題【稲木・目黒】 なお、演習の進行状況など、場合によっては、スケジュールが変更されることもあります。 以下に、Aグループの授業計画を示す。 第1回：全体授業 オリエンテーション・グループ分け 事前学習：シラバスを熟読すること。（2時間） 事後学習：講義の内容を各自で復習すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、eラーニングを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第2回：講義 傾聴カウンセリングの理念とスキルについて 事前学習：自分自身について気づきを深め感受性を磨くこと。心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。（2時間） 事後学習：「ふり返し用紙」（講義の内容をまとめる）を提出すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、eラーニングを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第3回：演習 傾聴のスキル ― 受容・くり返し・明確化（ロールプレイ） 事前学習：自分自身について気づきを深め感受性を磨くこと。心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。（2時間） 事後学習：演習の体験と課題について「ふり返し用紙」にまとめ、提出すること。（2時間） 第4回：演習 クライアントの語り、見方・考え方を変えてみる実習、感覚訓練（ロールプレイ） 事前学習：自分自身について気づきを深め感受性を磨くこと。心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。（2時間） 事後学習：演習の体験と課題について「ふり返し用紙」にまとめ、提出すること。（2時間） 第5回：演習 カウンセラーからの質問、自己理解・他者理解（ロールプレイ） 事前学習：自分自身について気づきを深め感受性を磨くこと。心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。（2時間） 事後学習：演習の体験と課題について「ふり返し用紙」にまとめ、提出すること。（2時間）

第6回：演習 沈黙とリード・対話と沈黙（ロールプレイ） 事前学習：自分自身について気づきを深め感受性を磨くこと。心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。（2時間） 事後学習：演習の体験と課題について「ふり返し用紙」にまとめ、提出すること。（2時間）
第7回：演習 実際に悩み、戸惑い、葛藤について話してみる・フリートーク（ロールプレイ） 事前学習：自分自身について気づきを深め感受性を磨くこと。心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。（2時間） 事後学習：演習の体験と課題について「ふり返し用紙」にまとめ、提出すること。（2時間）
第8回：全体授業 中間まとめと課題 事前学習：課題の準備をすること。（2時間） 事後学習：課題の復習をすること。（2時間）
第9回：講義 グループアプローチと多様なエクササイズについて 事前学習：新聞やTV、インターネット上の報道にふれ、社会の動きに関心を深めること。心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。（2時間） 事後学習：講義の内容を各自で復習すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、eラーニングを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
第10回：演習 アイスブレイキング（グループワーク） 事前学習：新聞やTV、インターネット上の報道にふれ、社会の動きに関心を深めること。心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。（2時間） 事後学習：演習の体験について、受講生どうして話し合うこと。（2時間）
第11回：演習 心理劇（グループワーク） 事前学習：新聞やTV、インターネット上の報道にふれ、社会の動きに関心を深めること。心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。（2時間） 事後学習：演習の体験について、受講生どうして話し合うこと。（2時間）
第12回：演習 KJ法（グループワーク） 事前学習：新聞やTV、インターネット上の報道にふれ、社会の動きに関心を深めること。心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。（2時間） 事後学習：演習の体験について、受講生どうして話し合うこと。（2時間）
第13回：演習 ワールドカフェ（討議・ディスカッション） 事前学習：新聞やTV、インターネット上の報道にふれ、社会の動きに関心を深めること。心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。（2時間） 事後学習：演習の体験について、受講生どうして話し合うこと。（2時間）
第14回：演習 地球からの脱出（討議・ディスカッション）・振り返り課題 事前学習：振り返り課題の準備をすること。（2時間） 事後学習：最終課題の準備をすること。（2時間）
第15回：全体授業 演習全体のまとめと最終課題 事前学習：最終課題の準備をすること。（2時間） 事後学習：最終課題の復習をすること。（2時間）

(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕

原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

(6) 成績評価方法

授業への積極的な参加（40%）、および、課題（60%）で評価する。
授業への積極的な参加は、出席・態度・発言・ワークシートの内容などを総合的に評価する。
また、演習形式の授業であるため、授業への欠席や遅刻などは厳重に減点を行う。

(7) 成績評価基準

- ①心理面接法の基礎的かつ実践的な知識が身についているか。
- ②心理面接法を行う際に必要な倫理的態度を理解し、身につけているか。
- ③演習に積極的に参加し、人の意見を聞き自分の意見を言える能力を身につけているか。

(8) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

- 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて
☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 3) 小レポートに対するフィードバックについて
☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 5) その他
☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
・ 経歴 (公認心理師, 臨床心理士) ・ 実務経験と授業内容との関連性 (公認心理師の教員が、心理面接法の基本的な理論や技法、必要な倫理的態度について解説する。)
(10) テキスト、参考図書
テキストはオリエンテーション時に示す。
(11) その他(受講上の注意)
2つのグループに分かれ、交替して、個人アプローチとグループアプローチの2つの演習を行う。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

司法・犯罪心理学 (Forensic and Criminal Psychology)			担当教員	廣井 亮一	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
PS-G-2324	2 単位	3 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の各領域における基礎的かつ一般的な知識					

(1) 授 業 の 内 容
講義内容を3部で構成する。 第1部では、少年犯罪の現状をもとに現代の少年犯罪の特徴を考察する。 第2部では、少年非行の歴史的変遷をもとに、非行や犯罪につながる「攻撃性」の質的変質を説明したうえで、現代の社会問題になっている児童虐待と非行、現代型いじめについて講義する。 第3部では、ストーカー犯罪についての解説を行いながら司法臨床の必要性を明示する。 * 以上について、ワークとディスカッションを行いながら講義をすすめる。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ 非行少年や犯罪者を十分に理解して、彼らの更生の援助ができる。 ・ 人と人との関係性を修復することができる。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：講義の進め方、犯罪心理学への導入 事前学習：授業前にテキストの第6章を読んで、疑問点、各自の考えを整理しておくこと。(2時間) 事後学習：授業の復習を行うこと。授業で課された復習課題をやること。(2時間) 第2回：現代の少年犯罪の特徴 事前学習：前回の授業内容でよく分からない点や質問をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で授業の復習を行うこと。授業で課された復習課題をやること。(2時間) 第3回：少年犯罪の現状 事前学習：前回の授業内容でよく分からない点や質問をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で授業の復習を行うこと。授業で課された復習課題をやること。(2時間) 第4回：非行少年とは 事前学習：前回の授業内容でよく分からない点や質問をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で授業の復習を行うこと。授業で課された復習課題をやること。(2時間) 第5回：少年事件と家庭裁判所、犯罪者と地方裁判所 事前学習：前回の授業内容でよく分からない点や質問をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で授業の復習を行うこと。授業で課された復習課題をやること。(2時間) 第6回：少年非行の歴史的変遷－その1 事前学習：前回の授業内容でよく分からない点や質問をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で授業の復習を行うこと。授業で課された復習課題をやること。(2時間) 第7回：なぜ人を殺してはいけないのか 事前学習：前回の授業内容でよく分からない点や質問をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で授業の復習を行うこと。授業で課された復習課題をやること。(2時間) 第8回：少年非行の歴史的変遷－その2 事前学習：前回の授業内容でよく分からない点や質問をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で授業の復習を行うこと。授業で課された復習課題をやること。(2時間) 第9回：愛着障害と非行－広島少女遺体遺棄事件 事前学習：前回の授業内容でよく分からない点や質問をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で授業の復習を行うこと。授業で課された復習課題をやること。(2時間) 第10回：現代型いじめ 事前学習：テキストの第6章を読んで、疑問点、各自の考えを整理しておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で授業の復習を行うこと。授業で課された復習課題をやること。(2時間)

第11回：現代の子どもの死生観 事前学習：前回の授業内容でよく分からない点や質問をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で授業の復習を行うこと。授業で課された復習課題をやること。（2時間） 第12回：ストーカー犯罪の理解と対応－逗子ストーカー事件をもとに 事前学習：前回の授業内容でよく分からない点や質問をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で授業の復習を行うこと。授業で課された復習課題をやること。（2時間） 第13回：ストーカー犯罪の検証－大阪府警の100ケースをもとに 事前学習：前回の授業内容でよく分からない点や質問をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で授業の復習を行うこと。授業で課された復習課題をやること。（2時間） 第14回：非行・犯罪と攻撃性と依存性 事前学習：前回の授業内容でよく分からない点や質問をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料、ノートで今まで総復習を行うこと。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：テストに備えた学修をすること。（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料、ノートで今まで総復習を行うこと。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
テスト（50％）平常点（50％）：授業態度、出席等
(7) 成績評価基準
・ 非行少年や犯罪者を十分に理解しているか。 ・ 人と人との関係性を修復するために必要な知識を得たか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト：『悪さをしない子は悪人になります』 廣井亮一著 新潮社 2023年1月発行 （＊テキストは予習・復習、講義とテストに使用するので、各自必ず準備すること）
(11) その他(受講上の注意)
授業中のスマホ・携帯は禁止。パソコン使用については講義中に説明する。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育・学校心理学 (Educational and School Psychology)			担当教員	杉島 一郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-G-2332	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の各領域における基礎的かつ一般的な知識					

(1) 授 業 の 内 容
教育現場において生じる問題及びその背景を知り、教育現場における心理社会的課題及び必要な支援を考えていきます。そのために、教育・学校の環境・制度・法律・倫理を知り、現代の学校における問題について考えていきます。また、教育現場において必要な支援を考えるため、その基礎となる発達や教授法、学習の原理、教育現場における心理学的アセスメントを学び、教育分野における心理学的援助の方法について考えていきます。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
①児童・生徒の発達や学習の特徴、障害について、基本的な知識を習得する ②教育心理学の理論や知見を基に学校教育における支援について考えることができる ③現在の教育上の問題について、考察することができる
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：教育・学校心理学とは 事後学習：講義内容でわからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(4時間) 第2回：教育の諸問題 事前学習：前回の授業を復習し、現代の教育問題について考えておくこと。(2時間) 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーやフォーラムを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第3回：発達と教育1 事前学習：2年次に学んだ発達心理学に関わる授業について復習しておくこと(2時間) 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーやフォーラムを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第4回：発達と教育2 事前学習：2年次に学んだ発達心理学に関わる授業について復習しておくこと(2時間) 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーやフォーラムを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第5回：発達と教育3 事前学習：2年次に学んだ発達心理学に関わる授業について復習しておくこと(2時間) 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーやフォーラムを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第6回：動機づけ 事前学習：動機づけについて事前に調べておくこと(2時間) 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーやフォーラムを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第7回：学習指導法 事前学習：高校までに受けた学習指導法について思い出しまとめておくこと(2時間) 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーやフォーラムを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第8回：問題解決 事前学習：知覚・認知心理学において学んだ思考について復習しておくこと(2時間) 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーやフォーラムを利用して担当教員に質問すること。(2時間)

第9回：教育評価 事前学習：心理的アセスメントにおいて学んだ内容について復習しておくこと（2時間） 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーやフォーラムを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第10回：知能検査 事前学習：心理的アセスメントにおいて学んだ内容について復習しておくこと（2時間） 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーやフォーラムを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第11回：学級集団の心理学 事前学習：高校までのクラスのことを思い出し、小・中・高におけるクラスのちがいについてまとめておくこと（2時間） 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーやフォーラムを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第12回：不適応行動 事前学習：場面緘黙や吃音、学習障害について調べておくこと（2時間） 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーやフォーラムを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第13回：不登校の理解 事前学習：不登校について調べておくこと（2時間） 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーやフォーラムを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第14回：発達障害の理解 1 事前学習：発達障害について調べておくこと（2時間） 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーやフォーラムを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第15回：発達障害の理解 2 事前学習：発達障害について調べておくこと（2時間） 事後学習：復習し、わからないところを図書館で調べたり、オフィスアワーやフォーラムを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第16回：期末テスト 日頃から教育に関連する書籍・新聞を読み、興味を持って授業に臨むこと
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
成績評価は、①授業毎に課される課題の内容（30%）、②期末試験（70%）で総合的に評価をする。
(7) 成績評価基準
①児童・生徒の発達や学習の特徴、障害について、基本的な知識を習得したか ②教育心理学の理論や知見を基に学校教育における支援について考えることができるか ③現在の教育上の問題について、考察することができるか
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキストは使用しない。eラーニングに授業で用いるスライドや参考資料のPDFを掲載する。

(11) その他(受講上の注意)

- ・毎回の講義の資料はE-learning上に掲載しておくので、資料を見ながら授業に参加できるよう準備をすること。
- ・毎回の講義でリアクションペーパーによる小レポートの提出を求める。
- ・講義では、自分の意見をまとめ表現できるよう心がけてほしい。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

交通心理学 (Traffic Psychology)			担当教員	森本 文人	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
PS-G-2337	2 単位	3 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の各領域における基礎的かつ一般的な知識					

(1) 授 業 の 内 容
交通心理学の主な目標のひとつは、車社会における道路利用者の安全と事故の防止である。交通場面での安全確保と発生する事故の防止のためには、それらにつながる人的要因とそれ以外の要因について、心理学領域より明らかにされてきた事象を理解し、有効に活用することが求められる。 本授業では、交通心理学の歴史を紹介し、得られた研究成果をもとに、上記の目標につながる知見を獲得する。また地域の抱える交通問題や現代の交通事情についての理解を深めていく。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
■交通心理学の基礎的な概念と主要な研究成果について理解する。 ■事故防止などの社会的問題の解決に向けて交通心理学の果たす役割・手法について理解する。 ■福井の交通事情における地域特有の問題について説明できる。
(3) アクティブラーニング
☐課題解決型学習（PBL） ☒討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐実習、フィールドワーク ☐実験、実技 ☐その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：交通心理学概説1 事前学習：なし 事後学習：授業で紹介されたスライドおよび板書に基づいて、その内容を各自で整理する。（2時間） 第2回：交通心理学概説2 事前学習：前回の内容を復習し、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：授業で紹介されたスライドおよび板書に基づいて、その内容を各自で整理する。（2時間） 第3回：ドライバーの知覚・認知・応答特性 事前学習：前回の内容を復習し、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：授業で紹介されたスライドおよび板書に基づいて、その内容を各自で整理する。（2時間） 第4回：外界からの情報入力～運動出力 事前学習：前回の内容を復習し、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：授業で紹介されたスライドおよび板書に基づいて、その内容を各自で整理する。（2時間） 第5回：事故につながるリスクを好む行動傾向 事前学習：前回の内容を復習し、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：授業で紹介されたスライドおよび板書に基づいて、その内容を各自で整理する。（2時間） 第6回：運転支援システム 事前学習：前回の内容を復習し、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：授業で紹介されたスライドおよび板書に基づいて、その内容を各自で整理する。（2時間） 第7回：運転適性 事前学習：前回の内容を復習し、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：授業で紹介されたスライドおよび板書に基づいて、その内容を各自で整理する。（2時間） 第8回：運転に必要な「注意」1 事前学習：前回の内容を復習し、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：授業で紹介されたスライドおよび板書に基づいて、その内容を各自で整理する。（2時間） 第9回：運転に必要な「注意」2 事前学習：前回の内容を復習し、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：授業で紹介されたスライドおよび板書に基づいて、その内容を各自で整理する。（2時間） 第10回：運転に必要な「注意」3 事前学習：前回の内容を復習し、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：授業で紹介されたスライドおよび板書に基づいて、その内容を各自で整理する。（2時間）

第11回：地域の交通心理学（福井の交通事情） 事前学習：前回の内容を復習し，質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：授業で紹介されたスライドおよび板書に基づいて，その内容を各自で整理する。（2時間） 第12回：高齢者と子どもの交通心理学 事前学習：前回の内容を復習し，質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：授業で紹介されたスライドおよび板書に基づいて，その内容を各自で整理する。（2時間） 第13回：あおり運転について考える1 事前学習：前回の内容を復習し，質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：授業で紹介されたスライドおよび板書に基づいて，その内容を各自で整理する。（2時間） 第14回：あおり運転について考える2 事前学習：前回の内容を復習し，質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：授業で紹介されたスライドおよび板書に基づいて，その内容を各自で整理する。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：前回の内容を復習し，質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：授業で紹介されたスライドおよび板書に基づいて，その内容を各自で整理する。（4時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 定期試験（80％）平常点（20％） （平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します）
(7) 成績評価基準 ☒ 交通心理学の基礎的な概念と主要な研究成果について理解したか。 ☒ 事故防止などの社会的問題の解決に向けて交通心理学の果たす役割・手法について理解したか。 ☒ 福井の交通事情における地域特有の問題について説明できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 テキストは使用しない。
(11) その他(受講上の注意) 心理学の応用領域を身近な問題と捉えて理解を深めて欲しい。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

スポーツ心理学 (Sport Psychology)			担当教員	野田 政弘	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
PS-G-2338	2 単位	3 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の各領域における基礎的かつ一般的な知識					

(1) 授 業 の 内 容
スポーツ心理学は応用科学としてスポーツ行動における心理学的事象を解明し、それらに対処できるようにすることを目的としたものである。スポーツ全般における心理学的な諸問題を取りあげ今日までの研究成果に基づいて学習する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
スポーツ心理学の各領域（運動心理学、競技スポーツ心理学、健康スポーツ心理学、アダプテッドスポーツ心理学）の内容について理解し説明できる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☐ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他（授業の最後に今回の内容について意見を交換する）
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：運動制御における感覚・知覚・認知の役割（意見交換） 事前学習：テキストの第1章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキストの見直しや関連項目について図書館等で調べておくこと。（2時間） 第2回：運動技能の学習理論と学習方法 事前学習：テキストの第2章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキストの見直しや関連項目について図書館等で調べておくこと。（2時間） 第3回：運動の学習・指導に用いるフィードバック 事前学習：テキストの第3章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキストの見直しや関連項目について図書館等で調べておくこと。（2時間） 第4回：運動の学習におけるダイナミカルシステムアプローチ 事前学習：テキストの第4章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキストの見直しや関連項目について図書館等で調べておくこと。（2時間） 第5回：注意集中・プレッシャーと運動パフォーマンス 事前学習：テキストの第5章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキストの見直しや関連項目について図書館等で調べておくこと。（2時間） 第6回：体育・スポーツにおける動機づけ 事前学習：テキストの第6章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキストの見直しや関連項目について図書館等で調べておくこと。（2時間） 第7回：体育学習における児童・生徒の心理、教師の働きかけ 事前学習：テキストの第7章、第8章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキストの見直しや関連項目について図書館等で調べておくこと。（2時間） 第8回：スポーツチームの社会心理 事前学習：テキストの第9章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキストの見直しや関連項目について図書館等で調べておくこと。（2時間） 第9回：スポーツチームへのコーチング 事前学習：テキストの第10章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキストの見直しや関連項目について図書館等で調べておくこと。（2時間） 第10回：スポーツ・運動とメンタルヘルス 事前学習：テキストの第11章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキストの見直しや関連項目について図書館等で調べておくこと。（2時間） 第11回：スポーツと運動による行動変容 事前学習：テキストの第12章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキストの見直しや関連項目について図書館等で調べておくこと。（2時間）

第12回：スポーツ・運動とパーソナリティ 事前学習：テキストの第13章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキストの見直しや関連項目について図書館等で調べておくこと。（2時間） 第13回：スポーツ・運動による心理的な成長と発達、アダプテッド・スポーツの心理学 事前学習：テキストの第14章、第15章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキストの見直しや関連項目について図書館等で調べておくこと。（2時間） 第14回：スポーツメンタルトレーニング、個人に対するスポーツメンタルトレーニング、集団スポーツに対するスポーツメンタルトレーニング 事前学習：テキストの第15章、第16章、第17章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキストの見直しや関連項目について図書館等で調べておくこと。（2時間） 第15回：スポーツカウンセリング、アスリートの心理的問題と回復 事前学習：テキストの第18章、第19章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：テキストの見直しや関連項目について図書館等で調べておくこと。（2時間） 第16回：定期試験 各回の講義の前にテキストを読んで概要を把握し、疑問点を整理しておく。 講義の後は、ノートや配布資料を見直して復習しておく。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（70%）、レポート（30%）。
(7) 成績評価基準
スポーツ心理学の各領域（運動心理学、競技スポーツ心理学、健康スポーツ心理学、アダプテッドスポーツ心理学）の内容について理解し説明できる。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
國部雅大編著「これからの体育・スポーツ心理学」講談社 2023
(11) その他(受講上の注意)
スポーツや運動に関するできごとや情報に積極的に関心に向けること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

臨床心理学演習 (Training Course of Clinical Psychology)			担当教員	渡辺 克徳、目黒 達哉	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-API-2355	2 単位	3 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 臨床系					
求める学習成果(教育目標)					
教育・医療・福祉現場等における他者理解に基づく相談・援助の方法 心や人間関係に基づく諸問題に対する、客観的で論理的な思考力・判断力・表現力 人間の心理と問題に対する高い関心、解決して社会に貢献する意欲、協働して対処する主体的な態度					

(1) 授 業 の 内 容
2クラスに分かれ前後半6回ごとに、いずれかの教員の指導のもと、ペアまたは少人数のグループで、いろいろな対話や表現を体験する。これらの体験を通して、自己理解・他者理解を促すとともに、傾聴などカウンセリング等の対人援助の基本的態度を身に付ける。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
カウンセリングにおける話の聴き方の基本を理解する。 自分自身のコミュニケーションの特徴について理解する。 ものの捉え方や考え方、コミュニケーションの仕方などの多様性について考える。 他者と円滑にコミュニケーションできる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 【担当： 渡辺、目黒 】 事前学習：自分自身について気づきを深め感受性を磨くために、該当する心理学領域のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習：講義の内容を各自で復習すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第2回：自他理解のためのグループ体験① 【担当： 渡辺 】グループワーク・発表を行う。 事前学習：自分自身について気づきを深め感受性を磨くために、該当する心理学領域のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習：講義の内容を各自で復習すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第3回：自他理解のためのグループ体験② 【担当： 渡辺 】グループワーク・発表を行う。 事前学習：自分自身について気づきを深め感受性を磨くために、該当する心理学領域のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習：講義の内容を各自で復習すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第4回：自他理解のためのグループ体験③ 【担当： 渡辺 】グループワーク・発表を行う。 事前学習：自分自身について気づきを深め感受性を磨くために、該当する心理学領域のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習：講義の内容を各自で復習すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第5回：自他理解のためのグループ体験④ 【担当： 渡辺 】グループワーク・発表を行う。 事前学習：自分自身について気づきを深め感受性を磨くために、該当する心理学領域のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習：講義の内容を各自で復習すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第6回：自他理解のためのグループ体験⑤ 【担当： 渡辺 】グループワーク・発表を行う。 事前学習：自分自身について気づきを深め感受性を磨くために、該当する心理学領域のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習：講義の内容を各自で復習すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)

- 第7回：自他理解のためのグループ体験⑥【担当： 渡辺 】グループワーク・発表を行う。
事前学習：自分自身について気づきを深め感受性を磨くために、該当する心理学領域のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。（2時間）
事後学習：講義の内容を各自で復習すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
- 第8回：集団の意思決定のためのグループ体験（全体）【担当： 渡辺・目黒 】グループワーク・発表を行う。
事前学習：自分自身について気づきを深め感受性を磨くために、該当する心理学領域のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。（2時間）
事後学習：講義の内容を各自で復習すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
- 第9回：箱庭療法① 講義 箱庭療法とイメージ【担当： 目黒 】
事前学習：箱庭療法について積極的に関心をもち、関連する図書を読んでみる。（2時間）
事後学習：講義の内容を各自で復習すること。わからないところがあったら、図書館で調べるか、オフィスアワーを利用して担当教員に質問する。（2時間）
- 第10回：箱庭療法② 演習 グループによる箱庭作り【担当： 目黒 】グループワーク・発表を行う。
事前学習：自分自身について気づきを深め感受性を磨くこと。（2時間）
事後学習：演習で体験した内容や感じたこと、考えたことをノートにまとめる。（2時間）
- 第11回：箱庭療法③ 演習 箱庭を作る・見守る・解釈する【担当： 目黒 】グループワーク・発表を行う。
事前学習：どのような箱庭を作りたいのか、各自でイメージしてくる。（2時間）
事後学習：演習で体験した内容や感じたこと、考えたことをノートにまとめる。（2時間）
- 第12回：箱庭療法④ 演習 夢と箱庭【担当： 目黒 】グループワーク・発表を行う。
事前学習：自分が見た夢について思い出、ストーリーをまとめてくる。（2時間）
事後学習：演習で体験した内容や感じたこと、考えたことをノートにまとめる。（2時間）
- 第13回：絵画療法① 講義・演習 バウムテストによる自己分析【担当： 目黒 】
事前学習：バウムテストについて関連する文献、図書を読んでみる。（2時間）
事後学習：講義内容を各自で復習し、また、自己分析の結果から学んだこと、感じたことをまとめてみる。（2時間）
- 第14回：絵画療法② 演習 バウムテストを指標とした摂食障害の事例研究【担当： 目黒 】グループワーク・発表を行う。
事前学習：摂食障害について文献、図書を読んでみる。（2時間）
事後学習：事例研究から学んだこと、感じたことをまとめてみる。（2時間）
- 第15回：まとめと振り返り（全体）【担当： 渡辺・目黒 】グループワーク・発表を行う。
事前学習：これまでに体験した言語的アプローチ、表現芸術アプローチについて振り返ってみる。（2時間）
事後学習：演習で体験した内容や感じたこと、考えたことをノートにまとめる。（2時間）
- ※第1回の際にクラス分けを行う。第2回～第8回（前半）と第9回～第15回（後半）でそれぞれに異なる担当教員のもとで演習を行う。渡辺（言語的アプローチ）、目黒（表現芸術アプローチ）

(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕

原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

(6) 成績評価方法

授業中に課す課題（60%）と授業への参加態度（40%）で評価する。
授業への参加態度については、演習活動への積極性や授業中の発言の内容などから総合的に評価する。
体験型学習ですので出席を重視し、欠席は厳しく減点する。

(7) 成績評価基準

カウンセリングにおける話の聴き方の基本について説明できるか。また、それを模擬的に実践できるか。
自分自身の考え方やコミュニケーションなどの特徴について説明できるか。
考え方やコミュニケーションの仕方の多様性について考えられるか。
他者と円滑にコミュニケーションが行えるか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性) ・ 経歴 (公認心理師, 臨床心理士) ・ 実務経験と授業内容との関連性 (公認心理師の教員が、教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得するために演習を行う。)
(10) テキスト、参考図書 授業時に資料を配付する。 そのほか、参考書については、授業時に随時、紹介する。
(11) その他(受講上の注意) 授業の中で状況に応じて、自分の感じたことや考えたことについて他者に話してもらうことがある。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

心理学的支援法 (Methods of Psychological Support)			担当教員	西村 則昭	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-APO-2351	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 臨床系					
求める学習成果(教育目標)					
教育・医療・福祉現場等における他者理解に基づく相談・援助の方法 心や人間関係に基づく諸問題に対する、客観的で論理的な思考力・判断力・表現力					

(1) 授 業 の 内 容
無意識に着目する、フロイト以来の深層心理学的(力動的)心理療法を中心に学習する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ 無意識について実感をもって理解し、人間存在をより深く理解することができる。 ・ 自己の無意識を見つめ、自分の将来像や人生設計を構築することができる。 ・ 無意識の問題が心の病理と本質的な繋がりのあることを理解し、心を病んだ人の気持ちを理解し、寄り添うことができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 事前学習：テキストの著者である山中康裕と、力動的的心理療法について調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第2回：攻撃性退行から道づくりへ1 事前学習：テキストのpp.3-9を読んでおくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第3回：攻撃性退行から道づくりへ2 事前学習：テキストのpp.9-13を読んでおくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第4回：攻撃性退行から道づくりへ3(授業の終わりに小レポートを書いてもらう) 事前学習：テキストのpp.13-25を読んでおくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第5回：緘黙の入口と出口1 事前学習：テキストのpp.26-32を読んでおくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第6回：緘黙の入口と出口2 事前学習：テキストのpp.32-48を読んでおくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第7回：反対の国からの帰還1 事前学習：テキストのpp.49-67を読んでおくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第8回：反対の国からの帰還2 事前学習：テキストのpp.67-78を読んでおくこと。(2時間) 事後学習：テキスト等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)

第9回：反対の国からの帰還3（授業の終わりに小レポートを書いてもらう） 事前学習：テキストのpp.78－106を読んでおくこと。（2時間） 事後学習：テキスト等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第10回：死者たちへの鎮魂歌 事前学習：テキストのpp.107－114を読んでおくこと。（2時間） 事後学習：テキスト等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第11回：赤鬼・青鬼の夢 事前学習：テキストのpp.115－125を読んでおくこと。（2時間） 事後学習：テキスト等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第12回：『あんたお母さんじゃない』 事前学習：テキストのpp.126－137を読んでおくこと。（2時間） 事後学習：テキスト等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第13回：写真を媒体にした精神療法1 事前学習：テキストのpp.138－152を読んでおくこと。（2時間） 事後学習：テキスト等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第14回：写真を媒体にした精神療法2（授業の終わりに小レポートを書いてもらう） 事前学習：テキストのpp.152－173を読んでおくこと。（2時間） 事後学習：テキスト等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第15回：文通の中で自己を発見 事前学習：テキストのpp.174－205を読んでおくこと。（2時間） 事後学習：テキスト等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 最終レポート（50%） 小レポート（30%） 平常点（20%） （平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問等を総合して判断します）
(7) 成績評価基準 ・力動的心理療法の考え方を正しく理解し、他の心理療法（特に「科学的」な心理療法）との違いを説明できるか。 ・無意識という概念を正しく理解し、それを組み込んだ人生観や世界観を持つことができるか。 ・心を病んだ人のことを適切に理解し、その心に寄り添う姿勢を持つことができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 テキスト：山中康裕・『少年期の心』・中公新書・1978年 参考図書：西村則昭・『アニメと思春期のころ』・創元社・2004年

(11) その他(受講上の注意)
質問はメールでも受け付けます (nisimura@jindai.ac.jp)。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

精神疾患とその治療Ⅰ (Psychiatric Disorders and TreatmentsⅠ)			担当教員	今井田 貴裕	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-APO-2353	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 臨床系					
求める学習成果(教育目標)					
教育・医療・福祉現場等における他者理解に基づく相談・援助の方法 心や人間関係に基づく諸問題に対する、客観的で論理的な思考力・判断力・表現力					

(1) 授 業 の 内 容
本科目では、心理学としての精神疾患について学んでいく。精神疾患を精神医学的視点から解説し、精神症状や精神疾患の各症状について解説する。理解度の確認のために、関連事例の紹介を行い理解を深めていく。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・心理学としての精神疾患を理解できる。 ・複数の精神疾患に対して説明することができる。 ・医療現場における心理職の在り方を説明できる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：精神疾患とは 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと(2時間) 第2回：精神症状のみかた 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと(2時間) 第3回：精神疾患の診断 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと(2時間) 第4回：精神疾患と薬物療法 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと(2時間) 第5回：心理療法・支援の基本 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと(2時間) 第6回：多職種連携とリエゾン精神医学 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと(2時間) 第7回：精神疾患①統合失調症 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと(2時間)

第8回：精神疾患②うつ病・双極症 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間） 第9回：精神疾患③強迫症・不安症群 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間） 第10回：精神疾患④ストレス関連症群 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間） 第11回：精神疾患⑤神経発達症群 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間） 第12回：精神疾患⑥物質関連症など 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間） 第13回：精神疾患⑦食行動症及び摂食症群 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間） 第14回：ジェンダーに関する問題 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間） 第15回：高齢期における問題 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間） 第16回：定期試験 授業の進み方は、内容により前後することがあります。必ず授業に出席し、授業内容と配布するプリントに基づき、復習として各自のノートに授業内容をまとめておくこと。	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
成績評価は、授業内の課題（30%）や、期末試験（70%）により総合的に評価をする。	
(7) 成績評価基準	
・心理学としての精神疾患を理解できているか ・複数の精神疾患に対して説明することができるか ・医療現場における心理職の在り方を説明できるか	

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☒ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(解答を配る) 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
授業ごとに資料を配付する。 テキストは特に設けない。参考文献については授業内で適宜紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
・毎回の講義の資料はE-learning上に掲載しておくので、ダウンロードやプリントアウトをして、資料を見ながら授業に参加できるよう準備をすること。 ・毎回の講義でE-Learning上に掲載した小テストを課す。この小テストの受験と成績を出席の参考とする。必ずE-Learningにアクセスできるノートパソコン・タブレット・スマホを準備して講義に臨むこと。 ・講義では、自分の意見をまとめ表現できるよう心がけてほしい。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

精神疾患とその治療Ⅱ (Psychiatric Disorders and TreatmentsⅡ)			担当教員	今井田 貴裕	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-APO-2354	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 臨床系					
求める学習成果(教育目標)					
教育・医療・福祉現場等における他者理解に基づく相談・援助の方法 心や人間関係に基づく諸問題に対する、客観的で論理的な思考力・判断力・表現力					

(1) 授 業 の 内 容
本講義では、精神疾患に対して、心理療法を中心に学んでいく。 精神疾患をトラウマや解離の視点から解説し、伝統的な技法から最新の心理療法までできる限り網羅して解説する。 理解度の確認のために、関連事例の紹介を行い理解を深めていく。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・精神疾患について理解する視点を獲得する。 ・精神疾患に対する複数の心理支援を説明することができる。 ・心理職として、精神疾患に対応した適切な心理療法を選ぶ姿勢を獲得する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと(2時間) 第2回：トラウマ関連疾患1 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと(2時間) 第3回：トラウマ関連疾患2 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと(2時間) 第4回：トラウマ関連疾患3 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと(2時間) 第5回：トラウマ関連疾患4 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと(2時間) 第6回：トラウマ関連疾患5 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと(2時間) 第7回：解離1 事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと(2時間)

第8回：解離2	事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間）
第9回：解離3	事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間）
第10回：トラウマ・解離に関する心理支援1	事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間）
第11回：トラウマ・解離に関する心理支援2	事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間）
第12回：トラウマ・解離に関する心理支援3	事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間）
第13回：トラウマ・解離に関する心理支援4	事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間）
第14回：トラウマ・解離に関する心理支援5	事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間）
第15回：まとめ	事前学習：事前にE-Learning上に配付資料を提示しておく。各自プリントアウトし、内容を読み質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間）
第16回：定期試験	授業の進み方は、内容により前後することがあります。必ず授業に出席し、授業内容と配布するプリントに基づき、復習として各自のノートに授業内容をまとめておくこと。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
成績評価は、授業内の課題（30%）や、期末試験（70%）により総合的に評価をする。	
(7) 成績評価基準	
・精神疾患についてトラウマ理論における視点から理解する視点を獲得できているか ・精神疾患に対する複数の心理支援を説明することができるか。 ・心理職として、精神疾患に対応した適切な心理療法を選ぶ姿勢を獲得できているか	

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☒ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(解答を配る) 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
授業ごとに資料を配付する。 テキストは特に設けない。参考文献については授業内で適宜紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
・毎回の講義の資料はE-learning上に掲載しておくので、ダウンロードやプリントアウトをして、資料を見ながら授業に参加できるよう準備をすること。 ・毎回の講義でE-Learning上に掲載した小テストを課す。この小テストの受験と成績を出席の参考とする。必ずE-Learningにアクセスできるノートパソコン・タブレット・スマホを準備して講義に臨むこと。 ・講義では、自分の意見をまとめ表現できるよう心がけてほしい。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

深層心理学 (Depth Psychology)			担当教員	西村 則昭	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
PS-APO-2352	2 単位	3 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 臨床系					
求める学習成果(教育目標)					
教育・医療・福祉現場等における他者理解に基づく相談・援助の方法 心や人間関係に基づく諸問題に対する、客観的で論理的な思考力・判断力・表現力					

(1) 授 業 の 内 容
「本当の自分」とは何か、深層心理学の立場から考える。さらに禅仏教の観点を学びつつ、深層心理学のいっそう深い理解を目指す。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・「本当の自分」とか「本当の幸福」が何か、自ら論理的(心理学的=哲学的)に考え、イメージとしても思い描くことができる。 ・本来的自己と非本来的自己、性別など、アイデンティティの問題について自ら考えたことに基づいて、自分の将来像や人生設計を構築することができる。 ・アイデンティティの問題が心の病理と本質的な繋がりのあることを理解し、心を病んだ人の気持ちを理解し、寄り添うことができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 事前学習：フロイト、ユング、ラカン、そして鈴木大拙のことをインターネット等で調べ、自分の心理傾向に関していろいろと振り返っておくこと。(2時間) 事後学習：教科書(序)および資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第2回：同一化 事前学習：ラカンの症例エメについて、インターネット等で調べておくこと。(2時間) 事後学習：資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第3回：無意識と現実界 事前学習：教科書(第一章)を読んでおくこと。(2時間) 事後学習：教科書(第一章)および資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第4回：現実界と哲学 事前学習：教科書(第二章)を読んでおくこと。(2時間) 事前学習：教科書(第二章)および資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第5回：無気味なもの 事前学習：フロイトの論文「無気味なもの」について、インターネット等で調べておくこと。(2時間) 事後学習：資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第6回：写真論 事前学習：写真家のアッジェおよびアーバスについて、インターネット等で調べておくこと。(2時間) 事後学習：資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第7回：ファッション論 事前学習：デザイナーのシャネルおよび川久保玲について、インターネット等で調べておくこと。(2時間) 事後学習：資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)

第8回：人間的主体の生成過程 1 事前学習：教科書（第三章 1 と 2）を読んでおくこと。（2 時間） 事後学習：教科書（第三章 1 と 2、第七章）および資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2 時間） 第9回：鏡像段階の危機的状況 事前学習：ラカンの「双数的関係」と「寸断された身体」について、インターネット等で調べておくこと。（2 時間） 事後学習：資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2 時間） 第10回：人間的主体の生成過程 2 事前学習：教科書（第三章 3 と 4）を読んでおくこと。（2 時間） 事後学習：教科書（第三章 3 と 4、第九章）および資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2 時間） 第11回：人間的主体の生成過程 3 事前学習：教科書（第三章 5, 6, 7）を読んでおくこと。（2 時間） 事後学習：教科書（第三章 5, 6, 7、第八章）および資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2 時間） 第12回：精神分析の目標 事前学習：教科書（第四章）を読んでおくこと。（2 時間） 事後学習：教科書（第四章）および資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2 時間） 第13回：性別 事前学習：資料をよく読んで、性別に関する自分の考えをまとめておくこと。（2 時間） 事後学習：資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2 時間） 第14回：禅に学ぶ精神分析 1 事前学習：教科書（第五章、第六章）を読んでおくこと。（2 時間） 事後学習：教科書（第五章、第六章）および資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2 時間） 第15回：禅に学ぶ精神分析 2 事前学習：教科書（第十章、第十一章）を読んでおくこと。（2 時間） 事後学習：教科書（第十章、第十一章）および資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2 時間）	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
最終レポート (70%)、小レポート (20%)、平常点 (10%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問等を総合して判断します)	
(7) 成績評価基準	
・ 深層心理学の考え方を自ら思索し直しつつ、「本当の自分」や「本当の幸福」を思索できるか。 ・ その上で、自分の将来像や人生設計を構築し、その意義を論理的 (心理学的 = 哲学的) に説明することができるか。 ・ 心を病む人におけるアイデンティティの問題が何かを理解し、その心に寄り添う姿勢を持つことができるか。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験 (レポート試験を含む) に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他	

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキストは西村則昭『禅に学ぶ精神分析』(法蔵館)を使用する。資料は適宜仁大eラーニングにアップする。
(11) その他(受講上の注意)
質問はメールでも受け付けます(nisimura@jindai.ac.jp)。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

生理心理学実習 (Training Course of Physiological Psychology)			担当教員	水田 敏郎、大森 慈子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-BPI-2363	2 単位	3 年前期	実習		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 行動・支援系					
求める学習成果(教育目標)					
医療・福祉分野等で心理的および行動的側面から生活支援を行える力 心や人間関係に基づく諸問題に対する、客観的で論理的な思考力・判断力・表現力 人間の心理と問題に対する高い関心、解決して社会に貢献する意欲、協働して対処する主体的な態度					

(1) 授 業 の 内 容
心理学、特に生理心理学的実験研究の全過程について実習を行う。実験に関連した文献研究、問題設定、実験計画の立案と実行、さらに分析と結果に対する考察すべてを行う。特定の心理機能に注目し、その働き、メカニズムや変化を反映する指標とその記録や分析の方法を実習を通じて学ぶ。本授業では、感情・コミュニケーション・言語・注意・認知・記憶などの心理機能を主題として扱う。実験上の独立変数は先行研究(文献)の講読を通じて学生自身が選択し、従属変数にはテーマに即した生理心理学的指標、各種行動指標、質問紙などによる認知尺度を用いる。これらの過程で、生理心理学実験で用いる機器・装置類の取り扱い方や、各種刺激づくりを学生自らが体験、習得する。また、実験内容をレポートにまとめ、最終発表会を行うことで論文作成とプレゼンテーションのスキルを培う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
■先行研究等を参考に自ら進んで課題を設定する。 ■実験に必要な事項を理解し、実験計画を立案することができる。 ■実験の実施にあたって、履修者同士が協力して実行することができる。 ■生理心理学的指標を中心に、様々な心理機能の評価に適した従属変数や尺度を用いることができる。 ■実験結果に対して理論的に考察をすることができる。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク ■実験、実技 □その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：・オリエンテーション 事前学習：「心理学実験」や「心理測定実習」で学習したことを見直し、質問項目をまとめておく。(1時間) 事後学習：生理心理学実験と一般の心理学実験の共通点と相違点についてまとめておく。(1時間) 第2回：・生理心理学実験の基礎とその技術①「ヒトの生理反応のメカニズムと心理的意義について」 事前学習：生体反応と行動の測定を熟読し、確認テスト(第3回の授業中に実施)の予習をする。(1時間) 事後学習：生体反応と行動の測定の解説部分を振り返り、ノートにまとめる。(1時間) 第3回：・生理心理学実験の応用とその技術②「ヒトの生理反応の記録方法について」 事前学習：生体反応と行動の測定を熟読し、確認テスト(第3回の授業中に実施)の予習をする。(1時間) 事後学習：確認テストの内容、生体反応と行動の測定の解説部分を振り返り、ノートにまとめる。(1時間) 第4回：・生理心理学実験に関する文献検索と講読(目的と実験計画の設定のためのグルーピング*1)(PBL、討議) A(感情・コミュニケーション・言語) B(注意・認知・記憶) *1：学生は4～5人のグループに分かれ、上記AまたはBの中からテーマを選び実験計画を立て、実験を実施する。 事前学習：文献を講読し、内容をまとめレジュメを作成する。質問をまとめておく。(1時間) 事後学習：文献を講読で出された質問や議論をまとめておく。実験の計画の草案を立てる。(1時間) 第5回：・コンピュータによる実験刺激の作製①(PBL、グループワーク) ・実験計画の立案と発表①(発表) 事前学習：実験計画の立案、レジュメ作成。(1時間) 事後学習：実験計画の立案発表で出された質疑をまとめる。コンピュータによる刺激づくりの復習。(1時間) 第6回：・コンピュータによる実験刺激の作製②(PBL、グループワーク) ・実験計画の立案と発表②(発表) ・レポートの書き方①(序論、目的の組み立てについて) 事前学習：実験計画の立案、レジュメ作成。(1時間) 事後学習：レポートの「第1章 序論」の作製。(1時間)

- 第7回：・予備実験①(実験、グループワーク)
・生理心理学的指標のデータ分析方法の説明と実施①
・レポートの書き方②(方法について)
事前学習：生理心理学的指標のデータ分析方法を予習し質問をまとめておく。(1時間)
事後学習：レポートの「第2章 方法」の作製。(1時間)
- 第8回：・予備実験②(実験、グループワーク)
・生理心理学的指標のデータ分析の実施②
・行動指標・認知系尺度の分析・実験計画の立案、発表と決定③(発表)
事前学習：予備実験に必要な書類、器具、機器設定の準備。実験計画の立案、レジュメ作成。(1時間)
事後学習：実験計画の最終修正。(1時間)
- 第9回：・本実験①(実験、グループワーク)
生理心理学的指標、行動指標、認知系尺度(質問紙)を全グループが記録・分析する。
事前学習：本実験に必要な書類、器具、機器設定の準備。(1時間)
事後学習：実験データの分析。(1時間)
- 第10回：・本実験②(実験、グループワーク)
・本実験のデータ分析①
事前学習：本実験に必要な書類、器具、機器設定の準備。(1時間)
事後学習：実験データの分析。(1時間)
- 第11回：・本実験③(実験、グループワーク)
・本実験のデータ分析②
事前学習：本実験に必要な書類、器具、機器設定の準備。(1時間)
事後学習：実験データの分析。(1時間)
- 第12回：・本実験のデータ分析③(実験・実技、グループワーク)
・結果の中間報告
事前学習：中間報告に必要なレジュメ類の準備。(1時間)
事後学習：実験データの分析。(1時間)
- 第13回：・研究発表会の準備
・抄録の書き方
事前学習：抄録の書き方の予習と質問をまとめておく。(1時間)
事後学習：研究発表会の準備。(1時間)
- 第14回：・研究発表会の予行演習(発表、グループワーク)
・効果的なプレゼンテーションについて
事前学習：研究発表会の予行演習に必要なレジュメ類の準備。(1時間)
事後学習：研究発表会の予行演習で指摘された課題の修正。(1時間)
- 第15回：・研究発表会(プレゼンテーション・ソフトを使用)(発表、グループワーク)
事前学習：研究発表会に必要なレジュメ類の準備。(1時間)
事後学習：レポート・抄録作成。(1時間)
- 全15回すべてを2名の教員が担当する。
第4回：以降は上のA、Bのテーマ別のグループを教員1名づつがついて指導する。

(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕

原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

(6) 成績評価方法

レポート(60%) 平常点(40%)
(平常点は、授業の参加状況・受講態度などを総合して判断します。)

(7) 成績評価基準

- 先行研究等を参考に自ら進んで課題を設定することができるか。
- 実験に必要な事項を理解し、実験計画を立案することができるか。
- 実験の実施にあたって、履修者同士が協力して実行することができるか。
- 生理心理学的指標を中心に、様々な心理機能の評価に適した従属変数や尺度を用いることができるか。
- 実験結果に対して理論的に考察をすることができるか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 テキストは使用しないが、実験実習マニュアルを配布する。 参考図書：「生理心理学と精神生理学」Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ巻 堀忠雄・尾崎久記監修 北大路書房(2017) 認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 日本心理学会認定心理士資格認定委員会編 金子書房(2015)
(11) その他(受講上の注意) 原則として、心理学統計法Ⅰ・Ⅱ、心理学実験、心理測定実習の単位を修得していること。少人数グループでの活動が多くなります。個人の役割が明確になるので、責任感をもって課題に取り組んでください。実験は長時間におよぶこともあります。授業時間以外にもグループごとに協力してデータ整理などを行い、時間を有効に活用する必要があります。2年次の神経・生理心理学を履修し、人間の生理学的メカニズムについて学習しておくことが望ましい。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

行動解析実習 (Practice of Behavior Analysis/Practice of Behavior Analysis)			担当教員	森本 文人、山岸 厚仁	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-BPI-2364	2 単位/ 2 単位	3 年後期	実習		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 行動・支援系					
求める学習成果（教育目標）					
医療・福祉分野等で心理的および行動的側面から生活支援を行える力 心や人間関係に基づく諸問題に対する、客観的で論理的な思考力・判断力・表現力 人間の心理と問題に対する高い関心、解決して社会に貢献する意欲、協働して対処する主体的な態度					

(1) 授 業 の 内 容
心理学における実験的研究のなかで用いられる行動指標の記録方法と解析技術を、実験実習を通じて身につける。具体的には、人や動物(ラット)を対象にして行われる心理学実験を数週間にわたり実施する。その中で、行動観察・行動測定に関する基本的知識、取り扱い技術を学び、実際に記録したデータを解析し、結果に対する考察を行う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
■自ら進んで課題が設定できる。 ■実験に必要な事項を理解し、計画を立案しそれに基づき実行することができる。 ■実験で用いる装置の基本的な知識をもち、適切に取り扱うことができる。 ■人や動物の様々な行動を客観的に分析できる。 ■関連文献を適切に講読し、実験結果に対して理論的な考察をすることができる。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク ■実験、実技 □その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション ①心理学実験で用いられる行動指標について(授業全般、テーマ共通の概要) ②学生を方法論等に基づいて設けられた2つのテーマ(A：実験室での被験者を対象とした実験、B：動物(ラット)を対象とした実験)について、オリエンテーションを行う。 第2回：以降の内容と進め方は以下の通り。 履修学生は7週間ずつ2つのテーマに関する実験を実施し、レポートとしてまとめる。学生全員が2つの異なる対象と方法論に基づく心理学実験を完遂する。 A：実験室での被験者を対象とした実験(担当：森本) ①実験室実験で用いられる行動指標(講義・文献講読)・・・2週(PBL、討議) ②実験室実験で用いられる行動指標の測定(PCを用いた反応時間およびエラーなどのパフォーマンス測定のためのプログラミングと記録、アイマークレコーダー、AV記録)・・・2週(PBL、実験、グループワーク) ③実際の実験を計画・実施・・・2週(PBL、グループワーク、実験、発表) ④③で行った実験データの行動解析と考察・・・1週(実技)(次週レポート提出) B：ラットを対象とした実験(担当：山岸) ①ラットなどの動物を対象とした実験で用いられる行動指標(文献講読)・・・2週(PBL、討議) ②ラットを対象とした実験で用いられる行動指標の測定(オープンフィールドや回転輪等を用いた活動量の記録、各種迷路等を用いた学習実験での反応計測)・・・2週(PBL、実験、グループワーク) ③実際の実験を計画・実施・・・2週(PBL、グループワーク、実験、発表) ④③で行った実験データの行動解析と考察・・・1週(実技)(次週レポート提出) A、Bの事前・事後学習については、原則以下の通り共通とする。 ①事前学習：「生理心理学実習」で学習したことを見直し、質問項目をまとめておく。(1時間×2) 事後学習：文献を講読し、内容をまとめ疑問点を明確にしておく。(1時間×2) ②事前学習：実験装置の準備、取り扱いについてあらかじめ予習しておく。(1時間×2) 事後学習：分析と実験結果の整理。(1時間×2) ③事前学習：実験計画の立案とレジュメ作成。(1時間×2) 事後学習：分析と実験結果の整理。(1時間×2)

④事前学習：実験結果のまとめ、発表準備、レジュメ作成。（1時間） 事後学習：レポート作成。（2時間） 実験心理学や生理心理学に関連する文献や卒業研究などを参考に、課題設定の方向性や具体的な実験方法について調べておくこと。 得られた実験データは、その都度、ノートにまとめたりパソコンなどに入力したりしておくこと。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 実験レポート（60％）、平常点（40％） （平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。）
(7) 成績評価基準 ☒ 自ら進んで課題が設定できるか。 ☒ 実験に必要な事項を理解し、計画を立案しそれに基づき実行することができるか。 ☒ 実験で用いる装置の基本的な知識をもち、適切に取り扱うことができるか。 ☒ 人や動物の様々な行動を客観的に分析できるか。 ☒ 関連文献を適切に講読し、実験結果に対して理論的な考察をすることができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 テキストは使用しないが、実験実習マニュアルを配布する。 参考図書：「生理心理学と精神生理学」Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ巻 堀忠雄・尾崎久記監修 北大路書房（2017） 認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 日本心理学会認定心理士資格認定委員会編 金子書房（2015）
(11) その他(受講上の注意) 原則として、生理心理学実習の単位を修得していること。実験は長時間に及ぶこともあり、授業時間以外にもグループごとに協力してデータ整理などを行い、時間を有効に活用する必要がある。また、人や動物の生理学的メカニズムについて学習しておくことが望ましい。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

人体の構造と機能及び疾病 (Human Body Structure, Function and Diseases)			担当教員	米田 誠	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-BPO-2362	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 行動・支援系					
求める学習成果(教育目標)					
医療・福祉分野等で心理的および行動的側面から生活支援を行える力 心や人間関係に基づく諸問題に対する、客観的で論理的な思考力・判断力・表現力					

(1) 授 業 の 内 容	
公認心理師に必要な正常な人体のしくみを、その構成単位である細胞レベルから組織、器官、器官系レベルまで、構造と機能との密接な関連のもとに、体系的に理解できるよう教授する。心理に関する支援が必要な主な疾病について疾患診断・治療の概要を理解し、各臓器、各器官別の疾病の成因、病態、診断、治療、予防等を体系的に理解できるように教授する。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
心身機能と身体構造及びさまざまな疾病や障害について概説できる。 心理に関する支援が必要な主な疾病について概説できる。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
事前学習：テキスト1章ⅠⅡ(p.2-9)を読み、医学と人間観について自身の考えをまとめておく事。また、第2～8回についてテキストおよび参考書の該当箇所に目を通しておくこと(15時間) 第1回：はじめに——この授業で何を学ぶか 第2回：遺伝子、細胞、組織、ヒトの個体発生 第3回：器官と器官系 第4回：循環器系、消化器系、呼吸器系の構造と機能、主な疾病と障害 第5回：血液系、内分泌系、免疫系の構造と機能、主な疾病と障害 第6回：生殖期系、泌尿器系、運動器系の構造と機能、主な疾病と障害 第7回：感覚器系の構造と機能、主な疾病と障害 第8回：脳・神経系の構造と機能、主な疾病と障害 事後学習：学んだ内容を復習すること(14時間) 事前学習：第9～15回についてテキスト、参考書、配布資料の該当箇所に目を通しておくこと(15時間) 第9回：国際生活機能分類(ICF)モデルからみた疾病と障害 第10回：小児の成長発達と疾患／加齢と疾患 第11回：心理に関する支援が必要な主な疾病①心身症 第12回：心理に関する支援が必要な主な疾病②生活習慣病／がんなど 第13回：心理に関する支援が必要な主な疾病③神経難病／進行性疾患など 第14回：医学的治療と心理学的ケア①治療とQOL 第15回：医学的治療と心理学的ケア②多職種連携、その他関連事項 事後学習：学んだ内容について、授業全体を通して復習すること(16時間)	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成 績 評 価 方 法	
定期試験(70%) 平常点(30%) 割合は授業形態、試験形態により変わる事があります。 (平常点は、授業への参加状況・受講態度・小テストの成績等を総合して判断します)	
(7) 成 績 評 価 基 準	
心身機能と身体構造及びさまざまな疾病や障害、心理に関する支援が必要な主な疾病について概説できる。	

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他	
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	
(10) テキスト、参考図書	
テキスト 人体の構造と機能及び疾病 竹田克彦、岩田 敦、小林 靖 編 医歯薬出版 参考書 公認心理師の基礎と実践21 人体の構造と機能及び疾病 齊藤清二 清見書房	
(11) その他(受講上の注意)	
講義中の私語は厳重に禁止し、減点対象とする。疑問点や不明点があればすぐに質問する事。	
(12) オフィスアワー	
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。	

比較心理学 (Comparative Psychology)			担当教員	山岸 厚仁	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-BPO-2361	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 行動・支援系					
求める学習成果(教育目標)					
医療・福祉分野等で心理的および行動的側面から生活支援を行える力 心や人間関係に基づく諸問題に対する、客観的で論理的な思考力・判断力・表現力					

(1) 授 業 の 内 容
動物の行動や認知機能について比較分析した諸研究を紹介しながら、比較心理学がどのような学問であるかの理解を深める。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
ヒトを含めた動物の行動およびその背後にある心的機序について科学的視点から評価・議論する能力を養う。 様々な認知機能について、ヒトとヒト以外の動物におけるそれぞれの特徴を説明できるようになる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(リアクションペーパー)
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：比較心理学とは／動物の分類と進化 (事後学習：動物の分類と進化についてノートにまとめる(2時間)) 第2回：動物の感覚1 (事前学習：前回の復習・動物の感覚について関連箇所を調べる(2時間)) (事後学習：動物の感覚の特徴についてノートにまとめる(2時間)) 第3回：動物の感覚2 (事前学習：前回の復習・動物の感覚について関連箇所を調べる(2時間)) (事後学習：動物の感覚の特徴についてノートにまとめる(2時間)) 第4回：動物の感覚3 (事前学習：前回の復習・動物の感覚について関連箇所を調べる(2時間)) (事後学習：動物の感覚の特徴についてノートにまとめる(2時間)) 第5回：動物の本能1 (事前学習：前回の復習・動物の本能について関連箇所を調べる(2時間)) (事後学習：動物の本能の特徴についてノートにまとめる(2時間)) 第6回：動物の本能2 (事前学習：前回の復習・動物の本能について関連箇所を調べる(2時間)) (事後学習：動物の本能の特徴についてノートにまとめる(2時間)) 第7回：動物の学習1 (事前学習：前回の復習・動物の学習について関連箇所を調べる(2時間)) (事後学習：動物の学習の特徴についてノートにまとめる(2時間)) 第8回：動物の学習2 (事前学習：前回の復習・動物の学習について関連箇所を調べる(2時間)) (事後学習：動物の学習の特徴についてノートにまとめる(2時間)) 第9回：動物の学習3 (事前学習：前回の復習・動物の学習について関連箇所を調べる(2時間)) (事後学習：動物の学習の特徴についてノートにまとめる(2時間)) 第10回：動物の学習4 (事前学習：前回の復習・動物の学習について関連箇所を調べる(2時間)) (事後学習：動物の学習の特徴についてノートにまとめる(2時間)) 第11回：動物の記憶 (事前学習：動物の記憶について関連箇所を調べる(2時間)) (事後学習：動物の記憶の特徴についてノートにまとめる(2時間))

第12回：動物の思考 (事前学習：前回の復習・動物の思考について関連箇所を調べる(2時間)) (事後学習：動物の思考の特徴についてノートにまとめる(2時間)) 第13回：動物のコミュニケーション (事前学習：前回の復習・動物のコミュニケーションについて関連箇所を調べる(2時間)) (事後学習：動物のコミュニケーションの特徴についてノートにまとめる(2時間)) 第14回：動物の社会性 (事前学習：前回の復習・動物の社会性について関連箇所を調べる(2時間)) (事後学習：動物の社会性についてノートにまとめる(2時間)) 第15回：比較心理学の歴史 (事前学習：前回の復習・比較心理学の歴史について関連箇所を調べる(2時間)) (事後学習：心理学の歴史についてノートにまとめる、これまでの講義内容の総復習(4時間)) 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験(65%) 平常点(35%) ※授業の出席状況、小テストの成績から総合的に判断する。
(7) 成績評価基準
ヒトを含めた動物の行動およびその背後にある心的機序について科学的視点から議論することができるか。 様々な認知機能において、ヒトとヒト以外の動物におけるそれぞれの特徴を説明できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他(定期試験結果は希望者にのみ口頭またはメールでフィードバックする) 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
参考図書：『動物心理学 ― 心の射影と発見 ―』 中島定彦著 昭和堂
(11) その他(受講上の注意)
履修者に各自の通信機器(ノートPC, スマートフォン, タブレット等)を用いてe-learningにアクセスしてもらい、授業中のリアクションペーパーへの回答や授業外課題を求める場合がある。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

障害者・障害児心理学 (Psychology for Adults & Children with Disabilities)			担当教員	水田 敏郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-BPO-2366	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 行動・支援系					
求める学習成果(教育目標)					
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。					

(1) 授 業 の 内 容
感覚障害や知的障害、肢体不自由など様々な障害の概念について解説する。また、特に最も発生率の高い知的障害について分類や障害メカニズムについて解説し、心理的な特徴とその支援の方法について述べる。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
障害の概念、定義について理解することができる。様々な障害について特定の基準をもとに分類することができる。知的障害の心理的な諸特徴と支援の方法について理解することができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス 事後学習：次回分のプリントについて熟読し、質問をまとめておく。(2時間) 第2回：障害の概要と定義 事前学習：第2回分のプリント(障害の概要と定義)について穴あき部分を埋めておく。(2時間) 事後学習：第2回で解説したの重点内容について、内容と質問をそれぞれまとめておく(2時間) 第3回：知的障害のアセスメント① 事前学習：第3回分のプリント(知的障害のアセスメント①)について穴あき部分を埋めておく。(2時間) 事後学習：第3回で解説したの重点内容について、内容と質問をそれぞれまとめておく(2時間) 第4回：知的障害のアセスメント②(グループワーク) 事前学習：第4回分のプリント(知的障害のアセスメント②)について穴あき部分を埋めておく。(2時間) 事後学習：第4回で解説したの重点内容について、内容と質問をそれぞれまとめておく(2時間) 第5回：感覚の発達と障害 事前学習：第5回分のプリント(感覚の発達と障害)について穴あき部分を埋めておく。(2時間) 事後学習：第4回で解説したの重点内容について、内容と質問をそれぞれまとめておく(2時間) 第6回：知覚の発達と障害① 事前学習：第6回分のプリント(知覚の発達と障害①)について穴あき部分を埋めておく。(2時間) 事後学習：第6回で解説したの重点内容について、内容と質問をそれぞれまとめておく(2時間) 第7回：知覚の発達と障害②(グループワーク) 事前学習：第7回分のプリント(知覚の発達と障害②)について穴あき部分を埋めておく。(2時間) 事後学習：第7回で解説したの重点内容について、内容と質問をそれぞれまとめておく(2時間) 第8回：学習の発達と障害 事前学習：第8回分のプリント(学習の発達と障害)について穴あき部分を埋めておく。(2時間) 事後学習：第8回で解説したの重点内容について、内容と質問をそれぞれまとめておく(2時間) 第9回：言語の発達と障害① 事前学習：第9回分のプリント(言語の発達と障害①)について穴あき部分を埋めておく。(2時間) 事後学習：第9回で解説したの重点内容について、内容と質問をそれぞれまとめておく(2時間) 第10回：言語の発達と障害②(グループワーク) 事前学習：第10回分のプリント(言語の発達と障害②)について穴あき部分を埋めておく。(2時間) 事後学習：第10回で解説したの重点内容について、内容と質問をそれぞれまとめておく(2時間) 第11回：運動の発達と障害① 事前学習：第11回分のプリント(運動の発達と障害①)について穴あき部分を埋めておく。(2時間) 事後学習：第11回で解説したの重点内容について、内容と質問をそれぞれまとめておく(2時間)

第12回：運動の発達と障害②（グループワーク） 事前学習：第12回分のプリント（運動の発達と障害②）について穴あき部分を埋めておく。（2時間） 事後学習：第12回で解説したの重点内容について、内容と質問をそれぞれまとめておく（2時間） 第13回：知的障害以外の発達障害 事前学習：第13回分のプリント（知的障害以外の発達障害）について穴あき部分を埋めておく。（2時間） 事後学習：第13回で解説したの重点内容について、内容と質問をそれぞれまとめておく（2時間） 第14回：障害と支援（グループワーク） 事前学習：第14回分のプリント（障害と支援）について穴あき部分を埋めておく。（2時間） 事後学習：第14回で解説したの重点内容について、内容と質問をそれぞれまとめておく（2時間） 第15回：障害者心理学に関するまとめ 事前学習：各回分のプリント全体の整理と質問項目をまとめておく（3時間） 事後学習：第15回で解説したの内容について、整理しておく（3時間） 第16回：定期試験 各回の講義を受講した後、当該部分の配布資料をよく読んで復習してください。また、予習にあたっても次の授業の内容部分をよく見て、問題意識をもって授業に臨んでください。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（70％） 平常点（30％） （平常点は、授業への参加状況、質問用紙の提出状況などを総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
障害の概念、定義について説明することができるか。様々な障害について特定の基準をもとに分類することができるか。知的障害の心理的な諸特徴と支援の方法について説明することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
講義資料は適宜配布する。
(11) その他(受講上の注意)
障害に対する理解を得たり、疑問点を解決しようとするなど、目的意識をもって受講することを期待します。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

福祉心理学 (Psychology for Social Welfare)			担当教員	目黒 達哉	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-BPO-2365	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 行動・支援系					
求める学習成果(教育目標)					
医療・福祉分野等で心理的および行動的側面から生活支援を行える力 心や人間関係に基づく諸問題に対する、客観的で論理的な思考力・判断力・表現力					

(1) 授 業 の 内 容
福祉心理学は応用心理学の一端として発展してきた学問であり、主には高齢者や障害者、生活困窮者、養育的保護を必要とする児童等を対象とする。授業では、生きるうえで苦しい立場で置かれがちな人々に対する適切な心理支援とは何かを考えていく。また、福祉心理学は、すべての人々がより豊かに、幸福に生きることにつながるwell-being (よりよい生き方、あり方) の考えにつながる学問であることを明らかにする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ 様々な福祉現場における心理支援のあり方と課題を理解する。 ・ 福祉現場における心理職の立場、他職種との連携について理解する。 ・ 福祉社会について自分なりの考え方や見方をもち、福祉的な生き方についての関心を深める。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☒ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☒ その他 (リアクションペーパー)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
講義形式ですすめる。また、必要に応じて視聴覚教材を用いながら、福祉現場での心理支援の実際について学んでいく。 さらには、テーマを設定し、小グループでディスカッションを行う。 第1回：オリエンテーション 福祉 well-being という考え方 福祉現場での心理支援 ケアの思想 QOLとは？ 事前学習：シラバス全体に目を通し授業全体の流れとイメージを掴んでおくこと (2 時間) 事後学習：授業で学んだ内容について、ノートにまとめておくこと (2 時間) 第2回：福祉心理学の基礎知識 少子高齢化社会を考える (ディスカッション) 事前学習：少子高齢化社会について、図書館やメディアなどで調べておくこと 少子高齢化社会についてディスカッションするので、自分の意見をまとめておくこと (2 時間) 事後学習：授業で学んだ内容について、ノートにまとめておくこと (2 時間) 第3回：児童虐待への心理支援 事前学習：児童虐待の分類、児童相談所の役割について、図書館やメディアなどで調べておくこと (2 時間) 事後学習：授業で学んだ内容について、ノートにまとめておくこと (2 時間) 第4回：貧困家庭、一人親家庭、養育不全の家庭環境への心理支援 (ディスカッション) 事前学習：相対的貧困率や貧困家庭への支援について、図書館やメディアなどで調べておくこと 貧困問題についてディスカッションするので、自分の意見をまとめておくこと (2 時間) 事後学習：授業で学んだ内容について、ノートにまとめておくこと (2 時間) 第5回：不登校・ひきこもりへの心理支援・就労支援 事前学習：不登校・ひきこもりの現状について、図書館やメディアなどで調べておくこと (2 時間) 事後学習：授業で学んだ内容について、ノートにまとめておくこと (2 時間) 第6回：中高年のひきこもりへの心理支援と孤独死の問題 事前学習：厚生労働省のひきこもりガイドラインや孤独死について、図書館やメディアなどで調べておくこと (2 時間) 事後学習：授業で学んだ内容について、ノートにまとめておくこと (2 時間) 第7回：高齢者への心理支援① 老いの不安、うつ、喪失体験など 事前学習：発達心理学の復習をし、高齢期における心理的特徴について調べておくこと (2 時間) 事後学習：授業で学んだ内容について、ノートにまとめておくこと (2 時間) 第8回：高齢者への心理支援② 認知症の理解 事前学習：認知症について調べ、地域包括支援センターの役割と介護の問題を整理しておくこと (2 時間) 事後学習：授業で学んだ内容について、ノートにまとめておくこと (2 時間)

第9回：自殺予防の心理支援

事前学習：自殺者数の推移、自殺予防についての国の政策などを図書館やメディアなどで調べておくこと
死についてどのように考えているのか、自分の意見をまとめておくこと（2時間）

事後学習：授業で学んだ内容について、ノートにまとめておくこと（2時間）

第10回：疾病や障害をもつ人への心理支援① 障害とは何か

事前学習：障害とは何なのか、偏見と差別について、図書館やメディアなどで調べておくこと（2時間）

事後学習：授業で学んだ内容について、ノートにまとめておくこと（2時間）

第11回：疾病や障害をもつ人の心理支援② 障害の種類と心理支援、発達障害とは

事前学習：発達障害という概念、現代人の心の悩みや生きづらさについて自分なりの考えをもち、図書館やメディアなどで調べておくこと（2時間）

事後学習：授業で学んだ内容について、ノートにまとめておくこと（2時間）

第12回：発達障害の心理支援、介護する家族・療育者への心理支援、

事前学習：介護する人の心理、バーンアウトや感情労働について、図書館やメディアなどで調べておくこと（2時間）

事後学習：授業で学んだ内容について、ノートにまとめておくこと（2時間）

第13回：特別支援教育、福祉現場での心理職の役割と多職種との連携

事前学習：心理的援助とは何か、コミュニティ心理学について、図書館やメディアなどで調べておくこと（2時間）

事後学習：授業で学んだ内容について、ノートにまとめておくこと（2時間）

第14回：傾聴とグリーフケア、福祉職のグリーフケア

事前学習：スピリチュアルケア、グリーフケアについて、図書館やメディアなどで調べておくこと（2時間）

事後学習：授業で学んだ内容について、ノートにまとめておくこと（2時間）

第15回：心理学から「幸福」を考える（講義・ディスカッション）

事前学習：幸福とは何かについてディスカッションするので、自分なりの意見や考えをまとめておくこと（2時間）

事後学習：学んだ内容についてノートにまとめ、さらに関心のある内容について調べておくこと（2時間）

毎回、eラーニングで出席確認、講義の学び・感想を記入してもらいます。

日常生活の中で、福祉に関するニュースなどに関心を持つだけでなく、福祉の現場で心理職として働くことになったときのことを想像し、自分はどんなことができるかなどを考えながら授業に臨んでください。

中間と最後に「試験」を実施します。

(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕

原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

(6) 成績評価方法

中間、期末試験（40%）、平常点（15%）、小レポート（45%）
（授業への参加状況、受講への取り組みや態度などから総合的に判断します）

(7) 成績評価基準

- ・様々な福祉現場における心理支援のあり方と課題を理解できたか。
- ・福祉現場における心理職の位置、多職種との連携について理解し、説明できるか。
- ・福祉社会について、自分なりの考え方や見方をもつことができたか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて
☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 3) 小レポートに対するフィードバックについて
☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 5) その他
☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性) ・ 経歴 (公認心理師, 臨床心理士) ・ 実務経験と授業内容との関連性 (公認心理師の教員が、福祉現場での適切な心理的支援のあり方について、その目的や意義、方法論などを解説する。)
(10) テキスト、参考図書 テキストは使用しない。毎回の講義資料をeラーニングにあげる。適宜、プリントを用意する。 <参考図書> 中島健一 編 公認心理師の基礎と実践⑰ 福祉心理学 第2版(遠見書房・2025年)
(11) その他(受講上の注意) 授業の進行状況によって、授業計画に変更を加える可能性もある。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

社会心理学演習 (Training Course of Social Psychology)			担当教員	山本 雅代	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
PS-CPI-2372	2 単位	3 年後期	演習	選択	
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 産業・社会系					
求める学習成果(教育目標)					
産業・社会集団で活かせる専門的・実践的な知識とスキル 心や人間関係に基づく諸問題に対する、客観的で論理的な思考力・判断力・表現力 人間の心理と問題に対する高い関心、解決して社会に貢献する意欲、協働して対処する主体的な態度					

(1) 授 業 の 内 容
社会心理学領域の問題を、どのように研究していくのかについて、実験実証的技法を用いて学ぶ。具体的には社会心理学的実験課題やゲームシミュレーションを用いた集団実験に取り組む。課題ごとに先行研究の情報収集、実験・調査を実施し、データ収集、分析、結果をまとめ考察する方法について学ぶ。その中で、研究計画をたて、実行する力を身につける。また、ディスカッション・研究発表やレポート提出をおこなう。これにより社会心理学的な研究の方法や発表の仕方を学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
1) 社会心理学領域における考え方、実験・実証方法を習得する。 2) データの分析方法や結果のまとめ方を学び、考察、集団討議ができるようになる。 3) 目的に沿って研究計画をたて、実行する力を身につける。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
現在の授業計画及び授業外の学習方法 第1回：オリエンテーション 事前学習：授業前に社会心理学の関する知識を学んでおくこと。(2時間) 事後学習：実験する内容について関連する本を読んでおく。(2時間) 第2回：社会心理学的実験課題①(対人魅力実験の概要) 事前学習：関連する本を読み、実験の手順や概念について確認しておくこと。(2時間) 事後学習：データを確認、実験についてまとめる。(2時間) 第3回：社会心理学的実験課題②(対人魅力実験①の実施) 事前学習：関連する本を読み、実験の手順、分析方法、概念について確認しておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を確認し、実験についてまとめる。(2時間) 第4回：社会心理学的実験課題③(分析・結果・考察) 事前学習：関連する本を読み、実験の手順、分析方法、概念、レポートの書き方について理解しておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を確認し、実験についてまとめる。(2時間) 第5回：社会心理学的実験課題④(まとめとレポート作成) 事前学習：関連する本を読み、実験の手順や概念について確認しておくこと。(2時間) 事後学習：概念、実験計画の内容・方法についてまとめる。(2時間) 第6回：社会心理学的実験課題⑤(対人魅力実験②の実施) 事前学習：実験計画の内容・方法を確認、実験の手順や概念について理解しておくこと。(2時間) 事後学習：データや授業内容を確認、実験についてまとめる。(2時間) 第7回：社会心理学的実験課題⑥(分析・結果・考察) 事前学習：関連する本を読み、実験の手順、分析方法、概念について確認しておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を確認し、実験についてまとめる。(2時間) 第8回：社会心理学的実験課題⑦(まとめとレポート作成) 事前学習：関連する本を読み、実験の手順、分析方法、概念、レポートの書き方について確認しておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を確認し、実験についてまとめる。(2時間)

第9回：ゲームシミュレーション①（ゲームシミュレーションについての説明） 事前学習：事前にE-Learning上に資料を提示する。各自プリントアウトし、内容を読み質問をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業時に提示された重要ポイントについて、図書館で調べたり、担当教員に質問するなどしてまとめを行っておくこと（2時間） 第10回：ゲームシミュレーション②（ゲームの実施①） 事前学習：事前にE-Learning上に資料を提示する。各自プリントアウトし、内容を読みゲームについて理解しておくこと（2時間） 事後学習：収集したデータに関して、コンピュータにデータ入力をおこなう（2時間） 第11回：ゲームシミュレーション③（ゲームの実施②） 事前学習：事前にE-Learning上に資料を提示する。各自プリントアウトし、内容を読みゲームについて理解しておくこと（2時間） 事後学習：収集したデータに関して、コンピュータにデータ入力をおこなう（2時間） 第12回：ゲームシミュレーション④（ゲーム内調査の実施③） 事前学習：事前にE-Learning上に資料を提示する。各自プリントアウトし、内容を読みゲームについて理解しておくこと（2時間） 事後学習：授業内で課された課題についてE-Learningに提出をする（2時間） 第13回：社会心理学的調査課題①（分析） 事前学習：事前にE-Learning上に資料を提示する。各自プリントアウトし、内容を読み質問をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内で課された課題について復習をする（2時間） 第14回：社会心理学的調査課題②（結果・考察） 事前学習：事前にE-Learning上に資料を提示する。各自プリントアウトし、内容を読み発表の準備を行うこと（2時間） 事後学習：授業内で課された課題について復習をする（2時間） 第15回：社会心理学的調査課題③（ゲーム内容についてのディスカッション・発表 レポートについての説明） 事前学習：事前にE-Learning上に資料を提示する。各自プリントアウトし、内容を読み発表の準備を行うこと（2時間） 事後学習：授業内で課された課題についてE-Learningに提出をする（2時間）	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
各2つのレポート課題や授業への参加態度等を総合的に判断し評価する。 【レポート課題 60% 実験・授業への参加態度 40%】	
(7) 成績評価基準	
社会心理学における実験方法や実証方法が習得できているか。結果についての整理、分析や考察ができ、論理的に議論できているか。科学論文の執筆ができているか。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他	
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	
(10) テキスト、参考図書	
適宜掲示・配布する。また、参考文献、関連文献を講義内で紹介する。	

(11) その他(受講上の注意)

第1回目の授業（オリエンテーション）では、受講に際しての注意を行うので、必ず出席すること。課題レポートに関して、各教員の指示に従い、期限を守り提出すること。再提出等の指示があった場合には、指示に従い期限までに再提出すること。連絡事項は基本的に掲示で行うが、場合によりメールで連絡することがある。自分の携帯アドレスを変更した場合には、必ず大学に登録したアドレスも変更すること。出席できない場合は、あらかじめ連絡すること。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

多変量解析演習 (Multivariate Statistical Analysis)			担当教員	杉島 一郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-CPI-2373	2 単位	3 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 産業・社会系					
求める学習成果(教育目標)					
産業・社会集団で活かせる専門的・実践的な知識とスキル 心や人間関係に基づく諸問題に対する、客観的で論理的な思考力・判断力・表現力 人間の心理と問題に対する高い関心、解決して社会に貢献する意欲、協働して対処する主体的な態度					

(1) 授 業 の 内 容
心理学のデータを用いて、多変量解析（因子分析、重回帰分析など）の基本的な考え方を理解した上で、実際の心理調査データを用いて分析手法を学ぶ。また、各自がテーマを決定し調査票を作成し、得られたデータを統計解析ソフトで分析し、その結果に対する解釈や考察の方法を学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
調査票を作成し、統計解析ソフトを利用して多変量解析（因子分析、重回帰分析）を行える知識を修得することを目指す。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☒ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：多変量解析とは？ 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（4時間） 第2回：多変量解析を用いた心理学研究論文の講読1 事前学習：事前に配布する論文を熟読しておくこと。（2時間） 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（2時間） 第3回：多変量解析を用いた心理学研究論文の講読2 事前学習：事前に配布する論文を熟読しておくこと。（2時間） 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（2時間） 第4回：因子分析1 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。また、SPSSの使用法について調べておくこと。（4時間） 第5回：因子分析2（実習を含む） 事後学習：実際に授業で取ったデータについてエクセルで処理を行い課題として提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（4時間） 第6回：因子分析3（実習を含む） 事後学習：実際に授業で取ったデータについてエクセルで処理を行い課題として提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（4時間） 第7回：因子分析4（実習を含む） 事後学習：実際に授業で取ったデータについてエクセルで処理を行い課題として提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（4時間） 第8回：因子分析5 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（4時間）

第9回：重回帰分析1 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。また、SPSSの使用法について調べておくこと。（4時間） 第10回：重回帰分析2 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。また、SPSSの使用法について調べておくこと。（4時間） 第11回：重回帰分析3（実習を含む） 事後学習：実際に授業で取ったデータについてエクセルで処理を行い課題として提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（4時間） 第12回：重回帰分析4（実習を含む） 事後学習：実際に授業で取ったデータについてエクセルで処理を行い課題として提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（4時間） 第13回：調査のレポート作成1 事後学習：指示された課題を提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。また、SPSSの使用法について調べておくこと。（4時間） 第14回：調査のレポート作成2（実習を含む） 事後学習：実際に授業で取ったデータについてエクセルで処理を行い課題として提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（4時間） 第15回：講義のまとめ 事前学習：これまでの授業でわからなかったことなどを考えておき、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（2時間） 事後学習：実際に授業で取ったデータについてエクセルで処理を行い課題として提出し、学んだ内容を復習する。わからないところや意見があったら、フォーラムを利用して質問しディスカッションすること。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
期末レポート（50%）、毎回提出する課題（50%）
(7) 成績評価基準
多変量解析（因子分析・重回帰分析など）について理解し、説明ができるか。
(8) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書
<テキスト>山際勇一郎・服部環（2016）．文系のためのSPSSデータ解析　ナカニシヤ出版

(11) その他(受講上の注意)

受講には、2年次の「心理調査法」の単位を取得していることが望ましいです。授業時間以外にも、解析、レポート作成等の学習が必要になります。真に、多変量解析をマスターしたい学生のみ受講してください。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

消費者心理学 (Consumer Psychology)			担当教員	山本 雅代	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-CPO-2371	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 産業・社会系					
求める学習成果(教育目標)					
産業・社会集団で活かせる専門的・実践的な知識とスキル 心や人間関係に基づく諸問題に対する、客観的で論理的な思考力・判断力・表現力					

(1) 授 業 の 内 容
私たちは毎日何気なく消費行動を行っている。一方で企業は、どのようなモノやサービス、状況であれば消費行動が行われるのか研究し、戦略を練る。消費者マインドがどのような法則に従って変動するのか、企業はそれをどのように捉えようとしているのか、社会心理学や行動経済学等の視点を取り入れながら解説する。講義では消費者行動の基礎的な知識を習得するとともに、国内外における企業のマーケティング戦略をとりあげながら応用について学んでいくこととする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
1) 消費者心理学における基本的な概念を理解する。 2) 消費行動や意思決定について理解する。 3) 消費者リスクについて理解する。 4) 実社会における企業戦略について理解する。
(3) アクティブラーニング
□課題解決型学習 (PBL) □討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 ■その他 (ICT (Google フォームを使用し、課題を呈示、インタラクティブに意見を収集。Moodleでの資料提示))
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：消費者心理について (ICT・課題提出) 事前学習：授業前に消費行動について課題を提出してもらいます。消費行動について本を読んでおくこと (2 時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと (2 時間) 第2回：消費行動について (1) (ICT・レポート課題提出) 事前学習：授業ではこれまでの消費行動の背景を学びます。「消費行動と心理学」に関連する本を読んでおくこと (2 時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと (2 時間) 第3回：消費行動について (2) (ICT・課題提出) 事前学習：授業では、「消費社会」について学びます。「消費社会」とは何か考えておくこと (2 時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと (2 時間) 第4回：消費行動について (3) (ICT・課題提出) 事前学習：授業前に「消費行動と購買行動」についての本を読んでおくこと (2 時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと (2 時間) 第5回：消費行動と知覚 (1) (ICT・課題提出) 確認テストの実施 (確認テスト1)。 事前学習：授業前に「知覚」に関連する本を読んでおくこと (2 時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと (2 時間) 第6回：消費行動と知覚 (2) (ICT・課題提出) 事前学習：授業前に「選択的注意」についての本を読んでおくこと (2 時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと (2 時間) 第7回：広告情報の知覚とマーケティング戦略 (1) (ICT・課題提出) 事前学習：授業前に「広告」についてどのようなものが心に残っているかまとめておくこと (2 時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと (2 時間) 第8回：広告情報の知覚とマーケティング戦略 (2) (ICT・課題提出) 事前学習：授業前に「ブランドランキング」について調べておくこと (2 時間) 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと (2 時間)

第9回：消費者行動と意志決定（1）（ICT・課題提出） 事前学習：授業前に「意思決定」について調べておくこと（2時間） 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと（2時間） 第10回：消費者行動と意思決定（2）（ICT・課題提出） 事前学習：授業前に「購買意思決定」についての本を読んでおくこと（2時間） 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと（2時間） 第11回：消費者行動と意思決定（3）（ICT・課題提出） 確認テストの実施（確認テスト2） 事前学習：授業前に「プロスペクト理論」に関連する本を読んでおくこと（2時間） 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと（2時間） 第12回：消費者の態度（ICT・課題提出） 事前学習：授業前に「説得と態度変容」についての本を読んでおくこと（2時間） 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと（2時間） 第13回：消費行動と企業戦略（ICT・課題提出） 事前学習：授業前に「消費行動と企業戦略」についての本を読んでおくこと（2時間） 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと（2時間） 第14回：口コミと消費行動（ICT・課題提出） 事前学習：授業前に「口コミと消費行動」についての本を読んでおくこと（2時間） 事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと（2時間） 第15回：まとめと確認テスト3の実施（ICT） 事前学習：各講義における手書きノートを作るなどすること（2時間） 事後学習：分からなかったポイントについてまとめておく（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
課題・レポート、確認テスト・授業への参加態度等を総合的に判断し評価する。 【確認テスト（1から3の合計）50％ 課題・レポート・授業への参加態度50％】
(7) 成績評価基準
消費者行動についての基本的概念が理解できたか。 消費者リスクについて説明できたか。 実社会における企業戦略を分析できたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
適宜掲示・配布する。また、参考文献、関連文献を講義内で紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
最初にTeamsに登録すること。 毎回課題の提出を求める。提出には、ムードルやGoogleフォームなどを使用する（各講義において指定）かならず提出すること。 回収後の結果について講義内にて提示し、内容について考察することがある。講義内容と自らの行動について結び付け理解を深めること。 提出課題に遅延した場合、提出物は受け取るが、減点の対象となる。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

産業カウンセリング (Industrial Counseling)			担当教員	黒田 優希	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-CPO-2375	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 産業・社会系					
求める学習成果(教育目標)					
産業・社会集団で活かせる専門的・実践的な知識とスキル 心や人間関係に基づく諸問題に対する、客観的で論理的な思考力・判断力・表現力					

(1) 授 業 の 内 容
産業カウンセリングの実際や職場のメンタルヘルス対策について学習する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
産業現場における問題や、メンタルヘルス対策について、自分の考えを持つ。 自身のストレスに気づき、対処する技能について知る。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☒ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション、産業現場の問題　－働くことは『 』より大切か－ 事前学習：現在の日本の職場環境についてニュースなどで調べておく。(2時間) 事後学習：講義で扱った内容について情報収集を行う。新聞記事を読む。(2時間) 第2回：産業をとりまく環境の変化　－文明の利器は人を幸せにするか－ 事前学習：産業の歴史について調べておく。(2時間) 事後学習：講義で扱った内容について情報収集を行う。(2時間) 第3回：働く人の心の病　－うつ病は誰の責任か－ 事前学習：うつ病について知識を得ておく。(2時間) 事後学習：様々なタイプのうつ病について調べる。講義の中で紹介した文献を調べる(2時間) 第4回：うつ病からの回復、休職と復職　－もしうつ病になったらどうなる－ 事前学習：活用できる資源、制度について調べておく。(2時間) 事後学習：講義で扱った内容について情報収集を行う。(2時間) 第5回：自殺の問題と対策　－自殺は個人の自由意思によるか－ 事前学習：自殺者数の推移や自殺対策、国による考えの違いについて調べる。(2時間) 事後学習：自殺対策について復習をする。講義の中で紹介した文献を調べる。(2時間) 第6回：多様な精神疾患の紹介、ここまでの論点のまとめ 事前学習：うつ病以外の精神疾患について調べておく。ここまでの資料を読み直す。(2時間) 事後学習：中間レポートの課題について、情報を収集する。(2時間) 第7回：ストレスの理論　－労働者のストレス－ 事前学習：ストレスのモデルについて調べておく。(2時間) 事後学習：自身にとってのストレスやストレス反応について検討をする。(2時間) 第8回：ストレスと健康　－ストレスチェックの導入－ 事前学習：ストレスによる健康被害やストレスチェック制度について調べる。(2時間) 事後学習：ストレスチェックに関連した情報を振り返る。働き方改革について調べる。(2時間) 第9回：ストレスマネジメントとコーピング　－セルフケアの重要性－ 事前学習：ストレスコーピングについて情報収集を行う。(2時間) 事後学習：自身がすでに行っている対処法について振り返る。(2時間) 第10回：セルフケア①　－リラックスして働いてみる－ (実習) 事前学習：リラクゼーションの方法について調べておく。自分なりのリラックス法を振り返る。(2時間) 事後学習：講義の中で実習したリラックス法を試してみる。(2時間) 第11回：セルフケア②　－物事の受け止め方を変えてみる－ (実習・ディスカッション) 事前学習：認知行動療法について文献で調べておく。(2時間) 事後学習：講義で使ったワークシートを用いてみる。(2時間) 第12回：セルフケア③　－自己主張をしてみる－ (実習) 事前学習：アサーティブなコミュニケーションについて調べておく。自分のスタイルを考える。(2時間) 事後学習：アサーティブなコミュニケーションについて、講義の内容をもとに考える。(2時間)

第13回：対人関係療法の紹介とセルフケアのまとめ　－ 事前学習：自分自身のストレスやライフイベントを把握し整理しておく。（2時間） 事後学習：ストレスとコーピングのワークシートを作成する。（2時間） 第14回：事例をもとに考える　（ディスカッション） 事前学習：事例を多角的に理解するため、ここまで学習したことについて振り返る。（4時間） 第15回：産業カウンセリングに関するまとめ　－働くことは『 』より大切か－ 事前学習：期末レポートの課題について、わからないところを質問する。（2時間） 事後学習：期末レポートを作成する。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
中間レポート（30％）＋期末レポート（30％）＋平常点（40％） （平常点は授業の参加状況、受講態度、質問カードの提出内容などで総合的に判断します。）
(7) 成績評価基準
産業領域におけるメンタルヘルスについて、問題点と対策が説明できるか。 講義で取り扱う問題について、自分の考えを持つことができるか。 ストレスへの対応について説明ができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
・経歴 （公認心理師、臨床心理士） ・実務経験と授業内容との関連性 （公認心理師の教員が、精神疾患や復職支援の実践についての講義を行う。これから社会に出るうえで身につけておきたいメンタルヘルスに関する知識を習得し、社会問題について考えることの土台を作ることを目指す。）
(10) テキスト、参考図書
参考図書については講義の中で紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
授業の進行状況によって、授業計画に変更を加える可能性もある。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

関係行政論 (Legal and Administrative Systems)			担当教員	川崎 幸宏	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-CPO-2374	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 産業・社会系					
求める学習成果(教育目標)					
産業・社会集団で活かせる専門的・実践的な知識とスキル 心や人間関係に基づく諸問題に対する、客観的で論理的な思考力・判断力・表現力					

(1) 授 業 の 内 容
保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野で心理職が活動する際に、どのような法律や制度がかかわっており、どのような役割が求められているかについて講義する。報道事例など身近な題材を通して理解を深める。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野で心理職が活動する際に、どのような法律や制度がかかわっており、どのような役割が求められているかについて理解し、概説できる。社会における心理職の役割への関心と自覚を持つ。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(必要に応じてディスカッション)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：保健医療分野(医療全般)における法律や制度について 事前学習：保健医療分野(医療全般)の法律や制度、社会的課題について調べる(2時間) 事後学習：授業で取り上げた事項で特に関心を持ったことについて深堀して調べる(2時間) 第2回：保健医療分野(精神科医療)における法律や制度について 事前学習：保健医療分野(精神科医療)における法律や制度、社会的課題について調べる(2時間) 事後学習：授業で取り上げた事項で特に関心を持ったことについて深堀して調べる(2時間) 第3回：保健医療分野(地域保健・医療)における法律や制度について 事前学習：保健医療分野(地域保健・医療)の法律や制度、社会的課題について調べる(2時間) 事後学習：授業で取り上げた事項で特に関心を持った事項について深堀して調べる(2時間) 第4回：福祉分野(児童福祉)における法律や制度について 事前学習：福祉分野(児童福祉)の法律や制度、社会的課題について調べる(2時間) 事後学習：授業で取り上げた事項で特に関心を持ったことについて深堀して調べる(2時間) 第5回：福祉分野(障害者福祉)における法律や制度について 事前学習：福祉分野(障害者福祉)の法律や制度、社会的課題について調べる(2時間) 事後学習：授業で取り上げた事項で特に関心を持ったことについて深堀して調べる(2時間) 第6回：福祉分野(高齢者福祉)における法律や制度について 事前学習：福祉分野(高齢者福祉)の法律や制度、社会的課題について調べる(2時間) 事後学習：授業で取り上げた事項で特に関心を持ったことについて深堀して調べる(2時間) 第7回：学校・教育分野に関する法律と制度の概要 事前学習：学校・教育分野の法律や制度、社会的課題について調べる(2時間) 事後学習：授業で取り上げた事項で特に関心を持ったことについて深堀して調べる(2時間) 第8回：スクールカウンセリング・教育相談における法的対応の実践 事前学習：過去に出会ったスクールカウンセラーからのかかわり内容や印象についてまとめる(2時間) 事後学習：授業で取り上げた事項で特に関心を持ったことについて深堀して調べる(2時間) 第9回：いじめ・不登校・特別支援教育等における法的対応の実践 事前学習：いじめ、ひきこもり、発達障がいに関する新聞記事等の収集(2時間) 事後学習：教育分野のなかで特に関心を持ったことについて深堀して調べる(2時間) 第10回：司法・犯罪分野(刑事事件)における法律や制度について 事前学習：司法・犯罪分野(刑事事件)の法律や制度、社会的課題について調べる(2時間) 事後学習：授業で取り上げた事項で特に関心を持ったことについて深堀して調べる(2時間)

第11回：司法・犯罪分野（家事事件）における法律や制度について 事前学習：司法・犯罪分野（家事事件）の法律や制度、社会的課題について調べる（2時間） 事後学習：授業で取り上げた事項で特に関心を持ったことについて深掘して調べる（2時間） 第12回：司法・犯罪分野（少年非行）における法律や制度について 事前学習：司法・犯罪分野（少年非行）の法律や制度、社会的課題について調べる（2時間） 事後学習：授業で取り上げた事項で特に関心を持ったことについて深掘して調べる（2時間） 第13回：産業・労働分野（労働基準法、労働安全衛生法）における法律や制度について 事前学習：産業・労働分野（労働基準法、労働安全衛生法）の法律や制度、社会的課題について調べる（2時間） 事後学習：授業で取り上げた事項で特に関心を持ったことについて深掘して調べる（2時間） 第14回：産業・労働分野（職場のメンタルヘルス、過労死対策）における法律や制度について 事前学習：産業・労働分野（職場のメンタルヘルス、過労死対策）の法律や制度、社会的課題について調べる（2時間） 事後学習：授業で取り上げた事項で特に関心を持ったことについて深掘して調べる（2時間） 第15回：産業・労働分野（ハラスメント防止、働き方改革）における法律や制度について 事前学習：産業・労働分野（ハラスメント防止、働き方改革）の法律や制度、社会的課題について調べる（2時間） 事後学習：授業で取り上げた事項で特に関心を持ったことについて深掘して調べる（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポート（60%）平常点（40%） 授業への参加状況 受講態度を総合的判断）
(7) 成績評価基準
学習項目を簡潔に説明できるか、学習項目について自分の考えや疑問を示せるか、積極的に授業に取り組めるか
(8) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書
『元永拓郎』・『関係行政論（第3版） 公認心理師の基礎と実践 第23巻』・『遠見書房』・『2024年』
(11) その他（受講上の注意）
携帯電話は使用禁止です。レポートの手書きは不可です（手書きが必要な場合は事前に相談してください）。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

心理学特別演習 I (Special Psychology Seminar I)			担当教員	稲木康一郎、大森 慈子、杉島 一郎、 西村 則昭、水田 敏郎、森 俊之、 森本 文人、山本 雅代、渡辺 克徳、 今井田貴裕、山岸 厚仁
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-OPI-2381	4 単位	3 年通年	演習	必修
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 特別演習・卒業研究				
求める学習成果(教育目標)				
心や人間関係に基づく諸問題に対する、客観的で論理的な思考力・判断力・表現力 人間の心理と問題に対する高い関心、解決して社会に貢献する意欲、協働して対処する主体的な態度				

(1) 授 業 の 内 容
卒業研究の準備段階として、学生自ら研究課題を設定することを目標にして演習を行います。テーマの設定に必要な文献や図書を精読し、発表や議論などを行います。(配属先のゼミの担当教員によって演習内容は異なります。)
(2) 授 業 の 到 達 目 標
自らの研究課題を設定する。研究課題に関連する文献などを適切に講読できる。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回～30回：各担当教員の進め方に沿って行われる。 ゼミによっては、ディスカッションや発表が取り入れられたり、自分の研究課題を設定し、実験や調査などの計画を立て実行することがある。 (課題解決型学習)(討議)(グループワーク)(発表)(実験、実技) 第1回～30回の事前学習：担当教員の指示に従って準備を行う(2時間)。 第1回～30回の事後学習：担当教員の指示に従って学習を進める(2時間)。
(5) 授業形態[面接授業・遠隔授業]
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
レポートや発表(50%) 平常点(50%) (レポートや発表の形式は担当教員により異なります。平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。)
(7) 成 績 評 価 基 準
自らの研究課題を設定することができるか。研究課題に関連する文献などを適切に講読できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他(レポートや発表、平常点に対するフィードバックについて) ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☒ その他(各ゼミの担当教員の方法)

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
担当教員から指示されます。
(11) その他(受講上の注意)
担当教員から指示されます。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

企業と制度 (Corporations and Contemporary Society)			担当教員	南保 勝	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-A-2321	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 コミュニケーション学専門					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
企業活動を維持していくには、事業運営、雇用、販売など様々な経済活動面で把握すべき制度がある。本講義では、こうした企業活動を維持する各種制度の中から「商品」に係わる制度運営上の課題に着目し、商品の仕入、販売等に係わる課題を理解するために、生活者の立場から見て商品の価値や価格などを評価できる基礎知識の修得を目指す。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
この講義の学習成果は、「企業における組織的、社会的な活動での業務遂行に際し、必要な分析力や計画性に関する知識・技術の修得」である。具体的には、消費者行動論やマーケティング論をベースとして、生活者の立場で商品評価を可能にするための基礎力養成をめざす。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) この講義の学習成果(身につけるべき力)は、「企業における組織的、社会的な活動での業務遂行に際し、必要な分析力や計画性に関する知識・技術の修得」である。具体的には、消費者行動論やマーケティング論をベースとして、生活者の立場で商品評価を可能にするための基礎力養成をめざす。 ☒ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他 (演習)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス、構造変化と消費行動 事前学習：講義前にシラバスを読み、講義概要を把握しておくこと。(2時間) 事後学習：構造変化と消費行動(イントロ)について学習した内容をまとめておくこと。(2時間) 第2回：構造変化と消費行動 事前学習：前回学習した構造変化と消費行動について、不明確な点を整理しておくこと。(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。(2時間) 第3回：商品の概念 事前学習：商品の概念について、教科書で確認しておく。(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。(2時間) 第4回：商品の品質と価格 事前学習：商品の品質と妥当性について、教科書で確認しておくこと。(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。(2時間) 第5回：商品デザインとパッケージ 事前学習：商品デザインとパッケージの役割について、教科書で確認しておくこと。(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。(2時間) 第6回：経済のサービス化と商品(その1) 事前学習：経済のサービス化における消費者ニーズの変化をわかる範囲で確認しておくこと。(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。(2時間) 第7回：経済のサービス化と商品(その2) 事前学習：経済のサービス化の中での商品とは何か、事前に確認しておくこと。(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。(2時間) 第8回：消費活動を取り巻く諸問題 事前学習：消費生活における課題とは何か、整理しておくこと。(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。(2時間) 第9回：ブランドの価値と役割(その1) 事前学習：ブランドの価値と役割について、整理しておくこと。(2時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。(2時間)

第10回：ブランドの価値と役割（その2） 事前学習：前回の講義に続いて、ブランドの価値・役割を整理しておくこと。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。（2時間） 第11回：少子高齢化社会における商品（その1） 事前学習：少子高齢化社会における商品とは何か、教科書を用いて整理しておくこと。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。（2時間） 第12回：少子高齢化社会における商品（その2） 事前学習：少子高齢化社会における商品に関し、前回の講義で足らなかった点を整理しておくこと。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。（2時間） 第13回：商品と社会（その1） 事前学習：社会的企業とは何か、教科書を用い予習しておくこと。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。（2時間） 第14回：商品と社会（その2） 事前学習：社会的企業の役割とは何か、教科書を用いて整理しておくこと。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：これまでの講義で取り扱った内容について、疑問点を整理しておくこと。（2時間） 事後学習：講義全体について、整理・把握に努めること。（2時間） 第16回：定期試験	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
毎回の講義で実施する演習問題の成績（30％）と学習態度（講義への取り組み姿勢や受講態度等）（20％）、定期試験（50％）を総合して判断する。	
(7) 成績評価基準	
・講義に積極的に取り組んでいるかどうか。 ・講義で取り扱った内容を理解し、修得できているかどうか。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（定期試験前のまとめで練習問題を実践し、全体のフィードバックとする） 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	
・経歴 （地方銀行及びそのシンクタンクに勤務） ・実務経験と授業内容との関連性 （地方銀行及びそのシンクタンクで学んだ実践的な経済学、経営学を活かして、日本の企業や地域経済の現状、歴史的発展過程、将来における企業のあるべき姿などについて「商品学」を主なテーマにしながら解説する。）	
(10) テキスト、参考図書	
見目洋子、榊原理著『現代商品論（第2版）』白桃書房2011	
(11) その他(受講上の注意)	
(12) オフィスアワー	
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。	

プロジェクト・デザインⅡ (Project DesignⅡ)			担当教員	禿 寿	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CO-B-2342	2 単位	3 年通年	演習	選択	
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 ビジネスコース					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、課題解決のための構想力と判断力を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
プロジェクト・デザイン（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）は、2年生～4年生の3年間という長期的展望に立って、年度を重ねながら最終的に学年を超えたコラボレーションでプロジェクトを生み出し、実現する授業に育てていくことを目指す科目である。 本講義では、チーム・ビルディングという観点を基軸とするなかで、「協働」という一連のプロセスを経験することを目的とする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
一連のプロセスを通して、「協働」の楽しさ、および難しさの経験的理解を得ることを到達目標とする。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習（PBL） □討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス（講義の目的や今後の流れ、評価方法等についての説明） 事前学習：講義前にシラバスを読み、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておく。（2時間） 第2回：チーム・オリエンテーション（グループワーク） 事前学習：講義前にシラバスを読み、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：チームメンバーと交流し、互いの得意な領域を確認しておく。（2時間） 第3回：調査（グループワーク） 事前学習：講義にスムーズに参加できるよう、前回の講義内容を復習しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておく。（2時間） 第4回：分析（グループワーク） 事前学習：講義にスムーズに参加できるよう、前回の講義内容を復習しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておく。（2時間） 第5回：評価（グループワーク） 事前学習：講義にスムーズに参加できるよう、前回の講義内容を復習しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておく。（2時間） 第6回：中間報告（グループワーク） 事前学習：講義にスムーズに参加できるよう、前回の講義内容を復習しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておく。（2時間） 第7回：制作①（グループワーク） 事前学習：講義にスムーズに参加できるよう、前回の講義内容を復習しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておく。（2時間） 第8回：制作②（グループワーク） 事前学習：講義にスムーズに参加できるよう、前回の講義内容を復習しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておく。（2時間）

第9回：制作③（グループワーク） 事前学習：講義にスムーズに参加できるよう、前回の講義内容を復習しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておく。（2時間） 第10回：制作④（グループワーク） 事前学習：講義にスムーズに参加できるよう、前回の講義内容を復習しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておく。（2時間） 第11回：模擬報告（グループワーク） 事前学習：講義にスムーズに参加できるよう、前回の講義内容を復習しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておく。（2時間） 第12回：2～4年生合同授業① 事前学習：発表会の事前準備をする。（2時間） 事後学習：最終チェックをして完成度を高める。（2時間） 第13回：2～4年生合同授業②（発表） 事前学習：発表会の事前準備をする。（2時間） 事後学習：最終チェックをして完成度を高める。（2時間） 第14回：2～4年生合同授業③ 事前学習：発表会の事前準備をする。（2時間） 事後学習：最終チェックをして完成度を高める。（2時間） 第15回：総括 事前学習：これまでの講義内容の振り返りを行っておく。（2時間） 事後学習：フィードバックの結果に沿って発表内容を修正する。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 課題に対する取り組み内容・提出物（70%）、平常点（30%）
(7) 成績評価基準 ・プロジェクトを生み出し、展開できているか。 ・プロジェクトチームに貢献できているか、また、プロジェクトチームとして成果がでているか。 ・プロジェクトの進め方（基本）について説明することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 特に使用しない。参考となる資料は必要に応じて配布する。
(11) その他(受講上の注意) 一貫してチーム編成にて作業を進行する。価値観の違いを面白がり、触発しあい、生み出しかう姿勢を持つこと。授業の進捗に応じて柔軟に内容を変更していく。詳細説明は第1回に行うので、必ず出席すること。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

会計学 a (Accounting a)			担当教員	大西 新吾	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CO-B-2344	2 単位	3 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 ビジネスコース					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、課題解決のための構想力と判断力を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
本講義では、ビジネス社会における「言語（コミュニケーション・ツール）」としての会計を理解すること並びに企業によって作成された財務情報（会計報告書）を読み取る力を修得することを目的とする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
講義で扱った内容を理解し、会計報告書を見て当該企業の財政状態と経営成績の現状と未来を読み取ることができるようになることを到達目標とする。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☐ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他（演習）
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：会計学とは ーガイダンス（講義の目的や今後の流れ、評価方法等についての説明） 事前学習：講義前にシラバスを読み、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第2回：会計の定義と領域（テキスト第1章～第2章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第3回：会計の役割と法規制（テキスト第3章～第4章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第4回：貸借対照表の概要（1）資産の区分①流動資産（テキスト第5章～第6章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第5回：貸借対照表の概要（2）資産の区分②固定資産と繰延資産（テキスト第6章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第6回：貸借対照表の概要（3）負債と純資産の区分（テキスト第6章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第7回：損益計算書の概要（1）5つの利益と売上総利益（テキスト第7章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第8回：損益計算書の概要（2）販売費及び一般管理費と営業利益（テキスト第7章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第9回：損益計算書の概要（3）営業外損益・特別損益と当期純利益（テキスト第7章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間）

第10回：貸借対照表の財務分析（テキスト第10章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に復習しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第11回：損益計算書の財務分析（テキスト第10章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第12回：貸借対照表と損益計算書の財務分析（1）回転率（テキスト第10章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第13回：貸借対照表と損益計算書の財務分析（2）株式投資（テキスト第10章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第14回：財務分析の振り返りと事例研究（問題演習） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第15回：総括 事前学習：これまでの講義で取り扱った単元を、事前に復習しておく。（2時間） 事後学習：講義全体を振り返り、質問した箇所や苦手箇所を抽出し、復習しておく。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
各回の授業時に提出する演習課題の成績（30％）と定期試験の成績（70％）を総合して成績評価を行う。
(7) 成績評価基準
・講義に積極的に取り組んでいるかどうか（各回の授業内容の理解・修得を課題の提出で評価）。 ・講義で取り扱った内容を理解し、修得できているかどうか（授業全体の理解・修得を定期試験で評価）。
(8) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書
片山 覺・山内 暁ほか『入門会計学 改訂版 決算書が読めるようになるエッセンス』実教出版. 2020.
(11) その他（受講上の注意）
本講義の内容は、「財務会計」といわれる会計学の一分野にあたる。広く企業経営を理解したい方は本科目を履修することを勧める。 テキストは必ず購入し、毎回の授業時に持参すること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

会計学 b (Accounting b)			担当教員	大西 新吾	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CO-B-2345	2 単位	3 年後期	演習	選択	
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 ビジネスコース					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、課題解決のための構想力と判断力を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
本講義では、制度会計のひとつとしての税務会計を理解し、我が国の税金（税法）に関する知識を修得することを目的とする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
講義で扱った内容を理解し、国民の三大義務の一つである納税の義務のもと社会人としての対応力を身につけることができるようになることを到達目標とする。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☐ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他（演習）
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：税金とは ーガイダンス（講義の目的や今後の流れ、評価方法等についての説明） 事前学習：講義前にシラバスを読み、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第2回：税金の種類と分類（テキスト第1章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第3回：所得税（1）10種の所得（テキスト第2章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第4回：所得税（2）所得税の計算のしくみ（テキスト第2章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第5回：所得税（3）所得控除（テキスト第2章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第6回：所得税（4）給与所得（問題演習）（テキスト第2章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第7回：法人税（1）法人税の概要（テキスト第3章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第8回：法人税（2）会計上の利益と法人税上の所得（テキスト第3章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第9回：相続税（1）相続税の概要（テキスト第4章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間）

第10回：相続税（2）相続税の計算のしくみ（問題演習）（テキスト第4章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第11回：消費税（1）消費税の概要（テキスト第5章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第12回：消費税（2）消費税の計算のしくみ（問題演習）（テキスト第5章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に確認しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第13回：仕事と生活にかかわるその他の税金（1）（テキスト第5章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に復習しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第14回：仕事と生活にかかわるその他の税金（2）（テキスト第5章） 事前学習：講義で取り扱う単元を、事前に復習しておく。（2時間） 事後学習：講義で学習した内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回の講義時に質問できるよう、質問内容をまとめておくこと。（2時間） 第15回：総括 事前学習：これまでの講義で取り扱った単元を、事前に復習しておく。（2時間） 事後学習：講義全体を振り返り、質問した箇所や苦手箇所を抽出し、復習しておく。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 各回の授業時に提出する演習課題の成績（30%）と定期試験の成績（70%）を総合して成績評価を行う。
(7) 成績評価基準 ・講義に積極的に取り組んでいるかどうか（各回の授業内容の理解・修得を課題の提出で評価）。 ・講義で取り扱った内容を理解し、修得できているかどうか（授業全体の理解・修得を定期試験で評価）。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 梅田泰宏『これだけは知っておきたい「税金」のしくみとルール 改訂新版11版』フォレスト出版.2026.
(11) その他(受講上の注意) 本科目は、前期開講科目の「会計学a(財務会計)」を履修していることが望ましい。 テキストは必ず購入し、毎回の授業時に持参すること。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

ビジネス能力論 (Study of Business Skills)			担当教員	野尻 昌明	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CO-B-2346	2 単位	3 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 ビジネスコース					
求める学習成果(教育目標)					
企画力・マネジメント力の向上を通して、組織・地域・社会の課題の解決に向けて主体的に取り組む力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
企業理念の重要度を理解する。そのうえで企業と社会、企業と生活者を結ぶビジネス・コミュニケーション（広報・広告・メディア・社内外）の在り方について仮想企業を想定し実践を通して学習します。 既存の行政・組織・企業プロジェクトの課題を考察・参加し、実際に組織の理念・イメージを売る。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
IT、グローバル化、パーソナル化、少子高齢化によって急速に変化するビジネスを的確にとらえ、コミュニケーションビジネスの新たな価値創造を養うことを目的とします。 企業側の立場に立つことで、企業理念・存在価値を伝えるためのコミュニケーションスキルを学ぶ。
(3) アクティブラーニング
□課題解決型学習（PBL） ■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） □実習、フィールドワーク ■実験、実技 ■その他（チームによるクリエイティブワーク）
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1部 「ひとり企業（Individual company）とはなにか！？」 実際の地域・企業プロジェクトを設定し、理念、ビジョン、事業・人・組織を学ぶ。 地域・企業イメージを創るということ。 第1回：企業イメージ①（イメージをつくるということ）。 事前学習：会社のため、自分のため、社会のため、はたらくとはどういうことかをまとめておく。（2時間） 事後学習：企業人を知ることで、自分ならなにを起こせるかをレポートする。（2時間） 第2回：企業イメージ②（企業イメージをプロモーションするという）。 事前学習：今までになかった商品・製品を考えておく。（2時間） 事後学習：発想を変えることで、開発できる製品を創造してみる。（2時間） 第3回：企業イメージ③（技術イメージ/技術を社会に紹介するという）。 事前学習：インダストリアル背景にある発想、発明を調査しておく。（2時間） 事後学習：商品・製品の存在理由を複数レポートする。（2時間） 第4回：企業イメージ④（ブランドイメージ/ブランドは思いから生まれるということ）。 事前学習：使っている製品や、広告から得るブランドイメージを複数社準備しておく。（2時間） 事後学習：ブランドイメージとは何かを研究しておく。（2時間） 第5回：企業イメージは「理念」によって生まれる。 事前学習：各企業の理念とイメージについて研究しておく。（2時間） 事後学習：企業の「理念」を考察してみる。（2時間） 第2部 「既存の行政・組織・企業プロジェクトの課題を考察する」。 組織の理念・イメージを売る。 第6回：既存行政・組織・企業の理念と、消費者。 事前学習：行政・組織・企業などの理念を考察しておく。（2時間） 事後学習：理念に従うとはどういうことなのかを自分に置き換え考える。（2時間） 第7回：想定した企業の行動指針とスローガン。 ※既存の企業（プロジェクト）となる場合もある。 事前学習：各企業におけるスローガンを複数選択し、その意味を探しておく。（2時間） 事後学習：スローガン制作を学び、(株)COMに应用する。（2時間） 第8回：企業のイメージ戦略とコスト。 事前学習：各企業におけるイメージ戦略を複数選択しておく。（2時間） 事後学習：短期・中期・長期イメージ戦略を学び(株)COMへの応用を考える。（2時間）

第9回：企業のクリエイティブイメージ。 事前学習：広報におけるクリエイティブを、自由に記録しておく。（2時間） 事後学習：クリエイティブ制作を学び（株）COMへの応用を考える。（2時間） 第10回：企業の広告表現（ビジネスを言葉にすること）。 事前学習：一貫した企業広告を選択しておく。（2時間） 事後学習：広告のノウハウを学び、応用をまとめる。（2時間） 第3部：組織と理念。 企業イメージをつくる。 第11回：「ひとり企業」とは。 事前学習：自分ができるクリエイティブ（仕事）とは何かをまとめておく。（2時間） 事後学習：ひとりで完結できることを探求し、成立させてみる。（2時間） 第12回：理念を踏まえて企業パンフレット/ポスター/CM等を企画する。企業理念・イメージを伝える。 事前学習：企業パンフレット（webにも応用可）を複数選択しておく。（2時間） 事後学習：企業内での自分の役割、得意分野を探求する。（2時間） 第13回：ひとりひとりの能力が理念に行き着くその時、組織のパワーとなる。 事前学習：企業理念と、自分の能力の重なりを探しておく。（2時間） 事後学習：理念と能力を反応させることで、どのような表現が可能かを考える。（2時間） 第14回：パーソナルページ（ひとり企業）の集合体が1冊となり「企業パンフレット（ポスター）」となる。 事前学習：パンフレット内の自分ページのラフを完成させておく。（2時間） 事後学習：自分ページのブラッシュアップを行い次回授業に備える。（2時間） 第15回：「企業パンフレット（ポスター）」のブラッシュアップ。「自分とは、企業とは」を、プレゼンテーションする。（グループワーク・プレゼンテーション） 事前学習：自分ページの役割を発表する準備を行う。（2時間） 事後学習：自分ページと他ページのバランスを考慮し、さらなる応用を考える。（2時間） 第16回：定期試験 ※履修人数、社会状況等により内容・計画第1部～3部を変更する場合があります。	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
課題に対する活動評価・提出物・定期試験（60%）平常点（40%）。 平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する。	
(7) 成績評価基準	
実践的で現場型の※少数人数教育を通じて、これからのビジネスを理解・創造できる人材育成を目指します。基本的な職業能力を源にしてなお「自立・独立型」の幅広い知識とともに成長することを期待します。組織の中にあっても幅広いコミュニケーション能力ですべての分野を網羅する思考を持つ企業人（ひとり企業）への可能性があるかを見極めます。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	
(10) テキスト、参考図書	
なし	

(11) その他(受講上の注意)

他者の学ぶ時間を奪ったり、学ぶ姿勢を阻害するような行動に対しては厳しく対処します。各自、講義を通じて問題意識を醸成してください。
ライティング技法（２年後期）を履修したものが望ましい。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

ビジネス・コミュニケーション研究 (Business・Communication)			担当教員	升田 法継	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-B-2347	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 ビジネスコース					
求める学習成果(教育目標)					
企画力・マネジメント力の向上を通して、組織・地域・社会の課題の解決に向けて主体的に取り組む力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
情報通信媒体を介したバーチャルコミュニケーションが著しく拡大している今日において、ますます対面のコミュニケーション能力の重要性が問われる時代となっている。授業では、実社会において自身の個性や資質をより活かせるようにするための実践的なコミュニケーション能力の向上を狙いとする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ コミュニケーション能力を高めるための視点や要件について説明することができる。 ・ 他者とのコミュニケーションが円滑に行える。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
授業では、組織や職場における基本的なコミュニケーションパターンを学ぶとともに、コミュニケーション力を高めるためのアプローチ方法について考えていく。 第1回：組織とは 事前学習：「組織」について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第2回：組織内・部門間のコミュニケーションⅠ 事前学習：部門間のコミュニケーションについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第3回：組織内・部門間のコミュニケーションⅡ 事前学習：前回に続き部門間のコミュニケーションについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第4回：組織内・部門間のコミュニケーションⅢ 事前学習：前回に続き部門間のコミュニケーションについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第5回：組織と現場力 事前学習：組織と現場力について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第6回：上司と部下のコミュニケーションⅠ(グループワーク) 事前学習：上司と部下のコミュニケーションについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第7回：上司と部下のコミュニケーションⅡ(グループワーク・発表) 事前学習：前回に続き上司と部下のコミュニケーションの留意点について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)

第8回：会議のコミュニケーションⅠ 事前学習：会議の進め方における留意点について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第9回：会議のコミュニケーションⅡ（グループワーク） 事前学習：前回に続き会議の進め方における留意点について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第10回：文書のコミュニケーションⅠ（グループワーク） 事前学習：効果的な議事録・メールについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第11回：文書のコミュニケーションⅡ（グループワーク・発表） 事前学習：前回に続き効果的な議事録・メールについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第12回：就活のコミュニケーションⅠ（グループワーク） 事前学習：自己理解と自己表現について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第13回：就活のコミュニケーションⅡ 事前学習：前回に続き自己理解と自己表現について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第14回：就活のコミュニケーションⅢ 事前学習：「ES」作成及び「面接」の留意点について意見交換をするため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：授業全体の振り返りおよび確認問題を実施するので、これまでの授業内容を確認しておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
課題に対する活動内容・提出物・レポート（70%）、平常点（30%） ※平常点：授業への参加状況・受講態度等を総合して判断するもの
(7) 成績評価基準
・コミュニケーション能力を高めるための視点や要件について説明することができるか。 ・他者とのコミュニケーションが円滑に行えるか。
(8) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他（リアクションペーパーに対するフィードバックについて） ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性) ・ 経歴 (元情報通信会社管理職(社員数:26万人、主な担当業務:人事、社長・取締役秘書、マーケティング、新規ビジネス開発、システム コンサルタント等)) ・ 実務経験と授業内容との関連性 (情報通信会社において、人事や社長・取締役スタッフ経験もある教員が、組織内および組織対組織で展開されるコミュニケーションについて解説する。)
(10) テキスト、参考図書 必用に応じて、授業中に提示します。
(11) その他(受講上の注意) ・「授業の計画」は、進捗や学生の反応・理解度に応じて、変更する場合があります。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

組織と情報 (Information and Organization)			担当教員	升田 法継	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CO-BS-2348	2 単位	3 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 ビジネスコース／社会・文化コース					
求める学習成果（教育目標）					
企画力・マネジメント力の向上を通して、組織・地域・社会の課題の解決に向けて主体的に取り組む力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
授業では、企業と（企業にとって人・モノ・金に次ぐ第4の経営資源といわれる）情報の関わりについて考察し、情報化社会における企業活動の概況や課題について理解を深めることを狙いとする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ ホームページや新聞から企業に関する情報を収集し、自身の考えを述べることができる。 ・ 情報社会における企業のしくみや課題について説明することができる。
(3) アクティブラーニング
□課題解決型学習（PBL） ■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：企業と経済活動 事前学習：企業と経済活動との関係性について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第2回：組織文化と企業理念Ⅰ 事前学習：組織文化と企業理念について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第3回：組織文化と企業理念Ⅱ 事前学習：前回に続き組織文化と企業理念について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第4回：組織文化と企業理念Ⅲ 事前学習：前回に続き組織文化と企業理念について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第5回：企業形態とガバナンス 事前学習：企業形態とガバナンスについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第6回：マーケティングⅠ 事前学習：マーケティングについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第7回：マーケティングⅡ（グループワーク） 事前学習：前回に続きマーケティングについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第8回：マーケティングⅢ（発表） 事前学習：前回続きマーケティングについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）

第9回：経営戦略（グループワーク） 事前学習：経営戦略について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第10回：事業戦略Ⅰ（グループワーク） 事前学習：事業戦略について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第11回：事業戦略Ⅱ（グループワーク） 事前学習：前回に続き事業戦略について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第12回：ビジネスモデル（グループワーク） 事前学習：ビジネスモデルについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第13回：企業と採用・人事情報Ⅰ（ディスカッション） 事前学習：企業と採用・人事について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第14回：企業と採用・人事情報Ⅱ 事前学習：前回に続き企業と採用・人事について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：授業全体の振り返りおよび確認問題を実施するので、これまでの授業内容を確認しておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 課題に対する活動内容・提出物・レポート（70%）平常点（30%） （平常点は、授業への参加状況・受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。）
(7) 成績評価基準 ・ ホームページや新聞から企業に関する情報を収集し、自身の考えを述べることができるか。 ・ 情報社会における企業のしくみや課題について説明することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他（リアクションペーパーに対するフィードバックについて） ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性) ・ 経歴（元情報通信会社管理職（社員数：26万人、主な担当業務：人事、社長・取締役秘書、マーケティング、新規ビジネス開発、システム コンサルタント等）） ・ 実務経験と授業内容との関連性 （情報通信会社において、人事、社長・取締役やマーケティング経験もある教員が、企業活動の概況、企業と情報の関わりや主な課題について解説する。）

(10) テキスト、参考図書
必要に応じて、授業中に提示します。
(11) その他(受講上の注意)
「授業の計画」は、進捗や学生の反応・理解度に応じて、前後したり変更する場合があります。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

消費者と行動 (Consumer Behavior)			担当教員	禿 寿
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-BS-2349	2 単位	3 年後期	講義	選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 ビジネスコース／社会・文化コース				
求める学習成果(教育目標)				
企画力・マネジメント力の向上を通して、組織・地域・社会の課題の解決に向けて主体的に取り組む力を育成します。				

(1) 授 業 の 内 容
消費者と行動、家計と企業を経済学（ミクロ経済学）からとらえる講義です。この講義では、消費者や生産者はどのように行動し、どのように相互関係を構築しているのかを理論に基づいて学びます。市場での取引は望ましいのか、政府はどのような政策を実施すべきなのか、などです。経済学は、ビジネスマンとしての最低限の教養です。いまある経済の動きがどんな意味をもっているのか理解するためには、経済学的思考の枠組みを身につける必要があります。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ ミクロ経済学で使われる理論を理解すること ・ 需要曲線供給曲線を理解すること
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☐ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他（パソコンを用いた演習）
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション：経済学とは 事前学習：授業計画でそれぞれの回のテーマを確認し、それに関連することを調べておくこと（2時間） 事後学習：授業の内容および配布された資料についての見直しや、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること（2時間） 第2回：ミクロ経済学の基本 -経済原理について- 事前学習：授業計画でそれぞれの回のテーマを確認し、それに関連することを調べておくこと（2時間） 事後学習：授業の内容および配布された資料についての見直しや、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること（2時間） 第3回：ミクロ経済学の基本 -希少性と機会費用について- 事前学習：授業計画でそれぞれの回のテーマを確認し、それに関連することを調べておくこと（2時間） 事後学習：授業の内容および配布された資料についての見直しや、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること（2時間） 第4回：トレードオフと取引 -生産可能性フロンティアについて- 事前学習：授業計画でそれぞれの回のテーマを確認し、それに関連することを調べておくこと（2時間） 事後学習：授業の内容および配布された資料についての見直しや、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること（2時間） 第5回：需要モデル① -需要曲線について- 事前学習：授業計画でそれぞれの回のテーマを確認し、それに関連することを調べておくこと（2時間） 事後学習：授業の内容および配布された資料についての見直しや、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること（2時間） 第6回：需要モデル② -需要曲線のシフトについて- 事前学習：授業計画でそれぞれの回のテーマを確認し、それに関連することを調べておくこと（2時間） 事後学習：授業の内容および配布された資料についての見直しや、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること（2時間） 第7回：供給モデル -供給曲線について- 事前学習：授業計画でそれぞれの回のテーマを確認し、それに関連することを調べておくこと（2時間） 事後学習：授業の内容および配布された資料についての見直しや、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること（2時間） 第8回：需要と供給 -市場均衡について- 事前学習：授業計画でそれぞれの回のテーマを確認し、それに関連することを調べておくこと（2時間） 事後学習：授業の内容および配布された資料についての見直しや、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること（2時間）

第9回：生産者余剰と消費者余剰① -消費者余剰と支払い意欲額について- 事前学習：授業計画でそれぞれの回のテーマを確認し、それに関連することを調べておくこと（2時間） 事後学習：授業の内容および配布された資料についての見直しや、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること（2時間） 第10回：生産者余剰と消費者余剰② -転売問題について- 事前学習：授業計画でそれぞれの回のテーマを確認し、それに関連することを調べておくこと（2時間） 事後学習：授業の内容および配布された資料についての見直しや、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること（2時間） 第11回：生産者余剰と消費者余剰① -生産者余剰と価格統制について- 事前学習：授業計画でそれぞれの回のテーマを確認し、それに関連することを調べておくこと（2時間） 事後学習：授業の内容および配布された資料についての見直しや、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること（2時間） 第12回：外部性と弾力性 事前学習：授業計画でそれぞれの回のテーマを確認し、それに関連することを調べておくこと（2時間） 事後学習：授業の内容および配布された資料についての見直しや、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること（2時間） 第13回：独占市場 事前学習：授業計画でそれぞれの回のテーマを確認し、それに関連することを調べておくこと（2時間） 事後学習：授業の内容および配布された資料についての見直しや、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること（2時間） 第14回：情報の非対称性について 事前学習：授業計画でそれぞれの回のテーマを確認し、それに関連することを調べておくこと（2時間） 事後学習：授業の内容および配布された資料についての見直しや、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：授業計画でそれぞれの回のテーマを確認し、それに関連することを調べておくこと（2時間） 事後学習：授業の内容および配布された資料についての見直しや、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 課題等の提出物（70%）、平常点（30%）
(7) 成績評価基準 ・ミクロ経済学で使われる理論を理解しているか ・需要曲線供給曲線を理解しているか
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■授業時 □仁大eラーニング □メール □その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて □授業時 □仁大eラーニング □メール □その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて □授業時 □仁大eラーニング □メール □その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて □定期試験時 □仁大eラーニング □メール □その他 5) その他 □授業時 □仁大eラーニング □メール □その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 担当教員から適宜指示する。 参考図書 ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス「クルーグマン ミクロ経済学」2017年、東洋経済新報社

(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

メディア・デザインⅡ (Media Design Ⅱ)			担当教員	坂田 守史	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CO-B-2354	2 単位	3 年前期	演習	選択	
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 ビジネスコース					
求める学習成果(教育目標)					
企画力・マネジメント力の向上を通して、組織・地域・社会の課題の解決に向けて主体的に取り組む力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
講義は座学と実習(課題制作)の両方で行う。座学はメディアの歴史的変遷やメディア論についてなどや実習課題と紐づいた内容をレクチャーする。 実習では、メディアの中でもビジュアルコミュニケーションに特化し、ビジュアルデザインの基本的な視点や技術を学び、実習を通して自己の探究を深めるリサーチをしていながら、メディア表現・制作を行う。最終課題では、リサーチしたことをもとに、自分を表現するビジュアルの冊子をつくり、自身を伝えることのプロセスを通じて、メディアの役割や伝達を考えていく。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
ビジュアルアーツ・ビジュアルコミュニケーションのスキルを身につけ、自己探究のリサーチを通して、自身について理解しさらにそれを表現することで、独創的な伝達方法を提案できる。
(3) アクティブラーニング
☐課題解決型学習(PBL) ☐討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒実習、フィールドワーク ☒実験、実技 ☐その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション・イントロダクション(講義) 事前学習：シラバスを確認し、講義の全体を理解する(2時間) 事後学習：自分を構成するものの探究(2時間) 第2回：メディアの潮流・ビジュアルコミュニケーション概論(講義) 事前学習：自分が参照しているメディアを把握する(2時間) 事後学習：講義2のミニレポートを作成する(2時間) 第3回：観察する・発見する・表現する1(実習)……<課題を提出> 事前学習：画材などの持参物を準備する(2時間) 事後学習：講義3のミニレポートを作成する(2時間) 第4回：メディア論(講義)……<課題を提出> 事前学習：自分が参照しているメディアの種類について調べる(2時間) 事後学習：講義4のミニレポートを作成する(2時間) 第5回：ビジュアル構成読解(講義・発表)……<課題を提出> 事前学習：好きなチラシや雑誌などのメディアを準備しその構成を理解する(2時間) 事後学習：講義5のミニレポートを作成する(2時間) 第6回：コラージュ表現(実技)……<課題を提出> 事前学習：さまざまなメディアから自分が気になった写真や文章を集める(2時間) 事後学習：コラージュの制作を更新する(2時間) 第7回：メディアをつくる1<素材を集める・理解する>(実習) 事前学習：自分を構成している写真や文章素材を集め準備する(2時間) 事後学習：自分を構成している写真や文章素材を更新する(2時間) 第8回：メディアをつくる2<コンセプト・構成を考える>(実習) 事前学習：集めた素材から共通性や異なる点などを考える(2時間) 事後学習：コンセプト・構成を更新する(2時間) 第9回：メディアをつくる3<製本を理解する>(実技) 事前学習：使用する素材を集める(2時間) 事後学習：構成したものを更新する(2時間) 第10回：観察する・発見する・表現する2(実習)……<課題を提出> 事前学習：興味のある雑誌・本を探す(2時間) 事後学習：次回実習の素材集めなど(2時間)

第11回：メディアをつくる4＜冊子制作の技術＞（実技） 事前学習：使用する素材を集める（2時間） 事後学習：メディア制作に必要な知識を調べる（2時間） 第12回：メディアをつくる5＜制作＞（実技） 事前学習：使用する素材を集める（2時間） 事後学習：メディア制作を更新する（2時間） 第13回：メディアをつくる6＜制作＞（実技） 事前学習：使用する素材を集める（2時間） 事後学習：メディア制作を更新し完成させる（2時間） 第14回：メディアのプレゼンテーション（発表）……＜制作したメディアの最終提出＞ 事前学習：発表の準備をする（2時間） 事後学習：プレゼンテーションを振り返り改善点を考える（2時間） 第15回：メディア・リテラシー（講義） 事前学習：メディアやリテラシーについて調べる（2時間） 事後学習：制作したメディアの改善点を考える（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
・各課題の提出物による理解度と完成度 70% （全課題提出の平均点で評価。提出物の質や創意工夫によって加点する） ・最終課題の提出 15% （提出物の質や創意工夫によって加点する） ・プレゼンテーションの完成度 15% （創意工夫によって加点する） ・講義中の態度によっては減点を行う （雑談による他者への聴講妨害や不必要なスマホ操作など講義に集中できていない者は減点） 上記の加点・減点もふまえ、総合的に成績評価を行う。
(7) 成績評価基準
課題の内容をよく理解し実習で得られたことを積み重ね、以降の実習に活かしているか。制作物においてビジュアルスキルをよく理解し創意工夫をしているか。また、制作物だけでなくプレゼンテーションにおいても同様に創意工夫をしているか。ビジュアルスキルをより広く深く理解するために自主学習やリサーチを行っているか。制作物の完成度を上げるためにそれまでの課題を振り返り知識や経験を投入できているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
講義内で適宜紹介し指定する。
(11) その他(受講上の注意)
-
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

プログラミング (Programming)			担当教員	大須賀 元彦	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-BS-2355	2 単位	3 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 ビジネスコース／社会・文化コース					
求める学習成果(教育目標)					
企画力・マネジメント力の向上を通して、組織・地域・社会の課題の解決に向けて主体的に取り組む力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
この授業の内容はプログラミングの基礎的な知識技術を身に付けるために、代表的なプログラミングの言語であるPythonを使って実際に学習を進めていきます。その過程でアルゴリズムやフローチャートなどについても学習していきます。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・Pythonを用いて基本的なプログラムを設計し、コーディング等を行うことができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス、プログラミングとは、Pythonとは 事前学習：シラバスを読むことと、テキスト全体を通読する。(2時間) 事後学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。(2時間) 第2回：変数、型、文字列に関するワーク(実技) 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。(2時間) 事後学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。(2時間) 第3回：リスト、辞書に関するワーク(実技) 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。(2時間) 事後学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。(2時間) 第4回：関数に関するワーク(実技) 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。(2時間) 事後学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。(2時間) 第5回：ライブラリー、モジュールなどに関するワーク(実技) 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。(2時間) 事後学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。(2時間) 第6回：条件分岐に関するワーク(実技) 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。(2時間) 事後学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。(2時間) 第7回：PDFに関するワーク(実技) 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。(2時間) 事後学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。(2時間) 第8回：画像処理に関するワーク(実技) 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。(2時間) 事後学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。(2時間) 第9回：ウェブサイト上の自動情報収集に関するワーク(実技) 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。(2時間) 事後学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。(2時間) 第10回：ここまでのまとめ 事前学習：テキストを用いてここまでの講義内容について復習する。(2時間) 事後学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。(2時間) 第11回：機械学習とは？ 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。(2時間) 事後学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。(2時間)

第12回：機械学習に関するワーク（実技） 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。（2時間） 事後学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。（2時間） 第13回：アプリ開発に関するワーク（実技） 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。（2時間） 事後学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。（2時間） 第14回：自動要約に関するワーク（実技） 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。（2時間） 事後学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。（2時間） 第15回：自作のプログラムに関するワークと全体のまとめ（実技） 事前学習：テキスト全体を熟読し、ここまでの内容を振り返る。（2時間） 事後学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
課題（100%）
(7) 成績評価基準
・Pythonを用いて基本的なプログラムを設計し、コーディング等を行うことができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書
テキスト：みやさかしんや『作りたいものがない人のためのPython入門』講談社、2025年
(11) その他(受講上の注意)
テキストに従って授業を進めるので、指定されたテキストを購入し、毎回持参してください。毎回の授業が関連していますので出席は極めて重要です。受講者の学修状況を踏まえ、授業の進め方を一部変更することがあります。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

データ解析法 (Quantitative Data Analysis)			担当教員	織田 暁子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CO-S-2359	2 単位	3 年前期	演習	選択	
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 社会・文化コース					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
社会学的データ分析で用いる基礎的な多変量解析法について、その基本的な考え方と主要な計量モデルを解説する。分散分析や単回帰分析そして重回帰分析を中心に、その考え方と実際の使い方を学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・データのタイプに応じて、適切な分析手法を選択できるようになる。 ・多変量解析の考え方を理解できるようになる。 ・多変量解析の基礎的な手法を、コンピューターソフトを用いて実践出来るようになる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(パソコンを用いた演習)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 事前学習：これまでの授業で使ったテキストで記述統計学・推測統計学について復習しておく(2時間) 事後学習：統計ソフトの使い方を確認しておく(2時間) 第2回：復習(1)——尺度水準、記述統計量 事前学習：記述統計量の求め方について確認しておくこと(2時間) 事後学習：レジュメを見直し、授業で行った分析を復習する(2時間) 第3回：復習(2)——検定の考え方 事前学習：検定とは何か、確認しておくこと(2時間) 事後学習：レジュメを見直し、授業で行った分析を復習する(2時間) 第4回：多変量解析の考え方：変数をコントロールするとは、どういうことか？ 事前学習：変数のコントロールとは何か、確認しておくこと(2時間) 事後学習：レジュメを見直し、授業で行った分析を復習する(2時間) 第5回：分散分析の理論と演習 事前学習：分散分析とはどのような分析か、確認しておくこと(2時間) 事後学習：レジュメを見直し、授業で行った分析を復習する(2時間) 第6回：単回帰分析の理論と演習 事前学習：単回帰分析とはどのような分析か、確認しておくこと(2時間) 事後学習：レジュメを見直し、授業で行った分析を復習する(2時間) 第7回：重回帰分析の理論と演習(1) 事前学習：重回帰分析とはどのような分析か、確認しておくこと(2時間) 事後学習：レジュメを見直し、授業で行った分析を復習する(2時間) 第8回：重回帰分析の理論と演習(2)——独立変数が2つの場合 事前学習：独立変数が2つの場合の重回帰分析について、確認しておくこと(2時間) 事後学習：レジュメを見直し、授業で行った分析を復習する(2時間) 第9回：重回帰分析の理論と演習(3)——独立変数が3つ以上の場合 事前学習：独立変数が3つの場合の重回帰分析について、確認しておくこと(2時間) 事後学習：レジュメを見直し、授業で行った分析を復習する(2時間) 第10回：カテゴリーカル・データの間の連関を探る(1) 事前学習：カテゴリーカル・データとは何か、確認しておくこと(2時間) 事後学習：レジュメを見直し、授業で行った分析を復習する(2時間)

第11回：カテゴリカル・データの間の連関を探る（2） 事前学習：カテゴリカル・データの連関について確認しておくこと（2時間） 事後学習：レジュメを見直し、授業で行った分析を復習する（2時間） 第12回：因子分析と主成分分析 事前学習：主成分分析とは何か、確認しておくこと（2時間） 事後学習：レジュメを見直し、授業で行った分析を復習する（2時間） 第13回：因子分析の理論と演習（1） 事前学習：因子分析とは何か、確認しておくこと（2時間） 事後学習：レジュメを見直し、授業で行った分析を復習する（2時間） 第14回：因子分析の理論と演習（2） 事前学習：因子分析と主成分分析の違いについて確認しておくこと（2時間） 事後学習：レジュメを見直し、授業で行った分析を復習する（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：統計分析を用いたレポートを執筆する（2時間） 事後学習：レポートを修正する（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（30%） 平常点（70%） （平常点は提出物・小テスト・レポートを総合的に判断します）
(7) 成績評価基準
・データのタイプに応じて、適切な分析手法を選択できているか。 ・多変量解析の考え方を理解できているか。 ・多変量解析の手法を、コンピューターソフトを用いて実践出来ているか。
(8) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書
テキストは定めない。
(11) その他（受講上の注意）
この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する、社会調査士資格認定科目【E】〔多変量解析の方法に関する科目〕に相当する。 「統計学a」、「統計学b」、SPSSの使い方の知識を前提として、授業をすすめる。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

社会調査演習 a (Practice in Social a)			担当教員	井上 寛、織田 暁子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-S-2360	2 単位	3 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 社会・文化コース					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
調査の企画から報告書の作成までにまたがる社会調査の全過程をひととおり実習を通じて体験的に学習する。調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者・地域の選定、サンプリング、調査の実施(調査票の配布・回収)、エディティング、集計、分析、仮説検証、報告書の作成までを通して行っていく。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・社会調査の企画と実施ができるようになる。 ・仮説を立て、それを適切な手順と方法で検証できるようになる。 ・統計ソフトを使いこなせるようになる。
(3) アクティブラーニング
■ 課題解決型学習(PBL) ■ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーションとグループ決定 事前学習：量的調査法と質的調査法の違いについて確認しておくこと(2時間) 事後学習：自分が選択した調査法について復習しておくこと(2時間) 第2回：グループごとにテーマについての話し合い(1) 事前学習：調査テーマについて下調べをしておくこと(2時間) 事後学習：テーマに関連する文献を調査する(2時間) 第3回：グループごとにテーマについての話し合い(2) 事前学習：テーマに関連する文献を読んでおくこと(2時間) 事後学習：調査テーマを決定する(2時間) 第4回：テーマについてのグループ発表 事前学習：調査テーマについての発表資料を作成する(2時間) 事後学習：授業での指摘を受けて、資料を修正する(2時間) 第5回：テーマについての文献レビュー 事前学習：テーマに関連する文献を複数探す(2時間) 事後学習：文献レビューをまとめる(2時間) 第6回：仮説構成(1) 事前学習：テーマに関連する複数の仮説を立てる(2時間) 事後学習：仮説を修正する(2時間) 第7回：仮説構成(2) 事前学習：仮説に関連する文献を収集する(2時間) 事後学習：仮説に関連する文献をまとめる(2時間) 第8回：仮説の発表 事前学習：発表資料を作成する(2時間) 事後学習：発表資料を修正する(2時間) 第9回：質問作成(1) 事前学習：質問項目を検討する(2時間) 事後学習：質問項目を修正する(2時間) 第10回：質問作成(2) 事前学習：質問選択肢を検討する(2時間) 事後学習：質問選択肢を修正する(2時間) 第11回：質問案発表 事前学習：発表資料を作成する(2時間) 事後学習：発表資料を修正する(2時間)

第12回：質問紙の作成（1） 事前学習：質問紙の内容を検討する（2時間） 事後学習：質問紙の内容を修正する（2時間） 第13回：質問紙の作成（2） 事前学習：質問紙のレイアウトを検討する（2時間） 事後学習：質問紙のレイアウトを修正する（2時間） 第14回：実査準備（1） 事前学習：調査対象について検討する（2時間） 事後学習：調査計画を修正する（2時間） 第15回：実査準備（2） 事前学習：調査場所・日時について検討する（2時間） 事後学習：質問紙を修正・調整し、印刷する（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
平常点（100％） （平常点はグループでの活動への積極性や発表の評価等を総合して判断します）
(7) 成績評価基準
・社会調査の企画と実施ができるようになっているか。 ・仮説を立て、それを適切な手順と方法で検証できているか。 ・統計ソフトを使いこなせているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
授業開始時に各教員から指示がある。
(11) その他(受講上の注意)
この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する「社会調査士」資格に必要な標準カリキュラムのG科目に対応するものである。本年度後期に開講される「社会調査演習b」(旧カリ：情報・社会調査演習b)と連続して受講すること。社会調査演習aあるいはbのみの履修は認めない。 また、この授業は授業時間を使って調査を企画・実施する演習科目である。無断欠席は禁じる。事前連絡がある場合も欠席は3回までとする。 初回授業で、質的調査・量的調査のクラス分けを行う。履修希望者は、必ず第1回：目の授業に出席すること。 ・質的調査班の履修条件は下記のとおり。 ①既に「社会学入門」「社会調査法」「フィールドワーク技法」を履修済であること。 ・量的調査班の履修条件は下記のとおり。 ①既に「社会学入門」「社会調査法」「統計学a」を履修済であること。 ②「データ解析法」を同時に受講すること、もしくは履修済であること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

社会調査演習 b (Practice in Social b)			担当教員	井上 寛、織田 暁子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CO-S-2361	2 単位	3 年後期	演習	選択	
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 社会・文化コース					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
調査の企画から報告書の作成までにまたがる社会調査の全過程をひととおり実習を通じて体験的に学習する。調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者・地域の選定、サンプリング、調査の実施(調査票の配布・回収)、エディティング、集計、分析、仮説検証、報告書の作成までを通して行っていく。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・社会調査の企画と実施ができるようになる。 ・仮説を立て、それを適切な手順と方法で検証できるようになる。 ・統計ソフトを使いこなせるようになる。 ・自分の主張を論理的に報告書にまとめられるようになる。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：実査① 事前学習：実査のアポイントメントを調整する・実査を行う(2時間) 事後学習：実査のデータの管理・整理(2時間) 第2回：実査② 事前学習：実査のアポイントメントを調整する・実査を行う(2時間) 事後学習：実査のデータの管理・整理(2時間) 第3回：コーディング・データ整理① 事前学習：エディティング・コーディングガイドを作成する(2時間) 事後学習：コーディング作業を行う(2時間) 第4回：コーディング・データ整理② 事前学習：入力マニュアルを作成する(2時間) 事後学習：データ入力作業を行う(2時間) 第5回：コーディング・データ整理③ 事前学習：クリーニングガイドを作成する(2時間) 事後学習：クリーニング作業を行う(2時間) 第6回：データ分析① 事前学習：データ分析の方針を立てる(2時間) 事後学習：データ分析の方針を修正する(2時間) 第7回：データ分析② 事前学習：単純集計を確認する(2時間) 事後学習：データを概観し、エラーを確認する(2時間) 第8回：データ分析③ 事前学習：分析モデルについて検討する(2時間) 事後学習：データ分析を行う(2時間) 第9回：データ分析④ 事前学習：データ分析を行う(2時間) 事後学習：データ分析結果を修正する(2時間) 第10回：データ分析⑤ 事前学習：データ分析を行う(2時間) 事後学習：データ分析結果を修正する(2時間)

第11回：報告書作成① 事前学習：報告書原稿を執筆する（2時間） 事後学習：報告書原稿を修正する（2時間） 第12回：報告書作成② 事前学習：報告書原稿を執筆する（2時間） 事後学習：報告書原稿を修正する（2時間） 第13回：報告書作成③ 事前学習：報告書原稿を執筆する（2時間） 事後学習：報告書原稿を修正する（2時間） 第14回：報告書作成④ 事前学習：レイアウトを調整する（2時間） 事後学習：レイアウトを修正する（2時間） 第15回：報告書作成⑤ 事前学習：校正作業を行う（2時間） 事後学習：データを修正する（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
平常点（100％） （平常点はグループでの活動への積極性や発表や報告書の評価等を総合して判断します）
(7) 成績評価基準
・社会調査の企画と実施ができるようになっているか。 ・仮説を立て、それを適切な手順と方法で検証できているか。 ・統計ソフトを使いこなしているか。 ・自分の主張を論理的に報告書にまとめられているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
授業開始時に各教員から指示がある。
(11) その他(受講上の注意)
この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する、「社会調査士」資格に必要な標準カリキュラムのG科目に対応するものである。本年度前期に開講された「社会調査演習a」(旧カリ：情報・社会調査演習a)と継続して受講すること。社会調査演習bのみの履修は認めない。履修者の調査演習報告書の執筆をもって、単位認定を行う。また、この授業は授業時間を使って調査を企画・実施する演習科目である。無断欠席は禁じる。事前連絡がある場合も欠席は3回までとする。 質的調査班・量的調査班とも、受講条件は下記のとおり。 ・同一年度・同一クラスの「社会調査演習a」の単位を取得していること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

観光社会研究 (Studies of Tourism Society)			担当教員	寺田 憲弘	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CO-S-2364	2 単位	3 年前期	講義	選択	
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 社会・文化コース					
求める学習成果（教育目標）					
コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
観光を通して、現代社会のあり方について考える。 授業では (1) 観光をどのようにとらえられるか。 (2) いかにして現在の観光は成立したか。 (3) 現代の地域社会はいかにして新たな観光に取り組んでいるか。 以上の三点について様々な事例を取り上げながら考える。(1)については観光の定義、分類、そして観光現象を考えるための諸概念について。(2)については前近代、日本については江戸時代を中心とした様々な旅について、(3)についてはオルタナティブツーリズムに取り組むそれぞれの地域社会の取り組みについてそれぞれ考察する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・観光に関する理論、概念を踏まえ、観光現象を論じることができる ・自ら必要なデータを収集し、事実に基づいた議論ができるようになる
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(演習)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：観光の構造と近代——脱埋め込み 事前学習：授業前にシラバスを読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出(2時間) 第2回：巡礼と観光(1)——聖地化(キリスト教) 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出(2時間) 第3回：巡礼と観光(2)——聖地化(仏教) 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出(2時間) 第4回：近代化と観光(1)——観光の誕生・ガイドブック 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出(2時間) 第5回：近代化と観光(2)——ナショナリズムと教育 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出(2時間) 第6回：マスツーリズムの変容——消費社会 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出(2時間) 第7回：メディアと観光——マスメディアの機能 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出(2時間) 第8回：世界遺産と地域社会——熊野古道の誕生 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出(2時間) 第9回：地域社会と観光(1)——文化的景観と茅葺き民家 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出(2時間)

第10回：地域社会と観光（2）——里山の生活 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、調査項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（2時間） 第11回：地域社会と観光（3）——文化の客体化 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（2時間） 第12回：地域社会と観光（4）——着地型観光 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（2時間） 第13回：農業と観光——棚田 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（2時間） 第14回：情報化社会と観光（1）——アニメ聖地巡礼誕生 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（2時間） 第15回：情報化社会と観光（2）——SNSと観光の変化 事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
平常点（授業毎に e-learningを通して小レポートを課します）（50%）テスト（50%） 平常点は「出席点」ではないことに注意すること。
(7) 成績評価基準
・観光に関する理論、概念を踏まえ、観光現象を論じることができるようになったか ・自ら必要なデータを収集し、事実に基づいた議論ができるようになったか
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
参考図書：田中滋・寺田憲弘編 『聖地・熊野と世界遺産——宗教・観光・国土開発の社会学——』（晃陽書房） 参考図書：田中滋 編 『都市の憧れ、農村の戸惑い』（晃洋書房）
(11) その他(受講上の注意)
受講者の理解度により講義内容を変更することがあります
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

アプリケーション演習 (Training Course of Application)			担当教員	大須賀 元彦	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-S-2366	2 単位	3 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 社会・文化コース					
求める学習成果(教育目標)					
現代社会・文化における諸問題に主体的に取り組む、社会調査や情報処理の技術を活用して共生社会・地方文化の構築に資する力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
近年、ビジネスの分野では(特に起業者を中心に)、自作のアプリケーションを開発することで、業務の効率化や課題解決を図る動きが広がっています。このような背景を踏まえ、本授業では、実際に利活用できるアプリケーションの開発を目指します。また、アプリケーション開発を通じて、条件分岐や処理構造などのアルゴリズム設計を行い、プログラミングの思考力およびプログラミングに関する技能の育成を図ります。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ Webベースのアプリケーション作成ツールの仕組みを理解し、アプリケーションを開発できる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス、アプリケーション開発とは、Google AppSheetとは 事前学習：シラバスを読むことと、テキスト全体を通読する。(2時間) 事後学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。(2時間) 第2回：スプレッドシートとの接続やインターフェイスに関するワーク(実技) 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。(2時間) 事後学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。(2時間) 第3回：データ定義に関するワーク(実技) 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。(2時間) 事後学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。(2時間) 第4回：データの見せ方とデザインに関するワーク(実技) 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。(2時間) 事後学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。(2時間) 第5回：ここまでの学習内容のまとめに関するワーク(実技) 事前学習：テキストを用いてここまでの学習内容を復習する。(2時間) 事後学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。(2時間) 第6回：アプリケーションにおけるデータベースの役割 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。(2時間) 事後学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。(2時間) 第7回：リレーショナルデータベースの基本に関するワーク(実技) 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。(2時間) 事後学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。(2時間) 第8回：リレーショナルデータベースにおけるデータの見せ方に関するワーク(実技) 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。(2時間) 事後学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。(2時間) 第9回：条件に応じたデータ抽出方法に関するワーク(実技) 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。(2時間) 事後学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。(2時間) 第10回：アプリの動作確認に関するワーク(実技) 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。(2時間) 事後学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。(2時間) 第11回：Automation機能に関するワーク(実技) 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。(2時間) 事後学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。(2時間)

第12回：自作のアプリケーション（アプリケーションの設計）に関するワーク（実技） 事前学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。（2時間） 事後学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。（2時間） 第13回：自作のアプリケーション（アプリケーションの構築）に関するワーク（実技） 事前学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。（2時間） 事後学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。（2時間） 第14回：自作のアプリケーション（アプリケーションの動作確認）に関するワーク（実技） 事前学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。（2時間） 事後学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。（2時間） 第15回：全体のまとめ 事前学習：テキスト全体を熟読し、ここまでの内容を振り返る。（2時間） 事後学習：今回の講義内容に関する課題に取り組む。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
課題（100％）
(7) 成績評価基準
・ Webベースのアプリケーション作成ツールの仕組みを理解し、アプリケーションを開発できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書
テキスト：イルカのえっちゃん『手を動かして学ぶGoogle AppSheet ノーコード開発入門』シーアンドアール研究所、2025年 参考図書：みやさかしんや『作りたいものがない人のためのPython入門』講談社、2025年
(11) その他(受講上の注意)
テキストに従って授業を進めるので、指定されたテキストを購入し、毎回持参してください。毎回の授業が関連していますので出席は極めて重要です。受講者の学修状況を踏まえ、授業の進め方を一部変更することがあります。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英語学研究 (Studies on English Linguistics)			担当教員	矢橋 知枝	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-I-2368	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 国際英語コース					
求める学習成果(教育目標)					
異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
英語学への理解を深め、国際共通語としての英語使用の多様性を学び、ネイティブ・スピーカーの英語から国際共通語としての英語へと「英語」に対する認識を新たにする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
英語の概要・背景を学び、確かな異文化理解力および英語力を育成する。中学校および高等学校での英語教育において必要な英語学的知見を身につける。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション(ディスカッション) 事前学習：事前に言語を用いたコミュニケーションについて、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること(2時間) 第2回：3種の英語(母語英語・第二言語としての英語・外国語としての英語)(ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること(2時間) 第3回：イギリス英語(1)歴史①(古英語・中英語)(ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること(2時間) 第4回：イギリス英語(2)歴史②(近代英語)(ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること(2時間) 第5回：イギリス英語(3)歴史③(現代英語)(ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること(2時間) 第6回：イギリス英語(4)発音・語彙・文法(容認発音、地域方言・社会方言)(ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること(2時間) 第7回：オーストラリア英語(1)歴史・発音・語彙・文法(Captain Cook、ゴールド・ラッシュ、一般オーストラリア英語・教養人オーストラリア英語)(ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること(2時間) 第8回：ニュージーランド英語(1)歴史・発音・語彙・文法(Captain Cook、マオリ語)(ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること(2時間) 第9回：アメリカ英語(1)歴史(移民の英語・アメリカ英語の発展)(ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること(2時間) 第10回：アメリカ英語(2)発音・語彙・文法(使用地域、地域方言・社会方言)(ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること(2時間) 第11回：カナダ英語(1)歴史・発音・語彙・文法(移民の英語・英米戦争・フランス語の影響)(ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること(2時間)

第12回：イギリス英語とアメリカ英語（1）発音・語彙・文法（rhoticの使用・綴り字の違い）（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること（2時間） 第13回：発音・語彙・文法から見る英語らしさ（1）歴史的観点（借用語・構文）（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること（2時間） 第14回：発音・語彙・文法から見る英語らしさ（2）認知的観点（比喩・文化）（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること（2時間） 第15回：まとめ（ディスカッション） 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題や分からないことについて調べること（2時間） 定期試験は実施しない。 予習として、あらかじめ疑問点等をまとめておいてください。講義を受けた後は、復習をしてください。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポート試験（50％） 授業内レポート（30％） 平常点（20％） （平常点は、授業の受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断する。）
(7) 成績評価基準
英語学の基礎が理解できているのか。 英語コミュニケーションの観点より、英語の発話を分析することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト ベーシック新しい英語学概論（平賀正子著、ひつじ書房 平成28年） 参考書・参考資料等 英語学を学ぼう：英語学の知見を英語学習に活かす（高橋勝忠著、開拓社 平成29年）英語の「なぜ？」に答える はじめての英語史（堀田隆一著、研究社 平成28年）
(11) その他(受講上の注意)
・履修条件として、下記①～③のいずれかであること（＝どれか1つに該当すればOK）。 ①「国際英語コース選択者」 ②「TOEIC スコア600点以上」 ③「実用英語検定準1級合格」 ・遅刻3回で欠席1回とみなす。 ・遅刻した時間・授業を抜けた時間も成績評価で考慮する。 ・必ず英和辞書（電子辞書可）を持参する。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英語文学研究 (English Literature)			担当教員	原口 治	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-I-2369	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 国際英語コース					
求める学習成果(教育目標)					
異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる能力と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
イギリス文学(=小説、詩、演劇、批評)の著名な諸作品の解説及び原典(抜粋)を精読し、作品の政治、文化的背景等の知識を深めることで、文学研究の基礎的能力を修得します。尚、最終的に個人発表と定期試験の基準達成が必須です。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
文学研究により自他の個性の多様性を理解し、多様な集団・組織の中でのコミュニケーション能力の育成を目指します。また、課題や個人プレゼンテーション、及び定期試験の実施により、様々な情報の収集及び選択能力の養成を図ります。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回: テキストP1～P343 本講義のガイダンス、図書館における事前学習及び事後学習方法の各種指導 事前学習: テキスト該当部分を読み、疑問点等をまとめると同時に、課題を作成し、講義において提出する。(2時間) 事後学習: 返却された課題等で学習内容を復習し、プレゼンテーションや定期試験でその学修成果を示す。(2時間) 第2回: テキストP217～P240 イギリス小説(Ⅰ)・『プライドと偏見』、『オリヴァー・テュイスト』 事前学習: テキスト該当部分を読み、疑問点等をまとめると同時に、課題を作成し、講義において提出する。(2時間) 事後学習: 返却された課題等で学習内容を復習し、プレゼンテーションや定期試験でその学修成果を示す。(2時間) 第3回: P270～P292 イギリス小説(Ⅱ)・『嵐が丘』、『ダロウェイ夫人』 事前学習: テキスト該当部分を読み、疑問点等をまとめると同時に、課題を作成し、講義において提出する。(2時間) 事後学習: 返却された課題等で学習内容を復習し、プレゼンテーションや定期試験でその学修成果を示す。(2時間) 第4回: テキストP161～P188 イギリス小説(Ⅳ)・『ロビンソン・クルーソー』、『ガリバー旅行記』 事前学習: テキスト該当部分を読み、疑問点等をまとめると同時に、課題を作成し、講義において提出する。(2時間) 事後学習: 返却された課題等で学習内容を復習し、プレゼンテーションや定期試験でその学修成果を示す。(2時間) 第5回: テキストP196～P216 イギリス詩(Ⅰ)・ワーズワス、キーツ(ロマン派詩人) 事前学習: テキスト該当部分を読み、疑問点等をまとめると同時に、課題を作成し、講義において提出する。(2時間) 事後学習: 返却された課題等で学習内容を復習し、プレゼンテーションや定期試験でその学修成果を示す。(2時間) 第6回: テキストP140～P160 イギリス詩(Ⅱ)・ブレイク、ロバート・バーンズ 事前学習: テキスト該当部分を読み、疑問点等をまとめると同時に、課題を作成し、講義において提出する。(2時間) 事後学習: 返却された課題等で学習内容を復習し、プレゼンテーションや定期試験でその学修成果を示す。(2時間)

第7回：テキストP 2～P29 イギリス詩（Ⅲ）・『ベオウルフ』、『カンタベリー物語』、『サーガーウェンと円卓の騎士』 事前学習：テキスト該当部分を読み、疑問点等をまとめると同時に、課題を作成し、講義において提出する。（2時間） 事後学習：返却された課題等で学習内容を復習し、プレゼンテーションや定期試験でその学修成果を示す。（2時間） 第8回：テキストP 293～P 308 イギリス演劇（Ⅰ）・『ピグマリオン』、『マイ・フェア・レディ』 事前学習：テキスト該当部分を読み、疑問点等をまとめると同時に、課題を作成し、講義において提出する。（2時間） 事後学習：返却された課題等で学習内容を復習し、プレゼンテーションや定期試験でその学修成果を示す。（2時間） 第9回：テキストP 60～P 73 イギリス演劇（Ⅱ）・演劇創世記 事前学習：テキスト該当部分を読み、疑問点等をまとめると同時に、課題を作成し、講義において提出する。（2時間） 事後学習：返却された課題等で学習内容を復習し、プレゼンテーションや定期試験でその学修成果を示す。（2時間） 第10回：テキストP 96～P 107 イギリス演劇（Ⅲ）・『ジェームス朝』 事前学習：テキスト該当部分を読み、疑問点等をまとめると同時に、課題を作成し、講義において提出する。（2時間） 事後学習：返却された課題等で学習内容を復習し、プレゼンテーションや定期試験でその学修成果を示す。（2時間） 第11回：テキストP 74～P 94, P 310～P 311 イギリス演劇（Ⅳ）・シェイクスピア（Ⅳ） 事前学習：テキスト該当部分を読み、疑問点等をまとめると同時に、課題を作成し、講義において提出する。（2時間） 事後学習：返却された課題等で学習内容を復習し、プレゼンテーションや定期試験でその学修成果を示す。（2時間） 第12回：テキストP 284～P 292『ダウントン・アビー』 事前学習：テキスト該当部分を読み、疑問点等をまとめると同時に、課題を作成し、講義において提出する。（2時間） 事後学習：返却された課題等で学習内容を復習し、プレゼンテーションや定期試験でその学修成果を示す。（2時間） 第13回：テキスト発表会準備（個別指導） 事前学習：テキスト該当部分を読み、疑問点等をまとめると同時に、課題を作成し、講義において提出する。（2時間） 事後学習：返却された課題等で学習内容を復習し、プレゼンテーションや定期試験でその学修成果を示す。（2時間） 第14回：テキストP 1～P 343 発表会（個人プレゼンテーション及び討議） 事前学習：テキスト該当部分を読み、疑問点等をまとめると同時に、課題を作成し、講義において提出する。（2時間） 事後学習：返却された課題等で学習内容を復習し、プレゼンテーションや定期試験でその学修成果を示す。（2時間） 第15回：テキストP 1～P 343 発表会（個人プレゼンテーション及び討議） 事前学習：テキスト該当部分を読み、疑問点等をまとめると同時に、課題を作成し、講義において提出する。（2時間） 事後学習：返却された課題等で学習内容を復習し、プレゼンテーションや定期試験でその学修成果を示す。（2時間） 第16回：テキストP 1～P 343 定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 定期試験 60％ 毎回の課題提出 10％ 個人発表（講義に関する任意のテーマについてのプレゼンテーション）30％
(7) 成績評価基準 イギリス文学の作品や文化研究を通して、自他の個性の多様性を理解し、発表等において自分の意見を公表できるか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☒ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
秋篠 憲一(他) 『イギリス文学への招待』 朝日出版社 1999年
(11) その他(受講上の注意)
講義(特に第1回)において、本講義受講上の注意や説明等を詳細に行ないます。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英語コミュニケーション a (English Communication a)			担当教員	M ハウカ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-I-2372	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 国際英語コース					
求める学習成果（教育目標）					
異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる能力と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
世界の様々な出来事について述べている記事を読んで読む。さらに、記事の内容から自分の意見や考えを英語で書き、最後に他者と話し合う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
SDGsに関して色々なトピックスに関する十分な理解を深める。四つのスキルを使用して各ユニットの内容を身につけ、自分の意見や考えを伝える力を身につける。これにより、中学校・高校で英語を教える際の、特に読解・スピーキング能力の向上を目指す。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：グローバルな視点(SDGsの紹介 聞く、読む)(グループワーク 討議) 事前学習：授業前にテキストの第1章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたナウル島の問題について、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第2回：グローバルな視点(SDGsの紹介 書く、話す)(討議 発表) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第1章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたナウル島の問題について、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第3回：気候変動(SDG13：気候変動対策について。聞く、読む)(グループワーク 討議) 事前学習：授業前にテキストの第2章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された情熱について、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第4回：気候変動(SDG13：気候変動対策について。書く、話す)(討議 発表) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第2章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された情熱について、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第5回：水(SDG6：きれいな水と衛生について。聞く、読む)(グループワーク 討議) 事前学習：授業前にテキストの第3章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された良い教師の影響について、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第6回：水(SDG6：きれいな水と衛生について。書く、話す)(討議 発表) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第3章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された良い教師の影響について、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第7回：復習(第1回～6回の内容についての復習)(グループワーク 討議 発表) 事前学習：授業前にテキストの第1,2,3ユニットを復習する。(2時間) 事後学習：テキストの第1,2,3ユニットを復習して、わからないところをノートに書くこと。(2時間) 第8回：クリーンエネルギー(SDG7：手頃でクリーンなエネルギー。聞く、読む)(グループワーク 討議) 事前学習：授業前にテキストの第4章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたユーモアと笑いについて、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第9回：クリーンエネルギー(SDG7：手頃でクリーンなエネルギー。書く、話す)(討議 発表) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第4章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたユーモアと笑いについて、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第10回：貧困(SDG1：貧困をなくす。聞く、読む)(グループワーク 討議) 事前学習：授業前にテキストの第5章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたデートの心得について、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第11回：貧困(SDG1：貧困をなくす。書く、話す)(討議 発表) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第5章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたデートの心得について、ノートにまとめておくこと。(2時間)

第12回：空腹 (SDG 2:空腹をなくす。聞く、読む) (グループワーク 討議) 事前学習：授業前にテキストの第6章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された栄養と運動について、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第13回：空腹 (SDG 2:空腹をなくす。書く、話す) (討議 発表) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第6章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された栄養と運動について、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第14回：子供 (SDG 4:質の高い教育。聞く、読む) (グループワーク 討議) 事前学習：授業前にテキストの第7章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された脳の異なる層について、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第15回：子供 (SDG 4:質の高い教育。書く、話す) (討議 発表) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第7章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業前にテキストの第4,5,6,7ユニットを復習する。(2時間) 第16回：定期試験
(5) 授業形態 [面接授業・遠隔授業]
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
積極的な授業態度及び課題 (45%)、定期試験 (55%)
(7) 成績評価基準
色々なトピックスに関する十分な理解を深めているか。四つのスキルを使用して各ユニットの内容を身につけ、自分の意見や考えを伝える力を身につけているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト Oseki, Kazuya and McManus, Kevin M. Living as Global Citizens: An Introduction to the Sustainable Development Goals (地球市民として生きる：英語で学ぶSDGs実践入門). 2020. NAN' UN-DO. ISBN 978-4-523-17931-3 (小関一也, ケビン・マクマナス著 出版社：南雲堂 2020) 参考図書 中学校学習指導要領(平成29年3月公示 文部科学省) 高等学校学習指導要領(平成30年3月公示 文部科学省)
(11) その他(受講上の注意)
Students must be fully prepared and proactively participate in each in-class activity. This is not a lecture course. This course is taught exclusively in English. You will be recorded as late if you are over 6 to 20 minutes late for class. If you are late three times, it will be recorded as an unexcused absence. Any unexcused absences will result in a zero for any assignments, quizzes, or tests missed during that class.
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英語コミュニケーション b (English Communication b)			担当教員	M ハウカ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-I-2373	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 国際英語コース					
求める学習成果(教育目標)					
異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる能力と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
世界の様々な出来事について述べている記事を読んで読む。さらに、記事の内容から自分の意見や考えを英語で書き、最後に他者と話し合う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
SDGsに関して色々なトピックスに関する十分な理解を深める。四つのスキルを使用して各ユニットの内容を身につけ、自分の意見や考えを伝える力を身につける。これにより、中学校・高校で英語を教える際の、特に読解・スピーキング能力の向上を目指す。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：性別(SDG5:男女平等。聞く、読む)(グループワーク 討議) 事前学習：授業前にテキストの第8章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたテクノロジー中毒について、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第2回：性別(SDG5:男女平等。書く、話す)(討議 発表) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第8章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたテクノロジー中毒について、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第3回：難民(SDG10:不平等の削減。聞く、読む)(グループワーク 討議) 事前学習：授業前にテキストの第9章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたミラーニューロンについて、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第4回：難民(SDG10:不平等の削減。書く、話す)(討議 発表) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第9章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたミラーニューロンについて、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第5回：虫(SDG15:陸上での生活。聞く、読む)(グループワーク 討議) 事前学習：授業前にテキストの第10章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された幸福追求の科学について、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第6回：虫(SDG15:陸上での生活。書く、話す)(討議 発表) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第10章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された幸福追求の科学について、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第7回：復習(第1回～6回の内容についての復習)(グループワーク 討議 発表) 事前学習：授業前にテキストの第8,9,10ユニットを復習する。(2時間) 事後学習：テキストの第8,9,10ユニットを復習して、わからないところをノートに書くこと。(2時間) 第8回：肉食主義(SDG3:健康と幸福。聞く、読む)(グループワーク 討議) 事前学習：授業前にテキストの第11章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された糖分依存症について、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第9回：肉食主義(SDG3:健康と幸福。書く、話す)(討議 発表) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第11章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された糖分依存症について、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第10回：プラスチック汚染(SDG14:水面下での生活。聞く、読む)(グループワーク 討議) 事前学習：授業前にテキストの第12章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された結婚の進化について、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第11回：プラスチック汚染(SDG14:水面下での生活。書く、話す)(討議 発表) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第12章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された結婚の進化について、ノートにまとめておくこと。(2時間)

第12回：買い物する (SDG12:責任ある消費と生産。聞く、読む) (グループワーク 討議) 事前学習：授業前にテキストの第13章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたアクティブラーニングについて、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第13回：買い物する (SDG12:責任ある消費と生産。書く、話す) (討議 発表) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第13章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたアクティブラーニングについて、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第14回：パートナーシップ (SDG17:パートナーシップ。聞く、読む) (グループワーク 討議) 事前学習：授業前にテキストの第14章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された男性の脳、女性の脳について、ノートにまとめておくこと。(2時間) 第15回：パートナーシップ (SDG17:パートナーシップ。書く、話す) (討議 発表) 事前学習：引き続き、授業前にテキストの第14章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業前にテキストの第11,12,13,14ユニットを復習する。(2時間) 第16回：定期試験
(5) 授業形態 [面接授業・遠隔授業]
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
積極的な授業態度及び課題 (45%)、定期試験 (55%)
(7) 成績評価基準
色々なトピックスに関する十分な理解を深めているか。四つのスキルを使用して各ユニットの内容を身につけ、自分の意見や考えを伝える力を身につけているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト Oseki, Kazuya and McManus, Kevin M. Living as Global Citizens: An Introduction to the Sustainable Development Goals (地球市民として生きる：英語で学ぶSDGs実践入門). 2020. NAN' UN-DO. ISBN 978-4-523-17931-3 (小関一也, ケビン・マクマナス著 出版社：南雲堂 2020) 参考図書 中学校学習指導要領(平成29年3月公示 文部科学省) 高等学校学習指導要領(平成30年3月公示 文部科学省)
(11) その他(受講上の注意)
Students must be fully prepared and proactively participate in each in-class activity. This is not a lecture course. This course is taught exclusively in English. You will be recorded as late if you are over 6 to 20 minutes late for class. If you are late three times, it will be recorded as an unexcused absence. Any unexcused absences will result in a zero for any assignments, quizzes, or tests missed during that class.
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英語文章表現法Ⅱ (Essay WritingⅡ)			担当教員	紺渡 弘幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-I-2377	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 国際英語コース					
求める学習成果(教育目標)					
異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる能力と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
書くプロセスを重視したコミュニケーション・ライティングにより、メッセージを効果的にわかりやすく読み手に伝えるライティングの力を養成する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
英語でのライティング能力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。プロセス・ライティングの方法を理解し、英文を書く際に用いることができる。エッセイの構成、アウトラインの書き方や効果的なイントロダクション・コンクルージョンの書き方を理解し、文章の統一性、一貫性や結束性に留意して、英文を書くことができる。中学校および高校で効果的なライティングの指導ができる力を身につける。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：プロセス・ライティング・書く前の活動の理解 事前学習：事前にシラバスやテキストに目を通し、質問事項をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で学習したプロセス・ライティング・書く前の活動についての復習課題をする。(2時間) 第2回：エッセイ・ライティング(1) 事前学習：事前に指定した課題について情報や関連語彙・表現を調べておく。(2時間) 事後学習：書いた作文について振り返りを行う。(2時間) 第3回：エッセイの構成について① 事前学習：事前にテキストの第8章を読み、課題をしておくこと。(2時間) 事後学習：エッセイの構成について復習課題をする。(2時間) 第4回：エッセイの構成について② 事前学習：事前にテキストの第8章を読み、課題をしておくこと。(2時間) 事後学習：エッセイの構成について復習課題をする。(2時間) 第5回：エッセイ・ライティング(2) 事前学習：事前に指定した課題について情報や関連語彙・表現を調べておく。(2時間) 事後学習：書いた作文について振り返りを行う。(2時間) 第6回：エッセイのアウトラインの書き方① 事前学習：事前にテキストの第9章を読み、課題をしておくこと。(2時間) 事後学習：エッセイのアウトラインの書き方について復習課題をする。(2時間) 第7回：エッセイのアウトラインの書き方② 事前学習：事前にテキストの第9章を読み、課題をしておくこと。(2時間) 事後学習：エッセイのアウトラインの書き方について復習課題をする。(2時間) 第8回：エッセイ・ライティング(3) 事前学習：事前に指定した課題について情報や関連語彙・表現を調べておく。(2時間) 事後学習：書いた作文について振り返りを行う。(2時間) 第9回：序論および結論の書き方① 事前学習：事前にテキストの第10章を読み、課題をしておくこと。(2時間) 事後学習：序論および結論の書き方について復習課題をする。(2時間) 第10回：序論および結論の書き方② 事前学習：事前にテキストの第10章を読み、課題をしておくこと。(2時間) 事後学習：序論および結論の書き方について復習課題をする。(2時間) 第11回：エッセイ・ライティング(4) 事前学習：事前に指定した課題について情報や関連語彙・表現を調べておく。(2時間) 事後学習：書いた作文について振り返りを行う。(2時間)

第12回：統一性と首尾一貫性① 事前学習：事前にテキストの第11章を読み、課題をしておくこと。（2時間） 事後学習：統一性と首尾一貫性について復習課題をする。（2時間） 第13回：統一性と首尾一貫性② 事前学習：事前にテキストの第11章を読み、課題をしておくこと。（2時間） 事後学習：統一性と首尾一貫性について復習課題をする。（2時間） 第14回：エッセイ・ライティング（5） 事前学習：事前に指定した課題について情報や関連語彙・表現を調べておく。（2時間） 事後学習：書いた作文について振り返りを行う。（2時間） 第15回：まとめ（第11回～14回の内容についての復習） 事前学習：事前にテキストの第8章～第11章を復習し、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：課題作文を書く。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（50%）、課題（25%）、授業への取り組み（25%） ※授業への取り組みは、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する。
(7) 成績評価基準
1. プロセス・ライティングの方法を理解し、英文を書く際に用いることができるか。 2. エッセイの構成を理解し、それを活用して英文を書くことができるか。 3. アウトラインの書き方を理解し、それをういて英文を書くことができるか。 4. 効果的なイントロダクション・コンクルージョンの書き方を理解し、それを活用して英文を書くことができるか。 5. 統一性、一貫性や結束性のある英文を書くことができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
Writing Essays: From Paragraph to Essay Zemach, D. E. & Ghulldu L. MACMILLAN LANGUAGE HOUSE 他に随時プリントを使う。
(11) その他(受講上の注意)
なるべく多く英文を書いて、書くことに対する抵抗が少なくなるよう努力してもらいたい。主体的な学習を期待する。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

TOEIC英語 a (TOEIC English a)			担当教員	矢橋 知枝	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-I-2378	2 単位	3 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 国際英語コース					
求める学習成果(教育目標)					
異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる能力と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
TOEICテストの各パートの出題形式を理解し、問題に取り組むためのテクニックを学ぶ。TOEIC600点レベルの語彙400語を確かなものとする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
リスニング力・リーディング力の向上を図り、TOEICテストのスコアアップを目指す。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☒ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 事前学習：事前にテキストを読み、付属CDもしくはダウンロード音声を用いて予習すること（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しを行い、付属CDもしくはダウンロード音声を用いて復習すること（2時間） 第2回：Listening Part 1 写真描写問題（1）/ Reading Part 5 短文穴埋め問題（1）（ディスカッション） 事前学習：事前にテキストを読み、付属CDもしくはダウンロード音声を用いて予習すること（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しを行い、付属CDもしくはダウンロード音声を用いて復習すること（2時間） 第3回：Listening Part 1 写真描写問題（2）/ Reading Part 5 短文穴埋め問題（2）（ディスカッション） 事前学習：事前にテキストを読み、付属CDもしくはダウンロード音声を用いて予習すること（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しを行い、付属CDもしくはダウンロード音声を用いて復習すること（2時間） 第4回：Listening Part 1 写真描写問題（3）/ Reading Part 5 短文穴埋め問題（3）（ディスカッション） 事前学習：事前にテキストを読み、付属CDもしくはダウンロード音声を用いて予習すること（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しを行い、付属CDもしくはダウンロード音声を用いて復習すること（2時間） 第5回：Listening Part 2 応答問題（1）/ Reading Part 6 長文穴埋め問題（1）（ディスカッション） 事前学習：事前にテキストを読み、付属CDもしくはダウンロード音声を用いて予習すること（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しを行い、付属CDもしくはダウンロード音声を用いて復習すること（2時間） 第6回：Listening Part 2 応答問題（2）（実技）/ Reading Part 6 長文穴埋め問題（1）（ディスカッション） 事前学習：事前にテキストを読み、付属CDもしくはダウンロード音声を用いて予習すること（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しを行い、付属CDもしくはダウンロード音声を用いて復習すること（2時間） 第7回：Listening Part 2 応答問題（3）/ Reading Part 6 長文穴埋め問題（2）（ディスカッション） 事前学習：事前にテキストを読み、付属CDもしくはダウンロード音声を用いて予習すること（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しを行い、付属CDもしくはダウンロード音声を用いて復習すること（2時間） 第8回：Listening Part 3 会話問題（1）/ Reading Part 7 1つの文書（1）（ディスカッション） 事前学習：事前にテキストを読み、付属CDもしくはダウンロード音声を用いて予習すること（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しを行い、付属CDもしくはダウンロード音声を用いて復習すること（2時間） 第9回：Listening Part 3 会話問題（2）/ Reading Part 7 1つの文書（2）（ディスカッション） 事前学習：事前にテキストを読み、付属CDもしくはダウンロード音声を用いて予習すること（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しを行い、付属CDもしくはダウンロード音声を用いて復習すること（2時間） 第10回：Listening Part 3 会話問題（3）/ Reading Part 7 1つの文書（3）（ディスカッション） 事前学習：事前にテキストを読み、付属CDもしくはダウンロード音声を用いて予習すること（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しを行い、付属CDもしくはダウンロード音声を用いて復習すること（2時間） 第11回：Listening Part 4 説明文問題（1）/ Reading Part 7 複数の文書（1）（ディスカッション） 事前学習：事前にテキストを読み、付属CDもしくはダウンロード音声を用いて予習すること（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しを行い、付属CDもしくはダウンロード音声を用いて復習すること（2時間） 第12回：Listening Part 4 説明文問題（2）/ Reading Part 7 複数の文書（2）（ディスカッション） 事前学習：事前にテキストを読み、付属CDもしくはダウンロード音声を用いて予習すること（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しを行い、付属CDもしくはダウンロード音声を用いて復習すること（2時間）

第13回：Listening Part 4 説明文問題（3）／ Reading Part 7 複数の文書（3）（ディスカッション） 事前学習：事前にテキストを読み、付属CDもしくはダウンロード音声を用いて予習すること（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しを行い、付属CDもしくはダウンロード音声を用いて復習すること（2時間） 第14回：Listening Part 4 説明文問題（4）／ Reading Part 7 複数の文書（4）（ディスカッション） 事前学習：事前にテキストを読み、付属CDもしくはダウンロード音声を用いて予習すること（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しを行い、付属CDもしくはダウンロード音声を用いて復習すること（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：事前にテキストを読み、付属CDもしくはダウンロード音声を用いて予習すること（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しを行い、付属CDもしくはダウンロード音声を用いて復習すること（2時間） ・予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、あらかじめ辞書で未知語を調べておく。また復習としては授業時の板書やハンドアウトに基づいて、各自のノートに授業内容をまとめておくこと。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
課題（50％） 授業レポート（30％） 平常点（20％） （平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
TOEIC600点レベルに関わる語彙・文法・解答技術を習得したか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
小石裕子 『はじめて受けるTOEIC (R) L&Rテスト 全パート完全攻略』 2018年 アルク TEX加藤 『TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ』 2017年 朝日新聞出版 また、必要に応じて適宜ハンドアウトを配布する。
(11) その他(受講上の注意)
・英語教育センター主催のTOEIC IPを受験する。 ・遅刻3回で欠席1回とみなす。 ・遅刻した時間・授業を抜けた時間も成績評価で考慮する。 ・必ず英和辞書（電子辞書可）を持参する。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

観光ビジネス英語 (Tourism Business English)			担当教員	加藤 優子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-I-2380	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 国際英語コース					
求める学習成果(教育目標)					
異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
観光ビジネスで必要とされる英語表現とマナーについて学ぶ。また、福井県内を巡る観光プランを提案するプロジェクトワークを通して、学生主体の調べ学習を促進しつつ、英語で福井県の魅力を伝えるためのプレゼンテーション能力を身に付ける。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
観光ビジネスで多用される英語表現を使うことができる。 ビジネス上のマナーを理解している。 福井県の魅力を英語でスムーズに伝えることができる。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：Introduction / Business English (一部ディスカッション) Fukui Sightseeing Promotion Project ①分担決定 事前学習：シラバスとテキストのIntroductionとContentsに目を通し、質問事項をメモにまとめること。(2時間) 事後学修：自宅学習教材Units 1, 2を学習する。(2時間) 第2回：Units 1 and 2: Transportation / At a Check-in Counter 事前学習：授業前にテキストのUnits 1, 2を音読し、わからない単語を調べておくこと。(2時間) 事後学修：自宅学習教材Units 3, 4を学習する。(2時間) 第3回：Unit 3: Facilities and Services Fukui Sightseeing Promotion Project ②準備：対象者を決める 事前学習：授業前にテキストのUnit 3を音読し、わからない単語を調べておくこと。(2時間) 事後学修：自宅学習教材Units 5～7を学習する。(2時間) 第4回：Unit 4: Giving Directions / 小テスト1 (自宅学習教材 Units 1～7) 事前学習：授業前にテキストのUnit 4を音読し、わからない単語を調べておくこと。(2時間) 事後学修：小テスト内容の復習をする。(2時間) 第5回：Unit 5: Recommending a Trip Fukui Sightseeing Promotion Project ③準備：メインの項目を決める 事前学習：授業前にテキストのUnit 5を音読し、わからない単語を調べておくこと。(2時間) 事後学修：自宅学習教材Units 8, 9を学習する。(2時間) 第6回：Unit 6: Dining in Japan 1 事前学習：授業前にテキストのUnit 6を音読し、わからない単語を調べておくこと。(2時間) 事後学修：自宅学習教材Units 10, 11を学習する。(2時間) 第7回：Unit 7: Dining in Japan 2 Fukui Sightseeing Promotion Project ④準備：体験活動を決める 事前学習：授業前にテキストのUnit 7を音読し、わからない単語を調べておくこと。(2時間) 事後学修：自宅学習教材Units 12, 13を学習する。(2時間) 第8回：Unit 8: Arranging a Tour Fukui Sightseeing Promotion Project ⑤準備：ルートを決める 事前学習：授業前にテキストのUnit 8を音読し、わからない単語を調べておくこと。(2時間) 事後学修：自宅学習教材Units 14, 15を学習する。(2時間)

第9回：Unit 9: Staying at a Ryokan / 小テスト2（自宅学習教材 Units 8～15） 事前学習：授業前にテキストのUnit 9を音読し、わからない単語を調べておくこと。（2時間） 事後学修：小テスト内容の復習をする。（2時間） 第10回：Unit 10: Culture Experience in Japan 1 事前学習：授業前にテキストのUnit 10を音読し、わからない単語を調べておくこと。（2時間） 事後学修：自宅学習教材Units 16, 17を学習する。（2時間） 第11回：Unit 11: Culture Experience in Japan 2 Fukui Sightseeing Promotion Project ⑥準備：宿泊先を決める 事前学習：授業前にテキストのUnit 11を音読し、わからない単語を調べておくこと。（2時間） 事後学修：自宅学習教材Units 18, 19を学習する。（2時間） 第12回：Unit 12: Japan Souvenirs Fukui Sightseeing Promotion Project ⑦準備：費用を決める 事前学習：授業前にテキストのUnit 12を音読し、わからない単語を調べておくこと。（2時間） 事後学修：自宅学習教材Units 20～22を学習する。（2時間） 第13回：Unit 13: Dealing with Health Problems and Emergencies / 小テスト3（自宅学習教材 Units 16～22） 事前学習：授業前にテキストのUnit 13を音読し、わからない単語を調べておくこと。（2時間） 事後学修：小テスト内容の復習をする。（2時間） 第14回：Unit 14: Dealing with Complaints and Accidents Fukui Sightseeing Promotion Project ⑧準備：旅程を作る、PPT作成と発表分担を決める 事前学習：授業前にテキストのUnit 14を音読し、わからない単語を調べておくこと。（2時間） 事後学修：グループ内で発表内容をまとめる。（2時間） 第15回：Presentationとまとめ 事前学習：授業前にグループ内で発表内容を確認する。（2時間） 事後学修：発表内容を修正し、提出する。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
授業内小テスト（30%）最終授業の発表内容（60%）授業への積極的参加（10%）
(7) 成績評価基準
観光ビジネスで多用される英語表現を使うことができるか。 ビジネス上のマナーを理解しているか。 福井県の魅力を英語で伝えることができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒ 定期試験時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
Uesugi M. et al. (2022) "Hospitality on the Scene" Kinseido
(11) その他(受講上の注意)
5分以上20分未満の遅刻3回で欠席1回とみなす。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

コミュニケーション特別演習 I a (Special Seminar in Communication I a)			担当教員	井上 寛、加藤 優子、橋本 武志、 升田 法継、織田 暁子、大須賀元彦、 寺田 憲弘、M ハウカ、禿 寿、 Mクズィフ
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-G-2393	2 単位	3 年前期	演習	必修
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 特別演習・卒業研究				
求める学習成果(教育目標)				
地域の文化創造・発展に向けて課題解決に主体的に取り組む力を身につけ、地域社会や産業界のリーダーとなる意欲を育成します。				

(1) 授 業 の 内 容
卒業研究の準備段階として、学生自らが問題意識を持ち、研究課題を設定できるようになることを目標とする。そのために、文献、論文、資料、データを精読し、ディスカッションや発表を行う。(配属先のゼミによって、演習内容は異なる。) 研究課題によっては、企業や自治体等の外部団体と連携し、実際のデータ分析や課題解決に取り組んだり、地域連携活動を行ったりすることがある。また、国連が定める持続可能な開発目標 (SDGs) に関する活動に取り組むことがある。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
自らの問題意識を明確にし、研究課題を設定する。研究課題に関連する文献などを適切に選択、講読できる。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習 (PBL) ■討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ■実習、フィールドワーク ■実験、実技 □その他
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
演習のテーマについて基礎的知識を養うための研究・実践を行う。 概ね以下の通りだが、各担当教員の演習テーマや学生の問題意識に依拠した指導に従い、PBL、フィールドワーク、グループワーク、実験等のアクティブラーニングを適宜行う。 (例) 第1回：オリエンテーション (各ゼミで取り扱うテーマに沿った先行研究の提示、ディスカッション) 事前学習：自らが取り組みたいテーマについて考え、まとめる。(2時間) 事後学習：輪読の対象となる先行文献を学ぶ。(2時間) 第2回：輪読 (発表、ディスカッション) 事前学習：輪読対象となる章を熟読し、質問項目をまとめておく。発表担当者は発表内容の準備をする。(2時間) 事後学習：ディスカッションのテーマについて復習し、関連する文献を読み進め、自らの考えをまとめる。(2時間) 第3回：輪読 (発表、ディスカッション) 事前学習：輪読対象となる章を熟読し、質問項目をまとめておく。発表担当者は発表内容の準備をする。(2時間) 事後学習：ディスカッションのテーマについて復習し、関連する文献を読み進め、自らの考えをまとめる。(2時間) 第4回：輪読 (発表、ディスカッション) 事前学習：輪読対象となる章を熟読し、質問項目をまとめておく。発表担当者は発表内容の準備をする。(2時間) 事後学習：ディスカッションのテーマについて復習し、関連する文献を読み進め、自らの考えをまとめる。(2時間) 第5回：輪読 (発表、ディスカッション) 事前学習：輪読対象となる章を熟読し、質問項目をまとめておく。発表担当者は発表内容の準備をする。(2時間) 事後学習：ディスカッションのテーマについて復習し、関連する文献を読み進め、自らの考えをまとめる。(2時間)

第6回：輪読（発表、ディスカッション） 事前学習：輪読対象となる章を熟読し、質問項目をまとめておく。発表担当者は発表内容の準備をする。（2時間） 事後学習：ディスカッションのテーマについて復習し、関連する文献を読み進め、自らの考えをまとめる。（2時間） 第7回：第1～6回の先行研究を振り返り、自らの研究テーマを決める（ディスカッション） 事前学習：これまで輪読した先行研究を振り返り、研究テーマを決めてくる。（2時間） 事後学習：ディスカッションにて得られた知見をもとに、研究テーマに対する考えを深める。（2時間） 第8回：卒論・文献研究（発表、ディスカッション） 事前学習：自らの研究テーマの先行研究となる卒論、または文献を調べる。発表担当者は、発表内容の準備をする。（2時間） 事後学習：発表内容を振り返り、関連する文献を読み進め、自らの研究テーマへの考えを深める。（2時間） 第9回：卒論・文献研究（発表、ディスカッション） 事前学習：自らの研究テーマの先行研究となる卒論、または文献を調べる。発表担当者は、発表内容の準備をする。（2時間） 事後学習：発表内容を振り返り、関連する文献を読み進め、自らの研究テーマへの考えを深める。（2時間） 第10回：卒論・文献研究（発表、ディスカッション） 事前学習：自らの研究テーマの先行研究となる卒論、または文献を調べる。発表担当者は、発表内容の準備をする。（2時間） 事後学習：発表内容を振り返り、関連する文献を読み進め、自らの研究テーマへの考えを深める。（2時間） 第11回：卒論・文献研究（発表、ディスカッション） 事前学習：自らの研究テーマの先行研究となる卒論、または文献を調べる。発表担当者は、発表内容の準備をする。（2時間） 事後学習：発表内容を振り返り、関連する文献を読み進め、自らの研究テーマへの考えを深める。（2時間） 第12回：卒論・文献研究（発表、ディスカッション） 事前学習：自らの研究テーマの先行研究となる卒論、または文献を調べる。発表担当者は、発表内容の準備をする。（2時間） 事後学習：発表内容を振り返り、関連する文献を読み進め、自らの研究テーマへの考えを深める。（2時間） 第13回：卒論・文献研究（発表、ディスカッション） 事前学習：自らの研究テーマの先行研究となる卒論、または文献を調べる。発表担当者は、発表内容の準備をする。（2時間） 事後学習：発表内容を振り返り、関連する文献を読み進め、自らの研究テーマへの考えを深める。（2時間） 第14回：卒論・文献研究（発表、ディスカッション） 事前学習：自らの研究テーマの先行研究となる卒論、または文献を調べる。発表担当者は、発表内容の準備をする。（2時間） 事後学習：発表内容を振り返り、関連する文献を読み進め、自らの研究テーマへの考えを深める。（2時間） 第15回：まとめと今後の課題について（発表、ディスカッション） 事前学習：自らの研究テーマをより明確にし、発表できるようにする。（2時間） 事後学習：ディスカッションで指摘された課題も考慮し、自らの研究テーマをレポートにまとめる。（2時間）	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
平常点 (100%) 平常点は演習への取り組み状況やその態度などから総合的に判断する。	
(7) 成績評価基準	
自らの問題意識を明確にできているか。研究課題に関連する文献などを適切に選択、講読ができるか。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意)
担当教員から指示がある。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

コミュニケーション特別演習 I b (Special Seminar in Communication I b)			担当教員	井上 寛、加藤 優子、橋本 武志、 升田 法継、大須賀元彦、織田 暁子、 寺田 憲弘、M ハウカ、禿 寿、 Mクズィフ
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-G-2394	2 単位	3 年後期	演習	必修
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 特別演習・卒業研究				
求める学習成果(教育目標)				
地域の文化創造・発展に向けて課題解決に主体的に取り組む力を身につけ、地域社会や産業界のリーダーとなる意欲を育成します。				

(1) 授 業 の 内 容
卒業研究の準備段階として、学生自らが問題意識を持ち、研究課題を設定できるようになることを目標とする。そのために、文献、論文、資料、データを精読し、ディスカッションや発表を行う。(配属先のゼミによって、演習内容は異なる。) 研究課題によっては、企業や自治体等の外部団体と連携し、実際のデータ分析や課題解決に取り組んだり、地域連携活動を行ったりすることがある。また、国連が定める持続可能な開発目標 (SDGs) に関する活動に取り組むことがある。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
自らの問題意識を明確にし、研究課題を設定する。研究課題に関連する文献などを適切に選択、講読できる。論文の書き方、調査の仕方の基礎を身につける。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習 (PBL) ■討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ■実習、フィールドワーク ■実験、実技 □その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
演習のテーマについて専門的知識を深めるための研究・実践を行う。概ね以下の通りだが、各担当教員の演習テーマや学生の問題意識に依拠した指導に従い、PBL、フィールドワーク、グループワーク、実験等のアクティブラーニングを適宜行う。 (例) 第1回：オリエンテーション 事前学習：卒業論文のテーマについてレポートをまとめる。(2時間) 事後学習：自らの卒業論文テーマについて文献調査等を通し考えを深める。(2時間) 第2回：論文の書き方：学術論文を書く上での注意点(ディスカッション) 事前学習：論文の書き方に関する文献を読む。(2時間) 事後学習：授業で課されたテーマについてレポートをまとめる。(2時間) 第3回：論文の書き方：背景(発表、ディスカッション) 事前学習：論文の書き方に関する文献を読む。(2時間) 事後学習：授業で課されたテーマについてレポートをまとめる。(2時間) 第4回：論文の書き方：背景(発表、ディスカッション) 事前学習：論文の書き方に関する文献を読む。(2時間) 事後学習：授業で課されたテーマについてレポートをまとめる。(2時間) 第5回：論文の書き方：背景(発表、ディスカッション) 事前学習：論文の書き方に関する文献を読む。(2時間) 事後学習：授業で課されたテーマについてレポートをまとめる。(2時間) 第6回：論文の書き方：定義(発表、ディスカッション) 事前学習：論文の書き方に関する文献を読む。(2時間) 事後学習：授業で課されたテーマについてレポートをまとめる。(2時間) 第7回：論文の書き方：定義(発表、ディスカッション) 事前学習：論文の書き方に関する文献を読む。(2時間) 事後学習：授業で課されたテーマについてレポートをまとめる。(2時間) 第8回：論文の書き方：定義(発表、ディスカッション) 事前学習：論文の書き方に関する文献を読む。(2時間) 事後学習：授業で課されたテーマについてレポートをまとめる。(2時間)

第9回：論文の書き方：定義（発表、ディスカッション） 事前学習：論文の書き方に関する文献を読む。（2時間） 事後学習：授業で課されたテーマについてレポートをまとめる。（2時間） 第10回：論文の書き方：調査方法（発表、ディスカッション） 事前学習：論文の書き方に関する文献を読む。（2時間） 事後学習：授業で課されたテーマについてレポートをまとめる。（2時間） 第11回：論文の書き方：調査方法（発表、ディスカッション） 事前学習：論文の書き方に関する文献を読む。（2時間） 事後学習：授業で課されたテーマについてレポートをまとめる。（2時間） 第12回：論文の書き方：調査方法（発表、ディスカッション） 事前学習：論文の書き方に関する文献を読む。（2時間） 事後学習：授業で課されたテーマについてレポートをまとめる。（2時間） 第13回：論文の書き方：結果の示し方（発表、ディスカッション） 事前学習：論文の書き方に関する文献を読む。（2時間） 事後学習：授業で課されたテーマについてレポートをまとめる。（2時間） 第14回：論文の書き方：結果の示し方（発表、ディスカッション） 事前学習：論文の書き方に関する文献を読む。（2時間） 事後学習：授業で課されたテーマについてレポートをまとめる。（2時間） 第15回：論文の書き方：まとめと参考文献（発表、ディスカッション） 事前学習：論文の書き方に関する文献を読む。（2時間） 事後学習：授業で課されたテーマについてレポートをまとめる。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 平常点（100％） 平常点は演習への取り組み状況やその態度などから総合的に判断する。
(7) 成績評価基準 卒業研究に取り組むことができるだけの専門的な知識をつけられているか。文献などの講読を通して、自らの問題意識を明確にし、研究課題を設定できるようになったか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意) 問題意識の明確化、研究課題の設定のために必要な、本演習以外の授業を履修すること。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英語科教育法Ⅲ (English Language Teaching Methodolog Ⅲ)			担当教員	紺渡 弘幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CO-T-2309	2 単位	3 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
新たな英語教育を担う中学校・高等学校の英語教員に求められるすぐれた知識と技能を身につけ、豊かな人間性を育みます。					

(1) 授 業 の 内 容	
学習指導案の書き方、授業展開の方法、指導技術について理解を深めるとともに、具体的な指導事例の検討を通して効果的な指導法を学ぶ。さらに、個別に学習指導案を作成し、模擬授業を実施する機会を持つ。模擬授業の検討・評価を通して、実践的な指導力を身につける。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
中学校及び高等学校の学習指導要領及び教科書に基づき、学習到達目標及び指導計画授業の組み立て、学習指導案の作成、基本的な指導法や授業評価について理解し、実際に授業を行うことができる力を身につける。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：オリエンテーション、学習指導要領 事前学習：事前にシラバスやテキストに目を通し、質問事項をまとめておく。(2時間) 事後学習：新旧学習指導要領を比較し、変更点を確認する。(2時間) 第2回：教科書、学習到達目標設定と指導計画 事前学習：英語教育に関する専門用語を学習する。事前にテキストを読み、レポート作成資料を作成する。(2時間) 事後学習：実際に中・高で使われている英語科教科書に目を通す。(2時間) 第3回：授業の構成、学習指導案の作成 事前学習：英語教育に関する専門用語を学習する。事前にテキストを読み、レポート作成資料を作成する。(2時間) 事後学習：授業の構成、学習指導案の作成について復習する。(2時間) 第4回：中学校の授業例 事前学習：英語教育に関する専門用語を学習する。事前にテキストを読み、レポート作成資料を作成する。(2時間) 事後学習：中学校の授業例を参考にして授業の組み立てを復習する。(2時間) 第5回：高等学校の授業例 事前学習：英語教育に関する専門用語を学習する。事前にテキストを読み、レポート作成資料を作成する。(2時間) 事後学習：高等学校の授業例を参考にして授業の組み立てを復習する。(2時間) 第6回：授業の工夫(1)：Warm-up と Review (プレゼンテーション) 事前学習：英語教育に関する専門用語を学習する。事前にテキストを読み、レポート作成資料を作成する。(2時間) 事後学習：授業におけるWarm-up及びReviewのしかたを復習する。(2時間) 第7回：授業の工夫(2)：文法・文型の導入(プレゼンテーション) 事前学習：英語教育に関する専門用語を学習する。事前にテキストを読み、レポート作成資料を作成する。(2時間) 事後学習：授業における文法・文型の導入のしかたを復習する。(2時間) 第8回：授業の工夫(3)：コミュニケーション活動(プレゼンテーション) 事前学習：英語教育に関する専門用語を学習する。事前にテキストを読み、レポート作成資料を作成する。(2時間) 事後学習：授業におけるコミュニケーション活動のしかたを復習する。(2時間)	

第9回：授業の工夫（４）：語彙の導入と指導（プレゼンテーション） 事前学習：英語教育に関する専門用語を学習する。事前にテキストを読み、レポーティング資料を作成する。（２時間） 事後学習：授業における語彙の導入と指導のしかたを復習する。（２時間）
第10回：授業の工夫（５）：教科書本文の指導（プレゼンテーション） 事前学習：英語教育に関する専門用語を学習する。事前にテキストを読み、レポーティング資料を作成する。（２時間） 事後学習：授業における教科書本文の指導のしかたを復習する。（２時間）
第11回：模擬授業（発表）・検討と評価（１）：Warm-up と Review（ディスカッション） 事前学習：英語教育に関する専門用語を学習する。学習指導案・教材を作成し、模擬授業の準備をする。（２時間） 事後学習：授業におけるWarm-up及びReviewのしかたを復習する。（２時間）
第12回：模擬授業（発表）・検討と評価（２）：文法・文型の導入（ディスカッション） 事前学習：英語教育に関する専門用語を学習する。学習指導案・教材を作成し、模擬授業の準備をする。（２時間） 事後学習：授業における文法・文型の導入のしかたを復習する。（２時間）
第13回：模擬授業（発表）・検討と評価（３）：言語活動（ディスカッション） 事前学習：英語教育に関する専門用語を学習する。学習指導案・教材を作成し、模擬授業の準備をする。（２時間） 事後学習：授業におけるコミュニケーション活動のしかたを復習する。（２時間）
第14回：模擬授業（発表）・検討と評価（４）：語彙の導入と指導（ディスカッション） 事前学習：英語教育に関する専門用語を学習する。学習指導案・教材を作成し、模擬授業の準備をする。（２時間） 事後学習：授業における語彙の導入と指導のしかたを復習する。（２時間）
第15回：模擬授業（発表）・検討と評価（５）：教科書本文の指導（ディスカッション） 事前学習：英語教育に関する専門用語を学習する。学習指導案・教材を作成し、模擬授業の準備をする。（２時間） 事後学習：授業における教科書本文の指導のしかたを復習する。（２時間）
第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（50%）、課題・小テスト・模擬授業（35%）、授業への取り組み（15%） ※授業への取り組みは、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する。
(7) 成績評価基準
1. 学習指導要領や授業準備に必要な事柄について理解できているか。 2. 学習指導案の書き方を理解し、作成できるか。 3. 授業の組み立ての基本を理解できているか。 4. 基本的な指導法や指導技術を理解し、活用できるか。 5. 授業評価の観点を知り、客観的に授業を評価できるか。 6. ICTを効果的に指導に活用できるか。 7. 模擬授業を通して、実際に指導できるようになったか。
(8) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■授業時 ■仁大eラーニング □メール □その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■授業時 ■仁大eラーニング □メール □その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■授業時 ■仁大eラーニング □メール □その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて □定期試験時 ■仁大eラーニング □メール □その他 5) その他 □授業時 □仁大eラーニング □メール □その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

(10) テキスト、参考図書
テキスト 英語科教育実習ハンドブック 第4版 (加藤茂夫、杉山敏、荒木美恵子著 大修館書店 令和2年) 英語教育用語事典 第3版 (白畑知彦、富田祐一、村野井仁、若林茂則著 大修館書店 令和元年) 参考資料 小学校学習指導要領(平成29年3月公示 文部科学省) 中学校学習指導要領(平成29年3月公示 文部科学省) 高等学校学習指導要領(平成30年3月公示 文部科学省)
(11) その他(受講上の注意)
主体的な学習を通して、教師に必要な指導力を身につけることを期待する。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英語科教育法Ⅳ (English Language Teaching MethodologyⅣ)			担当教員	紺渡 弘幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CO-T-2313	2 単位	3 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
新たな英語教育を担う中学校・高等学校の英語教員に求められるすぐれた知識と技能を身につけ、豊かな人間性を育みます。					

(1) 授 業 の 内 容
コミュニケーション能力を高める英語の授業を行うために必要な理論について理解を深めるとともに、そのための効果的な指導法を学ぶ。個別に学習指導案を作成し、模擬授業を実施する機会を持ち、その検討・評価を通して、実践的な指導力を身につける。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
コミュニケーション能力の養成における課題を理解し、それを踏まえてコミュニケーション能力を養成する効果的な指導法についての知識やスキルを身につける。模擬授業を通して、指導法や指導技術を実際に活用できるようにする。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：日本の英語教育とめざすべき目標 事前学習：英語教育に関する専門用語を学習する。事前にテキストを読み、レポート作成資料を作成する。(2時間) 事後学習：日本の英語教育とめざすべき目標について復習する。(2時間) 第2回：学習指導要領と「3つの資質・能力」及び「5つの領域」 事前学習：英語教育に関する専門用語を学習する。事前にテキストを読み、レポート作成資料を作成する。(2時間) 事後学習：学習指導要領と「3つの資質・能力」及び「5つの領域」について復習する。(2時間) 第3回：コミュニケーション能力について 事前学習：英語教育に関する専門用語を学習する。事前にテキストを読み、レポート作成資料を作成する。(2時間) 事後学習：コミュニケーション能力について復習する。(2時間) 第4回：コミュニケーション能力の養成のための指導に関する理論 事前学習：英語教育に関する専門用語を学習する。事前にテキスト読み、レポート作成資料を作成する。(2時間) 事後学習：コミュニケーション能力の養成のための指導について復習する。(2時間) 第5回：コミュニケーション能力養成の問題点 事前学習：英語教育に関する専門用語を学習する。事前にテキストを読み、レポート作成資料を作成する。(2時間) 事後学習：コミュニケーション能力養成の問題点について復習する。(2時間) 第6回：コミュニケーション能力養成のための効果的な指導法 事前学習：英語教育に関する専門用語を学習する。事前にテキストを読み、レポート作成資料を作成する。(2時間) 事後学習：コミュニケーション能力養成のための効果的な指導法について復習する。(2時間) 第7回：コミュニケーション能力の養成と学習者要因 事前学習：英語教育に関する専門用語を学習する。事前にテキストを読み、レポート作成資料を作成する。(2時間) 事後学習：コミュニケーション能力の養成と学習者要因について復習する。(2時間) 第8回：コミュニケーション能力の養成と評価 事前学習：英語教育に関する専門用語を学習する。事前にテキストを読み、レポート作成資料を作成する。(2時間) 事後学習：コミュニケーション能力の養成と評価について復習する。(2時間)

第9回：コミュニケーション能力の養成と小学校・中学校・高等学校間の連携 事前学習：英語教育に関する専門用語を学習する。事前にテキストを読み、レポーティング資料を作成する。（2時間） 事後学習：コミュニケーション能力の養成と小学校・中学校・高等学校間の連携について復習する。（2時間） 第10回：指導技術・模擬授業（発表）・検討と評価（1）導入・発問の工夫（ディスカッション） 事前学習：英語教育に関する専門用語を学習する。学習指導案・教材を作成し、模擬授業の準備をする。（2時間） 事後学習：授業における導入・発問の工夫を復習する。（2時間） 第11回：指導技術・模擬授業（発表）・検討と評価（2）教科書本文の扱い（ディスカッション） 事前学習：英語教育に関する専門用語を学習する。学習指導案・教材を作成し、模擬授業の準備をする。（2時間） 事後学習：授業における教科書本文の扱い方を復習する。（2時間） 第12回：指導技術・模擬授業（発表）・検討と評価（3）コミュニケーション活動（ディスカッション） 事前学習：英語教育に関する専門用語を学習する。学習指導案・教材を作成し、模擬授業の準備をする。（2時間） 事後学習：授業におけるコミュニケーション活動のしかたを復習する。（2時間） 第13回：指導技術・模擬授業（発表）・検討と評価（4）言語形式・意味・機能（ディスカッション） 事前学習：英語教育に関する専門用語を学習する。学習指導案・教材を作成し、模擬授業の準備をする。（2時間） 事後学習：授業における言語形式・意味・機能の対応づけを復習する。（2時間） 第14回：指導技術・模擬授業（発表）・検討と評価（5）スキルの統合（ディスカッション） 事前学習：英語教育に関する専門用語を学習する。学習指導案・教材を作成し、模擬授業の準備をする。（2時間） 事後学習：授業におけるスキルの統合のしかたを復習する。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：英語教育に関する専門用語を学習する。学習指導案・教材を作成し、模擬授業の準備をする。（2時間） 事後学習：授業における指導方法全般を復習する。（2時間） 第16回：定期試験	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
定期試験（50%）、課題・小テスト・模擬授業（35%）、授業への取り組み（15%） ※授業への取り組みは、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する。	
(7) 成績評価基準	
1. コミュニケーション能力とその養成における問題点について理解できているか。 2. コミュニケーション能力を養成する効果的な指導法について理解できているか。 3. 模擬授業を通して、指導法や指導技術を活用できるようになったか。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	

(10) テキスト、参考図書
テキスト 意見・考え重視の視点からの英語授業改革（大下邦幸監修、東京書籍、平成26年） 英語教育用語事典 第3版（白畑知彦、富田祐一、村野井仁、若林茂則著 大修館書店 令和元年） 参考資料 小学校学習指導要領（平成29年3月公示 文部科学省） 中学校学習指導要領（平成29年3月公示 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月公示 文部科学省） コミュニケーション・クラスのすすめ（大下邦幸編著 東京書籍 平成21年）
(11) その他(受講上の注意)
主体的な学習を通して、教師に必要な指導力を身につけることを期待する。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育経営論 (Educational Administration)			担当教員	小林 利幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CO-T-2308	2 単位	3 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
新たな英語教育を担う中学校・高等学校の英語教員に求められるすぐれた知識と技能を身につけ、豊かな人間性を育みます。					

(1) 授 業 の 内 容
日本国憲法・教育法規・学習指導要領に示される教育経営の理念を理解する。教育・学校・児童生徒を巡る諸課題を教育経営の観点から理解を深め、学校と地域の連携の意義と取り組み及び学校安全について自らの切実な課題として主体的に理解できるようにグループ討議を重視する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
中学校・高等学校教育・食の教育や教育行政機関の目的とその実現について教育経営の観点から理解し、社会の状況の変化と学校教育へ影響・課題・教育施策の動向の基礎的知識を身につけ、学校と地域との連携と協働の仕方を理解し、学校管理下での事件・事故・食の安全・災害の実情を踏まえて学校安全の目的と取り組みを理解することが出来る。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：教育経営論の理念と学習計画について 事前学習：教育経営論で身に付けたいことや考えたいことや教育に関する疑問点をノートにまとめてくること。(2時間) 事後学習：現在の自分の教育観を見つめ、まとめ、疑問点などをまとめておくこと。(2時間) 第2回：我が国の幼・保教育及び小学校教育の変遷と課題について 事前学習：学習指導要領解説総則編P146～P157で我が国の教育の変遷を整理しておくこと。(2時間) 事後学習：教育とは何か、教育経営とは何か、教育の変遷を整理しておくこと。(2時間) 第3回：子どもの生活の変化と子どもの問題及び解決策について 事前学習：子どもの問題で気になる問題とその理由及び解決策を考えてくること。(2時間) 事後学習：考えた子どもの問題の解決策と今後の取り組み計画をまとめておくこと。(2時間) 第4回：我が国の教育課題と学習指導要領の改訂について 事前学習：新聞で取り上げられている教育課題に対し、自分の考えや疑問をノートに書いてくること。(2時間) 事後学習：教育課題を繰り返さずに解決するための施策を考え、共感的に共有し合うこと。(2時間) 第5回：世界の教育の実態と教育改革の現状について 事前学習：世界各国の教育事情を集め、それぞれの課題と取り組みを紹介できるようにしてくること。(2時間) 事後学習：特徴的な課題と対策をまとめ、今後の世界の教育の改革について考えを整理すること。(2時間) 第6回：学校経営の理念と学校組織の在り方について 事前学習：特徴的な学校経営を行う学校の実践を調べて情報交換が出来るようにしてくること。(2時間) 事後学習：大きな教育成果を挙げている学校の取り組みや先駆者の思想や実践をまとめておくこと。(2時間) 第7回：憲法・教育法規・関連法規と学校教育について 事前学習：日本国憲法・教育基本法・学校教育法を熟読してくること。(2時間) 事後学習：特に日本国憲法と教育基本法を精神をまとめ、整理しておくこと。(2時間) 第8回：教育行政の仕組みと課題について 事前学習：我が国の教育行政の仕組みと改善したい問題をまとめてくること。(2時間) 事後学習：教育行政と学校教育の課題と改善策をまとめておくこと。(2時間)

第9回：学校経営と学校評価の基礎理論について 事前学習：向上・改善のための実践と評価の大切さについて具体例を挙げて考えてくること。（2時間） 事後学習：学校評価の具体例を整理し、学校経営の充実・改善の取り組みを整理しておくこと。（2時間） 第10回：学級経営の仕組みと学級経営の課題について 事前学習：改善したい学級経営上の課題と解決策を考え、整理してくること。（2時間） 事後学習：様々な学級経営上の課題を整理し、対応改善策をまとめておくこと。（2時間） 第11回：教職員と学校外の関係機関との連携・協働について 事前学習：閉ざされた学校が開かれた学校へと移り変わった理由を考えてくること。（2時間） 事後学習：教職員の開かれた意識形成のためにどうしたらよいかについてまとめておくこと。（2時間） 第12回：学校と地域との連携・協働と教職員の使命について 事前学習：各地域の実践例に触れ、紹介できるようにしてくること。（2時間） 事後学習：主な実践を整理し、今後取り組んでいきたいプランをもてるようにすること。（2時間） 第13回：開かれた学校づくりの課題と解決について 事前学習：新聞記事で取り上げられる学校紹介記事を用意し、発表できるようにしてくること。（2時間） 事後学習：多様な取り組みを整理し、開かれた学校づくりの大切さに挑むことができるようにしておく。（2時間） 第14回：学校で起こる事件、事故、災害の実情と学校安全の具体策について 事前学習：具体事案をもとに未然防止策と事前指導の在り方を考えてくること。（2時間） 事後学習：家庭・地域ぐるみで子どもの安全を守る対策を整理しておくこと。（2時間） 第15回：学校、地域の安全管理と安全指導の徹底について 事前学習：居住地域の防災体制や学校の安全管理と指導の現状について考えてくること。（2時間） 事後学習：地域の安全・防災の充実のために積極的に行動できるようにすること。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 学期末レポート40% 学習への意欲的な姿勢と小レポート40% グループ討議・発表20%
(7) 成績評価基準 中学校・高等学校教育・食の教育や教育行政機関の目的とその実現について教育経営の観点から理解しているか。 社会の状況の変化と学校教育へ影響・課題・教育施策の動向の基礎的知識を身につけているか。 学校と地域との連携と協働の仕方を理解し、学校管理下での事件・事故・食の安全・災害の実情を踏まえて学校安全の目的と取り組みを理解しているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 <テキスト> 小学校学習指導要領 小学校学習指導要領解説「総則編」(文部科学省 東洋館出版社 平成29年) <参考図書> 教育小六法(市川須美子・小野田正利・勝野正章・窪田眞二・中嶋哲彦・成嶋隆著 岳陽書房 平成28年) 中学校学習指導要領解説 外国語編(平成29年7月 文部科学省) 高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編(平成30年3月公示 文部科学省)

(11) その他(受講上の注意)
私語・無気力厳禁。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

道徳教育の理論と方法 (Theory and Methods of Moral Education)			担当教員	高野 秀晴	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-T-2314	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果（教育目標）					
新たな英語教育を担う中学校・高等学校の英語教員に求められるすぐれた知識と技能を身につけ、豊かな人間性を育みます。					

(1) 授 業 の 内 容
学校で道徳教育をいかに行うかが大きな課題となっている。本授業では、この古くて新しい課題について理解を深めたいと、学習指導要領に示される道徳教育の目標や内容について考察していく。これと並行して、グループごとに指導案を作成し、順次模擬授業を実施してもらう。これらの作業を通じて、道徳教育の指導法について検討していく。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を説明できる。 ・道徳教育における指導計画の必要性を理解したうえで教材研究を行い、適切な指導法にもとづく授業計画を立てることができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(模擬授業)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 事前学習：シラバスをよく読み、学修計画を立てる。(2時間) 事後学習：参考図書を検索し読書計画を立てるとともに、指導案の作成計画を立てる。(2時間) 第2回：道徳教育の難しさ(1)——道徳は知識なのか行為なのか 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間) 第3回：道徳教育の難しさ(2)——宗教と道徳について 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間) 第4回：道徳教育の難しさ(3)——評価のあり方について 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間) 第5回：道徳性発達理論についての考察 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間) 第6回：学習指導要領を読む——第1章「総則」、第3章「特別の教科 道徳」 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間) 第7回：教材研究(1)——『心のノート』と『私たちの道徳』を中心に(グループワーク) 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間) 第8回：教材研究(2)——読み物教材の使い方(グループワーク) 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間) 第9回：日本における道徳教育の歴史 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間) 第10回：指導法の検討(1)——インカレーション(模擬授業、討議) 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案を作成または修正する。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)

第11回：指導法の検討（2）——ディベート（模擬授業、討議） 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案を作成または修正する。（2時間） 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（2時間） 第12回：指導法の検討（3）——モラルジレンマ（模擬授業、討議） 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案を作成または修正する。（2時間） 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（2時間） 第13回：指導法の検討（4）——ロールプレイ（模擬授業、討議） 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案を作成または修正する。（2時間） 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（2時間） 第14回：指導法の検討（5）——構成的グループエンカウンター（模擬授業、討議） 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案を作成または修正する。（2時間） 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案を作成または修正する。（2時間） 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（50%） 指導案の内容（25%） 平常点（25%） （平常点は、授業への参加状況、授業時の課題の内容、模擬授業に対する講評の内容をもとに評価する。）
(7) 成績評価基準
・道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を説明できるか。 ・道徳教育における指導計画の必要性を理解したうえで教材研究を行い、適切な指導法にもとづく授業計画を立てることができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト：「小学校学習指導要領」（平成29年3月告示 文部科学省）、「中学校学習指導要領」（平成29年3月告示 文部科学省） 参考図書：授業時に指示する。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

生徒・進路指導論 (Educational Guidance and Consultation)			担当教員	黒田 祐二	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CO-T-2310	2 単位	3 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わる、すぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。					

(1) 授 業 の 内 容
授業計画の前半は生徒指導、後半は進路指導(キャリア教育)について講義する。どちらにおいても、まず概要と原理について講義し、次に全体指導や個別指導の具体的な進め方について講義するという順序で進める。全体指導や個別指導に関する授業では、グループ・ディスカッションや討論も取り入れる。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
生徒指導及び進路指導(キャリア教育)の考え方や方法を学ぶことを通して、指導を効果的に進めていくために必要な知識、技能、素養を身につける。また、校内外の関係者と連携しながら学校全体で組織的に生徒・進路指導を進めていくことの意義や重要性を理解し、その具体的な方法について知識を身につける。
(3) アクティブラーニング
口課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodieでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodieでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：生徒指導の概要－教育課程における位置づけと生徒指導の意義、生徒指導が機能する場面や領域、生徒指導の体制とその運営、生徒指導に関わる主な法令 事前学習：テキスト等を参考にして生徒指導の定義や概要について予習しておくこと(2時間) 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること(2時間) 第2回：生徒指導の意義と原理1－発達観と指導観 事前学習：テキスト等を参考にして発達観と指導観について予習しておくこと(2時間) 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること(2時間) 第3回：生徒指導の意義と原理2－集団指導と個別指導の方法原理 事前学習：テキスト等を参考にして集団指導と個別指導について予習しておくこと(2時間) 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること(2時間) 第4回：児童生徒の理解と指導－児童生徒の心理を踏まえた指導のあり方 事前学習：テキスト等を参考にして児童生徒の心理について予習しておくこと(2時間) 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること(2時間) 第5回：全体指導の進め方1－自己肯定感や存在感を育てる生徒指導 事前学習：テキスト等を参考にして自己肯定感や存在感の育て方について予習しておくこと(2時間) 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること(2時間) 第6回：全体指導の進め方2－自己指導能力を育てる生徒指導 事前学習：テキスト等を参考にして自己指導能力とその育て方について予習しておくこと(2時間) 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること(2時間) 第7回：個別指導の進め方1－いじめの理解と対応(ディスカッションを含む) 事前学習：テキスト等を参考にしていじめの理解と対応について予習しておくこと(2時間) 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること(2時間) 第8回：個別指導の進め方2－非行の理解と対応(ディスカッションを含む) 事前学習：テキスト等を参考にして非行の理解と対応について予習しておくこと(2時間) 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること(2時間)

第9回：個別指導の進め方3ー不登校の理解と対応（ディスカッションを含む） 事前学習：テキスト等を参考にして不登校の理解と対応について予習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間） 第10回：個別指導の進め方4ー今日的な問題行動と校内外の連携のあり方 事前学習：テキスト等を参考にして校内外の連携について予習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間） 第11回：進路指導の概要ー教育課程における位置づけ、進路指導とキャリア教育の関係、キャリア形成に関する今日的な課題とキャリア教育の重要性 事前学習：テキスト等を参考にして進路指導の定義と概要を予習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間） 第12回：全体指導の進め方1ーガイダンスとしての指導、発達段階毎の進路指導・キャリア教育のあり方と進め方 事前学習：テキスト等を参考にして発達段階毎のキャリア教育について予習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間） 第13回：全体指導の進め方2ーキャリア教育の視点を取り入れたカリキュラムの編成と実施、キャリア教育と教科・特別活動・総合的な学習の時間との関係 事前学習：テキスト等を参考にしてキャリア教育と他の教育活動との関係について予習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間） 第14回：個別指導の進め方1ー自己理解・自己評価とキャリア形成の関係、ポートフォリオの作成と活用例 事前学習：テキスト等を参考にしてキャリア教育の進め方について予習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間） 第15回：個別指導の進め方2ーキャリア・カウンセリングの考え方と実践方法 事前学習：テキスト等を参考にしてキャリア・カウンセリングについて予習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間） 第16回：定期試験	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
定期試験（80%） 小テスト（20%）	
(7) 成績評価基準	
1 生徒・進路指導に関する基本的な知識と考え方を身につけたかどうか。 2 生徒・進路指導上の諸問題に実践的に対応するための視点やスキルを身につけたかどうか。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	
(10) テキスト、参考図書	
テキスト：黒田祐二・清水貴裕・永作稔（編著）『実践につながる生徒指導・キャリア教育』北樹出版（令和6年） 参考図書：文部科学省『生徒指導提要』（2022年改訂版）※文部科学省のホームページからダウンロードできます。	

(11) その他(受講上の注意)
講義のみならずディスカッションも多く取り入れるため、これらに積極的に取り組めることが大切です。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育実習Ⅰ（高校） （Teaching Practice I (high school)）			担当教員	紺渡 弘幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-T-2312	2 単位	3 年前期	実習		選択
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果（教育目標）					
新たな英語教育を担う中学校・高等学校の英語教員に求められるすぐれた知識と技能を身につけ、豊かな人間性を育みます。					

(1) 授 業 の 内 容
高等学校における2週間の教育実習（観察実習・参加実習・授業実習）
(2) 授 業 の 到 達 目 標
1. 確かな心構えを持って実習に臨む。 2. 授業の教材研究がしっかりできる。 3. 指導態度が真剣で、意欲的である。 4. 生徒をよく理解しようと努める。 5. 教科外指導にも熱心に取り組む。 6. 実習ノートを欠かさず提出する。 7. 実習レポートはよくまとめられている。 8. 実習ノートは内容のある記録ができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☒ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
事前指導 ・教職課程ガイダンス：全体指導、教育実習の予定、受講資格等の説明 ・教育実習特別講義：教育現場の状況や現場を取り巻く環境・生徒理解・教育実習の心構え等に関する講義、ディスカッション ・学校見学（高等学校）：教育実習における注意事項、朝読書・朝礼参観 ・学校見学（高等学校）：授業参観、高等学校施設見学 ・教育実習Ⅱ反省会：上級生が教育実習について発表、質疑応答・意見交換、（ディスカッション）、実習に向けてのアドバイス ・「教育実習の手引き」、「教育実習ノート」に基づく実習直前の具体的な指導 ・実習Ⅰのための直前指導（高等学校）：高等学校の教育現場の状況や現場を取り巻く環境、生徒理解・指導の心構え等に関する講義 ・実習Ⅰのための直前指導（高等学校）：教科指導（授業実習）に関する講義 ・実習直前の模擬授業（発表）に基づく指導 教育実習校（高等学校）における実習 1. オリエンテーション（実習校の概要や特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合わせ等） 2. 教育実習（観察・参加・授業実習の諸活動。教材研究・学習指導案の作成、授業・生徒指導等の実習体験等） 3. 研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） 4. 研究授業の反省会（研究授業後の実習校教員からの指導、ディスカッション）教育実習先の高等学校について、あらかじめ資料等を読んで理解を深めておく。 日頃から教育実習に必要な知識・技能をしっかりと身につけておく。 事後指導 ・研究授業についての指導：指導教員による研究授業についての指導助言 ・教育実習Ⅰ反省会：実習生による実習報告・反省（発表）、意見交換（ディスカッション）、実習レポートの作成、自己点検

(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
平常点100%（教育実習校からの評価、レポート、実習ノートなどを総合して評価する。）
(7) 成績評価基準
1. 指導に必要な基礎学力・知識が十分にあるか。 2. よく教材研究・工夫がなされていたか。 3. 指導態度は真剣で、意欲が感じられたか。 4. 生徒をよく理解しようと努めていたか。 5. 指導能力はあるか、指導態度は良かったか。 6. 教科外指導にも熱心に取り組んだか。 7. 勤務態度はまじめで、実習への熱意が感じられたか。 8. 事務・実務能力はあるか。 9. 実習ノートの提出はきちんとしていたか。 10. 実習レポートはよくまとめられていたか。 11. 実習ノートは内容のある記録ができていたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他（実習に対するフィードバックについて） ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☒ その他（実習における評価および課題は「事前・事後指導」においてフィードバックする。）
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書
仁愛大学教職課程委員会編「仁愛大学教育実習の手引」、「仁愛大学教育実習ノート（令和8年度版）」、指定教科書
(11) その他(受講上の注意)
実習校での注意事項を遵守し、充実した実習になるよう努力することを期待する。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

事前・事後指導(中・高) (Guidance for Teaching Practice(Junior and senior high school))			担当教員	紺渡 弘幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CO-T-2311	1 単位	3 年～4 年	実習	選択	
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。					

(1) 授 業 の 内 容
教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱのための事前指導及び事後指導を行う。中学校・高等学校の生徒を指導する教師としての心構えを持つとともに、教育実習の目的・内容・方法及び留意事項を理解し、充実した実習が行えるよう準備する。実習終了後は評価・反省をし、課題を明確にする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
1. 教育実習の意義・目的を理解する。 2. 中学校・高等学校の教育現場の状況や教育環境を理解する。 3. 教育実習に臨むしっかりとした心構えを持つ。 4. 授業実習に必要な知識・指導法や技術を確認する。 5. 教育実習を振り返り、評価・反省して、自身の課題を明確にする。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
3 年次 第1回：教職課程ガイダンス：全体指導、教育実習の予定、受講資格等の説明 事前学習：事前にシラバスや学生便覧に目を通し、質問事項をまとめておく。(0.5時間) 事後学習：授業で学習した内容を復習する。(0.5時間) 第2回：教育実習特別講義：教育現場の状況や現場を取り巻く環境・生徒理解・教育実習の心構え等に関する講義、ディスカッション 事前学習：事前に講義のテーマについて調べ、質問事項をまとめておく。(0.5時間) 事後学習：講義で学習した内容について復習する。(0.5時間) 第3回：学校見学(高等学校)：教育実習における注意事項、朝読書・朝礼参観 事前学習：事前に教育実習の手引きに目を通し、質問事項をまとめておく。(0.5時間) 事後学習：学校見学で学んだことを振り返る。(0.5時間) 第4回：学校見学(高等学校)：授業参観、高等学校施設見学 事前学習：事前に教育実習の手引きに目を通し、質問事項をまとめておく。(0.5時間) 事後学習：学校見学で学んだことを振り返り、レポートを書く。(0.5時間) 第5回：教育実習Ⅱ反省会：上級生が教育実習について発表、質疑応答・意見交換、(ディスカッション)、実習に向けてのアドバイス 事前学習：事前に教育実習の手引きに目を通し、質問事項をまとめておく。(0.5時間) 事後学習：教育実習についての発表から学んだことを整理し、教育実習に備える。(0.5時間) 第6回：教育実習Ⅰの準備：「教育実習の手引き」、「教育実習ノート」に基づく実習直前の具体的な指導 事前学習：事前に教育実習の手引きに目を通し、質問事項をまとめておく。(0.5時間) 事後学習：授業で確認したことを振り返る。(0.5時間) 第7回：教育実習Ⅰのための直前指導(高等学校)：高等学校の教育現場の状況や現場を取り巻く環境、生徒理解・指導の心構え等に関する講義 事前学習：教育実習の手引きに目を通し、質問事項をまとめておく。(0.5時間) 事後学習：直前指導で理解・確認したことを振り返る。(0.5時間) 第8回：教育実習Ⅰのための直前指導(高等学校)：教科指導(授業実習)に関する講義 事前学習：教科指導の基本事項を復習し、質問事項をまとめておく。(0.5時間) 事後学習：直前指導で理解・確認したことを振り返る。(0.5時間) 第9回：教育実習Ⅰのための事前指導：実習直前の模擬授業(発表)に基づく指導 事前学習：直前指導で学んだことを踏まえて模擬授業の準備をする。(0.5時間) 事後学習：模擬授業を振り返り、不十分な点を改善する。(0.5時間)

第10回：研究授業についての指導：指導教員による研究授業についての指導助言 事前学習：研究授業の準備をする。(0.5時間) 事後学習：研究授業を振り返り、改善のポイントを整理しておく。(0.5時間) 第11回：教育実習Ⅰ反省会：実習生による実習報告・反省(発表)、意見交換(ディスカッション)、実習レポートの作成、自己点検 事前学習：教育実習Ⅰの反省をし、発表の準備をする。(0.5時間) 事後学習：実習レポートを作成する。(0.5時間) 4年次 第12回：教育実習Ⅱのための事前指導：教育実習Ⅱ、事前・事後指導の予定確認・指導等 事前学習：教育実習の手引きを読み返しておく。(0.5時間) 事後学習：授業で学習した内容を復習する。(0.5時間) 第13回：教育実習Ⅱのための事前指導：教育実習カードの作成、教育実習Ⅱへの心構え、教材研究等についての指導、特別講義に関する準備 事前学習：教育実習の手引きを読み返しておく。(0.5時間) 事後学習：授業で学習した内容を復習する。(0.5時間) 第14回：教育実習特別講義：教育現場の状況や現場を取り巻く環境・生徒理解・教育実習の心構え等に関する講義 事前学習：事前に講義のテーマについて調べ、質問事項をまとめておく。(0.5時間) 事後学習：講義で学習した内容について復習する。(0.5時間) 第15回：教育実習Ⅱのための事前指導：実習直前の模擬授業(発表)に基づく指導 事前学習：模擬授業の準備をする。(0.5時間) 事後学習：模擬授業を振り返り、不十分な点を改善する。(0.5時間) 備考・その他 教育実習Ⅱ反省会：実習生による実習についての発表、意見交換(ディスカッション)、実習レポートの作成、自己点検、教育実習履修のまとめ 実習後は、評価・反省をし、実習レポートをまとめ自分自身の課題を明確にする。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
課題・模擬授業(50%)、平常点(50%) (平常点は、授業への参加状況と受講態度から判断します。)
(7) 成績評価基準
1. 教育実習の意義・目的を説明できるか。 2. 中学校・高等学校の教育現場の状況や教育環境を理解について理解できているか。 3. しっかりとした心構えを持って、教育実習に臨むことができたか。 4. 授業実習に必要な知識・指導法や技術を身につけていたか。 5. 教育実習を振り返り、評価・反省して、自身の課題を明確にできたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
仁愛大学教職課程委員会編「仁愛大学教育実習の手引」、「仁愛大学教育実習ノート(令和8年度版)」

(11) その他(受講上の注意)

充実した教育実習ができるように日頃から、教師としての知識や技能を自主的に身につけるよう努力することを期待する。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

音楽の世界 (The World of Music)			担当教員	中野 研也	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HL-1320	2 単位	3 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間生活学部学部共通科目 人間学関連科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います					

(1) 授 業 の 内 容	
さまざまな音楽の魅力や特徴を探り、生み出された背景を知る。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
音楽に関する通論的な知識と通史的な知識を身に付け、作品に対する自分の考えを持つことができる。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：音楽とは何か ～なぜ学校で音楽を学ぶのか 事前学習：音楽とは何か、自分なりに調べて考えをまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を読み、音の性質についてまとめておくこと。(2時間) 第2回：音楽の誕生 ～いつ・なぜ・どのようにして生まれたのか(ディスカッション) 事前学習：音楽が①いつ、②なぜ、③どのようにして生まれたのか、①～③の項目を全て含んだ上で自分なりの考えをまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料をもとに、音楽と人間との関係について自分の考えも交えてまとめておくこと。(2時間) 第3回：音楽の3要素——1 ～旋律を中心として 事前学習：自身にとって旋律(メロディー)が印象的であった曲を複数書き出しておくこと(ジャンルは問わない)。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料をもとに、旋律とゲシュタルトの原理との関係についてまとめておくこと。(2時間) 第4回：音楽の3要素——2 ～拍子やリズムを中心として 事前学習：自身にとってリズムや拍子が印象的であった曲を複数書き出しておくこと(ジャンルは問わない)。(2時間) 事後学習：授業で話した内容と配布された資料をもとに、①リズムの形成についてまとめるとともに、②2拍子、3拍子、4拍子、6拍子で書かれた曲を少なくとも1曲ずつ挙げること。(2時間) 第5回：音楽の3要素——3 ～和声を中心として 事前学習：和声とは何か、辞書やWeb等で調べ、書き出しておくこと。(2時間) 事後学習：授業で話した内容と配布された資料をもとに、和声がもつ役割についてまとめておくこと。(2時間) 第6回：西洋の音楽史——1 クラシック音楽の誕生と発展 事前学習：西洋クラシック音楽で、知っている作曲家を複数名書き出しておくこと。(2時間) 事後学習：授業で話した内容や視聴した音楽と配布された資料をもとに、①西洋音楽を発展させた要素、②それが果たした役割について、①と②の項目を共に含んだ上でまとめておくこと。(2時間) 第7回：西洋の音楽史——2 クラシック音楽の落日とその後(ディスカッション) 事前学習：小学校、中学校、および高校の音楽の授業で聴いたことのある曲を書き出しておくこと。(2時間) 事後学習：授業で話した内容や視聴した音楽と配布された資料をもとに、西洋クラシック音楽が他の音楽に与えた影響あるいは役割についてまとめておくこと。(2時間) 第8回：音楽鑑賞・視聴 1 ～器楽作品(予定) 鑑賞レポート提出 事前学習：音楽鑑賞・視聴の題材として予告された作品について、Web等の情報を参考に下調べを行い、それがどのような作品であるのか簡単にまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で鑑賞・視聴した作品のレポートを作成し、次回授業時に提出すること。(2時間)	

第9回：世界の民族音楽 事前学習：民族音楽とは何か、Web等で調べておくこと。（2時間） 事後学習：授業で話した内容や視聴した音楽と配布された資料をもとに、①民族音楽とは何か、②民族音楽と西洋音楽との違いについて、それぞれまとめておくこと。（2時間） 第10回：音楽と美術——1～美術作品の見どころ 事前学習：音楽と美術との違いは何か、自分の考えを書き出しておくこと。（2時間） 事後学習：時代とともに変化する美的感覚は何に基づいているか、自分の考えをまとめておくこと。（2時間） 第11回：音楽と美術——2～音楽と美術の関係 事前学習：音楽と美術との関係についてWeb等の情報を参考に下調べを行い、書き出しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で話した内容や紹介した作品と配布された資料をもとに、①ロマン主義と印象派との違い、②ポスト印象派以降の20世紀美術について、それぞれ自分の考えをまとめておくこと。（2時間） 第12回：ジャズ——1～誕生の背景と音楽的特徴（グループワーク） 事前学習：ジャズとはどのような音楽であるか、Web等の情報を参考に下調べを行い、書き出しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で話した内容と配布された資料をもとに、ジャズが生まれた背景と音楽的特徴についてまとめておくこと。（2時間） 第13回：ジャズ——2～モダン・ジャズの世界 事前学習：モダン・ジャズとは何か、Web等の情報を参考に下調べを行い、書き出しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で話した内容や視聴した音楽と配布された資料をもとに、ジャズが他のジャンルの音楽に与えた影響についてまとめておくこと。（2時間） 第14回：音楽を記録するということ 事前学習：録音・再生を行う道具（機材）にはどのようなものがあるのか、Web等の情報を参考に下調べを行い、複数書き出しておくこと。（2時間） 事後学習：音楽を記録できるようになったことが音楽の世界にもたらした影響あるいは変化について、まとめておくこと。（2時間） 第15回：音楽鑑賞・視聴 2～ミュージカル作品（予定） 鑑賞レポート提出 事前学習：音楽鑑賞・視聴の題材として予告された作品について、Web等の情報を参考に下調べを行い、簡単にまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で鑑賞・視聴した作品のレポートを作成し、指定の日時までに提出すること。（2時間） 第16回：定期試験 授業で配布された資料と宿題プリント、授業で話した内容のメモを見返して下さい。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 2度のレポート（20%）、定期試験（50%）、授業への参加状況※（30%）で評価する。 ※授業への参加状況は、出席だけでなくFormsによるコール＆レスポンスへの応答の有無を含みます。
(7) 成績評価基準 音楽に関する通論および通史的な知識が身につく、音楽あるいは芸術に対する自分なりの考えを持つことができたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

(10) テキスト、参考図書
特定のテキストは使用しない。授業ごとに資料（プリント）を配布する。
(11) その他(受講上の注意)
試験問題は、配布資料（プリント）と授業で話した内容とを合わせて出題する。配布物と自分でメモをとったものは試験までは紛失しないように所持しておくこと。 下記の理由から、授業には必ずスマートフォンを持参してください。 ・ 出欠は授業時間にe-ラーニング出欠調査のページで行う。 ・ 授業中、Formsを使ったコール&レスポンスを行う。フォームにはスクリーンに映し出すORコードからアクセスする。ここでの応答の有無は、成績に反映される。 質問は授業中も適宜受け付けます。私語は厳禁です。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

生活と環境C (Life Science and the Environment C)			担当教員	尼子 克己	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HL-2330	2 単位	3 年前期	講義		選択
＜科目区分＞ 人間生活学部学部共通科目 環境・健康生活科目					
求める学習成果（教育目標）					
大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます					

(1) 授 業 の 内 容
有史以来の環境問題を、人間生活の豊かさ、疑似科学と科学の違いと関連させながら説明します。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
有史以来、環境問題が如何に発生したか、人類はそれに如何に対処してきたかについて、その概要を説明できる。現代の環境問題が人口の増大と生活の豊かさとしてリンクし、その複雑さゆえ単純な解決法を持たないことを説明できる。環境問題に対峙し、自ら意思決定に関わる姿勢を身につける。具体的には、①環境に関わる語句を正しく説明できる ②「科学的に正しい」とはどういうことかを理解している ③正解がない問題に対して、論理的に自分の意見を述べる、または書くことができる ことを目標とする。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：イントロダクション(講義全体の紹介) 事前学習：事前配布した講義内容に関連する用語を列挙したもの、ごく基本的な科学的知識を問う問題に取り組み、知らない用語について下調べを行うこと。なお解答用紙は提出を求めるが、ここでの正答率の高低は成績に影響しない。(2時間) 事後学習：課題提出に必要なもの、Microsoft365等、学習に必要な動画受信、電子的な課題提出に必要な操作について、指定されたテスト用送受信を行い、トラブルが生じた場合は情報サポート室や担当教員に問い合わせ、解決する。(2時間) 第2回：地球の歴史と生物の進化(酸素、光と生物の関係を中心に) 事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。(2時間) 事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第3回：オゾンホール(発明当時にはわからなかったこと) 事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。(2時間) 事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第4回：大気汚染ガス(大気汚染問題の変遷) 事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。(2時間) 事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第5回：疑似科学と科学リテラシー(この発明は革命的か?) 事前学習：事前配布した、ある発明を報じたニュース動画および記事を閲覧し、その報道に対する感想・意見を用意しておく。(2時間) 事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第6回：BSEと食環境(「安全」と「安心」はどう違う?) 事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。(2時間) 事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第7回：映画「キング・コーン」を題材に(あなたの体が"コーン"でできていたとしたら?) 事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。(2時間) 事後学習：講義内で閲覧した動画に対する感想、および現代の食生活に対する問題点を整理すること。(2時間)

第8回：有機野菜・遺伝子組換え作物（賛成・反対とそれぞれの「根拠」） 事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。（2時間） 事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第9回：「科学的に正しい」とは何か、「わかりやすい」は絶対善か（科学哲学、「ゆるふわ」科学論の危うさ） 事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。（2時間） 事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第10回：温室効果ガス（温室効果の原理、パリ協定等国际協調の論理） 事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。（2時間） 事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第11回：持続可能な社会①（「成長の限界」と「マルサスの人口論」） 事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。（2時間） 事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第12回：持続可能な社会②（「経済成長」と「人口の先」にあるもの） 事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。（2時間） 事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第13回：情報化社会における「正しさ」（「ポスト真実」と「フィルターバブル」） 事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。（2時間） 事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第14回：教育格差と自己責任論（分断について考える） 事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。（2時間） 事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第15回：人類の未来を予測する（ユヴァル・ノア・ハラリ氏の著作を中心に）、まとめ 事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。（2時間） 事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 授業への取り組み40%、レポート60%で評価する。定期試験は実施しない。授業への取り組みは、所定書式で作成したノートテイクの内容を点数化する。レポートについては、レポートは講義数回分を踏まえた課題を3つ指定し、それぞれについてA4用紙1～2枚程度にまとめたものを点数化する。
(7) 成績評価基準 ①環境に関わる語句を正しく説明できるか。②「科学的に正しい」ことの意味を理解できているか。③正解がない問題に対して、論理的に自分の意見を述べる、または書くことができるか。以上3つの視点を評価する。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他（レポート内容の傾向と評価のポイントについて概説する） 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

(10) テキスト、参考図書

テキストは使用しない。使用したレジユメはe-ラーニングで公開する。参考図書：廣瀬千秋訳「改訂・実感する化学－地球感動編」(株) NTS・2015年、西岡秀三監修「地球温暖化」ニュートンプレス・2010年、石井彰著「エネルギー論争の盲点－天然ガスと分散化が日本を救う」NHK出版新書・2011年、SYNODOS編「もうダメされないための『科学』講義」光文社新書・2011年、『成長の限界——ローマ・クラブ「人類の危機」レポート』、ダイヤモンド社・1972年、ユヴァル・ノア・ハラリ著・柴田裕之訳「21 Lessons 21世紀の人類のための21の思考」河出書房新社・2019年。その他省庁作成の各種白書を参考資料とする。

(11) その他(受講上の注意)

受講上講義内容のノートをとる用紙を毎回配布・回収(電子的に取り込み、用紙はその場で返却)します。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英語Ⅲ a (English Ⅲ a)			担当教員	M クズィフ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HL-2340	1 単位	3 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間生活学部学部共通科目 外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実地的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
A pre-reading warm-up activity will be held before reading the essay for each unit. Comprehension exercises, including pair-work, will follow the introduction of new vocabulary. After discussing the topic in groups, a short writing exercise will be given. Students will also be responsible for facilitating one lesson from the textbook and completing an original discussion assignment.
(2) 授 業 の 到 達 目 標
The goal of this course is to develop reading and discussion skills. Students will deepen their understanding of the world around them. Students will learn to engage in thoughtful and effective communication that is representative of an increasingly global world.
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回: Introductions (ディスカッション) 事前学習: 事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分) 第2回: Who Is J.K. Rowling? ① (ディスカッション) 事前学習: 事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分) 第3回: Who Is J.K. Rowling? ② (ディスカッション) 事前学習: 事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分) 第4回: What Are Some New Year's Customs? ① (ディスカッション) 事前学習: 事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分) 第5回: What Are Some New Year's Customs? ② (ディスカッション) 事前学習: 事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分) 第6回: Where Is Buckingham Palace? ① (ディスカッション) 事前学習: 事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分) 第7回: Where Is Buckingham Palace? ② (ディスカッション) 事前学習: 事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分) 第8回: Why Are Cows Special In India? ① (ディスカッション) 事前学習: 事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分) 第9回: Why Are Cows Special In India? ② (ディスカッション) 事前学習: 事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分) 第10回: Why Do People Give Gifts For Weddings? ① (ディスカッション) 事前学習: 事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習: 授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分)

第11回：Why Do People Give Gifts For Weddings? ② (ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第12回：What's Special About The Blowfish? ① (ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第13回：What's Special About The Blowfish? ② (ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第14回：Who Are The Sami? ① (ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第15回：Who Are The Sami? ② (ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) Students are encouraged to consult the Internet for information on topics introduced in the textbook.
(5) 授業形態 [面接授業・遠隔授業]
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
Proactive In-class Participation - 20% Homework - 20% Lesson Facilitation - 20% Final Discussion - 40%
(7) 成績評価基準
Students are expected to and will be evaluated on their role during in-class discussions and on assigned material as well as their performance on the lesson facilitation and discussion assignments.
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
Broukal, Milada. What A World Reading 1: Amazing Stories from Around the Globe. Pearson Longman. ISBN 978-0-13-247267-8
(11) その他(受講上の注意)
Active participation in class is essential for success in this course. Communicating in English is essential.
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英語Ⅲ b (English Ⅲ b)			担当教員	M クズィフ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HL-2341	1 単位	3 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間生活学部学部共通科目 外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実地的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
A pre-reading warm-up activity will be held before reading the essay for each unit. Comprehension exercises, including pair-work, will follow the introduction of new vocabulary. After discussing the topic in groups, a short writing exercise will be given. Students will also be responsible for facilitating one lesson from the textbook and completing an original discussion assignment.
(2) 授 業 の 到 達 目 標
The goal of this course is to develop reading and discussion skills. Students will deepen their understanding of the world around them. Students will learn to engage in thoughtful and effective communication that is representative of an increasingly global world.
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：Introductions (ディスカッション) 事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分) 第2回：Why Are Rain Forests Important? ① (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分) 第3回：Why Are Rain Forests Important? ② (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分) 第4回：What Is Tornado Alley? ① (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分) 第5回：What Is Tornado Alley? ② (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分) 第6回：Who Was Andrew Carnegie? ① (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分) 第7回：Who Was Andrew Carnegie? ② (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分) 第8回：Why Do People Decorate Their Bodies? ① (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分) 第9回：Why Do People Decorate Their Bodies? ② (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分) 第10回：What Is Canada's Favorite Sport? ① (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分)

第11回：What Is Canada's Favorite Sport? ② (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第12回：What's Special About New Zealand? ① (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第13回：What's Special About New Zealand? ② (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第14回：Who Were The Men Sailing Dragon Ships? ① (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) 第15回：Who Were The Men Sailing Dragon Ships? ② (ディスカッション) 事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分) 事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分) Students are encouraged to consult the Internet for information on topics introduced in the textbook.
(5) 授業形態 [面接授業・遠隔授業]
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
Proactive In-class Participation - 20% Homework - 20% Lesson Facilitation - 20% Final Discussion - 40%
(7) 成績評価基準
Students are expected to and will be evaluated on their role during in-class discussions and on assigned material as well as their performance on the lesson facilitation and discussion assignments.
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
Broukal, Milada. What A World Reading 1: Amazing Stories from Around the Globe. Pearson Longman. ISBN 978-0-13-247267-8
(11) その他(受講上の注意)
Active participation in class is essential for success in this course. Communicating in English is essential.
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

公衆衛生学実習 (Public Health Practicum)			担当教員	鳴瀬 碧	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-E-2307	1 単位	3 年前期	実習	必修	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力					

(1) 授 業 の 内 容
公衆衛生管理に関する実験とグループ学習。 人々の健康を社会集団として捉え、その社会集団の健康の維持増進を目的として、環境因子(水、光、温度等)と健康、環境因子の異常原因、疾病の予防等について改善技術や方策などを理解する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・公衆衛生学の講義で習得した基礎的知識を実習を通してより深く理解する。 ・人々の健康問題に関心を持ち、問題を掘り起こし、健康の維持増進のための解決法の開発に貢献できる能力を習得する。 ・チーム医療や保健衛生に関わる業務に必要な協調性とコミュニケーション能力を養成する。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ■実習、フィールドワーク ■実験、実技 □その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回: ガイダンス 保健統計・疫学①(疫学概念・疫学指標)(実習、フィールドワーク) グループ調査研究①(テーマ選定)(PBL、グループワーク) 第2回: 保健統計・疫学②(疫学の方法、疫学効果指標)(実習、フィールドワーク) 第3回: 保健統計・疫学③(検査の指標とスクリーニング)(実習、フィールドワーク) 第4回: 保健統計・疫学④(統計解析)(実習、フィールドワーク) 第5回: 環境衛生測定①(室内・屋外環境測定①: 気温、気湿、気流、照度、騒音等)(実験、実技、グループワーク) 第6回: 環境衛生測定②(室内・屋外環境測定②: 浮遊粉じん、一酸化炭素、二酸化炭素、ホルムアルデヒド等)(実験、実技、グループワーク) 第7回: 環境衛生測定③(飲料水の水質検査①: 硬度、残留塩素、細菌試験)(実験、実技) 第8回: 環境衛生測定④(飲料水の水質検査②: 第7回のつづき、まとめ)(実験、実技) 第9回: 環境衛生測定⑤(公共用水の水質検査①: DO、BOD、COD等)(実験、実技) 第10回: 環境衛生測定⑥(公共用水の水質検査②: 第9回のつづき、まとめ)(実験、実技) 第11回: グループ調査研究②(調査手法の検討)(PBL、グループワーク) 第12回: グループ調査研究③(情報収集および分析①)(PBL、実習、フィールドワーク、グループワーク) 第13回: グループ調査研究④(情報収集および分析②)(PBL、実習、フィールドワーク、グループワーク) 第14回: グループ調査研究⑤(プレゼンテーション資料の作成)(PBL、討議、実習、フィールドワーク、グループワーク) 第15回: グループ調査研究⑥(調査研究成果のプレゼンテーション)(PBL、討議、グループワーク、発表) 第16回: 定期試験 新聞・ニュース等で報じられる健康の保持・増進に関する取組について日頃から興味を持つようにしてください。 各回の講義内容についてよく復習し、疾病の予防や健康増進について公衆衛生学の重要性の理解に努めてください。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
定期試験(20%)、レポート(30%)、調査研究発表および報告書(30%)、平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、課題への取り組み方等を総合して判断する)

(7) 成績評価基準 ・環境衛生の分析方法および結果の評価方法を習得できているか。 ・保健統計について理解できているか。 ・疫学概念、その方法および評価指標について理解できているか。 ・グループで他者と強調して、調査テーマの選定、調査計画の立案、情報収集、情報の疫学的分析およびディスカッションを行い、得られた成果をまとめることができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☒ メール ☒ その他 (Teams) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☒ メール ☒ その他 (Teams) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☒ メール ☒ その他 (Teams) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☒ 仁大eラーニング ☒ メール ☒ その他 (Teams) 5) その他(質問に対するフィードバックについて) ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☒ メール ☒ その他 (Teams)
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性) 経歴：(薬剤師・健康運動指導士) 実務経験と授業内容との関連性：(薬剤師として医療提供施設での実務経験とスポーツ・健康増進関連施設での実務経験、健康運動指導士としての実務経験を活かし、健康・疾病・行動に関わる統計資料の活用方法、健康状態・疾病の測定と評価等について実習を通して理解を深めていく。)
(10) テキスト、参考図書 角野 猛 他 編著 『新版 公衆衛生学実験・実習』 建帛社 2022年 参考書：鳴瀬 碧 編著 ステップアップ栄養・健康科学『社会・環境と健康』 化学同人 2024年 その他、必要に応じて、資料(実験ノート)を配布する。
(11) その他(受講上の注意) ・公衆衛生学の講義やテキスト、参考書により、あらかじめ自分達(5～7名程度のグループ)がどのような研究をしたいか、どのような研究ができるかを考えておいて欲しい。 ・授業中の携帯電話など、他の学習の妨げとなる場合には退室させるので留意すること。 ・課題レポートなどは、提出期限を守ること。提出遅延は減点の対象となる。また、提出期限後は受領しない場合があるので注意すること。 ・栄養士免許(必修) ・管理栄養士国家試験受験資格(必修)
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

社会福祉論 (Social Welfare)			担当教員	坂口 昌宏	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-C-2309	2 単位	3 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野					
求める学習成果(教育目標)					
学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力					

(1) 授 業 の 内 容
「健康」と「幸せ」につながる社会福祉の理念や法制度について講義し、栄養士・管理栄養士に必要とされる社会福祉の基礎知識について解説する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・わが国の社会保障のしくみと主な社会福祉制度を理解し、栄養士・管理栄養士の職務とのつながりを説明できる。 ・栄養士・管理栄養士が保健医療福祉および教育分野で連携する社会福祉専門職の業務を理解する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(事例検討)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション、栄養士が社会福祉を学ぶ意義と目的 事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。(2時間) 第2回：日本の社会福祉の歴史 事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。(2時間) 第3回：社会福祉を展開する組織と専門職 事前学習：保健医療福祉専門職の業務について調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。(2時間) 第4回：社会福祉施設の役割 事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。(2時間) 第5回：社会保障制度の体系と社会保険① 事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。(2時間) 第6回：社会保障制度の体系と社会保険② 事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。(2時間) 第7回：社会保障制度の体系と社会保険③ 事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。(2時間) 第8回：高齢者福祉 事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。(2時間) 第9回：介護保険制度と専門職の役割① 事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。(2時間) 第10回：介護保険制度と専門職の役割②(事例検討) 事前学習：指定した事例を熟読し、それに関連することを調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。(2時間) 第11回：低所得者福祉 事前学習：指定した事例を熟読し、それに関連することを調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。(2時間) 第12回：子ども家庭福祉(事例検討) 事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。(2時間)

第13回：障がい者福祉 事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。（2時間） 事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。（2時間） 第14回：医療福祉と精神保健福祉 事前学習：指定した事例を熟読し、それに関連することを調べておくこと。（2時間） 事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。（2時間） 第15回：地域福祉（事例検討） 事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。（2時間） 事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（70％） 平常点（30％） （平常点は、リアクションペーパー、レポートの提出状況等を総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
・わが国の社会保障のしくみと主な社会福祉制度を理解することができる。 ・栄養士・管理栄養士が保健医療福祉および教育分野で連携する社会福祉専門職の業務を理解することができる。
(8) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書
岩松珠美・三谷嘉明編『栄養士・管理栄養士をめざす人の社会福祉』 みらい 2020年
(11) その他（受講上の注意）
○栄養士免許（必修） ○管理栄養士国家試験受験資格（必修）
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

栄養生化学実験 (Experiments in Nutritional Biochemistry)			担当教員	池田 涼子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-E-2315	1 単位	3 年後期	実験		選択
＜科目区分＞ 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力					

(1) 授 業 の 内 容	
栄養生化学とは、栄養素の代謝および関連する生体成分の特性を生化学的手法を用いて究明する学問分野である。本科目では、栄養素と生体生化学反応・生理機能との相互関連ひいては生化学と生理学、栄養学をつなぐ総合的な知識の定着を図るよう授業を展開する。 授業ではグループに分かれて実験をおこない、個人で実験報告書(レポート)を作成・提出するほかグループ発表を行う。データ解析などのグループ作業やディスカッションへの参加も重要である。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
栄養学の科学的根拠を得る上で生化学的な視点は不可欠であり、その手法は発達を続けている。本講義は化学実験(定性・定量・機器分析)の内容を基本として、以下の項目を目的とする。 ・栄養実験、生理・生化学実験の具体的な手技の習得 ・実験の結果を正確にとらえ、考察を導き出す洞察力・思考力の醸成 ・基礎的な研究結果を栄養学の実践に活用する為の総合的な理解力の向上	
(3) アクティブラーニング	
□課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク ■実験、実技 □その他	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：食品の種類と血糖値(1) グルコース (実験・データ整理) 第2回：食品の種類と血糖値(2) マルトデキストリン (実験・データ整理) 第3回：食品の種類と血糖値(3) 2群間の有意差検定 (グループワーク) 第4回：食品の種類と血糖値(4) 考察 (ディスカッション) 第5回：食事順と血糖値(1) (実験・データ整理) 第6回：食事順と血糖値(2) 一元配置分散分析 (グループワーク) 第7回：食事順と血糖値(3) 考察 (ディスカッション) 第8回：食事順と血糖値(4) グループ発表 (グループワーク・ディスカッション) 第9回：定期試験 ※1.5コマ 1回 + 3コマ×7回：全8回で開講予定 (第8回のみ1.5コマ、それ以外は3コマ連続開講) ※実験報告書(レポート)は原理・考察を記述する際に参考文献を引用し、出典を明記すること。 ※レポートは評価後なるべく速やかに返却する。チェックの入った箇所は、事後学習の参考にするといよい。 ※その他、授業内容・学生の理解度に応じてその他の課題を与えることがある。	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成 績 評 価 方 法	
レポート20%、グループ発表25%、定期試験55%の合計に 授業態度・レポートの提出状況などを加味して総合的に評価する。	
(7) 成 績 評 価 基 準	
・授業で用いた実験法の原理を理解し、実際に行うことができる。 ・実験結果をもとに、食品成分が消化性に与える影響や食後血糖値に影響を与える因子について説明できる。 ・結果の比較について、統計法の理論を理解し実際に行うことができる。 いずれにおいても科学的視点から適切に分析・考察できることがポイントである。 以上を鑑み、総合点60点以上を合格として単位を認定する。(詳細は履修規定第7条を確認すること)	

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他(必要に応じて履修登録後に作成するTeamsを使用する。) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他(必要に応じて履修登録後に作成するTeamsを使用する。) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他(必要に応じて履修登録後に作成するTeamsを使用する。) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他(必要に応じて履修登録後に作成するTeamsを使用する。)) 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 生理・生化学実験 第4版 地人書館 授業内容に応じて適宜、参考図書の紹介、資料の配布をおこなう。
(11) その他(受講上の注意) ○管理栄養士国家試験受験資格必修(必修) ・実験室に入室する際は必ず白衣・上履きを着用し、タオル・ハンカチを持参すること。 ・事故防止の為、長い髪はまとめ、前髪や顔の横に垂れる髪についてはピンで留める。 実験操作に支障をきたす化粧などはしない。 ・安全管理上、授業中の指示や実験室使用のルールに必ず従うこと。 ・指示に従わない者、危険な行為に及ぶ者については実験を中止し、退去を命じることがある。 ・レポートは提出期限を厳守すること。期限外の提出は原則として認めない。 ・欠席した場合は追実験またはこれに代わる課題を課す。担当教員に相談すること。 ・1回の授業につき3コマ(通常の実験・実習の2回分)にあたる為、3回以上の欠席で出席日数不足となるので注意すること。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

食品機能学 (Functional Food Science)			担当教員	浦本 裕美	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-D-2322	2 単位	3 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野					
求める学習成果(教育目標)					
基礎研究および食品開発ができる能力					

(1) 授 業 の 内 容
食品の一次機能(栄養)、二次機能(嗜好)、三次機能(生体調節)の内、二次機能と三次機能について解説する。食品成分の生体調節機能については保健機能食品を中心に説明し、併せて保健機能食品、特別用途食品の法制上の位置づけと表示についても説明する。 本科目内容は、管理栄養士国家試験の「食べものと健康」領域の出題内容を含んでいる。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
嗜好成分の種類と特徴および食品中機能成分の健康に与える影響、それらの疾病予防に対する役割等、生体調節機能について理解できる。 また、特定保健用食品などの「新しい食品」の法制上の位置づけおよびその表示を理解できる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：食品成分の3つの機能について、嗜好成分(1) 色素成分 事前学習：テキストP115～122を読み、質問項目についてまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。(2時間)
第2回：嗜好成分(2) 味成分 事前学習：テキストP122～128を読み、質問項目についてまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。(2時間)
第3回：嗜好成分(3) 香り成分 事前学習：テキストP128～131を読み、質問項目についてまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。(2時間)
第4回：嗜好成分(4) アミノ・カルボニル反応と反応生成物質 事前学習：テキストP163～167を読み、質問項目についてまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。(2時間)
第5回：機能性食品とは、健康食品にかかわる制度 事前学習：テキストP173～174を読み、質問項目についてまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。(2時間)
第6回：特定保健用食品(1) 整腸 事前学習：テキストp181～182を読み、質問項目についてまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。(2時間)
第7回：特定保健用食品(2) 血圧調整 事前学習：テキストp182～183を読み、質問項目についてまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。(2時間)
第8回：特定保健用食品(3) 脂質の吸収・代謝の調整1 事前学習：テキストp182を読み、質問項目についてまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。(2時間)

第9回：特定保健用食品（4） 脂質の吸収・代謝の調整 2 事前学習：テキストp185を読み、質問項目についてまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（2時間） 第10回：特定保健用食品（5）骨・歯の健康維持調整（中間テストを含む） 事前学習：テキストp183を読み、質問項目についてまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（2時間） 第11回：特定保健用食品（7）血糖値の調整 事前学習：テキストp184を読み、質問項目についてまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（2時間） 第12回：特定保健用食品について 事前学習：テキストp184～185を読み、質問項目についてまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（2時間） 第13回：機能性表示食品・栄養機能食品について 事前学習：テキストP174～176を読み、質問項目についてまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（2時間） 第14回：特別用途食品について 事前学習：テキストP175～181を読み、質問項目についてまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（2時間） 第15回：遺伝子組換え食品・ゲノム編集食品について 事前学習：第14回に配布したプリントを読み、質問項目についてまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 定期試験45%、中間テスト45%、課題10%
(7) 成績評価基準 ・嗜好成分の種類と特徴および生体調節機能成分の機能について説明できる。 ・特定保健用食品などの機能表示が可能な食品の法制上の位置づけと表示について説明できる。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他(返却) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他(答案の返却) 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 「食品学総論」で使用するテキストと配布プリント

(11) その他(受講上の注意)

課題は必ず提出すること。なお講義内容は連続性があるため、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心掛けること。

授業の計画の予定は、変更されることがある。

また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業1回目のガイダンスにて説明する。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

食品加工実習 (Food Science and Technology Practicum)			担当教員	浦本 裕美	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-E-2324	1 単位	3 年後期	実習		選択
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力					

(1) 授 業 の 内 容
食品加工学や食品学総論で学んだ知識をより深く総合的に理解するために、いろいろな加工食品を小規模に工夫して製造する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
食品成分の化学的特性を利用して、栄養面、安全面、嗜好面の各特性を高める食品加工の原理を理解するとともに、さまざまな食品を開発する能力を養成する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス 第2回：アイスクリームの加工① アイスクリーム(実習) 第3回：アイスクリームの加工② アイスミルク、ラクトアイス(実習) 第4回：ジャムの加工① マーマレード(高メトキシペクチンジャム)、瓶詰、殺菌(実習) 第5回：ジャムの加工② りんごジャム(低メトキシペクチンジャム)、評価(実習) 第6回：パンの加工① 混合・発酵(実習) 第7回：パンの加工② 成形・焼成、評価(実習) 第8回：こんにゃくの加工① 芋の処理・混合(膨潤)(実習) 第9回：こんにゃくの加工② 成形・加熱、評価(実習) 第10回：みその加工① 工場見学 第11回：みその加工② みその加工(実習) 第12回：豆腐の加工① 豆乳の調製(実習) 第13回：豆腐の加工② 各種凝固剤を用いた木綿豆腐・絹ごし豆腐の加工、評価(実習) 第14回：みかんのシラップ漬け(缶詰)の加工① じょうのう膜の除去、シロップの糖度と酸度の決定(実習) 第15回：みかんのシラップ漬け(缶詰)の加工② シロップの調製、缶詰、殺菌(実習) 食品加工についてのキーワードおよび加工理論をよく理解するように努める。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
レポート(90%)、平常点(10%)、平常点は授業への参加状況・受講態度等を総合して採点する。
(7) 成 績 評 価 基 準
・食品加工の原理を理解して製品を評価できる。 ・加工原理と製造方法を関連付けて製品を上手くつくることできる。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他(授業内容についての質問) ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☒その他(直接研究室へ来たり、Teamsのチャットでも可)
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 谷口亜樹子編著 よくわかる食品加工学 ～理論・実習・実験～ 朝倉書店 2024、プリント配布
(11) その他(受講上の注意) ・ 白衣、調理用帽子、タオルを持参すること。 ・ 実習費は別途に集金する。詳細は、第1回目のガイダンスで説明する。 ・ 授業の計画の予定は、変更されることがある。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業第1回目のガイダンスにて説明する。 ・ 10回、11回のみその加工は、県内食品加工会社での実習と見学を予定しており、みそ以外の加工食品に変更する場合もある。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

調理科学実験 (Experiments in Fundamental CookeryScience)			担当教員	佐藤 真実	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-E-2331	1 単位	3 年後期	実験		選択
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力					

(1) 授 業 の 内 容
健康を維持・増進できる「おいしい食事」を作るための調理学の理論を実験を通して科学的に理解する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
調理操作によって起こる食品の化学的・物理的变化について、より高い技術の向上と応用、高度の研究手法を修得し、実験を通して理論を裏づけることができる。 化学的・物理的手法および官能評価法などを用いて食品のおいしさを評価することができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：実験の基礎（講義・実験） 第2回：味覚に関する実験（実験） 第3回：官能評価の手法例と統計解析（実験） 第4回：加熱操作に関する実験（実験） 第5回：非加熱操作に関する実験（実験） 第6回：調理による理化学的变化に視点をあてた実験①（米）（実験） 第7回：調理による理化学的变化に視点をあてた実験②（小麦）（実験） 第8回：調理による理化学的变化に視点をあてた実験③（いも、野菜、果物）（実験） 第9回：調理による理化学的变化に視点をあてた実験④（食肉）（実験） 第10回：調理による理化学的变化に視点をあてた実験⑤（魚介）（実験） 第11回：調理による理化学的变化に視点をあてた実験⑥（卵、乳製品）（実験） 第12回：調理による理化学的变化に視点をあてた実験⑦（寒天・カラギーナン・ゼラチン）（実験） 第13回：調理による理化学的变化に視点をあてた実験⑧（でんぷん他）（実験） 第14回：調理による理化学的变化に視点をあてた実験⑨（砂糖）（実験） 第15回：調理科学実験の結果発表（グループワーク）（発表） 第16回：定期試験 予習として、各回に関連する教科書、プリントの頁をよく読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。 復習として、実験データ、資料などを見直して、詳細にレポートをまとめておくこと。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
定期試験(60%) 平常点(10%) 実験レポート(30%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、レポートの提出状況等を総合して判断します。)
(7) 成 績 評 価 基 準
化学的・物理的手法を用いて食品のおいしさ、調理操作における食品の変化や諸現象を化学的に説明できる。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他(レポートは採点し、返却します) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 テキスト：長尾慶子・香西みどり『調理科学実験』 建帛社 参考図書：西堀すき江ほか『マスター調理学』 建帛社
(11) その他(受講上の注意) 管理栄養士国家試験受験資格(必修) 衛生・安全に配慮すること。実験室では、必ず白衣を着用し、アクセサリーやマニキュアは厳禁とする。長い髪は束ねること。 授業への出席状況、実習態度、レポートの提出を重視する。欠席した場合は必ず補講を受講する。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

栄養教育論Ⅱ（子ども・高齢期栄養教育論） （Nutrition Education Ⅱ（Children andElderly））			担当教員	牧野 みゆき	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-B-2340	2 単位	3 年前期	演習		必修
＜科目区分＞ 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
求める学習成果（教育目標）					
栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力					

(1) 授 業 の 内 容
栄養教育マネジメントで用いる行動科学の理論やモデルを踏まえ、ライフステージ(妊娠・授乳期、乳幼児期、学童期、思春期、成人期、高齢期)に応じた栄養教育のあり方を学修する。栄養教育プログラムを実践するために必要となる教材の選定や環境整備についても学修する。必要に応じて演習を交え授業を進める。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
ライフステージ(妊娠・授乳期、乳幼児期、学童期、思春期、成人期、高齢期)に応じた栄養教育のあり方を修得する。また、栄養教育プログラムを実践するために必要となる、教材の選定や食環境の整備について説明することができる。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：栄養カウンセリングの基本1 事前学習：授業前にテキストを読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第2回：栄養カウンセリングの基本2 事前学習：授業前にテキストを読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第3回：動機づけ面接 事前学習：授業前に配布する関連資料を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第4回：行動変容のための技法の活用、栄養教育への応用 事前学習：2年生後期の授業で学習した内容について復習しておくこと。(2時間) 事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第5回：妊婦、授乳婦の特性【課題解決学習】 事前学習：これまで他の講義等で学習した該当ライフステージの特性について復習しておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料・授業内で取り組んだ課題の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第6回：乳幼児期の特性【課題解決学習】 事前学習：これまで他の講義等で学習した該当ライフステージの特性について復習しておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料・授業内で取り組んだ課題の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第7回：妊婦、授乳婦、乳幼児期における栄養教育 事前学習：授業前にテキストを読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第8回：学童期の特性【課題解決学習】 事前学習：これまで他の講義等で学習した該当ライフステージの特性について復習しておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料・授業内で取り組んだ課題の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間)

第9回：思春期の特性【課題解決学習】 事前学習：これまで他の講義等で学習した該当ライフステージの特性について復習しておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト・配布資料・授業内で取り組んだ課題の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間） 第10回：学童期、思春期における栄養教育 事前学習：授業前にテキストを読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間） 事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間） 第11回：成人期の特性【課題解決学習】 事前学習：これまで他の講義等で学習した該当ライフステージの特性について復習しておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト・配布資料・授業内で取り組んだ課題の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間） 第12回：成人期における栄養教育 事前学習：授業前にテキストを読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間） 事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間） 第13回：高齢期の特性【課題解決学習】 事前学習：これまで他の講義等で学習した該当ライフステージの特性について復習しておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト・配布資料・授業内で取り組んだ課題の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間） 第14回：高齢期における栄養教育 事前学習：授業前にテキストを読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間） 事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間） 第15回：傷病者の栄養教育 事前学習：授業前にテキストを読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間） 事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間） 第16回：定期試験	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
定期試験（60％）、平常点（40％） 平常点は、授業課題への取り組み状況、受講状況等から評価する。	
(7) 成績評価基準	
ライフステージ（妊娠・授乳期、乳幼児期、学童期、思春期、成人期、高齢期）に応じた栄養教育の進め方について説明することができるか。栄養教育プログラムを実践するために必要となる教材の環境整備について説明することができるか。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他	
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	
(10) テキスト、参考図書	
栄養教育論 第2版 編集：永井成美、赤松利恵 監修：津田謹輔、伏木亨、本田佳子 中山書店 2022年	

(11) その他(受講上の注意)
栄養士免許（必修） 管理栄養士国家試験受験資格（必修） 授業計画は、進捗状況により変更することがある。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

栄養教育論Ⅳ（健康栄養情報処理演習） (Nutrition Education Ⅳ (Statistical Practice in Health Nutrition))			担当教員	牧野 みゆき
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
HN-B-2342	1 単位	3 年後期	演習	選択
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野				
求める学習成果(教育目標)				
栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力				

(1) 授 業 の 内 容
健康栄養に関する情報の処理と活用について学修する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
栄養教育論におけるニーズアセスメントや評価に活用する健康栄養に関する情報をMicrosoft Excelを用いて処理し、実際に利用するための技術を修得する。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習（PBL） ☐ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション、情報処理でわかること、文献検索の方法について 事前学習：eラーニングに掲載している資料をもとに要点をまとめておくこと。（1時間） 事後学習：講義で提示した文献検索の方法を用いて、興味ある内容の文献を調べ、内容を確認する。（3時間） 第2回：栄養情報におけるデータ解析1 基本統計量について（平均値・中央値など） 事前学習：公衆栄養学等で学習した、統計に関する用語を思い出しておく。（1時間） 事後学習：授業で課した演習課題を行い、eラーニングに提出すること。また、今回の課題で使用了機能について、自分なりの手順書を作成しておくこと。（3時間） 第3回：栄養情報におけるデータ解析2 量データの分析について（T検定など） 事前学習：第1章に目を通し、基本統計量の出し方について復習しておく。（1時間） 事後学習：授業で課した演習課題を行い、eラーニングに提出すること。また、今回の課題で使用了機能について、自分なりの手順書を作成しておくこと。（3時間） 第4回：栄養情報におけるデータ解析3 質データの分析について（クロス集計、 χ^2 検定など） 事前学習：これまで他の授業で習得した、ピボットテーブルの作り方を思い出しておく。（1時間） 事後学習：授業で課した演習課題を行い、eラーニングに提出すること。また、今回の課題で使用了機能について、自分なりの手順書を作成しておくこと。（3時間） 第5回：調査企画、質問調査項目、分析計画の作成【グループワーク】 事前学習：グループで話し合い、調査テーマを決めて、関連する文献を調べておく。（3時間） 事後学習：授業で課した演習課題を行い、eラーニングに提出すること。（1時間） 第6回：アンケートの作成と実施 事前学習：他の授業で習得したフォームズの使い方と設定方法を思い出す。（1時間） 事後学習：第5回で作成したデータを同じグループで共有し、不適切な回答がないかを確認する。（1時間） 第7回：アンケートデータの集計・分析（素集計、クロス集計等のおさらい） 事前学習：調査の目的を踏まえて、第7回でどのような分析を行う必要があるかを考える。（1時間） 事後学習：授業で課した演習課題を行い、eラーニングに提出すること。（4時間） 第8回：分析結果に基づく栄養教育の企画立案【問題解決型学習】 事前学習：他の授業で学習した、データからの課題抽出の方法や栄養教育の目標設定の方法を思い出す。（2時間） 事後学習：授業で課した演習課題を行い、eラーニングに提出すること。（3時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

(6) 成績評価方法
授業ごとの演習課題および期末課題80%、演習への取り組み態度等20%の総合評価(100%)
(7) 成績評価基準
Microsoft Excelを活用して、健康栄養情報の処理や統計解析をすることができる。また、その結果のデータから適切な課題を抽出し、栄養教育計画の企画・立案に活用することができる。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト： 「管理栄養士・栄養士のための統計処理入門」 武藤志真子 建帛社 (2017年) 参考図書： 「Excelで学ぶ統計解析入門2019」 石村貞夫・劉晨・石村友二郎 東京書籍 (2019年)
(11) その他(受講上の注意)
管理栄養士国家試験受験資格(必修) 演習中は集中して聴講し、他の学生の聴講の妨げとなる私語は慎むこと。演習課題は必ず提出すること。なお演習内容は連続性があり、欠席や遅刻をしないように心がけること。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、1回目のガイダンスにて説明する。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

栄養教育論実習 (Nutrition Education Practicum)			担当教員	牧野 みゆき	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-E-2343	1 単位	3 年前期	実習	必修	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力					

(1) 授 業 の 内 容
健康および生活の質 (Quality of Life) の向上をめざした栄養教育プログラムの計画、実施、評価について一連のプロセスを学ぶ。集団栄養教育、個別栄養教育についてはグループワークにより学修する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
対象者のアセスメント、栄養教育プログラムの計画、実施、評価について一連のプロセスを学び、栄養教育の実践力を高め、栄養教育プログラムを総合的にマネジメントできる力を習得する。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス、食生活・健康課題の把握 第2回：集団を対象にした栄養教育① モデルケースからの課題抽出【グループワーク】 第3回：集団を対象にした栄養教育② 全体計画・カリキュラムの作成1【グループワーク】 第4回：集団を対象にした栄養教育③ 全体計画・カリキュラムの作成2【グループワーク】 第5回：集団を対象にした栄養教育④ 栄養教育実施に向けた準備1【グループワーク】 第6回：集団を対象にした栄養教育⑤ 栄養教育実施に向けた準備2【グループワーク】 第7回：集団を対象にした栄養教育⑥ 栄養教育実施に向けた準備3【グループワーク】 第8回：集団を対象にした栄養教育⑦ 栄養教育の実演1【発表】 第9回：集団を対象にした栄養教育⑧ 栄養教育の実演2【発表】 第10回：個人を対象にした栄養教育① 個人栄養教育の概要説明、問診表等の作成【課題解決型学習】 第11回：個人を対象にした栄養教育② 基礎データの作成、課題抽出1【課題解決型学習】 第12回：個人を対象にした栄養教育③ 基礎データの作成、課題抽出2【課題解決型学習】 第13回：個人を対象にした栄養教育④ 指導案・教材の作成1【課題解決型学習】 第14回：個人を対象にした栄養教育⑤ 指導案・教材の作成2【課題解決型学習】 第15回：個人を対象にした栄養教育⑥ 栄養教育の実演【実習】
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
レポート (50%)、発表・実演等 (30%)、平常点 (20%) 平常点は、授業への参加状況、受講態度等から総合的に評価する。
(7) 成 績 評 価 基 準
対象者のアセスメント、栄養教育プログラムの計画、実施、評価についての一連のプロセスを理解しているか。 栄養教育プログラムを総合的にマネジメントすることができるか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 授業時に指示する。必要に応じてプリントを配布する。
(11) その他(受講上の注意) 管理栄養士国家試験受験資格(必修) 栄養士免許(必修) 実習のため、欠席は講義科目よりも厳しく管理する。 「集団を対象にした栄養教育」は、グループ内でコミュニケーションを十分にとって取り組むこと。 「個人を対象にした栄養教育」はクラス内でペアを作り、「集団を対象にした栄養教育」の流れをもとに、個人単位で実習課題に取り組むため、各自が各回の課題に主体性をもって取り組むこと。レポートは、実演やその準備をまとめる内容になるため、疑問点などは積極的に質問をすること。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

臨床栄養学Ⅱ (栄養アセスメント) (Clinical Nutrition Ⅱ (Nutrition Assessment))			担当教員	山本 浩範	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-A-2346	2 単位	3 年前期	講義	必修	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
求める学習成果(教育目標)					
栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力					

(1) 授 業 の 内 容	
傷病者の栄養状態あるいは疾病コントロール状況を評価・判定し、適切な栄養ケアプランを立案できる知識と技術を身につけることを目的とする。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
各疾患における生理的特徴、栄養状態の特徴、身体・栄養状態の評価・判定法について理解する。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法	
第1回：臨床栄養の概念（医療の現状と問題、管理栄養士の職務、医療における栄養管理の意義） 事前学習：授業前にテキストの臨床栄養の概念に関する項を予習する。（1時間） 事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（3時間） 第2回：管理栄養士の役割、専門用語（クリニカルパス、バリエーションなど） 事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの管理栄養士の役割について調べておくこと。（1時間） 事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（3時間） 第3回：栄養スクリーニングとアセスメントの意義と方法 事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの栄養スクリーニングとアセスメントについて調べておくこと。（1時間） 事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（3時間） 第4回：臨床症候、臨床診察（バイタルサイン、脱水、貧血、浮腫、PEM） 事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの身体計測と臨床症候について調べておくこと。（1時間） 事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（3時間） 第5回：臨床検査、食事摂取量調査、エネルギー必要量 事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの臨床検査項目と食事調査方法について調べておくこと。（1時間） 事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（3時間） 第6回：栄養診断、エネルギー必要量の算出 事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの栄養診断について調べておくこと。（1時間） 事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（3時間） 第7回：エネルギー、タンパク・脂質・炭水化物の必要量 事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの栄養素の必要量の算出方法について調べておくこと。（1時間） 事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（3時間） 第8回：水分出納と水分必要量、小テスト 事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの水分出納と水分必要量の算出について調べておくこと。（1時間） 事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（3時間） 第9回：ビタミン、ミネラルのアセスメントと必要量 事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントのミネラルの役割と食事摂取基準について調べておくこと。（1時間） 事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（3時間） 第10回：カルシウム代謝の調節・経腸・静脈栄養法 事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントのビタミンの役割と食事摂取基準について調べておくこと。（1時間） 事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（3時間）	

第11回：食品と薬の相互作用 事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの栄養管理計画の作成について調べておくこと。（1時間） 事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（3時間） 第12回：糖尿病の栄養管理 事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの栄養補給法の種類と適応について調べておくこと。（1時間） 事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（3時間） 第13回：先天性代謝異常症の病態と栄養管理 事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの栄養教育、モニタリング、再評価について調べておくこと。（1時間） 事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（3時間） 第14回：臓器疾患の病態と栄養管理 事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの摂食嚥下評価方法について調べておくこと。（1時間） 事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（3時間） 第15回：クリティカルケア、外傷、熱傷と栄養管理 事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの薬と栄養・食物の相互作用について調べておくこと。（1時間） 事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（3時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 定期試験50%（授業の理解度を評価する）、小テスト25%（第8回：目に授業の理解度を評価する） 平常点25%（平常点は、遅刻の有無、出席状況、受講態度、リアクションペーパーの内容等を総合して判断する）
(7) 成績評価基準 各疾患における生理的特徴、栄養状態の特徴、身体・栄養状態の評価・判定法、栄養計画について説明できるか
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) リアクションペーパーに対するフィードバックについて ☐授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（試験後に答案用紙を返却し、解説または再確認テストを行う） 5) その他（小テストに対するフィードバックについて） ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 1) 栄養科学シリーズ 新・臨床栄養学 編者 竹谷豊ほか 講談社 2) その他、参考プリントを、授業の進捗過程で必要に応じて配布する。
(11) その他(受講上の注意) ○管理栄養士国家試験受験資格必修（必修） 医学会の治療基準の改定等により、授業計画は変更されることがある。8回目前後に授業の理解度を確認・評価するために小テストを行う。 各回の講義を受けた後、講義内容のまとめ、感想、確認したい点や疑問点など記入したリアクションペーパーを提出する。配付プリント問題に取り組む。遅刻の有無、出席状況、受講態度、リアクションペーパーの内容等は、平常点として総合的に評価される。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

臨床栄養学Ⅲ（チーム医療） （Clinical Nutrition Ⅲ（Team Healthcare））			担当教員	佐藤 裕保	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-A-2347	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
求める学習成果（教育目標）					
栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力					

(1) 授 業 の 内 容	
チーム医療における管理栄養士の役割、医療・介護保険における管理栄養士業務について学習する。 チーム医療の一員として活動するための知識を学習する。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
チーム医療における管理栄養士の位置づけと役割について理解する。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(学生は毎回100文字程度の質問もしくは感想を提出、教員は次回それに対してリアクションする)	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：ガイダンス、チーム医療への参画がなぜ必要か(その他) 事前学習：チーム医療について、図書館・インターネットなどにて予習(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間) 第2回：NST・ターミナルケア(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間) 第3回：管理栄養士としての倫理(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間) 第4回：米国のRD(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間) 第5回：リスクマネジメント・災害時対応(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間) 第6回：クリティカルパス(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間) 第7回：医薬品と食品の相互作用Ⅰ(医薬品とは)(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間) 第8回：医薬品と食品の相互作用Ⅱ(事例)(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間) 第9回：医療保険制度Ⅰ(制度概要・入院時食事療養)(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間) 第10回：医療保険制度Ⅱ(特別食加算)(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間) 第11回：医療保険制度Ⅲ(入院基本料・NST加算)(その他) 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間)	

第12回：医療保険制度Ⅳ（栄養食事指導料）（その他） 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間） 第13回：介護保険制度（制度概要・療養食加算・居宅療養管理指導）（その他） 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間） 第14回：医療・介護保険制度まとめ（グループワーク）（その他） 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間） 第15回：チーム医療における管理栄養士・質疑応答（グループワーク）（その他） 事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間） 第16回：定期試験 事前に資料を配布およびeラーニングにUPするので、事前学習に用いること。 事後学習においては、他の臨床栄養学科目の知識と統合できるように復習すること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 定期試験（80%）平常点（20%） （平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します）
(7) 成績評価基準 チーム医療における管理栄養士の位置づけと役割について説明することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性) 経歴：（管理栄養士） 実務経験と授業内容との関連性：（病院勤務経験を活かし、管理栄養士に係る医療保険および介護保険の実際、医療施設および介護施設における、多職種連携の実際について解説する。）
(10) テキスト、参考図書 必要に応じてプリント配布
(11) その他(受講上の注意) 毎回、授業内容に対する質問もしくは感想の提出を求める。内容の軽薄なものは、出席と認めない。 管理栄養士国家試験受験資格（必修）
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

臨床栄養学Ⅳ（臨床栄養管理） (Clinical Nutrition Ⅳ (Nutritional Care Management))			担当教員	山本 浩範	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-A-2348	2 単位	3 年後期	講義		必修
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
求める学習成果（教育目標）					
栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力					

(1) 授 業 の 内 容
栄養ケア・マネジメントを実践する上で栄養状態の適格な判断・評価に必要な知識と技術を解説する。各種疾患別に身体状況(口腔状態を含む)や栄養状況に応じた具体的な栄養管理方法について解説する。各疾病の病態と適切な臨床栄養管理における注意点について解説する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
各種疾患別に栄養状態を適格に評価・判定でき、身体状況(口腔状態を含む)や栄養状況に応じた具体的な栄養管理方法と施行時の注意点について理解する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：臨床栄養管理学の意義、飢餓、たんぱく質、エネルギー栄養障害(PEM) 事前学習：授業前にテキスト 栄養障害の項、予習する。(1時間) 事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。(3時間) 第2回：経腸栄養法、静脈栄養法の合併症 事前学習：授業前にテキストおよび経腸・静脈栄養法の合併症について調べておくこと。(1時間) 事後学習：テキスト等の見直し、配布プリント問題、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。(3時間) 第3回：術前の栄養管理(予後栄養アセスメント、低栄養と術後合併症) 事前学習：授業前にテキストおよび予後栄養アセスメントについて調べておくこと。(1時間) 事後学習：テキスト等の見直し、配布プリント問題、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。(3時間) 第4回：術後の栄養管理(ダンピング症候群、ミネラル・ビタミン欠乏、短腸症候群) 事前学習：授業前にテキストおよびダンピング症候群について調べておくこと。(1時間) 事後学習：テキスト等の見直し、配布プリント問題、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。(3時間) 第5回：消化器疾患の栄養管理(胃食道逆流症、過敏性腸症候群) 事前学習：授業前にテキストおよび胃食道逆流症について調べておくこと。(1時間) 事後学習：テキスト等の見直し、配布プリント問題、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。(3時間) 第6回：消化器疾患の栄養管理(クローン病、潰瘍性大腸炎) 事前学習：授業前にテキストおよび炎症性腸疾患について調べておくこと。(1時間) 事後学習：テキスト等の見直し、配布プリント問題、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。(3時間) 第7回：がんの栄養管理(ガン悪液質、栄養代謝異常) 事前学習：授業前にテキストおよびガン悪液質について調べておくこと。(1時間) 事後学習：テキスト等の見直し、配布プリント問題、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。(3時間) 第8回：内分泌疾患とホルモンによる栄養代謝、小テスト 事前学習：授業前にテキストおよび内分泌疾患と栄養代謝について調べておくこと。(1時間) 事後学習：テキスト等の見直し、配布プリント問題、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。(3時間) 第9回：水・電解質の代謝異常症(内分泌疾患) 事前学習：授業前にテキストおよび慢性腎臓病の食事療法について調べておくこと。(1時間) 事後学習：テキスト等の見直し、配布プリント問題、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。(3時間)

第9回：水・電解質の代謝異常症（内分泌疾患） 事前学習：授業前にテキストおよび慢性腎臓病の食事療法について調べておくこと。（1時間） 事後学習：テキスト等の見直し、配布プリント問題、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（3時間） 第10回：免疫・アレルギー疾患の栄養管理 事前学習：授業前にテキストおよび免疫・アレルギー疾患について調べておくこと。（1時間） 事後学習：テキスト等の見直し、配布プリント問題、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（3時間） 第11回：腎疾患の栄養管理（慢性腎臓病、透析療法） 事前学習：授業前にテキストおよび腎疾患の食事療法について調べておくこと。（1時間） 事後学習：テキスト等の見直し、配布プリント問題、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（3時間） 第12回：糖尿病性腎症の栄養管理（糖尿病合併症予防） 事前学習：授業前にテキストおよび糖尿病合併症予防のための食事療法について調べておくこと。（1時間） 事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（3時間） 第13回：インスリン抵抗性と糖尿病薬の種類と特徴 事前学習：授業前にテキストおよびインスリン抵抗性と糖尿病薬の種類と特徴について調べておくこと。（1時間） 事後学習：テキスト等の見直し、配布プリント問題、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（3時間） 第14回：妊娠糖尿病と妊娠高血圧症候群の栄養管理 事前学習：授業前にテキストおよび妊娠糖尿病の診断基準と治療について調べておくこと。（1時間） 事後学習：テキスト等の見直し、配布プリント問題、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（3時間） 第15回：特定健康診査（選定・階層化と支援プログラム） 事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの特定健康診査の項目と階層化について調べておくこと。（1時間） 事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（3時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 定期試験50%（授業の理解度を評価する）、小テスト25%（第8回：目に授業の理解度を評価する） 平常点25%（平常点は、遅刻の有無、出席状況、受講態度、リアクションペーパーの内容等を総合して判断する）
(7) 成績評価基準 各種疾患別に栄養状態を適格に評価・判定でき、身体状況（口腔状態を含む）や栄養状況に応じた具体的な栄養管理方法と施行時の注意点について説明できるか。
(8) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（試験後に答案用紙を返却し、解説または再確認テストを行う） 5) その他（小テストに対するフィードバックについて） ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書 1) 新・臨床栄養学、竹谷豊ら 編 栄養科学シリーズNEXT、講談社サイエンティフィク 2) その他、参考プリントを、授業の進捗過程で必要に応じて配布する。

(11) その他(受講上の注意)

○管理栄養士国家試験受験資格(必修)

授業内容の理解促進のための質問やディスカッション等を対面およびTeamsにて受け付ける。また、国内外の文献・資料なども紹介するので利用すること。授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業1回目に説明する。医学会の治療基準の改定等により、授業計画は変更されることがある。各回の講義を受けた後、講義内容のまとめ、感想、確認したい点や疑問点など記入したリアクションペーパーを提出する。配付プリント問題に取り組む。遅刻の有無、出席状況、受講態度、リアクションペーパーの内容等は、平常点として総合的に評価される。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

臨床栄養学実習Ⅱ（栄養アセスメント） (Clinical Nutrition PracticumⅡ (Nutrition Assessment))			担当教員	山本 浩範	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-E-2350	1 単位	3 年前期	実習		必修
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 ビジネスコース					
求める学習成果（教育目標）					
コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力					

(1) 授 業 の 内 容
栄養ケア・マネジメントを実践するための栄養状態を適切に判断・評価できる栄養スクリーニングと栄養アセスメントの知識と技術を解説し、個人個人の栄養問題を解決していきける臨床栄養管理能力を修得させる。各種疾患別症例の検討による栄養状態の把握と具体的な栄養管理方法について解説する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
各疾患における生理的特徴、栄養状態の特徴、各種計測による身体・栄養状態の評価・判定、栄養管理法の進め方について理解を深める。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 臨床栄養学実習を学ぶにあたって (臨床栄養管理に必要な技能) 第2回：身体計測(身長、体重、腹囲、下腿周囲長、BMI、IBW、JARD2001) (実習、実技) 第3回：上腕周囲、皮下脂肪厚の計測、栄養スクリーニング(SGA、MNA) (実習、実技) 第4回：バイタルサイン(体温、脈拍、呼吸数) (実習、実技) 第5回：バイタルサイン(血圧測定) (実習、実技) 第6回：血液生化学検査、尿検査、症例検討 (実習、実技) 第7回：消費エネルギー量、必要エネルギー量の算出 (討議、実習、実技) 第8回：問診による臨床症状と栄養障害の評価、症例課題 (討議、実習、実技) 第9回：栄養補給法の選択、適応と禁忌 (討議、実習、実技) 第10回：経腸栄養法、成分栄養剤の適応と特徴 (討議、実習、実技) 第11回：Na含有量、NCP/N比、病態別栄養剤の特徴と試飲、症例検討 (討議、実習、実技) 第12回：嚥下障害、とろみ剤の検討、嚥下訓練 (討議、実習、実技) 第13回：栄養診断(症例)、症例課題 (討議、実習、実技) 第14回：糖尿病のアセスメント、75gブドウ糖負荷試験OGTT (討議、実習、実技) 第15回：腎臓病、肝臓病のアセスメントと栄養管理 (討議) 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
定期試験(50%)、レポート(30%)、平常点(20%) (遅刻の有無、出席状況、受講態度、リアクションペーパーの評点は、平常点として総合的に評価する)
(7) 成 績 評 価 基 準
各疾患における生理的特徴、栄養状態の特徴、各種計測による身体・栄養状態の評価・判定、栄養管理法の進め方について説明できるか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他(試験後に答案用紙を返却し、解説または再確認テストを行う) 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 1) 臨床栄養管理学実習、塚原丘美 編 栄養科学シリーズNEXT、講談社サイエンティフィク 2) 栄養科学シリーズ 新・臨床栄養学 編者 竹谷豊ほか 講談社
(11) その他(受講上の注意) ○栄養士免許(必修) ○管理栄養士国家試験受験資格(必修) 授業内容の理解促進のための質問やディスカッション等を対面およびTeamsにて受け付ける。また、国内外の文献・資料なども紹介するので利用すること。授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業1回目に説明する。医学会の治療基準の改定等により、授業計画は変更されることがある。各回の講義を受けた後、講義内容のまとめ、感想、確認したい点や疑問点など記入したリアクションペーパーを提出する。配付プリント問題に取り組む。遅刻の有無、出席状況、受講態度、リアクションペーパーの内容等は、平常点として総合的に評価される。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

臨床栄養学実習Ⅲ（臨床栄養管理） (Clinical Nutrition Practicum Ⅲ (Nutritional Care Management))			担当教員	山本 浩範、新井田 裕樹	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-E-2351	1 単位	3 年後期	実習		必修
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
求める学習成果（教育目標）					
コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力					

(1) 授 業 の 内 容
傷病者個々の病態や栄養状態に適合した栄養管理を行う能力を養うために、症例モデルを用いた栄養アセスメント・栄養管理計画・栄養量の設定・栄養教育計画など、栄養ケアプランの作成・実施・評価に関する総合的なマネジメントについて、グループディスカッションを通して臨床栄養管理を実習する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
各疾患における生理的特徴、栄養状態の特徴を理解し、栄養管理計画および栄養ケア計画を立てることができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☒ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：職業倫理と臨床栄養管理について（山本、新井田） 第2回：栄養管理手順、医療情報の収集について（実習、討議）（山本、新井田） 第3回：栄養ケア計画、栄養管理計画について（実習、討議、発表）（山本、新井田） 第4回：栄養管理計画書の作成1、胃切除後患者（実習、討議、発表）（山本、新井田） 第5回：栄養管理計画書の作成2、慢性腎不全（実習、討議、発表）（山本、新井田） 第6回：栄養管理計画（2型糖尿病）（実習、討議、発表）（山本、新井田） 第7回：栄養管理計画（狭心症、動脈硬化）（実習、討議、発表）（山本、新井田） 第8回：栄養管理計画（非代償性肝硬変）（実習、討議、発表）（山本） 第9回：症例検討（脳梗塞、嚥下障害）（実習、討議、発表）（山本） 第10回：診療記録（SOAP 書き方）（実習、討議、発表）（山本） 第11回：肺機能のアセスメント、COPDの栄養管理（実習、討議、発表）（山本） 第12回：急性期における症例検討（チーム医療）（実習、討議、発表）（新井田） 第13回：急性期における症例検討（バイタルサイン）（実習、討議、発表）（新井田） 第14回：急性期における症例検討（病態、栄養療法）（実習、討議、発表）（新井田） 第15回：急性期、回復期における症例検討（SOAP）（実習、討議、発表）（新井田） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
定期試験（50％）、レポート（30％）、平常点（20％）（授業への参加状況・授業態度、質問用紙の提出状況を総合して判断します。）
(7) 成 績 評 価 基 準
各疾患における生理的特徴、栄養状態の特徴を理解し、栄養管理計画および栄養ケア計画を立てることができるか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他(試験後に答案用紙を返却し、解説または再確認テストを行う) 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性) 経歴：(管理栄養士) 実務経験と授業内容との関連性：(管理栄養士として医療提供施設での実務経験を活かし、傷病者個々の病態や栄養状態に適合した栄養管理を行う能力を養うための症例モデルを用いた栄養アセスメント・栄養管理計画・栄養量の設定・栄養教育計画など、栄養ケアプランの作成・実施・評価に関する総合的なマネジメントについて実習する。)
(10) テキスト、参考図書 1) 臨床栄養管理学実習、塚原丘美 編 栄養科学シリーズNEXT、講談社サイエンティフィク 2) 栄養科学シリーズ 新・臨床栄養学 編者 竹谷豊ほか 講談社 3) 日本糖尿病学会編 「糖尿病食事療法のための食品交換表」 文光堂 4) 腎臓病食品交換表、黒川清 監修/中尾俊之 編集代表、医歯薬出版 5) 必要に応じてプリント配布
(11) その他(受講上の注意) ○管理栄養士国家試験受験資格必修(必修) 授業内容の理解促進のための質問やディスカッション等を対面およびTeamsにて受け付ける。また、国内外の文献・資料なども紹介するので利用すること。授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業1回目に説明する。医学会の治療基準の改定等により、授業計画は変更されることがある。各回の講義を受けた後、講義内容のまとめ、感想、確認したい点や疑問点など記入したリアクションペーパーを提出する。配付プリント問題に取り組む。遅刻の有無、出席状況、受講態度、リアクションペーパーの内容等は、平常点として総合的に評価される。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

公衆栄養学Ⅱ（栄養疫学） （Public Health NutritionⅡ（Nutritional Epidemiology））			担当教員	三浦 努	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-B-2353	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
求める学習成果（教育目標）					
社会環境、法令や制度、関連機関との役割や連携・栄養情報の管理について学修し、医療や健康・栄養疫学調査等の研究調査方法と理論、その結果評価の理解ができるようになること。また、現状の健康や栄養状態の把握と、集団や個別の栄養評価プログラムの計画立案と行動変容への支援及び予防学的アプローチの提案まで出来る能力となるように理解を深めること。					

(1) 授 業 の 内 容
日本における健康や栄養摂取状況の実態や国内外で行われている栄養疫学調査についての学術文献等での紹介、さらに食事と疾病発症との因果関係を科学的に証明するための調査手法の理論について学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
保健・医療・福祉・介護システムにおいて、地域住民の栄養摂取状況における疾病の発症のハイリスク集団の特定とともに集団または個々の対象者の健康・栄養状態を適切に把握し、対象者に見合った栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントができるようにするために必要な理論と手法を修得する。集団または個々の対象者の栄養摂取状況を把握するための食事調査法を学び、さらに食事と疾病発症との因果関係を科学的に証明するための調査手法を修得する。
(3) アクティブラーニング
☐ ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンスー授業計画の詳細と公衆栄養学Ⅱ(栄養疫学)の概要についての説明ー 公衆栄養学Ⅰ及び公衆栄養学実習の振り返り 事前学習：授業前に2年生後期と前期で履修した公衆栄養学実習で学んだことを復習しておくこと。(2時間) 事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間) 第2回：わが国の健康をめぐる現状(健康や栄養状態と問題点、疾病推移、死因別死亡、生活習慣病、医療費等) 事前学習：授業前に2年生時の復習として資料や教科書第2章の要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間) 第3回：諸外国における健康・栄養問題と政策、国際機関について 事前学習：教科書の第3章の関連するところを調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間) 第4回：科学的根拠に基づく栄養学(1) 研究計画について 事前学習：授業前に教科書第4章の栄養疫学の概要とところをまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間) 第5回：科学的根拠に基づく栄養学(2) 研究計画について 事前学習：授業前に教科書第4章の栄養疫学の指標のところをまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間) 第6回：研究結果の競合的解釈(1) 暴露情報としての食事摂取量(変動、誤差等) 事前学習：授業前に第3回と第4回の授業内容について復習しておくこと(2時間) 事後学習：授業で配布された資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間) 第7回：研究結果の競合的解釈(2) 疫学研究の手法、研究デザイン 事前学習：授業前に教科書第4章の関連するところをまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間) 第8回：栄養疫学における研究デザイン(1) 疫学研究の計画と評価、指標、観察研究等 事前学習：授業前に教科書の第4章の関連するところを調べまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間) 第9回：暴露情報としての食事摂取量(食物摂取の変動要因) 事前学習：教科書の第4章の栄養疫学の指標で該当するところを調べまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で配布されたプリントの内容について、整理してまとめておくこと。(2時間)

第10回：食事調査法の概要①（24時間思い出し法、秤量記録法＜秤量法と目安法＞） 事前学習：教科書の第4章の食事摂取量の測定方法の要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料の内容について、整理してまとめておくこと。（2時間） 第11回：食事調査法の概要②（食物摂取頻度調査法） 事前学習：教科書の第4章の食事摂取量の測定方法と前回配布した資料で該当するところを調べまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料の内容について、整理してまとめておくこと。（2時間） 第12回：エネルギー調整栄養素摂取量について 残渣法、密度法 事前学習：前回配布した資料と教科書の第4章の栄養疫学の関連するところをまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で配布された資料の内容について、整理してまとめておくこと。（2時間） 第13回：食事摂取量を反映する身体計測値・生化学的指標 事前学習：教科書の第4章の食事摂取量と評価方法の要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で配布されたプリントの内容について、整理してまとめておくこと。（2時間） 第14回：栄養疫学研究の文献紹介 事前学習：栄養関連について研究した文献を1つ検索して、その研究内容をまとめておくこと。（3時間） 事後学習：授業で行った内容について、整理してまとめておくこと。（1時間） 第15回：地域における公衆栄養マネジメント・プログラム 事前学習：教科書第5章公衆栄養アセスメントや計画・実施・評価のところおよび関連するところをまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で行った内容について、整理してまとめておくこと。（2時間） 第16回：定期試験 公衆栄養学Ⅰの講義で学修したことを復習して理解を深めておくこと。また、予習としては、各回の関連するところを教科書等にて目を通しておき、疑問点などをまとめておくこと。復習は授業時に配布された資料を各自でまとめて授業後の理解を深める。課題の取り組みについては、さらに深い知識の修得と応用力を養うようにすること。	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
定期試験60%、課題・レポート20%、出席状況と授業への取り組みや授業態度等20%の総合評価（100%）	
(7) 成績評価基準	
対象者の栄養摂取状況を把握するための食事調査法の理論を理解している。 食事と疾病発症との因果関係を科学的に証明するための調査手法を理解している。 対象者の健康・栄養状態を適切に把握し、疾病の発症のハイリスク集団の特定ができる。 対象者に見合った栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントができる。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）	

(10) テキスト、参考図書
テキスト 「健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学（改訂第8版）」 南江堂 2023年 「日本人の食事摂取基準（2025年版）」 第一出版 2025年 参考図書 「カレント改定公衆栄養学第3版」 建帛社2024年 「管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠第10巻 公衆栄養学2025年版」 医歯薬出版2025年 「2025年版 栄養士・管理栄養士必携」 第一出版 2025年
(11) その他(受講上の注意)
◎管理栄養士国家試験受験資格（必修） 管理栄養士国家試験受験資格を取得するためには、この科目は必修となるので講義中は集中して聴講すること。また、他の学生の聴講の妨げとなるので、私語はしないこと。課題は必ず提出すること。なお講義内容は連続性があり、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心がけること。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業1回目のガイダンスにて説明する。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

公衆栄養学実習 (Public Health Nutrition Practicum)			担当教員	三浦 努	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-E-2354	1 単位	3 年前期	実習		必修
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力					

(1) 授 業 の 内 容
公衆栄養学の講義内容で学修した知識を基礎にして、地域における効果的な公衆栄養学活動が推進できるように学内で模擬的な実習を行う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
地域や職域等の集団における保健・医療・介護の実態把握や食生活状況や栄養摂取状況についての情報収集をどのように行うか、また得られた情報を実際にどのように処理し分析・解析していくかを修得する。さらに、実践で栄養摂取状況において疾病の発症のハイリスク集団に対しての適切な栄養関連サービスを行うプログラム作成・実施・評価することや総合的にマネジメントを行うことができるように手法を修得する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス ～授業計画の詳細についての説明と公衆栄養学研究とは～ <講義・実習> 第2回：公衆栄養学関連の文献検索法と資料検索 <実習> 第3回：公衆栄養学における研究の情報処理 データ処理①(データの取り扱い方) <実習> 第4回：公衆栄養学における研究の情報処理 データ処理②(データ整理と集計の仕方) <実習> 第5回：公衆栄養学における研究の情報処理 データ処理③(作表、データ解析の仕方その1) <実習> 第6回：公衆栄養学における研究の情報処理 データ処理④(作表、データ解析の仕方その2) <実習> 第7回：公衆栄養学における研究デザイン(観察研究と介入研究) <実習> 第8回：研究計画書作成、倫理審査、インフォームドコンセント <実習> 第9回：質問票の作成法(テーマの設定、質問票の構成) <実習> 第10回：質問票から得られたデータの集計方法 <実習> 第11回：生活活動時間調査によるエネルギー消費量測定 <実習> 第12回：栄養摂取状況の実態把握 栄養調査法① 食品の目安量(ポーションサイズ)、摂取量の推定 <実習> 第13回：栄養摂取状況の実態把握 栄養調査法② 24時間思い出し法 <実習> 第14回：栄養摂取状況の実態把握 栄養調査法③ 秤量記録法(実測値) <実習> 第15回：栄養摂取状況の実態把握 栄養調査法④ 食物摂取頻度調査法 <実習> 公衆栄養学Ⅰの講義で学修したことを復習して理解を深めておくこと。また、予習としては、各回の関連するところを教科書等にて目を通しておき、疑問点などをまとめておくこと。復習は授業時に配布された資料を各自でまとめて授業後の理解を深めるとともに、実習課題の取り組みにおいては、さらに深い知識の修得と応用力を養うようにすること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
課題レポート70%、実習への取り組み・出席状況・授業態度等30%の総合評価
(7) 成 績 評 価 基 準
地域や職域等の集団における保健・医療・介護の実態把握や食生活状況や栄養摂取状況についての情報収集ができ、さらに得られた情報を適切に処理し分析・解析できること。 栄養摂取状況の把握と評価が出来る能力、疾病の発症のリスクの対象者や集団を見出し適切な栄養関連サービスを行うプログラム作成・実施・評価などの総合的なマネジメントを考えることができること。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 「栄養科学シリーズNEXT 公衆栄養学実習」 講談社サイエンティフィク 2011年 「健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学(改訂第8版)」 南江堂 2023年 「日本人の食事摂取基準(2025年版)」 第一出版 2025年 「日本人の食事摂取基準2025年版の実践・運用」 第2版 第一出版 2025年
(11) その他(受講上の注意) ◎管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修) 栄養士免許資格、管理栄養士国家試験受験資格を修得するためには、この科目は必修になるので積極的に実習に臨むこと。私語など他人に迷惑をかける行為をする者、指示に従わない者に対しては、単位を認定しないこともある。なお実習内容は連続性があるため、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心がけること。授業の計画の予定は、変更されることもある。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業1回目のガイダンスにて説明する。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

給食経営管理論Ⅲ（食料商品学） （Food Service Management Ⅲ (Food Product Studies)）			担当教員	長岡 純子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-C-2357	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
求める学習成果（教育目標）					
食品流通についての記述・説明・検証する能力					

(1) 授 業 の 内 容	
食品産業の基礎知識、食料消費の課題、食品産業の特色、食品の安全性に関する事例について学ぶ。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
・食品産業を取り巻く環境を理解出来ている。 ・食品産業の特色について理解する。 ・食品の安全性について理解する。 ・食品産業で働くことについて理解する。	
(3) アクティブラーニング	
☒ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：食市場の変化① 事前学習：フードシステムについて調べ、質問項目を整理しておくこと。(2時間) 事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。(2時間) 第2回：食市場の変化② 事前学習：食品消費・食生活について調べ、質問項目を整理しておくこと。(2時間) 事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。(2時間) 第3回：食品の流通① 事前学習：食品流通について調べ、質問項目を整理しておくこと。(2時間) 事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。(2時間) 第4回：食品の流通② 事前学習：食品卸売市場・食品小売業について調べ、質問項目を整理しておくこと。(2時間) 事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。(2時間) 第5回：外食・中食産業のマーチャンダイジング 事前学習：外食産業・中食産業について調べ、質問項目を整理しておくこと。(2時間) 事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。(2時間) 第6回：主要食品の流通① 事前学習：生鮮食品の流通について調べ、質問項目を整理しておくこと。(2時間) 事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。(2時間) 第7回：主要食品の流通② 事前学習：加工食品の流通について調べ、質問項目を整理しておくこと。(2時間) 事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。(2時間) 第8回：フードマーケティング 事前学習：フードマーケティングについて調べ、質問項目を整理しておくこと。(2時間) 事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。(2時間) 第9回：食料消費の課題① 事前学習：食料消費と環境問題について調べ、質問項目を整理しておくこと。(2時間) 事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。(2時間) 第10回：食料消費の課題② 事前学習：食品流通の安全確保について調べ、質問項目を整理しておくこと。(2時間) 事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。(2時間) 第11回：食料消費の課題③ 事前学習：食料消費を取り巻く課題について調べ、質問項目を整理しておくこと。(2時間) 事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。(2時間)	

第12回：グループワーク①課題設定 事前学習：食品の消費と流通に関する身近な課題について調べておくこと。（2時間） 事後学習：グループで話し合った内容を整理しておくこと。（2時間） 第13回：グループワーク②解決案検討 事前学習：身近な課題に対する取り組み案を検討しておくこと。（2時間） 事後学習：グループで話し合った内容を踏まえてプレゼンテーションの準備をしておくこと。（2時間） 第14回：グループワーク③発表 事前学習：発表準備・練習をしておくこと。（2時間） 事後学習：各グループの発表内容について資料等を参考に纏めておくこと。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：授業で取り扱った内容について、質問項目を整理しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（40%）、小テスト（20%）、グループワーク（20%）、授業への取り組み（20%） 授業への取り組みについては、授業への参加状況、受講態度、感想文や課題の提出状況を総合的に判断する。
(7) 成績評価基準
・食品の消費と流通の現状を理解しているか。 ・学習内容から課題を設定し、解決案をまとめることができるか。 ・他者と円滑なコミュニケーションを取り、グループで協働して分かりやすくプレゼンテーションできるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
四訂 食品の消費と流通、(社)フードスペシャリスト協会編、建帛社（2021年）
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

給食経営管理臨地実習 (Field Practice in Food ServiceManagement)			担当教員	長岡 純子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-F-2361	1 単位	3 年前期	実習		選択
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
求める学習成果(教育目標)					
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観					

(1) 授 業 の 内 容
給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養うために、マーケティングの原理や応用について理解するとともに、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を習得する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ 各種給食施設に応じた栄養面のマネジメントが出来る。 ・ 各種給食施設に応じた衛生面及び安全面のマネジメントが出来る。 ・ 各種給食施設に応じた経済面のマネジメントが出来る。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
(学外実習) 3 年次 8 ～ 9 月に 1 週間(45 時間)の給食施設(学校・病院・福祉施設・事業所等)実習を行う。 ① 実習施設事前訪問・実習挨拶および指導者との打ち合わせ(実習) ② 実習施設ごとの実習計画による実習(実習) ③ 実習施設についての理解(組織・運営)(実習) ④ 食材料管理の把握・考察(実習) ⑤ 作業管理・業務分担の把握・考察(実習) ⑥ 安全・衛生管理の把握・考察(実習) ⑦ 給食に関するマネジメント全般についての理解(実習) ⑧ 給食業務にかかる帳票類の内容及び管理について学ぶなど・実習施設について事前に十分な下調べ(施設概要等)を行なうこと。(実習) ⑨ 実習成果に関する報告書及び発表(グループワーク及び発表)
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
実習前の準備作業の取り組み状況(20%)、実習中の取り組み状況(20%)、実習ノート等の提出物の評価(20%)、実習施設の指導担当者による評価(40%)
(7) 成 績 評 価 基 準
・ 各種給食施設に応じた栄養面のマネジメントが出来るか。 ・ 各種給食施設に応じた衛生面及び安全面のマネジメントが出来るか。 ・ 各種給食施設に応じた経済面のマネジメントが出来るか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 給食経営管理論Ⅰ・Ⅱ・実習や、実習先の施設種別に関連する科目で使用した教科書等。 詳細については事前指導時に指示を行う。
(11) その他(受講上の注意) ○管理栄養士国家試験受験資格必修(選択) ・実習施設について事前に十分な下調べ(施設概要等)を行なうこと。 ・事前に出された課題は、必ず準備して実習に臨むこと。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

臨床栄養臨地実習 (Field Practice in Clinical Nutrition)			担当教員	佐藤 裕保、山本 浩範	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-F-2362	2 単位	3 年後期・ 4 年前期	実習		選択
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
求める学習成果(教育目標)					
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観					

(1) 授 業 の 内 容
実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。 傷病者を対象とした臨床栄養管理について病院や老人保健施設において管理栄養士の業務を臨地で実習する。外来・入院患者や入所者に対する栄養評価・判定、栄養食事指導、診療科やベッドサイド訪問、栄養ケアプランの作成などを実習し、NST（栄養サポートチーム）における管理栄養士の役割など、医師・看護師など医療専門職との連携の実際を学び、医療スタッフの一員として必要な技術・能力を修得する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
医療領域における管理栄養士業務の実際を理解する。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習（PBL） □討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ■実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
実習施設事前訪問・実習挨拶および指導者との打ち合わせ（実習） 実習施設ごとの実習計画による実習（実習） 実習施設についての理解（組織・運営）（実習） 医療施設・介護老人保健施設における管理栄養士業務の理解（実習） 栄養評価・判定（PBL・実習） 栄養食事指導（PBL・実習） 診療科やベッドサイド訪問により栄養アセスメント、栄養介入の実際を学ぶ（PBL・実習） 栄養管理計画（栄養ケアプラン）の作成（PBL・実習） 実習内容に沿ったプレゼンテーション（グループワーク・発表） 医療専門職との連携・共働の実際について学ぶ などこれまでに学習した知識を総動員すること。 これまでに使用した教科書および参考図書を、最大限に活用すること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
準備状況（20%）実習状況（20%）実習ノート等の提出物（20%）実習施設指導担当者による評価（40%）
(7) 成 績 評 価 基 準
医療領域における管理栄養士業務の実際を説明することができるか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☒その他(実習期間中の巡回指導において直接指導を行う) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他(実習)に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他(実習における評価および課題は、「栄養総合演習Ⅰ」においてフィードバックする)
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 臨床栄養学および臨床栄養学実習にて使用した教科書および参考図書、配布プリント。
(11) その他(受講上の注意) 社会の一員としての自覚を持ち、守秘義務、職業倫理の遵守に努めること。 事故発生時は、早急に実習施設および大学に連絡すること。 管理栄養士国家試験受験資格(必修)
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

公衆栄養臨地実習 (Field Practice in Public Health)			担当教員	三浦 努	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-F-2363	1 単位	3 年前期	実習	選択	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
求める学習成果(教育目標)					
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観					

(1) 授 業 の 内 容
都道府県の保健所および市町村の保健センターなどで保健・栄養行政における栄養マネジメントを体験し、公衆栄養マネジメント・公衆栄養プログラム等の実践能力を修得する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
都道府県の保健所や市町村の保健センターにおける保健・栄養行政の役割および現状や求められていることについて理解する。また、地域の食生活習慣や健康問題における問題点を解析して明らかにし、生活習慣や食行動の変容を図る知識と技術を修得する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
栄養総合演習Ⅰの実習事前授業で実習の概要や内容について理解し、さらに、実習施設へ実習計画等の事前打ち合わせを行う。 臨地実習中では、各実習施設の実習計画にもとづいて実習を行う。実習項目として、下記に示す1)～7)までのいずれかの項目を実習で行う。 1) 地域の生活環境の実態把握 2) 地域における食生活習慣の問題点の分析 3) 食生活の変容のための計画作成 4) 地域において実施されている健康増進事業の参加 5) 各段階での評価方法について学ぶ 6) 各自でPDCAサイクルの模擬体験 7) 各種専門職との連携・共働についてを実際に学ぶ。 実習中または実習後の栄養総合演習Ⅰの事後授業にて実習中に学んだことのまとめを行う。栄養総合演習Ⅰや臨地実習の時間内では、計画したテーマ、課題、与えられた成果物などを終えることは出来ないため、実習前、実習中および実習終了後などに、十分に時間を各自が確保して取り組むこと。また、実習施設毎の報告書の作成、3年生全体の発表会などでは、実習施設毎での発表を行う。 ※実習中における所内学習時間とそれに関わる学習時間を含めて45時間を1単位とする。下記に45時間の目安となる内訳を示す。 ・実習施設先との打ち合わせおよび事前準備(1.5時間) ・実習施設所内における実習(5日間・40時間) ・実習中における実習施設所外(自宅)での実習内容の記録とまとめ(2.5時間) ・実習報告書の作成(1時間)
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
実習事前授業での意欲や準備作業の取り組み状況(20%)、実習中の取り組み状況(20%)、課題等の提出物および成果物の評価(20%)、実習ノートおよび実習施設の指導担当者による評価(40%)
(7) 成 績 評 価 基 準
都道府県の保健所や市町村の保健センターが担う栄養行政の役割について理解したか。 地域における食生活上の問題点を明らかにし、生活習慣や食行動の変容を図る知識と技術を修得できたか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他(実習に対するフィードバックについて) ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他(実習における評価および課題は、「栄養総合演習Ⅰ」において行う)
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 本学作成「公衆栄養学臨地実習ノート」を使用する。その他、関係教科の教科書、参考書
(11) その他(受講上の注意) 管理栄養士国家試験受験資格(選択) 実習への取り組む姿勢や態度の他、礼儀、身だしなみ、規律、衛生管理、体調管理など十分留意して臨地実習に取り組むこと。臨地実習開始1カ月以内になったら、実習準備等に支障をきたすので私事の用事を入れないこと。また、教員の指示に従わないものや規律を順守せず問題行動を起こす学生に対しては、実習に参加させることはできない。 臨時実習終了後の後期授業では、各実習施設毎の取りまとめを行い、報告書を作成することや3年生全体の報告発表会に向けたスライド作成などを行ない、学科の臨地実習報告会に向けた準備を行う。(臨地実習での成果物などについては、学校祭などでの展示やG館での掲示も行う。)臨地実習報告会終了後には、約7か月間の取り組みの振り返りや実習先の指導者からの所見を伝えるなどで、次の臨地実習への心構えや意欲を持てるように、個々の学生との面談を行う予定とする。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅰ (Seminar in Health and NutritionⅠ)			担当教員	尼子 克己	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-F-2366	2 単位	3 年通年	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観					

(1) 授 業 の 内 容
専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例を参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習において文献等を講読し、討論することを通して、自らの研究テーマを設定する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
文献等の講読や討論を通じて、研究課題の対象と方法を学び、自らの研究テーマを設定する。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習 (PBL) ☒ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス（ゼミ配属説明） 事前学習：昨年度の「卒業論文要旨集」と各ゼミのゼミ要項を確認し準備する（2時間） 事後学習：ゼミ要項に記載された方法に従って各教員への質問等を行った後、配属を希望するゼミの希望調査書を作成し、eラーニングシステム上に提出する。（2時間） 第2回：学習に活用するソフトウェア・アプリケーションの導入と設定 事前学習：学習に役立つアプリケーションの情報を収集する（2時間） 事後学習：アプリケーションの動作を確認し、基本的操作を習得する（2時間） 第3回：文献の探し方について 事前学習：研究計画を作成する。（2時間） 事後学習：研究テーマに沿った文献を検索する。（2時間） 第4回：文献講読（PBL、発表、討議） 事前学習：取得した文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間） 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間） 第5回：文献講読（PBL、発表、討議） 事前学習：取得した文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間） 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間） 第6回：文献講読（PBL、発表、討議） 事前学習：取得した文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間） 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間） 第7回：文献講読（PBL、発表、討議） 事前学習：取得した文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間） 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間） 第8回：文献講読（PBL、発表、討議） 事前学習：取得した文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間） 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間） 第9回：文献講読（PBL、発表、討議） 事前学習：取得した文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間） 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間） 第10回：文献講読（PBL、発表、討議） 事前学習：取得した文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間） 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間） 第11回：文献講読（PBL、発表、討議） 事前学習：取得した文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間） 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間）

第12回：文献講読（PBL、発表、討議） 事前学習：取得した文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間） 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間） 第13回：卒業研究発表会 聴講 事前学習：今年度の「卒業論文要旨集」を確認し準備する（2時間） 事後学習：卒業研究発表会の発表内容を参考に、自身の卒業研究テーマについて考える（2時間） 第14回：卒業研究へのアプローチ（PBL、ディスカッション・グループワーク） 事前学習：興味ある研究課題を列挙する（2時間） 事後学習：指導教員の助言に従い、研究によって明らかにすべき内容を具体化する（2時間） 第15回：卒業研究への構想とミーティング（PBL、ディスカッション・グループワーク） 事前学習：研究の実施方法について検討する（2時間） 事後学習：研究の実施計画を具体化する（2時間） 資料、文献検索などを通して管理栄養士履修科目に重要なキーワードなどに関するノート作りをすること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポートや発表（50％） 平常点（50％） （平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
自らの研究課題を設定することができるか。研究課題に関連する文献などを適切に講読できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意)
ゼミ決定については、別途ガイダンスを行う。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅰ (Seminar in Health and Nutrition Ⅰ)			担当教員	池田 涼子
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
HN-F-2366	2単位	3年通年	演習	必修
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究				
求める学習成果(教育目標)				
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観				

(1) 授 業 の 内 容
【ゼミで扱う主なテーマ】 ○微量栄養素の栄養状態が耐糖能に及ぼす影響 ○福井県食物アレルギーの現状と課題 ○福井県における高齢者栄養の現状と課題 文献抄読を中心に、研究分野の基礎的な知識の集積・整理に重点を置くとともに、研究に用いる機器分析の基本的な原理と技術の習得をはかる。 また、各ゼミ生が興味を持ったテーマを一つ選び、これに沿った文献検索やディスカッション形式の勉強会を通して、専門分野に関するより高度な知識を集積、整理する。その他、共同研究などにより学外で活動することがある。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
文献等の講読や討論を通じて、研究課題の対象と方法を学び、自らの研究テーマを設定する。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ■実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
※具体的な研究テーマ・活動予定の詳細は、ガイダンスの際に提示する。 第1回：ガイダンス（ゼミ配属説明会） 事前学習：昨年度の卒業研究発表会要旨集を通読する（2時間） 事後学習：個別のゼミ説明会に参加し、配属希望ゼミの卒業研究発表会の動画を視聴する。（2時間） 第2回：研究テーマ・研究方法に関する説明－1（基礎編） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第3回：研究テーマ・研究方法に関する説明－1（実践編） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第4回：文献検索の方法（文献検索ガイダンス） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第5回：ゼミテーマの選定と文献検索① 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第6回：ゼミテーマの選定と文献検索② 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第7回：フィールドワーク準備①（身体計測の手法－CC、AS－）（グループワーク） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第8回：フィールドワーク準備②（身体計測の手法－AC、TSF－）（グループワーク） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第9回：フィールドワーク準備③（記述統計の基本）（グループワーク） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）

第10回：フィールドワーク準備④（推測統計の基本）（グループワーク） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第11回：卒業研究へのアプローチ－研究テーマ－（PBL、ディスカッション） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第12回：卒業研究への構想とミーティング①－調査対象－（PBL、ディスカッション） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第13回：卒業研究発表会への参加 事前学習：配布された卒業研究発表会要旨集を通読する（2時間） 事後学習：卒業研究発表会の感想文を作成し、提出する（2時間） 第14回：卒業研究への構想とミーティング②－解析方法－（PBL、ディスカッション） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第15回：卒業研究への構想とミーティング③－研究ツールの探索－（PBL、ディスカッション） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 資料、文献検索などを通して専門分野に重要なキーワードなどに関するノート作りをすること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 レポートや発表(50%) 平常点(50%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。)
(7) 成績評価基準 自らの研究課題を設定することができるか。 研究課題に関連する文献などを適切に講読、解説ができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他(ゼミ配属後に登録するTeamsでおこなう。) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☒その他(ゼミ配属後に登録するTeamsでおこなう。) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意) ゼミ決定については、別途ガイダンスを行う。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅰ (Seminar in Health and NutritionⅠ)			担当教員	佐藤 真実	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-F-2366	2 単位	3 年通年	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観					

(1) 授 業 の 内 容
専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例を参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習において文献等を講読し、討論することを通して、自らの研究テーマを設定する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
文献等の講読や討論を通じて、研究課題の対象と方法を学び、自らの研究テーマを設定する。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習 (PBL) ☒ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第2回：研究の方法に関する説明 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第3回：資料、文献検索の仕方、 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第4回：資料・研究レポートとミーティング1 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第5回：資料・研究レポートとミーティング2 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第6回：資料・研究レポートとミーティング3 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第7回：資料・研究レポートとミーティング4 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第8回：資料・研究レポートとミーティング5 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第9回：資料・研究レポートとミーティング6 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第10回：資料・研究レポートとミーティング7 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第11回：資料・研究レポートとミーティング8 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第12回：資料・研究レポートとミーティング9 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）

第13回：卒業研究発表会 聴講 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第14回：卒業研究へのアプローチ（ディスカッション・グループワーク） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第15回：卒業研究への構想とミーティング（ディスカッション・グループワーク） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 授業外の学習方法としては、資料や文献検索、地域貢献活動などを通して将来の進路等に関わる経験や知識などを豊かにする。ノートやメモの利活用をする。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポートや発表（50％） 平常点（50％） 平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。
(7) 成績評価基準
自らの研究課題を設定することができるか。研究課題に関連する文献などを適切に講読できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意)
ゼミ決定については、別途ガイダンスを行う。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅰ (Seminar in Health and NutritionⅠ)			担当教員	新井田 裕樹	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-F-2366	2 単位	3 年通年	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観					

(1) 授 業 の 内 容
専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例を参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習において文献等を講読し、討論することを通して、自らの研究テーマを設定する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
文献等の講読や討論を通じて、研究課題の対象と方法を学び、自らの研究テーマを設定する。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習 (PBL) ☒ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス（ゼミ配属説明） 事前学習：昨年度の「卒業論文要旨集」と各ゼミのゼミ要項を確認し準備する（2時間） 事後学習：ゼミ要項に記載された方法に従って各教員への質問等を行った後、配属を希望するゼミの希望調査書を作成し、e ラーニングシステム上に提出する（2時間） 第2回：研究の方法に関する説明 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第3回：文献検索のための事前準備（検索テーマ決定） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第4回：資料、文献検索の仕方（図書館利用） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第5回：資料・研究レポートとミーティング2（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第6回：資料・研究レポートとミーティング3（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第7回：資料・研究レポートとミーティング4（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第8回：資料・研究レポートとミーティング5（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第9回：資料・研究レポートとミーティング6（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第10回：資料・研究レポートとミーティング7（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第11回：資料・研究レポートとミーティング8（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）

第12回：資料・研究レポートとミーティング9（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第13回：卒業研究発表会聴講 事前学習：今年度の「卒業論文要旨集」を確認し準備する（2時間） 事後学習：卒業研究発表会の発表内容を参考に、自身の卒業研究テーマについて考える（2時間） 第14回：卒業研究へのアプローチ（ディスカッション・グループワーク） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第15回：卒業研究への構想とミーティング（ディスカッション・グループワーク） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 資料、文献検索などを通して管理栄養士履修科目に重要なキーワードなどに関するノート作りをすること
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポートや発表（50％） 平常点（50％） （レポートや発表の形式は担当教員により異なります。平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
自らの研究課題を設定することができるか。研究課題に関連する文献などを適切に講読できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意)
ゼミ決定については、別途ガイダンスを行う。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習 I (Seminar in Health and Nutrition I)			担当教員	鳴瀬 碧	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-F-2366	2 単位	3 年通年	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観					

(1) 授 業 の 内 容
専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例を参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習において文献等を講読し、討論することを通して、自らの研究テーマを設定する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
文献等の講読や討論を通じて、研究課題の対象と方法を学び、自らの研究テーマを設定する。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習 (PBL) ☒ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
ゼミごとに、進め方を決め授業ごとに授業計画に沿って取り組んでいく。 第1回：ガイダンス（ゼミ配属説明） 事前学習：昨年度の「卒業論文要旨集」と各ゼミのゼミ要項を確認し準備する（2時間） 事後学習：ゼミ要項に記載された方法に従って各教員への質問等を行った後、配属を希望するゼミの希望調査書を作成し、e ラーニングシステム上に提出する。（2時間） 第2回：研究の方法に関する説明 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第3回：資料、文献検索の仕方、 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第4回：資料・研究レポートとミーティング1（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第5回：資料・研究レポートとミーティング2（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第6回：資料・研究レポートとミーティング3（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第7回：資料・研究レポートとミーティング4（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第8回：資料・研究レポートとミーティング5（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第9回：資料・研究レポートとミーティング6（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第10回：資料・研究レポートとミーティング7（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第11回：資料・研究レポートとミーティング8（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）

第12回：資料・研究レポートとミーティング9（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第13回：卒業研究発表会聴講 事前学習：今年度の「卒業論文要旨集」を確認し準備する（2時間） 事後学習：卒業研究発表会の発表内容を参考に、自身の卒業研究テーマについて考える（2時間） 第14回：卒業研究へのアプローチ（ディスカッション・グループワーク） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第15回：卒業研究への構想とミーティング（ディスカッション・グループワーク） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 資料、文献検索などを通して管理栄養士履修科目に重要なキーワードなどに関するノート作りをすること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポートや発表（50％） 平常点（50％） （レポートや発表の形式は担当教員により異なります。平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
自らの研究課題を設定することができるか。研究課題に関連する文献などを適切に講読できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意)
ゼミ決定については、別途ガイダンスを行う。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習 I (Seminar in Health and Nutrition I)			担当教員	山本 浩範
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
HN-F-2366	2 単位	3 年通年	演習	必修
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究				
求める学習成果(教育目標)				
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観				

(1) 授 業 の 内 容
専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例を参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習において文献等を講読し、討論することを通して、自らの研究テーマを設定する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
文献等の講読や討論を通じて、研究課題の対象と方法を学び、自らの研究テーマを設定する。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習 (PBL) ☒ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
ゼミごとに、進め方を決め授業ごとに授業計画に沿って取り組んでいく。 第1回：ガイダンス 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（1時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（3時間） 第2回：研究の方法に関する説明 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（1時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（3時間） 第3回：資料、文献検索の仕方、 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（1時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（3時間） 第4回：資料・研究レポートとミーティング1 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（1時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（3時間） 第5回：資料・研究レポートとミーティング2 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（1時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（3時間） 第6回：資料・研究レポートとミーティング3 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（1時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（3時間） 第7回：資料・研究レポートとミーティング4 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（1時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（3時間） 第8回：資料・研究レポートとミーティング5 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（1時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（3時間） 第9回：資料・研究レポートとミーティング6 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（1時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（3時間） 第10回：資料・研究レポートとミーティング7 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（1時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（3時間） 第11回：資料・研究レポートとミーティング8 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（1時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（3時間）

第12回：資料・研究レポートとミーティング9（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（1時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（3時間） 第13回：卒業研究発表会 聴講 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（1時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（3時間） 第14回：卒業研究へのアプローチ（ディスカッション・グループワーク） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（1時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（3時間） 第15回：卒業研究への構想とミーティング（ディスカッション・グループワーク） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（1時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（3時間） 資料、文献検索などを通して管理栄養士履修科目に重要なキーワードなどに関するノート作りをすること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポートや発表（50％） 平常点（50％） （レポートや発表の形式は担当教員により異なります。平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
自らの研究課題を設定することができるか。研究課題に関連する文献などを適切に講読できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意)
ゼミ決定については、別途ガイダンスを行う。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習 I (Seminar in Health and Nutrition I)			担当教員	三浦 努	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-F-2366	2 単位	3 年通年	演習	必修	
＜科目区分＞ 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観					

(1) 授 業 の 内 容
専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例を参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習において文献等を講読し、討論することを通して、自らの研究テーマを設定する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
文献等の講読や討論を通じて、研究課題の対象と方法を学び、自らの研究テーマを設定する。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習 (PBL) ☒ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
ゼミごとに、進め方を決め授業ごとに授業計画に沿って取り組んでいく。 第1回：ガイダンス 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第2回：研究の方法に関する説明 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第3回：資料、文献検索の仕方、 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第4回：資料・研究レポートとミーティング1 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第5回：資料・研究レポートとミーティング2 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第6回：資料・研究レポートとミーティング3 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第7回：資料・研究レポートとミーティング4 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第8回：資料・研究レポートとミーティング5 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第9回：資料・研究レポートとミーティング6 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第10回：資料・研究レポートとミーティング7 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第11回：資料・研究レポートとミーティング8 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）

第12回：資料・研究レポートとミーティング9 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第13回：卒業研究発表会 聴講 第14回：卒業研究へのアプローチ(ディスカッション・グループワーク) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第15回：卒業研究への構想とミーティング(ディスカッション・グループワーク) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 資料、文献検索などを通して管理栄養士履修科目に重要なキーワードなどに関するノート作りをすること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポートや発表(50%) 平常点(50%) (レポートや発表の形式は担当教員により異なります。平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。)
(7) 成績評価基準
自らの研究課題を設定することができるか。研究課題に関連する文献などを適切に講読できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意)
ゼミ決定については、別途ガイダンスを行う。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習 I (Seminar in Health and Nutrition I)			担当教員	野村 卓正
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
HN-F-2366	2 単位	3 年通年	演習	必修
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究				
求める学習成果(教育目標)				
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観				

(1) 授 業 の 内 容
専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例を参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習において文献等を講読し、討論することを通して、自らの研究テーマを設定する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
文献等の講読や討論を通じて、研究課題の対象と方法を学び、自らの研究テーマを設定する。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習 (PBL) ☒ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
ゼミごとに、進め方を決め授業ごとに授業計画に沿って取り組んでいく。 第1回：ガイダンス 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第2回：研究の方法に関する説明 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第3回：資料、文献検索の仕方、 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第4回：資料・研究レポートとミーティング1 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第5回：資料・研究レポートとミーティング2 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第6回：資料・研究レポートとミーティング3 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第7回：資料・研究レポートとミーティング4 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第8回：資料・研究レポートとミーティング5 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第9回：資料・研究レポートとミーティング6 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第10回：資料・研究レポートとミーティング7 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第11回：資料・研究レポートとミーティング8 (PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）

第12回：資料・研究レポートとミーティング9（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第13回：卒業研究発表会 聴講 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第14回：卒業研究へのアプローチ（ディスカッション・グループワーク） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第15回：卒業研究への構想とミーティング（ディスカッション・グループワーク） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 資料、文献検索などを通して管理栄養士履修科目に重要なキーワードなどに関するノート作りをすること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
①平常点：45％ ②レポートや発表：55％ 平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。 レポートや発表の形式は担当教員により異なります。
(7) 成績評価基準
自らの研究課題を設定することができるか。研究課題に関連する文献などを適切に講読できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意)
ゼミ決定については、別途ガイダンスを行う。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習 I (Seminar in Health and Nutrition I)			担当教員	高木 康之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-F-2366	2 単位	3 年通年	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観					

(1) 授 業 の 内 容
専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例を参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習において文献等を講読し、討論することを通して、自らの研究テーマを設定する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
文献等の講読や討論を通じて、研究課題の対象と方法を学び、自らの研究テーマを設定する。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習 (PBL) ☒ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
ゼミごとに、進め方を決め授業ごとに授業計画に沿って取り組んでいく。 第1回：ガイダンス 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第2回：研究の方法に関する説明 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第3回：資料、文献の探し方について 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第4回：資料・研究レポートとミーティング1 (PBL・ディスカッション・グループ・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第5回：資料・研究レポートとミーティング2 (PBL・ディスカッション・グループ・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第6回：資料・研究レポートとミーティング3 (PBL・ディスカッション・グループ・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第7回：資料・研究レポートとミーティング4 (PBL・ディスカッション・グループ・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第8回：資料・研究レポートとミーティング5 (PBL・ディスカッション・グループ・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第9回：資料・研究レポートとミーティング6 (PBL・ディスカッション・グループ・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第10回：資料・研究レポートとミーティング7 (PBL・ディスカッション・グループ・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第11回：資料・研究レポートとミーティング8 (PBL・ディスカッション・グループ・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）

第12回：資料・研究レポートとミーティング9（PBL・ディスカッション・グループ・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第13回：卒業研究発表会聴講 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第14回：卒業研究へのアプローチ（ディスカッション・グループワーク） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第15回：卒業研究への構想とミーティング（ディスカッション・グループワーク） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 資料、文献検索などを通して管理栄養士履修科目に重要なキーワードなどに関するノート作りをすること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポートや発表（50％） 平常点（50％） （平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
自らの研究課題を設定することができるか。研究課題に関連する文献などを適切に講読できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意)
ゼミ決定については、別途ガイダンスを行う。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習 I (Seminar in Health and Nutrition I)			担当教員	長岡 純子
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
HN-F-2366	2 単位	3 年通年	演習	必修
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究				
求める学習成果(教育目標)				
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観				

(1) 授 業 の 内 容
専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例を参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習において文献等を講読し、討論することを通して、自らの研究テーマを設定する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
文献等の講読や討論を通じて、研究課題の対象と方法を学び、自らの研究テーマを設定する。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習 (PBL) ☒ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス（ゼミ配属説明） 事前学習：昨年度の「卒業論文要旨集」と各ゼミのゼミ要項を確認し準備する（2時間） 事後学習：ゼミ要項に記載された方法に従って各教員への質問等を行った後、配属を希望するゼミの希望調査書を作成し、e ラーニングシステム上に提出する（2時間） 第2回：研究の方法に関する説明 事前学習：指示に従い準備する（2時間） 事後学習：研究方法や研究活動に関連のある情報にアクセスし、理解を深める（2時間） 第3回：資料、文献検索の仕方、 事前学習：指定した資料を準備して目を通す（2時間） 事後学習：興味のある資料・文献を検索して熟読する（2時間） 第4回：資料・研究レポートとミーティング1（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間） 第5回：資料・研究レポートとミーティング2（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間） 第6回：資料・研究レポートとミーティング3（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間） 第7回：資料・研究レポートとミーティング4（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間） 第8回：資料・研究レポートとミーティング5（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間） 第9回：研究方法の実践とミーティング1（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実習・実技） 事前学習：指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間） 第10回：研究方法の実践とミーティング2（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実習・実技） 事前学習：指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間） 第11回：研究方法の実践とミーティング3（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実習・実技） 事前学習：指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間）

第12回：資料・研究レポートとミーティング4（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実習・実技） 事前学習：指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間） 第13回：卒業研究発表会聴講 事前学習：今年度の「卒業論文要旨集」を確認し準備する（2時間） 事後学習：卒業研究発表会の発表内容を参考に、自身の卒業研究テーマについて考える（2時間） 第14回：卒業研究へのアプローチ（ディスカッション・グループワーク） 事前学習：指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間） 第15回：卒業研究への構想とミーティング（ディスカッション・グループワーク） 事前学習：指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間） 資料、文献検索などを通して管理栄養士履修科目に重要なキーワードなどに関するノート作りをすること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポートや発表（50％） 平常点（50％） （平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
自らの研究課題を設定することができるか。研究課題に関連する文献などを適切に講読できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意)
ゼミ決定については、別途ガイダンスを行う。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

生涯発達心理学 (Developmental Psychology)			担当教員	乙部 貴幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-C-2370	2 単位	3 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 関連科目					
求める学習成果(教育目標)					
学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力					

(1) 授 業 の 内 容
・人間の一生涯を発達心理学的観点から概説する。 ・人間の機能発達を最近の発達心理学の諸理論と代表的な研究法から概観する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・生涯発達の観点から人間のライフコースについて理解する。 ・人間の心理発達を機能的観点から理解する。 ・発達心理学における諸理論を実生活の経験に照らし合わせて用いることができる。 ・明確な知見が得られていない発達上の問題に対して、既存の概念を用いて考察することができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション、生涯発達心理学について 事後学習：初回課題(4時間) 第2回：感覚・知覚の仕組み 事後学習：授業内容の各自のまとめ(4時間) 第3回：学習・記憶の仕組み 事後学習：授業内容の各自のまとめ(4時間) 第4回：感情と社会性 事後学習：小レポート1(4時間) 第5回：脳の解剖学的特徴 事後学習：授業内容の各自のまとめ(4時間) 第6回：脳科学と子どもの発達 事後学習：授業内容の各自のまとめ(4時間) 第7回：遺伝と行動 事後学習：小レポート2(4時間) 第8回：胎児期・新生児期 事後学習：授業内容の各自のまとめ(4時間) 第9回：乳児期の運動と認知の発達 事後学習：授業内容の各自のまとめ(4時間) 第10回：幼児期前期の発達 事後学習：授業内容の各自のまとめ(4時間) 第11回：幼児期後期の発達 事後学習：小レポート2(4時間) 第12回：児童期の発達 事後学習：授業内容の各自のまとめ(4時間) 第13回：思春期と青年期 事後学習：授業内容の各自のまとめ(4時間) 第14回：成年期と老年期 事後学習：授業内容の各自のまとめ(4時間) 第15回：生涯発達とライフコース 事後学習：提出用の期末レポート作成(4時間)

(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
・初回課題：5 % ・小レポート（15%×3） ・期末レポート：50% の合計により評価する。
(7) 成績評価基準
・発達心理学における各概念を理解できているか。 ・授業等で解説した代表的な発達心理学の理論を知っているかどうか。 ・授業内容と自ら調べた知識を統合した上で、自分なりの意見・考えをレポートとしてまとめることができるかどうか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■授業時 ■仁大eラーニング □メール □その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■授業時 ■仁大eラーニング □メール □その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■授業時 ■仁大eラーニング □メール □その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて □定期試験時 ■仁大eラーニング □メール □その他 5) その他（発表に対するフィードバックについて） ■授業時 □仁大eラーニング □メール □その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書
テキストは指定しない。 ＜参考図書＞ 成田 朋子, 大野木 裕明, 小平 英志（編）（2018）「新・保育実践を支える保育の心理学Ⅰ」福村出版 泰羅 雅登, 中村 克樹（監訳）（2013）「カールソン神経科学テキスト 脳と行動 第4版」丸善出版
(11) その他(受講上の注意)
このシラバスの内容は、受講者数が数人～十数人を想定している。受講者数がごく少数の場合は、授業の形態や進行を柔軟に変えていく。変更が大きい場合には、修正したシラバスを受講者全員に配布する。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

食品品質評価演習 (Practice in Estimating Food Quality)			担当教員	浦本 裕美、佐藤 真実	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-D-2473	2 単位	3 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 関連科目					
求める学習成果(教育目標)					
基礎研究および食品開発ができる能力					

(1) 授 業 の 内 容
食品を選ぶという行為は、多くの背景と動機が存在しており、管理栄養士には食品についての深い知識と品質を見抜く能力が必要となる。 そこで、その能力を養う目的で、食品の生産・流通・消費についての知識、食品鑑別法、食品品質評価法（化学的評価法、物理的評価法など）を演習で学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
目の前にある食品だけでなく、その食品が消費者に届くまで、すなわち、「生産・流通」にも着目した総合判断力をもって食品の品質を見抜く力と選択能力を養う。また、食品の品質評価法を理解する。
(3) アクティブラーニング
□課題解決型学習（PBL） □討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） □グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） □発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ■実習、フィールドワーク ■実験、実技 ■その他（食品流通施設の見学、農作物の収穫体験）
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：（浦本・佐藤）ガイダンス、第3～5回の見学について説明 事前学習：シラバスに目を通し授業内容について確認したいこと等をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：日本における食品の流通システムについて調べノートにまとめておくこと。（2時間） 第2回：（浦本）個別食品の鑑別（1）食品の流通と保存 事前学習：テキストp122～124を読み、質問項目をノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：食品の保存時に気を付けなければならないことをノートにまとめておくこと。（2時間） 第3回：（浦本）個別食品の鑑別（2）武生青果と契約農家の見学 武生青果市場（その他） 事前学習：地産地消について考え、質問項目をノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：見学先での説明等を整理してレポートにまとめておくこと。（2時間） 第4回：（浦本）個別食品の鑑別（3）武生青果と契約農家の見学 契約農家①（その他） 事前学習：地産地消について考え、質問項目をノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：見学先での説明等を整理してレポートにまとめておくこと。（2時間） 第5回：（浦本）個別食品の鑑別（4）武生青果と契約農家の見学 契約農家②（その他） 事前学習：地産地消について考え、質問項目をノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：見学先での説明・体験を整理してレポートにまとめておくこと。（2時間） 第6回：（浦本）化学的評価法（米の品質検査）（1）（実験） 事前学習：配布プリントを一読し質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：実験結果と考察、及び米の保存方法についてまとめレポートにまとめること。（2時間） 第7回：（浦本）化学的評価法（果物の品質；酵素的褐変）（2）（実験） 事前学習：配布プリントを一読し質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：実験当日に配布したプリントに実験結果・考察を記入しておくこと。（2時間） 第8回：（浦本）化学的評価法（果物の品質；糖度・酸度）（3）（実験） 事前学習：テキストp50～53を読み質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：実験当日に配布したプリントに実験結果・考察を記入しておくこと。（2時間） 第9回：（佐藤）官能検査の基本と実施法 事前学習：テキストp 3～30を読み、質問項目をノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：官能評価の概要についてノートにまとめておくこと。（2時間） 第10回：（佐藤）食品の官能検査演習（統計処理を含む）（1）（実習） 事前学習：評点法で使用したい試料について、調べておくこと。（2時間） 事後学習：評点法で使用する試料について、調べておくこと。（2時間）

第11回：（佐藤）食品の官能検査演習（統計処理を含む）（2）（実習） 事前学習：テキストp22～29を読み、質問項目をノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：実験結果と考察、試料の特徴などについてまとめレポートにまとめること。（2時間） 第12回：（佐藤）物理的評価法の目的と意義 事前学習：テキストp59～63を読み、質問項目をノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：食品の状態についてノートにまとめておくこと。（2時間） 第13回：（佐藤）物理的評価法の手法について 事前学習：テキストp64～78を読み、質問項目をノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：レオロジーとテクスチャーについてノートにまとめておくこと。（2時間） 第14回：（佐藤）物理的評価演習（1）（実験） 事前学習：介護食や離乳食について調べ、ノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：実験当日に配布したプリントに実験結果・考察を記入しておくこと。（2時間） 第15回：（佐藤）物理的評価演習（2）（実験） 事前学習：テキストp64～78を読み、測定方法について理解し、質問項目をノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：実験の結果や考察より、介護食や離乳食の物性についてレポートにまとめること。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 レポート（90%）、平常点（10%） （平常点は授業への参加状況・受講態度等を総合して採点する。）
(7) 成績評価基準 食品自体の品質を評価できるだけでなく、生産・流通も考慮した広い視野を兼ね備えた品質評価および食品選択ができるか。 食品品質評価法が理解できているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 （社）日本フードスペシャリスト協会編/新版 食品の官能評価・鑑別演習（五訂版）/建帛社
(11) その他(受講上の注意) ・個別食品の鑑別では福井県中央卸売市場などへの見学も予定しており、その際は、土曜日に実施する可能性がある。 ・使用教室は、演習内容によって変更し、第1回目のガイダンスで連絡する予定である。 ・テキストは、ガイダンスを聞いた上で履修することを決定してから購入するのが望ましい。 ・授業内容は連続性があるため、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心掛けること。授業の計画予定や内容は、変更されることがある。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、第1回目のガイダンスで連絡する予定である。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

食文化論 (Dietary Culture)			担当教員	佐藤 真実	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-C-2375	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 関連科目					
求める学習成果(教育目標)					
学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力					

(1) 授 業 の 内 容
人類は与えられた気候・風土のなかで、調理・加工・保存法や調理器具・食器、さらに食事法を発達させ、その中で、食事に対する観念や作法など、食事に関する様々な習慣を生み出し、受け継いできた。この授業では、福井や日本のみならず世界の「食」を文化としての視点で学び、食べるという営みが栄養面だけでなく、心理的、社会的な充足が必要であることを理解し、広い視野で食をとらえる力を養う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
多様な食の文化的特質を理解し、各人の価値観を尊重した食生活に関わる課題の解決および新たな価値の創造ができる。 行事食や郷土料理について学び地域の食文化の特徴を知り、後世に伝える意欲を持ち、活動に繋げることができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：食と文化 事前学習：テキストの1章を読み概要をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義より、食文化を学ぶことの意味についてまとめておくこと。(2時間) 第2回：食文化の形成と展開 事前学習：テキストの1章を読み、食文化の形成に影響するものを調べてまとめておく。(2時間) 事後学習：食文化の概要、多様性についてまとめておくこと。(2時間) 第3回：食における生産・調理加工技術 事前学習：食料生産と道具のはじまりについて、食品の加工・保存技術について概要を調べておくこと。(2時間) 事後学習：テクノロジーや環境についてのつながりをまとめておくこと。(2時間) 第4回：世界の食文化形成と展開1 事前学習：テキストの2章を読み概要をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：主に西洋の食文化についてまとめておくこと。(2時間) 第5回：世界の食文化形成と展開2 事前学習：テキストの2章を読み概要をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：主にアジア諸国の食文化についてまとめておくこと。(2時間) 第6回：世界の食文化形成と展開3 事前学習：テキストの2章を読み、概要をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：主にアフリカ・アメリカ等の食文化についてまとめておくこと。(2時間) 第7回：異文化の移入が及ぼした影響(フィールドワーク・発表) 事前学習：図書館所蔵「世界の食文化シリーズ」を読み、外国の食文化を整理し、まとめておくこと。(2時間) 事後学習：あなたの食生活はどの国の影響を最も大きく受けているか考え、まとめておくこと。(2時間) 第8回：食べ物からみる食文化(発表) 事前学習：図書館所蔵「食の図書館シリーズ」を読み、食品毎に歴史を整理し、まとめておくこと。(2時間) 事後学習：今日私達の食用となっている様々な食品の歴史について、まとめておくこと。(2時間) 第9回：日本の食文化形成と展開1 事前学習：テキストの3章を読み、概要をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：講義より日本料理(あるいは日本の食)を特徴づける要因を調べてまとめておくこと。(2時間)

第10回：伝統・郷土料理と現在の日本の食の地域性 事前学習：伝統的年中行事、通過儀礼と新しい年中行事を調べてまとめておくこと。（2時間） 事後学習：上記の行事にどのような食が用意されるかまとめ、今日の動向も整理し、まとめておくこと。（2時間） 第11回：福井の食文化 事前学習：福井の郷土食を調べてまとめておくこと。（2時間） 事後学習：福井の食文化とその背景を調べてまとめておくこと。（2時間） 第12回：福井の食文化を五感で学ぶ（グループワーク・フィールドワーク） 事前学習：縄文博物館、おばま食文化館、若狭県立博物館の展示内容について調べておくこと。（2時間） 事後学習：福井の食文化についてまとめておくこと。（2時間） 第13回：越前市の食文化 事前学習：越前市の郷土食を調べてまとめておくこと。（2時間） 事後学習：越前市の食文化とその背景を調べてまとめておくこと。（2時間） 第14回：越前市の食文化を五感で学ぶ（グループワーク・フィールドワーク） 事前学習：福井県立博物館、福井県陶芸館、うるしの里会館の展示内容について調べておくこと。（2時間） 事後学習：越前市（丹南地区）の食文化についてまとめておくこと。（2時間） 第15回：食文化の現在と未来（ディスカッション・発表） 事前学習：テキストの4章を読み概要をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：講義より、日本を中心にした食の現状と未来についてまとめておくこと。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポート（発表含む）（60％） 平常点（40％） （平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断する）
(7) 成績評価基準
図書館所蔵の書籍を読み、食材や日本および世界の食文化を理解できたか。理解した内容を簡単にまとめて発表することができたか。講義を通して、先人達が残した食文化や地域の行事食や郷土料理も知ることができたか。これらの食文化継承への意義を理解し、その意欲を持つことが出来たかをレポート、発表などから評価する。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他（最終授業時に解説する） 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
現代食文化論（編著 小川聖子・野林厚志）建帛社 フードスペシャリスト論（編 日本フードスペシャリスト協会）建帛社 新版日本の食文化「和食」の継承と食育（編著 江原絢子・石川尚子）アイ・ケイコーポレーション 食べ物と健康 食文化論／食育・食生活論（編 濱口郁枝・富田圭子・小野真実）講談社 比較食文化論（編著 河合利光）建帛社 食文化入門（編 石毛直道・鄭大聲）講談社サイエンティフィク
(11) その他(受講上の注意)
指定された課題のレポート（4～5回予定）を提出すること。 課題にはフィールドワークを含みます。 第12～14回目（補講日）に嶺南の各施設（縄文博物館、おばま食文化館、若狭県立博物館）を見学する予定です。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

学校栄養教育の理論と方法 (School Health Education)			担当教員	牧野 みゆき、清川 ひろみ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-C-2375	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 関連科目					
求める学習成果(教育目標)					
学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力					

(1) 授 業 の 内 容
栄養教諭の職務内容、学校給食の教育的な意義・給食管理の実際、児童生徒の食生活を取り巻く課題、食生活の機能、地域の食文化等、栄養教諭として必要な事項を演習を交えながら学修する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
栄養教諭の職務内容、学校給食の教育的な意義、児童生徒の食生活を取り巻く課題、食生活の機能や地域の食文化について説明することができる。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：栄養教諭の役割と職務内容(牧野) 事前学習：授業前にテキストp1-13、19-27を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第2回：食生活の機能(牧野) 事前学習：授業前に事前配布資料(第1回に配布予定)を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第3回：児童および生徒の栄養に係る諸問題、健康なからだをつくる食事(牧野) 事前学習：授業前にテキストp37-40を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第4回：児童生徒の食生活の現状と問題点(牧野) 事前学習：授業前に事前配布資料(第3回に配布予定)とテキストp40-46を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第5回：日本の食文化と学校教育(牧野) 事前学習：授業前に事前配布資料(第4回に配布予定)を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第6回：学校給食の変遷と意義・目的・献立の充実(牧野) 事前学習：授業前にテキストp28-36を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第7回：学校給食の栄養・衛生・安全管理(清川) 事前学習：食品衛生学や給食経営管理論で学習した内容を復習しておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第8回：学校から家庭に対する食情報提供(1)「給食たより」の作成(清川) 【課題解決型学習】 事前学習：自身の母校や出身自治体が出している「献立表」や「給食たより」を入手し、どのような内容が書かれているかを確認しておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間)

第9回：学校から家庭に対する食情報提供（２）「給食たより」の発表（清川）【発表・プレゼンテーション】 事前学習：第9回では、各自作成の給食たよりの発表を行うので、事前に必要な資料をもとに給食たよりを作成しておくこと。（２時間） 事後学習：他の学生の作成した「たより」の良いとおもった部分を、取り入れる場合どのような改善ができるかを考え、自身の作成したたよりを見直しておくこと。（２時間） 第10回：食に関する啓発の推進（１）講話の演習 指導案作成（清川）【課題解決型学習】 事前学習：第10回の講義では、給食の時間に行う児童・生徒への指導を考えてもらうので、テキストや食に関する指導の手引きをもとに、これまでに学習した内容を整理しておくこと。（２時間） 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間） 第11回：食に関する啓発の推進（２）教材作り（清川） 事前学習：第11回の講義では、給食時間の指導用教材の作成を行うので、事前に必要な資料を図書館などで調べたり、収集しておくこと。（２時間） 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間） 第12回：学校給食における地場産物の活用方法（清川） 事前学習：これまでの学習した内容を振り返り、地場産物を学校給食や教育に活用する理由について自分の考えをまとめておくこと。（２時間） 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間） 第13回：福井県の食育の先人、石塚左玄の訓えに学ぶ（清川） 事前学習：福井県内の児童生徒が活用している「食育チャレンジ」から石塚左玄について読み解き、左玄の訓えと段階を追った指導にふれておく。（２時間） 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間） 第14回：食に関する啓発の推進（３）発表と評価①（清川・牧野）【発表・プレゼンテーション】 事前学習：第14、15回の講義では、給食の時間の指導の実演を行ってもらうので、一人5分程度で指導が行えるよう準備しておくこと。（２時間） 事後学習：他の学生の行った講話の良いとおもった部分を、取り入れる場合どのような改善ができるかを考え、発表内容を見直しておくこと。（２時間） 第15回：食に関する啓発の推進（３）発表と評価②（清川・牧野）【発表・プレゼンテーション】 事前学習：第14、15回の講義では、給食の時間の指導の実演を行ってもらうので、一人5分程度で指導が行えるよう準備しておくこと。（２時間） 事後学習：他の学生の行った講話の良いとおもった部分を、取り入れる場合どのような改善ができるかを考え、発表内容を見直しておくこと。（２時間）	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
レポート60%、平常点40% 平常点は、授業への参加状況、受講態度、模擬授業、提出物の内容等から総合的に評価する。	
(7) 成績評価基準	
栄養教諭の職務内容、学校給食の教育的な意義、児童生徒の食生活を取り巻く課題、食生活の機能や地域の食文化について説明することができるか。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性) 経歴：(元福井県栄養教諭) 実務経験と授業内容との関連性：(栄養教諭としての実務経験を活かし、栄養教諭の職務内容、学校給食の教育的な意義・給食管理の実際、児童生徒の食生活を取り巻く課題、食生活の機能、地域の食文化等、栄養教諭として必要な事項を演習を交えながら理解を深めていく。)
(10) テキスト、参考図書 <テキスト> 四訂栄養教諭論 第3版－理論と実際－，金田雅代著，建帛社，2026年 食に関する指導の手引 第二次改訂版，文部科学省，健学社，2019年 <参考図書> 栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート：1年次から使えるポートフォリオ，芦川修貳 監修，学建書院，2021年
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

食育指導の理論と方法 (School Food and Nutritional Education)			担当教員	牧野 みゆき、清川 ひろみ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-C-2376	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 関連科目					
求める学習成果(教育目標)					
学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力					

(1) 授 業 の 内 容	
栄養教諭として学校における食育をマネジメントするために必要となる、食に関する指導の全体計画作成、給食の時間や各教科等における食に関する指導の実践方法について演習を通して学修する。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
学校における食に関する指導を推進するための全体計画作成の意義、各教科等と食に関する指導の関連性について理解する。また、児童生徒への食育指導の方法を食育実践演習により修得し、食育指導を行うことができる。	
(3) アクティブラーニング	
■ 課題解決型学習(PBL) ■ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：食に関する指導の意義 学校における食育の推進の必要性(牧野) 【グループワーク】 事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間)	
第2回：食に関する指導に係る計画の作成(1) 全体計画と年間指導計画の概要(牧野) 【課題解決型学習】 事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間)	
第3回：食に関する指導に係る計画の作成(2) 全体計画と年間指導計画をつなぐために(牧野) 【課題解決型学習】 事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間)	
第4回：各教科における食に関する指導(1) 授業の計画、進め方について(牧野) 事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間)	
第5回：各教科における食に関する指導(2) 体育科保健領域 (牧野) 【グループワーク】 事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間)	
第6回：各教科における食に関する指導(3) 理科、家庭科 (牧野) 【グループワーク】 事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間)	
第7回：各教科における食に関する指導(4) 社会、総合的な学習の時間(牧野) 【グループワーク】 事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間)	
第8回：個別的な相談指導の進め方(清川) 事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間)	

第9回：学校給食を生きた教材として活用した食育の推進 楽しい食事の取り方（清川） 事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間） 第10回：学校給食を生きた教材として活用した食育の推進 食事のマナー、勤労と感謝（清川）【グループワーク】 事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間） 第11回：4年生による教育実習の報告会（清川・牧野） 事前学習：前時までの授業内容をふりかえり、学校での栄養教諭の職務内容や役割を整理しておく。（2時間） 事後学習：4年生の発表から教育実習への思いなどをまとめる。（2時間） 第12回：学校給食を生きた教材として活用するための工夫、献立の充実（清川・牧野）【発表、ディスカッション】 事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間） 第13回：食育実践演習（1）（清川・牧野）【発表、ディスカッション】 事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間） 第14回：食育実践演習（2）（清川・牧野）【発表、ディスカッション】 事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間） 第15回：食育指導の理論と方法 まとめ（清川・牧野） 事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 レポート60％，平常点40％ 平常点は、授業への参加状況、受講態度、模擬授業、提出物の内容等から総合的に評価する
(7) 成績評価基準 学校における食に関する指導を推進するための全体計画作成の意義、各教科等と食に関する指導の関連性について理解しているか。また、食育実践演習を通して、児童生徒への食育指導の方法を修得し、食育指導をすることができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 四訂栄養教諭論 第2版－理論と実際－，金田雅代著，建帛社，2021年 食に関する指導の手引 第二次改訂版，文部科学省，健学社，2019年 栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート：1年次から使えるポートフォリオ，芦川修貳 監修，学建書院，2021年

(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

フードスペシャリスト論 (Theory of Food Specialist)			担当教員	小林 恭一	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-D-2379	2 単位	3 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 関連科目					
求める学習成果(教育目標)					

(1) 授 業 の 内 容	
本授業の目的は、フードスペシャリストについて理解し、必要な基礎知識を学ぶことである。フードスペシャリストとは、食の本質が「おいしさ」、「楽しさ」、「おもてなし」にあることをしっかり学び、食に関する幅広い知識と技術を身につけた食の専門家である。フードスペシャリスト資格認定試験に必要なフードスペシャリスト論の基礎知識を学び、認定試験に合格できる力を身につける。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
①フードスペシャリストの業務について理解している。 ②食に関する他の科目と関連づけて理解できる。 ③現代社会での食品産業の役割、環境問題について認識できる。 ④氾濫する食情報について論理的に判断できる。 ⑤地域性など食文化の違いを理解し、他者を認めることできる。	
(3) アクティブラーニング	
□課題解決型学習 (PBL) ■討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 ■その他 (ICT (Google フォームを使用し、課題を呈示、インタラクティブに意見を収集))	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：フードスペシャリストとは①概念②業務とその専門性③責務 事前学習：教科書をあらかじめ読んでおいてください。(2時間) 事後学習：配付資料の整理、ノートとりまとめ。(2時間) 第2回：人類と食物(1) 狩猟採集時代～現在狩猟採取から農耕・牧畜によってもたらされたもの、良い点悪い点も含めて理解する。 事前学習：教科書をあらかじめ読んでおいてください。(2時間) 事後学習：配付資料の整理、ノートとりまとめ。(2時間) 第3回：人類と食物(2) ①食品加工 ②保存技術史食品加工の意義、目的について理解する。 事前学習：教科書をあらかじめ読んでおいてください。(2時間) 事後学習：配付資料の整理、ノートとりまとめ。(2時間) 第4回：世界の食 ①食作法 ②食の禁忌 ③世界各地の食事。 事前学習：教科書をあらかじめ読んでおいてください。(2時間) 事後学習：配付資料の整理、ノートとりまとめ。(2時間) 第5回：日本の食 ①日本食物史 ②食の地域差レポート提示(次回に提出) 事前学習：教科書をあらかじめ読んでおいてください。(2時間) 事後学習：レポート作成、配布資料の整理、ノートとりまとめ。(2時間) 第6回：現代日本の食生活(1) ①食生活の変化 ②食産業の変遷 ③食の地域差(討議) 事前学習：教科書をあらかじめ読んでおいてください。(2時間) 事後学習：配付資料の整理、ノートとりまとめ。(2時間) 第7回：現代日本の食生活(2) ①食料自給率 ②環境と食 事前学習：教科書をあらかじめ読んでおいてください。(2時間) 事後学習：配付資料の整理、ノートとりまとめ。(2時間) 第8回：フードシステムと食品産業 事前学習：教科書をあらかじめ読んでおいてください。(2時間) 事後学習：配付資料の整理、ノートとりまとめ。(2時間) 第9回：食品製造業、食品卸売業、食品小売業、外食産業 事前学習：教科書をあらかじめ読んでおいてください。(2時間) 事後学習：配付資料の整理、ノートとりまとめ。(2時間)	

第10回：食品関係法規（食品衛生法、健康増進法、JAS法他） 事前学習：教科書をあらかじめ読んでおいてください。（2時間） 事後学習：配付資料の整理、ノートとりまとめ。（2時間） 第11回：食品表示について（食品表示法、機能性表示食品、トクホ等） 事前学習：教科書をあらかじめ読んでおいてください。（2時間） 事後学習：配付資料の整理、ノートとりまとめ。（2時間） 第12回：食情報と消費者保護。 事前学習：教科書をあらかじめ読んでおいてください。（2時間） 事後学習：配付資料の整理、ノートとりまとめ。（2時間） 第13回：氾濫する食情報、フードファシズム 事前学習：教科書をあらかじめ読んでおいてください。（2時間） 事後学習：配付資料の整理、ノートとりまとめ。（2時間） 第14回：食を巡る情勢（食育、地産地消、農商工連携、6次産業化） 事前学習：教科書をあらかじめ読んでおいてください。（2時間） 事後学習：配付資料の整理、ノートとりまとめ。（2時間） 第15回：フードスペシャリストの展望 事前学習：これまでに配付した資料について見直す。（2時間） 事後学習：ノートとりまとめ。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 定期試験（60%） 小レポート（30%） 平常点（10%） （平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する）
(7) 成績評価基準 フードスペシャリストの職務、責務を理解し、食に関する幅広い知識を習得していること。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 5) その他 ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 テキスト：日本フードスペシャリスト協会編 四訂フードスペシャリスト論第7版 建帛社 （2021） 必要に応じてプリント配布。
(11) その他(受講上の注意) 食に関する総合的な知識が必要。今まで学習した食に関する科目の内容を整理し、理解しておくこと。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

フードコーディネート論 (Food Coordination)			担当教員	佐藤 真実	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-D-2380	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 関連科目					
求める学習成果(教育目標)					

(1) 授 業 の 内 容
本授業の目的は、料理形態や食事文化、献立構成、食卓の演出、食空間の設計、フードマネジメント、食環境など4について学んでいくことで、食のコーディネート力をつけることである。そのため、食物のおいしさについて基礎的な知識を持ち、食べる人がこの食に対して何を求めているのか要望を察してコーディネートすることを意識する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
フードスペシャリストの資格に必須の科目であることから、安全で健康に良い、おいしくて価格も手ごろで喫食者のニーズに合った食事を快適な食空間で提供できるようにする。 食べる人が食に対して何を求めているのかの要望を察ししてコーディネートできる。 食の企画立案、実行ができる。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(ICT(Googleフォームを使用し、課題を呈示、インタラクティブに意見を収集))
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
年度当初に指導教員と協議の上、具体的な計画を週回(授業)ごとにたてる。 第1回：ガイダンス 事前学習：指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指示に従い課題をまとめる(2時間) 第2回：食事の文化 事前学習：指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指示に従い課題をまとめる(2時間) 第3回：コーディネートの基本 事前学習：指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指示に従い課題をまとめる(2時間) 第4回：食事の文化2 事前学習：指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指示に従い課題をまとめる(2時間) 第5回：食卓のコーディネート 事前学習：指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指示に従い課題をまとめる(2時間) 第6回：食卓のサービスとマナー 事前学習：指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指示に従い課題をまとめる(2時間) 第7回：食卓のサービスとマナー2 事前学習：指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指示に従い課題をまとめる(2時間) 第8回：メニュープランニング 事前学習：指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指示に従い課題をまとめる(2時間) 第9回：食空間コーディネート 事前学習：指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指示に従い課題をまとめる(2時間)

第10回：フードサービスマネジメント 事前学習：指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間） 第11回：食企画のコーディネート【PBL】 事前学習：指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間） 第12回：色の識別について 事前学習：指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間） 第13回：コーディネートについて 事前学習：指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間） 第14回：コーディネートの発表【発表・プレゼン】 事前学習：指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間） 第15回：コーディネートの発表【発表・プレゼン】 事前学習：指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 レポート（50%） 発表（50%）
(7) 成績評価基準 講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。 自分のテーマに係る対象と方法を具体的に定め、実施に向けた準備態勢に入ることができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 三訂 フードコーディネート論 著 者 日本フードスペシャリスト協会 編 発行年月日 2012年3月15日 ISBN 978-4-7679-0440-5
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育経営論 (Educational Administration)			担当教員	小林 利幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-C-2383	2 単位	3 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間生活学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力					

(1) 授 業 の 内 容
日本国憲法・教育法規・学習指導要領に示される教育経営の理念を理解する。教育・学校・児童生徒を巡る諸課題を教育経営の観点から理解を深め、学校と地域の連携の意義と取り組み及び学校安全について自らの切実な課題として主体的に理解できるように毎授業でグループ討議を実施する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
中学校・高等学校教育・食の教育や教育行政機関の目的とその実現について教育経営の観点から理解し、社会の状況の変化と学校教育へ影響・課題・教育施策の動向の基礎的知識を身につけ、学校と地域との連携と協働の仕方を理解し、学校管理下での事件・事故・食の安全・災害の実情を踏まえて学校安全の目的と取り組みを理解することが出来る。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：教育経営論の理念と学習計画について 事前学習：教育経営論で身に付けたいことや考えたいことや教育に関する疑問点をノートにまとめること。(2時間) 事後学習：現在の自分の教育観を見つめ、まとめ、疑問点などをまとめておくこと。(2時間) 第2回：我が国の幼・保教育及び小学校教育の変遷と課題について 事前学習：学習指導要領解説総則編P146～P157で我が国の教育の変遷を整理しておくこと。(2時間) 事後学習：教育とは何か、教育経営とは何か、教育の変遷を整理しておくこと。(2時間) 第3回：子どもの生活の変化と子どもの問題及び解決策について 事前学習：子どもの問題で気になる問題とその理由及び解決策を考えてくること。(2時間) 事後学習：考えた子どもの問題の解決策と今後の取り組み計画をまとめておくこと。(2時間) 第4回：我が国の教育課題と学習指導要領の改訂について 事前学習：新聞で取り上げられている教育課題に対し、自分の考えや疑問をノートに書いてくること。(2時間) 事後学習：教育課題を繰り返さずに解決するための施策を考え、共感的に共有し合うこと。(2時間) 第5回：世界の教育の実態と教育改革の現状について 事前学習：世界各国の教育事情を集め、それぞれの課題と取り組みを紹介できるようにしてくること。(2時間) 事後学習：特徴的な課題と対策をまとめ、今後の世界の教育の改革について考えを整理すること。(2時間) 第6回：学校経営の理念と学校組織の在り方について 事前学習：特徴的な学校経営を行う学校の実践を調べて情報交換が出来るようにしてくること。(2時間) 事後学習：大きな教育成果を挙げている学校の取り組みや先駆者の思想や実践をまとめておくこと。(2時間) 第7回：憲法・教育法規・関連法規と学校教育について 事前学習：日本国憲法・教育基本法・学校教育法を熟読してくること。(2時間) 事後学習：特に日本国憲法と教育基本法を精神をまとめ、整理しておくこと。(2時間) 第8回：教育行政の仕組みと課題について 事前学習：我が国の教育行政の仕組みと改善したい問題をまとめてくること。(2時間) 事後学習：教育行政と学校教育の課題と改善策をまとめておくこと。(2時間) 第9回：学校経営と学校評価の基礎理論について 事前学習：向上・改善のための実践と評価の大切さについて具体例を挙げて考えてくること。(2時間) 事後学習：学校評価の具体例を整理し、学校経営の充実・改善の取り組みを整理しておくこと。(2時間)

第10回：学級経営の仕組みと学級経営の課題について 事前学習：改善したい学級経営上の課題と解決策を考え、整理してくる。（2時間） 事後学習：様々な学級経営上の課題を整理し、対応改善策をまとめておく。（2時間） 第11回：教職員と学校外の関係機関との連携・協働について 事前学習：閉ざされた学校が開かれた学校へと移り変わった理由を考えてくる。（2時間） 事後学習：教職員の開かれた意識形成のためにどうしたらよいかについてまとめておく。（2時間） 第12回：学校と地域との連携・協働と教職員の使命について 事前学習：各地域の実践例に触れ、紹介できるようにしてくる。（2時間） 事後学習：主な実践を整理し、今後取り組んでいきたいプランをもてるようにすること。（2時間） 第13回：開かれた学校づくりの課題と解決について 事前学習：新聞記事で取り上げられる学校紹介記事を用意し、発表できるようにしてくる。（2時間） 事後学習：多様な取り組みを整理し、開かれた学校づくりの大切さに挑むことができるようにしておく。（2時間） 第14回：学校で起こる事件、事故、災害の実情と学校安全の具体策について 事前学習：具体事案をもとに未然防止策と事前指導の在り方を考えてくる。（2時間） 事後学習：家庭・地域ぐるみで子どもの安全を守る対策を整理しておく。（2時間） 第15回：学校、地域の安全管理と安全指導の徹底について 事前学習：居住地域の防災体制や学校の安全管理と指導の現状について考えてくる。（2時間） 事後学習：地域の安全・防災の充実のために積極的に行動できるようにすること。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 学期末レポート40% 学習への意欲的な姿勢と小レポート40% グループ討議・発表20%
(7) 成績評価基準 中学校・高等学校教育・食の教育や教育行政機関の目的とその実現について教育経営の観点から理解しているか。 社会の状況の変化と学校教育へ影響・課題・教育施策の動向の基礎的知識を身につけているか。 学校と地域との連携と協働の仕方を理解し、学校管理下での事件・事故・食の安全・災害の実情を踏まえて学校安全の目的と取り組みを理解しているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他（ワークシートの学生の記入を事後まとめ、次回に配布し、共通理解に努める。） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（ワークシートを集め、学生の記入事項や学習の様子を把握・記録し、学生の書いた意見にコメントを添える。） 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 <テキスト> 小学校学習指導要領 小学校学習指導要領解説「総則編」(文部科学省 東洋館出版社 平成29年) <参考図書> 教育小六法(市川須美子・小野田正利・勝野正章・窪田眞二・中嶋哲彦・成嶋隆著 岳陽書房 平成28年) 中学校学習指導要領解説 外国語編(平成29年7月 文部科学省) 高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編(平成30年3月公示 文部科学省)
(11) その他(受講上の注意) 私語・無気力厳禁。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

特別支援教育論 (Theory of Special Educational Needs)			担当教員	水田 敏郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-C-2384	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力					

(1) 授 業 の 内 容
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解し、教育課程や支援の方法を学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：授業オリエンテーション(全15回の授業計画と全体概要。学習の仕方と成績評価) 障害の概念とその変遷 事後学習：資料のキーワード(空欄)の穴埋め。 *：ICFの評価方法について調べる(4時間) 第2回：ICFによる事例の捉え方と障害者の処遇の歴史① 事前学習：ICFの活用事例について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる(2時間) 事後学習：資料のキーワード(空欄)の穴埋めと用語の意味調べ。障害者の処遇史中盤について調べる(2時間) 第3回：障害者の処遇の歴史② 事前学習：障害者の処遇史(中盤)について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる(2時間) 事後学習：資料のキーワード(空欄)の穴埋めと用語の意味調べ。障害者の処遇史(後半)について調べる(2時間) 第4回：障害者の処遇の歴史③ 事前学習：障害者の処遇史(後半)について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる(2時間) 事後学習：資料のキーワード(空欄)の穴埋めと用語の意味調べ。障害者の支援の理念について調べる(2時間) 第5回：特別支援教育の現状①「障害者支援の理念」 事前学習：障害者支援の理念(後半)について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる(2時間) 事後学習：資料のキーワード(空欄)の穴埋めと用語の意味調べ。特別支援教育の法的枠組みについて調べる(2時間) 第6回：特別支援教育の現状②「特別支援教育の法的枠組み①」 事前学習：特別支援教育の法的枠組みについて予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる(2時間) 事後学習：資料のキーワード(空欄)の穴埋めと用語の意味調べ。特別支援教育の法的枠組みについて調べる。(2時間) 第7回：特別支援教育の現状③「特別支援教育の法的枠組み②」(ディスカッション) 事前学習：特別支援教育の法的枠組みについて予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる(2時間) 事後学習：資料のキーワード(空欄)の穴埋めと用語の意味調べ。特別支援教育の法的枠組みについて調べる(2時間)

第8回：特別支援教育の現状④「特別支援教育の法的枠組み③」 事前学習：特別支援教育の法的枠組みについて予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（2時間） 事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。特別支援教育の法的枠組みについて調べる（2時間） 第9回：特別支援教育の現状⑤「個別的教育支援計画・指導計画」 事前学習：個別的教育支援計画・指導計画について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（2時間） 事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。視覚障害について調べる（2時間） 第10回：特別支援教育の対象①「視覚障害の理解と支援」 事前学習：視覚障害について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（2時間） 事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。聴覚障害について調べる（2時間） 第11回：特別支援教育の対象②「聴覚障害の理解と支援」（ディスカッション） 事前学習：聴覚障害について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（2時間） 事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。知的障害について調べる（2時間） 第12回：特別支援教育の対象③「知的障害の理解と支援」 事前学習：知的障害について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（2時間） 事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。肢体不自由について調べる（2時間） 第13回：特別支援教育の対象④「肢体不自由の理解と支援」 事前学習：肢体不自由について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（2時間） 事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。重複障害について調べる（2時間） 第14回：特別支援教育の対象⑤「重複障害の理解と支援」 事前学習：重複障害について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（2時間） 事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。肢体不自由について調べる（2時間） 第15回：特別支援教育の対象⑥と支援体制の構築「病弱児の理解と支援、連携の必要性」 事前学習：病弱児について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（2時間） 事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。 *：特別支援教育を行う上で、教師や保育士に必要な資質は何か考えをまとめる（2時間） 上記のうち、*は小レポート。 各回の講義を受講した後、当該部分の配布資料をよく読んで復習してください。また、予習にあたっては次の授業の内容部分をよく見て、疑問点などをもって授業に臨んでください。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 ①出席状況と②課題評価（全2回の予定）の2つで行います。 配分は以下の通りです。 ①出席状況→40%（40点）、②課題評価→60%（60点＝30点×2回）
(7) 成績評価基準 ■通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害について理解できたか。 ■特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解できたか。 ■個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解できたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■授業時 □仁大eラーニング ■メール □その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■授業時 □仁大eラーニング □メール □その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■授業時 □仁大eラーニング □メール □その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて □定期試験時 □仁大eラーニング □メール □その他 5) その他 □授業時 □仁大eラーニング □メール □その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

(10) テキスト、参考図書

参考図書：『知的障害の心理学——発達支援からの理解』小池敏英・北島善夫著 北大路書房（2001）
『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所著 ジアース教育新社出版（2015）
『キーワードブック特別支援教育』（玉村公二彦・清水貞夫・黒田学・向井啓二編、クリエイツかもがわ出版、平成27年）
プリントも授業中に配布

(11) その他(受講上の注意)

障害に対する理解を得たり、疑問点を解決しようとするなど、目的意識をもって受講することを期待します。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

道徳教育の理論と方法 (Theory and Methods of Moral Education)			担当教員	高野 秀晴	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-C-2386	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力					

(1) 授 業 の 内 容
学校で道徳教育をいかに行うかが大きな課題となっている。本授業では、この古くて新しい課題について理解を深めたいと、学習指導要領に示される道徳教育の目標や内容について考察していく。これと並行して、グループごとに指導案を作成し、順次模擬授業を実施してもらう。これらの作業を通じて、道徳教育の指導法について検討していく。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を説明できる。 ・ 道徳教育における指導計画の必要性を理解したうえで教材研究を行い、適切な指導法にもとづく授業計画を立てることができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(模擬授業)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 事前学習：シラバスをよく読み、学修計画を立てる。(2時間) 事後学習：参考図書を検索し読書計画を立てるとともに、指導案の作成計画を立てる。(2時間) 第2回：道徳教育の難しさ(1)——道徳は知識なのか行為なのか 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間) 第3回：道徳教育の難しさ(2)——宗教と道徳について 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間) 第4回：道徳教育の難しさ(3)——評価のあり方について 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間) 第5回：道徳性発達理論についての考察 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間) 第6回：学習指導要領を読む——第1章「総則」、第3章「特別の教科 道徳」 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間) 第7回：教材研究(1)——『心のノート』と『私たちの道徳』を中心に(グループワーク) 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間) 第8回：教材研究(2)——読み物教材の使い方(グループワーク) 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間) 第9回：日本における道徳教育の歴史 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間) 第10回：指導法の検討(1)——インカレセッション(模擬授業、討議) 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案を作成または修正する。(2時間) 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)

第11回：指導法の検討（2）——ディベート（模擬授業、討議） 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案を作成または修正する。（2時間） 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（2時間） 第12回：指導法の検討（3）——モラルジレンマ（模擬授業、討議） 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案を作成または修正する。（2時間） 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（2時間） 第13回：指導法の検討（4）——ロールプレイ（模擬授業、討議） 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案を作成または修正する。（2時間） 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（2時間） 第14回：指導法の検討（5）——構成的グループエンカウンター（模擬授業、討議） 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案を作成または修正する。（2時間） 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案を作成または修正する。（2時間） 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（50%） 指導案の内容（25%） 平常点（25%） （平常点は、授業への参加状況、授業時の課題の内容、模擬授業に対する講評の内容をもとに評価する。）
(7) 成績評価基準
・ 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を説明できるか。 ・ 道徳教育における指導計画の必要性を理解したうえで教材研究を行い、適切な指導法にもとづく授業計画を立てることができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト：「小学校学習指導要領」（平成29年3月告示 文部科学省）、「中学校学習指導要領」（平成29年3月告示 文部科学省） 参考図書：授業時に指示する。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

生徒・進路指導論 (Educational Guidance and Consultation)			担当教員	黒田 祐二	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-C-2390	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力					

(1) 授 業 の 内 容
授業計画の前半は生徒指導、後半は進路指導（キャリア教育）について講義する。どちらにおいても、まず概要と原理について講義し、次に全体指導や個別指導の具体的な進め方について講義するという順序で進める。全体指導や個別指導に関する授業では、グループ・ディスカッションや討論も取り入れる。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
生徒指導及び進路指導（キャリア教育）の考え方や方法を学ぶことを通して、指導を効果的に進めていくために必要な知識、技能、素養を身につける。また、校内外の関係者と連携しながら学校全体で組織的に生徒・進路指導を進めていくことの意義や重要性を理解し、その具体的な方法について知識を身につける。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☒ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：生徒指導の概要 ― 教育課程における位置づけと生徒指導の意義、生徒指導が機能する場面や領域、生徒指導の体制とその運営、生徒指導に関わる主な法令 事前学習：テキスト等を参考にして生徒指導の定義や概要について予習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間） 第2回：生徒指導の意義と原理1 ― 発達観と指導観 事前学習：テキスト等を参考にして発達観と指導観について予習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間） 第3回：生徒指導の意義と原理2 ― 集団指導と個別指導の方法原理 事前学習：テキスト等を参考にして集団指導と個別指導について予習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間） 第4回：児童生徒の理解と指導 ― 児童生徒の心理を踏まえた指導のあり方 事前学習：テキスト等を参考にして児童生徒の心理について予習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間） 第5回：全体指導の進め方1 ― 自己肯定感や存在感を育てる生徒指導 事前学習：テキスト等を参考にして自己肯定感や存在感の育て方について予習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間） 第6回：全体指導の進め方2 ― 自己指導能力を育てる生徒指導 事前学習：テキスト等を参考にして自己指導能力とその育て方について予習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間） 第7回：個別指導の進め方1 ― いじめの理解と対応（ディスカッションを含む） 事前学習：テキスト等を参考にしていじめの理解と対応について予習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間） 第8回：個別指導の進め方2 ― 非行の理解と対応（ディスカッションを含む） 事前学習：テキスト等を参考にして非行の理解と対応について予習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間）

- 第9回：個別指導の進め方3 ― 不登校の理解と対応（ディスカッションを含む）
事前学習：テキスト等を参考にして不登校の理解と対応について予習しておくこと（2時間）
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間）
- 第10回：個別指導の進め方4 ― 今日的な問題行動と校内外の連携のあり方
事前学習：テキスト等を参考にして校内外の連携について予習しておくこと（2時間）
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間）
- 第11回：進路指導の概要 ― 教育課程における位置づけ、進路指導とキャリア教育の関係、キャリア形成に関する今日の課題とキャリア教育の重要性
事前学習：テキスト等を参考にして進路指導の定義と概要を予習しておくこと（2時間）
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間）
- 第12回：全体指導の進め方1 ― ガイダンスとしての指導、発達段階毎の進路指導・キャリア教育のあり方と進め方
事前学習：テキスト等を参考にして発達段階毎のキャリア教育について予習しておくこと（2時間）
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間）
- 第13回：全体指導の進め方2 ― キャリア教育の視点を取り入れたカリキュラムの編成と実施、キャリア教育と教科・特別活動・総合的な学習の時間との関係
事前学習：テキスト等を参考にしてキャリア教育と他の教育活動との関係について予習しておくこと（2時間）
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間）
- 第14回：個別指導の進め方1 ― 自己理解・自己評価とキャリア形成の関係、ポートフォリオの作成と活用例
事前学習：テキスト等を参考にしてキャリア教育の進め方について予習しておくこと（2時間）
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間）
- 第15回：個別指導の進め方2 ― キャリア・カウンセリングの考え方と実践方法
事前学習：テキスト等を参考にしてキャリア・カウンセリングについて予習しておくこと（2時間）
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間）
- 第16回：定期試験

(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

(6) 成績評価方法

定期試験（80%） 小テスト（20%）

(7) 成績評価基準

1. 生徒・進路指導に関する基本的な知識と考え方を身につけたかどうか。
2. 生徒・進路指導上の諸問題に実践的に対応するための視点やスキルを身につけたかどうか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて
☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール
☐その他
- 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール
☐その他
- 3) 小レポートに対するフィードバックについて
☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール
☐その他
- 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール
☐その他
- 5) その他
☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール
☐その他

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト：黒田祐二・清水貴裕・永作稔（編集）『実践につながる生徒指導・キャリア教育』北樹出版（令和6年） 参考図書：文部科学省『生徒指導提要』（2022年改訂版）※文部科学省のホームページからダウンロードできます。
(11) その他(受講上の注意)
講義のみならずディスカッションも多く取り入れるため、これらに積極的に取り組めることが大切です。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

特別支援教育論 (Theory of Special Educational Needs)			担当教員	水田 敏郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-D-2309	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 基幹科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解					

(1) 授 業 の 内 容
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解し、教育課程や支援の方法を学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：授業オリエンテーション(全15回の授業計画と全体概要。学習の仕方と成績評価) 障害の概念とその変遷 事後学習：資料のキーワード(空欄)の穴埋め。 *：ICFの評価方法について調べる(4時間) 第2回：ICFによる事例の捉え方と障害者の処遇の歴史① 事前学習：ICFの活用事例について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる(2時間) 事後学習：資料のキーワード(空欄)の穴埋めと用語の意味調べ。障害者の処遇史中盤について調べる(2時間) 第3回：障害者の処遇の歴史② 事前学習：障害者の処遇史(中盤)について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる(2時間) 事後学習：資料のキーワード(空欄)の穴埋めと用語の意味調べ。障害者の処遇史(後半)について調べる(2時間) 第4回：障害者の処遇の歴史③ 事前学習：障害者の処遇史(後半)について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる(2時間) 事後学習：資料のキーワード(空欄)の穴埋めと用語の意味調べ。障害者の支援の理念について調べる(2時間) 第5回：特別支援教育の現状①「障害者支援の理念」 事前学習：障害者支援の理念(後半)について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる(2時間) 事後学習：資料のキーワード(空欄)の穴埋めと用語の意味調べ。特別支援教育の法的枠組みについて調べる(2時間) 第6回：特別支援教育の現状②「特別支援教育の法的枠組み①」 事前学習：特別支援教育の法的枠組みについて予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる(2時間) 事後学習：資料のキーワード(空欄)の穴埋めと用語の意味調べ。特別支援教育の法的枠組みについて調べる。(2時間) 第7回：特別支援教育の現状③「特別支援教育の法的枠組み②」(ディスカッション) 事前学習：特別支援教育の法的枠組みについて予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる(2時間) 事後学習：資料のキーワード(空欄)の穴埋めと用語の意味調べ。特別支援教育の法的枠組みについて調べる(2時間)

第8回：特別支援教育の現状④「特別支援教育の法的枠組み③」 事前学習：特別支援教育の法的枠組みについて予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（2時間） 事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。特別支援教育の法的枠組みについて調べる（2時間） 第9回：特別支援教育の現状⑤「個別的教育支援計画・指導計画」 事前学習：個別的教育支援計画・指導計画について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（2時間） 事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。視覚障害について調べる（2時間） 第10回：特別支援教育の対象①「視覚障害の理解と支援」 事前学習：視覚障害について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（2時間） 事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。聴覚障害について調べる（2時間） 第11回：特別支援教育の対象②「聴覚障害の理解と支援」（ディスカッション） 事前学習：聴覚障害について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（2時間） 事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。知的障害について調べる（2時間） 第12回：特別支援教育の対象③「知的障害の理解と支援」 事前学習：知的障害について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（2時間） 事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。肢体不自由について調べる（2時間） 第13回：特別支援教育の対象④「肢体不自由の理解と支援」 事前学習：肢体不自由について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（2時間） 事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。重複障害について調べる（2時間） 第14回：特別支援教育の対象⑤「重複障害の理解と支援」 事前学習：重複障害について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（2時間） 事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。肢体不自由について調べる（2時間） 第15回：特別支援教育の対象⑥と支援体制の構築「病弱児の理解と支援、連携の必要性」 事前学習：病弱児について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（2時間） 事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。 *：特別支援教育を行う上で、教師や保育士に必要な資質は何か考えをまとめる（2時間） 上記のうち、*は小レポート。 各回の講義を受講した後、当該部分の配布資料をよく読んで復習してください。また、予習にあたっても次の授業の内容部分をよく見て、疑問点などをもって授業に臨んでください。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 ①出席状況と②課題評価（全2回の予定）の2つで行います。 配分は以下の通りです。 ①出席状況→40%（40点）、②課題評価→60%（60点＝30点×2回）
(7) 成績評価基準 ■通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害について理解できたか。 ■特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解できたか。 ■個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解できたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■授業時 □仁大eラーニング ■メール □その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■授業時 □仁大eラーニング □メール □その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■授業時 □仁大eラーニング □メール □その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて □定期試験時 □仁大eラーニング □メール □その他 5) その他 □授業時 □仁大eラーニング □メール □その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

(10) テキスト、参考図書
参考図書：『知的障害の心理学 ― 発達支援からの理解』小池敏英・北島善夫著 北大路書房（2001） 『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所著 ジアース教育新社出版（2015） 『キーワードブック特別支援教育』（玉村公二彦・清水貞夫・黒田学・向井啓二編、クリエイツかもがわ出版、平成27年） プリントも授業中に配布
(11) その他(受講上の注意)
障害に対する理解を得たり、疑問点を解決しようとするなど、目的意識をもって受講することを期待します。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育経営論 (Educational Administration)			担当教員	小林 利幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-A-2300	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 基幹科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の基礎理論の理解					

(1) 授 業 の 内 容
日本国憲法・教育法規・学習指導要領に示される教育経営の理念を理解する。教育・学校・子どもを巡る諸課題を教育経営の観点から理解を深め、学校と地域の連携の意義と取り組み及び学校安全について自分の切実な課題として理解できるように毎授業でグループ討議を実施する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
保育園・幼稚園・小学校教育や教育行政機関の目的とその実現について教育経営の観点から理解し、社会の状況の変化と学校教育への影響・課題・教育施策の動向の基礎的知識を身につけ、学校と地域との連携と協働の仕方を理解し、学校管理下での事件・事故・災害の実情を踏まえて学校安全の目的と取り組みを理解することが出来る。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：教育経営論の理念と学習計画について 事前学習：教育経営論で身に付けたいことや考えたいことや教育に関する疑問点をノートにまとめること。(2時間) 事後学習：現在の自分の教育観を見つめ、まとめ、疑問点などをまとめておくこと。(2時間) 第2回：我が国の幼・保教育及び小学校教育の変遷と課題について 事前学習：学習指導要領解説総則編P146～P157で我が国の教育の変遷を整理しておくこと。(2時間) 事後学習：教育とは何か、教育経営とは何か、教育の変遷を整理しておくこと。(2時間) 第3回：子どもの生活の変化と子どもの問題及び解決策について 事前学習：子どもの問題で気になる問題とその理由及び解決策を考えてくること。(2時間) 事後学習：考えた子どもの問題の解決策と今後の取り組み計画をまとめておくこと。(2時間) 第4回：我が国の教育課題と学習指導要領の改訂について 事前学習：新聞で取り上げられている教育課題に対し、自分の考えや疑問をノートに書いてくること。(2時間) 事後学習：教育課題を繰り返さずに解決するための施策を考え、共感的に共有し合うこと。(2時間) 第5回：世界の教育の実態と教育改革の現状について 事前学習：世界各国の教育事情を集め、それぞれの課題と取り組みを紹介できるようにしてくること。(2時間) 事後学習：特徴的な課題と対策をまとめ、今後の世界の教育の改革について考えを整理すること。(2時間) 第6回：学校経営の理念と学校組織の在り方について 事前学習：特徴的な学校経営を行う学校の実践を調べて情報交換が出来るようにしてくること。(2時間) 事後学習：大きな教育成果を挙げている学校の取り組みや先駆者の思想や実践をまとめておくこと。(2時間) 第7回：憲法・教育法規・関連法規と学校教育について 事前学習：日本国憲法・教育基本法・学校教育法を熟読してくること。(2時間) 事後学習：特に日本国憲法と教育基本法を精神をまとめ、整理しておくこと。(2時間) 第8回：教育行政の仕組みと課題について 事前学習：我が国の教育行政の仕組みと改善したい問題をまとめてくること。(2時間) 事後学習：教育行政と学校教育の課題と改善策をまとめておくこと。(2時間) 第9回：学校経営と学校評価の基礎理論について 事前学習：向上・改善のための実践と評価の大切さについて具体例を挙げて考えてくること。(2時間) 事後学習：学校評価の具体例を整理し、学校経営の充実・改善の取り組みを整理しておくこと。(2時間)

第10回：学級経営の仕組みと学級経営の課題について 事前学習：改善したい学級経営上の課題と解決策を考え、整理してくる。（2時間） 事後学習：様々な学級経営上の課題を整理し、対応改善策をまとめておく。（2時間） 第11回：教職員と学校外の関係機関との連携・協働について 事前学習：閉ざされた学校が開かれた学校へと移り変わった理由を考えてくる。（2時間） 事後学習：教職員の開かれた意識形成のためにどうしたらよいかについてまとめておく。（2時間） 第12回：学校と地域との連携・協働と教職員の使命について 事前学習：各地域の実践例に触れ、紹介できるようにしてくる。（2時間） 事後学習：主な実践を整理し、今後取り組んでいきたいプランをもてるようにすること。（2時間） 第13回：開かれた学校づくりの課題と解決について 事前学習：新聞記事で取り上げられる学校紹介記事を用意し、発表できるようにしてくる。（2時間） 事後学習：多様な取り組みを整理し、開かれた学校づくりの大切さに挑むことができるようにしておく。（2時間） 第14回：学校で起こる事件、事故、災害の実情と学校安全の具体策について 事前学習：具体事案をもとに未然防止策と事前指導の在り方を考えてくる。（2時間） 事後学習：家庭・地域ぐるみで子どもの安全を守る対策を整理しておく。（2時間） 第15回：学校、地域の安全管理と安全指導の徹底について 事前学習：居住地域の防災体制や学校の安全管理と指導の現状について考えてくる。（2時間） 事後学習：地域の安全・防災の充実のために積極的に行動できるようにすること。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 学期末レポート40% 学習への意欲的な姿勢と小レポート40% グループ討議・発表20%
(7) 成績評価基準 保育園・幼稚園・小学校教育や教育行政機関の目的とその実現について教育経営の観点から理解しているか。 社会の状況の変化と学校教育への影響・課題・教育施策の動向の基礎的知識を身につけ、学校と地域との連携と協働の仕方を理解しているか。 学校管理下での事件・事故・災害の実情を踏まえて学校安全の目的と取り組みを理解することができているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他（ワークシートの学生の記入を事後まとめ、次回に配布し、共通理解に努める。） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（ワークシートを集め、学生の記入事項や学習の様子を把握・記録し、学生の書いた意見に全てコメントを添える。） 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 <テキスト> 小学校学習指導要領 小学校学習指導要領解説「総則編」(文部科学省 東洋館出版社 平成29年) <参考図書> 教育小六法(市川須美子・小野田正利・勝野正章・窪田眞二・中嶋哲彦・成嶋隆著 岳陽書房 平成28年) 保育所保育指針解説書(厚生労働省 フレーベル館 平成20年) 幼稚園教育指導要領(文部科学省 フレーベル館 平成20年)
(11) その他(受講上の注意) 私語・無気力厳禁。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

道徳教育の理論と方法 (Theory and Methods of Moral Education)			担当教員	高野 秀晴	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-B-2306	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 基幹科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
学校で道徳教育をいかに行うかが大きな課題となっている。本授業では、この古くて新しい課題について理解を深めたいと、学習指導要領に示される道徳教育の目標や内容について考察していく。これと並行して、グループごとに指導案を作成し、順次模擬授業を実施してもらう。これらの作業を通じて、道徳教育の指導法について検討していく。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を説明できる。 ・ 道徳教育における指導計画の必要性を理解したうえで教材研究を行い、適切な指導法にもとづく授業計画を立てることができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(模擬授業)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 事前学習：シラバスをよく読み、学修計画を立てる。(2時間) 事後学習：指導案の作成計画を立てる。(2時間) 第2回：道徳教育の難しさ(1) — 道徳は知識なのか行為なのか 事前学習：授業内容に関連する情報を検索して集めるとともに、指導案の作成を進める。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間) 第3回：道徳教育の難しさ(2) — 宗教と道徳について 事前学習：授業内容に関連する情報を検索して集めるとともに、指導案の作成を進める。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間) 第4回：道徳教育の難しさ(3) — 評価のあり方について 事前学習：授業内容に関連する情報を検索して集めるとともに、指導案の作成を進める。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間) 第5回：道徳性発達理論についての考察 事前学習：授業内容に関連する情報を検索して集めるとともに、指導案の作成を進める。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間) 第6回：学習指導要領を読む — 第1章「総則」、第3章「特別の教科 道徳」 事前学習：授業内容に関連する情報を検索して集めるとともに、指導案の作成を進める。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間) 第7回：教材研究(1) — 『心のノート』と『私たちの道徳』を中心に(グループワーク) 事前学習：授業内容に関連する情報を検索して集めるとともに、指導案の作成を進める。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間) 第8回：教材研究(2) — 読み物教材の使い方(グループワーク) 事前学習：授業内容に関連する情報を検索して集めるとともに、指導案の作成を進める。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間) 第9回：日本における道徳教育の歴史 事前学習：授業内容に関連する情報を検索して集めるとともに、指導案の作成を進める。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間) 第10回：指導法の検討(1) — インカレケーション(模擬授業、討議) 事前学習：授業内容に関連する情報を検索して集めるとともに、指導案を作成または修正する。(2時間) 事後学習：授業内容をノートにまとめる。(2時間)

第11回：指導法の検討（2）——ディベート（模擬授業、討議） 事前学習：授業内容に関連する情報を検索して集めるとともに、指導案を作成または修正する。（2時間） 事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間） 第12回：指導法の検討（3）——モラルジレンマ（模擬授業、討議） 事前学習：授業内容に関連する情報を検索して集めるとともに、指導案を作成または修正する。（2時間） 事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（2時間） 第13回：指導法の検討（4）——ロールプレイ（模擬授業、討議） 事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間） 事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間） 第14回：指導法の検討（5）——構成的グループエンカウンター（模擬授業、討議） 事前学習：授業内容に関連する情報を検索して集めるとともに、指導案を作成または修正する。（2時間） 事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：授業内容に関連する情報を検索して集めるとともに、指導案を作成または修正する。（2時間） 事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（50%） 指導案の内容（25%） 平常点（25%） （平常点は、授業への参加状況、授業時の課題の内容、模擬授業に対する講評の内容をもとに評価する。）
(7) 成績評価基準
・道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を説明できるか。 ・道徳教育における指導計画の必要性を理解したうえで教材研究を行い、適切な指導法にもとづく授業計画を立てることができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト：「小学校学習指導要領」（平成29年3月告示 文部科学省）、「中学校学習指導要領」（平成29年3月告示 文部科学省） 参考図書：授業時に指示する。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

生徒・進路指導論 (Educational Guidance and Consultation)			担当教員	黒田 祐二	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-D-2310	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 基幹科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解					

(1) 授 業 の 内 容
授業計画の前半は生徒指導、後半は進路指導（キャリア教育）について講義する。どちらにおいても、まず概要と原理について講義し、次に全体指導や個別指導の具体的な進め方について講義するという順序で進める。全体指導や個別指導に関する授業では、グループ・ディスカッションや討論も取り入れる。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
生徒指導及び進路指導（キャリア教育）の考え方や方法を学ぶことを通して、指導を効果的に進めていくために必要な知識、技能、素養を身につける。また、校内外の関係者と連携しながら学校全体で組織的に生徒・進路指導を進めていくことの意義や重要性を理解し、その具体的な方法について知識を身につける。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☒ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：生徒指導の概要 ― 教育課程における位置づけと生徒指導の意義、生徒指導が機能する場面や領域、生徒指導の体制とその運営、生徒指導に関わる主な法令 事前学習：テキスト等を参考にして生徒指導の定義や概要について予習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間） 第2回：生徒指導の意義と原理1 ― 発達観と指導観 事前学習：テキスト等を参考にして発達観と指導観について予習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間） 第3回：生徒指導の意義と原理2 ― 集団指導と個別指導の方法原理 事前学習：テキスト等を参考にして集団指導と個別指導について予習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間） 第4回：児童生徒の理解と指導 ― 児童生徒の心理を踏まえた指導のあり方 事前学習：テキスト等を参考にして児童生徒の心理について予習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間） 第5回：全体指導の進め方1 ― 自己肯定感や存在感を育てる生徒指導 事前学習：テキスト等を参考にして自己肯定感や存在感の育て方について予習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間） 第6回：全体指導の進め方2 ― 自己指導能力を育てる生徒指導 事前学習：テキスト等を参考にして自己指導能力とその育て方について予習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間） 第7回：個別指導の進め方1 ― いじめの理解と対応（ディスカッションを含む） 事前学習：テキスト等を参考にしていじめの理解と対応について予習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間） 第8回：個別指導の進め方2 ― 非行の理解と対応（ディスカッションを含む） 事前学習：テキスト等を参考にして非行の理解と対応について予習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間）

第9回：個別指導の進め方3 ― 不登校の理解と対応（ディスカッションを含む） 事前学習：テキスト等を参考にして不登校の理解と対応について予習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間） 第10回：個別指導の進め方4 ― 今日的な問題行動と校内外の連携のあり方 事前学習：テキスト等を参考にして校内外の連携について予習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間） 第11回：進路指導の概要 ― 教育課程における位置づけ、進路指導とキャリア教育の関係、キャリア形成に関する今日の課題とキャリア教育の重要性 事前学習：テキスト等を参考にして進路指導の定義と概要を予習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間） 第12回：全体指導の進め方1 ― ガイダンスとしての指導、発達段階毎の進路指導・キャリア教育のあり方と進め方 事前学習：テキスト等を参考にして発達段階毎のキャリア教育について予習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間） 第13回：全体指導の進め方2 ― キャリア教育の視点を取り入れたカリキュラムの編成と実施、キャリア教育と教科・特別活動・総合的な学習の時間との関係 事前学習：テキスト等を参考にしてキャリア教育と他の教育活動との関係について予習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間） 第14回：個別指導の進め方1 ― 自己理解・自己評価とキャリア形成の関係、ポートフォリオの作成と活用例 事前学習：テキスト等を参考にしてキャリア教育の進め方について予習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間） 第15回：個別指導の進め方2 ― キャリア・カウンセリングの考え方と実践方法 事前学習：テキスト等を参考にしてキャリア・カウンセリングについて予習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし、あれば次回質問すること（2時間） 第16回：定期試験	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
定期試験（80%） 小テスト（20%）	
(7) 成績評価基準	
1. 生徒・進路指導に関する基本的な知識と考え方を身につけたかどうか。 2. 生徒・進路指導上の諸問題に実践的に対応するための視点やスキルを身につけたかどうか。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	

(10) テキスト、参考図書
テキスト：黒田祐二・清水貴裕・永作稔（編集）『実践につながる生徒指導・キャリア教育』北樹出版（令和6年） 参考図書：文部科学省『生徒指導提要』（2022年改訂版）※文部科学省のホームページからダウンロードできます。
(11) その他(受講上の注意)
講義のみならずディスカッションも多く取り入れるため、これらに積極的に取り組めることが大切です。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育相談 (Educational Counseling)			担当教員	佐々木 雅代	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-D-2358	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 基幹科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解					

(1) 授 業 の 内 容
教育相談とは、幼児、児童及び生徒が自己理解を深め、好ましい人間関係を築きながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動の一つであることを学ぶ。 それぞれの発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を身に付ける。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
1. 学校における教育相談の意義と理論を理解する。 2. 教育相談を進める際に必要な基礎知識(カウンセリングに関する基礎的事項を含む)を理解する。 3. 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、支援者としての自己理解を深め、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：15回の全体計画と学習のポイント及び到達目標の説明。生徒指導と教育相談について。教育相談の視点から、園、学校という場、資源について知る。(ディスカッション) 事後学習：チーム学校に関し、指示した課題について、調べレポートにまとめておくこと。(3時間)
第2回：教育相談に生かす心理学的理解；教育相談とカウンセリング。見立て。事例で学ぶ、問題の背景、影響、資質のとらえ方。傾聴訓練を含むグループディスカッション。(ディスカッション) 事前学習：第1回に指定した資料を熟読しておくこと。(2時間) 事後学習：見立てについて、理解したことをレポートにまとめておくこと。(2時間)
第3回：教育相談に生かす心理学的理解；教育相談におけるアセスメントとは。教育相談技法について。予防開発的援助について。グループディスカッション。(グループワーク) 事前学習：第2回に配布した事例について、自分なりの介入プランを立てること。(2時間) 事後学習：介入プランの立て方について、ポイントをレポートにまとめておくこと。(2時間)
第4回：不登校、登園渋りについて。教育相談における対応。文科省の調査研究報告等に当たり、多角的視点によって理解の幅を広げる。(プレゼンテーション) 事前学習：文科省の調査研究報告等前回の授業で指示した資料を調べまとめ、レポートにすること。(3時間) 事後学習：学校現場でどのような対応が望ましいか、学んだことをまとめておくこと。(2時間)
第5回：子供の貧困について。架空事例に触れ、学校生活での問題の現れ方、介入に際して配慮すべきこと、社会資源を活用するという視点を得る。(ディスカッション) 事前学習：日本の実態と、どのような対策がなされているか調べレポートにまとめておくこと。(2時間) 事後学習：子供の貧困について、保育、幼児教育、学校現場でどのような対応が可能か、学んだことをまとめておくこと。(2時間)
第6回：いじめ理解、いじめ対応の基礎知識。いじめ予防について。被害者支援、加害者支援および保護者支援について理解する。(ディスカッション) 事前学習：指定したいじめ重大事態調査報告書を 通読しておく(2時間) 事後学習：授業で検討したこと、学んだことについて、まとめておくこと。(2時間)
第7回：発達障害の学校での現れ方。発達障害の流動性。支援のための人格発達仮説を学ぶ。発達障害支援シートの活用を知る。保護者支援。外部機関との連携。(ディスカッション) 事前学習：発達支援シートについて調べて、ディスカッションの資料になるように、まとめておくこと。(2時間) 事後学習：二次障害の予防と対応、連携についてまとめておくこと。(2時間)

第8回：予防開発的アプローチとしてのSSTの意味。SSTの使い方。SSTワークの体験。（グループワーク） 事前学習：第7回に配布した資料を熟読し、チェックリストを完成しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で、自分で作った宿題の回答を試みること。（2時間）	
第9回：予防開発的アプローチとしてのアサーティブトレーニングの意味。自尊感情、対等性、誠実であること、教育相談における人権について理解を深める。自己理解、他者理解。（グループワーク） 事前学習：第8回に配布した資料を熟読し、質問をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：自分にとってのアサーティブネスについて検討し、レポートにすること。（2時間）	
第10回：子どもの自殺・虐待について現状を知る。SOSの出し方教育について学ぶ。 事前学習：SOSの出し方教育について調べてまとめておく。（2時間） 事後学習：授業で扱った事例について、自分の考えをまとめる。（2時間）	
第11回：事件・事故・災害対応、危機管理について。トラウマ・インフォームド・ケアについて 事前学習：学習指導要領における性に関する指導について、文科省のホームページから調べ、発達段階に沿った指導について確認しておく。（2時間） 事後学習：授業で扱った事例について、自分の考えをまとめる。（2時間）	
第12回：傾聴演習①：聴くという姿勢・態度。傾聴の技術を体験的に学ぶ。架空事例について傾聴のロールプレイ 事前学習：第11回で配布した資料を通読しておく。（2時間） 事後学習：自分の生活の中で、身近な人の話を意図的に傾聴してみる。そして考察する。（2時間）	
第13回：傾聴演習②：他者の共感的理解 保護者支援。（ディスカッション） 事前学習：第12回で配布した資料を通読しておく。（2時間） 事後学習：自分の生活の中で、身近な人の話を意図的に傾聴してみる。そして考察する。（2時間）	
第14回：教員のメンタルヘルス。ストレスマネジメントについて。体験学習。教育相談での活かし方。（グループワーク） 事前学習：第13回に指示した、リラクゼーションの技法についてあらかじめ調べておくこと。（2時間） 事後学習：自分自身のストレスマネジメントの意義について、レポートにまとめる。（2時間）	
第15回：ふりかえり。今まで学んだことの振り返り。改めて事例をもとに、見立て、介入プランの試作。 事前学習：授業全体を振り返り、疑問や質問をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：参考図書について、指示した要点を確認しておくこと。（2時間）	
第16回：定期試験	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
小レポート（30％） 平常点（20％） 定期試験（50％） （平常点は、授業への参加状況・受講態度、課題の提出状況等を総合して判断します。）	
(7) 成績評価基準	
いじめ、不登校、発達障害について、基礎知識をもち、学校・保育現場のチームの一員としてカウンセリングマインドを生かした支援ができる。支援プランを立てることが出来る。	
(8) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック	
1）授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 ■ 仁大eラーニング □ メール □ その他	
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 ■ 仁大eラーニング □ メール □ その他	
3）小レポートに対するフィードバックについて □ 授業時 ■ 仁大eラーニング □ メール □ その他	
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて □ 定期試験時 ■ 仁大eラーニング □ メール □ その他	
5）その他 □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他	
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）	

(10) テキスト、参考図書
テキスト 森 慶輔・宮下敏恵 編著『教育相談テキストブック』金子書房 2021年 参考図書 西本絹子著『教師のための教育相談』萌文書林 2018年 文部科学省 『生徒指導提要』2022年12月改訂版 本田恵子編著『改訂版 包括的スクールカウンセリングの理論と実践: 子どもの課題の見立て方とチーム連携のあり方』金子書房 2019年
(11) その他(受講上の注意)
その都度、資料を配布します。この教科用のファイル、ノートをご準備ください。 体験学習には積極的にご参加ください。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

家庭 (Domestic Science)			担当教員	横山 美弥子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-B-2301	2 単位	3 年前期	演習	選択	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
家庭科について理論と実践を探究的に学び、科学的見地に基づいて生活における課題やその解決方法に取り組む。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
家庭科の内容について理解を深めるとともに、必要な基礎的知識及び技能を習得し、授業づくりに生かすことができる。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス ・食生活を考える（グループワークを含む） 事前学習：自分の食生活を振り返り、その課題について考える。現代における食生活の課題を調べておく。（2時間） 事後学習：食生活の課題や変化、食事の意義をレポートにまとめる。（2時間） 第2回：食品の機能 事前学習：身近な食材をひとつ選び、調理法や栄養価等について調べる。（2時間） 事後学習：身近な食品の機能についての理解を深める。（2時間） 第3回：栄養素とその機能・各栄養素を多く含む食品（その1） 事前学習：炭水化物、脂質、たんぱく質を多く含む食品を調べる。（2時間） 事後学習：炭水化物、脂質、たんぱく質の機能と多く含む食品についてまとめる。（2時間） 第4回：栄養素とその機能・各栄養素を多く含む食品（その2） 事前学習：ビタミン、ミネラルを多く含む食品を調べる。（2時間） 事後学習：ビタミン、ミネラルの機能と多く含む食品についてまとめる。（2時間） 第5回：食品の衛生と安全 調理の基礎（グループワークを含む） 事前学習：調理の基礎（包丁・計量スプーンの使い方・野菜の切り方の基本）を確認する。（2時間） 事後学習：食品の衛生と安全、調理の基礎について理解を深める。（2時間） 第6回：調理実習「米飯とみそ汁」 事前学習：日本の主要農産物「米」と日本人が古くから親しんでいる食品「みそ」について調べる。（2時間） 事後学習：米飯の調理の仕方、みそ汁の調理の仕方や材料の組み合わせについてまとめる。（2時間） 第7回：被服の役割と被服素材① 事前学習：「人は何のために着るのだろうか」をテーマに事前レポートを作成する。（2時間） 事後学習：社会生活を営む上での被服の役割を理解し、世界の衣文化について調べる。（2時間） 第8回：被服素材②と性能改善（グループワークを含む） 事前学習：毎日着用している被服の製作過程やその材料や素材について調べる。（2時間） 事後学習：身の回りで使われている機能性素材の被服を調べ、レポートにまとめる。（2時間） 第9回：被服製作実習「小物製作」 事前学習：基本的な手縫い手法について調べておく。（2時間） 事後学習：作品を完成させる。（2時間） 第10回：被服の手入れと管理（実験を含む） 事前学習：自分が着用した1日分の被服の組成表示、取り扱い表示を確認しまとめる。（2時間） 事後学習：被服の洗濯や保管方法の理解を深め、実践する。（2時間） 第11回：快適な住まい方 住まいから生活に触れる 事前学習：自分が生活する部屋の平面図を書いてみる。（2時間） 事後学習：生活の拠点となる住居の機能を理解し、世界の住文化について調べる。（2時間） 第12回：住空間の設計 理想の部屋づくりにチャレンジ 事前学習：色と色の関係（色相環）や色のイメージを調べてみる。（2時間） 事後学習：作品を完成させる。（2時間）

第13回：安全で健康な住生活の計画 事前学習：我が家の災害への備えを調べ課題はないか検討する。（2時間） 事後学習：住生活を快適に営むために防災や環境整備などを理解し、自らの住生活に生かす。（2時間） 第14回：これからの衣生活・食生活・住生活について～現状と課題～ 事前学習：「食品ロス」について調べておく。（2時間） 事後学習：これからの衣生活・食生活・住生活について、調べてみたいテーマを考えレポートにまとめる。（2時間） 第15回：消費生活と環境 持続可能な社会の構築 事前学習：エシカル消費について調べておく。（2時間） 事後学習：「SDGs」について理解を深める。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
作品・レポート（50％）授業への参加状況、取組（50％） （授業への取組は、レポートの提出状況などを総合的に判断する。）
(7) 成績評価基準
家庭科の内容について理解を深めることができたか。 生活全般について興味・関心をもち、課題解決に向けて実践的に学ぶことができたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
(1)「小学校家庭科教科書 わたしたちの家庭科5・6」鳴海多恵子 他、開隆堂 令和6年2月 (2)「小学校学習指導要領解説(家庭編)」文部科学省、東洋館出版社、平成29年度7月 ※(2)については、入手が困難な場合は、文部科学省のホームページよりデータを確認できるようにしておくこと
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英語 (English)			担当教員	紺渡 弘幸、加藤 優子、原口 治	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-B-2302	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
小学校外国語活動・外国語科の目標を確認し、授業実践に必要な聞く力、話す力〔やり取り・発表〕、読む力、書く力を身につけるとともに英語に関する基本的な知識（音声、語彙、文構造、文法等）及び第二言語習得に関する基本的な知識を理解するとともに、児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等）や異文化理解に関する事柄について知る。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
小学校における外国語活動・外国語科の授業実践に必要な実践的な英語運用力と英語に関する背景的な知識を身につける。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☒ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション・小学校外国語活動・外国語科の役割と方向（紺渡） 事前学習：事前にシラバスやテキストに目を通し、質問事項をまとめておく。（2時間） 事後学習：授業で学習した内容を振り返り、リスニング力を高める方法を検討する。（2時間） 第2回：英語のスキル（リスニング・スピーキング〔やり取り・発表〕）（紺渡） 事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。（2時間） 事後学習：授業で学習した内容を振り返り、リスニング力・スピーキング力を高める方法を検討する。（2時間） 第3回：英語のスキル（リーディング・ライティング）（紺渡） 事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。（2時間） 事後学習：授業で学習した内容を振り返り、リーディング力・ライティング力を高める方法を検討する。（2時間） 第4回：技能統合的な活動（紺渡） 事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。（2時間） 事後学習：授業で学習した内容を振り返り、効果的な技能統合的な活動の方法を検討する。（2時間） 第5回：コミュニケーション能力とその指導（紺渡） 事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。（2時間） 事後学習：授業で学習した内容を振り返り、コミュニケーション能力を高める方法を検討する。（2時間） 第6回：英語に関する基本的な知識（音声）（紺渡） 事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。（2時間） 事後学習：授業で学習した内容を振り返り、発音の練習をする。（2時間） 第7回：英語に関する基本的な知識（語彙）（紺渡） 事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。（2時間） 事後学習：授業で学習した内容を振り返り、語彙についてさらに理解を深める。（2時間） 第8回：英語に関する基本的な知識（文法・文構造）（紺渡） 事前学習：授業で学習した内容を振り返り、文法・文構造について自主的に学習する。（2時間） 事後学習：授業で学習した内容を振り返り、文法・文構造についてさらに調べる。（2時間） 第9回：第二言語習得に関する基本的な知識（第二言語習得に関する重要な理論的知識）（紺渡） 事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。（2時間） 事後学習：授業で学習した内容を振り返り、第二言語習得についてさらに調べる。（2時間） 第10回：児童文学（絵本）（原口） 事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。（2時間） 事後学習：授業で学習した内容を振り返り、課題をする。（2時間）

第11回：児童文学（子ども向けの歌）（原口） 事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。（2時間） 事後学習：授業で学習した内容を振り返り、課題をする。（2時間） 第12回：児童文学（子ども向けの詩）（原口） 事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。（2時間） 事後学習：授業で学習した内容を振り返り、課題をする。（2時間） 第13回：異文化理解（子どもの言語習得に関わる多様な文化を理解する意義）（加藤） 事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。（2時間） 事後学習：授業で学習した内容を振り返り、課題をする。（2時間） 第14回：異文化理解（異文化理解に関する基礎的な用語）（加藤） 事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。（2時間） 事後学習：授業で学習した内容を振り返り、課題をする。（2時間） 第15回：異文化理解（日本における多文化共生の現状と課題）（加藤） 事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。（2時間） 事後学習：授業で学習した内容を振り返り、課題をする。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 定期試験（50%）、課題（35%）、授業への取り組み（15%）
(7) 成績評価基準 1. 授業実践に必要な聞く力を身に付けている。 2. 授業実践に必要な話す力〔やり取り・発表〕を身に付けている。 3. 授業実践に必要な読む力を身に付けている。 4. 授業実践に必要な書く力を身に付けている。 5. 英語に関する基本的な事柄（音声、語彙、文構造、文法、正書法等）について理解している。 6. 第二言語習得に関する基本的な事柄について理解している。 7. 児童文学（絵本、子供向けの歌や詩等）について理解している。 8. 異文化理解に関する事柄について理解している。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他（模擬授業に対するフィードバックについて） ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 テキスト 最新 小学校英語内容論入門（樋口忠彦監修、泉恵美子、加賀田哲也、衣笠知子編著 研究社 令和5年） 参考書・参考資料等 小学校学習指導要領（平成29年3月公示 文部科学省） やさしい異文化理解（加藤優子著 三恵社 令和3年）
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

国語科教育法 (Teaching Methods of Japanese Language)			担当教員	平岡 正実	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-B-2351	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
学習指導要領に示された小学校国語科の目標や内容を理解する。また、基礎的な学習理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
小学校国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された国語科の内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を身につける。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習（PBL） ☒ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：新学習指導要領における国語科の目標・内容・構造の特色とその背景 事前学習：テキスト「小学校学習指導要領解説 国語編」の第1章を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：「初等国語教育の基本的視点」について、テキスト「初等国語科教育」等を見直しノートにまとめ第2回：授業で提出すること。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。（2時間） 第2回：発問 話し合い活動（課題解決型学習・発表） 事前学習：よい発問とはどのような発問か、よい話し合い活動とはどのような話し合いかについて調べておくこと。（2時間） 事後学習：図書館や書店、インターネット等で、国語教育に関してどのような書籍や雑誌があるかを探り、見つけた本の内容や読んでみたい本についてノートにまとめること。（2時間） 第3回：今日的課題「言葉による見方・考え方」、指導技術「ICTの活用」、板書の仕方（討議・実技） 事前学習：テキストの第2章を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：「メディアリテラシー・ICTの活用」について、テキスト等を見直しノートにまとめ第4回：授業で提出すること。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。（2時間） 第4回：国語科学習指導案の書き方、評価の仕方（実技・グループワーク） 事前学習：テキストの第4章（1・2）を読み、質問事項をノートにまとめておくこと（2時間） 事後学習：「学習指導案が持つ意義と指導案作成の実践」について、テキスト等を見直しノートにまとめ第5回：授業で提出すること。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。（2時間） 第5回：教材研究の方法と学習指導案作成①「読むこと」の教育（物語文教材）（グループワーク・発表） 事前学習：テキストの第3章第1節（2 思考力・判断力・表現力等）を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：「文学的文章を読むこと」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめ第6回：授業で提出すること。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。（2時間） 第6回：教材研究の方法と学習指導案作成②「読むこと」の教育（説明文教材）（グループワーク・発表） 事前学習：テキストの第3章第2節（2 思考力・判断力・表現力等）を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：「説明的文章を読むこと」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめ第7回：授業で提出すること。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。（2時間）

- 第7回：教材研究の方法と学習指導案作成③「書くこと（書写を含む）」の教育（グループワーク・発表）
 事前学習：テキストの第3章第3節（2 思考力・判断力・表現力等）を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。（2時間）
 事後学習：「書くこと」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめ第8回：授業で提出すること。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。（2時間）
- 第8回：教材研究の方法と学習指導案作成④「話すこと・聞くこと」の教育（グループワーク・発表）
 事前学習：テキストの第4章（3）を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。
 事前学習：「話すこと・聞くこと」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめておくこと。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。（2時間）
 事後学習：「話すこと・聞くこと」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめ第9回：授業で提出すること。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。（2時間）
- 第9回：教材研究の方法と学習指導案作成⑤「知識及び技能（言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化）」の教育（グループワーク・発表）
 事前学習：テキストの第3章第1・2・3節（1 知識及び技能）を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。（2時間）
 事後学習：「国語の特質に関する事項・伝統的な言語文化」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめ第10回：授業で提出すること。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。（2時間）
- 第10回：模擬授業と省察①「読むこと」の教育（物語教材）（実技・グループワーク・討議）
 事前学習：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された単元の指導案や教具を作成・準備する。事前に配布された他者の模擬授業指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間）
 事後学習：模擬授業について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの感想（良かった点・改善点）をまとめ第11回：授業で提出すること。
 自分が模擬授業を実施した場合は、指導案と授業について各グループの評価表を参考にし、見直し、「協議から」と「感想」の2項目を付け加えて指導案を書き直すこと。（2時間）
- 第11回：模擬授業と省察②「読むこと」の教育（説明文教材）（実技・グループワーク・討議）
 事前学習：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された単元の指導案や教具を作成・準備すること。事前に配布された他者の模擬授業指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間）
 事後学習：模擬授業について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの感想（良かった点・改善点）をまとめ第12回：授業で提出すること。（2時間）
- 第12回：模擬授業と省察③「書くこと（書写を含む）」の教育（実技・グループワーク・討議）
 事前学習：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された単元の指導案や教具を作成・準備すること。事前に配布された他者の模擬授業指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間）
 事後学習：模擬授業について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの感想（良かった点・改善点）をまとめ第13回：授業で提出すること。（2時間）
- 第13回：模擬授業と省察④「話すこと・聞くこと」の教育（実技・グループワーク・討議）
 事前学習：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された単元の指導案や教具を作成・準備すること。事前に配布された他者の模擬授業指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間）
 事後学習：模擬授業について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの感想（良かった点・改善点）をまとめ第14回：授業で提出すること。（2時間）
- 第14回：模擬授業と省察⑤「知識及び技能」の教育（実技・グループワーク・討議）
 事前学習：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された単元の指導案や教具を作成・準備すること。事前に配布された他者の模擬授業指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間）
 事後学習：模擬授業について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの評価（良かった点・改善点）をまとめ第15回：授業で提出すること。（2時間）
- 第15回：指導と評価の一体化（評価を指導に生かすための具体的な手立てと工夫）（課題解決型学習・発表）
 事前学習：「初等国語教育の課題と展望」についてテキスト「初等国語科教育」の第15章を参考にしながら、ノートにまとめること。（2時間）
 事後学習：テキスト②の第15章や図書館で調べたことを参考にしながら、「①この講義を受講して、具体的に学んだこと②学び続ける国語教師になるための努力事項」についてノートにまとめ提出すること。（2時間）

(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
学期末レポート（50%）、授業内の課題レポート（30%）、模擬授業の発表内容（20%）
(7) 成績評価基準
「学習指導要領」等の基本を踏まえながら、児童の国語の力の育成に資する国語科学習指導案を作成し、実践することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
経歴：（元小・中学校教諭） 実務経験と授業内容との関連性：（小学校教諭・中学校国語科教諭として、授業実践、生徒指導実践を行ってきた経験を有する教員が、学習指導要領に示されている教科「国語」の学習指導内容およびその指導法について講義する。）
(10) テキスト、参考図書
テキスト 1. 『小学校学習指導要領（平成29年告示）』 文部科学省、東洋館出版社、平成29年 3 月 2. 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』 文部科学省、東洋館出版社、平成29年 7 月 3. 『文部科学省検定済教科書 小学校国語科用 1～6 年』 光村図書 令和 6 年 2 月 参考書・参考資料等 小学校国語科教育法（牛頭哲宏・森篤嗣著 ココ出版 平成24年） 小学校教育課程実践講座「国語」（樺山敏郎編 ぎょうせい 平成29年） 文学教材を深く読むための国語授業デザイン（三好修一郎編 明治図書 平成29年）
(11) その他(受講上の注意)
準備物については、その都度指示します。 指導案作成と模擬授業は個人でします。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

社会科教育法 (Teaching Methods of Social Science)			担当教員	西村 美貴穂	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-B-2352	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容	
学習指導要領に示された目標や内容を理解しながら、教科書分析、教材研究の方法、学習指導案の書き方、児童の実態を踏まえた授業の展開方法などについて実践的に学ぶ。また、模擬授業と授業後の検討を通して、授業の省察と改善の方法について理解を深める。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
学習指導要領の目標や内容に対応した学習活動を想起し、教材研究を活かしながら学習指導案を作成することができる。また、他者とのコミュニケーションを活かして、学習指導案を作成したり、授業を省察したりすることができる。	
(3) アクティブラーニング	
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：社会科のカリキュラム・マネジメント(グループワーク) 事前学習：『小学校学習指導要領解説社会編』P1～P16を参考に、カリキュラム・マネジメントとは、例えばどんなことをすることかについて自分の考えをまとめる。(2時間) 事後学習：社会科の授業づくりに必要なカリキュラム・マネジメントについてまとめる。(2時間) 第2回：単元の教材研究と指導計画(グループワーク) 事前学習：単元の指導計画を立てる際に、どのようなことを行うかについて考えたことをまとめる。(2時間) 事後学習：単元の指導計画を立てる際の留意点をまとめる。(2時間) 第3回：学習指導案の作成方法(グループワーク) 事前学習：学習指導案の具体例を読み、各項目がどのようなねらいで書かれているのかについてまとめる。(2時間) 事後学習：ワークシートで簡単な学習指導案を作成する。(2時間) 第4回：本時の教材研究と指導過程(グループワーク) 事前学習：学習指導案の具体例を読み、本時の学習過程はどんなねらいで書かれているのかについてまとめる。(2時間) 事後学習：意見交換したことをもとにワークシートを仕上げる。(2時間) 第5回：指導方法の工夫(1)(板書、機器や資料の活用)(グループワーク) 事前学習：学習指導上、効果的な板書とはどのようなものかについて自分の考えをまとめる。(2時間) 事後学習：第7回から作成する学習指導案の単元をどこにするかについて、教科書をもとに検討する。(2時間) 第6回：指導方法の工夫(2)(対話的な活動)(グループワーク) 事前学習：対話的な活動を行うための手立てについて自分の考えをまとめる。(2時間) 事後学習：対話的な活動を行う上での留意点についてまとめる。(2時間) 第7回：指導案作成と模擬授業に向けて(1)(課題解決型学習・グループワーク) 事前学習：グループで決めた指導案を作成する単元について、該当箇所の学習指導要領と教科書を熟読し、ワークシートに単元の指導計画を書く。(2時間) 事後学習：グループ協議をもとに、必要なことを修正しながら単元の指導計画をワークシートに書く。(2時間) 第8回：指導案作成と模擬授業に向けて(2)(課題解決型学習・グループワーク) 事前学習：ワークシートに本時の学習過程を書く。(2時間) 事後学習：グループ協議をもとに、必要なことを修正しながら本時の学習過程をワークシートに書く。(2時間)	

第9回：指導案作成と模擬授業に向けて（3）（課題解決型学習・グループワーク） 事前学習：本時の学習過程の導入部分について、発問や指示などを含めた細案をワークシートに書く。（2時間） 事後学習：必要なことを修正して提出する指導案を書くとともに、授業の準備をする。（2時間） 第10回：A、B班による模擬授業と検討（課題解決型学習・発表・討議） 事前学習：A、B班の指導案を読み着眼点をメモする。A、B班は模擬授業の準備をする。（2時間） 事後学習：今日の授業をもとに省察したことを記述する。（2時間） 第11回：C、D班による模擬授業と検討（課題解決型学習・発表・討議） 事前学習：C、D班の指導案を読み着眼点をメモする。C、D班は模擬授業の準備をする。（2時間） 事後学習：今日の授業をもとに省察したことを記述する。（2時間） 第12回：E、F班による模擬授業と検討（課題解決型学習・発表・討議） 事前学習：E、F班の指導案を読み着眼点をメモする。E、F班は模擬授業の準備をする。（2時間） 事後学習：今日の授業をもとに省察したことを記述する。（2時間） 第13回：G、H班による模擬授業と検討（課題解決型学習・発表・討議） 事前学習：G、H班の指導案を読み着眼点をメモする。G、H班は模擬授業の準備をする。（2時間） 事後学習：今日の授業をもとに省察したことを記述する。（2時間） 第14回：I、J班による模擬授業と検討（課題解決型学習・発表・討議） 事前学習：I、J班の指導案を読み着眼点をメモする。I、J班は模擬授業の準備をする。（2時間） 事後学習：今日の授業をもとに省察したことを記述する。（2時間） 第15回：授業の省察（グループワーク） 事前学習：模擬授業全体を通して省察したことを記述する。（2時間） 事後学習：社会科教育の授業に参加して考えたことをまとめる。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
学期末レポート（50%）、平常点（50%） （平常点は、授業への参加態度、提出物の内容等を総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
・教材研究を活かし、創意工夫しながら学習指導案を作成することができるか。 ・グループ協議や模擬授業の検討に積極的に参加しているか。 ・授業で学んだことや考えたことを、事後の振り返りにまとめることができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他（ワークシートの学生の記入を事後まとめ、次回に配布し、共通理解に努める。） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他（ワークシート等を集めて内容を把握し、コメントを記述する。） 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』日本文教出版 平成30年2月 令和8年度小学校社会科教科書（東京書籍）3年、4年、5年上・下、6年政治・国際編、歴史編
(11) その他(受講上の注意)
受講者同士の積極的なコミュニケーションによって学びを深めていきましょう。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

生活科教育法 (Teaching Methods of Life Studies)			担当教員	嶋田 敬介
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-B-2353	2 単位	3 年後期	講義	選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目				
求める学習成果(教育目標)				
教育・保育の内容の理解及び指導方法				

(1) 授 業 の 内 容
生活科の目標・内容(1～9)と指導計画作成の基本を学び、各内容を題材にした模擬授業の計画・実践方法を身につける。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
生活科の目標・内容、指導計画・学習指導案作成のポイントを説明できる。各内容に応じた模擬授業を計画・実施し、適切に評価・改善できる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：生活科の目標・内容の理解 事前学習：生活科教科書と指導要領解説を読み、生活科の目標と内容、単元・主な学習内容を整理しておく。(2時間) 事後学習：生活科の目標、各内容(1～9)のポイントをまとめておくこと。 第2回：指導計画の作成、模擬授業計画(グループワーク) 事前学習：指導要領解説の該当箇所(第4章 指導計画の作成と内容の取扱い)を読み、要点をまとめておく。(2時間) 事後学習：指導計画の作成と内容の取扱い、学習指導案の書き方のポイントをまとめ、模擬授業の計画を立てる。(2時間) 第3回：授業におけるICTの活用、機器・機材の取り扱い(グループワーク) 事前学習：生活科授業におけるICTの活用例、機器・機材の適切な使用方法について調べ、整理しておく(2時間)。 事後学習：ICT活用の長所と短所、機器・機材を使用する際の留意点等を整理してレポートにまとめる(2時間) 第4回：指導計画の作成と学習指導(実習) 事前学習：指導要領解説の該当箇所(第5章 指導計画の作成と学習指導)を読み、要点をまとめておく。 事後学習：指導計画の作成と学習指導のポイントをまとめ、年間指導の計画を立てる。(2時間) 第5回：模擬授業①(学校と生活)(発表、プレゼンテーション) 事前学習：内容(1)「学校と生活」をテーマに、教材研究および模擬授業の準備をする。(2時間) 事後学習：発表した模擬授業を振り返り、改善点や課題をまとめる。(2時間) 第6回：模擬授業②(家庭と生活)(発表、プレゼンテーション) 事前学習：内容(2)「家庭と生活」をテーマに、教材研究および模擬授業の準備をする。(2時間) 事後学習：発表した模擬授業を振り返り、改善点や課題をまとめる。(2時間) 第7回：模擬授業③(地域と生活)(発表、プレゼンテーション) 事前学習：内容(3)「地域と生活」をテーマに、教材研究および模擬授業の準備をする。(2時間) 事後学習：発表した模擬授業を振り返り、改善点や課題をまとめる。(2時間) 第8回：模擬授業④(公共物や公共施設の利用)(発表、プレゼンテーション) 事前学習：内容(4)「公共物や公共施設の利用」をテーマに、教材研究および模擬授業の準備をする。(2時間) 事後学習：発表した模擬授業を振り返り、改善点や課題をまとめる。(2時間) 第9回：模擬授業⑤(季節の変化と生活)(発表、プレゼンテーション) 事前学習：内容(5)「季節の変化と生活」をテーマに、教材研究および模擬授業の準備をする。(2時間) 事後学習：発表した模擬授業を振り返り、改善点や課題をまとめる。(2時間) 第10回：模擬授業⑥(自然や物を使った遊び)(発表、プレゼンテーション) 事前学習：内容(6)「自然や物を使った遊び」をテーマに、教材研究および模擬授業の準備をする。(2時間) 事後学習：発表した模擬授業を振り返り、改善点や課題をまとめる。(2時間)

第11回：模擬授業⑦（動植物の飼育・栽培）（発表、プレゼンテーション） 事前学習：内容（7）「動植物の飼育・栽培」（対象：1年生）をテーマに、教材研究および模擬授業の準備をする。（2時間） 事後学習：発表した模擬授業を振り返り、改善点や課題をまとめる。（2時間） 第12回：模擬授業⑧（動植物の飼育・栽培）（発表、プレゼンテーション） 事前学習：内容（7）「動植物の飼育・栽培」（対象：2年生）をテーマに、教材研究および模擬授業の準備をする。（2時間） 事後学習：発表した模擬授業を振り返り、改善点や課題をまとめる。（2時間） 第13回：模擬授業⑨（生活や出来事の交流）（発表、プレゼンテーション） 事前学習：内容（8）「生活や出来事の交流」をテーマに、教材研究および模擬授業の準備をする。（2時間） 事後学習：発表した模擬授業を振り返り、改善点や課題をまとめる。（2時間） 第14回：模擬授業⑩（自分の成長）（発表、プレゼンテーション） 事前学習：内容（9）「自分の成長」をテーマに、教材研究および模擬授業の準備をする。（2時間） 事後学習：発表した模擬授業を振り返り、改善点や課題をまとめる。（2時間） 第15回：模擬授業のまとめと評価（討議、（発表、プレゼンテーション）） 事前学習：模擬授業の実践と講義を通して学んだことや、改善点や課題を整理しておく。（2時間） 事後学習：全授業を振り返り、学習成果をレポートとしてまとめる（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 課題・レポート（50%）、学習指導案作成（20%）、模擬授業の取り組み（30%）
(7) 成績評価基準 生活科の目標・内容と指導の基本を理解し、生活科学習指導案を作成できたか。教材研究と指導案に基づき、模擬授業を適切に計画・実施できたか（ICT活用を含む）。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書 テキスト： (1) 文部科学省 「小学校学習指導要領解説（生活編）」 東洋館出版社 平成30年2月 (2) 中野真志・田中博之ほか 「わくわく せいかつ上」 啓林館 2024年 (3) 中野真志・田中博之ほか 「いきいき せいかつ下」 啓林館 2024年
(11) その他(受講上の注意) ・授業時またはeラーニングシステムによって資料を配布する。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

音楽科教育法 (Teaching Methods of Music)			担当教員	佐々木 啓子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-B-2303	2 単位	3 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
学習指導要領に示された小学校音楽科の目標や内容を理解し、音楽理論の基礎知識を修得する。また、学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。さらに、音楽活動における歌う喜びや表現する喜びを感受し、指導法の改善に繋げる。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
小学校学習指導要領に示された「音楽科の目標」について理解し、音楽科目目標達成のための具体的な学習指導内容「表現と鑑賞」活動について理解を深めることができる。 学習指導計画並びに学習指導案の作成について研究し、授業展開の実際を互いの模擬授業を通して学び合い、実践的な能力を養う。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：音楽科教育法(全般)と今後の授業計画について。表現活動(発声法) 小学校学習指導要領総説、楽典 事後学習：授業で学んだ発声法についてふり返し、各自練習すること。音楽理論基礎事項の確認(2時間) 第2回：小学校学習指導要領「音楽科の目標及び内容」について。表現活動(発声法・歌唱・4拍子の指揮法)の実践(実技) 事前学習：授業前に学習指導要領(音楽科)に目を通し、概略を知ったり質問事項をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で学んだ小学校学習指導要領(音楽科)について復習する。学んだ指揮法をふり返し、各自練習すること。(2時間) 第3回：小学校学習指導要領「第1学年及び第2学年の目標と内容」について ・楽典 低学年(1, 2年)の歌唱教材指導のポイントと実際。表現活動(歌唱)・2拍子・3拍子の指揮法の実践(実技) 事前学習：授業前に学習指導要領(音楽科)に目を通し、概略を理解し質問事項をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で扱った低学年の歌唱教材の指導の実践例をふり返し、低学年の教科書から歌唱指導教材を取り出し、ねらいと授業の大まかな計画を立てる。2拍子・3拍子の復習(2時間) 第4回：低学年の器楽指導のポイントと実際。簡易楽器の奏法と実践(実技)・表現活動(歌唱)・楽典 事前学習：授業前に教科書に目を通し、小学校で扱う簡易楽器の種類を調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業で扱った簡易楽器の奏法をふり返し、正しい奏法を身に付けること。(2時間) 第5回：小学校学習指導要領「第3学年及び第4学年の目標と内容」について 中学年(3, 4年)の歌唱教材指導のポイントと実際。表現活動(歌唱) ・楽典 事前学習：授業前に学習指導要領(音楽科)に目を通し、概略を理解し質問事項をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で扱った中学年の歌唱教材の指導の実践例をふり返し、中学年の教科書から歌唱指導教材を取り出し、ねらいと授業の大まかな計画を立てること。(2時間) 第6回：音楽づくり指導のポイントと実践。リコーダー指導のポイントと実際(奏法と音色・響き合い)(実技) 事前学習：授業前に教科書に目を通し、「音楽づくり」とはどのような活動なのかを調べておくこと。またリコーダーの奏法について調べ、練習すること。(2時間) 事後学習：授業で扱った音楽づくりの指導の実践例及びリコーダー指導のポイントをふり返る。またリコーダーの美しい音色や響きが出せるように練習すること。(3時間)

第7回：小学校学習指導要領「第5学年及び第6学年の目標と内容」について ICTの活用について ・楽典 高学年（5，6年）の歌唱教材指導のポイントと実践 和楽器指導のポイントと実践 ICTの活用法 事前学習：授業前に学習指導要領（音楽科）に目を通し、概略を理解し質問事項をまとめておくこと。 （1時間） 事後学習：授業で扱った高学年の歌唱教材の指導の実践例をふり返し、高学年の教科書から歌唱指導教材を取り出し、ねらいと授業の大まかな計画を立てること。（2時間） 第8回：リコーダー二重奏発表会 発表の仕方を学ぶ（全員） 音楽科学習指導案（模擬授業）の書き方について 事前学習：二人組で美しい響きが出せるように二人で練習しておくこと（4時間） 事後学習：実際の発表について振り返りを行う 指導案の書き方を復習する。（3時間） 第9回：鑑賞指導のポイントと実際（1～6年の鑑賞教材より）模擬授業の進め方、相互評価の仕方について（実技） 事前学習：授業まえに各学年の鑑賞教材を調べておくこと（2時間） 事後学習：鑑賞指導の実践例を振り返る。模擬授業の進め方のプリントを基にふり返し、シュミレーションしながらポイントをつかむこと。（3時間） 第10回：模擬授業①（1年教材から）模擬授業のふり返しと授業評価。音楽と身体表現、1・2年における情報機器の使い方について（ディスカッション） 事前学習：模擬授業の指導案を立て模擬授業の準備をすること。（5時間） 事後学習：模擬授業のふり返しで討議されたことやアドバイスをまとめること。（2時間） 第11回：模擬授業②（2年教材から）模擬授業のふり返しとリズム指導について 事前学習：2年の教科書に目を通す。（1時間） 事後学習：模擬授業のふり返しで討議されたことやアドバイスをまとめること。（2時間） 第12回：模擬授業③（3年教材から）模擬模範のふり返しと授業評価。 事前学習：3年の教科書に目を通す。（1時間） 事後学習：実践例でのアドバイスをまとめること。（2時間） 第13回：模擬授業④（4年教材から）模擬授業のふり返しと授業評価。 事前学習：4年の教科書に目を通す。（1時間） 事後学習：実践例でのアドバイスをまとめること。（2時間） 第14回：模擬授業⑤（5年教材から）模擬授業のふり返しと授業評価。 5・6学年における情報機器の使い方について（ディスカッション） 事前学習：5年の教科書に目を通す。（1時間） 事後学習：模擬授業のふり返しで討議されたことやアドバイスをまとめること。（2時間） 第15回：模擬授業⑥（6年教材から）模擬授業のふり返しと授業評価。日本の音楽の指導と実際について（ディスカッション） 事前学習：6年の教科書に目を通す。（1時間） 事後学習：模擬授業のふり返しで討議されたことやアドバイス等をまとめること。（2時間） 第16回：定期試験	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
定期試験 (50%) 平常点 (30%) 実技 (20%) （平常点は、授業への参加状況、受講態度、模擬授業、振り返りレポート等を総合して判断します。）	
(7) 成績評価基準	
音楽教育の目標を理解したうえで、指導計画を作成し、授業の進め方や指導法を積極的に体得しようとしているか	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒ その他（毎回振り返りのレポートを提出させ、次時の最初に振り返り並びに説明から授業に入る） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒ その他（授業後実習したことをフィードバックする） 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐ その他 5) その他（模擬授業に対するフィードバックについて） ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒ その他（模擬授業における評価は、授業後、相互評価や自己評価によりフィードバックする）	

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
小学生の音楽 1 ～ 6 (教育芸術社) 小学校学習指導要領解説音楽編 (教育芸術社) 7 訂版 歌はともだち (教育芸術社)
(11) その他(受講上の注意)
学習指導要領について理解を深め、表現活動や模擬授業に真剣に取り組み、学び合う意識を高く持ち、指導法の幅を広げてほしい。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

図画工作科教育法 (Teaching Methods of Arts and Crafts)			担当教員	伊東 知之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-B-2304	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
学習指導要領に示された小学校図画工作科の目標や内容を理解する。また、基礎的な学習理論を理解し、具体的な授業を想定して授業計画を立てるとともに授業を行う方法を身に付ける。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
小学校図画工作科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された図画工作科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深める。また、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業を想定して授業計画を立てるとともに、授業を行う方法を身に付ける。 ・指導案の意味や作成方法を説明できる。 ・指導案を作成し、実践することができる。 ・教材研究の意味を理解し、教材研究をすることができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☒ その他(模擬授業)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：教育における図画工作科の特殊性と学力の構造 事前学習：学習指導要領図画工作編解説を読み、まとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容をまとめておくこと。(2時間) 第2回：新学習指導要領における図画工作科の目標・内容の特色とその背景 事前学習：学習指導要領図画工作編解説表現、鑑賞についてまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容をまとめておくこと。(2時間) 第3回：指導技術「ICTの活用」、板書の仕方、授業の展開方法 事前学習：ICT活用、授業展開についてまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容をまとめておくこと。(2時間) 第4回：図画工作科学習指導案の書き方、評価の仕方 事前学習：指導案題材を複数考えてまとめておくこと。(2時間) 事後学習：模擬授業を行う指導案題材を決め、授業展開をまとめておくこと。(2時間) 第5回：教材研究の方法と学習指導案作成 事前学習：指導案下書きを作成しておくこと。(2時間) 事後学習：指導案を清書し、提出できるようにしておくこと。(2時間) 第6回：模擬授業1・2年生平面表現と省察(実技・グループワーク) 事前学習：模擬授業の教材研究とリハーサルを行っておくこと。(2時間) 事後学習：模擬授業の反省と高評をまとめ、指導案を修正しておくこと。(2時間) 第7回：模擬授業1・2年生立体表現と省察(実技・グループワーク) 事前学習：模擬授業の教材研究とリハーサルを行っておくこと。(2時間) 事後学習：模擬授業の反省と高評をまとめ、指導案を修正しておくこと。(2時間) 第8回：模擬授業1・2年生鑑賞と省察(実技・グループワーク) 事前学習：模擬授業の教材研究とリハーサルを行っておくこと。(2時間) 事後学習：模擬授業の反省と高評をまとめ、指導案を修正しておくこと。(2時間) 第9回：模擬授業3・4年生平面表現と省察(実技・グループワーク) 事前学習：模擬授業の教材研究とリハーサルを行っておくこと。(2時間) 事後学習：模擬授業の反省と高評をまとめ、指導案を修正しておくこと。(2時間) 第10回：模擬授業3・4年生立体表現と省察(実技・グループワーク) 事前学習：模擬授業の教材研究とリハーサルを行っておくこと。(2時間) 事後学習：模擬授業の反省と高評をまとめ、指導案を修正しておくこと。(2時間)

第11回：模擬授業 3・4年生鑑賞と省察（実技・グループワーク） 事前学習：模擬授業の教材研究とリハーサルを行っておくこと。（2時間） 事後学習：模擬授業の反省と高評をまとめ、指導案を修正しておくこと。（2時間） 第12回：模擬授業 5・6年生平面表現と省察（実技・グループワーク） 事前学習：模擬授業の教材研究とリハーサルを行っておくこと。（2時間） 事後学習：模擬授業の反省と高評をまとめ、指導案を修正しておくこと。（2時間） 第13回：模擬授業 5・6年生立体表現と省察（実技・グループワーク） 事前学習：模擬授業の教材研究とリハーサルを行っておくこと。（2時間） 事後学習：模擬授業の反省と高評をまとめ、指導案を修正しておくこと。（2時間） 第14回：模擬授業 5・6年生鑑賞と省察（実技・グループワーク） 事前学習：模擬授業の教材研究とリハーサルを行っておくこと。（2時間） 事後学習：模擬授業の反省と高評をまとめ、指導案を修正しておくこと。（2時間） 第15回：指導と評価の一体化、評価に基づいて指導に活かすための基礎的理解 事前学習：作品評価、図画工作科教育についてまとめておくこと。（2時間） 事後学習：図画工作科教育に関するレポートを作成して提出する。（2時間） ・指導案を作成し、作品例をいくつか制作する ・課題となるレポートを作成する ・定期試験は実施しない
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
学期末レポート（40％）、模擬授業（40％）、模擬授業の取組（20％）
(7) 成績評価基準
・緻密な指導案を作成できるか。 ・指導案に基づいて模擬授業を行えるか。 ・作品例を制作しながら教材研究を行えるか。 ・工夫した作品を制作できるか。 ・課題に即したレポートを作成できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（添削、コメントを書いて返却） 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他（模擬授業、指導案）に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
文部科学省 『小学校学習指導要領解説（図画工作編）』2018年 教科書 『図画工作 1年生上・下、2年生上・下、3年生上・下、4年生上・下、5年生上・下、6年生上・下』 日本文教出版 2024年 伊東知之著 『造形表現・図画工作・美術』福村出版 2023年 仁愛大学子ども教育学科 『小学校教育実習の手引き』
(11) その他(受講上の注意)
図工用具一式を毎時間持参すること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

家庭科教育法 (Teaching Methods of Domestic Science)			担当教員	横山 美弥子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-B-2354	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
衣食住など生活の営みを総合的にとらえ、実践的・体験的な活動や問題解決的な学びを通して、目標や学習内容の理解を深めるとともに、授業づくりの方法を身に付ける。また持続可能な社会と生活との関わりを理解する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
現代における家庭科の意義や教科の特性を理解し、指導に必要な知識・技能を習得して授業づくりや学習活動を支える基礎を身に付けることができる。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☒ その他(模擬授業)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：学習指導要領に示された家庭科教育の目標と学習内容の理解(グループワークを含む) 事前学習：学習指導要領を読み、目標や内容を理解しておく。(2時間) 事後学習：学習指導要領解説からキーワードをチェックする。(2時間) 第2回：家庭科における「生活の営みに係る見方・考え方」と指導計画の作成 事前学習：家庭科の題材構成について調べる(2時間) 事後学習：指導計画を考える(2時間) 第3回：主体的・対話的で深い学びの実現と学習評価の進め方(討議を含む) 事前学習：「各教科における評価の基本構造」について調べておく。(2時間) 事後学習：家庭科の特性と学習評価のポイントを整理する。(2時間) 第4回：A「家族・家庭生活」の内容と授業づくり(グループワークを含む) 事前学習：A「家族・家庭生活」の内容を確認する。(2時間) 事後学習：授業内容を実践し、成果と課題を把握しておく。(2時間) 第5回：B「衣食住の生活」の内容と授業づくり その①(実技・実習を含む) 事前学習：B「衣食住の生活」の内容を確認する。(2時間) 事後学習：授業内容を実践し、成果と課題を把握しておく。(2時間) 第6回：B「衣食住の生活」の内容と授業づくり その② 調理計画と献立作りを中心に 事前学習：B「衣食住の生活」の内容を確認する。(2時間) 事後学習：授業内容を実践し、成果と課題を把握しておく。(2時間) 第7回：C「消費生活・環境」の内容と授業づくり(討議を含む) 事前学習：C「消費生活・環境」の内容を確認する。(2時間) 事後学習：授業内容を実践し、成果と課題を把握しておく。(2時間) 第8回：日本の伝統的な生活文化の継承と授業づくり(実技・実習を含む) 事前学習：日本の生活文化について調べておく(2時間) 事後学習：生活文化に気付く、知るをテーマにした授業づくりにチャレンジする。(2時間) 第9回：授業づくり 指導案を組み立ててみよう① 題材の目標と題材観 指導計画 事前学習：学習指導要領と教科書の内容と照らし合わせておく。(2時間) 事後学習：授業案を検討し練り上げておく。(2時間) 第10回：授業づくり 指導案を組み立ててみよう② 略案の完成とICTや教材・教具の活用 事前学習：ICTを活用した効果的な授業について調べ考察する(2時間) 事後学習：指導案(略案)を完成させる。(2時間) 第11回：模擬授業 ① グループでの検討と準備 事前学習：作成した指導案についてプレゼンテーションができるようまとめておく(2時間) 事後学習：模擬授業の準備を進める(2時間) 第12回：模擬授業 ② A「家族・家庭生活」の授業：グループでの振り返り 全体での振り返り評価項目の工夫 事前学習：教科書の指導内容(A家族・家庭生活)を理解しておく。(2時間) 事後学習：授業の振り返りをまとめておく。(2時間)

第13回：模擬授業 ③B「衣食住の生活」の授業：グループでの振り返り 全体での振り返りICTの活用 事前学習：教科書の指導内容（B衣食住の生活）を理解しておく。（2時間） 事後学習：授業の振り返りをまとめておく。（2時間） 第14回：模擬授業 ④C「消費生活・環境」の授業：グループでの振り返り 全体での振り返り教材・教具の活用 事前学習：教科書の指導内容（C「消費生活・環境」）を理解しておく。（2時間） 事後学習：授業の振り返りをまとめておく。（2時間） 第15回：模擬授業 ⑤B「衣食住の生活」の授業・まとめ 事前学習：学習環境の整備（実習室）についてまとめる。（2時間） 事後学習：授業づくりと学習展開についてのレポート作成。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
小レポート・作品（60%）、授業中の取組（40%） （授業中の取組は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
小学校家庭科における教育目標や育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容を踏まえた授業づくりや学習活動を支える基礎を身に付けることができたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト 小学校学習指導要領解説 家庭編（文部科学省 東洋館出版社 平成29年7月） ※入手が困難な場合は文部科学省ホームページよりデータを確認できるようにしておくこと わたしたちの家庭科 5・6（鳴海多恵子 他 開隆堂 令和6年2月） 参考書・参考資料等 小学校家庭科資質・能力を育む学習指導と評価の工夫（筒井恭子編著 東洋館出版社 令和2年） 早わかり&実践 新学習指導要領解説小学校家庭（編著 長澤由喜子 他 開隆堂 平成29年）
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

体育科教育法 (Teaching Methods of Physical Education)			担当教員	近藤 雄一郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-B-2305	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
小学校体育科の教育目標、領域、教科内容を理解する。 また具体的な授業場面を想定した子どものつまずき、教材づくり、評価、教授スキル、安全管理等に関する基礎的な学習指導理論を理解する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
小学校体育科における教育目標、教科内容について、背景となる発育発達論や運動学、運動生理学などの学問領域と関連づけた理解を深める。また様々な学習指導理論を踏まえ、具体的な授業設計を行うための原則を理解する。詳細は以下の通り。 1. 体育科の目標、領域、教科内容について説明することができる。 2. 学習のつまずきの原因の追究方法とその解決方法及び教材づくりに関する手続きがわかる。 3. 授業の組織化、評価、教授スキル、指導言、安全管理の原則がわかるとともに、学習指導案を作成することができる。
(3) アクティブラーニング
☐課題解決型学習(PBL) ☒討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒実習、フィールドワーク ☐実験、実技 ☐その他(模擬授業)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション、学習指導要領(体育)概説 事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと(2時間)。 事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと(2時間)。 第2回：体育授業の目指すもの(教科としての体育) 事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと(2時間)。 事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと(2時間)。 第3回：みんなが「できる」体育の授業 事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと(2時間)。 事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと(2時間)。 第4回：体育の授業づくり1(運動領域の構成と年間計画) 事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと(2時間)。 事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと(2時間)。 第5回：体育の授業づくり2(単元展開と学習形態) 事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと(2時間)。 事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと(2時間)。 第6回：体育の授業づくり3(教師によるフィードバック) 事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと(2時間)。 事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと(2時間)。 第7回：体育の授業づくり4(学習評価) 事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと(2時間)。 事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと(2時間)。 第8回：よい体育授業1(運動有能感) 事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと(2時間)。 事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと(2時間)。 第9回：よい体育授業2(基礎的条件と内容的条件) 事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと(2時間)。 事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと(2時間)。 第10回：体育における教育内容研究 事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと(2時間)。 事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと(2時間)。

第11回：体育における教材研究 事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと（2時間）。 事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと（2時間） 第12回：指導計画の作成 事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと（2時間）。 事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと（2時間） 第13回：体育授業におけるICTの活用 事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと（2時間）。 事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと（2時間） 第14回：体育の授業場面における配慮事項 事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと（2時間）。 事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと（2時間）。 第15回：保健の授業づくり 事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと（2時間）。 事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 定期試験（70%） 小レポート（30%）
(7) 成績評価基準 体育（保健）授業の組織化のための原則と手続きに関する知識を踏まえて、学習指導案を作成することができる。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（定期試験時以外に個別に対応） 5) その他（学習指導案）に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書 小学校学習指導要領解説体育編（平成29年7月文部科学省）及び授業者作成の配付資料
(11) その他(受講上の注意) 欠席すると授業内容の文脈の理解が困難となることやグループワークに支障をきたすため、全授業の出席を心がけること。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英語科教育法 (English Language Teaching Methodology)			担当教員	紺渡 弘幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-B-2355	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
小学校における外国語活動・外国語(英語)の指導に必要な基本的な事項(学習指導要領、主教材、小・中・高等学校の連携、多様な指導環境、児童期の第二言語習得の特徴に)について理解する。また、基本的指導技術や学習到達目標に基づく指導計画、授業設計についての知識を身につけ、学習指導案を作成して模擬授業を行い、授業実践に係る力を養う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
小学校における外国語活動・外国語の学習・指導・評価に関する基本的な知識・指導技術を習得することをめざし、子どもの第二言語習得の特徴について理解し、実践に必要な基本的な指導技術及び実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付ける。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション・小学校の外国語活動及び外国語科のねらい 事前指導：事前にシラバスやテキストに目を通し、質問事項をまとめておく。(2時間) 事後指導：授業で学習した内容を振り返り、小学校英語についてさらに理解を深める。(2時間) 第2回：学習指導要領、小・中・高等学校の連携、関連分野からみる外国語教育の意義 事前指導：事前にテキストを読み、レポーティング資料を作成する。(2時間) 事後指導：授業で学習した内容を振り返り、小学校英語についてさらに理解を深める。(2時間) 第3回：指導者の役割、教材の理解 事前指導：事前にテキストを読み、レポーティング資料を作成する。(2時間) 事後指導：授業で学習した内容を振り返り、指導者の役割、教材についてさらに理解を深める。(2時間) 第4回：指導目標・計画、言語材料と4技能の指導 事前指導：事前にテキストを読み、レポーティング資料を作成する。(2時間) 事後指導：授業で学習した内容を振り返り、指導目標・計画、言語材料と4技能の指導について理解を深める。(2時間) 第5回：教材研究 事前指導：事前にテキストを読み、レポーティング資料を作成する。(2時間) 事後指導：授業で学習した内容を振り返り、教材研究についてさらに理解を深める。(2時間) 第6回：指導方法と指導技術、教材・教具の活用 事前指導：事前にテキストを読み、レポーティング資料を作成する。(2時間) 事後指導：授業で学習した内容を振り返り、指導方法と指導技術、教材・教具の活用について理解を深める。(2時間) 第7回：学習指導案、評価 事前指導：事前にテキストを読み、レポーティング資料を作成する。(2時間) 事後指導：授業で学習した内容を振り返り、学習指導案の作成、評価の方法について理解を深める。(2時間) 第8回：授業準備、実施、振り返り 事前指導：事前にテキストを読み、レポーティング資料を作成する。(2時間) 事後指導：授業で学習した内容を振り返り、授業準備から振り返りまで理解する。(2時間) 第9回：授業の組み立て(3)言語活動の工夫 事前指導：事前にテキストを読み、レポーティング資料を作成する。(2時間) 事後指導：授業で学習した内容を振り返り、言語活動の具体例を考える。(2時間)

第10回：模擬授業（1）ウォームアップ 事前指導：学習指導案・教材を作成し、模擬授業の準備をする。（2時間） 事後学習：授業におけるウォームアップのしかたを復習する。（2時間） 第11回：模擬授業（2）導入 事前指導：学習指導案・教材を作成し、模擬授業の準備をする。（2時間） 事後学習：授業における導入のしかたを復習する。（2時間） 第12回：模擬授業（3）Small Talk 事前指導：学習指導案・教材を作成し、模擬授業の準備をする。（2時間） 事後学習：授業におけるSmallのしかたを復習する。（2時間） 第13回：模擬授業（4）言語活動 事前指導：学習指導案・教材を作成し、模擬授業の準備をする。（2時間） 事後学習：授業における言語活動のしかたを復習する。（2時間） 第14回：模擬授業（5）まとめとふりかえり 事前指導：学習指導案・教材を作成し、模擬授業の準備をする。（2時間） 事後学習：授業におけるまとめとふりかえりのしかたを復習する。（2時間） 第15回：ティーム・ティーチング、ICTの活用、評価 事前指導：学習指導案・教材を作成し、模擬授業の準備をする。（2時間） 事後学習：授業におけるティーム・ティーチング、ICTの活用、評価のしかたを復習する。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 定期試験（50%）、課題・小テスト・模擬授業（35%）、授業への取り組み（15%）
(7) 成績評価基準 1. 小学校外国語教育の変遷、小学校の外国語活動や外国語科、中・高等学校の外国語科の目標、内容について理解している。 2. 主教材の趣旨、構成、特徴について理解している。 3. 小・中・高等学校の連携と小学校の役割について理解している。 4. 様々な指導環境に柔軟に対応するため、児童や学校の多様性への対応について、基礎的な事柄を理解している。 5. 言語使用を通して言語を習得することを理解し、指導に生かすことができる。 6. 音声によるインプットの内容の類推から理解へと進むプロセスを経ることを理解し、指導に生かすことができる。 7. 児童の発達段階を踏まえた音声によるインプットの在り方を理解し、指導に生かすことができる。 8. コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて意味のあるやり取りを行う重要性を理解し、指導に生かすことができる。 9. 受信から発信、音声から文字へと進むプロセスを理解し、指導に生かすことができる。 10. 国語教育との連携等による言葉の面白さや豊かさへの気づきについて理解し、指導に生かすことができる。 11. 児童の発話につながるよう、効果的に英語で語りかけることができる。 12. 児童の英語での発話を引き出し、児童とのやり取りを進めることができる。 13. 文字言語との出合わせ方、読む活動・書く活動への導き方について理解し、指導に生かすことができる。 14. 題材の選定、教材研究の仕方について理解し、適切に題材選定・教材研究ができる。 15. 学習到達目標に基づいた指導計画（年間指導計画、単元計画、学習指導案、短時間学習等の授業時間の設定を含めたカリキュラム・マネジメント等）について理解し、学習指導案を立案することができる。 16. ALT等とのティーム・ティーチングによる指導の在り方について理解している。 17. ICT等の効果的な活用の仕方について理解し、指導に生かすことができる。 18. 学習状況の評価（パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む）について理解している。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他（模擬授業に対するフィードバックについて） ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト 最新小学校英語教育法入門(樋口忠彦監修、加賀田哲也、泉恵美子、衣笠知子編著 研究社出版、令和5年参考書・参考資料等) 小学校学習指導要領(平成29年3月公示 文部科学省) 中学校学習指導要領(平成29年3月公示 文部科学省) 小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック (文部科学省 http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm)
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども家庭支援の心理学 (Psychology of Children andFamily Support)			担当教員	青井 夕貴、乙部 貴幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-F-2314	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
子育て支援の理解と支援方法					

(1) 授 業 の 内 容	
子どもの発達に大きな影響を与える環境のひとつが家庭である。その家庭の機能やあり方が多様化している現状を踏まえ、本授業では、子どもや家庭に関する心理学的な知見を学び、子どもとその家庭を包括的に捉える視点の習得を目指す。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的に理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：オリエンテーション、家族・家庭の意義と機能(青井) 事前学習：家族・家庭の機能に関連する事項を調べ、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間) 事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。(2時間) 第2回：子育てを取り巻く社会的状況(青井) 事前学習：子育てを取り巻く社会的状況に関連する事項を調べ、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間) 事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。(2時間) 第3回：ライフコースと仕事・子育て(青井) 事前学習：ライフコースに関連する事項を調べ、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間) 事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。(2時間) 第4回：子どもの生活・生活環境とその影響(青井) 事前学習：子どもの生活・生活環境に関連する事項を調べ、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間) 事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。(2時間) 第5回：乳幼児期と学童期前期の発達に関する心理学的な見方、初期経験の重要性(乙部) 事前学習：乳幼児期と学童期前期の発達に関連する事項を調べ、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間) 事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。(2時間) 第6回：学童期後期から青年期の発達に関する心理学的な見方、発達課題(乙部) 事前学習：学童期後期から青年期の発達に関連する事項を調べ、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間) 事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。(2時間) 第7回：成人期・老年期の発達に関する心理学的な見方、職業選択と結婚(乙部) 事前学習：成人期・老年期の発達に関連する事項を調べ、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間) 事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。(2時間)	

第8回：生涯発達としてみた子ども家庭支援（乙部） 事前学習：生涯発達に関連する事項を調べ、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（2時間） 第9回：保育対象としての家族・家庭に関する集団力学的な理解（乙部） 事前学習：集団力学的な理解に関連する事項を調べ、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（2時間） 第10回：親子関係及び家族関係の発達（乙部） 事前学習：親子関係及び家族関係に関連する事項を調べ、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（2時間） 第11回：祖父母－親子－孫の三世代関係の発達の理解（乙部） 事前学習：祖父母－親子－孫の三世代関係に関連する事項を調べ、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（2時間） 第12回：子どもの心の健康に関わる問題（乙部） 事前学習：子どもの心の健康に関連する事項を調べ、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（2時間） 第13回：子育ての経験と親としての育ち（青井） 事前学習：親育ちに関連する事項を調べ、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（2時間） 第14回：多様な家庭・特別な配慮を要する家庭とその理解（青井） 事前学習：特別な配慮を要する家庭に関連する事項を調べ、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（2時間） 第15回：まとめ－子どもとその家庭を包括的に捉える意義（青井） 事前学習：これまでの授業を振り返り、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 毎回の課題75%、レポート25%
(7) 成績評価基準 1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題等について説明できるか。 2. 家族・家庭の意義や機能、親子関係や家族関係等の発達の理解、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を説明できるか。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を説明できるか。 4. 子どもの精神保健とその課題について説明できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
適宜資料を配布する。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子どもの食と栄養 (Nutrition for Children)			担当教員	阿部 喜代子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-D-2359	2 単位	3 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解					

(1) 授 業 の 内 容	
幼児期・学童期の子どもの指導者として、食の領域での職務を十分に果たすために必要な知識・技能（小児の発育・発達、小児の栄養特性、小児の食生活の問題点、栄養と疾病、食の安全と食物アレルギー、生活・食習慣と生活リズム、小児への栄養教育の必要性と方法、人間形成と食習慣など）について解説し、指導者としての資質を培うための授業を行う。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
栄養の基礎知識を理解し、子どもの成長・発育を支援する栄養と食の知識と技能、問題解決能力を修得する。	
(3) アクティブラーニング	
☒課題解決型学習（PBL） ☐討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐実習、フィールドワーク ☐実験、実技 ☐その他	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：オリエンテーション、子どもの環境、食生活の現状と課題 事前学習：1章について予習すること。（約2時間） 事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。（約2時間） 第2回：栄養の基礎知識1 事前学習：2章1節について予習すること。（約2時間） 事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。（約2時間） 第3回：栄養の基礎知識2 事前学習：2章1節について予習すること。（約2時間） 事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。（約2時間） 第4回：栄養の基礎知識3 事前学習：2章2，3，4，5節について予習すること。（約2時間） 事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。（約2時間）、課題解決のための提出物の考察 第5回：子どもの発育・発達と食生活 事前学習：3章1節について予習すること。（約2時間） 事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。（約2時間） 第6回：妊娠・授乳期の栄養 事前学習：3章2節について予習すること。（約2時間） 事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。（約2時間） 第7回：乳児期乳汁栄養 事前学習：3章3節について予習すること。（約2時間） 事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。（約2時間） 第8回：乳児期離乳栄養 事前学習：3章4節について予習すること。（約2時間） 事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。（約2時間） 第9回：幼児期の食生活 事前学習：3章5節について予習すること。（約2時間） 事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。（約2時間） 第10回：学童期の食生活 事前学習：3章6，7節について予習すること。（約2時間） 事後学習：授業、プリントを参考にまとめること。（約2時間） 第11回：食育の基本と内容 事前学習：4章1，2，3，4節について予習すること。（約2時間） 事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。（約2時間）	

第12回：児童福祉施設や家庭における食事と栄養 事前学習：5章1，2，3節について予習すること。（約2時間） 事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。（約2時間）、課題解決のための提出物の考察 第13回：食の安全 事前学習：6章1，2節について予習すること。（約2時間） 事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。（約2時間） 第14回：特別な配慮を要する子どもの食と栄養 事前学習：7章1，2節について予習すること。（約2時間） 事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。（約2時間） 第15回：障害のある子どもへの対応、まとめ 事前学習：7章3節と、これまでの配布資料について復習すること。（約2時間） 事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。（約2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験70%（授業の理解度を評価する）、平常点30%（平常点は、遅刻の有無、出席状況、受講態度、リアクションペーパーの内容等を総合して判断する）
(7) 成績評価基準
栄養の基礎知識は理解できたか。子どもの成長・発育を支援する栄養管理の知識と技術を修得できたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
今津屋 直子・久藤 麻子 編 「新・子どもの食と栄養」第2版 教育情報出版 2025
(11) その他(受講上の注意)
授業計画は進捗状況により変更することがある。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育内容総論 (General Early Childhood Care andEducation)			担当教員	渡辺 直人	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-B-2356	2 単位	3 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果（教育目標）					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を通して、わが国の幼稚園等における現代の保育観と保育の内容（５領域）及び指導法を理解する。また、幼稚園等の教育課程・全体的な計画の試案作成をグループワークで取り組み、模擬保育を行うことを通して、保育内容のあり方及び保育者としての関わり方について考える。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領にもとづいたわが国の保育観と保育の内容（５領域）及び指導法について、基本的な知識を身につけ、保育の内容を立案する際の基礎となる考え方を理解する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☒ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第１回：授業のオリエンテーション（保育内容総論の概要と学修のポイント） 事前学習：これまでの授業や実習を振り返り、保育内容とは何かについてまとめておく。（２時間） 事後学習：資料を読み、教育保育施設の役割を復習する。（２時間） 第２回：保育の全体構造とは何か（保育所保育指針の基本を理解する） 事前学習：保育所保育指針をざっと読み、「保育の目標」について調べる。（２時間） 事後学習：授業で学んだ「全体構造」と「目標」を整理し、まとめる。（２時間） 第３回：子ども理解１（子どもの発達と保育内容の基本的な考え方）（討議） 事前学習：発達段階ごとの特徴について整理し、実習での経験を振り返る。（２時間） 事後学習：子どもの発達と保育内容の関連を具体例と共に復習する。（２時間） 第４回：子ども理解２（社会の変化と保育の歩み）（討議） 事前学習：戦後から現代までの保育内容の変化を概観する。（２時間） 事後学習：歴史的背景を踏まえた現在の保育内容を整理し、自分の意見をまとめる。（２時間） 第５回：子どもの生活と保育１（養護と教育の一体的な展開）（グループワーク） 事前学習：養護と教育の違いや共通点について考える。（２時間） 事後学習：授業で取り上げた事例を基に、具体的な保育場面を想定して記録する。（２時間） 第６回：子どもの生活と保育２（環境を通して行う保育）（グループワーク） 事前学習：保育所での環境設定について調査し、自分の考えをまとめる。（２時間） 事後学習：学んだ理論を基に、理想的な保育環境の具体例を考案する。（２時間） 第７回：子どもの遊びと保育１（生活と遊びによる総合的な保育）（グループワーク） 事前学習：子どもの遊びについて基本的な知識を復習する。（２時間） 事後学習：授業で取り上げた遊びの具体例を、実践に活かせるよう整理する。（２時間） 第８回：子どもの遊びと保育２（遊びの実態）（討議） 事前学習：幼稚園教育要領および保育所保育指針における「遊び」の記述を調べ、要点をまとめる。（２時間） 事後学習：授業で学んだ遊びの実態に関する事例を基に、保育現場で遊びを促進する方法を考える。（２時間） 第９回：子どもの遊びと保育３（模擬保育Ⅰ）（発表・プレゼンテーション） 事前学習：幼稚園教育要領および保育所保育指針を参考に、指導案を作成してくる。（２時間） 事後学習：模擬保育の発表を振り返り、反省をまとめてくる。（２時間） 第１０回：子どもの遊びと保育４（模擬保育Ⅱ）（発表・プレゼンテーション） 事前学習：幼稚園教育要領および保育所保育指針を参考に、指導案を作成してくる。（２時間） 事後学習：模擬保育の発表を振り返り、反省をまとめてくる。（２時間）

第11回：子どもの遊びと保育 5（保育内容 5 領域との関連）（討議） 事前学習：保育内容 5 領域の概要を再確認し、それぞれの領域が遊びとどのように関係しているかを考える。（2 時間） 事後学習：授業で学んだ内容を基に、5 領域を意識した保育の遊び計画案をまとめる。（2 時間） 第12回：記録・省察・評価・改善の重要性（保育を振り返り次につなげる）（発表・プレゼンテーション） 事前学習：記録の具体例を調べ、その目的について考える。（2 時間） 事後学習：自分の経験を基に、記録・省察・評価・改善を再構成する。（2 時間） 第13回：保育の課題と多様性・（保育の課題・特別な配慮を要する子どもの保育、多文化共生の保育） 事前学習：保育における課題及び支援と配慮の方法を考えて来る。（2 時間） 事後学習：授業で学んだ支援の考え方を自分なりに整理する。（2 時間） 第14回：保育の歴史（ペスタロッチー、フレーベル） 事前学習：海外の保育の歴史を調べ、ペスタロッチー、フレーベルの位置づけを調べてくる。（2 時間） 事後学習：授業で学んだペスタロッチー、フレーベルの生涯・理論についてまとめてくる。（2 時間） 第15回：まとめと振り返り（学びを次に活かすために） 事前学習：これまでの授業で得た学びを振り返り、質問をまとめておく。（2 時間） 事後学習：授業全体を振り返り、今後の学びの計画を立てる。（2 時間） 第16回：定期試験	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
定期試験 (50%) 課題レポート (20%) グループワークの取り組みと発表 (30%)	
(7) 成績評価基準	
幼稚園教育要領と保育所保育指針におけるわが国の保育観及び保育の内容と指導法について説明することができるか。 グループワーク（全体的な計画の編成または模擬保育など）に協働して取り組み、グループの考えを明確に表現し発表することができるか。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他	
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	
(10) テキスト、参考図書	
参考図書 幼稚園教育要領（平成29年 3 月31日告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成29年 3 月31日告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年 3 月31日告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）	
(11) その他(受講上の注意)	
1. 2 年次に他の授業で使った幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を参考書として引き続き使います。	
(12) オフィスアワー	
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。	

社会的養護Ⅱ (Social NursingⅡ)			担当教員	竹澤 賢樹	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-D-2312	2 単位	3 年前期	演習	選択	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解					

(1) 授 業 の 内 容
本科目では、社会的養護を必要としているこども達とのかかわり方を中心に、地域や関係機関との連携の意義と方法について解説する。また、こどもの最善の利益を基盤とした社会的養護にかかわる相談援助技術、個別支援計画の作成について解説する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
何らかの事情で家族と離れて生活をせざるを得ないこどもたちの心身の成長・発達を保障し、更に自立に向けて支援するための知識と技術を習得する。 個別支援計画の作成方法と個別支援計画に基づく、チームケアのあり方を習得する。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：社会的養護を必要とするこどもとは（グループワーク） 事前学習：こども家庭庁のHPなどを利用し、社会的養護の基本理念と社会的養護を必要とするこども達は、どのような環境で生活していたのかをまとめておく。（2時間） 事後学習：社会的養護の原理として掲げられている6つをまとめ、レポートを提出する。（2時間） 第2回：社会的養護の歴史的変遷（グループワーク） 事前学習：児童福祉法誕生から1994年「こどもの権利条約」に批准し今日に至るまでの歴史を調べ、質問をまとめておく。（2時間） 事後学習：2022（令和4年）「児童福祉法等の一部を改正する法律」のなかの社会的養護自立支援拠点事業に関してまとめ、レポートを提出する。（2時間） 第3回：社会的養護を必要とするこどもの権利擁護（グループワーク） 事前学習：「こどもの権利条約」の前文と第3条・第12条・第19条・第20条・第26条を熟読すること。（2時間） 事後学習：児童福祉施設のこどもの権利養護の実践と課題をまとめ、レポートを提出する。（2時間） 第4回：乳児院におけるこどもの養育（グループワーク） 事前学習：全国乳児福祉協議会のHP等から乳児院のあゆみ・乳児院を利用する理由、また入所しているこどもたちの人数を調べておく。（2時間） 事後学習：乳児院における養育のあり方と今後の課題をまとめ、レポートを提出する。（2時間） 第5回：児童養護施設におけるこどもの養育（家庭的養育）（グループワーク） 事前学習：全国児童養護施設協議会HPやこども家庭庁のHPから児童養護施設を利用する理由と児童養護施設ではどのようにこどもを養育しているのかをまとめておく。（2時間） 事後学習：児童養護施設での養育がどのように変化しているのか、また今後の課題をまとめ、レポートを提出する。（2時間） 第6回：被虐待児へのかかわり方（討議） 事前学習：こども家庭庁HP「児童虐待防止対策」から児童虐待の定義をまとめておく。さらにこども家庭庁HPから令和4年度児童相談所における児童虐待相談対応件数から4種類の虐待の数の移り変わりをまとめておく。（2時間） 事後学習：被虐待児が受ける影響と支援方法についてまとめ、レポートを提出する。（2時間） 第7回：被虐待児への関わり方（施設の環境整備）（PBL、グループワーク） 事前学習：被虐待児の抱える問題を調べ、その背景要因についてまとめておく。（2時間） 事後学習：被虐待児との関わりとして大切なことを施設の環境整備の観点からまとめ、レポートを提出する。（2時間）

第8回：社会的養護家庭再構築のアプローチ（児童虐待防止の家庭支援）（グループワーク） 事前学習：要保護児童対策地域協議会について質問できるようにしておく。（2時間） 事後学習：児童虐待防止に関する家庭支援の現状と課題をまとめレポートを提出する。（2時間） 第9回：自立支援計画表アセスメントおよび作成（グループワーク） 事前学習：児童養護施設における自立支援計画とはなにかまとめておく。（2時間） 事後学習：提示する事例に伴い自立支援計画を作成し提出する。（2時間） 第10回：こども最善の利益のための自立支援（リービングケア・アフターケア）（PBL、討議） 事前学習：家庭的養護と家庭養護の違いと自立支援のためにどのようなケアをしているのかまとめておく。（2時間） 事後学習：授業の内容から児童養護施設等の施設養育と里親養育においてアフターケアに関することをまとめアフターケアの計画表を作成する。（2時間） 第11回：パーマンシーの保障と課題（グループワーク） 事前学習：厚生労働省平成29年8月に出された「新しい社会的養育ビジョン」の概要についてまとめておく。（2時間） 事後学習：授業よりフォostリング機関およびパーマネンシー保障としての特別養子縁組の推進についてまとめ、レポートを提出する。（2時間） 第12回：社会的養護の家庭支援に対する相談援助技術（PBL、グループワーク） 事前学習：第11回までの授業を復習し、社会的養護における家庭支援について、何が必要なのかを自分なりに考えまとめておく。（2時間） 事後学習：社会的養護における家庭支援のあり方をまとめ、レポートを提出する。（2時間） 第13回：こどもの権利擁護ノート作成（発表・プレゼンテーション） 事前学習：児童福祉施設等の権利ノートの内容を調べ発表できるようにしておく。（2時間） 事後学習：こどもの権利条約・授業で扱ったこどもの権利をまとめ「権利ノート」を作成する。（2時間） 第14回：施設の運営と管理（グループワーク） 事前学習：こども家庭福祉サービスの利用方式である措置制度・利用契約制度・選択利用制度についてそれぞれまとめておく。（2時間） 事後学習：授業の内容から児童養護施設の人材育成についてまとめレポートを提出する。（2時間） 第15回：保育者としての倫理と資質、専門技術と相談援助（グループワーク） 事前学習：児童養護施設運営指針および保育士の倫理綱領を熟読し、支援者の倫理の重要性をまとめる。（2時間） 事後学習：社会的養護における倫理の重要性と専門性を高める意義をまとめ、レポートを提出する。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 レポート(50%) 平常点(50%) (平常点は、授業への参加状況、受講態度など総合的に判断します。)
(7) 成績評価基準 家庭的養護を必要とするこどもの気持ちを受け止めているかどうか。 こどもの権利擁護という視点を持ち、自立支援を考えられているかどうか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

(10) テキスト、参考図書
必要に応じて、資料を配付する。
(11) その他(受講上の注意)
・ 特別な配慮が必要な学生は、申し出てください。 ・ その他、疑問な点がある学生は、質問をしてください。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子育て支援 (Child Care Support)			担当教員	青井 夕貴	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-F-2366	2 単位	3 年後期	演習	選択	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
子育て支援の理解と支援方法					

(1) 授 業 の 内 容
現在の保育士には、子どもの最善の利益を考慮した上で、子育て家庭に対して多面的な理解を示しながら根拠に基づいた支援を展開することが必要とされている。本授業では、保育士が行う子育て支援に必要な知識や技術を実践的に学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。 2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☒ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：子どもの保育とともに行う保護者の支援 事前学習：テキストの第1講を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通じた自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（2時間） 第2回：日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成（グループワーク） 事前学習：テキストの第2講を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通じた自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（2時間） 第3回：保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解（討議・発表） 事前学習：テキストの第3講を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通じた自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（2時間） 第4回：子ども及び保護者の状況・状態の把握（討議・発表） 事前学習：テキストの第4講を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通じた自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（2時間） 第5回：支援の計画と環境の構成（討議・発表） 事前学習：テキストの第5講を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通じた自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（2時間） 第6回：支援の実践・記録・評価・カンファレンス（討議・発表） 事前学習：テキストの第6講を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通じた自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（2時間） 第7回：職員間の連携・協働（討議・発表） 事前学習：テキストの第7講を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通じた自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（2時間） 第8回：社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働（討議・発表） 事前学習：テキストの第8講を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通じた自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（2時間）

第9回：保育所等における支援（グループワーク） 事前学習：テキストの第9講を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（2時間） 第10回：地域の子育て家庭に対する支援、多様な他者と関わる機会や場の提供（討議・発表） 事前学習：テキストの第10講を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（2時間） 第11回：障害のある子ども及びその家庭に対する支援（討議・発表） 事前学習：テキストの第11講を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（2時間） 第12回：特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援（討議・発表） 事前学習：テキストの第12講を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（2時間） 第13回：子ども虐待の予防と対応（討議・発表） 事前学習：テキストの第13講を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（2時間） 第14回：要保護児童等の家庭に対する支援（討議・発表） 事前学習：テキストの第14講を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（2時間） 第15回：多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解（討議・発表） 事前学習：テキストの第15講を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 毎回の提出課題（90%）、小レポート（10%）
(7) 成績評価基準 1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に説明できるか。 2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を具体的に説明できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 西村重稀・青井夕貴編「新基本保育シリーズ19子育て支援」中央法規2019

(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育実践演習 (Seminar on Practice in Early ChildhoodCare and Education)			担当教員	鈴木 智子、渡辺 直人	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-G-2367	2 単位	3 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 実践演習・総合演習・実習科目					
求める学習成果（教育目標）					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
保育に関するこれまでの学びをグループワークで振り返り、習得した専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等を整理し、発表・討論する。また保育に関する現代的課題から関心のあるテーマを設定し、グループワーク・プレゼンテーションを通して、保育のあり方を分析・検討し、考察し、各学生の課題、今後に向けて取り組むべきことを明確化する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・これまでの保育に関する学びを振り返り、保育士として必要な専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたことを確認する。 ・保育に関する現代的課題について、関心のあるテーマを設定し、保育士として乳幼児をどのように理解し、また保育を進めていくべきかについて分析・検討し、考察する力を習得する。 ・保育の実践における自己の課題を明確化し、必要となる基礎的な資質・能力を定着させる。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習 (PBL) ■討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ■実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：オリエンテーション、幼児の理解と記録について(講義、グループワーク)(渡辺) 事前学習：保育所保育指針「第2章保育の内容」の「1歳以上3歳未満児の保育」までを読んでおく。(2時間) 事後学習：保育所保育指針「第1章3 保育の計画及び評価」を読み、記録や評価についてまとめる。(2時間) 第2回：保育者の役割 保育の1日の仕事から見る保育者の責務(講義) 事前学習：保育所保育指針を読み、保育者に求められる役割・責務を整理する。特に「専門性」「倫理」「連携」に関わる記述に着目し、重要だと思う点を抜き出す。(2時間) 事後学習：講義内容を踏まえ、保育者の1日の業務(登園対応、保育、記録、保護者対応、会議等)を時系列で整理し、それぞれの場面で求められる専門性を文章でまとめる。(2時間) 第3回：保育の種類 世界における保育の種類(講義) 事前学習：日本の保育制度(保育所・幼稚園・認定こども園)の基本的特徴を整理するとともに、海外の保育(例：北欧、ドイツ、レジオ・エミリアなど)について概略を調べ、共通点と相違点を簡単にまとめる。(2時間) 事後学習：講義で扱った各国の保育の特徴を整理し、日本の保育との違いが「子ども観」「保育者観」「社会制度」のどこから生じているのかを考察し、レポートにまとめる。(2時間) 第4回：保育教材研究 折り紙遊び(グループワーク) 事前学習：乳幼児期における造形遊び・手指の活動の意義について、保育所保育指針を中心に確認し、折り紙遊びが子どもの発達に与える影響を整理する。(2時間) 事後学習：授業で検討した折り紙遊びについて、対象年齢・ねらい・環境構成・援助のポイントを整理し、レポートにまとめる。(2時間) 第5回：保育者の専門性 手遊び・ダンス・リトミックの計画(討議) 事前学習：保育所保育指針を読み、音楽的活動や身体表現が子どもの発達に果たす役割を整理する。併せて、年齢に応じた手遊びやリズム遊びの具体例を調べる。(2時間) 事後学習：討議内容を踏まえ、特定の年齢を想定した手遊び・ダンス・リトミックの活動計画案を作成し、ねらいと保育者の援助を明確に記述する。(2時間) 第6回：保育者の専門性 手遊び・ダンス・リトミックの発表(発表) 事前学習：第5回で作成した活動計画をもとに、発表に向けて内容を精査し、実演を想定した流れや声かけ、動きの工夫を整理する。(2時間) 事後学習：自らの発表および他者の発表を振り返り、保育者の専門性として求められる表現力・構成力・子ども理解について学んだ点と課題を整理する。(2時間)

第7回：これまでの学びの振り返りと総合討論（グループディスカッション、発表）（渡辺） 事前学習：これまでの授業内容や自らの学びを整理し、発表資料を作成する。（2時間） 事後学習：ディスカッションを通じて得た気づきや課題を整理し、次のステップに向けた目標を立てる。（2時間） 第8回：各自の学びを振り返り、保育の現代的課題について考える（保育内容、倫理観、社会性、保護者支援と連携、職員間・他機関との連携など）（鈴木） 事前学習：授業前にこれまでの学修を振り返り、保育実践に関する自分の課題をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業で示された保育に関する現代的課題について、図書館やインターネットを利用して調べた内容をレポートにまとめておく。（2時間） 第9回：グループ討論（テーマ設定）（PBL、グループワーク）（鈴木） 事前学習：保育所保育指針解説第1章総則を読み、保育所保育の基本原則、幼児教育を行う施設として共有すべき事項についてまとめておく。（2時間） 事後学習：グループで役割分担を行い、テーマに沿って必要な事項を調べてまとめておく。（2時間） 第10回：グループ討論（発表内容のまとめ）（PBL、グループワーク）（鈴木） 事前学習：グループで役割分担を行い、テーマに沿って必要な事項を調べてまとめておく。（2時間） 事後学習：発表内容のまとめを振り返り、発表の練習をしておく。（2時間） 第11回：グループによる発表・全体的討論（PBL、ディスカッション、発表）（鈴木） 事前学習：予定されている発表のテーマについて調べ、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：他のグループにおける討論を振り返り、関連するテーマについて図書館やインターネットを利用して調べた内容をまとめておく。（2時間） 第12回：グループによる発表・全体的討論（PBL、ディスカッション、発表）（鈴木） 事前学習：予定されている発表のテーマについて調べ、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：他のグループにおける討論を振り返り、関連するテーマについて図書館やインターネットを利用して調べた内容をまとめておく。（2時間） 第13回：グループによる発表・全体的討論（PBL、ディスカッション、発表）（鈴木） 事前学習：予定されている発表のテーマについて調べ、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：他のグループにおける討論を振り返り、関連するテーマについて図書館やインターネットを利用して調べた内容をまとめておく。（2時間） 第14回：発表・全体的討論を踏まえた発表内容の再検討（グループワーク）（鈴木） 事前学習：全体的討論を踏まえて、自身のグループ発表の修正箇所を各自でまとめておく。（2時間） 事後学習：発表内容の修正を踏まえて、どこが不十分で、どのように修正したのかについての要点をまとめておく。（2時間） 第15回：保育に関する知識・技術・能力等に対する今後の課題の明確化（鈴木） 事前学習：各グループの発表を踏まえて、保育における現代的課題に対する質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：授業内容を踏まえて、保育の現代的課題に対応するために必要な資質・能力についてレポートにまとめておく。（2時間）	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
平常点（20％）、グループ発表・討議（40％）、レポート（40％）	
(7) 成績評価基準	
保育に関する諸課題の中からテーマを取り上げ、そのテーマについて、グループワークで分析、考察を行い、発表することができたか。 グループワークで協働して取り組み、各自が役割上の責務を果たすことができたか。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じてプリントを配布する。 参考図書 「保育所保育指針解説」 フレーベル館 平成30年 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 フレーベル館 平成30年
(11) その他(受講上の注意)
担当者 2 人が分担し、計15回の授業を行う。欠席が全15回の 3 分の 1 を超えると失格となる。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育実習指導Ⅱ (Guidance for Field PracticeⅡ)			担当教員	出村 友寛	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-E-2362	1 単位	3 年後期・ 4 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 実践演習・総合演習・実習科目					
求める学習成果（教育目標）					
教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度					

(1) 授 業 の 内 容
保育所の学外実習を行うための事前及び事後の指導を行う。事前指導では、保育実習の意義と目的、実習の際の留意事項、実習日誌・日案の書き方を理解する。実習終了後は、グループ討議及び個別指導を行い、実習を振り返りながらさらに研鑽すべき課題を明らかにする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
事前指導では、保育実習の意義と目的を説明することができる。 実習日誌及び指導計画の書き方、エピソード記録の書き方の基本を身につける。 事後指導では、振り返りシートを通じて自己の長所と課題を理解し、さらに研鑽すべき課題を明らかにする。
(3) アクティブラーニング
□課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：保育所実習オリエンテーション①(実習の意義、目的の理解) 事前学習：2年生の「保育実習Ⅰa」を振り返り、2回目の実習の目標をまとめておく。(1時間) 事後学習：授業の内容及び保育所保育指針をもとに実習の目標の充実を図る。(1時間) 第2回：保育所実習オリエンテーション②(実習の内容の理解——グループワーク) 事前学習：配属クラスの年齢を想定して、実習の内容(段階)についてまとめておく。(2時間) 事後学習：グループワークで議論したことをもとに実習の内容をまとめる。(2時間) 第3回：保育所実習オリエンテーション③(演習課題の討議——グループワーク) 事前学習：次の授業で演習課題を討議するため、自分なりの意見をまとめておく。(2時間) 事後学習：グループワークで議論したことをもとに課題をまとめ直す。(2時間) 第4回：保育所実習オリエンテーション④(実習の留意事項) 事前学習：実習における心構えや留意事項をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業の内容をふまえ指導計画の作成を行う。(2時間) 第5回：保育所実習オリエンテーション⑤(エピソード記述) 事前学習：配布資料を読み、エピソード記述について質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：資料を読み直し、わからないことは図書館で調べたり担当教員に質問する。(2時間) 第6回：保育所実習の事後指導①(個別振り返りシート) 事前学習：実習を終えて、実習ノートをもとに自らの評価を行っておく。(2時間) 事後学習：個別振り返りシートを作成する。(2時間) 第7回：保育所実習の事後指導②(グループレポート集の作成) 事前学習：グループメンバーと協働してレポート集を作成作業を進める。(2時間) 事後学習：グループレポート集の完成に向けて作業を進める。(2時間) 第8回：保育所実習の事後指導③(実習のまとめ) 事前学習：発表の準備を行う。(2時間) 事後学習：実習を振り返り、これからの学修の課題を明らかにする。(2時間)
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
課題レポート(50%) 平常点(50%) (平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物等を総合して判断します。)

(7) 成績評価基準
事前指導では、保育実習の意義と目的を説明することができるか。 実習日誌、指導計画、エピソード記録の書き方の基本を身につけられたか。 事後指導では、振り返りシートを通して自己の長所と課題を認識し、さらに研鑽すべき課題を明らかにすることができたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
授業において紹介する
(11) その他(受講上の注意)
この科目は、「保育実習Ⅱ」と組み合わせて履修すること。 やむをえず欠席するときは、大学に連絡すること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育実習Ⅱ (Field PracticeⅡ (Day Care Center))			担当教員	出村 友寛	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-E-2364	2 単位	3 年後期	実習	選択	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 実践演習・総合演習・実習科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度					

(1) 授 業 の 内 容
3年次2～3月に2週間の保育所実習を行う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
この実習科目は、保育士資格取得のための選択必修科目としての保育所実習であり、「保育実習Ⅰa」を経て、さらに発展的に課題の解決に取り組む実習科目である。「保育実習Ⅰa」の経験を踏まえ、乳幼児に対する理解、保育士の職務に対する理解をよりいっそう深めることが目標である。2週間の期間で、「見学・観察」、「参加」、「部分」、「指導」の各段階の実習を行うが、特に「部分」、「指導」の各段階を多く取り入れ、より実践的な能力を身に付ける。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務について学ぶため、次の内容を経験し、学習する。 1. 保育全般に参加し、保育技術を習得する。 2. 子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。特に発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応方法を学ぶ。 3. 指導計画を立案し、実際に実践する。 4. 記録にもとづいて振り返りを行い、自己の学習課題を明らかにする。 5. 子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。 6. 地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ。 7. 子どもの最善の利益への配慮を学ぶ。 8. 保育士としての職業倫理を理解する。 9. 保育所の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。実習ノートに記載しながら振り返りを行う。 事前学習：部分実習等の指導計画を立案し、実習に向けた準備を行うこと。(5時間) 事後学習：実習ノートを記載し、振り返りを行うこと。(5時間)
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
実習園からの評価、教員の巡回指導の記録、実習日誌、出勤状況などにもとづき、総合的に評価する。
(7) 成 績 評 価 基 準
実習評価表の項目(5項目及び総合評価)による。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他(実習 に対するフィードバックについて) ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他(実習における評価および課題は、「保育実習指導Ⅱ」においてフィードバックする)
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 なし
(11) その他(受講上の注意) 大学及び実習保育所から指示された留意事項を守り、誠実に実習を行うこと。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育実習指導Ⅲ (Guidance for Field Practice (Childcare Institution))			担当教員	乙部 貴幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-E-2363	1 単位	3 年後期・ 4 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 実践演習・総合演習・実習科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度					

(1) 授 業 の 内 容
保育所以外の児童福祉施設等（児童館を含む）の学外実習を行うための事前及び事後の指導を行う。事前指導では、保育実習の意義と目的、実習の際の留意事項、実習日誌・日案の書き方を理解する。実習終了後は、グループ討議及び個別指導を行い、実習を振り返りながらさらに研鑽すべき課題を明らかにする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
事前指導では、保育実習の意義と目的を説明することができる。 実習日誌及び指導計画の書き方、エピソード記録の書き方の基本を身につける。 事後指導では、振り返りシートを通じて自己の長所と課題を理解し、さらに研鑽すべき課題を明らかにする。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☐ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：施設実習オリエンテーション①（児童館を含む施設実習の意義、目的の理解） 事前学習：2年生の「保育実習Ⅰb」を振り返り、2回目の実習の目標をまとめておく。（2時間） 事後学習：授業の内容をもとに実習先の種別ごとに、その役割についてまとめる。（2時間） 第2回：施設実習オリエンテーション②（児童館の役割について） 事前学習：次回の授業で児童館を取り上げるので、児童館の役割についてまとめておく。（1時間） 事後学習：授業の内容をもとに児童館における実習の内容（段階）をまとめる。（2時間） 第3回：施設実習オリエンテーション③（DVD児童館の役割——グループワーク） 事前学習：次回の授業で児童館を取り上げるので、児童厚生員の職務内容についてまとめておく。（1時間） 事後学習：グループワークでの議論をもとに実習の目標をまとめ直す。（2時間） 第4回：施設実習オリエンテーション④（実習の内容、実習ノート） 事前学習：実習における部分実習の指導案を作成する。（2時間） 事後学習：実習ノートの書き方を復習する。（2時間） 第5回：施設実習オリエンテーション⑤（施設実習の留意事項——ゲストスピーカー） 事前学習：次回の授業で現職の職員の講義を聴くので、質問項目をまとめておく。（2時間） 事後学習：講義をふまえて、小レポートを作成する。（2時間） 第6回：施設実習の事後指導①（個別振り返りシート） 事前学習：実習を終えて、実習ノートをもとに自らの評価を行っておく。（2時間） 事後学習：個別振り返りシートを作成する。（2時間） 第7回：施設実習の事後指導②（グループレポート集の作成） 事前学習：グループメンバーと協働してレポート集を作成作業を進める。（2時間） 事後学習：グループレポート集の完成に向けて作業を進める。（2時間） 第8回：施設実習の事後指導③（実習のまとめ） 事前学習：発表の準備を行う。（2時間） 事後学習：実習を振り返り、これからの学修の課題を明らかにする。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
授業内で実施するワークシート（10%×4）、最終レポート（60%）

(7) 成績評価基準
事前指導では、施設実習の意義と目的を説明することができるか。 実習日誌、指導計画の書き方の基本を身につけられたか。 事後指導では、振り返りシートを通して自己の長所と課題を認識し、さらに研鑽すべき課題を明らかにすることができたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■授業時 ■仁大eラーニング □メール □その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■授業時 ■仁大eラーニング □メール □その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて □授業時 □仁大eラーニング □メール □その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □定期試験時 □仁大eラーニング □メール □その他 5) その他 □授業時 □仁大eラーニング □メール □その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
授業において紹介する
(11) その他(受講上の注意)
この科目は、「保育実習Ⅲ」と組み合わせて履修すること。 やむをえず欠席するときは、大学に連絡すること。 事後指導は4年次の前期時間割の中で実施する。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育実習Ⅲ (Field Practice Ⅲ (Childcare Institution))			担当教員	乙部 貴幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-E-2365	2 単位	3 年後期	実習	選択	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 実践演習・総合演習・実習科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度					

(1) 授 業 の 内 容
3年次2～3月に10日間の施設実習（または児童館における実習）を行う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
この実習科目は、保育士資格取得のための選択必修科目としての施設実習であり、「保育実習Ⅰb」を経て、さらに発展的に課題の解決に取り組む実習科目である。特に、ケースに応じた個別的な関わりを通して児童の理解を深め、保育士及び他職員との協力関係による児童への援助的な働きかけを実践的に理解する。また、実習施設の中に、社会福祉関係諸法令の規定に基づいて設置されている施設も含め、幅広い観点からケアの実践的能力を身に付ける。 なお、児童厚生員資格の取得を希望する人は、児童館において実習を行い、児童館の役割や児童厚生員の職務内容を理解する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☐ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
保育所以外の児童福祉施設または児童館において、子どもへの理解を深めるとともに、施設の機能とそこでの保育士、児童厚生員の職務について学ぶため、次の内容を経験し、学習する。 1. 養護全般に参加し、養護技術を習得する。 2. 子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。特に発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応方法を学ぶ。 3. 援助計画を立案し、実際に実践する。 4. 記録にもとづいて振り返りを行い、自己の学習課題を明らかにする。 5. 子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。 6. 地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ。 7. 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。 8. 保育士、児童厚生員としての倫理を具体的に学ぶ。 9. 児童福祉施設等の保育士、児童厚生員に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。実習ノートに記載しながら振り返りを行う。 事前学習：部分実習等の指導計画を立案し、実習に向けた準備を行うこと。（5時間） 事後学習：実習ノートに記載し、振り返りを行うこと。（5時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
実習施設からの評価、教員の巡回指導の記録、実習日誌、出勤状況などにもとづき、総合的に評価（100％）
(7) 成 績 評 価 基 準
実習評価表の項目（5項目及び総合評価）による。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他(実習 に対するフィードバックについて) ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☒ その他(実習における評価および課題は、「保育実習指導Ⅲ」においてフィードバックする)
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
なし
(11) その他(受講上の注意)
大学及び実習施設から指示された留意事項を守り、誠実に実習を行うこと。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

事前・事後指導(幼稚園) (Guidance for Field Practice (Preschool))			担当教員	鈴木 智子、中野 研也	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-E-2109	1 単位	3 年	実習		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 実践演習・総合演習・実習科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度					

(1) 授 業 の 内 容
この授業は「教育実習Ⅰ(幼稚園)」(1年次)及び「教育実習Ⅱ(幼稚園)」(3年次)の事前事後指導として実施されるものである。幼稚園実習の目的・内容・方法及び留意事項などを理解するとともに、実習日誌の記録や指導計画の作成をはじめとして、実践に必要な基礎的な技能・技法についても学習する。また、教育実習を評価・反省することを通して、実習後の学習課題を明確にしていくための場でもある。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・実習の目的や意義を理解する。 ・実習に必要な知識や技能を修得する。 ・実習に必要な態度や心構えを身につける。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
1年次 第1回：教育実習オリエンテーション・教育実習の意義と目的を理解する。(伊東、中野) 第2回：4段階実習(見学・観察実習、参加実習、部分実習、指導実習)の意義・役割とその方法について理解する。(伊東、中野) 第3回：実習ノート(日誌)等の記録の取り方、記入の仕方を学習する。(伊東、中野) 第4回：指導案(週案・日案・設定保育案)の作成法、模擬保育実践を仮定して、立案を試みる。(伊東、中野) 第5回：模擬保育①(伊東、中野)(グループワーク) 第6回：模擬保育②(伊東、中野)(グループワーク) 第7回：模擬保育③(伊東、中野)(グループワーク) 第8回：模擬保育④(伊東、中野)(グループワーク) 第9回：研究テーマ、実習心構えの作成及び実習に臨む際、子どもの健康面、安全面などへの配慮、留意すべき点の確認をする。(伊東、中野) 第10回：実習報告会(2年生の実習体験報告を聞き、疑問点等の質問をする)。(伊東、中野) 第11回：スキルアップ講座①(学外指導者による実習に対する講演)(伊東、中野) 第12回：スキルアップ講座②(学外指導者による実践的指導)(伊東、中野) 3年次 第1回：教育実習オリエンテーション・実習の目標、課題の持ち方、観察の仕方等の再学習をする(鈴木智子・中野研也) 第2回：実習ノート(日誌)、指導案について教育実習Ⅱの様式で再学習する(鈴木智子・中野研也) 第3回：実習園への事前訪問内容や心構えを確認する(鈴木智子・中野研也) 第4回：実習ノート(日誌)の書き方について教育実習Ⅱの様式で学習をする(鈴木智子・中野研也) 第5回：指導案の作成について教育実習Ⅱの様式で学習する(鈴木智子・中野研也) 第6回：模擬保育を想定して指導案を実際に作成する(鈴木智子・中野研也) 第7回：模擬保育①(鈴木智子・中野研也) 第8回：模擬保育②(鈴木智子・中野研也) 第9回：模擬保育③(鈴木智子・中野研也) 第10回：教育実習Ⅱオリエンテーションについて(鈴木智子・中野研也) 第11回：まとめ・お礼状の書き方について(鈴木智子・中野研也) ・模擬保育の指導案を作成し、実施に必要なものを準備する。 ・模擬保育の練習を行う。 ・実習の心構えや研究テーマを作成する。

(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
課題提出物（40％）、模擬保育（40％）、平常点（20％） （平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
・実習の意義や目的を理解している。 ・指導案がしっかり作成されている。 ・実習に必要な提出物が提出されている。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書
林幸範、石橋裕子編 『最新 保育園幼稚園の実習 完全マニュアル』 成美堂出版 2018年 <参考図書> ・文部科学省 『幼稚園教育要領』 2017年 ・仁愛大学実習指導委員会編 『教育実習（幼稚園）実習の手引き』
(11) その他(受講上の注意)
1 年次の受講者は、3 年次も受講すること。評価は 3 年次末にあわせて行う。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育実習Ⅱ（幼稚園） （Teaching PracticeⅡ（Preschool））			担当教員	鈴木 智子、中野 研也	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-E-2313	3 単位	3 年前期	実習		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 実践演習・総合演習・実習科目					
求める学習成果（教育目標）					
教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度					

(1) 授 業 の 内 容
3 年次 9 月に公私立幼稚園等において、13日間（単位取得必要日数10日間）の教育実習を行う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ 幼児の心身の発達、興味や関心、生活や遊び、特性を理解する。 ・ 幼児と適切に関わることができる。 ・ 保育の方法と技術を修得する。 ・ 保育に取り組む姿勢を修得する。 ・ 積極的に適切な実習中の態度を身につける。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☐ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
教育実習は次に掲げる目的をもって幼稚園教諭として必要な資質・能力・技術を身につけ、教職課程を学ぶ学生の問題意識の構築や専門的学習の必要性を知る機会とする（鈴木智子・中野研也）。 (1)実習先の運営機構、教育方針、指導計画、事務分掌、教育環境等を理解する。 (2)グループ別、個人別等の形態により、観察、参加、指導、研究授業、教材及び指導法の研究、指導案の作成等の方法を通じて、学級経営の在り方を理解する。 (3)園の行事・運営にかかる実践活動への参加をする。 (4)保護者、地域社会と幼稚園の連携、相互理解等における教師の関わり方などを観察、把握する。・実習ノート（日誌）を毎日記録し、実習園に提出する。 ・ 指導案を作成し、指導者の助言により修正を繰り返す。 ・ 部分実習等の責任実習の準備を行う。 ・ ピアノ課題曲の練習を行う。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
実習園の評価（評価表）と大学の評価を総合して評価する。
(7) 成 績 評 価 基 準
・ 幼児の心身の発達、興味や関心、生活や遊び、特性を理解できたか。 ・ 幼児と適切に関わることができたか。 ・ 保育の方法と技術を修得できたか。 ・ 保育に取り組む姿勢がよかったか。 ・ 実習中の態度がよかったか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他(添削、コメントを書いて返却) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他(実習)に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他(実習における評価及び課題は「事前事後指導(幼稚園)」においてフィードバックする。)
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 文部科学省 『幼稚園教育要領』 子ども教育学科実習指導委員会編 『教育実習(幼稚園)実習の手引き』 子ども教育学科実習指導委員会編 『教育実習Ⅱ(幼稚園)実習ノート』
(11) その他(受講上の注意) 教育実習は、卒業後、教員として就職することを強く希望する学生のために、実習園の教育的配慮・好意によって受け入れていただくものである。 受講要件として、履修の前年度までに「教育実習Ⅰ(幼稚園)」を修得済みであること。また、その他の受講要件として、学生便覧、実習要項に記載されている科目の履修が必要である。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

事前・事後指導(小学校) (Guidance for Field Practice(Elementary))			担当教員	草桶 勇人、平岡 正実	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-E-2361	1 単位	3 年後期・4 年	実習		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 実践演習・総合演習・実習科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度					

(1) 授 業 の 内 容
事前指導として、教育実習の意義についての指導及び実地実習に際しての具体的指導を大学及び実習校で行う。また、教育実践場面に関わる学習として、学校参観・授業参観を行う。事後指導として、授業を中心とした教育実習の成果・課題を踏まえ、教職に必要な事項について実践的な指導を行う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・事前学習を通して教育実習の意義を理解し、実地実習に際しての予備的な学習を行う。学校参観・授業参観を通して、学校教育について理解を深め、実践的知識を身に付ける。 ・事後指導を通して各自の実習の成果・課題を確認し、それを踏まえ教職についての理解を深める。
(3) アクティブラーニング
□課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ■実習、フィールドワーク ■実験、実技 □その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
[事前指導] 第1回：小学校教育実習の意義、目的、内容(草桶・平岡) 第2回：教育実習の準備と心得(草桶・平岡) 第3回：授業参観の目的とその観点(討議)(草桶・平岡) 第4回：協力校における授業参観(フィールドワーク)(草桶・平岡) 第5回：協力校における授業参観(フィールドワーク)(草桶・平岡) 第6回：授業参観しての意見交換(グループワーク、討議)(草桶・平岡) 第7回：協力校における授業参観(フィールドワーク)(草桶・平岡) 第8回：教材研究と学習指導案の作成方法(一般)(草桶・平岡) 第9回：教材研究と学習指導案の作成方法(算数)(草桶・平岡) 第10回：模擬授業(実技、討議)(草桶・平岡) 第11回：特別講義「教育実習の心得」(小学校教諭を招いての特別講義)(草桶・平岡) 第12回：ICTを活用した模擬授業(グループワーク、実習、実技)(草桶・平岡) 第13回：実習日記の記入方法及び教育実習の具体的留意点(草桶・平岡) 第14回：教育実習直前指導(草桶・平岡)
[事後指導] 第15回：教育実習の振り返り①(実習ノートのまとめをする。各自が実習の成果、課題を明確にする。(草桶・平岡)) 第16回：教育実習の振り返り②(実習ノートのまとめをする。各自が実習の成果、課題を明確にする。(草桶・平岡)) 第17回：教育実習反省会①(課題別反省会を実施する。(グループワーク、討議)(草桶・平岡)) 第18回：教育実習反省会②(課題別反省会を実施する。(グループワーク、討議)(草桶・平岡)) 第19回：教育実習反省会③(課題別反省会を実施する。(グループワーク、討議)(草桶・平岡)) 第20回：教育実習報告書作成①(各自の実習の成果、課題を教育実習報告書にまとめる。(グループワーク、討議)(草桶・平岡)) 第21回：教育実習報告書作成②(各自の実習の成果、課題を教育実習報告書にまとめる。(グループワーク、討議)(草桶・平岡)) 第22回：教育実習の総括①(全体反省会、評価表をもとに全般的講評、報告書を発表・討議し、卒業までの課題を明確にする。(グループワーク、討議)(草桶・平岡)) 第23回：教育実習の総括②(全体反省会、評価表をもとに全般的講評、報告書を発表・討議し、卒業までの課題を明確にする。(草桶・平岡))

(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポート（60%）、各活動への取り組み状況（40%）で総合的に評価する。
(7) 成績評価基準
・事前指導で教育実習の意義を理解し、実践的知識を習得できているか。 ・事後指導で教育実習の成果や課題を踏まえ、教職についての理解が深まったか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書
小学校教育実習の手引き 小学校教科書（国語、社会、算数、理科）
(11) その他(受講上の注意)
教育実習校は、実習生が実習に必要な学習内容を十分に習得し、教育について深く理解していることを前提として迎えてくれる。そして、実習生には教職に就きたいという強い意志を持って臨むことが求められる。 教育実習に全力で臨むためにも、事前指導で十分準備を、事後指導で実習の省察をすることが重要である。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (SeminarⅠ)			担当教員	伊東 知之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2315	2 単位	3 年通年	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
造形・美術養育等の分野で自分自身がどのようなことに興味や関心があるのかを考え、各自が卒業研究に向けて研究を深めていく内容、テーマを探っていく。併せてこれまでの卒業研究を参考にしながらテーマや自分にあった研究の方法についても考えていく。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ 自分の興味や関心のある内容を説明できる。 ・ 研究の方法について説明できる。 ・ 研究の計画を立てることができる。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 事前学習：自分の興味のあるテーマについて考えをまとめておく。(2時間) 事後学習：研究テーマについて概要をまとめる。(2時間) 第2回：美術・造形について(PBL、実技) 事前学習：美術について疑問点をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業の内容についてまとめておく。(2時間) 第3回：美術・造形教育について(PBL、実技) 事前学習：美術・造形教育についての疑問点をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業の内容をまとめておく。(2時間) 第4回：作品、作家研究①(PBL、実技) 事前学習：自分の興味のある作家、作品をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業内容をまとめておく。(2時間) 第5回：作品、作家研究②(PBL、実技) 事前学習：自分の興味のある作家、作品について調べておく。(2時間) 事後学習：授業内容をまとめておく。(2時間) 第6回：作品、作家研究③(PBL、実技) 事前学習：自分の興味のある作家、作品について深く調べる。(2時間) 事後学習：授業の内容をまとめておく。(2時間) 第7回：作品、作家研究④(PBL、実技) 事前学習：調べたことを発表できるようにまとめておく。(2時間) 事後学習：質問があった項目について調べておく。(2時間) 第8回：作品、作家研究⑤(PBL、実技) 事前学習：発表用の資料を作成する。(2時間) 事後学習：質問項目について調べ、まとめておく。(2時間) 第9回：文献研究①(PBL、実技) 事前学習：自分のテーマに合う文献、資料をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業内容をまとめておく。(2時間) 第10回：文献研究②(PBL、実技) 事前学習：テーマに合う文献、資料を調べておく。(2時間) 事後学習：授業の内容をまとめておく。(2時間) 第11回：文献研究③(PBL、実技) 事前学習：自分のテーマに合う文献、資料を調べて発表できるようにしておく。(2時間) 事後学習：質問項目についてまとめておく。(2時間)

第12回：文献研究④（PBL、実技） 事前学習：自分のテーマについて文献、資料を調べて発表用の資料を作成する。（2時間） 事後学習：質問のあった項目について調べておく。（2時間） 第13回：文献研究⑤（PBL、実技） 事前学習：発表用の資料を作成する。 事後学習：質問項目について調べておく。（2時間） 第14回：研究発表（発表） 事前学習：これまで調べたことをまとめておく。（2時間） 事後学習：発表用の資料を作成する。（2時間） 第15回：研究発表（発表） 事前学習：発表用の資料を作成する。（2時間） 事後学習：質問等を調べ、資料に追加しておく。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
発表内容（80％）、平常点（20％） （平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
・研究内容について説明できるか。 ・今後の計画を説明できる。
(8) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（添削、コメントを書いて返却） 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて指示する。
(11) その他（受講上の注意）
「子どもと造形」「保育内容研究（表現B）」「図画工作Ⅰ」「美術の世界」の単位を取得しており、「図画工作科教育法」を履修していることが望ましい。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (SeminarⅠ)			担当教員	渡辺 直人	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2315	2 単位	3 年通年	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例を参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習において文献等を講読し、討論することを通して、自らの研究テーマを設定する。ゼミとして、地域課題の解決に向けた活動を行なうとともに、必要に応じて、保育関連のフォーラムや研修会に参加して、専門的な知識を習得する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
文献等の講読や討論を通じて、研究課題の対象と方法を学び、自らの研究テーマを設定する。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習 (PBL) ☒ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション（ゼミの概要や方針について説明、CiNiiの活用方法について） 事前学習：これまでの大学での学びの成果と課題をまとめておく（2時間） 事後学習：文献検索の手法を用いて、複数の文献をピックアップする。（2時間） 第2回：文献講読 事前学習：「保育の現場・職業の魅力向上に関する報告書」を読む。（2時間） 事後学習：第1回：課題レポートの作成。（2時間） 第3回：自主課題の発表（1）レポートの書き方（討議） 事前学習：自分の選んだ文献・論文等について内容報告のためのレジメを作成する。（2時間） 事後学習：第2回：課題レポートの作成。（2時間） 第4回：自主課題の発表（2）レポートの書き方（討議） 事前学習：自分の選んだ文献・論文等について内容報告のためのレジメを作成する。（2時間） 事後学習：第3回：課題レポートの作成。（2時間） 第5回：自主課題の発表（3）（発表・プレゼンテーション） 事前学習：自分の選んだ文献・論文等について内容報告のためのレジメを作成する。（2時間） 事後学習：第3回：課題レポートの作成。（2時間） 第6回：自主課題の発表（4）（発表・プレゼンテーション） 事前学習：自分の選んだ文献・論文等について内容報告のためのレジメを作成する。（2時間） 事後学習：第3回：課題レポートの作成。（2時間） 第7回：図書館において文献検索指導 事前学習：あらかじめCiNiiで文献検索を試してみる。（2時間） 事後学習：講習をもとに文献検索を試してみる。（2時間） 第8回：課題論文（2篇）のレポート作成（課題解決型学習） 事前学習：課題論文を読んでレポートにまとめる。（2時間） 事後学習：第4回：課題レポートの作成。（2時間） 第9回：課題論文レポートの講評（課題解決型学習） 事前学習：自分のレポートの発表を準備する。（2時間） 事後学習：討議をもとに自分の考えをまとめる。（2時間） 第10回：自主課題の発表（5）（発表・プレゼンテーション） 事前学習：自分の選んだ文献・論文等について内容報告のためのレジメを作成する。（2時間） 事後学習：第7回：課題レポートの作成。（2時間） 第11回：自主課題の発表（6）（発表・プレゼンテーション） 事前学習：自分の選んだ文献・論文等について内容報告のためのレジメを作成する。（2時間） 事後学習：第8回：課題レポートの作成。（2時間）

第12回：研究の方法（１）（討議） 事前学習：あらかじめ提示された文献・雑誌を読み、質問事項をまとめておく。（２時間） 事後学習：第９回：課題レポートの作成。（２時間） 第13回：研究の方法（２）（討議） 事前学習：あらかじめ提示された文献・雑誌を読み、質問事項をまとめておく。（２時間） 事後学習：第10回：課題レポートの作成。（２時間） 第14回：研究のデザイン発表（PBL、ディスカッション、グループワーク、発表） 事前学習：４年生に予定している研究（内容・方法）について報告するためのレジメを作成する。（２時間） 事後学習：授業や討議をもとに自分の研究計画をまとめ直す。（２時間） 第15回：研究のデザイン発表（PBL、ディスカッション、グループワーク、発表） 事前学習：４年生に予定している研究（内容・方法）について報告するためのレジメを作成する。（２時間） 事後学習：授業や討議をもとに自分の研究計画をまとめ直す。（２時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
課題レポート（60％） 平常点（40％） （平常点は、授業への参加状況、受講態度を総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。 自分の研究テーマに係る対象と方法について、デザイン発表することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
講読する文献、論文は適宜紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (SeminarⅠ)			担当教員	中野 研也	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2315	2 単位	3 年通年	演習	必修	
＜科目区分＞ 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果（教育目標）					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
音楽または音楽に関連することについて、各自が興味を持つ対象を研究・発表し、少人数での討論を行う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
1. 音楽に関する知識と理解を深める。 2. 音楽を通して豊かな教養を身に付け、教育・保育に活かす。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション。各自の関心と研究テーマについて選定の視点と今後の要望について述べる。 (ディスカッション) 事前学習：オリエンテーションへ向けて、自分がゼミで行いたい研究テーマについて書き出しておくこと。(2時間) 事後学習：第1回授業時に仮決定したテーマについて、省察を行うこと。(2時間) 第2回：それぞれのテーマについての文献及び関連情報を収集する。 事前学習：仮決定した研究テーマについて、資料・文献等の出版状況を調べておくこと。(2時間) 事後学習：資料・文献の収集状況により、研究テーマを決定する。(2時間) 第3回：それぞれのテーマについての文献及び関連情報を通読する。 事前学習：決定した研究テーマについて、資料・文献を読んでおくこと。(2時間) 事後学習：教員の指導内容を踏まえ、レポートにまとめる。(2時間) 第4回：それぞれのテーマについての発表をする。(発表) 事前学習：発表のための資料などの準備をしておくこと。(2時間) 事後学習：それぞれの発表について、自分の感じたことを書き出す。(2時間) 第5回：それぞれのテーマについての発表と討議をする。(グループワーク、ディスカッション) 事前学習：それぞれのテーマについて討議をするための、自分の考えをまとめておくこと。(2時間) 事後学習：討議で出された意見や指摘をもとに、反省点を書き出す。(2時間) 第6回：ここまでで研究したテーマについて、必要であれば見直しを行う 事前学習：研究テーマについて、再検討が必要かどうか自分の考えを書き出しておくこと。(2時間) 事後学習：研究テーマに関連する文献・資料の選択を行う。(2時間) 第7回：それぞれのテーマについて実践している現場の観察 1 事前学習：観察を行う現場について、事前に調べておくこと。(2時間) 事後学習：観察結果をもとに、レポートを作成する。(2時間) 第8回：それぞれのテーマについて実践している現場の観察 2 事前学習：1回目の観察結果をもとに、2回目に観察を行う現場を決定しておくこと。(2時間) 事後学習：観察結果をもとに、レポートを作成する。(2時間) 第9回：現場の観察についての発表と討議 1 (グループワーク、ディスカッション) 事前学習：1回目の観察結果をもとに、2回目に観察を行う現場を決定しておくこと。(2時間) 事後学習：観察結果をもとに、レポートを作成する。(2時間) 第10回：現場の観察についての発表と討議 2 (グループワーク、ディスカッション) 事前学習：発表のための資料などの準備をしておくこと。(2時間) 事後学習：それぞれの発表について、自分の感じたことを書き出す。(2時間) 第11回：ここまでで研究したテーマについて、必要であれば見直しを行う 事前学習：研究テーマについて、再検討が必要かどうか自分の考えを書き出しておくこと。(2時間) 事後学習：研究テーマに関連する文献・資料の選択を行う。(2時間)

第12回：それぞれのテーマについての研究発表と意見交換 1 （グループワーク、ディスカッション） 事前学習：発表のための資料などの準備をしておくとともに、それぞれのテーマについて討議をするための、自分の考えをまとめておくこと。（2時間） 事後学習：討議で出された意見や指摘をもとに、反省点を書き出す。（2時間） 第13回：それぞれのテーマについての研究発表と意見交換 2 （グループワーク、ディスカッション） 事前学習：発表のための資料などの準備をしておくとともに、それぞれのテーマについて討議をするための、自分の考えをまとめておくこと。（2時間） 事後学習：討議で出された意見や指摘をもとに、反省点を書き出す。（2時間） 第14回：それぞれのテーマについての研究発表と意見交換 3 （グループワーク、ディスカッション） 事前学習：発表のための資料などの準備をしておくとともに、それぞれのテーマについて討議をするための、自分の考えをまとめておくこと。（2時間） 事後学習：討議で出された意見や指摘をもとに、反省点を書き出す。（2時間） 第15回：次年度への展望のまとめ文献等の情報収集に努め、要点をまとめておくこと。 事前学習：研究テーマに関連する文献・資料の選択を再度行う。（2時間） 事後学習：次年度への展望について、レポートを作成する。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 授業に対する姿勢（50%）、およびレポートなどの提出物（50%）を総合して評価する。
(7) 成績評価基準 音楽および音楽関連についての知識が深まったか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他 (Teams) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他 (Teams) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他 (Teams) 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 ゼミ生個々の主体的な研究に負うため、共通のテキストは用いない。
(11) その他(受講上の注意) 毎回のゼミで提出あるいは作成したレポート等は、卒業論文執筆のための大切な資料となります。レポートの作成にあたっては、常に最終目的を意識してください。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (SeminarⅠ)			担当教員	嶋田 敬介	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2315	2 単位	3 年通年	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
専門分野に関するこれまでの学修を基礎とし、課題設定、仮説の立て方、研究の方法、結果のまとめ方、発表の方法を学び、問題解決能力の向上を目指す。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
科学教育に関する課題を見出し、適切に探究活動を行うことができる。自然科学領域に関する観察・実験・調査等を行い、結果を適切に考察し、まとめたり、発表したりすることができる。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション(PBL、ディスカッション) 事前学習：探究活動とは何かについて調べて、まとめておく(2時間)。 事後学習：年間を通した活動内容を整理し、大きな見通しをもつ(2時間)。 第2回：実験器具、実験室の使い方(実験) 事前学習：実験器具の使い方を整理し、基礎的な操作方法を確認しておく(2時間)。 事後学習：実験器具の使い方について基礎的技能を確認する(2時間)。 第3回：科学的なものの見方・考え方(PBL、ディスカッション) 事前学習：科学的とは何かについて、自分の考えをまとめる(2時間)。 事後学習：科学的なものの見方・考え方について整理する(2時間)。 第4回：先行研究の調べ方(PBL、ディスカッション) 事前学習：先行研究とは何かについて、自分の考えを整理する(2時間)。 事後学習：自分の課題に関する先行研究を調べて、その概略をまとめる(2時間)。 第5回：課題設定の方法(PBL、ディスカッション) 事前学習：自分の興味や関心のあるテーマをリストアップする(2時間)。 事後学習：課題設定のための方法を試みる(2時間)。 第6回：仮説の立て方(PBL、ディスカッション) 事前学習：仮説とは何かについて、自分の考えを整理する(2時間)。 事後学習：具体的な事例に基づいて、仮説を立てる練習を行う(2時間)。 第7回：実験ノートの書き方、結果のまとめ方(PBL、ディスカッション) 事前学習：実験ノートについての自分の考えをまとめる(2時間)。 事後学習：実験に関するノートの書き方を理解し、事例に基づいて書いてみる(2時間)。 第8回：先行研究の調査・論文発表①(PBL、ディスカッション、発表) 事前学習：自分の興味・関心のある論文を探し、発表形式にまとめる(2時間)。 事後学習：自分の発表を振り返り、次の発表に反映させる(2時間)。 第9回：先行研究の調査・論文発表②(PBL、ディスカッション、発表) 事前学習：自分の興味・関心のある論文を探し、発表形式にまとめる(2時間)。 事後学習：自分の発表を振り返り、次の発表に反映させる(2時間)。 第10回：先行研究の調査・論文発表③(PBL、ディスカッション、発表) 事前学習：自分の興味・関心のある論文を探し、発表形式にまとめる(2時間)。 事後学習：自分の発表を振り返り、次の発表に反映させる(2時間)。 第11回：課題の設定(PBL、ディスカッション) 事前学習：これまでの活動から課題を設定し、探究活動の見通しをもつ(2時間)。 事後学習：課題に対する仮説の確認を行う(2時間)。 第12回：仮説の立案(PBL、ディスカッション) 事前学習：課題解決の見通しをもって、仮説を立てる(2時間)。 事後学習：検証可能な仮説になっているかについて確認する(2時間)。

第13回：探究活動のための材料と方法（PBL） 事前学習：仮説を検証するための適切な材料と方法を考える（2時間）。 事後学習：検討した材料と方法について具体的な行動計画を立てる（2時間）。 第14回：研究計画書の作成（PBL、ディスカッション） 事前学習：研究計画書を作成する（2時間）。 事後学習：授業でのディスカッションに基づいて研究計画書の修正をする（2時間）。 第15回：研究計画に基づいて探究活動の遂行（PBL、ディスカッション） 事前学習：自律的に探究活動を行うことの重要性を意識する（2時間）。 事後学習：自分の探究活動を振り返り、問題点を整理し、改善策を考える（2時間）。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
論文紹介発表（30％），平常点（30％），提出物（40％） ※平常点は授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。
(7) 成績評価基準
（1）科学教育における課題を見出すことができる。 （2）課題を適切に処理し、考察し、結論を導くことができる。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて提示する。
(11) その他(受講上の注意)
学内外での活動（自然観察，セミナー，学会等への参加）も含まれる。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (SeminarⅠ)			担当教員	青井 夕貴	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2315	2 単位	3 年通年	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容	
専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例も参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習における文献購読、発表、議論を通して、各自がより深く研究しようとするテーマを見つける。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
自らの関心や問題意識を明確化し、他者へ論理的に伝えることができる。 他者の関心や問題意識にも関心を持ち、議論することができる。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：オリエンテーション 事前学習：シラバスとゼミ要項を熟読して、疑問点等を整理する。(2時間) 事後学習：配付された資料等を整理し、理解を深める。(2時間) 第2回：文献の探し方、読み方、まとめ方 事前学習：文献の探し方等に関する文献を読み、疑問点等を整理する。(2時間) 事後学習：配付された資料等を整理し、理解を深める。(2時間) 第3回：担当者による発表と討議① 事前学習：自分が関心をもつテーマに関する文献等を探し、まとめる。自分の考えや疑問点などを整理し、発表の準備をする。(2時間) 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、理解を深める。(2時間) 第4回：担当者による発表と討議② 事前学習：自分が関心をもつテーマに関する文献等を探し、まとめる。自分の考えや疑問点などを整理し、発表の準備をする。(2時間) 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、理解を深める。(2時間) 第5回：担当者による発表と討議③ 事前学習：自分が関心をもつテーマに関する文献等を探し、まとめる。自分の考えや疑問点などを整理し、発表の準備をする。(2時間) 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、理解を深める。(2時間) 第6回：担当者による発表と討議④ 事前学習：自分が関心をもつテーマに関する文献等を探し、まとめる。自分の考えや疑問点などを整理し、発表の準備をする。(2時間) 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、理解を深める。(2時間) 第7回：担当者による発表と討議⑤ 事前学習：自分が関心をもつテーマに関する文献等を探し、まとめる。自分の考えや疑問点などを整理し、発表の準備をする。(2時間) 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、理解を深める。(2時間) 第8回：中間まとめ～研究テーマの方向性の共有 事前学習：これまでの議論等を振り返り、自分の考えや疑問点などを整理する。(2時間) 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、理解を深める。(2時間) 第9回：先行研究と研究計画に関する発表と討議① 事前学習：自分のテーマに関する先行研究をまとめ、自分の考えや疑問点などを整理し、発表の準備をする。(2時間) 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、研究計画を再考する。(2時間)	

第10回：先行研究と研究計画に関する発表と討議② 事前学習：自分のテーマに関する先行研究をまとめ、自分の考えや疑問点などを整理し、発表の準備をする。（2時間） 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、研究計画を再考する。（2時間） 第11回：先行研究と研究計画に関する発表と討議③ 事前学習：自分のテーマに関する先行研究をまとめ、自分の考えや疑問点などを整理し、発表の準備をする。（2時間） 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、研究計画を再考する。（2時間） 第12回：先行研究と研究計画に関する発表と討議④ 事前学習：自分のテーマに関する先行研究をまとめ、自分の考えや疑問点などを整理し、発表の準備をする。（2時間） 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、研究計画を再考する。（2時間） 第13回：先行研究と研究計画に関する発表と討議⑤ 事前学習：自分のテーマに関する先行研究をまとめ、自分の考えや疑問点などを整理し、発表の準備をする。（2時間） 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、研究計画を再考する。（2時間） 第14回：研究計画書の作成と発表① 事前学習：これまでの議論を踏まえ、研究計画書を作成する。（2時間） 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、研究計画書を修正する。（2時間） 第15回：研究計画書の作成と発表② 事前学習：これまでの議論を踏まえ、研究計画書を作成する。（2時間） 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、研究計画書を修正する。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 発表内容 (50%)、議論への参加状況 (50%)
(7) 成績評価基準 自らの関心や問題意識を明確化し、他者へ論理的に伝えることができるか。 他者の関心や問題意識にも関心を持ち、議論することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 テキストは使用しない。参考図書は、テーマに合わせて適宜紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (SeminarⅠ)			担当教員	乙部 貴幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2315	2 単位	3 年通年	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
各自、学術論文を読み、内容を他者に理解できるように発表する。また、当事者インタビューなどを通じて、卒業論文のテーマを具体化させていく。最終的に、卒業論文のタイトル、目的、方法を学年最後までに策定することを目標とする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・学術論文の基本的な読み方とともに、検索、入手方法についても身につける。 ・学術論文の内容を他者に理解できるように簡単に要約する。 ・インタビューを通じて、「問い方」について深く考えられるようになる。 ・卒業論文のテーマ・内容を納得がいく形で策定する。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：論文を読むにあたっての基本的知識、文献の検索・入手方法の解説(グループワーク) 事後学習：教員が各自の興味の沿って用意した課題文献を読み、内容をスライド数枚に要約する。(4時間) 第2回：課題文献の発表と質疑(グループワーク) 事後学習：各自が検索して入手した文献を1つ読み、内容をスライド数枚に要約する。(4時間) 第3回：自分で入手した文献の発表と質疑(グループワーク) 事後学習：発表した文献と関連の深い他の文献を2～3入手し、それを合わせてレビューするスライドを作成する。(4時間) 第4回：レビュー発表と質疑(グループワーク) 事後学習：今回まで選んできた文献とは全く異なる、かつ自分が興味を持てる検索ワードで入手した文献をスライド数枚に要約する。(4時間) 第5回：別分野文献の発表と質疑(グループワーク) 事後学習：自分が担当する統計的仮説検定の手法について解説するスライドを作成する(4時間) 第6回：検定法の発表と質疑(グループワーク) 事後学習：卒業研究で研究したい分野について改めて調べて、どのようなことをしたいか展望をまとめる。(4時間) 第7回：卒業論文の研究テーマについての展望の発表と議論(グループワーク) 事後学習：議論を踏まえて展望を見直す。(4時間) 第8回：卒業研究の対象・方法についての議論(グループワーク、PBL) 事後学習：研究対象にインタビューする際の質問を考える(2時間) 第9回：インタビュー質問の発表と議論(グループワーク、PBL) 事後学習：議論を踏まえて質問を改善し、リスト化する。(4時間) 第10回：改善した質問の発表と意見交換(グループワーク、PBL) 事後学習：意見交換の振り返りとインタビューシートの作成。(4時間) 第11回：インタビュー対象・方法の確認(グループワーク、PBL) 事後学習：インタビューの実施(4時間) 第12回：インタビュー結果の発表と意見交換1(グループワーク、PBL) 事前学習：発表準備(3時間) 事後学習：発表・意見交換の振り返り(1時間) 第13回：インタビュー結果の発表と意見交換2(グループワーク、PBL) 事前学習：発表準備(3時間) 事後学習：意見交換の振り返り(1時間)

第14回：卒業研究の目的・方法・分析についての説明と議論（グループワーク） 事後学習：卒業研究のタイトル・目的・方法についてスライド数枚にまとめる。（4時間） 第15回：卒業研究の概要の発表と議論（グループワーク） 事前学習：発表と議論の振り返り（4時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 発表内容と議論への参加：100%
(7) 成績評価基準 授業の到達目標に記載した行動目標を達成しているかどうかを総合的に評価する。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☒その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☒その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☒その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他（毎回レポートに対するフィードバックについて） ☒授業時 ☒大eラーニング ☒メール ☒その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書 授業担当者が準備した資料または受講生自身が準備した資料。
(11) その他(受講上の注意) 途中、休み期間による中断がありますが、継続性を大切にしてください。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (SeminarⅠ)			担当教員	草桶 勇人	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2315	2 単位	3 年通年	演習	必修	
＜科目区分＞ 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
算数・数学教育に関するこれまでの学修を基礎に、国際調査(TIMMS・PISA)や国内調査(全国学力・学習状況調査等)の公表された結果から算数・数学教育の現状と課題を把握する。実際の授業を、数学的活動(数学的問題解決の過程/数理化サイクル)の視点から考察し、自己の興味関心のある課題を発見し、研究テーマを明確化していく。先行研究や先行実践を手がかりに、自己の研究テーマへのアプローチの方法について考える。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、国内外の諸調査から算数・数学教育の現状と課題を把握し、学習指導要領の改定の経緯や算数科改定の趣旨及び算数科の目標等を理解する。先行研究・実践の事例分析を通して、数学的問題解決のプロセスにおける教師の指導言の役割などを理解する。研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について理解する。この演習を通して、各自がより深く研究しようとするテーマを見つける契機とする。
1. 算数・数学教育の現状と課題を理解している。 2. 学習指導要領の算数科改訂の趣旨及び要点や算数科の目標を理解し、各領域の内容の概観ができる。また、数学的活動の意義を理解している。 3. 算数科学習における「数学的な見方・考え方」と授業における指導言との関わりを理解している。 4. 先行研究や先行実践を、自己の研究テーマとの関わりで読みとることができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション(発表、討議) 事前学習：算数・数学教育の被教育体験から課題だと考えられることについて、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：算数・数学教育の課題の発表、討議から気づいたことを、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第2回：TIMSSにみる我が国の算数・数学教育の現状(発表、討議) 事前学習：文科省のHPや報告書等からTIMSSの結果の概要の要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：発表、討議をもとにわが国の算数・数学教育の現状等について整理し、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第3回：PISAにみる我が国の算数・数学教育の課題(主に活用力を中心に)(発表、討議) 事前学習：文科省のHPや報告書等からPISAの結果の概要の要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：発表、討議をもとにわが国の数学教育の課題(活用力)等について整理し、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第4回：全国学力・学習状況調査にみる算数科の現状と課題(発表、討議) 事前学習：文科省のHPや報告書等から全国学力・学習状況調査の結果の概要の要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：発表、討議をもとにわが国の算数教育の具体的な課題等について整理し、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第5回：国際調査(TIMSS・PISA)や国内調査(全国学力・学習状況調査)の重点課題(単位あたり量や割合、表現力等)(発表、討議) 事前学習：諸調査から明らかにされた具体的課題から一つ選択し、その単元を調べ、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：調べた課題の発表、討議から、その課題解決の方策を自分なりに考察し、リフレクションシートにまとめる。(2時間)

第6回：新学習指導要領の改定の経緯及び基本方針、算数科改定の趣旨及び要点（討議） 事前学習：『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編』第1章を読み、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：討議をもとに算数科改定の背景等について整理し、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第7回：新学習指導要領における算数科の目標（討議） 事前学習：『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編』第2章を読み、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：討議をもとに資質・能力に基づいた算数教育の目標を整理し、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第8回：新学習指導要領における算数科の内容と数学的活動（討議） 事前学習：『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編』第3章を読み、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：討議をもとに数学的活動の意義等について整理し、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第9回：授業における教師の指導言の分析 事前学習：授業における教師の指導言について自分なりにいくつかに類型化し、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：講義をもとに数学的問題解決過程における発問について整理し、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第10回：算数科の学習における「数学的な見方・考え方」（主に発問との関わり） 事前学習：『解説 算数編』等から「数学的な見方・考え方」について調べ、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：講義をもとに数学的な見方・考え方と発問との係わりについて、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第11回：先行研究・実践の事例分析①（課題の発見）（発表、討議） 事前学習：自分の興味のある単元等の先行研究や実践を調べ、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：調べた先行研究・実践の発表、討議をもとに課題を見つけ、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第12回：先行研究・実践の事例分析②（課題の明確化）（発表、討議） 事前学習：前時のリフレクションシートにまとめた課題に関する研究・実践を精査し、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：さらなる調べた先行研究・実践の発表、討議をもとに課題を明確化し、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第13回：先行研究・実践の事例分析③（課題へのアプローチの方法－認知的側面）（発表、討議） 事前学習：自分の課題とする単元の認知的成果が得られた先行研究や実践を調べ、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：調べた先行研究・実践の発表、討議をもとに認知的課題解決の方策について、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第14回：先行研究・実践の事例分析④（課題へのアプローチの方法－情意的側面）（発表、討議） 事前学習：自分の課題とする単元の情意的成果が得られた先行研究や実践を調べ、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：調べた先行研究・実践の発表、討議をもとに情意的課題解決の方策について、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第15回：研究計画を立てる。（発表、討議） 事前学習：これまでの学修をもとに自分の研究課題を設定しその設定理由の要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：研究課題の発表、討議をもとに更に細部まで検討した研究課題を作成する。（2時間）	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
参考書や調査課題等の要約レポート（40％）、事例分析レポート（40％）、討論の様子等（20％）で総合的に評価する。	
(7) 成績評価基準	
・算数・数学教育の現状と課題を把握できたか。 ・算数科改訂の趣旨等を理解し、算数教育の目標や数学的活動の意義が理解できたか。 ・「数学的な見方・考え方」と関連させて授業における教師の指導言の機能や役割を理解できたか。 ・先行研究・実践の分析を通して、興味関心をもって研究しようとするテーマを見つけることができたか。	

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
参考書・参考資料等： 小寺隆幸編著『主体的・対話的に深く学ぶ算数・数学教育 コンテンツとコンピテンシーを見すえて』ミネルヴァ書房、2018年 藤村宣之『数学的・科学的リテラシーの心理学－子どもの学力はどう高まるか－』有斐閣、2012年 文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編』東洋館出版、2018 算数科授業研究の会『算数科教育の基礎・基本』明治図書、2023年 溝口達也編著『新しい算数教育の理論と実践』ミネルヴァ書房、2021年 など
(11) その他(受講上の注意)
基本的に要約レポートをもとにディスカッションをしながら演習を進めるので、積極的な態度で授業に臨むこと。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (SeminarⅠ)			担当教員	鈴木 智子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2315	2 単位	3 年通年	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例も参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習を通して、各自がより深く研究しようとするテーマを見つける。 幼児教育や保育の現場における諸問題や子どもの発達と援助について興味・関心を掘り起こし、問題意識を育む。そして、深く多面的な理解を育むために資料や情報を収集しつつ、問題解決についての考えを展開し構築していく。専門分野における理解を深めるとともに、少人数、双方向型の教育によって発表や集団討議を繰り返すことで、問題意識と関連させた内省が生まれる。それを契機として、幼児教育者を志す自身の在り方や生き方についても問いかけができるように切磋琢磨する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
幼児教育・保育にかかわる諸問題について理解を深める。 多様な研究方法について理解を深める。 一つのテーマに基づいて問題意識を持ち、討論する力を養う。 卒業研究につながる各自の研究テーマを明確化する。
(3) アクティブラーニング
□課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：オリエンテーション 事前学習：これまでの学習を振り返り、探求したい自己のテーマを決めてくる(2時間) 事後学習：授業内容を踏まえて、探求したい自己のテーマに関連する書籍等を読む(2時間) 第2回：文献検索、先行研究の読み方 事前学習：探求したいテーマに関するキーワードを用意する(2時間) 事後学習：授業内容を踏まえて、テーマに関連する文献を検索し、講読する文献を用意する(2時間) 第3回：文献講読 1 事前学習：テーマに関する文献のレジュメを作成する(2時間) 事後学習：授業内容を踏まえて、自身のレジュメを修正する(2時間) 第4回：文献講読 2 事前学習：テーマに関する文献のレジュメを作成する(2時間) 事後学習：授業内容を踏まえて、自身のレジュメを修正する(2時間) 第5回：文献講読 3 事前学習：テーマに関する文献のレジュメを作成する(2時間) 事後学習：授業内容を踏まえて、自身のレジュメを修正する(2時間) 第6回：文献講読 4 事前学習：テーマに関する文献のレジュメを作成する(2時間) 事後学習：授業内容を踏まえて、自身のレジュメを修正する(2時間) 第7回：文献講読 5 事前学習：テーマに関する文献のレジュメを作成する(2時間) 事後学習：授業内容を踏まえて、自身のレジュメを修正する(2時間) 第8回：文献講読 6 事前学習：テーマに関する文献のレジュメを作成する(2時間) 事後学習：授業内容を踏まえて、自身のレジュメを修正する(2時間) 第9回：中間のまとめ 事前学習：これまでの授業内容を振り返り、テーマに関して得られた知識をまとめておく(2時間) 事後学習：授業内容を踏まえて、問題意識を明確にする(2時間)

第10回：研究発表と討論 1 事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジюмеを作成する（2時間） 事後学習：授業での討論を踏まえて、レジюмеを見直し、先行研究のまとめを作成する（2時間） 第11回：研究発表と討論 2 事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジюмеを作成する（2時間） 事後学習：授業での討論を踏まえて、レジюмеを見直し、先行研究のまとめを作成する（2時間） 第12回：研究発表と討論 3 事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジюмеを作成する（2時間） 事後学習：授業での討論を踏まえて、レジюмеを見直し、先行研究のまとめを作成する（2時間） 第13回：研究発表と討論 4 事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジюмеを作成する（2時間） 事後学習：授業での討論を踏まえて、レジюмеを見直し、先行研究のまとめを作成する（2時間） 第14回：研究発表と討論 5 事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジюмеを作成する（2時間） 事後学習：授業での討論を踏まえて、レジюмеを見直し、先行研究のまとめを作成する（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：これまでの授業内容を振り返り、テーマに関して得られた知識をまとめておく（2時間） 事後学習：授業内容を踏まえて、問題意識を明確にする（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 発表内容（50%）、討論への参加態度（30%）、平常点（20%） （平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する）
(7) 成績評価基準 幼児教育にかかわる諸問題について理解を深めることができているか。 多様な研究方法について理解を深めることができているか。 一つのテーマに基づいて問題意識を持ち、討論する力を養うことができているか。 卒業研究につながる各自の研究テーマを明確化できているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 テキストは用いない。受講生のテーマに応じて、適宜参考図書を紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (SeminarⅠ)			担当教員	高野 秀晴	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2315	2 単位	3 年通年	演習	必修	
＜科目区分＞ 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果（教育目標）					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例も参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習を通して、各自がより深く研究しようとするテーマを見つける。 本演習では、とりわけ文献学的手法を用いて課題にアプローチしていく。文献の蒐集、読解、さらなる蒐集を行うことにより、文献を批判的に読む技術を身につける。また、文献にもとづいた討論の仕方についても考える機会としたい。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
相手の意見を聞いたうえで、自らの意見を論理的に述べることができる。 自らが興味のあることを研究課題としてまとめることができる。
(3) アクティブラーニング
☐課題解決型学習(PBL) ☒討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐実習、フィールドワーク ☐実験、実技 ☐その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 事前学習：研究テーマを模索したうえで、関連文献を調べておく。(2時間) 事後学習：研究テーマを練り上げ、関連文献を絞り込む。(2時間) 第2回：文献の探し方について 事前学習：研究計画を作成する。(2時間) 事後学習：研究テーマに沿った文献を検索する。(2時間) 第3回：文献講読(発表、討議) 事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。(2時間) 第4回：文献講読(発表、討議) 事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。(2時間) 第5回：文献講読(発表、討議) 事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。(2時間) 第6回：文献講読(発表、討議) 事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。(2時間) 第7回：文献講読(発表、討議) 事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。(2時間) 第8回：文献講読(発表、討議) 事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。(2時間) 第9回：文献講読(発表、討議) 事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。(2時間) 第10回：文献講読(発表、討議) 事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。(2時間)

第11回：文献講読（発表、討議） 事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間） 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間） 第12回：文献講読（発表、討議） 事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間） 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間） 第13回：文献講読（発表、討議） 事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間） 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間） 第14回：文献講読（発表、討議） 事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間） 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間） 第15回：文献講読（発表、討議） 事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間） 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 討論への参加状況（50%） 発表内容（50%）
(7) 成績評価基準 相手の意見を聞いたうえで、自らの意見を論理的に述べることができるか。 自らが興味のあることを研究課題としてまとめることができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 相談して決める。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (SeminarⅠ)			担当教員	出村 友寛	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-G-2315	2 単位	3 年通年	演習		必修
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
研究を実施する際の課題設定、課題解決のための計画立案、実施、データの処理、および論文の作成方法について学習する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
研究の実施に必要な基本的な知識（課題設定、研究計画の立案・実施、研究結果の整理・分析、研究論文の作成）を習得する。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習（PBL） ☒ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス、研究について 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間） 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間） 第2回：研究課題の設定について（文献検索の方法）（PBL、ディスカッション、発表） 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間） 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間） 第3回：発表資料の作成方法（PBL、ディスカッション、発表） 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間） 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間） 第4回：発表、質疑応答①（PBL、ディスカッション、発表） 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間） 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間） 第5回：発表、質疑応答②（PBL、ディスカッション、発表） 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間） 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間） 第6回：発表、質疑応答③（PBL、ディスカッション、発表） 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間） 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間） 第7回：発表、質疑応答④（PBL、ディスカッション、発表） 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間） 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間） 第8回：中間まとめ（PBL、ディスカッション、発表） 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間） 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間） 第9回：発表、質疑応答⑤（PBL、ディスカッション、発表） 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間） 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間） 第10回：発表、質疑応答⑥（PBL、ディスカッション、発表） 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間） 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間） 第11回：発表、質疑応答⑦（PBL、ディスカッション、発表） 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間） 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）

第12回：発表、質疑応答⑧ (PBL、ディスカッション、発表) 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。(2時間) 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。(2時間) 第13回：研究課題の設定① (PBL、ディスカッション、発表) 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。(2時間) 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。(2時間) 第14回：研究課題の設定② (PBL、ディスカッション、発表) 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。(2時間) 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。(2時間) 第15回：まとめ (PBL、ディスカッション、発表) 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。(2時間) 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。(2時間)
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
発表内容 (50%)、レポート (50%)
(7) 成績評価基準
研究の実施に必要な基本的な知識(課題設定、研究計画の立案・実施、研究結果の整理・分析、研究論文の作成)を理解できているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて資料を配布、紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
遅刻、欠席、および早退の際は連絡ください。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (SeminarⅠ)			担当教員	籠谷 隆弘	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2315	2 単位	3 年通年	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
卒業研究に必要な関連知識や技術の修得
(2) 授 業 の 到 達 目 標
専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例も参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について習得できる。この演習を通して、各自がより深く研究しようとするテーマを見つけることができる。 特に、情報メディアやソフトウェアの活用方法について理解を深められる。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ゼミに関するガイダンス・研究に関する興味・関心分野の確認 事前学習：ゼミ選択時の志望理由について確認しておく。(1時間) 事後学習：興味・関心分野を文書にまとめる。(2時間) 第2回：学習するプログラミング言語やソフトウェアの選定 事後学習：選定したソフトウェア等に関連する書籍を用意し、その内容をどのように進めるか計画する。(4時間) 第3回：ソフトウェア環境の構築 事後学習：必要となるソフトウェアを自身が利用するPCにインストールし環境を設定しておく。(5時間) 第4回：進捗報告① 事前学習：ソフトウェアに関して自主学習をし進捗報告の準備を行う。(3時間) 事後学習：指摘された内容に基づきどのように自主学習を進めるか検討する。(1時間) 第5回：進捗報告② 事前学習：ソフトウェアに関して自主学習をし進捗報告の準備を行う。(3時間) 事後学習：指摘された内容に基づきどのように自主学習を進めるか検討する。(1時間) 第6回：進捗報告③ 事前学習：ソフトウェアに関して自主学習をし進捗報告の準備を行う。(3時間) 事後学習：指摘された内容に基づきどのように自主学習を進めるか検討する。(1時間) 第7回：進捗報告④ 事前学習：ソフトウェアに関して自主学習をし進捗報告の準備を行う。(4時間) 第8回：先行研究の調査・文献収集 事前学習：自身の興味・関心分野について確認しておく。(2時間) 事後学習：先行研究について検索等を行い、資料を収集する。(2時間) 第9回：関連ソフトウェア・システムの検討 事後学習：先行研究に関連して必要となるソフトウェア等について調べ、環境を構築する。(4時間) 第10回：進捗報告⑤ 事前学習：ソフトウェアに関して自主学習をし進捗報告の準備を行う。(3時間) 事後学習：指摘された内容に基づきどのように自主学習を進めるか検討する。(1時間) 第11回：進捗報告⑥ 事前学習：ソフトウェアに関して自主学習をし進捗報告の準備を行う。(3時間) 事後学習：指摘された内容に基づきどのように自主学習を進めるか検討する。(1時間) 第12回：進捗報告⑦ 事前学習：ソフトウェアに関して自主学習をし進捗報告の準備を行う。(3時間) 事後学習：指摘された内容に基づきどのように自主学習を進めるか検討する。(1時間)

第13回：進捗報告⑧ 事前学習：ソフトウェアに関して自主学習をし進捗報告の準備を行う。（3時間） 事後学習：指摘された内容に基づきどのように自主学習を進めるか検討する。（1時間） 第14回：成果物のまとめと発表（発表） 事前学習：これまでの内容をまとめ発表の準備を行う。（4時間） 第15回：次年度に向けての計画設定 事前学習：次年度にどのような研究を行うか計画をし報告の準備を行う。（4時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
平常点100%（受講態度、研究計画に対する達成状況により総合的に判断する。）
(7) 成績評価基準
選択したプログラミング言語やソフトウェアについて、参考資料に記載された内容を理解できたか。またそれを踏まえ独自の応用的な成果物を作成できたか。研究に関する進捗報告を定期的に行えたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☒その他 (Teams) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☒その他 (ファイル共有システム) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験 (レポート試験を含む) に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
前半のプログラミングやソフトウェアに関する図書、後半のソフトウェア・システムに関連する図書を、それぞれ1冊以上ずつ選定し参考にする必要がある。
(11) その他(受講上の注意)
PCを多用するので、購入することが望ましい。 授業の大半は、担当教員と相談の上各自が設定する計画に基づき、授業時間外に自主的に進めてきたことの報告と、それに対する助言や議論・次の計画の時間に充てる。 従って、授業時間外も意欲をもち積極的に研究に取り組む必要がある。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子どもの発達臨床 (Clinical Development of Children)			担当教員	乙部 貴幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-D-2360	2 単位	3 年後期	演習	選択	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 関連科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解					

(1) 授 業 の 内 容
幼児理解についての知識や考え方、基礎的態度を身につけるために、発達の各段階における心身の特徴を理解する。さらに、幼児理解の方法を身につけるために観察と記録の意義や目的、目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を理解し、幼児のつまづきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまづき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。
(3) アクティブラーニング
☒課題解決型学習(PBL) ☐討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐実習、フィールドワーク ☐実験、実技 ☐その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：(全15回の授業計画と全体概要。学習の仕方と成績評価) 発達理解・幼児理解の意義。発達の原理、段階と課題 事後学習：幼児理解や発達の原理、段階や課題についてこれまで学んだ講義やプリントから復習(4時間) 第2回：身体運動発達・身体、運動の発達と基本的生活習慣の形成 事前学習：身体、運動の発達についてこれまで学んだ講義やプリントから復習(2時間) 事後学習：基本的生活習慣の定着に関してプリントの熟読と質問項目をまとめる(2時間) 第3回：知的発達・知覚、言語、思考の発達 事前学習：知覚、言語、思考の発達についてこれまで学んだ講義やプリントから復習(2時間) 事後学習：知覚、言語、思考の発達に関してプリントの熟読と質問項目をまとめる(2時間) 第4回：情緒と社会性の発達・情緒の分化と防衛機制。愛着と自我、人格の形成 事前学習：情緒と社会性の発達についてこれまで学んだ講義やプリントから復習(2時間) 事後学習：情緒と社会性の発達に関してプリントの熟読と質問項目をまとめる(2時間) 第5回：幼児の発達障害①・幼稚園教育と家庭教育。性格形成と育児不安。事例研究 事前学習：育児不安に関する事例を文献などで探し熟読(2時間) 事後学習：育児不安に関する事例のプリントを熟読し、質問項目をまとめる(2時間) 第6回：幼児の発達障害②(PBL、グループワーク)・知的障害、自閉スペクトラム症。事例研究 事前学習：有知的障害、自閉スペクトラム症に関する事例を文献などで探しレジュメ作成(2時間) 事後学習：有知的障害、自閉スペクトラム症に関する事例のプリントを熟読し、質問項目をまとめる(2時間) 第7回：幼児の発達障害③(PBL、グループワーク)・注意欠陥/多動性障害、学習障害、愛着障害。事例研究 事前学習：注意欠陥/多動性障害、学習障害、愛着障害に関する事例を文献などで探しレジュメ作成(2時間) 事後学習：注意欠陥/多動性障害、学習障害、愛着障害に関する事例のプリントを熟読し、質問項目をまとめる(2時間) 第8回：幼児理解の方法①・観察法、実験法と質問紙法 事前学習：観察法、実験法と質問紙法がもちいられている文献を探し熟読(2時間) 事後学習：観察法、実験法と質問紙法に関するプリントを熟読し、質問項目をまとめる(2時間) 第9回：幼児理解の方法②・知能検査、発達検査と性格検査 事前学習：知能検査、発達検査と性格検査がもちいられている文献などを探し熟読(2時間) 事後学習：知能検査、発達検査と性格検査に関するプリントを熟読し、質問項目をまとめる(2時間) 第10回：幼児理解の方法③(PBL、グループワーク)・観察や諸検査の知見に関する事例研究 事前学習：観察・検査からの障害・つまづきの見立てに関して書かれた文献などを探しレジュメ作成(4時間) 第11回：小(中)学生の発達心理・身体運動発達と知的、心理・社会的発達 事前学習：小(中)学生の発達障害事例が記されている文献などを探しレジュメ作成(3時間) 事後学習：小(中)学生の発達障害事例が記されている文献を熟読する(1時間)

第12回：小（中）学生の臨床上の問題①・児童虐待の問題。非行の問題。事例研究 事前学習：小（中）学生の児童虐待、非行の事例支援が記されている文献などを探しレジュメ作成（3時間） 事後学習：小（中）学生の児童虐待、非行の事例支援が記されている文献を熟読（1時間） 第13回：小（中）学生の臨床上の問題②・いじめと不登校の問題。事例研究 事前学習：小（中）学生のいじめ・不登校の事例支援が記されている文献などを探しレジュメ作成（3時間） 事後学習：小（中）学生のいじめ・不登校の事例支援が記されている文献を熟読（1時間） 第14回：精神障害と神経症・境界例。統合失調症と躁鬱病。事例研究 事前学習：境界例、統合失調症と躁鬱病が記されている文献などを探しレジュメ作成（3時間） 事後学習：境界例、統合失調症と躁鬱病が記されている文献を熟読（1時間） 第15回：心理療法・カウンセリング、遊戯療法、箱庭療法、行動療法。 事前学習：カウンセリング、遊戯療法、箱庭療法、行動療法が記されている文献などを探しレジュメ作成（3時間） 事後学習：カウンセリング、遊戯療法、箱庭療法、行動療法が記されている文献を熟読（1時間） 第16回：定期試験 各回の講義を受講した後、当該部分の配布資料をよく読んで復習してください。また、予習にあたっては次の授業の内容部分をよく見て、疑問点などをもって授業に臨んでください。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 定期試験（50％）、事例研究に関する小レポート（30％）、授業中の積極的発表（20％）
(7) 成績評価基準 幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまづき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 テキストは使用しない。授業中にプリントを配布する。 参考図書 子どもの理解と発達臨床（山口勝己著、北大路書房出版、平成19年）
(11) その他(受講上の注意) 発達障害に対する理解と支援に関して、各回でグループごとにレジュメ発表。 発表班はローテーションします。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子どもと英語教育 (Child and English Education)			担当教員	野本 尚美	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-B-2357	2 単位	3 年後期	演習	選択	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 関連科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
子どもに英語を教える際に必要な基本的な英会話表現や指示表現、教室での声かけについて学ぶ。また、教科書に示されたALTとのコミュニケーション場面や、小学校・幼稚園・保育園等における英語活動の実例を通して、年齢や発達段階に応じた指導方法について理解を深める。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
子どもが英語を楽しく学ぶために必要な英語表現や指導法を理解し、教室英語やALTとの基本的なコミュニケーションの事例を踏まえて、年齢や発達段階に配慮した英語活動を計画・実践できるようになることを目標とする。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：子ども英語教育の理論(1) 英語授業に必要な知識・理解(ディスカッション) 事前学習：授業前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたことについて、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第2回：子ども英語教育の理論(2) 英語授業に必要な知識・理解(ディスカッション) 事前学習：授業前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたことについて、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第3回：子ども英語教育のための基礎理解(1) Unit 1 & 2 - ALTとのコミュニケーション(グループワーク) 事前学習：授業前にテキストを読み、質問事項をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第4回：子ども英語教育のための基礎理解(2) Unit 3 & 4 - ALTとのコミュニケーション(グループワーク) 事前学習：授業前にテキストを読み、質問事項をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第5回：子ども英語教育のための基礎理解(3) Unit 5 & 6 - クラスルームイングリッシュ(グループワーク) 事前学習：授業前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第6回：子ども英語教育のための基礎理解(4) Unit 7 & 8 - 授業における活動と振り返り(グループワーク) 事前学習：授業前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第7回：子ども英語教育のための基礎理解(5) Unit 9 - 授業における活動例(グループワーク) 事前学習：授業前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第8回：子ども英語教育の指導法(1) Unit 10&11 - 他教科を取り入れた英語学習(CLIL)(グループワーク) 事前学習：授業前にテキストを読み、CLILについてまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第9回：子ども英語教育の指導法(2) Unit 12 - 他教科を取り入れた英語学習(CLIL)(グループワーク) 事前学習：授業前にテキストを読み、CLILについてまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第10回：子ども英語教育の指導法(3) Unit 13 - 日本文化の紹介 (グループワーク) 事前学習：授業前にテキストを読み、日本文化を英語で紹介・発信する意義についてまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第11回：子ども英語教育の指導法(4) Unit 14&15 - 学校行事・絵本の活用 (グループワーク) 事前学習：授業前にテキストを読み、授業で紹介したい英語の絵本について調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。(2時間)

第12回：子ども英語教育のための教材作成と指導実践（１）（プレゼンテーション） 事前学習：授業前に指導案を作り、指導実演準備をしておくこと。（２時間） 事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。（２時間） 第13回：子ども英語教育のための教材作成と指導実践（２）（プレゼンテーション） 事前学習：授業前に指導案を作り、指導実演準備をしておくこと。（２時間） 事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。（２時間） 第14回：子ども英語教育のための教材作成と指導実践（３）（プレゼンテーション） 事前学習：授業前に指導案を作り、指導実演準備をしておくこと。（２時間） 事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。（２時間） 第15回：子ども英語教育のまとめ（グループワーク） 事前学習：授業前に指導案を確認し、反省点や改善点についてまとめておくこと。（２時間） 事後学習：授業で学んだ振り返り、反省点などについてレポートにまとめて提出する。（２時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（50％）、プレゼンテーション・課題（35％）、授業への取り組み（15％）
(7) 成績評価基準
1. 子どもに対する英語教育の理論や特徴について説明することができる。 2. 教室英語やALTとの関わりを踏まえた英語授業の在り方について理解している。 3. 子どもに英語を教える際に必要な基本的な英会話表現や指示表現について理解している。 4. 年齢や発達段階に配慮した英語活動や指導計画を構想する力を身に付けている。 5. 授業・課題・発表に主体的に取り組み、学びを振り返る姿勢を身に付けている。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他（Q&Aに対するフィードバックについて） ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書
テキスト 相羽千州子・藤原真知子・Brian Byrd・Jason Barrows 著「子どもに教える先生のための英語 ― 会話から授業まで ― Hello, English -English for Teachers of Children- 」成美堂、2016年
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

絵本・児童文学論 (Theory of Picture Books andJuvenile Literature)			担当教員	生駒 幸子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-C-2308	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 関連科目					
求める学習成果（教育目標）					
教育・保育の実践に求められる表現技術					

(1) 授 業 の 内 容
国内外の著名な絵本・児童文学(紙芝居・おはなし)作品を読みなおすことを通じて、それらの児童文化財の特質と歴史を学ぶ。特に地域に根差した児童文化財(かこさとし、いわさきちひろの絵本・紙芝居等)についても理解を深める。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
①絵本・児童文学の特質を理解したうえで、作品における物語の鑑賞や解釈をすることができる。 ②日本における絵本・児童文学の歴史、子ども観の変遷を理解している。 ③絵本の読み聞かせ、紙芝居の製作・実践、おはなしを語る実践を通して、基礎的な技術を身につけている。
(3) アクティブラーニング
□課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ■実習、フィールドワーク ■実験、実技 □その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション(授業の進め方、受講ルールについて・グループワーク) 事前学習：これまで実習などで読んだ絵本をリストにする(2時間) 事後学習：自分が好きな絵本をリストにし、その理由について考える(2時間) 第2回：絵本とはなにか① 絵本における絵と言葉(グループワーク・発表) 事前学習：自分のお気に入りの絵本をみつけておく(2時間) 事後学習：自分の好きな絵本について、絵と言葉をじっくり鑑賞し考察する(2時間) 第3回：絵本とはなにか② 絵本の定義、絵本の種類(グループワーク・ディスカッション) 事前学習：絵本の定義、絵本の種類について資料を読んでおく(2時間) 事後学習：子どものころに読んでもらった絵本について思い出をまとめる(2時間) 第4回：絵本とはなにか③ 絵本の読み聞かせの教育的意義(グループワーク・ディスカッション) 事前学習：子どもにとっての読み聞かせの意味について考えをまとめる(2時間) 事後学習：「絵本でビブリオバトル」紹介したい絵本を決めておく(2時間) 第5回：「絵本でビブリオバトル」①(グループワーク・発表・ディスカッション) 事前学習：発表の準備をしておく(2時間) 事後学習：紹介された絵本を読み、感想をまとめておく(2時間) 第6回：「絵本でビブリオバトル」②(グループワーク・発表・ディスカッション) 事前学習：発表の準備をしておく(2時間) 事後学習：紹介された絵本を読み、感想をまとめておく(2時間) 第7回：紙芝居とはなにか① 紙芝居の歴史 事前学習：紙芝居の歴史についての文献を熟読しておく(2時間) 事後学習：戦時期、戦後の紙芝居の歴史から児童文化財としての教育的価値をまとめる(2時間) 第8回：紙芝居とはなにか② 紙芝居の構造・構成(グループワーク・ディスカッション) 事前学習：製作する紙芝居のストーリーを考案しておく(2時間) 事後学習：紙芝居の製作に取り組む(2時間) 第9回：紙芝居とはなにか③ 紙芝居の演じ方(グループワーク・発表) 事前学習：製作した紙芝居を演じられるよう練習をしておく(2時間) 事後学習：製作した紙芝居の実演をふまえ、今後の課題についてまとめる(2時間) 第10回：かこさとし、いわさきちひろの作家・作品①(グループワーク・フィールドワーク) 事前学習：かこさとしの紙芝居・絵本について文献と作品を読んでおく(2時間) 事後学習：かこさとしの紙芝居・絵本の鑑賞をふまえ感想をまとめる(2時間) 第11回：かこさとし、いわさきちひろの作家・作品②(グループワーク・フィールドワーク) 事前学習：いわさきちひろの絵本について文献と作品を読んでおく(2時間) 事後学習：いわさきちひろの絵本の鑑賞をふまえ感想をまとめる(2時間)

第12回：かこさとし、いわさきちひろの作家・作品③（グループワーク・フィールドワーク） 事前学習：越前市かこさとし ふるさと絵本館、いわさきちひろの生家について調査しておく（2時間） 事後学習：越前市かこさとし ふるさと絵本館、いわさきちひろの生家での学びをまとめる（2時間） 第13回：お話を語る① お話とはなにか、お話を選ぶ・覚える・語る方法（グループワーク・ディスカッション） 事前学習：お話についての資料を読んでおく（2時間） 事後学習：お話を語る練習、発表準備をする（2時間） 第14回：お話を語る②（グループワーク・実技・発表） 事前学習：お話を語る練習、発表準備をする（2時間） 事後学習：仲間の感想をふまえ、実践で学んだことをまとめる（2時間） 第15回：お話を語る③（グループワーク・実技・発表）、学習のまとめ 事前学習：お話を語る練習、発表準備をする（2時間） 事後学習：授業全体をふりかえり、学んだことをまとめる（2時間） 定期試験は実施しない
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
リフレクションシート30%、授業への積極的参加態度（グループワーク含む）等30%、レポート（課題等）40%を総合的に評価します。
(7) 成績評価基準
①絵本・児童文学の特質を理解したうえで、作品における物語の鑑賞や解釈を自分なりにできているか。 ②日本における絵本・児童文学の歴史、子ども観の変遷を理解しているか。 ③絵本の読み聞かせ、紙芝居の実践、おはなしを語る実践をふまえ、自らの課題（改善点）を見出せているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
川勝泰介・浅岡靖央・生駒幸子編著『ことばと表現力を育む 児童文化』（萌文書林）2018年
(11) その他(受講上の注意)
講義形式、グループワーク（ディスカッション・発表）形式で授業を展開します。授業のなかで、越前市にあるかこさとし ふるさと絵本館（らく）、いわさきちひろの生家に来訪（フィールドワーク）します。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

児童館論 (Theory of Children's Halls)			担当教員	中村 かおり	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-A-2350	2 単位	3 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特設科目					
求める学習成果(教育目標)					
子どもの健全育成の理念に関する基礎理論の理解					

(1) 授 業 の 内 容
児童館・放課後児童クラブの目的・役割についての講義を中心とし、地域における子どもの健全育成、子育て支援、地域福祉活動等の機能と児童厚生員・放課後児童支援員の役割についての理解を深めます。また児童館ガイドラインや放課後児童クラブ運営指針を踏まえ、児童館実習に参考となるような実践例も学び考察します。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
児童館・放課後児童クラブの機能と役割について、地域児童の今日的福祉課題とあわせて説明できる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション～健全育成とはなにか～ 事前学習：前期「児童館活動内容 a」の講義内容を振り返り、理解を深めておくこと。(2時間) 事後学習：子どもにとっての健全育成の意義について、授業内容と配布資料等を基にまとめること。(2時間) 第2回：子どもの遊びと健全育成 事前学習：テキスト「健全育成論」の関連項目第2章第1節に目を通し確認しておくこと。(2時間) 事後学習：子どもの遊びと児童健全育成の意義について授業内容と配布資料等を基にまとめること。(2時間) 第3回：現代社会と子ども①～子どもの抱える諸問題～ 事前学習：テキスト「健全育成論」の関連項目第1章に目を通し確認しておくこと。(2時間) 事後学習：現代社会の中で子ども自身が抱える課題について授業内容と配布資料等を基にまとめること。(2時間) 第4回：現代社会と子ども②～家庭・地域の抱える諸問題～ 事前学習：テキスト「健全育成論」の関連項目第1章に目を通し確認しておくこと。(2時間) 事後学習：現代社会の中で家庭や地域が抱える課題について授業内容と配布資料等を基にまとめること。(2時間) 第5回：児童館・放課後児童クラブの概要と特性 (グループワーク・発表) 事前学習：テキスト「児童館論」の関連項目第1章4～6に目を通し確認しておくこと。(2時間) 事後学習：児童館・放課後児童クラブの概要と特性について授業内容と配布資料等を基にまとめること。(2時間) 第6回：児童館・放課後児童クラブの変遷～児童福祉の歴史と動向～ 事前学習：テキスト「児童館論」の関連項目第1章1～3に目を通し確認しておくこと。(2時間) 事後学習：児童館・放課後児童クラブの歴史的変遷について授業内容と配布資料等を基にまとめること。(2時間) 第7回：児童館ガイドラインの内容と児童館に求められる機能① (グループワーク・発表) 事前学習：テキスト「児童館論」の関連項目第1章3と第2章に目を通し確認しておくこと。(2時間) 事後学習：児童館ガイドラインの内容について授業内容と配布資料等を基にまとめること。(2時間) 第8回：児童館ガイドラインの内容と児童館に求められる機能② (グループワーク・発表) 事前学習：テキスト「児童館論」の関連項目第1章3と第2章に目を通し確認しておくこと。(2時間) 事後学習：児童館ガイドラインの内容について授業内容と配布資料等を基にまとめること。(2時間) 第9回：放課後児童クラブの機能と役割～放課後児童クラブ運営指針と支援員～ 事前学習：テキスト「児童館論」の関連項目第2章3に目を通し確認しておくこと。(2時間) 事後学習：放課後児童健全育成事業 (放課後児童クラブ) について授業内容と配布資料等を基にまとめること。(2時間)

第10回：児童館・放課後児童クラブにおける援助技術 事前学習：テキスト「健全育成論」「児童館論」の関連項目に目を通し確認しておくこと。（2時間） 事後学習：児童館等における援助技術の実際について授業内容と配布資料等を基にまとめておくこと。（2時間） 第11回：児童館・放課後児童クラブにおける子どもの安全・危機管理 事前学習：テキスト「児童館論」の関連項目に目を通し確認しておくこと。（2時間） 事後学習：児童への安全指導と施設の安全管理について授業内容と配布資料等を基にまとめておくこと。（2時間） 第12回：児童館・放課後児童クラブの活動の実際①～子育て・子育て支援～ 事前学習：テキスト「健全育成論」「児童館論」の関連項目に目を通し確認しておくこと。（2時間） 事後学習：児童館等における子育て支援のありかたについて授業内容と配布資料等を基にまとめておくこと。（2時間） 第13回：児童館・放課後児童クラブの活動の実際②～地域福祉活動～ 事前学習：テキスト「健全育成論」「児童館論」の関連項目に目を通し確認しておくこと。（2時間） 事後学習：児童館等における地域連携のあり方について授業内容と配布資料等を基にまとめておくこと。（2時間） 第14回：児童厚生員・放課後児童支援員に求められる役割とは～法令遵守と職場倫理～ 事前学習：テキスト「児童館論」の関連項目第3章3に目を通し確認しておくこと。（2時間） 事後学習：児童厚生員等が持つべき倫理について授業内容と配布資料等を基にまとめておくこと。（2時間） 第15回：まとめ～児童館・放課後児童クラブの展望と課題～ 事前学習：テキストと授業内容全体の配布資料に目を通し確認しておくこと。（2時間） 事後学習：授業全体の振り返り。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 まとめレポート40%、課題レポート（授業中の課題含む）30%、平常点30% （平常点は、授業への参加状況・受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。） 出席を重視し、欠席・遅刻・早退は減点します。
(7) 成績評価基準 児童館の機能と社会的意義について理解し、文章または口頭にて簡潔に説明できる。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書 一般財団法人児童健全育成推進財団・テキスト「児童館」(児童館ガイドライン（令和6年改正）準拠）・2025年
(11) その他(受講上の注意) ・テキストの関連部分や配布資料を読み込んで授業に臨んでください。 ・配布されたレジュメや資料については時系列で丁寧なまとめておくこと。 ・授業の中の用語等に不明なものがあれば次回の授業までに調べるか、質問事項として付記すること。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

児童館活動内容 a (Activities of Children's Halls a)			担当教員	三浦 啓子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-B-2307	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特設科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
児童館・放課後児童クラブにおける日々の活動の流れ、年間を通じた活動の流れ、行事の企画立案 小学生の仲間づくり、居場所づくり、子育て支援活動、ボランティアの育成・支援等、児童館・放課後児童クラブの基本的活動の実施方法
(2) 授 業 の 到 達 目 標
児童ソーシャルワークをベースとした、児童館・放課後児童クラブの日々の活動の流れとともに、行事の企画や利用者への対応、地域とのかかわり等について学び、児童館・放課後児童クラブの業務の実際を把握する
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☒ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：児童館・放課後児童クラブの概要について 事前学習：テキスト第1章を読み、児童館・放課後児童クラブの概要について質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料を基に、児童館・放課後児童クラブの概要や役割についてまとめる（2時間） 第2回：児童館・放課後児童クラブの1日（週、年）の流れと活動のねらい（討議、ディスカッション） 事前学習：テキスト第2章を基に児童館・放課後児童クラブの流れと役割についてまとめておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料の見直しや、わからないことがあれば担当教員に質問すること（2時間） 第3回：児童館・放課後児童クラブにおける遊びの環境構成（ディスカッション） 事前学習：児童館・放課後児童クラブの流れ役割について理解を深め、安全に楽しく活動を行う為の環境についてまとめておくこと（2時間） 事後学習：環境構成による遊びの育成、安定した日常生活の支援についてまとめる（2時間） 第4回：遊びを通じた支援の実際（プログラム作り、具体的展開、支援法） 事前学習：テキスト第2章を基に、子どもの遊びにおける関わり方についてまとめておくこと（2時間） 事後学習：児童館・放課後児童クラブの活動における遊びを通じた支援についてわからないことがあれば担当教員に質問すること（2時間） 第5回：遊びを通じた児童の健全育成（グループワークと発表） 事前学習：テキスト第1章、2章を基に、児童の健全育成に関連する内容を自分なりにまとめておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料を基に、健全育成の実際についてまとめ、わからないことは、担当教員に質問すること（2時間） 第6回：児童館・放課後児童クラブにおけるグループワーク（討議、ディスカッション） 事前学習：テキストや配布資料をふりかえり、児童館・放課後児童クラブにおけるグループワークの関わりについてまとめておくこと（2時間） 事後学習：児童館活動、放課後児童クラブにおけるグループワークの意義についてまとめる（2時間） 第7回：児童館・放課後児童クラブにおけるケースワーク 事前学習：テキスト等の見直し、わからないところがあったら調べ子どもが抱える福祉的課題について自分なりにまとめておくこと（2時間） 事後学習：児童館・放課後児童クラブにおいてケースワークを行う意義についてまとめ、わからないところがあったら担当教員に質問すること（2時間） 第8回：小学生の仲間づくり・居場所づくり（グループワーク） 事前学習：小学生の仲間づくり・居場所づくりの意義についてグループワークを行うため、自分なりの意見をまとめておくこと（2時間） 事後学習：小学生の仲間づくり・居場所づくりにおける、関わり、支援についてまとめる（2時間）

第9回：子育て支援活動（討議、ディスカッションと発表） 事前学習：子育て支援についてディスカッションをするため、児童館・放課後児童クラブにおける状況を調べまとめておくこと（2時間） 事後学習：児童館・放課後児童クラブにおける子育て支援活動を行う意義についてまとめる（2時間） 第10回：ボランティアの育成・支援（ディスカッション） 事前学習：テキスト第2章の7を基に、ボランティアの育成について自分なりにまとめておくこと（2時間） 事後学習：ボランティアの育成・支援における意義についてまとめわからないことがあれば担当教員に聞くこと（2時間） 第11回：児童館・放課後児童クラブにおける生活・学習支援（ディスカッションと発表） 事前学習：テキストのふりかえりや配布資料を読み、児童館・放課後児童クラブにおける生活・学習支援について自分なりの意見をまとめておくこと（2時間） 事後学習：安定した生活・学習支援における具体的なアプローチについてまとめる（2時間） 第12回：保護者・学校・地域との連携（グループワーク） 事前学習：児童館・放課後児童クラブの特性についてふりかえり、保護者・学校・地域との連携において重要な要素をまとめておくこと（2時間） 事後学習：保護者・学校・地域との連携において具体的な連携についてまとめる（2時間） 第13回：子どもたちのニーズに基づいた行事やイベントの企画立案（演習）① 事前学習：社会状況の把握や必要とされる支援を考慮して子どものニーズについてまとめておくこと（2時間） 事後学習：社会状況の把握や必要な支援、子どものニーズに応じた行事やイベントの企画立案についてまとめる（2時間） 第14回：子どもたちのニーズに基づいた行事やイベントの企画立案（演習）② 事前学習：社会状況の把握や必要とされる支援、子どものニーズについてまとめておくこと（2時間） 事後学習：社会状況の把握や必要な支援、子どものニーズに応じた行事やイベントの企画立案についてまとめる（2時間） 第15回：企画発表会、講評 事前学習：児童館・放課後児童クラブの活動や流れを理解し、行事やイベント企画の立案ができているか自分なりの意見をまとめておくこと（2時間） 事後学習：企画発表、講評を基に、児童館・放課後児童クラブにおける実践において必要な支援や課題についてまとめる（2時間）	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
平常点（受講態度および取組姿勢 60%）、レポート（授業中の課題含む 40%）により総合的に評価します。出席を重視し、欠席・遅刻・早退は減点します。	
(7) 成績評価基準	
児童ソーシャルワークをベースとした、児童館・放課後児童クラブの日々の流れと年間を通じた活動の流れを理解して文章で説明できているか、課題において自分の見解をまとめて述べられているか、現場における実践可能なプログラムの企画立案ができているか	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（授業で使用していた掲示板本文を利用） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	
(10) テキスト、参考図書	
『児童館論』一般財団法人児童健全育成推進財団 令和7年	

(11) その他(受講上の注意)
特になし。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

学校臨床心理学 (Clinical Psychology in Schools)			担当教員	廣澤 愛子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-APO-2456	2 単位	4 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 臨床系					
求める学習成果(教育目標)					
教育・医療・福祉現場等における他者理解に基づく相談・援助の方法 心や人間関係に基づく諸問題に対する、客観的で論理的な思考力・判断力・表現力					

(1) 授 業 の 内 容
学校現場で生じている問題のうち、臨床心理学的支援が有効に働く課題について、その実態と支援の在り方を学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
学校現場における有効な臨床心理学的支援を、他者と議論し、情報を収集し、自ら主体的に考えることができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☒ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：臨床心理学とは ― 理論的背景 ― 事前学習：臨床心理学とは何かについて、インターネットを使って調べ、自分の言葉で説明する。(2時間) 事後学習：授業を踏まえて、臨床心理学とは何かについて、自分の新たな考えを追加し、事前学習の時点で考えていた説明を修正する。(2時間) 第2回：臨床心理学とは ― グループワークを通して ― 事前学習：前回の授業後にまとめた「臨床心理学とは何か」について、他者に伝わる言葉でまとめ、配布資料を作る。(2時間) 事後学習：他者の意見を聴き、自分の「臨床心理学とは何か」の定義を加筆修正する。(2時間)。 第3回：学校における臨床心理学的支援の実例その1 ― 特別支援教育に係わる支援の在り方 ― 事前学習：実践事例を事前に読み、自分なりに理解したことをまとめておく(2時間) 事後学習：教員の授業を踏まえて、実践事例における支援方法について、自分なりの考えをまとめておく(2時間) 第4回：特別支援教育に係わる支援についてのグループディスカッション 事前学習：グループディスカッションで配布する資料を作成する(2時間) 事後学習：グループディスカッションで出た他者の意見を踏まえ、グループ全体の意見をまとめた資料を作成する(2時間) 第5回：グループごとのプレゼンテーション① 事前学習：プレゼンテーションの資料を作成する(2時間) 事後学習：他のグループのプレゼンテーションを踏まえて、自分の考えを再構成する(2時間) 第6回：学校における臨床心理学的支援の実例その2 ― いじめに係わる支援の在り方 ― 事前学習：事前に支援事例を読み、理解を深める(2時間) 事後学習：いじめ事例への対応について、自分なりの考えをまとめる(2時間) 第7回：いじめについてのグループディスカッション 事前学習：グループディスカッションに提示するための資料を作成する(2時間) 事後学習：他の人の発表も踏まえ、自分の考えを再構成する(2時間) 第8回：グループごとのプレゼンテーション② 事前学習：プレゼンテーションの資料を作成する(2時間) 事後学習：他のグループのプレゼンテーションを踏まえて、自分たちのグループの考えを再構成する(2時間)。 第9回：学校における臨床心理学的支援の実例その3 ― 不登校支援について ― 事前学習：事前に資料を読み、理解を深める(2時間) 事後学習：授業を踏まえて、保護者支援の要諦について、自分の考えをまとめる。(2時間)。 第10回：不登校支援についてのグループディスカッション 事前学習：グループディスカッションで配布する資料を作成する(2時間)。 事後学習：他の人の意見を聴いて、自分の意見を再構成してまとめる(2時間)。

第11回：グループごとのプレゼンテーション③ 事前学習：プレゼンテーションの資料を作成する（2時間） 事後学習：他のグループのプレゼンテーションを踏まえて、自分たちのグループの考えを再構成する（2時間）。 第12回：学校現場でも活用できる心理技法の紹介——体験実習を通して—— 事前学習：事前に資料を読み、理解を深める（2時間） 事後学習：実習を踏まえて、技法の特性についてまとめる。（2時間）。 第13回：心理技法の実践——その使い方と有効性—— 事前学習：この技法を使った支援事例を検索し、まとめる。（2時間） 事後学習：技法についての授業を踏まえて、技法の応用方法についてまとめる（2時間） 第14回：心理技法についてのグループディスカッション 事前学習：これまでの授業の中で、最も印象に残ったトピックについて自分の考えをまとめる。（2時間） 事後学習：グループディスカッションを通して、学校における臨床心理学が果たす役割について自分の考えをまとめる。（2時間） 第15回：総括 事前学習：プレゼンテーションのための資料を作成する（2時間） 事後学習：他の人の発表も踏まえて、自分の資料を再構成して提出する（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
小レポート（40%）＋ディスカッション（40%）＋プレゼンテーション（20%）
(7) 成績評価基準
他者と議論し、的確に情報を収集し、それらを踏まえて主体的に考え、課題解決に導くことができているか。さらに、その解決策を他者に分かりやすく提示することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
参考図書：大西将史・廣澤愛子編著 エデュケーショナル・マルトリートメントの理解と対応－教師と支援者が「教育虐待」を防ぐためにできること－，中央法規。 （本書の内容を授業の中で取り上げます。本書がなくても授業への参加や授業内容の理解に支障はありませんが、本書があれば、よりスムーズに授業の内容が理解されると思われます）
(11) その他(受講上の注意)
※授業の積み重ねの中で、自分なりの考えや観点を生成していくことを心がけてください。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

社会福祉概論 (Survey of Social Welfare)			担当教員	下山 久之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-CPO-2476	2 単位	4 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 産業・社会系					
求める学習成果(教育目標)					
産業・社会集団で活かせる専門的・実践的な知識とスキル 心や人間関係に基づく諸問題に対する、客観的で論理的な思考力・判断力・表現力					

(1) 授 業 の 内 容
社会保障および、社会福祉とは何かについて考える。現代社会において、福祉は、医療・教育とともに、私たちのよりよい生活に必要なものである。その福祉の理念やあゆみ、ソーシャルワークと政策の連関など仕組みと方法を解説し、基礎的な理解を深める。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
ソーシャルワーク実践と福祉政策の関連性を理解することができる。 社会保障の基礎的な枠組みを理解することができる。 社会福祉の専門職と対象者観について理解を深める。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 社会福祉の原理 その意味と展開、学習の仕方の説明－視点と枠組み－等 事前学習：社会福祉や地域の福祉の取組など身近な福祉の取り組みについて新聞記事やメディア、書籍を読んで自身の理解を深めておくこと。(2時間) 事後学習：講義で紹介した書籍等を通じて復習、福祉の枠組みについてまとめる(2時間) 第2回：社会福祉の歴史① 事前学習：現代社会の変化とそれに伴う社会的課題について考えておく(2時間) 事後学習：講義資料をもとに復習し、現代社会の中での社会的課題について考えをまとめる(2時間) 第3回：社会福祉の歴史② 事前学習：現代社会における社会福祉制度をまとめる(2時間) 事後学習：社会福祉の拡大と限定についてまとめる(2時間) 第4回：社会福祉の思想・哲学・理論 事前学習：福祉は、どのような思想のもとに展開されてきたのかを予習しておく(2時間) 事後学習：福祉の思想と、市場の論理と倫理について参考文献等からまとめる(2時間) 第5回：社会問題と社会構造 事前学習：さまざまな社会問題があるのかを予習する。(2時間) 事後学習：社会問題がどのように構成されているのかについてまとめる。(2時間) 第6回：福祉政策の基本的な視点 事前学習：福祉政策にはどのようなものがあるのかについて予習する。(2時間) 事後学習：福祉政策をめぐる基本的な視点や視座、概念や理念等を理解しておく。(2時間) 第7回：福祉政策におけるニーズと資源 事前学習：福祉政策の在り方に影響を及ぼすニーズと資源の考え方についての調べておく。(2時間) 事後学習：福祉政策の在り方に影響を及ぼすニーズと資源についてまとめる。(2時間) 第8回：福祉政策の構成要素と過程 事前学習：福祉政策を成り立たせる構成要素と過程について予習する。(2時間) 事後学習：福祉政策を成り立たせる構成要素と過程についてまとめる。(2時間) 第9回：福祉政策の動向と課題 事前学習：近年の福祉政策の動向の1つである包括的支援について予習する。(2時間) 事後学習：包括的支援の具体例である「地域共生社会」の創造について理解を深める。(2時間) 第10回：福祉政策と関連施策 事前学習：福祉政策の関連領域について予習しておく。(2時間) 事後学習：雇用政策、教育政策、住宅政策と福祉政策の関連性についてまとめる(2時間)

第11回：福祉サービスの供給と利用の過程 事前学習：福祉サービスの供給と利用の仕組みと過程について理解を深めておく（2時間） 事後学習：さまざまな福祉供給部門と供給過程についてまとめておく。（2時間） 第12回：福祉政策の国際比較① 事前学習：各国の福祉政策を比較する際に用いられる福祉レジーム論について予習しておく。（2時間） 事後学習：福祉レジーム論に基づきドイツ・スウェーデン・アメリカ・イギリス・フランス等の特徴をまとめておく（2時間） 第13回：福祉政策の国際比較② 事前学習：福祉レジーム論に基づき東アジアの各国の福祉政策について調べておく。（2時間） 事後学習：韓国・中国等の東アジアの国々の特徴をまとめておく（2時間） 第14回：これからの社会福祉 出発点・到達点・展望 事前学習：日本の社会福祉の現状について予習しておく（2時間） 事後学習：日本社会の将来展望に即し、今後の社会福祉の展望をまとめる（2時間） 第15回：15回の授業の総まとめ 事前学習：これまでの授業の内容の全体像についてまとめておく。（2時間） 事後学習：社会福祉概論で取り扱った内容の全体を振り返り、誰もが安心して暮らせる社会について考える。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポート試験（60%） 小レポート（40%）
(7) 成績評価基準
社会福祉および社会保障の理念と政策・実践の連関を理解することができるか。 社会保障の基礎的な枠組みを理解することができるか。 社会福祉の専門職と対象者観について理解を深めるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（レポート提出後） 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキスト『社会福祉の原理と政策』中央法規出版
(11) その他(受講上の注意)
社会保障の理解を通じて、身近な福祉の取り組みを自身の生活に生かす。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

心理学特別演習Ⅱ (Special Psychology SeminarⅡ)			担当教員	稲木康一郎、大森 慈子、杉島 一郎、 西村 則昭、水田 敏郎、森 俊之、 森本 文人、山本 雅代、渡辺 克徳、 今井田貴裕、山岸 厚仁
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-OPI-2482	4 単位	4 年通年	演習	必修
＜科目区分＞ 人間学部心理学科専門科目 応用科目 特別演習・卒業研究				
求める学習成果(教育目標)				
心や人間関係に基づく諸問題に対する、客観的で論理的な思考力・判断力・表現力 人間の心理と問題に対する高い関心、解決して社会に貢献する意欲、協働して対処する主体的な態度				

(1) 授 業 の 内 容
卒業研究の計画・実行段階として、心理学特別演習Ⅰで学生自らが設定した課題の解決にむけて、それらを遂行するために考えられる様々なアプローチ方法を立案します。さらに、それらの中から実行が妥当かつ可能なものを選択・吟味していきます。その際に、必要な文献や図書を精読し、発表や議論などを行います。(担当教員によって演習内容は異なります。)
(2) 授 業 の 到 達 目 標
自ら設けた研究課題に向けて、研究のアプローチ方法を吟味し選択する能力を身につける。研究を実施できる。研究課題に関連する文献などを適切に講読できる。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回～30回：各担当教員の進め方に沿って取り組んでいく。 特別演習Ⅰ同様、授業では、ディスカッションや発表が取り入れられる。 ゼミによっては、自分の研究課題を設定し、実験や調査などの計画を立て実行する。 (課題解決型学習)(討議)(グループワーク)(発表)(実験、実技) 各受講生の課題解決に向けて必要と思われる本演習以外の授業を履修し、または以前に受講した授業で関連のある内容について全般的に復習する。 第1回～30回の事前学習：担当教員の指示に従って準備を行う(2時間)。 第1回～30回の事後学習：担当教員の指示に従って学習を進める(2時間)。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
レポートや発表(50%) 平常点(50%) (レポートや発表の形式は担当教員により異なります。平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。)
(7) 成 績 評 価 基 準
自ら設けた研究課題に向けて、研究のアプローチ方法を立案し選択する能力を身につけることができたか。研究を実施できたか。研究課題に関連する文献などを適切に講読できたか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他(レポートや発表、平常点に対するフィードバックについて) ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他(各ゼミの担当教員の方法)
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 担当教員から指示されます。
(11) その他(受講上の注意) 担当教員から指示されます。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	稲木康一郎、大森 慈子、杉島 一郎、 西村 則昭、水田 敏郎、森 俊之、 森本 文人、山本 雅代、渡辺 克徳、 今井田貴裕、山岸 厚仁
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-OPI-2483	6 単位	4 年通年	演習	必修
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 特別演習・卒業研究				
求める学習成果(教育目標)				
心や人間関係に基づく諸問題に対する、客観的で論理的な思考力・判断力・表現力 人間の心理と問題に対する高い関心、解決して社会に貢献する意欲、協働して対処する主体的な態度				

(1) 授 業 の 内 容
心理学特別演習Ⅰ・Ⅱを通して学生自らが設定した研究テーマや計画をもとに、研究を進めて卒業論文に仕上げます。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
心理学研究として適切な課題の設定を行う。妥当な研究の方法を選択する能力を身につける。結果の分析能力とそれらに対して考察する力を身につけ、レポート(論文)としてまとめ発表することができる。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
担当教員の指導に従って取り組んでいきますが、おおむね以下のようなスケジュールになります。 4～5月 課題・研究計画の立案と決定 6～8月 研究の実行 9～10月 結果の分析 11～12月 考察や論文のまとめ 1月下旬～2月上旬 卒業研究発表会 (課題解決型学習)(討議)(グループワーク)(発表)(実験、実技) ※卒業研究発表会に関しては全学生が同じスケジュールで行われますが、それまでのスケジュールは配属先のゼミにより異なることがあります。 担当の教員から適宜指示されます。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
論文(50%) 平常点(40%) 発表(10%) (平常点は卒業研究と発表への参加・取り組み状況や、取り組む態度などを総合して判断します。)
(7) 成 績 評 価 基 準
心理学研究として適切な課題が設定されているか。妥当な研究の方法を選択する能力が身についているか。結果の分析能力とそれらに対して考察する力を身につけ、レポート(論文)としてまとめ発表することができているか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他(論文、平常点、発表に対するフィードバックについて) ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他(各ゼミの担当教員の方法、および、卒業研究発表会)
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 担当教員から指示されます。
(11) その他(受講上の注意) 心理学の様々な専門分野から自らがテーマや方法を決めて研究を進めます。4年間の集大成ともいえる研究となります。全力で取り組んでください。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

公認心理師の職責 (Professionalism of Licensed Psychologists)			担当教員	稲木、目黒、森、吉水、渡辺	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-S-2491	2 単位	4 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 公認心理師に関する科目					
求める学習成果（教育目標）					
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。					

(1) 授 業 の 内 容
公認心理師に必要な、公認心理師の役割、公認心理師の法的義務及び倫理、要心理支援者の安全の確保、情報の適切な取扱い、自己課題発見・解決能力、生涯学習への準備、多職種連携及び地域連携についての知識を身につけます。また、保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務について理解します。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
① 公認心理師の役割を理解し、法的義務や倫理、チーム支援、守秘義務のあり方等について知る。 ② 保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務について説明できる。 ③ 心理職としての自己課題とその課題解決能力を理解し、生涯学習に取り組む態度を身につける。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート) ☐ グループワーク ☐ 発表(プレゼンテーション) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
公認心理師の主要5分野の教員によるオムニバス授業です。5人の教員が3つのテーマを取り上げます。各テーマの内容の多少によって、各教員内で順番や時間数を入れ替えることがあります。時間割の変更にご注意ください。 Part 1【渡辺】保健医療分野ほか 第1回：オリエンテーション 事前学習：シラバスを熟読すること(2時間)。 事後学習：講義の内容を各自で復習すること。(2時間) 第2回：公認心理師の役割 事前学習：テキスト第1章を読み、疑問点をメモしておくこと(2時間)。 事後学習：講義の内容について受講生どうして話し合うこと(2時間)。 第3回：保健医療分野における公認心理師の具体的な業務 事前学習：テキスト第5章を読み、疑問点をメモしておくこと(2時間)。 事後学習：小レポートを作成すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりすること(2時間)。 Part 2【森】福祉分野ほか 第4回：公認心理師の法的義務・倫理 事前学習：テキスト第2章を読み、疑問点をメモしておくこと(2時間)。 事後学習：講義の内容を各自で復習すること(2時間)。 第5回：クライアント／患者らの安全の確保のために 事前学習：テキスト第3章を読み、疑問点をメモしておくこと(2時間)。 事後学習：講義の内容について受講生どうして話し合うこと(2時間)。 第6回：福祉分野における公認心理師の具体的な業務 事前学習：テキスト第6章を読み、疑問点をメモしておくこと(2時間)。 事後学習：小レポートを作成すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりすること(2時間)。 Part 3【目黒】教育分野ほか 第7回：情報の適切な取り扱い 事前学習：テキスト第4章を読み、疑問点をメモしておくこと(2時間)。 事後学習：講義の内容を各自で復習すること(2時間)。 第8回：支援者としての自己課題発見・解決能力 事前学習：テキスト第10章を読み、疑問点をメモしておくこと(2時間)。 事後学習：講義の内容について受講生どうして話し合うこと(2時間)。 第9回：教育分野における公認心理師の具体的な業務 事前学習：テキスト第7章を読み、疑問点をメモしておくこと(2時間)。 事後学習：小レポートを作成すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりすること(2時間)。

Part 4【吉水】司法・犯罪分野ほか 第10回：生涯学習への準備 事前学習：テキスト第11章を読み、疑問点をメモしておくこと（2時間）。 事後学習：講義の内容を各自で復習すること（2時間）。 第11回：多職種連携と地域連携 事前学習：テキスト第12章を読み、疑問点をメモしておくこと（2時間）。 事後学習：講義の内容について受講生どうして話し合うこと（2時間）。 第12回：司法・犯罪分野における公認心理師の具体的な業務 事前学習：テキスト第8章を読み、疑問点をメモしておくこと（2時間）。 事後学習：小レポートを作成すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりすること（2時間）。 Part 5【稲木】産業・労働分野ほか 第13回：公認心理師の今後の展開 事前学習：テキスト第13章を読み、疑問点をメモしておくこと（2時間）。 事後学習：講義の内容を各自で復習すること（2時間）。 第14回：産業・労働分野における公認心理師の具体的な業務 事前学習：テキスト第9章を読み、疑問点をメモしておくこと（2時間）。 事後学習：講義の内容について受講生どうして話し合うこと（2時間）。 第15回：まとめ 事前学習：これまでテキストを読んでメモした疑問点を整理しておくこと（2時間）。 事後学習：小レポートを作成すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりすること（2時間）。 第16回：定期試験	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
平常点（15%）、小レポート（テスト）（25%）、および、定期試験（60%）で評価する。 平常点は出席・態度・発言・課題（ワークシート等）の提出状況などを総合的に評価する。 また、小テスト（レポート）は各教員が行うので指示に従うこと。 定期試験は資料の持込を不可とする。	
(7) 成績評価基準	
①公認心理師の役割が理解できているか。 ②公認心理師の具体的な業務を説明できるか。 ③生涯学習に取り組む態度が身についているか。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他	
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	
・経歴 （公認心理師、臨床心理士） ・実務経験と授業内容との関連性 （公認心理師の教員が、公認心理師の役割、法的義務及び倫理をはじめ、保健医療、福祉、教育その他の分野における具体的な業務について説明します。）	
(10) テキスト、参考図書	
野島一彦（編）『公認心理師の職責（第2版）』遠見書房 2023年 2,200円 ISBN：978-4866161662	

(11) その他(受講上の注意)
公認心理師資格に必要な特設科目です。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

心理演習 (Seminar in Psychology)			担当教員	渡辺 克徳、稲木 康一郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
PS-S-2492	2 単位	4 年前期	演習	選択	
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 公認心理師に関する科目					
求める学習成果(教育目標)					
公認心理師に必要な知識及び技能の基本的な水準を修得すること					

(1) 授 業 の 内 容
(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得 (1) コミュニケーション (2) 心理検査 (3) 心理面接 (4) 地域支援 等 (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成 (ウ) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ (エ) 多職種連携及び地域連携 (オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
(2) 授 業 の 到 達 目 標
ロールプレイや事例検討を通じて、公認心理師に必要な知識及び技能の基本的な水準を修得することを目的とする。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(ロールプレイング)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：【オ】オリエンテーション(稲木・渡辺) シラバスの説明、演習の心構え、公認心理師の法的義務 事前学習：シラバスを熟読すること(2時間) 事後学習：公認心理師法について復習すること(2時間) 第2回：【ア(1)】コミュニケーション(傾聴・共感・質問・承認など)(渡辺・稲木) 対人援助現場で使える諸技法(ロールプレイング・コミュニケーション技術の理解) 事前学習：参考資料を読んでおくこと(2時間) 事後学習：対人援助現場で使える諸技法について復習すること(2時間) 第3回：【ア(1)】コミュニケーション(傾聴・共感・質問・承認など)(渡辺・稲木) 心理面接のロールプレイング(逐語・DVDなどの教材を用いて)、グループディスカッション 事前学習：参考資料を読んでおくこと(2時間) 事後学習：逐語記録を作成すること(2時間) 第4回：【ア(2)イ・保健医療】心理検査(精神疾患簡易構造化面接法M.I.N.I.)(渡辺・稲木) 支援を要する者の心理・対象者のニーズの把握・適切なフィードバックの方法・支援計画のたてかた、グループディスカッション 事前学習：参考資料を読んでおくこと(2時間) 事後学習：心理検査について復習すること(2時間) 第5回：【イ・保健医療】認知行動理論を用いたニーズの把握と支援計画の作成(渡辺・稲木) うつ病・不安症／不安関連障害・摂食障害など、グループディスカッション 事前学習：参考資料を読んでおくこと(2時間) 事後学習：認知行動理論について復習すること(2時間) 第6回：【ア(3)・教育】心理面接(ＳＣ事例の初回面接を検討)(稲木・渡辺) 事例検討を通して、要心理支援者とのラポールの形成を理解、グループディスカッション 事前学習：参考資料を読んでおくこと(2時間) 事後学習：ロールプレイ・試行カウンセリングを行うこと(2時間) 第7回：【ア(3)イ・教育】心理面接(ＳＣ事例の2回目の面接を検討)(稲木・渡辺) 事例検討とロールプレイングを通して、要心理支援者のニーズ把握と支援計画の作成、グループディスカッション 事前学習：参考資料を読んでおくこと(2時間) 事後学習：ロールプレイ・試行カウンセリングを行うこと(2時間)

第8回：【ウ・教育】チームアプローチ（ＳＣ事例の支援者会議を検討）（稲木・渡辺） 事例検討と支援会議（ＳＣ，担任，養護教諭などが参加）のロールプレイング、グループディスカッション 事前学習：参考資料を読んでおくこと（２時間） 事後学習：ロールプレイ・試行カウンセリングを行うこと（２時間） 第9回：【ウ・福祉】チームアプローチ（地域支援のチームアプローチの理解）（渡辺・稲木） 生物・心理・社会の視点でアセスメントを行う 認知行動的な視点からチームアプローチの心得を学ぶ、グループディスカッション 事前学習：参考資料を読んでおくこと（２時間） 事後学習：チームアプローチについて復習すること（２時間） 第10回：【エ・福祉】連携（地域支援のチームアプローチの理解）（渡辺・稲木） 多職種連携の心得・地域連携の心得，事例・論文等での学習，リハ・カンファレンスなど、グループディスカッション 事前学習：参考資料を読んでおくこと（２時間） 事後学習：連携について復習すること（２時間） 第11回：【アイ・司法犯罪】嗜癖問題への理解と認知行動療法を用いた介入（渡辺・稲木） 事例・論文・ビデオ教材等での学習、グループディスカッション 事前学習：参考資料を読んでおくこと（２時間） 事後学習：認知行動療法について復習すること（２時間） 第12回【アイ・司法犯罪】心理面接（集団アプローチ）（渡辺・稲木） 矯正教育，集団療法（SST・グループワーク）の理解、グループディスカッション 事前学習：参考資料を読んでおくこと（２時間） 事後学習：心理面接（集団アプローチ）について復習すること（２時間） 第13回【ア（４）・産業労働】事業場におけるメンタルヘルス活動（稲木・渡辺） ストレスマネジメントの予防教育の研修計画と教材の作成、グループディスカッション 事前学習：参考資料を読んでおくこと（２時間） 事後学習：メンタルヘルス活動について復習すること（２時間） 第14回【ア（４）・産業労働】事業場におけるメンタルヘルス活動（稲木・渡辺） ストレスマネジメントの予防教育の実際をプレゼンテーション、グループディスカッション 事前学習：プレゼンテーションのリハーサルを行うこと（２時間） 事後学習：プレゼンテーションの振り返りについて受講者どうし話し合うこと（２時間） 第15回【オ】職業倫理の理解とまとめ（稲木・渡辺） 倫理的ジレンマの模擬事例をもとに討論，演習全体のシェアリングと講評 事前学習：参考資料を読んでおくこと（２時間） 事後学習：公認心理師の職業倫理について復習すること（２時間）	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
平常点（40％），ロールプレイング（30％），支援計画（30％） 平常点は出席，参加態度，討論での発言を総合的に評価する。 ロールプレイングは逐語記録，振り返りレポートなどの内容を評価する。 支援計画は支援計画，研修計画（教材）などの内容を評価する。	
(7) 成績評価基準	
公認心理師に必要な基本的な知識を説明できる。 公認心理師に必要な基本的な技能を実行できる。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
スライド資料や参考資料を e ラーニングに掲載します。 以下、参考図書です。 『対人援助の現場で使える 聴く・伝える・共感する技術 便利帖(現場で使える便利帖)』大谷佳子著 翔泳社 『対人援助の現場で使える 質問する技術 便利帖(現場で使える便利帖)』大谷佳子著 翔泳社 『対人援助の現場で使える 承認する・勇気づける技術 便利帖(現場で使える便利帖)』大谷佳子著 翔泳社 『M.I.N.I.——精神疾患簡易構造化面接法 日本語版5.0.0(2003)』David V.Sheehan(著) 星和書店 『公認心理師養成のための保健・医療系実習ガイドブック』鈴木 伸一(編集代表) 北大路書房
(11) その他(受講上の注意)
・履修者数に応じて2クラスに分かれる場合がある。この場合1クラス15名以下とし各1名の担当教員を置く。 ・授業の中で状況に応じて、自分の感じたことや考えたことについて他者に話してもらうことがある。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

心理実習 (Practical Training in Psychology)			担当教員	森 俊之、吉水 ちひろ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
PS-S-2493	3 単位	4 年通年	実習	選択	
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 公認心理師に関する科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。					

(1) 授 業 の 内 容
心理に関する支援を行う施設の訪問学習およびその事前・事後学習を通して、心理に関する支援を行う施設の理解を深めるとともに、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携や地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務について考察する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
①心理に関する支援を行うさまざまな施設を理解するとともに、その施設における心理職の役割や具体的な業務について理解する。 ②公認心理師の職業倫理や法的義務、多職種連携や地域連携のあり方等について理解する。 ③心理職としての自己の能力や課題を理解し、生涯学習に取り組む態度を身に付ける。
(3) アクティブラーニング
□課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ■実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 家庭での事前事後学習：昨年度までに学んできた授業（公認心理師科目）内容を復習しておく（1.5時間） 第2回：福祉領域の理解①（事前学習） 家庭での事前事後学習：提示された課題について各自で調べておく（1.5時間） 第3回：福祉領域の理解①（施設訪問） 家庭での事前事後学習：施設訪問での様子を記録としてまとめておく（1.5時間） 第4回：福祉領域の理解①（事後学習） 家庭での事前事後学習：事前学習・施設訪問・事後学習の内容を踏まえ、レポートをまとめる（1.5時間） 第5回：福祉領域の理解②（事前学習） 家庭での事前事後学習：提示された課題について各自で調べておく（1.5時間） 第6回：福祉領域の理解②（施設訪問） 家庭での事前事後学習：施設訪問での様子を記録としてまとめておく（1.5時間） 第7回：福祉領域の理解②（事後学習） 家庭での事前事後学習：事前学習・施設訪問・事後学習の内容を踏まえ、レポートをまとめる（1.5時間） 第8回：産業領域の理解①（事前学習） 家庭での事前事後学習：提示された課題について各自で調べておく（1.5時間） 第9回：産業領域の理解①（施設訪問） 家庭での事前事後学習：施設訪問での様子を記録としてまとめておく（1.5時間） 第10回：産業領域の理解①（事後学習） 家庭での事前事後学習：事前学習・施設訪問・事後学習の内容を踏まえ、レポートをまとめる（1.5時間） 第11回：産業領域の理解②（事前学習） 家庭での事前事後学習：提示された課題について各自で調べておく（1.5時間） 第12回：産業領域の理解②（施設訪問） 家庭での事前事後学習：施設訪問での様子を記録としてまとめておく（1.5時間） 第13回：産業領域の理解③（事後学習） 家庭での事前事後学習：事前学習・施設訪問・事後学習の内容を踏まえ、レポートをまとめる（1.5時間） 第14回：医療領域の理解①（事前学習） 家庭での事前事後学習：提示された課題について各自で調べておく（1.5時間） 第15回：医療領域の理解①（施設訪問） 家庭での事前事後学習：施設訪問での様子を記録としてまとめておく（1.5時間） 第16回：医療領域の理解①（事後学習） 家庭での事前事後学習：事前学習・施設訪問・事後学習の内容を踏まえ、レポートをまとめる（1.5時間）

- 第17回：医療領域の理解②（事前学習）
家庭での事前事後学習：提示された課題について各自で調べておく（1.5時間）
- 第18回：医療領域の理解②（施設訪問）
家庭での事前事後学習：施設訪問での様子を記録としてまとめておく（1.5時間）
- 第19回：医療領域の理解②（事後学習）
家庭での事前事後学習：事前学習・施設訪問・事後学習の内容を踏まえ、レポートをまとめる（1.5時間）
- 第20回：教育領域の理解①（事前学習）
家庭での事前事後学習：提示された課題について各自で調べておく（1.5時間）
- 第21回：教育領域の理解①（施設訪問）
家庭での事前事後学習：施設訪問での様子を記録としてまとめておく（1.5時間）
- 第22回：教育領域の理解①（事後学習）
家庭での事前事後学習：事前学習・施設訪問・事後学習の内容を踏まえ、レポートをまとめる（1.5時間）
- 第23回：教育領域の理解②（事前学習）
家庭での事前事後学習：提示された課題について各自で調べておく（1.5時間）
- 第24回：教育領域の理解②（施設訪問）
家庭での事前事後学習：施設訪問での様子を記録としてまとめておく（1.5時間）
- 第25回：教育領域の理解②（事後学習）
家庭での事前事後学習：事前学習・施設訪問・事後学習の内容を踏まえ、レポートをまとめる（1.5時間）
- 第26回：司法領域の理解（事前学習）
家庭での事前事後学習：提示された課題について各自で調べておく（1.5時間）
- 第27回：司法領域の理解（施設訪問）
家庭での事前事後学習：施設訪問での様子を記録としてまとめておく（1.5時間）
- 第28回：司法領域の理解（事後学習）
家庭での事前事後学習：事前学習・施設訪問・事後学習の内容を踏まえ、レポートをまとめる（1.5時間）
- 第29回：他の領域の理解
家庭での事前事後学習：訪問した施設以外の支援施設について各自で調べ、討論に向けての意見を整理しておく（1.5時間）
- 第30回：まとめの討論
家庭での事前事後学習：1年間の実習を振り返り、まとめのレポートをまとめる（1.5時間）

※施設の都合等により、順番が変更になることがあります。

事前学習では、訪問予定施設の設置目的、業務内容、職員構成、心理職の役割、利用者の概要などについて確認し、施設訪問時に見学するべきポイント等をグループワーク等を取り入れながら討議・検討する。

施設訪問（実習・フィールドワーク）の際には、個々の施設の実情に応じて、施設見学、施設職員との事例検討、要心理支援者との関わりなどを体験する。

事後学習では、施設での体験を振り返り、多職種連携・地域連携等がどのように行われていたかグループワーク等を取り入れながら討議・検討する。

(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕

原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

(6) 成績評価方法

実習記録ノート（50%）、平常点（50%）

（平常点は、授業への参加状況、受講態度、授業時の討論内容等により総合的に評価する。）

(7) 成績評価基準

- ①心理に関する支援を行うさまざまな施設やその施設における心理職の役割や具体的な業務について説明できるか。
- ②公認心理師の職業倫理や法的義務、多職種連携や地域連携のあり方について説明できるか。
- ③生涯学習に取り組む態度が身についているか。

(8) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

- 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて
☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 3) 小レポートに対するフィードバックについて
☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 5) その他
☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
教科書は指定しない。適宜、補助資料を配付する。 参考書は授業中、随時、紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
公認心理師資格に必要な特設科目です。 授業料とは別に実習費が必要となります。 学外の施設に訪問するため、対外的なマナー等にも留意してください。 履修者数に応じて、1クラス15名以下となるようにクラスわけ(各1名の担当教員を配置)がなされる場合があります。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

情報メディア (Information Media)			担当教員	大須賀 元彦	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-S-2110	2 単位	1 年後期	講義		必修
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 コミュニケーション学基礎B群					
求める学習成果(教育目標)					
言語スキルやその他のコミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、国際化・情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
この授業では私たちの身近な情報社会に関する基礎的な知識を体系的に学びます。AIやビッグデータ、情報セキュリティなどの情報分野に加え、企業の経営活動に関する基礎的な知識についても学修します。なお、本授業の内容はITパスポート試験に準じており、各回の内容(大別してストラテジ系、マネジメント系、テクノロジー系の内容)に対応したテキストを用いて事前学習を行う反転学習の形式で理解を深めていきます。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ストラテジ系を適切に説明することができる。 ・マネジメント系を適切に説明することができる。 ・テクノロジー系を適切に説明することができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☒ その他(ITパスポート試験に関連するウェブサイトの活用)
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス、ITパスポート試験とは 事前学習：シラバスを読むことと、ITパスポート試験の公式サイトを見て、その試験の理解を深める。(2時間) 事後学習：ITパスポート試験に関連するウェブサイトを見てその情報を収集し、理解を深める。(2時間) 第2回：第1章(ストラテジ系)(実技) 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。(2時間) 事後学習：今回の講義内容に関する過去問題にウェブサイトを活用して取り組む。(2時間) 第3回：第2章(ストラテジ系)(実技) 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。(2時間) 事後学習：今回の講義内容に関する過去問題にウェブサイトを活用して取り組む。(2時間) 第4回：第3章・第4章(ストラテジ系)(実技) 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。(2時間) 事後学習：今回の講義内容に関する過去問題にウェブサイトを活用して取り組む。(2時間) 第5回：第5章(ストラテジ系)(実技) 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。(2時間) 事後学習：今回の講義内容に関する過去問題にウェブサイトを活用して取り組む。(2時間) 第6回：第6章(マネジメント系)(実技) 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。(2時間) 事後学習：今回の講義内容に関する過去問題にウェブサイトを活用して取り組む。(2時間) 第7回：第7章・第8章(マネジメント系)(実技) 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。(2時間) 事後学習：今回の講義内容に関する過去問題にウェブサイトを活用して取り組む。(2時間) 第8回：第9章(テクノロジー系)(実技) 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。(2時間) 事後学習：今回の講義内容に関する過去問題にウェブサイトを活用して取り組む。(2時間) 第9回：第10章(テクノロジー系)(実技) 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。(2時間) 事後学習：今回の講義内容に関する過去問題にウェブサイトを活用して取り組む。(2時間) 第10回：第11章(テクノロジー系)(実技) 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。(2時間) 事後学習：今回の講義内容に関する過去問題にウェブサイトを活用して取り組む。(2時間)

第11回：第12章（テクノロジ系）（実技） 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。（2時間） 事後学習：今回の講義内容に関する過去問題にウェブサイトを活用して取り組む。（2時間） 第12回：第13章（テクノロジ系）（実技） 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。（2時間） 事後学習：今回の講義内容に関する過去問題にウェブサイトを活用して取り組む。（2時間） 第13回：第14章（テクノロジ系）（実技） 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。（2時間） 事後学習：今回の講義内容に関する過去問題にウェブサイトを活用して取り組む。（2時間） 第14回：第15章（テクノロジ系）（実技） 事前学習：テキストを用いて今回の講義内容について学修する。（2時間） 事後学習：今回の講義内容に関する過去問題にウェブサイトを活用して取り組む。（2時間） 第15回：全体のまとめ 事前学習：テキストを用いてすべての講義内容について復習する。（2時間） 事後学習：ここまで学修した講義内容に関する過去問題にウェブサイトを活用して取り組む。（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（60%） 小テスト（40%）
(7) 成績評価基準
・ストラテジ系を適切に説明することができるか。 ・マネジメント系を適切に説明することができるか。 ・テクノロジ系を適切に説明することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他（小テスト） ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書
テキスト：高橋京介『【令和8年度】いちばんやさしい ITパスポート 絶対合格の教科書+出る順問題集』SBクリエイティブ、2025年 ITパスポート試験に関連するウェブサイトは適時紹介します。
(11) その他(受講上の注意)
講義内容は毎回関連していることが多いため欠席には十分に注意してください。また指定されたテキストを毎回持参してください。小テストを実施する際は事前に連絡します。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

プロジェクト・デザインⅢ (Project Design Ⅲ)			担当教員	井上 寛	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-B-2443	2 単位	4 年通年	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 ビジネスコース					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、課題解決のための構想力と判断力を身につけます。					

(1) 授 業 の 内 容
「プロジェクト・デザイン」は、2年生～4年生の3年間という長期的展望に立って、年度を重ねながら最終的に学年を超えたコラボレーションでプロジェクトを生み出し、それを実現する授業に育てていくことを目指す科目である。 本演習では、グループワークを基軸とし、実社会における諸問題の解決に向け、主体的かつ協働して取り組むプロセスを経験し、その集大成としてリーダーシップを発揮し取り組むことを目指す。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・プロジェクトに対し、主体的かつ協働して取り組む姿勢を身につけることができる。 ・プロジェクト実施にあたり、最高学年としてリーダーシップを発揮することができる。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ■実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス(講義の目的や今後の流れ、評価方法等についての説明) 事前学習：事前にシラバスを読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：ガイダンスの内容を復習し、分からないことがあった場合は、次回のチーム・オリエンテーションで質問できるよう、質問内容をまとめておく。(2時間) 第2回：チーム・オリエンテーション(グループワーク) 事前学習：取り組みたいプロジェクトの企画をまとめておく。(2時間) 事後学習：チームメンバーと交流し、互いの得意な領域を確認しておく。(2時間) 第3回：プロジェクト作業①(グループワーク) 事前学習：グループワークにスムーズに参加できるよう、前回の取り組み内容を復習しておく。(2時間) 事後学習：グループワークの内容を振り返り、次回に反映できるよう内容をまとめておく。(2時間) 第4回：プロジェクト作業②(グループワーク) 事前学習：グループワークにスムーズに参加できるよう、前回の取り組み内容を復習しておく。(2時間) 事後学習：グループワークの内容を振り返り、次回に反映できるよう内容をまとめておく。(2時間) 第5回：プロジェクト作業③(グループワーク) 事前学習：グループワークにスムーズに参加できるよう、前回の取り組み内容を復習しておく。(2時間) 事後学習：グループワークの内容を振り返り、次回に反映できるよう内容をまとめておく。(2時間) 第6回：プロジェクト作業④(グループワーク) 事前学習：グループワークにスムーズに参加できるよう、前回の取り組み内容を復習しておく。(2時間) 事後学習：グループワークの内容を振り返り、次回に反映できるよう内容をまとめておく。(2時間) 第7回：プロジェクト作業⑤(グループワーク) 事前学習：グループワークにスムーズに参加できるよう、前回の取り組み内容を復習しておく。(2時間) 事後学習：グループワークの内容を振り返り、次回に反映できるよう内容をまとめておく。(2時間) 第8回：プロジェクト作業⑥(グループワーク) 事前学習：グループワークにスムーズに参加できるよう、前回の取り組み内容を復習しておく。(2時間) 事後学習：グループワークの内容を振り返り、次回に反映できるよう内容をまとめておく。(2時間) 第9回：プロジェクト作業⑦(グループワーク) 事前学習：グループワークにスムーズに参加できるよう、前回の取り組み内容を復習しておく。(2時間) 事後学習：グループワークの内容を振り返り、次回に反映できるよう内容をまとめておく。(2時間) 第10回：プロジェクト作業⑧(グループワーク) 事前学習：グループワークにスムーズに参加できるよう、前回の取り組み内容を復習しておく。(2時間) 事後学習：グループワークの内容を振り返り、次回に反映できるよう内容をまとめておく。(2時間)

第11回：プロジェクト作業⑨（グループワーク） 事前学習：グループワークにスムーズに参加できるよう、前回の取り組み内容を復習しておく。（2時間） 事後学習：グループワークの内容を振り返り、次回に反映できるよう内容をまとめておく。（2時間） 第12回：2～4年生合同授業①（参加） 事前学習：発表会の事前準備をする。（2時間） 事後学習：最終チェックをして完成度を高める。（2時間） 第13回：2～4年生合同授業②（参加） 事前学習：発表会の事前準備をする。（2時間） 事後学習：最終チェックをして完成度を高める。（2時間） 第14回：2～4年生合同授業③（発表） 事前学習：発表会の事前準備をする。（2時間） 事後学習：最終チェックをして完成度を高める。（2時間） 第15回：総括 事前学習：これまでの演習内容の振り返りを行っておく。（2時間） 事後学習：フィードバックの結果に沿って発表内容を修正する。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
プロジェクト・デザインに関する成果物（50%） 平常点（主体的な取り組み姿勢）（50%）
(7) 成績評価基準
・プロジェクト課題に対して主体的に取り組むことができたか ・プロジェクトを進めるにあたりリーダーシップを発揮することができたか
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他（
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
特に使用しない。参考となる資料は必要に応じて配布する。
(11) その他(受講上の注意)
本演習の履修を希望する場合は、第1回のガイダンスおよび第2回のチーム・オリエンテーションには必ず出席すること。 なお、本演習はアウトプットが中心となるため、履修者の進捗に応じて、柔軟に内容を変更していくものとする。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

現代文化研究 (Contemporary Cultural Studies)			担当教員	井上 寛	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-S-2465	2 単位	4 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 社会・文化コース					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
社会学の対象としての「文化現象」は、今日では様々なサブカルチャーを含めて多岐にわたります。そこで、多様な文化のあり方を概観するとともに、現代社会について考える社会学的な枠組み・視点の獲得を目指します。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
現代社会に見られる文化事象に関心を持ち、自分自身の問題として自身の経験や自身をとりまく社会状況と関連付けて考察する習慣を身につけること。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を講読すること。(2時間) 第2回：現代社会の文化変容①テーマパーク化する都市 事前学習：前回のノートを見直し、授業内で指示された参考文献を読んでおくこと。(2時間) 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を講読すること。(2時間) 第3回：現代社会の文化変容②メディアのパーソナル化 事前学習：前回のノートを見直し、授業内で指示された参考文献を読んでおくこと。(2時間) 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を講読すること。(2時間) 第4回：現代社会の文化変容③コンテンツ化 事前学習：前回のノートを見直し、授業内で指示された参考文献を読んでおくこと。(2時間) 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を講読すること。(2時間) 第5回：現代社会の文化変容④サービス化するコミュニケーション 事前学習：前回のノートを見直し、授業内で指示された参考文献を読んでおくこと。(2時間) 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を講読すること。(2時間) 第6回：都市の文化 事前学習：前回のノートを見直し、授業内で指示された参考文献を読んでおくこと。(2時間) 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を講読すること。(2時間) 第7回：メディアと情報の文化 事前学習：前回のノートを見直し、授業内で指示された参考文献を読んでおくこと。(2時間) 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を講読すること。(2時間) 第8回：コンテンツツーリズムと聖地巡礼 事前学習：前回のノートを見直し、授業内で指示された参考文献を読んでおくこと。(2時間) 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を講読すること。(2時間) 第9回：ツーリズムと文化 事前学習：前回のノートを見直し、授業内で指示された参考文献を読んでおくこと。(2時間) 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を講読すること。(2時間)

第10回：食の文化 事前学習：前回のノートを見直し、授業内で指示された参考文献を読んでおくこと。（2時間） 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を講読すること。（2時間） 第11回：地域という文化 事前学習：前回のノートを見直し、授業内で指示された参考文献を読んでおくこと。（2時間） 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を講読すること。（2時間） 第12回：まつりの文化 事前学習：前回のノートを見直し、授業内で指示された参考文献を読んでおくこと。（2時間） 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を講読すること。（2時間） 第13回：ライフコースの文化 事前学習：前回のノートを見直し、授業内で指示された参考文献を読んでおくこと。（2時間） 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を講読すること。（2時間） 第14回：マイノリティーの文化 事前学習：前回のノートを見直し、授業内で指示された参考文献を読んでおくこと。（2時間） 事後学習：講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を講読すること。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：全てのノートを見直し、全講義の要点をまとめ、討論できるできるようにまとめておくこと（2時間） 事後学習：本講義の全てのノートを見直して復習し整理すること。また、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、テキストの該当箇所を精読すること。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポート (50 %) 授業内レポート (30 %) 平常点 (20 %) ・レポートは別途提示した条件 (期限・様式・研究倫理) を守らない場合には評価の対象としません。 ・平常点は授業への参加状況、受講態度、提出物などの内容等を総合して判断します。
(7) 成績評価基準
・ 現代社会に見られる文化事象に関心を持つことによって、自らでテーマを設定し、必要なデータを収集することが出来るか。 ・ 自身の経験や自身をとりまく社会状況と関連付けて考察する事が出来るか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☒その他 (必要があれば、担当教員の研究室にて対応) 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他 (担当教員の研究室にて対応)
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
<テキスト> 特定のテキストは使用しません。必要に応じて授業時に資料を配布します。 <参考図書> 井上俊・長谷川正人編著 (2010)『文化社会学入門』 ミネルヴァ書房 遠藤秀樹著 (2011)『現代文化論 ― 社会理論で読み解くポップカルチャー』 ミネルヴァ書房

(11) その他(受講上の注意)

他の受講生に迷惑がかかる行為（私語・遅刻・無断退席等）は禁止します。
受講生の理解度や興味・関心にあわせて授業計画には変更を加える可能性があります。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

国際ビジネス英語Ⅱ (International Business EnglishⅡ)			担当教員	M ハウカ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-I-2481	2 単位	4 年前期	演習		選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 国際英語コース					
求める学習成果(教育目標)					
異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。					

(1) 授 業 の 内 容
国際ビジネス英語Iを基に、観光ビジネスに必要な英語表現やマナーを学びます。また、福井県の魅力を英語で伝えるプレゼンテーションスキルを習得し、福井県を巡る観光プランを提案するプロジェクトワークを通じて、学生主導の研究を推進します。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
日常英会話や観光・ホスピタリティに関する英語で会話ができる。 一般的に見られるビジネスマナーを理解し、日本の習慣を説明できる。 福井県の魅力を英語でスムーズに伝えることができる。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：Introduction / Business English (部ディスカッション) Group Project ①分担決定 事前学習：シラバスとテキストのIntroductionとContentsにを通し、質問事項をメモにまとめておくこと。(2時間) 事後学修：宅学習教材Units 1, 2を学習する。(2時間) 第2回：Units 1 and 2: FedEx - An Express Courier / The Students Who Started Google 事前学習：授業前にテキストのUnits 1, 2を読み、わからない単語を調べておくこと。(2時間) 事後学修：宅学習教材Units 3, 4を学習する。(2時間) 第3回：Unit 3: Emotional Intelligence in the Workplace Group Project ②準備：対象者を決める 事前学習：授業前にテキストのUnit 3を読み、わからない単語を調べておくこと。(2時間) 事後学修：宅学習教材Units 5～7を学習する。(2時間) 第4回：Unit 4: Toyota - R&D Powerhouse / テスト1 (U1～U3) 事前学習：授業前にテキストのUnit 4を読み、わからない単語を調べておくこと。(2時間) 事後学修：テスト内容の復習をする。(2時間) 第5回：Unit 5: Michael E. Porter - Management Guru Group Project ③準備：メインの項?を決める 事前学習：授業前にテキストのUnit 5を読み、わからない単語を調べておくこと。(2時間) 事後学修：宅学習教材Units 8, 9を学習する。(2時間) 第6回：Unit 6: Harley Davidson - A Legend Rolls On 事前学習：授業前にテキストのUnit 6を読み、わからない単語を調べておくこと。(2時間) 事後学修：宅学習教材Units 10, 11を学習する。(2時間) 第7回：Unit 7: Sporting Troubles - The Financial Fall of Leeds United / テスト2 (U4～U6) Group Project ④準備：体験活動を決める 事前学習：授業前にテキストのUnit 7を読み、わからない単語を調べておくこと。(2時間) 事後学修：宅学習教材Units 12, 13を学習する。(2時間) 第8回：Unit 8: Women in Business - Challenges and Triumphs Group Project ⑤準備：ルートを決める 事前学習：授業前にテキストのUnit 8を読み、わからない単語を調べておくこと。(2時間) 事後学修：宅学習教材Units 14, 15を学習する。(2時間) 第9回：Unit 9: The Creative Vision of Walt Disney 事前学習：授業前にテキストのUnit 9を読み、わからない単語を調べておくこと。(2時間) 事後学修：テスト内容の復習をする。(2時間) 第10回：Unit 10: Tata - India's Mega Group / テスト3 (U7～U9) 事前学習：授業前にテキストのUnit 10を読み、わからない単語を調べておくこと。(2時間) 事後学修：宅学習教材Units 16, 17を学習する。(2時間)

第11回：Unit 11: Big Banks, Big Problems Group Project ⑥準備：宿泊先を決める 事前学習：授業前にテキストのUnit 11を読み、わからない単語を調べておくこと。（2時間） 事後学修：宅学習教材Units 18, 19を学習する。（2時間） 第12回：Unit 12: The Spending Habits of the Super Rich Group Project ⑦準備：費を決める 事前学習：授業前にテキストのUnit 12を読み、わからない単語を調べておくこと。（2時間） 事後学修：宅学習教材Units 20～22を学習する。（2時間） 第13回：Unit 13: The Story of Marvel Comics 事前学習：授業前にテキストのUnit 13を読み、わからない単語を調べておくこと。（2時間） 事後学修：テスト内容の復習をする。（2時間） 第14回：Unit 14: Ben and Jerry's - Ice Cream and Social Activism Group Project ⑧準備：旅程を作る、PPT作成と発表分担を決める 事前学習：授業前にテキストのUnit 14を読み、わからない単語を調べておくこと。（2時間） 事後学修：グループ内で発表内容をまとめる。（2時間） 第15回：Presentationとまとめ / テスト4 (U10～U14) 事前学習：授業前にグループ内で発表内容を確認する。（2時間） 事後学修：発表内容を修正し、提出する。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
授業への積極的参加 (25%) 授業内?テスト (25%) 最終授業の発表内容 (50%)
(7) 成績評価基準
観光ビジネスで多される英語表現を使うことができるか。 ビジネス上のマナーを理解しているか。 福井県の魅を英語でスムーズに伝えることができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
Bennett, Andrew E. Business Sense. 2014. NAN'UN-DO. ISBN: 978-45231-7742-5
(11) その他(受講上の注意)
5分以上20分未満の遅刻3回で席1回とみなす。 20分以上の遅刻は席とみなす。 無断欠席があった場合、その授業で出題された課題、小テスト、テストはすべてゼロ点となります。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

コミュニケーション特別演習Ⅱa (Special Seminar in Communication Ⅱa)			担当教員	井上 寛、加藤 優子、橋本 武志、 升田 法継、矢橋 知枝、織田 暁子、 寺田 憲弘、M ハウカ、禿 寿、 Mクズィフ
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-G-2495	2 単位	4 年前期	演習	必修
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 特別演習・卒業研究				
求める学習成果(教育目標)				
各コースで身につけた能力を演習のなかでより深め、卒業研究につなげる。				

(1) 授 業 の 内 容
卒業研究の完成に向けて、3年次のコミュニケーション特別演習Ⅰa,bで明確化した問題意識に基づき、研究テーマを確定する。次に、研究・調査・実践に必要なアプローチを探求し、テーマとの整合性や妥当性を探る。そのために、専門的な文献、論文、データなども含めた精読を行うとともに、ディスカッションや発表を行うことで、卒業研究の計画立案および策定を行う。 研究課題によっては、企業や自治体等の外部団体と連携し、実際のデータ分析や課題解決に取り組んだり、地域連携活動を行ったりすることがある。また、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)に関する活動に取り組むことがある。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
自らの問題意識に基づいて設定した研究課題を遂行するために必要な、適切なアプローチを吟味し、選択する能力を身につける。課題に関連する文献などを適切に精読できる。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ■実習、フィールドワーク ■実験、実技 □その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
研究テーマ、研究計画の策定および研究計画書の提出を行い、それぞれの研究テーマについて、適切な研究、調査、実践を進める。 概ね以下の通りだが、各担当教員の演習テーマをおよび学生の課題設定に依拠した指導に従い、PBL、フィールドワーク、グループワーク、実験等のアクティブラーニングを適宜行う。 (例) 第1回：オリエンテーション 事前学習：卒業論文のテーマについてレポートをまとめる。(2時間) 事後学習：自らの卒業論文テーマについて文献調査等を通し考えを深める。(2時間) 第2回：論文の全体構造を明らかにする：目的の設定(発表、ディスカッション) 事前学習：課題となった内容を考える。(2時間) 事後学習：修正を受けた点を再構想する。(2時間) 第3回：論文の全体構造を明らかにする：研究対象の設定(発表、ディスカッション) 事前学習：課題となった内容を考える。(2時間) 事後学習：修正を受けた点を再構想する。(2時間) 第4回：論文の全体構造を明らかにする：研究方法の設定(発表、ディスカッション) 事前学習：課題となった内容を考える。(2時間) 事後学習：修正を受けた点を再構想する。(2時間) 第5回：論文の全体構造を明らかにする：研究計画書の作成(発表、ディスカッション) 事前学習：課題となった内容を考える。(2時間) 事後学習：修正を受けた点を再構想する。(2時間) 第6回：論文の全体構造を明らかにする：研究計画書の作成(発表、ディスカッション) 事前学習：課題となった内容を考える。(2時間) 事後学習：修正を受けた点を再構想する。(2時間) 第7回：論文の全体構造を明らかにする：目次部分の作成(発表、ディスカッション) 事前学習：課題となった内容を考える。(2時間) 事後学習：修正を受けた点を再構想する。(2時間) 第8回：論文の全体構造を明らかにする：目次部分の作成(発表、ディスカッション) 事前学習：課題となった内容を考える。(2時間) 事後学習：修正を受けた点を再構想する。(2時間)

第9回：文献調査を進める：先行研究の調査（発表、ディスカッション） 事前学習：課題となった内容を考える。（2時間） 事後学習：修正を受けた点を再構想する。（2時間） 第10回：文献調査を進める：先行研究の調査（発表、ディスカッション） 事前学習：課題となった内容を考える。（2時間） 事後学習：修正を受けた点を再構想する。（2時間） 第11回：文献調査を進める：先行研究の調査（発表、ディスカッション） 事前学習：課題となった内容を考える。（2時間） 事後学習：修正を受けた点を再構想する。（2時間） 第12回：文献調査を進める：先行研究の調査（発表、ディスカッション） 事前学習：課題となった内容を考える。（2時間） 事後学習：修正を受けた点を再構想する。（2時間） 第13回：文献調査を進める：仮説の設定（発表、ディスカッション） 事前学習：課題となった内容を考える。（2時間） 事後学習：修正を受けた点を再構想する。（2時間） 第14回：文献調査を進める：仮説の設定（発表、ディスカッション） 事前学習：課題となった内容を考える。（2時間） 事後学習：修正を受けた点を再構想する。（2時間） 第15回：まとめと課題（発表、ディスカッション） 事前学習：課題となった内容を考える。（2時間） 事後学習：修正を受けた点を再構想する。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
平常点（100％） 平常点は演習への取り組み状況やその態度などから総合的に判断する。
(7) 成績評価基準
ビジネス、社会・文化、国際英語に関して、卒業研究で取り組むための適切な研究・実践課題設定を行えるようになっているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他（調査内容・方法、ディスカッションに対するフィードバックについて） ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（Microsoft Teamsを用いたオンライン対話）
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
担当教員から適宜指示する。
(11) その他(受講上の注意)
研究計画の遂行のために必要な本演習以外の授業を履修する。それとともに、今までに履修してきた授業の中で、研究課題と関連のある内容を再確認しておく。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

コミュニケーション特別演習Ⅱb (Special Seminar in Communication Ⅱb)			担当教員	井上 寛、加藤 優子、橋本 武志、 升田 法継、矢橋 知枝、織田 暁子、 寺田 憲弘、M ハウカ、禿 寿、 Mクズィフ
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-G-2496	2 単位	4 年後期	演習	必修
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 特別演習・卒業研究				
求める学習成果(教育目標)				
各コースで身につけた能力を演習のなかでより深め、卒業研究につなげる。				

(1) 授 業 の 内 容
卒業研究の完成段階として、自らが設定した課題を適切に遂行できるよう、担当教員の指導のもと、研究を進める。卒業研究の課題を、論理的かつ説得的にまとめていき、卒業研究を完成させる。 研究課題によっては、企業や自治体等の外部団体と連携し、実際のデータ分析や課題解決に取り組んだり、地域連携活動を行ったりすることがある。また、国連が定める持続可能な開発目標（SDGs）に関する活動に取り組むことがある。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
自らの研究課題を、適切なアプローチに基づき遂行し、卒業研究として論理的かつ説得的に完成できる。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習（PBL） ■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ■実習、フィールドワーク ■実験、実技 □その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
受講生自身のテーマについて調査を実施し、結果の分析考察を行い、論理的かつ説得的に伝えられるようにまとめる。 概ね以下の通りだが、各担当教員の演習テーマをおよび学生の課題設定に依拠した指導に従い、PBL、ディスカッション、グループワーク、実験等のアクティブラーニングを適宜行う。 (例) 第1回：オリエンテーション 事前学習：自らの卒業論文テーマについて前期で行ったことをまとめる。（2時間） 事後学習：試験的調査の準備に取り組む。（2時間） 第2回：試験的調査の開始（フィールドワーク） 事前学習：調査方法について吟味する。（2時間） 事後学習：修正を受けた点を再構想する。（2時間） 第3回：試験的調査の修正（フィールドワーク） 事前学習：試験的調査結果に基づき、調査方法について改善する。（2時間） 事後学習：修正を受けた点を再構想する。（2時間） 第4回：調査（フィールドワーク） 事前学習：調査を行う。（2時間） 事後学習：調査結果をまとめる。（2時間） 第5回：調査（フィールドワーク） 事前学習：調査を行う。（2時間） 事後学習：調査結果をまとめる。（2時間） 第6回：「方法論」の作成（発表） 事前学習：実施した調査方法について、「方法論」をまとめる。（2時間） 事後学習：指摘を受けた点を修正する。（2時間） 第7回：「分析」「考察」の作成（発表） 事前学習：調査結果に基づいた分析、考察部分をまとめる。（2時間） 事後学習：指摘を受けた点を修正する。（2時間） 第8回：卒業論文全体の作成（発表） 事前学習：「はじめに」にあたる部分を作成する。（2時間） 事後学習：指摘を受けた点を修正する。（2時間）

第9回：卒業論文全体の作成（発表） 事前学習：「おわりに」にあたる部分を作成する。（2時間） 事後学習：指摘を受けた点を修正する。（2時間） 第10回：卒業論文全体の作成（発表） 事前学習：卒業論文の全文を完成させる。（2時間） 事後学習：指摘を受けた点を修正する。（2時間） 第11回：卒業論文要旨作成（発表） 事前学習：卒業論文要旨を作成する。（2時間） 事後学習：指摘を受けた点を修正する。（2時間） 第12回：卒業論文要旨作成（発表） 事前学習：卒業論文要旨を完成させる。（2時間） 事後学習：指摘を受けた点を修正する。（2時間） 第13回：卒業研究発表準備（発表） 事前学習：卒業研究発表のためのPPTを作成する。（2時間） 事後学習：指摘を受けた点を修正する。（2時間） 第14回：卒業研究発表準備（発表） 事前学習：卒業研究発表のためのPPTを作成する。（2時間） 事後学習：指摘を受けた点を修正する。（2時間） 第15回：卒業研究発表準備（発表） 事前学習：卒業研究発表のためのPPTを完成させる。（2時間） 事後学習：指摘を受けた点を修正する。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 平常点（100%） 平常点は演習への取り組み状況やその態度などから総合的に判断する。
(7) 成績評価基準 ビジネス、社会・文化、国際英語に関して、卒業研究で取り組むための分析や実践の結果を考察し、まとめられるようになっているか。
(8) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書 担当教員から適宜指示する。
(11) その他（受講上の注意） 担当教員から適宜指示する。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	井上 寛、加藤 優子、橋本 武志、 升田 法継、矢橋 知枝、織田 暁子、 寺田 憲弘、M ハウカ、禿 寿、 Mクズィフ
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-G-2497	6 単位	4 年通年	演習	必修
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 特別演習・卒業研究				
求める学習成果(教育目標)				
各コースで身につけた能力を演習のなかでより深め、卒業研究としてまとめる。				

(1) 授 業 の 内 容
コミュニケーション学特別演習Ⅰ・Ⅱを通して、学生が自ら研究テーマや研究計画を設定する。それに基づき、探求を深め、これまでの研究や実践を論理的かつ説得的な形で、卒業研究としてまとめる。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
ビジネス、社会・文化、国際英語それぞれの領域において、適切な問題意識に基づいた課題設定を行えるようになる。設定した課題について分析・研究や実践を行うための方法を適切に選択できるようになる。分析や実践の結果を考察し、まとめることが出来るようになる。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ■実習、フィールドワーク ■実験、実技 □その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
概ね以下の通りだが、学生個人の研究の進捗に応じ、指導には、PBL、発表、ディスカッション、フィールドワーク、グループワーク、実験等のアクティブラーニングも適宜含まれる。学生はこれらの学びを通し、主体的に研究に取り組む。 4～5月 研究・実践のテーマと研究計画の策定、研究計画書の提出 5～8月 研究・実践の実行 9～10月 研究・実践結果の分析・考察 11～12月 卒業研究の仕上げ、提出 1月上旬 卒業研究要旨の執筆、提出 1～2月 卒業研究発表会(口頭試問の機能も兼ねる、卒業試験) ※卒業研究発表会に関しては全学生が同じスケジュールで行われる、それまでのスケジュールは配属先のゼミにより異なることがある。担当の教員から適宜指示がある。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
卒業研究成果物(60%) 口卒業研究発表会におけるプレゼンテーション(口頭試問)(20%) 平常点(20%) 平常点は、卒業研究への取り組み状況やその姿勢などを総合的に判断する。
(7) 成 績 評 価 基 準
ビジネス、社会・文化、国際英語のそれぞれの領域において、適切な問題意識に基づく課題設定を行っているか。設定した課題について、分析・研究や実践を行うための方法が適切に選択されているか。分析や実践の結果を考察し、まとめることが出来ているか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 担当教員から適宜、紹介、指示がある。
(11) その他(受講上の注意) 卒業研究とは、4年間で習得した能力、およびこれまでの研究・実践を結集して、論理的かつ説得的にまとめるものである。主体的かつ積極的に取り組むことはもちろん、研究計画をしっかりと策定して研究を進展させていくことが肝要である。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育相談 (Educational Counseling)			担当教員	佐々木 雅代	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CO-T-2415	2 単位	4 年前期	講義	選択	
＜科目区分＞ 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果（教育目標）					
次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。					

(1) 授 業 の 内 容
教育相談とは、幼児、児童及び生徒が自己理解を深め、好ましい人間関係を築きながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動の一つであることを学ぶ。 それぞれの発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を身に付ける。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
1. 学校における教育相談の意義と理論を理解する。 2. 教育相談を進める際に必要な基礎知識(カウンセリングに関する基礎的事項を含む)を理解する。 3. 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、支援者としての自己理解を深め、組織的な取組みや連携の必要性を理解する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：15回の全体計画と学習のポイント及び到達目標の説明。生徒指導と教育相談について。教育相談の視点から、園、学校という場、資源について知る。(ディスカッション) 事後学習：チーム学校に関し、指示した課題について、調べレポートにまとめておくこと。(3時間) 第2回：教育相談に生かす心理学的理解：教育相談とカウンセリング。見立て。事例で学ぶ、問題の背景、影響、資質のとらえ方。傾聴訓練を含むグループディスカッション。(ディスカッション) 事前学習：第1回に指定した資料を熟読しておくこと。(2時間) 事後学習：見立てについて、理解したことをレポートにまとめておくこと。(2時間) 第3回：教育相談に生かす心理学的理解：教育相談におけるアセスメントとは。教育相談技法について。予防開発的援助について。グループディスカッション。(グループワーク) 事前学習：第2回に配布した事例について、自分なりの介入プランを立てること。(2時間) 事後学習：介入プランの立て方について、ポイントをレポートにまとめておくこと。(2時間) 第4回：不登校、登園渋りについて。教育相談における対応。文科省の調査研究報告等にあたり、多角的視点によって理解の幅を広げる。(プレゼンテーション) 事前学習：文科省の調査研究報告等前回の授業で指示した資料を調べまとめ、レポートにすること。(3時間) 事後学習：学校現場でどのような対応が望ましいか、学んだことをまとめておくこと。(2時間) 第5回：子供の貧困について。架空事例に触れ、学校生活での問題の現れ方、介入に際して配慮すべきこと、社会資源を活用するという視点を得る。(ディスカッション) 事前学習：日本の実態と、どのような対策がなされているか調べレポートにまとめておくこと。(2時間) 事後学習：子どもの貧困について、保育、幼児教育、学校現場でどのような対応が可能か、学んだことをまとめておくこと。(2時間) 第6回：いじめ理解、いじめ対応の基礎知識。いじめ予防について。被害者支援、加害者支援および保護者支援について理解する。(ディスカッション) 事前学習：指定したいじめ重大事態調査報告書を 通読しておく(2時間) 事後学習：授業で検討したこと、学んだことについて、まとめておくこと。(2時間) 第7回：発達障害の学校での現れ方。発達障害の流動性。支援のための人格発達仮説を学ぶ。発達障害支援シートの活用を知る。保護者支援。外部機関との連携。(ディスカッション) 事前学習：発達支援シートについて調べて、ディスカッションの資料になるように、まとめておくこと。(2時間) 事後学習：二次障害の予防と対応、連携についてまとめておくこと。(2時間)

第8回：予防開発的アプローチとしてのSSTの意味。SSTの使い方。SSTワークの体験。（グループワーク） 事前学習：第7回に配布した資料を熟読し、チェックリストを完成しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で、自分で作った宿題の回答を試みること。（2時間） 第9回：予防開発的アプローチとしてのアサーティブトレーニングの意味。自尊感情、対等性、誠実であること、教育相談における人権について理解を深める。自己理解、他者理解。（グループワーク） 事前学習：第8回に配布した資料を熟読し、質問をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：自分にとってのアサーティブネスについて検討し、レポートにすること。（2時間） 第10回：子どもの自殺・虐待について現状を知る。SOSの出し方教育について学ぶ。 事前学習：SOSの出し方教育について調べてまとめておく。（2時間） 事後学習：授業で扱った事例について、自分の考えをまとめる。（2時間） 第11回：事件・事故・災害対応、危機管理について。トラウマ・インフォームド・ケアについて 事前学習：学習指導要領における性に関する指導について、文科省のホームページから調べ、発達段階に沿った指導について確認しておく。（2時間） 事後学習：授業で扱った事例について、自分の考えをまとめる。（2時間） 第12回：傾聴演習①：聴くという姿勢・態度。傾聴の技術を体験的に学ぶ。架空事例について傾聴のロールプレイ 事前学習：第11回で配布した資料を通読しておく。（2時間） 事後学習：自分の生活の中で、身近な人の話を意図的に傾聴してみる。そして考察する。（2時間） 第13回：傾聴演習②：他者の共感的理解 保護者支援。（ディスカッション） 事前学習：第12回で配布した資料を通読しておく。（2時間） 事後学習：自分の生活の中で、身近な人の話を意図的に傾聴してみる。そして考察する。（2時間） 第14回：教員のメンタルヘルス。ストレスマネジメントについて。体験学習。教育相談での活かし方。（グループワーク） 事前学習：第13回に指示した、リラクゼーションの技法についてあらかじめ調べておくこと。（2時間） 事後学習：自分自身のストレスマネジメントの意義について、レポートにまとめる。（2時間） 第15回：ふりかえり。今まで学んだことの振り返り。改めて事例をもとに、見立て、介入プランの試作。 事前学習：授業全体を振り返り、疑問や質問をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：参考図書について、指示した要点を確認しておくこと。（2時間） 第16回：定期試験	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
小レポート(30%) 平常点(20%) 定期試験(50%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、課題の提出状況等を総合して判断します。)	
(7) 成績評価基準	
いじめ、不登校、発達障害について、基礎知識をもち、学校・保育現場のチームの一員としてカウンセリングマインドを生かした支援ができる。支援プランを立てることが出来る。	
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他	
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	

(10) テキスト、参考図書
テキスト 森 慶輔・宮下敏恵 編著『教育相談テキストブック』金子書房 2021年 参考図書 西本絹子著『教師のための教育相談』萌文書林 2018年 文部科学省 『生徒指導提要』2022年12月改訂版 本田恵子編著『改訂版 包括的スクールカウンセリングの理論と実践: 子どもの課題の見立て方とチーム連携のあり方』金子書房 2019年
(11) その他(受講上の注意)
都度資料を配布し、課題を課していきますので、本教科のためのファイル、ノートを用意してください。 予習復習については、授業時に資料や課題を指示します。また授業で行う体験学習に積極的に取り組んでください。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育実習Ⅱ（中学校） （Teaching Practice Ⅱ (junior high school)）			担当教員	紺渡 弘幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-T-2416	2 単位	4 年（6 月）	実習		選択
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果（教育目標）					
次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。					

(1) 授 業 の 内 容
中学校における2週間の教育実習(観察実習・参加実習・授業実習)
(2) 授 業 の 到 達 目 標
1. 確かな心構えを持って実習に臨む。 2. 授業の教材研究がしっかりできる。 3. 指導態度が真剣で、意欲的である。 4. 生徒をよく理解しようと努める。 5. 教科外指導にも熱心に取り組む。 6. 実習ノートを欠かさず提出する。 7. 実習レポートはよくまとめられている。 8. 実習ノートは内容のある記録ができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
事前指導 ・教職課程ガイダンス：全体指導、教育実習の予定、受講資格等の説明 ・教育実習特別講義：教育現場の状況や現場を取り巻く環境・生徒理解・教育実習の心構え等に関する講義、ディスカッション ・学校見学(高等学校)：教育実習における注意事項、朝読書・朝礼参観 ・学校見学(高等学校)：授業参観、高等学校施設見学 ・「教育実習の手引き」、「教育実習ノート」に基づく実習直前の具体的な指導 ・実習Ⅱのための直前指導(高等学校)：高等学校の教育現場の状況や現場を取り巻く環境、生徒理解・指導の心構え等に関する講義 ・実習Ⅱのための直前指導(高等学校)：教科指導(授業実習)に関する講義 ・実習直前の模擬授業(発表)に基づく指導 教育実習校(中学校)における実習 1. オリエンテーション(実習校の概要や特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合わせ等) 2. 教育実習(観察・参加・授業実習の諸活動。教材研究・学習指導案の作成、授業・生徒指導等の実習体験等) 3. 研究授業(実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践) 4. 研究授業の反省会(研究授業後の実習校教員からの指導、ディスカッション) 教育実習先の中学校について、あらかじめ資料等を読んで理解を深めておく。 日頃から教育実習に必要な知識・技能をしっかり身につけておく。 事後指導 ・研究授業についての指導：指導教員による研究授業についての指導助言 ・教育実習Ⅱ反省会：実習生による実習報告・反省(発表)、意見交換(ディスカッション)、実習レポートの作成、自己点検
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

(6) 成績評価方法
平常点100% (教育実習校からの評価、レポート、実習ノートなどを総合して評価する。)
(7) 成績評価基準
1. 指導に必要な基礎学力・知識が十分にあるか。 2. よく教材研究・工夫がなされていたか。 3. 指導態度は真剣で、意欲が感じられたか。 4. 生徒をよく理解しようと努めていたか。 5. 指導能力はあるか、指導態度は良かったか。 6. 教科外指導にも熱心に取り組んだか。 7. 勤務態度はまじめで、実習への熱意が感じられたか。 8. 事務・実務能力はあるか。 9. 実習ノートの提出はきちんとしていたか。 10. 実習レポートはよくまとめられていたか。 11. 実習ノートは内容のある記録ができていたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他(実習に対するフィードバックについて) ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☒ その他(実習における評価および課題は「事前・事後指導」においてフィードバックする。)
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
仁愛大学教職課程委員会編「仁愛大学教育実習の手引」、「仁愛大学教育実習ノート(令和8年度版)」、指定教科書
(11) その他(受講上の注意)
実習校での注意事項を遵守し、充実した実習になるよう努力することを期待する。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教職実践演習(中・高) (Teaching Profession Practical Exercises (Junior and senior high school))			担当教員	紺渡 弘幸、フッド 晴美、小林 利幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-T-2417	2 単位	4 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。					

(1) 授 業 の 内 容
基礎的指導技術修得を確認・強化するとともに実践的指導力のさらなる育成のために、教職の意義・教員の職務と役割、生徒理解や学級経営、教科指導・生徒指導について理解し、英語指導の基本的指導技術（ICT活用を含む）を身につける。また、英語指導に有用なマクロストラテジーを理解し、使用できるようにする。併せて、ティーム・ティーチングの意義・目的・方法を理解し、実施することができるようにする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
1. 教職の意義・教員の職務と役割について理解する。 2. 生徒理解や学級経営について理解する。 3. 教科指導・生徒指導について理解する。 4. 英語指導の基本的指導技術（ICT活用を含む）を身につける。 5. 英語指導に有用なマクロストラテジーを理解し、使用できる。 6. ティーム・ティーチングの意義・目的を理解する。 7. ティーム・ティーチングの方法を理解し、実施することができる。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習（PBL） ☒ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
小林利幸担当分（5回） 第1回：教職の意義、教職員の職務と役割、生徒に対する使命と責任の重さについて事例研究・ロールプレイング・グループ討論（PBL・討議・グループワーク） 事前学修：実習を通して教職員の職務の尊さを実感した体験をできるだけ書き上げてくること。（2時間） 事後学修：教職員の職務の内容を整理し、要点を書き上げておくこと。（2時間） 第2回：生徒理解と学級経営について事例研究・グループ討論（PBL・討議・グループワーク） 事前学修：実習を通して気になった生徒指導と学級経営の問題点を書き上げてくること。（2時間） 事後学修：生徒指導と学級経営の要点をまとめ、自分が力を入れて取り組みたいことを書いておくこと。（2時間） 第3回：教科や生徒指導の方法についての事例研究・グループ討論（PBL・討議・グループワーク） 事前学修：教科指導や生徒指導で、どんな苦労をしたか、結果についてまとめる。（2時間） 事後学修：教科指導や生徒指導で実習を通して学んだことをまとめる。（2時間） 第4回：学校現場の調査研究とグループ討論（PBL・討議・グループワーク） 事前学修：学校での先生方の勤務と苦労についてまとめる。（2時間） 事後学修：特に学校現場の諸問題を整理し、解決策をまとめる。（2時間） 第5回：社会性や対人関係能力についての確認とまとめ（PBL・討議・グループワーク） 事前学修：児童生徒の社会性・対人関係能力の問題について解決策を考えてくる。（2時間） 事後学修：社会性・対人関係能力の様々な問題の解決策をまとめる。（2時間） フッド晴美担当分（5回） 第6回：ティーム・ティーチングー意義と目的 事前学習：自分が中学校・高校で受けたティーム・ティーチングで行われた英語の授業について、それらの授業がどのように自分の英語学習に効果的であったかをまとめる。（2時間） 事後学習：ティーム・ティーチングの意義と目的を、第2言語習得研究の成果と日本の学校英語教育の目的に照らし合わせ、レポートにまとめる。（2時間）

第7回：チーム・ティーチングー現状と課題 事前学習：自分が中学校・高校で受けたチーム・ティーチングで行われた英語の授業を振り返り、どのような点が問題であったかまとめておく。（2時間） 事後学習：チーム・ティーチングの現状と課題を、授業のディスカッションおよび配布された資料に基づいてまとめ、どのようにその課題を解決すべきか自分の考えをまとめる。（2時間） 第8回：チーム・ティーチングー目標設定・指導計画・ALTとの話し合いの持ち方 事前学習：チーム・ティーチングの授業での目標設定、ALTとの話し合いについて大切だと思うことをまとめておく。（2時間） 事後学習：今回の授業でディスカッションしたことに基づき、教育実習で実施したチーム・ティーチングで改善すべき点をまとめ、どのように改善すべきか考えをまとめる。（2時間） 第9回：チーム・ティーチングー授業実践① 事前学習：教育実習で実施した授業の内容を、チーム・ティーチングであることを想定して指導案を作り直し、模擬授業の準備をしてくる。（2時間） 事後学習：今回の模擬授業の良かった点、改善すべき点についてまとめる。（2時間） 第10回：チーム・ティーチングー授業実践②・評価の仕方 事前学習：前回の模擬授業の目標がどれくらい達成したかを評価する評価テストを考えてくる。（2時間） 事後学習：チーム・ティーチングを効果的に実施するための要点を、5回の授業を通して得た知見に基づき、まとめる。（2時間） 紺渡弘幸担当分（5回） 第11回：基本的指導技術（Warm-up・Review）と効果的な指導のためのマクロストラテジー 事前学習：事前に資料を読み、課題をしておく。（2時間） 事後学習：基本的指導技術（Warm-up・Review）とマクロストラテジーについて復習する。（2時間） 第12回：基本的指導技術（文法・文型の導入）と望ましい言語活動 事前学習：事前に資料を読み、課題をしておく。（2時間） 事後学習：基本的指導技術（文法・文型の導入）と言語活動について復習する。（2時間） 第13回：基本的指導技術（言語活動）と授業改善のポイント 事前学習：事前に資料を読み、課題をしておく。（2時間） 事後学習：基本的指導技術（言語活動）と授業改善のポイントについて復習する。模擬授業の準備（学習指導案・教材の作成）をする。（2時間） 第14回：基本的指導技術（語彙の導入・指導）と効果的な動機づけ 事前学習：事前に資料を読み、課題をしておく。（2時間） 事後学習：基本的指導技術（語彙の導入・指導）と動機づけについて復習する。模擬授業の準備（学習指導案・教材の作成）をする。（2時間） 第15回：基本的指導技術（教科書本文の読解指導）と発問の工夫 事前学習：事前に資料を読み、課題をしておく。（2時間） 事後学習：基本的指導技術（教科書本文の読解指導）と発問の工夫について復習する。（2時間）	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。ただし、教員の都合にて休講となった授業の補講や、気象警報発令時、感染症の発生などの非常時において面接授業が困難な場合、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
課題（30%）、平常点（70%） （平常点は授業への参加状況、グループ討論、模擬授業などの取り組みを総合的に判断します。）	
(7) 成績評価基準	
1. 教職の意義・教員の職務と役割について理解できているか。 2. 生徒理解や学級経営について理解できているか。 3. 教科指導・生徒指導について理解できているか。 4. 基本的指導技術を授業に活用できるか。 5. 英語指導に有用なマクロストラテジーや授業改善のポイント等を理解し、授業で使用できるか。 6. チーム・ティーチングの意義・目的を理解できているか。 7. チーム・ティーチングの方法を理解し、実施することができるか。	

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 なし。
(11) その他(受講上の注意) 自ら積極的に教員になる上で必要な知識・技能を再確認し、実際に活用できるようにするとともに、教師としての資質を向上させることができるよう努力を期待する。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

応用栄養学Ⅳ(ライフスタイル・スポーツ栄養学) (Applied Nutrition Ⅳ (Lifestyle andSports))			担当教員	鳴瀬 碧、新井田 裕樹	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-B-2437	2 単位	4 年前期	講義		必修
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
求める学習成果(教育目標)					
栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力					

(1) 授 業 の 内 容	
スポーツ実施者の健康・体力、競技力の向上を支援するための栄養管理、異常環境、ストレス下での健康を維持増進するための栄養管理の方法を学習する。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
スポーツ実施者および異常環境、ストレス下の栄養生理を理解し、栄養管理を行うための知識を身に付ける	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：運動と健康づくりのための身体活動基準(鳴瀬碧) 事前学習：運動と健康づくりのための身体活動基準についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容をまとめておくこと(2時間)	
第2回：運動とトレーニングにおけるエネルギー代謝、エネルギー消費量の評価(鳴瀬碧) 事前学習：運動とトレーニングにおけるエネルギー代謝、エネルギー消費量の評価についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容をまとめておくこと(2時間)	
第3回：スポーツ選手の身体組成、トレーニング後・試合後のリカバリー、試合前の食事(鳴瀬碧) 事前学習：スポーツ選手の身体組成、トレーニング後・試合後のリカバリー、試合前の食事についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容をまとめておくこと(2時間)	
第4回：スポーツ選手のたんぱく質摂取・骨の健康と栄養摂取(鳴瀬碧) 事前学習：スポーツ選手のたんぱく質摂取・骨の健康と栄養摂取についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容をまとめておくこと(2時間)	
第5回：スポーツ選手の貧血、ビタミン・抗酸化物質と運動、水分補給(鳴瀬碧) 事前学習：スポーツ選手の貧血、ビタミン・抗酸化物質と運動、水分補給についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容をまとめておくこと(2時間)	
第6回：スポーツ選手のウエイトコントロール、サプリメント(鳴瀬碧) 事前学習：スポーツ選手のウエイトコントロール、サプリメントについてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容をまとめておくこと(2時間)	
第7回：スポーツ選手の栄養教育・食事管理、質疑応答(鳴瀬碧) 事前学習：スポーツ選手の栄養教育・食事管理についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容をまとめておくこと(2時間)	
第8回：環境と栄養の概要(新井田裕樹) 事前学習：環境と栄養についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容をまとめておくこと(2時間)	
第9回：生体リズムと栄養(新井田裕樹) 事前学習：生体の恒常性についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：講義の内容をまとめておくこと(2時間)	

第10回：ストレス時の代謝（新井田裕樹） 事前学習：ストレス時のホルモン分泌と機能についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容をまとめておくこと（2時間） 第11回：ストレス時の栄養（新井田裕樹） 事前学習：糖質、たんぱく質、脂質代謝について理解しておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容をまとめておくこと（2時間） 第12回：高温・低温環境と栄養（新井田裕樹） 事前学習：高温・低温環境と栄養についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容をまとめておくこと（2時間） 第13回：高圧・低圧環境と栄養（新井田裕樹） 事前学習：高圧・低圧と栄養についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容をまとめておくこと（2時間） 第14回：無重力状態の栄養（新井田裕樹） 事前学習：無重力状態の栄養についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容をまとめておくこと（2時間） 第15回：災害時の栄養（新井田裕樹） 事前学習：テキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：配布プリントを利用し、内容をまとめておくこと（2時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 定期試験（80％） 平常点（20％） （平常点は授業の取り組み態度等を総合的に評価する）
(7) 成績評価基準 スポーツ実施者および異常環境、ストレス下の栄養生理について理解できたか。またこれらの環境における栄養管理の手法について説明できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 ・栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学 第3版 栢下 淳、上西一弘／編 羊土社 2025年 ・スポーツ栄養学 ― 理論と実践 ― 田口素子編 市村出版 2022年
(11) その他(受講上の注意) ・授業計画は進捗状況により変更することがあります。 ・管理栄養士国家試験受験資格（必修）
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

栄養教育論Ⅲ（行動療法・カウンセリング） (Nutrition Education Ⅲ (Behavior Theoryand Counseling))			担当教員	森 俊之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-B-2441	1 単位	4 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
求める学習成果（教育目標）					
栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力					

(1) 授 業 の 内 容
行動変容を促す基礎理論として、行動療法やカウンセリング理論の基本について学ぶとともに、具体的な栄養教育場面での実践方法について考える。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ 行動療法・カウンセリング理論など行動変容に関する理論の基礎について理解する。 ・ 栄養教育の場面で、どのような関わり方をしたらいいか考える。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス (栄養教育において人間を理解する意義) 事後学習：Eラーニングコース内で指示した課題に取り組むこと (2時間) 第2回：行動変容の基礎理論① (精神分析) 事後学習：Eラーニングコース内で指示した課題に取り組むとともに、復習テストを繰り返し解いてみる (4時間) 第3回：行動変容の基礎理論② (行動療法) 事後学習：Eラーニングコース内で指示した課題に取り組むとともに、復習テストを繰り返し解いてみる (4時間) 第4回：行動療法の法則と技法 事後学習：Eラーニングコース内で指示した課題に取り組むとともに、復習テストを繰り返し解いてみる (4時間) 第5回：行動変容の基礎理論③ (来談者中心療法) 事後学習：Eラーニングコース内で指示した課題に取り組むとともに、復習テストを繰り返し解いてみる (4時間) 第6回：カウンセリングの基礎技術 事後学習：Eラーニングコース内で指示した課題に取り組むとともに、復習テストを繰り返し解いてみる (4時間) 第7回：その他の心理学理論① 事後学習：Eラーニングコース内で指示した課題に取り組むとともに、復習テストを繰り返し解いてみる (4時間) 第8回：その他の心理学理論② 事後学習：Eラーニングコース内で指示した課題に取り組むとともに、復習テストを繰り返し解いてみる (4時間) 第9回：定期試験 質問等がある場合は、Eラーニングコース上の質問掲示板または電子メールを利用して積極的に質問すること。
(5) 授業形態 [面接授業・遠隔授業]
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
学期末に実施する筆記試験 (80%) と授業中に指示する課題・授業時の態度等 (20%) をもとに評価する。

(7) 成績評価基準
・行動療法・カウンセリング理論など行動変容に関する理論の基礎について説明できるか。 ・栄養教育の場面で、どのような関わり方をしたらいいか考えることができ、模擬的に実践できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配付するとともに、参考図書を紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
管理栄養士国家試験受験資格(必修)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

臨床栄養病理学 (Clinical Dietetic Pathology)			担当教員	米田 誠	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-A-2444	1 単位	4 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
求める学習成果(教育目標)					
栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力					

(1) 授 業 の 内 容
臨床現場での栄養治療は、病態をよく理解して、食事や種々栄養剤に含まれる栄養素がどのように作用するかを正しく把握しながら実施していく必要がある。各種疾患の病態を十分理解したうえで、根拠に基づいた食事療法および栄養療法について教授する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
各疾患の病態を正確に把握した上で、その食事療法および栄養療法について説明できる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：臨床栄養病理学概説、生活習慣病概説(グループワーク、ディスカッション) 事前学習：授業前に生活習慣病とはなにか、どんな疾患があり、その発症機序、症候、診断、合併症、予防、治療について、学習しまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)
第2回：糖尿病 基礎 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)
第3回：糖尿病 分類と診断 合併症 事前学習：授業前にテキスト(人体の構造と機能及び疾病の成り立ち10)を読み、質問事項をまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)
第4回：糖尿病 治療(栄養療法を含む) 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)
第5回：内分泌疾患 生理学 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)
第6回：内分泌疾患 病態と治療 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)
第7回：栄養障害(グループワーク、ディスカッション) 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、栄養障害についてまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)
第8回：脂質異常症 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。(2時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)
第9回：定期試験

(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験(70%)、平常点(30%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度・小試験の成績等を総合して判断します)
(7) 成績評価基準
各種疾患の病態を正確に把握した上で、その食事療法および栄養療法について説明できる。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☒ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 解剖生理学・病理学 第一出版(1年次と同じテキストを使用)
(11) その他(受講上の注意)
管理栄養士国家試験受験予定の学生は受講を強く推奨する。講義中の私語は厳重に禁止し、減点対象とする。 疑問点や不明点があればすぐに質問すること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅱ (Seminar in Health and NutritionⅡ)			担当教員	尼子 克己	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-F-2467	2 単位	4 年前期	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観					

(1) 授 業 の 内 容
自分の研究テーマを設定し、各自研究計画を立て、これに基づいて研究を進め、成果をまとめてレポートを作成する。研究成果を発表し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等を明確にする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
自分の研究テーマを設定し、具体的な対象と方法を定める。研究デザインや途中経過を発表し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等も明確にする。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス、課題の確認(PBL、ディスカッション、実験) 事前学習：興味を持つ分野で設定される研究課題を列挙する(2時間)。 事後学習：授業時に選択した研究課題について先行研究を整理する(2時間)。 第2回：文献講読(PBL、発表、討議) 事前学習：取得した文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。(2時間) 第3回：研究活動の進捗状況報告と今後の課題整理①(PBL、ディスカッション、実験) 事前学習：実験または調査結果を整理し、報告用のレジュメを作成する(2時間)。 事後学習：当日の議論を踏まえて、次の研究活動の準備を行う(2時間)。 第4回：文献講読(PBL、発表、討議) 事前学習：取得した文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。(2時間) 第5回：研究活動の進捗状況報告と今後の課題整理①(PBL、ディスカッション、実験) 事前学習：実験または調査結果を整理し、報告用のレジュメを作成する(2時間)。 事後学習：当日の議論を踏まえて、次の研究活動の準備を行う(2時間)。 第6回：文献講読(PBL、発表、討議) 事前学習：取得した文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。(2時間) 第7回：研究活動の進捗状況報告と今後の課題整理①(PBL、ディスカッション、実験) 事前学習：実験または調査結果を整理し、報告用のレジュメを作成する(2時間)。 事後学習：当日の議論を踏まえて、次の研究活動の準備を行う(2時間)。 第8回：文献講読(PBL、発表、討議) 事前学習：取得した文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。(2時間) 第9回：研究活動の進捗状況報告と今後の課題整理①(PBL、ディスカッション、実験) 事前学習：実験または調査結果を整理し、報告用のレジュメを作成する(2時間)。 事後学習：当日の議論を踏まえて、次の研究活動の準備を行う(2時間) 第10回：文献講読(PBL、発表、討議) 事前学習：取得した文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。(2時間) 第11回：研究活動の進捗状況報告と今後の課題整理①(PBL、ディスカッション、実験) 事前学習：実験または調査結果を整理し、報告用のレジュメを作成する(2時間)。 事後学習：当日の議論を踏まえて、次の研究活動の準備を行う(2時間)。 第12回：文献講読(PBL、発表、討議) 事前学習：取得した文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。(2時間)。

第13回：研究活動の進捗状況報告と今後の課題整理①（PBL、ディスカッション、実験） 事前学習：実験または調査結果を整理し、報告用のレジュメを作成する（2時間）。 事後学習：当日の議論を踏まえて、次の研究活動の準備を行う（2時間）。 第14回：文献講読（PBL、発表、討議） 事前学習：取得した文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間） 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間） 第15回：研究活動の進捗状況報告と今後の課題整理①（PBL、ディスカッション、実験） 事前学習：履修期間全体の結果をまとめ、報告用のレジュメを作成する（2時間）。 事後学習：当日の議論を踏まえて、まとめを修正する（2時間）。 課題及び自主的な学習の取り組みなどを参考文献、学会誌などから見つけること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポートや発表（50％） 平常点（50％） （平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。 オリジナルの研究報告に対して、クリティカルシンキングを実行できるか。 調査や論理に基づき、問題解決の方法を具体化できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（Teamsのチャット） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（Teamsのチャット） 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意)
ゼミ初回に、ガイダンスを行う。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅱ (Seminar in Health and NutritionⅡ)			担当教員	池田 涼子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-F-2467	2 単位	4 年前期	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観					

(1) 授 業 の 内 容
【ゼミで扱う主なテーマ】 ○微量栄養素の栄養状態が耐糖能に及ぼす影響 ○福井県のお食物アレルギーの現状と課題 ○福井県における高齢者栄養の現状と課題 専門分野に関してこれまで集積した知見・技術を基礎として先行研究・実践の事例を参考にしながら自らの研究テーマを設定し、専門的研究を深める。 共同研究などにより学外で活動することがある。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・専門性と新規性を備えた独自の研究テーマを設定できる。 ・適切な研究デザインを組み立てられる。 ・研究テーマの背景となる知見を十分に収集・分析できる。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
年度当初に指導教員と協議の上、具体的な計画を週回(授業)ごとにたてる。 第1回: ガイダンス (ゼミの過去の研究テーマの確認) 事前学習: 指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習: 指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第2回: 資料検索 (調査方法・内容の検討) 事前学習: 指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習: 指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第3回: 研究方法に関する説明 (グループ編成、研究テーマの決定) 事前学習: 指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習: 指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第4回: 研究概要 (グループワーク、ディスカッション) 事前学習: 指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習: 指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第5回: フィールド調査① (実習) 事前学習: 指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習: 指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第6回: フィールド調査② (実習) 事前学習: 指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習: 指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第7回: データ解析① (グループワーク) 事前学習: 指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習: 指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第8回: サンプル分析① (実験) 事前学習: 指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習: 指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第9回: サンプル分析② (実験) 事前学習: 指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習: 指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間)

第10回：データ解析②（グループワーク） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第11回：研究発表と討議①（PBL・グループワーク） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第12回：研究発表と討議②（PBL・グループワーク・） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第13回：研究発表と討議③（PBL・グループワーク） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第14回：研究発表と討議④（ディスカッション） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第15回：研究発表と討議⑤（発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 課題及び自主的な学習の取り組みなどについて参考文献、学会誌などからヒントを見つけること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 レポート（35%）、発表（35%） 平常点（30%） ※平常点は、授業への参加状況・受講態度などから総合的に判断する。
(7) 成績評価基準 講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。 自分の研究テーマに係る対象と方法を具体的に定め、実施に向けた準備態勢に入ることができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☒その他（ゼミ配属時に登録するTeamsを用いる。） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☒その他（ゼミ配属時に登録するTeamsを用いる。） 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意) ゼミ初回に、ガイダンスを行う。 授業計画および授業外の学習方法は研究テーマにより変更されることがある。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅱ (Seminar in Health and NutritionⅡ)			担当教員	浦本 裕美	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-F-2467	2 単位	4 年前期	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観					

(1) 授 業 の 内 容
専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究を参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。 研究テーマをグループで設定し、研究計画を立て、これに基づいて研究を進める。研究途中、研究の進め方やデータ集計方法等について、随時必要に応じて見直し、目標を達成するために必要なアイデアの提案ができるように心掛け研究に取り組む。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・決まった答えがまだない「テーマの問い」に対する「未知の解」を求めて、解決方法を探りつつ研究を展開し推し進めることができる。 ・課題に対して解決しようとする能動的な意識・態度をもち取り組み、全体を概観してチーム活動に貢献することができる。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク ■実験、実技 □その他
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：卒業研究の内容・方法等についての説明と検討 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第2回：研究テーマ(仮)を決定し、テーマに基づく文献検索を実施 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(1時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(5時間) 第3回：文献紹介(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：発表者(半分の学生)：発表準備(6時間) ※第3回と第4回で事前事後学習8時間 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(1時間) 第4回：文献紹介(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：発表者(半分の学生)：発表準備(6時間) ※第3回と第4回で事前事後学習8時間 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(1時間) 第5回：研究計画の検討(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：第3回、第4回の文献紹介の内容等を考慮し、研究の方法について考えをまとめる(3時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(1時間) 第6回：研究計画の決定(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第7回：研究計画に基づく準備(PBL・ディスカッション・グループワーク) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第8回：研究計画に基づく準備(PBL・ディスカッション・グループワーク) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第9回：研究遂行(PBL・ディスカッション・グループワーク) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第10回：研究遂行(PBL・ディスカッション・グループワーク) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間)

第11回：研究遂行・見直しの必要の有無の検討 (PBL・ディスカッション・グループワーク) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する (2 時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる (2 時間) 第12回：研究遂行 (PBL・ディスカッション・グループワーク) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する (2 時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる (2 時間) 第13回：研究遂行 (PBL・ディスカッション・グループワーク) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する (2 時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる (2 時間) 第14回：研究遂行 (PBL・ディスカッション・グループワーク) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する (2 時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる (2 時間) 第15回：研究遂行・データの集計と解析について検討 (PBL・ディスカッション・グループワーク) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する (2 時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる (2 時間) 課題及び自主的な学習の取り組みなどを参考文献、学会誌などから見つけること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
課題 (30%) 平常点 (70%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。)
(7) 成績評価基準
・文献紹介の内容 (テーマを理解し文献を選択しているか。文献内容の解釈度やアプローチの仕方等について。) ・研究計画作成、および研究実践において貢献できているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験 (レポート試験を含む) に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意)
ゼミ初回に説明。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅱ (Seminar in Health and NutritionⅡ)			担当教員	佐藤 真実	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-F-2467	2 単位	4 年前期	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観					

(1) 授 業 の 内 容
自分の研究テーマを設定し、各自研究計画を立て、これに基づいて研究を進め、成果をまとめてレポートを作成する。研究成果を発表し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等を明確にする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
自分の研究テーマを設定し、具体的な対象と方法を定める。研究デザインや途中経過を発表し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等も明確にする。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
年度当初に指導教員と協議の上、具体的な計画を週回(授業)ごとにたてる。 第1回：ガイダンス 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第2回：研究方法に関する説明 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第3回：文献検索の仕方、論文の読み方 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第4回：研究発表と討議1(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第5回：研究発表と討議2(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第6回：研究発表と討議3(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第7回：研究発表と討議4(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第8回：研究発表と討議5(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第9回：研究発表と討議6(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第10回：研究発表と討議7(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第11回：研究発表と討議8(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間)

第12回：研究発表と討議9（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第13回：研究発表と討議10（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第14回：研究発表と討議10（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第15回まとめ 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 課題及び自主的な学習の取り組みなどを参考文献、学会誌などから見つけること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポートや発表（50％） 平常点（50％） （平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。 自分の研究テーマに係る対象と方法を具体的に定め、実施に向けた準備態勢に入ることができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意)
ゼミ初回に、ガイダンスを行う。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅱ (Seminar in Health and NutritionⅡ)			担当教員	新井田 裕樹	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-F-2467	2 単位	4 年前期	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観					

(1) 授 業 の 内 容
自分の研究テーマを設定し、各自研究計画を立て、これに基づいて研究を進め、成果をまとめてレポートを作成する。研究成果を発表し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等を明確にする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
自分の研究テーマを設定し、具体的な対象と方法を定める。研究デザインや途中経過を発表し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等も明確にする。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
年度当初に指導教員と協議の上、具体的な計画を週回(授業)ごとにたてる。 第1回：ガイダンス 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第2回：研究方法に関する説明 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第3回：文献検索の仕方、論文の読み方 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第4回：研究発表と討議1(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第5回：研究発表と討議2(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第6回：研究発表と討議3(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第7回：研究発表と討議4(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第8回：研究発表と討議5(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第9回：研究発表と討議6(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第10回：研究発表と討議7(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第11回：研究発表と討議8(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間)

第12回：研究発表と討議9（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第13回：卒業研究発表会 聴講 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第14回：研究発表と討議11（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第15回まとめ 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 課題及び自主的な学習の取り組みなどを参考文献、学会誌などから見つけること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポートや発表（50％） 平常点（50％） （平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。 自分の研究テーマに係る対象と方法を具体的に定め、実施に向けた準備態勢に入ることができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意)
ゼミ初回に、ガイダンスを行う。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅱ (Seminar in Health and Nutrition Ⅱ)			担当教員	鳴瀬 碧
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
HN-F-2467	2単位	4年前期	演習	必修
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究				
求める学習成果(教育目標)				
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観				

(1) 授 業 の 内 容
自分の研究テーマを設定し、各自研究計画を立て、これに基づいて研究を進め、成果をまとめてレポートを作成する。研究成果を発表し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等を明確にする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
自分の研究テーマを設定し、具体的な対象と方法を定める。研究デザインや途中経過を発表し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等も明確にする。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
年度当初に指導教員と協議の上、具体的な計画を週回(授業)ごとにたてる。 第1回：ガイダンス 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第2回：研究方法に関する説明 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第3回：文献検索の仕方、論文の読み方 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第4回：研究発表と討議1(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第5回：研究発表と討議2(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第6回：研究発表と討議3(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第7回：研究発表と討議4(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第8回：研究発表と討議5(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第9回：研究発表と討議6(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第10回：研究発表と討議7(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第11回：研究発表と討議8(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間)

第12回：研究発表と討議9（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第13回：研究発表と討議10（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第14回：研究発表と討議11（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第15回まとめ 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 課題及び自主的な学習の取り組みなどを参考文献、学会誌などから見つけること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポートや発表（50％） 平常点（50％） （レポートや発表の形式は担当教員により異なります。平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。 自分の研究テーマに係る対象と方法を具体的に定め、実施に向けた準備態勢に入ることができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意)
ゼミ初回に、ガイダンスを行う。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅱ (Seminar in Health and NutritionⅡ)			担当教員	山本 浩範	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-F-2467	2 単位	4 年前期	演習		必修
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観					

(1) 授 業 の 内 容
自分の研究テーマを設定し、各自研究計画を立て、これに基づいて研究を進め、成果をまとめてレポートを作成する。研究成果を発表し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等を明確にする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
自分の研究テーマを設定し、具体的な対象と方法を定める。研究デザインや途中経過を発表し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等も明確にする。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
年度当初に指導教員と協議の上、具体的な計画を週回(授業)ごとにたてる。 第1回：ガイダンス 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(1時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(3時間) 第2回：研究方法に関する説明 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(1時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(3時間) 第3回：文献検索の仕方、論文の読み方、研究実践のための準備 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(1時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(3時間) 第4回：研究実践と討議1(実験、PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(1時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(3時間) 第5回：研究実践と討議2(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(1時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(3時間) 第6回：研究実践と討議3(実験、PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(1時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(3時間) 第7回：研究実践と討議4(実験、PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(1時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(3時間) 第8回：研究実践と討議5(実験、PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(1時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(3時間) 第9回：研究実践と討議6(実験、PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(1時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(3時間) 第10回：研究実践と討議7(実験、PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(1時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(3時間) 第11回：研究発表と討議8(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(1時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(3時間)

第12回：研究発表と討議9（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（1時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（3時間） 第13回：研究発表と討議10（実験、PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（1時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（3時間） 第14回：研究発表と討議11（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（1時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（3時間） 第15回：まとめ 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（1時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（3時間） 課題及び自主的な学習の取り組みなどを参考文献、学会誌などから見つけること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポートや発表（50％） 平常点（50％） （レポートや発表の形式は担当教員により異なります。平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。 自分の研究テーマに係る対象と方法を具体的に定め、実施に向けた準備態勢に入ることができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意)
ゼミ初回に、ガイダンスを行う。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅱ (Seminar in Health and NutritionⅡ)			担当教員	三浦 努	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-F-2467	2 単位	4 年前期	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観					

(1) 授 業 の 内 容
自分の研究テーマを設定し、各自研究計画を立て、これに基づいて研究を進め、成果をまとめてレポートを作成する。研究成果を発表し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等を明確にする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
自分の研究テーマを設定し、具体的な対象と方法を定める。研究デザインや途中経過を発表し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等も明確にする。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
年度当初に指導教員と協議の上、具体的な計画を週回(授業)ごとにたてる。 第1回: ガイダンス 事前学習: 指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習: 指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第2回: 研究方法に関する説明 事前学習: 指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習: 指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第3回: 文献検索の仕方、論文の読み方 事前学習: 指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習: 指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第4回: 研究発表と討議1(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習: 指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習: 指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第5回: 研究発表と討議2(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習: 指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習: 指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第6回: 研究発表と討議3(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習: 指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習: 指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第7回: 研究発表と討議4(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習: 指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習: 指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第8回: 研究発表と討議5(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習: 指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習: 指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第9回: 研究発表と討議6(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習: 指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習: 指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第10回: 研究発表と討議7(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習: 指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習: 指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第11回: 研究発表と討議8(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習: 指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習: 指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間)

第12回：研究発表と討議9（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第13回：研究発表と討議10（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第14回：研究発表と討議11（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第15回まとめ 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 課題及び自主的な学習の取り組みなどを参考文献、学会誌などから見つけること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポートや発表（50％） 平常点（50％） （レポートや発表の形式は担当教員により異なります。平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。 自分の研究テーマに係る対象と方法を具体的に定め、実施に向けた準備態勢に入ることができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意)
ゼミ初回に、ガイダンスを行う。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅱ (Seminar in Health and NutritionⅡ)			担当教員	野村 卓正	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-F-2467	2 単位	4 年前期	演習	必修	
＜科目区分＞ 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果（教育目標）					
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観					

(1) 授 業 の 内 容
自分の研究テーマを設定し、各自研究計画を立て、これに基づいて研究を進め、成果をまとめてレポートを作成する。研究成果を発表し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等を明確にする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
自分の研究テーマを設定し、具体的な対象と方法を定める。研究デザインや途中経過を発表し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等も明確にする。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
年度当初に指導教員と協議の上、具体的な計画を週回(授業)ごとにたてる。 第1回：ガイダンス 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第2回：研究方法に関する説明 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第3回：文献検索の仕方、論文の読み方 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第4回：研究発表と討議1(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第5回：研究発表と討議2(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第6回：研究発表と討議3(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第7回：研究発表と討議4(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第8回：研究発表と討議5(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第9回：研究発表と討議6(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第10回：研究発表と討議7(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第11回：研究発表と討議8(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間)

第12回：研究発表と討議9（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第13回：研究発表と討議10（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第14回：研究発表と討議11（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第15回まとめ 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 課題及び自主的な学習の取り組みなどを参考文献、学会誌などから見つけること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
①平常点：60％ ②レポートや発表：40％ 平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。 レポートや発表の形式は担当教員により異なります。
(7) 成績評価基準
講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。 自分の研究テーマに係る対象と方法を具体的に定め、実施に向けた準備態勢に入ることができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（Teamsのチーム機能およびチャット機能で解答・解説を実施） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（Teamsのチーム機能およびチャット機能で解答・解説を実施） 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他（Teamsのチーム機能およびチャット機能で解答・解説を実施） 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他（Teamsのチーム機能およびチャット機能で解答・解説を実施） 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意)
ゼミ初回に、ガイダンスを行う。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅱ (Seminar in Health and NutritionⅡ)			担当教員	高木 康之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-F-2467	2 単位	4 年前期	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観					

(1) 授 業 の 内 容
自分の研究テーマを設定し、各自研究計画を立て、これに基づいて研究を進め、成果をまとめてレポートを作成する。研究成果を発表し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等を明確にする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
自分の研究テーマを設定し、具体的な対象と方法を定める。研究デザインや途中経過を発表し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等も明確にする。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
年度当初に指導教員と協議の上、具体的な計画を週回(授業)ごとにたてる。 第1回：ガイダンス 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第2回：研究方法に関する説明 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第3回：文献検索の仕方、論文の読み方、研究実践のための準備 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第4回：研究実践と討議1(実験、PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第5回：研究実践と討議2(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第6回：研究実践と討議3(実験、PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第7回：研究実践と討議4(実験、PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第8回：研究実践と討議5(実験、PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第9回：研究実践と討議6(実験、PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第10回：研究実践と討議7(実験、PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間) 第11回：研究発表と討議8(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表) 事前学習：指導教員の指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる(2時間)

第12回：研究発表と討議9（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第13回：研究発表と討議10（実験、PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第14回：研究発表と討議11（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表） 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 第15回まとめ 事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間） 課題及び自主的な学習の取り組みなどを参考文献、学会誌などから見つけること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポートや発表（40％） 平常点（60％） （平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。 オリジナルの研究報告に対して、クリティカルシンキングを実行できるか。 調査や論理に基づき、問題解決の方法を具体化できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（Teamsのチャット） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（Teamsのチャット） 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意)
ゼミ初回に、ガイダンスを行う。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅱ (Seminar in Health and NutritionⅡ)			担当教員	長岡 純子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-F-2467	2 単位	4 年前期	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観					

(1) 授 業 の 内 容
自分の研究テーマを設定し、各自研究計画を立て、これに基づいて研究を進め、成果をまとめてレポートを作成する。研究成果を発表し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等を明確にする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
自分の研究テーマを設定し、具体的な対象と方法を定める。研究デザインや途中経過を発表し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等も明確にする。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
年度当初に指導教員と協議の上、具体的な計画を週回(授業)ごとにたてる。 第1回：ガイダンス 事前学習：指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指示に従い課題をまとめる(2時間) 第2回：研究方法に関する説明 事前学習：指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指示に従い課題をまとめる(2時間) 第3回：文献検索の仕方、論文の読み方 事前学習：指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指示に従い課題をまとめる(2時間) 第4回：研究遂行と発表および討議1(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実験・実技) 事前学習：指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指示に従い課題をまとめる(2時間) 第5回：研究遂行と発表および討議2(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実験・実技) 事前学習：指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指示に従い課題をまとめる(2時間) 第6回：研究遂行と発表および討議3(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実験・実技) 事前学習：指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指示に従い課題をまとめる(2時間) 第7回：研究遂行と発表および討議4(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実験・実技) 事前学習：指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指示に従い課題をまとめる(2時間) 第8回：研究遂行と発表および討議5(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実験・実技) 事前学習：指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指示に従い課題をまとめる(2時間) 第9回：研究遂行と発表および討議6(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実験・実技) 事前学習：指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指示に従い課題をまとめる(2時間) 第10回：研究遂行と発表および討議7(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実験・実技) 事前学習：指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指示に従い課題をまとめる(2時間) 第11回：研究遂行と発表および討議8(PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実験・実技) 事前学習：指示に従い準備する(2時間) 事後学習：指示に従い課題をまとめる(2時間)

第12回：研究遂行と発表および討議9（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実験・実技） 事前学習：指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間） 第13回：研究遂行と発表および討議10（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実験・実技） 事前学習：指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間） 第14回：研究遂行と発表および討議11（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実験・実技） 事前学習：指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：指示に従い準備する（2時間） 事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間） 課題及び自主的な学習の取り組みなどを参考文献、学会誌などから見つけること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポートや発表（50％） 平常点（50％） （レポートや発表の形式は担当教員により異なります。平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。 自分の研究テーマに係る対象と方法を具体的に定め、実施に向けた準備態勢に入ることができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意)
ゼミ初回に、ガイダンスを行う。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅲ (Seminar in Health and Nutrition Ⅲ)			担当教員	佐藤 真実、野村 卓正、佐藤 裕保、 三浦 努、鳴瀬 碧、池田 涼子、 浦本 裕美、山本 浩範、長岡 純子、 高木 康之、新井田裕樹、牧野みゆき、 尼子 克己	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-D-2468	2 単位	4 年	演習		選択
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
管理栄養士としての知識・技能の取得と基礎研究および食品開発などができる能力					

(1) 授 業 の 内 容
各科目の総復習をする。 オムニバス形式で行い、理解不十分な点について補完する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
管理栄養士に必要な、基本的知識を確認する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：公衆衛生学(鳴瀬みどり) 事前学習：担当教員指定の教材(テキスト・配布資料・参考書)等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間) 第2回：病理学・解剖生理学(高木康之) 事前学習：担当教員指定の教材(テキスト・配布資料・参考書)等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間) 第3回：食品学(浦本裕美) 事前学習：担当教員指定の教材(テキスト・配布資料・参考書)等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間) 第4回：基礎栄養学(池田涼子) 事前学習：担当教員指定の教材(テキスト・配布資料・参考書)等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間) 第5回：栄養の実践に関する最新のトピックス(森恵見) 事前学習：担当教員指定の教材(テキスト・配布資料・参考書)等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間) 第6回：応用栄養学(新井田裕樹) 事前学習：担当教員指定の教材(テキスト・配布資料・参考書)等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間) 第7回：調理学(佐藤真実) 事前学習：事前学習：担当教員指定の教材(テキスト・配布資料・参考書)等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間) 第8回：臨床栄養学ー栄養アセスメントー(山本浩範) 事前学習：担当教員指定の教材(テキスト・配布資料・参考書)等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間)

第9回：食品衛生学・微生物学（野村卓正） 事前学習：担当教員指定の教材（テキスト・配布資料・参考書）等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（2時間） 第10回：生化学（尼子克己） 事前学習：担当教員指定の教材（テキスト・配布資料・参考書）等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（2時間） 第11回：管理栄養士の心得（三浦努） 事前学習：担当教員指定の教材（テキスト・配布資料・参考書）等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（2時間） 第12回：公衆栄養学（三浦努） 事前学習：担当教員指定の教材（テキスト・配布資料・参考書）等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（2時間） 第13回：臨床栄養学－栄養療法－（佐藤裕保） 事前学習：担当教員から配布された資料を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容に関する課題について、授業中に配布された指定の書式を完成し提出すること（2時間） 第14回：栄養教育論（牧野みゆき） 事前学習：担当教員から配布された資料を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容に関する課題について、授業中に配布された指定の書式を完成し提出すること（2時間） 第15回：給食経営管理論（長岡純子） 事前学習：担当教員指定の教材（テキスト・配布資料・参考書）等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 提出物（60％） 平常点（40％） （平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します）
(7) 成績評価基準 管理栄養士に必要な、基本的知識を確認できたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 当該科目で使用した教科書および、参考図書。 必要に応じてプリント配布。
(11) その他(受講上の注意)

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	尼子 克己	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-F-2469	4 単位	4 年	演習		必修
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果（教育目標）					
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観					

(1) 授 業 の 内 容
基本的な授業の内容は以下のとおりである。 ・栄養にかかわる生命科学・情報科学上の新規な課題を設定する。 ・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件を整備する。 ・研究遂行に必要な知識と技能を習得する。 ・実験あるいは調査により、課題に対する新たな知見を提示する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
医学・栄養学・食品学に関する知識・技能を基礎にして、栄養管理に関する専門的な最新知見を収集・分析する。それを更に発展させるために実験的及び疫学的な研究を行ない、得られた成果を論文としてまとめる。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ■実習、フィールドワーク ■実験、実技 □その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
・年度当初に指導教員と協議の上、具体的な研究計画を立てる(PBL・討議・グループワーク) ・栄養学に関わる研究テーマの明確化(課題解決型学習・討議・グループワーク) ・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件の整備(PBL・討議・グループワーク) ・研究遂行に必要な知識と技能の教授 ・実験的または疫学的研究の遂行による論文の完成(フィールドワーク・実験) 計画に沿って、随時進捗状況を報告し、指導を受けること。 4月下旬：卒業研究題目提出 11月下旬：卒業研究要旨提出 12月上旬：卒業論文提出 12月下旬：卒業研究発表会(発表)
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
①卒業研究要旨の提出 ②口頭発表を行う(口頭試問を兼ねる) ③卒業研究成果物(論文)の提出 を単位認定の基本要件とする。 そのうえで、研究活動への参加状況、課題および自主的学習への取り組みなどを総合して評価する。
(7) 成 績 評 価 基 準
研究テーマを踏まえ、的確な内容の要旨をまとめることができたか。 わかりやすく発表し、適切な受け答えができたか。 質の高い研究成果物を提出できたか。 積極的な、研究活動への参加、課題および自主的学習への取り組みなどができたか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 参考書・研究文献など必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意) 実験・実習に関しては、特に時間割外に実験・実習室および機器備品を使用することとなることから、厳重に実験・実習室利用マニュアルに従うこと。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	池田 涼子
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
HN-F-2469	4 単位	4 年	演習	必修
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究				
求める学習成果(教育目標)				
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観				

(1) 授 業 の 内 容
【主な研究テーマ】 ○微量栄養素の栄養状態が耐糖能に及ぼす影響 ○福井県食物アレルギーの現状と課題 ○福井県における高齢者栄養の現状と課題 基礎研究で培った知識や技術を「栄養学の実践」に活かすことをテーマとした諸活動を展開する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
栄養学、健康科学等に関する知識・技能を基礎として、高度な栄養管理の実践に関する専門的な最新知見を収集・分析する。 また、これを更に発展させるために基礎研究もしくは調査研究を実施し、得られた成果を卒業論文としてまとめる。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習（PBL） ■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ■実習、フィールドワーク ■実験、実技 □その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
各担当者の基本的な授業計画は以下のとおりである。 ・年度当初に指導教員と協議の上、具体的な研究計画を立てる（PBL・討議・グループワーク） ・栄養管理に関わる研究テーマの明確化（課題解決型学習・討議・グループワーク） ・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件の整備（PBL・討議・グループワーク） ・実験的または疫学的研究の遂行による論文の完成（フィールドワーク・実験） 計画に沿って、随時進捗状況を報告し、指導を受けること。 5月下旬：卒業研究題目提出 11月中旬：卒業研究要旨提出 12月上旬：卒業論文提出 12月下旬：卒業研究発表会
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
①卒業研究要旨の提出 ②口頭発表の実施（口頭試問を兼ねる） ③卒業研究成果物（論文）の提出 以上を単位認定の基本要件とする。 そのうえで、研究活動への参加状況、課題および自主的学習への取り組みなどを総合して評価する。
(7) 成 績 評 価 基 準
・研究テーマを踏まえ、的確な内容の要旨をまとめることができたか。 ・研究成果について明確かつ詳細な発表を行い、質疑応答において適切な受け答えができたか。 ・質の高い研究成果物（卒業論文）を提出できたか。 ・積極的な研究活動への参加、課題および自主的学習への取り組みなどができたか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☒ メール ☒ その他(ゼミ配属時に登録するTeamsを用いる。) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☒ メール ☒ その他(ゼミ配属時に登録するTeamsを用いる。) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 参考書・研究文献など必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意) 実験・実習に関しては、特に時間割外に実験・実習室および機器備品を使用することとなる。 厳重に実験・実習室利用マニュアルに従うこと。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	浦本 裕美	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-F-2469	4 単位	4 年	演習		必修
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果（教育目標）					
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観					

(1) 授 業 の 内 容
基本的な授業の内容は以下のとおりである。 ・研究テーマを深める ・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件を整備する ・研究の遂行により論文にまとめる ※本科目は、健康・栄養特別演習と連続する内容となっている。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・課題に対して解決しようとする能動的な意識・態度をもち取り組み、全体を概観してチーム活動に貢献することができる。 ・得られた結果を文献等の様々な情報をもとに客観的に論理的に考察し、成果を論文としてまとめることができる。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ■実習、フィールドワーク ■実験、実技 □その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
本科目は、4年前期開講の「健康・栄養特別演習Ⅱ」と連結し、連続的に進めていく。 4月下旬：卒業研究題目提出 11月下旬：卒業研究要旨提出 12月中旬：卒業論文提出 12月下旬：卒業研究発表会(発表)
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
①卒業研究要旨の提出 ②口頭発表を行う(口頭試問を兼ねる) ③卒業研究成果物(論文)の提出 を単位認定の基本要件とする。 そのうえで、研究活動への参加状況、課題および自主的学習への取り組みなどを総合して評価する。
(7) 成 績 評 価 基 準
・研究計画作成、および研究実践において貢献できたか。 ・研究テーマを踏まえ、的確な内容の要旨をまとめることができたか。 ・わかりやすく発表し、適切な受け答えができたか。 ・研究成果物を提出できたか。 ・積極的に研究活動に取り組むことができたか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 参考書・研究文献など必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意) 必要に応じて随時説明する。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	佐藤 真実	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-F-2469	4 単位	4 年	演習		必修
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果（教育目標）					
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観					

(1) 授 業 の 内 容
・食品の調理特性、調理品の新規開発、介護食、地域の食文化などの「食べる」に関わる調理科学分野での研究テーマを深める ・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件を整備する ・実験的または疫学的研究の遂行により論文にまとめる
(2) 授 業 の 到 達 目 標
医学・栄養学・食品学に関する知識・技能を基礎にして、「食べる」という調理科学に関する専門的な最新知見を収集・分析する。問題提起、検索、討論、発表などに加え、実験や実習を通して研究を行い、得られた成果を論文としてまとめる。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習（PBL） ■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ■実習、フィールドワーク ■実験、実技 □その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
基本的な授業計画は以下のとおりである。 ・年度当初に指導教員と協議の上、具体的な研究計画を立てる（PBL・討議・グループワーク） ・調理科学に関わる研究テーマの明確化（課題解決型学習・討議・グループワーク） ・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件の整備（PBL・討議・グループワーク） ・実験的または疫学的研究の遂行による論文の完成（フィールドワーク・実験） 計画に沿って、随時進捗状況を報告し、指導を受けること。 4月下旬：卒業研究題目提出 11月下旬：卒業研究要旨提出 12月中旬：卒業論文提出 12月下旬：卒業研究発表会（発表）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
①卒業研究要旨の提出 ②口頭発表を行う（口頭試問を兼ねる） ③卒業研究成果物（論文）の提出 を単位認定の基本要件とする。 そのうえで、研究活動への参加状況、課題および自主的学習への取り組みなどを総合して評価する。
(7) 成 績 評 価 基 準
研究テーマを踏まえ、的確な内容の要旨をまとめることができたか。 わかりやすく発表し、適切な受け答えができたか。 質の高い研究成果物を提出できたか。 積極的な、研究活動への参加、課題および自主的学習への取り組みなどができたか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 参考書・研究文献など必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意) 実験・実習に関しては、特に時間割外に実験・実習室および機器備品を使用することとなることから、厳重に実験・実習室利用マニュアルに従うこと。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	新井田 裕樹	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-F-2469	4 単位	4 年	演習		必修
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観					

(1) 授 業 の 内 容
基本的な授業の内容は以下のとおりである。 ・栄養管理に関わる研究テーマを深める ・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件を整備する ・実験的または疫学的研究の遂行により論文にまとめる
(2) 授 業 の 到 達 目 標
医学・栄養学・食品学に関する知識・技能を基礎にして、栄養管理に関する専門的な最新知見を収集・分析する。それを更に発展させるために実験的及び疫学的な研究を行ない、得られた成果を論文としてまとめる。
(3) アクティブラーニング
☒課題解決型学習(PBL) ☒討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒実習、フィールドワーク ☒実験、実技 ☐その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
各担当者の基本的な授業計画は以下のとおりである。 ・年度当初に指導教員と協議の上、具体的な研究計画を立てる(PBL・討議・グループワーク) ・栄養管理に関わる研究テーマの明確化(課題解決型学習・討議・グループワーク) ・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件の整備(PBL・討議・グループワーク) ・実験的または疫学的研究の遂行による論文の完成(フィールドワーク・実験) 計画に沿って、随時進捗状況を報告し、指導を受けること。 4月下旬：卒業研究題目提出 11月下旬：卒業研究要旨提出 12月上旬：卒業論文提出 12月下旬：卒業研究発表会(発表)
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
①卒業研究要旨の提出 ②口頭発表を行う(口頭試問を兼ねる) ③卒業研究成果物(論文)の提出 を単位認定の基本要件とする。 そのうえで、研究活動への参加状況、課題および自主的学習への取り組みなどを総合して評価する。
(7) 成 績 評 価 基 準
・研究テーマを踏まえ、的確な内容の要旨をまとめることができたか。 ・研究成果について明確かつ詳細な発表を行い、質疑応答において適切な受け答えができたか。 ・質の高い研究成果物(卒業論文)を提出できたか。 ・積極的な研究活動への参加、課題および自主的学習への取り組みなどができたか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 参考書・研究文献など必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意) 実験・実習に関しては、特に時間割外に実験・実習室および機器備品を使用することとなることから、厳重に実験・実習室利用マニュアルに従うこと。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	鳴瀬 碧
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
HN-F-2469	4 単位	4 年	演習	必修
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究				
求める学習成果(教育目標)				
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観				

(1) 授 業 の 内 容
基本的な授業の内容は以下のとおりである。 ・栄養管理に関わる研究テーマを深める ・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件を整備する ・実験的または疫学的研究の遂行により論文にまとめる
(2) 授 業 の 到 達 目 標
医学・栄養学・食品学に関する知識・技能を基礎にして、栄養管理に関する専門的な最新知見を収集・分析する。それを更に発展させるために実験的及び疫学的な研究を行ない、得られた成果を論文としてまとめる。
(3) アクティブラーニング
☒課題解決型学習(PBL) ☒討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒実習、フィールドワーク ☒実験、実技 ☐その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
各担当者の基本的な授業計画は以下のとおりである。 ・年度当初に指導教員と協議の上、具体的な研究計画を立てる(PBL・討議・グループワーク) ・栄養管理に関わる研究テーマの明確化(課題解決型学習・討議・グループワーク) ・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件の整備(PBL・討議・グループワーク) ・実験的または疫学的研究の遂行による論文の完成(フィールドワーク・実験) 計画に沿って、随時進捗状況を報告し、指導を受けること。 4月下旬：卒業研究題目提出 11月下旬：卒業研究要旨提出 12月上旬：卒業論文提出 12月下旬：卒業研究発表会
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
①卒業研究要旨の提出 ②口頭発表を行う(口頭試問を兼ねる) ③卒業研究成果物(論文)の提出 を単位認定の基本要件とする。 そのうえで、研究活動への参加状況、課題および自主的学習への取り組みなどを総合して評価する。
(7) 成 績 評 価 基 準
研究テーマを踏まえ、的確な内容の要旨をまとめることができたか。 わかりやすく発表し、適切な受け答えができたか。 質の高い研究成果物を提出できたか。 積極的な、研究活動への参加、課題および自主的学習への取り組みなどができたか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 参考書・研究文献など必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意) 実験・実習に関しては、特に時間割外に実験・実習室および機器備品を使用することとなることから、厳重に実験・実習室利用マニュアルに従うこと。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	山本 浩範	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-F-2469	4 単位	4 年	演習		必修
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果（教育目標）					
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観					

(1) 授 業 の 内 容
基本的な授業の内容は以下のとおりである。 ・栄養管理に関わる研究テーマを深める ・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件を整備する ・実験的または疫学的研究の遂行により論文にまとめる
(2) 授 業 の 到 達 目 標
医学・栄養学・食品学に関する知識・技能を基礎にして、栄養管理に関する専門的な最新知見を収集・分析する。それを更に発展させるために実験的及び疫学的な研究を行ない、得られた成果を論文としてまとめる。
(3) アクティブラーニング
☒課題解決型学習(PBL) ☒討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒実習、フィールドワーク ☒実験、実技 ☐その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
各担当者の基本的な授業計画は以下のとおりである。 ・年度当初に指導教員と協議の上、具体的な研究計画を立てる(PBL・討議・グループワーク) ・栄養管理に関わる研究テーマの明確化(課題解決型学習・討議・グループワーク) ・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件の整備(PBL・討議・グループワーク) ・実験的または疫学的研究の遂行による論文の完成(フィールドワーク・実験) 計画に沿って、随時進捗状況を報告し、指導を受けること。 4月下旬：卒業研究題目提出 11月下旬：卒業研究要旨提出 12月上旬 卒業論文提出 12月下旬 卒業研究発表会 12月下旬：卒業論文提出
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
①卒業研究要旨の提出 ②口頭発表を行う(口頭試問を兼ねる) ③卒業研究成果物(論文)の提出 を単位認定の基本要件とする。 そのうえで、研究活動への参加状況、課題および自主的学習への取り組みなどを総合して評価する。
(7) 成 績 評 価 基 準
研究テーマを踏まえ、的確な内容の要旨をまとめることができたか。 わかりやすく発表し、適切な受け答えができたか。 質の高い研究成果物を提出できたか。 積極的な、研究活動への参加、課題および自主的学習への取り組みなどができたか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 参考書・研究文献など必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意) 実験・実習に関しては、特に時間割外に実験・実習室および機器備品を使用することから、実験・実習室の利用マニュアルに従うこと。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	三浦 努	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-F-2469	4 単位	4 年	演習		必修
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観					

(1) 授 業 の 内 容
基本的な授業の内容は以下のとおりである。 ・栄養管理に関わる研究テーマを深める ・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件を整備する ・実験的または疫学的研究の遂行により論文にまとめる
(2) 授 業 の 到 達 目 標
医学・栄養学・食品学に関する知識・技能を基礎にして、栄養管理に関する専門的な最新知見を収集・分析する。それを更に発展させるために実験的及び疫学的な研究を行ない、得られた成果を論文としてまとめる。
(3) アクティブラーニング
☒課題解決型学習（PBL） ☒討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☒実習、フィールドワーク ☒実験、実技 ☐その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
各担当者の基本的な授業計画は以下のとおりである。 ・年度当初に指導教員と協議の上、具体的な研究計画を立てる（PBL・討議・グループワーク） ・栄養管理に関わる研究テーマの明確化（課題解決型学習・討議・グループワーク） ・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件の整備（PBL・討議・グループワーク） ・実験的または疫学的研究の遂行による論文の完成（フィールドワーク・実験） 計画に沿って、随時進捗状況を報告し、指導を受けること。 4月下旬：卒業研究題目提出 11月下旬：卒業研究要旨提出 12月上旬：卒業論文提出 12月下旬：卒業研究発表会（発表）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
①卒業研究要旨の提出 ②口頭発表を行う（口頭試問を兼ねる） ③卒業研究成果物（論文）の提出 を単位認定の基本要件とする。 そのうえで、研究活動への参加状況、課題および自主的学習への取り組みなどを総合して評価する。
(7) 成 績 評 価 基 準
研究テーマを踏まえ、的確な内容の要旨をまとめることができたか。 わかりやすく発表し、適切な受け答えができたか。 質の高い研究成果物を提出できたか。 積極的な、研究活動への参加、課題および自主的学習への取り組みなどができたか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☒その他 (Teams) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☒その他 (Teams) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 参考書・研究文献など必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意) 実験・実習に関しては、特に時間割外に実験・実習室および機器備品を使用することとなることから、厳重に実験・実習室利用マニュアルに従うこと。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	野村 卓正	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-F-2469	4 単位	4 年	演習		必修
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果（教育目標）					
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観					

(1) 授 業 の 内 容
基本的な授業の内容は以下のとおりである。 ・栄養管理に関わる研究テーマを深める ・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件を整備する ・実験的または疫学的研究の遂行により論文にまとめる
(2) 授 業 の 到 達 目 標
医学・栄養学・食品学に関する知識・技能を基礎にして、栄養管理に関する専門的な最新知見を収集・分析する。それを更に発展させるために実験的及び疫学的な研究を行ない、得られた成果を論文としてまとめる。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習（PBL） ■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ■実習、フィールドワーク ■実験、実技 □その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
各担当者の基本的な授業計画は以下のとおりである。 ・年度当初に指導教員と協議の上、具体的な研究計画を立てる（PBL・討議・グループワーク） ・栄養管理に関わる研究テーマの明確化（課題解決型学習・討議・グループワーク） ・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件の整備（PBL・討議・グループワーク） ・実験的または疫学的研究の遂行による論文の完成（フィールドワーク・実験） 計画に沿って、随時進捗状況を報告し、指導を受けること。 4月下旬：卒業研究題目提出 11月下旬：卒業研究要旨提出 12月上旬：卒業論文提出 12月下旬：卒業研究発表会（発表）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
①卒業研究要旨の提出 ②口頭発表を行う（口頭試問を兼ねる） ③卒業研究成果物（論文）の提出 を単位認定の基本要件とする。 そのうえで、研究活動への参加状況、課題および自主的学習への取り組みなどを総合して評価する。
(7) 成 績 評 価 基 準
研究テーマを踏まえ、的確な内容の要旨をまとめることができたか。 わかりやすく発表し、適切な受け答えができたか。 質の高い研究成果物を提出できたか。 積極的な、研究活動への参加、課題および自主的学習への取り組みなどができたか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 参考書・研究文献など必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意) 実験・実習に関しては、特に時間割外に実験・実習室および機器備品を使用することとなることから、厳重に実験・実習室利用マニュアルに従うこと。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	高木 康之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-F-2469	4 単位	4 年	演習		必修
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観					

(1) 授 業 の 内 容
基本的な授業の内容は以下のとおりである。 ・栄養管理に関わる研究テーマを深める ・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件を整備する ・実験的または疫学的研究の遂行により論文にまとめる
(2) 授 業 の 到 達 目 標
医学・栄養学・食品学に関する知識・技能を基礎にして、栄養管理に関する専門的な最新知見を収集・分析する。それを更に発展させるために実験的及び疫学的な研究を行ない、得られた成果を論文としてまとめる。
(3) アクティブラーニング
☒課題解決型学習(PBL) ☒討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒実習、フィールドワーク ☒実験、実技 ☐その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
各担当者の基本的な授業計画は以下のとおりである。 ・年度当初に指導教員と協議の上、具体的な研究計画を立てる(PBL・討議・グループワーク) ・栄養管理に関わる研究テーマの明確化(課題解決型学習・討議・グループワーク) ・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件の整備(PBL・討議・グループワーク) ・実験的または疫学的研究の遂行による論文の完成(フィールドワーク・実験) 計画に沿って、随時進捗状況を報告し、指導を受けること。 4月下旬：卒業研究題目提出 11月下旬：卒業研究要旨提出 12月中旬：卒業論文提出 12月下旬：卒業研究発表会(発表)
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
①卒業研究要旨の提出 ②口頭発表を行う(口頭試問を兼ねる) ③卒業研究成果物(論文)の提出 を単位認定の基本要件とする。 そのうえで、研究活動への参加状況、課題および自主的学習への取り組みなどを総合して評価する。
(7) 成 績 評 価 基 準
研究テーマを踏まえ、的確な内容の要旨をまとめることができたか。 わかりやすく発表し、適切な受け答えができたか。 質の高い研究成果物を提出できたか。 積極的な、研究活動への参加、課題および自主的学習への取り組みなどができたか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☒ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☒ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
参考書・研究文献など必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意)
実験・実習に関しては、特に時間割外に実験・実習室および機器備品を使用することとなることから、厳重に実験・実習室利用マニュアルに従うこと。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	長岡 純子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-F-2469	4 単位	4 年	演習		必修
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果（教育目標）					
課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観					

(1) 授 業 の 内 容
基本的な授業の内容は以下のとおりである。 ・栄養管理に関わる研究テーマを深める ・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件を整備する ・実験的または疫学的研究の遂行により論文にまとめる
(2) 授 業 の 到 達 目 標
医学・栄養学・食品学に関する知識・技能を基礎にして、栄養管理に関する専門的な最新知見を収集・分析する。それを更に発展させるために実験的及び疫学的な研究を行ない、得られた成果を論文としてまとめる。
(3) アクティブラーニング
☒課題解決型学習（PBL） ☒討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☒実習、フィールドワーク ☒実験、実技 ☐その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
基本的な授業計画は以下のとおりである。 ・年度当初に指導教員と協議の上、具体的な研究計画を立てる（PBL・討議・グループワーク） ・栄養管理に関わる研究テーマの明確化（課題解決型学習・討議・グループワーク） ・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件の整備（PBL・討議・グループワーク） ・実験的または疫学的研究の遂行による論文の完成（フィールドワーク・実験） 計画に沿って、随時進捗状況を報告し、指導を受けること。 4月下旬：卒業研究題目提出 11月下旬：卒業研究要旨提出 12月上旬：卒業論文提出 12月下旬：卒業研究発表会（発表）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
①卒業研究要旨の提出 ②口頭発表を行う（口頭試問を兼ねる） ③卒業研究成果物（論文）の提出 を単位認定の基本要件とする。 そのうえで、研究活動への参加状況、課題および自主的学習への取り組みなどを総合して評価する。
(7) 成 績 評 価 基 準
研究テーマを踏まえ、的確な内容の要旨をまとめることができたか。 わかりやすく発表し、適切な受け答えができたか。 質の高い研究成果物を提出できたか。 積極的な、研究活動への参加、課題および自主的学習への取り組みなどができたか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☒その他 (Teams) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☒その他 (Teams) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 参考書・研究文献など必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意) 実験・実習に関しては、特に時間割外に実験・実習室および機器備品を使用することとなることから、厳重に実験・実習室利用マニュアルに従うこと。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

食品品質評価演習 (Practice in Estimating Food Quality)			担当教員	浦本 裕美、佐藤 真実	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-D-2473	2 単位	4 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 関連科目					
求める学習成果(教育目標)					
基礎研究および食品開発ができる能力					

(1) 授 業 の 内 容
食品を選ぶという行為は、多くの背景と動機が存在しており、管理栄養士には食品についての深い知識と品質を見抜く能力が必要となる。 そこで、その能力を養う目的で、食品の生産・流通・消費についての知識、食品鑑別法、食品品質評価法（化学的評価法、物理的評価法など）を演習で学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
目の前にある食品だけでなく、その食品が消費者に届くまで、すなわち、「生産・流通」にも着目した総合判断力をもって食品の品質を見抜く力と選択能力を養う。また、食品の品質評価法を理解する。
(3) アクティブラーニング
□課題解決型学習（PBL） □討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） □グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） □発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ■実習、フィールドワーク ■実験、実技 ■その他（食品流通施設の見学、農作物の収穫体験）
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：（浦本・佐藤）ガイダンス、第3～5回の見学について説明 事前学習：シラバスに目を通し授業内容について確認したいこと等をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：日本における食品の流通システムについて調べノートにまとめておくこと。（2時間） 第2回：（浦本）個別食品の鑑別（1）食品の流通と保存 事前学習：テキストp122～124を読み、質問項目をノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：食品の保存時に気を付けなければならないことをノートにまとめておくこと。（2時間） 第3回：（浦本）個別食品の鑑別（2）武生青果と契約農家の見学 武生青果市場（その他） 事前学習：地産地消について考え、質問項目をノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：見学先での説明等を整理してレポートにまとめておくこと。（2時間） 第4回：（浦本）個別食品の鑑別（3）武生青果と契約農家の見学 契約農家①（その他） 事前学習：地産地消について考え、質問項目をノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：見学先での説明等を整理してレポートにまとめておくこと。（2時間） 第5回：（浦本）個別食品の鑑別（4）武生青果と契約農家の見学 契約農家②（その他） 事前学習：地産地消について考え、質問項目をノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：見学先での説明・体験を整理してレポートにまとめておくこと。（2時間） 第6回：（浦本）化学的評価法（米の品質検査）（1）（実験） 事前学習：配布プリントを一読し質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：実験結果と考察、及び米の保存方法についてまとめレポートにまとめること。（2時間） 第7回：（浦本）化学的評価法（果物の品質；酵素的褐変）（2）（実験） 事前学習：配布プリントを一読し質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：実験当日に配布したプリントに実験結果・考察を記入しておくこと。（2時間） 第8回：（浦本）化学的評価法（果物の品質；糖度・酸度）（3）（実験） 事前学習：テキストp50～53を読み質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：実験当日に配布したプリントに実験結果・考察を記入しておくこと。（2時間） 第9回：（佐藤）官能検査の基本と実施法 事前学習：テキストp3～30を読み、質問項目をノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：官能評価の概要についてノートにまとめておくこと。（2時間） 第10回：（佐藤）食品の官能検査演習（統計処理を含む）（1）（実習） 事前学習：評点法で使いたい試料について、調べておくこと。（2時間） 事後学習：評点法で使用する試料について、調べておくこと。（2時間） 第11回：（佐藤）食品の官能検査演習（統計処理を含む）（2）（実習） 事前学習：テキストp22～29を読み、質問項目をノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：実験結果と考察、試料の特徴などについてまとめレポートにまとめること。（2時間）

第12回：（佐藤）物理的評価法の目的と意義 事前学習：テキストp59～63を読み、質問項目をノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：食品の状態についてノートにまとめておくこと。（2時間） 第13回：（佐藤）物理的評価法の手法について 事前学習：テキストp64～78を読み、質問項目をノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：レオロジーとテクスチャーについてノートにまとめておくこと。（2時間） 第14回：（佐藤）物理的評価演習（1）（実験） 事前学習：介護食や離乳食について調べ、ノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：実験当日に配布したプリントに実験結果・考察を記入しておくこと。（2時間） 第15回：（佐藤）物理的評価演習（2）（実験） 事前学習：テキストp64～78を読み、測定方法について理解し、質問項目をノートにまとめておくこと。（2時間） 事後学習：実験の結果や考察より、介護食や離乳食の物性についてレポートにまとめること。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポート（90%）、平常点（10%） （平常点は授業への参加状況・受講態度等を総合して採点する。）
(7) 成績評価基準
食品自体の品質を評価できるだけでなく、生産・流通も考慮した広い視野を兼ね備えた品質評価および食品選択ができるか。 食品品質評価法が理解できているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
（社）日本フードスペシャリスト協会編/新版 食品の官能評価・鑑別演習（五訂版）/建帛社
(11) その他(受講上の注意)
・個別食品の鑑別では福井県中央卸売市場などへの見学も予定しており、その際は、土曜日に実施する可能性がある。 ・使用教室は、演習内容によって変更し、第1回目のガイダンスで連絡する予定である。 ・テキストは、ガイダンスを聞いた上で履修することを決定してから購入するのが望ましい。 ・授業内容は連続性があるため、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心掛けること。授業の計画予定や内容は、変更されることがある。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、第1回目のガイダンスで連絡する予定である。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

心と健康 (Health and Mind)			担当教員	山本 雅代	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-C-2477	2 単位	4 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 関連科目					
求める学習成果（教育目標）					
(1) 集団から影響を受ける個人の行動を理解する (2) ストレスとは何かについて理解する (3) 現実社会でおこる心の葛藤やストレスを理解し、対処方法を知る					

(1) 授 業 の 内 容
人間は常に集団の中で生活している。その中で人間として生きる様々な技術を学習し発達していく。しかし、その人間関係からネガティブな影響を受けることもある。現代社会においては多くの人々が他者又は社会からのストレスを感じ健康を崩すことが多くなっている。授業では、そのような人間の心の発達の過程、他者の存在が心に与える影響について解説するとともに、様々な社会システムの中で生み出されるストレスと健康について考察していく。実社会で起こっている現象をとりあげ社会心理的視点から理解していくことをめざす。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
(1) 集団から影響を受ける個人の行動を理解する (2) ストレスとは何かについて理解する (3) 現実社会でおこる心の葛藤やストレスを理解し、対処方法を知る
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(ICT (Google フォームを使用し、課題を呈示、インタラクティブに意見を収集))
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：心と健康について (ICT) 事前学習：授業前に「心が健康に影響する」状況について考察する(2時間) 事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する(2時間) 第2回：人間の行動の始まり (ICT) 事前学習：授業前に「生得的行動と学習」の違いについて考えてみる(2時間) 事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する(2時間) 第3回：社会的動物としての人間について (ICT) 事前学習：授業前に「我々は社会から何を学ぶか」について考えてみる(2時間) 事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する(2時間) 第4回：心の発達について (ICT) 事前学習：授業前に「人の発達」についての関連書籍を読んでおくこと(2時間) 事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する(2時間) 第5回：心の発達にかかせない他者 (ICT) 事前学習：授業前に「人の発達」についての関連書籍を読んでおくこと(2時間) 事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する(2時間) 第6回：集団と個人 (ICT) 事前学習：授業前に「集団」について関連書籍を読んでおくこと(2時間) 事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する(2時間) 第7回：集団から影響を受ける (ICT) 事前学習：授業前に「我々は集団からどのような影響を受けるのか」について考察しておく(2時間) 事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する(2時間) 第8回：同調と服従(1) (ICT) 事前学習：授業前に「同調」についての本を読んでおくこと(2時間) 事後学習：授業で分らなかったポイントについてまとめておくこと(2時間) 第9回：同調と服従(2) (ICT) 事前学習：授業前に「服従」についての本を読んでおくこと(2時間) 事後学習：授業で分らなかったポイントについてまとめておくこと(2時間)

第10回：ストレスについて (ICT) 事前学習：授業前に「ストレス」について考察しておく（2時間） 事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する（2時間） 第11回：人間関係とストレス (ICT) 事前学習：授業前に「組織の中のストレス」について関連書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する（2時間） 第12回：コーピングについて (ICT) 事前学習：授業前に「コーピング」について関連書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する（2時間） 第13回：パーソナリティと健康 (ICT) 事前学習：授業前に「タイプA行動」について調べてみる（2時間） 事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する（2時間） 第14回：問題解決と認知 (ICT) 事前学習：授業前に「認知とは何か」関連書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する（2時間） 第15回：まとめと小テスト (ICT) 事前学習：各講義におけるノートをまとめる（2時間） 事後学習：分からなかったポイントについてまとめる（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
授業中に実施する課題・小テスト、課題レポートを総合的に判断し評価する。 【小テスト50% 課題・レポート50%】
(7) 成績評価基準
○集団の中の個人の行動を理解できているか ○ストレスとは何かについて説明することができるか ○現実社会におけるストレスや葛藤を理解し、対処方法について説明することができるか
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
適宜掲示・配布する。また、参考文献、関連文献を講義内で紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
最初にTeamsに登録すること。 基本的に講義形式で行う。より理解を深めるために必要に応じてVTR視聴、自己分析、を実施する。 授業内において課題の提出を求めることがある。提出には、eラーニングシステム・googleフォーム等を利用し、受講者の考え方や他者との行動の差異について共有すること、講義内容と実際の社会的問題を関連づけて考えること、を試みる。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 (Teaching method of an extraordinaryand overall learning time)			担当教員	山崎 智幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-C-2487	2 単位	4 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力					

(1) 授 業 の 内 容
学習指導要領解説を中心に、特別活動の目標、基本的な性格と教育活動全体における意義、各活動・学校行事の目標及び内容、指導計画の作成と内容の取扱いを理解し、実施上の課題と配慮事項等を考える。また、総合的な学習の時間の目標及び内容、特質に応じた学習の在り方、指導計画の作成と内容の取扱い、指導計画及び単元計画の基本的な考えを理解し、探究的な学習の指導のポイントを探る。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
特別活動は、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点や、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせながら、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮し、課題を解決することを通して、資質・能力を育むことを目指す教育活動であることを理解し、「なすことによって学ぶ」という特性を踏まえ、地域の実態や児童の発達の段階等を考慮しながら、創意工夫を生かし、多様な他者と協働することができるような指導に必要な知識や素養を身に付ける。 総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。また、各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。
(3) アクティブラーニング
☐課題解決型学習(PBL) ☐討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐実習、フィールドワーク ☐実験、実技 ☐その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：学習指導要領における特別活動と総合的な学習の時間の改訂の趣旨及び要点 事前学習：学習指導要領における特別活動と総合的な学習の時間の改訂の趣旨及び要点を読んで、要点をおさえる。(2時間) 事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに特別活動と総合的な学習の時間の位置づけについて、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第2回：特別活動の目標及び内容、指導のあり方(ワークショップ) 事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の特別活動の目標と各活動等の目標との関連する部分を読み、要点をおさえる。(2時間) 事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに、特別活動の目標と各活動等の目標との関連についてリフレクションシートにまとめる。(2時間) 第3回：学級活動の目標及び内容、指導計画、内容の取扱い グループワークによる人間関係づくり(グループワークと発表) 事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の学級活動の部分を読み、要点をおさえる。(2時間) 事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに学級活動の目標や内容等について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第4回：児童会活動、クラブ活動の目標及び内容、指導計画、内容の取扱い ― 実践事例を通して考える(ワークショップとグループワーク、発表) 事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の児童会活動、クラブ活動の部分を読み、要点をおさえる。(2時間) 事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに児童会活動・クラブ活動の目標と内容等について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第5回：学校行事の目標及び内容、指導計画、内容の取扱い 教育課程全体を考えた学校行事のあり方について考える(ワークショップとグループワーク、発表) 事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の学校行事の部分を読み、要点をおさえる。また、各自の学校行事に関する体験を簡単に書いて準備する。(2時間) 事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに学校行事の目標と内容等について、リフレクションシートにまとめる。(2時間)

- 第6回：特別活動の指導計画の作成と内容の取り扱い
 事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の指導計画の作成と内容の取扱いの部分を読み、要点をおさえる。（2時間）
 事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに、特別活動の全体計画と各活動・学校行事の年間指導計画と内容の取り扱いについてリフレクションシートにまとめる。（2時間）
- 第7回：学びを豊かにする特別活動の充実に向けて（グループワークと発表）
 事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の学校行事の部分を読み、要点をおさえる。また、各自の学校行事に関する体験を簡単に書いて準備する。（2時間）
 事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに学校行事の目標と内容等について、リフレクションシートにまとめる。（2時間）
- 第8回：特別活動で育む力（資質・能力の3つの視点）と指導方法（発表）
 事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の全体を読み、特別活動で育む力について所見を考えておく。（2時間）
 事後学習：特別活動で育む力（資質・能力の3つの視点）を意識した指導のあり方について、自分なりの考えをリフレクションシートにまとめ、発表する。（2時間）
- 第9回：総合的な学習の時間の目標と学習の在り方
 事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の目標の部分を読み、要点をおさえておくこと。（2時間）
 事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに、総合的な学習の時間の目標と在り方、資質・能力についてリフレクションシートにまとめる。（2時間）
- 第10回：各学校において定める目標及び内容、指導計画の作成と内容の取扱い
 事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の目標及び内容、指導計画、内容の取扱いの部分を読み、要点をおさえておくこと。（2時間）
 事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに、目標、内容、指導計画、内容の取扱いについてリフレクションシートにまとめる。（2時間）
- 第11回：総合的な学習の時間の指導計画の作成、考えるための技法の活用（グループワークと発表）
 事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の指導計画、考えるための技法の部分を読み、要点をおさえておくこと。（2時間）
 事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに、探求課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力についてリフレクションシートにまとめる。（2時間）
- 第12回：総合的な学習の時間の年間指導計画及び単元計画の作成、学習指導、評価（グループワークと発表）
 事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の年間指導計画及び単元計画の作成、学習指導、評価の部分を読み、要点をおさえておくこと。（2時間）
 事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに、探求的な学習の指導のポイントについてリフレクションシートにまとめる。（2時間）
- 第13回：現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題（ワークショップとグループワーク、発表）
 事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の各学校が定める内容の当該部分を読み、要点をおさえておくこと。また、各自の当該テーマに関する課題を簡単に書いて準備すること。（2時間）
 事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに、当該テーマについて考えたことをリフレクションシートにまとめる。（2時間）
- 第14回：地域や学校の特色に応じた課題（ワークショップとグループワーク、発表）
 事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の各学校が定める内容の当該部分を読み、要点をおさえておくこと。また、各自の当該テーマに関する体験を簡単に書いて準備すること。（2時間）
 事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに、当該テーマについて考えたことをリフレクションシートにまとめる。（2時間）
- 第15回：児童・生徒の興味・関心に基づく課題（ワークショップとグループワーク、発表）
 事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の各学校が定める内容の当該部分を読み、要点をおさえておくこと。また、各自の当該テーマに関する体験を簡単に書いて準備すること。（2時間）
 事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに、当該テーマについて考えたことをリフレクションシートにまとめる。（2時間）

定期試験は実施しない。

(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕

原則として「面接授業」を行います。

ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。

遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

(6) 成績評価方法
毎回のリフレクション・レポート(30%)、特別活動及び総合的な学習の時間に関する発表(15%×2回)、講義終了後の最終レポート(40%)で総合的に評価する。
(7) 成績評価基準
特別活動の意義や目標及び内容を理解しているか。 特別活動の指導の在り方を理解しているか。 総合的な学習の時間の意義や各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解しているか。 総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付けているか。 総合的な学習の時間の指導と評価の考え方及び実践上の留意点を理解しているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
小学校学習指導要領解説 特別活動編(平成29年6月 文部科学省) 小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編(平成29年6月 文部科学省)
(11) その他(受講上の注意)
特別活動は各学校の教育課程に応じた特色が多く見られるため、自分の母校等の特別活動を思い起こしたり、学校ホームページを閲覧したりしておくとい。 総合的な学習の時間は、幅広い探究課題を扱うため、現代的な課題や身近な地域の特色、各学校の実践例等のメディアの情報に積極的に関心を持っておくとい。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育相談 (Educational Counseling)			担当教員	佐々木 雅代	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-C-2490	2 単位	4 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間生活学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力					

(1) 授 業 の 内 容
教育相談とは、幼児、児童及び生徒が自己理解を深め、好ましい人間関係を築きながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動の一つであることを学ぶ。 それぞれの発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を身に付ける。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
1. 学校における教育相談の意義と理論を理解する。 2. 教育相談を進める際に必要な基礎知識(カウンセリングに関する基礎的事項を含む)を理解する。 3. 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、支援者としての自己理解を深め、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：15回の全体計画と学習のポイント及び到達目標の説明。生徒指導と教育相談について。教育相談の視点から、園、学校という場、資源について知る。(ディスカッション) 事後学習：チーム学校に関し、指示した課題について、調べレポートにまとめておくこと。(3時間)
第2回：教育相談に生かす心理学的理解；教育相談とカウンセリング。見立て。事例で学ぶ、問題の背景、影響、資質のとらえ方。傾聴訓練を含むグループディスカッション。(ディスカッション) 事前学習：第1回に指定した資料を熟読しておくこと。(2時間) 事後学習：見立てについて、理解したことをレポートにまとめておくこと。(2時間)
第3回：教育相談に生かす心理学的理解；教育相談におけるアセスメントとは。教育相談技法について。予防開発的援助について。グループディスカッション。(グループワーク) 事前学習：第2回に配布した事例について、自分なりの介入プランを立てること。(2時間) 事後学習：介入プランの立て方について、ポイントをレポートにまとめておくこと。(2時間)
第4回：不登校、登園渋りについて。教育相談における対応。文科省の調査研究報告等にあたり、多角的視点によって理解の幅を広げる。(プレゼンテーション) 事前学習：文科省の調査研究報告等前回の授業で指示した資料を調べまとめ、レポートにすること。(3時間) 事後学習：学校現場でどのような対応が望ましいか、学んだことをまとめておくこと。(2時間)
第5回：子供の貧困について。架空事例に触れ、学校生活での問題の現れ方、介入に際して配慮すべきこと、社会資源を活用するという視点を得る。(ディスカッション) 事前学習：日本の実態と、どのような対策がなされているか調べレポートにまとめておくこと。(2時間) 事後学習：子どもの貧困について、保育、幼児教育、学校現場でどのような対応が可能か、学んだことをまとめておくこと。(2時間)
第6回：いじめ理解、いじめ対応の基礎知識。いじめ予防について。被害者支援、加害者支援および保護者支援について理解する。(ディスカッション) 事前学習：指定したいじめ重大事態調査報告書を 通読しておく(2時間) 事後学習：授業で検討したこと、学んだことについて、まとめておくこと。(2時間)
第7回：発達障害の学校での現れ方。発達障害の流動性。支援のための人格発達仮説を学ぶ。発達障害支援シートの活用を知る。保護者支援。外部機関との連携。(ディスカッション) 事前学習：発達支援シートについて調べて、ディスカッションの資料になるように、まとめておくこと。(2時間) 事後学習：二次障害の予防と対応、連携についてまとめておくこと。(2時間)

第8回：予防開発的アプローチとしてのSSTの意味。SSTの使い方。SSTワークの体験。（グループワーク） 事前学習：第7回に配布した資料を熟読し、チェックリストを完成しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で、自分で作った宿題の回答を試みること。（2時間）	
第9回：予防開発的アプローチとしてのアサーティブトレーニングの意味。自尊感情、対等性、誠実であること、教育相談における人権について理解を深める。自己理解、他者理解。（グループワーク） 事前学習：第8回に配布した資料を熟読し、質問をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：自分にとってのアサーティブネスについて検討し、レポートにすること。（2時間）	
第10回：子どもの自殺・虐待について現状を知る。SOSの出し方教育について学ぶ。 事前学習：SOSの出し方教育について調べてまとめておく。（2時間） 事後学習：授業で扱った事例について、自分の考えをまとめる。（2時間）	
第11回：事件・事故・災害対応、危機管理について。トラウマ・インフォームド・ケアについて 事前学習：学習指導要領における性に関する指導について、文科省のホームページから調べ、発達段階に沿った指導について確認しておく。（2時間） 事後学習：授業で扱った事例について、自分の考えをまとめる。（2時間）	
第12回：傾聴演習①：聴くという姿勢・態度。傾聴の技術を体験的に学ぶ。架空事例について傾聴のロールプレイ 事前学習：第11回で配布した資料を通読しておく。（2時間） 事後学習：自分の生活の中で、身近な人の話を意図的に傾聴してみる。そして考察する。（2時間）	
第13回：傾聴演習②：他者の共感的理解 保護者支援。（ディスカッション） 事前学習：第12回で配布した資料を通読しておく。（2時間） 事後学習：自分の生活の中で、身近な人の話を意図的に傾聴してみる。そして考察する。（2時間）	
第14回：教員のメンタルヘルス。ストレスマネジメントについて。体験学習。教育相談での活かし方。（グループワーク） 事前学習：第13回に指示した、リラクゼーションの技法についてあらかじめ調べておくこと。（2時間） 事後学習：自分自身のストレスマネジメントの意義について、レポートにまとめる。（2時間）	
第15回：ふりかえり。今まで学んだことの振り返り。改めて事例をもとに、見立て、介入プランの試作。 事前学習：授業全体を振り返り、疑問や質問をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：参考図書について、指示した要点を確認しておくこと。（2時間）	
第16回：定期試験	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
小レポート（30％） 平常点（20％） 定期試験（50％） （平常点は、授業への参加状況・受講態度、課題の提出状況等を総合して判断します。）	
(7) 成績評価基準	
いじめ、不登校、発達障害について、基礎知識をもち、学校・保育現場のチームの一員としてカウンセリングマインドを生かした支援ができる。支援プランを立てることが出来る。	
(8) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック	
1）授業時の課題に対するフィードバックについて ■授業時 ■仁大eラーニング □メール □その他	
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■授業時 ■仁大eラーニング □メール □その他	
3）小レポートに対するフィードバックについて □授業時 ■仁大eラーニング □メール □その他	
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて □定期試験時 ■仁大eラーニング □メール □その他	
5）その他 □授業時 □仁大eラーニング □メール □その他	
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）	

(10) テキスト、参考図書
テキスト 森 慶輔・宮下敏恵 編著『教育相談テキストブック』金子書房 2021年 参考図書 西本絹子著『教師のための教育相談』萌文書林 2018年 文部科学省 『生徒指導提要』2022年12月改訂版 本田恵子編著『改訂版 包括的スクールカウンセリングの理論と実践: 子どもの課題の見立て方とチーム連携のあり方』金子書房 2019年
(11) その他(受講上の注意)
その都度、資料を配布します。この教科用のファイル、ノートをご準備ください。 体験学習には積極的にご参加ください。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

事前・事後指導(栄養教諭) (Directed Teaching Practicum (Nutrition Teachers))			担当教員	牧野 みゆき、清川 ひろみ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-C-2491	1 単位	4 年通年	実習	選択	
<科目区分> 人間生活学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力					

(1) 授 業 の 内 容
栄養教育実習に臨むにあたって必要な心構え、実践的な教職能力の基礎を学修する。 第1～15回は前期、第16～23回は後期に行う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
「事前指導」では栄養教育実習の意義や目的を理解し、実習生としての態度や心構えを身につける。栄養教育実習に向け、課題意識をもって積極的に取り組んで、模擬授業をすることができる。 「事後指導」は実習について報告し、実習での体験とその反省をもとに栄養教諭に求められる資質・能力を高める。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
【前期】 第1回：オリエンテーション、栄養教育実習の意義・目的(牧野) 第2回：授業の進め方についての基礎(牧野) 第3回：学習指導案の作成 演習(清川) 第4回：課題研究 1(清川) 第5回：課題研究 2(清川) 第6回：課題研究 3(清川) 第7回：栄養教諭による食育授業の実践例 1(清川) 第8回：課題研究 4(清川)【ディスカッション】 第9回：課題研究 5(清川)【ディスカッション】 第10回：実習校における課題研究 1(清川・牧野)【発表、ディスカッション】 第11回：栄養教諭による食育授業の実践例 2(清川・牧野) 第12回：実習校における課題研究 2(清川・牧野)【発表、ディスカッション】 第13回：実習校における課題研究 3(清川・牧野)【発表、ディスカッション】 第14回：実習校における課題研究 4(清川・牧野)【発表、ディスカッション】 第15回：実習校における課題研究 5(清川・牧野)【発表、ディスカッション】 【後期】 第16回：学習体験発表・意見交換・評価 1(清川・牧野)【発表、ディスカッション】 第17回：学習体験発表・意見交換・評価 2(清川・牧野)【発表、ディスカッション】 第18回：学習体験発表・意見交換・評価 3(清川・牧野)【発表、ディスカッション】 第19回：学習体験発表・意見交換・評価 4(清川・牧野)【発表、ディスカッション】 第20回：学習体験発表・意見交換・評価 5(清川・牧野)【発表、ディスカッション】 第21回：学習体験発表・意見交換・評価 6(清川・牧野)【発表、ディスカッション】 第22回：学習体験発表・意見交換・評価 7(清川・牧野)【発表、ディスカッション】 第23回：3年生への教育実習の報告会(牧野)
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
模擬授業および発表等(60%)、レポート等の提出物(20%)、平常点(20%) 平常点は、授業への参加状況、受講態度等から総合的に評価する。

(7) 成績評価基準
栄養教育実習の意義や目的を理解し、実習生としての態度や心構えを身につけ、栄養教育実習に向けて課題意識をもって積極的に取り組んで、模擬授業をすることができるか。実習の体験とその反省をもとに栄養教諭に求められる資質・能力を身につけているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート: 1年次から使えるポートフォリオ, 芦川修貳 監修, 学建書院, 2021年
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育実習(栄養教諭) (Teaching Practicum (Nutrition Teachers))			担当教員	牧野 みゆき、清川 ひろみ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-C-2492	1 単位	4 年前期	実習		選択
<科目区分> 人間生活学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力					

(1) 授 業 の 内 容
小学校または中学校において1週間の教育実習を行う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
教育現場において栄養教諭の職務を経験し、授業方法、指導案作成能力、児童生徒への声掛け、接し方など栄養教諭として身につけるべき基本的能力を習得する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
(1) 実習校でのオリエンテーション 実習校の運営機構、教育方針、指導計画、事務分掌、教育環境等を理解 (2) 授業参観 授業参観を通して、児童及び生徒個々の心身及び知的発達状況の段階、学級機能の特性を観察し、個人指導及び集団指導の実態について把握 (3) 授業実習 食に関する指導にかかわる授業計画・指導案の作成 指導にかかわる知識・技術・資料の準備及び事前研究 授業実習の実施状況の検討・評価 (4) 学校経営への参加実習(参観、補助) 給食放送指導、配膳指導、後片付け指導への参加 配属学級の授業、放課後の研究指導、クラブ活動への参加、学校行事への参加等、実習校から与えられた課題に真摯に取り組む
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
実習校からの評価(80%)、教員の巡回指導の記録・実習ノートの内容等(20%)
(7) 成 績 評 価 基 準
授業方法、指導案作成能力、児童生徒への声掛け、接し方など栄養教諭として身につけるべき基本的能力を習得できているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他(実習に対するフィードバックについて) ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☒ その他(実習における評価および課題は、「事前・事後指導(栄養教諭)」においてフィードバックする)

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて、教材・資料等を紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
教育実習には、将来、教職に就きたいという強い意志を持ち、事前準備を計画的に行い、体調を整えて臨むこと。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教職実践演習(栄養教諭) (Applied Systems in School Education (Nutrition Teachers))			担当教員	牧野 みゆき、小林 利幸、清川 ひろみ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-C-2493	2 単位	4 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間生活学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力					

(1) 授 業 の 内 容
これまで学修した教職課程科目や教職に関する経験を振り返るとともに、ロールプレイ、事例研究、グループ討議等により、栄養教諭として必要な能力の向上をはかる。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
教職課程におけるこれまでの学習成果を振り返り、栄養教諭に必要な知識や資質を確認し、栄養教諭としての総合的な資質能力 (ICT活用指導力を含む) を高める。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☒ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
<小林 利幸 担当分 (5 回) 牧野 みゆき 担当分 (5 回) 清川 ひろみ 担当分 (5 回) > 第 1 回：教職課程 (栄養教諭) の振り返りおよびグループ討論 (牧野) 【ディスカッション】 事前学習：第 1 回の授業では教育実習全体を通じた振り返りを行ったあとで教職カルテを記入し、それをもとにしたディスカッションを行うため、教育実習ノートを中心に実習内容をまとめておくこと (2 時間) 事後学習：これまでの教職カルテの記録をもとに、より深めたい内容を整理しておくこと (2 時間) 第 2 回：教職の意義、教職員の職務と役割、児童・生徒に対する使命と責任の重さについて事例研究・ロールプレイング・グループ討論 (小林) 【ディスカッション】 事前学習：第 2 回の授業では、標記テーマについてディスカッションを行うので、教育実習中の関連する場面を思い出し、自分なりの意見をまとめておくこと (2 時間) 事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、自分の考えを整理しておくこと (2 時間) 第 3 回：食に関する全体指導計画に関する演習 (1) (牧野) 【ディスカッション】 事前学習：第 3 回の授業では、標記テーマについてディスカッションを行うので、教育実習中の関連する場面を思い出し、自分なりの意見をまとめておくこと (2 時間) 事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、自分の考えを整理しておくこと (2 時間) 第 4 回：児童・生徒理解と学級経営について事例研究・グループ討論 (小林) 【ディスカッション】 事前学習：第 4 回の授業では、標記テーマについてディスカッションを行うので、教育実習中の関連する場面を思い出し、自分なりの意見をまとめておくこと (2 時間) 事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、自分の考えを整理しておくこと (2 時間) 第 5 回：食に関する全体指導計画に関する演習 (2) (牧野) 【ディスカッション】 事前学習：第 5 回の授業では、標記テーマについてディスカッションを行うので、教育実習中の関連する場面を思い出し、自分なりの意見をまとめておくこと (2 時間) 事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、自分の考えを整理しておくこと (2 時間) 第 6 回：教科等や生徒指導の方法について事例研究・グループ討論 (小林) 【ディスカッション】 事前学習：第 6 回の授業では、標記テーマについてディスカッションを行うので、教育実習中の関連する場面を思い出し、自分なりの意見をまとめておくこと (2 時間) 事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、自分の考えを整理しておくこと (2 時間)

第7回：学校現場の調査研究とグループ討論（小林） 事前学習：第7回の授業では、全体計画をテーマにワークを行うので、3年次に学習した内容をの復習しておくとともに、実習校の全体計画について確認しておく（2時間） 事後学習：資料等の見直しを行うとともに、ワークを進めるなかで理解が不十分と感じた部分があれば、担当教員に質問すること（2時間） 第8回：社会性や対人関係能力についての確認（小林） 事前学習：第8回の授業では、年間指導計画をテーマにワークを行うので、3年次に学習した内容を復習しておくとともに、実習校の年間指導計画について確認しておく（2時間） 事後学習：資料等の見直しを行うとともに、ワークを進めるなかで理解が不十分と感じた部分があれば、担当教員に質問すること（2時間） 第9回：栄養教諭としての学修理解についての自己評価及びグループ討論（清川）【ディスカッション、グループワーク】 事前学習：第9回の授業では、知識を引き出す指導方法（アクティブラーニングなど）についてディスカッションを行うので、教育実習で自身が行った指導の工夫点をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、新たな指導方法を取り入れた場合の指導構想をまとめる（2時間） 第10回：栄養教諭としての使命と役割についての講義及びグループ討論（清川）【ディスカッション、グループワーク】 事前学習：4年次前期から紹介してきた、今年に入って出た答申や資料等について見直し、分からない単語等があれば調べておくこと（2時間） 事後学習：資料等の見直しを行い、そのなかで分からない部分が出てきた場合には、担当教員に質問すること（2時間） 第11回：事例を踏まえた実践的指導力を培うためのとグループ討論 1（清川）【ディスカッション、グループワーク】 事前学習：第11回の授業では、学校給食や食文化についてディスカッションを行うので、3年次からこれまでの学習内容を思い出し、復習をしておくこと（2時間） 事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、自分の考えを整理しておくこと（2時間） 第12回：事例を踏まえた実践的指導力を培うためのとグループ討論 2（清川）【ディスカッション、グループワーク】 事前学習：第12回の授業では、各自、行事食を取り入れた学校給食献立とそれを活用した食育指導について発表し、ディスカッションを行うので、発表資料を作成し、準備しておくこと（2時間） 事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、自分の考えを整理しておくこと（2時間） 第13回：事例を踏まえた実践的指導力を培うためのとグループ討論 3（清川）【ディスカッション、グループワーク】 事前学習：第13回の授業では、実践事例をもとにディスカッションを行うので、教育実習中の関連する場面を思い出したり、これまでの学習内容を思い出し、自分なりの意見をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、自分の考えを整理しておくこと（2時間） 第14回：食を通じて知識を引き出す指導方法についての講義および討論（牧野）【ディスカッション】 事前学習：第14回の授業では、実践事例をもとにディスカッションを行うので、教育実習中の関連する場面を思い出したり、これまでの学習内容を思い出し、自分なりの意見をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、自分の考えを整理しておくこと（2時間） 第15回：児童生徒の食生活改善についての事例研究・グループ討論（牧野）【ディスカッション、グループワーク】 事前学習：第15回の授業では、実践事例をもとにディスカッションを行うので、教育実習中の関連する場面を思い出したり、これまでの学習内容を思い出し、自分なりの意見をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、自分の考えを整理しておくこと（2時間）	
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕	
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
(6) 成績評価方法	
グループ討論の様子や事例研究（50%）、レポートまたは授業における作成物（30%）、平常点（20%） 平常点は、授業への参加状況、受講態度等から総合的に評価する。	

(7) 成績評価基準
栄養教諭として働くうえで必要となる知識や技能、資質等が身についているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
参考図書は適宜指示する。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 (Teaching method of an extraordinaryand overall learning time)			担当教員	山崎 智幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-B-2402	2 単位	4 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容	
学習指導要領解説を中心に、特別活動の目標、基本的な性格と教育活動全体における意義、各活動・学校行事の目標及び内容、指導計画の作成と内容の取扱いを理解し、実施上の課題と配慮事項等を考える。また、総合的な学習の時間の目標及び内容、特質に応じた学習の在り方、指導計画の作成と内容の取扱い、指導計画及び単元計画の基本的な考えを理解し、探究的な学習の指導のポイントを探る。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
特別活動は、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点や、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせながら、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮し、課題を解決することを通して、資質・能力を育むことを目指す教育活動であることを理解し、「なすことによって学ぶ」という特性を踏まえ、地域の実態や児童の発達の段階等を考慮しながら、創意工夫を生かし、多様な他者と協働することができるような指導に必要な知識や素養を身に付ける。 総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。また、各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。	
(3) アクティブラーニング	
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：学習指導要領における特別活動と総合的な学習の時間の改訂の趣旨及び要点 事前学習：学習指導要領における特別活動と総合的な学習の時間の改訂の趣旨及び要点を読んで、要点をおさえる。(2時間) 事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに特別活動と総合的な学習の時間の位置づけについて、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第2回：特別活動の目標及び内容、指導のあり方(ワークショップ) 事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の特別活動の目標と各活動等の目標との関連する部分を読み、要点をおさえる。(2時間) 事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに、特別活動の目標と各活動等の目標との関連についてリフレクションシートにまとめる。(2時間) 第3回：学級活動の目標及び内容、指導計画、内容の取扱い グループワークによる人間関係づくり(グループワークと発表) 事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の学級活動の部分を読み、要点をおさえる。(2時間) 事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに学級活動の目標や内容等について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第4回：児童会活動、クラブ活動の目標及び内容、指導計画、内容の取扱い ― 実践事例を通して考える(ワークショップとグループワーク、発表) 事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の児童会活動、クラブ活動の部分を読み、要点をおさえる。(2時間) 事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに児童会活動・クラブ活動の目標と内容等について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第5回：学校行事の目標及び内容、指導計画、内容の取扱い 教育課程全体を考えた学校行事のあり方について考える(ワークショップとグループワーク、発表) 事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の学校行事の部分を読み、要点をおさえる。また、各自の学校行事に関する体験を簡単に書いて準備する。(2時間) 事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに学校行事の目標と内容等について、リフレクションシートにまとめる。(2時間)	

- 第6回：特別活動の指導計画の作成と内容の取り扱い
 事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の指導計画の作成と内容の取扱いの部分を読み、要点をおさえる。（2時間）
 事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに、特別活動の全体計画と各活動・学校行事の年間指導計画と内容の取り扱いについてリフレクションシートにまとめる。（2時間）
- 第7回：学びを豊かにする特別活動の充実に向けて（グループワークと発表）
 事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の学校行事の部分を読み、要点をおさえる。また、各自の学校行事に関する体験を簡単に書いて準備する。（2時間）
 事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに学校行事の目標と内容等について、リフレクションシートにまとめる。（2時間）
- 第8回：特別活動で育む力（資質・能力の3つの視点）と指導方法（発表）
 事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の全体を読み、特別活動で育む力について所見を考えておく。（2時間）
 事後学習：特別活動で育む力（資質・能力の3つの視点）を意識した指導のあり方について、自分なりの考えをリフレクションシートにまとめ、発表する。（2時間）
- 第9回：総合的な学習の時間の目標と学習の在り方
 事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の目標の部分を読み、要点をおさえておくこと。（2時間）
 事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに、総合的な学習の時間の目標と在り方、資質・能力についてリフレクションシートにまとめる。（2時間）
- 第10回：各学校において定める目標及び内容、指導計画の作成と内容の取扱い
 事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の目標及び内容、指導計画、内容の取扱いの部分を読み、要点をおさえておくこと。（2時間）
 事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに、目標、内容、指導計画、内容の取扱いについてリフレクションシートにまとめる。（2時間）
- 第11回：総合的な学習の時間の指導計画の作成、考えるための技法の活用（グループワークと発表）
 事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の指導計画、考えるための技法の部分を読み、要点をおさえておくこと。（2時間）
 事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに、探求課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力についてリフレクションシートにまとめる。（2時間）
- 第12回：総合的な学習の時間の年間指導計画及び単元計画の作成、学習指導、評価（グループワークと発表）
 事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の年間指導計画及び単元計画の作成、学習指導、評価の部分を読み、要点をおさえておくこと。（2時間）
 事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに、探求的な学習の指導のポイントについてリフレクションシートにまとめる。（2時間）
- 第13回：現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題（ワークショップとグループワーク、発表）
 事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の各学校が定める内容の当該部分を読み、要点をおさえておくこと。また、各自の当該テーマに関する課題を簡単に書いて準備すること。（2時間）
 事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに、当該テーマについて考えたことをリフレクションシートにまとめる。（2時間）
- 第14回：地域や学校の特色に応じた課題（ワークショップとグループワーク、発表）
 事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の各学校が定める内容の当該部分を読み、要点をおさえておくこと。また、各自の当該テーマに関する体験を簡単に書いて準備すること。（2時間）
 事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに、当該テーマについて考えたことをリフレクションシートにまとめる。（2時間）
- 第15回：児童・生徒の興味・関心に基づく課題（ワークショップとグループワーク、発表）
 事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の各学校が定める内容の当該部分を読み、要点をおさえておくこと。また、各自の当該テーマに関する体験を簡単に書いて準備すること。（2時間）
 事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに、当該テーマについて考えたことをリフレクションシートにまとめる。（2時間）

定期試験は実施しない。

(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕

原則として「面接授業」を行います。

ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。

遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

(6) 成績評価方法
毎回のリフレクション・レポート(30%)、特別活動及び総合的な学習の時間に関する発表(15%×2回)、講義終了後の最終レポート(40%)で総合的に評価する。
(7) 成績評価基準
特別活動の意義や目標及び内容を理解しているか。 特別活動の指導の在り方を理解しているか。 総合的な学習の時間の意義や各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解しているか。 総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付けているか。 総合的な学習の時間の指導と評価の考え方及び実践上の留意点を理解しているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
小学校学習指導要領解説 特別活動編(平成29年6月 文部科学省) 小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編(平成29年6月 文部科学省)
(11) その他(受講上の注意)
特別活動は各学校の教育課程に応じた特色が多く見られるため、自分の母校等の特別活動を思い起こしたり、学校ホームページを閲覧したりしておくとい。 総合的な学習の時間は、幅広い探究課題を扱うため、現代的な課題や身近な地域の特色、各学校の実践例等のメディアの情報に積極的に関心を持っておくとい。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

理科総合 (Integrated science)			担当教員	嶋田 敬介	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-B-2450	2 単位	4 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
理科教育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
理科の授業を担当する上で重要となる「科学的なものの見方や考え方」について、実験・観察の具体例から学ぶ。主に昆虫や動物を対象に、野外観察から室内実験に至るまで、様々な事例をわかりやすく解説する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
自然界における様々な事象に対して「なぜ？」という問いを見いだすことができ、それに対してどのような方法（実験、観察、調査）で答えることができるのかを理解した上で、授業に活かすことができる。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習（PBL） ■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ■実習、フィールドワーク ■実験、実技 □その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス・科学的なものの見方や考え方 事前学習：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説理科編（pp.1-26）を読み、疑問点・質問事項を整理しておく（2時間）。 事後学習：授業で扱った科学的なものの見方や考え方について自分の言葉で要約し、レポートとしてまとめる（2時間）。 第2回：基本的な実験器具・調査道具（実習、グループワーク） 事前学習：小学校の理科の教科書に掲載されている実験器具等の扱いや管理方法を調べ、まとめておく（2時間）。 事後学習：授業で扱った実験器具等の扱いや管理方法およびその注意点をレポートとしてまとめる（2時間）。 第3回：顕微鏡、その他実験機器（実習、グループワーク） 事前学習：基本的な実験機器（顕微鏡、ルーペ等）の使用・管理方法を調べ、整理しておく（2時間）。 事後学習：授業で扱った顕微鏡等実験機器を使用した具体的な観察・実験例を挙げ、その概要をレポートとしてまとめる（2時間）。 第4回：室内実験・観察① カブトムシの生態（実習、実験・実技） 事前学習：カブトムシ、およびその生態や飼育方法について調べ、まとめておく（2時間）。 事後学習：授業で扱った一連の探究過程を整理し、レポートとしてまとめる（2時間）。 第5回：室内実験・観察② シロアリの道しるべフェロモン（実習、実験・実技、課題解決型学習） 事前学習：シロアリ、およびその生態や採集方法について調べ、まとめておく（2時間）。 事後学習：授業で扱った一連の探究過程を整理し、レポートとしてまとめる（2時間）。 第6回：室内実験・観察③ シロアリに共生する腸内微生物（実習、実験・実技） 事前学習：生物における共生の例、およびシロアリの腸内共生微生物について調べ、まとめておく（2時間）。 事後学習：授業で扱った一連の探究過程を整理し、レポートとしてまとめる（2時間）。 第7回：室内実験・観察④ メダカの発生（実習、実験・実技） 事前学習：メダカ、およびその生活史や発生について調べ、まとめておく（2時間）。 事後学習：授業で扱った一連の探究過程を整理し、レポートとしてまとめる（2時間）。 第8回：室内実験・観察⑤ アジの解剖（実習、実験・実技、） 事前学習：魚類（アジ）、およびその形態や体のつくり・解剖方法について調べ、まとめておく（2時間）。 事後学習：授業で扱った一連の探究過程を整理し、レポートとしてまとめる（2時間）。 第9回：室内実験・観察⑥ DNAの抽出・解析（実習、実験・実技、課題解決型学習） 事前学習：動物・植物・菌類のDNA、およびその抽出方法・解析方法（PCR、シーケンス、系統解析）について調べ、まとめておく（2時間）。 事後学習：授業で扱った一連の探究過程を整理し、レポートとしてまとめる（2時間）。

第10回：野外観察・調査① チョウ（実習・フィールドワーク、実験・実技） 事前学習：チョウ（ギフチョウ、アゲハチョウなど）、およびその生活史や分布について調べ、まとめておく（2時間）。 事後学習：授業で扱った一連の探究過程を整理し、レポートとしてまとめる（2時間）。 第11回：野外観察・調査② ホタル（実習・フィールドワーク、実験・実技） 事前学習：ホタル、およびその生活史や分布について調べ、まとめておく（2時間）。 事後学習：授業で扱った一連の探究過程を整理し、レポートとしてまとめる（2時間）。 第12回：野外観察・調査③ セミ（実習・フィールドワーク、実験・実技） 事前学習：セミ、およびその生活史や分布について調べ、まとめておく（2時間）。 事後学習：授業で扱った一連の探究過程を整理し、レポートとしてまとめる（2時間）。 第13回：野外観察・調査④ アカトンボ（実習・フィールドワーク、実験・実技） 事前学習：トンボ（主にアカネ属）、およびその生活史や分布について調べ、まとめておく（2時間）。 事後学習：授業で扱った一連の探究過程を整理し、レポートとしてまとめる（2時間）。 第14回：野外観察・調査⑤ 昆虫の採集調査（実習・フィールドワーク、実験・実技） 事前学習：昆虫の系統や種類、およびその生態（夜行性、走光性等）・採集方法について調べ、まとめておく（2時間）。 事後学習：授業で扱った一連の探究過程を整理し、レポートとしてまとめる（2時間）。 第15回：指導案の作成（まとめ）（討議、発表・プレゼンテーション） 事前学習：これまでの授業で扱ったテーマ、またはその他のテーマを題材に、自分が実験や観察を担当・実施する場合の指導案作成の準備をする（2時間）。 事後学習：作成した指導案について、改善点をまとめて修正し、今後の課題をまとめる（2時間）。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 課題・レポート（70%）、授業の取り組み（30%）
(7) 成績評価基準 課題・レポートでは、各テーマに対して仮説を立て、観察・実験・調査など適切な方法を選択して検証する一連の探究過程（問い、仮説、方法、結果、考察）を理解し、授業場面での教材化や学習活動の設計に活用できるかを評価する。授業への取り組みについては、グループワーク、発表等における主体的な参加と協働、ならびに他者の意見を踏まえて内容を改善しようとする姿勢を総合的に評価する。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書 必要に応じて提示する。
(11) その他(受講上の注意) ・授業時またはeラーニングシステムによって資料を配布する。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

音楽Ⅱ (MusicⅡ)			担当教員	坂本 流美	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-C-2451	2 単位	4 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の実践に求められる表現技術					

(1) 授 業 の 内 容
音楽を通して豊かな心・感性・表現力を養いながら子ども達の「生きる力」を育む為の一手段として「歌唱」を数多く実践し、歌う喜びや音楽する意義を習得し、歌唱指導の実践法を演習する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
幼児教育や小学校の音楽教育において「歌唱」を通して子ども達の感受性に働きかけ、歌うことの喜びを引き出すための技法を学び、数多くの歌を知る事を目的とする。 ・正しい発声法を知ることができる。 ・拍子・リズム・音符を理解し、楽譜を読むことができる。 ・コーラスを通してハーモニー感を養成する。 ・歌詞を解釈し、思いと身体の動きで表現しながら音楽を楽しむ手段を知ることができる。 ・幼児期や小学校での沢山の歌を知ることができる(改訂ポケットいっぱいのうたより)
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：15回の全体計画。発声法の実践(身体の使い方)。子どもの発声について。(グループワーク) 幼児期の歌①わらべうた・生活のうた中心の曲(拍感・リズム・音符を遊びながら理解する) 事前学習：「改訂ポケットいっぱいのうた」4・6・24の歌の練習。(2時間) 事後学習：授業の内容を復習し、習った歌の拍・リズムを叩けるようにし音程正しく歌えるようにすること。(2時間) 第2回：幼児期の歌②生活のうた中心の曲(拍感・リズム・音符の理解と表現法)(グループワーク) 事前学習：「改訂ポケットいっぱいのうた」27・33・113・23・72の歌の練習。(2時間) 事後学習：授業の内容を復習し、習った歌の拍・リズムを叩けるようにし音程正しく歌えるようにすること。(2時間) 第3回：幼児期の歌③季節のうた中心の曲「春・梅雨・夏」(拍感・リズム・音符の理解と表現法)(グループワーク) 事前学習：「改訂ポケットいっぱいのうた」111・16・48・37・38・82・98の歌の練習。(2時間) 事後学習：授業の内容を復習し、習った歌の拍・リズムを叩けるようにし音程正しく歌えるようにすること。(2時間) 第4回：幼児期の歌④季節のうた中心の曲「秋」(拍感・リズム・音符の理解と表現法)(グループワーク) 事前学習：「改訂ポケットいっぱいのうた」72・81・84・94・101・128の歌の練習。(2時間) 事後学習：授業の内容を復習し、習った歌の拍・リズムを叩けるようにし音程正しく歌えるようにすること。(2時間) 第5回：幼児期の歌⑤季節のうた中心の曲「冬」(拍感・リズム・音符の理解と表現法)(グループワーク) 事前学習：「改訂ポケットいっぱいのうた」3・10・26・126・142の歌の練習。(2時間) 事後学習：授業の内容を復習し、習った歌の拍・リズムを叩けるようにし音程正しく歌えるようにすること。(2時間) 第6回：幼児期の歌⑥動物のうた中心の曲(拍感・リズム・音符の理解と表現法)(グループワーク) 事前学習：「改訂ポケットいっぱいのうた」1・8・9・12・25の歌の練習。(2時間) 事後学習：授業の内容を復習し、習った歌の拍・リズムを叩けるようにし音程正しく歌えるようにすること。(2時間) 第7回：幼児期の歌⑦動物のうた中心の曲(拍感・リズム・音符の理解と表現法)(グループワーク) 事前学習：「改訂ポケットいっぱいのうた」78・104・123・133・136の歌の練習。(2時間) 事後学習：授業の内容を復習し、習った歌の拍・リズムを叩けるようにし音程正しく歌えるようにすること。(2時間)

第8回：幼児期の歌⑧動物のうた中心の曲（拍感・リズム・音符の理解と表現法）（グループワーク） 事前学習：「改訂ポケットいっぱい」のうた」137・138・おすもうくまちゃん・かわいいかくれんぼの歌の練習。（2時間） 事後学習：授業の内容を復習し、習った歌の拍・リズムを叩けるようにし音程正しく歌えるようにすること。（2時間） 第9回：幼児期の歌⑨楽しいうた中心の曲（拍感・リズム・音符の理解と表現法）（グループワーク） 事前学習：「改訂ポケットいっぱい」のうた」22・28・30・36・64の歌の練習。（2時間） 事後学習：授業の内容を復習し、習った歌の拍・リズムを叩けるようにし音程正しく歌えるようにすること。（2時間） 第10回：幼児期の歌⑩楽しいうた中心の曲（拍感・リズム・音符の理解と表現法）（グループワーク） 事前学習：「改訂ポケットいっぱい」のうた」74・77・79・83・89・90の歌の練習。（2時間） 事後学習：授業の内容を復習し、習った歌の拍・リズムを叩けるようにし音程正しく歌えるようにすること。（2時間） 第11回：幼児期の歌⑪楽しいうた中心の曲（拍感・リズム・音符の理解と表現法）（グループワーク） 事前学習：「改訂ポケットいっぱい」のうた」91・108・119・125・132の歌の練習。（2時間） 事後学習：授業の内容を復習し、習った歌の拍・リズムを叩けるようにし音程正しく歌えるようにすること。（2時間） 第12回：小学校のうた・文科省唱歌①「春・夏」（拍感・リズム・音符の理解と表現法）（グループワーク） 事前学習：「改訂ポケットいっぱい」のうた」117・112・57・34・49・86・144の歌の練習。（2時間） 事後学習：授業の内容を復習し、習った歌の拍・リズムを叩けるようにし音程正しく歌えるようにすること。（2時間） 第13回：小学校のうた・文科省唱歌②「秋・冬」（拍感・リズム・音符の理解と表現法）（グループワーク） 事前学習：「改訂ポケットいっぱい」のうた」131・100・135・71・121の歌の練習。（2時間） 事後学習：授業の内容を復習し、習った歌の拍・リズムを叩けるようにし音程正しく歌えるようにすること。（2時間） 第14回：小学校のうた・文科省唱歌③（拍感・リズム・音符の理解と表現法）（グループワーク） 事前学習：「改訂ポケットいっぱい」のうた」51・88・120・122・118・105の歌の練習。（2時間） 事後学習：授業の内容を復習する。幼児期や小学校での音楽「歌唱」から何が育まれるか（小レポート作成）。（2時間） 第15回：まとめ・確認 授業で習った歌のグループ発表（リズム・表現創作と共に） 事前学習：授業で習った歌の復習。（2時間） 事後学習：授業の内容を復習し、習った歌の拍・リズムを叩けるようにし音程正しく歌えるようにすること。（2時間） ※事前学習の「改訂ポケットいっぱい」のうた」の数字は、曲名に付いている番号です。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 授業中の積極的態度 (30%) 楽譜の理解度 (20%) 歌唱力・表現 (40%) 小レポート (10%)
(7) 成績評価基準 ・ より多くの歌を正しい音程・リズムで楽しく歌唱できるか。 ・ 旋律や歌詞から想像し表現することを積極的に取り組み考えることができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

(10) テキスト、参考図書
鈴木恵津子（著）「改訂 ポケットいっぱいのうた」 実践 こどものうた 簡単に弾ける144選 教育芸術社 2011年
(11) その他(受講上の注意)
テキストは毎回必ず持参して受講する。動きやすい服装で受講する。ねらいを持って受講する。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

図画工作Ⅱ (Arts and CraftsⅡ)			担当教員	伊東 知之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-C-2452	2 単位	4 年後期	演習	選択	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の実践に求められる表現技術					

(1) 授 業 の 内 容
「図画工作Ⅰ」で学んだ内容をさらに深めた様々な造形の表現方法や技法について学び、自らの造形力、表現力を養うことによって、実際の現場でも役に立つような教材開発や造形指導ができるような応用力を身につけることがねらいである。 そのために紙、木材、粘土等幅の広い様々な素材を使った造形について主に工作的な制作を通して実際に学び、素材と技術、感性との関わりを探究していく。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・学んだ造形技法について説明することができる。 ・学んだ造形技法の特質を活かした表現ができる。 ・子どもと造形の関わりについて説明できる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：人間と造形活動について 事前指導：図画工作Ⅰの課題を見返し、まとめる。(2時間) 事後指導：授業内容の人間と造形活動についてまとめる。(2時間) 第2回：絵画演習(1)デッサン(素描) 鉛筆を使って 事前指導：様々なモチーフについて特徴をまとめる。(2時間) 事後指導：課題についてさらに深く制作を行い、作品を完成させる。(2時間) 第3回：絵画演習(2)クレヨンを使って 事前指導：課題に関係するテキストを読み、内容をまとめる。(2時間) 事後指導：課題についてさらに深く制作を行い、作品を完成させる。(2時間) 第4回：工作演習 木材を使ったパズル制作①アイデアスケッチ 事前指導：課題に関係するテキストを読み、内容をまとめる。(2時間) 事後指導：アイデアスケッチをまとめる。(2時間) 第5回：工作演習 木材を使ったパズル制作②下描き 事前指導：まとめたアイデアスケッチを完成させる。(2時間) 事後指導：木版にアイデアスケッチを下描きする。(2時間) 第6回：工作演習 木材を使ったパズル制作③切り出し 事前指導：木版の下描きを完成させる。(2時間) 事後指導：ピースを完成させる。(2時間) 第7回：工作演習 木材を使ったパズル制作④着色 事前指導：紙ヤスリでピースのバリを削っておく。(2時間) 事後指導：着色を完成させる。(2時間) 第8回：工作演習 木材を使ってパズル制作⑤完成 事前指導：作品が完成するように制作を進めておく。(2時間) 事後指導：制作を進め、作品を完成させる。(2時間) 第9回：工作演習 絵本①アイデアスケッチ 事前指導：参考になる絵本を読み、内容をまとめる。(2時間) 事後指導：アイデアスケッチを完成させる。(2時間) 第10回：工作演習 絵本②絵本の製本 事前指導：絵本のストーリー展開を考えてまとめておく。(2時間) 事後指導：絵本の製本を完成させる。(2時間)

第11回：工作演習 絵本③下描き 事前指導：製本した絵本に下描きをしておく。（2時間） 事後指導：下描きを完成する。（2時間） 第12回：工作演習 絵本④着色 事前指導：下描きをもとに色彩を考えてまとめておく。（2時間） 事後指導：下描きに着色を進める。（2時間） 第13回：工作演習 絵本⑤完成 事前指導：絵本の文章を考え、まとめておく。（2時間） 事後指導：絵本に文章を記載して完成させる。（2時間） 第14回：工作演習 ペーパーウエイト制作 事前指導：金属を使ったペーパーウエイトアイデアスケッチ。（2時間） 事後指導：鋳型をつくり鋳造する。（2時間） 第15回：まとめ 事前指導：これまで制作した作品を振り返り、技法や知識についてまとめる。（2時間） 事後指導：これまでの作品を全て完成して提出する。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 課題作品（80%）、平常点（20%） （平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。）
(7) 成績評価基準 ・学んだ造形技法の特質を説明することができる。 ・学んだ造形技法の特質を活かした表現ができる。 ・子どもと造形の関わりについて説明できる。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他（実習に対するフィードバックについて） ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 『造形表現・図画工作・美術』伊東知之著 福村出版 2023年
(11) その他(受講上の注意) 図工用具を毎時間持参すること。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

体育Ⅱ (Physical EducationⅡ)			担当教員	出村 友寛、乾 典子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-C-2404	2 単位	4 年前期	演習	選択	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の実践に求められる表現技術					

(1) 授 業 の 内 容
幼児および児童の豊かな人間性を育むためには、心身の発育発達段階に即した適切な運動の経験と健康・安全についての理解が必要である。 「器械運動」や「表現運動」の運動課題をととしてその特性に応じた知識および技能を身につける。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
「器械運動」や「表現運動」の運動課題の特性を理解し、実践できる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：固定施設を使つての運動遊びの紹介(グループワーク) 出村 事前学習：固定施設を使った運動遊びの事例について調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業で紹介された運動遊びについてレポートにまとめておくこと。(2時間) 第2回：器械・器具を使つての運動遊びの紹介(グループワーク) 出村 事前学習：器械・器具を使った運動遊びの事例について調べておくこと。(2時間) 事後学習：授業で紹介された運動遊びについてレポートにまとめておくこと。(2時間) 第3回：器械運動(1) マット運動①(実技) 出村 事前学習：マット運動の事例について調べておくこと。(2時間) 事後学習：実技で行なった内容を整理してレポートにまとめておくこと。(2時間) 第4回：器械運動(2) マット運動②(実技) 出村 事前学習：マット運動の事例について調べておくこと。(2時間) 事後学習：実技で行なった内容を整理してレポートにまとめておくこと。(2時間) 第5回：器械運動(3) 跳び箱運動①(実技) 出村 事前学習：跳び箱運動の事例について調べておくこと。(2時間) 事後学習：実技で行なった内容を整理してレポートにまとめておくこと。(2時間) 第6回：器械運動(4) 跳び箱運動②(実技) 出村 事前学習：跳び箱運動の事例について調べておくこと。(2時間) 事後学習：実技で行なった内容を整理してレポートにまとめておくこと。(2時間) 第7回：器械運動(5) 鉄棒運動①(実技) 出村 事前学習：鉄棒運動の事例について調べておくこと。(2時間) 事後学習：実技で行なった内容を整理してレポートにまとめておくこと。(2時間) 第8回：器械運動(6) 鉄棒運動②(実技) 出村 事前学習：鉄棒運動の事例について調べておくこと。(2時間) 事後学習：実技で行なった内容を整理してレポートにまとめておくこと。(2時間) 第9回：表現運動(1) リズム体験(実技) 乾 事前学習：授業前日に柔軟体操などをして体を動かしておく(2時間) 事後学習：動かした体のクールダウンのため、習った柔軟体操をしておく(2時間) 第10回：表現運動(2) リズムダンス(実技) 乾 事前学習：授業前日に柔軟体操などをして体を動かしておく(2時間) 事後学習：学習したリズムダンスを復習しておく(2時間) 第11回：表現運動(3) リズムダンスの指導法と創作方法(実技) 乾 事前学習：学習したリズムダンスを実施しておく(2時間) 事後学習：習ったリズムダンスを復習しておく(2時間)

第12回：表現運動（４）ヒップホップダンスの体験（実技） 乾 事前学習：授業前日に柔軟体操などをして体を動かしておく（２時間） 事後学習：ストレッチを実施し、習ったヒップホップダンスを復習しておく（２時間） 第13回：表現運動（５）ヒップホップダンスの体験（実技） 乾 事前学習：習ったダンスを復習しておく（２時間） 事後学習：ストレッチを実施し、習ったヒップホップダンスを復習しておく（２時間） 第14回：表現運動（６）ヒップホップダンスのグループ活動（実技） 乾 事前学習：ダンスの動画を見て、フォーメーションの例題を探る（２時間） 事後学習：グループワークでの内容を確認する（２時間） 第15回：表現運動（７）ヒップホップダンスの発表（実技） 乾 事前学習：グループにてヒップホップダンスの復習をしておく（２時間） 事後学習：ダンスのグループ発表動画を見て自己評価する（２時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポート（40％）、実技試験（40％）、平常点（20％）。 平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。
(7) 成績評価基準
「器械運動」や「表現運動」の運動課題の特性を理解し、実践できている。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
文部科学省「小学校学習指導要領解説（体育編）」 東洋館出版社 平成29年 7 月
(11) その他(受講上の注意)
演習形式の授業であるので積極的に参加し、主体性をもって積極的に参加すること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

音楽演習 (Music Practice)			担当教員	辻 由記子
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-C-2405	1 単位	4 年前期	演習	選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目				
求める学習成果(教育目標)				
教育・保育の実践に求められる表現技術				

(1) 授 業 の 内 容
器楽演奏に必要と思われる演奏法、リズム表現等を重視した器楽アンサンブルの知識、技術の向上をねらう。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
幼児が個々に感じた歌やリズムを音楽的にとらえ、楽器を用いたアンサンブルの楽しさを理解させる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：手拍子等によるリズム表現1、及び打楽器を用いての演奏表現 (実技) 事前学習：簡単なリズムを自分なりの手拍子を実践すること。(0.5時間) 事後学習：授業内で出たリズムやメロディを楽器を使って演奏すること。(0.5時間) 第2回：手拍子等によるリズム表現2、及び打楽器を用いての演奏表現や譜面の読み方 (実技) 事前学習：前回のリズムやメロディを声に出して歌うこと。(0.5時間) 事後学習：授業内で出たリズムやメロディを楽器を使って演奏すること。(0.5時間) 第3回：手拍子や打楽器を用いたリズム表現、及びリズムアンサンブル 1 (グループワーク) 事前学習：簡単なリズムを両手で手拍子にして実践すること。(0.5時間) 事後学習：身近な楽器を用いてリズムやメロディを演奏すること。(0.5時間) 第4回：手拍子や打楽器を用いたリズム表現、及びリズムアンサンブル 2 (グループワーク) 事前学習：いろんな調の音階を確認し、練習すること。(0.5時間) 事後学習：簡単なリズムやメロディを鍵盤ハーモニカを用いて練習すること。(0.5時間) 第5回：鍵盤ハーモニカや木琴、鉄琴等を用いた、簡単な楽曲演奏表現 (実技) 事前学習：鍵盤ハーモニカの呼吸奏法を書籍等を用いて、調べておくこと。(0.5時間) 事後学習：木琴、鉄琴の奏法を実践し、復習すること。(0.5時間) 第6回：鍵盤ハーモニカや木琴、鉄琴等を用いた、簡単な楽曲演奏、及び二重奏の表現 (グループワーク) 事前学習：鉄琴、木琴を用いて様々な調の音階を練習すること。(0.5時間) 事後学習：二重奏楽曲の演奏上注意点を確認し、理解すること。(0.5時間) 第7回：鍵盤ハーモニカや木琴、鉄琴等を用いた、楽曲演奏、及びアンサンブル表現 1 (グループワーク) 事前学習：木琴、鉄琴の奏法に伴うマレットの移動法について調べておくこと。(0.5時間) 事後学習：鍵盤ハーモニカと木琴、鉄琴とのアンサンブルへの楽曲演奏の内容を確認し、理解すること。(0.5時間) 第8回：鍵盤ハーモニカや木琴、鉄琴等を用いた、楽曲演奏、及びアンサンブル表現 2 (グループワーク) 事前学習：木琴、鉄琴の奏法に伴うマレットの移動法について調べておくこと。(0.5時間) 事後学習：木琴、鉄琴等を用いた楽曲と打楽器との調整内容を確認し、理解すること。(0.5時間) 第9回：音律のない打楽器による、リズム表現、及びアンサンブル表現 1 (実技) 事前学習：ドラムセットの体験や、スネアドラムのスティックパフォーマンスに関して調べておくこと。(0.5時間) 事後学習：楽曲に合わせたリズム打ちを実践的に練習すること。(0.5時間) 第10回：音律のない打楽器による、リズム表現、及びアンサンブル表現 2 (実技) 事前学習：音色を重視出来るよう演奏方法を確認し、練習すること。(0.5時間) 事後学習：楽曲に合わせたドラムセットとの重奏を認識し、理解すること。(0.5時間) 第11回：木琴、鉄琴による、リズム表現、及びメロディ・アンサンブル表現 1 (グループワーク) 事前学習：木琴、鉄琴の演奏技術と奏法について書籍等を用いて、調べておくこと。(0.5時間) 事後学習：簡単なメロディのアンサンブルパターンを確認し、練習すること。(0.5時間)

第12回：木琴、鉄琴による、リズム表現、及びメロディ・アンサンブル表現 2（グループワーク） 事前学習：前回のアンサンブル曲の奏法、技術を確認し、練習すること。（0.5時間） 事後学習：2～7パートに分けられた際のアンサンブル注意点を確認し、練習すること。（0.5時間） 第13回：木琴、鉄琴による、リズム表現、及びメロディ・アンサンブル表現 3（グループワーク） 事前学習：前回のアンサンブル曲の奏法、技術を確認し、練習すること。（0.5時間） 事後学習：ドラムセットを加えた音量に留意しバランスの確認をすること。（0.5時間） 第14回：いろんな楽器の導入によるアンサンブル表現や総譜の読み方（グループワーク） 事前学習：バスドラム、カスタネット、トライアングルの奏法を書籍等を用いて、調べておくこと。（0.5時間） 事後学習：各自が様々な楽器を演奏できるよう楽譜を十分に確認し、理解すること。（0.5時間） 第15回：楽曲のアンサンブル表現、及び簡単な総譜読み方及び作成（グループワーク）（実技） 事前学習：総譜（スコア）を見て、各自の演奏ラインを確認し、練習すること。（0.5時間） 事後学習：演奏曲のどの部分に重要性があるかを探り、アンサンブルの協調性を重視する姿勢を十分に理解すること。（0.5時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
定期試験（50%）演奏表現（40%）平常点（10%） 平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。
(7) 成績評価基準
演奏技術、譜読能力に重視し、演奏表現を評価する。また、アンサンブルでの協調性等も重視する。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
・自作の楽譜 ・赤羽美希 著 「たのしい楽器あそびと合奏の本」 ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス（2025年）
(11) その他(受講上の注意)
楽器等の搬入・搬出時に伴う楽器の損傷、学生たちの怪我に十分注意を払う。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育原理Ⅱ (Principles of Early Childhood Ⅱ)			担当教員	渡辺 直人	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-A-2400	2 単位	4 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の基礎理論の理解					

(1) 授 業 の 内 容
平成29年改定の保育所保育指針を読み、旧指針との違いを把握しながら保育のあり方及び保育者のあり方について学ぶ。また、子ども・子育て支援新制度をはじめ、こども基本法の施行、こども大綱の決定など、近年の保育施策についてその概要を理解するとともに、それらの諸課題を探究する。また、必要に応じて、保育現場の視察を行う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
保育所保育指針の内容を理解し、その概要を説明することができる。 子ども・子育て支援新制度を含む近年の保育施策について理解する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション(授業の概要、保育の理念と概念) 事前学習：1年次の「保育原理Ⅰ」の内容を振り返り、また保育所保育指針をもとに質問事項をまとめておく。(2時間) 事後学習：わからないところについて図書館で調べたり、担当教員に質問する。(2時間) 第2回：「保育」と「教育」(1)意義と目的 事前学習：保育の理念や概念について関連書籍や資料を調べ、ノートにまとめておく。(2時間) 事後学習：授業内容をもとに、保育の意義に関する自分の考えを整理し記述する。(2時間) 第3回：「保育」と「教育」(2)教育制度成立の背景と目的 事前学習：現行の制度について調査し、木になったポイントをまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で扱った事例をもとに、教育制度の課題を考える。(2時間) 第4回：「保育」と「教育」(3)子ども家庭福祉及び子どもの最善の利益 事前学習：日本の子ども家庭福祉に関する制度や施策について調べる。(2時間) 事後学習：授業で学んだ内容をまとめ、子どもの最善の利益と福祉の関連性を整理する。(2時間) 第5回：「保育」と「教育」(4)保育の社会的役割と責任(発表・プレゼンテーション) 事前学習：保育が持つ社会的意義に関する資料を読み、自分の考えをまとめておく。(2時間) 事後学習：社会の中で保育が果たす責任について、事例をもとに整理する。(2時間) 第6回：保育に関する法令及び制度(1)法体系における保育の位置付け 事前学習：子ども家庭福祉に関する主要な法令(児童福祉法など)について調べる。(2時間) 事後学習：学んだ法令の内容をまとめ、保育との関連性を整理する。(2時間) 第7回：保育に関する法令及び制度(2)子ども・子育て支援新制度 事前学習：子ども・子育て支援新制度に関する資料を読み、自分の考えをまとめておく。(2時間) 事後学習：制度の意義や課題について、授業内容をもとに整理する。(2時間) 第8回：保育に関する法令及び制度(3)保育の実施体系(発表・プレゼンテーション) 事前学習：保育の実施施設の種類と役割について調べる。(2時間) 事後学習：授業で取り上げた施設の役割や課題をノートにまとめる。(2時間) 第9回：保育所保育指針(1)保育所保育指針の概要 事前学習：保育所保育指針の全文を読み、重要箇所をノートにまとめる。(2時間) 事後学習：保育所保育指針の基本理念について、自分の理解を整理する。(2時間) 第10回：保育所保育指針(2)保育の基本原則と養護 事前学習：保育における基本原則や養護に関する資料を調べ、まとめる。(2時間) 事後学習：授業内容をもとに、養護の具体例を考察し記述する。(2時間)

第11回：保育所保育指針（３）保育の目標と内容 事前学習：保育内容に関連する事例を調べ、ノートに記す。（２時間） 事後学習：授業で学んだ内容を整理し、保育の目標設定について考える。（２時間） 第12回：保育所保育指針（４）保育の環境・方法と子どもの理解（発表・プレゼンテーション） 事前学習：保育環境の整備や保育方法に関する事例を調べる。（２時間） 事後学習：学んだ内容をもとに、自分なりの保育環境を考える。（２時間） 第13回：保育の思想と歴史的変遷（１）諸外国の保育の歴史 事前学習：各国の保育に関する資料を調べ、ノートにまとめる。（２時間） 事後学習：日本の保育思想と比較し、諸外国の保育の特徴を整理する。（２時間） 第14回：保育の思想と歴史的変遷（２）日本の保育思想と歴史 事前学習：日本の保育思想の歴史に関する資料を読み、まとめる。（２時間） 事後学習：諸外国との違いを考察し、日本の保育思想の特徴を整理する。（２時間） 第15回：保育の現状と課題（日本と諸外国の比較） 事前学習：諸外国と日本の保育制度や現状について調べ、ノートにまとめる。（２時間） 事後学習：授業内容をもとに、日本の保育の課題解決策を考える。（２時間） 第16回：定期試験
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
平常点（20％） 課題レポート（40％） 試験レポート（40％） （平常点は、授業への参加状況、課題レポートの提出状況、学生発表内容を総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
読み資料の内容を的確に把握して発表を行っているか。 現代社会における保育の意義について、調べたことをもとに自分の見解を組み立てて論述できているか。 ＜レポートの評価の観点＞ ①ページ設定、枚数、テーマが指示に合っている ②論述の構成がよく、内容がわかりやすい ③自分の見解や主張が表明されている ④著書からの引用や具体例、または授業内容からの学修が論述に効果的に生かされている
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
【参考図書】 厚生労働省編『保育所保育指針解説』（フレーベル館、2018年） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館、2018年）
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども家庭支援論 (Family Support)			担当教員	青井 夕貴	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-F-2409	2 単位	4 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
求める学習成果(教育目標)					
子育て支援の理解と支援方法					

(1) 授 業 の 内 容
子どもの発達にとって基礎的な環境（集団）のひとつが家庭である。その家庭の機能やあり方は、核家族化や少子高齢化などのような社会のさまざまな影響を受け、大きく変化している。同時に、地域や家庭での子育てを支援する形態も多様に展開されている。本授業では、子育て家庭に対する支援の重要性とそのあり方について考察してほしい。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
子育て家庭やそれを構成する家族のもつ機能や役割について説明することができる。 子育て家庭のニーズに応じた支援の展開や体制について説明することができる。 子育て家庭を支える関係機関とその連携について説明することができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習（PBL） ☐ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション、家庭生活を取り巻く社会的状況 事前学習：テキスト第6章を読み、自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。（2時間） 第2回：家庭支援の必要性 事前学習：テキスト第1・2章を読み、自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。（2時間） 第3回：保育施設・保育者による家庭支援 事前学習：テキスト第3・5章を読み、自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。（2時間） 第4回：子育て家庭の福祉を図るための法体系と社会資源 事前学習：テキスト第7・8章を読み、自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。（2時間） 第5回：保育施設が実践する家庭支援の展開（クラスだよりの作成・グループワーク） 事前学習：テキスト第9章を読み、自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。（2時間） 第6回：保育施設が実践する家庭支援の展開（クラスだよりの発表） 事前学習：クラスだよりの意義や課題について、自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。（2時間） 第7回：地域の子育て家庭への支援の展開 事前学習：テキスト第4章を読み、自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。（2時間） 第8回：児童福祉施設等が実践する家庭支援の展開 事前学習：テキスト第10章を読み、自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。（2時間） 第9回：子育て家庭の多様なニーズに応じた支援～児童虐待や非行（グループワークと発表） 事前学習：テキスト第11章を読み、自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。（2時間） 第10回：子育て家庭の多様なニーズに応じた支援～ひとり親家庭や低所得世帯（グループワークと発表） 事前学習：テキスト第12章を読み、自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。（2時間）

第11回：子育て家庭の多様なニーズに応じた支援～子どもや保護者に障害がある場合（グループワークと発表） 事前学習：テキスト第13章を読み、自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。（2時間） 第12回：子育て家庭の多様なニーズに応じた支援～子どもに医療的ケアやアレルギーへの配慮が必要な場合（グループワークと発表） 事前学習：テキスト第13・14章を読み、自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。（2時間） 第13回：子育て家庭の多様なニーズに応じた支援～子どもや保護者が外国にルーツのある場合（グループワークと発表） 事前学習：テキスト第14章を読み、自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。（2時間） 第14回：子育て家庭の多様なニーズに応じた支援～いじめや不登校（グループワークと発表） 事前学習：テキスト第15章を読み、自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。（2時間） 第15回：まとめ、家庭支援の意義とは 事前学習：これまでの学びを踏まえ、家庭支援の意義について、自分の考えを整理しておく。（2時間） 事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 毎回の提出課題（60%）、レポート（20%）、発表の内容（20%）
(7) 成績評価基準 子育て家庭やそれを構成する家族のもつ機能や役割について説明することができるか。 子育て家庭のニーズに応じた支援の展開や体制について説明することができるか。 子育て家庭を支える関係機関とその連携について説明することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 安田誠人・立花直樹 監修『こどもまんなか社会に活かす「子ども家庭支援論」』晃洋書房 2025
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教職実践演習(幼・小) (Seminar on the Teaching Profession(Preschool & Elementary))			担当教員	高野 秀晴、鈴木 智子、草桶 勇人	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2455	2 単位	4 年後期	演習	選択	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 実践演習・総合演習・実習科目					
求める学習成果(教育目標)					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
本授業は、教員になるうえで自己にとって何が課題であるかを自覚し、不足している知識や技能などを補い、その定着と実践的指導力の育成を図ることにより、教職生活を円滑にスタートできることを目的とする。授業方法としては、ロールプレイングやグループ討論、事例研究、模擬授業などを取り入れ、学びの集大成とする。 なお、本授業は、教科に関する科目及び教職に関する科目担当者3人がオムニバス形式で行うこととし、教師の意義と使命・幼稚園教諭・小学校教諭の各視点から、自己にとっての課題を考えさせ、その課題解決を通して、実践的指導力（ICT活用指導力を含む）を育てることを目指す。 また、必要に応じ個別に補完的な指導を行うこととするが、この場合、補完する領域・内容等によっては、授業担当者以外の教科に関する科目の科目担当教員又は教職に関する科目の科目担当教員の参画を得て指導を行う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
教職の意義や使命、役割について説明することができる。 教員に求められる資質能力について説明することができる。 教員になるうえで自己にとって何が課題であるのかを明確化することができる。 幼稚園教諭としての実践的指導力を培うための方策を見通すことができる。 小学校教諭としての実践的指導力を培うための方策を見通すことができる。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習（PBL） ■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） □発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） □実習、フィールドワーク □実験、実技 ■その他（模擬授業）
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
高野秀晴担当分（5回） 第1回：教員の意義と使命、役割について（事例研究） 事前学習：実習時の記録を読み直し、検討を要するエピソードをピックアップする。（2時間） 事後学習：授業時に検討した事例をもとに、教員の意義と使命、役割についてレポートにまとめる。（2時間） 第2回：地域・家庭と連携するための方策を考える（グループ討論） 事前学習：実習時の記録を読み直し、実習時に地域・家庭とどのような関わりがあったかを整理する。（2時間） 事後学習：地域・家庭との連携・協働を深めるにはどうすればよいかについてレポートにまとめる。（2時間） 第3回：教員に求められる資質能力を明確化する（グループ討論） 事前学習：履修カルテを読み、これまでに身に付けられた資質能力を自分なりにカテゴライズする。（2時間） 事後学習：これまでに身に付けた資質能力を教職に活かすための方途をレポートにまとめる。（2時間） 第4回：教員に求められる社会性や対人関係能力を培うにはどうすればよいか（ロールプレイング） 事前学習：社会性や対人関係能力に関する図書を調べる。（2時間） 事後学習：社会性や対人関係能力を培うにはどうすればよいかについてレポートにまとめる。（2時間） 第5回：今後の課題を明確化する（グループ討論とレポート） 事前学習：履修カルテを読み、今後身に付けるべき資質能力をピックアップする。（2時間） 事後学習：履修カルテ、および、これまでにまとめたレポートを基にして、自身の今後の課題についてレポートにまとめる。（2時間） 鈴木智子担当分（5回） 第6回：幼児教育者に求められる資質能力を明確化する（グループ討論） 事前学習：これまでの学修や実習体験を振り返り、幼稚園教諭に求められる資質能力について、自分の意見をまとめておく。（2時間） 事後学習：履修カルテを読み、授業時のグループ討論も踏まえて、幼稚園教諭としての自分の課題をレポートにまとめる。（2時間）

- 第7回：実習体験を客観化し、実践的指導力を培う方策を考える（ロールプレイングとグループ討論）
 事前学習：これまでの実習体験における「気になる子」への関わりを振り返り、自分の関わりのねらいや反省点についてまとめる。（2時間）
 事後学習：「気になる子」への指導を通して、幼児理解、クラス運営のあり方について自分の考えをレポートにまとめる。（2時間）
- 第8回：自らの課題を洗い出し、幼児理解を深める方策を考える（事例研究とグループ討論）
 事前学習：ドキュメンテーション、ポートフォリオなどの保育記録の方法について、事前に調べ、質問項目をまとめる。（2時間）
 事後学習：授業内での事例の記録を通して、幼児の様子を考察する方法を利用して、実習記録を読み直し、自身の幼児理解を再度考察する。（2時間）
- 第9回：自らの課題を洗い出し、実践的指導力（ICT活用指導力を含む）を培う方策を考える（模擬授業とグループ討論）
 事前学習：実習体験を踏まえて、自分が課題とするテーマの遊びを調べて、模擬授業として発表できる準備をしておく。（2時間）
 事後学習：授業での他の学生の模擬授業を踏まえて、多様な遊びを調べ、そのねらいについて、レポートにまとめる。（2時間）
- 第10回：これまでの学びを振り返り、今後の課題を明確化する（グループ討論とレポート）
 事前学習：幼稚園教育要領を読み、求められる幼児教育について考え、質問項目をまとめる。（2時間）
 事後学習：これまでの授業内容を振り返り、幼稚園教育要領が求める幼児教育を踏まえた上で、自身の課題をレポートにまとめる。（2時間）
- 草桶勇人担当分（5回）
- 第11回：教育者（主に小学校）に求められる資質・能力を明確化する（グループ討論）
 事前学習：これまでの学修や実習体験を振り返り、小学校教諭に求められる資質・能力について、自分の意見をまとめる。（2時間）
 事後学習：履修カルテを読み、授業時のグループ討論も踏まえて、小学校教諭としての自分の課題をリフレクションレポートにまとめる。（2時間）
- 第12回：実習体験を客観化し、実践的指導力を培う方策を考える（ロールプレイングとグループ討論）（1）
 事前学習：これまでの実習体験における「気になる児童」への関わりを振り返り、自分の関わりのねらいや反省点についてまとめる。（2時間）
 事後学習：「気になる児童」への指導を通して、子ども理解、学級経営のあり方について自分の考えをレポートにまとめる。（2時間）
- 第13回：実習体験を客観化し、実践的指導力を培う方策を考える（ロールプレイングとグループ討論）（2）
 事前学習：これまでの実習体験における授業実践や授業観察を振り返り、自身の教育実践についての課題についてまとめる。（2時間）
 事後学習：授業実践とその省察を通して、よりよい授業のあり方について自分の考えをレポートにまとめる。（2時間）
- 第14回：自らの課題を洗い出し、課題解決のための実践的指導力（ICT活用指導力を含む）の習得にあたる。
 事前学習：各グループの課題について、自分なりの解決案について考えをまとめる。（2時間）
 事後学習：新しいグループごとの話し合いと協働作業を踏まえ、課題解決を振り返り、リフレクションレポートにまとめる。（2時間）
- 第15回：これまでの学びを振り返り、今後の課題を明確化する（グループ討論とレポート）
 事前学習：小学校学習指導要領を読み、今後求められる教育について考え、質問項目をまとめる。（2時間）
 事後学習：これまでの授業内容を振り返り、小学校学習指導要領が求める教育を踏まえた上で、自身の課題をレポートにまとめる。（2時間）
- 本授業は、これまでの学びの集大成であるため、これまでの学習内容を振り返り、整理する作業が必要となる。また、この作業を通じて見出された今後の課題に応じて、各自に補完的な学習が求められる。

(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕

原則として「面接授業」を行います。
 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

(6) 成績評価方法

レポート（25%）
 事例研究の内容（25%）
 グループ討論やロールプレイングの参加状況（25%）
 模擬授業の内容（25%）

(7) 成 績 評 価 基 準
教職の意義や使命、役割について説明することができるか。 教員に求められる資質能力について説明することができるか。 教員になるうえで自己にとって何が課題であるのかを明確化できているか。 幼稚園教諭としての実践的指導力を培うための方策を見通すことができているか。 小学校教諭としての実践的指導力を培うための方策を見通すことができているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
経歴：(元中学校・義務教育学校教諭、高等学校講師) 実務経験と授業内容との関連性：(中学校・義務教育学校教諭、高等学校講師として、算数・数学を中心とする授業実践や特別活動等の実践を行ってきた経験を有する教員が、教職の意義や教員に求められる資質や能力について実践的な活動を通して講義する。)
(10) テキスト、参考図書
参考図書は授業時に紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育実習(小学校) (Teaching Practice(Elementary))			担当教員	草桶 勇人、平岡 正実	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-E-2407	4 単位	4 年前期	実習		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 実践演習・総合演習・実習科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度					

(1) 授 業 の 内 容
1. 観察実習 学校教育の全体、特に学習指導実践の具体的あり方を観察し、教育実践者としての力量を形成していくための準備をする。 2. 参加実習 観察実習を、さらに実践に近づけたものである。指導教員が行う学習指導等に、できるだけ参画し、実践力の育成を目指す。 3. 実習(特に、授業実習) 学習指導、生徒指導等、学校教育の全領域にわたって、指導教員の指導・助言を受けながら、現職教員を手本に実践を試みる。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
実習校における各学級及び各学年の教育活動の観察・参加・指導実習を通し、小学校教育全般(授業・生徒指導・学級経営に関わる教育実務等)の基礎的な内容について実践的な理解を深め、教育者としての適性について振り返る。 1. 児童理解の知識・技能に基づき、子どもに対応できる。 2. 教員のための基礎実践能力を習得する。 3. 学校における教育活動全般について理解する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
4年次5～6月に小学校において、4週間の教育実習を行う。 各小学校教育実習校の実習計画により実施する。各小学校教育実践の実習計画に沿って、指導教員の指導・助言を受けながら、余裕をもって諸準備に取り掛かっておくこと。また、実習後の反省や指導教員のアドバイス等をその都度まとめ、次回に生かすこと。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
教育実習ノートの実践内容(60%) 実習態度(40%) で総合評価する。
(7) 成 績 評 価 基 準
・児童理解の知識・技能に基づき、子供に適切に対応できたか。 ・教員のための基礎実践能力を習得できたか。 ・学校教育全般について理解できたか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他(実習ノートへのコメント) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他(事後指導において行う。) 5) その他(教育実習に対するフィードバックについて) ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他(巡回指導時に行う。)
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 授業実習のため、主要教科(国・社・算・理)の教科書は、各自準備すること。
(11) その他(受講上の注意) 各小学校教育実習校の指示に従うこと。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (SeminarⅡ)			担当教員	渡辺 直人	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2412	2 単位	4 年前期	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
保育・教育に関連する文献、論文を講読する。 自分の研究テーマを設定し、各自研究計画を立て、これに基づいて研究を進め、成果をまとめてレポートを作成する。研究成果を受講者に報告し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等を明確にする。必要に応じて、保育現場を見学したり、保育関連のフォーラムや研修会に参加したりして、専門的な知識を習得する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
自分の研究テーマを設定し、具体的な対象と方法を定める。研究デザインや途中経過を受講者に報告し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等も明確にする。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション(ゼミの概要や方針について説明)(PBL、ディスカッション) 事前学習：3年生ゼミの内容をもとに1年間の研究計画を再度まとめておく。(2時間) 事後学習：授業や討議をもとに自分の研究計画をさらに具体化する。(2時間) 第2回：文献・雑誌講読(PBL、ディスカッション、発表) 事前学習：あらかじめ提示された文献・論文を読み、質問事項をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業や討議をもとに自分なりの考えをまとめる。(2時間) 第3回：文献・雑誌講読(PBL、ディスカッション、発表) 事前学習：あらかじめ提示された文献・論文を読み、質問事項をまとめておく。(2時間) 事後学習：第1回：課題レポートの作成。(2時間) 第4回：文献・雑誌講読(PBL、ディスカッション、発表) 事前学習：あらかじめ提示された文献・論文を読み、質問事項をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業や討議をもとに自分なりの考えをまとめる。(2時間) 第5回：文献・雑誌講読(PBL、ディスカッション、発表) 事前学習：あらかじめ提示された文献・論文を読み、質問事項をまとめておく。(2時間) 事後学習：第2回：課題レポートの作成。(2時間) 第6回：文献・雑誌講読(PBL、ディスカッション、発表) 事前学習：あらかじめ提示された文献・論文を読み、質問事項をまとめておく。(2時間) 事後学習：第3回：課題レポートの作成。(2時間) 第7回：卒研関連文献の報告(PBL、ディスカッション、発表) 事前学習：先行研究を調べ、発表用レジメを作成する。(2時間) 事後学習：授業や討議をもとに自分なりの考えをまとめる。(2時間) 第8回：卒研関連文献の報告(PBL、ディスカッション、発表) 事前学習：先行研究を調べ、発表用レジメを作成する。(2時間) 事後学習：授業や討議をもとに自分なりの考えをまとめる。(2時間) 第9回：卒研関連文献の報告(PBL、ディスカッション、発表) 事前学習：先行研究を調べ、発表の準備を行う。(2時間) 事後学習：第4回：課題レポートの作成。(2時間) 第10回：卒研関連文献の報告(PBL、ディスカッション、発表) 事前学習：先行研究を調べ、発表の準備を行う。(2時間) 事後学習：授業や討議をもとに自分なりの考えをまとめる。(2時間) 第11回：卒研関連文献の報告(PBL、ディスカッション、発表) 事前学習：先行研究を調べ、発表用レジメを作成する。(2時間) 事後学習：授業や討議をもとに自分の研究計画をまとめ直し、実施に向けた準備をする。(2時間)

第12回：卒研関連文献の報告（PBL、ディスカッション、発表） 事前学習：先行研究を調べ、発表用レジメを作成する。（2時間） 事後学習：第5回：課題レポートの作成。（2時間） 第13回：課題論文（2篇）のレポート作成事前学習：課題論文を読んでレポートにまとめる（2時間） 事後学習：討議をもとに自分なりの考えをまとめる。（2時間） 第14回：卒研関連文献の報告（PBL、ディスカッション、発表） 事前学習：先行研究を調べ、発表用レジメを作成する。（2時間） 事後学習：授業や討議をもとに自分なりの考えをまとめる。（2時間） 第15回：前期のまとめ（PBL、ディスカッション、発表） 事前学習：卒業研究の練り直した内容・方法に関するレジメを作成する。（2時間） 事後学習：授業や討議をもとに自分の研究計画をまとめ直し、実施に向けた準備をする。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
課題レポート（50％） 平常点（50％） （平常点は、授業への参加状況と受講態度を総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。 自分の研究テーマに係る対象と方法を具体的に定め、実施に向けた準備態勢に入ることができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
授業前に指示する。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (SeminarⅡ)			担当教員	伊東 知之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2412	2 単位	4 年前期	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
「子ども教育特別演習Ⅰ」で研究したことを基に造形、美術教育分野で自分が研究していく研究課題、テーマを設定し、そのテーマにそって各自が研究を深めていく。そしてその研究経過を定期的に報告しながら、問題点、改善方法等を検討するとともに、お互いに意見を出し合い、よりよいレポートになるようにさらに研究を深めていく。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・自分の研究課題について説明ができる。 ・研究方法や計画について説明ができる。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 事前学習：自分の興味のあるテーマについて資料を作成する。(2時間) 事後学習：さらに自分のテーマについて深める。(2時間) 第2回：これまでの研究発表(発表) 事前学習：発表資料を作成する。(2時間) 事後学習：質問、課題項目を調べる。(2時間) 第3回：課題研究①(PBL、実技) 事前学習：テーマの課題をまとめておく。(2時間) 事後学習：質問、課題項目を調べる。(2時間) 第4回：課題研究②(PBL、実技) 事前学習：さらにテーマの課題をまとめておく。(2時間) 事後学習：質問、課題項目を調べる。(2時間) 第5回：課題研究③(PBL、実技) 事前学習：さらにテーマの課題をまとめておく。(2時間) 事後学習：質問、課題項目を調べる。(2時間) 第6回：課題研究④(PBL、実技) 事前学習：さらにテーマの課題をまとめておく。(2時間) 事後学習：質問、課題項目を調べる。(2時間) 第7回：各自研究、制作①(PBL、実技) 事前学習：研究・制作に必要なものを準備しておく。(2時間) 事後学習：研究・制作に必要なことを調べる。(2時間) 第8回：各自研究、制作②(PBL、実技) 事前学習：研究・制作に必要なものを準備しておく。(2時間) 事後学習：研究・制作に必要なことを調べる。(2時間) 第9回：各自研究、制作③(PBL、実技) 事前学習：研究・制作に必要なものを準備しておく。(2時間) 事後学習：研究・制作に必要なことを調べる。(2時間) 第10回：各自研究、制作④(PBL、実技) 事前学習：研究・制作に必要なものを準備しておく。(2時間) 事後学習：研究・制作に必要なことを調べる。(2時間) 第11回：各自研究、制作⑤(PBL、実技) 事前学習：研究・制作に必要なものを準備する。(2時間) 事後学習：研究・制作に必要なことを調べる。(2時間)

第12回：研究発表① 事前学習：研究内容の途中発表資料を作成する。（2時間） 事後学習：質問、課題について調べる。（2時間） 第13回：研究発表② 事前学習：研究内容の途中発表資料を作成する。（2時間） 事後学習：質問、課題について調べる。（2時間） 第14回：研究発表③ 事前学習：研究内容の途中発表資料を作成する。（2時間） 事後学習：質問、課題について調べる。（2時間） 第15回：まとめと課題（PBL、実技） 事前学習：出された課題を次回の報告までに研究してくる。（2時間） 事後学習：研究経過についてレジュメにまとめてくる。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 研究報告（80％）、平常点（20％） （平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況を総合して判断します。）
(7) 成績評価基準 ・研究内容について説明することができる。 ・研究方法や研究計画について説明することができる。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (SeminarⅡ)			担当教員	中野 研也	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2412	2 単位	4 年前期	演習	必修	
＜科目区分＞ 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
探求的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
音楽または音楽に関連することについて、各自が興味を持つ対象を研究・発表し、少人数での討論を行う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
1. 音楽に関する知識と理解を深める。 2. 音楽を通して豊かな教養を身に付け、教育・保育に活かす。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：学期の研究計画(実践先・内容・回数)発表(発表) 事前学習：1年間の展望をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：担当教員の指導をふまえ、研究方法の検討を行う。(2時間) 第2回：実践と報告1(グループワーク、ディスカッション) 事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。(2時間) 事後学習：担当教員の指導をふまえ、資料等の検索を行う。(2時間) 第3回：実践と報告2(グループワーク、ディスカッション) 事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。(2時間) 事後学習：担当教員の指導をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。(2時間) 第4回：実践と報告3(グループワーク、ディスカッション) 事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。(2時間) 事後学習：担当教員の指導をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。(2時間) 第5回：実践と報告4(グループワーク、ディスカッション) 事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。(2時間) 事後学習：担当教員の指導をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。(2時間) 第6回：実践と報告、討議1(ディスカッション) 事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。(2時間) 事後学習：担当教員の指導と討議の結果をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。(2時間) 第7回：実践と報告、討議2(ディスカッション) 事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。(2時間) 事後学習：担当教員の指導と討議の結果をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。(2時間) 第8回：実践と報告、討議3(ディスカッション) 事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。(2時間) 事後学習：担当教員の指導と討議の結果をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。(2時間) 第9回：実践と報告、討議4(ディスカッション) 事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。(2時間) 事後学習：担当教員の指導と討議の結果をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。(2時間) 第10回：実践と報告、討議5(ディスカッション) 事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。(2時間) 事後学習：担当教員の指導と討議の結果をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。(2時間) 第11回：実践と報告、討議6(ディスカッション) 事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。(2時間) 事後学習：担当教員の指導と討議の結果をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。(2時間) 第12回：実践と報告、討議7(ディスカッション) 事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。(2時間) 事後学習：担当教員の指導と討議の結果をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。(2時間)

第13回：実践と報告、討議 8（ディスカッション） 事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。（2時間） 事後学習：担当教員の指導と討議の結果をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。（2時間） 第14回：まとめと卒業研究論文作成計画への展望 1（発表） 事前学習：ここまでの研究成果を簡潔にまとめておくこと。（2時間） 事後学習：担当教員の指導と討議の結果をふまえ、研究方法の修正を行う。（2時間） 第15回：まとめと卒業研究論文作成計画への展望 2 文献などの情報収集には普段から心掛けておく。 実技の学生は、製作や練習に励む。（発表） 事前学習：卒業研究論文の大枠をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：卒業研究論文の執筆を開始する。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
授業に対する姿勢（50%）、およびレポートなどの提出物（50%）を総合して評価する。
(7) 成績評価基準
音楽および音楽関連についての知識が深まったか。 実技の場合、必要な技術が身についてきているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他 (Teams) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他 (Teams) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他 (Teams) 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
ゼミ生の主体的な研究テーマを出発点とするため、共通のテキストは用いない。
(11) その他(受講上の注意)
毎回のゼミで提出あるいは作成したレポート等は、卒業論文執筆のための大切な資料となります。レポートの作成にあたっては、常に最終目的を意識してください。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (SeminarⅡ)			担当教員	青井 夕貴	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2412	2 単位	4 年前期	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
「子ども教育特別演習Ⅰ」で学んだことを基に、各自の研究目的を明確化し、研究計画を立て、これに沿って研究を進めていく。途中経過を他の受講者に報告し、互いに批評、検討し合うことで、研究の質を高めていく。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
研究目的を明確化し、研究計画に沿って、研究を進めることができる。 自他の研究について、批判的・論理的思考をもって検討することができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：今後の計画の確認① 事前学習：子ども教育特別演習Ⅰを踏まえ、課題等を整理する。(2時間) 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。(2時間) 第2回：今後の計画の確認② 事前学習：子ども教育特別演習Ⅰを踏まえ、課題等を整理する。(2時間) 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。(2時間) 第3回：研究経過報告(先行研究、目的)と議論① 事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、発表の準備をする。(2時間) 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。(2時間) 第4回：研究経過報告(先行研究、目的)と議論② 事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、発表の準備をする。(2時間) 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。(2時間) 第5回：研究経過報告(先行研究、目的)と議論③ 事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、発表の準備をする。(2時間) 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。(2時間) 第6回：研究経過報告(先行研究、目的)と議論④ 事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、発表の準備をする。(2時間) 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。(2時間) 第7回：研究経過報告(先行研究、目的)と議論⑤ 事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、発表の準備をする。(2時間) 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。(2時間) 第8回：中間まとめ 事前学習：これまでの議論等を踏まえ、先行研究及び目的を整理する。(2時間) 事後学習：自他の発表と議論を踏まえ、方法につなげる。(2時間) 第9回：研究経過報告(方法)と議論① 事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、発表の準備をする。(2時間) 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。(2時間) 第10回：研究経過報告(方法)と議論② 事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、発表の準備をする。(2時間) 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。(2時間) 第11回：研究経過報告(方法)と議論③ 事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、発表の準備をする。(2時間) 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。(2時間)

第12回：研究経過報告（方法）と議論④ 事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、発表の準備をする。（2時間） 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。（2時間） 第13回：研究経過報告（方法）と議論⑤ 事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、発表の準備をする。（2時間） 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。（2時間） 第14回：総括① 事前学習：これまでの議論等を踏まえ、進捗状況と課題を整理する。（2時間） 事後学習：自他の発表と議論を踏まえ、結果と考察につなげる。（2時間） 第15回：総括② 事前学習：これまでの議論等を踏まえ、進捗状況と課題を整理する。（2時間） 事後学習：自他の発表と議論を踏まえ、結果と考察につなげる。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
発表内容（50%）、議論への参加状況（50%）
(7) 成績評価基準
研究目的を明確化し、研究計画に沿って、研究を進めることができるか。 自他の研究について、批判的・論理的思考をもって検討することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキストは使用しない。参考図書は、必要に応じて適宜紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (SeminarⅡ)			担当教員	乙部 貴幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2412	2 単位	4 年前期	演習	必修	
＜科目区分＞ 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
子ども教育特別演習Ⅰで身につけた内容と策定した研究テーマを元に、研究に取り組む。 進捗を報告しながら互いに議論して研究を深める。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ 前回から進めた箇所について報告し、またそのための資料を作成する習慣を身につける。 ・ 研究したい目的を達成するための方法についてあらゆる可能性を探し現実的に絞り込む力を身につける。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価①。 事前学習：発表前の準備(2時間) 事後学習：発表後のまとめと発展学習(2時間) 以降、受講生の数に応じて輪番とするが、毎回全員が短い経過報告を行う。発表者は随時、PBL、討議、発表を行い、事前に他の受講生に資料を配付して各自で検討して授業に臨む。 第2回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価②。 事前学習：発表前の準備(2時間) 事後学習：発表後のまとめと発展学習(2時間) 第3回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価③。 事前学習：発表前の準備(2時間) 事後学習：発表後のまとめと発展学習(2時間) 第4回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価④。 事前学習：発表前の準備(2時間) 事後学習：発表後のまとめと発展学習(2時間) 第5回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価⑤。 事前学習：発表前の準備(2時間) 事後学習：発表後のまとめと発展学習(2時間) 第6回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価⑥。 事前学習：発表前の準備(2時間) 事後学習：発表後のまとめと発展学習(2時間) 第7回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価⑦。 事前学習：発表前の準備(2時間) 事後学習：発表後のまとめと発展学習(2時間) 第8回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価⑧。 事前学習：発表前の準備(2時間) 事後学習：発表後のまとめと発展学習(2時間) 第9回：これまでの各自の進捗状況の総括。(全員が発表、討議)。 事前学習：発表前の準備(2時間) 事後学習：発表後のまとめと発展学習(2時間) 第10回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価⑨。 事前学習：発表前の準備(2時間) 事後学習：発表後のまとめと発展学習(2時間)

第11回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価⑩。 事前学習：発表前の準備（2時間） 事後学習：発表後のまとめと発展学習（2時間） 第12回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価⑪。 事前学習：発表前の準備（2時間） 事後学習：発表後のまとめと発展学習（2時間） 第13回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価⑫。 事前学習：発表前の準備（2時間） 事後学習：発表後のまとめと発展学習（2時間） 第14回：これまでのまとめ～その1～。 事前学習：質問、相談のリストアップ（2時間） 事後学習：授業後の各自の発展学習（2時間） 第15回：これまでのまとめ～その2～。 事前学習：質問、相談のリストアップ（2時間） 事後学習：授業後の各自の発展学習と特別演習3の準備（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
・発表のための資料作成と関連資料の収集準備（100％）
(7) 成績評価基準
授業の到達目標に記載した行動目標を達成しているかどうかによる。分割によるポイント制とせず、総合的に評価する。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☒その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☒その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☒その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他（毎回レポートに対するフィードバックについて） ☒授業時 ☒大eラーニング ☒メール ☒その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書
テキストは用いない。参考図書や関連文献はその都度の紹介。
(11) その他(受講上の注意)
ゼミなので欠席しないこと。やむを得ず欠席するときは事前連絡し、代わりの日を決める手順をとること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (SeminarⅡ)			担当教員	草桶 勇人	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2412	2 単位	4 年前期	演習	必修	
＜科目区分＞ 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果（教育目標）					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容	
自分が関心を持つテーマについて研究課題を設定する。研究課題は小学校の算数教育についての実践的研究又は開発的研究に関するものとする。各自研究計画をたて、これに基づいて研究を進める。研究を推進する際、算数教育の現状を踏まえ「算数でどんな力をつけたいのか」、「授業の何を問い直したいのか」等の問題意識を明確にしながら、実践的研究又は開発研究をしていくように指導する。研究成果については、レポートにまとめさせる。研究過程で研究協議の場を適宜設け、研究をさらに深めていくための新たな課題につなげていけるように指導する。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
・自分が関心を持つテーマについて研究課題が設定できる。 ・研究課題の問題意識を明確にすることができる。(どんな力をつけたいのか。授業の何を問い直したいのか。) ・実践的研究または開発研究するための研究計画を立てることができる。 ・研究成果をレポートにまとめることができる。 ・レポートの報告を基に、研究協議を行うことができる。 ・関心を持つテーマについて、さらに深めていくための新たな課題につなげることができる。	
(3) アクティブラーニング	
■課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：オリエンテーション(課題解決型学習、討議) 事前学習：各自、3年次で設定した研究課題についてさらに検討して、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：研究課題の討議から事実を抽出し問題を見いだしたことを、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第2回：研究課題の設定・参考資料の収集と整理①(課題解決型学習、討議) 事前学習：見出した問題に関する先行研究や先行実践論文の資料を収集し、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：調べた問題に対する討議から解決策(仮説)を立ててみて、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第3回：研究課題の設定・参考資料の収集と整理②(課題解決型学習、討議) 事前学習：見出した問題に関する先行研究や先行実践論文の資料を収集し、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：調べた課題に対する討議から解決策(仮説)を焦点化し、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第4回：研究課題の研究計画再検討①(課題解決型学習、個別学習) 事前学習：解決策をもとに学習課題を設定し、追加情報を集め、その要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：追加情報に関する討議から仮説を検討し、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第5回：研究課題の研究計画再検討② 事前学習：解決策をもとに学習課題を設定し、追加情報を集め、その要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：追加情報に関する討議からさらに仮説を検討し、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第6回：研究構想の中間まとめ(課題解決学習、討議) 事前学習：これまでの議論から新しく得た知識と既有知識を統合し、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：研究課題と見いだした問題の解決策(仮説)の討議からさらに検討し、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第7回：中間まとめと検討会(課題解決学習、発表) 事前学習：検討会に向けた中間まとめを作成しておくこと。(2時間) 事後学習：検討会を通して焦点化された研究課題とその解決策について整理し、リフレクションシートにまとめる。(2時間)	

第8回：研究課題・研究計画の検討（課題解決学習、討議） 事前学習：研究課題と抽出された問題その仮説を検証するための研究計画を策定し、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：研究計画の討議から明らかになったことや課題等について、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第9回：研究資料・参考資料の収集と整理①（課題解決学習、個別学習） 事前学習：仮説を検証するための研究資料や参考資料の収集について計画を立てて、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：収集した研究資料等を整理し、その構造化を図り、要点をリフレクションシートにまとめる。（2時間） 第10回：研究資料・参考資料の収集と整理②（課題解決学習、個別学習） 事前学習：仮説を検証するための研究資料や参考資料の収集について計画を立てて、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：収集した研究資料等を整理し、その構造化を図り、要点をリフレクションシートにまとめる。（2時間） 第11回：研究資料等の考察・検討①（課題解決学習、討議） 事前学習：各自が整理した研究資料等の要点を前もって読み合うこと。（2時間） 事後学習：研究資料等の考察や検討討議から、研究計画への位置づけを検討し、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第12回：研究資料等の考察・検討②（課題解決学習、討議） 事前学習：各自が整理した研究資料等の要点を前もって読み合うこと。（2時間） 事後学習：研究資料等の考察や検討討議から、研究計画への位置づけを検討し、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第13回：研究資料等の考察・検討③（課題解決学習、討議） 事前学習：各自が整理した研究資料等の要点を前もって読み合うこと。（2時間） 事後学習：研究資料等の考察や検討討議から、研究計画への位置づけを検討し、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第14回：研究構想レポートのまとめ・討議（課題解決学習、発表、討議） 事前学習：これまでの討議を踏まえて研究課題と見出した問題、その解決のための計画に関するレポート第1稿を作成しておくこと。（2時間） 事後学習：レポート第1項の発表・討議から、細部を検討し、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第15回：研究構想発表会（課題解決学習、発表、討議） 事前学習：これまでの討議を踏まえた研究構想についてプレゼンテーション資料を作成しておくこと。（2時間） 事後学習：研究構想発表とその討議を通して明らかになったことや課題を整理し、リフレクションシートにまとめる。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 リフレクション・レポート（20%）、中間及びまとめの研究レポート（30%×2）、研究協議等授業への参加状況（20%）等を総合して判断する。
(7) 成績評価基準 ・関心を持つ研究テーマを設定できたか。 ・研究課題に対する問題意識を明確に表現できたか。 ・研究計画を立てて、研究成果をレポートにまとめることができたか。 ・積極的な研究協議ができたか。

(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
特になし
(11) その他(受講上の注意)
何回かのレポートの報告会を節目に研究を推進する。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (SeminarⅡ)			担当教員	鈴木 智子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2412	2 単位	4 年前期	演習	必修	
＜科目区分＞ 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
自分が関心を持つテーマについて課題研究を設定する。研究課題は保育・教育、子どもの発達や援助についての実証的研究又は開発的研究に関するものとする。各自研究計画をたて、これに基づいて研究を進め、成果をまとめてレポートを作成する。研究成果を受講者に報告し、お互いに批判・検討し合うとともに今後の課題等も明確にする。 「子ども教育特別演習Ⅰ」での学習成果を踏まえて、自主的研究のための課題をそれぞれが設定し、研究計画をたてる。その計画に沿ってそれぞれが研究成果を発表するとともに、相互理解・相互批判を繰り返しつつ研究を深めていく。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
研究計画を立てて、研究を進めることができる。 他者の研究について批判的検討ができる。 論文の書き方を修得する。
(3) アクティブラーニング
☐課題解決型学習(PBL) ☒討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐実習、フィールドワーク ☐実験、実技 ☐その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 事前学習：これまでの学習を振り返り、探求したい自己のテーマを決めてくる(2時間) 事後学習：授業内容を踏まえて、探求したい自己のテーマを精査する(2時間) 第2回：研究発表と討論1 事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジюмеを作成する(2時間) 事後学習：授業での討論を踏まえて、レジюмеを見直し、先行研究のまとめを作成する(2時間) 第3回：研究発表と討論2 事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジюмеを作成する(2時間) 事後学習：授業での討論を踏まえて、レジюмеを見直し、先行研究のまとめを作成する(2時間) 第4回：研究発表と討論3 事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジюмеを作成する(2時間) 事後学習：授業での討論を踏まえて、レジюмеを見直し、先行研究のまとめを作成する(2時間) 第5回：研究発表と討論4 事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジюмеを作成する(2時間) 事後学習：授業での討論を踏まえて、レジюмеを見直し、先行研究のまとめを作成する(2時間) 第6回：研究発表と討論5 事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジюмеを作成する(2時間) 事後学習：授業での討論を踏まえて、レジюмеを見直し、先行研究のまとめを作成する(2時間) 第7回：研究発表と討論6 事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジюмеを作成する(2時間) 事後学習：授業での討論を踏まえて、レジюмеを見直し、先行研究のまとめを作成する(2時間) 第8回：研究発表と討論7 事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジюмеを作成する(2時間) 事後学習：授業での討論を踏まえて、レジюмеを見直し、先行研究のまとめを作成する(2時間) 第9回：中間のまとめ 事前学習：これまでの授業内容を振り返り、テーマに関して得られた知識をまとめておく(2時間) 事後学習：授業内容を踏まえて、保育・教育に対する問題意識を明確にする(2時間)

第10回：研究発表と討論 1 事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジюмеを作成する（2時間） 事後学習：授業での討論を踏まえて、レジюмеを見直し、先行研究のまとめを作成する（2時間） 第11回：研究発表と討論 2 事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジюмеを作成する（2時間） 事後学習：授業での討論を踏まえて、レジюмеを見直し、先行研究のまとめを作成する（2時間） 第12回：研究発表と討論 3 事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジюмеを作成する（2時間） 事後学習：授業での討論を踏まえて、レジюмеを見直し、先行研究のまとめを作成する（2時間） 第13回：研究発表と討論 4 事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジюмеを作成する（2時間） 事後学習：授業での討論を踏まえて、レジюмеを見直し、先行研究のまとめを作成する（2時間） 第14回：研究発表と討論 5 事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジюмеを作成する（2時間） 事後学習：授業での討論を踏まえて、レジюмеを見直し、先行研究のまとめを作成する（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：これまでの授業内容を振り返り、テーマに関して得られた知識をまとめておく（2時間） 事後学習：授業内容を踏まえて、保育・教育に対する問題意識を明確にする（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 発表内容（50%）、討論への参加態度（30%）、平常点（20%） （平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する）
(7) 成績評価基準 研究計画を立てて、研究を進めることができるか。 他者の研究について批判的検討ができるか。 論文の書き方を修得できているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 テキストは用いない。受講生のテーマに応じて、適宜参考図書を紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (SeminarⅡ)			担当教員	高野 秀晴	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2412	2 単位	4 年前期	演習	必修	
＜科目区分＞ 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
探求的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
「子ども教育特別演習Ⅰ」における学修を基礎に、各自が研究課題を明確化していくことを目指す。そのためには、自身の関心を先行研究との関連のもとに位置付けていく作業が不可欠となる。したがって、授業の内容は、各自が蒐集した文献の講読と討論が中心となる。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
相手の意見を聞いたうえで、自らの意見を論理的に述べることができる。 自らの関心と照らし合わせ、研究課題を明確化することができる。 研究課題について体系的に調べることができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 事前学習：講読文献を検索しておく。(2時間) 事後学習：研究計画を作成する。(2時間) 第2回：担当者による発表と討議 事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。(2時間) 第3回：担当者による発表と討議 事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。(2時間) 第4回：担当者による発表と討議 事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。(2時間) 第5回：担当者による発表と討議 事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。(2時間) 第6回：担当者による発表と討議 事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。(2時間) 第7回：担当者による発表と討議 事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。(2時間) 第8回：担当者による発表と討議 事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。(2時間) 第9回：担当者による発表と討議 事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。(2時間) 第10回：担当者による発表と討議 事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。(2時間) 第11回：担当者による発表と討議 事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。(2時間)

第12回：担当者による発表と討議 事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間） 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間） 第13回：担当者による発表と討議 事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間） 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間） 第14回：担当者による発表と討議 事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間） 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間） 第15回：担当者による発表と討議 事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間） 事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
討論への参加状況（50%） 発表内容（50%）
(7) 成績評価基準
相手の意見を聞いたうえで、自らの意見を論理的に述べることができるか。 自らの関心と照らし合わせ、研究課題を明確化することができているか。 研究課題について体系的に調べることができているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて配布する。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (SeminarⅡ)			担当教員	出村 友寛	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2412	2単位	4年前期	演習	必修	
＜科目区分＞ 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果（教育目標）					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
研究を実施する際の課題設定、課題解決のための計画立案、実施、データの処理、および論文の作成方法について学習する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
研究の実施に必要な基本的な知識（課題設定、研究計画の立案・実施、研究結果の整理・分析、研究論文の作成）を習得する。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習（PBL） ☒ 討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☐ グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等） ☒ 発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等） ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション（ゼミの概要や方針について説明） 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間） 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間） 第2回：発表、質疑応答①（PBL、ディスカッション、発表） 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間） 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間） 第3回：発表、質疑応答②（PBL、ディスカッション、発表） 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間） 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間） 第4回：発表、質疑応答③（PBL、ディスカッション、発表） 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間） 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間） 第5回：発表、質疑応答④（PBL、ディスカッション、発表） 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間） 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間） 第6回：発表、質疑応答⑤（PBL、ディスカッション、発表） 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間） 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間） 第7回：発表、質疑応答⑥（PBL、ディスカッション、発表） 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間） 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間） 第8回：発表、質疑応答⑦（PBL、ディスカッション、発表） 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間） 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間） 第9回：発表、質疑応答⑧（PBL、ディスカッション、発表） 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間） 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間） 第10回：中間まとめ（PBL、ディスカッション、発表） 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間） 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間） 第11回：研究の中間発表（PBL、ディスカッション、発表） 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間） 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）

第12回：研究の中間発表（PBL、ディスカッション、発表） 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間） 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間） 第13回：研究の中間発表（PBL、ディスカッション、発表） 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間） 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間） 第14回：研究の中間発表（PBL、ディスカッション、発表） 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間） 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間） 第15回：まとめ（PBL、ディスカッション、発表） 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間） 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 発表内容（50%）、レポート（50%）
(7) 成績評価基準 研究の実施に必要な基本的な知識（課題設定、研究計画の立案・実施、研究結果の整理・分析、研究論文の作成）を理解できているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 必要に応じて資料を配布、紹介する。
(11) その他(受講上の注意) 遅刻、欠席、および早退の際は連絡ください。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	渡辺 直人	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2454	2 単位	4 年後期	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例を参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習において文献等を講読し、討論することを通して、自らの研究テーマを設定する。ゼミとして、地域課題の解決に向けた活動を行なうとともに、必要に応じて、保育関連のフォーラムや研修会に参加して、専門的な知識を習得する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
文献等の講読や討論を通じて、研究課題の対象と方法を学び、自らの研究テーマを設定する。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション(ゼミの概要や方針について説明、CiNiiの活用方法について) 事前学習：これまでの大学での学びの成果と課題をまとめておく(2時間) 事後学習：文献検索の手法を用いて、複数の文献をピックアップする。(2時間) 第2回：文献講読 事前学習：「保育の現場・職業の魅力向上に関する報告書」を読む。(2時間) 事後学習：第1回課題レポートの作成。(2時間) 第3回：自主課題の発表(1)レポートの書き方(討議) 事前学習：自分の選んだ文献・論文等について内容報告のためのレジメを作成する。(2時間) 事後学習：第2回課題レポートの作成。(2時間) 第4回：自主課題の発表(2)レポートの書き方(討議) 事前学習：自分の選んだ文献・論文等について内容報告のためのレジメを作成する。(2時間) 事後学習：第3回課題レポートの作成。(2時間) 第5回：自主課題の発表(3)(発表・プレゼンテーション) 事前学習：自分の選んだ文献・論文等について内容報告のためのレジメを作成する。(2時間) 事後学習：第3回課題レポートの作成。(2時間) 第6回：自主課題の発表(4)(発表・プレゼンテーション) 事前学習：自分の選んだ文献・論文等について内容報告のためのレジメを作成する。(2時間) 事後学習：第3回課題レポートの作成。(2時間) 第7回：図書館において文献検索指導 事前学習：あらかじめCiNiiで文献検索を試してみる。(2時間) 事後学習：講習をもとに文献検索を試してみる。(2時間) 第8回：課題論文(2篇)のレポート作成(課題解決型学習) 事前学習：課題論文を読んでレポートにまとめる。(2時間) 事後学習：第4回課題レポートの作成。(2時間) 第9回：課題論文レポートの講評(課題解決型学習) 事前学習：自分のレポートの発表を準備する。(2時間) 事後学習：討議をもとに自分の考えをまとめる。(2時間) 第10回：自主課題の発表(5)(発表・プレゼンテーション) 事前学習：自分の選んだ文献・論文等について内容報告のためのレジメを作成する。(2時間) 事後学習：第7回課題レポートの作成。(2時間) 第11回：自主課題の発表(6)(発表・プレゼンテーション) 事前学習：自分の選んだ文献・論文等について内容報告のためのレジメを作成する。(2時間) 事後学習：第8回課題レポートの作成。(2時間)

第12回：研究の方法（１）（討議） 事前学習：あらかじめ提示された文献・雑誌を読み、質問事項をまとめておく。（２時間） 事後学習：第９回課題レポートの作成。（２時間） 第13回：研究の方法（２）（討議） 事前学習：あらかじめ提示された文献・雑誌を読み、質問事項をまとめておく。（２時間） 事後学習：第10回課題レポートの作成。（２時間） 第14回：研究のデザイン発表（PBL、ディスカッション、グループワーク、発表） 事前学習：４年生に予定している研究（内容・方法）について報告するためのレジメを作成する。（２時間） 事後学習：授業や討議をもとに自分の研究計画をまとめ直す。（２時間） 第15回：研究のデザイン発表（PBL、ディスカッション、グループワーク、発表） 事前学習：４年生に予定している研究（内容・方法）について報告するためのレジメを作成する。（２時間） 事後学習：授業や討議をもとに自分の研究計画をまとめ直す。（２時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
課題レポート（60％） 平常点（40％） （平常点は、授業への参加状況、受講態度を総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。 自分の研究テーマに係る対象と方法について、デザイン発表することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
講読する文献、論文は適宜紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	伊東 知之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2454	2 単位	4 年後期	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
「子ども教育特別演習Ⅰ・Ⅱ」を踏まえ、自身が設定した造形、美術教育等の研究課題をさらに深め、完成度の高い卒業研究となるように定期的な報告、検討を重ねながら進めていく。制作を伴うものについては、制作技術について学ぶとともに制作過程や制作方法等についてもレポートとしてまとめ、作品とともに総合的な研究としていく。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・研究内容について説明することができる。 ・研究方法や研究計画について説明することができる。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：これまでの経過確認と今後の計画について 事前学習：最終テーマと計画表を作成してくる。(2時間) 事後学習：最終テーマと計画表の詳細を作成する。(2時間) 第2回：各自の研究、制作(PBL、実技) 事前学習：テーマの課題と内容をまとめておく。(2時間) 事後学習：テーマの課題について調べる。(2時間) 第3回：各自の研究、制作(PBL、実技) 事前学習：テーマの課題と内容をまとめておく。(2時間) 事後学習：テーマの課題について調べる。(2時間) 第4回：各自の研究、制作(PBL、実技) 事前学習：テーマの課題と内容をまとめておく。(2時間) 事後学習：テーマの課題について調べる。(2時間) 第5回：各自の研究、制作(PBL、実技) 事前学習：テーマの課題と内容をまとめておく。(2時間) 事後学習：テーマの課題について調べる。(2時間) 第6回：中間発表(発表) 事前学習：発表用資料を作成する。(2時間) 事後学習：質問、課題項目をまとめて、調べる。(2時間) 第7回：各自の研究、制作(PBL、実技) 事前学習：テーマの内容と課題をまとめておく。(2時間) 事後学習：テーマの課題について調べる。(2時間) 第8回：各自の研究、制作(PBL、実技) 事前学習：テーマの内容、課題をまとめておく。(2時間) 事後学習：テーマの課題について調べる。(2時間) 第9回：各自の研究、制作(PBL、実技) 事前学習：テーマの内容、課題をまとめておく。(2時間) 事後学習：テーマの課題について調べる。(2時間) 第10回：各自の研究、制作(PBL、実技) 事前学習：テーマの内容、課題をまとめておく。(2時間) 事後学習：テーマの課題について調べる。(2時間) 第11回：研究のまとめ(PBL、実技) 事前学習：報告書・論文の構成をまとめる。(2時間) 事後学習：質問、課題を調べて、まとめる。(2時間)

第12回：研究のまとめ（PBL、実技） 事前学習：テーマの課題をまとめておく。（2時間） 事後学習：テーマの内容を報告書・論文としてまとめる。（2時間） 第13回：研究のまとめ（PBL、実技） 事前学習：報告書・論文作成についての課題をまとめる。（2時間） 事後学習：課題を調査し、報告書・論文としてまとめる。（2時間） 第14回：研究のまとめ（PBL、実技） 事前学習：報告書・論文作成についての課題をまとめる。（2時間） 事後学習：課題を調査し、報告書・論文としてまとめる。（2時間） 第15回：まとめ・報告書・論文の提出。（発表） 事前学習：研究課題について報告書・論文にまとめ、要旨、発表用スライドを作成する。（2時間） 事後学習：報告書・作品・論文、要旨を提出し、発表のリハーサルを行う。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
報告内容（80%）、平常点（20%） （平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。）
(7) 成績評価基準
・研究内容について説明することができる。 ・研究課題や研究計画について説明することができる。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（添削、コメントを書いて返却） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（添削、コメントを書いて返却） 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（添削、コメントを書いて返却） 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（添削、コメントを書いて返却） 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて指示する。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	中野 研也	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2315	2 単位	4 年後期	演習	必修	
＜科目区分＞ 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
専門分野に関するこれまでの学修を基礎とし、課題設定、仮説の立て方、研究の方法、結果のまとめ方、発表の方法を学び、問題解決能力の向上を目指す。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
科学教育に関する課題を見出し、適切に探究活動を行うことができる。自然科学領域に関する観察・実験・調査等を行い、結果を適切に考察し、まとめたり、発表したりすることができる。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション(PBL、ディスカッション) 事前学習：探究活動とは何かについて調べて、まとめておく(2時間)。 事後学習：年間を通した活動内容を整理し、大きな見通しをもつ(2時間)。 第2回：実験器具、実験室の使い方(実験) 事前学習：実験器具の使い方を整理し、基礎的な操作方法を確認しておく(2時間)。 事後学習：実験器具の使い方について基礎的技能を確認する(2時間)。 第3回：科学的なものの見方・考え方(PBL、ディスカッション) 事前学習：科学的とは何かについて、自分の考えをまとめる(2時間)。 事後学習：科学的なものの見方・考え方について整理する(2時間)。 第4回：先行研究の調べ方(PBL、ディスカッション) 事前学習：先行研究とは何かについて、自分の考えを整理する(2時間)。 事後学習：自分の課題に関する先行研究を調べて、その概略をまとめる(2時間)。 第5回：課題設定の方法(PBL、ディスカッション) 事前学習：自分の興味や関心のあるテーマをリストアップする(2時間)。 事後学習：課題設定のための方法を試みる(2時間)。 第6回：仮説の立て方(PBL、ディスカッション) 事前学習：仮説とは何かについて、自分の考えを整理する(2時間)。 事後学習：具体的な事例に基づいて、仮説を立てる練習を行う(2時間)。 第7回：実験ノートの書き方、結果のまとめ方(PBL、ディスカッション) 事前学習：実験ノートについての自分の考えをまとめる(2時間)。 事後学習：実験に関するノートの書き方を理解し、事例に基づいて書いてみる(2時間)。 第8回：先行研究の調査・論文発表①(PBL、ディスカッション、発表) 事前学習：自分の興味・関心のある論文を探し、発表形式にまとめる(2時間)。 事後学習：自分の発表を振り返り、次の発表に反映させる(2時間)。 第9回：先行研究の調査・論文発表②(PBL、ディスカッション、発表) 事前学習：自分の興味・関心のある論文を探し、発表形式にまとめる(2時間)。 事後学習：自分の発表を振り返り、次の発表に反映させる(2時間)。 第10回：先行研究の調査・論文発表③(PBL、ディスカッション、発表) 事前学習：自分の興味・関心のある論文を探し、発表形式にまとめる(2時間)。 事後学習：自分の発表を振り返り、次の発表に反映させる(2時間)。 第11回：課題の設定(PBL、ディスカッション) 事前学習：これまでの活動から課題を設定し、探究活動の見通しをもつ(2時間)。 事後学習：課題に対する仮説の確認を行う(2時間)

第12回：仮説の立案 (PBL、ディスカッション) 事前学習：課題解決の見通しをもって、仮説を立てる (2時間)。 事後学習：検証可能な仮説になっているかについて確認する (2時間)。 第13回：探究活動のための材料と方法 (PBL) 事前学習：仮説を検証するための適切な材料と方法を考える (2時間)。 事後学習：検討した材料と方法について具体的な行動計画を立てる (2時間)。 第14回：研究計画書の作成 (PBL、ディスカッション) 事前学習：研究計画書を作成する (2時間)。 事後学習：授業でのディスカッションに基づいて研究計画書の修正をする (2時間)。 第15回：研究計画に基づいて探究活動の遂行 (PBL、ディスカッション) 事前学習：自律的に探究活動を行うことの重要性を意識する (2時間)。 事後学習：自分の探究活動を振り返り、問題点を整理し、改善策を考える (2時間)。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
論文紹介発表 (30%)， 平常点 (30%)， 提出物 (40%) ※平常点は授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。
(7) 成績評価基準
(1) 科学教育における課題を見出すことができる。 (2) 課題を適切に処理し、考察し、結論を導くことができる。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて提示する。
(11) その他(受講上の注意)
学内外での活動(自然観察、セミナー、学会等への参加) も含まれる。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	青井 夕貴	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2454	2 単位	4 年後期	演習	必修	
＜科目区分＞ 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
探求的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
「子ども教育特別演習Ⅱ」に引き続き授業を進めていく。これらの演習を通して、専門分野に関する研究方法を理解するとともに、卒業研究へとつなげていく。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
研究計画に沿って、研究を進めることができる。 自他の研究について、批判的・論理的思考をもって検討することができる。 自分の研究結果や考察をまとめることができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：研究経過報告(結果)と議論① 事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、まとめる。(2時間) 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、自分の研究を進めていく。(2時間) 第2回：研究経過報告(結果)と議論② 事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、まとめる。(2時間) 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、自分の研究を進めていく。(2時間) 第3回：研究経過報告(結果)と議論③ 事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、まとめる。(2時間) 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、自分の研究を進めていく。(2時間) 第4回：研究経過報告(結果)と議論④ 事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、まとめる。(2時間) 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、自分の研究を進めていく。(2時間) 第5回：研究経過報告(結果)と議論⑤ 事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、まとめる。(2時間) 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、自分の研究を進めていく。(2時間) 第6回：研究経過報告(考察)と議論① 事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、まとめる。(2時間) 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、自分の研究を進めていく。(2時間) 第7回：研究経過報告(考察)と議論② 事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、まとめる。(2時間) 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、自分の研究を進めていく。(2時間) 第8回：研究経過報告(考察)と議論③ 事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、まとめる。(2時間) 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、自分の研究を進めていく。(2時間) 第9回：研究経過報告(考察)と議論④ 事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、まとめる。(2時間) 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、自分の研究を進めていく。(2時間) 第10回：研究経過報告(考察)と議論⑤ 事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、まとめる。(2時間) 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、自分の研究を進めていく。(2時間) 第11回：卒業研究発表の準備① 事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等をまとめ、発表の準備をする。(2時間) 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、修正する。(2時間)

第12回：卒業研究発表の準備② 事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等をまとめ、発表の準備をする。（2時間） 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、修正する。（2時間） 第13回：卒業研究発表の準備③ 事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等をまとめ、発表の準備をする。（2時間） 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、修正する。（2時間） 第14回：卒業研究発表の準備④ 事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等をまとめ、発表の準備をする。（2時間） 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、修正する。（2時間） 第15回：卒業研究発表の準備⑤ 事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等をまとめ、発表の準備をする。（2時間） 事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、修正する。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 発表内容（50%）、議論への参加状況（50%）
(7) 成績評価基準 研究計画に沿って、研究を進めることができたか。 自他の研究について、批判的・論理的思考をもって検討することができたか。 自分の研究結果や考察をまとめることができたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 テキストは使用しない。参考図書は、必要に応じて適宜紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	乙部 貴幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2454	2 単位	4 年後期	演習	必修	
＜科目区分＞ 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果（教育目標）					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
各自の卒業論文のテーマに深く関連すると思われる研究資料について意見交換や情報収集と評価を行う。 ・研究論文や図書の中から深く関わる資料を選択し、それらの内容を正しく理解した上で自分なりに評価する。 ・実験・調査を行う場合には、得られたデータを正しく解析・解釈する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・先行研究、自らが行う研究それぞれの「意義」を自分なりに考え、説明できる。 ・先行研究の成果と意義を理解し自分なりに評価することができるようにする。 ・実験・調査を行う際には、正当な手続きによってデータを収集し、それらを適切に解析・解釈できる。
(3) アクティブラーニング
☒課題解決型学習(PBL) ☒討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐実習、フィールドワーク ☐実験、実技 ☐その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
同時進行の各自の卒業論文の作成に深くあるいは周道的に関連すると思われる各種の図書や研究論文を収集し、読み、自分の構想の中に位置づけていく。 第1回：関連資料の発表と評価①(PBL、討議、発表) 事前学習：発表準備(2時間) 事後学習：授業後のまとめ(2時間) 第2回：関連資料の発表と評価②(PBL、討議、発表) 事前学習：発表準備(2時間) 事後学習：授業後のまとめ(2時間) 第3回：関連資料の発表と評価③(PBL、討議、発表) 事前学習：発表準備(2時間) 事後学習：授業後のまとめ(2時間) 第4回：関連資料の発表と評価④(PBL、討議、発表) 事前学習：発表準備(2時間) 事後学習：授業後のまとめ(2時間) 第5回：関連資料の発表と評価⑤(討議、発表) 事前学習：発表準備(2時間) 事後学習：授業後のまとめ(2時間) 第6回：関連資料の発表と評価⑥(討議、発表) 事前学習：発表準備(2時間) 事後学習：授業後のまとめ(2時間) 第7回：関連資料または構想発表と評価①(討議、発表) 事前学習：発表準備(2時間) 事後学習：授業後のまとめ(2時間) 第8回：関連資料または構想発表と評価②(討議、発表) 事前学習：発表準備(2時間) 事後学習：授業後のまとめ(2時間) 第9回：関連資料または構想発表と評価③(討議、発表) 事前学習：発表準備(2時間) 事後学習：授業後のまとめ(2時間) 第10回：関連資料または構想発表と評価④(討議、発表) 事前学習：発表準備(2時間) 事後学習：授業後のまとめ(2時間)

第11回：関連資料または構想発表と評価⑤（討議、発表） 事前学習：発表準備（2時間） 事後学習：授業後のまとめ（2時間） 第12回：卒業論文のアドバイスおよび意見交換①（討議、発表） 事前学習：発表準備（2時間） 事後学習：授業後のまとめ（2時間） 第13回：卒業論文のアドバイスおよび意見交換②（討議、発表） 事前学習：発表準備（2時間） 事後学習：授業後のまとめ（2時間） 第14回：子ども教育との関連性の確認①（PBL、討議、発表） 事前学習：発表準備（2時間） 事後学習：授業後のまとめ（2時間） 第15回：子ども教育との関連性の確認②（PBL、討議、発表） 事前学習：発表準備（2時間） 事後学習：授業後のまとめ（2時間） あらゆる機会を見つけて卒業論文に関連する資料を収集・検討する努力を惜しまないこと。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
資料準備・議論参加（100％）
(7) 成績評価基準
・専門的な知識の習得 ・最近の動向について自分なりの理解と見識を持つことができていること。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☒その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☒その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☒メール ☒その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他（毎回レポートに対するフィードバックについて） ☒授業時 ☒大eラーニング ☒メール ☒その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書
用いない。参考資料は、ゼミ発表の内容を受けて、授業中に、個別にその都度指示する。
(11) その他(受講上の注意)
授業時間にとどまらず、オフィスアワー等を利用して広く関連する資料の収集に努めること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	草桶 勇人	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-G-2454	2 単位	4 年後期	演習		必修
＜科目区分＞ 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果（教育目標）					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
各自の研究計画に沿って進めるが、以下に実践研究を想定した授業計画を例として記載する。なお、研究推進上、授業等の実践が必要な場合は、本学との連携協力校等で実施できるような体制を整え、授業後の検討会では、できるだけ現場教師の講評がもらえるよう配慮する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
1. 「子ども教育特別演習Ⅱ」に引き続き、研究を進めていく。これらの演習を通して専門分野に関する研究方法を習得すると同時に、卒業研究へとつなげていくことができる。 2. 「子ども教育特別演習Ⅰ・Ⅱ」を踏まえ、自身が設定した研究テーマをさらに深め、完成度の高い研究になるように定期的な報告を重ねながら研究を進め、その総括として研究成果をまとめてレポートを作成することができる。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション(課題解決型学習、討議) 事前学習：各自、前期で策定した研究構想についてさらに検討して、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：研究構想の討議から具体的な取り組み内容とその計画を策定し、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第2回：単元の教材研究(課題解決型学習、討議) 事前学習：研究課題の仮説に関わる単元について教科書の比較等の教材研究を行い、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：教材研究に関する検討と討議から単元構想を策定し、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第3回：指導案等の作成(課題解決型学習、討議) 事前学習：単元構想に基づいて仮説を検証する授業時間を確定し、その指導案等を作成しておくこと。(2時間) 事後学習：仮説検証のための指導案に対する検討討議をもとに再度見直し、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第4回：協力校との打ち合わせ及び授業観察(課題解決型学習、フィールドワーク) 事前学習：検討討議に基づいて学習指導案を確定しておくこと。(2時間) 事後学習：協力校の担当教員との打ち合わせ及び当該学級の授業観察から、留意点をまとめ、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第5回：事前アンケート等の検討(課題解決型学習、討議) 事前学習：レディネステストを含む事前・事後アンケートの案を作成しておくこと。(2時間) 事後学習：事前・事後アンケート等に関する検討討議からその内容を見直し、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第6回：授業及び授業研究会の実施(課題解決型学習、実習、討議) 事前学習：授業の準備及び協力校当該学級で事前アンケートの趣旨説明を行い、アンケートを実施しておくこと。(2時間) 事後学習：研究授業の実施と実施後の研究会で出された成果と課題を整理し、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第7回：事後アンケートの実施と事前アンケート等の整理(課題解決型学習、個別学習) 事前学習：授業後のアンケート等を当該学級の担任と再度検討し、実施してもらっておくこと。(2時間) 事後学習：事前に実施したアンケート等の整理を行い、リフレクションシートにまとめる。(2時間)

第8回：事後アンケート等の整理（課題解決学習、個別学習） 事前学習：事後アンケート等の結果の整理を行い、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：事後アンケート等の結果の分析方法等について検討したことについて、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第9回：アンケート結果の分析・検討（課題解決学習、討議） 事前学習：事前事後のアンケート等の比較のための資料の作成を行い、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：アンケート結果等の分析結果の妥当性等の検討討議を整理し、要点をリフレクションシートにまとめる。（2時間） 第10回：研究レポートの執筆①（課題解決学習、個別学習） 事前学習：研究レポートの章立て等の構成を検討し、要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：研究レポートの構成等の検討討議から章立てを確定し、要点をリフレクションシートにまとめる。（2時間） 第11回：研究レポートの執筆②（課題解決学習、討議） 事前学習：研究レポートの執筆を開始し、本論に相当する授業研究以降の部分の執筆を終えておくこと。（2時間） 事後学習：研究レポートの検討討議から、その課題を整理し、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第12回：研究レポートの執筆③（課題解決学習、討議） 事前学習：研究レポートの検討討議を受け、書き直しておくこと。（2時間） 事後学習：書き直した研究レポートをもとにした検討討議からさらに課題を整理し、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第13回：研究発表会用のプレゼンテーション資料の作成（課題解決学習、討議） 事前学習：研究レポートの最終稿を完成させ、発表会用のプレゼンテーション資料の要点をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：発表会用のプレゼンテーション資料の検討討議から、その構成を見直し、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第14回：研究発表会のリハーサル（課題解決学習、発表、討議） 事前学習：検討後の発表会用プレゼンテーション資料を作成しておくこと。（2時間） 事後学習：研究発表リハーサルの検討討議から再度資料を見直して、リフレクションシートにまとめる。（2時間） 第15回：研究発表会（課題解決学習、発表、討議） 事前学習：これまでの討議を踏まえたプレゼンテーション資料を作成しておくこと。（2時間） 事後学習：研究発表とその討議を通して明らかになったことや課題を整理し、研究レポートにまとめ完成させる。（2時間） 各自の研究計画に沿って進める。必要に応じて研究についてのアドバイスを求めること。また、適宜参考資料を紹介するので、熟読し参考とすること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 リフレクション・レポート（20%）、研究レポート（80%）で総合的に評価する。
(7) 成績評価基準 ・自らが設定した研究テーマを深め、研究成果をレポートにまとめることができたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

(10) テキスト、参考図書
必要に応じて参考書を紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
レポートの報告会を節目にして、研究を推進する。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	鈴木 智子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2454	2 単位	4 年後期	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
「子ども教育特別演習Ⅱ」での研究成果を踏まえて、自主的研究のための課題をそれぞれが設定し、研究計画をたてる。その計画に沿ってそれぞれが研究成果を発表するとともに、相互理解・相互批判を繰り返しつつ研究を深めていく。まとめた研究を他者にわかりやすいものにするため、プレゼンテーションや質疑応答の準備を行う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
研究計画を立てて、研究を進めることができる。 他者の研究について批判的検討ができる。 論文の書き方を修得する。 研究成果のプレゼンテーション能力を養う。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 事前学習：これまでの学習を振り返り、探求したい自己のテーマを決めてくる(2時間) 事後学習：授業内容を踏まえて、探求したい自己のテーマを精査する(2時間) 第2回：研究発表と討論1 事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジюмеを作成する(2時間) 事後学習：授業での討論を踏まえて、レジюмеを見直し、研究のまとめを作成する(2時間) 第3回：研究発表と討論2 事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジюмеを作成する(2時間) 事後学習：授業での討論を踏まえて、レジюмеを見直し、研究のまとめを作成する(2時間) 第4回：研究発表と討論3 事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジюмеを作成する(2時間) 事後学習：授業での討論を踏まえて、レジюмеを見直し、研究のまとめを作成する(2時間) 第5回：研究発表と討論4 事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジюмеを作成する(2時間) 事後学習：授業での討論を踏まえて、レジюмеを見直し、研究のまとめを作成する(2時間) 第6回：研究発表と討論5 事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジюмеを作成する(2時間) 事後学習：授業での討論を踏まえて、レジюмеを見直し、研究のまとめを作成する(2時間) 第7回：研究発表と討論6 事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジюмеを作成する(2時間) 事後学習：授業での討論を踏まえて、レジюмеを見直し、研究のまとめを作成する(2時間) 第8回：研究発表と討論7 事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジюмеを作成する(2時間) 事後学習：授業での討論を踏まえて、レジюмеを見直し、研究のまとめを作成する(2時間) 第9回：中間のまとめ 事前学習：これまでの授業内容を振り返り、テーマに関して得られた知識をまとめておく(2時間) 事後学習：授業内容を踏まえて、保育・教育に対する問題意識を明確にする(2時間) 第10回：研究のまとめと口頭発表の準備 事前学習：研究をまとめ、他者にわかりやすく説明するため、PPTの作成を行う(2時間) 事後学習：授業内の討論を振り返り、自分の発表内容を修正する(2時間)

第11回：研究のまとめと口頭発表の準備 事前学習：研究をまとめ、他者にわかりやすく説明するため、PPTの作成を行う（2時間） 事後学習：授業内の討論を振り返り、自分の発表内容を修正する（2時間） 第12回：研究のまとめと口頭発表の準備 事前学習：研究をまとめ、他者にわかりやすく説明するため、PPTの作成を行う（2時間） 事後学習：授業内の討論を振り返り、自分の発表内容を修正する（2時間） 第13回：研究のまとめと口頭発表の準備 事前学習：研究をまとめ、他者にわかりやすく説明するため、PPTの作成を行う（2時間） 事後学習：授業内の討論を振り返り、自分の発表内容を修正する（2時間） 第14回：研究のまとめと口頭発表の準備 事前学習：研究をまとめ、他者にわかりやすく説明するため、PPTの作成を行う（2時間） 事後学習：授業内の討論を振り返り、自分の発表内容を修正する（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：研究発表のための質疑応答の準備をしておく（2時間） 事後学習：研究を振り返り、反省点や改善点をまとめる（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 発表内容（50%）、討論への参加態度（30%）、平常点（20%） （平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する）
(7) 成績評価基準 研究計画を立てて、研究を進めることができるか。 他者の研究について批判的検討ができるか。 論文の書き方を修得できているか。 研究成果のプレゼンテーション能力を養うことができているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 テキストは用いない。受講生のテーマに応じて、適宜参考図書を紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	高野 秀晴	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2454	2 単位	4 年後期	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
「子ども教育特別演習Ⅱ」に引き続き、研究を進めていく。これらの演習を通して専門分野に関する研究方法を習得すると同時に、卒業研究へとつなげていく。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
各自の研究課題を先行研究との関連のもとに、明確に記述することができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：研究経過報告1(発表、討議) 事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。(2時間) 第2回：研究経過報告2(発表、討議) 事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。(2時間) 第3回：研究経過報告3(発表、討議) 事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。(2時間) 第4回：研究経過報告4(発表、討議) 事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。(2時間) 第5回：研究経過報告5(発表、討議) 事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。(2時間) 第6回：研究経過報告6(発表、討議) 事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。(2時間) 第7回：研究経過報告7(発表、討議) 事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。(2時間) 第8回：研究経過報告8(発表、討議) 事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。(2時間) 第9回：研究経過報告9(発表、討議) 事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。(2時間) 第10回：研究経過報告10(発表、討議) 事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。(2時間) 第11回：研究経過報告11(発表、討議) 事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。(2時間) 第12回：研究経過報告12(発表、討議) 事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間) 事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。(2時間)

第13回：研究経過報告13（発表、討議） 事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間） 事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。（2時間） 第14回：研究経過報告14（発表、討議） 事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間） 事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。（2時間） 第15回：研究経過報告15（発表、討議） 事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間） 事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 発表内容（100%）
(7) 成績評価基準 各自の研究課題を先行研究との関連のもとに、論理的に記述することができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書 必要に応じて資料を配布する。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	出村 友寛	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2454	2 単位	4 年後期	演習	必修	
＜科目区分＞ 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果（教育目標）					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
「子ども教育特別演習Ⅱ」に引き続き、研究を進め、卒業研究へとつなげる。 これらの演習を通して、専門分野に関する研究方法を修得する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
自分の研究計画にしたがって研究を進め、自らの課題について自分なりの考察と解決方法をまとめることができる。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション(ゼミの概要や方針について説明) 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。(2時間) 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。(2時間) 第2回：文献講読①(PBL、ディスカッション、発表) 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。(2時間) 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。(2時間) 第3回：文献講読②(PBL、ディスカッション、発表) 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。(2時間) 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。(2時間) 第4回：文献講読③(PBL、ディスカッション、発表) 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。(2時間) 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。(2時間) 第5回：文献講読④(PBL、ディスカッション、発表) 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。(2時間) 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。(2時間) 第6回：卒業研究指導①(PBL、ディスカッション、発表) 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。(2時間) 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。(2時間) 第7回：卒業研究指導②(PBL、ディスカッション、発表) 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。(2時間) 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。(2時間) 第8回：卒業研究指導③(PBL、ディスカッション、発表) 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。(2時間) 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。(2時間) 第9回：卒業研究指導④(PBL、ディスカッション、発表) 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。(2時間) 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。(2時間) 第10回：卒業研究指導⑤(PBL、ディスカッション、発表) 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。(2時間) 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。(2時間) 第11回：研究成果の発表①(PBL、ディスカッション、発表) 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。(2時間) 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。(2時間) 第12回：研究成果の発表②(PBL、ディスカッション、発表) 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。(2時間) 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。(2時間)

第13回：卒業研究発表に向けた準備①（PBL、ディスカッション、発表） 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間） 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間） 第14回：卒業研究発表に向けた準備②（PBL、ディスカッション、発表） 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間） 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間） 第15回：卒業研究発表に向けた準備③（PBL、ディスカッション、発表） 事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間） 事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間） 自分の研究テーマに関連する文献、論文等を読んでレポートにまとめる。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
発表内容（50%）、レポート（50%）
(7) 成績評価基準
講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。 自分の研究について、進捗状況を適宜報告するとともに、意欲的に進めることができるか。 研究の成果について、考察を加え、自分なりの課題解決方法を説明できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて資料を配布、紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
遅刻、欠席、および早退の際は連絡ください。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	渡辺 直人	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2413	4 単位	4 年	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
個別に論文指導を行う
(2) 授 業 の 到 達 目 標
学生各自の1年～3年次までにおける学修・研究の成果を踏まえて、4年次当初に各自が研究課題を選び、指導教員に自己の研究概要を述べ、「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などをとおして、指導を受けながら卒業研究を進める。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
論文指導を行う。デザイン発表、中間発表、下書き提出等適宜指示する。自主的に研究を進める。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う(口頭試問を兼ねる)の3項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。
(7) 成 績 評 価 基 準
研究の目的が明確か。研究の方法が妥当か。研究結果に対する考察が十分に行われて結論が導かれているか。論文(文章)の展開に一貫性があるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他(卒業研究に対するフィードバックについて) ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☒ その他(卒業研究発表会)
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
なし
(11) その他(受講上の注意)

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	伊東 知之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2413	4 単位	4 年	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
各自の研究テーマに沿った研究、制作を行い、原則として定期的な授業は行わない。 これまで学んできたことの集大成として卒業研究を仕上げる。具体的には「子ども教育特別演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の授業の中で行われてきたものを自分のテーマに即してレポートとして完成させて提出する。造形、美術教育等に関する内容のものであることから、場合によっては作品が伴うこともあり、その場合は作品とレポートの両方を提出することとなる。大学4年間の総まとめとなるものであるから質、量ともに相応のものとしたい。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ 研究課題を論文または報告書としてまとめることができる。 ・ 作品がある場合には作品として質の高いものを制作することができる。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ■実習、フィールドワーク ■実験、実技 □その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
・ 年度当初に具体的な研究計画をたて、それに基づいて各自が研究を進めていく。 ・ 研究内容を論文または、作品と報告書にまとめ、提出する。 ・ 定期的な授業は行わない。 ・ 研究課題について定期的に報告できるようにレジュメにまとめる。 ・ 作品がある場合には、作品の質を高めるように制作を進める。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う(口頭試問を兼ねる)の3項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。
(7) 成 績 評 価 基 準
・ 卒業研究として質の高い研究成果(論文、報告書、作品)が提出できる。 ・ 卒業研究を踏まえて、的確な内容の要旨をまとめることができる。 ・ 卒業研究発表会でわかりやすく発表することができる。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて □授業時 □仁大eラーニング □メール □その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて □授業時 □仁大eラーニング □メール □その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて □授業時 □仁大eラーニング □メール □その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □定期試験時 □仁大eラーニング □メール ■その他(添削、コメントを書いて返却) 5) その他 □授業時 □仁大eラーニング □メール □その他

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
適宜、指示する。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	中野 研也	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2413	4 単位	4 年	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果（教育目標）					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などを通して、指導を受けながら卒業研究を進める。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
学生各自の 1 年～ 3 年次までにおける学修・研究の成果を踏まえて、4 年次当初に各自が研究課題を選び、指導教員に自己の研究概要を述べ、「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などとおして、指導を受けながら卒業研究を進める。 これまで学んできたことの集大成として卒業研究に仕上げる。具体的には「子ども教育特別演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で学んできたことを自分のテーマに即して卒業論文にまとめる。論文作成の過程において、残された課題を明確にしながら研究のポイントを示し、それに沿って卒業研究を進めるように指導する。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
各自の研究計画に沿って進める。必要に応じて研究にアドバイス、参考書等を紹介、卒業研究を深めまとめる。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
① 研究成果物を提出する ② 研究要旨を提出する。 ③ 口頭発表を行うまたは口頭試問を受けるの 3 項目を単位認定の基本要件としたうえで、主査と副査による合議により評価を判定する。
(7) 成 績 評 価 基 準
研究成果物、研究要旨、口頭発表等の内容が、研究テーマに即して論理的に考察展開され適切であるか
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他(卒業研究に対するフィードバックについて) ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他(卒業研究発表会の時に行う。)
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

(10) テキスト、参考図書
特になし
(11) その他(受講上の注意)
研究についての指導や卒業論文の添削は随時（オンライン含む）受け付けますので、早めの論文執筆を心がけ、余裕を持って提出できるようにしてください。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	青井 夕貴	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2413	4 単位	4 年	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
学生各自の1～3年次までにおける学修・研究の成果を踏まえて、4年次当初に各自が研究課題を選び、指導教員に自己の研究概要を述べ、「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などを通して、指導を受けながら卒業研究を進める。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
目的に沿って、計画的に研究を進めることができる。 自分の研究について、批判的・論理的思考をもって検討、考察することができる。 自分の研究結果や考察を、他者にわかりやすく文章にまとめ、説明することができる。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
個別に話し合い、各自の計画を立てる。定期的に進捗状況を報告し、助言を受ける。自主的に研究を進めていく。計画以外でも、必要な場合は、積極的に助言を求める。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う(口頭試問を兼ねる)の3項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。
(7) 成 績 評 価 基 準
目的に沿って、計画的に研究を進めることができたか。 自分の研究について、批判的・論理的思考をもって検討、考察することができたか。 自分の研究結果や考察を、他者にわかりやすく文章にまとめ、説明することができたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他(卒業研究に対するフィードバックについて) ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☒ その他(卒業研究発表会時)
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキストは使用しない。参考図書は、必要に応じて適宜紹介する。

(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	乙部 貴幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-G-2413	4 単位	4 年	演習		必修
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
各自の卒業論文のテーマに沿って構想から取りまとめまでを進めていく。 卒業論文の内容については、「ただ興味があるから」ではなく「それを知ることによって世の中に対してどのように貢献できるか(意義)」という視点も持つこと。 また、自分のテーマに取り組むだけでなく、同じゼミの仲間の内容についても理解し、積極的に意見を交換することを要求する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・提出のメットまでに卒業論文を作成することができる。 ・自分が行う研究の「意義」を説明できる。 ・適切な日本語でわかりやすく書くことができる。 ・論理的に構成することができる。 ・図表を用いて誤解のないような実証的な書き方ができる。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
他の卒業論文ゼミ生と同様に、合意したスケジュールに沿って、定期的に積極的に論文指導の時間に参加すること。また、そのために、十分な準備を怠ることのないように取り組むこと。 卒業論文の指導教員の論文指導や具体的なコメントに留まらず、自ら進んで探究するための時間を確保し論文に反映させること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う(口頭試問を兼ねる)の3項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。
(7) 成 績 評 価 基 準
子ども教育学科の教育目標に沿った卒業論文であること。適切な方法により、丁寧に論考し論理的に書かれていること。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他 5) その他 ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☒その他(卒業研究発表会)

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
一人ひとりの卒業論文テーマに関連する文献や図書など。随時、紹介し、解説を加える。
(11) その他(受講上の注意)
継続的な学習・探究的態度が重要であるから中断しないこと。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	草桶 勇人	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2413	4 単位	4 年	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などを通して、指導を受けながら卒業研究を進める。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
学生各自の 1 年～ 3 年次までにおける学修・研究の成果を踏まえて、4 年次当初に各自が研究課題を設定し、自己の研究計画を述べることができる。また、「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などと並行して卒業研究を進め、これまで学んできたことの集大成として卒業論文に仕上げるができる。さらに、卒業研究の概要をまとめ、研究のポイントや残された課題を明確にしながら、他者にわかりやすく発表することができる。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
各自の研究計画に沿って進める。積極的に研究へのアドバイスを求めたり、関連する資料や文献、参考図書等を調べ、卒業研究を深めること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
① 研究成果物を提出する。 ② 研究要旨を提出する。 ③ 口頭発表を行うまたは口頭試問を受ける。 以上の3項目を単位認定の基本要件としたうえで、協議の上主査が評価を判定する。
(7) 成 績 評 価 基 準
研究成果物、研究要旨、口頭発表等の内容が、研究テーマに即して論理的に考察、展開され適切であるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他(卒業研究に対するフィードバックについて) ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☒ その他(卒業研究発表会においてコメントする)
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて卒業研究に必要な資料・文献を適宜紹介する。

(11) その他(受講上の注意)
卒業年次は、さまざまな取り組みが並行して行われるので、計画的に卒業研究を進めること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	鈴木 智子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2413	4 単位	4 年	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
学生各自の1年～3年次までにおける学修・研究の成果を踏まえて、4年次当初に各自が研究課題を選び、指導教員に自己の研究概要を述べ、「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などをとおして、指導を受けながら卒業研究を進める。 具体的には「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などによって深めた自身の専門的な問題意識に即してテーマを決定し、研究計画を立て、調査・事例研究・文献研究などの手法の導入によって研究の成果をまとめる。専門領域における知識を深めるとともに、計画立案、問題解決能力、論理的思考力、表現力、プレゼンテーション能力などの総合的な人間力を培うこともあわせて目指す。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
研究計画を立てて、研究を進めることができる。 問題解決能力、論理的思考力を養う。 表現力、プレゼンテーション能力を養う。
(3) アクティブラーニング
■課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
年度当初に受講生と協議する。受講生は具体的な研究計画をたてる。随時進捗状況を報告し、指導を受ける。研究計画に沿って、自主的に研究を進めていくことを予習、復習に含める。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う(口頭試問を兼ねる)の3項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。
(7) 成 績 評 価 基 準
研究計画を立てて、研究を進めることができるか。 問題解決能力、論理的思考力を養うことができているか。 表現力、プレゼンテーション能力を養うことができているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他(卒業研究論文に対するフィードバックについて) ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他(卒業研究発表会)

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキストは用いない。受講生のテーマに応じて、適宜参考図書を紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	高野 秀晴	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2413	4 単位	4 年	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
学生各自の1年～3年次までにおける学修・研究の成果を踏まえて、4年次当初に各自が研究課題を選び、指導教員に自己の研究概要を述べ、「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などをおして、指導を受けながら卒業研究を進める。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
自らの関心、興味を研究課題へと昇華したうえで、課題に応じた論述を論理的にまとめることができる。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
各学生ごとに計画を立てる。 ①資料に向き合う ②書き進める ③書き直す 特に指示されなくても、以上の作業を日頃より行うことが肝要となる。 また、行き詰ったときは、こまめに教員に相談することが必要である。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う(口頭試問を兼ねる)の3項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。
(7) 成 績 評 価 基 準
自らの関心、興味を研究課題へと昇華したうえで、課題に応じた論述を論理的にまとめることができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他(卒業研究に対するフィードバックについて) ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☒ その他(卒業研究発表会にてフィードバックを行う)
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

(10) テキスト、参考図書
なし
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	出村 友寛	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-G-2413	4 単位	4 年	演習	必修	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					

(1) 授 業 の 内 容
個別に論文指導を行う
(2) 授 業 の 到 達 目 標
学生各自の1年～3年次までにおける学修・研究の成果を踏まえて、4年次当初に各自が研究課題を選び、指導教員に自己の研究概要を述べ、「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などをとおして、指導を受けながら卒業研究を作成することができる。
(3) アクティブラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
論文指導を行う。デザイン発表、中間発表、下書き提出等適宜指示する。自主的に研究を進める。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う(口頭試問を兼ねる)の3項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。
(7) 成 績 評 価 基 準
研究の目的が明確か。研究の方法が妥当か。研究結果に対する考察が十分に行われて結論が導かれているか。論文(文章)の展開に一貫性があるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他(卒業研究に対するフィードバックについて) ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☒ その他(卒業研究発表会でのコメント)
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
なし
(11) その他(受講上の注意)

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子どもと食育 (Children and Nutritional Education)			担当教員	牧野 みゆき	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-B-2403	2 単位	4 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 関連科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
子どもの食生活の現状を知り、今、何が子どもの食育に必要なのかを理解する。また、食育の実践をとおして学修する。さらに福井の食文化と食育についても学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
子どもの食生活の現状を理解し、食育の必要性を知る。また、演習をとおして自分自身の正しい味覚や地場産物の利用、食事のとり方や食事のマナーを体験し、子どもの食育を実践できる能力を身につける。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☒ 討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：はじめに 今、なぜ、食育か？【ディスカッション】 事前学習：授業前にテキストp 2-21を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、教員に質問すること。(2時間) 第2回：食育の現状と課題【ディスカッション】 事前学習：第2回ではどんな食育が行われているかを話し合うので、第1回で扱った食生活の課題から興味のあるものを取り上げ、それに対してどのような食育が行われているかを調べ、まとめていく。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、教員に質問すること。(2時間) 第3回：子どもの栄養と食生活(1) 食生活の機能と生活習慣 事前学習：授業前にテキストp42-45を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、教員に質問すること。(2時間) 第4回：子どもの栄養と食生活(2) 栄養素と代謝 事前学習：授業前にテキストp26-41を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、教員に質問すること。(2時間) 第5回：子どもの発育段階と栄養・食生活(1) 乳児期① 授乳期・離乳期の栄養 事前学習：授業前にテキストp 50-51, 54-57, 62-68を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、教員に質問すること。(2時間) 第6回：子どもの発育段階と栄養・食生活(1) 乳児期② 授乳期・離乳期の食事 &lt;講義と演習&gt; 事前学習：授業前にテキストp 52-53, 58-61, 69-73を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、教員に質問すること。(2時間) 第7回：日本・福井の食文化と食育 事前学習：幼稚園・学校に実習に出た時のことを思い出し、食育の題材として取り上げられていた行事等を整理しておく。(2時間) 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、教員に質問すること。(2時間)

第8回：食の安全について（食中毒予防、アレルギー対策を中心に） 事前学習：授業前にテキストp118-133, 136-138を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、教員に質問すること。（2時間） 第9回：子どもの発育段階と栄養・食生活（2） 幼児期 幼児期の食事と食育 事前学習：授業前にテキストp74-79を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、教員に質問すること。（2時間） 第10回：子どもの発育段階と栄養・食生活（3） 学童期 学童期の栄養と食育 事前学習：授業前にテキストp80-85, 104-107を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、教員に質問すること（2時間） 第11回：子どもの発育段階と栄養・食生活（4）思春期 思春期の栄養 自身の食生活の振り返り <講義と演習> 事前学習：授業前に配布資料とテキストを読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間） また、自身の1日分の食事内容を記録しておくこと。実際に演習に取り組みます。 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、教員に質問すること。（2時間） 第12回：子どもの食育の実践（1） 幼児期 実際に食育をやってみよう！ <講義と演習> 事前学習：幼児への食育体験活動を想定し、食育を各自が発表するために事前に調べたりして準備しておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、教員に質問すること。（2時間） 第13回：子どもの食育の実践（2） 幼児期 実際に食育をやってみよう！ <演習> 事前学習：各自が考えた食育内容を発表するために事前に調べたり準備しておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、教員に質問すること。（2時間） 第14回：子どもの貧困と食支援 事前学習：第13回は、子どもに対する食支援に関して学習するので、フードドライブや子ども食堂等のキーワードの意味と、福井県内の取組の状況を調べておくこと。（2時間） 事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、教員に質問すること（2時間） 第15回：配慮が必要な子の偏食、学校・幼稚園・保育所（園）における食育の在り方 事前学習：これまでの講義で学習した内容を思い出し、乳幼児期と児童期・思春期でどのような食育を行うとよいか説明できるようにしておくこと。（2時間） 事後学習：これまでの授業内容をもとに、「自分が就職したあとに食育をするために、今後深める必要があること」等について、レポートにまとめる。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 課題提出物（80点）と授業の取り組み態度（20点）で評価する。
(7) 成績評価基準 食生活の現状を理解し、食育の必要性を知ることができたか。また、食育を実践できる能力が身についたかを課題提出物、授業中の態度などで評価する。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
「子どもの食と栄養 改訂第4版」児玉浩子編 中山書店 2025 参考図書：「新・子どもの食と栄養 第2版」岩田章子・寺嶋昌代編 株式会社みらい 2025 その他必要に応じて資料を配付する。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

児童館活動内容 b (Activities of Children's Halls b)			担当教員	村田 弘孝	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-B-2401	2 単位	4 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特設科目					
求める学習成果（教育目標）					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					

(1) 授 業 の 内 容
児童ソーシャルワークの展開方法。 中高生の居場所づくり、児童の参画、地域のネットワークづくり等、児童館・放課後児童クラブの発展的活動の実施方法。 児童館・放課後児童クラブ活動の記録方法。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
児童ソーシャルワークをベースとした、児童館・放課後児童クラブの日々の活動の流れとともに、行事の企画や、利用者への対応、地域とのかかわり等について学び、児童館・放課後児童クラブの業務の実態を把握する。
(3) アクティブラーニング
☒課題解決型学習(PBL) ☒討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐実習、フィールドワーク ☐実験、実技 ☐その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：児童厚生員・放課後児童支援員の役割 事前学習：授業前にテキストの関連項目第3章に目を通し確認しておくこと。(2時間) 事後学習：児童厚生員・放課後児童支援員の役割について授業と配布資料等を基にまとめておくこと。(2時間) 第2回：児童館・放課後児童クラブの活動の実際 事前学習：授業前にテキストの関連項目に目を通し確認しておくこと。(2時間) 事後学習：児童館・児童クラブの活動の実際について授業と配布資料等を基にまとめておくこと。(2時間) 第3回：中高生の居場所づくり 事前学習：授業前にテキストの関連項目第2章の4に目を通し確認しておくこと。(2時間) 事後学習：中高生の居場所づくりについて授業と配布資料等を基にまとめておくこと。(2時間) 第4回：児童館・放課後児童クラブにおける相談対応(子ども、保護者) 事前学習：授業前にテキストの関連項目第2章の3に目を通し確認しておくこと。(2時間) 事後学習：児童館・放課後児童クラブにおける相談対応について授業と配布資料等を基にまとめておくこと。(2時間) 第5回：子どもの社会参画 事前学習：授業前にテキストの関連項目第2章の8に目を通し確認しておくこと。(2時間) 事後学習：子どもの社会参画について授業と配布資料等を基にまとめておくこと。(2時間) 第6回：児童ソーシャルワークの展開 事前学習：授業前にテキストの児童館関係法令に目を通し確認しておくこと。(2時間) 事後学習：児童館におけるソーシャルワークについて、テキストの第3章2を読み込んでおくこと。(2時間) 第7回：地域のネットワークづくり①地域資源の発掘・育成 事前学習：授業前にテキストの関連項目第2章に目を通し確認しておくこと。(2時間) 事後学習：地域ネットワークづくりについて授業と配布資料等を基にまとめておくこと。(2時間) 第8回：地域のネットワークづくり②地域の関係機関との連携・協働 事前学習：授業前にテキストの関連項目第3章に目を通し確認しておくこと。(2時間) 事後学習：地域ネットワークづくりについて授業と配布資料等を基にまとめておくこと。(2時間) 第9回：児童館・放課後児童クラブにおけるコミュニティーワーク 事前学習：授業前にテキストの関連項目第2章・3章等に目を通し確認しておくこと。(2時間) 事後学習：コミュニティーワークについて授業と配布資料等を基にまとめておくこと。(2時間) 第10回：配慮を要する児童へのかかわり① 事前学習：授業前にテキストの関連項目第2章の5に目を通し確認しておくこと。(2時間) 事後学習：参考事例の実践記録を参考に自己の実践記録の検証を行うこと。(2時間)

第11回：配慮を要する児童へのかかわり② 事前学習：授業前にテキストの関連項目第2章の5に目を通し確認しておくこと。（2時間） 事後学習：参考事例の実践記録を参考に自己の実践記録の検証を行うこと。（2時間） 第12回：実践記録・実践レポートの書き方 事前学習：授業前にテキストの関連項目に目を通し確認しておくこと。（2時間） 事後学習：参考事例の実践記録を参考に自己の実践記録の検証を行うこと。（2時間） 第13回：地域のニーズを踏まえた行事やイベント等の企画立案 事前学習：課題を理解した上で自分なりの企画立案の提案ができるよう準備する。（2時間） 事後学習：グループ内での役割に基づいて発表資料を作成すること。（2時間） 第14回：企画発表会、講評 事前学習：作成した企画立案についてグループでの役割に基づいて発表ができるよう準備する。（2時間） 事後学習：グループごとの発表について振り返り、まとめておくこと。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：授業前にテキストと授業内容全体の配布資料に目を通し確認しておくこと。（2時間） 事後学習：授業全体の振り返り。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 平常点（受講態度および取組姿勢）30%、演習レポート（授業中の課題含む）70%により総合的に評価します。 出席を重視し、欠席・遅刻・早退は減点します。
(7) 成績評価基準 児童ソーシャルワークを基本に、児童館・放課後児童クラブの日々の活動、地域とのネットワーク形成について理解し、文章にて簡潔に説明できる。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 「児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ2改訂版 児童館論」（一般財団法人児童健全育成推進財団発行・令和5年）
(11) その他(受講上の注意) テキストの関連部分や配布資料を読み込んで授業に臨むこと。また授業時の参考資料を独自のノートにまとめること。授業の中の用語等に不明なものがあれば次回の授業までに調べるか、質問事項として付記すること。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

児童館実習 (Practice in Children's Halls)			担当教員	乙部 貴幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CE-E-2408	2 単位	4 年前期	実習	選択	
<科目区分> 人間生活学部子ども教育学科専門科目 特設科目					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度					

(1) 授 業 の 内 容
年次の8月・9月に10日間、児童館・児童センターにおいて実習を行い、地域における子どもの健全育成と子育て支援に必要な児童館の役割及びその活動内容を理解する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
児童館・児童センターで実習を行い、児童館等の機能や運営について学ぶことを目的とする。地域福祉的視点をもって児童館の運営を考えることが大切であり、実際に子どもと関わることによって、子どもの理解を深めるとともに遊びの指導や生活指導についても学ぶ。
(3) アクティブラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
実地体験を通して、児童館の役割や児童クラブの機能、運営について理解することを目的としている。そのため、児童館・児童センターの生活等に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、そこで働いている児童厚生員の職務について学ぶため、以下の内容を体験し、学習する。 1 児童館活動に参加し、活動についての知識、技術を学ぶ。 2 子どもの発育・発達について理解し、対応方法等を修得する。 3 児童厚生員としての倫理を学ぶ。 4 子どもの保護者等の子育て支援について学ぶ。 5 児童館を取り巻く地域社会との連携について学ぶ。 6 児童館等における児童厚生員に求められる資質・能力・技術等についての自己の課題を明確化する。実習ノートを記載しながら振り返りを行う。 実習児童館の指示にしたがい、翌日以降の実習の準備を行う。 児童・保護者との対応において疑問に思うことをまとめる。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。 ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。 遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
実習児童館からの評価、巡回指導の記録、実習日誌、出勤状況、学内の事前事後指導に基づき総合的に評価(100%)
(7) 成 績 評 価 基 準
児童館実習評価表の項目(10項目と総合評価)による。いずれの項目も、「特に優れている」「優れている」「普通」「努力が必要である」「特におとる」の5段階で評価される。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
実習後に個人面談を実施する。
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
なし

(11) その他(受講上の注意)
実習前に事前指導を行う。実習の1か月前を目途に実習する児童館に事前訪問を行い、オリエンテーションを受けること。実習後は、事後指導として個人レポート集を作成する。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

臨床倫理特論			担当教員	杉島 一郎、渡辺 克徳、田代 俊孝	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CP-PH-2111	2 単位	1 年前期	講義		選択
<科目区分> 心理学研究科 倫理・自己成長科目					
求める学習成果(教育目標)					
臨床心理学の高度専門職としての自分自身を深く省察する力を身につける					

(1) 授 業 の 内 容
本大学院生は、研究および臨床実践等において高い倫理観が求められる。そのため、本特論では建学の精神に基づき、ヒト・動物を対象とする研究にかかわる「生命倫理」、研究不正の発生予防にかかわる「研究倫理」、臨床実践の有効性と安全性の予測・評価、さらには研究成果の公表にかかわる「臨床倫理」について学ぶ
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ 生命の倫理を研究や臨床実践に生かすことができるようになる ・ 研究倫理を身につけ、研究において実践することができるようになる ・ 臨床倫理を身につけ、臨床の現場において実践することができるようになる
(3) アクティブラーニング
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：いのちの尊厳と生命倫理(担当：田代) 事前課題：身近なところで生命倫理が課題になったケースを調べる。(2時間) 事後課題：なぜ生命倫理が課題になるのか、生命倫理とは何かについて2000字程度でまとめる。(2時間) 第2回：脳死・臓器移植、安楽死・尊厳死の倫理(担当：田代) 事前課題：「あなたは脳死になったとき臓器提供しますか」「あなたは終末期に安楽死・尊厳死を希望しますか」を考えてくる。(2時間) 事後課題：脳死・臓器移植、安楽死・尊厳死の何が問題なのかを2000字程度で整理する。(2時間) 第3回：遺伝子治療とゲノム編集の倫理(担当：田代) 事前課題：細胞、染色体、遺伝子、ゲノム解析について調べる。(2時間) 事後課題：人が遺伝子を操作していいか。遺伝情報による差別をなくすにはどうしたらいいか。2000字程度にまとめる。(2時間) 第4回：生殖補助医療と代理母・代理出産の倫理(担当：田代) 事前課題：生殖ビジネスの実態をインターネットなどで調べる。(2時間) 事後課題：生殖補助医療と代理母・代理出産の倫理的課題について2000字程度にまとめる。(2時間) 第5回：QOLと「人生会議」ーホスピス・ビハラー(担当：田代) 事前課題：生命倫理教育がなぜ必要か。また、それをどのようにしたらいいか。さらに、普及させるにはどうしたらいいかを考えてくる。(2時間) 事後課題：この授業を受けて生命倫理についての考え方に変化があったかどうかを2000字程度でまとめる。そして、できれば家族と「人生会議」をして、それぞれの終末期の在り方について考えを深める。(2時間) 第6回：研究倫理の基本的考え方(担当：杉島) 事前学習：授業前にe-ラーニング上にある日本心理学会倫理規定を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第7回：研究活動(実験・調査・臨床実践等)における倫理(担当：杉島) 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第8回：論文執筆における倫理(担当：杉島) 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)

第9回：共同研究や指導者としての倫理（担当：杉島） 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第10回：研究倫理を実際の事例から学ぶ（担当：杉島） 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第11回：臨床研究の倫理 ニュルンベルク綱領からベルモントレポートを踏まえて（担当：渡辺） 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第12回：臨床倫理とエビデンス・ベースト・プラクティス（担当：渡辺） 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第13回：臨床研究倫理審査の実際：ヒトを対象とした研究のための倫理的原則とガイドラインに沿って（担当：渡辺） 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第14回：心理臨床における倫理（1）実際の事例から学ぶ（担当：渡辺） 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第15回：心理臨床における倫理（2）実際の事例から学ぶ（担当：渡辺） 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 生命倫理、研究倫理、臨床倫理それぞれのレポート（60%）と授業での発言や討議などの受講態度（40%）
(7) 成績評価基準 ・生命の倫理を研究や臨床実践に生かすことができるか ・研究倫理を身につけ、研究において実践することができるか ・臨床倫理を身につけ、臨床の現場において実践することができるか
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 参考図書 田代志門著「みんなの研究倫理入門 臨床研究になぜこんな面倒な手続きが必要なのか」医学書院 2020年 日本心理臨床学会「心理臨床学研究 論文執筆ガイド」一般社団法人日本心理臨床学会 2012年 原田隆之著「心理職のためのエビデンス・ベイスト・プラクティス入門」金剛出版 2015年

(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

セルフ・ディベロップメント特論			担当教員	西村 則昭	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-CP-2112	2 単位	1 年後期	講義	選択	
<科目区分> 心理学研究科 倫理・自己成長科目					
求める学習成果(教育目標)					
より深い自己理解を獲得する					

(1) 授 業 の 内 容	
フロイト以来の力動的心理療法の考え方を学びながら、自己分析をおこない、自己の問題に向き合い、自己の心の成長を目指す。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
・「無意識」という概念を自身の実感に基づいて理解する。 ・「特定のー」としての自己の存在感覚を醸成する。 ・科学的な考え方を客観的・批判的に捉え、より広い視野で、人間とは何かを考え、現代の状況を分析できるようになる。	
(3) アクティブラーニング	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：オリエンテーション（無意識の探求とは） 事前学習：ディスカッションに備えて、最近見た夢を記録しておいたり、子どもの頃のことを思い出しておくこと。（2時間） 事後学習：ディスカッションを振り返って、考えたことをレポートにまとめておくこと。（2時間） 第2回：描画法 事前学習：「風景構成法」と「星と波テスト」について調べておくこと。（2時間） 事後学習：描画体験を振り返って、考えたことをレポートにまとめておくこと。（2時間） 第3回：スキュグル 事前学習：D.W.ウィニコットとスキュグルについて調べておくこと。（2時間） 事後学習：スキュグル体験を振り返って、考えたことをレポートにまとめておくこと。（2時間） 第4回：箱庭療法1 事前学習：箱庭療法について調べておくこと。（2時間） 事後学習：箱庭体験を振り返って、考えたことをレポートにまとめておくこと。（2時間） 第5回：箱庭療法2 事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間） 事後学習：資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第6回：箱庭療法3（元型的テーマを表現する） 事前学習：ユング心理学における「元型」の概念について調べておくこと。（2時間） 事後学習：箱庭体験（元型的イメージを表現する）を振り返って、考えたことをレポートにまとめておくこと。（2時間） 第7回：マンダラ塗り絵 事前学習：ユング心理学におけるマンダラ象徴について調べておくこと。（2時間） 事後学習：マンダラ塗り絵体験を振り返って、考えたことをレポートにまとめておくこと。（2時間） 第8回：コラージュ療法 事前学習：コラージュ療法について調べておくこと。（2時間） 事後学習：コラージュ体験を振り返って、考えたことをレポートにまとめておくこと。（2時間） 第9回：夢分析1（精神分析の立場から） 事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間） 事後学習：資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第10回：夢分析2（ユング心理学の立場から） 事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間） 事後学習：資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）	

第11回：グループ・ワーク 1 事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間） 事後学習：資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第12回：グループ・ワーク 2 事前学習：資料を参考にし、自分が演じるメンバーの設定を考えておくこと。（2時間） 事後学習：グループ体験を振り返って、考えたことをレポートにまとめておくこと。（2時間） 第13回：ファンタジー・グループ 事前学習：ファンタジー・グループについて調べておくこと。（2時間） 事後学習：ファンタジー・グループ体験を振り返って、考えたことをレポートにまとめておくこと。（2時間） 第14回：禅に学ぶマインドフルネス 1 事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間） 事後学習：資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第15回：禅に学ぶマインドフルネス 2 事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間） 事後学習：資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 期末レポート（50%）、小レポート（30%）、平常点（20%） （平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します）
(7) 成績評価基準 ・「無意識」という概念を自身の体験に基づいて理解できているか。 ・「特定のー」としての自己の立場で、思考できるようになったか。 ・科学的な考え方を客観的・批判的に捉え、より広い視野で、人間とは何かを考え、現代の状況を分析できるようになったか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 こちらで準備する。また適宜伝える。
(11) その他(受講上の注意) 質問はメールでも受け付けます (nisimura@jindai.ac.jp)
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理支援に関する理論と実践			担当教員	西村 則昭	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-CP-2121	2 単位	1 年前期	講義	選択	
＜科目区分＞ 心理学研究科 臨床心理専門科目 公認心理師科目					
求める学習成果（教育目標）					
臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。					

(1) 授 業 の 内 容
教育・司法・福祉・医療などさまざまな領域における臨床心理面接について学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・クライアントの人格、基本的人権を尊重し、その心に寄り添いながら、専門的知見に立って、クライアントを正確に見立て、的確に対応していくことができる。 ・心理臨床センターで実際に事例を担当し、臨床心理実習のケース・カンファレンスにおいて発表、討論をおこなうための、特に理論面での土台を作る。 ・DSMなどの学派を超えた共通用語に習熟し、見立てをおこなったり、臨床場面におけるさまざまな現象を考えるために、それらを用いることができ、その上で精神分析などの理論を用いて、事例理解を深めることができる。
(3) アクティブラーニング
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション（心理面接とは何か） 事前学習：本授業では、これから心理面接の実践を学んでいくのに際して、心理面接とは何かについて予備的なディスカッションをおこなうため、これまで学部で学んできたことをまとめておくこと。（2時間） 事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第2回：インテーク面接 事前学習：インテーク面接に関して調べておくこと。（2時間） 事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第3回：ASD 1 事前学習：DSM-5のASDについて調べておくこと。（2時間） 事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第4回：ASD 2 事前学習：山中康裕について調べておくこと（2時間） 事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第5回：不登校 事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間） 事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第6回：親面接 事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間） 事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第7回：男子非行 事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間） 事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第8回：女子非行 事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間） 事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）

第9回：被虐待児 事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間） 事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第10回：性的虐待 事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間） 事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第11回：摂食障害 事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間） 事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第12回：パーソナリティ障害 事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間） 事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第13回：希死念慮 事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間） 事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第14回：精神病 事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間） 事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第15回：医師との連携 事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間） 事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 期末レポート（50%）、小レポート（30%）、平常点（20%） （平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問等を総合して判断します）
(7) 成績評価基準 ・クライアントの人格、基本的人権を尊重し、その心に寄り添う姿勢ができているか。 ・DSM-5などの共通言語に習熟しているか。 ・その上で、精神分析などの特定の学派の考え方をを用いて、事例理解を深めることができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 APA,DSM-5,American Psychiatric Publishing,2013. その他、授業の中で適宜紹介する。

(11) その他(受講上の注意)
質問はメールでも受け付けます (nisimura@jindai.ac.jp)。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理的アセスメントに関する理論と実践			担当教員	稲木 康一郎、渡辺 克徳	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CP-CP-2122	2 単位	1 年前期	演習		選択
<科目区分> 心理学研究科 臨床心理専門科目 公認心理師科目					
求める学習成果（教育目標）					
臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。					

(1) 授 業 の 内 容
心理的アセスメントに関する基本的な知識について学ぶとともに、代表的な知能検査や発達検査、神経心理学検査、人格検査の理論と実践について学ぶ。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・心理的アセスメントの背景となる基礎理論について理解する。 ・代表的な発達・知能検査、神経心理学検査、人格検査について理解し、実践できる。
(3) アクティブラーニング
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：心理的アセスメントとは何か【担当：稲木】 事前学習：シラバスを熟読すること（2時間）。 事後学習：検査用具とマニュアルの保管場所を確認すること（2時間）。 第2回：心理アセスメントの進め方【担当：稲木】 事前学習：テキスト（Part 1）を精読すること（2時間）。 事後学習：レジュメ、検査者、被検査者の役割分担をすること（2時間）。 第3回：認知症スクリーニング（HDS-R、MMSE）【担当：稲木】 事前学習：HDS-RおよびMMSEの施行法を予習すること（2時間）。 事後学習：HDS-RおよびMMSEを実施すること（2時間）。 第4回：記憶のアセスメント①（MMS言語記憶検査）【担当：稲木】 事前学習：MMSの施行法を予習すること（2時間）。 事後学習：MMSを実施すること（2時間）。 第5回：記憶のアセスメント②（ベントン視覚記銘検査）【担当：稲木】 事前学習：ベントン視覚記銘検査の施行法を予習すること（2時間）。 事後学習：ベントン視覚記銘検査を実施すること（2時間）。 第6回：右半球症状のアセスメント（BIT 行動性無視検査）【担当：稲木】 事前学習：BITの施行法を予習すること（2時間）。 事後学習：BITを実施すること（2時間）。 第7回：遂行機能のアセスメント（BADSD遂行機能検査）【担当：稲木】 事前学習：BADSDの施行法を予習すること（2時間）。 事後学習：BADSDを実施すること（2時間）。 第8回：まとめと課題【担当：稲木】 事前学習：臨床心理査定セミナーを読んでおくこと（2時間）。 事後学習：レポート作成を準備すること（2時間）。 第9回：症状評価尺度の理解（抑うつ・不安を中心に）【担当：渡辺】 事前学習：SDS、BDI、POMS等について、マニュアルを読むこと（2時間）。 事後学習：SDS、BDI、POMS等について、データを整理して解釈すること。所見作成（2時間）。 第10回：人格検査の理解①（MMPIを中心に）【担当：渡辺】 事前学習：MMPIについて、マニュアルを読むこと（2時間）。 事後学習：MMPIについて、データを整理して解釈すること。（2時間）。 第11回：人格検査の理解②（MMPIを中心に）【担当：渡辺】 事前学習：MMPIについて、マニュアルを読むこと（2時間）。 事後学習：MMPIについて、データを整理して解釈すること。所見作成（2時間）。 第12回：発達検査の理解（新版K式発達検査を中心に）【担当：渡辺】 事前学習：新版K式について、マニュアルを読むこと（2時間）。 事後学習：新版K式について、データを整理して解釈すること。所見作成（2時間）。

第13回：知能検査の理解①（ウェクスラー知能検査WAISを中心に）【担当：渡辺】 事前学習：ウェクスラー式知能検査について、マニュアルを読むこと（2時間）。 事後学習：ウェクスラー式知能検査について、データを整理して解釈すること。（2時間）。 第14回：知能検査の理解②（ウェクスラー知能検査WISCを中心に）【担当：渡辺】 事前学習：ウェクスラー式知能検査について、マニュアルを読むこと（2時間）。 事後学習：ウェクスラー式知能検査について、データを整理して解釈すること。（2時間） 第15回：知能検査の活用（ウェクスラー知能検査WISCを中心に）【担当：渡辺】 事前学習：ウェクスラー式知能検査について、テキスト・資料を読むこと（2時間）。 事後学習：ウェクスラー式知能検査について、データを整理して解釈することと所見作成を目指す（2時間）。 ※第1回～第8回（テキスト Part 1 および Part 4）は稲木が、第9回から第15回（テキスト Part 2 および Part 3）は渡辺が担当する。 その授業で扱うテーマや心理検査について、授業前に各自で、参考書や検査マニュアル等を精読しておくこと。 学んだ心理検査について、自分なりに分析をしたり、お互いにロールプレイをするなどして実践活動に応用できるように努力すること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 授業への受講態度および授業内での発表内容（40%）、心理検査を実践・分析して作成したレポート等（60%）によって総合的に評価する。
(7) 成績評価基準 ・心理的アセスメントの背景となる基礎理論について説明できるか。 ・授業で学んだ検査について理解し、実践できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 テキスト（購入して、毎回持参してください） 下山晴彦 編著 「公認心理師のための『心理査定』講義」北大路書房 2021 参考図書（図書館等でご覧ください） 岡堂哲雄 編「臨床心理学全書 臨床心理査定学」誠信書房 2004年 下仲順子 編「臨床心理学全書 臨床心理査定技法（1）」誠信書房 2004年 皆藤章 編「臨床心理学全書 臨床心理査定技法（2）」誠信書房 2004年 小山充道 編著「必携 臨床心理アセスメント」金剛出版 2008年 村上宣寛・村上千恵子 著「改定臨床心理アセスメントハンドブック」北大路書房 2008年 そのほか、随時、紹介する。
(11) その他(受講上の注意) 各種の心理検査について、授業外での積極的な演習を期待するが、検査用紙・器具等の取り扱いには注意を払うとともに、被検査者のデータ管理や情報の守秘などについて厳重に注意すること。 出席はeラーニングで取ります。
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育分野に関する理論と支援の展開			担当教員	後藤 智子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-ED-2123	2 単位	1 年後期	講義	選択	
<科目区分> 心理学研究科 臨床心理専門科目 公認心理師科目					
求める学習成果(教育目標)					
発達や教育に関連する専門的知識を習得する。					

(1) 授 業 の 内 容
不登校・いじめ・暴力行為等をはじめ、自死や災害・事件事故などの学校危機・緊急支援など、現代の学校教育やスクールカウンセリングにおける児童生徒の様々な心理社会的問題や学校現場における諸問題について概論する。また、スクールカウンセラーとして活動するための基本的な知識と実践について、ロールプレイを通して具体的に学ぶ。さらに、スクールカウンセリングの実践に役立つ心理臨床上の課題について、事例検討を通して問題意識を深め、自ら主体的に学ぶ態度を養う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
学校教育現場における組織や運営の実際、およびスクールカウンセラーの立場や役割について理解する。また、スクールカウンセラーとして活動するための基本的知識を学び、スクールカウンセラーとしての資質や態度を養い、実践力を涵養する。
(3) アクティブラーニング
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：学校教育現場における臨床教育学および臨床心理学の役割 事前学習：授業前にテキスト第1章を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：授業におけるディスカッションを踏まえて、参考文献を読む（2時間） 第2回：スクールカウンセリングの発展と現状 事前学習：授業前にテキスト第2章を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：授業におけるディスカッションを踏まえて、参考文献を読む（2時間） 第3回：児童生徒のこころとからだをめぐる諸問題（1）不登校 事前学習：授業前にテキスト第5・6章を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：授業におけるディスカッションを踏まえて、参考文献を読む（2時間） 第4回：児童生徒のこころとからだをめぐる諸問題（2）いじめ 事前学習：授業前にテキスト第7・8章を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：授業におけるディスカッションを踏まえて、参考文献を読む（2時間） 第5回：児童生徒のこころとからだをめぐる諸問題（3）発達障碍 事前学習：授業前にテキスト第10章を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：授業におけるディスカッションを踏まえて、参考文献を読む（2時間） 第6回：児童生徒のこころとからだをめぐる諸問題（4）子どもの貧困と虐待 事前学習：授業前にテキスト第9章を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：授業におけるディスカッションを踏まえて、参考文献を読む（2時間） 第7回：スクールカウンセリングの実際（1）法と倫理 事前学習：学校教育に関連する法規について調べ、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：授業におけるディスカッションを踏まえて、参考文献を読む（2時間） 第8回：スクールカウンセリングの実際（2）緊急支援 事前学習：授業前にテキスト第11・13章を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：授業におけるディスカッションを踏まえて、参考文献を読む（2時間） 第9回：スクールカウンセリングの実際（3）ストレスマネジメント 事前学習：授業前にテキスト第4章を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：授業における体験学習を踏まえて、参考文献を読む（2時間） 第10回：スクールカウンセリングの実際（4）ロールプレイ（枠組み作り） 事前学習：仮想のクライアント役を設定し、役割作りを準備しておく（2時間） 事後学習：自分の演じたクライアントの問題の背景、見立てと対応について考察する（2時間） 第11回：スクールカウンセリングの実際（5）ロールプレイ（スタンスとアセスメント） 事前学習：授業前にテキスト第3・12章を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：相手方の演じたクライアントの問題の背景、見立てと対応について考察する（2時間）

第12回：スクールカウンセリングの実際（6）ロールプレイ（学校内外の連携） 事前学習：授業前に生徒指導提要（資料配布）を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：他のペアの演じたクライアントの問題の背景、見立てと対応について考察する（2時間） 第13回：スクールカウンセリングの実際（7）事例発表と質疑応答 事前学習：スクールカウンセリングの実践に資する事例に目を通しておく（2時間） 事後学習：自分および他の受講生の発表・質疑応答・討論を踏まえて考察を深める（2時間） 第14回：スクールカウンセリングの実際（8）事例発表と質疑応答 事前学習：スクールカウンセリングの実践に資する事例をまとめておく（2時間） 事後学習：自分および他の受講生の発表・質疑応答・討論を踏まえて考察を深める（2時間） 第15回：学校教育現場におけるスクールカウンセリングの総合的理解 事前学習：第14回までの講義および実践の内容を振り返り、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：第15回までの講義全体を振り返り、他の受講生の意見や感想を踏まえて、考察を深める（2時間） * 事前学習として、日頃から学校教育や生徒指導・教育相談、特別支援教育、スクールカウンセリングに関する資料や報道等に関心を持ち、問題意識をもって講義に臨んでください。また事後学習として、講義で扱ったテーマについて文献や資料等に当たって、継続的に知識を拡充し理解を深めてください。 （なお、社会的状況に即して、扱うテーマ（いじめ、暴力行為、緊急支援等）に適宜重みづけをする場合があります。）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
事例発表・検討とコメント（20%）ロールプレイ・演習とコメント（30%）平常点・コメント（50%） ・平常点は、授業への参加状況、受講態度、コメント用紙の提出状況等を総合して判断します。
(7) 成績評価基準
・将来のスクールカウンセラーとして、基本的な知識と実践に関する理解を備えているか。 ・将来の心理臨床家としての自覚と責任感に裏打ちされた主体的態度を身につけているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他（授業時に提出されるコメントやレポートに対してフィードバックを随時行う） 5) その他（メールで寄せられた質問に対するフィードバックについて） ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☒メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
卯月研次・後藤智子編著『心とふれあう教育相談（改訂版）』北樹出版（2025）を教科書として用います（講義初日までに講師が準備します）。他、適宜、参考資料を配布します。
(11) その他(受講上の注意)
質問や疑問、問い合わせ等がありましたら、goto.baika@gmail.comまで、ご連絡ください。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開			担当教員	上宮 愛	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CP-FS-2121	2 単位	1 年前期	講義		選択
<科目区分> 心理学研究科 臨床心理専門科目 公認心理師科目					
求める学習成果(教育目標)					
司法犯罪領域における心理とエビデンスにもとづくその支援を理解するための知識を習得する。					

(1) 授 業 の 内 容	
本科目は公認心理師となるために必要な大学院の科目である。司法犯罪領域においては、支援対象者（被害者、目撃者）は、被害の開示、捜査、裁判などのプロセスを進み、そのプロセスにおいては適切な事実認定と、タイミングに応じた心理ケアの両方が必要とされる。公認心理師は、支援対象者に対しての心理支援を行う中で、司法犯罪領域における様々な職種と連携しながら、切れ目のない支援を提供していくことが求められる。本授業では、正確な事実認定のために必要となる面接技法の習得と、被害開示から裁判までのプロセスにおける心理ケアの実践、そして、裁判終了後の長期的な心理ケアの重要性について学ぶ。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
到達目標は、以下の3点である。 1) 被害者・目撃者の供述を汚染・誘導することなく被害内容を聴取するための面接手続き（司法面接）を習得する 2) 事実認定を目的とした面接を分析、評価できるようになる 3) 被害開示から裁判までの事実認定のプロセス、またその先の集中的な治療において、適切な心理支援を理解する	
(3) アクティブラーニング	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：イントロダクション 事前学習：現代社会に関係する新聞記事、ネット情報を集める。本を読みたい人は、現代社会に関する本を図書館で探すとよい。（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第2回：事実確認と心理ケアの連携の重要性 事前学習：目撃証言に関する本を図書館で探すとよい。（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第3回：司法面接（客観的聴取技法） 事前学習：司法面接に関する本を図書館で探すとよい。（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第4回：NICHHDプロトコル 事前学習：前回の内容の復習を行い、司法面接について自分の言葉で解説できるようにしておく。（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第5回：ロールプレイ1 事前学習：面接の計画を立てておく。（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第6回：ロールプレイ2 事前学習：面接の計画を立てておく。（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第7回：ロールプレイ3 事前学習：面接の計画を立てておく。（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間）	

第8回：面接を分析する（司法面接のスーパーヴィジョン） 事前学習：面接を書き起こしておく。（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第9回：チャイルド・デス・レビュー1 事前学習：児童虐待の死亡事例についてネット情報を集める。（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第10回：チャイルド・デス・レビュー2 事前学習：児童虐待の死亡事例についてネット情報を集める。（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第11回：トラウマ・インフォームド・ケア 事前学習：トラウマ・インフォームド・ケアについての情報を集める。（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第12回：TF-CBT 事前学習：PTSD社会に関係する新聞記事、ネット情報を集める。（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第13回：PTSD論文1 事前学習：指定されたPTSDに関わる論文を読んでおく。（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第14回：PTSD論文2 事前学習：指定されたPTSDに関わる論文を読んでおく。（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：司法犯罪領域において、公認心理師が行える国民への心理教育プログラムについて考えておく。（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 平常点50パーセント レポート50パーセント （平常点は、授業への参加状況・受講態度・質問用紙の提出状況等を総合して判断します。）
(7) 成績評価基準 1) 被害者・目撃者の供述を汚染・誘導することなく被害内容を聴取するための面接手続き（司法面接）が習得できたか 2) 事実認定を目的とした面接を分析、評価できるようになったか 3) 被害開示から裁判までの事実認定のプロセス、またその先の集中的な治療において、適切な心理支援を理解することができたか
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☒定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他

(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
特になし 毎回の授業で、配布資料を配布する
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

家族関係・集団・地域社会における 心理支援に関する理論と実践			担当教員	森 俊之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-SC-2125	2 単位	1 年後期	講義	選択	
<科目区分> 心理学研究科 臨床心理専門科目 公認心理師科目					
求める学習成果(教育目標)					
社会や集団、組織の中での心理を理解するための知識を習得する。					

(1) 授 業 の 内 容
本授業では、家族関係や集団、地域社会と関わる心理学の理論と支援について考える。 その中でも、家族関係は、私たちが初めて出会いもっとも密接に関わる社会集団はである。そこで第1に、家族システムの視点を基に家族関係に関する理論や家族療法などについて概観する。第2に集団に関わる心理学として、集団精神療法やエンカウンターグループなどの理論と実践について概観する。第3に地域社会に関わる心理学として、コミュニティ心理学を基に理論と実践について概観する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
現代社会における家族関係の心理的な仕組みや家族が抱える様々な心理的問題について理解を深め、家族への心理的援助の専門的な知識を身に付ける。これらの知識を実際の問題に適用し、家族への具体的な心理的援助が行えるようになることを目標とする。
(3) アクティブラーニング
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：家族関係・集団・地域社会に関わる心理学について概観する 事後学習：授業の最後に指示された課題について、調べてまとめる。(4時間) 第2回：家族に関わる心理学① 家族システム理論 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、調べてまとめる(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたものをまとめ直す。(1時間) 第3回：家族に関わる心理学② コミュニケーション理論 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、調べてまとめる(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたものをまとめ直す。(1時間) 第4回：家族に関わる心理学③ 家族の健康 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、調べてまとめる(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたものをまとめ直す。(1時間) 第5回：家族に関わる心理学④ 家族の発達段階 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、調べてまとめる(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたものをまとめ直す。(1時間) 第6回：家族に関わる心理学⑤ 家族のアセスメント 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、調べてまとめる(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたものをまとめ直す。(1時間) 第7回：家族に関わる心理学⑥ 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、調べてまとめる(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたものをまとめ直す。(1時間) 第8回：集団に関わる心理学① 理論と歴史 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、調べてまとめる(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたものをまとめ直す。(1時間) 第9回：集団に関わる心理学② 介入技法 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、調べてまとめる(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたものをまとめ直す。(1時間) 第10回：地域社会に関わる心理学① コミュニティ心理学 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、調べてまとめる(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたものをまとめ直す。(1時間) 第11回：地域社会に関わる心理学② 介入技法 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、調べてまとめる(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたものをまとめ直す。(1時間)

第12回：事例の検討① 家族療法 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、調べてまとめる（3時間） 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたものをまとめ直す。（1時間） 第13回：事例の検討② グループ・アプローチ 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、調べてまとめる（3時間） 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたものをまとめ直す。（1時間） 第14回：事例の検討③ コミュニティ・アプローチ 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、調べてまとめる（3時間） 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたものをまとめ直す。（1時間） 第15回：まとめと実践に向けての留意点 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、調べてまとめる（3時間） 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたものをまとめ直す。（1時間） ※事例の検討以外の回では、事前に調べた課題について皆の前でプレゼンテーションを行い、それをもとにグループワークを行う。 ※事例の検討の回には討論が求められる。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
授業内で実施する確認テスト（80%）、平常点（20%） （平常点は、授業への参加状況、討論内容により総合的に評価する。）
(7) 成績評価基準
・現代社会における家族の問題について、家族心理学的立場から考えることができるか。 ・家族に対する見立てや介入を行うための力が身についたか。 ・家族療法および夫婦療法の理論や技法を説明できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
【テキスト】 テキストは使用せず、必要に応じて資料を配付する。 【参考図書】 ・布柴靖枝ほか編著（2019）家族関係・集団・地域社会. 木立の文庫. ・中釜他（編著）家族心理学―家族システムの発達と臨床的援助―. 有斐閣ブックス. ISBN978-4-641-18367-4 ・日本家族研究・家族療学会編（2013）. 家族療法テキストブック 金剛出版 ・亀口憲治編（2004）臨床心理面接技法3（臨床心理学全書10） 誠信書房 ・金沢吉展編（2004）臨床心理的コミュニティ援助論（臨床心理学全書11） 誠信書房 その他適宜紹介する
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保健医療分野に関する理論と支援の展開			担当教員	渡辺 克徳	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CP-MD-2126	2 単位	1 年前期	講義		選択
<科目区分> 心理学研究科 臨床心理専門科目 公認心理師科目					
求める学習成果(教育目標)					
医学や障害等に関連する専門的知識を習得する。					

(1) 授 業 の 内 容
医療の進歩に伴って、精神科医療のみならず身体科医療や地域保健などさまざまな領域での心理的支援のニーズが高まってきている。本科目では、保健医療分野での業務の特徴や職域の紹介、さまざまな実践現場での心理支援や課題について解説する。多職種と連携し、チーム医療を実践していく中で公認心理師に求められる役割について考える。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
公認心理師として保健医療分野で働ける力を身につける。 保健医療分野で必要とされるチームアプローチの考え方、さまざまな専門領域における支援の実際についての理解を深める。
(3) アクティブラーニング
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：保健医療分野における心理臨床 事前学習：授業前にテキスト・参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第2回：医療におけるアセスメントと心理支援 事前学習：授業前にテキスト・参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第3回：多職種協働・チームアプローチ 事前学習：授業前にテキスト・参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第4回：（支援の実際①）精神科・児童精神科 事前学習：授業前にテキスト・参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第5回：（支援の実際②）発達障害 ― 成人期の発達障害に焦点を当てて 事前学習：授業前にテキスト・参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第6回：（支援の実際③）うつ病の復職支援 事前学習：授業前にテキスト・参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第7回：（支援の実際④）依存症 事前学習：授業前にテキスト・参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第8回：（支援の実際⑤）認知症高齢者 事前学習：授業前にテキスト・参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間）

第9回：（支援の実際⑥）がん医療・緩和ケア 事前学習：授業前にテキスト・参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第10回：（支援の実際⑦）痛み・疼痛へのアプローチ 事前学習：授業前にテキスト・参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第11回：（支援の実際⑧）糖尿病・透析患者への心理支援 事前学習：授業前にテキスト・参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第12回：（支援の実際⑨）遺伝カウンセリング 事前学習：授業前にテキスト・参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第13回：（支援の実際⑩）周産期・小児科 事前学習：授業前にテキスト・参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第14回：地域保健活動 事前学習：授業前にテキスト・参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第15回：災害における心理支援 事前学習：授業前にテキスト・参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 授業内レポート（40%）、平常点（60%） （平常点は、授業への参加状況、討論内容など総合的に評価する。）
(7) 成績評価基準 ・保健医療分野に関わる公認心理師の実践について理解する ・心理に関する支援を要する者へのチームアプローチを理解し実践できる ・多職種連携及び地域連携について理解し実践できる ・公認心理師としての職業倫理及び法的義務を理解し実践できる
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他（招待講義）に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
(10) テキスト、参考図書 テキスト、小林真理子「保健医療心理学特論－保健医療分野に関する理論と支援の展開－」放送大学教育振興会 NHK出版 参考書、山崎久美子・津田彰・島井哲志編著「保健医療・福祉領域で働く心理職のための法律と倫理」ナカニシヤ出版会

(11) その他(受講上の注意)

学習する範囲が広く、すべての内容を扱うことはできない。開講前にテキスト・参考図書を読了していることが望ましく、履修者の学習・努力が必要である。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

福祉分野に関する理論と支援の展開			担当教員	水田 敏郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-MD-2127	2 単位	1 年前期	講義	選択	
<科目区分> 心理学研究科 臨床心理専門科目 公認心理師科目					
求める学習成果(教育目標)					
医学や障害等に関連する専門的知識を習得する。					

(1) 授 業 の 内 容	
福祉分野での心理支援の実践を学ぶ。近年支援ニーズの高い発達障害のアセスメントと支援を中心に、さまざまな障害に合わせた支援を考える。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
知的障害・発達障害をはじめとしたさまざまな障害のアセスメントと支援法について理解する。福祉分野におけるさまざまな心理支援の実践について理解する。	
(3) アクティブラーニング	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：ガイダンス・福祉分野における心理支援の概略 事前学習：学部で学んだ福祉心理学、障害者・障害児心理学の内容を自分なりに復習しておく（2時間） 事後学習：授業中に指示したレポートをまとめる（2時間） 第2回：知的障害・発達障害のアセスメント① 事前学習：前回の授業時に指示したキーワードや資料等の下調べ（2時間） 事後学習：授業中に指示したレポートをまとめる（2時間） 第3回：知的障害・発達障害のアセスメント② 事前学習：前回の授業時に指示したキーワードや資料等の下調べ（2時間） 事後学習：授業中に指示したレポートをまとめる（2時間） 第4回：知的障害・発達障害のアセスメント③ 事前学習：前回の授業時に指示したキーワードや資料等の下調べ（2時間） 事後学習：授業中に指示したレポートをまとめる（2時間） 第5回：知的障害・発達障害の支援① 事前学習：前回の授業時に指示したキーワードや資料等の下調べ（2時間） 事後学習：授業中に指示したレポートをまとめる（2時間） 第6回：知的障害・発達障害の支援② 事前学習：前回の授業時に指示したキーワードや資料等の下調べ（2時間） 事後学習：授業中に指示したレポートをまとめる（2時間） 第7回：知的障害・発達障害の支援③ 事前学習：前回の授業時に指示したキーワードや資料等の下調べ（2時間） 事後学習：授業中に指示したレポートをまとめる（2時間） 第8回：視覚障害の心理と支援 事前学習：前回の授業時に指示したキーワードや資料等の下調べ（2時間） 事後学習：授業中に指示したレポートをまとめる（2時間） 第9回：聴覚障害の心理と支援 事前学習：前回の授業時に指示したキーワードや資料等の下調べ（2時間） 事後学習：授業中に指示したレポートをまとめる（2時間） 第10回：肢体不自由の心理と支援 事前学習：前回の授業時に指示したキーワードや資料等の下調べ（2時間） 事後学習：授業中に指示したレポートをまとめる（2時間） 第11回：愛着障害と子育て支援① 事前学習：前回の授業時に指示したキーワードや資料等の下調べ（2時間） 事後学習：授業中に指示したレポートをまとめる（2時間） 第12回：愛着障害と子育て支援② 事前学習：前回の授業時に指示したキーワードや資料等の下調べ（2時間） 事後学習：授業中に指示したレポートをまとめる（2時間）	

第13回：高齢者の心理支援① 事前学習：前回の授業時に指示したキーワードや資料等の下調べ（2時間） 事後学習：授業中に指示したレポートをまとめる（2時間） 第14回：高齢者の心理支援② 事前学習：前回の授業時に指示したキーワードや資料等の下調べ（2時間） 事後学習：授業中に指示したレポートをまとめる（2時間） 第15回：その他の福祉分野の心理支援・まとめ 事前学習：前回の授業時に指示したキーワードや資料等の下調べ（2時間） 事後学習：授業中に指示したレポートをまとめる（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
授業中に指示するレポート課題（80%）と授業時の発表態度等（20%）をもとに評価する。
(7) 成績評価基準
知的障害・発達障害をはじめとしたさまざまな障害のアセスメントと支援法について説明できるとともに実践できるか。 福祉分野におけるさまざまな心理支援の実践について説明できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
参考図書：知的障害の心理学－発達支援からの理解（北大路書房）ほか、適宜、授業中に資料を配付したり紹介したりする。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

産業・労働分野に関する理論と支援の展開			担当教員	山本 雅代	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CP-SC-2128	2 単位	1 年後期	講義		選択
<科目区分> 心理学研究科 臨床心理専門科目 公認心理師科目					
求める学習成果(教育目標)					
社会や集団、組織の中での心理を理解するための知識を習得する。					

(1) 授 業 の 内 容	
人間は様々な社会的状況の中で生き、他者や社会、集団や組織と相互に影響し合っている。複雑化する社会の中で目の前の問題をどう認知し、働きかけていくべきかは重要な問題となる。対人認知、意思決定、合理的判断と不合理、直感と論理、ヒューリスティクスとバイアス、社会的ジレンマなど人間の心理的、行動的特性を理解しながら、日本社会における産業・組織の在り方について理解を深める。また、実証的研究方法を考察するとともに、課題解決するためにはどうすべきか議論する。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
・ 人間の行動特性について学ぶとともに、日本社会における産業、組織の在り方について概観する。 ・ 組織の中でおこる問題と個人に与える心理的影響について学ぶ。 ・ 論文の読解、討論、批判的視点について学ぶ。	
(3) アクティブラーニング	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：オリエンテーション 事前学習：授業前に産業心理学関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学修：授業で課された課題について、自分なりの意見をまとめておくこと（2時間） 第2回：産業・組織とは何か 事前学習：授業前に産業・組織心理学関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学修：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間） 第3回：人財育成について 事前学習：授業前に人財育成に関する書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学修：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間） 第4回：モチベーションについて（1） 事前学習：授業前にモチベーションについて関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学修：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間） 第5回：モチベーションについて（2） 事前学習：授業前にモチベーションについて関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学修：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間） 第6回：リーダーシップについて（1） 事前学習：授業前にリーダーシップについて関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学修：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間） 第7回：リーダーシップについて（2） 事前学習：授業前にリーダーシップについて関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学修：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間） 第8回：意思決定について（1） 事前学習：授業前に意思決定について関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学修：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間） 第9回：意思決定について（2） 事前学習：授業前に集団意思決定について関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学修：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間） 第10回：事例発表とディスカッション、コメント 事前学習：授業前に産業心理学関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学修：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間） 第11回：事例発表とディスカッション、コメント 事前学習：授業前に産業心理学関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学修：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間）	

第12回：事例発表とディスカッション、コメント 事前学習：授業前に産業心理学関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学修：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間） 第13回：事例発表とディスカッション、コメント 事前学習：授業前に産業心理学関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学修：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間） 第14回：事例発表とディスカッション、コメント 事前学習：授業前に産業心理学関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学修：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間） 第15回：事例発表とディスカッション、コメント 事前学習：授業前に産業心理学関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学修：授業で課された課題についてまとめる（2時間） 講義前・講義後において理解を深めるよう努力すること。関連論文・参考文献等講義内にて指示する。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポート（50%）、発表の内容やディスカッションへの参加状況（50%）
(7) 成績評価基準
・産業組織に対する理解を深めることができたか。 ・現実社会での個人の心理、行動を理解し、研究と結び付けて考えることができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
講義の中で指示する。
(11) その他(受講上の注意)
最初にTeamsに登録すること。 担当箇所について発表する際にはレジメにまとめ、人数分用意しておくこと。 1週間前にはレジメを提出しておくこと。発表者の意見に耳を傾け、積極的に議論に参加すること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心の健康教育に関する理論と実践			担当教員	杉島 一郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-CP-2129	2 単位	1 年後期	講義	選択	
<科目区分> 心理学研究科 臨床心理専門科目 公認心理師科目					
求める学習成果（教育目標）					
臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。					

(1) 授 業 の 内 容	
心理教育とは、心の健康教育すなわち自身のメンタルヘルスについて理解と予防を促したり、また障害や精神疾患を持つ人の家族や周囲の人々あるいは社会に対し障害や精神疾患等についての理解を促すものである。本講義においては、メンタルヘルスの維持や発達障害や無気力に対する対応を中心に、心の健康教育の理論と実践を講義する。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
- 心の健康教育の理論を理解する。 - 心の健康教育を実践する能力を身につける。	
(3) アクティブラーニング	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：心の健康教育の意義 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。（4時間） 第2回：現代社会における心の健康における問題 事前学習：事前に配布する論文を熟読しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。（2時間） 第3回：社会における発達障害者が抱える問題 事前学習：発達障害に関する定義と特徴について調べておくこと。（2時間） 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。（2時間） 第4回：心の健康教育の理論Ⅰ 事前学習：事前に提示したテーマをもとに授業中に発表するため、どのような心理教育が可能かを考える。（2時間） 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。（2時間） 第5回：心の健康教育の理論Ⅱ 事前学習：事前に提示したテーマをもとに授業中に発表するため、どのような心理教育が可能かを考える。（2時間） 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。（2時間） 第6回：心の健康教育の理論Ⅲ 事前学習：事前に提示したテーマをもとに授業中に発表するため、どのような心理教育が可能かを考える。（2時間） 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。（2時間） 第7回：心の健康教育の実践例Ⅰ 事前学習：事前に配布する論文を熟読しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。（2時間） 第8回：心の健康教育の実践例Ⅱ 事前学習：事前に提示したテーマをもとに授業中に発表するため、どのような心理教育が可能かを考える。（2時間） 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。（2時間） 第9回：発達障害に関する心理教育Ⅰ 事前学習：事前に提示したテーマをもとに授業中に発表するため、どのような心理教育が可能かを考える。（2時間） 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。（2時間） 第10回：発達障害に関する心理教育Ⅱ 事前学習：事前に提示したテーマをもとに授業中に発表するため、どのような心理教育が可能かを考える。（2時間） 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。（2時間）	

第11回：社会に対する発達障害の理解促進の実践例 事前学習：事前に提示したテーマをもとに授業中に発表するため、どのような心理教育が可能かを考える。（2時間） 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。（2時間） 第12回：適応障害とうつ 事前学習：事前に配布する論文を熟読しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。（2時間） 第13回：教育場面における心理教育の実践 事前学習：事前に配布する論文を熟読しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。（2時間） 第14回：職場における心理教育の実践 事前学習：事前に配布する論文を熟読しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。（2時間） 第15回：各自の発表 事前学習：自分で決めたテーマで心理教育の発表を行うので、準備すること。（4時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
授業内での発表（60%）と討議の姿勢（40%）
(7) 成績評価基準
・心の健康教育の理論を理解し説明できるか。 ・心の健康教育を実践する能力を身につけたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキストは使用せず、その都度資料等を配布する。次回講義に必要な論文は各回ごとに指示する。参考図書は適宜紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
各自に適宜発表を課するため、事前準備を怠らないようにすること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理実践実習			担当教員	渡辺 克徳、森 俊之、吉水ちひろ、 稲木康一郎、目黒 達哉、今井田貴裕	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-PR-2920	10単位	1 ～ 2 年	実習	選択	
<科目区分> 心理学研究科 臨床心理専門科目 公認心理師科目／人間学研究科 臨床心理専門科目 公認心理師科目					
求める学習成果(教育目標)					
心理臨床における実践的な能力を育成する。					

(1) 授 業 の 内 容
実際の心理臨床の現場に実習生として参画し、直接、利用者の方との関わりも体験しながら、心理臨床の実践を学ぶ。具体的には、本学の附属心理臨床センターにおける実習と、大学外の実習協力施設（医療領域、福祉領域、教育領域の3施設）における実習を行う。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・心理支援を要する者等とコミュニケーションをとり、心理検査や心理面接、地域支援等を行うことができる ・心理支援を要する者等を理解し、ニーズを把握し、支援計画を作成することができる ・心理支援を要する者へのチームアプローチができる ・多職種連携及び地域連携をすることができる ・公認心理師としての職業倫理及び法的義務を理解する
(3) アクティブラーニング
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
1年次および2年次の2年間を通して、下記のとおり、本学の附属心理臨床センターにおける実習と、大学外の実習協力施設（医療領域、福祉領域、教育領域の3施設）における実習を行う。大学外の実習については、現地での実習に加えて、大学内において事前・中間・事後指導も行う。 ●附属心理臨床センターにおける実習（300時間） 1年次、2年次を通して、下記の内容を行う。 ○インテーク面接陪席 1年次前期の中頃より随時、インテーク面接への陪席を体験する。インテーカーの指導のもとインテーク報告書を作成し、インテークカンファレンスにて発表する。 ○ケース担当 1年次後期より、特定のクライアントのケース担当者となり、継続的にカウンセリングや遊戯療法等を担当する。担当ケースについて、ケース報告をまとめてケースカンファレンスにおいて発表する。 ○ケースカンファレンスへの参加 1年次及び2年次を通して、定期的に行われるケースカンファレンスに参加する。自分の担当ケースについてケース報告をするとともに、他者の報告ケースに対しても討論に参加し、ケースの理解を深める。 ○受付、備品管理等のセンター業務担当 受付や備品管理等のセンター業務を当番制により担当する。窓口や電話を通してクライアント等と関わることを通して、基礎的なコミュニケーション力を高める。各相談室の備品管理や清掃などを通して、相談施設としての環境に対する理解を深める。 ○地域向け公開講座等の運営 地域向けに開催される公開講座の事前準備や当日運営に関わることで、地域支援のあり方に対する理解を深める。 ●医療領域に関する学外施設での実習（事前事後指導を含め50時間） 原則として2年次の5～7月の時期に、実習協力施設である個々の病院・診療所の実状に応じて、下記の内容を行う。 ・病院組織の理解 ・医師の診察への陪席 ・心理検査、各種心理療法、デイケア等への陪席 ・入院患者等との関わり ・ケースカンファレンス等への参加 など ●福祉領域に関する学外施設での実習（事前事後指導を含め50時間） 原則として2年次の8～9月の時期に、実習協力施設である個々の児童相談所や社会福祉施設の実状に応じて、下記の内容を行う。 ・児童相談所や社会福祉施設の組織の理解 ・心理検査や面接等への陪席

・判定票や支援計画書等の作成指導 ・入所の利用者等との関わり ・処遇会議等への陪席 など ●教育領域に関する学外施設での実習（事前事後指導を含め50時間） 原則として2年次の10～12月の時期に、実習協力施設である個々の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の実状に応じて、下記の内容を行う。 ・学校組織の理解 ・スクールカウンセラー業務の陪席 ・相談室・保健室登校の児童生徒との関わり ・授業や部活動場面における児童生徒の観察 ・職員会議等への陪席 など それぞれの心理臨床現場で体験する様々な事柄と、これまで学んだきた専門的知識を関連づけて考察を深めること。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
附属心理臨床センターでの実習に関しては、陪席やケース担当へのエントリー状況、カンファレンス等での発言状況などを総合して評価する（40％）。外部の実習協力施設での実習に関しては、参加状況や取り組み姿勢、報告書などによって総合的に評価する（各20％）。
(7) 成績評価基準
・心理支援を要する者等とコミュニケーションをとり、心理検査や心理面接、地域支援等を行うことができるか ・心理支援を要する者等を理解し、ニーズを把握し、支援計画を作成することができるか ・心理支援を要する者へのチームアプローチについて実践できるか ・多職種連携及び地域連携について実践できるか ・公認心理師としての職業倫理及び法的義務を説明できるか
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
参考図書：下山晴彦（編）「臨床心理学全書 4 臨床心理実習論」 誠信書房 2006年 そのほか、随時、紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
実際の心理臨床実践の場を体験することになるため、それぞれの施設の指導者の指示に従い、それぞれの施設にふさわしい姿勢や行動を心がけること。とくに、当該施設や利用者に関する情報の守秘については厳守すること。一つ一つの実習の体験が、貴重な学びの場であることを自覚し、積極的かつ真摯な態度で臨むこと。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

認知神経心理学特論			担当教員	森本 文人	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-RM-2131	2 単位	1 年前期	講義	選択	
<科目区分> 心理学研究科 臨床心理専門科目 応用・発展科目					
求める学習成果(教育目標)					
要心理支援者への心理支援をする能力					

(1) 授 業 の 内 容
本講義では、認知神経科学等の脳機能に関するデータおよび心理学的な行動データを基に、人間のこころにおける認知的側面についての理解を目指した客観的・実証的な研究とその方法について紹介する。注意、記憶、学習、言語などの認知機構のメカニズムについて、神経基盤などの構造およびその機能の両面から考察し、より深く人を理解しそれを支援することにつながる方法・知見・姿勢を獲得することを目的とする。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
認知機能について探索・検討するための客観的・実証的な方法を理解する。 認知機能と神経機構との関連について考察する力を身につける。
(3) アクティブラーニング
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：認知神経心理学とはどのような学問か 事前学習：認知神経科学の歴史的な流れについて調べておく。(2時間) 事後学習：授業の内容を整理し、分からないところがあれば調べておく。(2時間) 第2回：脳外観・全体論と局在論 事前学習：「全体論」と「局在論」という語について、調べておく。(2時間) 事後学習：授業の内容を整理し、分からないところがあれば調べておく。(2時間) 第3回：脳神経科学研究法・脳機能測定法 事前学習：生体の脳機能を測定する方法について、調べておく。(2時間) 事後学習：授業の内容を整理し、分からないところがあれば調べておく。(2時間) 第4回：視覚神経系 事前学習：視覚情報の入り口である「眼」とその後の情報処理に至る脳の神経経路について、調べておく。(2時間) 事後学習：授業の内容を整理し、分からないところがあれば調べておく。(2時間) 第5回：聴覚神経系 事前学習：聴覚情報の入り口である「耳」とその後の情報処理に至る脳の神経経路について、調べておく。(2時間) 事後学習：授業の内容を整理し、分からないところがあれば調べておく。(2時間) 第6回：失認・半側空間無視 事前学習：脳への器質的ダメージなどにより起こる「失認」とその最たる例である「半側空間無視」について、調べておく。(2時間) 事後学習：授業の内容を整理し、分からないところがあれば調べておく。(2時間) 第7回：嗅覚・味覚神経系・共感覚 事前学習：嗅覚・味覚情報の入り口である「鼻」と「口(舌)」とその後の情報処理に至る脳の神経経路について、調べておく。(2時間) 事後学習：授業の内容を整理し、分からないところがあれば調べておく。(2時間) 第8回：体性感覚・運動 事前学習：共感覚および錯覚の神経的なメカニズムについて、調べておく。(2時間) 事後学習：授業の内容を整理し、分からないところがあれば調べておく。(2時間) 第9回：注意と意識に関連した神経システム 事前学習：注意機能に関する神経メカニズムについて調べておく。(2時間) 事後学習：授業の内容を整理し、分からないところがあれば調べておく。(2時間) 第10回：学習・記憶の神経基盤 事前学習：学習・記憶に関する神経的なメカニズムについて調べておく。(2時間) 事後学習：授業の内容を整理し、分からないところがあれば調べておく。(2時間)

第11回：意思決定・意識 事前学習：意識に関する科学的なアプローチについて調べておく。（2時間） 事後学習：授業の内容を整理し、分からないところがあれば調べておく。（2時間） 第12回：情動の神経基盤 事前学習：情動に関する神経メカニズムについて調べておく。（2時間） 事後学習：授業の内容を整理し、分からないところがあれば調べておく。（2時間） 第13回：情動と内受容感覚 事前学習：「内受容感覚」という語について調べておく。（2時間） 事後学習：授業の内容を整理し、分からないところがあれば調べておく。（2時間） 第14回：脳の発達と認知（1） 事前学習：脳の発達による認知機能の成熟、社会性との関連について調べておく。（2時間） 事後学習：授業の内容を整理し、分からないところがあれば調べておく。（2時間） 第15回：脳の発達と認知（2） 事前学習：老化とそれに伴う認知機能の変化について調べておく。（2時間） 事後学習：授業の内容を整理し、分からないところがあれば調べておく。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
レポート（50%）、平常点（50%） 平常点は、授業への参加状況、ミニレポート、受講態度などを総合的に判断します。
(7) 成績評価基準
認知機能について探索・検討する客観的・実証的な方法を理解しているか。 認知機能と神経機構との関連について考察する力が備わっているか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
テキストは使用しない。 参考図書は適宜紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生体反応・行動測定法特論			担当教員	大森 慈子、水田 敏郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-RM-2132	2 単位	1 年後期	講義	選択	
<科目区分> 心理学研究科 臨床心理専門科目 応用・発展科目					
求める学習成果(教育目標)					
要心理支援者の心理状態等の分析をする力を身につける					

(1) 授 業 の 内 容
情動・認知をはじめとするさまざまな心的事象評価のための、生体反応および行動の計測と分析法について理解を深める。心の変容を、微細な生理反応や生化学的変化から直接観察可能な動作や発声までの多面的な指標によって捉え、客観的な事実として可視化することの可能性と重要性について再認識する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
情動・認知などの心的事象評価に活用可能な生体反応および行動の計測と分析法について理解する。
(3) アクティブラーニング
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：感情の測定と評価①(大森・水田) 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと(2時間) 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第2回：感情の測定と評価②(大森・水田) 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと(2時間) 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第3回：実験操作の工夫①(大森) 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと(2時間) 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第4回：実験操作の工夫②(大森) 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと(2時間) 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第5回：インフォームド・コンセント(大森・水田) 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと(2時間) 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第6回：生体反応の測定と分析①(大森・水田) 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと(2時間) 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第7回：生体反応の測定と分析②(水田・大森) 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと(2時間) 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第8回：映像解析—行動指標の分析①(大森) 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと(2時間) 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第9回：映像解析—行動指標の分析②(大森) 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと(2時間) 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)

第10回：脳研究の枠組み①（水田） 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第11回：脳研究の枠組み②（水田） 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第12回：脳機能の評価①（水田・大森） 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第13回：脳機能の評価②（水田・大森） 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第14回：障害の評価①（水田） 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第15回：障害の評価②（水田） 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕 原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法 レポート（50%）、平常点（50%） 平常点は、授業への参加状況や受講態度などを総合して判断します。
(7) 成績評価基準 要心理支援者の心理状態等の分析をする力を身につけることができたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書 テキストは使用しない。 参考図書は、適宜紹介する。
(11) その他(受講上の注意)
(12) オフィスアワー UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

パーソン・センタード・セラピー特論			担当教員	吉水　ちひろ、目黒　達哉	
講義コード	単　位	配当年次	開講形態		選択区分
CP-PR-2121	2 単位	1 年前期	演習		選択
<科目区分>　心理学研究科　臨床心理専門科目　応用・発展科目					
求める学習成果(教育目標)					
要心理支援者への心理支援をする力を習得する					

(1) 授 業 の 内 容	
・ パーソン・センタード・セラピーの概要を知り、主要な理論と方法を理解する。 ・ パーソン・センタード・セラピーが重視する、相手を共感的に理解することや傾聴の態度およびスキルについて体験的に学ぶ。	
(2) 授 業 の 到 達 目 標	
・ 課題への取り組みや授業での発言など、自ら学ぼうとする主体的態度を有しているか。 ・ 附属心理臨床センターでの実践実習と関連づけ、体験的に理解し、基本的な姿勢を身につけることができるか。	
(3) アクティブラーニング	
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：オリエンテーション 事前学習：授業に関連する内容について調べ、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を復習し分からないところはさらに調べる。課題のレポートを作成する。(2時間) 第2回：パーソン・センタード・セラピー概論1ー歴史的発展と理論ー 事前学習：授業に関連する内容について調べ、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を復習し分からないところはさらに調べる。課題のレポートを作成する。(2時間) 第3回：パーソン・センタード・セラピー概論2ー基本的方法ー 事前学習：授業に関連する内容について調べ、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を復習し分からないところはさらに調べる。課題のレポートを作成する。(2時間) 第4回：パーソン・センタード・セラピー概論3ー発展的方法ー 事前学習：授業に関連する内容について調べ、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を復習し分からないところはさらに調べる。課題のレポートを作成する。(2時間) 第5回：パーソン・センタード・セラピーの実践1ー心理面接におけるプロセス・インテークー 事前学習：授業に関連する内容について調べ、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を復習し分からないところはさらに調べる。課題のレポートを作成する。(2時間) 第6回：パーソン・センタード・セラピーの実践2ー心理面接におけるプロセス・アセスメントー 事前学習：授業に関連する内容について調べ、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を復習し分からないところはさらに調べる。課題のレポートを作成する。(2時間) 第7回：パーソン・センタード・セラピーの実践3ー心理面接におけるプロセス・ケースフォーミュレーションー 事前学習：授業に関連する内容について調べ、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を復習し分からないところはさらに調べる。課題のレポートを作成する。(2時間) 第8回：ロールプレイにおいて心理面接の基本的態度、技能を学ぶ1 事前学習：授業に関連する内容について調べ、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を復習し分からないところはさらに調べる。課題のレポートを作成する。(2時間) 第9回：ロールプレイにおいて心理面接の基本的態度、技能を学ぶ2 事前学習：授業に関連する内容について調べ、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を復習し分からないところはさらに調べる。課題のレポートを作成する。(2時間) 第10回：ロールプレイにおいて心理面接の基本的態度、技能を学ぶ3 事前学習：授業に関連する内容について調べ、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を復習し分からないところはさらに調べる。課題のレポートを作成する。(2時間) 第11回：ロールプレイにおいて心理面接の基本的態度、技能を学ぶ4 事前学習：授業に関連する内容について調べ、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を復習し分からないところはさらに調べる。課題のレポートを作成する。(2時間) 第12回：ロールプレイにおいて心理面接の基本的態度、技能を学ぶ5 事前学習：授業に関連する内容について調べ、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業内容を復習し分からないところはさらに調べる。課題のレポートを作成する。(2時間)	

第13回：ロールプレイにおいて遊戯療法の基本的態度、技能を学ぶ1 事前学習：授業に関連する内容について調べ、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を復習し分からないところはさらに調べる。課題のレポートを作成する。（2時間） 第14回：ロールプレイにおいて遊戯療法の基本的態度、技能を学ぶ2 事前学習：授業に関連する内容について調べ、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を復習し分からないところはさらに調べる。課題のレポートを作成する。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：授業に関連する内容について調べ、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を復習し分からないところはさらに調べる。課題のレポートを作成する。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
平常点60%（授業の参加状況、受講態度、発表やディスカッションの積極性など総合的に評価）、 レポート40%
(7) 成績評価基準
・課題への取り組みや授業での発言など、自ら学ぼうとする主体的態度を有しているか。 ・附属心理臨床センターでの実践実習と関連づけ、体験的に理解し、基本的な姿勢を身につけることができるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
必要に応じて授業中に資料配布する。
(11) その他(受講上の注意)
附属心理臨床センターにおける心理実践実習と連動する内容である。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

認知行動療法特論			担当教員	渡辺 克徳	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-CP-2134	2 単位	1 年後期	演習	選択	
<科目区分> 心理学研究科 臨床心理専門科目 応用・発展科目					
求める学習成果(教育目標)					
要心理支援者への心理支援をする能力					

(1) 授 業 の 内 容
認知行動療法はエビデンスベースの心理療法として、様々な臨床症状や問題行動に効果を上げている。本講義では、現在用いられている認知行動療法について理論と歴史を学ぶ。その上で行動療法系、認知療法系、マインドフルネス系の技法と発展を理解し深める。特にうつと不安に対する実践力の醸成を図る。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
行動療法系、認知療法系、マインドフルネス系の技法とその発展を理解し、実践するための基礎知識を身につける。特にうつと不安の認知行動療法については、マニュアルを用い実践できるだけの基本的知識を身につける。
(3) アクティブラーニング
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：行動療法系① 行動療法とは 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第2回：行動療法系② レスポンド条件づけからエクスポージャーへ 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第3回：行動療法系③ オペラント条件づけから機能分析 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第4回：行動療法系④ 暴露反応妨害法と行動活性化 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第5回：行動療法系⑤ 言語行動からACTへ 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第6回：認知療法系① ベックの認知療法と治療の流れ 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第7回：認知療法系② 認知的概念化 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第8回：認知療法系③ 自動思考と感情、そして中核信念へ 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第9回：認知療法系④ 認知技法と行動技法、ホームワークの設定 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）

第10回：認知療法系⑤ 終結と再発予防、認知療法尺度について 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第11回：マインドフルネス系① 新世代の認知行動療法とは 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第12回：マインドフルネス系② マインドフルネス認知療法 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第13回：マインドフルネス系③ メタ認知療法 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第14回：マインドフルネス系④ 弁証法的行動療法 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第15回：マインドフルネス系⑤ アクセプトタンス&コミットメント・セラピー 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
授業内レポート（40%）、平常点（60%） （平常点は、授業への参加状況、討論内容など総合的に評価する。）
(7) 成績評価基準
認知行動療法の視点から、心理的援助について考察し、説明できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
【参考図書】三田村仰著「はじめてまなぶ行動療法」金剛出版 2017 ジュディス・S・ベック（著）、伊藤 絵美（翻訳）、神村 栄一（翻訳）、藤澤 大介（翻訳）「認知行動療法実践ガイド：基礎から応用まで 第2版-ジュディス・ベックの認知行動療法テキスト」星和書店 2015 熊野宏昭著「新世代の認知行動療法」日本評論社 2012
(11) その他(受講上の注意)
学習する範囲が広く、すべての内容を扱うことはできない。開講前に参考図書を読了していることが望ましく、履修者の学習・努力が必要である。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

投映法特論			担当教員	吉水　ちひろ	
講義コード	単　　位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-CP-2135	2 単位	1 年後期	演習	選択	
<科目区分>　心理学研究科　臨床心理専門科目　応用・発展科目					
求める学習成果(教育目標)					
要心理支援者の心理状態等を分析する力を習得する。					

(1) 授 業 の 内 容
臨床現場で用いられる代表的な投映法検査について学び、中でも包括システムによるロールシャッハテストの実施法と解釈法の習得を目指す。さらに、臨床場面で実施されるパーソナリティ・アセスメントの実際について理解を深める。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
①演習で取り上げた各種のテストについて、その理論や適用、実施法について理解し説明できること。 ②ロールシャッハテストについては、施行手続きから、スコアリング、解釈まで理解し実施できること。
(3) アクティブラーニング
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション 事前学習：心理査定に関する基本的知識を復習しておく。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第2回：さまざまな投映法から学ぶ(1) 事前学習：関連する参考文献を調べ、事前に知識を得ておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第3回：さまざまな投映法から学ぶ(2) 事前学習：関連する参考文献を調べ、事前に知識を得ておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第4回：さまざまな投映法から学ぶ(3) 事前学習：関連する参考文献を調べ、事前に知識を得ておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第5回：さまざまな投映法から学ぶ(4) 事前学習：関連する参考文献を調べ、事前に知識を得ておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第6回：ロールシャッハテストの概説 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第7回：コーディング解説・演習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第8回：ロールプレイによる施行演習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第9回：構造一覧表解説・作成演習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第10回：解釈の基礎(1) 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第11回：解釈の基礎(2) 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第12回：結果の整理と報告書の書き方 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間)

第13回：アセスメントの実際・テストバッテリー 事前学習：関連する参考文献を調べ、事前に知識を得ておくこと。（2時間） 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。（2時間） 第14回：アセスメントの実際・事例検討 事前学習：関連する参考文献を調べ、事前に知識を得ておくこと。（2時間） 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：これまでの講義や演習を復習しておく。（2時間） 事後学習：授業の到達目標に達しているかを確認する。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
授業への参加状況や与えられた課題についての報告・発表などを勘案した平常点（70%）、及び各テストを実践的に試行・分析したレポート等（30%）により評価する。
(7) 成績評価基準
・ 投映法の代表的な検査について、その理論や適用、実施法について理解し、説明できるか。 ・ 臨床現場や実習機関において使用頻度の高い投映法検査について、実践的に使用するための基礎を身につけたか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
・ ロールシャッハ・ワークブック（第5版） J.E.エクスナー 著 中村紀子、津川律子、西尾博行訳 金剛出版 2003 ・ ロールシャッハの解釈 J.E.エクスナー 著 中村紀子、野田昌道監訳 金剛出版 2002
(11) その他(受講上の注意)
各種心理検査についてテスト（器具）の取り扱いには慎重にし、またデータの管理や情報の守秘については厳重であること。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

地域支援臨床心理学特論			担当教員	稲木康一郎、吉水ちひろ、渡辺 克徳、 目黒 達哉	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-CP-2137	2 単位	1 年後期	講義	選択	
<科目区分> 心理学研究科 臨床心理専門科目 応用・発展科目					
求める学習成果(教育目標)					
心理臨床実践の場を理解し、自らの適用する力					

(1) 授 業 の 内 容
我われは地域で生き、老い、死んでいく。地域の課題をいかに支援していくのかも心理専門職の仕事である。本特論では、実務経験のある本学の教員が、各自取り組んできた地域の課題に対する実践について講義をおこなう。また、地域課題の解決に取り組んでいる外部講師の実践と将来構想を伺う。保健医療・福祉・教育・その他の現場でどんな支援が求められているか、地域臨床の実際を学び、自身のこれからの臨床活動について考える機会を得る。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
心理臨床の実践の場を理解し、その場に必要支援を理解する力を身につける。
(3) アクティブラーニング
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：オリエンテーション（稲木） 事前学習：シラバスを熟読すること（2時間） 事後学習：心理職の職能団体のホームページを閲覧すること（2時間） 第2回：HIVカウンセリングの実際（稲木・外部講師） 事前学習：HIV支援について調べる（2時間） 事後学習：講義内容について受講者どうし話し合うこと（2時間） 第3回：傾聴講座の実際（稲木） 事前学習：傾聴について調べる（2時間） 事後学習：小レポートをまとめること（2時間） 第4回：勝山市のSC実践（稲木・外部講師） 事前学習：勝山市・大野市の風土について調べる（2時間） 事後学習：小レポートをまとめること（2時間） 第5回：嶺南の医療実践（稲木・外部講師） 事前学習：嶺南の風土について調べる（2時間） 事後学習：小レポートをまとめること（2時間） 第6回：災害支援の体験から（稲木） 事前学習：能登半島地震について調べる（2時間） 事後学習：講義内容について受講者どうし話し合うこと（2時間） 第7回：刑務所における心理職の仕事と課題（稲木・外部講師） 事前学習：拘禁刑について調べる（2時間） 事後学習：小レポートをまとめること（2時間） 第8回：中間まとめ（稲木） 事前学習：第7回までに提出した小レポートを読み返すこと（2時間） 事後学習：最終レポートをまとめること（2時間） 第9回：地域における傾聴ボランティアの養成（目黒） 事前学習：授業前に予定されている講義内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第10回：地域における不登校児童生徒の支援①ー心理職とボランティアの協働・連携ー（目黒） 事前学習：授業前に予定されている講義内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第11回：地域における不登校児童生徒の支援②ー総合病院小児科の心理職の実践ー（目黒） 事前学習：授業前に予定されている講義内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）

第12回：地域における自殺対策の実際 医療・司法・福祉の連携（渡辺） 事前学習：授業前に予定されている講義内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第13回：地域の子育て支援における心理専門職の役割（吉水） 事前学習：授業前に予定されている講義内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第14回：地域における子育て支援の実際①——育児不安解消サポート事業の実践（吉水） 事前学習：授業前に予定されている講義内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第15回：地域における子育て支援の実際②——保護者支援プログラム（吉水） 事前学習：授業前に予定されている講義内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成績評価方法
授業への受講態度および発表内容（30%） レポート等（70%） オムニバス形式なので、各担当教員の評価を総合して最終評価とする。
(7) 成績評価基準
・心理臨床の現場の実践について説明できる（理解面を評価）。 ・地域の課題解決について心理臨床の視点から考察する（思考面を評価）。 ・自身のこれからの心理臨床活動について意見を持つ（意欲面を評価）。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
箕口雅博 編著「臨床心理地域援助特論」放送大学教育振興会 2007 2,500円＋税
(11) その他(受講上の注意)
修了後の実践活動を見据えて、受講してください。 外部講師の都合により、スケジュールを変更する場合があります。
(12) オフィスアワー
UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理研究演習			担当教員	大森 慈子、杉島 一郎、水田 敏郎、森 俊之
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
CP-RM-2241	4 単位	2 年通年	演習	必修
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 研究指導科目				
求める学習成果(教育目標)				
臨床心理学に関する研究能力の基礎を培う				

(1) 授 業 の 内 容
修士論文の作成にあたり、研究指導教員との議論等を通して、自分の研究課題を設定し、その課題を解決するための方法論等を検討する。
(2) 授 業 の 到 達 目 標
・ 問題意識をもち自らの研究課題を設定できる。 ・ 自分の研究課題に必要な研究方法を吟味し選択できる。 ・ 研究者として自分の考えを論理的に表現（論文執筆や口頭発表）できる。
(3) アクティブラーニング
(4) 授業の計画及び授業外の学習方法
第1回～第30回：担当教員の進め方にしたがって、文献精読や議論等を進める。 担当教員の指導のもと、各自で自分の研究課題遂行に必要な活動（文献精読、調査、観察、実験など）に取り組む。
(5) 授業形態〔面接授業・遠隔授業〕
原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(6) 成 績 評 価 方 法
担当教員による。
(7) 成 績 評 価 基 準
・ 問題意識から研究課題を設定できるか。 ・ 研究課題に必要な研究方法を吟味し選択できるか。 ・ 研究者として自分の考えを論理的に表現できるか。
(8) 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☒ その他(担当教員による)
(9) 実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
(10) テキスト、参考図書
担当教員の指示にしたがうこと。
(11) その他(受講上の注意)
修士論文の作成にあたっては、自らの研究として積極的に取り組むとともに、指導教員と十分に議論しながら計画的に進めること。

(12) オフィスアワー

UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。